コミュニケーション理論（S）

12735

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向についてメディアの歴史的展開や、近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～15回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解し、説明できる。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	対人コミュニケーション 自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味-1	記号論 ソシュール
第7回	コミュニケーションの記号と意味-2	ロラン・バルト デノテーション・コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	パノプティコン 規律訓練
第10回	メディアとコミュニケーション	コンピュータに媒介されたコミュニケーション（CMC） No Sense of Place
第11回	コミュニケーションと「場所」	No sense of place　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと近代化	ポスト慣習社会　規範　個人化
第14回	見知らぬ人とのコミュニケーション	都市　コーヒーハウス　セネット
第15回	コミュニケーションと公共空間	ハーバーマス　公共圏　コーヒーハウス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・レジメを見直して自分なりに理解する
・授業で提示された参考文献から興味あるものについて読む

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内では十分に理解できなかったり、疑問に思った概念や語句などについては、社会学辞典などで自分で調べてみることで、より講義内容に対する理解が深まることと思います。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ　／誠信書房 ／4414302692 ／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン　／誠信書房 ／4414302854 ／

記号の知/メディアの知:日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会 ／4130100947 ／	
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ　／新曜社／4788508699／	
人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?	池田知加　／光文社新書 ／4334032968 ／	

参考文献については授業で適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーション・ペーパー、メール

その他 / Others

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

ボランティア入門 (S)

15438

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかにこれからの国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介しながら、学としての「ボランティア論」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果をまじえながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さなざまなボランティ活動にまつわる主要コンセプトを理解することが本講座の主要な目標であるが、机の勉強だけでなく、じっさいにさまざまなボランティ活動に関わることによって、経験したなかから、ボランティアとは何かを考えることが大切である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

できるだけ、社会学的なものの見方や考え方をしっかりおさえておくこと。それによって講義が非常にわかりやすくなる。また普段から新聞記事をおおく読みこなし、ボランティア活動に関する情報収集も行っておくことによって、幅広いボランティア論が展開できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義のすすめかた、目標等について	オリエンテーション
2	ボランティアとはそもそも何ぞや！	ボランティア、市民、市民活動、市民社会、NPO, NGO
3	ボランティア・市民活動の歴史	社会福祉、環境、国際、人権、青少年
4	ボランティア活動・市民活動の鍵概念	共生、自治・分権・参加、持続可能性(サスティナビリティ)、協働、多元主義と補完性の原則、ボアンティアリ
5	市民活動の法制度	公益法人制度、NPO支援税制
6	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その1)	エンパワメント、市民参加・参画、ボランティアグループの運営
7	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その2)	NPOの組織経営、ボランティアマネージメント、コミュニティ・ディベロップメント
8	ボランティア・NPOの支援システム(その1)	インターミディアリー、ボランティアコーディネーター、助成財団
9	ボランティア・NPOの支援システム(その2	市民活動の評価、企業の社会的貢献活動、行政の市民活動振興政策、情報支援
10	ボランティア・NPOの担い手	児童・生徒、青年・学生、高齢者、女性、勤労者、セルフヘルプ
11	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その1)	社会福祉、医療・保健、環境
12	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その2)	国際、人権、まちづくり
13	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティ・NPOの領域(その3)	教育、文化、スポーツ・レクリエーション、災害
14	諸外国の状況について	諸外国の状況
15	まとめとA＋希望学生のプレゼンテーション	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動にかかわり、積極的にリサーチしたことがらなどをレポートにしてほしい。実際に体をうごかしながら、ボランティア活動とはなにかを学ぶ姿勢をのぞみたい。
必ず一度はボランティアセンター(サービスラーニングセンター)に足を運ぶこと。そこで得た情報をレポートに反映すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内試験(40%)、出席・その他提出物(60%)

A＋希望者は事前に最後の講義時にプレゼンテーションを行うことを申し出ておくこと(受講生のの5%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回しっかりノートをとること、できるだけ新聞等にも目を通すこと。そしてボランティアセンターにできるだけ足をはこんで、情報を手に入れ、自分にそくしたボランティア活動をしてほしいし、また講師がすすめる講座等にも積極的に参加し報告(レポート)した学生は、評価の際の加点対象となる。

教科書 / Textbooks

テキストは講義中に紹介する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアNPO用語事典	大阪ボランティア協会／中央法規／4-8058-2427-1／
ボランティア教育の新地平	桜井政成、津止正敏／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義中に知らせる。

その他 / Others

ライティングリテラシー（SA）

15288

担当者名 / Instructor　南里 一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライティングリテラシー（SB）

15289

担当者名 / Instructor　松本 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライティングリテラシー（SC）

15290

担当者名 / Instructor　松井 書子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライティングリテラシー（SD）

15291

担当者名 / Instructor　南里 一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライティングリテラシー（SE）

15292

担当者名 / Instructor　松本 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライティングリテラシー（SF）

15293

担当者名 / Instructor　松井 書子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会で求められる文章とは、事実を客観的に報告し、意見を解りやすく説明する文章である。それらは、読み手に正確な情報を伝え、理解させ説得するという目的があるため、論理的な構造や定型をもっている。新聞の社説や、投書欄にある意見文などといった一般的な論説文・説明文はもちろんのこと、レポートや論文も同様である。

この講義では、論理的な文章の執筆法を基礎から学び、実社会で必要とされる文章の執筆ができるようにする。さらには、大学での学習や研究に必要なレポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

論理的な文章を執筆する方法の基礎を習得する。
レポート・論文の作成に必要な知識と技術を習得する。
書簡文・通信文・電子メールの形式を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の意義と目標／論理的な文章とは	内容と形式　事実と意見
第2回	文章の部分が持つ役割／事実と意見	事実　データ　意見　解釈　論証
第3回	文の構成	文　文の長さ　ひとまとまりの思考
第4回	文章の部分の役割と全体の関係(1)	文と段落(パラグラフ)　中心文　支持文　まとめ文
第5回	文章の部分の役割と全体の関係(2)	段落と文章　アウトライン　要旨
第6回	わかりやすい文	用字・用語・文法・文体　文の成分　5W1H
第7回	材料を集めるための技法	ブレインストーミング　くだいて書く
第8回	意見文・論説文の型を知る(1)	根拠と意見
第9回	意見文・論説文の型を知る(2)	意見と論証
第10回	意見文・論説文の型を知る(3)	反対意見への反論
第11回	レポート・論文の型を知る(1)	内容と形式　問い・答え・論証　記述態度
第12回	レポート・論文の型を知る(2)	要素と構成　引用　参考文献
第13回	達成度テスト、実施と解説	
第14回	書簡文・通信文・電子メール(1)	目的と表現法　待遇表現　読み手への配慮
第15回	電子メール(2)／達成度テストの解説／授業全体のまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	課題提出30%、達成度テスト70% 授業のテーマに関連した課題と達成度テストで評価する。いわゆる「出席点」の加点は行わない。なお、達成度テストは、第13回目(12月13日)の授業中に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定せず、プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

12791

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年、日本ではフリーターやニートなど正規雇用に就くことができない若者が大きな社会的関心を集めているが、実は、他の多くの先進国でも同じような問題が生じている。授業では、アメリカにおける若者の就業の実態とその問題点を分析しているOsterman,1980, "Getting Started: The Youth Labor Market," The MIT Press.を取り上げ、輪読形式で読み進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

アメリカにおける若者雇用のあり方を学ぶ。また課題の輪読を通じて、実用的な英語読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	"Getting Started" (1)	輪読
3	"Getting Started"(2)	輪読
4	"Getting Started" (3)	輪読
5	"Getting Started" (4)	輪読
6	"Getting Started" (5)	輪読
7	"Getting Started" (6)	輪読
8	"Getting Started" (7)	輪読
9	"Getting Started" (8)	輪読
10	"Getting Started" (9)	輪読
11	"Getting Started" (10)	輪読
12	"Getting Started" (11)	輪読
13	"Getting Started" (12)	輪読
14	"Getting Started" (13)	輪読
15	"Getting Started" (14)	輪読、まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習してきていることを前提に授業をおこなう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、予習の取り組み状況、発言の積極性を総合して評価する。 欠席不良の場合、単位が取得できない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は一行ずつ輪読形式で行う。
文献読解を目的とした授業であり、ヒアリング、スピーキング、ライティングは扱わない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Getting Started	Osterman, Paul／The MIT Press／0262150212／

教科書は購入しなくてもかまわない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

15340

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.（初級者向け）
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.（中・上級者向け）
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15382

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

19世紀末、E・デュルケムは当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して、『自殺論』の概要や現代的意義などについて理解を深めつつ、社会学的枠組みを通して社会現象を分析する視点を学んでいきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明　②受講者の語学力の確認　③予習範囲および担当箇所の分担　④デュルケム『自殺論』の概要
2	introduction／1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①出席・予習など、授業への参加の度合い ②最終日時点での、フランス語に対する理解度 の2点によって決定します。

ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　yft27193@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

12792

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げました。市場経済を導入したことによって社会の構造が変化し、人々の暮らしも大きく変わってきています。特に、この数年の変化は激しく、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つといいます。社会が大きく変化すれば、当然色々な問題が出てきます。テキストを読み進めることによって、日々の暮らしの中で中国の人々がどのような価値観を持ち、悩みや歓びを感じているのかをテキストから読み取って、中国に対する理解を一層深めてほしいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

辞書を有効に利用し、現代中国の基礎的理解を深める上で必要な、中国語で書かれた文章の概要を正確に把握できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は一通り中国語の基本文法を修得していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	受講者の語学力の確認、講義の進め方など
第2回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第3回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第4回	中国的独生子女	一人っ子
第5回	中国的独生子女	一人っ子
第6回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第7回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第8回	中国人的饮食	食生活
第9回	中国人的饮食	食生活
第10回	中国人的住宅	住宅
第11回	中国人的住宅	住宅
第12回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第13回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第14回	中国人生活中的IT	IT産業
第15回	中国人生活中的IT	IT産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱った幾つかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	50 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクティブ中国	胡　金定／朝日出版社／／
中国は今	孟　広学・本間　史／白水社／／

授業に必要な資料は配布しますので、必ずしもテキストを購入する必要はありません。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SE） §　外国語文献研究（SE）

15448

担当者名 / Instructor　梁 愛舜

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島文化の理解を深める。韓国の文化、家族制度に関する文献の講読、逐次刊行物をはじめ新聞報道、ホームページから日常生活に関連する問題、例えば、教育、福祉、宗教などの記事を取りあげ、読解する。また日本語文献を朝鮮語で読み返す「翻訳」を試みる。とくに本年は「韓日併合」100年にあたることから、この件に関する韓日メディア報道を比較するとともに、メディアの役割について考える。大韓民国の文献・資料を主に使用するが、朝鮮民主主義人民共和国やその他の地域における朝鮮語出版物も用いる。全授業を通して「韓流」ではつたわらない、奥深い韓国社会と生活者の実像に接近することができる。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会と文化に関する用語を理解し、読解力の向上を目指す。
②テキストに出てくる歴史的事件の概要を説明できる。
③関心のある韓国の社会問題を、自身の視点で明快に説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	導入、講読	自己紹介、授業の進め方とテキストについて説明、短い文章の講読
2回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国の経済事情、福祉、医療生協活動
3回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国社会と女性
4回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	教育、就職
5回	崔在錫著『韓国家族制度史研究』講読	伝統的家族、「韓流」の家族
6回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第2章「ソンビと朝鮮時代儒教文化の性格」講読	儒教、韓国文化
7回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第4章「新文化の形成と新知識人の性格」講読	社会変動、“新しい文化”
8回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他	韓国社会とキリスト教
9回	李光奎『在外韓人の人類学的研究』第一部「世界の韓国民族と文化」講読	韓国の海外「移民社会」理解、文化とアイデンティティ
10回	李光奎著『在外韓人の人類学的研究』第二部「在日韓人」講読	韓日関係と在日朝鮮人
11回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第一節「儒教的家族」翻訳	祖先祭祀、「孝」
12回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第二節「チェーサの世俗化の問題」翻訳	世代交代、文化変容
13回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合①
14回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合②
15回	到達度確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席日数、レポート提出、発表、最終日の到達度確認テストなど総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

国立国会図書館関西館（精華町）のアジア情報室には豊富な朝鮮語資料が所蔵されている。未体験の学生は一度利用または参観されることを勧める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
韓国家族制度史研究	崔在錫／一志社、996／／
韓国文化の性格	최봉영／四季節出版社、1997／89－7196－410－3／
在外韓人の人類学的研究	이광규／集文堂、1997／89－303－0525－3／
在日朝鮮人社会における祭祀儀礼	梁愛舜／晃洋書房、2004／4－7710－1535－X／

上記の一部内容をテキストとして使用する。基本的にテキスト用として毎回プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　eyr10111@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SA） § 企画研究（自主企画研究）（SA）

14154

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14155

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

カナダのキルバーガー兄弟が作成した『テイク・アクション』（アクティブ・シティズンシップの入門書）の日本版を製作する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動、NPO活動、社会的企業家活動などにおいて、輝いている若者たちに、インタビューを試み、それらデータにもとづき、日本版『テイク・アクション（仮題）』ドラフトを作成し、立命館宇治高校の生徒・先生などとのワークを通じて、さらに、改善して、2011年春の出版を目指

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～第5回	昨年の企画研究で翻訳を試みた『テイク・アクション』の読解およびチェックとキルバーガー兄弟『Me to We』の読解。	
第6回～第10回	輝いている若者たちに対するインタビューの実践、原稿の検討会の実施とリライト	
第11回～第15回	立命館宇治高校とのワークの実施とドラフトの推敲	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

以上の進め方については、履修者と相談する。授業時間についても、履修者が参加できるように可能な限り調整しながら進めていく。
もちろん、授業時間以外のインタビューやワークの時間が取られることは、事前に了解しておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会に通用する成果を追求するので、取り組みに向けたエネルギーはそれなりのものを要求される。しかし、きわめて、満足度の高い成果が期待できるので、アクティブな方には、ぜひ、参加してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14156

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりをはじめ、その他当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知るとともに、地域の経済的・社会的課題の発見と活性化に向けての可能性とについて、農商工連携の推進と食育をテーマに加え、調査研究と社会的実践を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPO法人フロンティア協会との協働による地域活動について、各人の関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表するとともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、フロンティ協会は学部インターンシップの受け入れ先でもあるので、NPOの活動に興味があれば申し込んで欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（6月6日ホームカミングデーの一企画として、第3回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備・運営、また、7月下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動やボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます（なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい）。
また、今年度は農商工連携をテーマに加えた活動を開始する予定なので、そうした分野への関心も持ってもらえるといいでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）』	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
『伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿』	農文協（編）／農山漁村文化協会／／
『納豆本―やっぱり納豆が好き―』	／フロム出版／9784894472037　／
『農商工連携による「新地域おこし」のススメ』	後久博／ぎょうせい、2009年／／

参考になるWWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

京北プロジェクトの2009年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。ブログやHPとともに、2010年度の活動の参考としてください。

企画研究（SD） § 企画研究（自主企画研究）（SD）

14157

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、高嶋 正晴、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SE） § 企画研究（自主企画研究）（SE）

14158

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ作成を通じて学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようにすること、さらに(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。学生がデジタルコンテンツ制作を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像コンテンツ制作に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（1）	映像の特性、音声の特性
第3回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（2）	映像表現の可能性、音声表現の可能性
第4回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（3）	ターゲットオーディエンス、プレシス
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（1）	プロダクションプランニング、ロケーションハンティング
第9回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（2）	カメラオペレーション、三脚
第10回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（3）	ズーム、ティルト、パン、
第11回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（4）	クローズアップショット、ミドルショット、ワイドショット
第12回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（5）	映像カメラによる音声収録
第13回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（6）	リニア編集、ノンリニア編集
第14回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（7）	ポストプロダクション
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本企画研究はニクラスで構成されており、ひとつは金山が担当するコンテンツ制作部門、もうひとつはマネージメント部門（担当：坂田謙司教授）となっている。興味に応じて登録クラスを選択してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①映像コンテンツ制作作品の完成度と②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

最初の講義時に提示する。

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14159

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

前期は、映画宣伝とは何か、学ぶ。現在映画配給会社で宣伝を担当しているゲスト講師も予定。前期に学んだ映画宣伝の基本を、後期は受講生たちで決めた上映作品を、学内でどのように宣伝していくかを実践し、宣伝方法とその効果について検証する。研究成果については、ゼミナール大会で発表を行う。前期は隔週の授業だが、後期はほぼ毎週の授業となる。

到達目標 / Attainment Objectives

映画宣伝のノウハウを学び、その後の実践を通して、自分たちが企画したイベントを、どのように広告宣伝していくのか。イベントに足を運んでもらうことの難しさを体験的に学び、そのうえで、今後の様々な他の取り組み等にも応用できる力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、映像プロデュース論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行とは①	映画興行収入ランキングの意味
2	映画興行とは②	映画製作会社、映画配給会社、映画興行会社
3	映画興行における宣伝とは①	宣伝計画の立て方
4	映画興行における宣伝②	宣伝計画と興行結果
5	ゲスト講師　ギャガ株式会社関西営業所長　一色真人氏（立命館大学、産業社会学部OB）を予定	宣伝のノウハウ
6	上映作品の選定	
7	上映会の企画と宣伝計画の策定	
8	宣伝活動の進行状況の確認など	
9	上映会準備	
10	上映会準備	
11	上映会の結果のまとめ	
12	ゼミナール大会発表準備	
13	論文作成準備	
14	論文の完成、	
15	1年間のまとめリーフレットの作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会での発表並びに論文提出で、評価を決定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生から4回生まで、専攻の違うメンバーで、一つのことを取り組むことで、通常の講義とは違う発見があると思います。上映会の準備は、宣伝物づくりから行いますので、作業は大変ですが、喜びもまた大きいと思える人の受講を期待します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割り等

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講生と、メーリングリストを作成し、日常的に連絡できるようにします。

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

14329

担当者名 / Instructor　遠藤 保子、斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市は、子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することを基本理念に、2002年度、京都市ユースアクションプランを策定した。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。2007年、上記プランの中間見直しが行なわれ、プランの改定版が策定された。そして2009年度、京都市は、第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）を策定中である。この授業では、これまでのユースアクションプランと新しいプランについて知り、京都市青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

ユースアクションプランと青少年活動センターに関するレポートをまとめ、聞き取り調査を行い、プレゼンテーションを行なう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業内容と到達目標に関する概要	
2回	京都市ユースアクションプラン（理念と基本方針1）の考察	
3回	上記プラン（基本方針2,3）の考察	
4回	上記プラン（基本方針4,5）の考察	
5回	上記プラン（改定版）の考察	
6回	第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）の考察	
7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	
8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	
9回	中京青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査：現状と課題	
10回	中京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（DVや恋愛講座等）に関する調査	
11回	北青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査:現状と課題	
12回	北青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（サンタや伝記プロジェクト等）に関する調査	
13回	下京青少年活動センターの実態調査1：センター全体に関する実態調査	
14回	下京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（ミニミュンヘン、リーダーバンク等）に関する調査	
15回	上記センターに共通する課題とその解決策、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ユースアクションプランと京都市青少年活動センターをさまざまな側面から検討する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14160

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究は企画研究SEと連携して実施し、マネージメントを中心とする。
本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ制作のマネージメント作業を通じて、学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようになること。(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。
コンテンツ制作という実技面でなく、クライアントとの折衝や制作チームへの指示などを通じて、マネージメントという重要なスキルの獲得をめざす。学生がデジタルコンテンツ制作に関するマネージメント面を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学部をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

デジタルコンテンツ制作に関するマネージメント業務及び制作作業に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（1）	他大学・類似学部の広報コンテンツ分析　何をどのように使っているのか？
第3回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（2）	産業社会学部の広報コンテンツ分析
第4回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（3）	新しい提案に向けてのディスカッション
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	企画案実現のためのマネージメント作業（1）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像1
第9回	企画案実現のためのマネージメント作業（2）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像2
第10回	企画案実現のためのマネージメント作業（3）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声1
第11回	企画案実現のためのマネージメント作業（4）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声2
第12回	企画案実現のためのマネージメント作業（5）	マネージメント作業の実際　スケジューリング
第13回	企画案実現のためのマネージメント作業（6）	マネージメント作業の実際　作業振り分け
第14回	企画案実現のためのマネージメント作業（7）	マネージメント作業の実際　マネージメントにとって何が一番重要か
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①企画提案とマネージメント計画書の完成度、②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SI）　§　企画研究（自主企画研究）（SI）

14330

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、テレビ放送の現状と将来についての考察を行う。学生を中心として、若者のテレビ離れは深刻である。テレビ視聴形式の多様化によって、リアルタイムでテレビを見る人たちが少なくなっている。しかし、テレビから完全に切り離されているのではなく、テレビへの関心自身は依然として存在している。そこで、学生のテレビに対する意識や視聴傾向を調査し分析することで、学生とテレビの関係を明らかにする。そこから「テレビとは何か？」という原点を考察することが本研究の目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

①インタビューや取材を通じて、学生とテレビの関係を考察する。
②考察結果は3分程度の映像作品として制作し、関西テレビ関係者に対してプレゼンテーションを行う。
上記2つの作業を通じて、現代社会及びそこで生きるわれわれにとってテレビという存在とは何か？という疑問に対する自分なりの「回答」を導き出すことが出来る。また、この作業を通じて、自らの学びへとつながるヒントを得ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	概要説明とテレビに関するディスカッション	ガイダンス
第2回	関西テレビ社員によるレクチャー（1）	テレビの現状
第3回	最終作品制作に関する準備（1）	作品イメージと作業内容
第4回	関西テレビ社員によるレクチャー（2）	企画作りとは
第5回	最終作品制作に関する準備（2）	企画案作成
第6回	関西テレビ社員によるレクチャー（3）	インタビュー取材とは
第7回	最終作品制作に関する準備（3）	インタビュー実践
第8回	関西テレビ社員によるレクチャー（4）	カメラワークとは
第9回	最終作品制作に関する準備（4）	ビデオカメラを使った撮影
第10回	関西テレビ社員によるレクチャー（5）	編集とは
第11回	最終作品制作に関する準備（5）	映像編集の実際
第12回	最終作品制作作業（1）	取材・撮影
第13回	最終作品制作作業（2）	取材・撮影・編集
第14回	最終作品制作作業（3）	編集
第15回	最終作品発表と講評	
エキストラ	関西テレビでの最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終作品の内容と参加度によって評価。グループ作業になるので、参加・貢献度が低いと評価の対象とならない。また、最終作品の完成も、評価条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14161

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリズムとともに「格差社会」が進行し、社会不安も高まっている。言論の自由もなく治安維持法などが猛威をふるった戦前を知る人たちの間から、「あの時代に似てきた」との声がきかれる。確かに、気がつけば、自衛隊が海外に「派遣」され、イラクとアフガニスタンで「テロ戦争」を闘っている米軍との一体化も進んでいる。戦後、60年がたっても沖縄では新たな基地建設の計画を止めることができない。「平和憲法」が形骸化していくなかで、どこに歯止めかければ、より自由で開かれた生きやすい社会に変えていくことができるのか。その手がかりを得るために、1945年8月15日の「敗戦」を境にして、日本の社会の何が変わり、何が変わらなかったのかを、法制度、言論機関、地域社会のありかたなど様々な側面から比較、検証する。

到達目標 / Attainment Objectives

「世直し」のための提言を「学生の意見10」と名付け、具体的な「政策」のレベルに近づくかたちでまとめる。その成果については、朝日新聞紙上での掲載を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1-5	（収集・取材）：70年前の日本社会の実態に迫る。当時の新聞、雑誌、映画などの　メディアをはじめ当時を知る人たちの証言、手記などを収集。受講者がそれぞれ　最も関心があるテーマを選び、それぞれが取材した調査結果などをミニレポートにまとめて発表する。	
6-10	（整理・議論）：「変わった点」「変わらない点」を腑分けして整理、議論する。相互批判を通じて足らない論点・資料などを補う	
11-15	（提言）：「提言」をまとめる。提言づくりでは、提案者（筆者）が受講生全員の前でプレゼンテーション。その後の論議をふまえてまとめる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

「提言」の参考にするのは、「日本を変えよう。市民の意見30」（1989年1月16日朝日新聞朝刊の意見広告」および、1999年から2000年にかけて朝日新聞（大阪本社）の家庭・文化・芸能面に長期連載された企画「日本は変わったのか」

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中を切り取り記録するジャーナリストに求められる資質とは、「瞬発力（時代の波頭を読み取る『斥候』としての役割）」「発掘力（隠された事実を掘り起こす）」「粘着力（記事・提言にまとめるまでの粘り）」だといわれる。受講者がジャーナリストを目指すかはともかく、そんな気概で取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SK） § 企画研究（自主企画研究）（SK）

14331

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「立命館大学のエコキャンパス化への取り組み」

本企画研究の目的は、立命館大学のエコキャンパス化に向けて、その現状と課題を整理した上で、衣笠キャンパスにおける環境改善活動の具体的提言および実践を学生主体で行なうことである。本学の環境関連科目は数多く存在するが、キャンパスの環境改善活動への取り組みは他大学と比較して大きく立ち遅れており、基礎的なデータすら把握されていないのが実情である。2020年までに温室効果ガスを1990年比25%削減するという社会的要請からも、次世代を担う学生への教育・啓発の意味からも、立命館大学の学生主体の環境改善活動への取り組みが強く求められている。

具体的には、学生のグループワーク・フィールドワークを主体に、立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集や環境負荷の実態調査、学生の環境意識調査、他大学のエコキャンパス化の実態調査、ゲストスピーカーの招聘等を通して、主に衣笠キャンパスにおける環境負荷の現状と課題について考察した上で、エコキャンパス化への具体的提言および実践に結びつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画研究の到達目標は、講義で学んだ環境問題に関する知識等をキャンパスという身近な環境改善において具体的に活用する能力や、主体的に学び、調査し、考え、解決策を提起する能力等を身につけることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに	
第2回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（1）	
第3回目	ゲストスピーカーの招聘（1）	
第4回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（2）	
第5回目	ゲストスピーカーの招聘（2）	
第6回目	立命館大学の環境負荷の実態調査	
第7回目	立命館大学の廃棄物リサイクルの実態調査	
第8回目	中間総括	
第9回目	他大学のエコキャンパス化の実態調査	
第10回目	立命館大学の学生の環境意識調査	
第11回目	フィールドワーク（1）	
第12回目	フィールドワーク（2）	
第13回目	エコキャンパス化に関する企画の立案	
第14回目	エコキャンパス化への具体的提言	
第15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査・研究・企画への参加と成果物の作成など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14238

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

経済成長が続く中国を中心に、アジアの消費市場は着実に拡大しています。その反面、芸術・文化の振興、創出の産業構造では、日本は先進国です。ところがデシタル技術とインターネットの地球規模の急速な普及で、新たな課題が続々と生じています。それには、まず速やかに時代に対応できる人材の育成です。ついては東アジア地域（日・中・韓）を主軸に、ASEAN加盟諸国における音楽文化・産業の実態を調査・研究し、推進役の一助になるような報告書の作成と発進を目指します。

到達目標 / Attainment Objectives

〇音楽文化を通じて西欧と非西欧を比較し特性を学ぶ。
〇最新の市場特性を調査研究する。
〇新たな情報ネットワークを構築する。
〇ビジネス・プロデューサーの資質を拡充する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

〇語学（中国語、韓国語）の積極的な履修を望む。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国勢と民度の基本調査	多言語と宗教の多様性
第2回	非西欧音楽の存在と特性	民族音楽と伝統音楽
第3回	市場規模と消費構造の基本調査	価格差
第4回	教育制度の実態と調査研究	人材育成
第5回	メディア事情の調査・研究①	マスメディア
第6回	メディア事情の調査・研究②	ネット社会と違法配信
第7回	エンタテインメント産業の実情	スーパー・スター
第8回	J-POPの浸透度と普及の可能性	ディク・リー（音楽プロデューサー）
第9回	コンテンツ産業振興策と戦略	韓流ブームとK-POP
第10回	違法ネット利用の実態と法整備	海賊版
第11回	許認可制度の存在と実態	表現の自由
第12回	著作権等の法整備	国際基準
第13回	海外交流の実態	英才教育
第14回	アジアのオジナリティ	情報ネットワーク
第15回	研究発表フーラム（仮）の開催	アジア版ベスト10曲

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

その都度指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定はしない。独自資料・テキストを活用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーターマニエル著、中村とうきょう訳／ミュージックマガジン社刊／／
「日中韓はひとつになれない」	小倉紀蔵著／角川書店刊／／
「音楽ビジネスの著作権」	前田哲男・谷口元著／社団法人著作隣接権センター刊／／

その都度指示するが、上記の3冊を受講前に一読を奨めます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ｅ－mail　DZC05045＠nifty.ne.jp

その他 / Others

企画研究（SM） §　企画研究（自主企画研究）（SM）

14239

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

歴史は、現在のあり方や今後の指針を考えるための宝庫である。しかし、過去の事実群を漫然と眺めるだけでは、見えるものも見えてこない。そこで導きの糸となるのは、社会学や政治学の理論である。
この授業では、社会学・政治学の理論書や現代思想の書物を読み込みながら、歴史を現代に役立てるための知的営みについて考えていく。なかでも、ナショナリズムの問題を主要なテーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなナショナリズム論を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像について	授業の概要説明など
2	戦時期日本を考える（1）	丸山眞男『現代政治の思想と行動
3	戦時期日本を考える（2）	竹内好『日本とアジア』
4	国家主義を考える（1）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』前半
5	国家主義を考える（2）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』後半
6	「戦争の記憶」と国家を考える（1）	G・L・モッセ『英霊』前半
7	「戦争の記憶」と国家を考える（2）	G・L・モッセ『英霊』後半
8	全体主義を考える（1）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』前半
9	全体主義を考える（2）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』後半
10	ポストコロニアリズムを考える（1）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』前半
11	ポストコロニアリズムを考える（2）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』後半
12	国民国家と政治を考える（1）	L・アルチュセール『国家と国家のイデオロギー装置』
13	国民国家と政治を考える（2）	カール・シュミット『政治的なものの概念』
14	性と権力を考える（1）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』前半
15	性と権力を考える（2）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』後半

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表や討議に対する姿勢を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論書を積極的に読もうという受講者の参加を望みます。
自分の発表回の文献だけではなく、各回で輪読する文献を入手し、授業までに読んでくることが、出席の前提となります。

教科書 / Textbooks

授業のなかで指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

取り上げる文献はあくまでも予定です。
初回ガイダンス時に受講者の関心も勘案しながら決定します。

基礎社会学（SA）

12217

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12218

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学 (SC)

12219

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12220

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12221

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

経済学理論（S）

12770

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在の福祉国家において、現実の経済は新古典派経済学が想定しているように市場でだけ決まっているわけではない。市場経済とならんで国家などがおこなう経済政策（財政・社会保障・金融などの諸政策）の影響も大きい。1980年代以降の日本の「小さな政府」（実は小さすぎる政府）路線は、経済成長を叫びながら実際には経済格差を増大させたにすぎない。今年度は福祉国家の経済学というテーマで講義してみる。対象国は日本だが、対比すべき参照国は北欧諸国（特にスウェーデン）とアメリカである。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済面・社会面に興味がもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／7	スウェーデン「生活の安全」というコンセプト	福祉国家の理念、スウェーデンモデル、生活保障
4／14	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係、「小さな政府」、「大きな政府」
4／21	3つの福祉レジーム	自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、保守主義レジーム エスピン・アンデルセン
4／28	国際競争力ランキング、国際競争力と「国民負担率」とは無関係	世界経済フォーラム、国際競争力ランキング、国民負担率、北欧諸国の強さ、教育と生涯学習
5／12	アメリカの社会保険と貧困	「小さな政府」論に基づく減税政策、企業福祉とその破綻、貧困大国の出現
5／19	「小さな政府」は本当に経済成長率を高くできるのか	日本の減税路線と財政赤字増大、小泉構造改革、「小さな政府は経済成長が高い」という言説、成長戦略と経済格差増大
5／26	「貯蓄から投資へ」は本当に正しいのか	アメリカ型金融資本主義、生活資金の投機化、生活金融のあり方
6／2	「日本的経営」の問題点と北欧型「福祉国家」	正規雇用と非正規雇用、年功型賃金、職能給、職務給、「福祉国家」と「生活の安全」
6／9	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン論」、所得再分配機能の放棄、相対的貧困率、ジニ係数
6／16	未婚率の異常な高さとワーキング・プア	非正規雇用の増大、「自己責任」論の呪縛、未婚率、出生率、サンボ
6／23	「フレキシキュリティ」	フレキシキュリティ、デンマーク、オランダ、EU雇用戦略
6／30	労働組合はもう化石なのか	労働組合、組織率、経済的役割、社会的役割
7／7	どんな社会を望むのか	北大のアンケート調査、日本型（日本的経営）より北欧型が多い、しかし行政不信も強烈
7／14	福祉政策と都市政策の結合	スウェーデンなどにみる「公有地」と社会住宅、日本の持ち家政策の破綻と劣悪な「公営住宅」、都市計画
7／21	福祉政策と環境政策の結合	環境政策は経済成長政策、生活の見直し

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	受講生が少ない場合は授業中の感想文で、受講生が多い場合は学習到達度確認小テスト。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障	宮本太郎／岩波書店／978-4-00-431216-1／岩波新書

コミュニティを問いなおす	広井良典／筑摩書房／978-4-480-06501-8／ちくま新書
ポスト工業経済の社会的基礎	エスピン・アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／4-921190-16-X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

12883

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武　／ミネルヴァ書房 ／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

12891

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 ／ミネルヴァ書房／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代教育社会論 (S)

12215

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】

高校までの中等教育とはどのような目的をもち、どのように機能してきたのか。大学における学び・研究を展望するために、履修生の被教育体験を更新することをねらいとする。

戦後の日本社会における人間の再生産について、社会構造と日常的に経験することがらの双方から検討する。教育経験は産育、学校体験、そして労働による社会参加という過程のなかで、個別に又は同世代に共通なこととして体験されると考えられやすい。そのために、自分の体験が普遍的世界であるかのような陥穽に陥りがちである。そこで本講義では、固定化しやすい教育体験を、戦後の歴史や、生きる世界の差異、ひとり一人の将来展望など条件の差異などを検討としながら、それらを相対化する視点を提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

・教育体験の目的と手段を峻別する。
・学びの空洞化という現象を理解する。
・私は学びを欲しているのかどうかを再審にかけることができる。
・人間の再生産という時代の構造のなかで学びをとらえることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の構成　学校体験と教育イメージ	多様な被教育体験
2	再生産システムとしての教育・社会的カテゴリーとしての教育	自己形成　教育　教化
3	労働と生活に埋めこまれた教育	生活と再生産　教育の共同的性格
4	制度としての教育	普通教育　専門教育　職業教育
5	教育機会の拡大と学校化社会	メリトクラシー　能力主義
6	教育家族と学校化社会	近代家族　学校化社会
7	「家族・学校・生活=労働世界」から「家族・学校・消費文化世界」	再生産システムの転換
8	パターナリズムから社会的シティズンシップ形成へ	教育の主体　学びの主体形成
9	中間まとめとディスカッション	被教育体験認識
10	知識と技能を教え伝える過程について	周辺参加論
11	教育の職業的レリバンスと公共的支援	社会的生存を視野にいれた教育
12	学び=教える関係のかたち	戦後の教育課程　現代の教育課題
13	学校文化と若者文化の対抗から消費文化世界へ	能力主義　自己努力の矛盾
14	社会参加の展望　学ぶことと労働	社会参加　労働世界へのトランジション
15	総括的まとめとレポートの講評	納得知　手続知　アンラーン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	複数回のレポート執筆によって、教育を構造的に認識するための基本枠組みが受講生自身の言葉に変換されているかどうかを確認します。
平常点評価	30 %	出席をとります。受講生数によっては、発言等により、高等教育機関において学ぶ意思の確認をします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

各回の講義でレジュメを配付する。また、資料と参考文献を適宜紹介する。
教育現象は時系列で生起することなので、適宜映像資料を提供する。
受講人数にもよるが、複数回のレポートをもとめ、プレゼンテーションを行う。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代史 (S)

15395

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:20世紀の世界と日本

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の世界と日本の歴史を振り返り、現代日本社会の歴史的位置を確認し、②世界的な観点から、今日の産業・労働の問題、教育・福祉などをめぐる問題と今後について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで日本の「現代」を考える	現代はいつから始まるか、近代の再帰性(前近代社会との違い)、国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末期～20世記初頭の世界と日本	奴隷に支えられた資本主義世界体制の形成過程、19世紀末大不況期の世界再編、日本の明治憲法体制、日清・日露戦争、産業革命
第3回	第一次世界大戦(1)	第一次世界大戦の長期化と社会的動揺、ドイツ帝国、オーストリー帝国の崩壊、ロシア革命、終戦
第4回	第1次世界大戦(2)－1910年代の中国と日本－	辛亥革命と中華民国の成立、日本の大戦景気と米騒動、アジアをめぐる米国と日本
第5回	戦後の新しい世界秩序	パリ講和会議と国際連盟の成立、敗戦国は、講和条約をどのような状況で受けたか、 かつての世界の覇者・大英帝国の動揺、ソ連の成立
第6回	1920年代の国際関係	オスマン帝国の崩壊と中東地域、太平洋地域におけるアメリカの発言力の強化、 緊張が続くフランスとドイツ、中華民国の内戦、1920年代の日本
第7回	1929年世界恐慌	ドイツの復興、イタリアのファシスト国家化、世界恐慌、満州事変と高橋財政下の景気回復、満州建国と抗日民族統一戦線結成
第8回	第二次世界大戦への道	ヒットラー政権誕生とドイツの再挑戦、ベルリン・ローマ枢軸、スペイン内乱
第9回	第二次世界大戦の構図	第二次世界大戦の推移、日本の戦時体制、アジアの植民地解放闘争、東西冷戦体制への移行、
第10回	冷戦体制下の戦後復興と成長	国連とIMF・ガット体制、1950年代の冷戦構造と第三世界、EEC、朝鮮戦争と日本の復興
第11回	福祉国家の展開とソ連型福祉	西ヨーロッパ諸国の福祉国家への移行、ソ連の社会保障制度、日本の教育、福祉および医療
第12回	成長の限界と「新自由主義」的潮流	1970年代初頭の世界構造、福祉国家の変容、日本の低成長への移行
第13回	新自由主義時代への移行	1973年以降の世界経済推移、冷戦の終結、途上国とOECD、中国の改革開放以後
第14回	「アジアの時代」と日本	「新自由主義」の流れ、ラテンアメリカの民主化の波、開かれた日本とは
第15回	2008年世界同時不況後の新しいチャレンジ	世界的無秩序の脅威、新しいチャレンジ ― 環境、貧困、教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業は、20世紀を中心に約500年余にわたる近代社会の形成と展開過程を大掴みにする、1つの歴史論である。したがって、本来、受講生は、授業外で膨大な関連図書の読破を必要とする。少なくとも歴史の曲がり角となるような歴史的事件に関しては、指示する参考文献の中から自らの関心に沿って、2,3冊の関連図書は読み進めるように。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	学生はWebコースツールにて本授業の「ディスカッション」にアクセスすること。それが定期試験を受ける前提(必須条件)である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の聞きっぱなし、まったく予習・復習はしないという対応で済ましてきた流れは、今年度の定期試験では通用しないかもしれない。定期試験の出題形式を全面的に再検討し、穴埋め、正誤を指摘する問題など、多様な出題形式を併用する予定である。

講義内容についての質問は大いに歓迎する。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
概説　現代世界の歴史	ウイリアアム・ウッドラフ／ミネルヴァ書房／4-623-03524-7／
長い20世紀	G・アリギ／作品社／／
現代史の視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／
新自由主義	D・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／
21世紀の歴史	ジャック・アタリ／作品社／978-4-86182-195-0／

そのほか、授業の中で適宜、紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で適宜、紹介。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを、事前連絡、レジメの開示、質疑応答などに活用するように努めたい。

その他 / Others

現代政治論（S）

12769

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、現代日本政治を題材としながら、政治学の基本的な思考法や概念を体系的に学習する。日本政治の諸現象を政治学の文脈に位置づけることによって、本講義は、日本政治の特徴をよりよく理解すること、そして政治学の基本的な発想法を学ぶことを目的とする。講義では、映像資料や新聞などを利用して最近の日本政治のトピックを取り上げ、それを手がかりに政治学の基本的概念を学ぶという形式を採る。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代政治学の基本的な思考法や概念を身につける
・政治学の理論枠組に位置づけることで、日本政治の特徴を把握する
・現代（日本）政治に対して、自分自身の意見を持てるようにする

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　現代社会が直面する諸課題と政治の関係	貧困・格差の拡大、社会的排除
第2回	1　政治学とは何か、政治学の研究対象	政治、政治学
第3回	2　現代国家の特質－政治経済システムとしての福祉国家－	福祉国家、労資妥協、戦後コンセンサス
第4回	3　政党	政党の役割、クリービッジ政党、包括政党、新しい政党
第5回	4　利益集団	利益集団の役割、多元主義、コーポラティズム
第6回	5　議会制度	一院制と二院制、選挙制度（小選挙区制と比例代表制）
第7回	6　執政制度	議院内閣制と大統領制、単独政権と連立政権
第8回	小テストとこれまでの復習	
第9回	7　官僚制度	行政国家、官僚主導、行政改革
第10回	8　中央・地方関係	集権制と連邦制、中央主導、地方分権
第11回	9　市民社会における政治	政治文化、社会資本、新しい政治、新しい社会運動
第12回	10　世界の政治体制	民主主義、権威主義、全体主義
第13回	11　先進諸国の多様性	さまざまな民主主義、福祉国家の多様性
第14回	12　現代国家の変容－グローバル化の中の福祉国家－	グローバル化、福祉国家の変容、ガバナンス
第15回	まとめ　現代社会における政治の役割	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階に小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現代政治を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代政治学（第三版）』	加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦／有斐閣、2008年／4641123311／
『政治学』	久米郁夫・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝／有斐閣、2003年／4641053685／
『政治学』	大嶽秀夫・鴨武彦・曽根泰教／有斐閣、1996年／4641059683／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介してい

く。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、政治学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献から、各自の好みに合ったものを選んでほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論』	建林政彦・曽我謙悟・待鳥聡史／有斐閣、2008年／4641123649／
『日本の政治（第2版）』	村松岐夫・伊藤光利・辻中豊／有斐閣、2001年／4641059969／

個別のテーマに関する参考文献は適宜紹介していくが、講義全体に関する参考文献としては、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、政府機関や各新聞社などのホームページなどが有益である。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

産業技術論（S）

15424

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

資源エネルギー論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
2	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
3	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
4	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
5	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
6	工作機械論	工作機械　汎用と専用　アメリカンシステム
7	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
8	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
9	ポストフォーディズム	リーン生産方式
10	日本的生産様式	FMS　JIT
11	ロボット論	ロボット　Rキューブ
12	半導体工業論	半導体　IC
13	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
14	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
15	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
技術と労働	大沼正則／岩波書店 ／ISBN4-00-003662-9　c0336 ／
アメリカンシステムから大量生産へ	D.A.ハウンシェル　／名古屋大学出版会 ／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

質的調査論（SA） §　質的調査論（SA）

15439

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　maosaito@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

質的調査論（SB） § 質的調査論（SB）

15526

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　maosaito@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会学史 (S)

12884

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も持て理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想（史）や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。

社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないで授業時のプリントや講義ノートや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景；16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想；近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；1ホッブス、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想；近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；2アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味；資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻（19世紀問題）とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1；コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（1）	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（2）	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1；ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（1）	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（2）	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（1）	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（2）	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（3）	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学；シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立；パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション的合理性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、毎回の講義に出席するとともに、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。

評価は、試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

参考書 / Reference Books

特に指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」がもっとも重要です。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。講義ノートには参考文献があげてありますので、適宜参考してください。本シラバスのア「ドバイス」の欄にあげた参考書はぜひ活用して下さい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定しません。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-Mail;hst01932@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特になし

社会学理論（S）

15410

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会」の成り立ちを理解するのに役立つ代表的な社会学理論を紹介する。取り上げるのはデュルケーム、ヴェーバー、シカゴ学派、パーソンズの構造-機能主義、マートンの中範囲の理論である。これらの古典理論と現代の社会理論との関連も合わせて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基本的な考え方や概念を理解し、説明できる。
社会学的視点で社会現象を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学史、社会調査関係の授業

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方・社会学の主題	共同態・権威・ヒエラルキー・聖なるもの・疎外
第2回	デュルケームの社会理論（その1）:『社会分業論』	集合意識・社会連帯・分業・法の形式
第3回	デュルケームの社会理論（その2）:『自殺論』	アノミー・自己本位主義・集団本位主義・社会的潮流
第4回	デュルケームの社会理論（その3）:『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・シンボル
第5回	デユュルケームの方法論	実証主義からシンボルの社会学へ
第6回	ヴェーバーの社会理論（その1)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・エートス・親和性
第7回	ヴェーバーの社会理論（その2)『儒教と道教』	氏族・家産官僚制・読書人・儒教の教義
第8回	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・因果帰属
第9回	デュルケームとヴェーバーの方法論の比較	差異法・一致法・共変法　行為論・シンボル論
第10回	シカゴ学派の社会学（その1）パークとバージェス	人間生態学・都市病理・社会改良
第11回	シカゴ学派の社会学（その2）プラグマティズムとの関連	ミード、トマスの社会心理学
第12回	パーソンズとシステム論	構造―機能分析、AGILの相互交換、一般化されたメディア
第13回	マートンの中範囲の理論	機能分析・準拠集団の理論、因果メカニズム
第14回	相互作用論から社会的世界論へ	ナラティブ・システム・メカニズム、
第15回	理論的視点の総括と討議	社会学理論の活用法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で紹介する文献はできるだけ図書館等を利用して、各自で学習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や視点がどれだけ理解できているのかによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業ではテキストのほかにレジメを配布するのでそれらを熟読してほしい。またコミュニケーション・ペーパーを配布するので積極的に質問していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人・宝月誠ほか／有斐閣／4-641-08857-8／

参考書 / Reference Books

参考書は授業のなかでそのつど紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailを利用

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

12742

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。貧困という言葉が日常語となってきています。なぜこうなってしまったのでしょうか。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。 そのうえで、ありうべき経済のシステムを考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	経済知識の確認、など
2	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、市場とは何か、商品市場、金融市場、労働市場
3	資本（企業）と産業－株式会社とはなにか？	株式会社、産業分類
4	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
5	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
6	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
7	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
8	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
9	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営化
10	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15	人間中心の経済とは	スウェーデン、潜在能力、選択可能な社会システム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考文献は、講義の中で指摘する。テキストは使わない。レジュメに基づく講義。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書 ／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞社／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
市民のための社会経済学	篠田他編著／伊藤光晴／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

shinoda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会心理学（S）

12804

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

monden@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15404

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)と、欠席した回の参考書の該当ページ(上記「授業スケジュール」参照)を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容(および「キーワード」に挙げた概念・用語)を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来(成果点50%)と、授業への出席の頻度(努力点50%)とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法(の一つ)である。よって、どんなことでもよいので——「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので——、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」(パートナーの有無)についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前(あなたが生まれた頃or若かった頃)との時代比較や、他国(あなたが行ってみたい国)との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語(受講生同士の会話)は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「(単)回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞

「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］： http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］： https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→ （JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→ https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス： haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15413

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

12782

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

15343

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校レベルの基礎的数学の知識を前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またExcelの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	30 %	授業内容の理解を確実なものとするために、簡単な課題（宿題）を10回程度課す。課題の提出状況を平常点とする。

提出期限を過ぎた課題（宿題）は受け取らないので、提出期限までに必ず提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になる。授業への出席と課題提出は必須である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／書名は入門となっているが、高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで。

nagasawa@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持参すること。Excelが使えるものはノートパソコンを持ち込んでもよい。

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15354

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障制度を考察するのに当たり、その内容を総論と各論とに分け、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権·最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源

(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。

(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の機能	選別主義・普遍主義、 生存権、所得再分配、社会的統合、多様なライフスタイル、少子高齢化と社会的サポート
3	少子高齢化と社会的サポートの国際比較	日本とスウェーデン、育児休業・給付、児童手当、保育所
4	社会的不平等とその実態	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
5	女性と貧困	高齢単身世帯、シングルマザー、生活保護、養育費、貧困の連鎖
6	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
7	所得保障と年金制度	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度
8	基礎年金制度の仕組み	老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	国民年金空洞化問題、社会保険方式の修正、税方式
10	厚生年金制度の仕組み	被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、アメリカの医療保険、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	医療保険制度給付の内容	療養の給付、訪問看護療養費、入院時食事療養費、入院時生活療養費、保険外併用療養費、療養費、高額療養費、移送費、出産育児一時金、出産手当金、傷病手当金、埋葬料、医療保険制度の財源
14	高齢者医療の概要、および、医療保険制度の問題と解決策	後期高齢者医療制度、国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書)、国民健康保険制度の抜本改革
15	社会保障制度の発展要因と今後の社会保障制度	収斂化理論、ネオ・マルクス理論、民主主義・利益団体論、国家中心理論、社会民主主義理論(権力資源論)・福祉レジーム論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会 : 社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

情報リテラシーI（SA）

12688

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SB）

12689

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SC）

12690

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SD）

12691

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SE）

12692

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SF）

12693

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SG）

12694

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SH）

12695

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SI）

12696

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SJ）

12697

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SK）

12698

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SL）

12699

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SM）

12700

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SN）

12701

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SO）

12702

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SP）

12703

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SQ）

12704

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SR）

12705

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（SS）

12706

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーI（ST）

12707

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パソコンとインターネットが社会生活のあらゆる分野に浸透しつつある今日、情報ネットワーク環境の活用能力を身につけることは文字の読み書きと同様に社会生活に不可欠となっている。高校での情報科目必修化はそのあらわれであり、大学における情報科目は基礎を修得したことをふまえた、より進んだスキル獲得へと深化している。また、大学での学びにおいても、レジュメ作成、プレゼンテーション、レポート及び論文作成に至るまで、講義やゼミでの全ての学びに不可欠となっている。

この科目では、産業社会学部での4年間の学びに必要なパソコンの利用法（Windowsの操作、ワープロ、表計算）と情報ネットワーク（e-mail、インターネットWWW）の利用法について、体系的に実習を行う。また、演習などの学習に不可欠なオンラインデータベースの活用法やインターネットからの情報検索方法など学術情報関連、授業支援ツールの利用方法、情報ネットワークを利用する上で必要となるマナーやセキュリティなど、主体的な学修と研究の基礎となる情報リテラシーを実習により学んでいく

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ガイダンス中に行われるコンピュータ・スキルの自己申告に基づいて、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、「入門」クラスを申告する場合には、自身のコンピュータ経験や高校における情報授業の内容などの理由を明記する必要がある。また、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。自分のスキルにあったクラスを選択することも重要だが、より高いレベルを修得する意欲も持って欲しい。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）	
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義	
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）	
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索	
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（箇条書き・文字装飾）、タイトル・本文・記書き文、文書の印刷、表の作成	
第6回	文書作成（Word）②　表の作成、ワードアート、クリップアートを活用した文書作成	
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成	
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）	
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能	
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照	
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ）の作成	
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成	
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、表紙、箇条書きスライドの作成	
第14回	PowerPoint②　表、グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行	
第15回	到達度試験　後期へのつながり	
	【初級クラス】	

第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷
第6回	文書作成（Word）②　画像を利用した文書（ワードアート、クリップアート、図の挿入、テキストの折り返し
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）課題2：案内文書の作成
第8回	表計算（Excel）①　Excelの基本操作、効率の良いデータ入力（文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存）
第9回	表計算（Excel）②　関数を使った計算（SUM、AVERAGE、MAX、MIN）、オートフィル機能
第10回	表計算（Excel）③　関数（復習）、表の書式設定（罫線、表示形式、書式設定、表の構成変更）、絶対参照
第11回	表計算（Excel）④　関数と絶対参照（復習）、グラフの使い分け、基本的なグラフ（棒グラフ・円グラフ）の作成
第12回	（Excel）⑤　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint①　PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成（表紙、箇条書き、表）、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint②　グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験　後期へのつながり
	【中級クラス】
第1回	ID/パスワード管理、学内システムの利用方法（Bbls）、メディア管理・ファイル・フォルダの管理の方法（教材フォルダの利用）
第2回	Webメールの送受信（大学からの重要メールの確認）、メール送信時のマナー、アドレス帳の活用、Webメールの管理、添付メールの取り扱い、圧縮・回答ソフトの利用方法と意義
第3回	Webでの情報検索、検索情報の扱い方、情報セキュリティ（Webコミュニケーション上でのトラブルなど、コンピュータウイルス、各種ネットワーク利用時に起きる問題点を理解する、最近のトラブル事例の紹介）
第4回	総復習（ここまでの内容のまとめ）課題1：情報検索
第5回	文書作成（Word）①　案内文書の作成（インデント、スタイル設定）、タイトル・本文・箇条書きの書式、表作成、文書の印刷、均等割付、ヘッダーとフッター
第6回	文書作成（Word）②　ワードアート、クリップアート、画像を利用した文書、図ツールバーを使用した画像処理
第7回	文書作成（Word）③　総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：案内文書の作成

第8回	表計算(Excel)①Excelの基本操作、効率の良いデータ入力(文字データと数値データ、セル参照、四則演算、移動・コピー、範囲選択、消去、保存)、関数を使った計算(SUM、AVERAGE)
第9回	表計算(Excel)② 関数を使った計算(MAX、MIN)、オートフィル機能、表の書式設定(罫線、表示形式、書式設定)、絶対参照
第10回	表計算(Excel)③ 関数(復習)、関数と絶対参照(復習)、関数応用(RANK、COUNT、COUNTA)
第11回	表計算(Excel)④ 関数応用(復習)、グラフの使い分け、基本的なグラフ(棒グラフ・円グラフ)の作成
第12回	計算(Excel)⑤ 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:関数を使った表計算とグラフ作成
第13回	PowerPoint① PowerPointの基本操作、簡単なスライド作成(表紙、箇条書き、表)、配色の変更、クリップアートの挿入
第14回	PowerPoint② グラフスライドの作成、画面切り替え効果、スライドショーの実行、配布資料の印刷
第15回	到達度試験、後期へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出(必須)とテスト(基礎知識・実技)によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。?
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。?
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。?
宿題を数回、提出してもらう予定。?
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／
『情報活用の基礎』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SA）

15296

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SB）

15297

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SC）

15298

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SD）

15299

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SE）

15300

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SF）

15301

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SG）

15302

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SH）

15303

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII (SI)

15304

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー(Word)や表計算(Excel)、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。

【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト(PowerPoint)のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション(PowerPoint①) プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成(復習)、文字と図のバランス(レイアウトを考える、視線の流れを理解する)	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ(表・グラフ・チャート表現技法)、図解の概念化、図解技法(図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画)	
第3回	プレゼンテーション(PowerPoint③) グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点)	
第4回	プレゼンテーション(PowerPoint④) アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成(ノートの活用、スライド・配布資料の印刷)発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション(PowerPoint⑤)【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成(スライドの提出)、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用(Excel①) 前期復習(SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照)、応用関数1(COUNT、COUNTA)	
第7回	表計算応用(Excel②) 前回関数の復習、応用関数2(RANK、IF)	
第8回	表計算応用(Excel③) 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集(挿入、移動、コピー、削除、名前の変更)	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題2:データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定(段落番号)、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法(埋め込みオブジェクト)、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント(復習)、参考文献の記入、スタイル機能(紹介のみ)	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習(ここまでの内容のまとめ)、課題3:課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SJ）

15305

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SK）

15306

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SL）

15307

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SM）

15308

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SN）

15309

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SO）

15310

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SP）

15311

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SQ）

15312

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SR）

15313

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（SS）

15314

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーII（ST）

15315

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【入門】及び【初級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。論文作成、データ処理に不可欠なワードプロセッサー（Word）や表計算（Excel）、ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）の使用について確実に実習することで、主体的な学修と研究のためのスキルをより確実なものとする。
【中級】この科目では、パソコンや情報ネットワークの利用法について、前期の情報リテラシーⅠにおける学習を踏まえ、さらにスキルの向上を目指す。ゼミ発表などに必要となるプレゼンテーションソフト（PowerPoint）のより高度な使用方法を実習により学修するとともに、ホームページの仕組みについても学ぶことで、主体的な学修と研究のためのスキルの向上と次の段階への展開を図る。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータの基礎をふまえた上で応用的なスキルを修得し、産業社会学部で学ぶ4年間の学習面での活用ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーIに引き続き、「入門」「初級」「中級」の3グレード制のクラス編成を行う。なお、情報リテラシーIの修得内容をふまえた上で、上位のグレードへの変更のみ希望を受け付ける。情報リテラシーIと同様に、各クラスの学習内容はほぼ同じであるが、受講生のスキルに合わせた操作指導など講義運営が異なる。さらなるスキルアップやキャリアにつながるスキル獲得を目指す場合には、情報リテラシーIIIの受講を強く勧める。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【入門クラス】	
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、表スライド・グラフスライドの作成（復習）、文字と図のバランス（レイアウトを考える、視線の流れを理解する）	
第2回	スライドデザインのルール、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）	
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、カラーリング(配色表現・配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）	
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善	
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施	
第6回	表計算応用（Excel①） 前期復習（SUM、AVERAGE、MAX、MIN、絶対参照）、応用関数1（COUNT、COUNTA）	
第7回	表計算応用（Excel②） 前回関数の復習、応用関数2（RANK、IF）	
第8回	表計算応用（Excel③） 前回関数の復習、前期グラフの復習、円グラフの作成	
第9回	表計算応用④ 表とグラフの印刷、複合グラフの作成、シートの編集（挿入、移動、コピー、削除、名前の変更）	
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成	
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、見出しの書式設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定	
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定	
第13回	文書作成応用③ 脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）、参考文献の記入、スタイル機能（紹介のみ）	
第14回	文書作成応用④【課題③】 総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する、	

第15回	到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【初級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） マスタの利用、ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④） アニメーション効果の追加、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド・配布資料の印刷）発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施
第6回	表計算応用（Excel①） 前期Excelの復習と解説、応用的な関数1（COUNT、COUNTA、RANK）
第7回	表計算応用（Excel②） 前回の関数の復習、応用的な関数2（IF、COUNTIF）、前期グラフの復習
第8回	表計算応用（Excel③） 前回の関数の復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷、複数シートの活用
第9回	表計算応用④ シートの編集、複数シート間の計算、総復習
第10回	表計算応用⑤ 【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用① 文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用② ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④ 【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤ 到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり
	【中級クラス】
第1回	プレゼンテーション（PowerPoint①） プレゼンテーションの構成と計画、スライドデザインのルール、マスタの利用
第2回	プレゼンテーション（PowerPoint②） ビジュアル化への流れ（表・グラフ・チャート表現技法）、図解の概念化、図解技法（図表ギャラリーの利用、オートシェイプを使った図形描画）
第3回	プレゼンテーション（PowerPoint③） グラフ表現、バランスとカラーリング(文字サイズや図の配置、配色表現･配色の基本技法、カラーリング技法の注意点）
第4回	プレゼンテーション（PowerPoint④）アニメーションの設定、発表の準備、配布資料の作成（ノートの活用、スライド･配布資料の印刷）、発表技法と改善
第5回	プレゼンテーション（PowerPoint⑤）【課題①】課題1：指定テーマによるプレゼンテーション作成（スライドの提出）、代表者プレゼン実施

第6回	表計算応用①　前期Excelの復習と解説、応用的な関数（IF、COUNTIF、SUMIF）
第7回	表計算応用②　前回の関数の復習、前期グラフの復習、応用的なグラフ、表とグラフの印刷
第8回	表計算応用③　前回のグラフの復習、シートの編集、複数シート間の計算
第9回	表計算応用④　データベースの利用方法（並べ替え、オートフィルタ）、総復習
第10回	表計算応用⑤【課題②】総復習（ここまでの内容まとめ）、課題2：データの集計と複合グラフの作成
第11回	文書作成応用①　文書の階層化、ページ設定、スタイルを利用した見出しの設定、見出し番号の設定（段落番号）、レポートタイトルの書式設定
第12回	文書作成応用②　ExcelやPowerPointからのデータ利用方法（埋め込みオブジェクト）、図表の挿入、図表番号の設定、脚注の設定、段組、ヘッダーとフッター、インデント（復習）
第13回	文書作成応用③　文章校正機能、セクション区切り、表紙の作成、目次作成、参考文献の記入
第14回	文書作成応用④【課題③】総復習（ここまでの内容のまとめ）、課題3：課題1で作成したプレゼンテーションの内容をまとめ、レポート化する
第15回	文書作成応用⑤　到達度試験、1年間のまとめ、これからの授業へのつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点、課題提出状況、小テスト・最終講義日に実施する検証テストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3回の課題提出（必須）とテスト（基礎知識・実技）によって評価する。5回以上欠席すると、原則として単位認定の対象とならない。
入門クラス・初級クラス、中級クラスとも「P」評価方式。3クラスの評価方法・基準は、原則として同じである。
フラッシュメモリーあるいはフロッピーディスクを1枚用意し学生証番号と氏名を記入したラベルを各自貼付しておくこと。
宿題を数回、提出してもらう予定。
授業開始後5分までは出席扱い。6分から15分までは遅刻扱い。16分以上遅れた場合は欠席扱いとする。
なお、遅刻1回あたり0.5回分の出席点とする。詳細は、授業内で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Rainbow Guide2010』	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA）§　法政特殊講義（JI）§　人文科学総合講座特殊講義I（LQ）§　特殊講義（各部門共通）I（RD）§　専門特殊講義（SP）§　特殊講義（WA）§　専門特殊講義II（SP）

13871

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	鳥取県　平井伸治知事	
第3回	和歌山県　仁坂吉伸知事	
第4回	岩手県　達増拓也知事	
第5回	福井県　西川一誠知事	
第6回	総務省　自治大学校　門山泰明校長	
第7回	大分県　宇佐市　是永修治市長	
第8回	今仲　康之先生	
第9回	読売新聞　論説委員　上田恭規氏	
第10回	三重県　野呂昭彦知事	
第11回	兵庫県　井戸敏三知事	
第12回	秋田県　佐竹敬久知事	
第13回	佐賀県　古川康知事	
第14回	今仲　康之先生	
第15回	神奈川県　松沢成文知事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編)／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ） § 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

16549

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	前兵庫県知事　貝原俊民 氏	
第3回	岡山県　石井正弘 知事	
第4回	茨城県　橋本昌 知事	
第5回	山形県　吉村美栄子 知事	
第6回	広島県　湯崎英彦 知事	
第7回	徳島県　飯泉嘉門 知事	
第8回	滋賀県　嘉田由紀子 知事	
第9回	大阪府堺市　竹山修身 市長	
第10回	静岡県　川勝平太 知事	
第11回	前高知県知事　橋本大二郎 氏	
第12回	日本銀行 京都支店長　渋谷康一郎 氏	
第13回	名古屋市　河村たかし 市長	
第14回	奈良市　仲川げん 市長	
第15回	長野県飯田市　牧野光朗 市長	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社 ／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編) ／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

専門特殊講義I（SA） § 専門特殊講義（SA）

15341

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＜サッカーワールドカップ・スポーツイベントを通じて世界と日本を捉え返す＞

今年はカナダ・バンクーバーで冬季五輪、南アフリカでサッカーワールドカップといった具合に大規模なスポーツイベントが開催される。これらメガ・イベントは、さまざまなメディアを介して、またグローバル資本の後押しによって、地域はもとより国境を越えグローバルに展開している。それゆえ国家という枠組みでの活躍を期待する国民と、グローバル志向のプレーヤーや資本との間に軋轢すら生じている。また、カナダ、南アフリカともに、こうしたイベントを通じて国民国家内部の多様性あるいは権力関係も浮き彫りにされる。つまりスポーツは、ある種のグローバル政治・経済・社会・文化の課題を象徴的に映し出す鏡でもある。

本講義では、このような問題意識から、讀賣新聞、讀賣テレビの記者・アナウンサー、世界や日本の第一線で活躍されているトップ・プレーヤー、コーチ、役員そして大学教員らが共同して、スポーツイベントの内実を多面的にフォーカスする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツ、スポーツイベントに内在する多様な意味を理解することができる
②スポーツと政治、経済、社会、文化との関係を自覚的に捉えることができる
③スポーツメディアの実態について関心と理解を高めることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ、スポーツイベントを考える	サッカーワールドカップ、オリンピック、万国博覧会、新しい社会運動
2	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編①＞	讀賣新聞東京本社（川島健司運動部次長）
3	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編②＞	讀賣新聞東京本社（軍地哲雄運動部記者）
4	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編③＞	讀賣新聞大阪本社（山口康博運動部記者）
5	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編④＞	讀賣新聞大阪本社（平野和彦運動部記者）
6	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編⑤＞	讀賣新聞大阪本社運動部記者
7	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編①＞	讀賣テレビ（安藤充編成局スポーツ制作センタースポーツ部プロデューサー）
8	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編②＞	讀賣テレビ（小澤昭博編成局アナウンス部アナウンサー）
9	スポーツとメディア、新しい社会運動①	川口晋一（産業社会学部准教授）
10	スポーツとメディア、新しい社会運動②	日本視覚障害者サッカー協会（松崎英吾事務局長）
11	トップスポーツの世界 ― 現状と課題①:トップチームの高度化システム	漆原良（産業社会学部准教授）
12	トップスポーツの世界 ― 現状と課題②:トップチームの技術指導	韓国ナショナルチーム指導者
13	トップスポーツの世界 ― 現状と課題③:トッププレーヤーの視点	サッカー日本代表プレーヤー
14	世界と日本のスポーツ政策の現状と課題	権学俊（産業社会学部准教授）
15	再びスポーツ、スポーツイベントを考える	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。またプレーヤー、指導者の都合により講師自体の変更もありうる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	到達目標を踏まえた叙述内容 講義内容を踏まえた叙述内容 ＊原則として、出席回数＝授業内リポート提出数が規定以下の場合は採点対象外とする。
平常点評価	60 %	出席（2/3以上） 講義の中で書く授業内リポートの提出数（2/3以上）と内容 ＊科目担当者の判断で、受講生に授業内リポート用紙配布をしない場合がある。（例）私語

成績評価に関しては、初回の講義で科目担当者より説明し、受講生の了解を得ることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考書は、必要に応じて紹介するが、スポーツあるいは文化イベントに関する文献を読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

本講義は、学外のゲスト講師を多数招聘する。
講義中の「私語」は認めない。

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

12812

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

NHK講座　放送の営みと現代的変容：「龍馬伝」、政権交代報道、メジャーリーグ中継まで第一線の現場からの報告。本講座では、日本の公共放送が現在どのような状況におかれているのかについて、日本放送協会の経営、制作、技術の現場から、最新の動きを学びとることを目的にしている。15回のシリーズで行うこの講義には、海外のメジャースポーツ、国際報道、最新のデジタルテクノロジーの開発など、国内外の一線でニュースジャーナリズム、番組制作現場などで活躍する講師が講義を担当する。

※2010年度の本講座は、キャンパスプラザ京都ではなく立命館大学衣笠キャンパスで開講されますので、注意してください。また、授業は毎週金曜日16:20～17:50実施を基本としますが、4月30日と5月7日は休講とします。代わりに、6月26日と7月17日の土曜日、13:00～14:30に授業を行います。

※講師とテーマは都合により変更になることがあります。

※本講義受講希望者は、開講までに「めざせ会社の星」を必ず視聴したうえで、アンジャッシュおよび担当プロデューサーへの質問を考え、初回（4月9日）の講義時に提出してください（形式自由。所属大学・学部、学生証番号、氏名とあわせてA4用紙に記入のこと）。なお、この質問レポートは、成績評価時の参考とします。

到達目標 / Attainment Objectives

放送に興味を持っている学生から、将来、放送の現場を担いたいと希望する学生まで、幅広く興味関心を満たせる内容となっており、この講義を通じて、放送のあり方、放送の将来展望について考える力をつけてもらいたい。また講義では、毎年恒例で、受講生からも評価が高い、「受講生自身が放送番組の企画提案書を書く」という実践的な課題にも取り組んでもらうこととしており、提出された番組企画案には、制作のプロフェッショナルが丁寧にコメントを書いて、個別にフィードバックされることになっている。これを通じて、番組を制作する視点を、受講生自らが擬似的に体感してもらうことができる。受講生には制作者の立場をより身近なものとして理解・批評する力を身につけてもらうことが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月9日	大河ドラマ「龍馬伝」が放送されるまで ～企画開発から放送まで～ （講師：土屋勝裕／制作局ディレクター）	
4月16日	NHK番組編成の三本柱（その1）エンターテインメント 「めざせ会社の星」制作の現場から ～出演者とプロデューサーによるこの講義だから聞ける裏話～ （講師：山本隆之／名古屋局チーフプロデューサー、特別講師／アンジャッシュ）	
4月23日	NHK番組編成の三本柱（その2）スポーツ 海外スポーツ中継の魅力 ～MLB、MBAと多様なスポーツ中継の魅力～ （講師：奥野慶太／報道番組センターチーフプロデューサー）	
5月14日	NHK番組編成の三本柱（その3）ニュース 衆議院選挙はどのように報道されたか ～「政権交代」09年衆議院選挙報道の取組み～ （講師：松井裕子／京都局記者）	
5月21日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その1） 受信料と公共放送 ～なぜ受信料は必要なのか？そして世界の公共放送と何か違うのか～ （講師：長村中／営業局）	
5月28日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その2） 番組制作の基本・提案課題設定【双方向授業①】 ～番組制作者の視点－番組提案の書き方～ （講師：東條充敏／京都局ディレクター）	
6月4日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その3） NHKの文化事業 ～「長谷川等伯展」「大遣唐使展」を中心に～ （講師：鈴木薫／大阪局視聴者センター（事業）	
6月11日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その4） 図解主義～発想力、分析力を養え～ （講師：中谷日出／解説委員室）	

6月18日	放送最前線からの報告（その1） 国際放送による世界への情報発信、世界とつながるNHK ～24時間英語ニュース、海外にいる日本人向け情報提供について～ （講師：久保智司／国際放送局ニュース制作部）	
6月25日	放送最前線からの報告（その2） 現場のカメラマン経験から ～ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ、繊細さ、執念、ドキュメンタリーカメラマンは現場最前線で何を感じたのか～ （講師：杉江亮彦／放送技術局カメラマン）	
6月26日（土曜講義）	放送最前線からの報告（その3） 日本のテレビ業界について語る ～報道記者、「週間子供ニュース」キャスターの経験、そして民間放送へ～ （講師：池上彰／フリー（元NHK記者））	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。
7月2日	放送最前線からの報告（その4） 若手アナウンサーの体験から ～NHKのアナウンサーとして活躍するまでの苦悩の日々～ （講師：飯島徹郎／京都局アナウンサー）	
7月9日	放送最前線からの報告（その5） 最新デジタル技術について ～最新のﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰは放送をどのように変容させるのか～ （講師：久保田啓一／NHK技術研究所長）	
7月16日	放送最前線からの報告（その6） 提案の秘訣・提案課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 【双方向授業②】 ～番組提案会議を講義で実践。受講生の番組提案をプロデューサーが講評～ （講師：篠田恵一／京都局チーフプロデューサー）	
7月17日（土曜講義）	まとめ （講師：福地茂雄／NHK会長）	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の最後では、各受講生にフィードバックコメントを書いてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	学期中に課題として出される個人の番組提案を評価の対象とする。この課題は、番組企画に対する専門的な技量を評価するものではなく、講義を通じて受講生が獲得した視点や発想の面白さを、いかに番組提案にうまく反映させているかが評価の主ポイントとなる。このため各講義において受講生が放送番組について個人的に考えを書き留めるなどして、アイデアを積み上げる作業さえしていれば平均以上のポイントは獲得できる。
平常点評価	75 %	各回で、フィードバックコメントを書いてもらう。各講義で自分が受け止めた内容のサマリー、これに加えて個人的にどのような感想を持ったかを記述して、講義の最後に提出してもらう。各5ポイント満点で評価する。5ポイント×15回講義＝75ポイントとなる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の最初の全体シラバスで、連絡方法や質疑応答の時間についてアナウンスする。

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

12811

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体（予定）の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。

〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「デジタル/ネット文化・産業論Ⅱ」を連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
2	「日本の音楽配信ビジネスと違法音楽配信対策」	畑 陽一郎先生（社団法人日本レコード協会 事務局次長）
3	「コンテンツ産業進化論～世紀の転換・技術の発達～」	丸山 茂雄先生（株式会社247Music　取締役会長）
4	「ニコニコ動画進化論2010」（仮）	杉本 誠司先生（株式会社ニワンゴ　代表取締役社長）
5	「空間メディア文化とデジタル化」（仮）	來住 尚彦先生（株式会社TBSテレビ　赤坂サカス推進部長）
6	「J-POP進化論～加藤和彦、小田和正から平原綾香まで～」（仮）	新田 和長先生（株式会社ドリーミュージック 取締役エグゼクティブプロデューサー）
7	「『子ども映画祭in小豆島』開催構想」（仮）	益田 祐美子先生（映画&コンテンツ制作プロデューサー）
8	中間総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
9	「ソニーレーベル42史」（仮）	北川 直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレイト・エグゼクティブCEO、財団法人　音楽文化・産業振興財団理事長）
10	「鎮守の杜コンサート～心の環境問題を訴える～」（仮）	原田 真二先生（シンガー･ソングライター兼音楽プロデューサー）
11	「転換期のCM映像制作」（仮）	金 利明先生（映像監督　FREZ=MANAGEMENT OFFICE所属）
12	「続伸するライブエンタテインメント産業の課題」（仮）	中西 健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長　社団法人全国コンサートツアー事業者協会 副会長）
13	「日本文化とアート～東京・浅草に新名所 アミューズミュージアム誕生物語～」（仮）	大里 洋吉先生（株式会社アミューズ 最高顧問兼アミューズ総研"Skhole"代表）
14	「CGと3D～コンテンツ創作の近未来図～」（仮）	猪子 寿之先生（チームラボ株式会社 代表取締役社長）
15	前期総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越し

いただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする(コミュニケーションペーパーの提出を認めない)。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー(50%)と期中2回課すレポート(50%)により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義I（SF） § 専門特殊講義（SF） § 特殊講義（総合）（VC）

15462

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

具体的な講師陣、テーマについては3月下旬に立命館大学のオンラインシラバスに掲載予定

各回テーマ例（案）

「情報とモラル」（キーワード：リテラシー）
「実演家の権利」（キーワード：著作隣接権） 等
「ゲーム音楽創作」（作・編曲家）
「舞台制作」（ミュージカル）

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。
〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、前期の専門特殊講義ＩSE「デジタル/ネット文化・産業論Ｉ」から連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	オリエンテーション
2	広瀬 香美先生（シンガー・ソングライター）	「ネットとコミュニケーション」（仮）
3	稲垣 博司先生（エイベックス・マーケティング株式会社 代表取締役会長、エイベックス・エンタテインメント株式会社 取締役） 関 佳裕先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 執行役員）	「レコード産業100年史」（仮）
4	宮田 和樹先生（株式会社実業之日本社 マーケティング・コミュニケーション推進室長）	「ブックビジネス2.0」（仮）
5	亀田 誠治先生（音楽プロデューサー）	「音楽創作事変」（仮）
6	谷口 元先生（社団法人音楽出版社協会 会長）	「ネット時代の音楽出版ビジネス」（仮）
7	すぎやま こういち先生（作曲家）	「ゲーム音楽」（仮）
8	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	中間総括
9	椎名 和夫先生（実演家著作隣接権センター　運営委員、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest 代表幹事）	「改正著作隣接権」（仮）
10	下川 大介先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 第1音楽制作本部制作部第3制作ルーム部長）	「アジアの音楽産業の現状」（仮）
11	高橋 衛先生（株式会社三菱総合研究所 システムエンジニアリング本部流通・物流ソリューショングループ兼経営コンサルティング本部産業戦略グループ 研究主任）	「欧州における音楽産業等の消費動向調査」（仮）
12	堀 義貴先生（株式会社ホリプロ 代表取締役会長兼社長）	「web時代のアーティスト・マネジメント」（仮）
13	白井 勝也先生（株式会社小学館 副社長）	「出版産業の構造改革」（仮）

14	加藤 裕一先生（株式会社レコチョク 取締役代表執行役社長）	「音楽配信ビジネス」（仮）
15	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	後期総括
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越しいただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする（コミュニケーションペーパーの提出を認めない）。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー（50%）と期中2回課すレポート（50%）により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SB） § 専門特殊講義（SB）

12798

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展したのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内で上映される映画に関して、レポート課題に指定する。上映会の入場料は、500円程度である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDでの参考上映も行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形で常に変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。映画館は、シネコンだけではない。京都には、文化博物館映像ホールでは京都で作られた日本映画を定期上映している。また、アート系映画を上映している映画館もあり、上映環境は恵まれているので、その環境を積極的に生かして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきた∽日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　あるいは、maasa@ma1.seikyou.ne.jpへ、メールで気軽にコンタクトして下さい。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、神谷が経営する京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最後に上映する。

専門特殊講義II（SC） § 専門特殊講義（SC）

12799

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権（匿名・実名問題など）	個人情報
第3回	事件報道と人権（被害者報道、加熱取材など）	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権（歴史的重大事件など）	教訓
第5回	司法取材の現場から（死刑再審など）	冤罪
第6回	調査報道とは（リクルート事件など）	特ダネ
第7回	虚報と誤報（サンゴ事件）	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿（沖縄密約など）	スクープ
第9回	社説について（憲法改正論議など）	提言
第10回	教育現場から（日の丸・君が代）	良心
第11回	社風・社論（信頼される報道とは）	綱領
第12回	生活ニュースとは（街だね）	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは（市民ネットと投書）	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記（判決の中身を伝える記事）を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

12724

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を支えてきた巨大メディアの新聞とテレビをめぐる環境は、多メディア、デジタル化時代を迎えて大きく変化している。新聞では、紙媒体に加え、ネット記事が浸透し、一時無料化の流れが強まったが、欧米紙の間では有料化の動きも見られる。テレビでは、広告収入を基本とする経営が主流であったが、オンデマンド形式の放送では、番組単位で販売されるなど、新たなビジネスモデルも生まれている。これらの変化は、経営面はもちろんのこと、コンテンツにも多大な影響を与えている。

また、若者の新聞離れは以前から指摘されてきたが、最近の調査では、テレビは、若者が必要とするメディアにおいて、携帯電話、パソコンに次いで3位に甘んじるなど、テレビ離れもみられ、若者とメディアの向き合い方も変化している。

本講座は讀賣テレビ放送株式会社および読売新聞大阪本社から、ディレクター、プロデューサー、アナウンサー、編成マン、事業セクション等多様なプロフェッショナルを毎回ゲストスピーカーに迎え、リレー講義形式で授業を進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

変貌するメディア環境をめぐる問題意識を視野に入れながら、21世紀のメディアの課題と可能性を具体的に探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	21世紀の新聞とテレビを取り囲む環境	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
2	【新聞】多メディア化の中の新聞	読売新聞大阪本社 専務取締役 菊池 卓雄 氏
3	【新聞】政治報道の使命と課題～政権交代から考える～	読売新聞大阪本社 論説委員 上田 恭規 氏
4	【新聞】社会部の現場から	読売新聞大阪本社 社会部長 森 克二 氏
5	【新聞】橋下・大阪府政とメディア	読売新聞大阪本社 社会部次長 指尾 喜伸 氏
6	【新聞】国際報道のいま	読売新聞大阪本社 編集委員 中津 幸久 氏
7	【新聞】新聞事業の現状と未来	読売新聞大阪本社 事業局長 窪田 邦倫 氏
8	【新聞】デジタル化と新聞の課題	読売新聞大阪本社 メディア戦略室長　森栄 徹 氏
9	【テレビ】今テレビはどこにいるか	讀賣テレビ放送　報道局次長　新谷 弘 氏
10	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ビジネス編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　山下 雄司 氏
11	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ハード編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　松山 浩士 氏
12	【テレビ】テレビ報道の現場、新しい番組作りへの挑戦	讀賣テレビ放送　報道局プロデューサー　相島 良樹 氏
13	【テレビ】21世紀のテレビ報道の課題	讀賣テレビ放送　解説委員　春川 正明 氏
14	【テレビ】テレビ報道の現場、テレビと政治を中心に	讀賣テレビ放送　特別解説委員・元解説委員長　岩田 公雄 氏
15	全体まとめ	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
	※講師の業務の予定により、テーマの変更や講師の変更の可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回の講義でミニレポートを書いてもらう(配点50点)。なおこれは出席点も兼ねるので、QRコードを毎回持参すること。 ②最終授業日に60分程度、論述中心の「授業内レポート試験」を実施(配点50点)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

12816

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市しあわせ（ハピネス）政策論～学生からの市政提言～

京都の立命館大学で学ぶ学生として、京都を知るための第一歩として京都市内で何が起きているのか、京都とはどのような街か、京都にはどのような学びの場が潜在的にあるのかを紐解くことは大きな意義がある。本講義では、受講生が、広く社会との接点を求め、実践的な学びの中で社会と自分がどのように関わっているのかについて考えをめぐらせるための機会を得ることで、市行政に対するなんらかの行動を起こすきっかけとなることを目指している。

本科目では、受講生に対し、現在の京都市の中で注目されるトピックを取り上げ、京都市との連携のもとで実際的なテーマ講義を行う。その中で、実際に公共の福祉に資する活動として学生の立場で何ができるかについて考えるグループを組織する。自分たちが学ぶ京都市における財政や組織はどうなっているのか、京都市は広報活動などを通じ市民とどのようにしてつながろうとしているのか、京都市でマンガミュージアムが誕生したのはなぜか、京都市のスポーツ振興策は果たして市民のニーズと直結しているのかなど、京都の市行政について聞く中で、受講生一人一人が独自の視点で市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた行政アドバイスプラン構築をしてもらうことにより、実践的な学びを目指す。産業社会学部の現代社会、メディア、スポーツ、子ども、人間福祉の各専攻の学びとも結びつけてもらいながら、学生が主体的に京都市で学ぶ一員となることで、よりよい京都市政のために何ができるかについてのプランを作成してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、京都の市行政と社会を構成する市民としての私たちを結び付けて考える中で、学生の目線から市行政に向けた行政アドバイスプランを構築してもらう。京都市北区衣笠のキャンパスで学ぶ立命館大学生は京都市についてどれだけの知識を持ち、また現在の市行政の状況を知っているだろうか。本講義では、京都市の財政や組織などについて基礎的な理解をしてもらった上で、京都市にかかわるいくつかのトピックについて京都市の担当者からの講義を受け、これを通じて市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた京都市の行政・政策への新たな視点を培う。

講義では、①京都の産業、②文化・スポーツ、③福祉・健康、④都市計画・交通、⑤子供と教育、⑥まちづくり・市民活動、⑦環境の7つの分野にわたって話しを聞いてゆく。その中から、自分がもっとも興味関心を持てるトピックを抽出し、そのトピックに関連して学生の視点・目線での行政アドバイスプランを作成してもらう。このプランを企画ポスターセッションとして成果発表してもらうこととしており、最終的には何らかの形で市行政の関係担当者にフィードバックすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学関連の基礎的な科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要説明	
第2回	●京都のしくみを知る（その1） テーマ1　京都市の組織と事務のあらまし テーマ2　京都市財政のあらまし	市行政の仕組み
第3回	●京都のしくみを知る（その2） テーマ3　京都市の広報活動のいろいろ	広報　パブリックリレーション
第4回	●京都のしくみを知る（その3） テーマ4　市民参加で創る京都のまち～市民のち・か・らをキーワードに～	市民参加
第5回	●京都のまちづくりと市民活動（その1） テーマ5　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進	まちづくり
第6回	●京都のまちづくりと市民活動（その2） テーマ6　市民活動総合センターってどんなとこ？	市民活動
第7回	●京都の環境と緑化 テーマ7　京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策～ テーマ8　京都の環境をあなたがチェック！～環境レポートによる意見募集	環境行政　地球温暖化対策　パブリックコメント
第8回	●京都の文化とスポーツ（その1） テーマ9　京都市のスポーツ振興 テーマ10　高い成長性が期待できるコンテンツ産業の振興	スポーツ　マンガ　振興政策
第9回	●京都の文化とスポーツ（その2） テーマ11　動物園の役割と楽しみ方	動物園
第10回	●京都の産業 テーマ12　わたしたちの伝統産業 テーマ13　京都で創業しよう！	伝統産業　創業

第11回	●京都の福祉・健康（その1） テーマ14　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！	ユニバーサルデザイン
第12回	●京都の福祉・健康（その2） テーマ15　たばこ対策の推進 テーマ16　動物と共生できる社会を目指して	喫煙対策　動物　共生
第13回	●京都の都市計画と交通 テーマ17　京都の市バス テーマ18　京を走る地下鉄	都市計画　公共交通機関
第14回	●京都の子どもと教育 テーマ19　子どもを共に育む京都市民憲章の具体化に向けて（家庭・地域ぐるみの教育）	子ども　教育　市民憲章　家庭　地域社会
第15回	まとめ 京都市行政　学生アドバイスプラン・ポスターセッションの開催	
	※なお、現職の京都市の職員の方々にお越しいただく関係上、担当者の都合がどうしてもつかなくなった場合には、スケジュールや講師、テーマの変更等が発生する可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常点評価とし、試験は行わない。平常点評価の際には、以下のものが対象となる。①各テーマについての市行政担当者によるプレゼンテーションへのクラス内フィードバックコメント、および②受講者による「市行政へのアドバイスプラン」作成への取り組みとプレゼンテーション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は、自分たちに身近な京都市の行政関連事項を、市広報、市ホームページ、新聞、テレビ、ラジオなどを通じて、常にチェックしておいてもらいたい。これにより、現在、京都市内で起きているさまざまな事象、現象について自分のこだわりでみることができるようになるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若き友人たちへ－筑紫哲也ラスト・メッセージ	筑紫哲也／集英社／978-4-08-720515-2／

参考書 / Reference Books

必要に応じてアナウンスする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市情報館　http://www.city.kyoto.lg.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15470

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ポピュラー音楽」は、聴いて楽しむだけなら特に学ぶ必要はないかもしれません。しかしダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」という格言を紹介しています。また同著の中でシューマン博士の観察として、「何ページもの書物よりも、ただ1曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させるものがある」と「音楽の力」を指摘しています。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュニケーション手段です。世界にはいろいろな音楽があります。この講座では、デジタル技術の発達とインターネットの普及によって、環境が激しく変貌するなかで、私たちにとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、身近な「ポピュラー音楽」を通じて、ジャンルを問わず多角的に考察、研究し、新たな「音楽の系譜づくり」と21世紀の「音楽の聴き方」の追求で成果を残したいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①ウィーン古典派音楽からアフリカのバンバータまで、聴き方を知る。
②日本の「流行歌」の変遷と特性を知る。
③音楽文化・産業の拡張と拡散を考察する。
④21世紀の「ポピュラー音楽文化」の創出を担う。
⑤音楽著作権・著作隣接権を学び、知識を蓄える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	世紀の転換・技術の発達。音楽の存在と聴き方。	音楽力
第2回	私たちの内に流れるリズム・メロディー。日本人とリズム。日本人とメロディー。日本人好みの音階・好きな音色。	沖縄音楽
第3回	時代背景とヒット曲。蓄音機、レコード盤、SP、LP、ウオークマン、CD、DVD、iPod、配信。	歌は世につれ、世は歌につれ
第4回	日本の音楽産業の歩み。レコード産業の現状。課題と展望。	音楽配信
第5回	ポピュラー音楽と普遍性。作曲家・古関裕而の融合音楽。結婚行進曲と葬送行進曲。	長寿社会と死生観
第6回	ポピュラー音楽と独創性・大衆性。美空ひばり、ピンク・レディー、中島みゆき、YMO。	スタンダード曲
第7回	大衆音楽の発生。ドレミファの調整システムの崩壊。「12音技法」の誕生。ミュージカルの誕生。マイケル・ジャクソン。	ジャズ
第8回	新しい大衆音楽の誕生「ロック」。	エルヴィス・プレスリー、ボブ・ディラン、ザ・ビートルズ
第9回	「ロック」の進化系図。ハード、パンク、ヘヴィメタル。	ロックの意味・未来
第10回	ワールドミュージックと非西欧的音楽。	アフリカ・バンバータ
第11回	ポピュラー音楽の多様性。ポップス、クラシック、日本民謡、ジャズ、レゲエ、ボッサ・ノヴァ、ファド、シャオンソン、カンツォーネ。	音楽地球儀
第12回	広告の中の音と音楽。多メディア時代の広告音楽。	コカコーラ・資生堂
第13回	音楽の聴き方～聴く型と趣味を語る言葉～	芸術音楽（クラシック）VS実用音楽。
第14回	音楽と著作権。「音楽著作権とは」「著作隣接権とは」。	財産権・人格権
第15回	人口24億人。アジアの音楽市場～動向と新潮流。	オリジナルの創出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※12月1日追記
12月16日（木）の講義より、授業開始後30分を過ぎて入室した者については欠席扱いとし、コミュニケーションペーパーの提出を認めない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	
平常点評価	15 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

CD、DVD、ライブなどを積極的に聴いたり、観賞するよう心がけてください。

教科書 / Textbooks

オリジナルの「レジュメ」CD、DVD等を活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権の新世紀」	福井健策著／集英社刊／／
「あたらしい教科書8　音楽」	小沼純一監修／Petit Grand Publishing,Inc刊　／／
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーター・マニエル著 中村とうよう訳／ミュージックマガジン社刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（社）日本レコード協会（RIAJ）HP
（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）HP

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし。

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15457

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞はこのまま、IT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディアであるネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな変化をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で、メディアのあるべき今後の姿を探っていく。同時に、政権交代後のメディアの変容を重点的に検証、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

12895

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、08年に惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	ドキュメンタリー作品鑑賞	アラン・レネ「夜と霧」
第6回	作品分析　意見交換	フランス映画史におけるアラン・レネの仕事
第7回	作品鑑賞	スティーブン・オカザキ監督「ヒロシマ、ナガサキ」
第8回	作品分析発表　意見交換	
第9回	ドキュメンタリー作品鑑賞	土本典昭監督「水俣」
第10回	作品分析　意見交換	土本典昭の仕事
第11回	作品鑑賞	佐藤真監督「阿賀に生きる」
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲスト講師（予定）	
第14回	作品鑑賞	佐藤真監督「花子」
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールを。チェック頻度は、後者のアドレスの方が日常的です。

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15520

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。だが、昨年日本映画バブルがはじけ、いくつかの製作会社、プロダクションが業務縮小を余儀なくされる事態となっている。娯楽大作は見る機会が多いが、過去の日本映画の名作を見る機会は、少ない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的、政治的な力によって映画が作られてきた時代があったことを作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、映画が、権力の側にプロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、ドキュメンタリー研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」(1944年)女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	戦前のアニメーション「海の神兵」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールして下さい。

その他 / Others

専門特殊講義III（SO） § 専門特殊講義（SO）

15345

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1960～1970年代のテレビ番組（主にドキュメンタリー）を題材に、今、あらためてテレビというメディアが内包していた可能性と、今後の課題について考えてみたい。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2010.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回目授業で説明します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地域社会論（S）

15433

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化のもとでの経済変動や人口の流動、少子高齢化のなかでの不透明な未来社会への不安や危機意識の拡大など、ゆらぐ現代社会のなかで、いまあらためて地域社会の機能が問い直されつつある。戦後の高度経済成長期における急激な都市化を経て、身近な地域社会の人間関係が希薄化してきた事態に鑑み、とくに近年では、福祉や教育、食、環境など人々の暮らしに関わる問題領域への関心の高まりとともに、日々の暮らしの場である地域社会での対応力が期待されてきている。

本講義では、こうした地域社会を分析対象としてきた地域社会学を中心に据えながら、地域社会の成り立ちや構造的特質をふまえ、戦後日本の地域社会変動を都市と農村の双方を視野に入れつつ読み解いていく。また、現代において、地域社会で生起している具体的な社会問題に対して、その背景にある政治・経済・社会・文化など複数の視点から分析し、問題解決の可能性について地域社会を構成する様々なアクターの主体的営為に着目しながら多角的に考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）地域および地域社会を対象としてきた地域社会学の基本的概念や分析方法を習得するとともに、地域社会の変動過程とその要因について、都市・農村の連関構造から解明することができる。

（2）戦後日本資本主義の展開と地域政策の動向を把握するとともに、近年の地方分権改革や規制緩和、民営化という流れのなかで、地域社会に生活する人々の具体的な諸相を社会科学的に把握することができる。

（3）現在の地域社会が抱えている様々なコンフリクトや生活課題に気づくとともに、それを解決していくために実際に様々な取り組みがなされている現状を学びながら、一アクターとして積極的に地域社会に関わっていくことの重要性を認識することができる。

（4）地域社会を理論的・経験的に理解し、「持続可能な地域社会」像を描くことのできる職業人・地域人としての素養を身につけることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション―いまなぜ「地域社会」なのか	地域、地域社会、生活の社会化、共同消費、地域の福祉力
第2回	「地域社会」への社会学的アプローチ（1）―農村社会学と都市社会学―	農村社会学、都市社会学、イエ・ムラ理論、人間生態学、アーバニズム論
第3回	「地域社会」への社会学的アプローチ（2）―農村／都市の社会学から地域社会学へ―	都市と農村、地域社会学、地域社会の重層化、地方自治体
第4回	「地域社会」への社会学的アプローチ（3）―地域社会学の研究対象と分析方法―	地域社会の構造分析、階級構造、集団構成、社会構造、生活過程
第5回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（1）―伝統的地域社会としての「村落」の解体と再編―	村落、村落共同体、自然村、聚落的家連合、農民層分解、市場関係の凝集点
第6回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（2）―戦後日本資本主義の展開と地域開発政策―	戦後日本資本主義、地域開発、企業誘致、産業構造、地域構造
第7回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（3）―地域産業の変貌と地域社会の階級階層構造の変化―	地域の産業構造、農工間の不均等発展、労働市場、地域格差、都市化論争
第8回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（4）―地域の生活問題と住民運動―	生活問題、都市問題、四大公害裁判、住民運動、革新自治体、地方自治
第9回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（5）―地域政策の転換とコミュニティ―	コミュニティ形成施策、定住圏構想、住民参加
第10回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（6）―グローカリゼーションと越境する地域―	グローカリゼーション、世界都市、都市空間、空間構造の再編
第11回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（7）―新たな公共政策と地域社会形成の課題―	地方分権改革、自治体行政、市民活動、公共性、ローカル・ガバナンス
第12回	「地域社会」の再生と創造に向けて（1）―都市社会運動と「公共性」の再構築―	ジェンダー、エスニシティ、マイノリティ、社会的排除、新しい社会運動
第13回	「地域社会」の再生と創造に向けて（2）―地域住民組織と非営利・協同組織―	市民セクター、ボランタリー・アソシエーション、コミュニティ
第14回	「地域社会」の再生と創造に向けて（3）―行政と住民のパートナーシップによる地域再生戦略―	地域再生法、地域再生協議会、官民パートナーシップ、グラスルーツ
第15回	「地域社会」の再生と創造に向けて（4）―地域社会の新しい主体像―	全戸包括型住民組織、目的意識型市民組織、NPO、社会的企業

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義で配布するプリントや資料は限られた時間内では消化しきれないため、講義後にも隅々まで目を通しておくこと。また、講義は本テーマをより深く考えていくための素材を提供する契機であるため、上記の参考書以外にも、関連する文献・資料を自ら熟読して、知見を豊かにしていくこと。さらに、講義内容は、福祉社会学や理論社会学などの社会学隣接領域、政治学（地方自治論、行財政論、福祉国家論など）や経済学（社会政

策、社会経済論など)、地理学などの隣接諸科学にも触れることになるので、それらの分野の基礎知識も視野に入れておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問と小論形式で、授業全体を通しての受講者の理解度を把握する。小論では、論理的思考力と独創性を評価する。
平常点評価	20 %	授業の節目において数回の小レポートを課すが、コメントシートとして、質問や感想を求めるものである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会科学的な見地から地域社会をめぐる諸事象・問題に関心を持ち、日頃からそれに関する新聞やテレビのニュース・話題に接し、社会的想像力を働かせて自分自身の考えや行動の指針を表明できるようにしておくこと。また、地域社会の学習にあたっては、当該の現地を観察するとともに人々の生の声を聴くこと(ヒアリング)が重要な分析材料ともなるので、可能な限り、実際のフィールドに出向くことを心がけてもらいたい。そして、複数の文献や資料、事例にあたり、それらの裏づけをもとに真理を追究していくという姿勢を忘れないこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、プリントおよび資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域社会へのまなざし』	大久保武・中西典子編著／文化書房博文社、2008／9784830110757／
『地域社会学講座3 地域社会の政策とガバナンス』	岩崎信彦・矢澤澄子監修／東信堂、2006／4887136803／
『越境する都市とガバナンス』	似田貝家門・矢澤澄子・吉原直樹編著／法政大学出版会、2006／4588675117／
『キーワード地域社会学』	地域社会学会編／ハーベスト社、2000／4938551462／
『現代都市と地域形成』	蓮見音彦・似田貝家門・矢澤澄子編／東京大学出版会、1997／4130501372／

上記以外の参考文献は講義の中で適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

〇地域社会学会ホームページ　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jarcs/
〇内閣府ホームページ　http://www.cao.go.jp/
上記以外のホームページは講義の中で適宜提示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーに研究室に来室するか、メールで連絡のこと。

その他 / Others

基礎演習I (1)

11888

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (10)

11897

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (11)

11898

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (12)

11899

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (13)

11900

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（14）

11901

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (15)

11902

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（16）

11903

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (17)

11904

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（18）

11905

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (19)

11915

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (2)

11889

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (20)

11906

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（21）

11907

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (22)

11908

担当者名 / Instructor　中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (23)

11909

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（24）

11887

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（25）

11910

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I（26）

11911

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (27)

11912

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (28)

11914

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (29)

11913

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (3)

11890

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (30)

11916

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (4)

11891

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (5)

11892

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (6)

11893

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (7)

11894

担当者名 / Instructor　リム・ボン　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (8)

11895

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習I (9)

11896

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (1)

11978

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (10)

11987

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (11)

11988

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (12)

11989

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (13)

11990

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (14)

11991

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (15)

11992

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (16)

11993

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (17)

11994

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (18)

11995

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (19)

12006

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (2)

11979

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (20)

11996

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (21)

11997

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (22)

11998

担当者名 / Instructor　中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (23)

11999

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (24)

12000

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (25)

12001

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (26)

12002

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (27)

12003

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (28)

12005

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (29)

12004

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (3)

11980

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (30)

12007

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (4)

11981

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (5)

11982

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (6)

11983

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (7)

11984

担当者名 / Instructor　リム・ボン　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (8)

11985

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎演習II (9)

11986

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基礎演習は，1回生全員が指定されたクラスに分かれ，それぞれのクラスで学生が協働して学んでいく演習スタイルの科目です。この科目では今後4年間大学で研究を行っていく上で，最低限必要とされる知識と技術を習得していきます。具体的にはクラスのなかでさらにグループ分けを行い，そのグループごとに研究調査を行い，その成果の発表・討論を実施します。

「与えられた問題」に正しい答えを出す高校までの勉強とは異なり，大学での研究ではまず自分自身で「問題（あるいはテーマ）を発見する」ことから出発しなければなりません。基礎演習ではいかにして意味のある問題，取り組むべきテーマを発見するか，その問題・テーマに答えるべく，どのように文献調査やフィールドワークを行うか，そのスキルを身につけます。さらにそれらの調査研究の結果や成果を発表し，グループやゼミ全体で討論する際の技法の習得もめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

①問題発見と探求の基礎的能力を身につける
②調査する基礎的能力を身につける
③発表する基礎的能力を身につける
④討論する基礎的能力を身につける
⑤人と人とを結びつける基礎的能力を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

学部から配布する『さんしゃハンドブック（入門編）』を事前に読んでおいてください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業の進め方やスケジュールについては各担当教員の指示に従ってください。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	開講回数の3分の2以上の出席が評価の要件となります。評価方法は平常点（グループ学習，発表，討論への参加）やレポート・小論文などによりますが，詳しい評価方法については担当教員が指示します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

前期では2・3回生の「エンター」と呼ばれる先輩が，大学での学習面や生活面に関してみなさんをサポートしてくれます。後期は「ES（教育サポーター）」と呼ばれる上回生が学習・研究面において相談に乗ってくれます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『さんしゃハンドブック（入門編）』など。	／／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1A）

12818

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパでは、多くの移民をこれまで受け入れてきた。また、EU統合の中で人々の国境を越える移動が拡大してきた。こうしたなかで、これまで国民と市民とは一致することが前提で市民権ということが考えられてきたが、そのことがいま揺らいでいる。私たちが市民であるということはどういうことなのか、あらためていま問いなおすことが求められているのである。日本においても、今後、外国人労働者が増えてくるだろう。その時、私たちはそうした人々とどのように共に社会を作っていくべきなのか、EUの議論は多くの示唆を私たちに与えてくれるだろう。本講義では、こうした議論の入門書として有意義な（宮島喬著『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書、2004年）を取り上げ、考えていく。
グローバリゼーションが進むいま、人は自分とは異なった他者を、他者としてそのまま認めあい、敬意をもってともに生きていくことが求められている。では他者をどのように受け入れるべきなのか。その時、最も重要となるのはシチズンシップをどう理解していくかということである。そのことを本講義では議論しながら考えていきたい。本書は、産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	シチズンシップとはなにか	シチズンシップ、人権、移民
第3回	ネーションとはなにか	ネーション、言語
第4回	私たちのアイデンティティ	言語、アイデンティティ、シチズンシップ
第5回	国民と市民について	ディスカッション
第6回	移民とデニズンシップ	移民、文化変容
第7回	移民へのシチズンシップの保障	国籍、参政権
第8回	日本の外国人参政権について	ディスカッション
第9回	EUシチズンシップの理想と現実	ヨーロッパ人、トランスナショナル市民権
第10回	移民とローカルシチズンシップ	分権化社会、
第11回	家族、ジェンダー、平等とシチズンシップ	ジェンダー平等、あたらしいシチズンシップ
第12回	仕事と家族とジェンダー平等について	ディスカッション
第13回	移民への逆風とチャレンジ	ナショナルポピュリズム、新右翼
第14回	ナショナリズムをどう考えればいいのか	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点評価	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加姿勢を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、
論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。
必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ヨーロッパ市民の誕生』	宮島喬／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業にて指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1B）

12819

担当者名 / Instructor　藤田 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパでは、多くの移民をこれまで受け入れてきた。また、EU統合の中で人々の国境を越える移動が拡大してきた。こうしたなかで、これまで国民と市民とは一致することが前提で市民権ということが考えられてきたが、そのことがいま揺らいでいる。私たちが市民であるということはどういうことなのか、あらためていま問いなおすことが求められているのである。日本においても、今後、外国人労働者が増えてくるだろう。その時、私たちはそうした人々とどのように共に社会を作っていくべきなのか、EUの議論は多くの示唆を私たちに与えてくれるだろう。本講義では、こうした議論の入門書として有意義な（宮島喬著『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書、2004年）を取り上げ、考えていく。
グローバリゼーションが進むいま、人は自分とは異なった他者を、他者としてそのまま認めあい、敬意をもってともに生きていくことが求められている。では他者をどのように受け入れるべきなのか。その時、最も重要となるのはシチズンシップをどう理解していくかということである。そのことを本講義では議論しながら考えていきたい。本書は、産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	シチズンシップとはなにか	シチズンシップ、人権、移民
第3回	ネーションとはなにか	ネーション、言語
第4回	私たちのアイデンティティ	言語、アイデンティティ、シチズンシップ
第5回	国民と市民について	ディスカッション
第6回	移民とデニズンシップ	移民、文化変容
第7回	移民へのシチズンシップの保障	国籍、参政権
第8回	日本の外国人参政権について	ディスカッション
第9回	EUシチズンシップの理想と現実	ヨーロッパ人、トランスナショナル市民権
第10回	移民とローカルシチズンシップ	分権化社会、
第11回	家族、ジェンダー、平等とシチズンシップ	ジェンダー平等、あたらしいシチズンシップ
第12回	仕事と家族とジェンダー平等について	ディスカッション
第13回	移民への逆風とチャレンジ	ナショナルポピュリズム、新右翼
第14回	ナショナリズムをどう考えればいいのか	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点評価	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加姿勢を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、
論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。
必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ヨーロッパ市民の誕生』	宮島喬／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業にて指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1C）

12820

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1D）

12821

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1E）

12822

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1F）

12823

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1G）

12824

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1H）

12825

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (1I)

12826

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)、3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01:文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「<持続的な社会>を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される(出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3回以上の出席は評価の前提となる)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1J）

12827

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）、3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1K）

12828

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）、3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1L）

12829

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）、3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1M）

12830

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1N）

12831

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1O）

12832

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1P）

12833

担当者名 / Instructor　原尻 英樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（1Q）

12834

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2A）

12835

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

クラスで扱う記事は日常のニュースから出題します。毎日新聞を読んで世の中で何を起きているのか知っておいて下さい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2B）

12836

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

クラスで扱う記事は日常のニュースから出題します。毎日新聞を読んで世の中で何を起きているのか知っておいて下さい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2C）

12837

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2D）

12838

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2E）

12839

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2F）

12840

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (2G)

12841

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く(1)	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く(2)	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く(3)	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く(1)	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く(2)	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く(1)	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く(2)	社会・文化
9	小冊子の企画・作成(1)	編集会議
10	小冊子の企画・作成(2)	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成(3)	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成(4)	分析・発表
13	小冊子の企画・作成(5)	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成(6)	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成(7)	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍(新書など)に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (2H)

12842

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。(ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (2I)

12843

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」(景観、芸術、観光、スポーツなど)に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野(景観、芸術、観光、スポーツなど)の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。(ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2J）

12844

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2K）

12845

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（2L）

12898

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3A)

12846

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習、基礎社会学、専攻コア科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと一古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、丸山眞男
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3B）

12847

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習、基礎社会学、専攻コア科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと一古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、丸山眞男
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3C)

12848

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習、基礎社会学、専攻コア科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと一古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、丸山眞男
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3D)

12849

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習、基礎社会学、専攻コア科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと一古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、丸山眞男
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/
スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3E）

12850

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（3F）

12851

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3G)

12852

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (3H)

16743

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4A）

12853

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4B）

12854

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（4C）

12855

担当者名 / Instructor　中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5A）

12856

担当者名 / Instructor　北村 健太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）などの、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（7月10日土曜日1－5時予定）	発表、討議参加

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な福祉社会ー「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員から配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5B）

12857

担当者名 / Instructor　小林 勇人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）などの、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（7月10日土曜日1－5時予定）	発表、討議参加

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な福祉社会ー「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員から配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5C）

12858

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）などの、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ｉ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（7月10日土曜日１－5時予定）	発表、討議参加

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な福祉社会ー「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員から配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA（5D）

12859

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。

ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。

さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。

貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）などの、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。

本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（7月10日土曜日1－5時予定）	発表、討議参加

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な福祉社会ー「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員から配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5E)

12860

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5F)

12861

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5G)

12862

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5H)

12863

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5I)

12864

担当者名 / Instructor　鉄川 重利

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5J)

12865

担当者名 / Instructor　大村 和正

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIA (5K)

12866

担当者名 / Instructor　礒部 美也子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」(新潮選書)新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する(次週までに)。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
(2)テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
(3)グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入:授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性(同一性)障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索(論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している)し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1A）

15471

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパでは、多くの移民をこれまで受け入れてきた。また、EU統合の中で人々の国境を越える移動が拡大してきた。こうしたなかで、これまで国民と市民とは一致することが前提で市民権ということが考えられてきたが、そのことがいま揺らいでいる。私たちが市民であるということはどういうことなのか、あらためていま問いなおすことが求められているのである。日本においても、今後、外国人労働者が増えてくるだろう。その時、私たちはそうした人々とどのように共に社会を作っていくべきなのか、EUの議論は多くの示唆を私たちに与えてくれるだろう。本講義では、こうした議論の入門書として有意義な（宮島喬著『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書、2004年）を取り上げ、考えていく。
グローバリゼーションが進むいま、人は自分とは異なった他者を、他者としてそのまま認めあい、敬意をもってともに生きていくことが求められている。では他者をどのように受け入れるべきなのか。その時、最も重要となるのはシチズンシップをどう理解していくかということである。そのことを本講義では議論しながら考えていきたい。本書は、産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	シチズンシップとはなにか	シチズンシップ、人権、移民
第3回	ネーションとはなにか	ネーション、言語
第4回	私たちのアイデンティティ	言語、アイデンティティ、シチズンシップ
第5回	国民と市民について	ディスカッション
第6回	移民とデニズンシップ	移民、文化変容
第7回	移民へのシチズンシップの保障	国籍、参政権
第8回	日本の外国人参政権について	ディスカッション
第9回	EUシチズンシップの理想と現実	ヨーロッパ人、トランスナショナル市民権
第10回	移民とローカルシチズンシップ	分権化社会、
第11回	家族、ジェンダー、平等とシチズンシップ	ジェンダー平等、あたらしいシチズンシップ
第12回	仕事と家族とジェンダー平等について	ディスカッション
第13回	移民への逆風とチャレンジ	ナショナルポピュリズム、新右翼
第14回	ナショナリズムをどう考えればいいのか	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点評価	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加姿勢を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、
論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。
必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ヨーロッパ市民の誕生』	宮島喬／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業にて指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1B）

15472

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヨーロッパでは、多くの移民をこれまで受け入れてきた。また、EU統合の中で人々の国境を越える移動が拡大してきた。こうしたなかで、これまで国民と市民とは一致することが前提で市民権ということが考えられてきたが、そのことがいま揺らいでいる。私たちが市民であるということはどういうことなのか、あらためていま問いなおすことが求められているのである。日本においても、今後、外国人労働者が増えてくるだろう。その時、私たちはそうした人々とどのように共に社会を作っていくべきなのか、EUの議論は多くの示唆を私たちに与えてくれるだろう。本講義では、こうした議論の入門書として有意義な（宮島喬著『ヨーロッパ市民の誕生』岩波新書、2004年）を取り上げ、考えていく。
グローバリゼーションが進むいま、人は自分とは異なった他者を、他者としてそのまま認めあい、敬意をもってともに生きていくことが求められている。では他者をどのように受け入れるべきなのか。その時、最も重要となるのはシチズンシップをどう理解していくかということである。そのことを本講義では議論しながら考えていきたい。本書は、産業社会学部生に是非読んでほしい著書である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）テキストの読解と討論の技術の修得
2）テーマの発見とキーワードによる問題意識の表現
3）文献検索の技術の修得
4）論文内容の要約文章の作成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	自己紹介　テキスト紹介　分担決定
第2回	シチズンシップとはなにか	シチズンシップ、人権、移民
第3回	ネーションとはなにか	ネーション、言語
第4回	私たちのアイデンティティ	言語、アイデンティティ、シチズンシップ
第5回	国民と市民について	ディスカッション
第6回	移民とデニズンシップ	移民、文化変容
第7回	移民へのシチズンシップの保障	国籍、参政権
第8回	日本の外国人参政権について	ディスカッション
第9回	EUシチズンシップの理想と現実	ヨーロッパ人、トランスナショナル市民権
第10回	移民とローカルシチズンシップ	分権化社会、
第11回	家族、ジェンダー、平等とシチズンシップ	ジェンダー平等、あたらしいシチズンシップ
第12回	仕事と家族とジェンダー平等について	ディスカッション
第13回	移民への逆風とチャレンジ	ナショナルポピュリズム、新右翼
第14回	ナショナリズムをどう考えればいいのか	ディスカッション
第15回	まとめ	テーマの発見、キーワードとしての表現、論文検索

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマの発見とキーワードによる表現、文献検索、論文の要約などを総合的に評価する。
平常点評価	50 %	出席、発表およびディスカッションへの参加姿勢を総合して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

3，4回生の演習に向けて、テキストの読解方法、自分の興味あるテーマの発見、文献検索と論文の収集、
論文の要約作成など基本的な学習技術の修得を目指したい。とにかく、アクティブに授業に参加してほしい。
必ず、力が着いていくのを実感できるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ヨーロッパ市民の誕生』	宮島喬／岩波新書、2004年／／

参考書 / Reference Books

上記文献のリストを参照されたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

そうしたウェッブデータを調べていくことも本授業の目的となる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業にて指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1C）

15473

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1D）

15474

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1E）

15475

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1F）

15476

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1G）

15477

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1H）

15478

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の社会の重要なテーマについて、代表的な文献・資料を読み込みながら検討する。文献・資料を読んでいくことを通して、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得していく。

分野「格差社会に立ち向かう」では、こんにちの格差社会をめぐる議論を客観的・批判的に検討しながら、こうした格差社会論がこれほどブームになってきたのはなぜか、など現代の社会背景を視野に入れて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の社会の重要なテーマ「格差社会」をめぐる議論に関連する代表的な文献・資料を読んでいくことを通して、現代社会の問題を批判的・分析的に考える基本的能力を獲得することを目標とする。あわせて、今後の大学生活の中で取り組むレポート・論文を作成する際に必要となるスキル（技法、考え方、分析の視点ややり方、表現方法など）を習得することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション、プロジェクトスタディの授業の目的	
2	テキスト第1章　1節（はじめ～15頁）	
3	テキスト第1章　2，3節（15～37頁）	
4	テキスト第2章　1，2節（40～57頁）	
5	テキスト第2章　3節（57～69頁）	
6	テキスト第3章　1節（72～88頁）	
7	テキスト第3章　2節（88～106頁）	
8	テキスト第3章　3節（106～117頁）	
9	テキスト第4章　1，2節（120～142頁）	
10	テキスト第4章　3節（143～168頁）	
11	テキスト第5章　1節（170～191頁）	
12	テキスト第5章　2節（191～203頁）	
13	テキスト第5章　3節、おわりに（204～224頁）	
14	まとめ（1）	
15	まとめ（2）	
	※クラスごとに、進度の状況により、多少の調整を行うことがあります。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障：排除しない社会へ	宮本太郎／岩波新書／4004312161／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
格差社会：何が問題なのか	橘木俊詔 ／岩波新書／4004310334／
不平等社会日本―さよなら総中流	佐藤 俊樹／中公新書／4121015371／
社会階層―豊かさの中の不平等	原 純輔・盛山 和夫／東京大学出版会／4130530127／

大貧困社会　　駒村康平 ／角川SSC新書 ／4827550580／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1I）

15479

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1）きちんと文献を読み、2）そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し（レジュメを作成し）、3）人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4）他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3回以上の出席は評価の前提となる）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1J）

15480

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

受講者が輪番で指定された文献を読み、その内容についての報告を行なった後、受講者全員で報告内容について質疑応答、意見交換を行う小集団参加型授業。本年は、「持続可能な社会」の可能性や成立要件などについて、事例をもとに議論します。

到達目標 / Attainment Objectives

「持続可能な社会」とは何かについて学ぶことも大事なテーマではありますが、それ以上に、1)きちんと文献を読み、2)そこに述べられている内容を把握する読解力と論点を整理して資料化し(レジュメを作成し)、3)人前で発表・説明できる力を養うこと、さらに4)他者の発表にたいして批判する力を養うこと、が本講義の最大の目標です。その意味では、選定された文献・テーマが自らの志向と多少ずれていてもあまり問題にはなりません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体の進めかたの説明と分担の決定	
第2回	文献購読01:文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献講読03:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献講読03:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献講読05:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献講読06:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献講読07:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献講読08:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献講読09:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献講読10:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献講読11:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献講読12:前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「＜持続的な社会＞を模索する」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事前学習を求めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポート課題については、授業内で指示します。
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される(出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

第1回目講義からテキストを使用するので、各自事前に2冊を購入しておくようにしてください。
上記授業スケジュールは担当教員によって多少異なる場合があります。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域の力』	大江正章／岩波新書／9784004311157／
『コミュニティを問いなおす』	広井良典／ちくま新書／9784480065018／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1K）

15481

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1L）

15482

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1M）

15483

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（1N）

15484

担当者名 / Instructor　原尻 英樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

見田宗介『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在と未来ー』（岩波新書、1996）の文献を全員が読み、クラスで内容をめぐって報告と討議を行う。そのことを通じて、社会とはまた広い意味での社会学とは何かを、理解する手がかりとし、社会を分析し批判する基礎となるスタイルを養う。

到達目標 / Attainment Objectives

文献を読み解くこと、および文献内容を報告し討議することに習熟することを基本目標とする。
それを通して、社会を分析し批判する基礎となるスタイルが少しでも養えることを期待したい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	全体のすすめ方の説明と分担の決定	
第2回	文献購読01：文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第3回	文献購読02：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第4回	文献購読03：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第5回	文献購読04：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第6回	文献購読05：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第7回	文献購読06：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第8回	中間でのふりかえり	
第9回	文献購読07：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第10回	文献購読08：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第11回	文献購読09：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第12回	文献購読10：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第13回	文献購読11：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第14回	文献購読12：前回の振り返り・文献についての報告・質疑応答・意見交換	
第15回	「社会を読み解き、批判する＜作法＞」のまとめと課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは報告者以外も、必ず当日報告される箇所については最低読んで来て欲しい。
また、関連する文献等も、ぜひ積極的に読みすすめていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	レポートについては、最終的に各分野毎にまとめられ成果報告書の作成をおこなう
平常点評価	50 %	日常点評価については「小集団的性格の科目」でありより重視される（出席、発表およびディスカッションへの参加度など日常的な取り組みを総合して評価する。なお、2／3日以上の出席は評価の前提となる）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代社会の理論ー情報化・消費化社会の現在	見田宗介／岩波新書、1996／／

参考書 / Reference Books

授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業で指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業で指示する。

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2A）

15485

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2B）

15486

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2C）

15487

担当者名 / Instructor　松田 士朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2D）

15488

担当者名 / Instructor　岩間 優希

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2E）

15489

担当者名 / Instructor　高井 昌吏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2F）

15490

担当者名 / Instructor　高井 昌吏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新聞記事を手がかりにして、現在起きている政治・経済・社会などの問題について正しく理解しましょう。大学で今後リサーチを行うにも、社会に出てからの情報収集においても、新聞を活用することは大切です。継続的に読み、断片的な記事をつなぎ合わせてある問題の全体像を把握するという方法を身につけましょう。またニュースがどのように作られるのか、その仕組みを知ることを通してどのような情報の「偏り」が生じるのかも理解しましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

①政治、経済、外交、社会などの基礎的な用語やコンセプトについて自分なりの説明ができるようになること。
②日本の新聞の記事の特徴や海外紙との比較、各紙のものの味方の違いなどを理解し、過去記事の検索を含め効果的な情報収集を行う能力を磨く。
③複数の情報を照らし合わせて正確な情報を選択する方法を学ぶ。
④新聞記事をもとに、とりあげられている政治・経済・社会の問題についてさらに深くリサーチする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	新聞の基礎知識　ー　導入のはなし	ある記事をもとにあなたが何を知らないのか、どうすれば知ることができるのか考えましょう
第2回	新聞のフォーマット・各紙の特徴・通信社の役割など	担当教員が示す記事を元に、「何が起きているのか」「何がわからないのか」を話し合おう
第3回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「貧困」「新型インフルエンザ」「消えた年金」「医療保険改革」
第4回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）生活と安全（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「えん罪」「別件逮捕」「裁判員制度」
第5回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）教育と歴史認識	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「靖国神社」「戦後補償」「教科書検定」
第6回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「公共事業」「派閥」「族議員」「仕分け」
第7回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）政治と民主主義（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「補正予算」「政治とカネ」「政治主導」
第8回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「帝国主義」「冷戦」「核拡散」「テロ」
第9回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）外交と国際関係（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「6カ国協議」「普天間基地移設」「ミサイル防衛」
第10回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「日本相撲協会」「特待生制度」「ドーピング」
第11回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）スポーツと文化の問題（2	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「オリンピック誘致」「スポーツ振興」「ドラフト制度」

第12回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「南北問題」「新自由主義」「気候変動」「人身売買」
第13回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）開発とグローバリズム（2）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「代替エネルギー」「スマートグリッド」「COP15」
第14回	テーマ別ディスカッション：課題として出された記事の問題について過去記事などでリサーチをして発表してもらいます。 例）情報通信とセキュリティ（1）	※課題のトピックは授業内で指示します。 例）「個人情報保護法」「生体認証」「ブロードバンド」「著作権」「放送と通信の融合」「ウィニー裁判」
第15回	まとめの議論	※課題のトピックは授業内で指示します。 テーマ・ディスカッションとともに、今後どのようにメディアを利用していくのか考察します

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・備考
※1　これはあくまでも1例であり、担当教員によって扱うテーマや内容は変更される可能性があります。
※2　扱うテーマは以下のような問題から担当教員が選択します。
1）政治と民主主義・権力
2）警察・検察・司法の問題
3）人権・生活の安全や安心
4）外交と安全保障・国際機関
5）教育と歴史認識
6）経済と豊かな社会
7）スポーツと文化
8）開発とグローバリズム
9）情報社会とセキュリティ
10）ジャーナリズムの社会的役割
※3　問題の重点は担当教員によって変わる場合があります。また、重大な事件が起きたときは途中でもその内容を変更して新しい出来事の勉強に変更する可能性があります。
※4　宿題は発表課題についてのスケジュールは、担当教員の指示に従ってください。
・授業外学習の指示
1）クラスで扱うテーマとは関係なく、少なくとも1紙は毎日読んでください。
2）クラスで扱う課題については、すべての受講者が過去の記事や参考文献などをあたりディスカッションの準備をして　ください。
3）必要に応じて発表などを行うこともあるので、担当教員の指示に従ってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テーマは追って指示します。リサーチや討論で得た成果を報告してもらいます。評価は情報収集の厚みと考察の深さで行います。
平常点評価	50 %	1）課題発表 ・課題記事に示された問題について過去記事などをリサーチして発表 2）クラス内のディスカッションの参加

授業の進め方は担当教員によって若干異なるので、クラス内の指示に従ってください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

特になし

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2G）

15491

担当者名 / Instructor　小寺 敦之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2H）

15492

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA (2I)

15493

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く(1)	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く(2)	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く(3)	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く(1)	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く(2)	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く(1)	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く(2)	社会・文化
9	小冊子の企画・作成(1)	編集会議
10	小冊子の企画・作成(2)	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成(3)	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成(4)	分析・発表
13	小冊子の企画・作成(5)	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成(6)	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成(7)	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍(新書など)に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2J）

15494

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2K）

15495

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

政治・社会・文化全般に対して関心を広げるとともに、「あたりまえ」や「正しい」と見えるものを斜めに読み解く力を養う―これが「市民とメディア」分野のテーマです。そのためには、新聞・雑誌・書籍・映画・テレビなど、さまざまなメディアにふれながら、自明なものの背後に何があるのかを考えていきます。同時に、自らが知的に「おもしろい」と思えるものを企画し、調査し、そして表現することにも重点を置きます。これらを通して、「市民」として主体的に思考・表現する基礎を培っていただきたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなメディアにふれながら、常識を疑う姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像の説明	概要説明、自己紹介、班わけ、今後のスケジュールなど
2	新聞や総合雑誌を読み解く（1）	政治・経済
3	新聞や総合雑誌を読み解く（2）	国際関係・社説・コラムなど
4	新聞や総合雑誌を読み解く（3）	社会・文化・スポーツ
5	映像資料を読み解く（1）	ドキュメンタリーなど
6	映像資料を読み解く（2）	映画等を通して社会問題を考える
7	新書・入門書を読み解く（1）	政治・経済
8	新書・入門書を読み解く（2）	社会・文化
9	小冊子の企画・作成（1）	編集会議
10	小冊子の企画・作成（2）	企画書の作成
11	小冊子の企画・作成（3）	関連資料の収集・調査
12	小冊子の企画・作成（4）	分析・発表
13	小冊子の企画・作成（5）	原稿作成・合評会
14	小冊子の企画・作成（6）	レイアウト・デザインの検討
15	小冊子の企画・作成（7）	最終プレゼン・合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞・ニュース・ドキュメンタリー・書籍（新書など）に日常的にふれておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連するレポートをまとめ、提出する。
平常点評価	50 %	課題への取り組みや討議・討論への参加状況を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会	佐藤卓己／岩波新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2L）

15496

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2M）

15497

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2N）

15498

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2O）

15499

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2P）

15524

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2Q）

15561

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（2R）

15562

担当者名 / Instructor　平本 毅

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新しいビルが完成したり、美術展に多くの人が訪れたり、有名な観光地で年中行事が行われたり、マラソンで交通規制が行われたり、新しい地下鉄が開通したり…、街は日々出来事に満ちています。こうした出来事は新聞の記事となってたいていはすぐに消えていきます。この分野では、「文化」（景観、芸術、観光、スポーツなど）に関係する新聞記事のいくつかに注目して、実際の体験、取材をとおしてレポートし、出来事の背景にある経過や別の所でのよく似た出来事などとのつながりを見つけるという仕方で、「社会と文化」を分析し伝える力について考えていきます。必要に応じて、複数の新聞を使って同じトピックに関する記事の比較します。さらに、新聞以外の多様なメディアと「文化」の関わりについて、文献購読を行いながら学びを深めていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

(1) 日常の出来事の背景を理解し説明する分析能力の養成、向上
(2) 社会・文化にかかわるさまざまな分野の動向・経過についての知識の獲得
(3) 新聞データベースの活用、記事の比較・分析など、情報収集力と分析力の向上
(4) 文化とメディアに関する学術文献を読み解く力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と到達目標	進め方の説明と担当者の紹介、文化関係記事の事例、小グループ
2	出来事の記録と表現との差異	取材マナー、各グループ別に文化関係記事の選択と内容分析
3	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について	発表企画書作成と講評1
4	「事実」とは何か、「事実」の社会的意味について、続き	発表企画書作成と講評2
5	出来事の背景にあるものの探求、新聞データベースの活用	記事的レポートと講評1
6	出来事の社会的背景、経過	記事的レポートと講評2
7	記事の比較から見えるもの、類似の出来事との比較、他の記事との比較	記事的レポートと講評3
8	記事の「作成」と「解説」	記事的レポートと講評4
9	出来事、記録、表現、視点	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評1
10	見出し、本文、写真、解説	プロジェクト・スタディー・レポートの企画書作成と講評2
11	出来事の意味と表現1	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評1
12	出来事の意味と表現2	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評2
13	出来事の意味と表現3	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評3
14	出来事の意味と表現4	プロジェクト・スタディー・レポートの予備発表 と講評4
15	全体講評と課題	再度、出来事と「社会」をつなげるという視点について、提出レポート作成上の注意

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

この分野は新聞を素材にしますので、常に新聞に目を通していることが当然必要です。
社会文化にかかわる個別分野（景観、芸術、観光、スポーツなど）の動向については、授業の進行にかかわらず専門書などによって学習を進めることが強く望まれます。適当な専門書については、担当者と相談してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	文化に関する記事、書評や映画批評など新聞記事的なものをA4用紙1枚と、それに関連したレポート3枚の合計4枚を「プロジェクト・スタディー・レポート」として提出すること。テーマ設定の妥当性、背景知識の妥当性、構成力などにより判定します。
平常点評価	50 %	出席と報告への取り組み、その他の課題など総合的に評価します。。（ただし、最低でも3分の2以上は授業に出席していることが、成績評価の条件となります。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最終レポートの内容や成績評価基準等は全クラス共通ですが、授業の進め方や購読する文献等は各クラスの教員によって異なることもあります。詳しくは個々の教員から授業中に配布される日程表を参照してください。

教科書 / Textbooks

各種「新聞」を基礎資料として活用します。また、クラスによっては下記の参考書を教科書として使用することがあります。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『メディア文化論―メディアを学ぶ人のための15話』	吉見俊哉／有斐閣／978-4641121904／
『現代文化を学ぶ人のために』	井上俊編／世界思想社／978-4790707318／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各クラスで指示します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA (3A)

15500

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと―古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、マックス・ヴェーバー、カール・マルクス
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/

スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3B）

15501

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと―古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、マックス・ヴェーバー、カール・マルクス
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/

スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3C）

15502

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツ文化を学ぶ」
スポーツとはどのような文化なのか、それはどのような発展をしてきたのか、また現在スポーツ文化はどのような問題を持っているのか、これらを歴史や文化論、遊び論などの文献や、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定してレポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツ文化を学んでいく課題や方向を、代表的著作の章構成やトピックを参照していくことから考えていきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツ文化が現在どのようにとらえられているのか、その「語られ方」の中から考えていきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探すという作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションというプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

①テクストを精読し、内容を理化し、自己の知見を提示することができる。
②自らのスポーツ像の「概念砕き」等を通して「スポーツ」という文化を対象的に捕らえられる目を養うことができる。
③情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テクストを読むこと―古典とは何か	テクストクリティーク、古典
第2回	古典を読む①	古典、丸山眞男
第3回	古典を読む②	古典、マックス・ヴェーバー、カール・マルクス
第4回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論①	
第5回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論②	
第6回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論③	
第7回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論④	
第8回	スポーツ文化に関するテクストAの解読と討論⑤	
第9回	集中討議	
第10回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論①	
第11回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論②	
第12回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論③	
第13回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論④	
第14回	スポーツ文化に関するテクストBの解読と討論⑤	
第15回	集中討議	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	テクストに関する課題論文の提出
平常点評価	50 %	出席点 テクストの読解力 議論する力量

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/
日本体育学会体育史専門分科会　http://www.taiikushi.org/

スポーツ史学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssh/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3D）

15503

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3E）

15504

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（3F）

15505

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツと社会の関わり方を学ぶ」
この授業では、スポーツの成り立っている社会的仕組みや社会に与えている影響はどのようなものかを、スポーツを取り扱っている雑誌や文献、新聞に表れているスポーツ事象を通して学び、それぞれ任意のテーマを設定して、レポートにまとめることにしたいと思います。そのため授業は以下のような組み立てで行います。まずスポーツと社会の関わりを学んでいく課題や方向を、幾つか代表的著作の章構成やトピックを参照していくことからつかんでいきたいと思います。つぎに主に新聞を素材に、スポーツと社会の関連について具体的な事例を検討していきたいと思います。それを経て、基本的な文献の読解と、またそれぞれに応じたトピックとを探す作業を行いたいと思います。この作業は班ごとに行い、報告とディスカッションと言うプロセスをとり、授業終了時にレポートとしてまとめたいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

1）スポーツと社会との幅広い関連を理解できる目を養うこと。
2）情報を集め、分析し、それを表現する能力をつけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	スポーツと社会－課題の多様性を知る	政治、ビジネス、社会病理
第2回	メディアで報道されるスポーツ （1）ビジネス	スポーツビジネス、市場
第3回	メディアで報道されるスポーツ （2）政治	地域、社会病理、若者
第4回	メディアで報道されるスポーツ （3）グローバル化	国際関係、移民、グローバルマーケット
第5回	メディアで報道されるスポーツ （4）マスメディア	グローバルメディア、国際競技大会、スポーツスター
第6回	班別の課題設定と作業スケジュールの議論	
第7回	基本テキストの読解と討論	
第8回	基本テキストの読解と討論	
第9回	基本テキストの読解と討論	
第10回	基本テキストの読解と討論	
第11回	基本テキストの読解と討論	
第12回	班別課題報告とディスカッション	
第13回	班別課題報告とディスカッション	
第14回	班別課題報告とディスカッション	
第15回	クラス全体でのディスカッション：スポーツ文化とは何か	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進度に応じて個別に指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

主体的に課題発見を行うよう、受け身ではなく授業に積極的に参加し、みずから作り上げていくことを望みたい。

教科書 / Textbooks

授業開始後、学生の関心に応じて個々のクラスごとに指示する。

参考書 / Reference Books

授業中適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本スポーツ産業学会　http://www.spo-sun.gr.jp/html/index/index.html
日本スポーツ社会学会　http://www.jsss.jp/
日本体育学会　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jspe3/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

開講後、担当教員より指示する

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4A）

15506

担当者名 / Instructor　角田 将士

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4B）

15511

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4C）

15512

担当者名 / Instructor　中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4D）

15518

担当者名 / Instructor　藤田 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（4E）

15519

担当者名 / Instructor　土屋 尚子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

基本的テーマは「自分の教育体験を概念的に把握する」ことにあります。初等、中等教育においては被教育者であったみなさん一人ひとりが、1年間の学生生活を体験したのち、あらためてみずからの受けてきた学校教育を俯瞰し、体験を構造的に把握し、3年次の専門演習などの出発点を発見できるようにすることを目標としています。

教育の問題を語るとき、必ず自分自身の教育体験（被教育体験）をベースにして語ることになるでしょう。それはそれで重要なことなのですが、ここでは、教育的事実を社会の主体である人間の再生産の問題として考えます。これが教育体験の構造的把握という意味です。

そのために、苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』（中公新書、1995年）を共通テキストとします。このテキストは、上にのべたことを、「メリトクラシー」「大衆社会」「階層」といったキーコンセプト（鍵概念）として、戦後の教育変動を説明しようとしています。受講生自身の教育体験を、その保護者世代、祖父母世代からの再生産の営為として考えます。教育学的な発想のなかには、どのような内容（教育課程）を、どのように（教育方法）行うのかという根幹となる課題があります。プロジェクトスタディを主宰、運営するにあたっても、この観点を貫きたいと考えています。それはつぎのようなことです。

到達目標 / Attainment Objectives

1　自分の受けてきた教育体験を、教育社会学的タームの読解を通じて社会認識とすることができる。
2　学ぶ立場から教える立場への転換（教育的関係の可視化・自覚化）をはかることができる。
3　説明する立場になってはじめて学ぶ必要を発見する、という体験をする。
4　わかるように伝えるということをこのプロジェクトを通して身につける。
5　社会構造とその歴史主体のあり方について理解する。
6　データとその意味理解などをふくめてテキスト読解の基礎を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	テーマの設定と運営方法について	
2	大衆教育社会の理解　受講生による確認	
3	大衆教育社会と受講生の教育体験・報告と討論	
4	学校をとりまく貧困と階層の問題	
5	学校をとりまく貧困と階層の問題・報告と討論	
6	教育の機会と階層問題	
7	教育の機会と階層問題/・報告と討論	
8	中間まとめ	
9	社会的再生と学歴主義	
10	社会的再生と学歴主義・報告と討論	
11	文化的再生産論または不平等の再生産	
12	文化的再生産論または不平等の再生産・報告と討論	
13	1990年代以降の日本の学校と教育	
14	1990年代以降の日本の学校と教育・報告と討論	
15	大衆教育社会のなかに自分たちの生活と学びを位置づける/総括討論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『大衆教育社会のゆくえ』	苅谷剛彦 ／中公新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『学校って何だろう』	苅谷剛彦 ／ちくま文庫／／
『考えあう技術』	苅谷剛彦・西研 ／ちくま新書／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5A）

15513

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。
ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。
さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。
貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）など、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。
本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（12月18日土曜日1－5時予定）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な社会－「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員より配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5B）

15575

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。
ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。
さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。
貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）など、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。
本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（12月18日土曜日1－5時予定）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な社会－「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員より配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5C）

15514

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の日本社会の状態は、「貧困」の広がりが誰にでも見える時代になったと言って過言でない。年収200万円以下の労働者が1000万人を越えたという。「ワーキングプア」のことだ。がそればかりか「違法ハケン」「ピンハネ」「偽装請け負い」が蔓延し、正社員は「カローシ（過労死）」の淵に立たされている。都市のホームレスは「ネットカフェ難民」や「河川敷生活者」に広がっている。一方、困窮しても生活保護の申請をさせてもらえなかった男性が、「おにぎり食べたい」と書き残し餓死していた。90歳のお母さんと介護していた60歳代の娘さんが2人とも亡くなって発見された事件や介護殺人など悲惨な事件もあとを絶たない。「新しい貧困」の一つとして人々の孤立や社会的排除も問題となっている。
ところで、受講生の皆さんが「あなたは今豊かですか？それとも貧しいですか？」と問われたとしたら、答えに窮するだろう。簡単な例をあげれば、「アルバイトを沢山しているのでお金は困っていないが時間がない」場合、自由なお金は「豊か」だが自由な時間は「貧しい」ことになる。下宿している学生の住居は豊かであろうか？「三間（時間・空間・仲間）の喪失」ということばがあるが「豊かさ」がモノだけでは測れないよい例である。「貧困」は人ごとではないということでもある。
さて、先に示した人々の「貧困」は個人責任に帰すべきであろうか？貧困の中には、明らかに人為的に作られものも多いが、中には一見個人責任のように見えても、社会的要因を少なからずもっているものもある。ではなぜ個人責任のように見えるのか、それは生活問題の多くは「私生活」の困難として現われからである。しかし社会福祉の立場から、生活問題を解決または緩和するためには、社会や地域全体への対応と個人や家庭に対する個別的支援の両方が必要となる。例えて言うならば「森を見る」と「木を見る」の違い、「鳥の眼で見る」と「虫の眼で見る」の違いである。
貧困を考えると暗い気持ちになってしまうが、暗い事ばかりもでない。世論の力が、薬害C型肝炎訴訟の終結を後押しする、生活保護母子加算廃止の復活、障害者自立支援法の応益負担廃止（新政権表明）など、権利を保障していく動きもある。このことは、私たちが主体者として問題を解決・緩和できる可能性を示している。その基本は福祉社会のシステムを人間の力で再構築していくという実践である。人々が「生きていて良かった」と言える社会は、家庭・諸組織・地域・社会全体において、人々の協同と社会福祉制度を再生し持続させる実践によって実現される。
本プロジェクトスタディはこうした展望を、「真の豊かさ」の理解に求めテキストを選択した。テキストの精読と討議、レポート作成により「アカデミックリーディング」「アカデミックライティング」の基礎を修得する。

到達目標 / Attainment Objectives

①「福祉社会」に関わる現実の理解及び基本的な知識と考え方の修得
②文献・資料を的確に理解し、それを正確に表現し伝える能力の形成

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「分野Ⅰ」の概要、目標、進め方／「豊かさ」の考え方	アカデミックリーディング、豊かさ
2－3	文献・切り裂かれる労働と生活の世界	労働と生活、生活の不安、低賃金と失業、過労死、貧困とホームレス、社会的排除、多重債務
4	文献・不安な社会に生きる子供たち	日本と西ドイツの子ども、教育の豊かさと貧しさ、競争の中の子ども
5	文献・なぜ助け合うのか	助け合い、いじめ・不登校、生活の全体性、助け合いで支える心、ボランティア
6	討議の中間まとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング
7	文献・NGOの活動と若者達	NGO、内戦と難民、阪神大震災、援助活動、山が動く
8－9	文献・支え合う人間の歴史・希望を拓く	人間の歴史、生存競争、生活の共同、協同組合、豊かさの条件
10	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	副教材の活用、アカデミックライティング
11－12	討議のまとめとアカデミックライティング演習・指導	アカデミックライティング、合同発表準備
13－15	合同発表会（12月18日土曜日1－5時予定）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート課題は分野で統一したものを示します。
平常点評価	30 %	日常点には、出席、授業における報告・討議などの取り組みが含まれる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『豊かさの条件』	暉峻淑子／岩波新書／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『持続可能な社会－「もうひとつの日本」の構想』	広井良典／ちくま書房／／
『定常型社会』	広井良典 ／岩波新書／／
『貧しい人々の声　私たちの声が聞こえますか？』	デイーパ・ナラヤン／世界銀行／／（非売品であり、授業開始後に教員より配布予定）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5D）

15515

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」（新潮選書）新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
（3）グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性（同一性）障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している）し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5E）

15576

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」（新潮選書）新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
（3）グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性（同一性）障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している）し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5F）

15516

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」（新潮選書）新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
（3）グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性（同一性）障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している）し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5G）

15577

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」（新潮選書）新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
（3）グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性（同一性）障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している）し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

プロジェクトスタディIIA（5H）

15517

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1. テキストとして、藤川洋子著「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」（新潮選書）新潮社刊を用いる。
2. 授業は、最初の週で導入をおこなう。最初の週に班分けを行うとともにテキストの分担を決める。2週目は教員の方から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献や情報提供(映像資料等を含む)を行う。
3.3週目以降、5回程度を使って，グループ単位で丁寧にテキストを講読し発表する。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
4. 後半は、5回程度を使って，班単位で、子どもや若者の発達に関してテーマを定めたプレゼンテーションを行う。担当グループでないものは各自で該当章を読んだ上でコメントを発表する提出する。各グループは毎回コメントのまとめを提出する（次週までに）。
5.上記以外に、教員の側から子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)を行う。
6.最終週は、授業の総括を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）発達臨床に関わる基本文献を読み込み理解する力を獲得する。
（2）テーマをたててグループによるプロジェクト的探求活動を行う力を獲得する。
（3）グループ学習のすすめ方について力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎演習

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の導入：授業の進め方についての説明。及び、班分けと担当章の決定	
2	購読第1回　第1章	家庭裁判所調査官、少年犯罪、犯罪学
3	購読第2回　第2章	非行の変化、人間関係病、少年の実像
4	購読第3回　第3章	少年法、少年審判、家庭裁判所
5	購読第4回　第4章-1	広汎性発達障害、アスペルガー障害、反社会性人格障害
6	購読第5回　第4章-2	解離性（同一性）障害、境界性人格障害、自己愛性人格障害
7	購読第6回　第4章-3	初発型非行、差別と非行、家族
8	購読第7回　第5章・第6章	発達課題、非行と修復、心の危機
9	子どもや若者の発達に関する研究に関する文献購読の解析方法や情報提供(映像資料等)。後半の班構成と学習テーマ設定。	
10	各班のプレゼンテーション①	
11	各班のプレゼンテーション②	
12	各班のプレゼンテーション③	
13	各班のプレゼンテーション④	
14	各班のプレゼンテーション⑤	
15	反省と相互評価　まとめのレポート作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の前半では、丁寧にテキストを読み込むことが重要である。各部分の発表担当となった班は、テキストのみではなく、該当する部分に関する関連論文を検索（論文検索はCiNii,心理学、教育学、社会学、医学Webが適している）し、テキスト内容を豊富化して報告とすることを心構えること。また、発表担当以外の章も事前に必ず読み、サマリーとコメントおよび班討論の様子を毎回提出すること(次週)。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「『非行』は語る－家裁調査官の事件ファイル－」　藤川洋子著	／新潮社刊／／

（新潮選書）

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『発達障害と少年非行－司法面接の実際－』	藤川洋子／金剛出版／／2008
『非行臨床の現場からとらえた子どもの成長と自律』	藤川洋子／明治図書出版／／2009
『私の出会った少年たち－非行への新しい視点－』	藤川洋子／日本教育新聞社／／2009
『少年事件に取り組む―家裁調査官の現場から』(岩波新書)	藤原正範／岩波書店／／2006
『少年法入門 第4版』(有斐閣ブックス)	澤登俊雄／有斐閣／／2008
『新・少年事件実務ガイド 第2版』	第二東京弁護士会子どもの権利に関する委員会／現代人文社／／2009
『虐待と非行臨床』	橋本和明／創元社／／2004
『病める関係性―ミクロ社会の病理』(社会病理学講座)	高原正興・森田洋司・井出裕久・ 矢島正見／学文社／／2004

参考書は、上にあげたもののみではない。担当教員の指導を受けながら、Runnersで検索を行うこと。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1A）

14164

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1B）

14165

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1C）

14166

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1D）

14167

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1E）

14168

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1F）

14169

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1G）

14170

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1H)

14171

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1I)

14172

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1J)

14173

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1K）

14174

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1L）

14175

担当者名 / Instructor　金子 守恵

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1M)

14176

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1N）

14177

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1O）

14178

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1P)

14179

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1Q）

14180

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（1R）

14181

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1S)

14182

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1T)

14183

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (1U)

14184

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2A)

14213

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2B)

14214

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（2C）

14215

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2D)

14216

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2E)

14217

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2F)

14218

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2G)

14219

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2H)

14220

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2I)

14191

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2J)

14192

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2K)

14193

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（2L） §　卒業研究指導（2L）

14194

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2M)

14195

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2N)

14196

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（2O）

14201

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2P)

14202

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2Q)

14203

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (2R)

14204

担当者名 / Instructor　犬島 梓

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3A)

14205

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏　　単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（3B）

14206

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（3C）

14207

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3D)

14208

担当者名 / Instructor　本山 益子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3E)

14209

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3F)

14210

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3G)

14211

担当者名 / Instructor　海老島 均

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3H)

14212

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3I)

14185

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3J)

14186

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (3K)

14187

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4A）

14188

担当者名 / Instructor　伊藤 隆司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4B）

14189

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4C）

14190

担当者名 / Instructor　角田 将士

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4D）

14221

担当者名 / Instructor　笹野 恵理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4E）

14222

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（4F）

14223

担当者名 / Instructor　山下 芳樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5A）

14224

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5B）

14225

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5C）

14226

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5E）

14227

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5F）

14228

担当者名 / Instructor　前田 信彦

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5G）

14229

担当者名 / Instructor　松田 亮三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (5H)

14230

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (5I)

14231

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (5J)

14232

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5K）

14233

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5L）

14197

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (5M)

14198

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習 (5N)

14199

担当者名 / Instructor　中村 正

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門演習（5O）

14200

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

1回生での基礎演習、コア科目、2回生でのプロジェクトスタディなどの学修を基礎にして、専門科目と関連させながらゼミナール形式によって専門的研究を進めます。ゼミ生には、担当教員の指導を受けつつ、個人あるいは共同で研究課題を見出し、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を行うことが期待されています。相互に発表と討議を行い、最終的にレポートや論文などの成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会科学的な視点から現代社会における諸課題を見出すことができる。
②①の課題解決にとって相応しい研究方法を活用することができる。
③研究成果を発表し、レポート、論文としてまとめることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門研究を実施する上で基礎となる教養科目・専門科目を着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによって異なります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	＊提出されたレポート、論文などの成果物により、到達目標にそって評価します。
平常点評価	50 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の基準の詳細は各ゼミによって異なりますが、研究の成果物を提出することは共通しています。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合に関しては各ゼミによって異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス（持上りクラス）で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得することが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1A)

14242

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1B)

14243

担当者名 / Instructor　菊地 真理

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1C)

14244

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1D)

14245

担当者名 / Instructor　國廣 敏文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1E)

14246

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1F)

14247

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1G)

14248

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1H)

14249

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1I)

14250

担当者名 / Instructor　石本 幸良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1J)

14251

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1K)

14252

担当者名 / Instructor　杉本 通百則、竹濱 朝美

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1L)

14253

担当者名 / Instructor　中川 勝雄

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1M)

14254

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1N)

14255

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (10)

14256

担当者名 / Instructor　佐々木 嬉代三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1P)

14257

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1Q)

14258

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1R)

14259

担当者名 / Instructor　仲井 邦佳

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1T)

14260

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (1U)

14261

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2A)

14262

担当者名 / Instructor　魚住 真司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2B)

14263

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2C)

14264

担当者名 / Instructor　松田 士朗

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2D)

14265

担当者名 / Instructor　鵜飼 大介

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2E)

14266

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2F)

14267

担当者名 / Instructor　松田 亜希

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2G)

14268

担当者名 / Instructor　村瀬 敬子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (2H)

14269

担当者名 / Instructor　梁 仁實

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (3A)

14270

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (3B)

14271

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (3C)

14272

担当者名 / Instructor　遠藤 保子、仲間 裕子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (3D)

14273

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (3F)

14274

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5A)

14275

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5B)

14276

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5C)

14277

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5D)

14278

担当者名 / Instructor　高垣 忠一郎

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5E)

14279

担当者名 / Instructor　村本 邦子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5F)

14280

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5G)

14281

担当者名 / Instructor　秋葉 武、鈴木 暁子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5H)

14282

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5I)

14283

担当者名 / Instructor　植田 章

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5J)

14284

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5K)

14285

担当者名 / Instructor　久保 佐世

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (5L)

14286

担当者名 / Instructor　松田 亮三

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (AA)

14287

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (AB)

14288

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (AC)

14289

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (AD)

14290

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (AF)

14291

担当者名 / Instructor　吉田 幸治

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BA)

14292

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BB)

14293

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BC) § 卒業研究指導 (BC)

14294

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BD)

14295

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BE)

14296

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BF)

14297

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BG)

14298

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BH)

14299

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BI)

14300

担当者名 / Instructor　赤井 正二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BJ)

14301

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BK)

14302

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BL)

14303

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (BM)

14304

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (CA)

14305

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (CB)

14306

担当者名 / Instructor　石田 智巳

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (CC)

14307

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (CD)

14308

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (CE)

14309

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DA)

14310

担当者名 / Instructor　伊藤 隆司

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DB)

14311

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DC)

14312

担当者名 / Instructor　笹野 恵理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DD)

14313

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DE)

14314

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (DF)

14315

担当者名 / Instructor　山下 芳樹

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (EA)

14316

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (EB)

14317

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

卒業研究 (EC)

14318

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

3回生までの学修を基礎として、ゼミナール形式によって、専門科目と関連させながら、高度な専門的研究を進めます。担当教員の指導を受けつつ、的確な論拠に基づいた粘り強い研究を個人あるいは共同ですすめ、相互に発表と討議を行い研究の質を高めます。最終的に、卒業論文など4年間の学修の成果物を作成します。

到達目標 / Attainment Objectives

自ら研究テーマを設定し、研究を遂行し、論文などの研究成果物を作成することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高度な専門研究を実施する上で参考となる、専門科目を中心に、着実に履修していることが望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	各ゼミによってことなります	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	＊卒業研究(論文など)の成果物をもとに、到達目標にそって評価されます。
平常点評価	20 %	＊日常的な専門研究に対する取り組みを評価します。

成績評価の詳細は各ゼミによってことなりますが、卒業研究では卒業論文などの成果物の作成が求められます。なお、「レポート試験」と「平常点評価」の割合は各ゼミで異なる場合があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

＊卒業研究では受講生の研究力量が問われます。受講生には演習の時間はもとより、演習以外の時間を有効に活用し、自ら研究を実施し、研究力量を高めていく努力が特に要請されます。
「専門演習」と「卒業研究」は同じクラス(持上りクラス)で学修を進めます。
4回生「卒業研究」を受講するためには、3回生「専門演習」の単位を取得していることが必要です。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジア社会論 (S)

15534

担当者名 / Instructor　宋 基燦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本による植民地統治の記憶にまつわる両国の近現代史は、地理的に最も近い国でありながら、心理的には距離を縮めることのできない関係を作り続けてきた。近年、日本国内における「韓流」の流行は、このような日韓関係に変化をもたらしている。また、韓国内部でも日本の大衆文化開放後、若者を中心に日本の大衆文化の影響力は強まっている。この授業はこのように激変している日韓両国の関係の中で、日本の隣の国、韓国の今日を理解することを通じて日本の東アジアとの付き合い方を考えてみることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代韓国に関するを理解と関連知識を習得する。
・グローバル化が進んでいるなかで、韓国の現在を通じて東アジアの未来を展望する。
・「平和」について現実的な感覚を育てる。
・異文化理解の視野を広げ、さらに自分の文化を相対化して考えることができる訓練をする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	授業の進め方
2	異文化を研究することの意味。	文化相対主義の視座「国民性」という本質主義を越えて
3	朝鮮半島の地理的概観	自然地理・人文地理・地政学的特徴
4	植民地の記憶と朝鮮半島	
5	朝鮮戦争の記憶と韓国社会	
6	南北分断の理解1	関連映画を視聴し、討論
7	南北分断の理解1	関連映画を視聴し、討論
8	戦争と反共主義と韓国のキリスト教	韓国の宗教事情 親米と反米の狭間で
9	二つの戦争；朝鮮戦争とベトナム戦争1	関連映画を視聴し、討論
10	二つの戦争；朝鮮戦争とベトナム戦争2	関連映画を視聴し、討論
11	韓国の民主化運動の歴史	
12	民主化と経済危機、新自由主義の陰	
13	李明博大統領以後の韓国の展望	
14	東アジアの未来に向けて、東アジア共同体は可能なのか	
15	まとめおよび確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業進行上、細部項目は変更されることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	具体的な評価方法に関する説明は最初の授業の時に行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、講義による一方的な知識の伝達だけにはあまり意味を置かない。授業では、講義の内容として映像資料、映画などを観ることが多い。それらをもとに一緒に考えてみたり、討論を行ったりするのが、この授業の進め方である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代韓国を知るための55章	石坂浩一、舘野晢／明石書店／／
朝鮮を知る事典	伊藤亜人他監修／平凡社 ／／
ポストコロニアリズム	本橋哲也／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジア文化論 (S)

12888

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教文化	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅の文化	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	日・中・韓の住まい文化	
第10回	アジアの仏教文化	
第11回	本学の留学生との討論と交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	お祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末試験に代わる最終レポートは60%なので、提出しなければならない。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)
平常点評価	40 %	日常的な取り組みや出席40%。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材。授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編 ／時潮社／／
『韓国人の心』	李御／ 学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学／白帝社／／

現代中国、韓国を知るには大変役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室：　尚学館3F　3850号室
電　話：　直通075－466－3132　内線3850
メール：　wen-chux@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

エスニシティ論（S）

15536

担当者名 / Instructor　原尻 英樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アメリカと日本のコリアタウンの比較を通して、アメリカと日本の近代国民国家としての普遍性と各国民国家の特殊性を明らかにし、そこにおける「民族」のもつ意味（エスニシティ）について考察する。さらに、今日のグローバリゼーションの状況のなかで、以上の近代性がどのように変容しつつあるのかを記述・分析し、現代世界におけるエスニシティへのアプローチの方法的有効性を検証する。方法論的には、エスニック・スタディーズ、カルチュラル・スタディーズ、ポストコロニアル・スタディーズ、それにグローバリゼーション・スタディーズ、これらを相対化して、新たな方法論の地平を模索するが、特に、フィールドワークによるミクロ・アプローチと、東アジア・太平洋を含む世界全体の構造変化を分析するマクロ・アプローチとを関係づける。さらに、これらの基礎的研究を基にして、多文化共生社会に向けての認識方法、倫理観、実践論を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）エスニシティの普遍的意味を日本の現実との関連で理解すること。

（2）エスニシティに関わる多文化共生社会の可能性を考え、そしてその実現に向けて実践すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「文化人類学入門」、「比較文化論」、「文化人類学」であるが、「エスニシティ」履修後に、これらの三科目を履修することも可能である。これら四つの科目によって、文化人類学についての基本的知識と考え方が修得可能となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	東アジアの前近代における朝鮮半島からの移動（総説）、火田民と海人	前近代、移動、焼畑、海人
2	東アジアの近代における朝鮮半島からの移動（総説）	近代、植民地主義、大量移動
3	日本の植民地主義と朝鮮半島からの移動	強制移住、ダブルバインド、ねじれた形での社会上昇
4	近代国民国家・大韓民国からの移動：アメリカと中国	アメリカンドリーム、中国での投資、グローバル・ファミリー
5	ハワイのコリアン：「アメリカン・コリアン」とHanguk-saram	写真結婚、旧移民と新移民、誰が韓国人か？
6	モダン／ポストモダン都市、ロサンジェルスのコリアタウン：コリアン、ラティーノ、黒人	コリアンとラティーノ、黒人との関係、コリアンドリームと両班意識
7	大阪・生野のコリアタウン：済州島から在日コリアンへの過程	〇〇ムラビトー済州島人ー在日コリアン、日本人意識の形成過程
8	川崎のコリアタウン構想：地域おこしのためのエスニック・タウン	行政の介入、地域社会とは何か？、コリアタウンの表象
9	日米のコリアタウンと国民国家システム：国民国家とエスニシティ	国民国家、エスニシティ
10	コリアンアメリカンとアメリカの人種・民族カテゴリー	「民族」と「人種」のカテゴリー
11	1992年4月29日　ロス暴動：コンフリクトの実像	コンフリクト、マスメディア
12	民族と学校教育：創られる「民族」	「民族学校」、エスニック or 民族、国民教育と民族教育
13	グローバリゼーションのなかのコリアン：境界を越える認識方法	ネットワーク、虹のイメージ、我からわれわれへ
14	新たな関係性を求めて①	他者認識と自己認識、倫理性、人であることの意味
15	新たな関係性を求めて②	構え、関係性、作法

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書及び配布プリントの読書を中心として、その他参考文献の読書。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業と教科書等の内容の理解度及びそれについての自らの批判的考察。
平常点評価	30 %	リアクション・ペーパー（抜き打ち）数回提出。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業はひとつの刺激です。もちろん、上記の授業目標を達成することも重要ですが、それに加えて、例えば、フィールドワーク、アメリカ研究、韓国・朝鮮研究、近現代史等に関心を広げることも可能ですので、この授業をひとつの刺激にして、自らの可能性を発掘・発展させてください。授業中に様々な参考文献を紹介します。また、質問をドシドシしてください。

「求めよさらば与えられん」です。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コリアンタウンの民族誌	原尻英樹／ちくま新書／／教室で配布（割引料金600円）

上記の教科書は絶版なので、教室で配布します（割引料金で一冊600円）。これは基本的文献ですので、この本を補うためのプリントを何回か配布します。

参考書 / Reference Books

参考書、参考文献は、随時、授業時に紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメール及び個人面談（オフィスアワーについては授業時に連絡）。

その他 / Others

キャリアデザイン論 (S)

15348

担当者名 / Instructor　牧野 泰典

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新卒入社から昇格・昇給するには、それに見合った仕事能力が必要となる。それがキャリア熟練形成であり、企業内教育訓練が労務管理制度のなかでどのように位置付けられているかを説明する。そのうえで、正規雇用者中心に実施されている教育訓練であるが、増加する非正規雇用者にも重要であることについて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

キャリア、熟練形成のための綿密な教育訓練を充分に整備することが、人材育成には欠かせないことを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要	
2	キャリア、熟練形成のプロセス(1)	外部労働市場、内部労働市場
3	キャリア、熟練形成のプロセス(2)	企業内訓練制度OJT(On the Job Training)、Off-JT(Off-the Job Training)
4	人的資源管理(HRM:Human Resource Management)と教育制度	職務再設計、工程再設計
5	労働の人間化(QWL:Quality of Working Life)とキャリア、熟練形成との関連	職務拡大(Job Enlargement)、職務充実(Job Enrichment)
6	昇格・昇給のための職能階層別の教育制度	必須教育、希望制教育、指名選抜教育
7	キャリア、熟練形成の機会をめぐって(1)	労働者選別の判断材料となる人事考課査定制度
8	キャリア、熟練形成の機会をめぐって(2)	正規雇用者と非正規雇用者との企業内教育格差
9	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(1)	非正規雇用比率の上昇
10	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(2)	新卒一括採用の問題点
11	雇用格差のキャリア、熟練形成に対する影響(3)	非正規雇用者、中途採用者の教育訓練の機会
12	多様な雇用者がキャリア、熟練形成のための権利獲得を目指して	採用機会の多様化、企業内訓練制度のさらなる開放
13	雇用と教育機会の確保と労使関係の課題	欧米の産業別組合と日本の企業別組合
14	小テスト	
15	授業のまとめ	インターンシップ、ジョブローテーション、多能工化などの意義と課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
レポート試験	20 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

雇用格差とは、実はキャリア、熟成形成のための教育訓練をめぐる格差でもある。日本企業の競争力の源泉は技術のみならず、安定した雇用の中で、キャリア、熟練を形成してきた労働力を確保していたことにある。雇用破壊は優秀な人材を育成するプロセスをも崩すものであり、日本の産業にも多大な影響を与えることを学んで欲しい。

教科書 / Textbooks

特になし

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『生涯現役一時代への挑戦』	山口宗秋 ／産業能率大学出版部 2006／／

『産業と労働のニューストーリー--IT・グローバル化と仕事の未来』	久野国夫／法律文化社 2004／／
『キャリア教育入門』	三村隆男 ／実業之日本社 2004／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

まちづくりと産業（S）

12905

担当者名 / Instructor　善積 康子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

“まちづくり”という言葉を頻繁に耳にする今日この頃であるが皆さんはどのように考えているだろうか。本授業では、その地域で働き、子育てをし、自らの選択において住み続けることができる、そういった環境を整えていくことを、まちづくりの定義と考える。そのためには経済的な自立、住民間の連携、支え合う意識、地域マネジメント組織の存在などが必要となってくるが、これらの要素が揃っている地域は多くない。当事者である住民が主体的に課題に取り組む必要があるが、それが簡単ではないから問題が生じているのである。京都には、職住共存地区といって、古くよりそこに住みかつ和装といった伝統産業などの仕事の場を持つという生活スタイルが定着しているエリアがある。和装産業の低迷とともにまち全体の力が弱まっているなかで地域力を高めるべくさまざまな取組が展開されている。本授業では、今地域に起きている課題とそれが生じている背景、そこから脱しようとする取り組み、外部から地域に関わる者としてどのように支援するのか、などについて、京都のまちなかの事例を中心に、多様な事例や学生間の討議を交えて具体的に伝えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・地域コミュニティの弱体化や地域経済の低迷など地域を取り巻く問題とそれが生じる背景について理解する。
・問題を整理し、多くの関係者と共有する方法について知る。
・地域が活性化していくための道筋を一種類でもイメージでき、地域と共有できるような提案の形にまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

都市計画法や建築基準法などがわかっていると理解が早いが、必ず履修していなければならないわけではない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業ガイダンス（進め方等）、導入（自分の考えを簡単にまとめる）	自分にとってのまちづくりとは（この授業で学びたいことを記述）
第2回	地域課題の説明	今、日本が置かれている状況の理解と地域経済自立の必要性について
第3回	地域の取組について説明Ⅰ	地域自治の重要性、本能元学区の取組（京都市の都市計画行政との関わりの中で地域が選択したこと）
第4回	京都のまちづくりの歴史・哲学の形成について	京都のまちづくりの系譜
第5回	地域の取組についての説明Ⅱ	本能・京都の取り組み（歩いて暮らせるまちづくりについて）（変更）
第6回	地域の取り組みについての説明Ⅲ	農山村地域の取り組み（名産品の開発、観光）（あなたは何がポイントと捉えるか？）
第7回	地域の取り組みについての説明Ⅳ	鉱山町の取り組み（出来る地域と出来ない地域の違いは？）
第8回	地域の取り組みについての説明Ⅴ	商店街の取り組み
第9回	実際に考えてみようⅠ	ワークショップ実践
第10回	地域活力支援の枠組みⅠ	コミュニティビジネス、ソーシャルビジネス、NPO、ボランティア、TMO
第11回	地域課題への対応として基本的な視点について	情報の共有、問題意識の啓発、共同作業、ワークショップ、まち歩き等（地域課題を産業活力へ）
第12回	地域課題への対応として新たな潮流について	中心市街地活性化（青森事例も合わせて紹介）、特区について
第13回	地域分析（地域の姿をとらえよう）	地域の実態把握の方法について
第14回	実際に考えてみよう！	ワークショップの実践Ⅱ
第15回	産業とまちづくり（ブレイクスルーはどこに？）	地域の自立とは？実践者からの講話

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

自分の関心ある地域を特定し（自分が生活をしている場所等）、その場所での産業のあり方を観察、授業内容と連動して考え、レポート作成に備える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	状況分析や自己の考え方整理、論理構築力、アピール力（わかりやすさ、他人に興味を持たせる書き方、説得力）
平常点評価	30 %	受講内容についてレポート作成の内容（2回から3回実施）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

まちづくりは自分自身が主体となることを想定して関わらないと、他人を動かす力を持ち得ない。周囲の声に耳を傾けながら自分の考えをじっくり育ててほしい。正しい回答が一つというものではないので、自由な着想と現実とのバランスをとれるように考える練習が求められる。

教科書 / Textbooks

まちづくりに関する書籍は多いので、自分が読みやすいものを探して、最低一つは読んでほしい。

参考書 / Reference Books

授業内で都度紹介

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市景観・まちづくりセンター（京都市のまちづくり支援組織）
http://machi.hitomachi-kyoto.jp/
このほか、全国で産業をキーワードに町おこしをしている事例などを、時間をみてネットサーフィンをしてみてほしい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

リスク社会論（S）§　（副）環境と人間II（F）

12903

担当者名 / Instructor　原 強

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は「リスク社会」といわれる。なぜ「リスク」が強調されるのか。また、どのような「リスク」があるというのか。この授業は「リスク社会論」入門というべきもので、さまざまなリスクのなかで、食品の安全や化学物質による健康障害、環境問題などに関わるリスクを事例にしながら、「リスク」の考え方や「リスク」管理の方法、「安全・安心な社会」をめざすうえでの課題や問題点を考えることにしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業は「リスク社会論」の入門講義というべきものであり、この授業を通じて「リスク」や「リスク社会」をめぐる問題の概要を理解し、本格的な学習・研究にむかううえで必要な手がかりを見つけてもらいたい。同時に、実生活におけるさまざまなリスクとのつきあい方を身につけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくにない。参考文献としてあげたものを事前に学習しておくことによって理解が深まるであろう。また、新聞やテレビなどの「リスク」に関する報道に注意して、関連情報を集めることに心がけてもらいたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	リスという概念 『沈黙の春』の警告
第2回	チェルノブイリの衝撃	チェルノブイリ原発事故 『危険社会』
第3回	感染症のリスク	新型インフルエンザ 予防接種
第4回	食の安全・安心	BSE 輸入食品
第5回	気候変動のリスク	地球温暖化の影響 2℃未満
第6回	現代社会と化学物質	ダイオキシン 環境ホルモン
第7回	契約社会のリスク	消費者契約 悪徳商法
第8回	食糧問題の未来	自給率40% 人口爆発の時代
第9回	補論と中間まとめ	
第10回	食の安全とリスクアナリシス	BSEの教訓 食品安全基本法
第11回	気候変動の予測と対策	IPCC COP
第12回	化学物質規制の動向	EUの化学物質規制 日本の化学物質規制
第13回	リスクをマネジメントする	リスクマネジメントの手法 リスクマネジメントシステム
第14回	リスクコミュニケーション	リスクコミュニケーションの必要性とその実際
第15回	まとめ リスクとつきあう	「安全」と「安心」 信頼

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業を通じて「リスク社会」論についてどのように理解が深まったかを確認する。
平常点評価	40 %	出席状況、受講態度と、授業中に提示する課題についてのレポートで評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストを指定していないので、授業に出席し、講義内容を正確に理解するとともに、参考文献で問題意識をひろげていくことが重要である。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リスクとつきあう	吉川肇子／有斐閣／／
安心と安全の科学	村上陽一郎／集英社／／
リスクセンス	ジョン・F・ロス／集英社／／
リスクのモノサシ	中谷内一也／日本放送出版協会／／

授業中、これ以外の参考文献を順次紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール：JRCC@mb6.seikyou.ne.jp

その他 / Others

家族社会学（S）

15337

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

平常点評価（出席）を重視するため、課外活動や就職活動等で恒常的に講義に参加できない学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／
ジェンダーとライスコースで読む家族	岩上真珠／有斐閣／9784641173378／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S） § （副）環境と人間IV（F）

12815

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 （climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース： An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中に適宜、質問用紙を配布する。また、授業後、直接、担当者に、質問してください。

その他 / Others

環境教育論（S）

15539

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。
授業中に数回の小レポートを実施し、到達度を確認する。

到達目標 / Attainment Objectives

目標
温室効果ガス削減対策、気候変動の影響に対する適応策に関連して、市民向け環境教育の基礎的な知識を学ぶ。
環境教育のなかで、気候変動・温暖化がどのように取り上げられてきたか、市民向け環境教育プログラムの事例について学ぶ。市民レベル、地域自治体レベルで取り組める気候変動対策、気候変動に対する適応策を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	気候変動に関するニュースおよびビデオ。気候変動に関する温室効果ガス削減対策と適応策の概略	
2	温暖化の基礎知識1 （気温上昇予測、海面上昇予測、北極・南極の氷の減少予測）	
3	温暖化の基礎知識2 （水資源への影響予測、食料農産物生産への影響予測、水産資源への影響予測、生態系への影響予測、洪水被害予測、干ばつ被害予測）	
4	EUと日本における気候変動に関する市民啓発プログラムの比較：小レポート①	
5	温室効果ガス削減をめぐる温室効果ガス濃度安定化とemission pathways(削減経路),削減の量と時期の条件、先進国の削減責任。	
6	温室効果ガス削減対策と環境教育1 （再生可能エネルギー教育）	
7	温室効果ガス削減対策と環境教育2 （交通部門の対策と建築部門、省エネ対策）	
8	温室効果ガス削減策に関する環境教育の比較（EUと日本）、小レポート②	
9	日本の学校教育カリキュラムにおける環境教育の歴史：中学校および高校における学習指導要領と環境教育、温暖化問題の位置づけ	
10	自治体における温暖化対策と環境教育1：自治体における再生可能エネルギーの普及政策、省エネ対策	
11	自治体における温暖化対策と環境教育2：自治体における市民啓発の取り組み	
12	環境NGOにおける温暖化対策と温暖化教育： 主な環境NGO，環境NGOによる温暖化キャンペーンの事例、NGOの役割。	
13	気候変動災害と防災教育：洪水と熱波に関する防災対策および防災教育の事例（EU、日本、アメリカ）	
14	ビデオおよび海外の気候変動災害に関するニュース、小レポート③	
15	講義のまとめ、環境教育における気候変動対策の教育の役割について、小レポート④ （単位取得を希望するものは、必ず最終の小レポートを受けること）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義中に数回の小レポートを実施する。これを提出すること。

単位取得を希望する学生は、必ず、最終講義における小レポートを受けること。単位取得を希望するものは、必ず、最終の小レポートを受ける必要がある。
就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。
評価方法は、平常点100%（講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。）

就職活動などで、最終の小レポートを授業中に提出することができないものは、事前に申し出て、別途、期限内にレポートを提出すること。
評価方法は、平常点100%（講義中に課す小レポートにより評価する。提出できなかったものは、授業中に指定する期限内に、代わりのレポートを提出しなければならない。）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に配布する英文資料について、自分で読めるようにすること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「環境展望」Vol.3,　Vol.4,　Vol.5。	日本科学者会議公害環境問題研究委員会／実教出版／／
、「市民・地域が進める地球温暖化防止」	和田武・田浦健朗／学芸出版社／／
Change: How can you control climate change?	／／／
Carbon calculator (http://www.mycarbonfootprint.eu/)	／／／
「飛躍するドイツの再生可能エネルギー―地球温暖化防止と持続可能社会構築をめざして」	和田武／世界思想社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

UNFCCC，IPCC、国立環境研究所、環境省の気候変動に関するサイト。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の終わりに質問をしてください。講義中に小レポートを行うので、質問などは、これに書いてもらってもよいです。

その他 / Others

環境形成論（S）

12904

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「持続可能な社会」とは何か？いかにして創造しうるのか？「持続可能な社会」構築のためには「空間づくり」「ひとづくり」「関係づくり」を同時に進めていく必要がある。本講座ではランドスケープ・デザインや緑地生態学などが蓄積してきた「空間づくり」の技術や知見、そして教育学、社会学、心理学が蓄積してきた「ひとづくり」「関係づくり」に関する知見を押さえつつ、国内外で展開されている「持続可能な社会」を探求する試みからその様々なイメージを把握し、「持続可能な環境」形成に必要となるプロセス、空間デザインやコミュニケーションの作法を探り、共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）「聴く」「眺める」「表現する」ことを駆使して授業に積極的に参加することの楽しさを体感する。
（2）自分の考えを持つこと、他者の考えを知ること、その上でやりとりすることの楽しさや効果を体感する。
（3）「持続可能な環境、社会って何ですか？」と問われた時に、自分の考えを整理して披露できる。
（4）他者と「持続可能な環境、社会とは何か？」を巡って意見交換ができ、その結果、自分が持っていた考えよりもさらに深い発想や新たな疑問に到達することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乾先生が担当される「居住環境デザイン論」と「参加のデザイン論」、永橋が後期に担当する「景観デザイン論」と併せて履修すると持続可能な環境や地域社会が「ひとづくり」「関係づくり」「空間（計画）づくり」の3つを同時に満たす必要があることを深く理解できます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　持続可能な環境や地域社会とは何か？	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、「持続可能な社会」が求められている背景
第2回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その1	ステークホルダー間の合意形成（事例：京都市ちびっこ広場再生計画）
第3回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その2	空間のネットワークと交通システム（事例：尼崎市せせらぎの道計画）
第4回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その3	環境と経済の融合（事例：大分市府内五番商店街再生計画）
第5回	持続可能な環境を形成する試みと作法（入門編）　その4	地産地消と環境的公正（事例：エディブル・スクールヤード計画）
第6回	持続的な環境を形成する作法と技術の源流　その1	空間学からのアプローチ（サイトアナリシス、利用行動調査）
第7回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流　その2	コミュニティ・デザインからのアプローチ（15のステップ、ワークショップ）
第8回	持続可能な環境を形成する作法と技術の源流　その3	教育学・心理学・社会学からのアプローチ（グループ・カウンセリング、アクション・リサーチ）
第9回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その1	排除とソーシャル・インクルージョン（事例：釜ヶ崎の再生プロセス）
第10回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その2	共生のためのオルタナティブ（事例：公園とホームレス問題）
第11回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その3	流域保全におけるオルタナティブ（事例：脱ダムと緑のダム、吉野川第十堰保全代替案づくり）
第12回	持続可能な環境を形成する試みと作法（チャレンジ編）　その4	地域づくりのオルタナティブ（事例：環境基本計画、持続可能な開発のための教育）
第13回	持続可能な環境を形成するための仕組み　その1	行政と市民のパートナーシップ、市民参画による政策作成と推進
第14回	持続可能な環境を形成するための仕組み　その2	事業者と行政・市民とのパートナーシップ、企業の社会的責任（CSR）
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境を目指して「その課題と展望」

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらう。それを講師が毎回3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や用紙未提出の場合は「不可」とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最終回を除く14回のうち「不可」が合計7回ついた場合には単位を認められず、最終回の「検証テ

スト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。最終回の「検証テスト」では、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小リポートを提出してもらう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「検証テスト」が「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「持続可能な環境形成の作法」としての「聴く」「眺める」「表現する」ことの大切さや有効性を講義の中で紹介していきますが、この講義に参加する作法としても「聴く」「眺める」「表現する」ことを大切にし、講師からだけでなく受講者同士互いに学び合う姿勢を大事にしたいと思います。「表現する」とは、コミュニケーションの基本であり、議論や合意形成をしていくプロセスを「見えるようにする」技法、そして「思いをカタチにする」技法です。授業の中でもフリップに意見や絵、図をかいてもらい皆で眺める参加型授業を展開しますので、「聴く」「眺める」「表現する」練習の機会として利用して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。適宜、レジュメを配布したり参考書を紹介したりします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで簡潔に連絡をお願いします。

tame3@ss.ritsumei.ac.jp

なおオフィスアワーについては追って連絡、周知します。

その他 / Others

環境経済学（S）

15538

担当者名 / Instructor　知足 章宏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

大気汚染、水汚染、廃棄物問題、地球温暖化など、世界中で様々な環境問題が深刻化しているなか、環境と経済システムの関係を再考し、適切な環境政策を確立していくことが益々重要になっている。本講義では、特に政治経済学的アプローチからサステイナブル・エコノミー実現のための新たな環境経済政策の確立に向けた展望・課題を考究する。
講義序盤では、環境経済学・環境政策の基礎的概念について概説する。その後、様々な環境問題と環境政策の展開、課題について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

環境経済学の基礎的概念を理解し、環境政策の意義と問題点について理解する。
・環境問題を取り巻く日本の経済政策の問題点を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とイントロダクション	講義の視点と目的，評価方法
2	環境経済学概説Ⅰ	環境と経済、経済成長、環境クズネッツ曲線、社会的費用
3	環境経済学概説Ⅱ	市場の失敗、外部性、ピグー税
4	環境政策の基本手法	直接規制，税・課徴金，補助金
5	エネルギー政策	エネルギー，原子力，地球温暖化
6	鉱工業政策	公害，鉱工業，環境保全型生産システム
7	都市政策	都市問題，サステイナブル・シティ，アメニティ保全
8	交通政策	大気汚染，税・財政政策，社会的費用
9	廃棄物政策	ごみ処理，発生抑制インセンティブ，不法投棄
10	森林政策 森林資源，林政 11 森林政策・海洋環境政策	林政，海洋汚染，海洋環境問題
11	中国の環境問題	公害、地方政府、政治経済構造
12	環境政策と技術革新	ポーター仮説，環境規制，技術開発
13	環境保全を促進する貿易政策	環境貿易措置，WTO
14	税財政のグリーン改革	環境税，タックス・シフト，補助金改革
15	講義の総括	各講義のポイント，重要用語の復習

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要用語の適切な理解を問う問題（50点満点）と論述式の問題（50点満点）である。
平常点評価	0 %	但し、講義を妨害する私語を止めない学生に対しては、成績評価の際、大幅な減点とするので留意しておくこと。 この件に関する照会は一切受け付けない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日頃から、日本および世界の環境政策の動向を新聞等で勉強しておくと、講義の理解に役立つと思います。特に、環境問題における費用負担（環境税、汚染賦課金等）は講義の中心的なテーマの一つであるので、チェックしておいて下さい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい環境経済政策	寺西俊一編　／東洋経済新報社 ／4-492-31327-3 ／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境経済・政策学の基礎知識	環境経済・政策学会編　／有斐閣 ／4-641-18333-3 ／

地球環境保全への途	寺西俊一・大島堅一・井上真編 ／有斐閣／4-641-28101-7　／
環境経済学をつかむ	栗山浩一・馬奈木俊介／有斐閣／978-4-641-17708-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

環境論（S） § 環境問題論（S） § （副）環境と人間III（F）

15390

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	再生可能エネルギー、原子力立国論、炭素税、電力買取補償制度
第11回目	地球温暖化問題とエネルギー（3）	排出量取引制度、キャップ＆トレード型、バイオ燃料、カーボンニュートラル
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第13回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第14回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第15回目	まとめ	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企業社会論（S）

12938

担当者名 / Instructor　櫻井 純理

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、企業は人々の社会生活のありように大きな影響を及ぼすアクターのひとつである。企業社会論の目的とは、企業活動のあり方が社会そのものや、そのなかで生きる個人に対して及ぼす大きな影響力を前提として、企業と社会との関係を批判的に分析・検証することにある。この授業では、企業と社会との関係を次に挙げるようなテーマを通して考えていく。①企業に雇用されて働く従業員の働き方と生活時間に関する問題、②企業活動の社会的側面（CSRや社会的企業）、③「新しい公共」と担い手としての企業（NPO等の市民活動団体）、④雇用されない働き方（労働者協同組合など）

到達目標 / Attainment Objectives

上記のテーマ（企業と社会との関係）に関する日本の現状について、どのような課題があるのかを適切に理解できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション：この授業では何を学ぶのか	企業社会論とは何か、企業のあり方をめぐる議論に求められる視点
2	時間構造に見る企業中心社会：労働時間の推移と生活時間の配分に関する実態	長時間労働がもたらす短期的・長期的な弊害
3	ワーク・ライフ・バランス①：WLBとはどのような概念か	（同上）：労働時間短縮に向けた日本での取り組み（行政の政策と企業の取り組み）
4	ワーク・ライフ・バランス②：諸外国における取り組み（イギリス、アメリカなど）	（同上）：オランダにおけるワークシェアリング
5	労働のメタモルフォーズ―働くことの意味（ゴルツを題材に）	労働の人間化と労働時間の短縮、ベーシックインカム論
6	企業の社会的責任：CSRに関わる活動の分類、SRI	社会的企業：欧米での議論の流れと日本の現状
7	雇用と解雇をめぐる企業の責任	従業員のキャリア形成に関する企業の責任
8	労働CSR：労働CSRに関する国際レベルの枠組み	民間機構によるイニシアティブとその問題点
9	公共サービスと企業①：地方自治体の「外郭団体」	自治体業務のアウトソーシングと「新しい公共」―「新しい公共」とは何を意味しているのか（前半）
10	自治体業務のアウトソーシング、「新しい公共」―業務委託と指定管理者制度の問題点（後半）	公益法人改革がもたらしている影響
11	公共サービスと企業② 日本におけるNPO活動の広がり	就労支援活動に関わるNPO
12	公共サービスと企業③ 「雇われない働き方」とは？	「ワーカーズコープ（労協センター事業団）の活動
13	就労支援に関わるワーカーズ（若者自立塾と若者サポートステーションの受託）	「ワーカーズ・コレクティブ」（生活クラブ生協）の活動
14	公共サービスと企業④中間支援組織が果たす役割	京都における事例（京都地域創造基金、地域公共人材開発機構など）
15	国や地方自治体に求められる支援政策	授業の振り返り（企業の道徳的・倫理的責任とは何か）、定期試験に向けての説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業内容に関連した筆記試験を行う。
平常点評価	20 %	授業時間のなかで数回、小テストもしくは小レポートを課し、提出してもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用せず、レジュメを配布する。雑誌や新聞記事も教材として配布し、適宜映像教材を使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉がいまできること	前田正子／岩波書店／／

コミュニティビジネス入門	風見正三、山口浩平／学芸出版／／
新しい仕事づくりと地域再生	中山徹、橋本理／文理閣／／
NPOと社会的企業の経営学	馬頭忠治、藤原隆信／ミネルヴァ書房／／
人間らしい「働き方」・「働かせ方」	黒田兼一他／ミネルヴァ書房／／

その他の文献については、各回のレジュメのなかで紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

内閣府、厚生労働省を中心に政府省庁のホームページの情報は授業で頻繁に言及する。また、後半のNPOやワーカーズコープなどについては、たとえば「きょうとNPOセンター」「日本労働者協同組合センター事業団」「ワーカーズ・コレクティブ協会」など関連団体のホームページを参照してほしい。詳しくは授業で配布するレジュメでも紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

以下のメールアドレスに連絡を。junri@pa2.so-net.ne.jp

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

12768

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
2	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
3	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
4	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
5	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
6	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
7	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
8	中間まとめ	いったんこれまでの流れを整理して後半につなぐ
9	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
10	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
11	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
12	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
13	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
14	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
15	まとめ	再度、居住環境をデザインする意味を考える

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

「場所性」を読み解きながらまちを探検してください

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	成績は基本的には試験レポートの点数で評価します。 評価基準はレポート課題発表時に示します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

景観デザイン論 (S)

15541

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部の中で「景観デザイン論」を学ぶことにはどのような意味や意義があるのか？本講座では、まず「景観とは何か？人は景観をどう捉え、扱ってきたのか？景観と風景は何がどう違うのか？」という疑問を解きほぐす。この疑問の解きほぐしの次に「デザインとは何か？何をどうすることがデザインなのか？」を考える。その上で、持続可能な環境や社会を形成する作法としての景観デザインの発想法と方法論を学ぶ。その際、工学的、技術的な観点からだけでなく、社会的、経済的、生態学的、身体的、美学的そして政治的な観点からの景観デザインに対する把握と理解が不可欠になる。ここに「景観デザイン論」を産業社会学部の中で学ぶことの意味や意義が見いだせるだろう。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）「景観」や「風景」の概念や捉え方の差異を理解し、自分の経験とも照らし合わせながら説明できる。
（2）景観デザインという行為が、様々な領域や人間の活動に関係していることを理解し、説明できる
（3）持続可能な環境や社会の形成の観点から景観デザインの課題と可能性を自分の言葉で説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションその1	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての説明、景観デザイン論を学ぶ意義はどこにある？
第2回	オリエンテーションその2	講義の目的と進め方ならびに成績評価方法についての再説明、景観デザイン論を学ぶ意義はどこにある？再考 この講座で大切にしたいこと・大切にしていくこと
第3回	景観、風景、景色という概念の基礎理解その1	「景観」と「風景」はどう違う？どのような時にどちらの言葉を使う？
第4回	景観、風景、景色という概念の基礎理解その2	「景観」と「風景」はどう違う？どのような時にどちらの言葉を使う？再考と解題
第5回	私にとってのSacred Placeその1	自分にとって大切な風景、大切な場所、大切な思い出とは？
第6回	私にとってのSacred Placeその2	私のSacred Placeが壊される時、あなたどう感じますか？あなたは何をしたいと思いますか？あなたには何ができるでしょうか？
第7回	景観や風景を保全する？それとも風景に助けられる？	実際の計画づくりやまちづくりでのSacred Placeや「景観」「風景」の意義や取り扱いを検証する。
第8回	オルタナティブとしての景観デザイン　その1	身近な公園、広場を通してデザインを捉えると何が見えてくる？
第9回	オルタナティブとしての景観デザイン　その2	商店街のにぎわい再生にデザインからのどうアプローチできる？
第10回	オルタナティブとしての景観デザイン　その3	地域全体の再生にデザインが寄与できることは？
第11回	オルタナティブとしての景観デザイン　その4	カタチはデザイナーの思いつき？それとも？
第12回	京都の景観政策その1	町家は個人のもの？公共のもの？（ゲストスピーカーを招聘予定）
第13回	京都の景観政策その2	まちづくりとひとづくりが同時に進む瞬間やプロセスとは？（ゲストスピーカーを招聘予定）
第14回	景観デザインの射程	「格差社会」「貧困」「100年に1度の大不況」といわれる現在において景観デザインの意義と射程はどこにあるのか？
第15回	検証テストの実施とこれまでの講義のふりかえり	持続可能な環境形成の作法としての「景観デザイン」の課題と展望

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回、各回テーマに関する「お題」を講師が出し、受講者には所定の用紙に受講者自身の考えを記入してもらう。それを講師が毎回3段階「良・可・不可」で評価し、各回の参加度、習熟度を量る。欠席や用紙未提出の場合は「不可」とみなす。「不可」が連続3回続いた場合、もしくは最

終回を除く14回のうち「不可」が合計7回ついた場合には単位を認められず、最終回の「検証テスト」の受験資格も失う。逆に14回全て「不可」以外の評価でも、最終回の「検証テスト」で「不可」が付いた場合には、単位は認められない。最終回の「検証テスト」では、講座の全体テーマに関わる「お題」を講師から出し、A4用紙1枚程度の小リポートを提出してもらう。論理構成、オリジナリティーの観点から講師が「良・可・不可」で評価する。「検証テスト」が「不可」の場合、「日常的な授業に対する取り組み状況等の評価」の如何に関わらず、単位は認められない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いま世の中に存在するデザイン手法や景観の形成や管理が、持続可能な環境や社会を形成することに寄与しているかどうかを、批判的に検証する視点を大事にしたいと思います。そのためには自分が日常目にする景観や風景（景観という言葉と風景という言葉の概念については講義の中で触れます）、そして出来事の観察、吟味が欠かせません。自分が当たり前と思っていること（認識、景観、風景）は、実は当たり前ではないのだ、という視点が大事になります。好奇心と「疑問に思う力」がその助けになります。この講義に参加する作法としても、好奇心と「疑問に思う力」をフルに働かせて下さい。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回テーマ毎に参考書を紹介したり、必要な場合には、適宜、レジュメを配布したりします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境と都市のデザイン	斉藤潮・土肥真人他／学芸出版社／ISBN4-7615-2346-8／景観工学者とコミュニティ・デザイナーの激突から生まれた本。講師は第5章「市民とデザイナー　共同の可能性」を担当。景観や環境、デザインを扱うことの課題と可能性を理解するための本。
「景観」を再考する	松原隆一郎他／青弓社／ISBN-13: 978-4787232335／「景観」と「風景」の捉え方の違いについては歴史社会学の立場からの佐藤健二氏の批判的論考が秀逸。
風景学入門	中村良夫／中公新書／ISBN-13: 978-4121006509／土木学者として景観工学、景観デザイン学の第1人者である中村先生がなぜ「景観」や「デザイン」という語句を用いずに「風景」や「風景学」という語句を使われるのか？そこから逆に景観デザインの在りようを考察できるスリリングな本。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで簡潔に連絡をお願いします。

tame3@ss.ritsumei.ac.jp

なおオフィスアワーについては追って連絡、周知します。

その他 / Others

現代社会専門特殊講義 (S)

20105

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「フィールドワーク論」

こんにちフィールドワーク＝現地調査は様々な分野で当たり前のようにおこなわれるようになったが、単に現地に行ってその様子を記録することがフィールドワークではない。フィールドワークは、それ以上の何かを含んだ実践である。だが、それは一体どのようなものなのか。フィールドワークという方法は、特定の時代状況で生まれ、変化してきた。単なる現地の記録以上の部分は、時代によって異なるのである。本講義では、フィールドワークの歴史とその多様な方法を解説しながら、フィールドワークの時代性とその応用可能性について論じる。さらに、「自分たちをフィールドワーク」する機会も設けることで、受講者がフィールドワークの実践的な能力を身につけ、さらに調査倫理の問題を自らに関わるものとして考えられるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

フィールドワークと社会の関係についての理解を深める。
フィールドワークの多様な方法についての理解を深める。
フィールドワークの代表的な方法を習得する。
調査方法を企画・実施する能力を身につける。
調査倫理の問題を理解し、具体的に配慮すべき点を把握する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「文化人類学入門」「文化人類学S」「比較文化論」「エスニシティ論」等の文化人類学関連科目を履修しておけば、全体の理解が深まるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要とフィールドワークへの第一歩	他者との出会い、挨拶とは何か、外見と徴に気づく
2	フィールドワークとは何か	概念を組み替える、内包と外延、文献調査と野外調査、質的調査と量的調査
3	魔術的認識と科学的認識	類似性と偏見、異人論、蒐集と分類、物差し
4	地理的探検と博物学	地政学的眼差し、博物学とは何か、地図を使う、地域構造を知る
5	歴史と民俗学	系譜を知る、東西の比較、常民とは何か
6	機能、システム、部分と全体	自然と人間の関わり、社会組織と秩序、分配の方法
7	象徴と社会ドラマ	祭り、儀礼、紛争解決の記述
8	現象学とエスノメソドロジー	日常的実践、弟子入りの経験、ジェンダーの構築
9	文化の解釈学とイデオロギー	意味の体系、権力の問題、生と死
10	抵抗と創造の実践	マイノリティ、再生産、エージェンシー
11	世界の組み替えを目指して	住民主体、参加型開発 、制度論
12	フィールドワークの実際(聞く)	会話分析、インタビュー、ライフ・ヒストリー、トランスクリプト
13	フィールドワークの実際(聴く、書く)	聴くことの意味、社会調査と倫理
14	KJ法(まとめと仮説構築の方法)	ブレインストーミング、分類、見出し語、アブダクション
15	全体のまとめと討論(新しいフィールドワークを目指して)	自己批判、講義の総括討論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外の課題も出すので、それをこなして、さらに応用力を高めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回授業中に課題の提出を求め、その内容を評価する。また、授業の進行に応じて、授業時間外の課題の提出も数回求める。それらを併せて、成績評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業では、講義の他に、実習的な作業も求めるので、予めその点を理解の上、履修してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発想法	川喜田二郎／中公新書／／

フィールドワークの経験	桜井厚、好井裕明編／せりか書房／／
エスノメソドロジー	ガーフィンケル／せりか書房／／
フィールドワーク教育入門	原尻英樹／玉川大学出版部／／

その他の参考書については、必要に応じて指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12162

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SB）

12163

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SC）

12164

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代経済論（S）

12772

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－問題の所在	
2	日本経済の概況	
3	「高度成長」と企業社会の成立	
4	企業社会と市民社会	
5	市民社会の概念規定	
6	大企業体制の2類型	
7	貿易関係と資本の対外的展開	
8	同上（2）	
9	不良債権問題の経過と問題点	
10	同上（2）	
11	六大企業集団と法人資本主義	
12	同上（2）	
13	日本的経営について	
14	まとめ1－現代経済論の課題	
15	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代市民社会論 (S)

15342

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	市民社会とは？
2	近代市民社会の成立－フランス革命	1789年、封建制度、産業化
3	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
4	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
5	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
6	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、資本の文明化作用、貨幣物神,
7	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
8	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
9	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
10	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
11	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
12	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
13	ハーストと市民社会	ガバナンス、市民諸組織、社会への参加、市民社会の公共化
14	ギデンズと市民社会	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15	市民社会と日本	市民社会論のまとめ、日本で、それはどう論じられてきたのか？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。れじゅめに基づいて講義。参考文献は適時、知らせることとする

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する。

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義はできるだけ続けて聴講してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定　／有斐閣 ／／
『市民の政治学』	篠原一 ／岩波新書 ／／
『相対化の時代』	坂本義和　／岩波新書 ／／
『公共性』	斎藤純一　／岩波書店 ／／
岩波書店	パットナム（鹿内訳）／柏書房 ／／

参考文献追加:『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

現代文化論 (S)

15535

担当者名 / Instructor　佐藤 嘉一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化の現在について生活者の目線から考察する。「もの」の現実世界よりも，言語や記号や映像の「社会的事実」がものをいう時代の到来を『現代文化』の一大特徴として特徴づける文化理論について論じます。①大量生産・大量販売・大量消費の経済世界，②「読み書き」リテラシーと「パソコン・携帯等の」のメデアリテラシーのコミュニケーションの世界，③〈ますます大きくなる〉グローバルな世界と〈ますます小さくなる〉日常生活の真っ只中を生きる「普通の人間」の文化の現在を「物語」論的に学習する

到達目標 / Attainment Objectives

「人間科学」—「生きる・働く・語る」人間についての知の体系—の知見をひも解きながら，社会の客観的な構造変動の過程（大きな歴史）と各個人のユニークな「生きられる時間」（体験）の〈小さな歴史〉という二つのレンズから解き明かす試みである。時間（現在・過去・未来）と空間（中心と周縁）の二つのフレームのうちに彩られる「生きる・働く・語る」人間の文化的営みの現在を「社会構造とパーソナリティ」とのかかわりにおいて考察する社会学のやや専門的基礎学習である

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

一回生配当科目「人間と文化」「基礎社会学」などを受講しておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	産業社会の構造変動と「ホワイトカラー」の誕生：「20世紀の社会に登場した無名の大衆」，会社の重役からデパートの売子にいたる「ホワイトカラー」の発生，その現在と将来について	文化と「構造」の問題：『ホワイト・カラー』(1957)，旧中流階級・新中流階級，階級・階層構造の変化，19世紀的社会観の崩壊，ホワイト・カラーの生活スタイル
第二回	職業生活と職業観念の今日的性格：「20世紀末には人間は一生に約4万時間だけはたけばよい」（ジャン・フーラスティー『四万時間』）って本当か—ホハワイト・カラーの生活スタイル—	人類史，「文明前社会・文明社会・文明後社会」，「仕事献身による生きがい」問題，レーバーとワーク，オートメーションとX型・Y型・Z型，単調労働，尾高邦雄
第三回	現代文化の起源と変質—ゾンバルトとウェーバー；「近代資本主義」の起源をめぐる二つの文化論—禁欲主義的エートスと伝統主義的エートス—を対比しながら「現代」文化の特徴について考える	文化と「行為」の問題，「動機」の概念，欲望充足と営利，「近代の合理的資本主義はプロテスタンティズムが産んだ鬼子である」「非合法的恋愛の合法的な子どもである奢侈が資本主義を産んだ」
第四回	愛の世俗化と現代文化—自然と産業（資本主義）の〈間〉を生きる人間の眼差しから「現代文化」の語り方の系譜を調べる—絵画と音楽と書物の歴史を概観する	大商人と画家とルネサンス絵画，「ヴィーナスの誕生」，ギリシャ神話・聖書物語，「書斎のアウグスティヌス」，絵画と書物，聖なる母性・俗なる女性，商品としての絵画・音楽・書物 [，印刷技術，
第五回	文化と「自己」の問題—アーレントにおける「愛」の問題：ユダヤ人女性ラーエル・フェルンハーゲンの自分史を事例にして—	内部世界の外部世界からの自立，『告白』，宗教的回想と「自分の生活」の回想，「愛の概念」—情熱の愛・隣人愛・慈愛，「愛の世俗化」とフェルンハーゲンの自分史，「商品となったわたし」
第六回	複製文化と映像文化—映画「東京物語」をみる—複製技術時代における文化の問題を，日本映画の中のサラリーマンの生活にスポットをあてて考える；〈構造・行為・自己〉のトライアングル	小津安二郎，映画の中の社会と文化，日本社会の近代化，古い日本と新しい日本，東京と尾道，親の目と子どもの目、サラリーマンの職場と家庭、禅文化，制作者と俳優の関係
第七回	映画にみる「近代化」と社会変動—「東京物語」をみる—総合芸術としての映画作品を①目（絵画）②耳（音楽）③口（言葉）のそれぞれの働きの特徴に注目して鑑賞する—	目のリアリズム—映像による「時間の空間化」（目が時間をとめる），耳のリアリズム—沈黙による「空間の時間化」（音響効果・BGM）ことばのリアリズム—時空間の間主観化（シナリオの世界）
第八回	サラリーマンの〈仕事と家族〉の世界と〈夢〉の世界—カフカの『変身』と「東京物語」の物語を比較しつつ、サラリーマンの「内部の声」に耳を傾ける；作者と読者の関係	「仕事の世界」「家族の世界」「夢の世界」，「感情の道化的理念化」(カフカ＝ドストエフスキー)，面授面受の世界，「わが心を得る」＝悟り，間(ま)と「感情を不意打ちする」，禅のこころ
第九回	グローバリゼーションと「マージナル・マン」の〈時間意識〉の構造—西洋と日本の文化比較は面白い。しかし「イスラム」の世界などを含む「三つ巴」の視点から見ればもっと面白い？	「現在」志向—川端康成『美しい日本の私』，未来志向—大江健三郎『あいまいな日本の私』，過去志向—オルハン・パムク『父の鞄』，生殖家族と志向家族、〈私〉のなかの家族・世代・文化
第十回	憂愁の文化—小説『イスタンブール—思い出とこの町—』を読む：37の主題から「イスタンブール」の社会的世界の構造を解き明かし，非西洋の知的生活者の「文化の現在」に接近する	「随時随所，臨機応変」，目の記憶としての「イスタンブール」，写真の〈私の中のイスタンブール〉と〈イスタンブールの中の私〉客観的現実と主観的意味，コスモスとコスミオン，憂愁

第十一回	グローバリゼーションと非西洋の知的生活者の時間意識の構造—川端康成『山の音』を読む— 「目に遮り、耳に満ちてり」の語りをとおして戦後日本の「家族」生活の激変を解明する	純粋の声，不立文字，根元印象・周囲世界，面対面の親密な相互行為の世界，会話，『十七歳の日記』，我と汝，我とそれ，花鳥風月の含意，沈黙の間
第十二回	現代音楽からみた日本と西洋—宮城道雄・武満徹音楽・メシアン—作曲家の心に響く「現代文化」 「春の海・閉じた目・Vingt Regards sur l'Enfant Jesus」を聞く	音楽にとって言語(ロゴス)とはなにか、「純粋の声」とラジオ、「聞き分ける」と「言い分ける」の相関、「はじめにことばはなかった」，「春の海」，標題(タイトル)と音楽
第十三回	「はじめに言葉があった」ー人生の「愛と喜びと死」を主題とする「聖なる音楽」としての現代音楽(メシアン)—典礼音楽/宗教音楽(雅楽やバッハの音楽)/現代音楽・伝統と現代	音響・色彩と<幻惑まばゆさ>の音楽，メシアン(1908-1992)の音楽理論，「音響の自然共鳴体験」「色彩の補色体験」と心の畏敬・崇敬・賛美のパトス:「みどり児イエスに注ぐ20の眼差し」
第十四回	物語作家の「文化の現在」—大江健三郎・川端康成・オルハン・パムクの時間意識の構造再考—「雪」をめぐる比較文化論・・・現象学と<多元的現実論>	雪の結晶，「想像力・記憶・理性」としての述定的「経験」の世界と非述定的「体験」の世界身体の記憶，文化の「西・東」から文化の「北・南」へ，「多元的現実」のグラフィックス
第十五回	まとめと全体討論—ホワイトカラー(サラリーマン)の文化(生活様式)の現在を「構造・行為・自己」のトライアングルとして考察するという本講義の試みについて受講生の発言を求めます	1回から14回までの講義を復習し、問題点や疑問点、今後の課題などを集約し、討論します。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
平常点評価	20 %	①毎回、授業においてコメント･シートを配布します。わからない点、面白かった点、授業について感じたことなどをシートに記入して退出しましょう。 ②中間に一回小レポートを課します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の中で取り上げる文献のうち特に強く推薦する図書については自分自身の目で通読を進めます。

教科書 / Textbooks

授業の進行の中で必要と思われる重要文献は教室で示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
父のトランク	オルハン･パムク／藤原書店／／
美しい日本の私	川端康成／講講談社現代新書／／
あいまいな日本の私	大江健三郎／岩波書店／／
ひとつの音に世界を聴く	武満徹／晶文社／4-7949-5121-3／武満徹対談集
セザンヌ	ガスケ／岩波文庫／9784-00-335731-6／
職業の倫理	尾高邦雄／中央公論社／／
家族構成	戸田貞三／新泉社／／
物語のなかの社会とアイデンティテ	佐藤嘉一／晃洋書房／4-7710-1252-2／
方法としての人間と文化	佐藤嘉一編著／ミネルヴァ書房／623-03992-7／
テクストとコンテクスト	ハーバーマス著/佐藤･井上･赤井他訳／晃洋書房／4-7710-1751-4／
社会的現実の問題[Ⅱ]	アルフレッド・シュッツ／マルジュ社／／アルフレッド・シュッツ著作集第2巻
亡命の哲学者たち	グラトホーフ編著／木鐸社／4-8332-227-2／シュッツ-グールヴィッチ往復書簡

以下の論文は「産社学会」で入手可能でしょう。
佐藤嘉一「グローバリゼーションとマージナル・マンの時間意識の構造」立命館産業社会論集46巻4号
佐藤嘉一「シュッツの言語理論と自己論的アプローチ—『物語の中の社会とアイデンティティ』再考」　（立命館産業社会論集44巻2号）

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教室で授業の後に時間を取って欲しい人は申し出てください。
eメールの連絡先はsat01202@ss.ritsumei.ac.jpです。

その他 / Others

現代労働論（S）

15532

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本における賃金、労使関係、技能訓練の特徴を、国際比較を交えながら概観する。

到達目標 / Attainment Objectives

賃金、労使関係、技能訓練にかかわる新聞記事やテレビニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。
日本の賃金制度や労使関係が、他の先進主要諸国とどのように異なり、また共通性をもっているか理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

労働社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	現代労働論では何を学ぶか	
2	ワーキングプアから最低賃金制度を考える1	
3	ワーキングプアから最低賃金制度を考える2	
4	アメリカにおける賃金の決め方1：職務給とは何か？	
5	アメリカにおける賃金の決め方2：ヘイ・システムの仕組み	
6	日本における賃金の決め方1：日本の大企業における賃金制度の変遷	
7	日本における賃金の決め方2：日本とアメリカの能力主義の違い	
8	労働組合にかかわる基礎的な考え方、法律、制度の説明	欧米諸国における労働組合の変遷
9	日本の労使関係の特徴	
10	ドイツの労使関係と働き方1	
11	ドイツの労使関係と働き方2	
12	アメリカの労使関係と働き方1	
13	アメリカの労使関係と働き方2	
14	技能形成の国際比較（自動車産業を事例として）1	
15	技能形成の国際比較（自動車産業を事例として）1	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業の理解度。
平常点評価	20 %	ランダムに出席を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、賃金、労使関係（労働組合）、技能形成にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
最新アメリカの賃金・評価制度：日米比較から学ぶもの	笹島芳雄／日本経団連事業サービス／4818528315 ／

授業内容に関連した基本文献については、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

言語文化論（S） § 言語コミュニケーション論（S）

15467

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15468

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述および穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。講義内容に関して、コメントを求めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編／明石書店／／

への取り組み――(1998)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.janic.org/　国際協力NGOセンター
http://www.mofa.go.jp/mofaj/　外務省
http://unic.or.jp/index.php　国連広報センター

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際援助論（S）

12939

担当者名 / Instructor　池尾 靖志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

以前は、国際援助と言えば、開発分野に限られたものであった。それは南北問題の登場とともに、不公正な社会構造を生み出した「原因」を作り出した側（先進国）が、何らかの「援助」をしない限り、グローバル化した社会は成り立たないと考えてきたからである。

しかし、近年では、安全保障分野においても、例えば、核不拡散条約に加わる代わりに、民生用原子力協定を結び、エネルギー供給の手助けをするなど、国際援助のあり方も多岐にわたるようになってきた。

そこで、この講義では、国際援助の歴史と実態をみていく中から、グローバル社会のありようについてみていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

1）国際援助の実態について、客観的な知識が得られるようになること。
2）日本の国際貢献について、様々なアプローチがあることに気づくことができるようになること。
3）今日のグローバル化した社会構造をよりよく理解できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「立命館で平和を学ぶ」を履修している（あるいは、後期に履修する）ことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	日本をとりまく国際環境	国際関係、ウェストファリア・システム
2	日本の戦後賠償	戦後賠償
3	日本のODA政策（1）	ODA
4	日本のODA政策（2）	ODAの事例、ODA批判
5	日本のODA政策（3）	「人間の安全保障」委員会
6	日本の地球環境問題への取り組み（1）	京都議定書、クリーン開発メカニズム
7	日本の地球環境問題への取り組み（2）	グリーン・ニューディール
8	小型武器の規制（1）	「新しい戦争」と小型武器の流出
9	小型武器の規制（2）	国連における小型武器規制規範、DDR
10	人道支援と平和構築（1）	人道支援とは、PKO
11	人道支援と平和構築（2）	人道的介入
12	人道に対する罪	ジェノサイド、アパルトヘイト
13	対テロ支援	日本の「国際貢献」論
14	自衛隊の海外派兵	PKOへの日本の参加議論をめぐって
15	まとめ	今後の日本の方向性をさぐる
16	期末試験	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	論述2問。持ち込みは自由。講義を聴いて、自分でどの程度、物事を調べ、考えたのかを問う。
平常点評価	20 %	講義の途中で、講義の理解を促すためにレポートを課す。2000字程度。字数不足は減点。参考文献を明記すること。WebCTを用いて、3回課すうち、2回以上提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメを配布するが、国際情勢の変化に伴い、講義内容を入れ替えたり変更したりすることがあるので留意すること。
レジュメは最低限度の事柄しか載せていないので、講義用のノートを用意すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和学をつくる	池尾靖志編／晃洋書房／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
平和政策	藤原帰一ほか／有斐閣／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

担当者のホームページ　http://www.yikeo.com

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールを利用すること。

その他 / Others

国際環境政策論 (S)

15540

担当者名 / Instructor　和田 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境政策は、公害や環境問題を解決するために採用される政策である。本講義では、地球環境問題を中心に、環境政策の基礎と国際的な歴史を概説した上で、地球温暖化防止政策に焦点を当て、先進的な取り組みを進めているドイツを中心に，国際的対応，日本や各国の対応との比較を交えて論じる。その際、政策立案・決定のプロセス、政策がもたらす具体的成果，社会的効果についても、現地調査結果を踏まえて講じる。

到達目標 / Attainment Objectives

国際的環境政策および日本の環境政策に関心をもち、それを批判的に分析し、環境政策を立案できる能力を身につける。また、国際的国内的政策決定の民主的プロセスの重要性を認識できるようにする。具体的には，日本の環境政策に対するパブリックコメントなどの際に意見提出できるようになることが望まれる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」等、環境関連科目はできるだけ履修しておくことが望まれるが、それを必修条件にはしない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	地球環境問題と国際環境政策(1)環境政策の基礎と歴史	持続可能性、環境権、予防原則、発生源対策、汚染者負担原則、環境政策手法(直接的手法、間接的手法，基盤的手法、自主的取り組み)、国連人間環境会議、国連環境計画(UNEP)、国連環境開発会議、アジェンダ21、NGO条約、
2	地球環境問題と国際環境政策(2)地球温暖化問題	地球温暖化、気候変動、温室効果ガス、CO2、IPCC、気候変動枠組み条約、COP3、京都議定書、COP15政治合意、世界の温室効果ガス排出量
3	地球環境問題と国際環境政策(3)地球温暖化以外の問題	大気汚染・酸性雨，長距離越境大気汚染条約、ヘルシンキ議定書、ソフィア議定書，オゾン層破棄、モントリオール議定書，有毒化学物質汚染、バーゼル条約、放射能汚染、核実験、チェルノブイリ原子力発電所事故、ラムサール条約，ワシントン条約、生物多様性条約、森林原則声明，砂漠化対処条約
4	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(1)温暖化防止政策と温室効果ガス削減目標、	温暖化防止政策、予防原則、国家気候保全計画、温室効果ガス削減実績、中長期温室効果ガス削減目標、エネルギーシナリオ、日本、国別比較、
5	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(2)環境税、産業界の取り組み、脱原子力政策	環境税、政府／産業界公的削減協定、原子力廃絶計画、環境税導入国、排出量取引制度，日本の原子力立国計画、
6	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(3)再生可能エネルギー普及政策	再生可能エネルギー、自然エネルギー、再生可能エネルギー優先権供与法(再生可能エネルギー法)、電力供給法、アーヘンモデル，デンマークの風力発電電力買取制度、電力買取補償制度、RPS法
7	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(4)世界をリードしてきた風力発電	風力発電、風力発電電力買い取り条件、陸上風力発電、海洋風力発電(オフショア風力発電)、市民の取り組み、シュレスビッヒホルシュタイン州、世界の風力発電導入量
8	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(5)世界トップに躍り出た太陽光発電	太陽光発電、太陽電池、太陽光発電電力買い取り条件、大規模太陽光発電所、市民共同太陽光発電所、世界の太陽光発電導入量、太陽電池メーカーの生産シェア、太陽熱利用
9	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(6)バイオマス、中小水力、地熱等	バイオマス、木質バイオマス、バイオガス、バイオ燃料、バイオディーゼル燃料、バイオエタノール、バイオマス発電電力買い取り条件、再生可能エネルギー熱法、バイオ燃料割当法
10	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(7)市民など多様な主体の取り組み	市民共同発電所、再生可能エネルギー100%コミュニティ、市民共同エコハウス、女性団体の取り組み、農村，都市、自治体の政策、再生可能エネルギー産業、
11	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(8)再生可能エネルギー普及による波及効果	CO2削減効果、再生可能エネルギー産業、売上高推移、雇用増加、エネルギー自給率、エネルギー安全保障、地域社会の発展,
12	ドイツの政策と成果∽日本や各国との比較を交えて∽(9)拡大生産者責任に基づく廃棄物回避政策	廃棄物、3R、リデュース、リユース、リサイクル、ドイツ廃棄物回避法、回収，分別、再利用、拡大生産者責任、日本の廃棄物処理制度

13	先進諸国の温暖化防止・エネルギー政策と課題	先進国の温室効果ガス排出量推移、温室効果ガス削減目標、アメリカ，グリーンニューディル政策、EU、日本、
14	途上諸国の温暖化防止・エネルギー政策と課題	中国，インド、インド新再生可能エネルギー省、途上国の温室効果ガス排出量推移、温室効果ガス削減目標、
15	まとめ～持続可能な社会構築を目指して	持続可能な発展、持続可能な社会、社会発展論、環境保全と生産関係、

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

積極的に講義に関連する分野での自主的研究・学習を実施することを望む。その成果を「自主レポート」として提出することができる。なお、自主レポートとは，テーマや書き方は自由で授業期間内に、1回に限らず何度でも提出できるものである。優れたレポートについては、成績評価にプラスすることがある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	
レポート試験	0 %	提出義務のあるレポートは課さないが、自主レポートの提出は何回でも可能である。そのなかで優れたレポートの場合、成績評価に加点することがある(。
平常点評価	20 %	授業の感想、意見、質問等を記述する小レポートの提出を4～5回，求める予定である。それらを平常点評価の対象とする。必ず，提出すること。

上記のように，優れた自主レポートについては、上記評価に加点(ただし最大20%以内)する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講用ノートをとる習慣を身につけることを勧める。受講で学びの補充や発展的学習の結果もノートに記録すれば、力がつくはずである。
下記参考書のうち，『環境事典』や『環境資料集成』以外の参考書を少なくとも，1冊以上，読むことが望ましい。また、新聞等を通じて環境問題や環境政策に関する記事に日常的に目を通しておくこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
飛躍するドイツの再生可能エネルギー~地球温暖化防止と持続可能な社会構築を目指して～	和田　武／世界思想社／978-4-7907-1346-3／ドイツの温暖化防止、再生可能エネルギー政策と成果の最新動向

4回目以降、テキストは授業中にも使用するので、必ず持参すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境事典	日本科学者会議／旬報社／978-4-8451-1072-8／環境用語の調査に最適。
環境資料集成(全9巻)	日本科学者会議／旬報社／／環境関連の資料調査によい。
世界の地球温暖化対策	浅岡美恵／学芸出版／978-4-7615-1258-3／世界の地球温暖化対策を概観できる。
新・地球環境論	和田武／創元社／978-4-422-40017-7／地球環境問題全般を学べる。
地球環境条約	西井正弘／有斐閣／4-641-04624-7／様々な地球環境関連条約を概説。
デンマークという国・自然エネルギー先進国	ケンジ・ステファン・スズキ／合同出版／978-4-7726-0361-1／デンマークの自然エネルギー学習に適す。
京都議定書の国際制度	高村ゆかり・亀山康子／信山社／978-4-7972-5254-5／京都議定書の制度を知るのによい。
環境展望　1～5巻	日本科学者会議／実教出版／978-4-407-31352-9／各巻に地球温暖化関連の論文を掲載。
地球温暖化を防止するエネルギー戦略	林・矢野・青山・和田／実教出版／4-407-02971-4／デンマークとドイツの温暖化、エネルギー政策
環境と平和	和田武／あけび書房／978-4-87154-084-1／地球環境と戦争や軍備の関係について学べる。
よくわかる地球温暖化問題	気候ネットワーク／中央法規／／
地球温暖化の予測は正しいか？	江守正多／／／
市民・地域が進める地球温暖化防止	和田武・田浦健朗／学芸出版／／
グリーンニューディール～パーフェクトレビュー	末吉竹二郎／読売新聞社／9784860181703／オバマのグリーンニューディール政策の解説

上記のほかに、講義中にも紹介する予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際期間：国連環境計画；http://www.unep.org/、IPCC；http://www.ipcc.ch/、国際再生可能エネルギー機関；http://www.irena.org/ドイツ環境

省；http://www.bmu.de/、
国内機関：環境省；http://www.env.go.jp/、資源エネルギー庁；http://www.enecho.meti.go.jp/、NEDO（新エネルギー産業技術開発機構）；http://www.nedo.go.jp/、 気候ネットワーク；http://www.jca.apc.org/kikonet/、自然エネルギー市民の会；http://www.bnet.jp./pare/、など。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

疑問、質問等があるときは、授業終了後に、直接，やりとりするのが望ましい。そのほうが理解もしやすい。

その他 / Others

地球環境問題は学生諸君の未来を左右する。国際社会や日本が適切な政策を選択するために、それを主張する市民の声が不可欠である。自主的、積極的に学んでほしい。

国際産業論（S）

15533

担当者名 / Instructor　高嶋 正晴

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業は、国や地域の経済的な基盤をなす。このシンプルな事実を念頭においておきたい。グローバル化の進展とともに、産業のあり方は近年、大きく変わってきた。すなわち、人やモノ、サービス、マネー、情報・思想などのグローバル化に乗じて新しい産業が現れ、多様化するとともに、企業はその活動を国外に拡大してゆき、グローバル／リージョナルに多種多様なネットワークを形成して、熾烈な国際競争を展開している。

この講義では、現代の産業のあり方について、グローバルかつローカルな視野から、また、組織論的な視点や政策論的な視点をも取り入れて、多面的かつ分野ごとに具体的に理解することをねらいとする。そこでは、その社会的インパクトについての分析も忘れてはならないだろう。「産業＝国・地域の経済的基盤」との観点から、企業・産業のグローバル化は、（人びとの暮らしにとって）いかなる意味を持ち、そして、持続可能な経済社会の実現のために企業・産業のグローバル化の望ましいあり方とはどうあるべきか、そして、企業・産業はその社会的責任をいかに果たすべきか、また、私たちはこれらの問題にどう関わりうるのか、といった諸論点について考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）グローバル化のなかで現代の産業のあり方がどのように変化してきたのか、理解できるようになる。
2）企業のグローバル／リージョナルな活動とそれを規定する諸要因について、具体的な事例をふまえつつ理解できるようになる。
3）産業のグローバル化の社会的インパクト（産業空洞化、雇用）について理解を深め、考えられるようになる。
4）企業および産業のグローバルな社会的責任に関する取組みについて理解できるようになる。
5）「連帯経済」など、新しい経済産業のあり方や取り組みについて理解できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション―グローバリゼーションのなかの現代産業の変貌と私たちの暮らし―	産業とは何か？分業とは何か？経済のグローバリゼーションとは何か？それらは私たちの暮らしと、どのようにつながっているのか？
2	現代の企業の特質について―フォード主義とポストフォード主義―	グローバリゼーションを可能にした、現代ならではの企業の特質とは何か。合理化、規格化、分業などを手がかりに考えてみよう。
3	企業活動のグローバリゼーション	企業の活動がグローバルになるということはどういうことか？国際的な経済のルール、貿易、投資、生産、マーケティングはどのように連関しているのか？
4	生産のグローバリゼーション①	生産がグローバルになるということはどういうことであり、どのようにしてそれが展開されるのか？何がそれを可能にするのか？輸出するだけにとどまらず、なぜ生産がグローバルになるのか？
5	生産のグローバリゼーション②	生産がグローバルになることで、進出国社会、受入国社会にそれぞれどのような変化が生じるのか。輸出加工区の存在や現状、また、産業の空洞化などを手がかりに考えてみよう。
6	生産のグローバリゼーション③	産業の空洞化とはそもそもどのような現象なのだろうか。また、日本においては産業の空洞化はどのように進行してきたのだろうか。また、現在、打開策としてどのようなことが考えられているのだろうか。
7	金融のグローバリゼーションと産業のグローバリゼーション	国際的な金融市場の国際化とその発達はどのように進んできたのだろうか。そして、それは、産業のグローバル化とどのような関係があるのだろうか。グローバル都市はそこにおいてどのような役割を果たしてきたのだろうか。
8	製造業の国際的状況と日本のものづくり①	機械産業や自動車産業などを事例として、ものづくりのあり方、とくに、クラスター形成、すり合わせ戦略、アーキテクチャといった概念について学ぶ。
9	製造業の国際的状況と日本のものづくり②	前回と同じく自動車産業について、自動車産業の特性、国際生産および市場の発達などについて学ぶ
10	製造業の国際的状況と日本のものづくり③	前回に引き続き、自動車産業を事例として取り上げる。エネルギー転換や環境配慮技術の動向をふまえつつ、今後の展望について考えてみたい。
11	製造業の国際的状況と日本のものづくり④	エネルギーやリサイクルなど、環境配慮型の技術を援用した新しい産業形態に注目し、その国際的な動向、課題、展望について考えてみたい。

12	国際観光業―日本のインバウンドツーリズムを中心に―	観光業の特性と国際観光市場の発達を踏まえつつ、現在日本において国レベル、地方レベルで取り組まれている事例をもとに、日本のインバウンドツーリズムの特徴や課題、展望を考えてみたい。
13	東アジアの地域主義と産業クラスター形成	東アジアの地域主義・経済統合・地域共同体とはどのようなものか。また、事例として、東アジア経済交流推進機構の取り組みについて見てみたい。
14	国際的な連帯経済―フェアトレードを中心に―	途上国産品の生産を公正な価格取引を通じて支援し持続可能にするという、フェアトレード（公正な貿易）が高度化してきているが、日本におけるその取り組みの現状について知るとともに、今後の課題、展望についても考えてみたい。
15	産業のグローバル化の現代的な意味と今後の展望について	これまでの講義を振り返りつつ、産業のグローバル化の現状と課題、そして今後の展望をどのように考えるか。とりわけ、産業のグローバリゼーションに対して、私たちはどのような対策があるのだろうか。CSRや国連グローバルコンパクトなどを手がかりに考えてみたい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講者数が少ない場合には、小レポートをもとにした発表の機会を設けることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義内容を理解するだけでなく、それらをふまえて自分なりに考えることができているかを考査する。
平常点評価	40 %	うち20%は、講義に関連した文献をもとにしての小レポート。残る20%は、講義時のコミュニケーション・カードへの記入。

平常点評価について。小レポートで利用する文献については、講義中に指示する。また、単なる出席ではなく、コミュニケーション・カードへの記入で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

図書館で、『日経新聞』や、より専門的な『日経産業新聞』、『日経MJ』、また、『エコノミスト』、『ダイヤモンド』、『東洋経済』、『日経ビジネス』、『ジェトロセンサー』といった週刊経済雑誌などをチェックしてみよう。

また、たとえば、受講生それぞれにとって身近なブランドについて興味を持って調べてみるといったことから、そのグローバルな活動の内容と問題点、あるいは、産業のグローバル化の事例と展望について考えてみてほしい。

教科書 / Textbooks

全体を通じて利用する教科書は定めないが、参考書を講義内容に応じて適宜活用し、その都度明示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
通商白書、中小企業白書、ものづくり白書、各年版	経済産業省（編著）／／／経済産業省のHPでも閲覧可能 。
The Global Shift, 5th ed.: Mapping the Changing Countours of the World Economy	P. Dicken／Sage／ 9781412929554(ペーパーバック版)／経済地理学者による、定評のあるテキスト。原著第3版（1998年）の邦訳がある（『グローバル・シフト』古今書院、2001年）。
Global Sociology, 2nd ed.	R. Cohen, P. Kennedy／Palgrave／9781403948458(ペーパーバック版)／グローバル社会学の定評あるテキスト。原書初版（2000年）の邦訳がある（『グローバル・ソシオロジー』平凡社、2003年）。
新版 グローバリゼーション	M・スティーガー／岩波書店／9784000269049／グローバリゼーションに関する定評ある入門書。オックスフォード大学出版局の《1冊でわかる》シリーズ。原著第2版（2009年）の邦訳書。この講義の担当者も翻訳に関わっています。
グローバル資本主義―危機か繁栄か―	R・ギルピン／東洋経済新報社／4492442804／国際政治経済学の《現実主義》の重鎮による1冊。より学術的なものとしては、Global Political Economy: Understanding the International Economic Disorder (2001) がある。
連帯経済―グローバリゼーションへの対案―	西川潤、生活経済研究所（編） ／明石書店／9784750326207／
マイクロ・ファイナンスのすすめ―貧困・格差を変えるビジネスモデル―	菅正広／東洋経済新報社／9784492443538／
CSA　地域支援農業の可能性―アメリカ版地産地消の成果―	E・ヘンダーソン、R・エン／家の光協会／9784259518127／
地域再生の経済学―豊かさを問い直す―	神野直彦／中央公論新社／4121016572／中公新書

現場発 ニッポン空洞化を超えて	関満博／日本経済新聞社／9784532191801／日経ビジネス人文庫
フラット化する世界―経済の大転換と人間の未来― 【増補改訂版】	T・フリードマン／日本経済新聞社／／
グリーン革命―温暖化、フラット化、人口過密化する世界―	T・フリードマン／日本経済新聞出版社／／
コトラー＆ケラーのマーケティング・マネジメント 第12版	P・コトラー＆K・ケラー／ピアソン・エデュケーション・ジャパン／／
MITチームの調査研究によるグローバル企業の成功戦略	S・バーガー／草思社／4794215258／
ネクスト・マーケット	C・K・プラハラード／英治出版／4901234714／BOPビジネスを知る1冊。
マクドナルドはグローバルか―東アジアのファーストフード―	J・ワトソン（編）／新曜社／4788508362／グローバルに展開するマクドナルドだが、その地域地域での戦略や受容のされ方は実は色々なのだ、という。
サービス多国籍企業とアジア経済	関下・板木・中川（編）／ナカニシヤ出版／4779501156／
クリエイティブ資本論	R・フロリダ／ダイヤモンド社／9784478001738／
日米企業のグローバル競争戦略	塩見・橘川（編）／名古屋大学出版会／9784815805982／
経験経済―脱コモディティ化のマーケティング戦略―	B・J・パイン＆J・H・ギルモア／ダイヤモンド社／4478502579／《経験経済》はコモディティ的な工業経済を超える新しい経済。
フェアトレード―倫理的な消費が経済を変える―	A・ニコルズ、S・オパル／岩波書店／9784000246358／フェアトレードについてのまさしく標準的なテキストと呼べるもの。フェアトレードから慈善の要素をいかにして抜き取りうるのか。
世界を変えるデザイン―ものづくりには夢がある―	S・スミス／英治出版／9784862760586／デザインが生活を、世界を変える。
脱「ひとり勝ち」文明論	清水浩／ミシマ社／／太陽電池と電気自動車が切り開く未来。
グローバル化をどうとらえるか―ガヴァナンスの新地平	D・ヘルド、ケーニッヒアーチブージ／法律文化社／／この講義との関連では、第4章「埋め込まれた自由主義のグローバル化―企業との関係」が重要。
新版　ブランドなんか、いらない	ナオミ・クライン／大月書店／／
コークの味は国ごとに違うべきか	パンカジ・ゲマワット／文藝春秋／／世界で進行しているのは、フラット化ではなく、国ごとの差異がなおも有意な「セミ・グローバリゼーション」だという。
いよいよローカルな時代	ヘレナ・ノーバーグ=ホッジ、辻信一／大月書店／9784272320356／

上記のなかから少なくとも1冊ないし2冊を選択して読み、小レポートを作成すること。受講者数が少ない場合には、この小レポートをもとにした発表の機会を設けることもある。これ以外の文献については、適宜、紹介するようにする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

経済産業省　http://www.meti.go.jp/
国土交通省　http://www.mlit.go.jp/
農林水産省　http://www.maff.go.jp/
日本貿易振興機構（JETRO＝ジェトロ）http://www.jetro.go.jp/indexj.html
財団法人日本経済団体連合会（経団連）http://www.keidanren.or.jp/indexj.html
トヨタ自動車　http://www.toyota.co.jp/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本は、授業時とする。

その他 / Others

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15376

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションがますます進行し、サブプライムローン問題やリーマン・ショックを契機とする世界的恐慌への対策においてもG20などの国際的政策協調が不可欠となっていますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子　著　／東信堂(2003年)／／
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース　著・武者小路公秀(代表) 監訳　／藤原書店(2000年)／／
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫　編著／ミネルヴァ書房(1999年)／／
ILOとジェンダー	戸塚悦朗　著／日本評論社(2006年)／／
ILOの創設と日本の労働行政	吉岡吉典　著／大月書店(2009年)／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

修学館3階の個人研究室361号室(深澤)のドアの箱にメモを入れて置いて下さい。

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

15344

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	国際社会論とは何か、国際理解度について
2	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3	グローバル化とリージョナル化	EU，NAFTA，東アジア
4	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか
5	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
6	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
7	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
8	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困とはなにか、人間の安全保障
9	グローバル化と人間開発－1	開発の歴史、経済開発から人間開発へ
10	グローバル化と人間開発－2	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
11	グローバル化と国家（EUから見る）	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
12	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
13	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
14	日本における市民権問題	外国人参政権問題をどう考えるのか
15	どのようなグローバル化なのか？	先進諸国と発展途上国に共通な課題とは？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。レジュメに基づいて行う。参考文献は適時、知らせることとする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する。
平常点評価	20 %	出席を3～4買取、それを点数化する

出席を上記のように取るので、出席することが望ましい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳　／法律文化社 ／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会 ／／
『安心社会を創る』	篠田・宇佐見編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D.コーテン（西川訳）／シュプリンガー東京 ／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬 ／岩波新書 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15428

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「参加」という概念はわかるようでわからない。当たり前のことのようでもあり、そのくせ私たちの日常とは縁遠いもののように思われてもいる。
「参加」といえば、数十年前までは「政治参加」を指していたが、その後、時代の変化の中でその概念は変容拡大し、いまでは「私が(私たちが)まわりの人と協働しつつ公益的領域で、自分のまわりの環境生成に主体的に関わるような在り方」のすべて(当然、政治への関与も含む)を示すようになっている。…要するに、「自分たちに関わる身近な事柄を、話し合い、わかりあい、協働して、決める・変える・創る・運営する」考え方や仕組みのことだから、じつはとても身近なこと。たとえば、近所どうしで暮らしのルールをつくったり、コミュニティでわが町のことを考えたり、一緒に公園整備をしたりすることも「参加」。
本講義では、身の回りの環境創造活動(まちづくり)における住民参加・住民主体の優れた事例を通して、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、コミュニティの意義、公共とはなにか、などについて考えていく。考えるだけでなく、どうやったら「一人ひとりが機嫌よう暮らせる」ようになるのか、そのための取り組み方や方法(参加のデザイン)の習得を目指す。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす(デザインする・マネージメントする)態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
2	参加を考えるワークショップ	なんで「参加」なんやろぉ…みんなで考える「参加」の発見たいむ
3	ワークショップの振り返り	「参加」をめぐる課題の発見と整理
4	参加の事例をみて考えよう…幻灯会(パート1)	コーポラティブハウジング(住み手参加の住まいづくり)ユーコートの事例を見る
5	「参加」の事例を見て考えよう…幻灯会(パート2)	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
6	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(1)
7	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(2)
8	中間まとめ	ユーコートを通して「参加」を考える
9	インターメッツォ…幻灯会	日本のコーポラティブハウジング
10	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	真野まちづくりを可能にした背景
11	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
12	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加(コミュニティのなかに居場所がある状況)
13	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
14	参加の手法を学ぶ	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例をまなぶ
15	まとめ	参加の哲学をもとう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義規模が許せば、応答型講義(質問をもとに講義を進める)を行いたい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には、成績は、提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。評価基準はレポート課題時に発表します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第2週のワークショップ、および第5週・第3週の幻灯会は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

産業社会学（S）

15403

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の社会学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、企業社会／新自由主義社会がいかなる変容をするのかを問題意識としつつ、働くこと、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1　生活スタイルにかかわる社会学理論を理解する。
2　日本人の生活スタイルの今までとこれからを理解し解明する。
3　生活スタイルを通して日本社会の今までとこれからを理解し解明する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学、コア科目（現代と社会）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の産業社会学について	産業社会、産業社会論、産業社会学
第2回	1現代社会と生活スタイル　−1生活スタイルとは	生活スタイル、社会的生活諸過程、生活空間／生活史　生きること、価値
第3回	1現代社会と生活スタイル　−2生活スタイルの社会学理論（ウエーバー／マルクスの思考）	エートス、合理性、カリスマの日常化、疎外、私有財産
第4回	1現代社会と生活スタイル　−3生活スタイルの社会学理論（リースマン、ゴールドソープの思考）	他者志向、本来的志向、手段的志向
第5回	2日本社会と生活スタイル　ー1日本的なるもの	日本的集団主義、間人主義、日本人のルーツ
第6回	2日本社会と生活スタイル　ー2私生活志向と企業志向	私生活志向、本来的仕事志向、企業志向、閉ざされた／開かれた
第7回	2日本社会と生活スタイル　ー3両方志向	2つの両方志向
第8回	2日本社会と生活スタイル　−4自立性と共同性（競争社会の陥穽）	自立性、共同性（公共性）、閉ざされた／開かれた、競争原理
第9回	3日本社会と日本人の諸層　−1格差社会と階層化（「勝ち組」／「負け組」	格差（拡大）、階層、移動
第10回	3日本社会と日本人の諸層　−2格差社会と階層化（一億層中流と階級）	中流、階級、世界システム、正規ー非正規、ワーキングプア、失業
第11回	3日本社会と日本人の諸層　−3女性のすがた（社会的進出）	M字カーブ、逆U字カーブ、男性参加
第12回	3日本社会と日本人の諸層　−4女性のすがた（世界のすがた）	スエーデン型（男性参加）、オランダ型（ワークシェアリング）
第13回	3日本社会と日本人の諸層　−5若もの／子どものすがた（教育と雇用）	ゆとり教育／つめこみ教育、フリーター／ニート
第14回	3日本社会と日本人の諸層　−6若もの／子どものすがた	情報消費社会、若ものの労働／余暇観
第15回	生活スタイルの今後（日本社会のこれから）	第3の道、日本型第3の道？、日本型福祉国家

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の内容の理解に関して試験
平常点評価	20 %	講義へのコメントは、評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

時々、授業の理解についてコメントを書いてもらう。授業の最後に書いたり、ペーパーを持って返り授業外で書いてもらい、翌週の授業で提出することもある。

教科書 / Textbooks

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『変容する企業と社会―現代日本の再編―』	浪江巌・木田融男・守屋貴司編／八千代出版／／
『転換期の人間と社会』	佐々木嬉代三・中川勝雄編／法律文化社／／
『変貌する社会と文化』	木田融男・佐々木嬉代三編／法律文化社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業後に直接か、必要な場合はweb-ctで行う

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S） § （副）資源エネルギー論（F）

12814

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
2	地球環境問題概説　1	温暖化
3	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
4	自然史の中の人間	進化　自然
5	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
6	資源とエネルギー2	風力発電　電力コスト
7	再生可能エネルギー3	太陽光発電　電力支援政策
8	再生可能エネルギー4	ネットワークと電力自由化
9	原子力問題	原子力　放射能
10	資源とリサイクル　1　概論	3R　資源　リサイクル
11	資源とリサイクル　2　PETとプラスティック	容器包装法　PET
12	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
13	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル　携帯
14	資源とリサイクル　5　石油	石油　石油化学
15	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エネルギーと私たちの社会	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン　／新評論 ／ISBN4-7948-0559-4 ／
新・地球環境論	和田武 ／創元社 ／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時追加で紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

自我論 (S)

12925

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義は「日本的集団主義」を取り上げる。その際、考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた一種の集団主義とはいかなるものであり、その中に生きている我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、日本的集団の特性が、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となってはいないかという関心を持ちつつ、日本的集団主義に対する批判的検討を試みたい。

近年「個人化」をめぐる議論が盛んであるが、日本社会が持つ独特の近代的特質の中で再構築された一種の集団主義は、依然として根強いものがある。日本において今後どのように「個人化」が進行するのかについての洞察を得るためにも、「日本的集団主義」に対する批判的検討を踏まえておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の目的・方向性・手法についての説明	
2	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)①	「集団主義」と「個人主義」
3	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)② 日本社会の組織化原理(テキスト第4章)①	「集団主義」と「個人主義」 間柄主義
4	日本社会の組織化原理(テキスト第4章)② コミュニケーションペーパー(1)	間柄主義
5	コミュニケーションペーパー(1)へのレスポンス	
6	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)①	日本社会の「原組織」
7	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)② 日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定①	日本社会の「原組織」 コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
8	日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定② コミュニケーション・ペーパー(2)	コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
9	コミュニケーション・ペーパー(2)へのレスポンス	
10	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)①	社会規範、甘え
11	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)②	社会規範、甘え コミュニケーション・ペーパー(3)
12	コミュニケーション・ペーパー(3)へのレスポンス	
13	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)①	日本的集団主義の国際性
14	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)② コミュニケーション・ペーパー(4)	日本的集団主義の国際性
15	コミュニケーション・ペーパー(4)へのレスポンス 講義の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

コミュニケーション・ペーパーは成績評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本的集団主義	濱口恵俊　他／有斐閣／4-641-02297-6／すでに絶版

テキストは既に絶版となっているので、テキストとして使用する章についてはこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で随時紹介する。各自の関心に沿って取捨選択してもらえばよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会ガバナンス論 (S)

15422

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	組織分析、組織連関分析
第6回目	ネットワークの変化という視点から見る行政改革	ネットワーク、資源の交換
第7回目	政策ネットワーク	コーディネート
第8回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之　／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

社会階層論 (S)

12807

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会思想 (S)

15415

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題圏、はますます複雑かつ矛盾を内包する分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「環境思想」や「働く事（労働）の人間的意味」などの課題を、自由論・平等論・社会契約論など社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題に基づき、現代社会を把握する「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい思考能力・論述能力を身につけるための努力を期待する。マイナスをプラスに、ピンチをチャンスに変換するための柔軟かつ強靭な思考力の獲得を目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会（科）学の基礎理論。社会（科）学の歴史。社会理論系の科目。とくに環境論、労働論、自由論などの基礎知識。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	シラバス解説、評価方法、参考文献紹介
2	環境思想総論と基本的課題	ディープ・エコロジー・COP15
3	「自然の権利」と環境思想	「自然の権利」
4	「環境的正義」の思想	社会契約論、平等論、正義論
5	「持続可能な成長」と環境思想	持続的成長社会、「不公平・不利益をこうむるリスク」
6	「人間の安全保障」と環境思想	Human Security（HS）、自然権、生存権
7	中間まとめ　小論文　質疑・討論	小論文課題「前半の講義で最も関心を持ったテーマについて小論文にまとめなさい」、字数1200程度。文献資料等の持込可。
8	社会思想と「労働」の意味	「労働思想」「ホモ・ファーベル（工作人・制作人）」論、人間労働論の形成
9	「労働思想」の展開、「宗教と労働」	宗教における労働・職業意識
10	近代社会と「労働思想」の発展	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の形成
11	現代社会と「労働思想」の諸問題	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の再検討
12	社会思想と「自由」の諸問題	「自由」の思想史的背景
13	近代社会と「自由」	理念としての「自由」VS　現実としての「自由」（B.クローチェ）
14	近代社会と「自由」	思考としての「自由」VS　行動(実践)としての「自由」
15	現代社会と「自由」・講義まとめ	期末レポート注意事項（詳細は掲示事項を参照）「感想文・エッセイとレポート・論文との違い」を自覚して作成すること。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ（たとえばステレオタイプの実例など）についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	40 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。CPなどでの質問やコメントを歓迎します。すぐれた質問やコメントは平常点に加算します。CPは出席カードではないので、氏名以外の文章記述が無いものや、きわめて不十分なものはCPとしての平常点評価は行いません。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レ

ポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。このシラバスを熟読して欲しい。シラバスは受講生の学習･研究を支援するためのものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど文章力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境思想とはなにか	松野弘／ちくま新書／／環境思想論の基本的文献
環境思想を学ぶ人のために	加茂直樹／世界思想社／／環境思想論の解説書
緑の政治思想	ドブソン／ミネルヴァ書房／／現代的環境思想論の基本文献
ホモ・ファーベル	ティルゲル／社会評論社／／人間労働に関する文明論的な解説書
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／前書の意義についての論文を収録
近代の労働観	今村仁司／岩波新書／／近代的労働観の概説
働くことの意味	橘木俊詔／ミネルヴァ書房／／現代的労働･職業意識の考察
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	ヴェーバー／岩波文庫／／労働観・職業観についての古典的名著
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／未来社／／近代史における自由の意義を考察
19世紀ヨーロッパ史	クローチェ／創元社／／19世紀ヨーロッパにおける「自由」論の考察
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法大出版／／「思想としての自由」論の意義を考察

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。環境思想、労働観･職業観・自由論に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。CPでの質問も歓迎します。次の講義においてレプライの時間を設けます。大規模講義なので、講義内での質疑だけでは時間的な制約のため不十分なので、CPを活用して、レプライの時間を講義に組み込みます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本講義でとりあげるテーマは日本語だけでなく海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。小論文や期末レポートでの不正行為（コピペや盗作など）は、厳禁します。発覚した場合は失格とします。不十分でも自己の努力で作成してください。自力作成にはかならず達成感という喜びを実感する事ができます。

社会病理学 (S)

15359

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「基礎社会学」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代社会の功罪
2	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
3	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
4	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
5	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
6	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
7	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
8	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
9	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
10	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
11	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
12	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
13	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
14	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
15	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15400

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことです。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとします。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げます。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないと考えるからです。その視点から、現代社会における様々な社会文化現象（例えばオタク系文化、ポピュラー音楽、スポーツ文化等）を解明していきたいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1――フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2――フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3――フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4――大衆文化論・消費社会論	カルチュラル・スタディーズ　ホガート　ウィルス　スチュアート・ホール
5	社会文化をとらえる視点4――ポピュラー音楽論	ヘブディッジ　フリス　ロックの政治学　パンク
6	音楽の社会文化――ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
7	音楽の社会文化――ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
8	音楽の社会文化――ジャズ論3	アドルノ批判　ブリコラージュ
9	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　マンガ小史　「萌え」
10	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化2	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
11	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化3	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
12	コミュニケーションの現在――ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
13	コミュニケーションの病理――いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
14	身体の社会文化――スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
15	社会文化論のまとめ――新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終回に学習到達度を最終的に確認するテストを行う。評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
討議と承認の社会理論	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります。
批判的社会理論の現在	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／同上。
文化論のアリーナ	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／幅広く社会文化論の理論研究の参考となります。
社会文化理論ガイドブック	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／同上。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業終了後、話しかけてください。その時、相談時間を指定します。
後日、私のメールアドレスを研究室のドアに張り出します。（件名には「社会文化論」とつけてください。件名のないメールは読むことができません）。
後日、オフィス・アワーの時間を研究室のドアに張り出します。（オフィス・アワーは学生の皆さんが、大学での勉強に関して何でも相談に来ることができる時間です。気軽に活用してください。できれば事前にアポイントメントを取ってください）。
その他、研究室で空いている時間にはご相談ください。

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15366

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業を試みたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己自身の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験 ・記憶・村上春樹の文学
2	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化 、空虚化と暴力による補償的存在充実、村上春樹の文学、三島由紀夫の文学
3	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認 村上春樹の文学、三島由紀夫の文学, ジョン・レノンの歌Strowberryfield for ever
4	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊 、可能性意識の縮減と孤立感、仲間性の人間学
5	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌 Oh my love , Love	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
6	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟、ジョン・レノンの歌Mother　Help
7	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
8	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
9	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
10	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
11	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
12	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換、黒澤明作品「生きる」
13	実存と意味欲求	実存、意味、ニーチェ
14	文学と倫理　三島由紀夫と村上春樹のあいだによこたわるものとしてのニーチェ	三島由紀夫、村上春樹、ニーチェ
15	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	

平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出数 授業中に出すミニレポート課題への取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど、別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

立命館大学生協書籍部で販売

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kiyoshi@kindai.ac.jp

その他 / Others

住民自治論（S）

12920

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地方分権改革論議のなかでとくに問われているのは、国から地方への権限委譲の受け皿としてある地方自治体の行政能力とともに、その地域で暮らす住民の自治能力である。住民参画や合意形成にもとづく地域社会の住民自治が成り立ってこそ、真の分権型社会への展望もまた見いだされる。

本講義では、かかる観点から、規制緩和や分権改革という流れのなか、官民協働のローカル・ガバナンスが期待される現状において、それを下支えする「住民自治」とは何かということをあらためて問い直すべく、「市民自治」や「地方自治」など「自治」をめぐるこれまでの議論と実際を検証しながら、その本質について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）「市民自治」をめぐる歴史と思想を習得することを通じて、前近代から近代への世界史的な変遷のなかで、各時代における「自治」という概念が示唆していた事象を把握することができる。

（2）日本の近代史を紐解くなかで、日本の「地方自治」の生成・発展の諸相を、地方自治をめぐる制度の動向にもとづきながら理解することができる。

（3）日本における「住民自治」の担い手として、これまで有力であった伝統的地域住民組織の成り立ちやその役割の変遷を把握するとともに、近年における地域社会の新たなアクターとして注目されている市民活動組織との比較において、自治のあり方を再検討することの可能性を見いだすことができる。

（4）ローカル・ガバナンスの現状と課題を、英国および日本の地域社会における具体的な事例から学び、住民自治の担い手として主体的に関わっていける方途を考えることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション―「自治」とは何か	市民自治、地方自治、住民自治、セルフガバメント
2	「市民自治」の歴史と思想（1）―古代都市国家と市民自治―	古代ギリシア・ローマ、ポリス、市民自治
3	「市民自治」の歴史と思想（2）―中世ヨーロッパの都市と市民自治―	中性ヨーロッパ、自治権、自治都市、コミューン
4	「市民自治」の歴史と思想（3）―国民国家の誕生と近代自治思想―	近代国民国家、ナショナリズム、中央集権体制
5	日本の近代と「地方自治」の歩み（1）―幕藩体制から明治維新へ―	むら、地方制度、市制町村制、府県制郡制
6	日本の近代と「地方自治」の歩み（2）―明治期から戦時体制へ―	国家統制、「地方自治制」の改編、国家総動員
7	現代日本における「地方自治」の変遷（1）―日本国憲法の制定と戦後改革―	日本国憲法、地方制度改革、地方自治法
8	現代日本における「地方自治」の変遷（2）―高度成長期と住民運動―	高度経済成長、革新自治体、公害問題、都市問題、住民運動
9	現代日本における「地方自治」の変遷（3）―地方分権改革と住民自治―	地方分権一括法、機関委任事務制度の廃止、地方の時代
10	「住民自治」の担い手としての地域自治組織―伝統的地域住民組織としての町内会・自治会の役割―	伝統的地域住民組織、住民自治、部落会、町内会、自治会
11	「住民自治」と「市民自治」（1）―自治体内分権にみる新たな「市民力」―	自治体内分権、市民活動、ボランタリズム、NPO
12	「住民自治」と「市民自治」（2）―住民がつくる市民的公共の地平―	「私」と「公」、「共同」と「公共」、ローカル・デモクラシー
13	「住民自治」と「市民自治」（3）―ローカル・ガバメントからローカル・ガバナンスへ―	基礎自治体改革、ローカル・ガバナンス、参加、協働
14	ローカル・ガバナンスと官民パートナーシップ（1）―イギリスの事例―	パートナーシップ、地域再生、イギリス
15	ローカル・ガバナンスと官民パートナーシップ（2）―日本の事例―	自治と参加・協働の現場

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で配布するプリントや資料は限られた時間内では消化しきれないため、講義後にも隅々まで目を通しておくこと。また、講義は本テーマをより深く考えていくための素材を提供する契機であるため、上記の参考書以外にも、関連する文献・資料を自ら熟読して、知見を豊かにしていくこと。さらに、講義内容は、歴史学や行政学、政治学、経済学などの隣接諸科学にも触れることになるので、それらの分野の基礎知識も視野に入れておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問と小論形式で、授業全体を通しての受講者の理解度を把握する。小論では、論理的思考力と独創性を評価する。
平常点評価	20 %	授業の節目において数回の小レポートを課すが、コメントシートとして、質問や感想を求めるものである。

講義では、コメントシート以外に口頭で意見を求めることもある。その際、「わかりません」という即答は避け、頭を働かせること。また、受講にあたっては、自主性と協調性がありかつ積極的に関与できること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

地域社会の「自治」をめぐる諸事象・問題に関心を持ち、日頃からそれに関する新聞やテレビのニュース・話題に接し、社会的想像力を働かせて自分自身の考えや行動の指針を表明できるようにしておくこと。また、「自治」は、「市民」とともに社会科学のキーワードでもあるため、古今東西の文献や資料を読み解きながら、自らの「自治」力を身につけ実践していくことが望まれる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、プリントおよび資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民自治の歴史・思想と哲学	小滝敏之著／公人社／9784861620508／2008年
日本の地方自治 その歴史と未来	宮本憲一著／自治体研究社／9784880374352／2005年
新しい公共性と地域の再生	山崎怜・多田憲一郎編／昭和堂／4812205417／2006年
住民と自治	自治体問題研究所編／自治体研究社／9784880379371／各月刊
コミュニティ政策	コミュニティ政策学会編／東信堂／1348608X／各年報

上記以外の参考文献は講義の中で適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本地方自治学会ホームページ　http://wwwsoc.nii.ac.jp/localgov/
内閣府ホームページ　http://www.cao.go.jp/
上記以外のホームページは講義の中で適宜提示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーに研究室に来室するか、メールで連絡のこと。

その他 / Others

人口論（S） §　生活構造論（S）

12934

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解・予測しうる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」の水準を評価。

授業進行その他の理由で、授業スケジュール・VTR・DVD視聴日などに変更が生じる場合があります。その時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3 ／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待－少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果 ／中公新書／978-4-12-101910-3 ／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版 ／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を、社会学は「新社会学辞典」（有斐閣,1993）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/ （厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名、key wordを入力してアクセス。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

生命倫理学（S）

15537

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により，「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では，生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考える。
本年度はとくに先端医療の発達と「生命の終わり」をめぐる問題に焦点を当て，そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理をめぐる現代的課題を認識する。
・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか，多角的・多元的に判断するための基盤を獲得する。
・「安楽な死」「尊厳ある死」の言説をめぐる問題についての認識を深め，分析し，考察するための観点を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に開講されている同担当者による教養科目「生命科学と倫理」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（1）映画視聴	
3.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（2）論点の抽出	
4.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（1）臓器移植という問題	
5.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（2）「植物人間」がもたらす表象	
6.	カレン・アン・クインラン事件（1）事件の概要と裁判の経緯	
7.	カレン・アン・クインラン事件（2）ヒポクラテスの誓いと医学	
8.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（1）慈悲による死	
9.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（2）ナチス・ドイツ下の「安楽死」計画	
10.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（3）ナチス後の安楽死運動	
11.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（1）自律原則と「死ぬ権利」	
12.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（2）ホスピス・ムーブメントとメメント・モリ	
13.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（3）スピリチュアリティ・ブームとデス・エデュケーション	
14.	隠された問い：経済をめぐる問題	
15.	残された問い：承認をめぐる問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

生命科学と生命倫理に関連する問題は，ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また，医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し，自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生死の問題は，誰もが自分自身の歴史のなかで自分自身を織り込んで考えることのできるテーマである。問題から「自分」を棚上げせず，自身を織り込んで考えることを大切にしつつ，そこにとどまることなく，生死をめぐる社会構造や法理・諸制度の変遷，死をめぐる言説の歴史について，授業で紹介する資料をもとに，各自が自主的・積極的な学習を進めてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
命は誰のものか	香川知晶／ディスカバリートゥエンティワン／／

大谷いづみ『「尊厳死」言説の誕生』(仮題，勁草書房，2010)を刊行予定。後期開始までに出版されていればそれを用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脳死・臓器移植の本当の話	小松美彦／PHP新書／／
死ぬ権利――カレン・クインラン事件と生命倫理の転回	香川知晶／勁草書房／／

参考文献は以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神分析論（S）

20228

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。

私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表するフロイトとアードラーとユングの三人三様の生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開： フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第11回の後半から始まる可能性がある。
第13回	精神史における無意識と心理療法	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③すべてを提出し、いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	検証テストを最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提である。たとえ検証テストの得点が非常に高いものであっても、レポートを提出していなければ、反対に、すぐれた内容のレポートを提出していても検証テストを受験してなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマとして現在の時点で以下のことを考えている。

①授業で取り扱った事柄から一つ選んで、考えるところ。

②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。

③授業の感想。

①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できれば、授業に先立って、WebCTに教材や資料などをアップしておくつもりである。これらやWikipediaなどでの授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題となろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態だが、古書で入手可能。絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫、集英社文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／
ユダヤ教の歴史	市川裕／山川出版／978-4-634-43137-9／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教員の個人HP（検索エンジンに「村本詔司」でヒットする）、http://www5d.biglobe.ne.jp/のトップページ下からメールを送ることができる

その他 / Others

多文化コミュニケーション（S） § 多文化コミュニケーション論（S）

20229

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性ダイバーシティの理論と人権の理解をベースにした参加型研修を体験し、その実施のファシリテーション力を養う。コミュニケーションの様々なツールを人権尊重の環境に活かす方法を学ぶ。グループワークへの積極的な参加が求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

1、ダイバーシテイの概念を理解する
2、参加型研修のファシリテーターとして必要な理論と方法とスキルを学ぶ
3、ダイバーシティ参加型研修の具体的方法を学ぶ
4、トレーナー・ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ
5、コミュニケーション力、リーダーシップ力をつける方法を学ぶ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の目的と目標、 約束事の確認　アイスブレーカー	ダイバーシティー　参加　尊重　守秘　時間
第2回	多様性（ダイバーシティ）人権参加型学習の理論	フレームワーク：多様性受容力の三つの輪
第3回	参加型研修の4要素	目的　構成　行動　配慮
第4回	アイスブレーカー　グループで「エンパワメント」「人権」についての話し合い	受講者によるテキストの報告も含む
第5回	気づきの研修：アクティビティ「有名人クイズ」その他	
第6回	気づきの研修	アクティビティ「さかさま文字」「マットの物語」その他
第7回	アイスブレーカー　トレーナー・ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具	
第8回	グループアクティビティ「差別と区別のちがい」「日本が多文化・多人種社会になったら」	ダイバーシティの理解を深める
第9回	アイスブレーカー　知識の研修	アクティビティ　セクシュアルハラスメント・プレテストを使って意見を交わす
第10回	マインドマップの作成	自分を知るツール、 情報整理のツール、 速読のツール
第11回	スキルの研修　コミュニケーション	コミュニケーションとノイズ　傾聴スキル
第12回	アイスブレーカー　コミュニケーションスキル	アサーティブ・コミュニケーション　対立の仲介者
第13回	多様性社会に求められるリーダーシップ	プレゼンテーション力
第14回	人数が少なければ、3分間スピーチとフィードバックまたはコーチングの基礎	
第15回	授業内テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義、 グループワーク、学生の発表

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価は以下の4つで行います。 出席 授業内での発言 グループワークへの参加度 最後の授業時間にテスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

積極的に発言すること
テキストを事前に読んでおく

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／

習の理論と実践」

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「エンパワメントと人権」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／
「ダイバーティティ・トレーニング・ブック」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-6040-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www. geocities.jp/empowerment9center/
エンパワメント・センター　森田ゆり公式サイト

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電話またはファックス　0798－31－5331 （エンパワメント・センター・オフイス）

その他 / Others

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

都市政策論（G）

15335

担当者名 / Instructor　リム・ボン　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考えるー	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	まちづくりの達人	あるスーパー公務員の実践例
第3回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第4回	壊れゆく歴史街	京都の都心部における景観破壊と住民運動
第5回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第6回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第7回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第8回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第9回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第10回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第11回	リサーチデイ	京都の都心部の景観問題に関するフィールドワーク
第12回	都市の危機管理　⇒　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第13回	排斥の町	米国におけるゲーディッド・コミュニティの実態
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	総括	まとめの講義と質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リムボン他編著／学芸出版社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

都市論 (S)

15327

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

都市工学的、社会学的、文化人類学的方法を用いた都市解析の方法も紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の超再生:歴史都市の光と影の分析	歴史都市とは何か、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	平安京の都市設計思想	風水思想、四神相応、右京と左京、権力と都市計画
第3回	京都の町衆と都市構造	応仁の乱、信長と秀吉、都市改造
第4回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	ニューヨーク⑤・グラウンドゼロの復興計画	9・11同時多発テロ、国際コンペ、ダニエル・リベスキンド
第10回	リサーチデイ	平安京の都市構造を体感するためのフィールドワークを実施する。
第11回	建築家と都市計画	ル・コルビュジエの作品群
第12回	都市の地域性と建築文化	アントニオ・ガウディの建築と生涯
第13回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第14回	ヨーロッパの歴史都市	戦争と都市破壊、そして再生へ ⇒ ワルシャワ、ドレスデンなど
第15回	総括	総論としてのまとめ、質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問主題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

可能な限り最新の情報を提供したいので、授業内容が変更されることがあります。

日本経済論（S）

12801

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－日本経済の概況	
2	市民社会と企業社会	
3	大企業体制の2類型	
4	国家財政の動向	
5	勤労者層の賃金構造	
6	同上．労働諸条件	
7	外国人労働者問題の現状	
8	農民層の経済生活条件	
9	中小企業経営の現状	
10	国民の所得構成	
11	同上．資産構成	
12	社会保障の現状と問題点	
13	住宅・土地問題	
14	まとめ	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較家族論（S）

15349

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家族は労働力の生産・再生産の核である。市場労働、ケア労働の双方が、先進国・開発途上国などそれぞれの地域や国家で、性や年齢によって分配されている。そのシステムが、家族の担う役割、形態や構成、家族と個人の関係の多様性・共通性を産む土壌となることを、近年蓄積されつつある各地の家族や労働に関する調査研究に依拠して、考察する。
その視点から、先進国や途上国の家族と個人を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

各国・地域の家族の多様性を理解すると同時に、それを生み出す土壌について考える際の、ひとつのとらえかたを獲得する。また、その多様性を貫いてジェンダー関係が織り込まれているという共通性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代家族論・比較ジェンダー論・国際家族論と関連しているので、平行して履修してほしい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の多様性ー西欧の家族の変化ー	結婚・家族の貝殻制度化　純粋な関係　民主主義
2-3	1．枠組み1）生産労働・再生産労働のジェンダー分割	資本制・性別職務分離・ヴェロニカ・ビーチー
4-5	枠組み2）資本制生産と家族	再生産労働、社会化
6-7	グローバリゼーションとジェンダーその１） 労働のグローバルなジェンダー編成	マリア・ミース　持続不可能な氷山モデル　主婦化 インフォーマル・セクターの発見
8-9	グローバリゼーションとジェンダー　その2）	南米・中東にみる女性と家族　宗教　マチスモ
10-11	グローバリゼーションとジェンダー　その2）	東南アジアの家族・女性
12-13	再生産労働と国際分業	フィリピンにおける労働力輸出と家族・女性　生き残りの女性化　サスキア・サッセン
14	北欧福祉国家と移民女性	ノルウェー　女性移民　底辺労働
15	まとめ	再生産労働　女性移民　国際分業　家族

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義の理論枠組みの理解度を評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
経済のグローバリゼーションとジェンダー	伊豫谷登士翁編／明石書店／4-7503-1472-2／
世界システムと女性	マリア・ミース／藤原書店／4-89434-010-0／
暴走する世界	アンソニー・ギデンズ／ダイヤモンド社／4-478-19043-7／
第三世界の働く女性	アジア経済研究所／明石書店／4-7503-0793-9／
国際移動と連鎖するジェンダー	伊藤・足立編／作品社／978-4-86182-176-9／

上記は基本文献である。テキストに代るものとして活用する。
レジュメに記載されたその他の文献も参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

下記のアドレスに連絡：
jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較宗教論（S）

12805

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『客家：土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「十戒」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「ヴェニスの商人」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『ヴェニスの商人』（キリスト教徒とユダヤ人）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎　講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」による理解度評価。

授業進行上の理由・その他の事情で、講義スケジュールやVTR・DVD視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、できるかぎりみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍 ／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次 ／講談社学術文庫 ／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫 ／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5 ／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド ／晃洋書房／978-4-7710-1998-0 ／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較政治論（S）

15416

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1980年代以降、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行に伴い、戦後の安定的な経済成長を支えてきた政治経済システムとしての福祉国家は、高失業、貧困や格差の拡大、社会的排除などの新たな課題に直面し、さまざまな政策対応を試みてきた。本講義では、「現代福祉国家の変容」というキーワードのもと、先進諸国に共通する特徴および多様性を把握し、なぜ各国の多様性がもたらされるかを明らかにし、そして今後の改革の方向性を検討することを通じて、政治学の観点から、現代の政治経済システムの特質と動態を理解することを目的とす

到達目標 / Attainment Objectives

・戦後の経済成長を支えてきた段階の政治経済システムの特徴、および、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行という変容圧力に直面した現在の政治経済システムの特徴を理解する
・各段階における先進諸国の多様性を把握し、その背景を理解する
・今後の改革の方向性に関する知見を得る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　比較政治学の課題	特徴の把握と動態の説明
第2回	1　政治経済システムとしての福祉国家－福祉国家の特徴と諸基盤－	福祉国家、埋め込まれたリベラリズム、フォーディズム、戦後コンセンサス
第3回	2　福祉国家の多様性①　北欧諸国	社会民主主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第4回	3　福祉国家の多様性②　アングロサクソン諸国	自由主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第5回	4　福祉国家の多様性③　大陸ヨーロッパ諸国	保守主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第6回	5　福祉国家の多様性④　日本とオセアニア	雇用保障の重視、他の政策手段による社会的保護
第7回	小テストとこれまでの復習	
第8回	6　福祉国家の危機と再編－経済のグローバル化とポスト工業社会への移行－	経済のグローバル化、ポスト工業社会、新しい社会的リスク
第9回	7　福祉国家の危機への対応①　ネオリベラリズム	ネオリベラリズム、新自由主義、新保守主義
第10回	8　福祉国家の危機への対応②　新しい社会民主主義	新しい社会民主主義、第三の道
第11回	9　残された課題と改革の方向性－ベーシックインカムとアクティベーション－	ベーシックインカム、アクティベーション、ワークフェア
第12回	10　比較福祉国家分析の諸アプローチ①　利益中心アプローチ	権力資源動員論、階級交差連合論、資本主義の多様性論
第13回	11　比較福祉国家分析の諸アプローチ②　制度中心アプローチ	福祉国家の新しい政治論、政治制度への注目
第14回	12　比較福祉国家分析の諸アプローチ③　アイデア的要因への注目	新制度論、アイデア的制度論、言説的制度論
第15回	まとめ　現代政治経済システムの特質と動態	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

現代政治経済システムの特質と動態を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階で小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『アクセス比較政治学』	河野勝・岩崎正洋（編）／日本経済評論社、2002年／4818814075／
『比較福祉国家論』	岡沢憲芙・宮本太郎（編）／法律文化社、1997年／4589019973／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介していく。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、比較政治（経済）学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献を参考にしてほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉資本主義の三つの世界』	G・エスピン-アンデルセン（岡沢・宮本監訳）／ミネルヴァ書房、2001年／4623033236／
『曲がり角にきた福祉国家』	C・ピアソン（田中ほか訳）／未来社、1996年／4624300890／
『資本主義国家の未来』	B・ジェソップ（中谷監訳）／御茶の水書房、2005年／4275003926／

講義全体に関する参考文献としては、例えば、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、OECD（www.oecd.org）や政府機関（例えば、総務省統計局www.stat.go.jp、財務省www.mof.go.jp）などのホームページでは、日本や先進諸国の統計情報を得ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

比較文化論（S）

15365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の民族論−日本文化論とネパール先住民文化の比較−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が様々なメディアで目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論を再検討する。さらに、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討から「恥の民族」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も取り上げ、「恥」の現代的意味や「恥の民族」の可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・国民性論の問題点と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と政治、倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥と現代社会、日本とネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える	マルコ・ポーロのジパング、ジャポニスム的言説
3	文化の表象とオリエンタリズム	サイードのオリエンタリズム批判、フーコーの言説、グラムシのヘゲモニー
4	100年前の日本	ナショナル・ジオグラフィック、表象の時代性
5	国民性研究とその問題	ベイトソンによる国民性論、対称型、相補型関係
6	「文化の型」とその問題	文化とパターン、アポロンとディオニソス
7	文化相対主義とその問題	成人儀礼の多様性、サバルタンとは何か
8	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀、恥の文化と罪の文化
9	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係、資格と場
10	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造 、父性と母性
11	日本文化論とイデオロギー	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	文化のイデオロギーとその解釈	アルチュセール 、ギアツによるイデオロギーの把握
13	ネパール先住民の「恥の文化」	先住民チェパン、親族関係、互酬性と再分配
14	「恥の民族」の可能性	アウシュヴィッツにおける恥、絶対的受動性、証人
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業時間外にも講義に関連した文献を

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では文化論を要約して紹介するのではなく、文化論のテキストを出来るだけ丹念に読み込んでいく。要領よく決まったことを理解するのではなく、批判力な読解力が求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R. ／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝 ／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G. ／月曜社／／恥についての論攷を含む

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入して参考にして欲しい。講義では、前三者を通常とは異なる今日的な「読み替え」をおこなっていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

文化人類学（S）

12808

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「資本主義と伝統文化」

資本主義が世界中を覆い尽くす今日の社会では、「世界が狭くなる」ことで逆に、「民族」文化の個性が求められる。それにしたがい日常の様々な場面で「民族らしさ」や「伝統文化」の重要性が論じられるようになる。そうした状況で、資本主義やグローバル化と「民族」の「伝統文化」は対立したものとして捉えられがちで、時には、対立を強調した民族主義的な主張が突出し、資本主義によるグローバル化（あるいはアメリカ企業による「アメリカ化」）を敵とするテロさえ起きる。9.11同時多発テロもそうした一例と考えられる。だが、そのようなステレオタイプ化した語りの中で、資本主義とは何か、「民族」とは「伝統文化」とは何か、問うことはほとんどない。

本講義では、「民族」やその「伝統文化」、資本主義の成り立ちについて、文化人類学、特に構造主義の立場から検討する。そのなかで、「伝統文化」と資本主義が対立せずに、接続される地点を示し、今後の文化のあり方を考察したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化人類学の理論（構造主義以前）の概要を理解する。
・「構造主義（関係論）」がどのような理論か、「構造分析」がどのような方法か理解する。
・「伝統文化」と資本主義の構造とその問題を理解する。
・「文化」、「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、文化人類学の理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」、「比較文化論」を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	資本主義の広がりと伝統への回帰	グローバル化と自由、伝統秩序の崩壊、テロリズム
2	文化とは何か	自然と文化、文化進化論とは何か、機能主義とは何か
3	構造主義と関係論	「構造」概念について、記号の構造、生物の形態、意味の構造
4	神話の構造	二項対立、文化と両義性、トリックスターとは何か
5	儀礼の構造	通過儀礼、コムニタス、試練と暴力がもたらすもの
6	身体加工の構造	身体変工を考える、人間はなぜ服を着るのか
7	贈与と貨幣の構造	贈与の霊とは何か、ゼロ記号、原始貨幣と通貨
8	市と資本主義の構造	沈黙交易、交易港、大航海時代とグローバル化
9	産業社会の構造	フォーディズム、フルライン政策、規格化
10	ファッションの構造	ファッションという表現、美しい身体の誕生、個の過剰
11	民族＝国民の構造	国民国家とは何か、ナショナリズム、人種差別の問題
12	複製文化の構造	アウラの喪失、モンタージュと意味
13	文化相対主義の構造	マリノリティ、先住民の権利獲得、異文化交流の可能性
14	全体のまとめと討論（伝統文化と資本主義の接続可能性）	現代社会と文化
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義理解の補助となる文献を適宜、紹介するので、参考にすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し、抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎 ／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ
文化人類学15の理論	綾部恒雄編 ／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社 ／／関係論の理解に参考
神話と意味	レヴィ＝ストロース ／みすず書房 ／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書 ／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktt21323@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

労働社会学 (S)

12759

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況1	
13	各国の失業の状況2	
14	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
15	フリーターについて考える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

グローバルメディア論（S） § グローバルメディア論（I）

15419

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念的枠組みを、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	テロリズムとメディア①	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	テロリズムとメディア②	日本のテロ史、テロを扱った映画
第8回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第9回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第10回	21世紀のメディアの議題設定者	ニュース価値、世界不況
第11回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第12回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ、ツイッター他
第13回	歴史、記憶とメディア	E.H.カー、コリングウッド、テッサ・モーリス＝スズキ他
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア	ヘリテージ産業、コミュニティ、ボードリヤール
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。

・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。
・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／4－623－03618－9／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。11回目以降はテーマが多岐に渡るため、別途指示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化とは何か～文化・経済・政治～	デビッド・ヘルド編／法律文化社／／
グローバリズムという妄想	ジョン・グレイ／日本経済新聞社／／
増補　想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン／NTT出版／／
オリエンタリズム	エドワード・サイード／平凡社／／
批判的想像力のために～グローバル化時代の日本	テッサ・モーリス＝スズキ／大月書店／／

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室の来室。ただし、来室の際は事前にアポイントを取ること。なおメールアドレスは、
khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニケーション政策論（S）

15380

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、ツイッター、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。
・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。

・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室への来室。ただし来室の際は、事前にアポを取ること。
なおメールアドレスは、khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

12771

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	日常に偏在するコミュニティとメディア	地域メディアとコミュニティ・メディア
第2回	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
第3回	コミュニティ・メディア研究と調査	どんな研究視点や方法があるのか−
第4回	コミュニティ・メディアを事例から考える1	地域SNS
第5回	コミュニティ・メディアを事例から考える2	地方新聞
第6回	コミュニティ・メディアを事例から考える3	ラジオ（AM,FM,コミュニティFM）
第7回	コミュニティ・メディアを事例から考える4	有線放送・親子ラジオ
第8回	コミュニティ・メディアを事例から考える5	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
第9回	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
第10回	災害とメディア　その1	災害とメディアの関係性を考える
第11回	災害とメディア　その2	実際の災害とメディア
第12回	災害とメディア　その3	実際の災害とコミュニティ・メディア
第13回	災害とメディア　その4	今後の災害とコミュニティ・メディア
第14回	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
第15回	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題。
平常点評価	0 %	

レジュメは、コースツールに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。
授業当日は、翌週に使用する関連資料及び当日の補足資料を配付する。きちんと予習しておくこと。
ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。
コミュニケーションペーパーは毎回提出を求めるが、成績には無関係。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇　／世界思想社／／
声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

ジャーナリズム論（S）

12880

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明し批評することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波新書（1997） マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	鎌田慧『反骨のジャーナリスト』岩波新書（2002） ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	玉木明『ゴシップと醜聞－三面記事の研究』洋泉社・新書y（2001）、赤瀬川原平『外骨という人がいた！』ちくま文庫（1992） 黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	吉野源三郎『職業としての編集者』岩波新書（1989） 石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室担当記者OB編『皇室報道の舞台裏』角川oneテーマ21（2002） 皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	田勢康弘『政治ジャーナリストの罪と罰』新潮文庫（1994）、大塚将司『スクープ－記者と企業の攻防戦』文春新書（2004） 記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	西山太吉『沖縄密約－「情報犯罪」と日米同盟』岩波新書（2007） 知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	前坂俊之『太平洋戦争と新聞』講談社学術文庫（2007）、石川文洋『報道カメラマン』朝日文庫（1991） 宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	武田徹『戦争報道』ちくま新書（2003）、柴山哲也『戦争報道とアメリカ』PHP新書（2003） 映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	後藤文康『誤報－新聞報道の死角－』岩波新書（1996）、河野義行・浅野健一『松本サリン事件の罪と罰』講談社文庫（2001） 犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	高山文彦『少年犯罪実名報道』文春新書（2002） スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。コースツールを活用して授業内容に関

する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにコースツールに提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	60 %	講義内容に関連した課題レポートを課します。決められた期日までにコースツールに提出することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはコースツールでの提出となりますので、コースツールが使えるようにしておいて下さい。授業期間中に出される課題レポートを提出しなかった場合は出席していないものと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4-272-33045-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内容に関する質問等はいつでも対応します。できるだけその日の授業が終了した時点で声をかけてください。時間がなくその場で十分な対応ができない場合はメール（syt01970@ss.ritsumei.ac.jp）等で対応します。

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請して使えるようにしておいてください。

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ変動論 (S)

15547

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、近代スポーツという社会現象を可能にした歴史的・社会的諸条件を問い直すことを試みることにある。この試みを通じて、近代スポーツを相対化し、それを再構成する起点を提示する。本講義は、スポーツを成立させる政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととするが、その理解を深めるためのスポーツ事象として、フットボール（サッカー）とフットボール・フーリガニズムを取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は、主にエリアスの社会学理論とそれを基盤とした彼のスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	エリアス社会学講義①:『文明化の過程』を中心に	文明化過程　フィギュレーション
3	エリアス社会学講義②:『宮廷社会』を中心に	宮廷社会　二面的階層　反対運度
4	エリアス社会学講義③:オランダ・エリアス学派のエリアス解釈	オランダの社会統合の変遷　脱形式化
5	エリアスのスポーツ研究①	近代スポーツの社会発生　議会主義　暴力抑制　グットマンとの「対比」
6	エリアスのスポーツ研究②	「見るスポーツ」への関心　狐狩り
7	エリアスのスポーツ研究③	エリアスの「スポーツ・ルール」観　「興奮の探究」としてのスポーツ
8	フットボールとフットボール・フーリガニズム①	近代フットボールの誕生　ジェントルマン　労働者階級
9	フットボールとフットボール・フーリガニズム②	フットボールに対するエリアスの関心
10	フットボールとフットボール・フーリガニズム③	フーリガン登場とその背景　フットボールと国民国家
11	フットボールとフットボール・フーリガニズム④	イギリスにおけるフットボール問題
12	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑤	フーリガニズムとフットボールの近代化
13	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑥	モラル・パニックとフーリガニズム
14	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑦	フーリガニズム・イメージの相対化
15	まとめ	これまでの講義を確認し、近代スポーツを相対化し、再構成する起点を提示。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文明化の過程	ノルベルト・エリアス／法政大学出版局／／
スポーツと文明化	ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング ／法政大学出版局／／
問題としてのスポーツ	エリック・ダニング／法政大学出版局／／
スポーツと現代アメリカ	アレン・グートマン／TBSブリタニカ／／
サッカーの情熱	パトリック・ミニョン／社会評論社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

12817

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

①社会にニュースがどうして必要なのか考えます。
②ニュースがどのように伝えられるのか構造を理解します。
③ニュースが信用されなくなっている原因を探り、解決策を考えましょう。
④テクノロジーの発達とインターネット、マルチメディア化でニュースと社会の関係はどのように変わるか考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし・ニュースとは何か	信用・公共性
第2回	ニュースが信頼されるためのルール	ジャーナリズム・真実・独立・討論
第3回	ニュースが作られるしくみ①新聞とテレビ	マスメディア集中排除原則・再販価格維持制度
第4回	ニュースが作られるしくみ②ビジネスとしての報道機関	購読数・視聴率・
第5回	取材・編集・制作の現場で起きていること	実名と匿名・推定無罪の法理・報道協定
第6回	映像の「約束事」と現実	フレーム・アングル・シーン・字幕
第7回	政治・戦争のニュース	オフレコ・記者クラブ・取材源の秘匿
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・BPO（放送倫理・番組向上機構）
第9回	「公共放送」はなぜ必要か	NHK・BBC・PBS・受信料
第10回	ゲストスピーカーによる講演と討論	詳細は追ってアナウンスします（スケジュール変更の可能性あり）
第11回	コマーシャリズムとジャーナリズム	クロスオーナーシップ・ビデオジャーナリズム
第12回	デジタルでニュースはどう変わるか	地デジ・オンデマンド
第13回	放送と通信の融合がもたらすもの	総務省・電波オークション
第14回	ネットワークとコントロール	オープンソース・コード・プライバシー
第15回	記述問題とまとめの議論（未来のメディアと私たち）	※記述問題の詳細は追ってアナウンスします

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回リーディング・アサインメントがありますので読んでおいて下さい。その内容を前提として授業をします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	形式・詳細はクラスでアナウンスします。
平常点評価	70 %	①最終講義日に行う記述問題（オープンノート・詳細はクラス内でアナウンスします） ②（希望者のみ）リーディング・アサインメントの「ディスカッション・グループ」による発表（詳細はクラス内でアナウンスします） ③クラス内で書くコミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を最低1紙は読んで下さい。テレビのニュースもみてください。最近の時事問題については「常識」と考え、最低限の説明しかしません。インターネットのSNS(TwitterやFacebookなど）も積極的に使ってみて下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp（[at]を@になおして下さい）

その他 / Others

パブリックアクセス論（S）

12806

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目、映像関連科目、現代史関連科目を履修していることが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ/Theme　イントロダクション　パブリックアクセスとは	キーワード/Key Word　メディアの国際化、メディアの細分化（Fragmentation）
第2回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（1）	キーワード/Key Word　情報化社会、近代プロパガンダ理論
第3回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（2）	キーワード/Key Word　政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
第4回	テーマ/Theme　アクセス権の誕生	キーワード/Key Word　ジェローム・バロン、思想の市場論
第5回	テーマ/Theme　アクセス権論の展開　米国と日本	キーワード/Key Word　レッドライオン判決（1969年）、堀部政男
第6回	テーマ/Theme　アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	キーワード/Key Word　メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
第7回	テーマ/Theme　アクセス権の類型（1）　批判・抗議・要求・苦情　および　意見広告	キーワード/Key Word　自主規範　苦情処理委員会
第8回	テーマ/Theme　アクセス権の類型　（2）　反論　および紙面・番組参加	キーワード/Key Word　反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
第9回	テーマ/Theme　メディアアクセスとメディアリテラシー	キーワード/Key Word　フランシス・ペリガン　アクセス論
第10回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス　（1）　背景とテクノロジーの理解	キーワード/Key Word　ケーブルシステム、電磁スペクトル（Electro Magnetic Spectrum）
第11回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス（2）　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	キーワード/Key Word　フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
第12回	テーマ/Theme　ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	キーワード/Key Word　オランダ放送協会（NOS）
第13回	テーマ/Theme　アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	キーワード/Key Word　KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
第14回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセス	キーワード/Key Word　パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア、日本版FCC
第15回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	キーワード/Key Word　情報通信法　ソーシャルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版パブリックアクセスを学ぶ人のために	津田正夫／平塚千尋編／世界思想社／4-7907-1186-2／

教科書と講義内容のポイントを示すレジメを対照させながら、講義前後の学習をしておくこと。またこのほかにも、読んでおくべき著作、または視聴してほしい番組や作品などは適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクセス権とは何か	堀部政男／岩波新書／／
現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
やさしいマスコミ入門:発信する市民への手引き	金山勉／金山智子／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他の参考文献については、講義の際に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパー中にアポイントの希望を記入する、または初回講義で配布するシラバスに記載された教員電子メールあて連絡をすること。

その他 / Others

マンガ文化論 (S)

15545

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：マンガというメディア／文化

「マンガを読む」というとき、われわれは必ずしもその「内容」だけを鑑賞しているわけではない。例えば雑誌連載で読むのか、それとも単行本で読むのかで、同じ作品から受け取る印象が異なることがある。また、マンガを原作にしたアニメやドラマと比較しながら読むこともあるだろう。われわれはいつ、どこで、どうやって、マンガに接しているのか。本講義では、「内容」分析ではこぼれ落ちてしまう、マンガの生産・受容の「形式」に着目するメディア論的アプローチから戦後日本社会におけるマンガの布置を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

作者の「メッセージ」が読み取られるべきテクストとしてではなく、作者と読者との「あいだ」にあって両者をつなぐモノ＝メディアとしてマンガをとらえ、その「文化」としてのありようを言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

メディア文化論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜マンガ＞をどのように考えるのか？	マンガ、メディア、コミュニケーション
2	冒険者・手塚治虫（表現論1）	手塚治虫、夏目房之介、マンガ＝記号説
3	少女マンガの＜革命＞（表現論2）	24年組、内面の発見
4	キャラとキャラクターとのあいだ（表現論3）	伊藤剛、キャラ／キャラクター
5	「読む」マンガ／「見る」マンガ（表現論4）	メディア論、読者論／読書論
6	劇画、この劇的なるもの（メディア論＆読者論1）	劇画、青年、貸本
7	少年週刊誌と読者の「成長」（メディア論＆読者論2）	劇画、青年、週刊誌
8	「ぼくら」の夢舞台（メディア論＆読者論3）	同人誌、アマチュア、ぐら・こん
9	そのマンガは誰のものか？（メディア論＆読者論4）	作者／語り手、受容理論
10	“友情・努力・勝利”の方程式（商品論1）	少年ジャンプ、アンケート、雑誌連載
11	たそがれ時に見つけたの？（商品論2）	りぼん、乙女ちっくマンガ、雑誌付録
12	模造有理（商品論3）	二次創作、コミックマーケット、著作権
13	トランスナショナル・コミックス（商品論4）	グローバル／ローカル、文化帝国主義／文化ナショナリズム
14	21世紀のマンガ文化（情況論）	メディア・ミックス、webコミック、マンガ離れ
15	総括　＜マンガ＞はどのように考えられるのか？	マンガ、メディア、コミュニケーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す（4000字以上のレポートを予定）。
平常点評価	40 %	第5回と第9回頃に小レポート（2000字程度）を課す（詳細は別途提示する）。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2009年度の「マンガ文化論」単位取得率（単位取得者÷履修登録者）は44.2%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『マンガ進化論』	中野晴行／ブルース・インターアクションズ／／
『マンガ学入門』	竹内オサム・夏目房之介編著／ミネルヴァ書房／／
『テヅカ イズ デッド ひらかれたマンガ表現論へ』	伊藤剛／NTT出版／／
『戦争はいかに「マンガ」を変えるか』	小田切博／NTT出版／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

12750

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
ただしテストや最終レポートがないからといって決して楽な授業ではないので、以下シラバスに記載してある授業内容や課題等をよく確認してから登録すること。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディ

スカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつける。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。

・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。

・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。

・ QRコードシールを毎回持参すること。シールのないものは減点とする。

・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア技術史（S）

15418

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SA）

12941

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ビデオカメラ・編集ソフトを使って、ノンフィクションの映像作品を制作する。
・デジタルビデオカメラの撮影を通して見る人にとって正確で正しい映像とは何かを学ぶ。
・2分程度の短いストーリーを企画・取材・撮影・構成・編集の一通りの作業を体験し完成させる。
・取材や映像編集のルールを理解し、ニュース・ジャーナリズムの原則を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

実際にビデオ作品を制作することを通し
・映像作品の制作過程を理解し、実際に放送されたニュースやドキュメンタリーの批評や改善のための提案などができる。
・他人が「面白い」映像とはどのようなものか理解、制作ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初心者でも大丈夫です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラス案内・導入のはなし	映像の基本 課題①発表（とにかく撮ってみよう）
第2回	ビデオカメラの撮影①基本動作	課題①提出 課題②発表（対象に迫る）
第3回	ビデオカメラの撮影②映像情報のコントロール	フレームの決め方 課題②継続中
第4回	編集ソフトの手順①映像を取り込み並べ替える	キャプチャ、カット編集、イン点、アウト点 課題②継続中
第5回	編集ソフトの手順②音声や字幕、画面効果	ワイプ、フェード、タイムライン、ミキサー、タイトル、レンダリング 課題②提出 課題③発表（正確に撮る）
第6回	映像の文脈①基本的なルール	アングル、イマジナリー・ライン 課題③継続中
第7回	映像の文脈②意味を持たせる 企画書を書くには	インサート、切り返し 課題③提出 課題④発表（企画書を書く）
第8回	取材の基本とルール	企画書、事前説明、ジャーナリズム、ノンフィクション
第9回	構成と演出①材料を整理する	ビデオログ 課題④提出
第10回	構成と演出②構成表をつくる	構成表
第11回	構成と演出③音声の役割	ナレーション、インタビュー
第12回	編集①映像を整える	粗編
第13回	編集②音声を重ねる	レベル、エフェクト
第14回	編集③仕上げ	字幕、タイトル
第15回	発表会と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題のため、授業の他に自主的に撮影や編集の時間がかなり必要です。覚悟して受講して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	下記の完成度で評価する ・課題①～④ ・最終作品 VTR（映像）、ナレーション原稿と構成表

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画、ニュース他のテレビ番組など映像をよく見て下さい。好きこそものの上手なれです。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
神保哲生	ビデオジャーナリズムーカメラを持って世界に飛び出そう／明石書店／／2006
渡辺浩	ビデオ・レッスンー撮り方・楽しみ方／岩波ジュニア新書／／2001

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp ([at]を@になおして下さい)

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SB）

15347

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ビデオカメラ・編集ソフトを使って、ノンフィクションの映像作品を制作する。
・デジタルビデオカメラの撮影を通して見る人にとって正確で正しい映像とは何かを学ぶ。
・2分程度の短いストーリーを企画・取材・撮影・構成・編集の一通りの作業を体験し完成させる。
・取材や映像編集のルールを理解し、ニュース・ジャーナリズムの原則を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

実際にビデオ作品を制作することを通し
・映像作品の制作過程を理解し、実際に放送されたニュースやドキュメンタリーの批評や改善のための提案などができる。
・他人が「面白い」映像とはどのようなものか理解、制作ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

初心者でも大丈夫です。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	クラス案内・導入のはなし	映像の基本 課題①発表（とにかく撮ってみよう）
第2回	ビデオカメラの撮影①基本動作	課題①提出 課題②発表（対象に迫る）
第3回	ビデオカメラの撮影②映像情報のコントロール	フレームの決め方 課題②継続中
第4回	編集ソフトの手順①映像を取り込み並べ替える	キャプチャ、カット編集、イン点、アウト点 課題②継続中
第5回	編集ソフトの手順②音声や字幕、画面効果	ワイプ、フェード、タイムライン、ミキサー、タイトル、レンダリング 課題②提出 課題③発表（正確に撮る）
第6回	映像の文脈①基本的なルール	アングル、イマジナリー・ライン 課題③継続中
第7回	映像の文脈②意味を持たせる 企画書を書くには	インサート、切り返し 課題③提出 課題④発表（企画書を書く）
第8回	取材の基本とルール	企画書、事前説明、ジャーナリズム、ノンフィクション
第9回	構成と演出①材料を整理する	ビデオログ 課題④提出
第10回	構成と演出②構成表をつくる	構成表
第11回	構成と演出③音声の役割	ナレーション、インタビュー
第12回	編集①映像を整える	粗編
第13回	編集②音声を重ねる	レベル、エフェクト
第14回	編集③仕上げ	字幕、タイトル
第15回	発表会と講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題のため、授業の他に自主的に撮影や編集の時間がかなり必要です。覚悟して受講して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	下記の完成度で評価する ・課題①～④ ・最終作品 VTR（映像）、ナレーション原稿と構成表

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画、ニュース他のテレビ番組など映像をよく見て下さい。好きこそものの上手なれです。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
神保哲生	ビデオジャーナリズムーカメラを持って世界に飛び出そう ／明石書店／／2006
渡辺浩	ビデオ・レッスンー撮り方・楽しみ方 ／岩波ジュニア新書 ／／2001

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp ([at]を@になおして下さい)

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SC）

12946

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、メディア表現の一環として音声CM制作を行う。一口に音声と言っても、現在では電波を使ったラジオ放送だけでなく、インターネットを使ったさまざまな表現の1つとして、Podcastや音声ブログのような新しい形も存在している。これらに通底しているのは、「音声」による表現という点であ る。映像による表現と違い、音声表現では聞き手の想像力をいかに活性化し、想像力によって生み出されるものを共有するかにある。赤くておいしそうなリン ゴを映像で見せるのではなく、言葉や音を使って「赤くておいしそうなリンゴ」として想像してもらう必要があるのだ。

そこで、この授業ではまず音声を使った表現の方法を知り、技術的な知識を学ぶ。その上で、実際に作品作りを行っていく。作品としては、受験生や保護者、あるいは社会に向けて発信する、産業社会学部の音声CMを作る。そして、最終作品は大学広報部に対して、プレゼンテーションを行う。実際に使ってもらえる音声CM作品作りを目標とする。そのために、産業社会学部とはどのような学部かを的確につかみ、伝える相手の違いによって何をどのように伝えなければならないかを考える。単純に音を使った楽しい遊びでは無く、音で表現することの意味を考える。したがって、音声CM作り全ての過程が、学びとなる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 音声メディアの技術的・文化的特性が理解できる。
2. 音声CMの技術的・文化的特性が理解できる。
3. 音声CMを制作する際の、技術的課題を理解できる。
4. 音声を使った表現方法を習得できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション・音声CMとは何か	授業概要説明・音声メディアの表現方法
第2回	さまざまな音声CM及び大学CMを分析する	音声CMの実際とディスカッション
第3回	音声CMの仕組みを学ぶ	音声CMの分析
第4回	企画会議（1）	産業社会学部の特色を話し合う
第5回	企画会議（2）	対象別のアピール
第6回	企画書・字コンテ作成（1）	音声CMの流れ
第7回	企画書・字コンテ作成（2）	音声CMの表現
第8回	音声編集技術（1）	音声取材方法
第9回	音声編集技術（2）	スタジオ収録方法
第10回	音声編集技術（3）	PCによる音声データ編集方法
第11回	音声編集作業（1）	Auditionを使ったシングルモード編集
第12回	音声編集作業（2）	Auditionを使ったマルチモード編集
第13回	最終作品発表・プレゼン準備	ミックスダウンとファイル形式
第14回	プレゼンテーション	広報専門家へのプレゼンテーション
第15回	最終評価とまとめ	評価と総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席点40点（2／3以上が条件） 企画書提出10点 最終作品提出及びプレゼンテーション30点 最終報告書作成20点 上記全てをクリアしないと、評価対象とならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

締め切りまでに企画書提出、編集作業アップ、プレゼンテーション実施と、スケジュール管理が求められる。
実習の楽しさだけを求める受講生は、不向き。実習の全ての作業を通じて学ぶ、強い意識が必要。
情報リテラシーⅠ及びⅡをクリアできる程度のPCスキルが必要。レベルは不問。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SD）

12937

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、メディアリテラシーの力を、映像コンテンツ制作の実践から学び取ることを目的とする。同時に、基本的な映像コンテンツ制作能力獲得のための入門講座としても位置づける。授業ではテレビ制作に関する器材の理解や音声についての基礎を学んだ後、実際に番組制作チームを編成してスタジオ番組を制作する。この他、個人プロジェクトとして短いビデオクリップを課題プロジェクトとして完成させる。映像メディアの持つ潜在的効果などについて映像コンテンツ制作を通じて実体験してもらいたい。
メディア社会専攻では、映像コンテンツ産業だけでなく、市民が積極的にかかわる市民発信メディアも広く射程に入れた学びについて取り組んできている。メディアリテラシーの理論とメディア内容分析などによる客観化されたメディアコンテンツとの向き合いとは異なり、メディア情報の主体的な発信者としての映像コンテンツ制作者として積極的にメディアに関わることにより、総合的なメディアリテラシーの力をつけてもらうことを最終的な目的としている。

到達目標 / Attainment Objectives

メディア社会専攻では映像コンテンツ産業だけでなく、市民が積極的にかかわる市民発信メディアも広く射程に入れた学びについて取り組んできている。メディアリテラシーの理論とメディア内容分析などによる客観化されたメディアコンテンツとの向き合いとは異なり、メディア情報の主体的な発信者である映像コンテンツ制作者として、積極的にメディアに関わることにより、総合的なメディアリテラシー力をつけてもらうことを最終的な目的としている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

メディア・ジャーナリズム論に関わる基礎的なクラスを履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明：　映像コンテンツ制作とは	シングルカメラプロダクション　マルチカメラプロダクション
第2回	映像コンテンツ制作作品から学ぶ：　過去の学生制作番組の上映	映像の連続性　映像に連動する物語性
第3回	プロダクション・プランニング	ターゲットオーディエンス、企画書、取材者の倫理、時間管理、スタッフ配置、制作予算
第4回	ストーリーボードの作成	ロングショット、ミドルショット、クローズアップ、ティルト、パン
第5回	フィールドカメラによる映像・音声の収録（1）	映像の連続性、コンティニュイティ（Continuity）
第6回	フィールドカメラによる映像・音声の収録（2）	映像の美観および安定性、エステティック(Aesthetics)
第7回	映像編集の技法とノンリニア編集作業について（1）	リニア編集、ノンリニア編集
第8回	映像編集の技法とノンリニア編集作業について（2）	ポストプロダクション
第9回	ショート・カメラプロジェクト（1）	フィックス映像での表現
第10回	ショート・カメラプロジェクト（2）	パンおよびティルト映像を交えた表現
第11回	ショート・カメラプロジェクト（3）	アップとロングの撮影の意味
第12回	ショート・カメラプロジェクト（4）	ショットの長さとインタビュー画像の撮り方
第13回	スタジオ番組収録（1）	マルチカメラプロダクション
第14回	スタジオ番組収録（2）	生スタジオ収録
第15回	講義のまとめ	映像作品鑑賞、合評会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映像を通じて自分の視点を反映させることは、簡単にみえるようで、人間の五感全体を動員することが求められる。受講者は、世の中で何が起きているのか、自分が社会で生きているなかでどのようなことに疑問を持っているのかについて、書籍、ラジオ、テレビ、新聞などからの情報に常に接触する中で、考え続けていて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義の中で実施するミニクイズ＝10ポイント 出席＝45パーセント 映像作品評価＝40パーセント 学期末小レポート＝15パーセント

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

やさしいマスコミ入門　　金山勉　金山智子／勁草書房／4-326-65303-5／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

デモクラシー・ナウ！ジャパン　http://democracynow.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義のシラバス配布時にアナウンスする。

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SE）

15570

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を「映像の世紀」とする観点から、世界に大きな影響を与えているメディアとしての「映画／映像」についての理解を深める。テレビと映画との違いや、プロデュースすることについての基礎的な知識の習得、現場のプロデューサーや監督などの実践的な講義も予定。おもに、映画の制作現場からのアプローチをしていく。

到達目標 / Attainment Objectives

映画／映像メディアの果たしてきた役割、および果たしている役割の理解。
プロデューサーとは、どのような仕事であるのかの理解。
映画／映像メディアの今後の可能性、重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、ドキュメンタリー研究、日本映画分析

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画の発明、初期の映画について	リュミエール兄弟、エジソン
第2回	映画発達の歴史　ジャンル映画の確立	記録映画、劇映画、音楽映画、アニメーション映画
第3回	テレビの発明とその歴史	写真の電送からテレビへ
第4回	テレビと権力の関係〜GHQ支配下の日本	日本におけるテレビ放送の開始と、その背景
第5回	映画とテレビの違い	映画は娯楽の王様の座を1950年代後半には、テレビに明け渡し、斜陽化がはじまる。インターネット時代のいま、テレビは？
第6回	映画、映像製作の現場	プロデューサーと監督、ディレクターとは。
第7回	映画「映画監督って何だ」 鑑賞	
第8回	映画の著作権はだれにあるのか？著作権法について考える①	
第9回	著作権について②	
第10回	ゲストスピーカーによる、現場の話し（映画プロデューサーを予定）	
第11回	テレビドキュメンタリー作品の鑑賞	
第12回	放送法について	テレビは、放送法に基づいて運営され、設置に関しては、総務省が許認可権を持っている。今テレビは自由なのか？
第13回	テレビ視聴率　その実態	
第14回	2011年　テレビ地上波の完全デジタル化によって、放送、映画産業がどのように変化していくのか。その方向はどこに向かうのか。	
第15回	映画、映像をプロデュースすると言うこと。プロデューサーに求められるもの。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

30分以上の遅刻は認めない。授業中の私語、携帯電話の使用厳禁、注意してもやめない場合は退出を求める場合もある。
出席は取らない。映画をたくさん見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館での上映作品、学内上映会での上映作品（有料）を指定して、感想レポートを提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画をとにかく、映画館で見て欲しい。映画館という場の雰囲気も一緒に体験することが大事。シネコンだけでなく、アート系の映画館にも足を運んで欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画プロデューサーの基礎知識	キネマ旬報映画総合研究所編／キネマ旬報社／4-87376-620-6／
映画ビジネス現在と未来	ジェイスン・E・スクワイヤ編／晶文社／4-7949-6132-4／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／978-4-7803-0134-2／映画興行における映画館の役割を詳述。

参考図書は適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ristumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　いずれかのアドレスに気軽にメールして下さい。

その他 / Others

課題レポートとして、学内上映会の有料上映の作品を指定することがある。入場料は500円程度。

メディア社会専門特殊講義（SF）

15571

担当者名 / Instructor　津田 正夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この百年は映像の創出と発展の世紀であった。なかでも映画/テレビの発展によるニュース報道における映像ジャーナリズムの創出と、制作者の視点と思想で事象内部を掘り起こし真実を再構成するドキュメンタリーの誕生は、客観的事実報道と芸術表現の重なり合う境界にあって、現代社会に大きな影響を与えてきた。

この授業では、まず動画の発明にはじまり、記録映画と映像ジャーナリズムの成立、ドキュメンタリー表現にいたる複合的な映像表現の技法と表現思想の発達を検討する。さらに制作の現場の環境と作家の論理現代のニュース報道におけるドキュメンタリーの抱える諸課題を、単に批評言説によりかかることなく具体的な作品分析を通して、ワークショップ形式で実践的に学ぶこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ニュース・ドキュメンタリー成立と発展の歴史的/文化的背景を理解する
・ドキュメンタリー報道の際立った特性（機能・技法・思想）を理解し、それぞれの作品に結実する作家の方法・思想を理解する
・現代のドキュメンタリーや映像ジャーナリズムが内包する課題を批判的に理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ニュース・ドキュメンタリーの成立と発展 1	映像の誕生・進化と社会化
2	ニュース・ドキュメンタリーの成立と発展 2	キャパ神話　～記録とフォト・ジャーナリズムの成立～
3	ニュース・ドキュメンタリーの成立と発展 3	大本営発表　～映像の影響力とプロパガンダ～
4	ニュース・ドキュメンタリーの成立と発展 4	ベトナム戦争報道　～正義のジャーナリズムの時代～
5	ニュース・ドキュメンタリーの成立と発展 5	ドキュメンタリーとジャーナリズム
6	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 1	
7	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 2	
8	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 3	
9	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 4	
10	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 5	
11	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 6	
12	作品を通して学ぶドキュメンタリーの思想・方法・技術 7	
13	現代の諸課題をみすえて 1	『あるある！大辞典Ⅱ』問題　ビジネスと表現をめぐって
14	現代の諸課題をみすえて 2	イラク戦争報道の諸問題　政治統制と知る権利をめぐって
15	現代の諸課題をみすえて 3	市民社会と映像ジャーナリズム　対抗文化の諸相

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シリーズ　日本のドキュメンタリー	佐藤忠男／岩波書店／／
ドキュメンタリー映画の原点	谷川義雄／風涛社／／
ドキュメンタリー映画の地平	佐藤真／凱風社／／
ドキュメント　戦後放送史　上・下	松田浩／双柿舎／／
テレビの自画像	桜井均／筑摩書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

tsudam@ss.ritsumei.ac.jp
tsudam@ccn.aitai.ne.jp

その他 / Others

メディア社会論 (S)

15377

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「情報化」とはそもそも何なのでしょうか？　この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？	社会理論、相互行為
2	メディアと社会理論(1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ	社会理論、経済理論
3	メディアと社会理論(2)：産業化にはメディアが必要だった---社会の中のメディアの働き	取引コスト、情報管理
4	メディアと経済(1)：通信メディアが私たちを豊かにする	株式市場、システム構築
5	メディアと経済(2)：通信メディアが私たちの仕事を変える	システム構築、インターネット
6	メディアと政治(1)：そもそも政治の働きって？	意思決定、民主制
7	メディアと政治(2)：マスメディアの功罪	マスメディアの失敗、親密性の専制
8	メディアと政治(3)：インターネットは政治をどう変えるか？	報道メディアと論評メディア
9	メディアと政治経済：中間総括および質疑応答	社会学、経済学
10	メディアと人間関係(1)	CMC、SNS(Mixi,Facebook)
11	メディアと人間関係(2)	社会的ネットワーク、信頼
12	インターネット再入門	WWW、ハッカー倫理
13	旧メディアと新メディア(1)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	マスメディア、インターネット
14	旧メディアと新メディア(2)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	報道、一次ソース、専門性
15	メディアについて学ぶために何が必要か、および質疑応答	メディアの社会理論、メディアの経済理論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での補足学習（追加参照文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログを利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	主に論述に明確に答えているかどうか（授業内容の理解度）を評価します。
レポート試験	20 %	一度だけレポートを課します。テーマは講義中に指示します。
平常点評価	0 %	日常点評価は基本的に行いませんが、全体の授業運営の妨害になるような行動、私語等は、他の学生の学習を妨げますから、減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ふだんから社会問題、経済問題に関心を持つようにしましょう。新聞でもよいし、Wikipediaでもよいし、時事問題を解説したブログでもいいです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと社会	秋吉美都、小山友介他／ミネルヴァ書房／／未だ出版予定です。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用のブログを開設する。URLは授業で知らせる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで行う。

mail: tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

メディア文化論（S）

12930

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる（あるいは、「バラエティ」ばかりの）現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ（リアリティ）」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ
2	「観客」から「視聴者」へ	観客、視聴者、舞台
3	舞台の「裏」とはどこか？	視聴者、裏読み、内輪空間
4	「素」を見ることの快楽	素、ヤラセ、モニター
5	画面に映っているのは誰か？	笑い声、パレオTV／ネオTV
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	リアリティ・ショー、監視社会
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	M・フーコー、M・ポスター、パノプティコン
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	監視社会、マス・メディア
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	つながりの社会性、N・ルーマン、コミュニケーション
10	「リアリティ」の作り方・1	捏造、やらせ、情報操作
11	「リアリティ」の作り方・2	洞窟の比喩、、疑似環境、疑似イベント
12	「リアリティ」の作り方・3	フィクション／ノンフィクション、再現、インタビュー
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	実況、時間、想像力
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	実況、空間、想像力
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

小レポート、最終レポートともに、現在放送中のテレビ番組についての課題なので、テレビを視聴・録画する環境を確保しておくこと（「テレビが見られない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す（4000字以上のレポートを予定）。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート（2000字程度）を課す（詳細は授業プリントで提示する）。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて期限までに提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2009年度の「メディア文化論」単位取得率（単位取得者÷履修登録者）は67.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係』	太田省一／青弓社／／
『嗤う日本の「ナショナリズム」』	北田暁大／NHKブックス／／
『広告都市・東京』	北田暁大／廣済堂／／
『窓あるいは鏡　ネオTV的日常生活批判』	水島久光×西兼志／慶應義塾大学出版会／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

メディア倫理 (S)

15543

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マスメディアにおけるプライバシーの侵害や集団的過熱取材など取材・報道をめぐる倫理的問題が大きく問われています。巨大な影響力を持つがゆえにその社会的責任も大きいといえます。同時に、メディアを規制する法制化の動きなどが加速しており、言論・表現の自由、とりわけ民主主義社会の根幹と深く関わっているジャーナリズム活動に大きな影響を及ぼしかねない状況にあります。この授業ではジャーナリズム活動が市民社会のなかで制約されるとどうなるのかをまず歴史的に振り返り、メディアの報道・言論活動はいかにあるべきか、権力を監視するメディアの倫理とはどのようなものなのか、過去のメディアのあり方を検証しながら、最近の具体的な問題や事例に即しながらメディアの法制度的諸問題と倫理的諸ルールについて考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通して、メディア倫理の問題について基本的な知識と関連する課題認識の枠組みを獲得し、それらについて説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と進め方(内容の視点)	メディア倫理を考える枠組み
第2回	戦前日本のメディア状況と規制法	新聞人の反省、言論法制とメディアの規制、戦時体制、言論統制
第3回	言論表現に対する規制と新聞人	新聞人の態度、知識人の視線、朝日新聞社宣言「国民と共に立たん」、日本新聞協会・新聞倫理綱領
第4回	言論表現の自由と占領下の二重基準	占領期の日本の新聞界、レッド・パージの問題点、「自由」の本質、報道倫理の構築
第5回	皇室報道とメディアを考える　皇室報道に求められるメディアの倫理とは何か	「風流夢譚」事件、紀子妃の右手、表現規制とタブー
第6回	犯罪報道とメディア(1) 松本サリン事件の教訓。この事件報道から何を考えなければならないか。	浅野健一『犯罪報道の犯罪 (新風舎文庫)』新風舎・新版版 (2004) 、河野義行『「疑惑」は晴れようとも－松本サリン事件の犯人とされた私』文春文庫(2001) メディアと世論、犯人視
第7回	犯罪報道とメディア(2)　犯罪報道は現在、どうなっているか。犯罪報道の何が変わり、何がかわらないか	梓澤和幸『報道被害 (岩波新書 新赤版 1060) 』岩波書店 (2007) 犯罪報道の犯罪、少年犯罪実名報道、犯罪被害者
第8回	取材と報道のバランス(記者の仕事)　取材のモラルとは何か。記者は何を、どこまで取材すべきなのか	清水潔『桶川ストーカー殺人事件―遺言 (新潮文庫)』新潮社 (2004)、鳥越俊太郎・取材班『桶川女子大生ストーカー殺人事件』メディアファクトリー (2000) 集団的過熱取材、脱線事故報道検証、取材のモラル、桶川ストーカー殺人事件、写真週刊誌
第9回	前半の振り返り。メディアの伝えるメッセージ(番組・報道)のどこに問題があると考えられるか。システム(制度)にあるのか。取材報道する人たちにあるのか。また、それを見ている私たち(自分)自身はどう関係しているのか(問題はないか、あるとすればそれは何か)	メディア倫理の視点
第10回	メディアと表現の自由　表現の自由は何のためにあるのか。なぜ、自己規制が起きるのか	森達也『放送禁止歌 (知恵の森文庫) 』知恵の森 (2003) 、北口末広『ゆがむメディア　政治・人権報道を考える』解放出版社(2009) 放送禁止歌、法的規制、表現の自由
第11回	捏造・やらせ・嘘・改ざん　表現者に何が求められるのか。視聴者・読者は何を求めるのか	関西マスコミ倫理懇談会50年誌企画委員会編『阪神大震災・グリコ森永VSジャーナリスト～権力と市民の間で何をしたか～』日本評論社(2009) 発掘!あるある大事典2
第12回	報道か人命か～ジャーナリストの使命とは　ピューリッツァー賞「ハゲワシと少女」(ケビン・カーター)写真論争から何を考えなければならないか	柏倉康夫『マスコミの倫理学』丸善(2002)徳山喜雄『フォト・ジャーナリズム―いま写真に何ができるか (平凡社新書)』平凡社 (2001)、 フォト・ジャーナリズム、報道写真
第13回	戦争報道　戦争報道は何を伝え、何が伝えられないか。戦争報道で何を伝えるべきなのか。何のための戦争報道なのか	門奈直樹『現代の戦争報道』岩波新書(2004)、原憲一『戦場特派員　湾岸戦争を伝えたテレビ取材の舞台裏』蒼洋社(1995) 戦争報道、権力とメディア、メディア規制

第14回	災害と報道　神戸新聞と阪神大震災　ジャーナリズムの使命と私たち市民の立場	柳澤伸司「地域メディアとジャーナリズム」『情報化と地域社会』福村出版（1996）
第15回	後半の振り返り。メディアは何をすべきだ（しなければならない、あるいはしてはならない）と考えるか。それは実現可能か（実現可能にするためにはどうしたら良いと考えるか）。 私たち（自分自身）は何ができるか（しなければならないか）。メディアの倫理と私たちの視線	メディアの責任、市民の立場。メディア倫理をどう捉えるか

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業では、皆さんに参画してもらう参画型授業（グループ学習）を行います。関連するビデオ映像や資料を使って受講生のみなさんが自らの視点で考えてもらうように授業を進めたいと考えています。与えられたテーマをもとに、グループでビデオ映像と文献を参考に考察して、プレゼンテーションをしていただきます。プレゼンテーションが終わったグループは、他のグループの報告をもとに考察し、講評を課題としてコースツールに書き込みます。これらは評価ポイントに加算されます。出席（参加）することを前提として授業を構成します。第1回にその進め方など詳細な説明を行いますので必ず出席してください。

この授業を通して、日本のメディア倫理の問題がどこにあるか、その問題を改善（解決）していくためには、メディア（およびスポンサー）・政治（行政）・市民（視聴者・読者）はどうしたら良いか、これまでの先行研究、研究理論の確認、問題点を整理し改善策＝方策、政策を考えていきます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにコースツール提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価します。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	60 %	授業時に講義内容に関連した課題レポートを課します。決められた期日までにコースツールへ提出することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはコースツールでの提出です。授業期間中に出されるレポートを提出しなかった場合は出席していないものと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、はじめに、現在のメディアの法制度的ありようを考える上で過去のメディアのありようを検証していくアプローチをとります。そこから現在のメディア倫理の問題を考える視点を獲得するものです。最初は文献資料などを紹介しながら考察していきます。その後、映像（ビデオ）などを活用し、受講者の皆さんには問題意識を深めていただき、何を考えていくべきなのか認識を深めるような参加型の授業としていきます。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は基本的にコースツールなどを活用して受け取れるようにします。参加型授業を行いますのでグループを構成するためにも初回の授業は大事ですので、必ず出席してください。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。必要に応じて文献資料等を紹介します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
法とジャーナリズム	山田健太／学陽書房／4-313-34009-2／

配布物は事前にコースツールにアップしておきますので、各自そこから入手するようにしてください。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

コースツールに紹介しています。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内容に関する質問等はいつでも対応します。授業終了時などを活用して質問してください。時間がなくその場で十分な対応ができない場合はメール（syt01970@ss.ritsumei.ac.jp）等でも対応します。

その他 / Others

この授業ではグループ学習（問題提起、調査、議論、整理のプロセス）を行いますので、そこでの参加を重視します。参考文献だけでなく資料映像を用いて、映像（ビデオ）教材を読み解く（そこでは何が伝えられているか、何が読み取れるか、そこで生じた疑問はないか、使われている言葉＝用語で不明なものを調べる）活動を通して理解を深めていきます。

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使います。Webコースツール 早期利用申請を行い予め使えるようにしておいて下さい。

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15463

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの歴史や社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、イントロダクション：戦後の世界と映画の状況	第二次世界大戦 ネオリアリスモ
第2回	日本映画の50年代	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	1950年代の日本における外国映画と日本映画	GHQ, ランナウェイ・プロダクション
第4回	フランスのヌーヴェルバーグとその周辺	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	1950年代までのアメリカ社会とアメリカ映画	スタジオ・システム、パラマウント判決
第6回	アメリカン・ニューシネマからニューハリウッドへ	プロダクション・コード、レイティング・システム
第7回	1960年代と韓国黄金期	メロドラマ、家父長制
第8回	1960年代の東アジアを越境する映画	香港映画、韓国映画、インド映画
第9回	香港映画のニューウェイヴと中国返還前後	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第10回	1980年代以降の中国映画	文化大革命、第五世代
第11回	台湾ニューシネマの誕生とその後	植民地主義、戒厳令解除
第12回	1990年代以降の韓国映画	映画振興法、スクリーンクォーター
第13回	ナショナルシネマとしてのイラン映画	イスラム革命、児童映画、宗教と映画
第14回	インド映画：日本のおけるブームとその現在	ボリウッド、マサラムービー
第15回	まとめ：越境する映画	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	30 %	授業中あるいは授業外に数回のエッセイを課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
天皇と接吻　～アメリカ占領下の日本映画検閲	平野共余子／草思社／／
偽りの民主主義　～GHQ・映画・歌舞伎の戦後秘史	浜野保樹／角川書店／／
男たちの絆、アジア映画	斉藤綾子編　／平凡社 ／／

中国映画　－百年を描く、百年を読む－	藤井省三／岩波書店／／
台湾映画のすべて	戸張東夫／廖金鳳／陳儒修／丸善／／
インド映画への招待状	杉本良男／青弓社／／
イタリア映画史入門1905-2003	ジャン・ピエロ・ブルネッタ(川本英明訳)／鳥影社／／
アジアのなかの日本映画	四方田犬彦／岩波書店／／

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

12813

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	
4	モンタージュ論	
5	作家主義論	
6～7	タルコフスキーのショット論	
8	映画と言語論	
9～10	映画と構造論	
11～12	映画と時間論	
13	映画と解釈学	
14～15	映画と言語ゲーム論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映像ジャーナリズム論（S） § 映像プロデュース論（S） § 映像ジャーナリズム論（W）

15465

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画やテレビなどの映像によるジャーナリズム活動は、新聞などによる活字のジャーナリズム活動とは違った形で発展してきている。本講義では、まず、映像ジャーナリズムの流れが生まれる前の段階でニュース映画という形態があり、そこにはエンターテインメント性が強く反映されていたことなどについて歴史的にみてゆく。その上で、映像が国家的なプロパガンダを推進するための道具として用いられた時期を経て、最終的にはテレビ映像によるジャーナリズムが誕生してゆく段階を追ってゆく。世界的にさまざまな形態で映像ジャーナリズムが発展してきたが、講義では、特に米国のテレビ・ジャーナリズムの流れについて時間を割くこととする。

1980年代、衛星放送や衛星通信が、東欧の民主化に影響を与えたことなども取り上げ、その中で、映像ジャーナリズムに新しいテクノロジーがどのようなインパクトを与えたかについても考える。さらに新しいテクノロジーが今日の日本の映像ジャーナリズムの現場に、どのような変化を与えようとしているについても検討する。受講生には、映像ジャーナリズムの歴史的変遷を踏まえた上で、映像ジャーナリズムの今日的な課題について、踏み込んで考えてもらえるようになって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

・映像ジャーナリズムが誕生した歴史的背景が理解できる
・日本や世界の国々において映像ジャーナリズムが直面している課題を理解する
・新しいテクノロジーが映像ジャーナリズムに与えるインパクトについて理解を深める

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目、映像関連科目、現代史関連科目を履修していることが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ/Theme　イントロダクション　映像メディア環境の変化と映像ジャーナリズム	キーワード/Key Word　メディアの国際化、メディア資本の集中
第2回	テーマ/Theme　映像の始まりとエンターテインメント性との関係	キーワード/Key Word　リュミエール兄弟、エジソン、ニュース映画
第3回	テーマ/Theme　映像にジャーナリズム性がどのように加わってきたか	キーワード/Key Word　映画、プロパガンダ、大衆説得
第4回	テーマ/Theme　米国ジャーナリズムの起源と展開（1）	キーワード/Key Word　コロニアルプレス、ペニープレス
第5回	テーマ/Theme　米国ジャーナリズムの起源と展開（2）	キーワード/Key Word　ピューリッツアー、ハースト、客観報道
第6回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（1）　米国ラジオ放送の起源とラジオ・ジャーナリズム	キーワード/Key Word　ラジオの起源、ウェスティングハウス、KDKA、1920年アメリカ大統領選挙速報
第7回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（2）テレビ・ジャーナリズムの誕生とニュース・アンカーたち	キーワード/Key Word　エド・マロー、マッカーシズム、ウォルター・クロンカイト、田　英夫、ベトナム戦争報道
第8回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（3）現代の映像ジャーナリズムを支えたニュース・アンカーたち	キーワード/Key Word　ピーター・ジェニングス、ダン・ラザー、トム・ブロコウ
第9回	テーマ/Theme　映像ジャーナリズムが受けた挑戦　メディア・コントロール	キーワード/Key Word　スピン、ハバード・シラー、ノーム・チョムスキー、ロバート・マクチェスニー、ポリティカル・エコノミー
第10回	テーマ/Theme　ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その1	キーワード/Key Word　Media Organization、Source-Reporter Relationships、Simple Gatekeeping Model
第11回	テーマ/Theme　ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その2	キーワード/Key Word　Gultung and Ruge's Model、Contexts of News Making
第12回	テーマ/Theme テクノロジーが映像ジャーナリズム活動に与えたインパクト	キーワード/Key Word アーサー・クラーク、geosynchronous orbit、衛星放送、CNN、DBS
第13回	テーマ/Theme　日本の映像ジャーナリズムの台頭と変遷　新聞ジャーナリズムvs.映像ジャーナリズム	キーワード/Key Word　日本型映像ジャーナリズム、市民発信、市民記者、パブリックアクセス
第14回	テーマ/Theme　テレビ・ジャーナリズムが政治を動かす時代　1980年代～	キーワード/Key Word　サンデーポリティクス、プライムタイムニュース競争
第15回	テーマ/Theme　まとめ　映像ジャーナリズムの未来	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講生は、日常的に映像ジャーナリズムに連なるニュース番組やドキュメンタリーなどを講義前に視聴し、独自の視点で、こだわりをもってそれらを批評できるような力を備えるように努力して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	映像ジャーナリズムを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、講義内容のポイントを示すレジメの配布を通じて読んでおくべき著作や視聴してほしい番組や作品などを紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄・林利隆・大井眞二編 ／世界思想社／4790710564 ／
映像情報論	今村庸一／丸善／4621071408／
テレビの自画像	桜井均 ／筑摩書房／448004244X ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパー中にアポイントの希望を記入するか、または初回講義で配布するシラバスに記載された教員電子メールあて連絡をすること。

その他 / Others

映像表現論（S）

12778

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第七芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、第二次世界大戦までの時代を中心に、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・115年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像の文法1：記号としての映像	シニフィアンとシニフィエ、デノテーションとコノテーション
第3回目	映像の文法2：映画の空間と時間の統辞法	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義と映画	ウーファ、第一次世界大戦、「カリガリからヒトラーへ」
第6回目	プロパガンダと映画1：ドイツの映画利用	第3帝国、映画法、レニ・リーフェンシュタール
第7回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会	内田土夢、傾向映画、無声映画
第8回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド	combat film、教育映画
第9回目	プロパガンダと映画3：日本における戦時の映画利用	ニュース映画、文化映画、映画法
第10回目	プロパガンダと映画4：「満州」と映画	満州映画協会、大陸映画、李香蘭
第11回目	プロパガンダと映画5：アニメーションと笑い	アニメキャラクター、桃太郎、ミッキーマウス
第12回目	プロパガンダと映画6：植民地支配と映画　①台湾と日本	植民地主義、映画政策、現地製作映画
第13回目	プロパガンダと映画7：②朝鮮と日本	植民地主義、映画政策、国民映画
第14回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第15回目	まとめ：映像表現とは何か。禁止された映画を中心に考える。	映像表現、実験映像、フィクションとノンフィクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	50 %	授業中に受講エッセイを、授業外に小レポートを数回課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討した後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
映画映像史	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
ワールド・シネマ・ヒストリー	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。
映画と「大東亜共栄圏」	岩本憲児編／森話社／4916087453／アジア諸国における植民地主義と映画の状況糊化に役立つ。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

演劇論 (S)

15379

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンスI	オリエンタリズムー『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』
4	帝国のロマンスII	オリエンタリズムと植民地言説、『ミス・サイゴン』
5	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
6	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているのか
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信、寺山修司
8	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司と岸田理生の「身毒丸」
9	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
10	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
11	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
12	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
13	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュのコリオグラフィー
14	90年代の日本の現代演劇から	萩尾望都の漫画「半神」と野田秀樹の舞台化
15	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクスト『ディクテ』の舞台化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。
※日常点評価40%
ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、主として、参考書に上げた『女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー』に基づいて講義をするので、重要文献として参照してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8 ／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン ／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店 ／978-4-00-430940-6 ／
迷路と死海	寺山修司 ／白水社／978-4-560-03254-1 ／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編 ／人文書院 ／4-409-04078-2 ／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

音声メディア論（S）

15542

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

メディアは、特性によってテキスト、画像、音声の3種類に大別できる。この中で、人間にとってもっとも原初的で、コミュニケーションの基礎となるのが音声メディアである。しかし、われわれの日常を見渡してみると、テキストベースの電子メールによって、人間関係のほとんどが構築され、写真や動画はもっとも身近な記録メディアとなっている。

これらは、「携帯電話」という本来音声データによる双方向のコミュニケーション・メディアに組み込まれているものだが、もはやそれは機能の一部でしかなくなっている。また、新聞（テキスト）、テレビ（画像）、ラジオ（音声）という、日常接するメディアを並べてみた場合でも、誰もがテレビ＞新聞＞ラジオの順に自分との関係の深さを示すであろう。このように、音声メディアはわれわれにとって原初的でありながら、もっとも遠い存在となってしまっているように感じる。だが、果たしてそうだろうか？iPodに代表される携帯音楽プレイヤーは若者の多くが利用し、日本のラジオ局は無くなるどころか総数はむしろ増えているのだ。

本講義では、このような音声メディアについて、「理論と研究」、「歴史」、第3部「文化」の3部構成で学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通じて学ぶ到達点は、以下の3点である。

1. 音声メディアを学ぶ上で必要な理論と視点の持ち方及び問いの立て方を理解する。
2. 個別の音声メディアと社会との関係を歴史的な観点から知り、メディアが社会の中で存在する意味を考える。
3. 現代社会の中で忘れられがちな音声メディアへの興味・関心をもつ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	音声メディア研究1	声の文化と文字の文化
第2回	音声メディア研究2	「サウンド・スケープ（音風景）」
第3回	音声メディア研究3	音楽とメディア
第4回	音声メディアの歴史1	オルゴール・蓄音機
第5回	音声メディアの歴史2	電話1
第6回	音声メディアの歴史3	電話2
第7回	音声メディアの歴史4	電話3
第8回	音声メディアの体験	ゲストスピーカーとライブ・ラジオ
第9回	音声メディアの歴史5	ラジオ1
第10回	音声メディアの歴史6	ラジオ2
第11回	音声メディアの歴史7	ラジオ3
第12回	音声メディアと音文化1	瞽女・巡回蓄音機
第13回	音声メディアと音文化2	有線放送電話
第14回	音声メディアと音文化3	ミニFMと若者文化
第15回	新しい音文化の誕生	ネットと音声メディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

レジュメは、コースツールに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。
授業当日は、翌週の授業で使用する資料及び当日の補足資料を配付する。受講生は、必ず資料を使った予習を行うこと。
ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
コミュニケーション物語	竹内成明 ／人文書院 ／／
声の文化と文字の文化	ウォルター・J. オング ／藤原書店／／

世界の調律 サウンドスケープとはなにか	マリー・シェーファー／平凡社／／
音機の社会史	吉見俊哉 ／講談社 ／／
「声」の有線メディア史	坂田謙司 ／世界思想社 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

活字メディア論（G）

12874

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の状況を紹介するとともに、過去・現在の重大ニュースを通じて活字メディアの社会的役割と課題を考えていく。講師の政治・行政・司法分野を中心とした新聞記者経験を交えながら分かりやすく講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会で活字メディアが果たすべき役割をきちんと理解する。そのうえでニュースの価値や背景を自分なりに読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア（新聞・出版）の現状	読者離れ、経営危機、出版不況、電子新聞
2	活字メディアの歴史	活版印刷、表現の自由、言論弾圧、不偏不党、民主主義、
3	他メディアとの比較	速報性、詳報性、テレビ、ネット、連携と融合
4	ジャーナリズム性	権力監視、ジャーナリスト、組織と個人、パブリック・ジャーナリズム
5	ニュースとはなんだ	価値観、伝えるべき事柄、スクープ、調査報道
6	政治報道	番記者、政治記事の作られ方、政治家の思惑、政党、民主党政権
7	選挙報道	公平・正確、公職選挙法、政局より政策、政党のメディア操作
8	官僚と政策	官僚主導、政治主導、財務省の力、予算編成、民主党政権
9	自治と地域主権	地方分権、民主主義、市町村合併、国から地域へ、地方議会、住民自治
10	事件報道	犯罪報道の意義、警察・検察・裁判所、人権尊重、匿名社会、裁判員制度
11	大災害報道	阪神・淡路大震災、報道の視点、被災者に寄り添う、減災報道
12	戦争報道	イラク戦争、ベトナム戦争、情報捜査、エンベッド方式、現地主義
13	活字メディアの怠慢	ハンセン病、らい予防法、強制隔離、憲法違反、小笠原登医師
14	メディア規制	メディアスクラム、個人情報保護法、人権擁護法案、自主規制と限界
15	活字メディアの将来	メディアリテラシー、市民主権、読者との距離、新聞・出版の大変革

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連して提示するテーマについて自身の考えを記述する。考えの中身と、その内容が説得力をもってきちんと展開できているかを評価する。
平常点評価	50 %	6回目と11回目前後に、授業中に提示したテーマで小レポートを簡潔に書いてもらう。400字程度。テーマの理解度と、言いたいことが論旨明快に書いてあるか評価する。授業態度も評価対象。

小レポートがいつあってもよいように、鉛筆かシャープペン、消しゴムを持参しておくこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限、日々のニュース（国際問題、政治の動き、地元京都のタイムリーな話題まで）を新聞を読んで理解しておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／／
ジャーナリズムの可能性	原寿雄／岩波新書／／
新聞再生	畑仲哲雄／平凡社新書／／
実践ジャーナリスト養成講座	花田達朗ほか／平凡社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　leeron333jingjie@nifty.com

その他 / Others

マスコミ界に進みたい人は、いろいろ相談に乗ります。メールでも授業後でも声をかけてください。

観光文化論（S）

15546

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、全世界の国際観光客到着者数は8億人、日本人の海外旅行者数は1500万人を超えており、観光は今日の社会において大きな社会現象となっています。本講義では、文化として観光を理解するために、観光の歴史をみながら、どのような社会の変化があったのかについて検討します。観光について考察するには、単に観光する人だけに焦点をあてるのではなく、観光をつくりだす人や仕掛けやその背景にある文化のあり方までを含めて理解する必要があります。それだけ観光というものは、複合的な現象なのです。講義の最初は西欧にはじまる「近代観光」にいたる歴史について扱い、観光を生み出す仕掛けとしてメディアについて考察します。次に、「近代観光」を近代という時代とともに検討し、最後に観光によって生まれた新しい「まなざし」、そのまなざしが生み出す風景について考察していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

・観光の歴史を近代や新しい視線の誕生という点から理解し、説明できる。
・メディアや政策など観光を生み出す仕掛けについて理解し、説明できる。
・観光がうみだす文化について論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション	観光　近代観光
第2回	観光をうみだす仕掛け1　近代観光前史	巡礼　通過儀礼　グランド・ツアー　大航海時代
第3回	観光をうみだす仕掛け2　旅とメディア1　ゲストスピーカー　産業社会学部教授赤井正二先生	旅行CM　旅行雑誌　雑誌『旅』の誕生
第4回	観光をうみだす仕掛け3　旅とメディア2　ゲストスピーカー　産業社会学部教授赤井正二先生	「道中記」　ガイドブック　ベデカー
第5回	近代観光1　ロンドン万博	鉄道　博覧会　オリエンタリズム
第6回	近代観光2　パリ万博	擬似イベント　スペクタクル
第7回	近代観光3　植民地主義と観光	観光のまなざし　展示的価値　植民地主義
第8回	中間まとめ　チベットの観光化を事例に	鉄道　擬似イベント　伝統
第9回	観光のまなざし1　風景と風景画	近代　産業革命　文化観光　自然観光
第10回	観光のまなざし2　明治の新しい風景	風景観　志賀重昂『日本風景論』　国木田独歩『武蔵野』
第11回	観光のまなざし3　日本の新しい風景	ディスカバー・ジャパン・キャンペーン　ポストモダン　ディズニーランド
第12回	観光の現在1　観光地の没場所性	マス・ツーリズム　レルフ「没場所性」　オルタナティブ・ツーリズム
第13回	観光の現在2　観光政策	ビジット・ジャパン・キャンペーン　観光庁　リゾート法
第14回	観光の現在3　労働と余暇	禁酒運動　規律訓練　マクドナルド化
第15回	観光がうみだす文化：グローバル化のなかで	国際観光　グローバル化　伝統の創出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・レジメを見直して自分なりに理解する
・授業で提示された参考文献から興味あるものについて読む

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
観光文化学	山下晋司編 ／新曜者 ／4-7885-1080-4 ／
観光学入門：ポスト・マス・ツーリズムの観光学	岡本伸之 編　／有斐閣アルマ ／4-641-12130-3 ／

博覧会の政治学:まなざしの近代	吉見俊哉／中央公論社／4121010906／
観光社会学:ツーリズム研究の冒険的試み	須藤廣　遠藤英樹　／明石書店／4-7503-2118-4 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

観光白書　http://www.mlit.go.jp/statistics/file000008.html （主に日本の観光に関するデータ）
UNWTO　http://www.unwto.org/index.php （世界観光機関のウェブページ）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーション・ペーパー、メール

その他 / Others

現代とメディア（SA）

12236

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代とメディア（SB）

12237

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代メディア史（S）

15449

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『はだしのゲン』は「原爆」を扱った代表的なマンガである。これはなぜか、学校図書館や学級文庫に多く蔵書されている。図書館や学級文庫にマンガがほとんど置かれていないことを考えると、それはかなり奇異に思える。

また、われわれは、8月15日を「終戦記念日」として記憶に留めている。だが、その日は他国との「終戦」が成立した日ではない。ポツダム宣言受諾は8月14日、降伏文書調印は9月2日である。にもかかわらず、なぜ、その日を「記念」するのか。

こう考えると、「戦争」をめぐる戦後の「常識」にはさまざまな疑問が思い浮かぶ。この授業では、こうした疑問を念頭に置きながら、戦後のメディア史（ジャーナリズム史・マンガ史・出版史・映画史など）を見渡し、ナショナルな世論やアイデンティティの変容プロセスを検証する。

なお、本講義は史的事実の「暗記」を目的とするものではない。「歴史（メディア史・近現代史）」を通して、「現代」をいかに批判的に読み解くのか―それを考えることに本講義の目的がある。そもそも、現代の状況は、「現在」だけでなく、「歴史」をふまえなければ、十分に見渡すことはできない。こうした観点に立ちながら、本講義は、「メディア史」そのものというよりは、それを「利用」すること、すなわち「〈メディア史〉する」ことを実践し、解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

戦後のメディア史と世論史を歴史社会学的な観点で捉える視点を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	授業の概要・導入
2	リアリティはリアルか（1）～映画『ジュラシック・パーク』『男たちの大和』	戦後メディア史とリアリティの逆説
3	リアリティはリアルか（2）～映画『ショア』『人間魚雷回天』	「リアルでない」ことのリアリティ
4	「原爆」をめぐる世論と輿論～占領期の日本と映画『長崎の鐘』『ひろしま』	「唯一の被爆国」の神話、占領期の言論統制
5	「原爆マンガ」のメディア史（1）～『はだしのゲン』とマンガ雑誌の戦後史	団塊の世代、『週刊少年ジャンプ』、青年コミック誌、メディアはメッセージ
6	「原爆マンガ」のメディア史（2）～『はだしのゲン』の正典化（その1）	メディアとしての書籍と図書館
7	「原爆マンガ」のメディア史（3）～『はだしのゲン』の正典化（その2）	左派系論壇誌と時代背景
8	教養主義と「戦没学徒」の記憶～映画『きけわだつみのこえ』（1950年）	教養主義の社会学・メディア史
9	教養主義と「農民兵士」の記憶～映画『拝啓天皇陛下様』（1963年）	教養主義と戦争をめぐる世論／輿論
10	遺稿集のメディア史～岩波文庫・光文社カッパブックス・戦争の記憶（1）	戦後出版史のメディア論、60年安保闘争
11	遺稿集のメディア史～岩波文庫・光文社カッパブックス・戦争の記憶（2）	大学紛争、わだつみ像破壊事件（立命館・1969年）
12	戦記・映画・「特攻」イメージ（1）～占領終結前後	「わだつみ」の神話，占領終結直後の戦記ブーム，映画『雲ながるる果てに』（1953年）
13	戦記・映画・「特攻」イメージ（2）～任侠映画と全共闘と戦争の語り	『あゝ同期の桜』（遺稿集・映画），任侠映画ブーム，大学紛争，テレビの隆盛と映画の衰退
14	戦記・映画・「特攻」イメージ（3）～1970年代と戦争責任論の逆輸入	戦争責任論，映画『あゝ決戦航空隊』（1974年），忠誠と反逆（丸山眞男）
15	授業全体を振り返って～まとめ	戦後日本とメディア史

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【重要】

・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。

・授業各回のプリントについては、授業用HP（http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/）の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	95 %	【内訳】 中間レポート……40パーセント（提出しない場合は即「不可」） 期末レポート……55パーセント
平常点評価	5 %	授業内容に関する感想・質問などをメールで提出。15回のうち5回提出で5点満点（出席点ではありません）

私語や携帯電話の使用をなす者は、即「不可」とし、以後の受講は認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

史実は授業の中でわかりやすく解説する予定なので、現時点での歴史の知識の有無は問いません。歴史との対比で現代を読み解いていく面白さを感じてもらえる受講者の履修を望みます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『「反戦」のメディア史―戦後日本における世論と輿論の拮抗』	福間良明／世界思想社／978-4790711964 ／

テキストは、戦後の世論（popular sentiments）と輿論（public opinion）とメディア史を扱った入門書です。
授業のうえでも、適宜、同書を参照しながら進めます。
中間レポートの課題文献にします。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『「戦争体験」の戦後史』	福間良明／中央公論新社／ 978-4121019905 ／中公新書
『現代メディア史』	佐藤卓己／岩波書店／978-4000260152 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

「件名（subject）」に学籍番号・氏名を明記の上、yfukuma@ss.ritsumei.ac.jpにご連絡ください。

その他 / Others

広告表現論（S）

15544

担当者名 / Instructor　畑 寿一郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「広告表現分析」
本講義では、広告論での広告の基礎知識を前提として、広告表現の吟味、歴史的・文化的な側面、グローバルな視点での広告など幅広い内容をカバーする。要所要所で数多くのTV広告等を鑑賞し、自分の目で広告を判断することも学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、広告表現を通して広告の送り手の意図や感情を理解し、広告の受け手としてのメディアリテラシーを身につけることを期待する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

広告論を履修していることが望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義 〜広告の歴史は人類の歴史〜	最古の広告、産業革命と広告、引札、印刷、マスメディア
2	広告表現の構成要素（1） 『コピー、一行の力』	コピーライター、キャッチフレーズ、ボディコピー、言葉によるコミュニケーション
3	広告表現の構成要素（2） 『アートディレクターの視線の先にあるもの』	アートディレクター、デザイナー、芸術と広告、ビジュアルの力
4	広告表現を引き出すために 『アカウントプランニングの役割』	アカウントプランニング、ターゲット、インサイト、プロポジション
5	広告は時代を映す鏡（1） 『1950~70年代のCM』	日本のTV-CM第1号、商品連呼、高度経済成長
6	広告は時代を映す鏡（2） 『天才・杉山登志が残したもの』	CMディレクター、杉山登志、30秒の狙撃兵
7	広告は時代を映す鏡（3） 『1980〜2000年代のCM』	ジャパン・アズ・ナンバーワン、バブル崩壊、失われた10年
8	深層心理と広告表現 『ユングの元型を通して広告を眺めると』	ユング心理学、グレートマザー、シャドー、ペルソナ、アニマ・アニムス、老賢者・始源児、トリックスター
9	世界のCM 『カンヌ国際広告祭フィルム部門より』	カンヌ国際広告祭、カンヌライオン
10	新しい広告の潮流 『カンヌ国際広告祭サイバー部門より』	サイバー部門、インターネット、生活者を巻き込む広告
11	技術の進化と広告 『テクノロジーが生み出す広告手法』	インターネット、アフィリエイト、リスティング広告、行動ターゲティング、バイラルマーケティング
12	ラジオCMは時代遅れか 『周回遅れのトップランナー』	ラジオ、音だけで伝えられるもの、ポッドキャスティング
13	広告は社会的メッセージを伝えることができるか 『公共広告機構とベネトンの広告キャンペーン』	公共広告、AC、ベネトン、オリビエロ・トスカーニ
14	広告表現の発達と広告リテラシー 『相互作用で進化する広告表現と広告リテラシー』	メディアリテラシー、インターテクスト、相互作用
15	講義の総括 『広告表現の向こう側に見えるもの』	生活者手動、明日の広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業で扱ったテーマに基づいて、受講者の理解度と洞察力を問う問題を出す。論理的思考力、独自の発想力、構成力、説得力を評価する。
平常点評価	30 %	2／3以上の授業で、その回の授業にかんするレポート課題を課し、その場で提出する。授業内容の理解度に応じて評価する。ただし所謂「出席点」の加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

広告文化論（S）

12940

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「広告」「広報」「宣伝」―これらのニュアンスはそれぞれ異なるが、その機能には重なり合う点が多い。むしろ、それらを殊更に区分することで、見えなくなるものも少なくない。たとえば、9･11直後、アメリカ政府は、国内外の宣伝政策の責任者に、大手広告代理店トップを起用した。このことは、「国内広報」「対外宣伝」と「広告」の連続性を示唆するものであろう。本講義では、「宣伝」「広報」も視野に入れながら、「広告＝宣伝」のメディア文化史を俯瞰する。そのうえで、(1)「広告＝宣伝」はナショナリズムや国民統合といかに結びついてきたのか、(2)それらを批判的に読み解いたうえで、いかに「自己＝われわれ」と「他者」との対話を構想することができるのか、という点について考察する。

なお、本講義では、現代の事象のみならず、戦前・戦後の宣伝・広告文化史も多く取り上げる。現代は現代によってのみ見えるのではなく、過去との対比によって見えるものも少なくないためである。本講義では、関連する文化史も解説しながら、近現代の広告文化を読み解いていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・「広告」「広報」「宣伝」の背後にあるポリティクス（ナショナリズム・異文化認識など）を読み解く視点を学ぶ。
・「広告」「広報」「宣伝」の文化を、総力戦体制以降の歴史をふまえながら、理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～広告・広報・宣伝を横断する	授業の概要・導入
2	現代広告に映るジェンダー／セクシュアリティ	テレビCMと「男同士の絆」
3	現代広告に映る「異文化」	異文化認識のポリティクス
4	博覧会と異文化表象～大阪万博の広報学（1）	大阪万博、戦前期の博覧会、異文化・異民族の「展示」
5	博覧会と異文化表象～大阪万博の広報学（2）	岡本太郎、万博から民博（国立民族学博物館）へ
6	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（1）	日中戦争、擬似戦場体験のメディア、ニュース映画との相違
7	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（2）	メディア・イベント，戦時期の出版バブル
8	戦時期の博覧会と「聖戦」の綻び（3）	プロパガンダの逆説
9	玉音放送の広報学（1）	終戦記念日の神話
10	玉音放送の広報学（2）	「8・15」の発明と玉音放送のメディア論
11	9･11とプロパガンダの現代史（1）	9･11以降のアメリカと広告・広報・宣伝
12	9･11とプロパガンダの現代史（2）	総力戦体制とアメリカの宣伝政策、映画『大戦前夜』と「敵」の表象
13	9･11とプロパガンダの現代史（3）	日本の戦時プロパガンダ映画（『ハワイ・マレー沖海戦』『陸軍』）と「敵の顔」の不在
14	おわりに：自己と他者の対話の可能性	逆さの世界（丸山眞男）、沈黙の螺旋
15	授業全体を振り返って～「広告文化」を読み解く視点	理論・見取り図の復習

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【重要】
・授業ではパワーポイントや映像資料を用いるほか、プリントを用いる。
・授業各回のプリントについては、授業用HP（http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/）の「授業に関するご連絡」よりダウンロードし、出力のうえ、授業にのぞむこと。授業時には配布しません。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	95 %	【内訳】 中間レポート……40パーセント（提出しない場合は即「不可」） 期末レポート……55パーセント
平常点評価	5 %	授業内容に関する感想・質問などをメールで提出。15回のうち5回提出で5点満点（出席点ではありません）

・本講義は、商業広告に特化するわけではない。「広告・広報・宣伝」を広くとらえ、博覧会やプロパガンダ、宣伝映画も多く扱う。その意味で、どちらかといえば、広義の公共広告（史）に重点を置くことに留意されたい。

・私語や携帯電話の使用をなす場合、即「不可」とし、以後の受講は認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書はとくに使用しない。
中間レポート等の課題文献は、別途指示する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『情報戦争』	ナンシー・スノー／岩波書店／4000234013／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.eonet.ne.jp/~yfukuma/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

「件名（subject）」に学籍番号・氏名・要件を明記の上、yfukuma@ss.ritsumei.ac.jpにご連絡ください。

その他 / Others

広告論 (S)

12766

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ポジショニング、ターゲティング
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター&パーシー・ベルマン・グリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	40 %	不定期に授業内で課題を課す

課題はほぼ毎回行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合、あるいは講義外で行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。
授業外での学習を促すために、次週に提出の課題を行う場合もあるため、十分な予習・復習の時間をとれることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPage.dowebct
質問がある場合には、基本的に直接教員にメールで行うこと(教員のアドレス：koizumi@ss.ritsumei.ac.jp)。一般的な広告理論、広告業界等に関する質問については、他学生と共有すべきと考えるため、教員のブログにて回答を行う。
http://hidekoizumi.cocolog-nifty.com/blog/

その他 / Others

特になし

国際ジャーナリズム論 (S)

12892

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・ボーダーレス社会の中でニュースや情報がどのように流通しているのか構造を理解します。
・世界のさまざまな政治経済体制の国々でどのようにジャーナリズムが権力監視の役割を果たしたり、基本的人権が危機に瀕しているかを理解します。
・ICT社会、ネットワーク社会で情報がどのようにやりとりされ、テクノロジーの発達でプライバシーや表現の自由などがどのような影響を受けているのか理解します。
・国内ではなされていない議論などもカバーするため英語の文献も読んでもらいます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ニュース論（国際ジャーナリズム論の方が応用編です）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入の議論・カルチャーギャップ・ジャーナリズムの基本的考え方	異文化コミュニケーション・カルチャーショック・ジャーナリズム・ニュース
第2回	日本の報道機関は外国のニュースをどのように伝えているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第3回	権力とメディア	権力の監視・メディアコントロール・スピンコントロール
第4回	戦争とメディア	湾岸戦争・イラク戦争・埋め込み型（エンベッド）ジャーナリスト・テロ
第5回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース（1）	ニュースバリュー・検閲
第6回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース（2）	メディア規制・インターネット
第7回	メディアビジネスとニュース	フリーペーパー・ウェブニュース・コングロマリット
第8回	公共放送のモデル	BBC・NHK・PBS・ダウニング街メモ・番組改編事件
第9回	ゲストスピーカーによる講演と討論	日程変更の可能性あり・ゲストは追ってアナウンスします
第10回	メディアの倫理をいかに守るか	ニュース分析・ジャーナリズム理論・シビックジャーナリズム
第11回	日本は世界からどう見られているか（1）	記者クラブ・皇室問題
第12回	日本は世界からどう見られているか（2）	クールジャパン・コンテンツビジネス
第13回	ニュースの新しい形	ブログ・コンテンツアグレゲーター・SNS
第14回	インターネットとコントロール・創造的な社会と著作権	プライバシー・コード・ボット・
第15回	記述問題とまとめの議論	※問題の要領と詳細は追ってアナウンスします

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回英語のリーディング・アサインメントがあります。授業内の議論に必要ですので読んで来て下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①最終講義日に行う記述問題（オープンノート・詳細はクラス内でアナウンスします） ②（希望者のみ）リーディング・アサインメントの「ディスカッション・グループ」による発表（詳細はクラス内でアナウンスします） ③クラス内で書くコミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を最低1紙は読んで下さい。テレビのニュースも見て下さい。最近の時事問題については「常識」と考え、最低限の説明しかしません。
インターネットのSNS(TwitterやFacebookなど）も積極的に使ってみて下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

BBC（英国放送協会）：www.bbc.co.uk

PBS（米公共放送）Newshour with Jim Lehrer；www.pbs.org/newshour/
Reporters sans Frontier（国境なき記者団）：www.rsf.org
Project for Excellence in Journalism（優れたジャーナリズムのためのプロジェクト）：www.journalism.org
Committee of Concerned Journalists（危惧するジャーナリストたち）：www.ccj.org

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp（[at]を@になおして下さい）

その他 / Others

子どもとメディア（S）

15458

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。また、子どもが接している様々なメディアを実際に授業中に参照し分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	「私のメディア史」（子ども時代に接したメディアを振り返る）
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	子ども、子ども時代、子どものメディア利用実態
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	乳幼児のメディア理解、幼児用教育番組の効果
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	ポピュラー・カルチャーと子どものアイデンティティ形成
第5回目	メディアと暴力	メディアに描かれるバイオレンスとその影響
第6回目	メディアとジェンダー	メディアに描かれる「女の子らしさ・男の子らしさ」
第7回目	消費者としての子ども（1）テレビ番組	消費社会と子ども、ブランド・ロイヤルティー
第8回目	消費者としての子ども（2）広告	子どもへのマーケティング、大量消費社会とメディア
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	ネットいじめ
第10回目	子どもの権利とメディア	権利主体としての子どもと子ども向けメディア
第11回目	子どもにメディアを教える（1）	メディア・リテラシー、メディア教育とは何か
第12回目	子どもにメディアを教える（2）	メディア・リテラシーの基本概念
第13回目	子どもにメディアを教える（3）	メディア教育の実践
第14回目	子どもにメディアを教える（4）	メディア教育の課題
第15回目	検証テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト（40%） 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー（60%） 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。シールのないものは減点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

情報経済論（S）

15332

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成、デジタル・コンテンツの普及により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造は変革を余儀なくされている。このような変革にともなって引き起こされるさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・経済活動の情報化・ネットワーク化の実態について理解できる
・情報経済を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・経済の情報化・ネットワーク化がもたらす社会的影響について理解できる
・情報経済化に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネスモデル
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、情報財
第5回	企業・消費者間（BtoC）のEC(3)	コンテンツ産業、ビジネスモデル
第6回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、効果測定指標
第7回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第8回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、収穫逓増
第9回	ECの技術的基盤(1)　情報処理形態と通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク、インターネット
第10回	ECの技術的基盤(2)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	電子マネー、企業ポイント
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID、トレーサビリティ、トラッキング
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	ビジネスモデル、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義内容に関する具体的事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
eビジネスの教科書	幡鎌 博 ／創成社／4794422849／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第8回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／内容的には古くなったがIT革命がもたらした意義についてわかりやすくまとめている
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第4版	高橋和之，松井茂記、鈴木秀美／有斐閣／4641130639／第14、15回の講義内容の理解が深まる
モバイルバリュー・ビジネス	NTTドコモモバイル社会研究所（編）／中央経済社／4502662402／第11回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCT　http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

伝統芸能論（S）

15430

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。

講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②伝統芸能を鑑賞するための基礎的知識を修得する。
③各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの知識を修得する。
④芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	【キーワード】成績評価方法／各回の講義の概要 【その他】伝統芸能についての基礎知識や経験、講義についての希望を問うアンケートを行います。
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	【キーワード】伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／産業としての伝統芸能／伝統芸能をめぐる諸制度
3	「伝統芸能」以前	【キーワード】講義で取り上げる各伝統芸能の歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり 【映像資料】高千穂の夜神楽／鹿島神宮祭頭祭　他
4	落語の歴史と特色	【キーワード】落語の鑑賞案内／落語の歴史／落語の特色 【資料映像】桂枝雀『代書』 他
5	落語の演目	【キーワード】古典落語と新作落語／上方落語と江戸落語の違い／緊張と緩和の理論 【資料映像】桂三枝『ゴルフ夜明け前』／古今亭志ん生『三枚起請』 他
6	能の特色	【キーワード】能の鑑賞案内／能における役割／能の表現様式の特徴（幽玄能など） 【資料映像】『土蜘蛛』 他
7	能の歴史と作品	【キーワード】能の歴史／作品の分類／作品についての解説 【資料映像】『井筒』／『道成寺』
8	狂言の歴史と特色	【キーワード】狂言の鑑賞案内／狂言の歴史／狂言の特徴 【資料映像】『附子』／『唐相撲』
9	狂言の作品	【キーワード】作品の分類／作品の解説／狂言と他の芸能との共演 【資料映像】『濯ぎ川』／『素襖落』
10	文楽の歴史と特色	【キーワード】文楽の鑑賞案内／文楽の歴史／文楽の特徴 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「天拝山の段」 他
11	文楽の作品	【キーワード】作品の分類（時代物・世話物・景事）／作品の解説／文楽作品に対する統制と対策 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「寺子屋の段」／『義経千本桜』より「大物浦の段」 他
12	歌舞伎の歴史と特色	【キーワード】歌舞伎の鑑賞案内／歌舞伎の歴史／歌舞伎の特徴 【資料映像】『歌へす歌へす余波大津絵』より「藤娘」／『仮名手本忠臣蔵』 他
13	歌舞伎の作品	【キーワード】作品の分類（荒事・和事）／作品の解説／東西の歌舞伎の違い 【資料映像】『恋飛脚大和往来』より「封印切」 他

14	伝統芸能とメディア	【キーワード】メディア体験としての伝統芸能／芸能と観客／伝統芸能と権威性
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	【キーワード】講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

伝統芸能について、より詳しく学びたい人に向けて、参考書や映像資料などの紹介も行います。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第6回講義の終了時点で中間レポート課題について説明する。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述すること。 コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビや動画サイトなど、どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。また、機会があれば生で上演を鑑賞してみてください。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回、レジュメを配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
上方芸能の魅惑	森西真弓／NHK出版／414080808X／歌舞伎、文楽、狂言、落語について、歴史と見どころをわかりやすく解説しています。
日本芸能史	藝能史研究会編／法政大学出版会／4588230018／全7巻あります。古代から現代に至るまでの芸能の歴史を、時系列に沿って把握できます。
日本の古典芸能	藝能史研究会編／平凡社／4582216013／全10巻あります。芸能の歴史について、歌舞伎、能、狂言など、ジャンルごとに把握できます。

『上方芸能の魅惑』は初心者にもお勧めできますが、『日本芸能史』(全7巻)と『日本の古典芸能』(全10巻)は専門性の高い内容です。講義の中で、まったく未経験の初心者にでも理解できるような入門書や入門用映像資料も紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。伝統芸能の場合、個人が趣味で作った解説ページが多くありますが、内容にムラがあるのでお勧めできません。ネットでの情報については、興行予定の確認程度にとどめておくのが賢明です。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

上記参考ページに、メッセージの送信フォームも設置しています。全体に告知すべきと判断した質問・意見に関しては、講義中で説明します。公平を期すため、個人的に回答することは原則としてありません。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。
※2010.3.22　シラバス入稿時のレイアウトが反映されていないことが判明したので、レイアウトを修正しました(内容は一切変わっていません)。

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15466

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察の眼が反映しているのか。本講義は観察者の存在を重視した17世紀オランダ絵画を出発点として、近代の自然描写を中心に社会史・思想史のコンテクストにおいて考察する。ヘダ、レンブラント、フリードリヒ、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、カンディンスキー、モンドリアン、ポロック、ボイス、リヒター、キーファー、杉本博司など17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、近代以降の観察者の立場の変容を考察し、今日の視覚文化の諸前提を問う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品の主題を読み取り、時代の思想・世界観を知る。
主観的な感情移入や解釈を排し、客観的に作品を観察する力、ひいてはイメージに対する批判的思考力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	芸術作品における観察の眼と自然観における歴史的経緯
第2回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　静物画
第3回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　肖像画
第4回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　風景画
第5回	近代の自然観	近代の風景像の概観（1） 美術史、美学における自然観―カント、アドルノ、リオタール他
第6回	近代の自然観	近代の風景像の概観（2） 美術史、美学における自然観―ベルティング、ベーメ他
第7回	近代の自然観	19世紀初期　ドイツ・ロマン主義
第8回	近代の自然観	19世紀後期　印象主義
第9回	近代の自然観	19世紀後期　ポスト印象主義
第10回	近代の自然観	19世紀末　象徴主義
第11回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第12回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第13回	近代の自然観	20世紀後期　抽象表現主義
第14回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート
第15回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

美術館、博物館などで、オリジナル作品を観察することを習慣づけ、
芸術作品を趣味ではなく、研究、調査の対象として捉えたレポートを評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
C.D.フリードリヒ：「画家のアトリエからの眺め」――視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
ドイツ・ロマン派風景画論：新しい風景画への模索	神林恒道・仲間裕子／三元社／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／
描写の芸術：一七世紀のオランダ絵画	スヴェトラーナ・アルパース著；幸福輝訳／ありな書房／／
「思想」 2009年10月号	仲間裕子他／岩波書店／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

メディア社会専門特殊講義（SG）

16881

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「表現の自由」は近代の民主社会を開き、発展させてきた基本的な理念の一つで、憲法でも保障されている。しかし、高度情報化社会の進展にともなって、「表現の自由」に派生するマスメディアが担う「報道の自由」に対する市民からのまなざしは厳しくなり、ネットでの「匿名情報」の氾濫など負の側面も強調されるようになっている。表現の自由と、プライバシーなど他の人権とどう調和させていくのか。その歴史を振り返るとともに、新聞、電波、電子、マスメディアの世界で起きている「表現の自由」にかかわる諸問題をてがかりに、あるべき表現方法とそれを実現していくための条件を考察していく。テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

「表現の自由」をめぐる対立、トラブルで問題の本質をとらえ、双方の利害対立を整理したうえで、一定の解決策を提案できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について総論	憲法21条
第2回	いま、世界の「表現の自由度」は	ランキング
第3回	「表現の自由」を求めて	弾圧
第4回	プレスコード「抑えられた原爆報道」	検閲
第5回	言論テロとの闘い「横浜事件」	自白
第6回	言論テロとの闘い「朝日新聞阪神支局襲撃事件」	時効
第7回	取材の自由とその制約①～取材源の秘匿	逮捕
第8回	取材の自由とその制約②～取材資料の目的外使用	押収
第9回	取材の自由とその制約③～公務員の守秘義務とのかかわり	密約
第10回	表現の自由への規制	ビラ配り
第11回	メディア規制～個人除法保護法	匿名
第12回	メディア規制～有事法制	指定機関
第13回	ネット情報の氾濫と規制	炎上
第14回	名誉毀損訴訟の変遷	高額化
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回のミニレポートで、理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

必要に応じてレジュメ・資料を用意する。ビデオを使用することもある

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『言論の不自由』	朝日新聞社会部編 ／径（こみち）書房／／
『新聞社襲撃』	116号事件取材班 ／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツバイオメカニクスIII (S)

15579

担当者名 / Instructor　福田 厚治

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バイオメカニクスは、人間の身体の仕組みを加味して力学的諸条件における身体運動を科学する学問分野である。本授業では、身体の機能解剖を中心とした身体の特性を理解し、様々な運動を例に基礎の力学を学習し、スポーツをバイオメカニクス的観点から考察できるようになる基礎的学力を高める。

到達目標 / Attainment Objectives

①身体の機能解剖を学習し、身体が運動する仕組みを理解する
②基礎の力学を学習し、身体運動に適用して考えることができる
③スポーツパフォーマンスとバイオメカニクス的知見との関係を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	バイオメカニクスの歴史	古代ギリシャ, 写真撮影法, マイブリッジ, ビデオカメラ, 力の測定
2	身体動作の定義～骨および骨格と関節動作～	身体運動の軸, 身体運動の面, 骨の種類, 関節の種類, 関節動作
3	筋の種類と筋収縮の仕組み	筋の種類, 筋線維, 筋収縮, 最大筋力
4	筋収縮のエネルギー	エネルギー供給, ATP, クレアチンリン酸, 解糖系, 有酸素系, 乳酸
5	身体運動の制御機構	感覚神経, 運動神経, 運動学習, 反射
6	並進運動の運動学①	変位, スピードと速度, 加速度, 時間微分
7	並進運動の運動学②	変位, スピードと速度, 加速度, 時間微分
8	回転運動の運動学①	弧度法, 角速度と並進速度, 接線加速度, 求心加速度
9	回転運動の運動学②	弧度法, 角速度と並進速度, 接線加速度, 求心加速度
10	力と運動	ニュートンの運動の法則, 慣性, 作用・反作用, ベクトル, 力の種類, 外力と内力
11	運動量と力積	運動量保存の法則, 力の時間積分, 運動量の伝達, 衝突
12	投射体の運動	放物運動, 投射角度, 跳躍高の推定, 投距離の推定
13	スポーツ用具の力学	スパイクシューズ, ボール, 打具, 撃心
14	様々なスポーツ・運動におけるバイオメカニクス的研究とその活用①	指導者および選手へのデータのフィードバック, 傷害予防とリハビリテーション
15	様々なスポーツ・運動におけるバイオメカニクス的研究とその活用②	指導者および選手へのデータのフィードバック, 傷害予防とリハビリテーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

高校数学の復習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	
平常点評価	30 %	授業で行なう小テストや小レポートを評価する 欠席が授業回数の1／3以上の場合は試験を受けることができない

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツバイオメカニクス20講	阿江通良, 藤井範久／朝倉書店／978-4-254-69040-8／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
バイオメカニクス―身体運動の科学的基礎―	金子 公宥, 福永 哲夫／杏林書院／978-4764410695 ／

スポーツ・バイオメカニクス入門	金子 公宥／杏林書院／978-4764410794 ／
目でみる動きの解剖学	ロルフ ヴィルヘード／大修館書店／978-4469264210 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ心理学III（S）

15578

担当者名 / Instructor　東山 明子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ心理学は練習内容、行動様式、実験結果を可能な限り数値化し客観的な視点を必要とする学問から、「このような状況がどうして続くのか」「頭でわかっているつもりだけどなかなかできない」「試合前日になると必ず熱がでてしまう」…など内的な作業を必要とする深層心理的アプローチまで存在する。
Ⅲ（s)については、実験心理学とメンタルトレーニングの内容に絞り、それぞれの考え方・捉え方を学習していく。

到達目標 / Attainment Objectives

先行研究からの結果や考察から自分の実践している（してきた）スポーツや今後指導するであろうスポーツに対して、練習内容や感覚的に感じてきた事を比較検討することができる
心理テストからの読み取りや分析の基礎を理解することができる
意識的にコントロールできることとできないことを明確にする
競技者や学生に対して、どのような関や何ができるかを考え続ける姿勢を持つことができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/29	ガイダンス	実験心理学　メンタルトレーニング　スポーツカウンセリング
10/6	スポーツ技能の習得1	認知　自動化　文脈干渉効果
10/13	スポーツ技能の習得2	集中法　分散法　視覚的指導 コーチング
10/20	スポーツ技能の習得3	グループ討論　練習方法の確立　技術レベルの考慮
10/27	スポーツ技能の習得4	グループ発表
11/3	緊張と不安によるパフォーマンス低下	イップス　練習の質・量　催眠
11/10	心理テストと自己分析	Y-G検査　DIPCA　POMS
11/17	心理テストの有効性と限界	判定　適応性　フィードバック方法
11/24	リラクセーション技法	呼吸法　自律訓練　イメージ
12/1	ピークパフォーマンス	クラスタリング　生活習慣　意志力の確認
12/8	イメージトレーニング	視覚　聴覚　筋運動感覚
12/15	コンディショニング	追い込み期　テーパー期　バーンアウト
12/22	積極的思考	生理的変化　状況把握能力　積極性の意義
1/12	ケーススタディと検討課題	可能性　見立て　関わり　器
1/19	テスト及び総括	テストとまとめを実施

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基礎的な語句の理解度確認するための内容と、選手に関わるための例題に対する捉え方を検証テストとする 出席を5%理解度を確認するための授業内レポートを25%成績評価の対象とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ心理学の世界	杉村隆 他／福村出版／／
アスリートの心理臨床	中込四郎／道和書院／／
メンタルトレーニングワークブック	中込四郎／道和書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ウエルネス論 (S)

15450

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ウエルネスの概念では，ヘルスに定義されるような単なる心身の健康状態の維持にとどまらず，自らがより積極的に充実した生活を創造していくことが真の健康と考えられている．このような考え方の基礎には，人間は単に健全な個々の要素や部分が集まって総和的に健康となるのではなく，すべての要素が関連しあいながら1つの心身を形成し，その全体において健全となることを重視する発想がある．この関連性に着目した視点から，相互に影響を及ぼし合う個人や環境における「関係」といった集団や社会における問題も，実は生命科学的な仕組みとつながるものであることを理解する必要がある．

本講義では，ヒトの生命維持や身体を支える諸機能の基礎を学び，その全体としての関係性が単に生物学的な問題に限らず，社会を形成する人間行動の問題にもつながることを理解するとともに，そこで機能している人間行動における制御・調整能力という面からウエルネスについて考察していく．

到達目標 / Attainment Objectives

ウエルネスの概念に基づいて，ヒトを個々の部分の総和としてではなく関連性をもった全体としてとらえる考え方および，日常生活においてその実現を支える調整力について理解する．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	到達目標
2	健康とは	健康，生きがい
3	健康観の変遷	完全主義的健康観，QOL，ウエルネス
4	「生」とは	脳死
5	生命の営み	細胞，細胞内環境，静止電位，能動輸送
6	生理学的健康状態	生体内環境，恒常性，動的平衡性，フィードバック機構
7	エネルギーを作り出す仕組み	代謝，消化，吸収，同化，異化
8	酸素を取り込む仕組み	呼吸，肺，呼吸筋，横隔膜
9	ものを運ぶ仕組み	循環，心臓，血管，血液，体温
10	排泄の仕組み，植物性機能を調節する仕組み	腎臓，内分泌，自律神経，視床下部
11	生体外環境へ働きかける仕組み	骨格筋，感覚器
12	運動を制御する仕組み	脳，神経系，機能局在，体部位局在，可塑性
13	生体機能から考えるウエルネスの概念	階層性，総和性，全体性
14	ウエルネスを実現する生体が持つ能力	適応，自己組織化，調整力
15	生体が持つ普遍的な能力から考えるウエルネス行動	スポーツ，障がい

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	授業で説明される生体が本来持つ機能やウエルネスの概念のとらえ方について，自らの言葉で説明できるか，を中心に論述問題により問う
平常点評価	30 %	毎回，講義中に課題を提示し，その回答により出席を評価する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・私語，遅刻，授業中の移動など他の受講生の迷惑になる行動には厳しく対応する

・講義は原則スライドのみを用いて行い，講義終了後にコースツール上にスライドを掲示する．講義中は，自らの耳で話を聞き，メモをとることに集中し，後にコースツールをみながらノートをまとめることで復習に努めてもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない．

講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
トリセツ・カラダ　カラダ地図を描こう	海堂　尊／宝島社／978-4-7966-7308-2／ヒトの構造と機能の理解に役立つ
「地球の時代」の健康を考える	三浦正行／文理閣／4-89259-245-5／

生物と無生物のあいだ	福岡伸一／講談社現代新書／978-4-06-149891-4／生命とは何か考察する際に役立つ
脳のなかの幽霊	V.S.ラマチャンドラン，サンドラ・ブレイクスリー／角川書店／4-04-791320-0／

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

グローバルスポーツ論 (S)

12908

担当者名 / Instructor　藪 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツのグローバルな展開、とはどのような歴史的経緯を経て形成され、現代におけるいかなる位相においてみることができるのであろうか。本講義では、スポーツがグローバルな単位で伝播する過程と、普及－受容の双方向的な関係に着目することで、その課題に応えることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツのグローバル化に伴う歴史的変遷過程と、諸権力との結びつきとを理解する。
②グローバルに展開するスポーツのありようを複眼的に捉えるための眼を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	近代スポーツの幕開け	民俗フットボール、パブリックスクール、アスレティシズム、アマチュアリズム、プロフェッショナリズム
第3回	サッカーのグローバリゼーション①	国際サッカー連盟、国際大会、ナショナリズム、植民地統治
第4回	サッカーのグローバリゼーション②	ファシズム・社会主義体制下におけるサッカー、ステート・アマ
第5回	サッカーのグローバリゼーション③	商業メディアと産業/生産複合体
第6回	サッカーのグローバリゼーション④	ビデオ鑑賞
第7回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容①	ジャポニズム、オリエンタリズム、日清/日露戦争、帝国主義的心性
第8回	日本から海外への柔術の普及とJiu-Jitsuの受容②	現地社会と受容基盤、異文化への眼差し、商業的身体文化
第9回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)①	ブラジリアン柔術、変種
第10回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)②	スポーツの還流に関するグローバルな見取り図
第11回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)③	日系ブラジル労働移民
第12回	還流するスポーツ文化(Jiu-Jitsuの逆輸入)④	中半まとめ、スライド鑑賞
第13回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)①	スポーツ労働移民、スポーツにおける南北問題
第14回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)②	スポーツの「中心」と「周縁」
第15回	グローバルに展開する現代スポーツの光と影(MLB)③	文化帝国主義、ヘゲモニー、「ローカル」の役割

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	20 %	講義期間中(第8回目頃)にレポートを課す。それぞれの試験では、授業の前半・後半の理解度を評価する。 自学自習を随時受け付け、その提出回数と内容に応じて加点する。ただし、必須課題ではない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校体育や民間のスポーツ団体などにおける自らのスポーツ経験、あるいはスポーツニュースなどから得た興味と本講義を批判的に結びつけて受講することが望ましい。そうすれば身近な関心事としてのスポーツを、これまでとは違う角度で見つめ直すための一助になるだろう。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
サッカー狂の社会学	J・リーヴァー／世界思想社／4790706117 ／
スポーツと文明化	N・エリアスら／法政大学出版局／4588004921 ／

スポーツと帝国	A・グットマン／昭和堂／4812297125 ／
越境するスポーツ	高津勝ら編著／創文企画／492116441X ／
近代ヨーロッパの探究・スポーツ	有賀郁敏ら編著／ミネルヴァ書房／／
帝国化するメジャーリーグ	谷口輝世子／明石書店／／
海を渡った柔道と柔術	坂上康博ら編著／青弓社／／2010年4月発刊予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

スポーツクラブ論（S）

15556

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の日本社会において、広義の意味での「スポーツクラブ」は変容の時期を迎えている。こうしたスポーツクラブを取り巻く環境の変化は、日本が新自由主義路線を歩み始めた1980年代以降の社会変動と連動しており、従ってスポーツクラブの現状を知ることは、我々が直面する現代社会の諸問題を理解することにも繋がる。

他方で、日本のスポーツクラブ関連の諸施策が、必ずしも社会のニーズと適合し得るわけではない。それは「欧米直輸入型」スポーツ行政、「上から」のスポーツ施策、「ハコモノ」スポーツ施設に端的にみられるが、こうした問題がなぜ解消されないのか、という点にも目を向ける。そのために、特にヨーロッパにおけるスポーツクラブの歴史的成立展開過程と、日本における受容の歴史に関する学びを深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツクラブの歴史的展開課程を説明できる。
・スポーツクラブが持つ多義的な機能と役割を理解できる。
・スポーツクラブを通じて現代日本社会の現状と課題を把握できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入とスケジュールの確認	アウトラインの提示
第2回	スポーツクラブの歴史①	アソシエーション・結社・協会
第3回	スポーツクラブの歴史②	戦後ヨーロッパのスポーツ政策とスポーツクラブ
第4回	スポーツクラブの歴史③	戦後日本のスポーツ・レジャー政策とスポーツクラブ①（-1970年代）
第5回	スポーツクラブの歴史④	戦後日本のスポーツ・レジャー政策とスポーツクラブ②（-現代）
第6回	地域スポーツクラブ①	スポーツ振興基本計画・総合型地域スポーツクラブ・地域再生
第7回	地域スポーツクラブ②	理念と現実・運動とフィットネス・受容基盤と運営主体
第8回	中間総括	第2回から第7回までの授業のまとめと第9回以降の授業の指針の提示
第9回	変容する企業スポーツ①	日本型企業社会・労使協調・実業団
第10回	変容する企業スポーツ②	新自由主義・Jリーグ100年構想・脱企業化の功罪
第11回	学校体育とスポーツ文化①	学校運動部・国体
第12回	学校体育とスポーツ文化①	サークル・クラブ・体育会
第13回	スポーツクラブの多機能性	障害者スポーツクラブ・環境運動との接合
第14回	スポーツクラブの可能性と課題	ソーシャルキャピタル・住民主体・「自発的取り組み」の功罪
第15回	まとめ	スポーツクラブと社会

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	10 %	講義ごとに自学自習を受け付ける。テーマは特に問わないが、ある程度は授業に関連していることが望ましい。なお、これは受講生の自発的な取り組みであり、提出は任意とする。評価は提出回数と内容に応じた加点式とする。ネット情報のコピー&ペースト及びそれに類する行為は採点対象とはならない（情報自体を活用するのは構わないが、あくまで受講生自身が知見を述べる際の補助的な活用に留めて欲しい）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自らのスポーツ経験、あるいはスポーツニュースなどから得た興味と本講義を批判的に結びつけて受講することが望ましい。そうすれば身近な関心事としてのスポーツを、これまでとは違う角度で見つめ直すための一助になるだろう。

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
総合型地域スポーツクラブの時代	黒須充編著／創文企画／／
日本教育スポーツ体系	日本教育スポーツ体系刊行会編／教育出版センター／／
企業スポーツの栄光と挫折	澤野雅彦／青弓社ライブラリー／／

その他、参考文献に関しては講義を通じて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツとジェンダー（S）

15549

担当者名 / Instructor　片田 孫 朝日

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは、高校野球やJリーグに代表されるように、一般に男性中心の能力競争の世界であり、「男らしい」価値観や文化と結びついている。女性競技者に注目が集まるフィギュア・スケートや新体操のような、いわゆる表現系の競技は、スポーツ全体の中ではより周縁的とみなされている。学校の運動部をみれば、男子チームの女性マネージャーはめずらしくないが、女子チームの男子マネージャーは、ほぼ見られない。このように、スポーツは、性別の身体だけでなく、社会の「男らしさ／女らしさ」の意味や、男女の社会的役割に規定されており、またこれらに大きな影響を与えている。この講義では、こうしたスポーツとジェンダーとの絡まりについて考える。

前半では、社会学的にジェンダーを理解するための概念（「性別役割分業」や「異性愛セクシュアリティ」）について具体的に説明し、日本のスポーツ現象との関わりを読み解く。後半では、近代スポーツと女性の参入、学校体育と性別の授業内容、部活での体罰やセクシャル・ハラスメントなどをテーマに授業を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

社会的に「女／男として」生きることは、望むと望まざるとにかかわらず、私たちの日常生活の一部である。(1)この「女／男」に関する社会現象を、意識的に対象化する見方や概念を学ぶ。(2)また、このジェンダーの観点からスポーツ現象を読み解く力や、自分の日常生活をふり返り、考える力を育てていくことが授業の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業内容、成績評価、女性学と男性学
第2回目	ジェンダーの規範（1）：性別役割分業	異文化、女の町、女性の労働と身体
第3回目	日本の性別役割分業	男は仕事／女は家庭、長時間労働、男の子育て
第4回目	性別役割分業とスポーツ	能力競争、競技生活と家事育児、女子マネージャー
第5回目	ジェンダーの規範（2）：異性愛セクシュアリティ	異性愛主義、性的な主体／客体
第6回目	異性愛セクシュアリティとスポーツ	表現系のスポーツ、マスメディア、美と外見の評価、同性愛嫌悪
第7回目	強い男らしさ	運動音痴、筋肉美、戦いのメタファー
第8回目	闘う女の身体	女子プロレス、女らしさ、葛藤と変容
第9回目	近代スポーツと女性の参入	近代オリンピック、人見絹江、ナショナリズム
第10回目	学校体育（1）：性別カリキュラム	男女別習、性別期待
第11回目	学校体育（2）：「男女の体力差」	スポーツテスト、持久走、「体力」の規準
第12回目	スポーツと暴力（1）：体罰	運動部、教師の体罰、生徒間の体罰
第13回目	スポーツと暴力（2）：性暴力とセクシャル・ハラスメント	男子間の性暴力、男女間の性暴力、セクシャル・ハラスメント
第14回目	スポーツの魅力とジェンダー	自律性、運動文化、オールタナティブ
第15回目	ジェンダーの視点	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	授業内容の理解を中心に、論述試験を実施する。
平常点評価	50 %	授業中に、授業内容に関する意見や考えを記すリアクション・ペーパーを何度か書いてもらう。その提出の有無と内容を平常点とする（40%）。 授業の折り返しの時期に、前半の議論をふまえて、自分でスポーツ報道の記事などを選び、ジェンダー分析の小レポート（A4で1-2枚程度）を書いてもらう（10%）。

リアクション・ペーパーの提出が半分に満たない者は、単位を認めない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・ジェンダー学への招待	飯田貴子他／明石書店／4-7503-1944-9／複数回の授業で参照する

目で見る女性スポーツ白書	井谷恵子他／大修館書店／4-469-26459-8／
女子マネージャーの誕生とメディア	高井昌吏／ミネルヴァ書房／4-6230-4377-0／
スポーツする身体とジェンダー	谷口雅子／青弓社／4-7872-3277-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

skr09062@fc.ritsumei.ac.jp。ただし、頻繁にはチェックしないので、個人的な質問等は、できるだけ授業の前後の時間にしてください。

その他 / Others

スポーツボランティア論 (S)

15555

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツボランティアは,日本では90年代に注目されるようになったが、すでに今日ではスポーツの場で必要不可欠と言い得る位置を占めるようになっている。にもかかわらず、このスポーツボランティアがどのようなものであり、そこにどのような課題が存在しているか。またその望ましいあり方はなにか、など、その様態や望まれる方向についていまだ十全に理解されているわけではない。そこで本講座ではゲスト講師も交えスポーツボランティアの現状と課題について理解を深め、それがスポーツの発展や「グローバルな市民社会」という文脈からどのような可能性を持っているのかについて考えることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

著しく変化する今日の社会の中でスポーツポランティアがどのような役割を果たしているかを、グローバルな市民社会という文脈と日本のスポーツの場の発展という文脈のなかで理解し、今後の課題について考えていけるようにするものとしたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツボランティアとはなにか	ボランティアという考え方、市民社会、新自由主義
2	日本のスポーツの場の展開とスポーツボランティアの登場	スポーツの場、状況の反転、スポーツの産業化
3	Jリーグの誕生とスポーツボランティア	Jリーグ百年構想、サポーター組織
4	2002FIFAワールドカップの経験とスポーツボランティア	まちづくり、新しいアクター、社会運動
5	スポーツボランティアの多様性	障害者スポーツ、イベントボランティア、地域総合型スポーツクラブ、プロスポーツ
6	サポーターというアクターとその活動	ゲスト講師予定
7	障害者スポーツとボランティア	地域、クラブ、イベント
8	スペシャルオリンピックとボランティア(1)	歴史、理念、運動の現状
9	スペシャルオリンピックとボランティア(2)	ゲスト講師予定
10	地域総合型スポーツクラブとスポーツボランティア	地域、住民、公共事業体
11	ボランティアの経営(1):社会運動論から見た組織形態	サポーターの経験事例、「新しい社会運動」
12	ボランティアの経営(2)	情報システム、組織プロセス、意思決定システム
13	ボランティアの経営(3)	組織課題の実例
14	新しい社会運動としてのボランティア	スタイル、意思表示、市民社会、メルッチ
15	まとめ	スポーツボランティアとは何か

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツボランティアに関する研究はいまだ十分にまとめられているわけではない。それはいま進行中の出来事であるためだが、特に現在注目されているスポーツボランティアの動きが、これまで日本スポーツにはなかった新しいカテゴリーに属するものとして表れているからである。それだけにその位置づけも曖昧のままである。そのため本講義は極力ゲスト講師を招へいして現場からの声をまとめ上げる形で授業構成を行うスタイルをとることとしたい。それゆえ講師の都合により内容等一部変更がある旨了解されたい。その場合は事前に指示することとする。

教科書 / Textbooks

特に用いない。授業にてプリント等を配布することとしたい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編／世界思想社／4-7907-1052-1／網羅的に現状を説明している数少ない本。事前に読まれることをお勧めする。
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／新しい社会運動を理解するために
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／フランスのスポーツの場の変化を参照されたい

スポーツ・レジャー社会学	D.ジェリー、J・ホーン／途和書院／4-8105-4008-1／日本のスポーツの変化について理解するために

上にあげたものはほんの一例に過ぎない。多数の紹介したい文献があるので、授業中適宜指示することとしたい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツマネジメント論（S）

12912

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは個人が楽しむもの、といった時代はとっくに過ぎ去ってしまったようであり、そのことを反映してか、わが国でも、スポーツマネジメントという言葉が次第に定着しつつある。それは、スポーツクラブや球団の「経営」であったり、具体的なスポーツ活動の場を提供する「サービス」であったり、監督・コーチなどの現場スタッフの手による「チームメイク」であったりする。本講義では、そうした広範囲なスポーツマネジメントの知識の中から、とくに基本的なものを整理し、提供する。

到達目標 / Attainment Objectives

●スポーツを動かす力としてのマネジメントの意味内容を幅広く理解できる。
●スポーツの経済的価値や実際の経済活動について知る。
●マーケティング・テクノロジーを各種スポーツ場面やスポーツ組織の運営に応用できる。
●スポーツのコーチングやスポーツのプロデュースに関する基礎知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツマネジメントとは何か	スポーツ、マネジメント、スポーツ経営
第2回目	スポーツと人間の関係	パーティシパントスポーツ、スペクテータースポーツ、オーガナイザースポーツ
第3回目	スポーツを動かす力	マネジメント機能、価値の循環、スポーツ生産
第4回目	スポーツ文化とマネジメント	ヒエラルキーパラダイム、場のパラダイム、型のパラダイム
第5回目	スポーツ組織の仕事	スポーツビジネス、スポーツマーケティング、スポーツオペレーション
第6回目	スポーツ組織の顧客	スポーツコンシューマー、購買プロセス、スポーツブランド
第7回目	スポーツビジネスの歴史	萌芽の時代、制度的発展の時代、洗練と公式化の時代
第8回目	プロスポーツリーグの国際比較（中間レポート作成）	サッカー市場、北米プロリーグ、Jリーグ
第9回目	スポーツ産業セグメンテーション	スポーツパフォーマンス、スポーツプロダクション、スポーツプロモーション
第10回目	スポーツ取引とスポーツガバナンス	スポーツ資本の運用、パトロン－クライアント関係、プリンシパル－エージェント関係
第11回目	スポーツマーケティング戦略	マーケティングアプローチ、スポーツ満足ポートフォリオ、競争地位
第12回目	スポーツプロダクトの構造	製品の5次元、スポーツのコア、プロダクトライフサイクル
第13回目	スポーツサービスの品質管理	サービス、サービスクオリティ、サービス戦略
第14回目	スポーツのチームメイク	ゼネラルマネジャー、リーダーシップスタイル、モチベーションマネジメント
第15回目	スポーツプロデュース論	スポーツデバイス、スポーツの勝敗、進化論的発想

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

スポーツの新しい動き（とくに球団経営やチームの運営、法律や規則の改正、スポーツイベントをめぐる問題など）について敏感であること。スポーツに関する新聞記事（単なるゲーム結果ではなくコラム記事のようなもの）は日頃より注意して、よく読んでおいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業終了後に、その授業内容に関してコメントの提出を求める。これにより授業内容の理解度を確認する（平常点＝45%）。加えて小レポートを2回作成する（中間レポート＝20%、最終レポート＝35%）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

これから何らかのかたちでスポーツを支えていこうとしている人、すでに、あるスポーツチームやスポーツ組織に属しながら実際にスポーツを支えている人、さらには、改めてスポーツマネジメントとは何かを考えてみようと思っている人たちの受講を歓迎する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

図解　スポーツマネジメント	山下秋二 ／大修館書店 ／4469265713 ／毎回の授業までに該当の章を予習し、授業日には必ず教科書を持参する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ経営学　改訂版	山下秋二／大修館書店 ／4469264342 ／授業内容のうち、とくにスポーツ組織の経営について更に深めたいときの参考書である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

北米スポーツマネジメント学会
http://unb.ca/web/SportManagement/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

立命館大学産業社会学部
shuji@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ規範論 (S)

15407

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇の社会史」「スポーツ史」「スポーツ社会学」「比較スポーツ論」を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	第1章 2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	第2章 明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	第2章 明示的ルール	同上
第5週	第2章 明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	第2章 明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)明示的ルールを支えるモラル
第8週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されない」プレイの逆進性
第9週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領:スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理 (5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	第4章 現代スポーツモラルの動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	第4章現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	第5章 スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義:優勝劣敗主義は必然化？
第14週	第5章 スポーツの競争と交流	第5章 『競い合い』方の美学
第15週	第5章 スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツの「ルール」とモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

「スポーツ規範論」(文理閣)を出版予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄 ／有斐閣 ／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー ／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ教育論実習I（SA）

12910

担当者名 / Instructor　金 尚憲

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目（マット、跳び箱、鉄棒、平均台）に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の説明及び基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱 、平均台
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。 左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。 尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

必要に応じてプリント配布。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金 尚憲ら ／タイムス／／
器械運動指導ハンドブック	中島光弘ら／大修館書店／／
器械運動の授業づくり	高橋健夫ら／大修館書店／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ教育論実習I（SB）

15550

担当者名 / Instructor　金 尚憲

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

学校体育領域の一つである器械運動種目（マット、跳び箱、鉄棒、平均台）に於ける運動特性を理解し夫々の種目で技を行う際に必要な感覚、筋力、柔軟性等を体感し、それらの適性の獲得を目指し実習・学習する。又、学校体育で指導されている器械運動種目に於ける様々な技の習得・習熟を目指し実習・学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

器械運動の指導者に必要とされる技能及び知識の獲得を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス。器械運動各種目の説明、体力作り、各種技の基本練習等々。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台
2	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒
3	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、鉄棒、跳び箱の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
4	器械運動の適性獲得のための体力作り、マット、跳び箱、平均台の基本練習等々。	適性獲得、マット、鉄棒、跳び箱
5	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習等々。	感覚、筋力、柔軟性
6	器械運動実施の際に必要な感覚、筋力、柔軟性等の理解及びそれら適性の獲得練習。	感覚、筋力、柔軟性
7	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
8	習得した技を習熟させ、より確実に実施するための練習方法の解説及び実習。	技の習熟度、実施時の確実性
9	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題発表及びその練習。	連続技、テスト課題発表
10	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
11	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
12	複数の技を組み合わせ連続して演技する実習・学習。技能テストの課題の練習。	連続技、テスト課題
13	マット及び跳び箱、技能テスト。	マット、跳び箱
14	鉄棒及び平均台、技能テスト。	鉄棒、平均台
15	技能テストまとめ。	マット、跳び箱、鉄棒、平均台

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各器械運動種目の実技課題テストのできばえ及び課題技実施の確実性等です。 左の50%は出席状況30%、授業姿勢20%です。 尚、出席率が70%未満の者は評価の対象としません。

必要に応じてプリント配布

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
体操競技研究	金 尚憲ら／タイムス／／
器械運動指導ハンドブック	中島光弘ら／大修館書店／／
器械運動の授業づくり	高橋健夫ら／大修館書店／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ教育論実習II（SA）

12899

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツ教育論のなかでも特にダンスに焦点をあてて、理論的な学習をもとに、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンス実践を通じてダンスの理念、方法、ダンスの指導法についても習得する。そのために、受講生によるダンスの模擬授業を行ったり、指導案を作成することもある。（ダンスができる服装、靴などを準備すること）

到達目標 / Attainment Objectives

授業の目標は、ダンスの理論的な学習を行い、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンスの模擬授業を通じてダンスの理念や方法、ダンスの指導法、ダンスの指導案作成についても習得することにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業目標、授業のスケジュール、成績評価方法、自己紹介
第2回目	課題学習の原則と進め方	踊り・創る・観る、ダンスの全体験、イメージ課題、運動課題
第3回目	発達課題と学習	イメージと運動、運動課題、イメージ課題、走る－跳ぶ－回る、雷と稲妻等
第4回目	単元計画の進め方	授業の目標、1時間の授業の時間配分、1単元の計画
第5回目	運動課題とイメージをつなぐ指導	メリハリをもった課題の動き、イメージをもって踊る、クラス内での鑑賞、出し合ったイメージから新しい創造
第6回目	1時間完結の学習から作品作りへつなぐ授業	運動課題、イメージ課題、構成課題、全習と分習、作品作り、発表・鑑賞
第7回目	中間のまとめ	課題学習の概念、指導項目、指導内容
第8回目	課題学習の実践（1）	伸びる－縮む、空間の変化と速さの変化、運動からイメージ、イメージから運動
第9回目	課題学習の実践（2）	新聞紙－流れの動きの創造、新聞紙を使用したイメージと動きの体験
第10回目	課題学習の実践（3）	音による動き、鈴、太鼓、カスタネット、マラカス
第11回目	課題学習の実践（4）	コンタクトインプロヴィゼーション、他者と触れ合う、かかわりからできる動き
第12回目	課題の連続・創作	これまでの課題による自由な創作、小作品創作
第13回目	創作	テーマに即した内容、グループによる作品創造
第14回目	創作・発表・鑑賞	題名をつけた作品、作品発表、作品鑑賞
第15回目	総まとめ、レポート提出	課題学習に関する学び、感想・意見の提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	レポート課題に関して、論理的に記述されているのかなどを評価する。
平常点評価	70 %	ダンスの理論と課題学習ができたか、ダンスの指導に関するポイントが習得できたか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
こどもと教師とでひらく表現の世界	松本千代栄／大修館書店／4-469-26107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

スポーツ教育論実習II（SB）

15525

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツ教育論のなかでも特にダンスに焦点をあてて、理論的な学習をもとに、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンス実践を通じてダンスの理念、方法、ダンスの指導法についても習得する。そのために、受講生によるダンスの模擬授業を行ったり、指導案を作成することもある。（ダンスができる服装、靴などを準備すること）

到達目標 / Attainment Objectives

授業の目標は、ダンスの理論的な学習を行い、ダンスの基本動作や技術などを確実に身につけると同時に、ダンスの模擬授業を通じてダンスの理念や方法、ダンスの指導法、ダンスの指導案作成についても習得することにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	授業の概要と導入	授業目標、授業のスケジュール、成績評価方法、自己紹介
第2回目	課題学習の原則と進め方	踊り・創る・観る、ダンスの全体験、イメージ課題、運動課題
第3回目	発達課題と学習	イメージと運動、運動課題、イメージ課題、走るー跳ぶー回る、雷と稲妻等
第4回目	単元計画の進め方	授業の目標、1時間の授業の時間配分、1単元の計画
第5回目	運動課題とイメージをつなぐ指導	メリハリをもった課題の動き、イメージをもって踊る、クラス内での鑑賞、出し合ったイメージから新しい創造
第6回目	1時間完結の学習から作品作りへつなぐ授業	運動課題、イメージ課題、構成課題、全習と分習、作品作り、発表・鑑賞
第7回目	中間のまとめ	課題学習の概念、指導項目、指導内容
第8回目	課題学習の実践（1）	伸びるー縮む、空間の変化と速さの変化、運動からイメージ、イメージから運動
第9回目	課題学習の実践（2）	新聞紙ー流れの動きの創造、新聞紙を使用したイメージと動きの体験
第10回目	課題学習の実践（3）	音による動き、鈴、太鼓、カスタネット、マラカス
第11回目	課題学習の実践（4）	コンタクトインプロヴィゼーション、他者と触れ合う、かかわりからできる動き
第12回目	課題の連続・創作	これまでの課題による自由な創作、小作品創作
第13回目	創作	テーマに即した内容、グループによる作品創造
第14回目	創作・発表・鑑賞	題名をつけた作品、作品発表、作品鑑賞
第15回目	総まとめ、レポート提出	課題学習に関する学び、感想・意見の提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	レポート課題に関して、論理的に記述されているのかなどを評価する。
平常点評価	70 %	ダンスの理論と課題学習ができたか、ダンスの指導に関するポイントが習得できたか、などを評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
こどもと教師とでひらく表現の世界	松本千代栄／大修館書店／4-469-26107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

スポーツ教育論実習III（SA）

20295

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

本実習では，プールで行う実技を中心として行う．水泳のうち，特に近代4泳法（クロール，平泳ぎ，背泳，バタフライ）を中心として扱うこととし，これらの泳法，スタート，ターンについて学んだ上で，それらの中学生，高校生の水泳初心者に対する指導法を学ぶ．また，学校における水泳指導時に必要とされる水上安全法に関する知識，技術についても学ぶ．

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代4泳法（クロール，平泳ぎ，背泳，バタフライ），ターン，スタートを正確に行える
2）初心者指導を中心として各種泳法の指導法を身につける
3）水上安全法の知識を身につけるとともに，実施できる技術を身につける

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	プレテスト
2	泳法指導1	クロール
3	泳法指導2	平泳ぎ
4	泳法指導3	背泳
5	泳法指導4	バタフライ
6	スタートとターン	スタート，ターン
7	苦手な泳法への挑戦1	苦手な泳法の練習
8	苦手な泳法への挑戦2	苦手な泳法の練習
9	指導法1	初心者への指導
10	指導法2	中学生，高校生への指導
11	水泳のトレーニング法	耐乳酸，最大酸素摂取量の向上
12	安全への取り組み1	水上安全法
13	安全への取り組み2	着衣泳と安全の確保
14	様々な泳法	古式泳法，水球
15	ファイナルテストと解説	ファイナルテスト

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	教科書により学ぶ知識と実習を通した経験をどのように結びつけて，学校教育に活かしていくのかについての考えを評価する
平常点評価	75 %	ファイナルテストにて各種泳法およびその指導法を評価する（50%） あわせて出席状況や実習期間中の体調管理なども評価する（25%）

実習という特性をふまえ，全実習時間の2/3以上の出席を評価の最低基準とする．公欠にあたる事由以外での欠席に対する配慮は原則行わないため，事前に十分日程調整を行っておくこと．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

水泳は教員採用の際，実技試験として課されるため教員として採用されるために必要な種目でもあるが，それ以上に，実際に指導者になった時には，他の種目に比べ生命に関わる事故の発生しやすい種目であり，生徒の命を預かる立場として身につけて置かなければならない種目である．このため，自身の泳力はもちろんであるが，正しい指導法，救助法を身につけるために，積極的に取り組んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
水泳指導教本	日本水泳連盟編／大修館書店／4-469-26575-6／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
赤十字水上安全法講習教本	日本赤十字社／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

実習を受けるための用具（スイムスーツ，スイミングキャップ，ゴーグルなど）は各自で事前に準備しておくこと
実習前に履修上の必須事項についてオリエンテーションを行うので掲示に注意し，必ず参加すること

スポーツ教育論実習IV（SA）

12911

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容（教材）をどんなかたちで用意したらよいのかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

●各種球技の特性を理解する。
●球技の授業づくりができる。
●生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その3）	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その3）	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイディア（担当授業時に指導案の提出を求める）などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ教育論実習IV（SB）

15551

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　1

授業の概要 / Course Outline

各種球技の技能を習得させ、さらに、ひとりひとりを活かすチーム戦術の考案から個性的なチームづくりの学習に発展させるためには、どんな内容（教材）をどんなかたちで用意したらよいのかを研究する。このテーマを研究するために、受講者自らが球技の模擬授業を計画し、実践する。

到達目標 / Attainment Objectives

●各種球技の特性を理解する。
●球技の授業づくりができる。
●生徒の立場から、それぞれの授業でのめあてが言える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第2回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第3回目	ゴール型ボールゲーム①：バスケットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第4回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第5回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第6回目	ゴール型ボールゲーム②：サッカー（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第7回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第8回目	技術紹介、モチベーションエクササイズ	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第9回目	ゴール型ボールゲーム③：ハンドボールまたはフラッグフットボール（その3）	チーム練習、ゲーム運営
第10回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第11回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第12回目	ネット型ボールゲーム①：バレーボール（その3）	ペア練習、ゲーム運営
第13回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その1）	技術紹介、モチベーションエクササイズ
第14回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その2）	技能・戦術練習、修正されたゲーム
第15回目	ネット型ボールゲーム②：テニスまたはバドミントン（その3）	ペア練習、ゲーム運営

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	3分の2以上の出席が必要であり、その上で、模擬授業への協力、授業づくりのアイディア（担当授業時に指導案の提出を求める）などが評価される。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ行政論 (S)

15554

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1976年欧州審議会の「ヨーロッパスポーツ・フォー・オール憲章」、1978年ユネスコの「体育・スポーツに関する国際憲章」においてスポーツは人々の基本的権利としてうたわれている。この基本的権利を保障する役割をスポーツ行政は担っていると言える。日本のスポーツ発展は行政と密接に結びついて発展してきたが、本講義では、これまでの日本のスポーツ行政の概要を概観し、現代日本の抱えているスポーツ発展の諸問題について検討するとともに、地域スポーツやスポーツ行政の現場で利用することができる基礎的知識の習得を目指す。

まず、どのような法的根拠によってスポーツ行政が行われているのかを把握し、スポーツ行政における制度、組織体制、財政、スポーツ振興施策について把握してみる。また、地方自治体のスポーツ行政の事例検討と諸外国のスポーツ行政の特徴を検討することによって、日本スポーツ行政に関する問題点と課題を理解していく。

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんとともにスポーツ行政について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

1)スポーツ行政の概念と目的、意義を理解する。
2)スポーツ行政と法律の関係を理解し、それらを関係づけることができる。
3)スポーツ行政の具体化としての政策・施策を検証し、判断することができる。
4)スポーツ行政の事例を収集・対比し、検証することができる。(地方自治体のスポーツ行政事例を発表する)
5)日本におけるスポーツ行政の歴史的変遷と現状及び課題を理解する。
6)諸外国におけるスポーツ行政を理解する。
7)与えられたテーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ政策論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ行政についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価などについての概説)	概説、シラバス、評価
2	スポーツ行政の概念・意義や目的、日本のスポーツ行政と関係法令、スポーツ行政における法的根拠	行政、政府、地方自治体、スポーツ振興法、教育基本法、社会教育法、スポーツ振興基本計画
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省(通産省)、国土交通省(建設省)、総務省、中央教育審議会(保健体育審議会)
4	スポーツ行政と政治との関係	政治、行政、東京オリンピック、モスクワオリンピック、国家主義
5	スポーツ行政と経済との関係	経済、行政、地域振興
6	スポーツ行政の財政施策　ー　スポーツ財政	財政行政、予算編成、執行
7	競技スポーツ(競技力向上政策)とスポーツ行政	国民体育大会、選手強化体制、勝利至上主義、ナショナリズム、日本オリンピック委員会
8	学校体育・生涯スポーツ振興施策とスポーツ行政	学校、教科体育、部活、スポーツ権、スポーツ振興基本計画、民営化、民間
9	障害者と高齢者、在日外国人のスポーツ振興施策	福祉国家、共生、パラリンピック、ねんりんピック
10	諸外国のスポーツ行政	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス、韓国
11	地方自治体のスポーツ行政組織(スポーツ行政)とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権
12	地方自治体スポーツ行政の事例検討(1)	地方自治体、スポーツ行政
13	地方自治体スポーツ行政の事例検討(2)	地方自治体、スポーツ行政
14	地方自治体スポーツ行政の事例検討(3)	地方自治体、スポーツ行政
15	日本スポーツ行政の示唆点と意味　ー　ポスト福祉国家とスポーツ行政	まとめ、福祉国家、NPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	1.講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2.主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかどうか、文章の完成度などを総合的に評価。

平常点評価	50 %	1. 講義に関する意見や感想などを書いてもらい、それを評価する。 2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの行政学	中村祐司／成文堂／4－7923－3203－6　／スポーツ行政をめぐる政策ネットワークについて
スポーツの法と政策	同志社スポーツ政策フォーラム編／ミネルヴァ書房／4－623－03200－0　／スポーツ振興と行政について
スポーツの経済学	池田勝・守能信次編／杏林書院／4－7644－1554－2　／スポーツと経済の結びつきについて
障害者とスポーツ	高橋　明／岩波書店／4－00－430896－8／障害者スポーツの歴史について
スポーツ・ボランティアへの招待	山口泰雄編／世界思想社／4－7907－1052－1　／スポーツ・ボランティアの社会的側面について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/
長寿社会開発センター　http://www.nenrin.or.jp/center/pic/
(財)日本体育協会　http://www.japan-sports.or.jp/
(財)日本オリンピック委員会　http://www.joc.or.jp/
(財)日本障害者スポーツ協会　http://www.jsad.or.jp/
独立行政法人日本スポーツ振興センター　http://www.naash.go.jp/
(財)日本スポーツクラブ協会　http://www.jsca21.or.jp/
(財)日本体育施設協会　http://www.jp-taiikushisetsu.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct
電話番号とメールアドレスなどを講義時に公開する。事前にメールなどで連絡もらえば面談いたします。

その他 / Others

ゲストスピーカーによる講義がある。
講義の理解度を高めるため、講義に関連するビデオ鑑賞がある。

スポーツ産業論 (S)

15358

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを国民生活の観点から投げかける。具体的には，1980年代から1990年代にかけて，当時の通産省を中心にそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題でなぜ失敗したのかなどについて考える。さらに，市場を優先させたスポーツ・ビジネスを批判する立場から，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視してスポーツの発展を展望していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編　／(財)通商産業調査会 ／ISBN4-8065-2360-7 ／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房 ／ISBN4-313-81401-9 ／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ史 (S)

12942

担当者名 / Instructor　西原 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、江戸時代後期から高度経済成長期にかけての日本における近代スポーツの展開過程について検討することによって、「スポーツ」という視点から日本の近現代史を捉え直していくことを目的としている。したがって受講者には日本近現代史についての最低限の知識を持っていることが望まれるが、あくまでもスポーツの展開過程に関する話題が中心なので、一般的知識については適宜講義の中で補いながら説明することを心がけたいと考えている。

到達目標 / Attainment Objectives

19世紀後半以降に日本に伝播・普及した近代スポーツは、元来日本社会に根を持たない身体運動文化であり、当時の日本人にとってはまさに“異文化”であったと言える。そうした“異文化”としての近代スポーツが日本中に普及したことは、近代日本にとって一体どのような意味を持っていたのか。さらには、日本人にとって近代スポーツとは、真の意味で必要不可欠な文化であると言えるのか。本講義では、そういった「日本人とスポーツの関係性」に関する様々な問いについて受講生にも考えてもらうことによって、日本人に合った形でのスポーツ文化への関与のあり方を常に模索できるような姿勢が養われることを望みたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義は日本の近現代におけるスポーツ史を対象としているが、古代から近代に至るスポーツ文化の歴史全般について興味がある人は、教養科目の「スポーツの歴史と発展」を受講されたい（他学部では開講されている場合とそうでない場合があるが）。ただ、本講義は「スポーツの歴史と発展」を受講していなくても履修可能である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「日本人とスポーツ」の現在	スポーツ実践の「日常化・個人化」
第2回	江戸時代における運動文化とそれらをめぐる諸条件	武芸、相撲、運動量、着物社会、養生術
第3回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔1〕軍隊・学校への体操・スポーツ導入	軍事調練、学校体育、健康思想
第4回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔2〕女性と近代スポーツ	女子中等教育の拡大、高等女学校、1920年代の女子スポーツブーム
第5回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔3〕“精神野球”の形成	一高、早慶戦、野球観の劇的変化
第6回	明治時代における近代スポーツの普及過程〔4〕“武道”の誕生	柔術・剣術の近代化、相撲人気の復興
第7回	大正時代におけるスポーツの「企業化」〔1〕	（ビデオ鑑賞）映画『青春』〔1968年：第50回全国高等学校野球選手権記念大会記録映画〕
第8回	大正時代におけるスポーツの「企業化」〔2〕甲子園野球の誕生	新聞社、私鉄会社、スポーツのイベント化、「教育の一環」としての甲子園野球
第9回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔1〕“野球狂時代”“スポーツ狂時代”の到来	野球人気の沸騰、オリンピックへの熱狂、ラジオ中継
第10回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔2〕“権力装置”としてのスポーツ	皇室、文部省、思想善導
第11回	昭和初期におけるスポーツの大衆化〔3〕戦時体制下の体育・スポーツ	「幻の東京オリンピック」、スポーツ活動の自粛・統制・奨励
第12回	高度経済成長期におけるスポーツ〔1〕テレビ時代の到来とスポーツ	長嶋茂雄、力道山
第13回	高度経済成長期におけるスポーツ〔2〕	（ビデオ鑑賞）映画『東京オリンピック』など
第14回	高度経済成長期におけるスポーツ〔3〕東京オリンピック	東京招致の背景、都市空間の変容、スポーツ体制の確立
第15回	高度経済成長期におけるスポーツ〔4〕“根性”とスポーツ	スポーツ漫画・アニメ・ドラマ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	選択問題および論述問題。授業内容全体の理解度を重視する。
平常点評価	30 %	数回に一度の割合で、授業の感想・質問・要望等を授業後に書いてもらい、それを日常点として組み入れる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では適宜映像資料などを提示していくが、紹介する参考文献中にも多くのイラストや写真が掲載されている。それらをうまく活用して、各回の

テーマについての視覚的イメージを各自でうまく作り上げることができれば、理解が深まると思われる。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。講義の中で参考文献を適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「健康」の日本史	北澤一利／平凡社／4-582-85068-5／明治時代における「健康」概念と体操の普及に関する文献
にっぽん野球の系譜学	坂上康博／青弓社／4-7872-3187-1／日本独特の“精神野球”が確立された背景には何があったのか？
ブルマーの社会史	高橋一郎　他／青弓社／4-7872-3242-8／女子体育・スポーツの社会的・歴史的変遷
武道の誕生	井上俊／吉川弘文館／4-642-05579-7／明治期以降の武道の栄光と挫折
権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／「思想善導」政策としてのスポーツの意味
皇紀・万博・オリンピック	古川隆久／中央公論新社／4-12-101406-5／「幻の東京オリンピック」をめぐる様々な思惑の交錯
幻の東京オリンピックとその時代	坂上康博・高岡裕之（編著）／青弓社／978-4-7872-2036-3／戦時体制下における体育・スポーツ界の動向
力道山	岡村正史／ミネルヴァ書房／978-4-623-05255-4／戦後プロレスの隆盛と周縁化
東京オリンピックの社会経済史	老川慶喜（編著）／日本経済評論社／978-4-8188-2060-9／高度経済成長期の日本社会と東京オリンピックの関係性
戦後野球マンガ史	米沢嘉博／平凡社／4-582-85154-1／“スポ根マンガ”とその周辺
体育史講義	岸野雄三（編著）／大修館書店／978-4-469-26101-1／体育・スポーツの通史および個別史
スポーツ史講義	稲垣正浩・谷釜了正（編著）／大修館書店／4-469-26299-4／同上
近代スポーツの実像	中村敏雄／創文企画／978-4-921164-60-7／日本人にとっての近代スポーツの意味とは？

上記以外の参考文献については、配布レジュメに記載する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

スポーツ文化史料情報館　http://www.eonet.ne.jp/~otagiri/
（「論壇サロン」中の論文「江戸後期百年に探る『スポーツする身体』」や、「日本スポーツ史年表」などが参考になる）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ指導論（S）

12913

担当者名 / Instructor　小松崎 敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

運動やスポーツの指導には、運動学、生理学、医学、栄養学、心理学などの知見を踏まえた学際的なアプローチが必要となる。この授業では、それらのごく基本的な事項について解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1）運動指導、スポーツ指導を行う際に配慮すべき基本的事項について述べることができる。
2）人間が運動やスポーツを行うことについて熟考することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	運動・スポーツを行うということ
2	スポーツと健康	健康　エイジング
3	運動パフォーマンス1	個人的技能
4	運動パフォーマンス2	集団的技能
5	パフォーマンスの計量評価	平均　分散　標準偏差
6	指導者の役割1	コーチング　フィードバック　動機づけ
7	指導者の役割2	指導者育成システム
8	トレーニング論1	体力の概念
9	トレーニング論2	トレーニングの原理・原則　筋疲労
10	スポーツと内科的障害	熱中症　過換気症候群　貧血
11	スポーツと外傷	骨折　脱臼　筋腱損傷
12	救急処置	RICE　心肺蘇生法
13	スポーツと栄養	五大栄養素　水分補給　サプリメント
14	学校におけるスポーツ	運動部活動　学習指導要領
15	地域におけるスポーツ	総合型地域スポーツクラブ　スポーツ少年団

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義で扱った内容の理解を問う問題と、自己の考え方を記述する問題を出す。
平常点評価	60 %	毎授業でミニレポートを課す。授業への参加の度合いと学ぶ意欲を総合的に評価する。

欠席や未提出が3回を超える場合には単位を認定しないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

配付資料に基づき授業を行いますので特に使用しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
公認スポーツ指導者養成テキスト共通科目1	日本体育協会／日本体育協会／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

12809

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。このような問いに答えるため、本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的な研究や理論の紹介を行い、社会学の視角を入れることで、何が、どのように見えてくるのかを示すことにしたい。
またこの講義では、同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかについても示していくこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見　方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。

・現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることをこ　の講義の最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また　は並行して受講することで理解が深まります。受講している他の科目すべてを相互に関連づけて、有機的　に学んでください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデユーとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル･スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化と社会的基盤の変化	企業スポーツ、第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨事前に授業時にアナウンスする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。
日本スポーツ社会学会の学会誌『スポーツ社会学研究』が図書館に入っているので、各号の興味のある論文を読むことをお勧めします。スポー

ツの柔らかい評論ものではなくて、スポーツをアカデミックに社会学するとはどのようなものか理解できると思います。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える
スポーツ社会学研究（各巻）	日本スポーツ社会学会／創文企画／4-921164-90-4／1巻から13巻までは法政大学出版

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ人類学 (S)

15548

担当者名 / Instructor　竹村 嘉晃

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを人類学する」といった際、どのようなアプローチや観点から対象を捉えることができるだろうか。本講義では、日頃われわれが慣れ親しんでいる、いわゆる「スポーツ」というものをより広義の意味にとらえ、近代スポーツはもとより、従来「スポーツ」の範疇から除外されてきた民族スポーツ、舞踊、武術、遊戯、儀礼、身ぶりなどを含めた広義の身体文化に関する現代的諸相を広く概観する。そして、個々の文脈や地域に固定した身体文化とその表象に触れながら、それらの伝播や文化接触の様相あるいは近年における変容について多角的な視点から考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

1)「近代スポーツ」とは異なる、広義のスポーツまたは身体文化の現代的諸相を理解し、多様な文化情報を判別することができる。
2)異文化理解の一手段として、世界のスポーツまたは身体文化の多様性とそれぞれの価値を理解し、グローバル時代におけるスポーツまたは身体文化の現状について、政治、経済、社会、文化、日常生活世界といった様々な側面と関連づけながら複眼的に思考・説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツ人類学は、文字通りスポーツを人類学的観点から捉える学問である。従って、スポーツに関する科目はもとより、文化人類学や社会学の基礎的科目を履修していることが望ましい。
また、身体表現論を予めまたは平行して受講することで、本講義の理解が深まるはずである。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンスと導入:スポーツ人類学の視角	講義概要とねらい、成績評価方法、スポーツ人類学の概論
2	日本の身ぶり、世界の身ぶり:身体がしめす社会の記憶	日常生活の身ぶり、身体技法、ハビトゥス、生活様式、文化社会的制約
3	創られた民族芸能:バリ島における観光と伝統の再構築	「楽園の島」バリ、ケチャ、バロンダンス、西洋との接触、観光文化
4	フラは誰のもの?:ハワイ先住民の文化復興運動	ハワイ、フラ、「エキゾチック」、先住民性、真正性をめぐる諸相
5	スポーツ人類学の実践①:カラダで感じる和の身体技法	遊戯、歩行、身体技法
6	神霊、武術、ダンスの融合:インドの武術カラリパヤットのフィールドワーク	インド、カラリパヤット、文化の流用、「舞台化」、フィールドワーク
7	ダンス・イン・ザ・ストリートの民族誌:街はダンスで溢れている?	ストリート・パフォーマンス、YOSAKOIソーラン、エイサー、ヒップホップ、民族誌
8	グループワーク&ディスカッション:レポート提出に向けた問題設定	前半部の小括、「問い」をみつける、文献収集とフィールドワークの説明
9	スポーツ・イベントと文化的パフォーマンス:オリンピックにおける「民族文化」の表象	オリンピック、セレモニー、ナショナリズム、エスニシティ、オーストラリアのアボリジニナル
10	アスリートたちの行く先にあるもの:シルク・ドゥ・ソレイユの世界	アスリートと引退、シルク・ドゥ・ソレイユ、サーカス、競技からパフォーマンスへ、マッスル・ミュージカル
11	伝統スポーツの現在:生活世界と結びつく民族スポーツの諸相	民族スポーツ、儀礼、遊戯、伝統文化の現代性、バンジー・ジャンプ
12	スポーツ人類学の実践②:カラダで感じるヨーガの世界	ヨーガ概論、呼吸法、アーサナ(ポーズ)
13	癒し、デトックス、健康ブーム:ヨーガの流行と全体性を取り戻す動き	ヨーガ、習い事、セレブ志向とファッション性、野菜ブーム、スピリチュアリティー
14	「聖地」をめざす巡礼の隆盛:人はなぜ歩き続けるのか?	日本のお遍路、インドのヒンドゥー寺院、イスラームのメッカ、スペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラ、観光化
15	総括&レポートの書き方	講義のまとめ、レポートの書き方についての覚え書き、評価方法の説明

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

第1回ガイダンス時に配布する本講義の参考文献一覧をもとに、受講者各自の関心にもとづいて文献講読をすすめること。受講者各自が関心を寄せるスポーツあるいは身体文化について、問題の所在となる「問い」を設定し、参考となる文献の収集及び研究を批判的にすすめる。可能であれば、実際にそのスポーツあるいは身体文化を体験したりフィールドワーク調査を行うことで、スポーツ人類学の方法論を経験し、その知見を深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	講義で扱ったテーマまたは受講者の関心にもとづいて一つのテーマを選び、それについての考

		えを問う。評価はレポートの書き方の覚え書き（第15回）に準拠し、受講者各自の関心にもとづく問題設定とそれに対する結論、文献資料の読解とその活用、本講義との関連性ならびに理解度、批判的思考と論理的な記述、参考文献の提示などを総合的に評価する。
平常点評価	40 %	受講者には、単に出席するだけでなく、積極的な参加姿勢を求める。講義ごとにリアクション・ペーパー（コメントや意見等）の提出を求め、その内容に応じて0〜3点で評価する。いわゆる、「出席点」の加点は行わない。なお、リアクション・ペーパーの内容は、レポートの評価の際に参照されることを予め理解しておくこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、できる限り具体的な事例にもとづいて説明していくため、理論や概念を説明する時間を十分に確保することは難しい。よって、文化人類学や社会学に関する基礎的な概念や理論については、ガイダンス（第1回）時に紹介する参考文献をもとに受講者各自で学習をすすめ、理解しておくこと。

教科書 / Textbooks

特に使わない。講義ごとにレジュメ・資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教養としてのスポーツ人類学	寒川恒夫編／大修館書店／4469265527／
スポーツ人類学	宇佐美隆憲／明和出版／4901933051／
スポーツ人類学入門	K.ブランチャード, A.チェスカ／大修館書店／4469261335／
スポーツの後近代: スポーツ文化はどこへ行くのか	稲垣正浩／三省堂／4385356750／
舞踊と社会：アフリカの舞踊を事例として	遠藤保子／文理閣／4892593753／

そのほか、上記以外の文献に関しても、講義の際に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィス・アワーは特に設けない。各講義の終了後に随時、質問などは受けつける。
または、ytr10040@fc.ritsumei.ac.jp宛にメールを送ること。

その他 / Others

スポーツ政策論（S）

12914

担当者名 / Instructor　権 学俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツ政策とは、スポーツにかかわる問題を解決するための手段、方策の体系といえる。今日、あらゆる方面で急速にスポーツの役割とメリットが高まりつつある中、今後どのような方向にどのような手段によってスポーツを発展させるべきか、スポーツ政策の存在価値・目標でもある。

本講義では、スポーツ政策の意義や目的及び政策の策定過程を理解するとともに、近現代日本のスポーツ政策の変遷過程と現状及び課題を把握してみる。また、諸外国のスポーツ政策の現実を検討することによって、今後日本のスポーツ政策が行くべき道、スポーツ政策のあり方を論

到達目標 / Attainment Objectives

学生の皆さんと共にスポーツ政策について考え、意見を述べあえる授業を目指す。

1)スポーツ政策の概念を理解する。

2)スポーツ政策の意義や目的及び政策策定のプロセス・力学を理解する。

3)日本におけるスポーツ政策の歴史的変遷と現状及び課題を理解する。

①学校体育とスポーツ政策、②国際競技力の向上をめぐる政策、③生涯スポーツに関する政策

4)諸外国におけるスポーツ政策を理解する。

5)テーマに対して自らの考えを表現できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツと現代社会」「余暇・スポーツ史S」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ政策についての概要と導入(シラバス説明、本講の目的・内容、学習の進め方、評価など)	概要、シラバス、評価
2	スポーツ政策の概念、スポーツ政策の形成者と体系、スポーツ政策形成のプロセス	政策、政府、行政、民間、統計
3	国におけるスポーツ行政組織とスポーツ振興施策	文部科学省、経済産業省（通産省）、国土交通省（建設省）、総務省、中央教育審議会（保険体育審議会）
4	地方公共団体における行政組織とスポーツ振興施策	教育委員会、スポーツ振興審議会、地域振興、地方分権、まちづくり
5	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（1） ― スポーツ政策の胎動と国民統制	大正デモクラシー、思想善導、身体、鍛錬、文部省、内務省
6	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（2） ― 戦時下のスポーツ	天皇、軍国主義、明治神宮体育大会、厚生省、大日本体育会
7	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（3） ― 戦後初期におけるスポーツ改革政策	GHQ、民主化、大衆化、国民体育大会、冷戦、国際復帰
8	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（4） ― 東京オリンピックと勝利至上主義	オリンピック体制、選手強化体制、スポーツ振興法、勝利至上主義、根性
9	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（5） ― 国民総スポーツ運動の歴史的意味	スポーツ権、新体連、スポーツ振興、生涯スポーツ、コミュニティスポーツ、公害、市民運動
10	日本のスポーツ政策の歴史的変遷（6） ― スポーツ産業の成長と新自由主義	商業主義、新自由主義、国家主義、民間、合理化、民営化
11	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題（1）	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
12	学校体育と生涯・国際競技力向上スポーツ政策の歴史と現状、課題（2）	学校体育、生涯スポーツ、エリートスポーツ
13	世界のスポーツ政策の動向（1）	イギリス、ドイツ、アメリカ、フランス
14	世界のスポーツ政策の動向（2）	韓国、中国
15	日本スポーツ政策の示唆点と意味	まとめ、スポーツ政策、示唆点

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容に関してレポートを課す場合がある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	1.講義で取り上げたテーマについてきちんと理解できているかどうかを評価する。(講義内容の理解度) 2.主題の明確な把握と論述の根拠、批判・批評の論点、自分の考えを論理的に述べているかど

うか、文章の完成度などを総合的に評価する。

平常点評価	50 %	1. 講義に関する意見や感想、ビデオ鑑賞の感想などを書いてもらい、それを評価する。 2. 感想文をもって出欠をとり、それを平常点として評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講者は自分の意見や感想などを発表できる力を授業を通して身につけてほしい。積極的に授業に参加することが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは特になし。講義時にプリントを配布し、テキストとする。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
戦後スポーツ体制の確立	内海和雄／不昧堂出版／4-8293-0271-2／戦後から1970年代辺りまでの日本のスポーツ政策の成立過程について
戦後日本のスポーツ政策	関春南／大修館書店／4-469-26362-1／現代日本のスポーツ問題とスポーツ政策について
地域のスポーツと政策	中山正吉／大学教育出版／4-88730-392-0／地域のスポーツと政策の問題について
権力装置としてのスポーツ	坂上康博／講談社／4-06-258136-1／近代日本のスポーツ政策と思想善導について
体育・スポーツにみる戦争責任	アジアに対する日本の戦争責任を問う民衆法廷準備会／樹花舎／4-7952-5022-7／帝国日本の体力管理・スポーツ統制と植民地朝鮮における体育政策について
新版　日本現代史	藤原彰・荒川章二・林博史／大月書店／4-272-52040-7／現代日本の社会・歴史について

その他、参考文献は毎回の講義時に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
(財)日本体育協会　http://www.japan-sports.or.jp/
(財)日本オリンピック委員会　http://www.joc.or.jp/
独立行政法人日本スポーツ振興センター　http://www.naash.go.jp/
(財)日本スポーツクラブ協会　http://www.jsca21.or.jp/
(財)日本体育施設協会　http://www.jp-taiikushisetsu.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct
電話番号とメールアドレスなどを講義時に公開する。事前にメールなどで連絡もらえば面談いたします。

その他 / Others

講義に対する理解を高めるため、講義内容に関連するビデオ鑑賞がある。
ゲストスピーカーによる講義もありうる。

スポーツ批評論 (S)

12907

担当者名 / Instructor　玉置 通夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツは、、いまや社会の「共通言語」として認知されるようになった。宗教や国，人種による対立を乗越え，平和を希求する世界のソフトパワーとして存在感を増している。また、国内の不況による沈滞ムードの世相を少しでも明るくするためにも、「スポーツの力」を有効な道具として活用する動きが活発化している。そんなスポーツについて、歴史的な流れを踏まえ、色々な角度から分析してみたい。とくに、ジャーナリズムとの関わりは、今日のスポーツを語るうえで最も重要な視点になる。その点に留意しながら論を進めて行きたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツの本質を理解する
・スポーツの歴史とメディアの関係を述べることが出来る
・スポーツジャーナリズムのあるべき姿を考え、提言出来る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

オリンピック史などスポーツ史に関係する本を読んでおくこと。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツメディア論概説	メディアの概念、スポーツとの接点
2	スポーツ史と言う視点	スポーツの概念、社会との接点、発展史
3	スポーツ報道の歴史	レガッタ、中等学校野球、相撲、マラソン
4	野球害毒論争	メディア界最初の事件、部数競争が背景
5	スポーツ紙研究	国内にスポーツ紙はあるか、スポーツ紙とは何か
6	スポーツメディアの自縄自縛	メディア内のスポーツの位置、欧米との比較
7	オリンピックとメディア上	古代オリンピック、繁栄と腐敗
8	オリンピックとメディア中	近代五輪の理念、苦難の船出、初のメディア登場
9	オリンピックとメディア下	ラジオ登場、写真掲載ドラマ、テレビも加わる
10	テレビンピック	世界へ、カラー化、テレビは友達
11	メディアがスポーツを変えた	大相撲の時間制限、ルール変更、記録重視への偏重
12	商業化とスポーツ	サマランチの功罪、プロ容認、水増し五輪
13	メディアスポーツ	運動部とスポーツ部、見るスポーツ、娯楽性の落とし穴
14	メディアミックス	活字と電波、陰と陽、スポーツ亡者
15	スポーツメディアの今後	多様化、専門家、本質の追及

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

最近、スポーツの本質を論じる著作が目だってきた。いわゆる選手の著作やスポーツライターの書いたー代記ものも多い。この中から、漫画やグラフ的なものを避け、なるべく骨太のものを選んでほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	13回目の講義でレポートの題名を発表。授業で扱ったテーマの中から出題し、意味や背景などのついての理解度を見る。
平常点評価	0 %	私語を慎むなどの授業態度も考慮する場合がある。

出席は11回以上を原則とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツそのものに対する知識よりも、社会全体に対する関心が需要。とくに、世界史や国際関係史を十分に学んでおくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
甲子園物語	玉置通夫／文芸春秋／／

近代スポーツのミッションは終わったか　　稲垣正浩ら編著／平凡社／／

この2書は、スポーツに対する興味を持たさせるもの。そのほか、各自に合った書物を選んでもらえればよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

とくになし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

出校時（月）は、講義の前後30分、講師控え室に在室。その他は、甲南女子大の個人研究室（078-413-3073）へ。

その他 / Others

とくになし。

スポーツ文化論 (S)

12740

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源 (2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c）機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社 ／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

スポーツ変動論 (S)

15547

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、近代スポーツという社会現象を可能にした歴史的・社会的諸条件を問い直すことを試みることにある。この試みを通じて、近代スポーツを相対化し、それを再構成する起点を提示する。本講義は、スポーツを成立させる政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととするが、その理解を深めるためのスポーツ事象として、フットボール（サッカー）とフットボール・フーリガニズムを取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は、主にエリアスの社会学理論とそれを基盤とした彼のスポーツ研究を通じて、受講生がスポーツの問題を「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	エリアス社会学講義①:『文明化の過程』を中心に	文明化過程　フィギュレーション
3	エリアス社会学講義②:『宮廷社会』を中心に	宮廷社会　二面的階層　反対運度
4	エリアス社会学講義③:オランダ・エリアス学派のエリアス解釈	オランダの社会統合の変遷　脱形式化
5	エリアスのスポーツ研究①	近代スポーツの社会発生　議会主義　暴力抑制　グットマンとの「対比」
6	エリアスのスポーツ研究②	「見るスポーツ」への関心　狐狩り
7	エリアスのスポーツ研究③	エリアスの「スポーツ・ルール」観　「興奮の探究」としてのスポーツ
8	フットボールとフットボール・フーリガニズム①	近代フットボールの誕生　ジェントルマン　労働者階級
9	フットボールとフットボール・フーリガニズム②	フットボールに対するエリアスの関心
10	フットボールとフットボール・フーリガニズム③	フーリガン登場とその背景　フットボールと国民国家
11	フットボールとフットボール・フーリガニズム④	イギリスにおけるフットボール問題
12	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑤	フーリガニズムとフットボールの近代化
13	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑥	モラル・パニックとフーリガニズム
14	フットボールとフットボール・フーリガニズム⑦	フーリガニズム・イメージの相対化
15	まとめ	これまでの講義を確認し、近代スポーツを相対化し、再構成する起点を提示。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
文明化の過程	ノルベルト・エリアス／法政大学出版局／／
スポーツと文明化	ノルベルト・エリアス、エリック・ダニング ／法政大学出版局／／
問題としてのスポーツ	エリック・ダニング／法政大学出版局／／
スポーツと現代アメリカ	アレン・グートマン／TBSブリタニカ／／
サッカーの情熱	パトリック・ミニョン／社会評論社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

スポーツ法学 (S)

20258

担当者名 / Instructor　吉田 勝光

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在では、スポーツと法とが密接な関わりを持っている。スポーツ法学は、スポーツに関する法を研究する学際的学問であり、未だその体系は確たるものがない。そこで、現在問題が発生している問題点や論点を中心に、基礎的事項を織り交ぜながら、個々の問題を取りあげることとする。また、スポーツ法学上の諸問題は、スポーツの国際化が進む中、日本の問題にとどまらず、外国との関係でもも発生している。従って、時間の許す限り、外国のスポーツ法学上の問題にも目を配りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツに関して、法の具体的適用場面は多い。法自体は極めて抽象的であるが、適用場面は具体的である。本講義の履修により、現在のスポーツ法学の諸問題を具体的事例を通して理解できるようにする。そのために、新聞記事、雑誌等に記載されたものを中心に取りあげる。こうした豊富な生きた事例による学習で、スポーツ法学の基礎知識を取得するとともに、現実の諸問題について、実状を踏まえた理解ができ、課題解決ができるようになる。さらにスポーツ法学上の最新の問題に関する知識も得られるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

具体的事例を十分に示し、直面している具体的問題を取りあげ、必要とされる法的知識は前提として説明するので、特に必要はない。できれば、スポーツを取り巻く現状に関心を持って、新聞等のスポーツ報道を注視して欲しい。「法学」的知識は有った方がよいが、法学系科目を取得していることを受講条件とはしない。スポーツ代理人や、スポーツ仲裁、スポーツ事故といった、個別的問題に関心があればよい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	スポーツ法学の現状(ガイダンスを兼ねて)	現在スポーツ法学が直面している問題、学生諸君に身近なスポーツ法学の事例、スポーツ審判の法的問題
第2回目	スポーツ権と法	憲法上の人権保障、スポーツ権、スポーツ立法政策、スポーツ基本法要綱案、スポーツ基本法案(廃案)、スポーツ基本条例案
第3回目	スポーツ振興と法	スポーツ振興法、スポーツ振興基本計画、スポーツ立法政策
第4回目	スポーツ団体と法	団体の法的性格、法人、団体と処分、選手選考
第5回目	法の下の平等とスポーツの法	性差別、国籍による差別、障害者のスポーツ、スポーツ立法政策
第6回目	スポーツ事故と法(1)	私人間のスポーツ事故の法律関係
第7回目	スポーツ事故と法(2)	学校でのスポーツ事故の法律関係(安全配慮義務違反の法理を含む)
第8回目	スポーツ事故と法(3)	スポーツ施設・設備の瑕疵による事故の法律関係
第9回目	スポーツビジネスと法	選手契約と代理人、肖像権、命名権ビジネス
第10回目	スポーツメディアと法	スポーツ放送、放送法、スポーツ団体と放送規定、スポーツ放送の著作権、スポーツ立法政策
第11回目	企業スポーツ・プロスポーツと法	企業スポーツ選手の法的地位、日本のプロスポーツ、アメリカのプロスポーツ
第12回目	スポーツの環境と法	スポーツ施設・設備の環境とスポーツにより侵害させる環境、スポーツ立法政策
第13回目	ドーピング問題	規制の歴史、規制の内容、検査・処分
第14回目	スポーツ問題の紛争解決	スポーツ仲裁裁判所(CAS)、日本スポーツ仲裁機構(JSAA)、その他の裁判外紛争解決
第15回目	検証テスト(60分)と解説(30分)	スポーツ法学の基礎知識の確認、スポーツ法学上の諸問題に関する具体的理解度、スポーツ法学全般にわたる質疑。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スポーツ関係情報に関心をもつこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第1日目から第4日目まで毎日、当日の授業で自分が最も関心を持ったテーマについて、意見、感想等を書いたレポート(A4)を翌日提出してもらう(手書き可)。各日、17点(13:もう一歩　15:良い　17非常に良い)で評価する。最終日は検証テスト(32点)で評価する。

毎日提出するレポートの分量は、少なくとも75%(4分の3)以上を標準とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

シラバスは教科書の一部と考え、教科書と共に必ず授業に持参すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
導入対話によるスポーツ法学（第2版）	小笠原正監修／不磨書房／978-4-7972-8541-3／基本的教科書として使用する。
スポーツ六法2010	小笠原正他編集代表／信山社／未定／随時参照する。

講義は、上記指定の教科書（2冊とも）を携帯していることを前提として進めていく。両教科書とも第1回目から使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地方自治体のスポーツ立法政策論	吉田勝光／成文堂／978-4-7923-9160-7／スポーツ立法政策、指定管理者制度の関係で使用する。
スポーツのリスクマネジメント	小笠原正・諏訪伸夫編／ぎょうせい／978-4-324-08838-8／スポーツ事故関係の判例を多数所収。

現在のスポーツ法学は、スポーツ立法政策が、あらゆる分野で関連してくる。その基本的考えを知るために余力のある法学既習者には、上記『地方自治体のスポーツ立法政策論』を特に読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

①日本スポーツ法学会http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsla/
②日本スポーツ仲裁機構http:www.jsaa.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

将来の進路としてスポーツ企業、メディア、スポーツ代理人等を希望する学生諸君には、現場で必要とされる法的知識を相当程度提供できると考えている。受講を期待するとともに、積極的な声かけを待つ。

ヘルスマネジメント論 (S)

15552

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テレビや雑誌などでは，日々様々な健康にまつわる問題が取り上げられており，健康について意識する人は多い．しかし，病院に入院している患者など他者に健康を管理してもらえる人はわずかで，多くの人が日常生活の中で自らの健康を管理していかなければならない．しかも，その過程は一生涯に及び，自身の健康を管理するためには，健康に対して自分なりの考えを持ち，その健康を維持するための正しい知識の理解と，それを活用する実行力が必要となる．

本講義では，生涯にわたってより人間らしく社会で自立した生活を営むために，特に自分自身で身体的な健康の管理ができる力を身につけるきっかけとして，生活習慣病に関する現状について学び，その解決方法の1つである運動処方について，自身の生活習慣の分析や運動能力の記録も交えながら学んでいく．

到達目標 / Attainment Objectives

生涯にわたる自身の「健康」について自分なり考えることができ，その健康を自分で維持，管理するために運動を活用するための基本的な知識について理解し，それらを日常生活の中で応用していく意識をもつ．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「ウエルネス論」において，健康を考える上で基礎的な概念について学ぶことができるため，事前に履修しておくことにより本講義に対する理解がより深まる．ただし，これらの科目や高校時に生物などの科目を履修していなくとも十分理解できるよう説明していく予定である．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	健康
2	健康管理とは	健康管理活動
3	健康，体力とは	健康の定義，ウエルネス，QOL，体力
4	日本がかかえる問題と解決への取り組み	生活習慣病，子どもの体力，健康日本21
5	なぜ運動か	ベッドレスト，老化，運動習慣，メタボリックシンドローム
6	自分の身体を知る	体脂肪，BMI，基礎代謝量
7	自分の生活を知る1	METS，消費エネルギー量
8	自分の生活を知る2	摂取エネルギー量，生活習慣調査
9	活動するエネルギーを生み出す仕組み	骨格筋，ATP，ミトコンドリア
10	最大酸素摂取量	最大酸素摂取量
11	最大酸素摂取量の推定1	実際に自転車エルゴメーターを使用した測定
12	最大酸素摂取量の推定2	測定結果に基づく推定
13	生活習慣病予防に必要な運動の条件	エネルギー供給機構，最大心拍数，心拍余裕力
14	運動処方の条件，原則，要素	トレーニングの原則
15	保健行動に対する行動科学的アプローチ	行動変容，まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義を通して，健康な生活とはどういうことなのか，健康に生き続けていくためにはどのように行動しなければならないのか，自ら考える力を身につけてもらう，また，実際の機器を用いた測定などそのきっかけになるような話題を提供していきたいと考えているので，積極的な姿勢で講義にのぞみ，自らの生活に活かしてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	キーワードを理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる．
平常点評価	40 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する(15%)． 期間中に一度，自身の生活習慣について調査し報告してもらう(25%)．

・講義中に講義内容に関連する知識や意見を問う課題を課し，出席を確認する
・出席回数が全講義回数の2/3未満の者には出席点を与えない(ただし，試合参加等への配慮は行う)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・私語，遅刻，授業中の移動など他の受講生に迷惑をかける行為には厳しく対応する．
・授業は原則スライドのみを用いて行い，レジュメは配布しない．授業終了後にスライドをコースツールに掲示するので，授業中は講義を聞くことに集中し，帰宅後コースツールを参考にしながらノートをまとめることで復習をしてもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない．
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
運動処方の実際	池上晴夫／大修館書店／4-469-16321／
健康運動指導のための健康管理概論	中村榮太郎／杏林書院／4-7644-1078-8／
健康管理概論－社会・環境と健康－	東あかね・石榑清司／講談社サイエンティフィク／978-4-06-155338-5／

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

健康日本21
http://www.kenkounippon21.gr.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

衛生学 (SA)

12943

担当者名 / Instructor　池原 賢代、伊藤 ゆり、草野 恵美子、白井 こころ、丸山 広達　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「公衆衛生学・衛生学」の概念と、公衆衛生の各分野における現状や法制度について学ぶことを通して、自分自身の健康と、社会の健康を保持・増進する方法について、理解を深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

「健康」は個人および社会の重要な資源であり、全ての人の生活に関わるものである。しかしながら、その課題および対象は多岐にわたり、国民・地域・社会の健康を守り、増進していくための公衆衛生(学)全体像を把握することは、時に困難を伴う。本講義では、多様化・複雑化する今日の公衆衛生課題について理解し、その解決の方法について、自ら考えることの出来る力を身につけることを目指す。そのための方法論の学習、実践のための基礎知識の習得を目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の要履修科目は特にないが、「地域保健論」、「地域社会論」、「地域福祉論」、「現代人とヘルスケア」 等の講義と併せて受講されることで、より理解が深まると考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要 ／ 健康と公衆衛生 （担当:白井）	授業の到達目標・進め方・成績評価法等 ／ 公衆衛生学と衛生学 ／ 健康の概念
2	地域保健 （ヘルスプロモーション） （担当:池原）	ヘルスプロモーションの概念 ／ 検診と予防
3	健康の指標(保健・医療統計） ／ 難病 （担当:丸山）	保健統計の役割と基礎 （疾病罹患率・有病率・死亡率 etc） ／ 難病対策
4	食品保健と栄養疫学 （担当:丸山）	栄養 ／ 食行動 と健康
5	健康心理(担当:白井） 社会疫学	ストレス・コーピング ／ 対人関係 ／健康行動 ／ 行動変容 ／ 疾病予防
6	疫学・統計概論 （担当:伊藤）	疫学の方法 ／ 統計 ／ 研究計画
7	がんの疫学Ⅰ （担当:伊藤）	がんの基礎統計 ／ がんのメカニズム
8	がんの疫学Ⅱ （担当:伊藤）	がん登録制度 ／健康教育 ／ 喫煙対策
9	保健・医療制度 （担当:白井）	医療制度 ／ 保健医療体制 ／ 医療保険
10	感染症対策と生活習慣病予防 （担当:池原）	感染症対策 ／ 生活習慣病の基礎 ／地域への介入
11	環境保健・衛生 （担当:丸山）	化学物質 ／ 職業性疾患 ／ 公害
12	母子保健・学校保健 （担当:草野）	母子保健制度 ／ 地域における母子保健事業の実際 ／周産期医療の課題 ／ 学校保健制度 ／ 予防接種
13	老人保健 （担当:草野）	老人保健制度 ／ 介護保険制度 ／高齢期医療
14	産業保健・精神保健 （担当:池原）	産業保健 ／ 生活習慣病対策 ／ 労働災害 ／ メンタルヘルス対策
15	国際保健 （担当:草野）	国際保健 ／ WHO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	40 %	講義時にカバーした範囲内から、学習の到達度を確認するため試験課題を課す
平常点評価	60 %	1）30%　講義への積極的な取り組みと貢献により評価する 2）30%　講義時に適宜小レポート並びに、リアクションペーパーの提出を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

公衆衛生学および衛生学は、各論分野が多岐に渡るため、全体像の把握と同時に各分野における健康課題および対策への理解が必要とされる。そのため、本講義は複数の講師によるリレー方式で講義を行う。各講師は、各3回づつの講義担当を予定しているため、講義時の疑問や質問については、なるべく各講義中および講義後の質問等によって解決することを勧める。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂編著 ／ 南江堂 ／／
国民衛生の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会／／
国民の福祉の動向	厚生統計協会 ／編集／厚生統計協会／／
わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦・難波正宗編著／ 廣川出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省http://www.mhlw.go.jp/
WHO http://www.who.int/en/
CDC http://www.cdc.gov/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

衛生学 (SB)

12936

担当者名 / Instructor　池原 賢代、伊藤 ゆり、草野 恵美子、白井 こころ、丸山 広達　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「公衆衛生学・衛生学」の概念と、公衆衛生の各分野における現状や法制度について学ぶことを通して、自分自身の健康と、社会の健康を保持・増進する方法について、理解を深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

「健康」は個人および社会の重要な資源であり、全ての人の生活に関わるものである。しかしながら、その課題および対象は多岐にわたり、国民・地域・社会の健康を守り、増進していくための公衆衛生(学)全体像を把握することは、時に困難を伴う。本講義では、多様化・複雑化する今日の公衆衛生課題について理解し、その解決の方法について、自ら考えることの出来る力を身につけることを目指す。そのための方法論の学習、実践のための基礎知識の習得を目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前の要履修科目は特にないが、「地域保健論」、「地域社会論」、「地域福祉論」、「現代人とヘルスケア」 等の講義と併せて受講されることで、より理解が深まると考えられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義概要 ／ 健康と公衆衛生 （担当:白井）	授業の到達目標・進め方・成績評価法等 ／ 公衆衛生学と衛生学 ／ 健康の概念
2	地域保健 （ヘルスプロモーション） （担当:池原）	ヘルスプロモーションの概念 ／ 検診と予防
3	健康の指標(保健・医療統計） ／ 難病(担当:丸山）	保健統計の役割と基礎 （疾病罹患率・有病率・死亡率 etc） ／ 難病対策
4	食品保健と栄養疫学 （担当:丸山）	栄養 ／ 食行動 と健康
5	健康心理(担当:白井） 社会疫学	ストレス・コーピング ／ 対人関係 ／健康行動 ／ 行動変容 ／ 疾病予防
6	疫学・統計概論 （担当:伊藤）	疫学の方法 ／ 統計 ／ 研究計画
7	がんの疫学Ⅰ(担当:伊藤）	がんの基礎統計 ／ がんのメカニズム
8	がんの疫学Ⅱ(担当:伊藤）	がん登録制度 ／健康教育 ／ 喫煙対策
9	保健・医療制度(担当:白井）	医療制度 ／ 保健医療体制 ／ 医療保険
10	感染症対策と生活習慣病予防(担当:池原）	感染症対策 ／ 生活習慣病の基礎 ／地域への介入
11	環境保健・衛生 (担当:丸山）	化学物質 ／ 職業性疾患 ／ 公害
12	母子保健・学校保健(担当:草野）	母子保健制度 ／ 地域における母子保健事業の実際 ／周産期医療の課題 ／ 学校保健制度 ／ 予防接種
13	老人保健(担当:草野）	老人保健制度 ／ 介護保険制度 ／高齢期医療
14	産業保健・精神保健 （担当:池原）	産業保健 ／ 生活習慣病対策 ／ 労働災害 ／ メンタルヘルス対策
15	国際保健 （担当:草野）	国際保健 ／ WHO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記）	40 %	講義時にカバーした範囲内から、学習の到達度を確認するため試験課題を課す
平常点評価	60 %	1）30%　講義への積極的な取り組みと貢献により評価する
		2）30%　講義時に適宜小レポート並びに、リアクションペーパーの提出を課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

公衆衛生学および衛生学は、各論分野が多岐に渡るため、全体像の把握と同時に各分野における健康課題および対策への理解が必要とされる。そのため、本講義は複数の講師によるリレー方式で講義を行う。各講師は、各3回づつの講義担当を予定しているため、講義時の疑問や質問については、なるべく各講義中および講義後の質問等によって解決することを勧める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／
	／／／

／ ／／

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂編著 ／南江堂 ／／
国民衛生の動向	厚生統計協会 ／編集 ／厚生統計協会 ／／
国民の福祉の動向	厚生統計協会 ／編集 ／厚生統計協会 ／／
わかりやすい公衆衛生学	清水忠彦・難波正宗編著／廣川出版 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省http://www.mhlw.go.jp/
WHO http://www.who.int/en/
CDC http://www.cdc.gov/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11257

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」で示されたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係の基礎知識を習得しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化（高校「保健体育」教科書を持参することが望ましい。）
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第1節　アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 /　ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第2節　プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第3節　イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入 （ヨーロッパサッカー市場の問題点：DVD放映）
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第4節　スポーツ文化のナショナリテイ　/数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その1　スポーツの価値と多様性
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その2　スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節　エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント:
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週に行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語･概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志 ／岩波ジュニア新書 ／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真 ／明和出版 ／／
「サッカーで燃える国･野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー･ジンバリスト　／ダイヤモンド社 ／／

参考文献･資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15411

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。言い換えれば、本講義は、現代日本社会の再生産構造を「レジャーの政治学」として考察することでもある。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャー思想の探究①	古代ギリシアと古代ローマのレジャー思想
3	レジャー思想の探究②	中世、ルネサンス、近世のレジャー思想
4	レジャー思想の探究③	産業革命、ピューリタニズム、合理的レクリエーション
5	レジャー思想の探究④	ヴェーバー、ヴェブレン、ゾンバルト
6	レジャー思想の探究⑤	ファシズム、厚生運動、ヘゲモニー
7	レジャー思想の探究⑥	デュマズディエ、他人志向型人間（リースマン）、マクドナルド化（リッツア）
8	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
9	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
10	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現在まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
11	レジャーからワークライフバランスを考える①	ラファルグの『怠ける権利』とマルクス
12	レジャーからワークライフバランスを考える②	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
13	レジャーからワークライフバランスを考える③	オランダのワークシェアリングの検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える④	「ベーシックインカム」の検討
15	まとめ：人間の安全保障としてのレジャーとは？	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」:レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして:「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会（2001-2002)→社会経済生産性本部(2003-)／／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン［編著］／藤原書店／／
働かない:「怠けもの」と呼ばれた人たち	トム・ルッツ／青土社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

子どもとスポーツ（S）

12944

担当者名 / Instructor　杉本 厚夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「バーンアウトシンドローム」「オーバーユース」。このような言葉を聞いたことがありますか。子どもたちがスポーツをすることによって、引き起こされる逸脱行動です。いや精確には、大人によって引き起こされる子どもスポーツの病理現象です。

周知の通り、日本の近代化において、スポーツは教育としてなくてはならないものでした。つまり、スポーツによって根性だとか、精神力だとか、忍耐だとか、協調性だとかを学ばせようとしたのです。本来、遊びであるはずのスポーツが、教育という世界に取り込まれてしまったのです。もはや、大人たちによって囲い込まれたスポーツは、子ども文化としてのスポーツではないのです。

では、どうすれば子ども達にとって、スポーツが生き生きとした文化として存在するのでしょうか。文化としての子どもスポーツを通して、日本のスポーツ文化を照射すると同時に、これからの日本のスポーツのあり方について考えます。したがって、この講義は、子どもスポーツの臨床社会学といってもよいでしょう。

到達目標 / Attainment Objectives

・子どもとスポーツに関する基本的な概念が説明できる。
・子どもとスポーツの関係のメカニズムについて、論理的に述べることができる。
・子どもとスポーツのより良き関係について自分なりの視点を持つことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子どものスポーツとは何か？	臨床社会学的視点の開示
2	コミュニケーション・ツールとしての子どものスポーツ	自律と依存
3	子どものスポーツの技術論	できないことは・・・
4	子どものスポーツと暴力	不可避なものか？
5	学校体育の幻想	平等とは何か？
6	教育としての学校運動部	教育的意味の誤解、パブリックスクール
7	スポーツ少年団の光と影	選手かアスリートか？
8	ビジネスとしての子どもスポーツ	親の思い、子どもの思い
9	子どものスポーツと体罰	見返りを求める行為
10	やる気を失った子ども達	オーバーユース、バーンアウトシンドローム
11	個性という神話	ちがっているから・・・
12	コーチングの誤謬	教えること、学ぶこと
13	遊びとしての子どものスポーツ	身体の解放は可能か？
14	教養としての子どものスポーツ	スポーツマンシップ、フェアプレイ
15	子どものスポーツ文化の構築	がんばらないスポーツ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容を復習するために、教科書を丁寧に読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	子どもとスポーツに関する基本的な概念と、それらの関係のメカニズムに関する社会学視点について問う。解答の論理的構成と基本的知識について評価する。
平常点評価	50 %	毎回、その回の授業の内容に関係する、小レポートの提出を求める。授業内容の理解度とそれに対する評論を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

普段から、子どものスポーツや遊びに興味を持ち、積極的に機会を見つけて観察するようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
かくれんぼができない子どもたち	杉本厚夫／ミネルヴァ書房／／近刊

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画に学ぶスポーツ社会学	杉本厚夫／世界思想社／978-4-7907-1155-1／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

非常勤なので、授業が終わった時間に質問をしてください。

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15371

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」
障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人に対する言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	スポーツの身体的･精神的･社会的等の効果
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。
研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者スポーツ	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
障害者とスポーツ	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
身体障害者のスポーツ指導の手引き	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。
障害者スポーツ指導教本	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／初級・中級障害者スポーツ指導者養成にかかる教本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

身体表現論（S）

12682

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァ-ガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールによる連絡

その他 / Others

生理学 (SA)

12909

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヒトの生命は，身体内の様々な機能により維持されている．生理学は，これら個々の機能，そしてそれらが統合された個体全体としての生命現象を解明していこうとする学問分野である．本講義では，まずヒトが最低限その生命を維持するために必要とする植物性機能について，いかにそれらの機能が生命維持という目的のために連動して機能しているのかを中心に，それらの機能が営まれる器官の解剖学的内容もあわせて概説していく．

講義の後半では，生命を維持するだけでなく運動などのより活動的な生活を営むために必要となる動物性機能の中心である骨格筋や神経系の構造および機能について概説し，あわせて運動にともなう身体の生理的な変化についても触れていく．

到達目標 / Attainment Objectives

ヒトの生命維持や運動に関わる構造と機能について，基本的な用語を踏まえて，個々の機能だけでなくその関連について理解する．また，運動に伴う身体の生理的な変化についても理解することもあわせて目指す．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない.高校で生物などを履修していなくても理解できるように講義を進めていく．

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　生体内環境の維持	ホメオスタシス，植物性機能，動物性機能
2	細胞の構造と細胞内部環境の維持	動物細胞，能動輸送，静止電位，動的平衡性
3	活動電位と興奮伝導	神経細胞，活動電位，全か無の法則，局所電流
4	興奮の伝達と神経回路	シナプス，伝達物質
5	骨格筋の収縮	滑走説，興奮収縮連関，短縮性収縮，等尺性収縮，伸張性収縮
6	骨格筋収縮の調節	速筋線維，遅筋線維，運動単位，筋紡錘，腱紡錘，伸張反射
7	骨格筋収縮のエネルギー	ATP，ミトコンドリア，エネルギー供給機構(ATP-PCr系，解糖系，有酸素系)，乳酸
8	呼吸	肺，呼吸筋，外呼吸，内呼吸，最大酸素摂取量，呼吸商，酸素借，酸素負債
9	循環	血液，心臓，血管，血圧，心拍数，血流再分配，筋ポンプ作用
10	体温調節	発汗，設定温度，発熱，うつ熱
11	排泄，免疫	腎臓，尿，リンパ球，生体防御機構
12	消化・吸収，内分泌	消化器，異化・同化，内分泌線，ホルモン
13	自律神経系	交感神経，副交感神経，視床下部
14	中枢神経系	脊髄，大脳皮質，小脳，機能局在，可塑性
15	まとめ	生体機能，質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義開始時に講義内容に関連する知識や意見を問うことがある．また，定期的に授業内容を整理するための簡単な課題を課すことがあるので，常に授業内容について自ら考えておいてもらいたい．

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な用語を理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる．
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する．

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は，高校で生物を学んでいない学生でも理解しやすいように，基礎的な内容にしぼって概説的にわかりやすく行えるように努めていくが，分からない用語などがあれば，講義中であっても積極的に質問を行うような姿勢で臨んでもらいたい．

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて，随時資料を配付する．

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信／文光堂／978-4830602016／講義内容についてより理解を深める時に役立つ
解剖学アトラス	越智 淳三 訳／文光堂／978-4830600159／講義内容についてより理解を深める時に役立つ
運動生理学	P.O.オストランド，K.ラダール／大修館書店／4-469-26037-1／講義内容についてより理解を深める時に役立つ
解剖生理学－人体の構造と機能－第2版	河田光博・三木健寿／講談社サイエンティフィク／978-4-06-155343-9／広く浅く学ぶ時に役立つ

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する．

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

生理学 (SB)

12900

担当者名 / Instructor　漆原 良

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ヒトの生命は，身体内の様々な機能により維持されている．生理学は，これら個々の機能，そしてそれらが統合された個体全体としての生命現象を解明していこうとする学問分野である．本講義では，まずヒトが最低限その生命を維持するために必要とする植物性機能について，いかにそれらの機能が生命維持という目的のために連動して機能しているのかを中心に，それらの機能が営まれる器官の解剖学的内容もあわせて概説していく．

講義の後半では，生命を維持するだけでなく運動などのより活動的な生活を営むために必要となる動物性機能の中心である骨格筋や神経系の構造および機能について概説し，あわせて運動にともなう身体の生理的な変化についても触れていく．

到達目標 / Attainment Objectives

ヒトの生命維持や運動に関わる構造と機能について，基本的な用語を踏まえて，個々の機能だけでなくその関連について理解する．また，運動に伴う身体の生理的な変化についても理解することもあわせて目指す．

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にない.高校で生物などを履修していなくても理解できるように講義を進めていく.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入　生体内環境の維持	ホメオスタシス，植物性機能，動物性機能
2	細胞の構造と細胞内部環境の維持	動物細胞，能動輸送，静止電位，動的平衡性
3	活動電位と興奮伝導	神経細胞，活動電位，全か無の法則，局所電流
4	興奮の伝達と神経回路	シナプス，伝達物質
5	骨格筋の収縮	滑走説，興奮収縮連関，短縮性収縮，等尺性収縮，伸張性収縮
6	骨格筋収縮の調節	速筋線維，遅筋線維，運動単位，筋紡錘，腱紡錘，伸張反射
7	骨格筋収縮のエネルギー	ATP，ミトコンドリア，エネルギー供給機構(ATP-PCr系，解糖系，有酸素系)，乳酸
8	呼吸	肺，呼吸筋，外呼吸，内呼吸，最大酸素摂取量，酸素借，酸素負債
9	循環	血液，心臓，血管，血圧，心拍数，血流再分配，筋ポンプ作用
10	体温調節	発汗，設定温度，発熱，うつ熱
11	排泄，免疫	腎臓，尿，リンパ球，生体防御機構
12	消化・吸収，内分泌	消化器，異化・同化，内分泌線，ホルモン
13	自律神経系	交感神経，副交感神経，視床下部
14	中枢神経系	脊髄，大脳皮質，小脳，機能局在，可塑性
15	まとめ	生体機能，質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	基本的な用語を理解した上で，自らの言葉で論理的な記述ができる.
平常点評価	30 %	出席及び受講態度についてリアクションペーパーを中心に評価する.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない
講義内容に応じて，随時資料を配付する.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生理学	真島英信／文光堂／978-4830602016／講義内容についてより理解を深める時に役立つ

解剖学アトラス	越智 淳三 訳／文光堂／978-4830600159／講義内容についてより理解を深める時に役立つ
運動生理学	P.O.オストランド, K.ラダール／大修館書店／4-469-26037-1／講義内容についてより理解を深める時に役立つ
解剖生理学－人体の構造と機能－第2版	河田光博・三木健寿／講談社サイエンティフィク／978-4-06-155343-9／広く浅く学ぶ時に役立つ

その他，必要に応じて講義内で適宜紹介する.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

uru@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

地域スポーツ論 (S)

15553

担当者名 / Instructor　山下 秋二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、スポーツを、まちづくりや地域、あるいは人、住民参加などの視点から考察し、地域に根ざしたスポーツの実態を掘り起こすとともに、スポーツによる地域活性化の足がかりを得ることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

●地域スポーツの新しい文脈について知る。
●豊かなスポーツを生み出す地域スポーツの諸条件をまとめられる。
●対象者の応じたスポーツの展開と課題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

スポーツマネジメント論(S)（事前に必要な知識を得られる授業を参考程度に紹介しています）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	地域スポーツとは何か	地域スポーツの用法、地域（コミュニティ）の要件、スポーツ資産としてみた「地域」
第2回目	地域スポーツの変遷	行政主導型スポーツ、社会的サービスの時代、自前サービスの時代
第3回目	総合型地域スポーツクラブの概念	スポーツ振興基本計画、クラブ連合、ボランタリーアソシエーション
第4回目	地域スポーツ経営の理念と構造	地域スポーツのインフラ、コミュニティビジネス、ソーシャルキャピタル
第5回目	住民主導型クラブの形成過程	社会計画、社会運動、行政支援
第6回目	地域イノベーションの普及モデル	イノベーション属性、採用速度、クリティカルマス
第7回目	地域スポーツセグメンテーション	スポーツ行動の自律性、スポーツ行動の可能性、ベネフィットセグメンテーション
第8回目	スポーツとまちづくり（中間レポート作成）	スポーツの文化的価値、都市型生活様式、市民参加型まちづくり
第9回目	地域スポーツの指導者	指導者のコンピテンシー、ファシリテーター、パス-ゴール理論
第10回目	地域スポーツの組織	コミュニティ類型、マトリックス組織、弱い絆の強み
第11回目	地域スポーツのつくり方	コンセプトワーク、製品ミックス、プロモーション効果
第12回目	事例に学ぶ地域スポーツ①（徳島市の場合）	大学（市民講座）との連携、イベントサポート、地元スポーツ店の役割
第13回目	事例に学ぶ地域スポーツ②（Jクラブの創出過程と地域特性）	組織レベルのイノベーション、イニシエーター地域、プロモーター地域
第14回目	事例に学ぶ地域スポーツ③（ヨーロッパのスポーツクラブ）	シチズンシップ、ソシオ、フットボールガバナンス
第15回目	事例に学ぶ地域スポーツ④（アダプテッドスポーツの考え方）	インクルージョン、ユニバーサルデザイン、知識移転

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	原則3分の2以上の出席を評価の条件とする（平常点として点数化＝45%）。加えて小レポートを2回作成する（中間レポート＝20%、最終レポート＝35%）。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツで地域をつくる	堀　繁／東京大学出版会 ／9784130530156／
地域スポーツの創造と展開	厨　義弘／大修館書店 ／9784130530156／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較スポーツ論（S）

15405

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス（その1）	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス（その2）	アマチュアリズム／近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス（その3）	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス（まとめ）	
第7回	スポーツの王国アメリカ（その1）	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ（その2）	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ（その3）	スペクテイターとコマーシャリズム／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ（まとめ）	
第11回	日本的スポーツ（その1）	英米スポーツの日本的受容／スポーツの普及と学校教育
第12回	日本的スポーツ（その2）	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ（その3）	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ（まとめ）	
第15回	スポーツのグローバリゼーション（全体のまとめ）	スポーツの歴史性・社会性／スポーツ発展の法則性と蓋然性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

武道論 (S)

12906

担当者名 / Instructor　薮 耕太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、武道に付与される諸々の価値や理念そのものを紹介する科目ではない。むしろ、そうした価値や理念が歴史のいかなる文脈において付与されてきたのか、その過程と背景を探ることを目的とする。他方で、もはや日本のみに収斂しきれない、広義における武道文化を読み解くために、海外への武道の普及史を紐解き、武道の"BUDO"化という現代的課題にも目を向けたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①武道の誕生から現代に至るまでの武道理念の歴史的な変遷過程を理解する。
②①を踏まえたうえで、現代における武道を巡る諸状況について、複眼的な立場から考察する力を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	講義目的、進め方、授業評価について
第2回	(日本編)近代文化としての武道①	柔術から柔道へ、講道館柔道の設立と発展、嘉納治五郎の理念
第3回	(日本編)近代文化としての武道②	女性と武道、教育と武道
第4回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会①	武徳会の設立経緯と発展過程
第5回	(日本編)武道の総本山としての大日本武徳会②	諸武道の統括団体としての武徳会とその理念
第6回	(日本編)スポーツと武道①	外来スポーツと武道、イデオロギー装置としての武道
第7回	(日本編)スポーツと武道②	スポーツの武道化、総力戦体制と武道
第8回	(日本編)戦後の武道	大日本武徳会の解散、武道の復興と再編
第9回	(海外編)武道の海外普及① 日清戦争後から第1次世界大戦まで	武道の海外伝播、普及と受容、エリートと非エリート
第10回	(海外編)武道の海外普及② 第1次世界大戦後から第2次世界大戦まで	ロンドン武道会、世界柔道連盟
第11回	(海外編)武道の海外普及③ 戦後の発展過程	国際柔道連盟の設立、道上伯とヘーシンク
第12回	オリンピックと武道	嘉納治五郎とIOC、オリンピック競技としての武道
第13回	現代社会と武道①	学校－企業－町道場の関係性、競技化と勝利至上主義
第14回	現代社会と柔道②	プロ格闘技と武道、武道とBUDO
第15回	まとめ	歴史のなかの武道と現代的課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	授業内容の理解度を判定する。
平常点評価	20 %	講義期間中(第8回目の講義前後)に、論述形式のレポート課題を課し、理解度を評価する。 なお、自学自習を随時受け付ける。評価は提出回数と内容による加点式とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義では、武術から武道へと近代化を図るうえで先導的な役割を果たした講道館柔道を中心に授業を進める。もちろん他の武道も適宜扱う予定ではあるが、受講者はぜひ自学自習を行って欲しい。また、随時質問を受け付け、その内容はできる限り講義に反映させたい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
武道の誕生	井上俊／吉川弘文館／4642055797／
米国対日占領政策と武道教育	山本礼子／日本図書センター／4820569988 ／

今、なぜ武道か	中村民雄／日本武道館／4583100388／
日本近代スポーツ史の底流	高津勝／創文企画／／
海を渡った柔術と柔道	坂上康博ら編／青弓社／／2010年4月発刊予定

上記以外の文献に関しては、講義の際に適宜紹介するが、上記文献のうち、特に『武道の誕生』および『日本近代スポーツ史の底流』は一読しておくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

余暇の社会史 (S)

12945

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「余暇」という言葉を一義的に理解することは難しい。たとえば「余暇」を非労働時間とした場合、労働（真面目）との対比において、あるいは労働力の回復、再生産の時間や場としてこの言葉が位置づけられ、「余暇」はやや消極的な意味を付与されるという事態がしばしば生じる。しかし、「余暇」は労働と同様に、否、状況によってはそれ以上に、生命や生活に対する固有でかけがいのない意味をわれわれに提供することもある。「余暇」にはまた、現代のわれわれの理解からすると思いもよらぬ不思議な価値が含まれていることもある。日本とヨーロッパの生活史をひもとくなら、「余暇」が日々の生活、宗教、娯楽など、民衆にとって多様で重要な意味をもっていたことに気づく。実は、この民衆の「余暇」活動をいかにして管理していくのかは、とりわけ近代以降、国家をはじめとする諸権力にとって非常に重要な課題であったのである。

本講義では、このような広範囲にわたる「余暇」の意味や活動のなかから、幾つかのサブテーマを選び取り、「余暇」の実相と権力との関連に迫りたい。

到達目標 / Attainment Objectives

①余暇のありようを歴史学、社会科学の視点から考察することができる
②文化あるいはスポーツと諸権力の関係を理解することができる
③余暇に内在している諸々の価値を理解することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とスポーツ、基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	歴史の中の余暇	余暇、歴史学、社会史、社会学、社会科学、成績評価
2	余暇と民衆①ー前近代社会にける暮らしの中の余暇	娯楽、シャリバリ、モラルエコノミー
3	余暇と民衆②ー合理的娯楽とは何か	娯楽の社会的機能、郊外の余暇と室内の余暇、民衆娯楽に対する多様な評価
4	余暇と民衆③ー合理的娯楽と民衆との緊張関係	福音主意、パブと労働組合、カウンターアトラクション
5	映画「ブラス」	労働者文化、「やつら」と「われわれ」
6	余暇の大衆化と市民化①ー市民社会とアソシエーション	市民社会、コルポラツィオン、アソシエーション
7	余暇の大衆化と市民化②ー協会組織の展開	結社と法制度、読書協会、合唱協会
8	余暇の大衆化と市民化③ー社会参加と相互扶助	体操協会、自主消防団、社会国家
9	余暇の大衆化と国民化①ー万国博覧会と帝国のまなざし	帝国主義、万国博覧会、近代オリンピック
10	余暇の大衆化と国民化②ー運動会の社会史①	明治維新、森有礼、運動会
11	余暇の大衆化と国民化③ー運動会の社会史②	通俗道徳、民衆文化、ナショナリズム
12	ファシズム下の余暇①ーやわらかいファシズム	ナチズム、歓喜力行団、ヘゲモニー、ベルリンオリンピック
13	ファシズム下の余暇②ー体力の時代と総力戦	幻のオリンピック、厚生省、体力章検定
14	新しい時代の余暇①	新しい社会運動、公共性
15	新しい時代の余暇②	スポーツ・フォア・オール

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	講義内容の理度 論述上の論拠の明確さ
平常点評価	50 %	本講義では授業ごとに受講生の自学自習の成果を受理し、それらも評価の対象とする。また、各テーマの最後の時間に簡単なレポートを書いてもらうが、それも評価に加えることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①講義で配布する資料、紹介する参考文献には必ず目を通すこと
②自学自習をしっかり行うこと

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／／／

／／／

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シャリバリ	蔵持不三也　／同文館 ／4-495-85651-0 ／
英国社会の民衆娯楽	ロバート・マーカムソン／平凡社 ／4-582-47325-3 ／
ヨーロッパの探究8　スポーツ	有賀郁敏他 ／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／
ナチズムの時代	山本秀行 ／山川出版／4-6343-4490-4／
運動会と日本近代	吉見俊哉他　／青弓社 ／4-7872-3167-7 ／

参考文献は講義ごとにより詳しく紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

本講義は、当然のことだが、定刻に始まり定刻に終了する。
講義では、参考文献の中から必要な箇所を印刷して受講生に配布する場合があるのでファイルを用意して欲しい。

いのちの教育 (S)

15583

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ここ数年，「尊厳死」をめぐる議論がメディアを賑わせ，教育分野では「死を学ぶ教育」が注目されている。 人は死を免れないのだから，「よく生きること」「尊厳ある生」の末期（まつご）の「よき死」「尊厳ある死」を希うのは当然としても，生と死の「間」には，「死をみつめて生の大切さを知る」という「死を学ぶ教育」でしばしば語られる言葉では尽くせぬ距離があり，そこには老いや病や障害や，「普通」の人々との「異なり」があって，それが時に死を希うほどの生き難さ，生きづらささえも感じさせる。その生き難さは，老いからも病からも障害からも遠い，ごく「普通」の人々の，子どもたちの生き難さともつらなる。それゆえ，「いのちの教育」は，子どもの自殺や殺人という「現実」への処方箋を期待されもする。しかし，問題の「解決」が緩急とされるからこそ，その「解決」が，どのような「解決」を意味する／してしまうか，一片のガイドラインや数時間の授業プログラムに委ねられる「解決」に陥穽はないか，今一度考えてみてもよいだろう。

本講座では、教室の場における生・老・病・死の語りの構造の解析とともに、「いのちの教育」が注目される社会的文脈を検討し、その組み替えを企てる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理学／生命倫理教育・死生学／死を学ぶ教育がもつ生・老・病・死の語りの構造を解析する視点を持つ。
・「いのちの教育」が注目される社会的文脈を認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

同担当者による教養科目「生命科学と倫理」、専門科目「生命倫理学」を履修していること／履修することを強く希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	「いのちの教育」とは何か	
3.	生命倫理問題（1）	
4.	生命倫理問題（2）	
5.	生命倫理問題（3）	
6.	死を学ぶ？（1）	
7.	死を学ぶ？（2）	
8.	死を学ぶ？（3）	
9.	「討論」の後、「涙」の先	
10	生・老・病・死の語られ方	
11.	生存権／生存圏？	
12.	世代間倫理の倫理	
13.	承認をめぐる闘争	
14.	「私」という物語	
15.	まとめ　生きることの方へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

グローバル教育論 (S)

12950

担当者名 / Instructor　高藤 三千代

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

植民地主義時代から現代までの地球規模での人の移動とそこにおける教育のかかわりについて考察する。人類学的視点を取り入れ、越境移住者を取り巻く教育実践と言語・文化の継承のあり方に焦点をあて、近代に特有な人、ことば、文化の境界枠の自明性を解き明かしていく。そして差異、多様性といった事柄に目をむけ、これまで人々を結びつけ国民国家という共同体を形成してきた、近代的学校教育のあり方とそのオルタナティブな可能性について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

・人、ことば、文化の境界枠の自明性と、教育、政治性の結びつきを認識する。
・グローバリゼーションに伴われる一元化的働きとその弊害を認識し、そこにおける教育の働きと問　　題を理解する。
・以上を踏まえ、グローバル化時代におけるオルタナティブな教育の可能性について検討する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要	授業計画、進め方、成績評価方法などの説明
2~3	グローバリゼーション	地球規模での人の移動、植民地主義、市場原理主義、標準化作用と教育
4~5	人々の統合と教育	国民・国語・文化の形成、ヘゲモニー、グローバルスタンダード
6~7	トランスナショナルな移住と教育 (1)	ディアスポラ、言語・文化・アイデンティティの異種混淆性
8~10	トランスナショナルな移住と教育 (2)	文化・言語資本、就学、文字と権力、継承語
11~12	多文化主義	差異、多様性、近代性
13~14	人々の結びつきと教育のオルタナティブな可能性	多声性、対話、共同体
15	討論の講評とまとめ・学期末レポート作成上の注意事項の説明	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内容に関連するテーマを各自で自由に設定し論述(4000字程度)。文献を1点以上参照すること。講義内容や授業内の討論を活かしているか、自身の考察を展開させているか、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	40 %	授業態度(出席を含む)10% ＋ 覚書30%(配布文献・映像資料に関するコメント・意見・感想・質問等々をまとめたもの。B5・1枚程度)。 ①覚書は遅れずに3回以上提出すること。 ②全講義の2/3以上は必ず出席すること。 ＊①②の要件を満たしていない場合、期末レポート提出の資格はないものとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献・映像資料を用い、小グループおよび全体での討論の場を適宜設けるので、配布文献には必ず目を通し、覚え書を準備して授業に参加すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバリゼーションとは何か』	伊予谷登士翁／平凡社／／
『想像の共同体』	ベネディクト・アンダーソン／書籍工房早山／／
『持続可能な教育と文化』	日本ホリスティック教育協会・永田佳之・吉田敦彦編　／せせらぎ出版／／
『日系人とグローバリゼーション』	レイン・リョウ・ヒラバヤシ他編　／人文書院／／
『多文化主義とは何か』	アンドレア・センプリーニ／白水社／／
『増補国境の越え方』	西川長夫／平凡社ライブラリー／／

その他、授業において適宜紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ジェンダーと教育（S）

15559

担当者名 / Instructor　日野 玲子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学的に教育現象を分析する、教育社会学の基礎となる見方や考え方について、理解を深めることを目標にする。特にこの講義では、近年、教育現象をとらえる視座として重要とされるようになった、ジェンダーの視点から、教育における制度的・文化的な捉えなおしを行うつもりである。ジェンダー概念を理解するとともに、教育に対する視野を広く持つような機会を提供したい。また、ジェンダー平等について、受講者自らの問題として考える場となるよう、ジェンダーに敏感な感性を養うとともに、教育の課題として男女の対等な関係づくりや公正な社会について考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

ジェンダーに敏感になり、暮らしの中のジェンダー・バイヤスに気づく
ジェンダー平等について考える
学校教育をジェンダーの視点で考えることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入　ジェンダーという考え方	
第2回	文化の力を知る　ジェンダー概念の理解	
第3回	文化の力を知る　ジェンダー化された身体	
第4回	ジェンダー意識の形成	
第5回	絵本の分析――ジェンダーの視点から	
第6回	学校文化の検討　隠れたカリキュラムの視点	
第7回	学校教育をジェンダーの視点で検討する　学校体育を課題に	
第8回	教育制度とジェンダー秩序（1）	
第9回	教育制度とジェンダー秩序（2）	
第10回	ジェンダー再生産装置としての学校	
第11回	ジェンダーの視点で教科書を検討	
第12回	ジェンダー平等を考える	
第13回	男女平等教育のとりくみと課題（1）	
第14回	男女平等教育のとりくみと課題（2）	
第15回	ジェンダーと教育の可能性	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

受講生が自らの経験を問い直す機会としてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	中間レポート 小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

積極的な参加を希望する

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダーで学ぶ教育	天野正子他／世界思想社／／
ジェンダーで考える教育の現在	木村涼子他／解放出版社／／
戦後教育のジェンダー秩序	小山静子／勁草書房／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内でお願いします

その他 / Others

スクールソーシャルワーク論（S）

12918

担当者名 / Instructor　佐々木 千里

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スクールソーシャルワークは、アメリカにおいてはソーシャルワークの草分け的分野のひとつとして長い歴史をもつものの、日本ではまだ最近知られるようになり、制度化された分野です。
この講義では、スクールソーシャルワークの理解と応用、課題などについて研究します。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもの最善の利益を追求する活動であるスクールソーシャルワークを理解したうえで、スクールソーシャルワーカーとして活動することを念頭においての価値・知識・技術を学びます。また、教員などがスクールソーシャルワーカーを活用する場合やスクールソーシャルワーク的な視点を身につけた教育活動のありようを学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スクールソーシャルワークの概要	
2	ソーシャルワークの視点の確認	子ども家庭福祉分野のソーシャルワーク
3	スクールソーシャルワーカーの活動	
4	日本の学校の特性と支援　初等教育	
5	日本の学校の特性と支援　中等教育	
6	アセスメント　情報の収集と分析	アセスメントの対象
7	スクールソーシャルワーカーの支援とコーディネーターの役割	校内ケース会議
8	関係機関連携ケース会議	
9	児童虐待について	
10	子どもの発達、発達上の特性について	
11	非行・問題行動について	
12	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー	
13	事例検討1	
14	事例検討2	
15	スクールソーシャルワークの展望	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スクールソーシャルワークに関するものはもちろんのこと、社会全体のことに関心を向け、学校や子どもに関する研修会等に積極的に参加するなど、課題意識を強くもってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業の最後に、その回の授業の内容に関係する「ふりかえり」を書いて提出してもらいます。テーマについては、その都度指示をします。なお、提出は当該回授業に出席した者についてのみとし、授業内容の理解度に応じ、4～6点で評価します。また、課題レポートを1本、最終授業日に提出することとします。課題については、授業の中で指示します。課題レポートは、5～10点で評価します。

2008年度から、スクールソーシャルワークが文科省により制度化されています。さまざまなメディアの報道に関心をもっておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワーカー養成テキスト	日本学校ソーシャルワーク学会編　／中央法規出版 ／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワークの可能性	山野則子・峯本耕治　／ミネルヴァ書房 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://jssssw.com/　日本学校ソーシャルワーク学会

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

マンガ文化論 (S)

15545

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ：マンガというメディア／文化

「マンガを読む」というとき、われわれは必ずしもその「内容」だけを鑑賞しているわけではない。例えば雑誌連載で読むのか、それとも単行本で読むのかで、同じ作品から受け取る印象が異なることがある。また、マンガを原作にしたアニメやドラマと比較しながら読むこともあるだろう。われわれはいつ、どこで、どうやって、マンガに接しているのか。本講義では、「内容」分析ではこぼれ落ちてしまう、マンガの生産・受容の「形式」に着目するメディア論的アプローチから戦後日本社会におけるマンガの布置を考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

作者の「メッセージ」が読み取られるべきテクストとしてではなく、作者と読者との「あいだ」にあって両者をつなぐモノ＝メディアとしてマンガをとらえ、その「文化」としてのありようを言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

メディア文化論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　＜マンガ＞をどのように考えるのか？	マンガ、メディア、コミュニケーション
2	冒険者・手塚治虫（表現論1）	手塚治虫、夏目房之介、マンガ＝記号説
3	少女マンガの＜革命＞（表現論2）	24年組、内面の発見
4	キャラとキャラクターとのあいだ（表現論3）	伊藤剛、キャラ／キャラクター
5	「読む」マンガ／「見る」マンガ（表現論4）	メディア論、読者論／読書論
6	劇画、この劇的なるもの（メディア論＆読者論1）	劇画、青年、貸本
7	少年週刊誌と読者の「成長」（メディア論＆読者論2）	劇画、青年、週刊誌
8	「ぼくら」の夢舞台（メディア論＆読者論3）	同人誌、アマチュア、ぐら・こん
9	そのマンガは誰のものか？（メディア論＆読者論4）	作者／語り手、受容理論
10	“友情・努力・勝利”の方程式（商品論1）	少年ジャンプ、アンケート、雑誌連載
11	たそがれ時に見つけたの？（商品論2）	りぼん、乙女ちっくマンガ、雑誌付録
12	模造有理（商品論3）	二次創作、コミックマーケット、著作権
13	トランスナショナル・コミックス（商品論4）	グローバル／ローカル、文化帝国主義／文化ナショナリズム
14	21世紀のマンガ文化（情況論）	メディア・ミックス、webコミック、マンガ離れ
15	総括　＜マンガ＞はどのように考えられるのか？	マンガ、メディア、コミュニケーション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す（4000字以上のレポートを予定）。
平常点評価	40 %	第5回と第9回頃に小レポート（2000字程度）を課す（詳細は別途提示する）。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2009年度の「マンガ文化論」単位取得率（単位取得者÷履修登録者）は44.2%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『マンガ進化論』	中野晴行／ブルース・インターアクションズ／／
『マンガ学入門』	竹内オサム・夏目房之介編著／ミネルヴァ書房／／
『テヅカ イズ デッド ひらかれたマンガ表現論へ』	伊藤剛／NTT出版／／
『戦争はいかに「マンガ」を変えるか』	小田切博／NTT出版／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

12750

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
ただしテストや最終レポートがないからといって決して楽な授業ではないので、以下シラバスに記載してある授業内容や課題等をよく確認してから登録すること。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディ

スカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつける。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。

・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。

・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。

・ QRコードシールを毎回持参すること。シールのないものは減点とする。

・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

家族関係論（S）

12761

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	【キーワード】家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	【キーワード】少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	【キーワード】結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	【キーワード】子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	【キーワード】母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	【キーワード】育児参加、育児休業
7	児童虐待	【キーワード】貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	【キーワード】家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	【キーワード】「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	【キーワード】親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	【キーワード】機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	【キーワード】家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	【キーワード】アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	【キーワード】保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	【キーワード】これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメに載せた参考文献を読んで、理解を深めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

家族問題に関する新聞記事等を読んで、問題意識を高めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子育て支援の現在』	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房 ／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『母性愛神話の罠』	大日向雅美／ 日本評論社 ／4-535－56156－7／
『個人化する家族』	目黒依子 ／勁草書房 ／4-326－65074ー5／
『「家族」と「幸福」の戦後史』	三浦展／ 講談社現代新書／ 06－149482－1　C0236／
『 21世紀家族へ』	落合恵美子／ 有斐閣選書 ／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。
あるいは、研究室（修学館362号室）のドアに取り付けたボックスに用件を書いたメモを入れて置いてください。連絡先が書いてある場合はこちらから連絡します。

その他 / Others

家族社会学（S）

15337

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

平常点評価（出席）を重視するため、課外活動や就職活動等で恒常的に講義に参加できない学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／
ジェンダーとライスコースで読む家族	岩上真珠／有斐閣／9784641173378／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学校カウンセリング論（S）

11395

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
この科目は、子ども社会専攻の「子どもと発達分野」科目群に位置づき、小学校一種免許状取得に際しては必修科目です。
学校という場所は、人の人生に関する指導を行う機会が非常に多いにもかかわらず、その指導方法に関して体系だった構造をなかなか持ち得ないという特性がある。
本講義では、学校という場と、カウンセリングという支援方法とを如何に融合できるのかを考えると同時に、その方法・技法に関しても学ぶきかいとする。
特にカウンセラーではなく、教師としてこの課題にどう取り組むかを中心に考えることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

学校におけるカウンセリングの有用性と課題を知り、活用の端緒を経験する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学校とカウンセリング	
2	学校カウンセリングの特性	
3	カウンセリング活用の場面	
4	カウンセリングにおけるアセスメントの意義	
5	カウンセリングの前提　1　発達	
6	カウンセリングの前提　2　虐待	
7	カウンセリングの方法1　信頼関係	
8	カウンセリングの方法2　場面構造	
9	カウンセリングの方法3　聴くこと	
10	カウンセリングの方法4　聴くに徹する	
11	カウンセリングの方法5　記録	
12	カウンセリングの方法6　指示と支持	
13	学校カウンセリングの役割	
14	スクールカウンセラーとの共同	スクールソーシャルワーカーとの共同
15	学校カウンセリングの課題と展望	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	各自の到達度を表現することを求める
平常点評価	40 %	系統的に学習することが必要となるので、頻繁に小課題を出すので、授業中のアナウンスに留意すること

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
相談活動に生かせる15の心理技法	「月刊学校教育相談」編集部／ほんの森出版／4-938874-43-1／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com
のメールによること

その他 / Others

学校カリキュラム論 (S)

10361

担当者名 / Instructor　笹野 恵理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
学校カリキュラムは、狭義には教育内容としての教材や、生徒の学習経験を、組織的に編成するために用意された教育計画をさし、広義には、学習者の経験の総体とされる。本講義では、カリキュラムについての基本的な理解とともに、日本の学校カリキュラムの歴史的展開、現代的課題、諸外国のカリキュラム、カリキュラムの社会学的考察等を踏まえ、学校カリキュラムの課題について、特に初等教育を念頭におきながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・カリキュラム編成の基本的な考え方について理解する。
・日本の学校カリキュラムの特色について理解する。
・学校カリキュラムの諸課題について、問題意識をもって考えることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション―学校カリキュラム論を学ぶ意味とは何か―	オリエンテーション
2	カリキュラムとは何か	カリキュラムと教育課程
3	学校における「学びの内容」の編成(1)―カリキュラム／教育課程はどうつくられるか―	教育内容　カリキュラム編成原理　タイラー原理　カリキュラムの思想　子ども中心主義　学問中心主義
4	学校における「学びの内容」の編成(2)―学習指導要領とは何か―	学習指導要領
5	日本の学校カリキュラムの変遷(1)	占領期の教育改革　学習指導要領(試案) 経験主義
6	日本の学校カリキュラムの変遷(2)	独立後のカリキュラム　系統主義　スプートニクショック
7	日本の学校カリキュラムの変遷(3)	ゆとり教育の標榜　生活科　総合的な学習の時間
8	日本の学習指導要領の変遷(4)	ゆとり教育の見直し　学力低下論争
9	「学び」をいかに編みかえるか(1)―学校カリキュラムの今日的実践研究―	いのちの授業
10	「学び」をいかに編みかえるか(2)―学校カリキュラムの今日的実践研究―	市民性教育
11	潜在的カリキュラムと学校文化(1)	潜在的カリキュラム　文化再生産論　文化資本　学校文化
12	潜在的カリキュラムと学校文化(2)	潜在的カリキュラム　文化再生産論　学校文化　教師文化　子ども文化　ジェンダー
13	諸外国の学校カリキュラム	PISA　TIMSS
14	学校カリキュラム開発と評価	SBCD　カリキュラム評価
15	学校カリキュラムの課題	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の中で必要に応じて適宜指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	①講義内容の基本的理解ができているかを評価します。②授業であつかったいくつかのテーマから、受講者の関心に基づいてひとつのテーマを選び、それについての受講者の考え方を問います。講義内容の理解にたって、テーマに対する自分の見解を論理的に述べることができているかを評価します。
平常点評価	40 %	出席、授業時のミニレポート、授業における課題への参加度等、総合的に評価します。

3分の2以上の出席を要します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

自分なりの教育への問題意識をもって、毎時のテーマを自分なりに考えるようにしてください。

教科書 / Textbooks

毎時、レジュメを準備します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新版カリキュラム研究入門』	安彦忠彦編／剄草書房 ／4-326-29815-4 ／
『現代カリキュラム事典』	日本カリキュラム学会編 ／ぎょうせい ／4-324-06211-0 ／
『新しい時代の教育課程』	田中耕治ほか　／有斐閣アルマ／4-641-12246-6／
『カリキュラム評価入門』	田中統治・根津朋実編著／剄草書房 ／978-4-326-29891-4／

その他、授業時に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業時に適宜紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学校マネジメント論（S）

15582

担当者名 / Instructor　椋本 洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

98年中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」は、「統制」と「管理」を前提として学校の責任体制確立を意図した「1956年体制」から、「学校の自主性と自律性の確立」ことを目指す新たなステージを目指すものであった。その特徴は、地方分権と規制緩和として知られるところなり、多くの学校で「学校改善」が図られることとなった。そのことに対応して、今日学校マネージメントの在り方が問われている。答申発表後10年の経た学校現場に即した実践的マネージメント論を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．学校経営・教育経営とは何かを知る
2．学校組織の現状と課題をつかむ
3．優れたリーダーになるための要件を考察できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション「学校経営とは何か」	学校経営と教育経営学校マネージメントの歴史
2	中央教育審議会答申に見る「学校経営」の概念	中教審答申「今後の地方教育行政の在り方について」 地方分権と規制緩和
3	教育委員会制度の役割と意義	教育委員会制度の特性、首長と教育委員会との関係、 教育委員会と学校の自主性・自律性
4	教職員評価による学校経営	教職員の評価育成システム，PDCAサイクル
5	教職員評価による学校経営 2	ワークショップ 「学校組織」
6	教職員評価による学校経営 2	ワークショップ 「学校組織」
7	保護者、地域の参加連携に着目した学校経営	学校評議員制度、学校評価、授業評価
8	教育経営の実践事例 －小学校 1	
9	教育経営の実践事例 －小学校 2	
10	育経営の実践事例 －中学 1	
11	育経営の実践事例 －中学 2	
12	教育経営の実践事例 －高等学校	
13	多忙化からみた学校経営	
14	地域格差を克服するための学校経営	
15	アンケートの作り方	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	授業中に課す課題　20% 出席など授業への積極的参加　30%

2/3以上の出席を評価要件とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

母校のヒヤリング調査やネット検索など、教室外での活動も行う。

教科書 / Textbooks

授業中に必要なハンドアウトを配布する

参考書 / Reference Books

適宜、授業中に指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省HP

都道府県委員会HP
母校等のHP

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学校制度と法規（S）

15581

担当者名 / Instructor　鳥居 朋子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

学校とは、どのような制度や法規の枠組みのもとで教育を営んでいる組織なのでしょうか。本授業は、学校に関するさまざまな制度や法規を理解し、それらを現代の教育をめぐる諸問題と関連付けて検討しながら、受講生自身の学校制度に対するイメージを明確にすることを目的とします。具体的には、学校制度と法規の諸側面に注目し、教育行政、教育課程、教員、児童・生徒、学校組織運営等の制度を解説し、受講生の問題意識を深めていきます。

多人数のクラスになる場合は、講義を聴いて自分の意見を個々に文章にまとめる学習活動が中心となりますが、受講人数に応じて学生同士が協力して行う主体的な学習活動も組み入れます。たとえば、小グループを組織して、グループごとにテーマにそったディスカッションや演習を行います。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 学校に関する制度や法規について、その原理や体系、主要な論点を説明できる。
2. 学校に関する制度や法規と現代の教育の諸問題との関連について、教育学の視点に基づき自らの意見を述べることができる。
3. 学校に関する制度や法規に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　※重要事項を説明するため、必ず出席すること	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等の説明、各回の授業概要の説明
2	教育法規(1)／国民の教育意思と公教育	日本国憲法、教育基本法、公教育の原則、教育を受ける権利
3	教育法規(2)／教育の組織化	学校教育法、地方教育行政の組織及び運営に関する法律、教育行政の基本原理
4	教育行政	地方教育行政法、教育行政の組織構造、教育委員会制度、地方分権
5	教育課程(1)／教育内容と基準	カリキュラム、学校教育法施行規則、学習指導要領、全国学力・学習状況調査
6	教育課程(2)／教授・学習過程	教科用図書検定規則、検定制度、教科書、補助教材
7	学級編制	学級編制基準、少人数学級編制、小中一貫教育、小学校専科担任制
8	教育公務員	教員の任用と身分、資格・免許、養成、研修
9	学校の組織運営(1)／組織体制	学校組織、職務と権限、校務分掌、職員会議
10	学校の組織運営(2)／ひらかれた学校経営	学校評議員制度、学校運営協議会、学校評価、マネジメントサイクル
11	児童・生徒	不登校対策、体罰、いじめ、児童虐待への対応
12	学校保健・学校給食	健康診断、養護教諭、感染症・食中毒対策、栄養管理
13	学校の安全管理	学校事故、安全確保、危機管理、個人情報保護
14	学校と地域社会	アカウンタビリティ、学習支援活動、PTA、学社融合
15	学校制度の今日的課題とまとめ	規制緩和、学校裁量権、自律的な学校運営、学校管理規則

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回の授業を自分の問題関心に照らしながら聴くとともに、積極的な質問や文献検討、新聞記事や各種メディアからの情報収集等に努めてください。とくに、関心あるテーマについて自主的に調べ、十分な授業外学習によって学習成果を高めてください

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	学校制度と法規に関するレポートにおいて、 ①学校に関する制度や法規について、その原理や体系、主要な論点を整理し、自分の言葉で論述している、②学校に関する制度や法規と現代の教育の諸問題との関連について、教育学の視点に基づき自らの意見を述べている、を基準とし評価を行います。

平常点評価	45 %	毎回の授業の最後に課すミニペーパー(3点×15回)の課題(400字程度)にそくし、学校に関する制度や法規に関して興味関心を持ち主体的に問いを立て、他者の意見を尊重し、考える態度を示していることを基準とし評価を行います。なお、ミニペーパーへのQRコードの貼り忘れは1点減点としますので注意してください。

3分の2以上の授業に出席しレポート試験を提出した者のみを成績評価の対象とします。自己の責任において出席管理をすること。ただし、いわゆる「出席点」の加点は行いません。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を聴いて内容を理解するだけではなく、グループでの議論や発表、ミニ演習に積極的にかかわり、主体的に授業に参加してください。また、各自が興味関心を持った個々のテーマについて、自分自身で掘り下げて考えてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
必携　学校小六法　2011年度版	白石裕他編／協同出版 ／4319641116 ／2010年2月刊行

学校小六法は、毎回の授業で個々のテーマに関係する法規の条文を確認することに使用します。法改正などが起こり得るため、学校小六法は最新のものを入手し、必ず授業に持参してください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代教育の制度と行政	河野和清編 ／福村出版 ／978-4571101441 ／
要説　教育制度　3訂版	教育制度研究会／学術図書 ／978-476104004 ／
教育と平等	苅谷剛彦 ／中公新書 ／4-12-102006-5 ／
選ばれる学校・選ばれない学校	嶺井正也・中川登志男編著／八月書館／4-938140-49-7／
習熟度別指導の何が問題か	佐藤学／岩波書店／4-00-009312-6／岩波ブックレットNo.612

この他、授業中に適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省　http://www.mext.go.jp/
審議会報告・白書・最新情報などが提供されています。

(財)日本青少年研究所　http://www1.odn.ne.jp/youth-study/index.htm
児童・生徒に関する各種調査結果や研究の成果などが提供されています。

国立教育政策研究所　http://www.nier.go.jp/
教育施策の判断・立案のもととなる研究を行っている機関です。研究活動の発表のほか、教育情報データ、刊行物、シンポジウムの案内などが掲載されています。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailでアポイントメントを取ってください。
torii@fc.ritsumei.ac.jp
研究室は衣笠・尚学館2階825号室です。
授業前後の休み時間にも簡単な質問を受け付けます。

その他 / Others

・障がいをもった学生の学習支援：障がいをもった学生は、すみやかに担当教員に連絡してください。学習を支援できるようなクラス環境や授業方法について検討します。
・不正行為：大学での不正行為とは、カンニング行為によって自分の能力を不正確に伝えたり、他人の論文などを剽窃（ひょうせつ）したりすることで他人の権利を侵害することなどがあたります。万が一、不正行為があった場合は、大学の規則にそって対応します。
・受講のルール：他の受講者の学習環境を阻害するような行動をとる者に対しては、履修を取り消すように求めることがあります。授業への遅刻、途中退出、私語や携帯電話・メールの使用など、他者の迷惑になるような行動をとらず、マナーを守ってください。皆が気持ちよく学べる環境づくりをしましょう。

学校文化・学校空間論 (S)

12917

担当者名 / Instructor　四方 利明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

学校には、学校組織のなかで暗黙に共有された規範や行動様式、すなわち学校文化が存在する。本講義では、学校文化や、学校空間など学校文化を支えるさまざまな装置に焦点をあて、それらを主として社会学的なアプローチから考察することを通して、学校文化をとらえる視座を獲得し、広い視野と深い洞察力でもって学校という場をとらえることができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

世間に流布された学校の定型的な語りを相対化し、主観的かつ感情論的な学校論から脱して、学校に対して多様で確かな視点でもって考察することができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	学校建築論(1)	中心／周縁
2	学校建築論(2)	北側片廊下
3	学校建築論(3)	オープン・スペース・スクール
4	学校建築論(4)	学校施設の複合化
5	学校建築論(5)	廃校舎
6	学校と地域社会(1)	学校統廃合
7	学校と地域社会(2)	学校規模
8	学校と地域社会(3)	運動会
9	学校文化の諸相(1)	学級文庫
10	学校文化の諸相(2)	学校図書館
11	学校文化の諸相(3)	体罰
12	学校文化の諸相(4)	給食
13	学校文化の諸相(5)	飼育動物
14	学校文化の諸相(6)	制服
15	学校文化を問うことの意味	境界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	到達目標にのっとって、まとまったレポートが作成されているかどうか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
むかし学校は豊かだった	教育の境界研究会／阿吽社／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「はだしのゲン」がいた風景	吉村和真・福間良明／梓出版社／／
学校の境界	中島勝住／阿吽社／／
学校のモノ語り	教育解放研究会／東方出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学校保健 (SA)

15558

担当者名 / Instructor　三浦 正行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公表される多くの「客観的」データを見る限り、世界中が羨むほどの健康状態にある日本。そして、それを「支えて」いるのが学校保健と言っても過言ではない。学校保健は、教育の場における「保健教育」・「保健管理」が総合されたものである。しかし、その学校保健が本当に「教育的な営み」の中で実施されるかどうかは、真の「健康づくり」のための日常的なさまざまな努力との関係が大きい。
この講義では、とくに学校保健の保健教育に携わる教師として身につけるべき「健康づくり」のうえでの「教養」を大切にしていく。そして、学校教育の場における、子どもたちを中核にすえた「健康づくり」の諸問題が、地域・国レベルでの「健康づくり」のあり方と密接に関わっていることをしっかりと結び付けて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

いわゆる「健康の主人公」づくりが、学校保健の目的と考える。子どもたちが「健康の主人公」に育っていくための鍵となるのが「人とコトとモノとの関係性」と言える。ここでは、健康における「人とコトとモノとの関係性」について深い理解まで到達し、授業実践者として、健康をとりまく諸問題の「教材化」への基礎力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ごくありふれた問題としての「健康とは何か」を考える。	「WHO憲章」、「健康権」
第2回	日本の「健康度(水準)」を考える	「平均寿命」「少子高齢社会」
第3回	「世界の中の日本の健康状態」を考える	「国際保健」「アルマ・アタ宣言」「オタワ憲章」
第4回	「子どものおかしさ」の問題を考える	「虫歯・近視・アレルギー」「生きる力」
第5回	健康づくりの基本「健康の三原則」を考える	「睡眠」「栄養」「運動」
第6回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第7回	「学校保健」の歴史・沿革を知る	「学校病」「身体検査」「保健室」
第8回	「学校保健」を担う人々①	「校医」「養護教諭」
第9回	「学校保健」を担う人々②	「一般教職員」「医療関係者」
第10回	「教育としての学校保健」とは何かを考える	「教育的な営み」「学校保健診断」「保健管理」「保健教育」
第11回	保健教育の重要性を考える	「学習指導要領」「保健学習」「教材編成」
第12回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第13回	学校保健実習―「日赤」による講習①	
第14回	学校保健実習―「日赤」による講習②授業実践への適用を考える	「授業試案」「指導案」
第15回	授業実践への適用を考える―「まとめ」にかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2回の中間テスト(20×2) 二回の中間小レポート(15×2)と最終レポートとしての「模擬指導案」(30)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞に掲載された健康問題記事等によく目を通しておくことが、講義内容の理解の一助となる。また、身近なところで起こっている健康に関わる諸問題にも敏感でいて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に無し

参考書 / Reference Books

講義の中で、紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学校保健（SB）

15527

担当者名 / Instructor　三浦 正行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公表される多くの「客観的」データを見る限り、世界中が羨むほどの健康状態にある日本。そして、それを「支えて」いるのが学校保健と言っても過言ではない。学校保健は、教育の場における「保健教育」・「保健管理」が総合されたものである。しかし、その学校保健が本当に「教育的な営み」の中で実施されるかどうかは、真の「健康づくり」のための日常的なさまざまな努力との関係が大きい。
この講義では、とくに学校保健の保健教育に携わる教師として身につけるべき「健康づくり」のうえでの「教養」を大切にしていく。そして、学校教育の場における、子どもたちを中核にすえた「健康づくり」の諸問題が、地域・国レベルでの「健康づくり」のあり方と密接に関わっていることをしっかりと結び付けて考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

いわゆる「健康の主人公」づくりが、学校保健の目的と考える。子どもたちが「健康の主人公」に育っていくための鍵となるのが「人とコトとモノとの関係性」と言える。ここでは、健康における「人とコトとモノとの関係性」について深い理解まで到達し、授業実践者として、健康をとりまく諸問題の「教材化」への基礎力を身につけることを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ごくありふれた問題としての「健康とは何か」を考える。	「WHO憲章」、「健康権」
第2回	日本の「健康度(水準)」を考える	「平均寿命」「少子高齢社会」
第3回	「世界の中の日本の健康状態」を考える	「国際保健」「アルマ・アタ宣言」「オタワ憲章」
第4回	「子どものおかしさ」の問題を考える	「虫歯・近視・アレルギー」「生きる力」
第5回	健康づくりの基本「健康の三原則」を考える	「睡眠」「栄養」「運動」
第6回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第7回	「学校保健」の歴史・沿革を知る	「学校病」「身体検査」「保健室」
第8回	「学校保健」を担う人々①	「校医」「養護教諭」
第9回	「学校保健」を担う人々②	「一般教職員」「医療関係者」
第10回	「教育としての学校保健」とは何かを考える	「教育的な営み」「学校保健診断」「保健管理」「保健教育」
第11回	保健教育の重要性を考える	「学習指導要領」「保健学習」「教材編成」
第12回	「中間まとめ」のテスト・レポート	
第13回	学校保健実習―「日赤」による講習①	
第14回	学校保健実習―「日赤」による講習②授業実践への適用を考える	「授業試案」「指導案」
第15回	授業実践への適用を考える―「まとめ」にかえて	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	2回の中間テスト(20×2) 二回の中間小レポート(15×2)と最終レポートとしての「模擬指導案」(30)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞に掲載された健康問題記事等によく目を通しておくことが、講義内容の理解の一助となる。また、身近なところで起こっている健康に関わる諸問題にも敏感でいて欲しい。

教科書 / Textbooks

特に無し

参考書 / Reference Books

講義の中で、紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代学校教育論 (S)

15451

担当者名 / Instructor　倉本 頼一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「不登校・登校拒否」「いじめ」「子どもの自殺」「暴力・荒れ・学級崩壊」「虐待」「非行・少年事件」「学力問題」「保護者と教師・学校の関係」「教育行政と地域・学校」等　今日の学校教育をめぐる問題は山積しています。これらの課題・問題をどうとらえるのか、今後の学校教育はどうあるべきか考える。そして今後学校現場に教師として入っていく指導力を身につける。

到達目標 / Attainment Objectives

現代教育の混迷の原因、今日の学校教育の諸問題を理解し、これに具体的に取り組む方向と見通しを考えることが出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	今日の学校教育をめぐる諸問題・現代の子どもをどうとらえるか。	混迷・迷走する教育行政と学校現場　子どもの「繊細さ」「攻撃性」
第2回	現代の子どもと教育実践・学校教育、(教師像意見交流)	子どもの心・本音　作文・詩から　親の願いと教師の思い
第3回	幼い子どもの不登校・登校拒否	登校しぶりと不登校
第4回	長期の不登校と「引きこもり」	社会的引きこもり、支援・援助体制
第5回	幼い子どもの「いじめ問題」(いじめ対応意見交流)	子どものけんかと「いじめ」
第6回	「いじめ」と子どもの「うつ」「自殺問題」	調査中学2年生「抑うつ」1割
第7回	「子どもの問題行動・非行」(非行対応意見交流)	問題行動・非行の種別
第8回	「少年事件、その子どもの育ちから」	子どものこころ・思い、日記、詩、作文から
第9回	虐待問題と子どもの育ち、学校教育	トラウマ、人格形成、虐待の連鎖
第10回	カウンセリングマインドと学校教育相談	ロジャーズの理論
第11回	「子どもの荒れと学級崩壊」(対応意見交流)	学級崩壊具体的表れ、崩壊段階、対応・援助
第12回	「今日の学力問題と学校・教育行政」	学力低下問題　学力テスト　PISA調査
第13回	父母の教育要求と教師・学校、教師論(教師像交流)	「モンスター」と言う言葉、指導力不足問題
第14回	今日の学校と教育行政、特別支援教育、「授業まとめ」	教育基本法改定、教科書検定、地域と学校づくり
第15回	感想についての講評とまとめの試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

【授業の進め方】
1、授業のはじめに最近の子ども・学校教育関係ニュースを新聞報道で考えます。
2、前時間の感想を文集にして紹介し　復習をします。
3、講義を基本に進めますが、課題設定のグループ討議・交流もします。
4、授業の終わりに毎時間、短い感想を書いてもらいます。(出欠確認を兼ねる)
【授業外の学習】
1、日頃から新聞等の子ども、学校教育関係ニュースに関心を持って見ておく。
2、「不登校」「いじめ」「非行」「虐待」「学級崩壊」「学力問題」等子どもと学校教育についての本を多く読んでおくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎時間のまとめと15回授業まとめ100%。 講義内容が理解できているか、自分の考えが書けているか。グループ討論参加できているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の他にボランティア活動やサークル・現場教師の教育研究会等に機会があったら積極的に
参加して今日の学校現場の状況や子ども、教師の声を聞くことはとても役に立ちます。

教科書 / Textbooks

特別な参考書は指定しません。広く子ども、学校教育についての本を読んで下さい。教育研究団体が発行する月間雑誌も現代の教育現場を知るのに役立ちます。(教科別の研究雑誌、生活指導、教育相談、児童心理、障害児教育の月刊誌、教育誌など)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代教職概論（S）

10251

担当者名 / Instructor　榊原 禎宏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、教育職員免許法の「教職に関する意義等」に対応する科目として、教職の理念、歴史や理論、現代的状況について講義するとともに、学生の被教育・学習経験を手がかりにして、学校と教職をより多面的に捉えようとするものです。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業を通じて、教職を志望するあるいは迷う学生が自身の進路選択とキャリア形成に関する理解を深めるとともに、教職に関わる原理と実際についての認識の基礎を獲得することを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション－「教職への道」をめぐって	職人・職員としての教職、両義性
2	教職の歴史と現在（1）	近代学校の誕生、学歴主義、
3	教職の歴史と現在（2）	脱学校論と生涯学習社会
4	教職の機能と役割（1）	同化と異化　言語コード、文化資本
5	教職の機能と役割（2）	認知と感情、感情労働
6	教職の法制と制度（1）	公教育と学校の正統性、専門職性
7	教職の法制と制度（2）	地方分権と規制緩和
8	教職の組織と運営（1）	学校の組織特性
9	教職の組織と運営（2）	教員と学校教職員
10	教職と評価（1）	学校評価と教員評価
11	教職と評価（2）	説明責任と「質の保証」
12	レポート提出、コメント交換、小まとめ	
13	近未来の教職像（1）	教職の「女性化」、学校におけるジェンダーとセクシャリティ
14	近未来の教職像（2）	パートタイム労働としての教職像
15	レポート返却、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	レポートおよびクラスメートのレポートへのコメントについて評価する。
平常点評価	40 %	授業への参加（出席ではない）を通じて、被教育経験を相対化するとともに、多様な教職理解の基礎を獲得していっているかについて、グループでの発言や進行、感想文やコメント文などから評価する。 授業に関する自己評価にもとづき、それをもとに授業者が評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教職について考えることは自分のこれまでを大いに振り返ることでもあります。楽しく厳しくやりましょう。

教科書 / Textbooks

指定はありません。

参考書 / Reference Books

授業中、適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業にてたずねてください。

その他 / Others

現代若者論（S）

12949

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1990年代以降の新自由主義的構造改革は、日本社会に様々なものを喪失せしめた。そのひとつが若者の未来である。「学校」と「会社」の連接という、日本社会に存在したそれまでの社会化のシステムは破壊されたが、それに代って若者を社会的に包摂していく社会的システムはいまだ形成されていない。若者の未来の破壊は、そのまま日本社会の未来に対する自己破壊である。今年度の本講義は、そうした危機的状況について、若者が置かれている客観的状況を社会学的観点から批判的に解明するという問題意識のもとで、検討することとする。

到達目標 / Attainment Objectives

抽象的には、自分自身が置かれている客観的な社会的状況を、想像力を駆動しつつ、当事者として把握する認識のあり方を獲得すること。具体的には、構造改革を通じて極めて不安定化した日本社会の福祉国家システムを、若者の社会的包摂のシステム構築をひとつの焦点としつつ、再構築するための展望を獲得すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の主題、方法、展開についての提示。成績評価方法についての説明。	双方向型講義
2	問題の所在：若者が置かれている危機的状況（テキスト①第1章）	若者の社会的地位
3	日本社会における社会化システムの構造変化①（テキスト①第2章）	日本型自立システム、モラトリアム、パラサイトシングル
4	日本社会における社会化システムの構造変化②（テキスト①第2章） コミュニケーション・ペーパー①	日本型自立システム、モラトリアム、パラサイトシングル
5	コミュニケーション・ペーパー①へのレスポンス 補足講義	
6	家族・親子関係の変容①（テキスト①第3章）	家族の空洞化、家族文化の消失
7	家族・親子関係の変容②（テキスト①第3章）	家族の空洞化、家族文化の消失
8	コミュニケーション・ペーパー②へのレスポンス 補足講義	
9	新たな社会化システムの構築に向けた提案（テキスト①第4章）	青年政策の構築、若者の選択
10	中間総括講義	脱《社会的弱者》
11	格差社会と若者（テキスト②第1章前半）	日本の若者の未来
12	格差社会への批判（テキスト②第1章後半）	日本社会の再生
13	若者の主体性をどう作り出すか（テキスト②第2章前半） コミュニケーション・ペーパー③	若者の社会化の再構築へ
14	コミュニケーション・ペーパー③へのレスポンス 補足講義	
15	総括講義	日本社会の自己再生産システムの再構築と若者の主体性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若者が《社会的弱者》に転落する	宮本みち子／洋泉社／4896916786／テキスト①
格差社会と若者の未来	宮本みち子／同時代社／9784886836137／テキスト②
若者はなぜ大人になれないのか	ジル・ジョーンズ　クレア・ウォーレス著　宮本みち子訳／新評論／9784794805843／テキスト③

『若者が《社会的弱者》に転落する』(テキスト①)のみ、各自購入のこと。
他の二冊は必要に応じてこちらで印刷し配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

12775

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／ 4-7907-0910-8 ／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子 ／有斐閣 ／4-641-07697-9 ／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之／学文社 ／4-7620-1359-5 ／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

子どもとスポーツ（S）

12944

担当者名 / Instructor　杉本 厚夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「バーンアウトシンドローム」「オーバーユース」。このような言葉を聞いたことがありますか。子どもたちがスポーツをすることによって、引き起こされる逸脱行動です。いや精確には、大人によって引き起こされる子どもスポーツの病理現象です。

周知の通り、日本の近代化において、スポーツは教育としてなくてはならないものでした。つまり、スポーツによって根性だとか、精神力だとか、忍耐だとか、協調性だとかを学ばせようとしたのです。本来、遊びであるはずのスポーツが、教育という世界に取り込まれてしまったのです。もはや、大人たちによって囲い込まれたスポーツは、子ども文化としてのスポーツではないのです。

では、どうすれば子ども達にとって、スポーツが生き生きとした文化として存在するのでしょうか。文化としての子どもスポーツを通して、日本のスポーツ文化を照射すると同時に、これからの日本のスポーツのあり方について考えます。したがって、この講義は、子どもスポーツの臨床社会学といってもよいでしょう。

到達目標 / Attainment Objectives

・子どもとスポーツに関する基本的な概念が説明できる。
・子どもとスポーツの関係のメカニズムについて、論理的に述べることができる。
・子どもとスポーツのより良き関係について自分なりの視点を持つことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子どものスポーツとは何か？	臨床社会学的視点の開示
2	コミュニケーション・ツールとしての子どものスポーツ	自律と依存
3	子どものスポーツの技術論	できないことは・・・
4	子どものスポーツと暴力	不可避なものか？
5	学校体育の幻想	平等とは何か？
6	教育としての学校運動部	教育的意味の誤解、パブリックスクール
7	スポーツ少年団の光と影	選手かアスリートか？
8	ビジネスとしての子どもスポーツ	親の思い、子どもの思い
9	子どものスポーツと体罰	見返りを求める行為
10	やる気を失った子ども達	オーバーユース、バーンアウトシンドローム
11	個性という神話	ちがっているから・・・
12	コーチングの誤謬	教えること、学ぶこと
13	遊びとしての子どものスポーツ	身体の解放は可能か？
14	教養としての子どものスポーツ	スポーツマンシップ、フェアプレイ
15	子どものスポーツ文化の構築	がんばらないスポーツ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内容を復習するために、教科書を丁寧に読んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	子どもとスポーツに関する基本的な概念と、それらの関係のメカニズムに関する社会学視点について問う。解答の論理的構成と基本的知識について評価する。
平常点評価	50 %	毎回、その回の授業の内容に関係する、小レポートの提出を求める。授業内容の理解度とそれに対する評論を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

普段から、子どものスポーツや遊びに興味を持ち、積極的に機会を見つけて観察するようにしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
かくれんぼができない子どもたち	杉本厚夫／ミネルヴァ書房／／近刊

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画に学ぶスポーツ社会学	杉本厚夫／世界思想社／978-4-7907-1155-1／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

非常勤なので、授業が終わった時間に質問をしてください。

その他 / Others

子どもとまちづくり (S)

15580

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「まちづくり」とは「一人一人が機嫌よう生きていく社会」を創出する営みであり、「子どもとまちづくり」とは、子ども達が成長していくにふさわしい社会を創出する「まちづくり」のことです。
「子どもとまちづくり」には四つの側面があります。ひとつは「子どものためのまちづくり」、二つ目は「子どもによるまちづくり」、三つ目は「子どもに伝えるまちづくり（広い意味での住環境教育）」そして四つ目が「子どもを介しての（親たちの・大人達の）まちづくり」。
本講義では、具体的な事例を示しながら、四つの切り口で「子どもとまちづくり」を語っていきます。

到達目標 / Attainment Objectives

子ども達が成長していくにふさわしい社会を創出するための「まちづくり」の役割と、そのための考え方や技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「子どもを育む」視点からのアプローチと、「まちづくり」からのアプローチがあり得ます。本講義は双方をつなぐ学際科目ですから、どちらかのアプローチの他の関連科目の履修を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーリング	「子どもとまちづくり」とはなにか
2	子どもに伝えるまちづくり（1）	「住まい・まちづくり」との最初の出会い…絵本の世界
3	子どもに伝えるまちづくり（2）	絵本からまなぶまちづくり
4	子どもに伝えるまちづくり（3）	身体を動かし・五感をつかってまなぶ…まち遊びのすすめ
5	子どもに伝えるまちづくり（4）	まちの魅力を伝える
6	子どものためのまちづくり	子どもたちの遊び環境を構想する
7	中間まとめ	これまでの振り返り
8	こどものためのまちづくりから子どもによるまちづくりへ（1）	ミニ・ミュンヘン…こどものまちをつくる
9	子どものためのまちづくりから子どもによるまちづくりへ（2）	京都の「こどものつくるまち」活動…ゲストスピーカー（予定）
10	子どものためのまちづくりから子どもによるまちづくりへ（3）	前回の振り返り・まとめ
11	子どものための公園づくり・子どもが参加する公園づくり	参加で子どもの場をつくる
12	地域で取り組む「子どもとまちづくり」（1）	子どものための地域活動・子どもを介してのつながりづくり（地域組織編）
13	地域で取り組む「子どもとまちづくり」（2）	子どものための地域活動・子どもを介してのつながりづくり（市民活動編）
14	子どもから大人へ	中・高生～大学生・青年層の地域参加
15	まとめ	全体をとおして、子どもとまちづくりを考える

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

画像教材による事例紹介を中心に行います。
実際に子どものための活動している方を招いて、お話を伺う機会をつくりたい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には、成績は提出された試験レポートの質で評価。ただし、それなりに厳しく採点します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

子どもとメディア（S）

15458

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。また、子どもが接している様々なメディアを実際に授業中に参照し分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	「私のメディア史」（子ども時代に接したメディアを振り返る）
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	子ども、子ども時代、子どものメディア利用実態
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	乳幼児のメディア理解、幼児用教育番組の効果
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	ポピュラー・カルチャーと子どものアイデンティティ形成
第5回目	メディアと暴力	メディアに描かれるバイオレンスとその影響
第6回目	メディアとジェンダー	メディアに描かれる「女の子らしさ・男の子らしさ」
第7回目	消費者としての子ども（1）テレビ番組	消費社会と子ども、ブランド・ロイヤルティー
第8回目	消費者としての子ども（2）広告	子どもへのマーケティング、大量消費社会とメディア
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	ネットいじめ
第10回目	子どもの権利とメディア	権利主体としての子どもと子ども向けメディア
第11回目	子どもにメディアを教える（1）	メディア・リテラシー、メディア教育とは何か
第12回目	子どもにメディアを教える（2）	メディア・リテラシーの基本概念
第13回目	子どもにメディアを教える（3）	メディア教育の実践
第14回目	子どもにメディアを教える（4）	メディア教育の課題
第15回目	検証テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト（40%） 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー（60%） 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。シールのないものは減点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

子どもと学習活動 (S)

11628

担当者名 / Instructor　岩下 修

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
現在の子どもの状況、教育現場の状況を学びながら、現場で役に立つ具体的な授業の方法、子どもの学習活動の指導方法を、発見的、体験的に身につける。
本講義は、知識・技法の一方的な伝達ではなく、受講者が、参加し発信する形をとる。講義ではなく、授業である。本授業に積極的に参加することによって、はじめて、教師の仕事が見えてくるであろう。現場で必要な授業力や子どもを指導する方法を身につけることができるであろう。15回のすべての講義への参加を前提に計画を立てている。下記に記したスケジュールは、受講者の実態に対応しながら、変更、修正をしていくことになる。

到達目標 / Attainment Objectives

① 授業・模擬授業(授業者は岩下、受講者)に、規範意識を持ち積極的に参加する。
② ①を通し、教師として必要な指導技法の基礎・基本を、発見的に体験的に理解し身につける。
③ ①②を通して、子ども像、教師像、授業思想を構築する。①教師として必要な指導技法の基礎・基本を体験　的に理解し身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業とは 本授業のめざすもの モジュール音読体験 自己紹介・授業への願い
2	授業を成立させるための基礎技能1	学ぶとは 教師の声・表現力 モジュール音読体験
3	授業を成立させるための基礎技能2	教師のからだ 漢字の指導法
4	授業を成立させるための基礎技能3	教師の動き子どもの動き 全体指導と個別指導
5	授業を成立させるための基礎技能4	子どもの心を動かす言葉
6	授業を成立させるための基礎技能5	教師の指導言 発問・指示・説明
7	教育実習と現場	教育実習生からみた現場 実習生による模擬授業
8	教師の作文力を高める表現	作文の指導方法 論理力の育成 説明的作文と物語風作文
9	表現・発信型授業の必要性	身体活動・表現活動を求める子ども達 縦の指導・横の指導 知と美
10	道徳の授業の方法	生き方の指針 知的な道徳授業 規範意識
11	授業作り演習1	学習指導案とは
12	授業作り演習1	授業作りの実際 教師になり模擬授業する(1)
13	授業づくり演習2	授業作りの実際 教師になり模擬授業する(2)
14	授業づくり演習3	教師になり模擬授業する 追試 再び授業とは
15	教師として生きる	「学び」のまとめ(テスト)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・毎回の授業に対する「学び」のまとめや、与えられたテーマについての感想・意見、授業時の言動に見られる意欲、思考力、創造力を評価 ・15回全体を通しての「学び」の筆記(まとめのテスト)に見られる意欲、思考力、創造力の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・全出席を念頭に置いてほしい。
・教室の前半分に座ること
・双方向方の授業にしたい。挙手、発言を心がけて欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『Aせたいならbと言え』	岩下修 ／明治図書 ／4-18-915719-8 ／子どもの心が動く言葉の原則を追求。教師のためのバイブルと言われる。

『教師と子どもの読解力を高める』	岩下修 ／明治図書 ／4-978-4-18-305419-7 ／読解力を高めるために教師は何をすべきか具体的実践と共に提言。
『国語の授業力を劇的に高めるとっておきの技法30』	岩下修 ／明治図書 ／4-18-305211-4 ／国語の授業に役立つ技法を30点紹介。
『学ぶからだを育てる』	岩下修／明治図書／4-18-507917-6／発信・表現型の授業の大切さを述べる。
『国語科言語活動の充実事例』	岩下修／明治図書／4-18-146418-9／言語力を高める国語授業の事例を紹介。

『指導案づくりで国語の授業力を高める』岩下修 明治図書 4-18-305513-2 授業の腕を鍛える指導案づくりの方法を提案。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館小学校http://www.ritsumei.ac.jp/primary/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

子どもと教育の歴史（S）

15294

担当者名 / Instructor　四方 利明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
今日「教育問題」は、マスコミに報道されない日がないほどに、社会の大きな関心事となっている。また、そうした「教育問題」への対処として、「教育改革」が矢継ぎ早に提起され続けている。だが、はたして「教育問題」として語られているものは、本当にそのように「問題」であり、「教育改革」を必要とする「問題」なのであろうか。本講義では、歴史的なアプローチによって、世間に流布されている「教育問題」「教育改革」という「常識」的な教育言説を相対化し、学校や教育を考える際に多様で確かな見方ができるようになることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

世間に流布された教育の定型的な語りを相対化し、主観的かつ感情論的な教育論から脱して、歴史的な視点でもって、学校や教育について考えることができるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子どもと教育の歴史を学ぶにあたって	学校化
2	ことばと学校教育（1）	単線型／複線型、戦後教育改革
3	ことばと学校教育（2）	近代、国民国家、国語
4	学校建築史（1）	一斉教授、一望監視装置、近代学校
5	学校建築史（2）	擬洋風校舎、学制
6	学校建築史（3）	ゆとり、学力
7	学校建築史（4）	北側片廊下、オープン・スペース・スクール
8	「教育問題」の戦後史（1）	校内暴力、体罰、いじめ、管理教育
9	「教育問題」の戦後史（2）	太陽族
10	「教育問題」の戦後史（3）	教育委員会、学習指導要領
11	近代の子ども観をめぐって（1）	ルソー、消極教育
12	近代の子ども観をめぐって（2）	アリエス、近代の子ども観
13	教育改革の思想と歴史（1）	デューイ、児童中心主義、ニール、新教育運動
14	教育改革の思想と歴史（2）	フリースクール、教育基本法、学校教育法
15	子どもと教育の歴史を学ぶ意味	子ども、教育、歴史

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教育史の通史については、尾崎ムゲン『日本の教育改革』中公新書等によって各自で年表を作成して学習し、大まかな流れをおさえておくと、本講義の理解に役立つはずである。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
なし。	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新訂　教育の歴史	佐藤秀夫／放送大学教育振興会／／
戦後公教育の成立	小山静子・菅井凰展・山口和宏／世織書房 ／／
日本の教育改革	尾崎ムゲン／中央公論社／／
日本教育小史	山住正己／岩波書店／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

子どもと社会 (S)

11258

担当者名 / Instructor　中山 一樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子どもはみずから世界を立ち上げようとするとき、さまざまな関係に出会う。
子どもと社会という時の「社会」とは、そうした関係の総体をさす。
関係は、定位家族との垂直方向の関係に始まり、同輩や集団との交わり（水平方向）へと展開する。
その中で一般的な他者からなる社会を知り、自己像を獲得する。この意味で、外的関係構築への模索と内的世界の変容は分離したものではなく、世界像獲得へのひと続きの過程である。
本講義では、こうした過程を子どもたちの具体的な問題や課題を読み解くかたちで展開してゆく。

到達目標 / Attainment Objectives

この講義は、つぎのような学生を念頭においています。
1教職をはじめとする子どもへの関わりや支援の仕事への序説として、
2そのような仕事を志望する動機が何に由来するのかを確認する場として、
3さらに、自分の好きなこと、したいことを模索する（80年代の言い方では自分探し」）に行き暮れてひと休みしようとする　学生。
したがって、本講のねらいは、子どもの世界立ち上げの姿を知ると同時に、受講生が、みずからの世界を、子どもから現在にいたる遍歴に重ねて理解するところにある。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	開講にあたって　いつ子どもは子どもでなくなるのか	社会的カテゴリーとしての大人と子ども
2	現代の子どものすがた--事件から読み解く関係の質	関係性としての人間理解
3	子ども世界のマイクロポリティクスと個人の歴史	生育史
4	依存と親密な関係--存在の承認	承認関係
5	他者像の変遷--垂直関係からの離脱の問題	近代家族　親子カプセル　ハビトゥス
6	交わりと対象関係	外的対象　内的対象
7	子どもの世界の政治学--異質性の担保と同等な世界の展望	仲間　学級
8	公共性としての社会との出会い	公共空間　一般的他者
9	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明1	中間まとめとディスカッション
10	学校的価値とその対抗文化	学校文化　若者文化
11	消費文化世界における自分イメージ--消費し消費される自分	消費文化
12	社会への過剰適応と自分の奪還	過剰適応とそれからの脱却
13	一般的他者の発見と世界像の確定	社会化の過程
14	子ども社会専攻の展開科目と領域の説明2	子ども社会専攻での学びについてのディスカッション
15	本講の整理とレポートの講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	数回にわたるレポート論述を通して知識が身についているかを確認し、さらに受講生自身の能動的な理解の程度を確認する。
平常点評価	40 %	基本的な概念の理解を、発言などによってその都度確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの自分くずしと自分つくり	竹内常一 ／東京大学出版会／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

子どもと地球環境（S） §　（副）環境と社会II（F）

12916

担当者名 / Instructor　豊田 陽介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地球温暖化をはじめとする地球環境問題の克服のためには、現在の社会構造からの大きな転換が必要になる。そのためにはこれまでとは異なる方向性の経済、技術、エネルギー、インフラ、そして教育が求められる。
本講義では、持続可能な社会、低炭素社会への道筋について検討し、共有するとともに、子どもを対象とした「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development）」（社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動）のあり方について実践を通じて学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

①地球環境問題と将来世代の関わりについて理解する
②持続可能な社会をつくるための教育の役割、手法について理解する
③ESDの要素を取り入れた環境教育プログラム（アクティビティ）について検討・考案する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション・授業の概要と導入	
第2回	将来世代と環境問題について考える	地域間格差、世代間格差、公害問題、地球環境問題、グローバリゼーション
第3回	地球温暖化問題について考える	IPCCレポート、削減シナリオ、適応、緩和
第4回	エネルギー問題について考える	ピークオイル、原子力、自然エネルギー、省エネルギー
第5回	交通問題について考える	都市交通、まちづくり、モビリティ・マネジメント、社会心理学
第6回	企業と地球環境問題	社会的責任（CSR）、社会的責任投資（SRI）、KES
第7回	食に関する問題を考える	食糧自給率、フードマイレージ、地産地消
第8回	生物多様性を考える	生態系、遺伝子・種多様性、バイオミミクリー、COP10、
第9回	持続可能な都市・地域を考える	環境首都コンテスト、環境モデル都市、ソーシャルキャピタル、アジェンダ21
第10回	持続可能な開発のための教育とは（基礎編）	ミレニアム開発目標（MDGs）、GNH、人間開発指数（HDI）
第11回	持続可能な開発のための教育とは（事例編）	
第12回	参加体験型手法について学ぶ	ワークショップ、コミュニケーション、ファシリテーター
第13回	アクティビティ考案（テーマ設定）	ブレーンストーミング、KJ法、ワークシート
第14回	アクティビティ考案（詳細検討）	
第15回	アクティビティ素案発表・講評	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

環境NPOが行う環境教育プログラム等への積極的な参加を通じて体験的な学びを行ってほしい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内で考案してもらうアクティビティをベースにした内容のレポートを予定しています。
平常点評価	40 %	講義中に数回程度実施する予定の小レポートをもとに評価する。 その他、環境保全に関するNGO･NPOや自治体等による環境教育活動に参加し、それに関連する自主レポートの提出があった場合、平常点に加味する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
市民・地域が進める地球温暖化防止	和田武・田浦健朗ほか編著 ／学芸出版社 ／978-4-7615-2407-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

ESD・J　http://www.esd-j.org/
全国地球温暖化防止活動推進センター　http://jccca.org/index.php
環境省・環境教育のページ　http://www.env.go.jp/policy/edu/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　toyota@kikonet.org

その他 / Others

子どもと非行 (S)

12951

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子ども期の問題行動の典型例である非行をとりあげ、子ども期と非行との関係、その意味を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

非行を様々な切り口から浮かび上がらせると同時に、そのことを通じて子どもや子どもの行動をどう見るのかを考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子どもと非行の見方・考え方	子ども・非行・健全育成
2	非行理論	
3	非行の心理	
4	非行とパーソナリティー	
5	非行の生物的側面	発達障害
6	非行と家族	児童虐待
7	非行と学校	いじめ
8	非行と学校・地域	
9	非行の対応システム	児童相談所・家庭裁判所
10	非行のアセスメント①	
11	非行のアセスメント②	
12	非行の臨床	
13	地域の非行対応	機関連携
14	学校の非行対応	
15	今日の非行課題と対応	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	
平常点評価	40 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪・非行の心理学	藤岡淳子／有斐閣／ 978-4-641-18347-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

総務省
http://www.soumu.go.jp/s-news/2007/070130_1.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

子どもと遊び (S)

15350

担当者名 / Instructor　猪俣 紀子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

子どもの遊びを考えるとき、マンガは娯楽として重要な位置を占めてきたといえる。マンガは子どもとどう関わってきたのか、マンガと子どもの関係性について、マンガの歴史を中心に、周辺メディアから考察する。また歴史あるマンガ文化が存在するフランスの場合と比較することで、子どもの「遊び」としてのマンガを多角的にとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

マンガから子どもを考えることで、子ども文化について知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	マンガの起源、定義
2	マンガ市場概況	コミック、マンガ雑誌、電子媒体
3	子どもマンガの歴史(1)	新聞マンガ、ユーモアマンガ
4	子どもマンガの歴史(2)	絵物語、月刊雑誌
5	子どもマンガと青年マンガ	赤本、貸本屋、劇画
6	少年マンガ発展	週刊誌創刊、学生運動
7	少年マンガ概況	週刊少年ジャンプ、携帯マンガ
8	アニメとマンガ	メディアミックス、インターネット
9	ゲスト講師	フランス人作家を迎えて
10	戦後少女マンガ	スタイル画、叙情画
11	少女マンガ発展	少女雑誌、24年組、BL
12	少女マンガと少年マンガ	表現、テーマ
13	フランスの日本マンガ	雑誌、読者層、男女比
14	フランスの子供向け読物(1)	民衆本、週刊雑誌、青本叢書
15	フランスの子供向け読物(2)、まとめ	BD、絵本、少女向け雑誌

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ミニプレゼンテーションをしてもらう予定です。
適宜授業時に指示します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	講義内容を踏まえて、問題意識を持ち明確に述べているかを見る。
平常点評価	60 %	授業に積極的に参加しているか、また発表や授業に対するコメントで評価する。

ゲスト講師に1回来てもらう予定です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
別冊太陽 子どもの昭和史 少年マンガの世界 Ⅰ	／平凡社 ／4582942741 ／
別冊太陽 子どもの昭和史 少年マンガの世界 ⅠⅠ	／平凡社／4582942792／
別冊太陽 子どもの昭和史少女マンガの世界 1 昭和20年~37年 (1)	／平凡社／4582942393 ／
別冊太陽 子どもの昭和史少女マンガの世界 2 昭和38年~64年 (2)	／平凡社／4582942407／
フランスの子ども絵本史	石澤小枝子ほか／大阪大学出版会／487259262／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

inomatan@gmail.com

その他 / Others

子どもの理解と指導（S）

10738

担当者名 / Instructor　井谷 信彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

〔本科目は小学校教諭一種免許状課程の必修科目です〕

本講義では、初等教育課程における子どもの発達課題と、教師による理解と指導の可能性について考察を深める。

誰しもが一度は子どもであった。また多くは学校に通い、級友を初めとする仲間と遊び、教師のもとで学んだ経験を持っていることだろう。しかし、いざ自分の体験を振り返ってみても、子ども時代のことはぼんやりとしか思い出せないことが多い。近所で躍り回る児童を眺めていると、子どもほど不思議な存在はないとすら思えてくる。

子どもの成長発達や人間関係について考察するためには、各時期の発達課題や学習理論を把握すると同時に、子どもの持つ魅力や不思議に目を向けることが必要不可欠である。近年の教育心理学や教育人間学の成果に基づいて、児童期の子どもの生やそれを取り巻く世界との関係について検証し、教師による理解と指導の可能性を探究することが、本講義の課題である。

到達目標 / Attainment Objectives

1）児童期の子どもの発達課題について基本事項を把握する。
2）発達課題に囚われない子どもの生の豊かさに目を向ける。
3）子どもに対する教師の役割について考察する力を身につける。
4）自己の体験を授業内容と関連付けて捉え直せるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション：他者を理解するとは？	他者を理解すること、他者に理解されること、教師の子ども理解
2	ライフサイクルと子どもの発達課題	子ども期の歴史学、発達段階論、発達の規定要因
3	発達論としての教育学	発達の理念、価値と有用性、子どもの社会化
4	生成論としての教育学	生成の理念、経験と体験、子どもと他者
5	子どもを取り巻く環境	家族・学校・地域社会、自然環境、共同体の内と外
6	「悪」の体験と子ども	「悪」の体験、逸脱行動、子どもの遊び
7	子どもの発達の諸相Ⅰ	自己評価の発達、道徳性の発達、道徳教育のアポリア
8	子どもの発達の諸相Ⅱ	運動能力の発達、言語能力の発達、個性と自律性
9	学校教育と学校教師	共同体の代理としての教師、教授と評価、社会制度としての教育
10	周縁を生きる教師たち	共同体の外から来る教師、イニシエーション、出来事としての教育
11	子どもの指導／学習の諸相Ⅰ	一斉授業と学校文化、問題解決学習、オープンエンド授業
12	創造性と教育	創造性のモデル、知識・想像・創造、模倣と創作
13	子どもの学習の諸相Ⅱ	指導か放任か、正統的周辺参加、学びのニヒリズム
14	教育と「臨床の知」	システムの臨界点、「臨床」という方法、教師のタクト
15	全体の総括とレポート課題の説明	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本講義では、映像作品や文学作品を用いた授業や、簡単なワークショップなども実施する予定です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	「子どもの理解と指導」に関わる事柄について、授業内容を踏まえて考察することを求める。 課題の詳細については最終回に説明する。
平常点評価	40 %	・中間レポートの成績を平常点評価に含める ・1回欠席するごとに全体の成績から5点減点 ・4回以上（4回を含む）欠席で単位認定不可

止むを得ない事情で欠席する場合は相談に応じます。
中間レポートの課題は第8回に告示する予定です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本音を云えば、平常点の欄に「受講生の主体的な参加を期待する」などと書きたいところです。
しかし、そう書いた途端に、授業への参加は「強制」となり、受講生の「主体性」は失われます。

例えばこんな所にも、「理解と指導」をめぐる悩ましくも興味深い問題を垣間見ることができるでしょう。
身近な体験や記憶を振り返ることも、授業内容について考察を深めるヒントになるかもしれません。

教科書 / Textbooks

授業中に内容に即した資料を紹介・配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワード 現代の教育学	田中智志・今井康雄 編著／東京大学出版会 ／978-4-13-052077-5 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

1）毎回の授業中にコメント用紙を配布します。
2）メールアドレス：hicco1216pc@hotmail.com
3）授業後に質問に来ていただいても構いません。

その他 / Others

児童・発達心理学 (S)

10986

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、児童期から思春期・青年期における子どもの発達の特徴と課題について概説する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 児童期から思春期・青年期に到る人間発達の道すじについて理解する。
② 学校現場が抱えている「問題」の背景にある、子どもたちの心理について考える。
③ 小学校の教員として必要な心理学の知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	生涯発達における児童期のもつ意味	発達の時期区分、発達課題、生涯発達心理学
第2回	学齢期までの子どもの発達と保育(1)	乳幼児期の発達と生活
第3回	学齢期までの子どもの発達と保育(2)	幼児期から児童期へ
第4回	児童期の子どもの発達と教育(1)	小学校低学年の発達と教育
第5回	児童期の子どもの発達と教育(2)	小学校中学年の発達と教育
第6回	児童期の子どもの発達と教育(3)	小学校高学年の発達と教育
第7回	思春期から青年期への発達と教育(1)	中学生の発達と教育
第8回	思春期から青年期への発達と教育(2)	高校生の発達と教育
第9回	障害のある子どもの発達と教育(1)	障害児の基本的理解
第10回	障害のある子どもの発達と教育(2)	特別支援教育(1)
第11回	障害のある子どもの発達と教育(3)	特別支援教育(2)
第12回	子どもの把握と心理テスト(1)	
第13回	子どもの把握と心理テスト(2)	
第14回	まとめ	
第15回	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	

随時小テストを実施する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

テキストは使用しない。
参考文献は講義の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

自我論 (S)

12925

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義は「日本的集団主義」を取り上げる。その際、考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた一種の集団主義とはいかなるものであり、その中に生きている我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、日本的集団の特性が、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となってはいないかという関心を持ちつつ、日本的集団主義に対する批判的検討を試みたい。

近年「個人化」をめぐる議論が盛んであるが、日本社会が持つ独特の近代的特質の中で再構築された一種の集団主義は、依然として根強いものがある。日本において今後どのように「個人化」が進行するのかについての洞察を得るためにも、「日本的集団主義」に対する批判的検討を踏まえておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の目的・方向性・手法についての説明	
2	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)①	「集団主義」と「個人主義」
3	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)② 日本社会の組織化原理(テキスト第4章)①	「集団主義」と「個人主義」 間柄主義
4	日本社会の組織化原理(テキスト第4章)② コミュニケーションペーパー(1)	間柄主義
5	コミュニケーションペーパー(1)へのレスポンス	
6	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)①	日本社会の「原組織」
7	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)② 日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定①	日本社会の「原組織」 コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
8	日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定② コミュニケーション・ペーパー(2)	コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
9	コミュニケーション・ペーパー(2)へのレスポンス	
10	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)①	社会規範、甘え
11	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)②	社会規範、甘え コミュニケーション・ペーパー(3)
12	コミュニケーション・ペーパー(3)へのレスポンス	
13	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)①	日本的集団主義の国際性
14	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)② コミュニケーション・ペーパー(4)	日本的集団主義の国際性
15	コミュニケーション・ペーパー(4)へのレスポンス 講義の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

コミュニケーション・ペーパーは成績評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本的集団主義	濱口恵俊　他／有斐閣／4-641-02297-6／すでに絶版

テキストは既に絶版となっているので、テキストとして使用する章についてはこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で随時紹介する。各自の関心に沿って取捨選択してもらえばよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

小学校英語教育研究（S）

10610

担当者名 / Instructor　田縁 眞弓

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特にカリキュラム上の「外国語活動」やその他の英語の扱い方の位置づけ、外国語習得と教授法の理論、英語基礎知識、実際の指導案の類型や望ましい指導法について概要を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」の位置づけとそれ以外の英語教育のねらいと内容を理解する。
2.小学校英語指導のために必要な正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを学ぶ。
3.外国語習得、外国語教授法とその歴史的な変遷について基礎的な知識を得る。
4.コミュニケーション能力という概念、および英語を使ってコミュニケーション能力を育てる方法について学ぶ。
5.小学校英語指導のための望ましい指導案と実際の指導方法を知り、指導案が書けるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に該当する科目はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、カリキュラム上の他のタイプの英語教育	小学生用の英語リスニング力を知る、英語の音素練習1
2	日本の小学校英語教育導入の歴史的変遷、海外の初等外国語教育、外国語習得のメカニズムと外国語教授法のタイプ	小学生の英語スピーキング力を知る、英語の音素練習2
3	早期英語教育と国語力、バイリンガル育成と学校英語教育との対比	授業例1、クラスルームイングリッシュ練習1
4	国際理解教育と小学校英語との関連、実践例	授業例2、クラスルームイングリッシュ練習2
5	『英語ノート』のカリキュラム内容と指導法　5年生	授業例3、クラスルームイングリッシュ練習3
6	『英語ノート』のカリキュラム内容と指導法　6年生	授業例4、英語表現・ダイアローグ1
7	中間テスト	英語表現、ダイアローグ2
8	1時間の授業の組み立て方、フォニックスの指導、	歌、チャンツ、ゲームの効果的な使い方
9	1単元の構成要素、タスクという概念	モジュール用のフレーズ練習の効果的な使い方
10	読み聞かせと様々な絵本の活用、読み聞かせから文字の認識と児童自身による読みへ	
11	教材（カード、pptスライド）・教具（CD、パソコン、スマートボード）の使い方	英語表現、ダイアローグ3
12	授業の善し悪しを評価する（授業分析シート）	英語表現、ダイアローグ4
13	児童の学びを評価する（評価の観点、評価の方法、児童へ返す評価）	英語表現、ダイアローグ5
14	最終課題にとりくむ（1単元の授業案、教具、教材）	
15	最終課題を作成する（1単元の授業案、教具、教材）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書の指定された箇所は必ず読んでから授業にのぞむこと
子ども社会専攻小学校教員養成課程サポートセンターや文学部学校教育臨床研修室（研心館3階）にある資料や授業ビデオなどを積極的に参照してみておくことがのぞましい

全国で開催される公開授業、研究会に参加してできるだけ多くの実践にふれておくとよい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中に行う中間テスト(40%)、学期末の最終課題(40%)、日常のミニレポートや授業参加(20%)を総合的に判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ英語に親しんでおいてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校英語で身につくコミュニケーション能力	湯川笑子　ほか／三省堂／／
小学校学習指導要領「外国語活動」解説	／文部科学省／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校英語教育の進め方	金森強　ほか／成美堂／9784791971473 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

小学校英語授業研究 (S)

11643

担当者名 / Instructor　田縁 眞弓

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公立小学校で教える「外国語活動」、総合的な学習の時間の中であつかう英語活動、私立小学校や（特区指定や研究指定校の）公立小学校における教科としての英 語を指導するための必要な知識と技能を身につける。特に公立小学校での「外国語活動」の望ましい指導法が考案・実践できるように演習を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.2011年完全実施の学習指導要領における「外国語活動」とそれ以外の英語教育のねらいと指導実践の方法を理解し、「外国語活動」の指導案を書くことができる。
2.「外国語活動」の模擬授業ができる。
3.小学校英語指導のために必要な、正確な英語の音素の発音、クラスルームイングリッシュ、小学校英語活動・教育の中で扱う英語表現やダイアローグを習得する。
4. 小学校英語授業を見て、その善し悪しが判断でき、改善案を作ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

小学校英語教育研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	この授業のねらいと進め方、学習指導要領における英語活動の目的、指導案例 自己紹介（名前、挨拶、出身、誕生日）およびフォニックスジングルの指導の体験と英語練習	自己紹介　フォニックスジングル
2	自己紹介（既習のことに加えて、好きなこと、もの、趣味など）の指導の単元構成、復習の仕方およびチャンツと歌の活用について体験と英語練習	復習　チャンツ・歌
3	数、形、色、朝食（昼食）のメニュー、文化比較や自己表現と絡めてこのトピックと指導に必要な英語表現の練習、教材の収集と加工	教材　収集　加工
4	絵本の活用と実習、教材の作成と提示	絵本
5	これまでにでてきた、指導方法の実習、指導に必要な英語の練習、	指導方法
6	1時間の指導の組み立て方、指導者と指導形態、マルチメディア教材およびICTの活用法	ICT
7	指導に必要な英語テスト、および、教案作成、模擬授業準備	英語テスト
8	サンプル授業視聴、模擬授業準備	
9	実践 模擬授業　色やそれにからめたもの（動物、食べ物，衣服他）の学習を含む授業模擬授業　朝食もしくは昼食のメニューについての学習を含む授業	
10	実践 模擬授業　読みきかせの学習を含む授業模擬授業　時刻やスケジュールの学習を含む授業	
11	実践 模擬授業　動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業模擬授業　数字や方向の学習を含む授業	
12	実践 模擬授業　動作動詞（スポーツ、お手伝い、一日の行動）の学習を含む授業模擬授業　数字や方向の学習を含む授業	
13	実践 模擬授業　季節と季節の行事の学習を含む授業模擬授業　文字の指導とフォニックスの学習を含む授業	
14	実践 模擬授業　テーマ未定模擬授業　テーマ未定	

15	まとめと課題 ディスカッション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中に行う中間テスト（40%）、模擬授業の実践（40%）、日常のミニレポートや授業参加（20%）を総合的に判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校英語教育の進め方(改訂版)	岡秀夫・金森強　／成美堂　／4-7919-7141-8 ／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

身体表現論（S）

12682

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァ-ガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールによる連絡

その他 / Others

世界の子どもと学校（S）

12915

担当者名 / Instructor　高藤 三千代

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近代に誕生した「子ども観」、「子ども時代」のあり方と学校教育制度の関係性に着目し、グローバル化する社会における人間形成と学校のあり方を探る。その手続きとして、日本に暮らす外国人在留・定住者家族の体験を手掛かりに、社会・経済のグローバル化の下、国家間の移動を余儀なくされる子どもたちの学校体験を考察する。そして、学校という現実の多元性、オルタナティブ教育の実情を世界の様々な学校の事例に見ていく。

到達目標 / Attainment Objectives

・「教育」「学校」「子ども時代」の自明性を疑い、その成り立ちの歴史・社会的背景を理解する。
・国家間の移動を余儀なくされている子どもたちが置かれている教育状況と、その政治・経済・社会的背景を理解する。
・以上から既存の学校制度を批判的に考察し、新たなかたちの人間形成と学校のあり方を模索する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	概要	授業計画、進め方、成績評価方法等の説明
2~3	近代と子ども	近代家族、学校制度、大人と子ども、労働と遊び
4~5	グローバル化・労働・国際移住	移住の歴史・政治・経済的背景、国籍・市民権・国民国家
6~7	グローバル化する社会と教育問題	就学と国籍、移住と母語と学校言語、家族と教育、アイデンティティの葛藤、外国人学校
8~9	近代学校制度の成り立ちと学校化社会	国民の形成、国語の普及、学級の発明、通過儀礼、教育の標準化
10~11	学校という現実の多元性と人間形成	人間形成の文脈としての国民国家と学校、実践共同体への参加、ハビトゥスの形成、
12~14	オルタナティブ教育	ホーリスティックな視点と学びのかたち、多数派（マジョリティ）、少数派（マイノリティ）、社会的拘束と創造性、共生
15	討論の講評とまとめ、学期末レポート作成上の注意事項の説明	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業内容に関連するテーマを各自で自由に設定し論述（4000字程度）のこと。必ず文献を1点以上参照すること。講義内容や授業内の討論を活かしているか、自身の考察を展開させているか、論理的説得力をもって記述されているかをみる。
平常点評価	40 %	（授業態度10%[討論への参加]+覚書30%[配布文献・映像資料に関するコメント・意見・感想・質問等B5・1枚程度]） 1. 覚書は遅れずに3回以上提出のこと。 2. 全講義の2／3以上出席すること。 ＊1と2の要件を満たしていない場合、期末レポート提出資格はないものとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献・映像資料を用い、小グループおよび全体での討論の場を適宜設けるので、配布文献には必ず目を通し、覚え書を準備して授業に参加すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子どもの誕生』	フィリップ・アリエス・著　／みすず書房／／
『世界の子どもと学校：教育制度から日常の学校風景まで』	二宮皓・編著　／学事出版 ／／
『オルタナティブ教育：国際比較に見る21世紀の学校づくり』	永田佳之・著 ／新評論 ／／
『世界のホリスティック教育』	吉田敦彦／日本評論社／／
『脱学校社会』	イヴァン・イリイチ　／東京創元社 ／／
『内発的発展と教育』	江原裕美 ／新評論 ／／
『外国人の子どもの不就学：異文化に開かれた教育とは』	佐久間孝正・著／勁草書房 ／／
『ホリスティック教育入門』	ホリスティック教育研究会編／柏樹社／／

その他授業にて適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

生涯学習論（S）

12952

担当者名 / Instructor　崎野 隆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生涯学習の意義と現代的特徴
『生涯学習』の意義や考え方を理解し、人々の生涯に亘る学びを援助し、支援する活動について考察する。
あらゆる年齢層の教育、生涯学習体系の中の教育について学ぶ。生涯学習社会の今日的課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

○ 生涯学習の意義を理解する。
○ 社会教育を遂行する力量をつける。
○ 生涯学習を鼓舞するリーダーシップ性を身につける。
○ 文化の創造と発展を担う役割の自覚を高め、生涯学習遂行の力量をつける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教育学全般の学習と教養を高める科目の履修が望まれる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	生涯学習の意義	学ぶこと
2	生涯学習の課題	社会的課題と個人的課題
3	生涯学習における個人的課題	発達課題と欲求課題
4	生涯学習社会と自己実現	自己実現
5	生涯学習における社会的課題	社会的必要課題と要求課題
6	発達課題の解決を目指す生涯学習	ライフサイクルとライフステージ、人間の生き方、在り方
7	生涯学習の推進体制	生涯学習行政
8	図書館における「情報」からの学習と施設	図書館での学び
9	博物館における「もの」からの学習と社会教育施設	博物館での学び
10	生涯学習とボランティア	社会教育の意義
11	地域社会と生涯学習	公民館・生涯学習センターと社会教育主事
12	生涯学習とまちづくり	地域／まちづくり
13	生涯学習の課題と展望Ⅰ（男女共同参画社会・高齢化社会）	男女共同参画社会・高齢化社会
14	生涯学習の課題と展望Ⅱ（情報化社会・グローバル社会）	情報化社会・グローバル社会、情報モラル、多文化・多言語共生社会
15	生涯学習の課題と展望Ⅲ（生涯学習の方法・社会の要請）	生涯学習の方法・社会の要請・環境問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

図書館、博物館、生涯学習センター、その他社会教育施設を有効に活用すること。
関連の資料等を十分活用すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	論述試験を行う。
平常点評価	20 %	出席点、意見発表などを加味する。

定期試験を行うが、平常点を含む総合評価である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義はメモを取り、良く聞き、理解しようと努めること。テキストや生涯学習関係の書物を良く読み、生涯学習についての認識と知見を深めるよう努力すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
教育学の根本問題	奥川、川村、崎野、竹熊、田中、村島 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－04749－0 ／授業の骨子を記述している

他は適宜指示

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯学習	讃岐幸治・住岡英毅編著 ／ミネルヴァ書房／４－６２３－０２２８８－９／基礎的な書物として活用
新しい時代の生涯学習	関口・小池・西岡・鈴木・堀著　／有斐閣 ／４－６４１－１２１６４－８／最近の状況の考察材料

他は適宜指示

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

適宜紹介

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスの活用：r-sakino@fc.ritsumei.ac.jp
授業の前後の活用・申込み

その他 / Others

計画的に学ぶこと

生命倫理学（S）

15537

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

生命科学と先端医療の急激な発達により，「生・老・病・死」の諸相は大きく変容しようとしている。本講座では，生命倫理の問題群の倫理的・法的・社会的な問題を考える。
本年度はとくに先端医療の発達と「生命の終わり」をめぐる問題に焦点を当て，そこから考察を発展させる。

到達目標 / Attainment Objectives

・生命倫理をめぐる現代的課題を認識する。
・一市民としてどのように問題を理解し対処すべきか，多角的・多元的に判断するための基盤を獲得する。
・「安楽な死」「尊厳ある死」の言説をめぐる問題についての認識を深め，分析し，考察するための観点を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

前期に開講されている同担当者による教養科目「生命科学と倫理」を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（1）映画視聴	
3.	導入：映画『海を飛ぶ夢』が問いかけるもの（2）論点の抽出	
4.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（1）臓器移植という問題	
5.	死の「再定義」：「脳死」という基準の登場と背景（2）「植物人間」がもたらす表象	
6.	カレン・アン・クインラン事件（1）事件の概要と裁判の経緯	
7.	カレン・アン・クインラン事件（2）ヒポクラテスの誓いと医学	
8.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（1）慈悲による死	
9.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（2）ナチス・ドイツ下の「安楽死」計画	
10.	「安楽死・尊厳死」論の系譜（3）ナチス後の安楽死運動	
11.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（1）自律原則と「死ぬ権利」	
12.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（2）ホスピス・ムーブメントとメメント・モリ	
13.	生命倫理学／デス・スタディの誕生と展開（3）スピリチュアリティ・ブームとデス・エデュケーション	
14.	隠された問い：経済をめぐる問題	
15.	残された問い：承認をめぐる問題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

生命科学と生命倫理に関連する問題は，ドキュメンタリーや新聞などで日常的に話題になる。また，医療問題をとりあげた映画やTVドラマも多い。複眼的な視点で活用し，自らの問題意識を深める機会にしてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席の他、授業終了後に，コミュニケーション・ペーパーの提出を求める。

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生死の問題は，誰もが自分自身の歴史のなかで自分自身を織り込んで考えることのできるテーマである。問題から「自分」を棚上げせず，自身を織り込んで考えることを大切にしつつ，そこにとどまることなく，生死をめぐる社会構造や法理・諸制度の変遷，死をめぐる言説の歴史について，授業で紹介する資料をもとに，各自が自主的・積極的な学習を進めてほしい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
命は誰のものか	香川知晶／ディスカバリートゥエンティワン／／

大谷いづみ『「尊厳死」言説の誕生』(仮題，勁草書房，2010)を刊行予定。後期開始までに出版されていればそれを用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
脳死・臓器移植の本当の話	小松美彦／PHP新書／／
死ぬ権利――カレン・クインラン事件と生命倫理の転回	香川知晶／勁草書房／／

参考文献は以上のほか、授業中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

道徳教育論（S）

12161

担当者名 / Instructor　大谷 いづみ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必修科目です】
およそ人が、人として、人と共に生きていく上で、何らかの法的規制に加えて、内的な規制としての道徳を欠くことはできない。本講座では、善悪に傾く人間の両義性の認識、道徳が持つ「人間＝ジンカン」としての本質的特徴に着目して、道徳をめぐる今日的な問題を学校における課題との関連で考える。

到達目標 / Attainment Objectives

・道徳教育の概観を知る。
・子どもたちの実情を踏まえた上で「よく生きること」を希求する教育的意味を考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1.	ガイダンス／授業の概要と説明	
2.	子どもたちが生きる世界（1）	
3.	子どもたちが生きる世界（2）	
4.	「道徳」とは何か	
5.	道徳教育の歴史と学習指導要領	
6.	道徳性の発達理論	
7.	ケアの倫理と道徳教育	
8.	実践例の検討（1）	
9.	実践例の検討（2）	
10.	現代社会と道徳教育（1）『青い眼・茶色い眼』の実践	
11.	現代社会と道徳教育（2）『青い眼・茶色い眼』の実践（2）	
12.	現代社会と道徳教育（3）『青い眼・茶色い眼』の波紋と変容	
13.	「道徳」で何をどう教えるか～体験／実験／情報	
14.	人間の両義性：二分法を超えて	
15.	まとめ：問いとともに生きる	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	授業理解および授業参加度を評価する。
平常点評価	50 %	出席，授業中に課すコミュニケーション・ペーパーなど

一定以上の出席が無い場合，評価対象としない
授業中の私語、途中入退出は厳禁します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領解説 道徳編	文部科学省／／／

参考書 / Reference Books

授業で適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特別活動・学級経営論（S）

10819

担当者名 / Instructor　吉見 博史

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【本科目は、小学校教諭一種免許状課程の必須科目です】

日本国憲法にのっとり、我が国の未来を切り拓く教育の基本を確立し、その振興を図るために制定された教育基本法に、

「我々日本国民は、たゆまぬ努力によって築いてきた民主的で文化的な国家を更に発展させるとともに、世界の平和と人類の福祉の向上に貢献することを願うものである。我々は、この理想を実現するため、個人の尊厳を重んじ、真理と正義を希求し、公共の精神を尊び、豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成を期するとともに、伝統を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する。」

「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなくてはならない。」

とあります。

本授業は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団の一員として、よりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、自分の生き方についての考えを深め、自己を生かす能力を養う」ことを目標とする「特別活動」を切り口にして、実践的見地から、学校教育活動のあり方について、自らの考えを生み出し、それを実践していく資質を自らのものにしていくためのものです。

授業の中で、「学級経営案」、学校行事の実施計画案、「学習指導案」の作成、発表・話合い等、ワークショップを行います。

到達目標 / Attainment Objectives

Ⅰ 「特別活動」という教科外学習の性質と領域・内容について整理し、学校生活においてどのような役割を果たすの かを理解する。

Ⅱ「特別活動」の指導のあり方について、どのように取組が求められているのかを知り、教科学習や総合的な学習の 時間との効果的な連携のあり方などについて考えられるようにする。

Ⅲ 「特別活動」の実施計画や学級経営案、学習指導案などを作成することを通じて、教育現場で求められる技能や指 導力を身につけていこうとする姿勢を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代学校教育論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme		キーワード / Key Word
第1回	授業についてのオリエンテーション 以下（ ）内はワークショップの内容	※	授業の内容構成、授業の進め方、到達目標と評価 （小学生時代を思い出しての交流）
第2回	教育課程における特別活動の位置づけと役割		新学習指導要領における特別教育活動の目標と内容
第3回	ともに支え合う望ましい学級集団の育成		学級目標設定と、具現化のための学級活動 （担任学年を設定しての「学級経営案」の作成）
第4回	一人一人を生かす学級づくり		家庭背景、学習障害等、支援を必要とする子ども、日記、カルテ等、児童理解の方策、
第5回	自ら考えともに学び合う学習集団の育成（低学年）		教科等学習の中で、グループ活動、話合い活動 （教科学習の指導案の作成）
第6回	自ら考えともに学び合う学習集団の育成（中・高学年）		教科等学習の中で、グループ活動、話合い活動
第7回	特別活動を生かした道徳授業の構築について		特別活動と道徳教育の関連、道徳教育の全体計画、道徳の時間の年間計画、学習指導案 （道徳の学習指導案の作成）
第8回	儀式的行事、文化的行事、健康安全・体育的行事等の計画実施について		新しい生活への動機づけになる入学式、卒業式、一人一人の可能性をひらく学芸会、運動会
第9回	遠足・集団宿泊的行事の計画実施について		責任感連帯感を育てる遠足、社会見学、野外学習、修学旅行　（遠足の実施計画の作成）
第10回	自主的、実践的な態度を育てる児童会活動等について		児童会活動、委員会活動、クラブ活動、部活の計画と運営
第11回	家庭や地域との連携について		学級だより、文集、授業参観、保護者対応等 （人権啓発実施計画の作成）
第12回	諸問題の解決について		生徒指導、いじめ問題、携帯に関する問題、いわゆる「学級崩壊」について、
第13回	地域と連携した体験学習等について		放課後学び教室、土曜学習、ジュニア京都検定、みやこ子ども土曜塾（体験学習実施計画の作成）
第14回	授業のふりかえりとまとめ		人間関係を結び、よりよい生活を気づく自主的、実践的態度を育てる特別活動の役割」
第15回	教師として求められる資質と能力 （まとめのレポート）		「学級担任をしたら、どのような学級づくりをし、どのような子どもを育てたいか」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能であれば、右京区等近隣の学校のお願いして、休日参観に参観できる機会を設けたいと思っています。詳しくは、予定が決定した時点、授業の中でお知らせします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・ 学級経営案や学校行事実施案、指導案等の作成物、グ ループの話合いを通して考えたこと等のレポートの提出 及び内容の評価をします。 ・ 学校教育活動おける特別教育活動の意義、役割の理解 とともに、児童理解を生かした学級経営実践のための留 意点の理解度を確認します。

・ 授業を受けている間、日常的に関心を持って考え続けるため、継続して出席することを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

学校現場の教育活動の様子や児童の実態を理解するため、ぜひ、学校ボランティアを体験してください。

◆ 学校サポート事業ボランティア募集案内

ア. 学級担任の補助、学校行事、部活等の補助
イ. 各教科等のティーム・ティーチング補助
ウ. コンピュータや理科実験などの実技の補助
エ. 特別支援の必要な児童・生徒への支援
オ. 障害のある児童・生徒の学習生活の支援
カ. 外国人児童・生徒の学校生活のおける相談、コミュニケーション支援、通訳
キ. 放課後における子どもの学習相談・遊び
ク. 図書の読み聞かせ、図書館の運営補助

http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000002748.html

※ 学校については…http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/index.html

◆ 放課後まなび教室学習サポーターの登録者募集

放課後まなび教室での自学自習のサポート

http://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000067456.html

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領特別活動編平成20年8月	文部科学省／東洋館出版／978-4-491-02379-3／￥128＋税

平成23年度より新学習指導要領による教育課程が全面実施されます。新学習指導要領は、一昨年3月に告示され、現在は移行措置が実施されています。授業では、一昨年8月に出された小学校学習指導要領解説特別活動編（特別活動のみ）にもとづいて行います。必要に応じて参考資料のプリント等を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学校学習指導要領平成20年3月告示	文部科学省／東京書籍／978-4-487-28695-9／￥227＋税
小学校新学習要領ポイントと学習活動の展開特別活動	宮川八岐編／東洋館出版／978-4-491-02414-1／￥1,900＋税

特別活動は、各教科、道徳、外国語活動及び総合的な学習の時間などの指導との関連を図って行うため、教育課程の全体について理解しておく必要があります。

特別活動の実際を知るため、新しい学習指導要領を意識した実践事例の記された書籍を参考として上げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/syo	新しい学習指導要領
http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/index.html	各校の特別活動等の実際、各校HPで
http://www.doyo-juku.com/index.html	みやこ子ども土曜塾
http://www.doyo-juku.com/kenntei.html	ジュニア日本文化検定

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct
hyr09081@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特別支援教育論 (S)

12708

担当者名 / Instructor　朝野 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の学校教育では、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童生徒に、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行っていく、特別支援教育の必要が国際的にも国内的にも高まってきている。個々の障害についての基本的知識の理解を促すとともに、発達段階、生活状況などにも配慮した一人ひとりの子どもたちの特別なニーズを把握して、学習や生活上の困難を改善又は克服するために必要な方法を検討していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・教職を志す者として障害についての最低限の知識と理解を目指す。
・特別支援教育の意義について、日本における障害児教育の歴史的変遷から現状と課題について理解する。
・特別支援教育、特に、障害種別によらない教育のあり方や発達障害について理解を深める。
・「ノーマライゼーション理念」の具現化に向けての今日的課題について考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門科目ー専門科目の中の障害児の教育、福祉、スポーツなどに関する講座。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育をめぐる動向ー特別支援教育とは？	特別支援教育の理念と基本的な考え方、学校制度、福祉・医療・労働等に関わる様々な制度などの概括.「自分と障害児教育との関わり」についてレポート①
第2回	障害児教育の発展の歴史(1)(義務教育制以前:近世) 障害児教育の発展の歴史(2)(義務教育制以降:近代以降)	近代盲・聾教育の始まり、明治以降の障害児教育、知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育の始まり
第3回	障害児教育の発展の歴史(3)(第2次世界大戦以降)憲法、教育基本法、学校教育法の制定と障害児教育	学校教育法の制定と障害児教育、養護学校の義務制施行後の教育
第4回	障害児教育の発展の歴史(4)(養護学校義務制移行から特別支援教育へ)	養護学校、特殊学級の発展、軽度の障害のある児童生徒の教育の充実、国際障害者年と障害者対策に関する計画
第5回	障害児教育の制度(1)①就学指導 ②特別支援学校 ③特別支援学級	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、学校教育法施行令、就学制度
第6回	障害児教育の制度(2)①通級制度 ②特別支援コーディネーター	通級による指導、教育課程の編成と配慮事項
第7回	地域に根ざす特別支援教育(1)小学校・中学校における特別支援教育	学習指導要領と教育課程の編成および配慮事項、法令障害児教育の歴史および制度についてのまとめ[確認小テスト]
第8回	特別支援教育のあり方(2)ー特別支援学校における教育①	盲・聾・養護学校の学習指導要領の歴史、特別支援学校の教育の概要、障害種別への対応・視覚・聴覚・知的障害
第9回	特別支援教育のあり方(3)ー特別支援学校における教育②	特別支援学校の教育課程の特色、教育課程編成の特色、自立活動、障害種別への対応:肢体・病弱・重複障害
第10回	特別支援教育のあり方(4)ー特別支援学校における教育③	センター的機能とその役割、特別支援コーディネータの役割、専門機関との連携と協働、交流及び共同学習
第11回	特別支援教育のあり方(5)ー地域に根ざす特別支援教育:放課後や長期休暇での障害児者の生活、余暇活動、家族	障害のある子供の余暇活動、地域生活、家庭と家族、福祉施設、障害者自立支援法、障害児タイム・ケアー事業
第12回	特別支援教育のあり方(6)ー地域に根ざす特別支援教育:地域ネットワークと支援のあり方	コミュニティ・スクール、ボランティア活動、広域特別支援連携協議会、コミュニティにおける双方向の援助
第13回	国際的な特別支援教育の動向(1)特別なニーズ、サマランカ宣言	SEN、「万人のための教育」宣言の理念、ユニバーサル・デザイン、バリア・フリー社会、ノーマライゼーション
第14回	国際的な特別支援教育の動向(2)インクルーシブ教育、バリアフリー社会、慈悲から権利へパラダイム転換、	国際障害者年、障害者の権利条約、びわこミレニアム・フレームワーク、クラスター・オブ・スクール
第15回	今後の特別支援教育の展望、新しい学習指導要領に改善点、新しい福祉施策 「自分と特別支援教育との関わり」についてレポート②	まとめ・評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

京都市における特別支援教育に関する公開講座や行事への参加の勧誘を行い、見聞を広める(適宜案内を提示する)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①自らと特別支援教育とのかかわりについてレポートを課す。授業で扱った内容を生かして論理的説得力をもって記述されているかを見る。 ②授業で扱った特別支援教育に関わる人権・教育制度・福祉施策・援助活動などついての理解度の確認を、自己採点式の小テストを適宜行う。 ③3回の欠席で成績評価は「F」となる。 出席が基本である。

・3回欠席すれば、成績評価は「F」(不可)とする。
・日常の授業への積極的態度を評価する。そのため出席を最重要視する。
・20分以上の遅刻を3回すると1回の欠席とみなす。ついては、特別支援教育についての課題レポートの　提出をもって回復を検討する。
・適宜コミュニケーションペーパーでもって講義についての感想を求め、疑問･質問に答える。
・授業中での飲食、机上への食べ物放置、携帯電話、私語など厳重に注意を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識的理解のみならず実践的、実証的態度を自ら養うためには、学外での特別支援教育に関する授業参観や講演会及び行事等を紹介するので、積極的に参加する意欲を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特別支援学校学習指導要領	文部科学省／海文堂出版／／
同解説書	文部科学省／海文堂出版／／

各講義毎に資料を配布するのでテキストとして使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害白書	日本発達障害福祉連盟／日本文化科学社／／
輝けきょうの子どもたち	京都市立総合支援学校長会／ミネルヴァ書房／／
特別支援教育の基礎知識	橋本創一他／明治図書／／

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のWebサイトを検索して必要な情報を得て、確認をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省特別支援教育課
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

比較市民教育論 (S)

15557

担当者名 / Instructor　角田 将士、森田 真樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，日本の明治期から現代までの各時期における市民教育の特質を概観するとともに，諸外国の事例としてアメリカ合衆国，イギリス，アジア諸国を取り上げ，各国における市民教育の特質を概観し，現代社会における市民教育の特質や課題を探求していく。

到達目標 / Attainment Objectives

日本，アメリカ合衆国，イギリス，アジア諸国における市民教育の特質と課題を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の目的と方法及び導入 （森田・角田）	
2	日本における市民教育(1)－近代学校の成立－ （角田）	
3	日本における市民教育(2)－近代化の推進と教育勅語体制－ （角田）	
4	日本における市民教育(3)－教育の軍国主義化－ （角田）	
5	日本における市民教育(4)－戦後教育改革－ （角田）	
6	日本における市民教育(5)－教育の保守化と高度経済成長－ （角田）	
7	日本における市民教育(6)－現代社会のなかの教育－ （角田）	
8	日本における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ （角田）	
9	諸外国における市民教育(1)－アメリカ合衆国の場合1－ （森田）	
10	諸外国における市民教育(2)－アメリカ合衆国の場合2－ （森田）	
11	諸外国における市民教育(3)－アメリカ合衆国の場合3－ （森田）	
12	諸外国における市民教育(4)－イギリスの場合－ （森田）	
13	諸外国における市民教育(5)－アジア諸国の場合－ （森田）	
14	諸外国における市民教育(6)－21世紀の市民教育をめぐる動向－ （森田）	
15	諸外国における市民教育(7)－授業のまとめとテスト－ （森田）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

問題意識を持って臨むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各担当者の内容ごとに8回目(角田担当分)15回目(森田担当分)に実施する。出席及びコメントペーパーによる。

出席及びコメントペーパーについては複数回，不定期を予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生同士のディスカッションなども行うので，まずは出席すること。

教科書 / Textbooks

授業内容に応じたレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本教育小史	山住正己　／岩波書店／／
世界のシティズンシップ教育	嶺井明子編　／東信堂／／

これ以外は，授業の中で適宜指示をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

E-mail:kakuda@ss.ritsumei.ac.jp(角田)
mmorita@ss.ritsumei.ac.jp(森田)

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15464

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。

本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学。社会学の基本的な科目を履修していると、講義内容に対する理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
2	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
3	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
4	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
5	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
6	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
7	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
8	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
9	ケアと回復（1）	問題の社会化、careとcure、相互作用性
10	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
11	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
12	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
13	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
14	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
15	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。

毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。次回講義開始時に回答をする。これは講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価に反映されるものではない。

随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいく予定をしている。講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジアの福祉研究（S） § アジアの福祉研究（I）

12800

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者とこどもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会福祉の情勢を考えることがこの講座の一つの目的である。アジアの高齢者やこどもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらから、みんなで考察しながら、ディスカッションできれば幸いである。

到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかり人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者やこども、とくに障がいをかかえたこどもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ（視角）から構築されなければならないかについて検討することと、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

アジア各国間の政治や経済における国際関係、またそれぞれの国の社会構造や機能をあつかう社会学的な見方、および国際福祉の視点や分析方法など知識をしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義をはじめるにあたって一講義のすすめかた、目標などについて-	講義の目標
2	今なぜアジアの社会福祉なのか！？	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	こどもの福	こどもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関･国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東アジア（①中国②韓国）	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東南アジア（①シンガポール②タイ③その他）	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	講義を終えるにあたって（A＋希望学生はプレゼンテーション）	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常試験を数回実施する。万一欠席した場合は、別に課題を与え、その成果によって評価を行う。

A＋を希望する学生は事前に申し出ること。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをしてもらいます

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生／日本出版放送協会／ISBN4-596-30606-7／

放送大学（ラジオ）にて、昨年から「アジアの社会福祉」という講座がはじまっている。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉（第3章）高齢者と福祉（第6章）担当している。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義中に希望者に提示します。

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

12758

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてのカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経緯，心の病の捉え方ならびにカウンセリングに関する基本問題を解説し，カウンセリングの主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のため，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カウンセリングとは何か	心理療法・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
第2回	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
第3回	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
第4回	心の深層の理解1：精神分析	フロイト・無意識・自由連想
第5回	心の深層の理解2：ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
第6回	人間関係の心理学1：アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
第7回	人間関係の心理学2：交流分析	構造分析・エゴグラム・交流パターン分析
第8回	傾聴技法の習得：クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
第9回	反省してはいけない！：認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
第10回	心の奥底にある感情に触れてみる：ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・エンプティチェア・感情体験
第11回	家族システムへの介入：家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
第12回	心理アセスメントの方法	心理テスト・深層心理・フィードバック
第13回	臨床心理学的支援の実際	不登校・アセスメント・否定的感情の吐き出し
第14回	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
第15回	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
カウンセリングの理論	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40308-1 C3011／
カウンセリングと精神分析	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40312-X C3011／

カウンセリングの実際問題　　河合隼雄／誠信書房／ISBN4-414-40119-4 C3011／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニティケア論（S）§ 社会福祉援助技術論III（SG）§ 社会福祉援助技術論III（S）§ コミュニティケア論（SG）

12922

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講ではコミュニティケアに関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①コミュニティケアの系譜および概念の整理・検討を、イギリスなどにおける国際動向および日本における実態と課題に照らして検討する。②社会福祉の構造的把握からコミュニティケアを考察する。特に、障害者福祉における地域福祉実践の構造的理解を基礎にして、コミュニティケアを福祉援助の技術論的アプローチとともに、地域社会での生活を支える福祉、構成員すべての人間的発達を保障する視点から考察する。③ノーマライゼーションの視点からコミュニティレベルのケアの体系化（計画化）を提起する。福祉・医療・教育の各領域及びその協同、さらにはすべての構成員の社会参加と自己実現を基礎にして、総合的かつ横断的な施策と計画の必要性をノーマライゼーションの視点から提起する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. コミュニティケアに関する基礎知識の習得と系統的理解
2. コミュニティにおける福祉課題に対する問題意識の形成
3. コミュニティケアの関連領域を踏まえての総合的理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域福祉論、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、国際福祉社会論（それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい）。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに —講義を始めるにあたって—	1. コミュニティケアとは （1）概念の検討と整理
第2回	2. コミュニティケアとは （2）イギリスの政策動向と系譜①	シーボーム報告、グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
第3回	3. コミュニティケアとは （3）イギリスの政策動向と系譜②	新自由主義政策、福祉ミックス論、シュアスタート
第4回	4. コミュニティケアとは （4）国際社会における展開	ノーマライゼーション、社会的排除、インクルージョン、CBR
第5回	5. 日本におけるコミュニティケア （1）政策展開と実際①	高度経済成長期、コミュニティ政策、住民主体の原則、地域社会の構造変動
第6回	6. 日本におけるコミュニティケア （2）政策展開と実際②	ゴールドプラン、地方分権、福祉のまちづくり、社会福祉基礎構造改革
第7回	7. 日本におけるコミュニティケア （3）政策展開と実際③	介護保険制度、ケアマネジメント、支援費制度、障害者自立支援法
第8回	8. コミュニティにおける福祉課題 （1）構造的把握の意味	三元構造論、生活の社会化論
第9回	9. コミュニティにおける福祉課題 （2）福祉問題の検討①	障害児家族と心中事件、利用抑制
第10回	10. コミュニティにおける福祉課題 （3）福祉問題の検討②	児童虐待、子どもの貧困、子育て支援
第11回	11. コミュニティにおける福祉課題 （4）福祉問題の検討③	高齢者の孤独死と自殺、老老介護、遠距離介護、介護難民
第12回	12. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（1）「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画」	社会福祉法、地域福祉計画、社会福祉協議会、ケアプラン
第13回	13. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（2）「次世代育成支援行動計画」	少子化対策、子どもの権利、就学前保育、学童保育
第14回	14. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（3）「障害者計画」「障害福祉計画」	ノーマライゼーション、バリアフリー、コンフリクト
第15回	15. コミュニティケアの展望と課題 —あらためてコミュニティケアを考える、まとめにかえて—	住民参加、共同と連帯、発達保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・資料に触れ、自学自習にも努めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生が居住する地域社会の福祉課題に対して日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。
講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『障害のある子ども・家族とコミュニティケア』	黒田学、渡邉武編／クリエイツかもがわ／／
『イギリスのコミュニティケアと介護者―介護者支援の国際的展開』	三富紀敬／ミネルヴァ書房／／

その他、講義中に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体（福祉関係の情報・資料）および厚生労働省のホームページ（http://www.mhlw.go.jp/）。その他、講義中に適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる。

その他 / Others

スクールソーシャルワーク論（S）

12918

担当者名 / Instructor　佐々木 千里

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スクールソーシャルワークは、アメリカにおいてはソーシャルワークの草分け的分野のひとつとして長い歴史をもつものの、日本ではまだ最近知られるようになり、制度化された分野です。
この講義では、スクールソーシャルワークの理解と応用、課題などについて研究します。

到達目標 / Attainment Objectives

子どもの最善の利益を追求する活動であるスクールソーシャルワークを理解したうえで、スクールソーシャルワーカーとして活動することを念頭においての価値・知識・技術を学びます。また、教員などがスクールソーシャルワーカーを活用する場合やスクールソーシャルワーク的な視点を身につけた教育活動のありようを学びます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スクールソーシャルワークの概要	
2	ソーシャルワークの視点の確認	子ども家庭福祉分野のソーシャルワーク
3	スクールソーシャルワーカーの活動	
4	日本の学校の特性と支援　初等教育	
5	日本の学校の特性と支援　中等教育	
6	アセスメント　情報の収集と分析	アセスメントの対象
7	スクールソーシャルワーカーの支援とコーディネーターの役割	校内ケース会議
8	関係機関連携ケース会議	
9	児童虐待について	
10	子どもの発達、発達上の特性について	
11	非行・問題行動について	
12	スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー	
13	事例検討1	
14	事例検討2	
15	スクールソーシャルワークの展望	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

スクールソーシャルワークに関するものはもちろんのこと、社会全体のことに関心を向け、学校や子どもに関する研修会等に積極的に参加するなど、課題意識を強くもってください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業の最後に、その回の授業の内容に関係する「ふりかえり」を書いて提出してもらいます。テーマについては、その都度指示をします。なお、提出は当該回授業に出席した者についてのみとし、授業内容の理解度に応じ、4～6点で評価します。また、課題レポートを1本、最終授業日に提出することとします。課題については、授業の中で指示します。課題レポートは、5～10点で評価します。

2008年度から、スクールソーシャルワークが文科省により制度化されています。さまざまなメディアの報道に関心をもっておいてください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワーカー養成テキスト	日本学校ソーシャルワーク学会編　／中央法規出版 ／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スクールソーシャルワークの可能性	山野則子・峯本耕治　／ミネルヴァ書房 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://jssssw.com/　日本学校ソーシャルワーク学会

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

ソーシャルワーク論（S） § 社会福祉援助技術論II（S） § 社会福祉援助技術論II（SG） § ソーシャルワーク論（SG）

12722

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉実践（ソーシャルワーク）に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や視点、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べることができる。
・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、方法
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	事例、専門性
第3回	相談援助とは （テキスト第1章）	構成要素、専門職、実践領域、対象とする社会問題、介入の単位
第4回	相談援助の構造と機能（テキスト第2、3章）	視点、基本的な考え方、役割・機能
第5回	援助関係（テキスト第4章）	原則、機能・役割、自己覚知
第6回	援助の展開課程I（テキスト第5章）	インテーク、アセスメント、計画
第7回	援助の展開課程II（テキスト第6章）	計画の実施、モニタリング、評価、開発
第8回	アウトリーチ、契約（テキスト第7，8章）	アウトリーチ、契約
第9回	アセスメント （テキスト第9章）	援助関係、面接、情報
第10回	介入（テキスト第10章）	方法、理論、レパートリー
第11回	モニタリング、評価（テキスト第11章）	モニタリング、再アセスメント、効果測定、サービス開発
第12回	面接（テキスト第12章）	面接の形態、コミュニケーション・スキル
第13回	記録（テキスト第13章）	記録の目的、種類、方法
第14回	交渉、スーパービジョン（テキスト第14章）	交渉、エンパワメント、スーパービジョンの種類と方法
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの知識を応用することができるか、小レポートおよびテストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法I』	社会福祉士養成講座編集委員会編／中央法規／978-4-8058-3107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール：m-okada@ss.ritsumei.ac.jp
個人研究室：修学館307&356号室(直通電話466-3371)

その他 / Others

バリアフリー論（S）

12763

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち 天候や教材準備の関係で講義が変更される可能性もあります
第9～11講義	第四章　住環境・生活環境のバリアフリー	住環境　福祉用具　都市環境
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	10 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm　＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm　＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/　＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html　＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/　＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm　＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/　＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm　＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html　＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/　〈バリアフリー協会〉
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html　〈バリアフリー住宅〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html　〈交通バリアフリー〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html〈国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン〉

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15432

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義：ライフサイクルとは何か	【キーワード】 人生周期、発達段階
2	人生のはじまり（胎児・新生児の世界）	【キーワード】社会的存在、基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）の形成
3	母子臨床と育児支援の課題	【キーワード】親になること、家族関係の変化、仲間との交流
4	自我の芽生えと自制心の育ち	【キーワード】甘えと自立、自尊心、仲間との育ち合い
5	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折の問題	【キーワード】子どもの貧困、早期教育、教育家族
6	学童期の発達と心理的危機	【キーワード】怒りのコントロール、コミュニケーション能力、学級崩壊
7	児童虐待と子どもへの影響（その1）	【キーワード】自己の連続性、アイデンティティの危機、解離性同一性障害
8	児童虐待と子どもへの影響（その2）	【キーワード】児童相談所、一時保護所、心のケア
9	里親家庭で育つ子どもたち	【キーワード】私の子どもは60人、親支援の課題
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	【キーワード】父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	【キーワード】職業選択、恋愛、結婚、子育てと職業の両立
12	中年期の発達課題（その1）	【キーワード】心身の変化、空の巣症候群
13	中年期の発達課題（その2）	【キーワード】人生の転換期、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	【キーワード】老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義：ライフサイクル論のまとめ	【キーワード】自立、支え合い、安心

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問

		題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクルの臨床心理学』	馬場禮子・永井徹共編／培風館／ 4-563－05610－3／
『女性のためのライフサイクル心理学』	岡本祐子・松下美知子編／ 福村出版／ 4-571－20051－x／
『子育て支援の現在』	垣内国光・櫻谷眞理子共編 ／ミネルヴァ書房 ／4-623－03643－xc3336／
『ライフサイクルの心理学』	松尾恒子他 ／燃焼社 ／4-88978－992－8／
『ライフサイクル、その完結』	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／ 4-622－03967－2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15373

担当者名 / Instructor　安東 一郎、垣田 さち子、神田 豊子、冨田 素子、野々村 光生、長谷 斉、増田 和人、宮崎 博子、門 祐輔

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション、障害者の心理、障害受容	宮崎
10/7第2回	地域リハビリテーション	垣田
10/14第3回	障害論	門
10/21第4回	運動器疾患のリハビリテーション	増田
10/28第5回	義肢装具のリハビリテーション	増田
11/4第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	神田
11/11第7回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	宮崎
11/18第8回	内部障害のリハビリテーション	宮崎
11/25第9回	神経・筋疾患のリハビリテーション	冨田
12/2第10回	精神疾患のリハビリテーション	安東
12/9第11回	排尿障害のリハビリテーション	野々村
12/16第12回	介護保険のリハビリテーション	垣田
12/23第13回	脊髄疾患のリハビリテーション	長谷
1/6第14回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	冨田
1/13第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	宮崎

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかも含めて、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版 ／978-4-7803-0177-9 ／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会 ／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社 ／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社 ／／

障害児の包括的評価法マニュアル　全国肢体不自由児施設運営協議会編　メジカルビュー社
変わるリハビリ　上月正博　ヴァンメデイカル社

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

医学一般（S） § 医学一般（SG）

15356

担当者名 / Instructor　中川 克

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

① 社会福祉士の試験に合格する。
② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	インフルエンザ・麻疹など感染症の基本と対策
2	身体の構造と機能①	
3	身体の構造と機能②	
4	身体の構造と機能③	
5	身体の構造と機能④	
6	発生・成長と老化	
7	疾病①：感染症（1）感染症法の改正	
8	疾病②：感染症（2）結核	
9	疾病③：生活習慣病・メタボリックシンドローム・糖尿病	
10	疾病④：生活習慣病・がん	
11	疾病⑤：生活習慣病・高血圧・脂質異常症	
12	疾病⑥：神経疾患・脳卒中	
13	疾病⑦：高齢者の病態・認知症	
14	リハビリテーション	
15	公衆衛生	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のリポートを求める。 課題は授業にて提示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

15回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。【復習を中心に勉学に励むこと。】
授業で用いるパワーポイントの図表をWebCTに掲載しておくので、各自でプリントアウトして授業に持参すること。

※国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人体の構造と機能及び疾病	社会福祉士養成講座編集委員会編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3101-4／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック	社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック編集員会／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3030-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所ホームページ　http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
厚生の指標　http://www.hws-kyokai.or.jp/16tokeipage-index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mailで連絡：　nkt07645@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

医療福祉論（S）

15326

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 他の専門職との連携の意義を明確化する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史1	年金制度
3	保健医療と法制度の歴史2	医療保健制度
4	医療保険の法制度と現状・課題	
5	診療報酬制度の概要と課題	
6	保保健医療福祉におけるコーディネート機能 健医療福祉政策の概要	
7	各専門職の役割と機能分担1	医療ソーシャルワーカー
8	各専門職の役割と機能分担2	保健師、看護師
9	各専門職の役割と機能分担3	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士
10	各専門職の機能と連携	
11	精神障害と精神保健福祉	
12	地域における保健医療福祉の現状と課題1	
13	地域における保健医療福祉の現状と課題2	
14	まとめ	
15	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認し評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

応用精神保健学（S） § 精神保健学II（S）

20257

担当者名 / Instructor　石橋 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1,2	人間にとっての精神とは	
3,4	精神保健とは	
5,6	精神を病むということ	
7,8	偏見のなかでつくられた病像	
9,10	精神障害者の充実した生活とは	
11,12	当事者と家族の社会参加	
13,14	障害と共に生きるということ	
15	まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」（東京；へるす出版）
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

家族関係論（S）

12761

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	【キーワード】家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	【キーワード】少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	【キーワード】結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	【キーワード】子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	【キーワード】母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	【キーワード】育児参加、育児休業
7	児童虐待	【キーワード】貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	【キーワード】家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	【キーワード】「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	【キーワード】親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	【キーワード】機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	【キーワード】家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	【キーワード】アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	【キーワード】保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	【キーワード】これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメに載せた参考文献を読んで、理解を深めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

家族問題に関する新聞記事等を読んで、問題意識を高めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子育て支援の現在』	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房 ／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『母性愛神話の罠』	大日向雅美／ 日本評論社 ／4-535－56156－7／
『個人化する家族』	目黒依子 ／勁草書房 ／4-326－65074ー5／
『「家族」と「幸福」の戦後史』	三浦展／ 講談社現代新書／ 06－149482－1　C0236／
『 21世紀家族へ』	落合恵美子／ 有斐閣選書 ／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。
あるいは、研究室（修学館362号室）のドアに取り付けたボックスに用件を書いたメモを入れて置いてください。連絡先が書いてある場合はこちらから連絡します。

その他 / Others

介護概論（S） §　介護概論（SG）

15406

担当者名 / Instructor　沖野 良枝　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に関わる専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望します。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワークなど主要な専門基礎科目を履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解　1）介護の概念とその発展	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2）介護の現状と問題、その背景	少子高齢社会、疾病構造の変化、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解　1）人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2）人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3）人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立尊重
第6回目	3. 介護のしくみ　1）介護に関する政策、制度　2）介護の場（在宅、施設）	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、在宅
第7回目	3）介護を担う人と役割　4）保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	5）介護保険制度の概要	介護保険法、要介護認定、要介護度、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル　1）介護（問題解決）過程　2）ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン、個別援助計画
第10回目	2）日常生活（ADL、IADL）援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3）介護技術の原則　①状態観察　②コミュニケーション	援助技術、観察、コミュニケーション
第12回目	4）主な領域と介護　①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法、日常生活自立度
第13回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状
第14回目	③終末期と尊厳死の理解	人の死、尊厳死、安楽死、高齢者、終末期、延命治療
第15回目	5. 介護における倫理　1）対象者・家族の人権擁護　2）介護専門職の責務	倫理、人権擁護、守秘義務、プライバシー保護、インフォームド・コンセント、意思決定、専門職の責務、倫理綱領

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書、講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定します。
レポート試験	0 %	定期試験の得点によっては、レポート評価を加味する場合もあります。
平常点評価	0 %	定期試験の得点によっては、出席状況を加味する場合もあります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定です。教科書による事前学習およびレ授業後のジュメを中心にした復習が、授業理解を円滑に深める前提と考えます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座13　高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7　／授業は、独自のレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定ですが、時間の関係で、授業では触れられないこともあります。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたいです。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケアその思想と実践1，2，3	上野千鶴子他／岩波書店／／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めます。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用しますが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたいです。
介護の質に挑む人々	加藤仁／中央法規／／上記に同じ
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アルツハイマー病にならない	井原康夫　／ 朝日新聞社／／上記に同じ
痴呆性高齢者ケア	小宮英実／中央公論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

権利擁護と成年後見 (S)

15569

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉のパラダイム転換を経て、福祉サービスを「購入」するために、質の良いサービスの供給や苦情解決、契約能力の確保など、従来とは異なるサービス利用の下支えが必要となった。そのための仕組みを理解することが、本講座の目的である。
社会福祉におけるエンパワメント、成年後見における自己決定権、自己責任と公的責任つまりはサービス利用と公的介入など、ソーシャルワークの思想を背景に学習を進める必要がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ソーシャルワークの担い手として身につける必要のある、成年後見制度、権利擁護制度、憲法や民法等の法制度と担い手などについて理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ソーシャルワークにおける法の意味	
2	ソーシャルワークにおける主要な法	
3	後見1　未成年後見	
4	後見2　成年後見制度	
5	後見3　成年後見の応用	
6	後見4　後見の責務	
7	日常生活自立支援事業	
8	成年後見制度利用支援	
9	権利擁護機関1　司法	
10	権利擁護機関2　行政と社会福祉協議会	
11	社会福祉士の権利擁護活動	
12	権利擁護専門職	
13	成年後見と権利擁護の応用1	
14	成年後見と権利擁護の応用2	
15	公的責任と自己責任	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	コミュニケーション状況と、小課題

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新規の社会福祉士受験資格科目

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
権利擁護と成年後見制度　第2版	社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／978-4-8058-3266-0／必ず所持

小六法など、必要な法令の検索を指示することがある。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com
でのメールでアポイントをとってください。

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11099

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11100

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11101

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

15324

担当者名 / Instructor　井手 巧

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公的扶助、つまりわが国においては生活保護に代表される制度が、なぜ必要でどのような役割や意義を持っているのか、その歴史的変遷、内容やしくみ及び現状と課題などから学ぶ。また、格差や貧困など、今私たちの周りで問題となっている様々な事象をどのように捉え理解すればよいのかを学ぶ。さらに、生活保護における自立支援とともに低所得者に対する支援の実際及びそのあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
②生活保護の内容やしくみ及びその動向について理解する。
③福祉事務所や福祉専門職の役割及びあり方等について理解する。
④生活保護の現状や相談援助活動の実際について理解する。
⑤生活保護以外の低所得者対策について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「公的扶助とは何か」思い当ることを出し合う	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護
第2回	現代社会における貧困・低所得者問題	貧困、低所得、ワーキングプア
第3回	世界における公的扶助の歴史的変遷	エリザベス救貧法、改正救貧法、B.ウェッブ、ベヴァリッジ報告、国民扶助法
第4回	日本における公的扶助の歴史的変遷	恤救規則、救護法、旧生活保護法、新生活保護法
第5回	公的扶助の概念と役割・意義	社会保障、公的扶助、社会保険、ナショナル・ミニマム
第6回	生活保護制度の内容・しくみ　①理念・原理・原則	憲法25条、無差別平等、保護の補足性、申請保護、基準及び程度
第7回	生活保護制度の内容・しくみ　②保護の種類	生活扶助と加算、医療扶助、住宅扶助、教育扶助
第8回	保護施設、被保護者の権利・義務等	救護施設、更生施設、能力の活用、審査請求、行政事件訴訟
第9回	生活保護の基準と最低生活	最低生活水準、生活保護基準、生活扶助基準額と加算
第10回	生活保護事務と実施体制	社会福祉法、福祉事務所、社会福祉主事、福祉関係8法改正
第11回	福祉専門職の役割と連携	社会福祉主事、社会福祉士、民生委員、補助・協力機関
第12回	生活保護の動向及び財源・予算	保護の開始・廃止、被保護人員・世帯数、医療扶助
第13回	低所得者対策の概要	生活福祉資金貸付制度、社会手当、ホームレス自立支援
第14回	相談援助活動の実際と自立支援プログラム	被保護者と要保護者、ミーンズテスト、自立支援プログラム、現業員と査察指導員
第15回	「公的扶助とは何か」振返ってまとめる	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業予定の項目について、参考文献等に十分目を通し、予め内容の把握に努めておく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標が達成できているか確認するための問題により評価する。
平常点評価	30 %	・授業への出席、態度等を含む授業参加度により評価する。 ・必要によっては、授業内容の理解度を確認するため、事前に連絡した上で、小レポートの提出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生活保護等に関連する新聞記事などには普段から注意して目を通すように心掛ける。

教科書 / Textbooks

テキストは指示せず、配布するプリント・資料により授業を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
①「低所得者に対する支援と生活保護制度」	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版株式会社／／
②「公的扶助論」（MINERVA社会福祉士養成テキストブック14）	岩田正美・杉村宏（編著）／ミネルヴァ書房／978-4-623-05400-8／最新版
③「保護のてびき」	（編集）生活保護制度研究会／第一法規株式会社／978-4-474-02440-3／最新版

テキストを指定しないため、社会福祉士等の国家試験を受験する学生は、上の①、②などにより、またそれ以外の学生は③などにより事前事後の学習を進めてほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http:/www.mhlw.go.jp
国立社会保障・人口問題研究所　http:/www.ipss.go.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の際、連絡の方法を伝える。

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15468

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述および穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。講義内容に関して、コメントを求めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編／明石書店／／

への取り組み――(1998)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.janic.org/　国際協力NGOセンター
http://www.mofa.go.jp/mofaj/　外務省
http://unic.or.jp/index.php　国連広報センター

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

12788

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	社会的リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、就労、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制度
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	給付制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業の現状
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	福祉レジーム
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	工業社会、脱工業社会、
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ:リスクと社会制度	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン ／桜井書店／4-921190-00-3 ／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6 ／

講義中に適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

国際福祉政策論（S） § 国際福祉政策論（I）

15441

担当者名 / Instructor　福地 潮人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

世界経済のグローバル化、そして社会の深刻な少子高齢化が進む今日、既存の先進福祉国家は大きな転換期を迎えている。本講義ではそのような現代福祉国家の現状と変化を国際比較の観点から捉え、その今後について展望する。手順としては、まず70年代以降の先進資本主義国家の変容について把握した上で、この変容にあわせて福祉国家体制が、そして福祉国家論がどのように変化してきたのか検討する。次に福祉国家レジーム論について簡単に触れた上で、各レジームを代表する国々の社会福祉・社会保障政策の特徴と近年の変化について把握する。

到達目標 / Attainment Objectives

①福祉国家論の基本的な視座について理解し、説明できる。
②福祉国家の各類型のもつ特徴について述べることができる。
③各国の福祉政策の特徴と近年の変化について理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション～福祉国家と福祉政策～	福祉国家、夜警国家、福祉政策、所得分配
第2回	グローバル化の中の福祉国家	グローバル化、ケインズ主義的国民福祉国家、シュンペーター主義的ワークフェア体制
第3回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷①	「福祉国家の黄金時代」、収斂説、「収斂の終焉」、権力資源論
第4回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷②	新自由主義、サッチャリズムとレーガノミックス、ハイエク、水滴理論、アトミズム
第5回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷③	福祉国家類型論、福祉国家発展段階説
第6回	福祉国家レジーム論の概要①	エスピン・アンデルセン、レジーム、脱商品化、脱家族主義化、階層化
第7回	福祉国家レジーム論の概要②	社会民主主義レジーム、保守主義レジーム、自由主義レジーム
第8回	レジーム・シフト	「第三の道」、ポルダー・モデル、社会的投資戦略
第9回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン①概要	「国民の家」、所得格差、再分配効果、年金と医療、高齢者福祉の特徴
第10回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン②ノーマライゼーションの理念と実際	ノーマライゼーション、障害者福祉政策、LSS、障害者オムブヅマン
第11回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン③自己選択と自己決定	障害者雇用、サムハル、社会的協同組合、地方自治体と障害者団体の役割
第12回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ①概要	列柱社会、ネオ・コーポラティズム、非営利組織の役割、男性稼得者モデル
第13回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ②ポルダー・モデル	オランダ病、ワッセナー合意、ワークシェアリング、コンビネーション・シナリオ
第14回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ③ワーク・ライフ・バランスの実際	ワーク・ライフ・バランス、各企業の取り組み、労働組合における対応
第15回	各国の事例～自由主義レジームの国～アメリカ	デュアリズム、年金と医療制度の特徴

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義はパワーポイントと配布資料による解説を中心に進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	全講義回数の3分の1以上（5回以上）欠席した場合、受験を認めない。また、受講態度等に著しい問題が見られた場合、その後の受講および定期試験の受験を認めない場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は必ずノートをとること。定期試験もノートからの出題が大部分となる。覚えるべき用語も多いので、毎回の受講後の復習は必ず行い、わからない点があれば積極的に質問してほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる連絡。なお、連絡先については講義中に指示する。

その他 / Others

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁である。受講生としての最低限のマナーを守ってほしい。

国際保健医療政策研究（S） §　国際保健医療政策研究（I）

15362

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

健康と医療に関する動向と政策について国際比較の観点から検討する。社会格差や不平等の拡大は、健康や医療においても問題を突きつけており、その現状とそれに対応する先進諸国および新興国の政策について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）健康や医療、それに関わる制度についての基本的概念を説明できる。
（2）健康や医療にかかわる論点を理解し、政策対応の現状について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国際保健医療政策研究では何を学ぶのか	講義の概要、社会格差、貧困、健康状態、医療アクセス、医療費負担
2	世界の保健医療指標の歴史的推移と現状	健康水準、平均余命、死亡率、医療の質、医療費
3	政策課題としての健康格差	概念、量的把握
4	政策課題としての医療格差	医療サービスへのアクセス、ニーズ、医療の公平
5	健康格差と医療格差への政策的対応の可能性	政治の役割、目標設定、戦略と原則、政策実施、評価、政策領域
6-8	ヨーロッパにおける健康格差・医療格差対策	イギリス、EU、NHS
9-11	アメリカにおける健康格差・医療格差対策	人種間格差、公衆衛生、民間医療保険、無保険者問題
12-14	アジア諸国における保健医療制度と改革の動向	韓国、台湾、シンガポール、中国
15	日本の政策形成へのインプリケーションはなにか	総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義は教科書をベースに、随時参考書を用いながら進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	到達目標に照らして評価する。
平常点評価	20 %	8回目の講義（予定）で、理解度の確認のため小テストを行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
健康と医療の公平に挑む　国際的展開と英米の比較政策分析	松田亮三編著／勁草書房／／2009年。基本テキストとして使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
世界の医療制度改革	OECD編著／明石書店／／2005年
アジアの社会保障	広井良典・駒村康平編／東京大学出版会／／2003年
医療制度改革の国際比較（講座　医療経済・政策学第6巻）	田中滋・二木立編／勁草書房／／2007年
医療財源論：ヨーロッパの選択	エリアス・モシアロスほか編著／光生館／／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にメールで連絡をすることが望ましい。

その他 / Others

司法福祉論（S）

15394

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム(家事)	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦・親子）	
5	司法に関わる福祉課題（人事訴訟）	
6	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度1）	
7	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度2）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
更生保護制度	／中央法規出版／978-4-8058-3267-7／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／
司法統計年報	最高裁／／／

家庭裁判月報　　最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15353

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，児童期・青年期を中心とした発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	小学生の生活と発達	社会と学校，生活世界
第3回	小学校1年生－2年生	小学生の生活と発達
第4回	小学校3年生－4年生	知的好奇心，9,10歳の節，クラブ活動，動機づけの変化
第5回	小学校5年生－6年生	思春期への移行，自己意識，総合的な学習，科学的思考
第6回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第7回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第8回	子どもらしさを捉える①	文化的過程，発達段階，現実の子ども
第9回	子どもらしさを捉える②	生活リズム，実践性，子どもの権利
第10回	児童・青年における認識と感情①	思考の発達，ピアジェ，9,10歳の発達の節，社会認識，形式的操作
第11回	児童・青年における認識と感情②	共感性，視点取得，自尊感情，怒りと感情制御
第12回	家族の中の児童青年	家族関係，親と子，依存と自立
第13回	就職と労働	職業選択，キャリア発達，産業構造
第14回	現代における青年の生活と人格発達	依存，自立，個性，生活時間，生活空間，文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

講義形式です。教科書を用います。特に，児童期に関わるところの講義の際には，事前に該当章を読んでおいて下さい。青年期を主とした内容の際には，直接に授業では教科書を用いないことが多くなりますが，授業には持ってきて下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会 (編)／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために
児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15352

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度	芝野・高橋・松原／ミネルヴァ書房／9784623053995／必ず必要である。
福祉小六法	／／／必ず必要である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html
（厚労省子ども子育て支援）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Emailにて
masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

社会福祉援助技術論（S） § 社会福祉援助技術論I（S） § 社会福祉援助技術論I（SG） § 社会福祉援助技術論（SG）

12719

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動とその社会福祉領域での相談援助活動について以下の内容で学ぶ。国民の生活問題および社会福祉活動の対象である社会福祉課題の現実、公的社会福祉制度と社会福祉活動との必要性を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の現実の展開の基本を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の原理（概念、理念、構造）を、歴史的形成過程、生活問題を解決・緩和する国民のイニシアティブ、国家による制度の関係の角度から学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論（公的扶助論、老人福祉論など）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入　②社会福祉活動・相談援助を理解するための導入事例	社会福祉活動、相談援助、生活の困りごと、社会福祉資源
2	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(1)	生活と労働、社会問題、生活問題、ニーズ、社会福祉制度
3	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(2)	社会福祉の主体、社会福祉活動、相談援助
4	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(3)	地域、社会資源(相談機関、社会福祉施設)、人材(社会福祉労働者・ボランティア)
5	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(1)	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護
6	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(2)	生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
7	社会福祉活動の考え方と構成要素(1)	基本的人権、契約と権利、ノーマライゼーション、社会的包摂、自立
8	社会福祉活動の考え方と構成要素(2)	社会福祉活動の類型、社会福祉活動・相談援助の諸機能
9	社会福祉活動の考え方と構成要素(3)	ゼネリック、共通基盤、価値と倫理、地域展開
10	社会福祉活動の歴史と理論(1)	本源的蓄積、救貧法、産業革命、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、
11	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(2) 1970年中旬～	福祉見直し、在宅福祉、多元化、福祉供給システム、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革、反貧困運動
14	相談援助専門職と社会福祉労働(1)	専門職制度、社会福祉士、分業と協業
15	相談援助専門職と社会福祉労働(2)	専門職と価値・倫理、社会福祉労働過程、主体形成、制度形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記試験による。
平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパによる。

・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う
・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
・随時のコミュニケーションペーパにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座⑥相談援助の基盤と専門職』中央法規 2009年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉　／法律文化社／／
新・社会福祉士養成テキストブック2社会福祉援助技術論　上	北島英治／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉概論（S） § 社会福祉論（S） § 社会福祉原論（SG）

12721

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉は今は私たちの生活にとって必要不可欠な社会資源となっています。福祉の仕事に就く人に取ってだけではなく、生活者にとっての社会福祉の意義と成り立ちについて歴史的かつ現実的に考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉の位置と役割について過去・現在・未来の視点から捉える視点の獲得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入：本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	共同社会のなかでの福祉的営みの必須性を考える	ボノボ、共同社会
3	資本主義による家族と地域社会における自生的な共同関係の衰退	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族 、地域共同体
4	共同関係の衰退と貧困化から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体、民間非営利組織
5	義務教育で権利としての社会保障・社会福祉について何を学びましたか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
10	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
11	保育所から見える児童の貧困と社会福祉	保育所の二つの役割
12	社会福祉の三元構造	対象、運動、政策主体
13	社会福祉従事者と社会福祉法人、社会福祉協議会、地方自治体、国の役割と責任	社会福祉従事者、資格制度、社会福祉法人
14	当事者組織と社会福祉運動と社会福祉研究運動	社会運動、当事者運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ビデオを多用しながら、社会福祉の多様な現場とその奥の深さを考えます。また講義では考えるテーマを出して受講者に思考訓練を行ってもらいます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義の理解度を問う試験によって評価します。
平常点評価	30 %	講義の出席と講義で出すテーマをどれくらい考えてくれたかで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ欠席がないことを要請します。続けて出席することで理解が深まるように、授業を組み立てています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間中かメールで連絡を取ってください。isikura@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会福祉法制（S）

12767

担当者名 / Instructor　密田 逸郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっている。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状である。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①」	所得保障、対人社会サービス、社会保障法（アメリカ、ニュージーランド）
2	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②」	ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会
3	「社会保障のあゆみとダイナミックス―イギリス及びドイツにおける歴史」	救貧法、本源的蓄積、ブース、ラウントリー、飴と鞭の政策、ビスマルク
4	「社会保障・社会福祉の基本原理と限界」	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働の価値、社会保険方式、消費税
5	「生活保護①」	貧困問題、セーフティネット、社会的排除
6	「生活保護②」	格差社会、ベーシックインカム
7	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
8	「公的年金①」	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民年金制度の成立、国民皆年金
9	「公的年金②」	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
10	「社会福祉法の成立、社会福祉基礎構造改革」	措置制度の解体、利用料概念、営利企業参入、新自由主義
11	「介護保険法と障害者自立支援法」	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」、介護保険と障害者自立支援法の将来的統合
12	「保健・医療制度」	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
13	「消費税の本質と福祉目的税化」	売上税、輸出戻し税
14	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
15	「新しい社会保障・社会福祉の姿」	社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート試験は70点とする。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は1回を15点とする。

検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭編著／文理閣／4－89259－521－7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会保障の基本原理と将来像　　芝田英昭編著／法律文化社／4－589－02724－0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http:/www.mhlw.go.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

imr09070@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15425

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人と関わり合い・人との関係を広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、考えたり、判断したりしながら、人として成長し続けていく。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまう。また、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状や課題、あり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:コミュニケーションの役割について理解することができる。
:聴覚障害について述べることができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害福祉、コミュニケーションの基礎的科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害者のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障やコミュニケーション保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割 ：コミュニケーション障害	コミュニケーションの2つの機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害の体験
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害認識と受容、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）聴覚障害者の暮らしと福祉制度、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由

第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	ろう教育の歴史、教育手段の変遷、現在のろう教育の現状と課題、ろう教師集団が目指すもの、高等教育機関における聴覚障害者学生支援
第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

視覚教材の使用、グルーぴ討議、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、バリアフリー調査等を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著 ／一橋出版／978－4－8348－0349－5 ／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深められる
聴覚障害児・者支援の基本と実践	奥野栄子 ／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深められる
手話通訳問題研究	共著 ／全国手話通訳問題研究会 ／／手話や手話通訳に係ること、聴覚障害者を取り巻く制度等についてタイムリーな情報や全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著 ／（財）全日本ろうあ連盟 ／4－915675－39－4 ／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深められる
日本聴力障害新聞	／（財）全日本ろうあ連盟 ／／毎月発行の新聞、聴覚障害者の全国・世界情報や聴覚障害者を取り巻くあらゆる分野の社会情報が得られる

聴覚・手話に関する研究図書は他のものに比較して多くはない上に、聴覚や手話に関わる団体等が行っている調査や研究に関する報告書は、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な状態にある。各授業のキーワードごとに関係資料を配布するとともに、授業の進行に合わせ参考図書や報告書、資料等を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。その他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15371

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」
障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人に対する言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	スポーツの身体的･精神的･社会的等の効果
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。
研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者スポーツ	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
障害者とスポーツ	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
身体障害者のスポーツ指導の手引き	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。
障害者スポーツ指導教本	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／初級・中級障害者スポーツ指導者養成にかかる教本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

障害者教育・福祉論（S）

12919

担当者名 / Instructor　峰島 厚、森下 勇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

障害のある人たちの教育（就学前教育・高等教育を含む）と福祉（雇用、生活など）の現状と課題について論じる。
本講義では、障害者の実態や施策・制度全体について、各種統計、報告書、実践記録、映像などを検討して障害者全体の動向を学べるようにする。また、障害者分野における教育と福祉の関連や連携に関する諸問題についても理解を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

障害児者の福祉制度は、理念や内容で教育とは大きく異なっている。とくに福祉制度は、この間に大きく転換し混乱さえ生じており複雑である。この授業では、詳細まで立ち入ることはできないが、教育との基本的相違、福祉制度転換の基本的内容、福祉制度等の利用に関する基本を押さえられるようにしたい。
なおこの授業の担当分担は、４－6回（予定）を森下勇が担当し、その他は峰島厚が担当する。また8－11回（予定）については盲学校・ろう学校の教員によるゲストスピーカーを予定している。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育・福祉の現状（1）：実態・運動	発達保障の考え方。ノーマライゼーション。インクルージョン。
第2回	障害児教育・福祉の現状（2）：政策・制度　①	憲法第25条と第26条。学校教育法と障害者自立支援法。
第3回	障害児教育・福祉の現状（3）：政策・制度　②	障害の定義・概念の国際的動向と日本。
第4回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（1）	就学前教育。就学指導。学校選択。
第5回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（2）	教科教育。自立活動。交流教育。
第6回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（3）	自立から自律へ。思春期の課題（障害の自己認識）。生活支援、教育支援。
第7回	知的障害者・肢体不自由者・病弱者の教育・福祉の現状（4）	職業指導。障害者雇用制度。労働と障害、発達。
第8回	視覚障害児・者の理解（1）	早期発見・対応。早期教育。
第9回	視覚障害児・者の理解（2）	弱視児の教育。点字指導。
第10回	聴覚障害者の教育・福祉（1）	早期発見・対応。早期教育。
第11回	聴覚障害者の教育・福祉（2）	言語指導。教科教育。9歳の壁。
第12回	障害児教育・福祉の課題（1）	地域に根差した福祉・教育。障害者自立支援法の基本的仕組み（放課後保障を含む）。
第13回	障害児教育・福祉の課題（2）	インクルーシブな社会。日常生活の不利。障害者自立支援法のサービス利用手続きの基本。
第14回	障害児教育・福祉の課題（3）	環境の整備。障害児の特別なニーズ。障害児者の施設・事業体系の基本。
第15回	まとめ・評価	最新の障害者福祉制度改革動向。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	
平常点評価	20 %	

とくになし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

とくになし。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者	峰島厚／全障研出版部／ISBN－88134－274－6／

とくになし。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15355

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、大きく変わる制度改革のもとで、それらに貫かれるべき、障害者福祉の理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容の基本を学ぶこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。今、この転換への反省がされつつある。この授業では、障害者福祉に関する基本的な制度理念の発生の背景を理解し、今日の争点となる障害者福祉制度改革の問題点を見る視点を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Ⅰ. 現代の課題を考える	障害者自立支援法の廃止をめぐって。障害観・発達観をめぐって。
2	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	Ⅲ. 障害の定義・概念（1）	国際的な動向と日本における制度上の定義
5	Ⅲ. 障害の定義・概念（2）	日本における制限列挙主義の問題点
6	Ⅳ. 障害者問題の歴史（1）	原始社会、古代社会、封建社会
7	Ⅳ. 障害者問題の歴史（2）	市民社会、現代へ
8	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（1）	1960年代の「福祉国家をめざして」と1970年代の「福祉見直し」
9	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（2）	措置から利用契約制度への転換
10	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（3）	障害者自立支援法の基本的性格
11	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（1）	日中活動・暮らし・地域生活の三つの世界と現行制度体系
12	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（2）	日中活動系サービス、就労・雇用保障
13	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（3）	居住系サービス
14	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（4）	地域生活、所得保障、障害児の放課後
15	Ⅶ. まとめ	障害者自立支援法の廃止後について
	注）なお障害当事者をゲストスピーカーに招くものをできたらどこかに入れたい。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎知識、論述
平常点評価	20 %	1－2回の小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－274－6／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚、白沢仁、多田薫／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－354－

8／

転換期の障害者福祉	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／88134－011－5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

0620mine@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

心理学（S） § 心理学（SG） § 心理学I（S） § 心理学I（SG）

12932

担当者名 / Instructor　内藤 みちよ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の心理学的理解への導入となるべく、心理学の様々な領域を紹介し、心理学的アプローチという方法に関心と理解につなぐ

到達目標 / Attainment Objectives

心理学的アプローチを学ぶことで、より科学的で実践的な人間理解、また自己理解が深められること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学の諸領域・歴史と現在
2	人間の心理学的理解①	感覚・知覚と生理学的基礎～脳がわかれば心がわかる？
3	人間の心理学的理解②	記憶と忘却～さまざまな記憶の形
4	人間の心理学的理解③	条件づけと学習～行動の形成と変容
5	人間の心理学的理解④	欲求・動機づけ・感情～人を動かすものは何か？
6	人間の心理学的理解⑤	知能
7	人間の心理学的理解⑥	人格～パーソナリティ理論
8	人間の心理学的理解⑦	社会的行動～さまざまな集団の形と集団力動
9	人間の成長・発達とライフサイクル①	乳幼児期・児童期
10	人間の成長・発達とライフサイクル②	青年期・成人・老年期
11	心理学的援助の方法①	適応とは？～障害の心理学的理解
12	心理学的援助の方法②	さまざまな心理検査とアセスメント
13	心理学的援助の方法③	さまざまな心理療法
14	心理学的援助の方法④	コミュニティ心理学的アプローチと危機介入
15	まとめ	学んだことの振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義の中からテーマを選択し、理解した内容をまとめ見解を述べることと、講義全体から学んだことを通して、どのように自分を心理学的に理解したかを述べることから理解度を評価する。
平常点評価	50 %	毎回、授業の終わりにアンケートを実施し、理解度と参加度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ、参加的な要素も取り入れたり、アンケートを実施したいと考えるので、能動的な参加と協力的な参加態度で臨んで下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

心理検査法（S）

12787

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	心理検査の種類と歴史	
	第2～5回　心理検査におけるデータ 標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓	
	第6回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法① 知能検査の開発と発展	
	第7回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法② ウェクスラー式知能検査	
	第8回　心理検査の実際Ⅱ－発達検査法① 新版K式発達検査法	
	第9回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法② 発達診断	
	第10回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③ 発達相談	
	第11回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法① 作業検査法	
	第12回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法② 質問紙法	
	第13回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③ 投影法	
	第14回　心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④ テストバッテリー	
	第１５回　まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理	
	オリエンテーション・心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓を持参すること
第6回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法①	

第12回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法②
第13回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④
第15回	まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門一正確な診断と評価のために一	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用する

参考書 / Reference Books

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間内のコミュニケーションペーパーを活用してください

その他 / Others

心理臨床論（S）

15423

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理の理解を通して，青年期の心の病の支援のあり方を考える。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に習得する。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	思春期の心の病理	抑圧・浜崎あゆみ・「いい子の病」
第2回	不登校・ひきこもりの心理療法1	学校恐怖症・初期対応・長期的支援のあり方
第3回	不登校・ひきこもりの心理療法2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
第4回	非行臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
第5回	非行臨床2	少年犯罪の推移・薬物への対応・本音の吐き出し
第6回	いじめの心理臨床1	スティグマ・四層構造・いじめ自殺
第7回	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
第8回	思春期の心の病理1：摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
第9回	思春期の心の病理2：青年期境界例	2人の自分・見捨てられ不安・尾崎豊
第10回	思春期の心の病理3：自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
第11回	思春期の心の病理4：強迫神経症	心身症・クライエントに寄り添うこと・自己開示
第12回	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
第13回	青年期の心の葛藤の支援	内観療法・親子関係・反省と吐き出し
第14回	犯罪臨床	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
第15回	子どもの心の受け止め方	ひきこもり・宮本亜門・支援者としてのあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もういちど親子になりたい	芹沢俊介／主婦の友社／ISBN978-4-07-257271-9／
少年をいかに罰するか	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／ISBN978-4-06-281143-9／
現代のエスプリ　ロールレタリング	松岡洋一・小林剛編集／至文堂／ISBN978-4-7843-5482-5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15412

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果つい、「コミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション技術を振り返ってみる機会はありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。

その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションに関しては、自覚することが少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションには「スキル（技術）」と「コンテンツ（内容）」の二つの課題が存在します。当然のことですが人は、コンテンツ（伝える内容）とプロセス構築力（伝達手段技術）の両者がうまく備わってはじめて、関係の場に自信を持って立てるのです。

この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。したがって教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。

対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進ということになります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート（記述・提出）	
2	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
3	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
4	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
5	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
6	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
7	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
8	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
9	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
10	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
11	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
12	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
13	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
14	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
15	前回のレポート振り返り（レクチュア）・最後の課題実習・	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。毎週フィードバックシートの提出を課します。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。近年の欠席は四，五，六回生に著しく偏っています。出席が無理なら、登録しないでください。

ここ2、3年、男子学生の登録と出席が増えています。開講初期、圧倒的に女子が多かったことを思うと、男子学生の健全化も感じます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／／／
家族の練習問題2	団士郎／／／
家族の練習問題3　父よ母よ	団士郎／／／
不登校の解法	団士郎／／／
家族力×相談力	団士郎／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

人間発達論 (S)

12927

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性，個体発生と系統発生
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，愛着
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
朝倉心理学講座3発達心理学	南徹弘(編)／朝倉書店／9784254526639／講義の一部で言及する

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神医学（S） § 精神医学I（S）

12753

担当者名 / Instructor　辻 正之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやｽﾄﾚｽ、精神疾患、精神医療など「精神医学」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
①4/12	授業の概要と導入（科目のｶﾞｲﾀﾞﾝｽ）	ｼﾗﾊﾞｽ、「こころ」の働き、ｽﾄﾚｽ、精神疾患、診断分類、ﾁｰﾑ医療
②4/19	精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
③4/26	精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
④5/10	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
⑤5/17	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
⑥5/24	神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
⑦5/31	ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
⑧6/7	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
⑨6/14	特別講師「講義」：崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
⑩6/19（土）	精神保健ｽﾀｯﾌに求められる技能 ご意見の交換	精神症状、効果的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、BPRS
⑪6/21	特別講師「講義」：大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
⑫6/28	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療ﾒｶﾆｽﾞﾑ、治療的変化、治療構造
⑬7/5	精神科薬物療法 「腕試しﾃｽﾄ」(7/19)の事前説明	向精神薬、ﾌﾟﾗｾﾎﾞ、作用要因、「転移」と「逆転移」
⑭7/12	「ｽﾄﾚｽｹｱ病棟」と職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	ｽﾄﾚｽｹｱ病棟、うつ病、ﾁｰﾑ医療
⑮7/19（海の日）	45分間の腕試しﾃｽﾄ+45分間の講義（事後説明・解説、科目のまとめ）	ｼﾗﾊﾞｽのﾚﾋﾞｭｰ、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

①ﾃﾚﾋﾞや新聞の精神医療・精神保健など「精神医学」に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います ②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なﾚﾎﾟｰﾄに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます→全評価中の65%に充当します ②第15回授業(7/19)で45分間の「腕試しﾃｽﾄ」を行ないます→全評価中の35%に充当します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態で受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

ﾃｷｽﾄは用いません。必要時に、ﾚｼﾞｭﾒなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 ／ 西日本新聞社／／特に第5,8,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎／日総研出版／／特に第3,4,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。

禅的森田療法	宇佐晋一／三聖病院 ／／森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「ｴｯｾｲ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業の理解にだけではなく、ご自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院　http://www.toumonkai.net/
不知火病院　http://shiranui-byoin.or.jp
日本精神神経学会　http://www.jpsn.or.jp
日本うつ病学会　http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/
日本統合失調症学会　http://square.umin.ac.jp/jssr05/index.html
日本不安障害学会　http://www.jpsad.jp/
日本精神分析的精神医学会　http://www.jaapp.jp
日本森田療法学会　http:www.jps-morita.jp/index.html
福岡BPRS評価ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ協会　http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

精神科リハビリテーション学（S）　§　精神リハビリテーション学II（S）

12887

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神障害という病気になった人が、自身の病気と向き合いながら社会生活において人間らしく生活していくことを援助するかが精神科リハビリテーションです。

精神科リハビリテーション学は精神保健医療福祉全般にかかわる領域であることから、病気の経過、機能回復の訓練、さらに、精神科リハビリテーションの経緯、多職種連携のなかで精神保健福祉士としてどう取り組むのかという視点を得ることを目的とします。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として障害者の視点に立って、精神科リハビリテーションにどう取り組むかの視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	障害者リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念、歴史、分野
3	障害者リハビリテーションの理念、意義と基本原則	ADLからQOLへ、ノーマライゼーション、国際機能分類
4	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、基本原則と技法
5	精神科リハビリテーションの構成①	精神科リハビリテーションの対象、専門職種との連携、
6	精神科リハビリテーションの構成②	精神保健福祉士の役割、精神科リハビリテーションの施設、関連領域
7	精神科リハビリテーションのプロセス	リハビリテーション計画、アプローチの方法
8	医療機関におけるリハビリテーション①	作業療法、レクルエーション療法、集団精神療法、行動療法、
9	医療機関におけるリハビリテーション②	認知行動療法と社会生活技能訓練、家族教育プログラム、
10	医療機関におけるリハビリテーション③	デイケア、ナイトケア、精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
11	医療機関におけるリハビリテーション④	地域移行支援
12	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーション
13	精神科リハビリテーションの総合化	地域リハビリテーション、職業リハビリテーション
14	精神保健福祉施策の展開	わが国の現状と課題、諸外国の現状と課題
15	総括講義　点検試験	精神科リハビリテーションの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「精神科リハビリテーション学」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-3153-3／2,700円（税別）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyou.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論（S） §　精神リハビリテーション学I（S）

12752

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション：精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態　援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①ー統合失調症圏を中心にー	精神障害　特性　認知の障害　統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②ー統合失調症圏を中心にー	生活の仕方の障害　対人関係の障害　働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③－神経症圏を中心にー	不安　自己尊厳　自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①―病院、診療所－	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②－地域支援機関－	保健所、危機、アウトリーチ　コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③－就労－	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動　エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーションー当事者へのアプローチー	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーションー家族のアプローチー	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源　ソフトな資源　当事者の役割　市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ　ピアスタッフ　ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま　当事者観　フレンドシップ
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する。 なお、授業終了時の点検試験は、評価の50%を占める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神科リハビリテーション学と共通

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆　寺田久子／医学書院／4-260-11883-8　C3047／
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし（S） § 精神保健福祉論II（S）

12777

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な知識といえる精神障害者の視点に立って人権とは何かとそれを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神保健福祉援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神保健福祉援助活動②	地域（保健所等）での相談援助
13	精神保健福祉援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティテイ
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyo.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神保健学（S） § 精神保健学I（S）

12737

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から、いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後12年連続で3万人を越えている中、自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因と言われている。

多くの現代人は常に様々なストレスを感じており、こころの健康を害しやすくなっている。

現代社会での生活とストレスは常に近くに接しており、ストレス社会と言われる所以でもある。

精神保健には、幼少期から老年期までの人生のライフサイクルにおいて、家庭、学校、地域、職場などの生活・環境の視点からの理解が必要不可欠であり、ただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について知識が必要となってくる。

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みについて学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルを通じての精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	精神保健の概要・意義と課題	WHO憲章、わが国の現状と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イタリア・オーストラリア・カナダの精神保健施策
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉養成講座　第2巻「精神保健学」	日本精神保健福祉士養成校協会　／中央法規 ／3152／定価2,835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyo.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神保健福祉コミュニティワーク（S） § 精神保健福祉援助技術各論II（S）

15440

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
2	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
3	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
4	関連専門援助技術について1	心理療法・面接技法
5	関連専門援助技術について2	家族療法・家族支援
6	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
7	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
8	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネーブリング、セツルメントとパターナリズム、ラジカル・ワーカー
9	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
10	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
11	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
12	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランタリズム、当事者参加促進策
13	実習	京都市内の施設見学
14	まとめ	
	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題（S） § 精神保健福祉論III（S）

15367

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、精神科ソーシャルワークに求められる障害者観や実践観につき講義するものである。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる精神科ソーシャルワーカーに求められる障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策　スティグマ　パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機　連携　包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW　実践の価値	パートナー　フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条　受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院　施設症　当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族　グループホーム　ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま　自治　自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援　ジョブコーチ　適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり　摂食障害　リストカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ　PTSD　災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件　医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV　遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症　ひきこもり
第15回	総括講義　点検試験	精神保健福祉の政策的課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。 講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めないが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために―介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かもがわ出版／4-7803-0047-9　／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論（S） § 精神保健福祉援助技術各論I（S）

12780

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術（ケースワーク、グループワーク）について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

・直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ケースワークとグループワークについて
2	ソーシャルワークの周辺理論①	交流分析
3	ソーシャルワークの周辺理論②	防衛機制
4	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
5	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
6	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
7	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
8	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
9	事例検討	ケアマネジメント計画
10	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
11	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
12	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
13	グループの発展段階と構造	発展の5段階
14	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉論（S）　§　精神保健福祉論I（S）

12878

担当者名 / Instructor　塩満 卓

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉論の原論としてとらえる。精神保健福祉論は、精神保健福祉士養成の指定科目の1つとして創設された科目である。しかし、本講義は、精神保健福祉士養成の基礎的な知識の教授を目的とせず、我が国の精神障害者をめぐる政策、実践、運動を捉える視座を獲得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神障害者福祉の政策背景を歴史的に探る力を獲得する
②精神科ソーシャルワークの原則を理解する力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害者福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者福祉の歩み-1	宗教治療　ゲールと岩倉村　私宅監置　精神病者監護法
2	精神障害者福祉の歩み-2	呉秀三　精神病院法と侵略戦争
3	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策－1	精神障害者とハンセン病者政策　ロボトミー
4	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策－2	精神病者建設拍車　民間精神科病院優位
5	ライシャワー事件と精神衛生法改正	ライシャワー　スティグマ　マスメディア　通報制度拡大
6	日本における精神病院スキャンダルへの国際的批判	宇都宮病院事件　ICJ,ICHPの合同調査
7	精神保健法の意義と役割	精神医療審査会　社会復帰施設
8	1991年国連原則とわが国の現状の乖離	日本国憲法　治療に参加する権利　地域で生きる権利
9	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援－1	権力の行使　福祉施設と排除　共同
10	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援－2	患者との向き合い　精神科病院解体　地域
11	なぜ、地域移行が困難かーわが国の精神保健福祉の課題ー	改革ビジョン　グランドデザイン　自立支援法
12	なぜ、病院施設内に住まいを建設するのかーわが国の精神保健福祉の課題ー	中間施設　排除と囲い込み　福祉ホームB　グループホーム　退院支援施設
13	なぜ、家族が保護義務を背負うのかーわが国の精神保健福祉の課題ー	家族　保護義務
14	地域で精神障害者が暮らす政策について	働く場　住む場　憩う場　医療　危機介入
15	まとめの授業　確認試験	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために 介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／978-4-87699-840-1（4-87699-840-X）／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
自由こそ治療だ	ジル シュミット、Sil Schmid、半田 文穂／社会評論社／4784501819／
精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本	大熊一夫／岩波書店／4000236857／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地域福祉論（S） § 地域福祉論（SG）

12921

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail：tsudome@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

地域保健論（S）

15361

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。
さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を修了した学生は、次のことができるよう期待されている。
1．地域（市町村）レベルでの保健康課題、対策の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2．社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3．医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて多面的に議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命などからみる健康状況と保健課題
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れと保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策；近年、住民の関心が高まり、行政においても重点が置かれている健康増進政策制度・サービスとその背景 ②地域主体へ移行する保健領域；高齢者保健、母子保健、精神保健のサービスと社会的背景
9回	地域保健と医療	医療の制度・サービスおよび保健領域との関係 （地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21など医療行政との関係を理解）
10回	地域保健と福祉	福祉制度・サービス及びそれらとの連携 （児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画などとの関係を理解）
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義・内容・課題
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明および地域保健の視点からみたSCの意義の検討
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →SCの組みの状況と保健面での成果に関する海外の事例（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるさまざまなSCの取り組みと成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）
15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ、対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／地域保健の概要の把握について
健康づくりと社会環境	松田亮三他 ／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会 ／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

特別支援教育論 (S)

12708

担当者名 / Instructor　朝野 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の学校教育では、従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症を含めた障害のある児童生徒に、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行っていく、特別支援教育の必要が国際的にも国内的にも高まってきている。個々の障害についての基本的知識の理解を促すとともに、発達段階、生活状況などにも配慮した一人ひとりの子どもたちの特別なニーズを把握して、学習や生活上の困難を改善又は克服するために必要な方法を検討していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・教職を志す者として障害についての最低限の知識と理解を目指す。
・特別支援教育の意義について、日本における障害児教育の歴史的変遷から現状と課題について理解する。
・特別支援教育、特に、障害種別によらない教育のあり方や発達障害について理解を深める。
・「ノーマライゼーション理念」の具現化に向けての今日的課題について考察する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

専門科目ー専門科目の中の障害児の教育、福祉、スポーツなどに関する講座。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	障害児教育をめぐる動向ー特別支援教育とは？	特別支援教育の理念と基本的な考え方、学校制度、福祉・医療・労働等に関わる様々な制度などの概括.「自分と障害児教育との関わり」についてレポート①
第2回	障害児教育の発展の歴史(1)(義務教育制以前:近世) 障害児教育の発展の歴史(2)(義務教育制以降:近代以降)	近代盲・聾教育の始まり、明治以降の障害児教育、知的障害教育・肢体不自由教育・病弱教育の始まり
第3回	障害児教育の発展の歴史(3)(第2次世界大戦以降)憲法、教育基本法、学校教育法の制定と障害児教育	学校教育法の制定と障害児教育、養護学校の義務制施行後の教育
第4回	障害児教育の発展の歴史(4)(養護学校義務制移行から特別支援教育へ)	養護学校、特殊学級の発展、軽度の障害のある児童生徒の教育の充実、国際障害者年と障害者対策に関する計画
第5回	障害児教育の制度(1)①就学指導 ②特別支援学校 ③特別支援学級	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、学校教育法施行令、就学制度
第6回	障害児教育の制度(2)①通級制度 ②特別支援コーディネーター	通級による指導、教育課程の編成と配慮事項
第7回	地域に根ざす特別支援教育(1)小学校・中学校における特別支援教育	学習指導要領と教育課程の編成および配慮事項、法令障害児教育の歴史および制度についてのまとめ[確認小テスト]
第8回	特別支援教育のあり方(2)ー特別支援学校における教育①	盲・聾・養護学校の学習指導要領の歴史、特別支援学校の教育の概要、障害種別への対応・視覚・聴覚・知的障害
第9回	特別支援教育のあり方(3)ー特別支援学校における教育②	特別支援学校の教育課程の特色、教育課程編成の特色、自立活動、障害種別への対応:肢体・病弱・重複障害
第10回	特別支援教育のあり方(4)ー特別支援学校における教育③	センター的機能とその役割、特別支援コーディネータの役割、専門機関との連携と協働、交流及び共同学習
第11回	特別支援教育のあり方(5)ー地域に根ざす特別支援教育:放課後や長期休暇での障害児者の生活、余暇活動、家族	障害のある子供の余暇活動、地域生活、家庭と家族、福祉施設、障害者自立支援法、障害児タイム・ケアー事業
第12回	特別支援教育のあり方(6)ー地域に根ざす特別支援教育:地域ネットワークと支援のあり方	コミュニティ・スクール、ボランティア活動、広域特別支援連携協議会、コミュニティにおける双方向の援助
第13回	国際的な特別支援教育の動向(1)特別なニーズ、サマランカ宣言	SEN、「万人のための教育」宣言の理念、ユニバーサル・デザイン、バリア・フリー社会、ノーマライゼーション
第14回	国際的な特別支援教育の動向(2)インクルーシブ教育、バリアフリー社会、慈悲から権利へパラダイム転換、	国際障害者年、障害者の権利条約、びわこミレニアム・フレームワーク、クラスター・オブ・スクール
第15回	今後の特別支援教育の展望、新しい学習指導要領に改善点、新しい福祉施策 「自分と特別支援教育との関わり」についてレポート②	まとめ・評価

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

京都市における特別支援教育に関する公開講座や行事への参加の勧誘を行い、見聞を広める(適宜案内を提示する)

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①自らと特別支援教育とのかかわりについてレポートを課す。授業で扱った内容を生かして論理的説得力をもって記述されているかを見る。 ②授業で扱った特別支援教育に関わる人権・教育制度・福祉施策・援助活動などついての理解度の確認を、自己採点式の小テストを適宜行う。 ③3回の欠席で成績評価は「F」となる。 出席が基本である。

・3回欠席すれば、成績評価は「F」(不可)とする。
・日常の授業への積極的態度を評価する。そのため出席を最重要視する。
・20分以上の遅刻を3回すると1回の欠席とみなす。ついては、特別支援教育についての課題レポートの　提出をもって回復を検討する。
・適宜コミュニケーションペーパーでもって講義についての感想を求め、疑問･質問に答える。
・授業中での飲食、机上への食べ物放置、携帯電話、私語など厳重に注意を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識的理解のみならず実践的、実証的態度を自ら養うためには、学外での特別支援教育に関する授業参観や講演会及び行事等を紹介するので、積極的に参加する意欲を持って欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
特別支援学校学習指導要領	文部科学省／海文堂出版／／
同解説書	文部科学省／海文堂出版／／

各講義毎に資料を配布するのでテキストとして使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達障害白書	日本発達障害福祉連盟／日本文化科学社／／
輝けきょうの子どもたち	京都市立総合支援学校長会／ミネルヴァ書房／／
特別支援教育の基礎知識	橋本創一他／明治図書／／

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所のWebサイトを検索して必要な情報を得て、確認をする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

文部科学省特別支援教育課
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

乳幼児心理学 (S)

15331

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、子どもを取り巻く社会の問題、保育や教育における課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	子ども観の変遷、「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、生涯発達心理学
第2回	第2回 胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	障害のある子どもの発達と保育(4)	
第14回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	定期試験により講義内容の理解度を問う
平常点評価	20 %	講義時間内に実施するミニレポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

発達障害論（S）

15338

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1－1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達、障害、発達障害、学習障害、言語障害、情緒障害、行動障害、自閉症、アスペルガー障害
第2回	1-2 発達障害とは（2）－歴史・現状－	障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義
第3回	1-3 発達障害とは（3）－系統発生と障害の成立－	人間進化、遺伝病、障害の成立、機能障害、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、障害と社会
第4回	2-1　発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	受精、卵体期、遺伝病、染色体異常、胎芽期、器官形成期、形成異常
第5回	2-2　発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天異常、流産と死産
第6回	2-3　発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期・新生児期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、重度重複障害
第7回	2-4　発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、脳性まひ
第8回	2-5　発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第9回	2-6　発達の「階層－段階」と発達障害（6）－脳性まひ－	ボイター法、乳幼児健診、大津方式、早期発見、早期対応
第10回	2-7　発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その1）：幼児期前半－	歩行、道具の操作、言語の獲得、遊びと模倣、自我の誕生
第11回	2-8　発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その2）：幼児期後半－	ケンケン、描画の発達、「心の理論」の獲得、自己と他者、自制心の形成
第12回	2-9　発達の「階層－段階」と発達障害（9）－自閉症（その1）－	自閉症スペクトラム、カナータイプ、アスペルガー症候群、フエノタイプ、3つ組みの障害、診断基準、二次障害
第13回	2-10　発達の「階層－段階」と発達障害（10）－自閉症（その2）－	早期発見、早期診断、共同注意、マインド・リーディング、障害の受容
第14回	2-11　発達の「階層－段階」と発達障害（11）－学童期－	具体的操作、保存、社会的自己、ギャング・エイジ、学力不振
第15回	3-10　発達の「階層－段階」と発達障害（12）－アスペルガー症候群－	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害をもつ当事者や家族の手記などを読んでみると理解がしやすい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／ISBN978-4250207259 ／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／ISBN978-4902244922 ／自閉症とその発達支援の基礎を学ぶ

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
障害医学への招待-特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識-	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド-自己権利擁護と「障害表明」のすすめ-	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／自閉症の発達障害支援の基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室は修学館340号です。
面談希望の場合には事前に連絡をください。
Tel＆Fax：　075-466-3069
E-mail:hozumi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

12886

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	人間のライフサイクルと発達保障の課題	
第4回	子どもと発達保障1　胎生期	
第5回	子どもと発達保障 2　乳幼児期	
第6回	子どもと発達保障3　児童期	
第7回	青年期(思春期を含む)と発達保障	
第8回	成人期･高齢期の発達保障	
第9回	現代社会と発達保障1	発達の危機をもたらしたもの(1)
第10回	現代社会と発達保障2	発達の危機をもたらしたもの(2)
第11回	現代社会と自立1	自立の時代と自立論の新展開
第12回	現代社会と自立2	自立＝自律
第13回	現代社会と自立	自己教育力
第14回	現代社会と自立	次代の担い手に求められるもの
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

適宜レポートの提出を求める

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は使用しない。
参考図書は授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉経営論（S）

15374

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢社会の進捗、格差社会の広がりのもとで現在と未来に安定を託した社会福祉拡充への期待は極めて大きいが、制度としては公的責任が薄らぎ契約制度への移行が進められている。その中にあって真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのためには、社会福祉とは何か、社会福祉事業とは誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚点を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、公的な責任のもとで真に国民に開かれた福祉事業の運営と経営のあり方を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命及び実際を理解する
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営、及び役割、使命を理解する
・福祉現場を支える福祉従事者を取り巻く環境と福祉労働の役割を理解する
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実際を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業の運営と経営　のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉法、社会保障論他各種の福祉法
なお、できれば福祉施設・事業所への見学等をしておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
第2回	福祉経営を学ぶ視点	社会の現状と国民の生活実態。権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
第3回	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
第4回	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
第5回	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、運営、定款準則
第6回	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
第7回	公的福祉サービスの運営と経営	措置制度と措置費の仕組み・特別養護老人ホームを中心に
第8回	障害施設の運営と経営	障害者福祉を巡る情勢と共同作業所等の運営と経営の実際
第9回	保育所の運営と経営	保育を巡る情勢と保育所の運営と経営の実際
第10回	介護保険制度のもとでの事業経営	介護保険制度の概要と仕組み
第11回	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営、経営の実際と特徴
第12回	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営、経営の実際と特徴
第13回	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与等の実態。福祉労働における専門性。
第14回	良質な福祉サービス提供のために	サービスマネージメント、危機管理、外部評価等
第15回	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンテイテイとこれからの姿を求めて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

できれば福祉にかかる事業所（福祉施設等）を見学しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率70%以下は及第しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしやハンデイキャップを理解し、共感することのできる自らの人間性が重要である。そして福祉に関する知識と共に対人援助事業をとおして行われる人間性豊かな援助実践の役割を理解することが大切である。人を理解し、自らの人間性を高めること、そして、人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが望まれる。それは、単に福祉ではなく「社会」を冠する社会福祉の意味と役割をしっかりと理解することに通じるものと思われる。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ・資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉辞典	同／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉サービスの組織と経営	社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosyo.html/#kaigohoken

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスなど連絡方法は、初回講義日に知らせます。

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15386

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、福祉計画の史的展開とその背景について学ぶとともに、「地域福祉計画」の概要、策定方法、他の計画との関係、評価、財政などについて学ぶ。国による社会福祉に関わる改革の内容と意義を踏まえたうえで、21世紀の社会福祉を推進する上で焦点が当てられている地域（都道府県、市町村など）による福祉計画の可能性について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）福祉計画に関わる基本的な歴史、制度についての理解
（2）地域福祉計画の基本的な概念についての理解
（3）地域福祉計画の意義と重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉計画論ではなにを学ぶのか	講義の導入、福祉計画を考える視点
2-3	福祉計画の史的展開と社会背景（1）	福祉六法、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、エンゼルプラン、ノーマライゼーション、少子高齢化社会
4-5	福祉計画の史的展開と社会背景（2）	社会福祉基礎構造改革、措置から契約（利用制度）へ、地域福祉の推進
5	地域福祉計画の理念と内容	総合化、住民参加、市町村、都道府県
6-7	地域福祉計画と関連計画	地域総合計画、社会計画
8	地域福祉における必要（ニーズ）と資源	在宅福祉、ニーズの判定と問題
9	地域福祉計画の策定プロセス	課題、理念、目的、課題の解決、実践
10	課題の発見と目標の設定	地域診断、必要（ニーズ）把握の技法、参加型調査
11	住民参加の技法	住民参加による検討、必要の把握、福祉学習、コミュニティ・ミーティング
12	地域福祉計画における評価	評価方法、評価の実際
13-14	地域福祉計画と財政	計画行政、予算、財源、民間財源、自治体財政
15	地域による社会福祉計画の可能性	地方分権、住民参加、当事者参加、ガバナンス

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞・雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、福祉に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	到達目標に照らして評価する
平常点評価	30 %	授業中に適宜、理解度を確認するための小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域福祉計画	武川正吾編／有斐閣／／

テキストに沿って授業を進めるので、必ず購入の上授業に持参すること。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜、提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にアポイントをとることが望ましい。

その他 / Others

福祉行財政論（S）

12928

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、経済社会の変化が進むなかでの、社会保障･社会福祉に関する行政･財政政策の現状と問題について学ぶ。社会保障･社会福祉をめぐる問題を考えるためには、その理念、歴史、制度の仕組み、財政構造を理解することが大切である。その上で、これらの制度が抱える問題やその経済的･社会的背景や地域性にも目を向け、高まる福祉需要への対応について理解を深めたい。日本は、21世紀にどのような福祉システムに再編･調整しようとしているのか、諸外国にも目を向けながら展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)私たちの生活のなかでの社会保障･社会福祉に関わる問題の現状を知る
(2)社会保障･社会福祉に関わる政策･制度と行財政への理解を深める
(3)社会保障･社会福祉に関わる政策と経済的･社会的背景との関連性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉行財政論ではなにを学ぶのか	講義の導入、社会保障、社会福祉、公的扶助、福祉サービス、少子高齢化社会
2	社会保障･社会福祉の歴史的変遷～政策理念と福祉国家の変容	国民皆保険、福祉六法、福祉元年、新自由主義
3	社会保障･社会福祉財政の展開～国際比較の観点から	社会保障財源、社会保障給付費、ヨーロッパ、アメリカ
4	医療の福祉：医療制度をめぐる問題と医療保険財政	医療費増加、財政赤字
5	医療の福祉：医療保険制度改革と「皆保険」	国民健康保険と職域保険、給付と負担の見直し、医療費の適正化、無保険問題
6	年金の福祉：年金制度をめぐる問題と年金保険財政	国民年金、厚生年金、国と地方
7	年金の福祉：年金制度改革と老後の所得保障	給付と負担のバランス、国庫負担、積立金
8	高齢者の福祉：介護に関する行財政の歴史と介護保険制度	措置制度、社会保険、要介護認定
9	高齢者の福祉：介護保険の財政構造と地域間再分配	給付、保険料、公費、介護報酬
10	子どもの福祉：少子化の現状とその背景	合計特殊出生率、出産･育児の費用負担、核家族化、晩婚化
11	子どもの福祉：子育て支援政策とその財源	サービス給付、経済的支援、仕事との両立支援
12	子どもの福祉：保育所サービスと地域性	認可･無認可保育所、待機児童
13	最後のセーフティネット：生活保護の現状と財政	国と地方、地域格差、最低生活費
14	最後のセーフティネット：生活保護行政と「自立支援」	就労支援、「無保険者」
15	21世紀の日本の福祉行財政の展望	講義のまとめ、少子高齢化社会、格差社会、グローバル化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞･雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、社会保障･社会福祉政策に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	到達目標に照らして評価する。
平常点評価	20 %	8回目の授業中に、理解度の確認のため小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは必ず購入し、授業時に持参すること。
授業中に適宜配布する資料を見直し、整理･保存すること。
日ごろから新聞に目を通すこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家と地域と高齢化	渋谷博史･桜井潤･塚谷文武／学文社／／2009年12月刊行

基本的に、上記の本をテキストとして用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化と福祉国家と地域	渋谷博史・樋口均・櫻井潤編／学文社／／2010年4月刊行
社会保障と地域	渋谷博史・根岸毅宏・木下武徳／学文社／／2008年4月刊行

基本テキストと合わせて、参考書に挙げた文献の内容も一部講義で扱う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にメールで確認することが望ましい。

その他 / Others

福祉産業論（S）

12741

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向　生活関連産業
3-4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5-6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7-9	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康増進ビジネス フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10-11	福祉産業の市場 介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ 介護機器 高齢者住宅 有料老人ホーム
12-13	福祉産業の市場	介護保険関係サービス事業 （訪問介護、通所介護、施設介護など）
14	中国の高齢化と高齢者福祉と医療	社区福祉
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容の質問やコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	川村正匡／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15469

担当者名 / Instructor　小林 勇人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会学の一分野に位置し、労働との関連に着目しながら、福祉（社会保障）の制度・政策と実態について学ぶものです。近年、雇用や家族が不安定化し、失業・貧困問題が深刻化するなか、就労困難な層にとって福祉の持つ重要性が増しています。他方で、若年者やシングル・マザーなど就労可能な層が福祉を利用することは「依存」とみなされ、就労を通した「自立」が求められる傾向にあります。私たちの生活にとってどのような労働と福祉のあり方が望ましいのでしょうか？　前半の講義では、具体的な事例を交えながら、私たちの生活がどのように労働と福祉によって成り立っているのか基本的な仕組みについて理解し、後半の講義では、日本と他国を比較しながら、今後の福祉社会について展望します。

到達目標 / Attainment Objectives

① 労働（雇用）と福祉（社会保障）の関連性を理解する。
② 制度利用者の立場にたって政策を考える力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション	授業の概要紹介、成績評価方法の説明
第2回目	労働市場と雇用	失業問題、消費社会、非正規雇用、労働の分割
第3回目	雇用保障	日本型雇用システム、家族賃金
第4回目	労働と福祉（1）	身体障害者の自立生活、介助サービス
第5回目	労働と福祉（2）	高齢者の生活、介護労働
第6回目	労働と福祉（3）	ワーキング・プア、雇用保険、労災保険
第7回目	労働と福祉（4）	シングル・マザー、生活保護の母子加算、児童手当
第8回目	雇用と社会保障	能力主義、私的所有、分配、中間まとめ
第9回目	福祉国家について（1）	福祉国家論、リスク管理と福祉レジーム
第10回目	福祉国家について（2）	再編期の福祉国家、脱工業社会、女性雇用の変化
第11回目	ワークシェアリング	ワーク・ライフ・バランス
第12回目	アクティベーション	積極的労働市場政策
第13回目	ワークフェア	アメリカの福祉改革
第14回目	ベーシック・インカム	基本的な考え方と種類、福祉権運動
第15回目	福祉社会の展望（総まとめ）	雇用と社会保障の連携、生活保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・新聞記事やテレビ報道ならびにドキュメンタリー映画などから得られる社会的ニュースについて、講義で導入した概念をもとに考えてみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的な語句や概念を理解するとともに、それらを用いて論理的に考えることができるかどうかを試します。
平常点評価	20 %	コミュニケーション・カードを用いて授業への質問・意見・感想などを書いてもらうことで、講義への積極的な参加を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・私語ならびに携帯電話の使用を禁止し、厳しく注意します。また成績評価方法の詳細については、初回の講義で連絡するので必ず出席するようにしてください。

教科書 / Textbooks

・特に指定しません。資料を配布しながら授業を進めます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉社会――社会政策とその考え方』	武川正吾／有斐閣アルマ／4641121192／
『生活保障――排除しない社会へ』	宮本太郎／岩波書店／4004312167／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

・講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉住環境論（S）

12747

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩 ／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

福祉情報論（S）

12743

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第02回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第03回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第04回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第05回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第06回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第07回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第08回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第09回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

15325

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉の対象や福祉サービスに関する総論（理念）部分と福祉の対象毎のサービスに関する各論部分とに区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会福祉の対象の捉え方やサービス提供方法に関する総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法

(2) 社会福祉制度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉、③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は福祉サービスを利用する当事者にとって不可欠な福祉サービスの在り方はどのようなものか、それを実現するための制度構築、および、現在の日本の社会福祉制度における課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1)福祉サービスを必要とする人に対する固定的な見方から脱却し、多角的に福祉サービス対象を捉えることを可能とする視野・視点を養う。

(2)社会福祉サービスを必要とする当事者の視点から、当事者の必要に即した「人間らしい」福祉とは何かについて考える力を養う。

(3) 日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	社会福祉の成立過程―イギリスと日本の社会福祉制度の成立史―	救貧法、恤救規則、救護法、生活保護法、産業革命、少子高齢化
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	ろう文化、障害者スポーツ
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	グループホーム、在宅サービス、通所施設
8	社脱施設化と自律生活	パーソナルアシスタンス、自立生活運動
9	社会福祉の施設と脱施設化	里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
10	社会福祉サービスの制度枠組みと社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
11	脱施設化と障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
12	脱施設化と高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
13	経済的困窮者の排除と包摂	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
14	代の貧困と公的扶助（生活保護）制度とその課題	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護、生活保護適正化、老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	基礎的な生活保障とベーシック・インカム	ベーシック・インカムの根拠、ベーシック・インカムと所得保障、ベーシック・インカムの今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望まし

い。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。
ベーシック・インカム日本ネットワーク準備委員会・http://basicincome.gr.jp/。日本におけるベーシック・インカムに関する運動や研究について知ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉発達史（S）

15328

担当者名 / Instructor　福住 節子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の世界的不況の中、社会福祉の課題はその重要性と緊急性を増している。日本においては、「派遣切りから路上生活」を余儀なくされる人々が増加し、「労働者派遣法」の改正の問題点が指摘されている。このように、過去の出来事がそれ以降の状況へとさまざまな影響を及ぼしていることは、「歴史とは、現在と過去との対話である」（E・H・カー『歴史とは何か』）という言葉の重さを再認識させる。

本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉制度を出発点として、世界と日本の社会福祉の歴史的展開を概観しながら、その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、また人々の状況はどのようであったか等を知る中で、なぜ、社会福祉がこれほど重大な課題となってきているのか・・・を考え、社会福祉の変遷が、現在に示していること、そして未来に伝えてゆくことは何なのかを考え合ってゆきたい。また、その学びの中で、人々が社会的に生きてゆく上での、社会福祉・社会保障の必要性・重要性を確認し、その発達における歴史的認識を通して、今日的課題をみなさんと共に考え合ってゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇社会福祉の歴史的展開を学ぶ中で、それらを「歴史的事実」としてのみ捉えるのではなく、その変遷の意　味することや、今後の社会福祉の発展に何が必要かという課題についても考えることができる。
〇社会福祉発達の歴史に、多面的な興味関心を持ち、受講者間の意見交流にも積極的姿勢で臨む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション：社会福祉の歴史を学ぶ意義・社会福祉の概念	
2	ヨーロッパにおける前近代（古代～中世）の貧困の救済	
3	絶対王政下での救貧政策（イギリス救貧法の形成過程）	
4	市民革命期の貧困救済のあり方	
5	産業革命期の貧困救済のあり方（新救貧法の形成過程・目的・評価）	
6	社会事業の組織的展開①（慈善組織協会・セツルメント）	
7	社会事業の組織的展開②（社会保障の諸課題ー教育・福祉・医療）	
8	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」と社会福祉	
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	
10	スウェーデンにおける「福祉国家」の建設と発展	
11	日本における社会福祉の発展過程ー戦前①（明治期の福祉政策）	
12	日本における社会福祉の発展過程ー戦前②（民間慈善事業と感化救済事業）	
13	日本における社会福祉の発展過程ー戦後①（戦後改革期）	
14	日本における社会福祉の発展過程ー戦後②（「高度経済成長」と「社会福祉」）	
15	まとめ　と　テスト（またはレポート）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回、提出を求めるミニ・レポート（質問や要望　など、担当者とのコミュニケーション、あるいは、受講者間の意見交流の役割ともなる）。 ②個人の「研究テーマ」レポート（A42枚程度） ③最終講義テスト（学習到達確認テスト）

上記①～③を中心として、総合的に評価する。

〇受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションや、グループ討論等も取り入れ、それらへ　の積極的姿勢も併せて評価したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇文献やTVのドキュメンタリーなどでも、福祉発達史を学ぶ上で参考になるものなどを活用されたい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、随時、レジュメ・資料等を配布する。

参考書 / Reference Books

授業にて、適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

〇初回授業で、連絡する。

その他 / Others

福祉臨床論（S）

15375

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	精神障害と自立①	精神障害　症状　障害
第13回	精神障害と自立②	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉労働論（S）

12739

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

医療や教育とならんで社会福祉の仕事は人を対象として基本的な人権の保障の一貫としての性格を担っている遂行される労働です。この講義では社会福祉分野で職業として行われている社会福祉労働の基本的で共通の特徴や理念・必要とされる資質、そして福祉労働者の労働条件や労働環境の歴史と現状や将来について考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉労働に共通の基本的な性格と福祉労働者の労働条件や労働環境の現状と課題についての理解を深めることを目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉概論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉労働論へのオリエンテーション	蟻の目と鳥の目
2	共同社会の中での福祉的営みの普遍性	ボノボ、共同
3	共同社会の基本条件：モノの生産と生命の維持再生産	モノの生産、生命の維持再生産、協働、コミュニケーション
4	福祉労働の三つの合理性	科学的・技術的合理性、規範的合理性、コミュニケーション的合理性
5、6	生活問題と発達課題をとらえる科学的・技術的合理性	生活問題、発達課題
7、8	福祉労働の規範的合理性	身体拘束と安全、生存権、発達権、手続き的権利、アクセス権
9、10	福祉労働におけるコミュニケーション的合理性	理解、社会学における社会的行為論
11、12	ビデオ教材を使って社会的行為の類型分析を試みる	社会的行為の5類型
13	福祉労働者の労働条件と労働環境	措置制度、常勤換算、福祉職俸給表
14	社会福祉事業の経営体に働く四つの力と福祉労働（者）の位置	社会福祉法人、NPO法人、福祉運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回講義で小さな考えるテーマを出します。また、テーマに関連するビデオを多く見ることにします。それについて友人や家族と議論をしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義全体の理解を問う試験問題を出し、理解度により採点します。
平常点評価	30 %	毎回の講義での小テーマに対する取り組み姿勢から判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

頭を使い、事実に基づいて、理論的に考える訓練をします。できるだけ欠席はしないように心がけてください。そうすれば、講義の終わりに多面的に考える力がついている自分に気づくことになるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間の際か、メールで連絡してください。isikura@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15464

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。

本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学。社会学の基本的な科目を履修していると、講義内容に対する理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
2	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
3	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
4	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
5	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
6	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
7	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
8	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
9	ケアと回復（1）	問題の社会化、careとcure、相互作用性
10	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
11	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
12	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
13	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
14	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
15	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。

毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。次回講義開始時に回答をする。これは講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価に反映されるものではない。

随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいく予定をしている。講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

臨床精神医学（S）　§　精神医学II（S）

15427

担当者名 / Instructor　近藤 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神医学の臨床は「援助を求める人」と「援助を提供する人」とそれらを取り巻く人・環境から成り立っている。このため援助を提供する人は、この三つの要素とそれらの関係に注意を向け、理解しようとする姿勢が求められる。実際には、援助を求める主体の状態を客体として把握しつつ主観的な体験を汲み、援助の受け手と提供者の関係がどのような状態にあるかモニターし、環境と主体との関係を把握した上で主体および環境に働きかける、といった作業を行うのである。講義では臨床の実際も提示しつつ、精神医学の基礎知識を概説し、臨床精神医学に必要な思考の枠組みが理解できるよう試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神状態のアセスメントに必要な知識と視点を理解する
②精神療法や薬物療法など精神医学的援助の概略を理解する
③主要な精神疾患の概略について理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神医学の特徴と精神医療の歴史	
第2回	精神機能と主要兆候のとらえ方	意識　認知　気分　思考　知覚　不安
第3回	精神医学における疾患分類と診断	記述精神医学　操作的診断基準　面接
第4回	脳および神経の解剖と生理	中枢神経系　自律神経　神経伝達物質　認知　情動　記憶
第5回	第一回小テスト　治療法（1）	薬物療法　精神療法　環境調整　リハビリテーション
第6回	治療法（2）	精神分析的精神療法
第7回	治療法（3）	認知行動療法　家族への援助
第8回	症状性を含む器質性精神障害	
第9回	統合失調症とその近縁疾患	
第10回	第二回小テスト　ストレスとその反応・職場における精神保健	
第11回	気分障害	
第12回	アルコール依存症・老年期の精神障害	
第13回	パーソナリティ障害・発達障害	
第14回	強迫性障害・摂食障害	
第15回	第三回小テスト　不安障害・解離性障害	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小テスト60%：講義内容の理解度を確認するために、第5回、第10回、第15回の講義の中で小テストを実施します。 小レポート40%：いくつかのテーマを提示しますので、その中から一つテーマを選んで小レポートを作成してもらいます。字数や提出期限等、詳細については講義の中で説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TEXT精神医学	加藤進昌　神庭重信　編／南山堂／978-4-525-38003-8／
精神症状の把握と理解	原田憲一／中山書店／978-4-521-73076-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15351

担当者名 / Instructor　西村 清忠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義においては、団塊の世代が2015年に65歳に到達するわが国の高齢者への政策課題や、高齢者自身が抱えている身心・経済・貧困・地域・家族・自らの生活問題などに対して、歴史的な視点の把握と、近未来の解決すべき課題に対して果たさなければならない課題、他の福祉分野の問題解決手法を含め、現場実態に即し、あわせて2000年導入された介護保険制度の問題点や、2005年に改正された新しい介護保険制度について基本的な現状問題について把握し、これからの学習課題を修得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史的に構築されてきたわが国の老人問題について把握し、戦後の社会経済の高度成長に始まった向都離村現象による地域間格差や、急速に高齢化したなかで家族構成の変化や、年金・医療・介護・地域などの福祉問題ついて高齢者の抱えている問題が、世代を超えた大きな政治的な課題であると同時に、みなさん自身の問題であることを把握し、政策的・実践的解決を急がなければならない問題であり、特に介護問題は喫緊の問題であることを認識することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論・障害者福祉論・公的扶助論・地域福祉論・介護概論・医学一般・心理学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション 高齢者福祉の考え方	高齢者福祉の考え方 社会的理解・身体的理解・精神的理解など高齢者の生活ニーズについて
2	少子高齢社会と高齢者	急速な高齢化がもたらした、わが国の高齢者を取巻く諸問題について
3	高齢者保健福祉の発展と法体系	歴史的な視点から、わが国の高齢者福祉の発展について
4	高齢者支援の関係法規	老人福祉法成立の経緯・高齢者の医療に関する法律・高齢者虐待防止法・ユニバーサルデザインや、居住・権利擁護・社会参加と生涯学習など
5	介護保険制度の基本的枠組	介護保険制度の全体像・目的と理念・保険財政・保険者と被保険者・最近の動向について
6	介護保険制度の仕組	要介護認定の仕組とプロセス・保険給付・介護報酬・地域支援事業・介護保険事業計画・サービスの質を確保する仕組
7	介護保険サービスの体系	介護支援専門員・居宅サービス・施設サービス・介護予防サービス・地域密着サービスなど
8	高齢者を支援する組織と役割	行政機関の役割・指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割・地域包括支援センターの組織体系と役割・社会福祉協議会・ボランティア団体・NPOまど
9	高齢者の支援の方法と実際	高齢者支援の方法・介護保険法における連携と実際
10	高齢者を支援する専門職の役割と実際	専門職の役割と実際・専門職による協働（多職種連携）・専門職の倫理
11	介護の概念や対象	介護の概念と範囲・介護の理念・利用者の理解
12	介護過程	介護過程の概要・介護過程の展開技法・介護予防
13	介護各論①	自立に向けた介護・家事における自立支援・QOL・食事、口腔衛生の介護・入浴、清潔、排泄
14	介護各論②	認知症ケア・終末ケア・住環境
15	近未来の高齢者福祉の課題	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉に関する問題を論述形式で2問だす。 高齢者問題に対する講義の中からの理解力と、答案の論理構成を文章表現力を含めて評価する。

平常点評価	30 %	中間でテスト・レポート提出を求める。予告をしないので注意して下さい。レポート用紙は、当日講義終了時に、コミュニケーション・ペーパーと引き換えに手交する。次週講義終了時に提出を求めるが事後提出は認めない。（公欠・病欠は事後に用紙交付のうえ認める） コミュニケーション・ペーパーによる出席確認を行うが、日常点として評価するので、無記載や感想などの記載の無いものは、出席として認めないことがあるので注意すること。

講義中の「私語」は他の受講者の「学習権侵害」として厳しく対応する。注意しても止めない場合は、学籍番号確認のうえ退出を命じることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉士国家試験受験のための必須科目であるので、適時、過去問題の出題箇所などについてふれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座　13	／中法法規出版／／社会福祉士受験受講者は必須

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉小六法	／ミネルヴァ／／
よくわかる高齢者福祉	／ミネルヴァ／／用語の詳しい解説やデーター
ケアその思想と実践①～⑥	／岩波書店／／専門職として講読をすすめる
社会福祉用語辞典	／ミネルヴァ／／専門用語が多いので1回生は手元に

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

12723

担当者名 / Instructor　北村 健太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは生まれ、病み、老いて、いずれは死んでゆく。〈いま・ここ〉で生きている私たちの〈生〉は〈老い衰えてゆく〉過程とも言える。本講義では、〈老い〉という視点から現代社会に立ち現われる様々な論点（雇用、ジェンダー、社会保障、ケアワーク、社会参加等）について、深く考えることを目指す。各講の内容は、連続ないし循環しているので、つながりを意識して受講すること。ときには、一般的に「問題」と言われている現象について、「どのように問題なのか」と根本的に問い返す姿勢で受講してもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〈老い〉を切り口として、社会学的視点から（日本を中心に）現代社会に対する認識を深め、受講者が各々の考察を論述できるようになること。また、様々な社会現象や各種論点に対して、根本的に問い返す姿勢が身につくとより望ましい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の視点と概要	
2	〈老い〉を想像する（1）	
3	〈老い〉を想像する（2）	
4	〈老い〉をめぐる歴史（1）	
5	〈老い〉をめぐる歴史（2）	
6	〈老い〉をめぐる歴史（3）	
7	〈老い〉と身体（1）	
8	〈老い〉と身体（2）	
9	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（1）	
10	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（2）	
11	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（3）	
12	〈老い〉と社会保障（1）	
13	〈老い〉と社会保障（2）	
14	〈老い〉と政治	
15	〈老い〉と残された問い	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、〈老い〉に関わることに関心を向けること。また新聞・雑誌等の〈老い〉に関する記事を読む際は、生活の場で何が起きているか、そこに影響している人間同士の力関係や社会制度の仕掛けを考えながら読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	〈老い〉に関わることの理解および授業参加を評価する。
平常点評価	40 %	出席、講義中に課すミニレポートなど。

定期試験は講義で取り上げた内容から出題するので、各回の講義をよく把握すること。不明な点があれば、放っておかずに、必ず担当者に質問すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〈老い〉を想像し、〈老い〉に関する様々なことを自らに引きつけて考えてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『老いと社会――制度・臨床への老年学的アプローチ』	冷水豊編／有斐閣／／入門書。社会学的視点は少なめ。
『アクティブ・エイジングの社会学――高齢者・仕事・ネットワーク』	前田信彦／ミネルヴァ書房／／雇用、ライフコース等。
『老いへのまなざし――日本近代は何を見失ったか』	天野正子／平凡社ライブラリー／／ジェンダー、マイノリティ等。
『〈老い衰えゆくこと〉の社会学〔普及版〕』	天田城介／多賀出版／／相互作用論、意味の生成等。

2000年代以降の出版で、総合的かつコンパクトな社会学的視点からの〈老い〉に関するテキストは少ないので、各自の関心に合わせて参考にすること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

livingroom
http://www.livingroom.ne.jp/
担当者のウェブサイト。講義用のファイルを作成する予定なので、適宜参考にすること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義内で伝える。

その他 / Others

社会福祉調査論（S）　§　福祉調査・統計論（S）

12933

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉調査は、潜在的な生活問題、生活実態を把握することから具体的な支援内容を検討し、さらに社会福祉課題、政策課題を明らかにする意味を持つ。

本講では社会福祉調査に関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①社会福祉（社会問題）にとっての社会調査の系譜および意義の整理・検討、②社会福祉の構造的把握から見た生活実態把握の重要性の検討、③社会調査実施に向けた手続きや具体的な方法の習得、である。これらを検討・習得する上で、様々な社会福祉調査の実際例をあげながら解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉（社会問題）にとっての社会調査の系譜および意義を理解すること
2. 社会福祉の構造的把握から見た生活実態把握の重要性を理解すること
3. 社会調査実施に向けた手続きや具体的な方法を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論など調査・統計関連科目、地域福祉論、コミュニティケア論、国際福祉社会論（それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい）。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　―講義を始めるにあたって― 1. 社会福祉調査とは　（1）生活実態把握の意味	三元構造論
第2回	2. 社会福祉調査とは　（2）概念と系譜の整理	イギリス、日本
第3回	3. 社会福祉調査とは　（3）調査の方法	量的調査、質的調査
第4回	4. 調査の実際と特徴　（1）量的調査の実際①	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第5回	5. 調査の実際と特徴　（2）量的調査の実際②	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第6回	6. 調査の実際と特徴　（3）量的調査の実際③	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第7回	7. 調査の実際と特徴　（4）質的調査の実際①	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第8回	8. 調査の実際と特徴　（5）質的調査の実際②	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第9回	9. 調査の実際と特徴　（6）質的調査の実際③	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第10回	10. 調査の設計、手順と方法　（1）仮説と検証	調査票、サンプリング、調査の倫理
第11回	11. 調査の設計、手順と方法　（2）資料収集と分析	事前調査、文献検索、資料（図書）収集
第12回	12. 調査の設計、手順と方法　（3）量的調査	信頼性と妥当性、調査票作成、データの整理
第13回	13. 調査の設計、手順と技術　（4）質的調査	面接法、観察法、フィールドワーク
第14回	14. 地域福祉計画と調査　（1）自治体の事例的検討	社会福祉法、地域福祉計画、住民参加と住民自治
第15回	15. 地域福祉計画と調査　（2）あらためて調査の意味を考える、まとめにかえて	調査の意義と福祉の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・資料に触れ、自学自習にも努めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生が居住する地域社会の生活問題と福祉調査に対して、日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。

講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『障害のある子ども・家族とコミュニティケア』	黒田学、渡邉武編／クリエイツかもがわ／／
『ベトナムの障害者と発達保障』	黒田学／文理閣／／

その他、講義中に適宜指示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体（地域福祉計画等の資料）および厚生労働省のホームページ（http://www.mhlw.go.jp/）。その他、講義中に適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる。

その他 / Others

コミュニケーション理論（S）

12735

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向についてメディアの歴史的展開や、近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～15回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解し、説明できる。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	対人コミュニケーション 自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味-1	記号論 ソシュール
第7回	コミュニケーションの記号と意味-2	ロラン・バルト デノテーション・コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	パノプティコン 規律訓練
第10回	メディアとコミュニケーション	コンピュータに媒介されたコミュニケーション（CMC） No Sense of Place
第11回	コミュニケーションと「場所」	No sense of place　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと近代化	ポスト慣習社会　規範　個人化
第14回	見知らぬ人とのコミュニケーション	都市　コーヒーハウス　セネット
第15回	コミュニケーションと公共空間	ハーバーマス　公共圏　コーヒーハウス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・レジメを見直して自分なりに理解する
・授業で提示された参考文献から興味あるものについて読む

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内では十分に理解できなかったり、疑問に思った概念や語句などについては、社会学辞典などで自分で調べてみることで、より講義内容に対する理解が深まることと思います。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ　／誠信書房 ／4414302692 ／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン　／誠信書房 ／4414302854 ／

記号の知/メディアの知:日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会 ／4130100947 ／	
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ　／新曜社／4788508699／	
人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?	池田知加　／光文社新書 ／4334032968 ／	

参考文献については授業で適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーション・ペーパー、メール

その他 / Others

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

ボランティア入門 (S)

15438

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティア活動、NPO活動に関連したコンセプト(概念)をわかりやすく解説しながら、こうした活動がいかにこれからの国際交流や国際協働において重要であるかについてさまざまな実践的事例を紹介しながら、学としての「ボランティア論」の再構築をめざしたい。NPO学会やボランティア学会の研究成果をまじえながら、実践科学としてのボランティア活動の現状と課題について考察を深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さなざまなボランティ活動にまつわる主要コンセプトを理解することが本講座の主要な目標であるが、机の勉強だけでなく、じっさいにさまざまなボランティ活動に関わることによって、経験したなかから、ボランティアとは何かを考えることが大切である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

できるだけ、社会学的なものの見方や考え方をしっかりおさえておくこと。それによって講義が非常にわかりやすくなる。また普段から新聞記事をおおく読みこなし、ボランティア活動に関する情報収集も行っておくことによって、幅広いボランティア論が展開できる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義のすすめかた、目標等について	オリエンテーション
2	ボランティアとはそもそも何ぞや！	ボランティア、市民、市民活動、市民社会、NPO, NGO
3	ボランティア・市民活動の歴史	社会福祉、環境、国際、人権、青少年
4	ボランティア活動・市民活動の鍵概念	共生、自治・分権・参加、持続可能性(サスティナビリティ)、協働、多元主義と補完性の原則、ボアンティアリ
5	市民活動の法制度	公益法人制度、NPO支援税制
6	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その1)	エンパワメント、市民参加・参画、ボランティアグループの運営
7	ボランティア活動の経営と運営、個人支援・運動展開・組織運営の方法(その2)	NPOの組織経営、ボランティアマネージメント、コミュニティ・ディベロップメント
8	ボランティア・NPOの支援システム(その1)	インターミディアリー、ボランティアコーディネーター、助成財団
9	ボランティア・NPOの支援システム(その2	市民活動の評価、企業の社会的貢献活動、行政の市民活動振興政策、情報支援
10	ボランティア・NPOの担い手	児童・生徒、青年・学生、高齢者、女性、勤労者、セルフヘルプ
11	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その1)	社会福祉、医療・保健、環境
12	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティア・NPOの領域(その2)	国際、人権、まちづくり
13	ボランティア活動の分野、対象、領域ーボランティ・NPOの領域(その3)	教育、文化、スポーツ・レクリエーション、災害
14	諸外国の状況について	諸外国の状況
15	まとめとA＋希望学生のプレゼンテーション	総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義だけでなく、実際にさまざまなボランティア活動にかかわり、積極的にリサーチしたことがらなどをレポートにしてほしい。実際に体をうごかしながら、ボランティア活動とはなにかを学ぶ姿勢をのぞみたい。
必ず一度はボランティアセンター(サービスラーニングセンター)に足を運ぶこと。そこで得た情報をレポートに反映すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内試験(40%)、出席・その他提出物(60%)

A＋希望者は事前に最後の講義時にプレゼンテーションを行うことを申し出ておくこと(受講生のの5%)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

毎回しっかりノートをとること、できるだけ新聞等にも目を通すこと。そしてボランティアセンターにできるだけ足をはこんで、情報を手に入れ、自分にそくしたボランティア活動をしてほしいし、また講師がすすめる講座等にも積極的に参加し報告(レポート)した学生は、評価の際の加点対象となる。

教科書 / Textbooks

テキストは講義中に紹介する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ボランティアNPO用語事典	大阪ボランティア協会／中央法規／4-8058-2427-1／
ボランティア教育の新地平	桜井政成、津止正敏／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義中に知らせる。

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12217

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12218

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学 (SC)

12219

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12220

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12221

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

経済学理論（S）

12770

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在の福祉国家において、現実の経済は新古典派経済学が想定しているように市場でだけ決まっているわけではない。市場経済とならんで国家などがおこなう経済政策（財政・社会保障・金融などの諸政策）の影響も大きい。1980年代以降の日本の「小さな政府」（実は小さすぎる政府）路線は、経済成長を叫びながら実際には経済格差を増大させたにすぎない。今年度は福祉国家の経済学というテーマで講義してみる。対象国は日本だが、対比すべき参照国は北欧諸国（特にスウェーデン）とアメリカである。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済面・社会面に興味がもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／7	スウェーデン「生活の安全」というコンセプト	福祉国家の理念、スウェーデンモデル、生活保障
4／14	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係、「小さな政府」、「大きな政府」
4／21	3つの福祉レジーム	自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、保守主義レジーム エスピン・アンデルセン
4／28	国際競争力ランキング、国際競争力と「国民負担率」とは無関係	世界経済フォーラム、国際競争力ランキング、国民負担率、北欧諸国の強さ、教育と生涯学習
5／12	アメリカの社会保険と貧困	「小さな政府」論に基づく減税政策、企業福祉とその破綻、貧困大国の出現
5／19	「小さな政府」は本当に経済成長率を高くできるのか	日本の減税路線と財政赤字増大、小泉構造改革、「小さな政府は経済成長が高い」という言説、成長戦略と経済格差増大
5／26	「貯蓄から投資へ」は本当に正しいのか	アメリカ型金融資本主義、生活資金の投機化、生活金融のあり方
6／2	「日本的経営」の問題点と北欧型「福祉国家」	正規雇用と非正規雇用、年功型賃金、職能給、職務給、「福祉国家」と「生活の安全」
6／9	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン論」、所得再分配機能の放棄、相対的貧困率、ジニ係数
6／16	未婚率の異常な高さとワーキング・プア	非正規雇用の増大、「自己責任」論の呪縛、未婚率、出生率、サンボ
6／23	「フレキシキュリティ」	フレキシキュリティ、デンマーク、オランダ、EU雇用戦略
6／30	労働組合はもう化石なのか	労働組合、組織率、経済的役割、社会的役割
7／7	どんな社会を望むのか	北大のアンケート調査、日本型（日本的経営）より北欧型が多い、しかし行政不信も強烈
7／14	福祉政策と都市政策の結合	スウェーデンなどにみる「公有地」と社会住宅、日本の持ち家政策の破綻と劣悪な「公営住宅」、都市計画
7／21	福祉政策と環境政策の結合	環境政策は経済成長政策、生活の見直し

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	受講生が少ない場合は授業中の感想文で、受講生が多い場合は学習到達度確認小テスト。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障	宮本太郎／岩波書店／978-4-00-431216-1／岩波新書

コミュニティを問いなおす	広井良典／筑摩書房／978-4-480-06501-8／ちくま新書
ポスト工業経済の社会的基礎	エスピン・アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／4-921190-16-X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

12883

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武　／ミネルヴァ書房 ／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

12891

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 ／ミネルヴァ書房／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15395

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:20世紀の世界と日本

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の世界と日本の歴史を振り返り、現代日本社会の歴史的位置を確認し、②世界的な観点から、今日の産業・労働の問題、教育・福祉などをめぐる問題と今後について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで日本の「現代」を考える	現代はいつから始まるか、近代の再帰性(前近代社会との違い)、国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末期～20世記初頭の世界と日本	奴隷に支えられた資本主義世界体制の形成過程、19世紀末大不況期の世界再編、日本の明治憲法体制、日清・日露戦争、産業革命
第3回	第一次世界大戦(1)	第一次世界大戦の長期化と社会的動揺、ドイツ帝国、オーストリー帝国の崩壊、ロシア革命、終戦
第4回	第1次世界大戦(2)－1910年代の中国と日本－	辛亥革命と中華民国の成立、日本の大戦景気と米騒動、アジアをめぐる米国と日本
第5回	戦後の新しい世界秩序	パリ講和会議と国際連盟の成立、敗戦国は、講和条約をどのような状況で受けたか、 かつての世界の覇者・大英帝国の動揺、ソ連の成立
第6回	1920年代の国際関係	オスマン帝国の崩壊と中東地域、太平洋地域におけるアメリカの発言力の強化、 緊張が続くフランスとドイツ、中華民国の内戦、1920年代の日本
第7回	1929年世界恐慌	ドイツの復興、イタリアのファシスト国家化、世界恐慌、満州事変と高橋財政下の景気回復、満州建国と抗日民族統一戦線結成
第8回	第二次世界大戦への道	ヒットラー政権誕生とドイツの再挑戦、ベルリン・ローマ枢軸、スペイン内乱
第9回	第二次世界大戦の構図	第二次世界大戦の推移、日本の戦時体制、アジアの植民地解放闘争、東西冷戦体制への移行、
第10回	冷戦体制下の戦後復興と成長	国連とIMF・ガット体制、1950年代の冷戦構造と第三世界、EEC、朝鮮戦争と日本の復興
第11回	福祉国家の展開とソ連型福祉	西ヨーロッパ諸国の福祉国家への移行、ソ連の社会保障制度、日本の教育、福祉および医療
第12回	成長の限界と「新自由主義」的潮流	1970年代初頭の世界構造、福祉国家の変容、日本の低成長への移行
第13回	新自由主義時代への移行	1973年以降の世界経済推移、冷戦の終結、途上国とOECD、中国の改革開放以後
第14回	「アジアの時代」と日本	「新自由主義」の流れ、ラテンアメリカの民主化の波、開かれた日本とは
第15回	2008年世界同時不況後の新しいチャレンジ	世界的無秩序の脅威、新しいチャレンジ ― 環境、貧困、教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業は、20世紀を中心に約500年余にわたる近代社会の形成と展開過程を大掴みにする、1つの歴史論である。したがって、本来、受講生は、授業外で膨大な関連図書の読破を必要とする。少なくとも歴史の曲がり角となるような歴史的事件に関しては、指示する参考文献の中から自らの関心に沿って、2,3冊の関連図書は読み進めるように。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	学生はWebコースツールにて本授業の「ディスカッション」にアクセスすること。それが定期試験を受ける前提(必須条件)である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の聞きっぱなし、まったく予習・復習はしないという対応で済ましてきた流れは、今年度の定期試験では通用しないかもしれない。定期試験の出題形式を全面的に再検討し、穴埋め、正誤を指摘する問題など、多様な出題形式を併用する予定である。

講義内容についての質問は大いに歓迎する。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
概説　現代世界の歴史	ウイリアアム・ウッドラフ／ミネルヴァ書房／4-623-03524-7／
長い20世紀	G・アリギ／作品社／／
現代史の視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／
新自由主義	D・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／
21世紀の歴史	ジャック・アタリ／作品社／978-4-86182-195-0／

そのほか、授業の中で適宜、紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で適宜、紹介。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを、事前連絡、レジメの開示、質疑応答などに活用するように努めたい。

その他 / Others

現代政治論（S）

12769

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、現代日本政治を題材としながら、政治学の基本的な思考法や概念を体系的に学習する。日本政治の諸現象を政治学の文脈に位置づけることによって、本講義は、日本政治の特徴をよりよく理解すること、そして政治学の基本的な発想法を学ぶことを目的とする。講義では、映像資料や新聞などを利用して最近の日本政治のトピックを取り上げ、それを手がかりに政治学の基本的概念を学ぶという形式を採る。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代政治学の基本的な思考法や概念を身につける
・政治学の理論枠組に位置づけることで、日本政治の特徴を把握する
・現代（日本）政治に対して、自分自身の意見を持てるようにする

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　現代社会が直面する諸課題と政治の関係	貧困・格差の拡大、社会的排除
第2回	1　政治学とは何か、政治学の研究対象	政治、政治学
第3回	2　現代国家の特質－政治経済システムとしての福祉国家－	福祉国家、労資妥協、戦後コンセンサス
第4回	3　政党	政党の役割、クリービッジ政党、包括政党、新しい政党
第5回	4　利益集団	利益集団の役割、多元主義、コーポラティズム
第6回	5　議会制度	一院制と二院制、選挙制度（小選挙区制と比例代表制）
第7回	6　執政制度	議院内閣制と大統領制、単独政権と連立政権
第8回	小テストとこれまでの復習	
第9回	7　官僚制度	行政国家、官僚主導、行政改革
第10回	8　中央・地方関係	集権制と連邦制、中央主導、地方分権
第11回	9　市民社会における政治	政治文化、社会資本、新しい政治、新しい社会運動
第12回	10　世界の政治体制	民主主義、権威主義、全体主義
第13回	11　先進諸国の多様性	さまざまな民主主義、福祉国家の多様性
第14回	12　現代国家の変容－グローバル化の中の福祉国家－	グローバル化、福祉国家の変容、ガバナンス
第15回	まとめ　現代社会における政治の役割	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階に小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現代政治を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代政治学（第三版）』	加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦／有斐閣、2008年／4641123311／
『政治学』	久米郁夫・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝／有斐閣、2003年／4641053685／
『政治学』	大嶽秀夫・鴨武彦・曽根泰教／有斐閣、1996年／4641059683／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介してい

く。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、政治学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献から、各自の好みに合ったものを選んでほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論』	建林政彦・曽我謙悟・待鳥聡史／有斐閣、2008年／4641123649／
『日本の政治（第2版）』	村松岐夫・伊藤光利・辻中豊／有斐閣、2001年／4641059969／

個別のテーマに関する参考文献は適宜紹介していくが、講義全体に関する参考文献としては、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、政府機関や各新聞社などのホームページなどが有益である。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

産業技術論（S）

15424

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

資源エネルギー論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
2	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
3	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
4	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
5	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
6	工作機械論	工作機械　汎用と専用　アメリカンシステム
7	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
8	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
9	ポストフォーディズム	リーン生産方式
10	日本的生産様式	FMS　JIT
11	ロボット論	ロボット　Rキューブ
12	半導体工業論	半導体　IC
13	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
14	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
15	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
技術と労働	大沼正則／岩波書店 ／ISBN4-00-003662-9　c0336 ／
アメリカンシステムから大量生産へ	D.A.ハウンシェル　／名古屋大学出版会 ／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

質的調査論（SA） § 質的調査論（SA）

15439

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　maosaito@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

質的調査論（SB） § 質的調査論（SB）

15526

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、社会調査士プログラムの一環として今年度から開講される科目である。複雑化・多様化する現代社会において、人々の生活のリアリティに迫る手法として、質的調査が注目を集めている。本講義では、情報処理や計量社会学に含まれている量的調査との相互補完関係にある質的調査について、基本的な考え方、様々な種類の質的調査の方法とそれぞれの特性について学習する。同時に、受講生が自ら質的調査を実施する（グループ調査および個人調査）ことを通じて、質的調査についての理解をより実践的に深めることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、質的調査の理論的・哲学的基礎を理解すると同時に、調査での実践力を培うことで、社会調査にかかわるスキルの向上を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

量的調査に関する基礎知識を前提として講義を進めるため、関連する社会調査士プログラム等（情報処理、計量社会学）を受講しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	質的調査入門	
第2回	質的調査と量的調査	帰納法、演繹法、リアリティ
第3回	質的調査の歴史	シカゴ学派、エスノメソドロジー
第4回	インタビュー調査の計画	
第5回	「あたりまえ」を疑う社会学①	生の「固有性」 相互作用　役割演技
第6回	「あたりまえ」を疑う社会学②	実証主義　グラウンデッド・セオリー　対話的構築主義
第7回	「あたりまえ」を疑う社会学③	カテゴリー化　ドミナント・ストーリー　オルタナティヴ・ストーリー
第8回	「あたりまえ」を疑う社会学④	アクティヴ・インタビュー
第9回	トランスクリプションの作り方	トランスクリプション
第10回	ケーススタディ①	
第11回	ケーススタディ②	
第12回	インタビュー調査報告会①	
第13回	インタビュー調査報告会①	
第14回	質的調査のススメ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外でインタビュー調査を行い、実践的・体験的に質的調査の手法を学ぶ。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	インタビュー調査のトランスクリプションおよびレポートの提出
平常点評価	20 %	講義の最後にミニレポートの提出を課す場合がある。

本講義は、一方向的な講義ではなく、講義外の時間を用いた調査および講義での報告会を行う予定である。したがって常的な出席が難しい学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「あたりまえ」を疑う社会学－質的調査のセンス	好井裕明／光文社新書／9784334033439／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　maosaito@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会学史 (S)

12884

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も持て理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想（史）や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。

社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないで授業時のプリントや講義ノートや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景；16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想；近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；1ホッブス、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想；近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；2アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味；資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻（19世紀問題）とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1；コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（1）	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（2）	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1；ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（1）	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（2）	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（1）	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（2）	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（3）	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学；シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立；パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション的合理性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、毎回の講義に出席するとともに、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。

評価は、試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

参考書 / Reference Books

特に指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」がもっとも重要です。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。講義ノートには参考文献があげてありますので、適宜参考してください。本シラバスのア「ドバイス」の欄にあげた参考書はぜひ活用して下さい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定しません。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-Mail;hst01932@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特になし

社会学理論（S）

15410

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会」の成り立ちを理解するのに役立つ代表的な社会学理論を紹介する。取り上げるのはデュルケーム、ヴェーバー、シカゴ学派、パーソンズの構造-機能主義、マートンの中範囲の理論である。これらの古典理論と現代の社会理論との関連も合わせて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基本的な考え方や概念を理解し、説明できる。
社会学的視点で社会現象を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学史、社会調査関係の授業

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方・社会学の主題	共同態・権威・ヒエラルキー・聖なるもの・疎外
第2回	デュルケームの社会理論（その1）:『社会分業論』	集合意識・社会連帯・分業・法の形式
第3回	デュルケームの社会理論（その2）:『自殺論』	アノミー・自己本位主義・集団本位主義・社会的潮流
第4回	デュルケームの社会理論（その3）:『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・シンボル
第5回	デユュルケームの方法論	実証主義からシンボルの社会学へ
第6回	ヴェーバーの社会理論（その1)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・エートス・親和性
第7回	ヴェーバーの社会理論（その2)『儒教と道教』	氏族・家産官僚制・読書人・儒教の教義
第8回	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・因果帰属
第9回	デュルケームとヴェーバーの方法論の比較	差異法・一致法・共変法　行為論・シンボル論
第10回	シカゴ学派の社会学（その1）パークとバージェス	人間生態学・都市病理・社会改良
第11回	シカゴ学派の社会学（その2）プラグマティズムとの関連	ミード、トマスの社会心理学
第12回	パーソンズとシステム論	構造―機能分析、AGILの相互交換、一般化されたメディア
第13回	マートンの中範囲の理論	機能分析・準拠集団の理論、因果メカニズム
第14回	相互作用論から社会的世界論へ	ナラティブ・システム・メカニズム、
第15回	理論的視点の総括と討議	社会学理論の活用法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で紹介する文献はできるだけ図書館等を利用して、各自で学習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や視点がどれだけ理解できているのかによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業ではテキストのほかにレジメを配布するのでそれらを熟読してほしい。またコミュニケーション・ペーパーを配布するので積極的に質問していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人・宝月誠ほか／有斐閣／4-641-08857-8／

参考書 / Reference Books

参考書は授業のなかでそのつど紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailを利用

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

12742

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。貧困という言葉が日常語となってきています。なぜこうなってしまったのでしょうか。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。 そのうえで、ありうべき経済のシステムを考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	経済知識の確認、など
2	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、市場とは何か、商品市場、金融市場、労働市場
3	資本（企業）と産業－株式会社とはなにか？	株式会社、産業分類
4	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
5	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
6	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
7	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
8	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
9	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営化
10	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15	人間中心の経済とは	スウェーデン、潜在能力、選択可能な社会システム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考文献は、講義の中で指摘する。テキストは使わない。レジュメに基づく講義。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書 ／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞社／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
市民のための社会経済学	篠田他編著／伊藤光晴／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

shinoda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会心理学（S）

12804

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

monden@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15404

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)と、欠席した回の参考書の該当ページ(上記「授業スケジュール」参照)を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容(および「キーワード」に挙げた概念・用語)を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来(成果点50%)と、授業への出席の頻度(努力点50%)とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法(の一つ)である。よって、どんなことでもよいので——「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので——、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」(パートナーの有無)についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前(あなたが生まれた頃or若かった頃)との時代比較や、他国(あなたが行ってみたい国)との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語(受講生同士の会話)は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「(単)回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞

「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］： http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］： https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→ （JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→ https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス： haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15413

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

12782

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

15343

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校レベルの基礎的数学の知識を前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またExcelの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	30 %	授業内容の理解を確実なものとするために、簡単な課題（宿題）を10回程度課す。課題の提出状況を平常点とする。

提出期限を過ぎた課題（宿題）は受け取らないので、提出期限までに必ず提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になる。授業への出席と課題提出は必須である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／書名は入門となっているが、高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで。

nagasawa@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持参すること。Excelが使えるものはノートパソコンを持ち込んでもよい。

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15354

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障制度を考察するのに当たり、その内容を総論と各論とに分け、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権·最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源

(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。

(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の機能	選別主義・普遍主義、 生存権、所得再分配、社会的統合、多様なライフスタイル、少子高齢化と社会的サポート
3	少子高齢化と社会的サポートの国際比較	日本とスウェーデン、育児休業・給付、児童手当、保育所
4	社会的不平等とその実態	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
5	女性と貧困	高齢単身世帯、シングルマザー、生活保護、養育費、貧困の連鎖
6	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
7	所得保障と年金制度	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度
8	基礎年金制度の仕組み	老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	国民年金空洞化問題、社会保険方式の修正、税方式
10	厚生年金制度の仕組み	被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、アメリカの医療保険、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	医療保険制度給付の内容	療養の給付、訪問看護療養費、入院時食事療養費、入院時生活療養費、保険外併用療養費、療養費、高額療養費、移送費、出産育児一時金、出産手当金、傷病手当金、埋葬料、医療保険制度の財源
14	高齢者医療の概要、および、医療保険制度の問題と解決策	後期高齢者医療制度、国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書)、国民健康保険制度の抜本改革
15	社会保障制度の発展要因と今後の社会保障制度	収斂化理論、ネオ・マルクス理論、民主主義・利益団体論、国家中心理論、社会民主主義理論(権力資源論)・福祉レジーム論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会 : 社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

12744

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習…(SLクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

12746

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、アドバタイジング、あるいはWBT（web-based-training）など、様々な目的に活用されています。つまりweb上で動くアニメーション作成のスキルを身につけることは、インターネットが日常に深く入り込んだ現代では、非常に強力な表現の手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、そのようなアニメーションを作成する方法を紹介します。

到達目標 / Attainment Objectives

Flashによるアニメーション作成スキルの修得、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、効果的にアニメーションを用いる能力を身に付けること、以上3点を到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	とにかく描いて動かす	Flashのお絵描きの特徴。とにかく動かしてみる
2	基本的なお絵描き	様々な描画ツールと、その特徴
3	基本的なアニメーション	モーショントゥイーン、シンボル、インスタンスなど
4	基本的なアニメーション2	シェイプトゥイーン、レイヤーなど
5	ちょっと凝ったアニメーション	アルファチャンネル、マスク、パスなど
6	シンボルを使いこなす	シンボル内アニメ、グラフィック、ムービークリップなど
7	インタラクティブに動かす	ボタンイベント、アニメボタン、リンクなど
8	外部ファイルの取り込み	効果音や写真、手書きのイラストを活用する
9	課題作成1	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
10	課題作成2	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
11	課題作成3	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
12	課題作成4	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
13	パブリッシング	パブリッシュと設定、アクセシビリティ、ftpによる転送
14	プレゼンテーションと採点1	作品の発表と説明を行なう
15	プレゼンテーションと採点2	作品の発表と説明を行なう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけではなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が充分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第14･15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb（教材配布フォルダ）にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
おしえて!!FLASH 8 : Flash 8スーパー・エンターテイメント・チュートリアル	まつむらまきお, たなかまり／東京 : 毎日コミュニケーションズ／978-4-8399-1961-0／絶版ですが、図書館にはあるようです

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール＆自習してみるのも良いでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必要に応じて授業中に指示します。それ以外の場合は事務室を通じて連絡してください。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC） § 情報処理（SC）

12784

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

12785

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopとGoLive』:フォトレタッチとWebページ入門
Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、Adobe GoLiveによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、Adobe GoLiveによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。
Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『HTML+CSS+JavaScript』(SHクラス)がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるWebページ作成の基本。
Webページ公開の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数 画像保存形式 画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定／自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正／赤目・パッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター／ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー／文字／切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎 (ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	GoLive操作法	(作成から保存)
11	実習(2)－1	Webページ作成
12	実習(2)－2	Webページ作成
13	リンク貼り	アップロード 更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介) まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE）　§　情報処理（SE）

12745

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、情報化社会の中で、個人のレベルにおいても対応することが不可欠となっている「情報セキュリティ」に関する「入門講義」として位置づけられている。講義は情報教室で受講者がPCを使用しながら、実習・実験を伴う形で行われる。「私は大丈夫」「私には関係がない」と思いがちな日常の情報コミュニケーション技術利用の落とし穴について、様々な具体事例を取り上げながら、受講者が授業時間内に実際にセキュリティー技術について確認する機会を設ける。情報セキュリティ意識を高め「自分の身を守る」ための知識習得の場としてほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1.情報化社会における「安全性」について考える端緒を得る。
2.インターネット利用に伴う「危険性」（脆弱性）をについて説明できるようになる。
3.被害者」「加害者」にならないための基本的な知識・スキルを身につける。
4.デジタルデータの著作権について理解し、情報発信を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI等の情報技術関係入門講義は履修済みであることが望ましい。
立命館大学の情報環境利用方法、コンピュータの基本操作、レポート作成レベルの文書作成技術（Word,Excel等）については一定習得済みのものとして講義はすすめられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション（情報リテラシーIII共通）	
2	情報社会における「セキュリティ」とは（概説）	「情報セキュリティ」とは何か。今、何が問題になっているのかを理解する。
3	インターネットおよびWebサービスの仕組み	インターネットとはどのような技術によって成立しているのか、歴史的経緯を踏まえ理解する。
4	被害者・加害者にならないために1（コンピュータ犯罪の今昔1）	コンピュータ犯罪の事例を紹介し、そこに見える問題と、自らできる対策についての知識を得る。脅威となるWebサイト、サービスへの模擬接続と情報流出の状況確認。（実習）
5	インターネット上での「匿名性」「非匿名性」	「匿名」「非匿名」の実態について、アクセスログを用いて考える。アクセスログ解析、IPアドレス・ドメイン名によるトレース（実習）
6	コンピュータウィルスの脅威から身を守るために	コンピュータウィルスやネット上での危険要因についてその性格を理解し、対処の知識を得る。コンピュータウィルスの模擬作動実験（実習）
7	不正アクセス監視の仕組み（IDS）とファイアーウォール	実際のIDSシステムを見ながら、その有効性について考える。簡易IDSの構築（実習）
8	データの暗号化技術（1）	情報の保護という観点から、暗号化の方式、諸技術について理解する。暗号化作業（実習）
9	データの暗号化技術（2）	暗号化とその解読の具体的事例を見ながら、その有効性について考える。暗号解読の作業(実習)
10	情報セキュリティのための法律・諸制度・体制について	セキュリティ対策に関係する、昨今の取組についての知識を得る。
11	情報化社会における「著作権」（1）	現行著作権法に基づいた、デジタルデータの取り扱いについて学習する。各自の所持している「コンテンツ」（授業成果物・レポート・Webサイト等）の検証（実習）
12	情報化社会における「著作権」（2）	現行著作権法に基づいた、データの取り扱いについて学習。ルールに則ったコンテンツ作成（実習）
13	情報セキュリティビジネス	情報セキュリティをビジネスとする事例を見ることを通して、セキュリティのあり方を考える。
14	管理者およびユーザに求められる「情報倫理」	技術者としての倫理・ユーザとしての情報倫理について考える。
15	総括「情報セキュリティ」	情報セキュリティについて、各回学んだ知識を総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外学習をすすめたい者は個人的に質問に来るとよい。テーマに沿った文献・資料等を紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内確認小テスト・小レポート、授業時間外課題、到達度確認テスト等を課す。(70%) また実習を伴う授業であるため、日々の参加姿勢をも含めた平常点評価とする。(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時間中に随時指示する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義時間中に必要な資料、文献等を随時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義時間中に随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

初回講義で指示する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF） § 情報処理（SF）

12786

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SKクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

15333

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『コンピュータ教育（入門）』
教員をはじめ、コンピュータを教える立場になることを想定し、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、コンピュータ教育の技術や方法を探っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータ教育法の基礎習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	コンピュータの基礎知識	ハード／ソフト／OS/アプリ／NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習（1）－1	Windwos基本教室づくり
5	実習（1）－2	Windows基本教室プレゼン ディスカッション
6	実習（2）－2	Word基本教室づくり
7	実習（2）－2	Word基本教室プレゼン ディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習（3）－1	Excel基本教室づくり
10	実習（3）－2	Excel基本教室プレゼン ディスカッション
11	実習（4）－1	NET／OLE基本教室づくり
12	実習（4）－2	NET／OLEI基本教室プレゼン ディスカッション
13	コメント	
14	実習（5）－1	最終課題
15	実習（5）－2	最終課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	そのほかの実習課題、実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。
また、グループ学習への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15393

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級』：HTML～JavaScript
Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。
もっとも基本となるHTMLから、CSS（スタイル）、JavaScriptまで。

到達目標 / Attainment Objectives

NETの基礎知識。
Webページの基礎知識。
HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。
Webページ公開。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Webページの基礎	（ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係）
3	HTML入門	（html,head,body,h,p,br,div／保存・閲覧・更新）
4	HTML追加	（table）
5	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
6	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	（script,onClick,onMouseOverなどイベント）
9	JavaScript入門	（for／if）
10	JavaScript入門	（その他）
11	実習(2)－１	Webページ作成
12	実習(2)－２	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)－３	リンク貼り アップロード 更新
14	プレゼンテーション	（ページ紹介）
15	プレゼンテーション・まとめ	（ページ紹介）

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI）　§　情報処理（SI）

15420

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』:Visual Basicによるプログラミングの基礎。
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎 クリックとその反応
3	アニメーション（1）	移動による表現
4	アニメーション（2）	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習（1）	クリックゲーム（VB風モグラたたき）の作成
8	プログラミングの思考（1）	素数を求める
9	プログラミングの思考（2）	計算の効率化
10	プログラミングの思考（3）	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習（4）－1	オリジナル・ゲーム作り（1）
13	実習（4）－2	オリジナル・ゲーム作り（1）
14	実習（4）－3	オリジナル・ゲーム作り（2）
15	実習（4）－4	オリジナル・ゲーム作り（3） 検証と課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	実習課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩　／ふくろう出版／4-434-04018-9 ／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介る。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15459

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Offce総合（中級）』：Officeソフト総合演習（Excel中心）
情報リテラシーI、IIに続く上級編。
Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実践な使用方法。
Excelの関数
Excelのデータベース機能。
Excelのマクロ機能の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展（1）	スタイルとアウトライン／脚注／目次／ページ区切り
4	実習（1）	アウトライン
5	Excel発展（1）	Database オートフィルタ／並び替え／集計／フォーム
6	Excel発展（2）	Database 項目作成／vlookup
7	実習（2）	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展（3）	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展（4）	Webデータの利用
10	実習（3）	検索実習
11	Excel発展（5）	マクロの基礎（1） 記録と保存
12	Excel発展（6）	マクロの基礎（2） 変数、繰り返し、if
13	実習（4）－1	課題
14	実習（4）－2	課題
15	実習（4）－3	課題提出

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終課題など。
平常点評価	40 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK） §　情報処理（SK）

15460

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SFクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15461

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習...(SAクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

心理学（S） § 心理学（SG） § 心理学I（S） § 心理学I（SG）

12932

担当者名 / Instructor　内藤 みちよ

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の心理学的理解への導入となるべく、心理学の様々な領域を紹介し、心理学的アプローチという方法に関心と理解につなぐ

到達目標 / Attainment Objectives

心理学的アプローチを学ぶことで、より科学的で実践的な人間理解、また自己理解が深められること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	心理学の諸領域・歴史と現在
2	人間の心理学的理解①	感覚・知覚と生理学的基礎～脳がわかれば心がわかる？
3	人間の心理学的理解②	記憶と忘却～さまざまな記憶の形
4	人間の心理学的理解③	条件づけと学習～行動の形成と変容
5	人間の心理学的理解④	欲求・動機づけ・感情～人を動かすものは何か？
6	人間の心理学的理解⑤	知能
7	人間の心理学的理解⑥	人格～パーソナリティ理論
8	人間の心理学的理解⑦	社会的行動～さまざまな集団の形と集団力動
9	人間の成長・発達とライフサイクル①	乳幼児期・児童期
10	人間の成長・発達とライフサイクル②	青年期・成人・老年期
11	心理学的援助の方法①	適応とは？～障害の心理学的理解
12	心理学的援助の方法②	さまざまな心理検査とアセスメント
13	心理学的援助の方法③	さまざまな心理療法
14	心理学的援助の方法④	コミュニティ心理学的アプローチと危機介入
15	まとめ	学んだことの振り返り

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義の中からテーマを選択し、理解した内容をまとめ見解を述べることと、講義全体から学んだことを通して、どのように自分を心理学的に理解したかを述べることから理解度を評価する。
平常点評価	50 %	毎回、授業の終わりにアンケートを実施し、理解度と参加度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ、参加的な要素も取り入れたり、アンケートを実施したいと考えるので、能動的な参加と協力的な参加態度で臨んで下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

人間発達論 (S)

12927

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性，個体発生と系統発生
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，愛着
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
朝倉心理学講座3発達心理学	南徹弘(編)／朝倉書店／9784254526639／講義の一部で言及する

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

60316

担当者名 / Instructor　小田切 康彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

60324

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

60332

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

60340

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参する。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）　60348

担当者名 / Instructor　山口 洋典　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域活性化ボランティアは、社会貢献活動と大学での学びを結びつけた「サービスラーニング」という教育（学習）手法を用いて実施されます。
受講生は、教室での事前・事後学習などに出席するほか、サービスラーニングセンターが協定を結んだ京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどに協力して地域でのボランティア活動に参加します。
この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指しています。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

60356

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

60364

担当者名 / Instructor　上田 洋平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

60372

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GI）§　専門特殊講義（S6）§　地域活性化ボランティア（JI）§　地域活性化ボランティア（PI）§　特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI）§　特殊講義（自由選択）1（V9）§　特殊講義（自由選択）（V9）§　特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

60380

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
	授業スケジュールについての留意事項	※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。 全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。
※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

地域社会論（S）

15433

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化のもとでの経済変動や人口の流動、少子高齢化のなかでの不透明な未来社会への不安や危機意識の拡大など、ゆらぐ現代社会のなかで、いまあらためて地域社会の機能が問い直されつつある。戦後の高度経済成長期における急激な都市化を経て、身近な地域社会の人間関係が希薄化してきた事態に鑑み、とくに近年では、福祉や教育、食、環境など人々の暮らしに関わる問題領域への関心の高まりとともに、日々の暮らしの場である地域社会での対応力が期待されてきている。

本講義では、こうした地域社会を分析対象としてきた地域社会学を中心に据えながら、地域社会の成り立ちや構造的特質をふまえ、戦後日本の地域社会変動を都市と農村の双方を視野に入れつつ読み解いていく。また、現代において、地域社会で生起している具体的な社会問題に対して、その背景にある政治・経済・社会・文化など複数の視点から分析し、問題解決の可能性について地域社会を構成する様々なアクターの主体的営為に着目しながら多角的に考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）地域および地域社会を対象としてきた地域社会学の基本的概念や分析方法を習得するとともに、地域社会の変動過程とその要因について、都市・農村の連関構造から解明することができる。

（2）戦後日本資本主義の展開と地域政策の動向を把握するとともに、近年の地方分権改革や規制緩和、民営化という流れのなかで、地域社会に生活する人々の具体的な諸相を社会科学的に把握することができる。

（3）現在の地域社会が抱えている様々なコンフリクトや生活課題に気づくとともに、それを解決していくために実際に様々な取り組みがなされている現状を学びながら、一アクターとして積極的に地域社会に関わっていくことの重要性を認識することができる。

（4）地域社会を理論的・経験的に理解し、「持続可能な地域社会」像を描くことのできる職業人・地域人としての素養を身につけることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション―いまなぜ「地域社会」なのか	地域、地域社会、生活の社会化、共同消費、地域の福祉力
第2回	「地域社会」への社会学的アプローチ（1）―農村社会学と都市社会学―	農村社会学、都市社会学、イエ・ムラ理論、人間生態学、アーバニズム論
第3回	「地域社会」への社会学的アプローチ（2）―農村／都市の社会学から地域社会学へ―	都市と農村、地域社会学、地域社会の重層化、地方自治体
第4回	「地域社会」への社会学的アプローチ（3）―地域社会学の研究対象と分析方法―	地域社会の構造分析、階級構造、集団構成、社会構造、生活過程
第5回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（1）―伝統的地域社会としての「村落」の解体と再編―	村落、村落共同体、自然村、聚落的家連合、農民層分解、市場関係の凝集点
第6回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（2）―戦後日本資本主義の展開と地域開発政策―	戦後日本資本主義、地域開発、企業誘致、産業構造、地域構造
第7回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（3）―地域産業の変貌と地域社会の階級階層構造の変化―	地域の産業構造、農工間の不均等発展、労働市場、地域格差、都市化論争
第8回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（4）―地域の生活問題と住民運動―	生活問題、都市問題、四大公害裁判、住民運動、革新自治体、地方自治
第9回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（5）―地域政策の転換とコミュニティ―	コミュニティ形成施策、定住圏構想、住民参加
第10回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（6）―グローカリゼーションと越境する地域―	グローカリゼーション、世界都市、都市空間、空間構造の再編
第11回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（7）―新たな公共政策と地域社会形成の課題―	地方分権改革、自治体行政、市民活動、公共性、ローカル・ガバナンス
第12回	「地域社会」の再生と創造に向けて（1）―都市社会運動と「公共性」の再構築―	ジェンダー、エスニシティ、マイノリティ、社会的排除、新しい社会運動
第13回	「地域社会」の再生と創造に向けて（2）―地域住民組織と非営利・協同組織―	市民セクター、ボランタリー・アソシエーション、コミュニティ
第14回	「地域社会」の再生と創造に向けて（3）―行政と住民のパートナーシップによる地域再生戦略―	地域再生法、地域再生協議会、官民パートナーシップ、グラスルーツ
第15回	「地域社会」の再生と創造に向けて（4）―地域社会の新しい主体像―	全戸包括型住民組織、目的意識型市民組織、NPO、社会的企業

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義で配布するプリントや資料は限られた時間内では消化しきれないため、講義後にも隅々まで目を通しておくこと。また、講義は本テーマをより深く考えていくための素材を提供する契機であるため、上記の参考書以外にも、関連する文献・資料を自ら熟読して、知見を豊かにしていくこと。さらに、講義内容は、福祉社会学や理論社会学などの社会学隣接領域、政治学（地方自治論、行財政論、福祉国家論など）や経済学（社会政

策、社会経済論など)、地理学などの隣接諸科学にも触れることになるので、それらの分野の基礎知識も視野に入れておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問と小論形式で、授業全体を通しての受講者の理解度を把握する。小論では、論理的思考力と独創性を評価する。
平常点評価	20 %	授業の節目において数回の小レポートを課すが、コメントシートとして、質問や感想を求めるものである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会科学的な見地から地域社会をめぐる諸事象・問題に関心を持ち、日頃からそれに関する新聞やテレビのニュース・話題に接し、社会的想像力を働かせて自分自身の考えや行動の指針を表明できるようにしておくこと。また、地域社会の学習にあたっては、当該の現地を観察するとともに人々の生の声を聴くこと(ヒアリング)が重要な分析材料ともなるので、可能な限り、実際のフィールドに出向くことを心がけてもらいたい。そして、複数の文献や資料、事例にあたり、それらの裏づけをもとに真理を追究していくという姿勢を忘れないこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、プリントおよび資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域社会へのまなざし』	大久保武・中西典子編著／文化書房博文社、2008／9784830110757／
『地域社会学講座3 地域社会の政策とガバナンス』	岩崎信彦・矢澤澄子監修／東信堂、2006／4887136803／
『越境する都市とガバナンス』	似田貝家門・矢澤澄子・吉原直樹編著／法政大学出版会、2006／4588675117／
『キーワード地域社会学』	地域社会学会編／ハーベスト社、2000／4938551462／
『現代都市と地域形成』	蓮見音彦・似田貝家門・矢澤澄子編／東京大学出版会、1997／4130501372／

上記以外の参考文献は講義の中で適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

〇地域社会学会ホームページ　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jarcs/
〇内閣府ホームページ　http://www.cao.go.jp/
上記以外のホームページは講義の中で適宜提示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーに研究室に来室するか、メールで連絡のこと。

その他 / Others

文化理論 (S)

15429

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から代表的を思われる文化理論を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを社会学的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

文化的諸活動にせまる切り口を文学・文化人類学・文化社会学・精神分析から学び、それら複数の観点から、日常生活における人々の言動を理解する視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	授業の進め方 / 評価方法
第2回	文化の語り方　ー文化と文化理論の整理軸①ー	研究者の語り方 / 小説家の語り方 / 経験的世界と想像的世界
第3回	文化の採集の仕方　ー文化と文化理論の整理軸②ー	異文化の採集 / 自文化の採集 / 語られる文化と語り手の文化
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」と「採集の仕方」を基準にー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係 / 文化を文化する
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 有機的全一体 / 社会的紐帯
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾・村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー構造主義の源泉ー	言語体系と言語行為(構造言語学) / 本質存在と事実存在(実存主義)
第8回	解釈学的な文化理論　ー解釈とはー	意味措定・意味解釈 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ著)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 地位関係の代理闘争 / 闘鶏を解釈する主体
第10回	小テスト	
第11回	自文化の再帰的考察に向けて　ー構造言語学の諸概念ー	言語の内容面・表現面 / 言語の恣意性・必然性
第12回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」の考察法ー	体験・言語・経験 / 「甘え」の発見
第13回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」の語彙 / 「甘え」の社会関係 / 「甘え」と「自由」の関係
第14回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造 / 「いき」と「甘え」
第15回	文化理論の基礎づけ　ー他者理解としての文化理論に向けてー	語り方・採集法 / 機能主義 / 構造主義 / 解釈学 / 言語論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で学んだ文化研究の理論・方法・概念を、具体的事例の理解と説明にどのように応用し適切に表現できるか
平常点評価	20 %	文化研究の理論・方法・基礎概念などの学習到達度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で支持します

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／

社会的世界の意味構成	A.シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	M.ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	C.レヴィ=ストロース／中央公論社／／
文化の解釈学	C.ギアーツ／岩波書店／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／
「いき」の構造	九鬼周造／岩波書店／／
西太平洋の遠洋航海者	B.マリノフスキー／中央公論社／／

以下の文献を読むことを薦めます
佐藤嘉一著『物語のなかの社会とアイデンティティ』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11257

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」で示されたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係の基礎知識を習得しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化（高校「保健体育」教科書を持参することが望ましい。）
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第1節　アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 /　ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第2節　プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第3節　イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入 （ヨーロッパサッカー市場の問題点：DVD放映）
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第4節　スポーツ文化のナショナリテイ　/数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その1　スポーツの価値と多様性
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その2　スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節　エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント:
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週に行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語･概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志 ／岩波ジュニア新書 ／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真 ／明和出版 ／／
「サッカーで燃える国･野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー･ジンバリスト　／ダイヤモンド社 ／／

参考文献･資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

現代とメディア（SA）

12236

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代とメディア（SB）

12237

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12162

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SB）

12163

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SC）

12164

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11099

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11100

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11101

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

家族社会学（S）

15337

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

平常点評価（出席）を重視するため、課外活動や就職活動等で恒常的に講義に参加できない学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／
ジェンダーとライスコースで読む家族	岩上真珠／有斐閣／9784641173378／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S） § （副）環境と人間IV（F）

12815

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 （climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース： An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中に適宜、質問用紙を配布する。また、授業後、直接、担当者に、質問してください。

その他 / Others

環境論（S） § 環境問題論（S） § （副）環境と人間III（F）

15390

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	再生可能エネルギー、原子力立国論、炭素税、電力買取補償制度
第11回目	地球温暖化問題とエネルギー（3）	排出量取引制度、キャップ＆トレード型、バイオ燃料、カーボンニュートラル
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第13回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第14回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第15回目	まとめ	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

12768

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
2	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
3	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
4	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
5	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
6	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
7	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
8	中間まとめ	いったんこれまでの流れを整理して後半につなぐ
9	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
10	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
11	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
12	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
13	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
14	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
15	まとめ	再度、居住環境をデザインする意味を考える

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

「場所性」を読み解きながらまちを探検してください

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	成績は基本的には試験レポートの点数で評価します。 評価基準はレポート課題発表時に示します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代家族論（S）

15330

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていきます

到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解を深める。
雇用システムの変化と家族の関係を理解する。
女性・男性のライフスタイルの変化と家族の関係理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	先進国を中心とする家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状ー統計でみる家族の変容ー	単身世帯の増加、多世代家族の減少、 標準家族の解体、
3	ヨーロッパ近代と家族	近代家族、母性、性別分業、
4	資本主義経済と家族　その1	資本主義、生産と消費の分離、性別分業、無償労働
5	資本主義経済と家族　その2	家族機能の外部化−共同化・公務労働化・産業化 −
6	戦後日本社会と家族の変容	天皇制、日本国憲法24条、家族制度改革
7	日本型近代家族の形成	農民家族の減少、都市労働者家族の増大、核家族
8	企業社会と家族　その1	大企業労働者　性別分業型家族　主婦の誕生
9	企業社会と家族　その2	性別分業型家族の標準家族化
10	企業社会と家族	女性のライフコースの多様化・主婦の変容
11	「標準家族」の再生産	規範的家族政策・性別分業の再強化
12	日本型雇用システムの変化と家族　その1	新日本型経営、個人中心、労働力3類型 転職社会、
13	日本型雇用システムの変化と家族　その2	男性のライフコースの女性化、リスク分散型家族
14	生活領域の市場化と家族	家族機能の社会化、 福祉の産業化、 公的福祉の後退
15	おわりにー家族のつくりかたー	個人単位・ワークライフバランス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	家族に関して、常識的理解から社会科学的な理解に踏み込めたか、を、評価。

数回の小レポートを行う。コミュニケーション・ペーパーとして活用。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は、講義の際レジュメに記載。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の際にレジュメに記載。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

下記のアドレスに連絡：

jkn-aka@r5/dion.ne.jp

その他 / Others

現代経済論（S）

12772

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－問題の所在	
2	日本経済の概況	
3	「高度成長」と企業社会の成立	
4	企業社会と市民社会	
5	市民社会の概念規定	
6	大企業体制の2類型	
7	貿易関係と資本の対外的展開	
8	同上（2）	
9	不良債権問題の経過と問題点	
10	同上（2）	
11	六大企業集団と法人資本主義	
12	同上（2）	
13	日本的経営について	
14	まとめ1－現代経済論の課題	
15	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代産業論（S）

12773

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化・情報化・サービス化のまっただ中にある。その土台となり基軸となっているのが諸般の産業活動である。この講義は、現今の世界的な経済不況のもとでの、日本の主要な産業動向を解説して、現代産業の今後の発展方向を探る論議をしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の主要な産業動向に関する認識を深め、各自それなりの知見に確信が持てるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済論　社会発展論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代産業論の課題をめぐって	世界的な経済不況、日本経済の構造転換について検討を要する問題、 この講義の流れの確認
第2回	日本の貿易と国内産業との連関	日本の貿易依存体質　日本産業の強みと弱み　（第3回目から主要産業の動向を検討）
第3回	自動車産業	自動車産業の国際再編　海外生産、新製品開発
第4回	鉄鋼産業	鉄鋼生産と内需の特徴、海外進出、大規模高炉企業の「合理化」
第5回	電機産業	生産構造　ICT産業との関連　国際競争の激化
第6回	工作機械工業	ロボット化、世界の工作機械産業との競争と住み分け
第7回	石油と化学	過剰設備の顕在化と再編、 LPG・石炭との関係 薬品工業
第8回	繊維産業の担い手たち	伝統産業と繊維産業、アパレル産業
第9回	銀行業界の再編	多国籍銀行、リージョナル・バンク、 証券会社・保険業・カード会社との連繋
第10回	保険業界の再編	生保と損保　保険業の世界的再編
第11回	ICT産業の進展	NGNが変えるITと通信の未来　ブロードバンド・ネットワーク、電子政府、 メディア・コングリマリット
第12回	流通業界の再編	商社、百貨店、スーパー・マーケット、コンビニ
第13回	日本農業の現状と課題	コメ自由化以後の農業、日本資本主義の再生産構造と農業
第14回	日本社会と雇用問題	正規雇用と非正規雇用、日本の派遣労働、失業者対策
第15回	不況からどう脱出するか	雇用・技術・企画力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	4000字程度の課題レポートを課す
平常点評価	15 %	コミュニケーションペーパーを3回提出することを重視

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

個別の産業活動に関する分析を重ねるかたちで、日本の産業構造の特質を浮かび上がらせるようにしたい。それと同時に、企業の社会的責任、企業と環境問題への対応などについて、個別産業に即して言及するように努めたい。講義毎に、さらに読み進めると良い参考文献を、適宜紹介する。

教科書 / Textbooks

レジメを中心に講義。教科書は指定しない。
現代産業論のファイルを独自に用意することを希望する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代日本産業の構造と動態	産業構造研究会／新日本出版社／4-406-02729-7／2000年刊で古いが一読を
現代日本経済[新版]	橋本寿朗ほか／有斐閣アルマ／4-641-12297-0／2006年頃の概説書
日本の不平等	大竹文雄／日本経済新聞社／4-532-13295-9／成果主義について検討
グローバル製造業の未来	カジ・グリジニックほか／日本経済新聞出版社／978-4-532-31490-3／手軽な読み物

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の中で適宜、紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを活用し、講義の事前連絡などを行うようにしたい。

その他 / Others

現代市民社会論 (S)

15342

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	市民社会とは？
2	近代市民社会の成立－フランス革命	1789年、封建制度、産業化
3	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
4	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
5	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
6	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、資本の文明化作用、貨幣物神,
7	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
8	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
9	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
10	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
11	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
12	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
13	ハーストと市民社会	ガバナンス、市民諸組織、社会への参加、市民社会の公共化
14	ギデンズと市民社会	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15	市民社会と日本	市民社会論のまとめ、日本で、それはどう論じられてきたのか？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。れじゅめに基づいて講義。参考文献は適時、知らせることとする

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する。

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義はできるだけ続けて聴講してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定　／有斐閣 ／／
『市民の政治学』	篠原一 ／岩波新書 ／／
『相対化の時代』	坂本義和　／岩波新書 ／／
『公共性』	斎藤純一　／岩波書店 ／／
岩波書店	パットナム（鹿内訳）／柏書房 ／／

参考文献追加:『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15468

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述および穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。講義内容に関して、コメントを求めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編／明石書店／／

への取り組み――(1998)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.janic.org/　国際協力NGOセンター
http://www.mofa.go.jp/mofaj/　外務省
http://unic.or.jp/index.php　国連広報センター

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

12775

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／ 4-7907-0910-8 ／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子 ／有斐閣 ／4-641-07697-9 ／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之／学文社 ／4-7620-1359-5 ／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15376

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションがますます進行し、サブプライムローン問題やリーマン・ショックを契機とする世界的恐慌への対策においてもG20などの国際的政策協調が不可欠となっていますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子　著　／東信堂(2003年)／／
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース　著・武者小路公秀(代表) 監訳　／藤原書店(2000年)／／
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫　編著／ミネルヴァ書房(1999年)／／
ILOとジェンダー	戸塚悦朗　著／日本評論社(2006年)／／
ILOの創設と日本の労働行政	吉岡吉典　著／大月書店(2009年)／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

修学館3階の個人研究室361号室(深澤)のドアの箱にメモを入れて置いて下さい。

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

15344

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	国際社会論とは何か、国際理解度について
2	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3	グローバル化とリージョナル化	EU，NAFTA，東アジア
4	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか
5	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
6	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
7	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
8	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困とはなにか、人間の安全保障
9	グローバル化と人間開発－1	開発の歴史、経済開発から人間開発へ
10	グローバル化と人間開発－2	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
11	グローバル化と国家（EUから見る）	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
12	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
13	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
14	日本における市民権問題	外国人参政権問題をどう考えるのか
15	どのようなグローバル化なのか？	先進諸国と発展途上国に共通な課題とは？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。レジュメに基づいて行う。参考文献は適時、知らせることとする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する。
平常点評価	20 %	出席を3～4買取、それを点数化する

出席を上記のように取るので、出席することが望ましい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳　／法律文化社 ／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会 ／／
『安心社会を創る』	篠田・宇佐見編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D.コーテン（西川訳）／シュプリンガー東京 ／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬 ／岩波新書 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15428

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「参加」という概念はわかるようでわからない。当たり前のことのようでもあり、そのくせ私たちの日常とは縁遠いもののように思われてもいる。
「参加」といえば、数十年前までは「政治参加」を指していたが、その後、時代の変化の中でその概念は変容拡大し、いまでは「私が(私たちが)まわりの人と協働しつつ公益的領域で、自分のまわりの環境生成に主体的に関わるような在り方」のすべて(当然、政治への関与も含む)を示すようになっている。…要するに、「自分たちに関わる身近な事柄を、話し合い、わかりあい、協働して、決める・変える・創る・運営する」考え方や仕組みのことだから、じつはとても身近なこと。たとえば、近所どうしで暮らしのルールをつくったり、コミュニティでわが町のことを考えたり、一緒に公園整備をしたりすることも「参加」。
本講義では、身の回りの環境創造活動(まちづくり)における住民参加・住民主体の優れた事例を通して、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、コミュニティの意義、公共とはなにか、などについて考えていく。考えるだけでなく、どうやったら「一人ひとりが機嫌よう暮らせる」ようになるのか、そのための取り組み方や方法(参加のデザイン)の習得を目指す。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす(デザインする・マネージメントする)態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
2	参加を考えるワークショップ	なんで「参加」なんやろぉ…みんなで考える「参加」の発見たいむ
3	ワークショップの振り返り	「参加」をめぐる課題の発見と整理
4	参加の事例をみて考えよう…幻灯会(パート1)	コーポラティブハウジング(住み手参加の住まいづくり)ユーコートの事例を見る
5	「参加」の事例を見て考えよう…幻灯会(パート2)	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
6	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(1)
7	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(2)
8	中間まとめ	ユーコートを通して「参加」を考える
9	インターメッツォ…幻灯会	日本のコーポラティブハウジング
10	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	真野まちづくりを可能にした背景
11	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
12	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加(コミュニティのなかに居場所がある状況)
13	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
14	参加の手法を学ぶ	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例をまなぶ
15	まとめ	参加の哲学をもとう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義規模が許せば、応答型講義(質問をもとに講義を進める)を行いたい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には、成績は、提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。評価基準はレポート課題時に発表します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第2週のワークショップ、および第5週・第3週の幻灯会は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

産業社会学（S）

15403

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の社会学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、企業社会／新自由主義社会がいかなる変容をするのかを問題意識としつつ、働くこと、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1　生活スタイルにかかわる社会学理論を理解する。
2　日本人の生活スタイルの今までとこれからを理解し解明する。
3　生活スタイルを通して日本社会の今までとこれからを理解し解明する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学、コア科目（現代と社会）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の産業社会学について	産業社会、産業社会論、産業社会学
第2回	1現代社会と生活スタイル　−1生活スタイルとは	生活スタイル、社会的生活諸過程、生活空間／生活史　生きること、価値
第3回	1現代社会と生活スタイル　−2生活スタイルの社会学理論（ウエーバー／マルクスの思考）	エートス、合理性、カリスマの日常化、疎外、私有財産
第4回	1現代社会と生活スタイル　−3生活スタイルの社会学理論（リースマン、ゴールドソープの思考）	他者志向、本来的志向、手段的志向
第5回	2日本社会と生活スタイル　ー1日本的なるもの	日本的集団主義、間人主義、日本人のルーツ
第6回	2日本社会と生活スタイル　ー2私生活志向と企業志向	私生活志向、本来的仕事志向、企業志向、閉ざされた／開かれた
第7回	2日本社会と生活スタイル　ー3両方志向	2つの両方志向
第8回	2日本社会と生活スタイル　−4自立性と共同性（競争社会の陥穽）	自立性、共同性（公共性）、閉ざされた／開かれた、競争原理
第9回	3日本社会と日本人の諸層　−1格差社会と階層化（「勝ち組」／「負け組」	格差（拡大）、階層、移動
第10回	3日本社会と日本人の諸層　−2格差社会と階層化（一億層中流と階級）	中流、階級、世界システム、正規ー非正規、ワーキングプア、失業
第11回	3日本社会と日本人の諸層　−3女性のすがた（社会的進出）	M字カーブ、逆U字カーブ、男性参加
第12回	3日本社会と日本人の諸層　−4女性のすがた（世界のすがた）	スエーデン型（男性参加）、オランダ型（ワークシェアリング）
第13回	3日本社会と日本人の諸層　−5若もの／子どものすがた（教育と雇用）	ゆとり教育／つめこみ教育、フリーター／ニート
第14回	3日本社会と日本人の諸層　−6若もの／子どものすがた	情報消費社会、若ものの労働／余暇観
第15回	生活スタイルの今後（日本社会のこれから）	第3の道、日本型第3の道？、日本型福祉国家

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の内容の理解に関して試験
平常点評価	20 %	講義へのコメントは、評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

時々、授業の理解についてコメントを書いてもらう。授業の最後に書いたり、ペーパーを持って返り授業外で書いてもらい、翌週の授業で提出することもある。

教科書 / Textbooks

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『変容する企業と社会―現代日本の再編―』	浪江巌・木田融男・守屋貴司編／八千代出版／／
『転換期の人間と社会』	佐々木嬉代三・中川勝雄編／法律文化社／／
『変貌する社会と文化』	木田融男・佐々木嬉代三編／法律文化社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業後に直接か、必要な場合はweb-ctで行う

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S） § （副）資源エネルギー論（F）

12814

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
2	地球環境問題概説　1	温暖化
3	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
4	自然史の中の人間	進化　自然
5	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
6	資源とエネルギー2	風力発電　電力コスト
7	再生可能エネルギー3	太陽光発電　電力支援政策
8	再生可能エネルギー4	ネットワークと電力自由化
9	原子力問題	原子力　放射能
10	資源とリサイクル　1　概論	3R　資源　リサイクル
11	資源とリサイクル　2　PETとプラスティック	容器包装法　PET
12	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
13	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル　携帯
14	資源とリサイクル　5　石油	石油　石油化学
15	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エネルギーと私たちの社会	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン　／新評論 ／ISBN4-7948-0559-4 ／
新・地球環境論	和田武 ／創元社 ／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時追加で紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

社会ガバナンス論 (S)

15422

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	組織分析、組織連関分析
第6回目	ネットワークの変化という視点から見る行政改革	ネットワーク、資源の交換
第7回目	政策ネットワーク	コーディネート
第8回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之　／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

社会階層論 (S)

12807

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会史 (S)

15431

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:幕末・明治期の京都と社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主として京都を事例としつつ、適宜東京・大阪やその他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	幕末維新期の京都社会(1)　19世紀前半(化政・天保期)	町と町組と惣町、飢饉・災害と救済事業
2	幕末維新期の京都社会(2)　1850年代	開国、京都の政治都市化、災害と復興・救済事業
3	幕末維新期の京都社会(2)　160年代	京都の政治都市化、戦火のなかの京都
4	明治初年の京都社会(1)　1870年代	天皇東幸(車駕東幸)、遷都(奠都)
5	明治初年の京都社会(2)1870年代	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
6	明治初年の京都社会(3)1870年代	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
7	明治中期の京都社会(1)1880年代～90年代	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
8	明治中期の京都社会(2)1880年代～90年代	市制の施行と市制特例、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
9	明治中期の京都社会(3)1880年代～90年代	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
10	明治後期・大正初期の京都社会(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
11	明治後期・大正初期の京都社会(2)	日露戦争と地域社会
12	明治後期・大正初期の京都社会(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
13	明治期京都の社会問題	工業化、貧困、差別、衛生
14	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性の文化
15	大正期の日本の都市社会と京都―まとめにかえて―	工業化の進展、都市計画法、関東大震災

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、十分な準備しておくことが望ましい。
レポート試験	20 %	京都市内の施設(博物館など)をいくつか指定するので、そのうち一つ以上を見学してレポートを提出してもらう。
平常点評価	10 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。

上記の割合は、おおよその目安です。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『みやこの近代』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1378-8 ／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―』	伊藤之雄編著 ／ミネルヴァ書房 ／4-623-04517-X ／2006年4月刊、鈴木の論文も収録
『近代京都研究』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1413-6／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『京都市政史1　市政の形成（叙述編）』	京都市市政史編さん委員会編 ／京都市 ／／2009年3月刊　鈴木も執筆
『京都市政史4　市政の形成（資料編）』	京都市市政史編さん委員会編／京都市 ／／2003年3月刊　鈴木も執筆

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.me.com/hikonyan070424/shakaishi/
本講義関係のサイト（パスワード等は授業時に指示）
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都府立創業資料館　京都北山アーカイブズ

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業時に専用のメールアドレスを指示します。

人口論（S） §　生活構造論（S）

12934

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解・予測しうる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」の水準を評価。

授業進行その他の理由で、授業スケジュール・VTR・DVD視聴日などに変更が生じる場合があります。その時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3 ／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待－少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果 ／中公新書／978-4-12-101910-3 ／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版 ／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を、社会学は「新社会学辞典」（有斐閣,1993）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/ （厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名、key wordを入力してアクセス。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

都市政策論（G）

15335

担当者名 / Instructor　リム・ボン　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考えるー	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	まちづくりの達人	あるスーパー公務員の実践例
第3回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第4回	壊れゆく歴史街	京都の都心部における景観破壊と住民運動
第5回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第6回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第7回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第8回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第9回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第10回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第11回	リサーチデイ	京都の都心部の景観問題に関するフィールドワーク
第12回	都市の危機管理　⇒　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第13回	排斥の町	米国におけるゲーディッド・コミュニティの実態
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	総括	まとめの講義と質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リムボン他編著／学芸出版社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

都市論 (S)

15327

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

都市工学的、社会学的、文化人類学的方法を用いた都市解析の方法も紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の超再生:歴史都市の光と影の分析	歴史都市とは何か、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	平安京の都市設計思想	風水思想、四神相応、右京と左京、権力と都市計画
第3回	京都の町衆と都市構造	応仁の乱、信長と秀吉、都市改造
第4回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	ニューヨーク⑤・グラウンドゼロの復興計画	9・11同時多発テロ、国際コンペ、ダニエル・リベスキンド
第10回	リサーチデイ	平安京の都市構造を体感するためのフィールドワークを実施する。
第11回	建築家と都市計画	ル・コルビュジエの作品群
第12回	都市の地域性と建築文化	アントニオ・ガウディの建築と生涯
第13回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第14回	ヨーロッパの歴史都市	戦争と都市破壊、そして再生へ ⇒ ワルシャワ、ドレスデンなど
第15回	総括	総論としてのまとめ、質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問主題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

可能な限り最新の情報を提供したいので、授業内容が変更されることがあります。

日本経済論（S）

12801

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－日本経済の概況	
2	市民社会と企業社会	
3	大企業体制の2類型	
4	国家財政の動向	
5	勤労者層の賃金構造	
6	同上．労働諸条件	
7	外国人労働者問題の現状	
8	農民層の経済生活条件	
9	中小企業経営の現状	
10	国民の所得構成	
11	同上．資産構成	
12	社会保障の現状と問題点	
13	住宅・土地問題	
14	まとめ	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較政治論（S）

15416

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1980年代以降、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行に伴い、戦後の安定的な経済成長を支えてきた政治経済システムとしての福祉国家は、高失業、貧困や格差の拡大、社会的排除などの新たな課題に直面し、さまざまな政策対応を試みてきた。本講義では、「現代福祉国家の変容」というキーワードのもと、先進諸国に共通する特徴および多様性を把握し、なぜ各国の多様性がもたらされるかを明らかにし、そして今後の改革の方向性を検討することを通じて、政治学の観点から、現代の政治経済システムの特質と動態を理解することを目的とす

到達目標 / Attainment Objectives

・戦後の経済成長を支えてきた段階の政治経済システムの特徴、および、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行という変容圧力に直面した現在の政治経済システムの特徴を理解する
・各段階における先進諸国の多様性を把握し、その背景を理解する
・今後の改革の方向性に関する知見を得る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　比較政治学の課題	特徴の把握と動態の説明
第2回	1　政治経済システムとしての福祉国家－福祉国家の特徴と諸基盤－	福祉国家、埋め込まれたリベラリズム、フォーディズム、戦後コンセンサス
第3回	2　福祉国家の多様性①　北欧諸国	社会民主主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第4回	3　福祉国家の多様性②　アングロサクソン諸国	自由主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第5回	4　福祉国家の多様性③　大陸ヨーロッパ諸国	保守主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第6回	5　福祉国家の多様性④　日本とオセアニア	雇用保障の重視、他の政策手段による社会的保護
第7回	小テストとこれまでの復習	
第8回	6　福祉国家の危機と再編－経済のグローバル化とポスト工業社会への移行－	経済のグローバル化、ポスト工業社会、新しい社会的リスク
第9回	7　福祉国家の危機への対応①　ネオリベラリズム	ネオリベラリズム、新自由主義、新保守主義
第10回	8　福祉国家の危機への対応②　新しい社会民主主義	新しい社会民主主義、第三の道
第11回	9　残された課題と改革の方向性－ベーシックインカムとアクティベーション－	ベーシックインカム、アクティベーション、ワークフェア
第12回	10　比較福祉国家分析の諸アプローチ①　利益中心アプローチ	権力資源動員論、階級交差連合論、資本主義の多様性論
第13回	11　比較福祉国家分析の諸アプローチ②　制度中心アプローチ	福祉国家の新しい政治論、政治制度への注目
第14回	12　比較福祉国家分析の諸アプローチ③　アイデア的要因への注目	新制度論、アイデア的制度論、言説的制度論
第15回	まとめ　現代政治経済システムの特質と動態	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

現代政治経済システムの特質と動態を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階で小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『アクセス比較政治学』	河野勝・岩崎正洋（編）／日本経済評論社、2002年／4818814075／
『比較福祉国家論』	岡沢憲芙・宮本太郎（編）／法律文化社、1997年／4589019973／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介していく。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、比較政治（経済）学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献を参考にしてほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉資本主義の三つの世界』	G・エスピン-アンデルセン（岡沢・宮本監訳）／ミネルヴァ書房、2001年／4623033236／
『曲がり角にきた福祉国家』	C・ピアソン（田中ほか訳）／未来社、1996年／4624300890／
『資本主義国家の未来』	B・ジェソップ（中谷監訳）／御茶の水書房、2005年／4275003926／

講義全体に関する参考文献としては、例えば、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、OECD（www.oecd.org）や政府機関（例えば、総務省統計局www.stat.go.jp、財務省www.mof.go.jp）などのホームページでは、日本や先進諸国の統計情報を得ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

労働社会学 (S)

12759

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況1	
13	各国の失業の状況2	
14	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
15	フリーターについて考える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

グローバルメディア論（S） § グローバルメディア論（I）

15419

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念的枠組みを、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	テロリズムとメディア①	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	テロリズムとメディア②	日本のテロ史、テロを扱った映画
第8回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第9回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第10回	21世紀のメディアの議題設定者	ニュース価値、世界不況
第11回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第12回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ、ツイッター他
第13回	歴史、記憶とメディア	E.H.カー、コリングウッド、テッサ・モーリス＝スズキ他
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア	ヘリテージ産業、コミュニティ、ボードリヤール
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。

・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。
・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／4－623－03618－9／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。11回目以降はテーマが多岐に渡るため、別途指示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化とは何か～文化・経済・政治～	デビッド・ヘルド編／法律文化社／／
グローバリズムという妄想	ジョン・グレイ／日本経済新聞社／／
増補　想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン／NTT出版／／
オリエンタリズム	エドワード・サイード／平凡社／／
批判的想像力のために～グローバル化時代の日本	テッサ・モーリス＝スズキ／大月書店／／

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室の来室。ただし、来室の際は事前にアポイントを取ること。なおメールアドレスは、
khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニケーション政策論（S）

15380

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、ツイッター、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。
・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。

・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室への来室。ただし来室の際は、事前にアポを取ること。
なおメールアドレスは、khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

12771

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	日常に偏在するコミュニティとメディア	地域メディアとコミュニティ・メディア
第2回	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
第3回	コミュニティ・メディア研究と調査	どんな研究視点や方法があるのか−
第4回	コミュニティ・メディアを事例から考える1	地域SNS
第5回	コミュニティ・メディアを事例から考える2	地方新聞
第6回	コミュニティ・メディアを事例から考える3	ラジオ（AM,FM,コミュニティFM）
第7回	コミュニティ・メディアを事例から考える4	有線放送・親子ラジオ
第8回	コミュニティ・メディアを事例から考える5	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
第9回	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
第10回	災害とメディア　その1	災害とメディアの関係性を考える
第11回	災害とメディア　その2	実際の災害とメディア
第12回	災害とメディア　その3	実際の災害とコミュニティ・メディア
第13回	災害とメディア　その4	今後の災害とコミュニティ・メディア
第14回	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
第15回	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題。
平常点評価	0 %	

レジュメは、コースツールに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。
授業当日は、翌週に使用する関連資料及び当日の補足資料を配付する。きちんと予習しておくこと。
ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。
コミュニケーションペーパーは毎回提出を求めるが、成績には無関係。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇　／世界思想社／／
声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

ジャーナリズム論（S）

12880

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明し批評することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波新書（1997） マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	鎌田慧『反骨のジャーナリスト』岩波新書（2002） ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	玉木明『ゴシップと醜聞－三面記事の研究』洋泉社・新書y（2001）、赤瀬川原平『外骨という人がいた！』ちくま文庫（1992） 黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	吉野源三郎『職業としての編集者』岩波新書（1989） 石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室担当記者OB編『皇室報道の舞台裏』角川oneテーマ21（2002） 皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	田勢康弘『政治ジャーナリストの罪と罰』新潮文庫（1994）、大塚将司『スクープ－記者と企業の攻防戦』文春新書（2004） 記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	西山太吉『沖縄密約－「情報犯罪」と日米同盟』岩波新書（2007） 知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	前坂俊之『太平洋戦争と新聞』講談社学術文庫（2007）、石川文洋『報道カメラマン』朝日文庫（1991） 宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	武田徹『戦争報道』ちくま新書（2003）、柴山哲也『戦争報道とアメリカ』PHP新書（2003） 映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	後藤文康『誤報－新聞報道の死角－』岩波新書（1996）、河野義行・浅野健一『松本サリン事件の罪と罰』講談社文庫（2001） 犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	高山文彦『少年犯罪実名報道』文春新書（2002） スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。コースツールを活用して授業内容に関

する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにコースツールに提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	60 %	講義内容に関連した課題レポートを課します。決められた期日までにコースツールに提出することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはコースツールでの提出となりますので、コースツールが使えるようにしておいて下さい。授業期間中に出される課題レポートを提出しなかった場合は出席していないものと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4-272-33045-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内容に関する質問等はいつでも対応します。できるだけその日の授業が終了した時点で声をかけてください。時間がなくその場で十分な対応ができない場合はメール（syt01970@ss.ritsumei.ac.jp）等で対応します。

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請して使えるようにしておいてください。

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ産業論 (S)

15358

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを国民生活の観点から投げかける。具体的には，1980年代から1990年代にかけて，当時の通産省を中心にそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題でなぜ失敗したのかなどについて考える。さらに，市場を優先させたスポーツ・ビジネスを批判する立場から，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視してスポーツの発展を展望していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編　／(財)通商産業調査会 ／ISBN4-8065-2360-7 ／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房 ／ISBN4-313-81401-9 ／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

12817

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

①社会にニュースがどうして必要なのか考えます。
②ニュースがどのように伝えられるのか構造を理解します。
③ニュースが信用されなくなっている原因を探り、解決策を考えましょう。
④テクノロジーの発達とインターネット、マルチメディア化でニュースと社会の関係はどのように変わるか考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし・ニュースとは何か	信用・公共性
第2回	ニュースが信頼されるためのルール	ジャーナリズム・真実・独立・討論
第3回	ニュースが作られるしくみ①新聞とテレビ	マスメディア集中排除原則・再販価格維持制度
第4回	ニュースが作られるしくみ②ビジネスとしての報道機関	購読数・視聴率・
第5回	取材・編集・制作の現場で起きていること	実名と匿名・推定無罪の法理・報道協定
第6回	映像の「約束事」と現実	フレーム・アングル・シーン・字幕
第7回	政治・戦争のニュース	オフレコ・記者クラブ・取材源の秘匿
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・BPO（放送倫理・番組向上機構）
第9回	「公共放送」はなぜ必要か	NHK・BBC・PBS・受信料
第10回	ゲストスピーカーによる講演と討論	詳細は追ってアナウンスします（スケジュール変更の可能性あり）
第11回	コマーシャリズムとジャーナリズム	クロスオーナーシップ・ビデオジャーナリズム
第12回	デジタルでニュースはどう変わるか	地デジ・オンデマンド
第13回	放送と通信の融合がもたらすもの	総務省・電波オークション
第14回	ネットワークとコントロール	オープンソース・コード・プライバシー
第15回	記述問題とまとめの議論（未来のメディアと私たち）	※記述問題の詳細は追ってアナウンスします

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回リーディング・アサインメントがありますので読んでおいて下さい。その内容を前提として授業をします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	形式・詳細はクラスでアナウンスします。
平常点評価	70 %	①最終講義日に行う記述問題（オープンノート・詳細はクラス内でアナウンスします） ②（希望者のみ）リーディング・アサインメントの「ディスカッション・グループ」による発表（詳細はクラス内でアナウンスします） ③クラス内で書くコミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を最低1紙は読んで下さい。テレビのニュースもみてください。最近の時事問題については「常識」と考え、最低限の説明しかしません。インターネットのSNS(TwitterやFacebookなど）も積極的に使ってみて下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp（[at]を@になおして下さい）

その他 / Others

パブリックアクセス論（S）

12806

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目、映像関連科目、現代史関連科目を履修していることが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ/Theme　イントロダクション　パブリックアクセスとは	キーワード/Key Word　メディアの国際化、メディアの細分化（Fragmentation）
第2回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（1）	キーワード/Key Word　情報化社会、近代プロパガンダ理論
第3回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（2）	キーワード/Key Word　政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
第4回	テーマ/Theme　アクセス権の誕生	キーワード/Key Word　ジェローム・バロン、思想の市場論
第5回	テーマ/Theme　アクセス権論の展開　米国と日本	キーワード/Key Word　レッドライオン判決（1969年）、堀部政男
第6回	テーマ/Theme　アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	キーワード/Key Word　メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
第7回	テーマ/Theme　アクセス権の類型（1）　批判・抗議・要求・苦情　および　意見広告	キーワード/Key Word　自主規範　苦情処理委員会
第8回	テーマ/Theme　アクセス権の類型　（2）　反論　および紙面・番組参加	キーワード/Key Word　反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
第9回	テーマ/Theme　メディアアクセスとメディアリテラシー	キーワード/Key Word　フランシス・ペリガン　アクセス論
第10回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス　（1）　背景とテクノロジーの理解	キーワード/Key Word　ケーブルシステム、電磁スペクトル（Electro Magnetic Spectrum）
第11回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス（2）　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	キーワード/Key Word　フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
第12回	テーマ/Theme　ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	キーワード/Key Word　オランダ放送協会（NOS）
第13回	テーマ/Theme　アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	キーワード/Key Word　KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
第14回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセス	キーワード/Key Word　パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア、日本版FCC
第15回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	キーワード/Key Word　情報通信法　ソーシャルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版パブリックアクセスを学ぶ人のために	津田正夫／平塚千尋編／世界思想社／4-7907-1186-2／

教科書と講義内容のポイントを示すレジメを対照させながら、講義前後の学習をしておくこと。またこのほかにも、読んでおくべき著作、または視聴してほしい番組や作品などは適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクセス権とは何か	堀部政男／岩波新書／／
現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
やさしいマスコミ入門:発信する市民への手引き	金山勉／金山智子／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他の参考文献については、講義の際に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパー中にアポイントの希望を記入する、または初回講義で配布するシラバスに記載された教員電子メールあて連絡をすること。

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

12750

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
ただしテストや最終レポートがないからといって決して楽な授業ではないので、以下シラバスに記載してある授業内容や課題等をよく確認してから登録すること。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディ

スカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつける。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。

・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。

・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。

・ QRコードシールを毎回持参すること。シールのないものは減点とする。

・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア技術史（S）

15418

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア社会論 (S)

15377

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「情報化」とはそもそも何なのでしょうか？　この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？	社会理論、相互行為
2	メディアと社会理論(1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ	社会理論、経済理論
3	メディアと社会理論(2)：産業化にはメディアが必要だった---社会の中のメディアの働き	取引コスト、情報管理
4	メディアと経済(1)：通信メディアが私たちを豊かにする	株式市場、システム構築
5	メディアと経済(2)：通信メディアが私たちの仕事を変える	システム構築、インターネット
6	メディアと政治(1)：そもそも政治の働きって？	意思決定、民主制
7	メディアと政治(2)：マスメディアの功罪	マスメディアの失敗、親密性の専制
8	メディアと政治(3)：インターネットは政治をどう変えるか？	報道メディアと論評メディア
9	メディアと政治経済：中間総括および質疑応答	社会学、経済学
10	メディアと人間関係(1)	CMC、SNS(Mixi,Facebook)
11	メディアと人間関係(2)	社会的ネットワーク、信頼
12	インターネット再入門	WWW、ハッカー倫理
13	旧メディアと新メディア(1)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	マスメディア、インターネット
14	旧メディアと新メディア(2)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	報道、一次ソース、専門性
15	メディアについて学ぶために何が必要か、および質疑応答	メディアの社会理論、メディアの経済理論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での補足学習（追加参照文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログを利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	主に論述に明確に答えているかどうか（授業内容の理解度）を評価します。
レポート試験	20 %	一度だけレポートを課します。テーマは講義中に指示します。
平常点評価	0 %	日常点評価は基本的に行いませんが、全体の授業運営の妨害になるような行動、私語等は、他の学生の学習を妨げますから、減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ふだんから社会問題、経済問題に関心を持つようにしましょう。新聞でもよいし、Wikipediaでもよいし、時事問題を解説したブログでもいいです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと社会	秋吉美都、小山友介他／ミネルヴァ書房／／未だ出版予定です。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用のブログを開設する。URLは授業で知らせる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで行う。

mail: tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

メディア文化論（S）

12930

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる（あるいは、「バラエティ」ばかりの）現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ（リアリティ）」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ
2	「観客」から「視聴者」へ	観客、視聴者、舞台
3	舞台の「裏」とはどこか？	視聴者、裏読み、内輪空間
4	「素」を見ることの快楽	素、ヤラセ、モニター
5	画面に映っているのは誰か？	笑い声、パレオTV／ネオTV
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	リアリティ・ショー、監視社会
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	M・フーコー、M・ポスター、パノプティコン
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	監視社会、マス・メディア
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	つながりの社会性、N・ルーマン、コミュニケーション
10	「リアリティ」の作り方・1	捏造、やらせ、情報操作
11	「リアリティ」の作り方・2	洞窟の比喩、、疑似環境、疑似イベント
12	「リアリティ」の作り方・3	フィクション／ノンフィクション、再現、インタビュー
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	実況、時間、想像力
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	実況、空間、想像力
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

小レポート、最終レポートともに、現在放送中のテレビ番組についての課題なので、テレビを視聴・録画する環境を確保しておくこと（「テレビが見られない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す（4000字以上のレポートを予定）。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート（2000字程度）を課す（詳細は授業プリントで提示する）。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて期限までに提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2009年度の「メディア文化論」単位取得率（単位取得者÷履修登録者）は67.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係』	太田省一／青弓社／／
『嗤う日本の「ナショナリズム」』	北田暁大／NHKブックス／／
『広告都市・東京』	北田暁大／廣済堂／／
『窓あるいは鏡　ネオTV的日常生活批判』	水島久光×西兼志／慶應義塾大学出版会／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15463

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの歴史や社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、イントロダクション：戦後の世界と映画の状況	第二次世界大戦 ネオリアリスモ
第2回	日本映画の50年代	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	1950年代の日本における外国映画と日本映画	GHQ, ランナウェイ・プロダクション
第4回	フランスのヌーヴェルバーグとその周辺	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	1950年代までのアメリカ社会とアメリカ映画	スタジオ・システム、パラマウント判決
第6回	アメリカン・ニューシネマからニューハリウッドへ	プロダクション・コード、レイティング・システム
第7回	1960年代と韓国黄金期	メロドラマ、家父長制
第8回	1960年代の東アジアを越境する映画	香港映画、韓国映画、インド映画
第9回	香港映画のニューウェイヴと中国返還前後	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第10回	1980年代以降の中国映画	文化大革命、第五世代
第11回	台湾ニューシネマの誕生とその後	植民地主義、戒厳令解除
第12回	1990年代以降の韓国映画	映画振興法、スクリーンクォーター
第13回	ナショナルシネマとしてのイラン映画	イスラム革命、児童映画、宗教と映画
第14回	インド映画：日本のおけるブームとその現在	ボリウッド、マサラムービー
第15回	まとめ：越境する映画	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	30 %	授業中あるいは授業外に数回のエッセイを課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
天皇と接吻　～アメリカ占領下の日本映画検閲	平野共余子／草思社／／
偽りの民主主義　～GHQ・映画・歌舞伎の戦後秘史	浜野保樹／角川書店／／
男たちの絆、アジア映画	斉藤綾子編　／平凡社 ／／

中国映画　－百年を描く、百年を読む－	藤井省三／岩波書店／／
台湾映画のすべて	戸張東夫／廖金鳳／陳儒修／丸善／／
インド映画への招待状	杉本良男／青弓社／／
イタリア映画史入門1905-2003	ジャン・ピエロ・ブルネッタ(川本英明訳)／鳥影社／／
アジアのなかの日本映画	四方田犬彦／岩波書店／／

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

12813

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	
4	モンタージュ論	
5	作家主義論	
6～7	タルコフスキーのショット論	
8	映画と言語論	
9～10	映画と構造論	
11～12	映画と時間論	
13	映画と解釈学	
14～15	映画と言語ゲーム論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映像ジャーナリズム論（S） § 映像プロデュース論（S） § 映像ジャーナリズム論（W）

15465

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画やテレビなどの映像によるジャーナリズム活動は、新聞などによる活字のジャーナリズム活動とは違った形で発展してきている。本講義では、まず、映像ジャーナリズムの流れが生まれる前の段階でニュース映画という形態があり、そこにはエンターテインメント性が強く反映されていたことなどについて歴史的にみてゆく。その上で、映像が国家的なプロパガンダを推進するための道具として用いられた時期を経て、最終的にはテレビ映像によるジャーナリズムが誕生してゆく段階を追ってゆく。世界的にさまざまな形態で映像ジャーナリズムが発展してきたが、講義では、特に米国のテレビ・ジャーナリズムの流れについて時間を割くこととする。

1980年代、衛星放送や衛星通信が、東欧の民主化に影響を与えたことなども取り上げ、その中で、映像ジャーナリズムに新しいテクノロジーがどのようなインパクトを与えたかについても考える。さらに新しいテクノロジーが今日の日本の映像ジャーナリズムの現場に、どのような変化を与えようとしているについても検討する。受講生には、映像ジャーナリズムの歴史的変遷を踏まえた上で、映像ジャーナリズムの今日的な課題について、踏み込んで考えてもらえるようになって欲しい。

到達目標 / Attainment Objectives

・映像ジャーナリズムが誕生した歴史的背景が理解できる
・日本や世界の国々において映像ジャーナリズムが直面している課題を理解する
・新しいテクノロジーが映像ジャーナリズムに与えるインパクトについて理解を深める

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目、映像関連科目、現代史関連科目を履修していることが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ/Theme　イントロダクション　映像メディア環境の変化と映像ジャーナリズム	キーワード/Key Word　メディアの国際化、メディア資本の集中
第2回	テーマ/Theme　映像の始まりとエンターテインメント性との関係	キーワード/Key Word　リュミエール兄弟、エジソン、ニュース映画
第3回	テーマ/Theme　映像にジャーナリズム性がどのように加わってきたか	キーワード/Key Word　映画、プロパガンダ、大衆説得
第4回	テーマ/Theme　米国ジャーナリズムの起源と展開（1）	キーワード/Key Word　コロニアルプレス、ペニープレス
第5回	テーマ/Theme　米国ジャーナリズムの起源と展開（2）	キーワード/Key Word　ピューリッツアー、ハースト、客観報道
第6回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（1）　米国ラジオ放送の起源とラジオ・ジャーナリズム	キーワード/Key Word　ラジオの起源、ウェスティングハウス、KDKA、1920年アメリカ大統領選挙速報
第7回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（2）テレビ・ジャーナリズムの誕生とニュース・アンカーたち	キーワード/Key Word　エド・マロー、マッカーシズム、ウォルター・クロンカイト、田　英夫、ベトナム戦争報道
第8回	テーマ/Theme　電子メディアの台頭と発展（3）現代の映像ジャーナリズムを支えたニュース・アンカーたち	キーワード/Key Word　ピーター・ジェニングス、ダン・ラザー、トム・ブロコウ
第9回	テーマ/Theme　映像ジャーナリズムが受けた挑戦　メディア・コントロール	キーワード/Key Word　スピン、ハバード・シラー、ノーム・チョムスキー、ロバート・マクチェスニー、ポリティカル・エコノミー
第10回	テーマ/Theme　ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その1	キーワード/Key Word　Media Organization、Source-Reporter Relationships、Simple Gatekeeping Model
第11回	テーマ/Theme　ジャーナリズムとメディアに関する基礎的理論　その2	キーワード/Key Word　Gultung and Ruge's Model、Contexts of News Making
第12回	テーマ/Theme テクノロジーが映像ジャーナリズム活動に与えたインパクト	キーワード/Key Word アーサー・クラーク、geosynchronous orbit、衛星放送、CNN、DBS
第13回	テーマ/Theme　日本の映像ジャーナリズムの台頭と変遷　新聞ジャーナリズムvs.映像ジャーナリズム	キーワード/Key Word　日本型映像ジャーナリズム、市民発信、市民記者、パブリックアクセス
第14回	テーマ/Theme　テレビ・ジャーナリズムが政治を動かす時代　1980年代～	キーワード/Key Word　サンデーポリティクス、プライムタイムニュース競争
第15回	テーマ/Theme　まとめ　映像ジャーナリズムの未来	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講生は、日常的に映像ジャーナリズムに連なるニュース番組やドキュメンタリーなどを講義前に視聴し、独自の視点で、こだわりをもってそれらを批評できるような力を備えるように努力して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	映像ジャーナリズムを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しないが、講義内容のポイントを示すレジメの配布を通じて読んでおくべき著作や視聴してほしい番組や作品などを紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代ジャーナリズムを学ぶ人のために	田村紀雄・林利隆・大井眞二編 ／世界思想社／4790710564 ／
映像情報論	今村庸一／丸善／4621071408／
テレビの自画像	桜井均 ／筑摩書房／448004244X ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパー中にアポイントの希望を記入するか、または初回講義で配布するシラバスに記載された教員電子メールあて連絡をすること。

その他 / Others

映像メディア分析（S）§　メディア・リテラシー論II（G）

15426

担当者名 / Instructor　篠木 涼

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画、テレビ、DVD、TVゲーム、メディアアート、インターネット動画など20世紀後半から映像メディアとその経験の有り様は、大きく変容してきている。19世紀末に登場した映画から、現代のコンピュータを使用したニューメディアまでの映像メディアを理解するうえで必要となるコンセプトを解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

現代までの変化する多様な映像メディアの状況、そしてそれが我々の経験と文化をどのようにして作りあげていくのかを理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明 映像メディアとその文化について
第二回	映画の世紀	アトラクション、スペクタクル、物語
第三回	テレビの登場	メディア・イベントと全体性の経験
第四回	ミュージックビデオとポストモダニズム①	ポストモダニズムとミュージックビデオ
第五回	ミュージックビデオとポストモダニズム②	MTVの登場とミュージックビデオ文化
第六回	DVDと映画経験の変容	インタラクティヴィティとコントロールの欲望
第七回	ニューメディアとデータベース①	レフ・マノヴィッチとデータベースの文化
第八回	ニューメディアとデータベース②	データベースによる物語性の変化
第九回	収束するメディア①	ヘンリー・ジェンキンスと収束する文化
第十回	収束するメディア②	デジタル革命から収束するメディアへ
第十一回	YOUTUBEと参加型文化①	YOUTUBEの登場と参加型文化
第十二回	YOUTUBEと参加型文化②	YOUTUBEと「ポピュラー」文化の二重性
第十三回	YOUTUBEと参加型文化③	YOUTUBEの参加型文化と文化の政治
第十四回	YOUTUBEと参加型文化④	YOUTUBEのグローバリゼーションとローカリゼーション
第十五回	到達度テストとコースのまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終的な到達度テスト（70%） 小レポート（30%）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映像論序説＜デジタル／アナログ＞を越えて	北野圭介／人文書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールによる。

その他 / Others

映像表現論（S）

12778

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第七芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、第二次世界大戦までの時代を中心に、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・115年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像の文法1：記号としての映像	シニフィアンとシニフィエ、デノテーションとコノテーション
第3回目	映像の文法2：映画の空間と時間の統辞法	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義と映画	ウーファ、第一次世界大戦、「カリガリからヒトラーへ」
第6回目	プロパガンダと映画1：ドイツの映画利用	第3帝国、映画法、レニ・リーフェンシュタール
第7回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会	内田土夢、傾向映画、無声映画
第8回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド	combat film、教育映画
第9回目	プロパガンダと映画3：日本における戦時の映画利用	ニュース映画、文化映画、映画法
第10回目	プロパガンダと映画4：「満州」と映画	満州映画協会、大陸映画、李香蘭
第11回目	プロパガンダと映画5：アニメーションと笑い	アニメキャラクター、桃太郎、ミッキーマウス
第12回目	プロパガンダと映画6：植民地支配と映画　①台湾と日本	植民地主義、映画政策、現地製作映画
第13回目	プロパガンダと映画7：②朝鮮と日本	植民地主義、映画政策、国民映画
第14回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第15回目	まとめ：映像表現とは何か。禁止された映画を中心に考える。	映像表現、実験映像、フィクションとノンフィクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	50 %	授業中に受講エッセイを、授業外に小レポートを数回課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討した後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
映画映像史	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
ワールド・シネマ・ヒストリー	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。
映画と「大東亜共栄圏」	岩本憲児編／森話社／4916087453／アジア諸国における植民地主義と映画の状況糊化に役立つ。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

活字メディア論（G）

12874

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の状況を紹介するとともに、過去・現在の重大ニュースを通じて活字メディアの社会的役割と課題を考えていく。講師の政治・行政・司法分野を中心とした新聞記者経験を交えながら分かりやすく講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会で活字メディアが果たすべき役割をきちんと理解する。そのうえでニュースの価値や背景を自分なりに読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア（新聞・出版）の現状	読者離れ、経営危機、出版不況、電子新聞
2	活字メディアの歴史	活版印刷、表現の自由、言論弾圧、不偏不党、民主主義、
3	他メディアとの比較	速報性、詳報性、テレビ、ネット、連携と融合
4	ジャーナリズム性	権力監視、ジャーナリスト、組織と個人、パブリック・ジャーナリズム
5	ニュースとはなんだ	価値観、伝えるべき事柄、スクープ、調査報道
6	政治報道	番記者、政治記事の作られ方、政治家の思惑、政党、民主党政権
7	選挙報道	公平・正確、公職選挙法、政局より政策、政党のメディア操作
8	官僚と政策	官僚主導、政治主導、財務省の力、予算編成、民主党政権
9	自治と地域主権	地方分権、民主主義、市町村合併、国から地域へ、地方議会、住民自治
10	事件報道	犯罪報道の意義、警察・検察・裁判所、人権尊重、匿名社会、裁判員制度
11	大災害報道	阪神・淡路大震災、報道の視点、被災者に寄り添う、減災報道
12	戦争報道	イラク戦争、ベトナム戦争、情報捜査、エンベッド方式、現地主義
13	活字メディアの怠慢	ハンセン病、らい予防法、強制隔離、憲法違反、小笠原登医師
14	メディア規制	メディアスクラム、個人情報保護法、人権擁護法案、自主規制と限界
15	活字メディアの将来	メディアリテラシー、市民主権、読者との距離、新聞・出版の大変革

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連して提示するテーマについて自身の考えを記述する。考えの中身と、その内容が説得力をもってきちんと展開できているかを評価する。
平常点評価	50 %	6回目と11回目前後に、授業中に提示したテーマで小レポートを簡潔に書いてもらう。400字程度。テーマの理解度と、言いたいことが論旨明快に書いてあるか評価する。授業態度も評価対象。

小レポートがいつあってもよいように、鉛筆かシャープペン、消しゴムを持参しておくこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限、日々のニュース（国際問題、政治の動き、地元京都のタイムリーな話題まで）を新聞を読んで理解しておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／／
ジャーナリズムの可能性	原寿雄／岩波新書／／
新聞再生	畑仲哲雄／平凡社新書／／
実践ジャーナリスト養成講座	花田達朗ほか／平凡社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　leeron333jingjie@nifty.com

その他 / Others

マスコミ界に進みたい人は、いろいろ相談に乗ります。メールでも授業後でも声をかけてください。

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S） § （副）環境と人間IV（F）

12815

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 （climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース： An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中に適宜、質問用紙を配布する。また、授業後、直接、担当者に、質問してください。

その他 / Others

言語文化論（S） § 言語コミュニケーション論（S）

15467

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

広告論 (S)

12766

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ポジショニング、ターゲティング
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター&パーシー・ベルマン・グリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	40 %	不定期に授業内で課題を課す

課題はほぼ毎回行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合、あるいは講義外で行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。
授業外での学習を促すために、次週に提出の課題を行う場合もあるため、十分な予習・復習の時間をとれることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPage.dowebct
質問がある場合には、基本的に直接教員にメールで行うこと(教員のアドレス：koizumi@ss.ritsumei.ac.jp)。一般的な広告理論、広告業界等に関する質問については、他学生と共有すべきと考えるため、教員のブログにて回答を行う。
http://hidekoizumi.cocolog-nifty.com/blog/

その他 / Others

特になし

国際ジャーナリズム論 (S)

12892

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・ボーダーレス社会の中でニュースや情報がどのように流通しているのか構造を理解します。
・世界のさまざまな政治経済体制の国々でどのようにジャーナリズムが権力監視の役割を果たしたり、基本的人権が危機に瀕しているかを理解します。
・ICT社会、ネットワーク社会で情報がどのようにやりとりされ、テクノロジーの発達でプライバシーや表現の自由などがどのような影響を受けているのか理解します。
・国内ではなされていない議論などもカバーするため英語の文献も読んでもらいます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ニュース論（国際ジャーナリズム論の方が応用編です）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入の議論・カルチャーギャップ・ジャーナリズムの基本的考え方	異文化コミュニケーション・カルチャーショック・ジャーナリズム・ニュース
第2回	日本の報道機関は外国のニュースをどのように伝えているか	ニュースソース・通信社・衛星放送
第3回	権力とメディア	権力の監視・メディアコントロール・スピンコントロール
第4回	戦争とメディア	湾岸戦争・イラク戦争・埋め込み型（エンベッド）ジャーナリスト・テロ
第5回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース（1）	ニュースバリュー・検閲
第6回	表現の自由のない国で／忘れ去られたニュース（2）	メディア規制・インターネット
第7回	メディアビジネスとニュース	フリーペーパー・ウェブニュース・コングロマリット
第8回	公共放送のモデル	BBC・NHK・PBS・ダウニング街メモ・番組改編事件
第9回	ゲストスピーカーによる講演と討論	日程変更の可能性あり・ゲストは追ってアナウンスします
第10回	メディアの倫理をいかに守るか	ニュース分析・ジャーナリズム理論・シビックジャーナリズム
第11回	日本は世界からどう見られているか（1）	記者クラブ・皇室問題
第12回	日本は世界からどう見られているか（2）	クールジャパン・コンテンツビジネス
第13回	ニュースの新しい形	ブログ・コンテンツアグレゲーター・SNS
第14回	インターネットとコントロール・創造的な社会と著作権	プライバシー・コード・ボット・
第15回	記述問題とまとめの議論	※問題の要領と詳細は追ってアナウンスします

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回英語のリーディング・アサインメントがあります。授業内の議論に必要ですので読んで来て下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①最終講義日に行う記述問題（オープンノート・詳細はクラス内でアナウンスします） ②（希望者のみ）リーディング・アサインメントの「ディスカッション・グループ」による発表（詳細はクラス内でアナウンスします） ③クラス内で書くコミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を最低1紙は読んで下さい。テレビのニュースも見て下さい。最近の時事問題については「常識」と考え、最低限の説明しかしません。
インターネットのSNS(TwitterやFacebookなど）も積極的に使ってみて下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

BBC（英国放送協会）：www.bbc.co.uk

PBS（米公共放送）Newshour with Jim Lehrer；www.pbs.org/newshour/
Reporters sans Frontier（国境なき記者団）：www.rsf.org
Project for Excellence in Journalism（優れたジャーナリズムのためのプロジェクト）：www.journalism.org
Committee of Concerned Journalists（危惧するジャーナリストたち）：www.ccj.org

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp（[at]を@になおして下さい）

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

12751

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業デザインを考察するうえで商業的な映像表現としてもっともポピュラーな映画を取り上げます。そして、この映画というメディアをフォーマリズムという視点から読み解いていきます。フォーマリズムは、一般的には、視覚造形作品に限定されたものの見方であるとされていますが、これを映画にも適用できることをみていきながら、広く芸術一般を「ヴィジョン」と「デザイン」の観点から考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

フォーマリズムというものの見方を取得し、このフォーマリズムの観点から現代の視覚芸術に向けられる「ヴィジョン」とそこで実現されている「デザイン」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像表現、映画を扱う科目を合わせて履修すると理解に役立つでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	産業革命、芸術、デザイン、メディアの変容
第2回	モダンデザインの展開	アカデミズム、モダニズム、デザイン工芸運動
第3回	様式論とフォーマリズム	作品、内容と形式、デザイン
第4回	リアリズムとフォーマリズム	映画理論、作品鑑賞
第5回	物語と語り口	作品、産業、物語構造、しかけ
第6回	作者とは何か	作者論、作家主義、監督
第7回	作家主義の映画批評	テーマの統一性、スタイルの統一性
第8回	作家主義の映画作品	現実と虚構、作者と創造性
第9回	映画ジャンルの成立	ジャンルの機能
第10回	メロドラマの記述と機能	メロドラマ、サブジャンル
第11回	ジャンル批評の問題点	芸術作品を社会、現代芸術とジャンル
第12回	批評の歴史	美術批評、美術ジャーナリズム
第13回	批評の役割	作り手、受けて、メディアとしての作品
第14回	評論の分析	4つの機能、4つの構成要素、評価
第15回	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の方法：毎回テキストを使用します。随時、パワーポイント、DVDを使用します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・不定期に授業内にコメントの記載を求めます。その内容や質疑などから授業に対する意欲を参照します。 ・第15回講義日に学習到達度を最終的に確認するテストを行います。

積極的な受講態度を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フィルム・スタディーズ入門―映画を学ぶ楽しみ―』	ウォーレン・バックランド／晃洋書房／4771018588／毎回使用します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎授業後、質問等を受け付けます。

その他 / Others

子どもとメディア（S）

15458

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代の子どもは、テレビやラジオ・新聞・雑誌・映画といった従来のメディアのほか、ゲームやインターネットなどのデジタル・メディアに囲まれて育っている。本講義では、子どもとメディアのかかわりについて、社会・教育・心理学的見地から考察する。また、子どもが接している様々なメディアを実際に授業中に参照し分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

・「メディアが子どもの日常生活においてどのような役割を果たしているのか」、「子どもはメディアをどのように理解し使用しているのか」、「メディアが子どもの成長にどのような影響を与えるのか」、といったメディアと子どもについての基本的な事柄について理解する。
・子どもにメディアを教えるにあたり、メディア・リテラシーの基本的な概念や教育の実践についての基礎的な知識を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	「私のメディア史」（子ども時代に接したメディアを振り返る）
第2回目	子どものメディア環境： 子ども時代の変化	子ども、子ども時代、子どものメディア利用実態
第3回目	子どもの発育、行動、モラル形成とメディア	乳幼児のメディア理解、幼児用教育番組の効果
第4回目	子どもとポピュラー・カルチャー	ポピュラー・カルチャーと子どものアイデンティティ形成
第5回目	メディアと暴力	メディアに描かれるバイオレンスとその影響
第6回目	メディアとジェンダー	メディアに描かれる「女の子らしさ・男の子らしさ」
第7回目	消費者としての子ども（1）テレビ番組	消費社会と子ども、ブランド・ロイヤルティー
第8回目	消費者としての子ども（2）広告	子どもへのマーケティング、大量消費社会とメディア
第9回目	デジタル時代の子ども： インターネットと子どものメディア発信	ネットいじめ
第10回目	子どもの権利とメディア	権利主体としての子どもと子ども向けメディア
第11回目	子どもにメディアを教える（1）	メディア・リテラシー、メディア教育とは何か
第12回目	子どもにメディアを教える（2）	メディア・リテラシーの基本概念
第13回目	子どもにメディアを教える（3）	メディア教育の実践
第14回目	子どもにメディアを教える（4）	メディア教育の課題
第15回目	検証テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日常生活において、自分が使うメディアや子供向けのメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①検証テスト（40%） 最終回の授業で、それまでの授業内容の理解度とそれを踏まえて自分の考えを記述できるかどうかを確認する検証テストを実施する。 ②コミュニケーション・ペーパー（60%） 授業中に毎回A4用紙一枚程度のコミュニケーションペーパーを課す。内容はメディア分析や小レポートなど。0～5点で評価する。単に出席しただけでは点数がつかないので注意。

・授業の内容をよく理解した上で、メディア分析や授業内に提示された課題等に積極的に取り組むことが望まれる。コミュニケーション・ペーパーはその出来によって評価し、0～5点の点数をつける。
・毎回QRコードシールを持参すること。シールのないものは減点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講義だけではなく、子ども向けのメディアを分析したり自分なりの考察を深めるなど、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。
・初回に授業の進め方、試験、評価方法などの詳細な説明とともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。
・遅刻は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処する。レジュメや資料等も授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメと参考文献リストを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと人間の発達　－　テレビ、テレビゲーム、インターネット、そしてロボットの心理的影響	坂元章編／学文社／4762012629／
Children, adolescents, & the media	Victor C. Strasburger & Barbara J.Wilson／Sage Publications／0761921257／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーを伸ばす国語の授業　小学校編	児童言語研究会編／一光社／4752810514／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

The International Clearing House on Children, Youth, & Media http://www.nordicom.gu.se/clearinghouse.php

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

社会思想 (S)

15415

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題圏、はますます複雑かつ矛盾を内包する分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「環境思想」や「働く事（労働）の人間的意味」などの課題を、自由論・平等論・社会契約論など社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題に基づき、現代社会を把握する「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい思考能力・論述能力を身につけるための努力を期待する。マイナスをプラスに、ピンチをチャンスに変換するための柔軟かつ強靭な思考力の獲得を目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会（科）学の基礎理論。社会（科）学の歴史。社会理論系の科目。とくに環境論、労働論、自由論などの基礎知識。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	シラバス解説、評価方法、参考文献紹介
2	環境思想総論と基本的課題	ディープ・エコロジー・COP15
3	「自然の権利」と環境思想	「自然の権利」
4	「環境的正義」の思想	社会契約論、平等論、正義論
5	「持続可能な成長」と環境思想	持続的成長社会、「不公平・不利益をこうむるリスク」
6	「人間の安全保障」と環境思想	Human Security（HS）、自然権、生存権
7	中間まとめ　小論文　質疑・討論	小論文課題「前半の講義で最も関心を持ったテーマについて小論文にまとめなさい」、字数1200程度。文献資料等の持込可。
8	社会思想と「労働」の意味	「労働思想」「ホモ・ファーベル（工作人・制作人）」論、人間労働論の形成
9	「労働思想」の展開、「宗教と労働」	宗教における労働・職業意識
10	近代社会と「労働思想」の発展	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の形成
11	現代社会と「労働思想」の諸問題	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の再検討
12	社会思想と「自由」の諸問題	「自由」の思想史的背景
13	近代社会と「自由」	理念としての「自由」VS　現実としての「自由」（B.クローチェ）
14	近代社会と「自由」	思考としての「自由」VS　行動(実践)としての「自由」
15	現代社会と「自由」・講義まとめ	期末レポート注意事項（詳細は掲示事項を参照）「感想文・エッセイとレポート・論文との違い」を自覚して作成すること。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ（たとえばステレオタイプの実例など）についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	40 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。CPなどでの質問やコメントを歓迎します。すぐれた質問やコメントは平常点に加算します。CPは出席カードではないので、氏名以外の文章記述が無いものや、きわめて不十分なものはCPとしての平常点評価は行いません。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レ

ポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。このシラバスを熟読して欲しい。シラバスは受講生の学習･研究を支援するためのものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど文章力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境思想とはなにか	松野弘／ちくま新書／／環境思想論の基本的文献
環境思想を学ぶ人のために	加茂直樹／世界思想社／／環境思想論の解説書
緑の政治思想	ドブソン／ミネルヴァ書房／／現代的環境思想論の基本文献
ホモ・ファーベル	ティルゲル／社会評論社／／人間労働に関する文明論的な解説書
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／前書の意義についての論文を収録
近代の労働観	今村仁司／岩波新書／／近代的労働観の概説
働くことの意味	橘木俊詔／ミネルヴァ書房／／現代的労働･職業意識の考察
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	ヴェーバー／岩波文庫／／労働観・職業観についての古典的名著
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／未来社／／近代史における自由の意義を考察
19世紀ヨーロッパ史	クローチェ／創元社／／19世紀ヨーロッパにおける「自由」論の考察
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法大出版／／「思想としての自由」論の意義を考察

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。環境思想、労働観･職業観・自由論に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。CPでの質問も歓迎します。次の講義においてレプライの時間を設けます。大規模講義なので、講義内での質疑だけでは時間的な制約のため不十分なので、CPを活用して、レプライの時間を講義に組み込みます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本講義でとりあげるテーマは日本語だけでなく海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。小論文や期末レポートでの不正行為（コピペや盗作など）は、厳禁します。発覚した場合は失格とします。不十分でも自己の努力で作成してください。自力作成にはかならず達成感という喜びを実感する事ができます。

社会倫理学（S）

15366

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業を試みたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己自身の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験 ・記憶・村上春樹の文学
2	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化 、空虚化と暴力による補償的存在充実、村上春樹の文学、三島由紀夫の文学
3	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認 村上春樹の文学、三島由紀夫の文学, ジョン・レノンの歌Strowberryfield for ever
4	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊 、可能性意識の縮減と孤立感、仲間性の人間学
5	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌 Oh my love , Love	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
6	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟、ジョン・レノンの歌Mother　Help
7	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
8	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
9	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
10	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
11	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
12	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換、黒澤明作品「生きる」
13	実存と意味欲求	実存、意味、ニーチェ
14	文学と倫理　三島由紀夫と村上春樹のあいだによこたわるものとしてのニーチェ	三島由紀夫、村上春樹、ニーチェ
15	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	

平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出数 授業中に出すミニレポート課題への取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど、別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

立命館大学生協書籍部で販売

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kiyoshi@kindai.ac.jp

その他 / Others

情報経済論（S）

15332

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成、デジタル・コンテンツの普及により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造は変革を余儀なくされている。このような変革にともなって引き起こされるさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・経済活動の情報化・ネットワーク化の実態について理解できる
・情報経済を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・経済の情報化・ネットワーク化がもたらす社会的影響について理解できる
・情報経済化に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネスモデル
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、情報財
第5回	企業・消費者間（BtoC）のEC(3)	コンテンツ産業、ビジネスモデル
第6回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、効果測定指標
第7回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第8回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、収穫逓増
第9回	ECの技術的基盤(1)　情報処理形態と通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク、インターネット
第10回	ECの技術的基盤(2)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	電子マネー、企業ポイント
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID、トレーサビリティ、トラッキング
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	ビジネスモデル、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義内容に関する具体的事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
eビジネスの教科書	幡鎌 博 ／創成社／4794422849／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第8回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／内容的には古くなったがIT革命がもたらした意義についてわかりやすくまとめている
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第4版	高橋和之，松井茂記、鈴木秀美／有斐閣／4641130639／第14、15回の講義内容の理解が深まる
モバイルバリュー・ビジネス	NTTドコモモバイル社会研究所（編）／中央経済社／4502662402／第11回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCT　http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

情報法（G） § 情報法（Q）

15109

担当者名 / Instructor　福島 力洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高度情報通信社会において情報流通に伴って生じる様々な法的諸問題について、基本的人権としての表現の自由に関する基本的理解を踏まえつつ、現行の枠組みの意義と限界等も視野に入れながら講ずることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

情報流通をめぐる法的問題について、説得力ある理由付けを伴って（＝単なる独りよがりではない）、自分なりの結論を下すことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法（基本的人権）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要説明、講義の進め方、アンケート実施	
第2講	表現の自由総論（1）	
第3講	表現の自由総論（2）	
第4講	名誉毀損	
第5講	プライバシー侵害	
第6講	個人情報保護	
第7講	人格権侵害と救済	
第8講	性表現	
第9講	放送	
第10講	インターネット	
第11講	情報媒介者の責任	
第12講	ﾒﾃﾞｨｱの融合と規制	
第13講	取材の自由（1）	
第14講	取材の自由（2）	
第15講	情報公開	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・随時提示される小括的な問いに関し、参考書指定文献等を参照しつつ、自分の言葉で説明できるようなアウトプットを行うこと
・授業中に触れる諸判例について、概要と判旨の確認、授業担当者とは違った視線からの解説に触れること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	問題点を法的に分析し、それに対し説得力ある理由付けを伴った結論を下せているかどうか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞や雑誌、放送、インターネットなど、身の回りにあるメディアのあり方について、単なる一利用者から脱却し、一歩はなれたところから眺めてみて、「何かおかしい」と思うところを見つけてください。それが学習のスタート地点です。

教科書 / Textbooks

教科書は特定のものは指定しないが、下記参考書が準教科書としての位置づけとなる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ﾒﾃﾞｨｱ判例百選	服部政男・長谷部恭男編／有斐閣 ／464111479X ／
情報法（改正版）	宇賀克也・長谷部恭男編　／放送大学教育振興会 ／9784595126154 ／
マスメディア法入門	松井茂記　／日本評論者 ／4535513643 ／

教科書として位置づける。また「事業外学習の指示」参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15466

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察の眼が反映しているのか。本講義は観察者の存在を重視した17世紀オランダ絵画を出発点として、近代の自然描写を中心に社会史・思想史のコンテクストにおいて考察する。ヘダ、レンブラント、フリードリヒ、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、カンディンスキー、モンドリアン、ポロック、ボイス、リヒター、キーファー、杉本博司など17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、近代以降の観察者の立場の変容を考察し、今日の視覚文化の諸前提を問う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品の主題を読み取り、時代の思想・世界観を知る。
主観的な感情移入や解釈を排し、客観的に作品を観察する力、ひいてはイメージに対する批判的思考力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	芸術作品における観察の眼と自然観における歴史的経緯
第2回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　静物画
第3回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　肖像画
第4回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　風景画
第5回	近代の自然観	近代の風景像の概観（1） 美術史、美学における自然観―カント、アドルノ、リオタール他
第6回	近代の自然観	近代の風景像の概観（2） 美術史、美学における自然観―ベルティング、ベーメ他
第7回	近代の自然観	19世紀初期　ドイツ・ロマン主義
第8回	近代の自然観	19世紀後期　印象主義
第9回	近代の自然観	19世紀後期　ポスト印象主義
第10回	近代の自然観	19世紀末　象徴主義
第11回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第12回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第13回	近代の自然観	20世紀後期　抽象表現主義
第14回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート
第15回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

美術館、博物館などで、オリジナル作品を観察することを習慣づけ、
芸術作品を趣味ではなく、研究、調査の対象として捉えたレポートを評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
C.D.フリードリヒ：「画家のアトリエからの眺め」――視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
ドイツ・ロマン派風景画論：新しい風景画への模索	神林恒道・仲間裕子／三元社／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／
描写の芸術：一七世紀のオランダ絵画	スヴェトラーナ・アルパース著；幸福輝訳／ありな書房／／
「思想」 2009年10月号	仲間裕子他／岩波書店／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジア文化論 (S)

12888

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教文化	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅の文化	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	日・中・韓の住まい文化	
第10回	アジアの仏教文化	
第11回	本学の留学生との討論と交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	お祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末試験に代わる最終レポートは60%なので、提出しなければならない。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)
平常点評価	40 %	日常的な取り組みや出席40%。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材。授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編 ／時潮社／／
『韓国人の心』	李御／ 学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学／白帝社／／

現代中国、韓国を知るには大変役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室：　尚学館3F　3850号室
電　話：　直通075－466－3132　内線3850
メール：　wen-chux@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ規範論 (S)

15407

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇の社会史」「スポーツ史」「スポーツ社会学」「比較スポーツ論」を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	第1章 2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	第2章 明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	第2章 明示的ルール	同上
第5週	第2章 明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	第2章 明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)明示的ルールを支えるモラル
第8週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されない」プレイの逆進性
第9週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領:スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理 (5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	第4章 現代スポーツモラルの動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	第4章現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	第5章 スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義:優勝劣敗主義は必然化？
第14週	第5章 スポーツの競争と交流	第5章 『競い合い』方の美学
第15週	第5章 スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツの「ルール」とモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

「スポーツ規範論」(文理閣)を出版予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄 ／有斐閣 ／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー ／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ産業論 (S)

15358

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを国民生活の観点から投げかける。具体的には，1980年代から1990年代にかけて，当時の通産省を中心にそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題でなぜ失敗したのかなどについて考える。さらに，市場を優先させたスポーツ・ビジネスを批判する立場から，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視してスポーツの発展を展望していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編　／(財)通商産業調査会 ／ISBN4-8065-2360-7 ／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房 ／ISBN4-313-81401-9 ／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

12809

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。このような問いに答えるため、本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的な研究や理論の紹介を行い、社会学の視角を入れることで、何が、どのように見えてくるのかを示すことにしたい。
またこの講義では、同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかについても示していくこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見　方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。

・現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることをこ　の講義の最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また　は並行して受講することで理解が深まります。受講している他の科目すべてを相互に関連づけて、有機的　に学んでください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデユーとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル･スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化と社会的基盤の変化	企業スポーツ、第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨事前に授業時にアナウンスする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。
日本スポーツ社会学会の学会誌『スポーツ社会学研究』が図書館に入っているので、各号の興味のある論文を読むことをお勧めします。スポー

ツの柔らかい評論ものではなくて、スポーツをアカデミックに社会学するとはどのようなものか理解できると思います。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える
スポーツ社会学研究（各巻）	日本スポーツ社会学会／創文企画／4-921164-90-4／1巻から13巻までは法政大学出版

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ文化論 (S)

12740

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源 (2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c）機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社 ／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

演劇論 (S)

15379

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンスI	オリエンタリズムー『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』
4	帝国のロマンスII	オリエンタリズムと植民地言説、『ミス・サイゴン』
5	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
6	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているのか
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信、寺山修司
8	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司と岸田理生の「身毒丸」
9	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
10	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
11	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
12	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
13	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュのコリオグラフィー
14	90年代の日本の現代演劇から	萩尾望都の漫画「半神」と野田秀樹の舞台化
15	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクスト『ディクテ』の舞台化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。
※日常点評価40%
ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、主として、参考書に上げた『女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー』に基づいて講義をするので、重要文献として参照してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8 ／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン ／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店 ／978-4-00-430940-6 ／
迷路と死海	寺山修司 ／白水社／978-4-560-03254-1 ／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編 ／人文書院 ／4-409-04078-2 ／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15411

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。言い換えれば、本講義は、現代日本社会の再生産構造を「レジャーの政治学」として考察することでもある。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャー思想の探究①	古代ギリシアと古代ローマのレジャー思想
3	レジャー思想の探究②	中世、ルネサンス、近世のレジャー思想
4	レジャー思想の探究③	産業革命、ピューリタニズム、合理的レクリエーション
5	レジャー思想の探究④	ヴェーバー、ヴェブレン、ゾンバルト
6	レジャー思想の探究⑤	ファシズム、厚生運動、ヘゲモニー
7	レジャー思想の探究⑥	デュマズディエ、他人志向型人間（リースマン）、マクドナルド化（リッツア）
8	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
9	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
10	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現在まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
11	レジャーからワークライフバランスを考える①	ラファルグの『怠ける権利』とマルクス
12	レジャーからワークライフバランスを考える②	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
13	レジャーからワークライフバランスを考える③	オランダのワークシェアリングの検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える④	「ベーシックインカム」の検討
15	まとめ：人間の安全保障としてのレジャーとは？	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」:レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして:「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会（2001-2002)→社会経済生産性本部(2003-)／／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン［編著］／藤原書店／／
働かない:「怠けもの」と呼ばれた人たち	トム・ルッツ／青土社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

言語表現論（S）

12757

担当者名 / Instructor　橋本 正志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文学（作品）は、人間の内面の葛藤が時代や社会のさまざまな断面・現象を踏まえて描かれている。本科目は、作品鑑賞を中心に、とりわけ個々の作品の〈表現〉に注目し、そのあり方を解明することを目標とする。すでに読んだことのある作品でも、それぞれの作品の〈表現〉の方法、特質などを意識して読み解いていくと、新たな一面が発見できるはずである。できるだけ主要な作品を取り上げることで、日本近現代文学の基本的な流れも理解できるように留意したい。

到達目標 / Attainment Objectives

1.作品を読解し、作品の主題を考察することができる。
2.作品の〈表現〉に着目し、その方法や特質を把握することができる。
3.日本近現代文学史の基本的事項を理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入　文学と〈表現〉について	授業の概要、進め方、評価方法などの説明
第2回	明治の文学（1）	福沢諭吉『学問ノスヽメ』（明5～9）
第3回	明治の文学（2）	坪内逍遙『小説神髄』（明18～19）
第4回	明治の文学（3）	二葉亭四迷『浮雲』（明20～22）、国木田独歩『武蔵野』（明34）
第5回	明治の文学（4）	国木田独歩「画の悲み」（明35）、石川啄木「性急な思想」（明43）
第6回	大正の文学（1）	志賀直哉「清兵衛と瓢箪」（大2）
第7回	大正の文学（2）	夏目漱石『こゝろ』（大3）①
第8回	大正の文学（3）	夏目漱石『こゝろ』（大3）②
第9回	大正の文学（4）	横光利一「頭ならびに腹」（大13）、川端康成「伊豆の踊子」（大15）
第10回	昭和の文学（1）	芥川龍之介「蜃気楼」（昭2）、小林多喜二「蟹工船」（昭4）
第11回	昭和の文学（2）	中島敦「山月記」（昭17）
第12回	昭和の文学（3）	中島敦「名人伝」（昭17）
第13回	昭和の文学（4）	大江健三郎『死者の奢り』（昭32）、開高健『ベトナム戦記』（昭40）
第14回	昭和の文学（5）	村上春樹「中国行きのスロウ・ボート」（昭55）
第15回	総括　作品の〈表現〉と時代社会	目標到達度の確認と今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	論述形式で行う。持ち込み可。授業で取り上げた各作品に関するキーワードを提示するので、それらを適切に用いて自らの意見を独創的かつ論理的に展開できたかどうかを評価する。
平常点評価	20 %	随時、その授業の内容に関する小レポートを課す。時間内に取り組み、提出を求める。独創性や理解度に応じて3段階で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は取り上げる作品の〈表現〉のあり方を受講者が主体的に浮かび上がらせていく作業の時間でもある。受け身にならず、自ら考えて取り組む姿勢が重要である。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。毎回資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998年11月刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成ほか編／晃洋書房／4-7710-1303-9 C3091／2001年11月刊

『ひたむきな人々――近代小説の情熱家たち』　木田隆文・田村修一・外村彰・橋本正志編／龜鳴屋／978-4-9902714-04-0／2009年4月刊

その他は授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

近代デジタルライブラリー（国立国会図書館）
http://kindai.ndl.go.jp/index.html

NDL-OPAC 雑誌記事索引検索（国立国会図書館）
http://opac.ndl.go.jp/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールを利用してください。
mht26148@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

言語文化論（S） § 言語コミュニケーション論（S）

15467

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

12751

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業デザインを考察するうえで商業的な映像表現としてもっともポピュラーな映画を取り上げます。そして、この映画というメディアをフォーマリズムという視点から読み解いていきます。フォーマリズムは、一般的には、視覚造形作品に限定されたものの見方であるとされていますが、これを映画にも適用できることをみていきながら、広く芸術一般を「ヴィジョン」と「デザイン」の観点から考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

フォーマリズムというものの見方を取得し、このフォーマリズムの観点から現代の視覚芸術に向けられる「ヴィジョン」とそこで実現されている「デザイン」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像表現、映画を扱う科目を合わせて履修すると理解に役立つでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	産業革命、芸術、デザイン、メディアの変容
第2回	モダンデザインの展開	アカデミズム、モダニズム、デザイン工芸運動
第3回	様式論とフォーマリズム	作品、内容と形式、デザイン
第4回	リアリズムとフォーマリズム	映画理論、作品鑑賞
第5回	物語と語り口	作品、産業、物語構造、しかけ
第6回	作者とは何か	作者論、作家主義、監督
第7回	作家主義の映画批評	テーマの統一性、スタイルの統一性
第8回	作家主義の映画作品	現実と虚構、作者と創造性
第9回	映画ジャンルの成立	ジャンルの機能
第10回	メロドラマの記述と機能	メロドラマ、サブジャンル
第11回	ジャンル批評の問題点	芸術作品を社会、現代芸術とジャンル
第12回	批評の歴史	美術批評、美術ジャーナリズム
第13回	批評の役割	作り手、受けて、メディアとしての作品
第14回	評論の分析	4つの機能、4つの構成要素、評価
第15回	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の方法：毎回テキストを使用します。随時、パワーポイント、DVDを使用します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・不定期に授業内にコメントの記載を求めます。その内容や質疑などから授業に対する意欲を参照します。 ・第15回講義日に学習到達度を最終的に確認するテストを行います。

積極的な受講態度を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フィルム・スタディーズ入門―映画を学ぶ楽しみ―』	ウォーレン・バックランド／晃洋書房／4771018588／毎回使用します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎授業後、質問等を受け付けます。

その他 / Others

自我論 (S)

12925

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義は「日本的集団主義」を取り上げる。その際、考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた一種の集団主義とはいかなるものであり、その中に生きている我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、日本的集団の特性が、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となってはいないかという関心を持ちつつ、日本的集団主義に対する批判的検討を試みたい。

近年「個人化」をめぐる議論が盛んであるが、日本社会が持つ独特の近代的特質の中で再構築された一種の集団主義は、依然として根強いものがある。日本において今後どのように「個人化」が進行するのかについての洞察を得るためにも、「日本的集団主義」に対する批判的検討を踏まえておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の目的・方向性・手法についての説明	
2	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)①	「集団主義」と「個人主義」
3	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)② 日本社会の組織化原理(テキスト第4章)①	「集団主義」と「個人主義」 間柄主義
4	日本社会の組織化原理(テキスト第4章)② コミュニケーションペーパー(1)	間柄主義
5	コミュニケーションペーパー(1)へのレスポンス	
6	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)①	日本社会の「原組織」
7	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)② 日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定①	日本社会の「原組織」 コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
8	日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定② コミュニケーション・ペーパー(2)	コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
9	コミュニケーション・ペーパー(2)へのレスポンス	
10	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)①	社会規範、甘え
11	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)②	社会規範、甘え コミュニケーション・ペーパー(3)
12	コミュニケーション・ペーパー(3)へのレスポンス	
13	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)①	日本的集団主義の国際性
14	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)② コミュニケーション・ペーパー(4)	日本的集団主義の国際性
15	コミュニケーション・ペーパー(4)へのレスポンス 講義の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

コミュニケーション・ペーパーは成績評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本的集団主義	濱口恵俊　他／有斐閣／4-641-02297-6／すでに絶版

テキストは既に絶版となっているので、テキストとして使用する章についてはこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で随時紹介する。各自の関心に沿って取捨選択してもらえばよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会思想 (S)

15415

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題圏、はますます複雑かつ矛盾を内包する分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「環境思想」や「働く事（労働）の人間的意味」などの課題を、自由論・平等論・社会契約論など社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題に基づき、現代社会を把握する「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい思考能力・論述能力を身につけるための努力を期待する。マイナスをプラスに、ピンチをチャンスに変換するための柔軟かつ強靭な思考力の獲得を目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会（科）学の基礎理論。社会（科）学の歴史。社会理論系の科目。とくに環境論、労働論、自由論などの基礎知識。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	シラバス解説、評価方法、参考文献紹介
2	環境思想総論と基本的課題	ディープ・エコロジー・COP15
3	「自然の権利」と環境思想	「自然の権利」
4	「環境的正義」の思想	社会契約論、平等論、正義論
5	「持続可能な成長」と環境思想	持続的成長社会、「不公平・不利益をこうむるリスク」
6	「人間の安全保障」と環境思想	Human Security（HS）、自然権、生存権
7	中間まとめ　小論文　質疑・討論	小論文課題「前半の講義で最も関心を持ったテーマについて小論文にまとめなさい」、字数1200程度。文献資料等の持込可。
8	社会思想と「労働」の意味	「労働思想」「ホモ・ファーベル（工作人・制作人）」論、人間労働論の形成
9	「労働思想」の展開、「宗教と労働」	宗教における労働・職業意識
10	近代社会と「労働思想」の発展	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の形成
11	現代社会と「労働思想」の諸問題	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の再検討
12	社会思想と「自由」の諸問題	「自由」の思想史的背景
13	近代社会と「自由」	理念としての「自由」VS　現実としての「自由」（B.クローチェ）
14	近代社会と「自由」	思考としての「自由」VS　行動(実践)としての「自由」
15	現代社会と「自由」・講義まとめ	期末レポート注意事項（詳細は掲示事項を参照）「感想文・エッセイとレポート・論文との違い」を自覚して作成すること。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ（たとえばステレオタイプの実例など）についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	40 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。CPなどでの質問やコメントを歓迎します。すぐれた質問やコメントは平常点に加算します。CPは出席カードではないので、氏名以外の文章記述が無いものや、きわめて不十分なものはCPとしての平常点評価は行いません。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レ

ポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。このシラバスを熟読して欲しい。シラバスは受講生の学習･研究を支援するためのものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど文章力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境思想とはなにか	松野弘／ちくま新書／／環境思想論の基本的文献
環境思想を学ぶ人のために	加茂直樹／世界思想社／／環境思想論の解説書
緑の政治思想	ドブソン／ミネルヴァ書房／／現代的環境思想論の基本文献
ホモ・ファーベル	ティルゲル／社会評論社／／人間労働に関する文明論的な解説書
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／前書の意義についての論文を収録
近代の労働観	今村仁司／岩波新書／／近代的労働観の概説
働くことの意味	橘木俊詔／ミネルヴァ書房／／現代的労働･職業意識の考察
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	ヴェーバー／岩波文庫／／労働観・職業観についての古典的名著
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／未来社／／近代史における自由の意義を考察
19世紀ヨーロッパ史	クローチェ／創元社／／19世紀ヨーロッパにおける「自由」論の考察
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法大出版／／「思想としての自由」論の意義を考察

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。環境思想、労働観･職業観・自由論に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。CPでの質問も歓迎します。次の講義においてレプライの時間を設けます。大規模講義なので、講義内での質疑だけでは時間的な制約のため不十分なので、CPを活用して、レプライの時間を講義に組み込みます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本講義でとりあげるテーマは日本語だけでなく海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。小論文や期末レポートでの不正行為（コピペや盗作など）は、厳禁します。発覚した場合は失格とします。不十分でも自己の努力で作成してください。自力作成にはかならず達成感という喜びを実感する事ができます。

社会病理学 (S)

15359

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「基礎社会学」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代社会の功罪
2	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
3	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
4	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
5	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
6	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
7	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
8	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
9	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
10	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
11	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
12	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
13	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
14	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
15	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15400

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことです。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとします。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げます。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないと考えるからです。その視点から、現代社会における様々な社会文化現象（例えばオタク系文化、ポピュラー音楽、スポーツ文化等）を解明していきたいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1――フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2――フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3――フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4――大衆文化論・消費社会論	カルチュラル・スタディーズ　ホガート　ウィルス　スチュアート・ホール
5	社会文化をとらえる視点4――ポピュラー音楽論	ヘブディッジ　フリス　ロックの政治学　パンク
6	音楽の社会文化――ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
7	音楽の社会文化――ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
8	音楽の社会文化――ジャズ論3	アドルノ批判　ブリコラージュ
9	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　マンガ小史　「萌え」
10	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化2	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
11	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化3	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
12	コミュニケーションの現在――ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
13	コミュニケーションの病理――いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
14	身体の社会文化――スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
15	社会文化論のまとめ――新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終回に学習到達度を最終的に確認するテストを行う。評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
討議と承認の社会理論	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります。
批判的社会理論の現在	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／同上。
文化論のアリーナ	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／幅広く社会文化論の理論研究の参考となります。
社会文化理論ガイドブック	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／同上。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業終了後、話しかけてください。その時、相談時間を指定します。
後日、私のメールアドレスを研究室のドアに張り出します。（件名には「社会文化論」とつけてください。件名のないメールは読むことができません）。
後日、オフィス・アワーの時間を研究室のドアに張り出します。（オフィス・アワーは学生の皆さんが、大学での勉強に関して何でも相談に来ることができる時間です。気軽に活用してください。できれば事前にアポイントメントを取ってください）。
その他、研究室で空いている時間にはご相談ください。

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15366

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業を試みたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己自身の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験 ・記憶・村上春樹の文学
2	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化 、空虚化と暴力による補償的存在充実、村上春樹の文学、三島由紀夫の文学
3	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認 村上春樹の文学、三島由紀夫の文学, ジョン・レノンの歌Strowberryfield for ever
4	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊 、可能性意識の縮減と孤立感、仲間性の人間学
5	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌 Oh my love , Love	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
6	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟、ジョン・レノンの歌Mother　Help
7	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
8	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
9	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
10	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
11	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
12	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換、黒澤明作品「生きる」
13	実存と意味欲求	実存、意味、ニーチェ
14	文学と倫理　三島由紀夫と村上春樹のあいだによこたわるものとしてのニーチェ	三島由紀夫、村上春樹、ニーチェ
15	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	

平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出数 授業中に出すミニレポート課題への取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど、別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

立命館大学生協書籍部で販売

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kiyoshi@kindai.ac.jp

その他 / Others

身体表現論（S）

12682

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァ-ガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールによる連絡

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15412

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果つい、「コミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション技術を振り返ってみる機会はありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。

その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションに関しては、自覚することが少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションには「スキル（技術）」と「コンテンツ（内容）」の二つの課題が存在します。当然のことですが人は、コンテンツ（伝える内容）とプロセス構築力（伝達手段技術）の両者がうまく備わってはじめて、関係の場に自信を持って立てるのです。

この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。したがって教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。

対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進ということになります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート（記述・提出）	
2	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
3	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
4	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
5	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
6	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
7	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
8	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
9	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
10	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
11	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
12	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
13	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
14	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
15	前回のレポート振り返り（レクチュア）・最後の課題実習・	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。毎週フィードバックシートの提出を課します。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。近年の欠席は四，五，六回生に著しく偏っています。出席が無理なら、登録しないでください。

ここ2、3年、男子学生の登録と出席が増えています。開講初期、圧倒的に女子が多かったことを思うと、男子学生の健全化も感じます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／／／
家族の練習問題2	団士郎／／／
家族の練習問題3　父よ母よ	団士郎／／／
不登校の解法	団士郎／／／
家族力×相談力	団士郎／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神分析論（S）

20228

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。

私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表するフロイトとアードラーとユングの三人三様の生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開： フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第１１回の後半から始まる可能性がある。
第13回	精神史における無意識と心理療法	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③すべてを提出し、いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	検証テストを最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提である。たとえ検証テストの得点が非常に高いものであっても、レポートを提出していなければ、反対に、すぐれた内容のレポートを提出していても検証テストを受験してなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマとして現在の時点で以下のことを考えている。

①授業で取り扱った事柄から一つ選んで、考えるところ。

②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。

③授業の感想。

①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できれば、授業に先立って、WebCTに教材や資料などをアップしておくつもりである。これらやWikipediaなどでの授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題となろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態だが、古書で入手可能。絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫、集英社文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／
ユダヤ教の歴史	市川裕／山川出版／978-4-634-43137-9／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教員の個人HP（検索エンジンに「村本詔司」でヒットする）、http://www5d.biglobe.ne.jp/のトップページ下からメールを送ることができる

その他 / Others

多文化コミュニケーション（S） § 多文化コミュニケーション論（S）

20229

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性ダイバーシティの理論と人権の理解をベースにした参加型研修を体験し、その実施のファシリテーション力を養う。コミュニケーションの様々なツールを人権尊重の環境に活かす方法を学ぶ。グループワークへの積極的な参加が求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

1、ダイバーシテイの概念を理解する
2、参加型研修のファシリテーターとして必要な理論と方法とスキルを学ぶ
3、ダイバーシティ参加型研修の具体的方法を学ぶ
4、トレーナー・ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ
5、コミュニケーション力、リーダーシップ力をつける方法を学ぶ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の目的と目標、 約束事の確認　アイスブレーカー	ダイバーシティー　参加　尊重　守秘　時間
第2回	多様性（ダイバーシティ）人権参加型学習の理論	フレームワーク：多様性受容力の三つの輪
第3回	参加型研修の4要素	目的　構成　行動　配慮
第4回	アイスブレーカー　グループで「エンパワメント」「人権」についての話し合い	受講者によるテキストの報告も含む
第5回	気づきの研修：アクティビティ「有名人クイズ」その他	
第6回	気づきの研修	アクティビティ「さかさま文字」「マットの物語」その他
第7回	アイスブレーカー　トレーナー・ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具	
第8回	グループアクティビティ「差別と区別のちがい」「日本が多文化・多人種社会になったら」	ダイバーシティの理解を深める
第9回	アイスブレーカー　知識の研修	アクティビティ　セクシュアルハラスメント・プレテストを使って意見を交わす
第10回	マインドマップの作成	自分を知るツール、 情報整理のツール、 速読のツール
第11回	スキルの研修　コミュニケーション	コミュニケーションとノイズ　傾聴スキル
第12回	アイスブレーカー　コミュニケーションスキル	アサーティブ・コミュニケーション　対立の仲介者
第13回	多様性社会に求められるリーダーシップ	プレゼンテーション力
第14回	人数が少なければ、3分間スピーチとフィードバックまたはコーチングの基礎	
第15回	授業内テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義、 グループワーク、学生の発表

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価は以下の4つで行います。 出席 授業内での発言 グループワークへの参加度 最後の授業時間にテスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

積極的に発言すること
テキストを事前に読んでおく

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／

習の理論と実践」

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「エンパワメントと人権」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／
「ダイバーティティ・トレーニング・ブック」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-6040-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www. geocities.jp/empowerment9center/
エンパワメント・センター　森田ゆり公式サイト

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電話またはファックス　0798－31－5331 （エンパワメント・センター・オフイス）

その他 / Others

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

伝統芸能論（S）

15430

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。

講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②伝統芸能を鑑賞するための基礎的知識を修得する。
③各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの知識を修得する。
④芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	【キーワード】成績評価方法／各回の講義の概要 【その他】伝統芸能についての基礎知識や経験、講義についての希望を問うアンケートを行います。
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	【キーワード】伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／産業としての伝統芸能／伝統芸能をめぐる諸制度
3	「伝統芸能」以前	【キーワード】講義で取り上げる各伝統芸能の歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり 【映像資料】高千穂の夜神楽／鹿島神宮祭頭祭　他
4	落語の歴史と特色	【キーワード】落語の鑑賞案内／落語の歴史／落語の特色 【資料映像】桂枝雀『代書』 他
5	落語の演目	【キーワード】古典落語と新作落語／上方落語と江戸落語の違い／緊張と緩和の理論 【資料映像】桂三枝『ゴルフ夜明け前』／古今亭志ん生『三枚起請』 他
6	能の特色	【キーワード】能の鑑賞案内／能における役割／能の表現様式の特徴（幽玄能など） 【資料映像】『土蜘蛛』 他
7	能の歴史と作品	【キーワード】能の歴史／作品の分類／作品についての解説 【資料映像】『井筒』／『道成寺』
8	狂言の歴史と特色	【キーワード】狂言の鑑賞案内／狂言の歴史／狂言の特徴 【資料映像】『附子』／『唐相撲』
9	狂言の作品	【キーワード】作品の分類／作品の解説／狂言と他の芸能との共演 【資料映像】『濯ぎ川』／『素襖落』
10	文楽の歴史と特色	【キーワード】文楽の鑑賞案内／文楽の歴史／文楽の特徴 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「天拝山の段」 他
11	文楽の作品	【キーワード】作品の分類（時代物・世話物・景事）／作品の解説／文楽作品に対する統制と対策 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「寺子屋の段」／『義経千本桜』より「大物浦の段」 他
12	歌舞伎の歴史と特色	【キーワード】歌舞伎の鑑賞案内／歌舞伎の歴史／歌舞伎の特徴 【資料映像】『歌へす歌へす余波大津絵』より「藤娘」／『仮名手本忠臣蔵』 他
13	歌舞伎の作品	【キーワード】作品の分類（荒事・和事）／作品の解説／東西の歌舞伎の違い 【資料映像】『恋飛脚大和往来』より「封印切」 他

14	伝統芸能とメディア	【キーワード】メディア体験としての伝統芸能／芸能と観客／伝統芸能と権威性
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	【キーワード】講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

伝統芸能について、より詳しく学びたい人に向けて、参考書や映像資料などの紹介も行います。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第6回講義の終了時点で中間レポート課題について説明する。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述すること。 コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビや動画サイトなど、どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。また、機会があれば生で上演を鑑賞してみてください。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回、レジュメを配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
上方芸能の魅惑	森西真弓／NHK出版／414080808X／歌舞伎、文楽、狂言、落語について、歴史と見どころをわかりやすく解説しています。
日本芸能史	藝能史研究会編／法政大学出版会／4588230018／全7巻あります。古代から現代に至るまでの芸能の歴史を、時系列に沿って把握できます。
日本の古典芸能	藝能史研究会編／平凡社／4582216013／全10巻あります。芸能の歴史について、歌舞伎、能、狂言など、ジャンルごとに把握できます。

『上方芸能の魅惑』は初心者にもお勧めできますが、『日本芸能史』(全7巻)と『日本の古典芸能』(全10巻)は専門性の高い内容です。講義の中で、まったく未経験の初心者にでも理解できるような入門書や入門用映像資料も紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。伝統芸能の場合、個人が趣味で作った解説ページが多くありますが、内容にムラがあるのでお勧めできません。ネットでの情報については、興行予定の確認程度にとどめておくのが賢明です。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

上記参考ページに、メッセージの送信フォームも設置しています。全体に告知すべきと判断した質問・意見に関しては、講義中で説明します。公平を期すため、個人的に回答することは原則としてありません。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。
※2010.3.22　シラバス入稿時のレイアウトが反映されていないことが判明したので、レイアウトを修正しました(内容は一切変わっていません)。

日常性の社会学 (S)

12783

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日常生活がどのように秩序づけられているのかを理解するために、「逸脱」と「コントロール」の行為に注目する。「逸脱」と「コントロール」を手がかりに秩序を生み出す社会的メカニズムを考える。こうした主題に関係した主要な学説・研究成果を体系的に紹介し、具体的な事例を用いながら説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の秩序はどのように成り立っているのかを理解できる。
社会病理学や社会問題論についての理解を深めることができる。
社会の在り方を考える上での判断力を養うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な知識を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の目的:逸脱とコントロールを主題とする理由	日常世界・社会の秩序・逸脱の概念
第2回	研究の原点:デュルケーム理論	集合意識・犯罪・刑罰・自殺の原因論
第3回	逸脱についての3つの基本的視点とその系譜	構造論・相互作用論・行為者論の学史
第4回	構造論:シカ学派の研究	人間生態学・社会解体論・都市の「病理現象」
第5回	構造論:アノミー論	マートン・構造的緊張・機会構造論・非行研究
第6回	相互作用論:差異的接触論	サザーランド・プロの窃盗犯・ホワイトカラー犯罪
第7回	相互作用論:ラベリング論	ベッカー、逸脱の増幅過程、逸脱の定義、社会的反作用
第8回	構築主義の視点	社会問題・クレイム・キッセ
第9回	行為者論:身体論から合理的選択論へ	合理的選択・殺人の事例・ドラッグの合法化
第10回	社会的コントロール論と自己コントロール論	ハーシ・社会的絆・自己コントロールをめぐる論争
第11回	ライフコース論の視点	サンプソン・キャリア・転機
第12回	総合理論の視点	コントロール・バランス理論
第13回	社会統治の技術	フーコーの統治理論・ゴフマンのアサイラムの研究
第14回	現代社会のコントロールの動向	厳罰化・脱施設化・ガーランドの理論
第15回	まとめ:社会秩序の在り方	逸脱に対する制度設計・討論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する文献・資料はできるだけ図書館を利用して自習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	授業の最後に出す課題に対して、学んだ知識を活用して、レポートがどれだけ的確に作成されているのかによって評価。

ひとつのテーマが終わるたびに質問紙を配布するので、積極的に質問をしてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学	宝月　誠／有斐閣／4-641-12227-x／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの世界	宝月誠・進藤雄三／世界思想社／4-7907-1108／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mailで

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較スポーツ論（S）

15405

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス（その1）	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス（その2）	アマチュアリズム／近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス（その3）	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス（まとめ）	
第7回	スポーツの王国アメリカ（その1）	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ（その2）	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ（その3）	スペクテイターとコマーシャリズム／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ（まとめ）	
第11回	日本的スポーツ（その1）	英米スポーツの日本的受容／スポーツの普及と学校教育
第12回	日本的スポーツ（その2）	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ（その3）	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ（まとめ）	
第15回	スポーツのグローバリゼーション（全体のまとめ）	スポーツの歴史性・社会性／スポーツ発展の法則性と蓋然性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較宗教論（S）

12805

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『客家：土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「十戒」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「ヴェニスの商人」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『ヴェニスの商人』（キリスト教徒とユダヤ人）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎　講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」による理解度評価。

授業進行上の理由・その他の事情で、講義スケジュールやVTR・DVD視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、できるかぎりみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍 ／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次 ／講談社学術文庫 ／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫 ／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5 ／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド ／晃洋書房／978-4-7710-1998-0 ／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較文化論（S）

15365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の民族論−日本文化論とネパール先住民文化の比較−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が様々なメディアで目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論を再検討する。さらに、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討から「恥の民族」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も取り上げ、「恥」の現代的意味や「恥の民族」の可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・国民性論の問題点と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と政治、倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥と現代社会、日本とネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える	マルコ・ポーロのジパング、ジャポニスム的言説
3	文化の表象とオリエンタリズム	サイードのオリエンタリズム批判、フーコーの言説、グラムシのヘゲモニー
4	100年前の日本	ナショナル・ジオグラフィック、表象の時代性
5	国民性研究とその問題	ベイトソンによる国民性論、対称型、相補型関係
6	「文化の型」とその問題	文化とパターン、アポロンとディオニソス
7	文化相対主義とその問題	成人儀礼の多様性、サバルタンとは何か
8	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀、恥の文化と罪の文化
9	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係、資格と場
10	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造 、父性と母性
11	日本文化論とイデオロギー	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	文化のイデオロギーとその解釈	アルチュセール 、ギアツによるイデオロギーの把握
13	ネパール先住民の「恥の文化」	先住民チェパン、親族関係、互酬性と再分配
14	「恥の民族」の可能性	アウシュヴィッツにおける恥、絶対的受動性、証人
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業時間外にも講義に関連した文献を

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では文化論を要約して紹介するのではなく、文化論のテキストを出来るだけ丹念に読み込んでいく。要領よく決まったことを理解するのではなく、批判力な読解力が求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R. ／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝 ／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G. ／月曜社／／恥についての論攷を含む

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入して参考にして欲しい。講義では、前三者を通常とは異なる今日的な「読み替え」をおこなっていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15466

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察の眼が反映しているのか。本講義は観察者の存在を重視した17世紀オランダ絵画を出発点として、近代の自然描写を中心に社会史・思想史のコンテクストにおいて考察する。ヘダ、レンブラント、フリードリヒ、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、カンディンスキー、モンドリアン、ポロック、ボイス、リヒター、キーファー、杉本博司など17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、近代以降の観察者の立場の変容を考察し、今日の視覚文化の諸前提を問う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品の主題を読み取り、時代の思想・世界観を知る。
主観的な感情移入や解釈を排し、客観的に作品を観察する力、ひいてはイメージに対する批判的思考力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	芸術作品における観察の眼と自然観における歴史的経緯
第2回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　静物画
第3回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　肖像画
第4回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　風景画
第5回	近代の自然観	近代の風景像の概観（1） 美術史、美学における自然観―カント、アドルノ、リオタール他
第6回	近代の自然観	近代の風景像の概観（2） 美術史、美学における自然観―ベルティング、ベーメ他
第7回	近代の自然観	19世紀初期　ドイツ・ロマン主義
第8回	近代の自然観	19世紀後期　印象主義
第9回	近代の自然観	19世紀後期　ポスト印象主義
第10回	近代の自然観	19世紀末　象徴主義
第11回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第12回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第13回	近代の自然観	20世紀後期　抽象表現主義
第14回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート
第15回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

美術館、博物館などで、オリジナル作品を観察することを習慣づけ、
芸術作品を趣味ではなく、研究、調査の対象として捉えたレポートを評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
C.D.フリードリヒ：「画家のアトリエからの眺め」――視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
ドイツ・ロマン派風景画論：新しい風景画への模索	神林恒道・仲間裕子／三元社／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／
描写の芸術：一七世紀のオランダ絵画	スヴェトラーナ・アルパース著；幸福輝訳／ありな書房／／
「思想」 2009年10月号	仲間裕子他／岩波書店／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

文化人類学（S）

12808

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「資本主義と伝統文化」

資本主義が世界中を覆い尽くす今日の社会では、「世界が狭くなる」ことで逆に、「民族」文化の個性が求められる。それにしたがい日常の様々な場面で「民族らしさ」や「伝統文化」の重要性が論じられるようになる。そうした状況で、資本主義やグローバル化と「民族」の「伝統文化」は対立したものとして捉えられがちで、時には、対立を強調した民族主義的な主張が突出し、資本主義によるグローバル化（あるいはアメリカ企業による「アメリカ化」）を敵とするテロさえ起きる。9.11同時多発テロもそうした一例と考えられる。だが、そのようなステレオタイプ化した語りの中で、資本主義とは何か、「民族」とは「伝統文化」とは何か、問うことはほとんどない。

本講義では、「民族」やその「伝統文化」、資本主義の成り立ちについて、文化人類学、特に構造主義の立場から検討する。そのなかで、「伝統文化」と資本主義が対立せずに、接続される地点を示し、今後の文化のあり方を考察したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化人類学の理論（構造主義以前）の概要を理解する。
・「構造主義（関係論）」がどのような理論か、「構造分析」がどのような方法か理解する。
・「伝統文化」と資本主義の構造とその問題を理解する。
・「文化」、「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、文化人類学の理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」、「比較文化論」を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	資本主義の広がりと伝統への回帰	グローバル化と自由、伝統秩序の崩壊、テロリズム
2	文化とは何か	自然と文化、文化進化論とは何か、機能主義とは何か
3	構造主義と関係論	「構造」概念について、記号の構造、生物の形態、意味の構造
4	神話の構造	二項対立、文化と両義性、トリックスターとは何か
5	儀礼の構造	通過儀礼、コムニタス、試練と暴力がもたらすもの
6	身体加工の構造	身体変工を考える、人間はなぜ服を着るのか
7	贈与と貨幣の構造	贈与の霊とは何か、ゼロ記号、原始貨幣と通貨
8	市と資本主義の構造	沈黙交易、交易港、大航海時代とグローバル化
9	産業社会の構造	フォーディズム、フルライン政策、規格化
10	ファッションの構造	ファッションという表現、美しい身体の誕生、個の過剰
11	民族＝国民の構造	国民国家とは何か、ナショナリズム、人種差別の問題
12	複製文化の構造	アウラの喪失、モンタージュと意味
13	文化相対主義の構造	マリノリティ、先住民の権利獲得、異文化交流の可能性
14	全体のまとめと討論（伝統文化と資本主義の接続可能性）	現代社会と文化
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義理解の補助となる文献を適宜、紹介するので、参考にすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し、抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎 ／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ
文化人類学15の理論	綾部恒雄編 ／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社 ／／関係論の理解に参考
神話と意味	レヴィ＝ストロース ／みすず書房 ／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書 ／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktt21323@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジアの福祉研究（S） § アジアの福祉研究（I）

12800

担当者名 / Instructor　桂 良太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアの高齢者とこどもに焦点をおきながら、10年後、20年後のアジアの社会福祉の情勢を考えることがこの講座の一つの目的である。アジアの高齢者やこどもまたは障がい者の人権保障がどのように守られるか、守られなければならないかについてさまざまな角度から分析したことがらから、みんなで考察しながら、ディスカッションできれば幸いである。

到達目標 / Attainment Objectives

未来のアジアの情勢をしっかり人口統計学的な背景からみた場合の予測をもとに、高齢者やこども、とくに障がいをかかえたこどもたちの人権保障がどのように世界的なパースペクティブ（視角）から構築されなければならないかについて検討することと、それによって今後のわが国の社会福祉のあり方を考えることが本講座の目標である。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

アジア各国間の政治や経済における国際関係、またそれぞれの国の社会構造や機能をあつかう社会学的な見方、および国際福祉の視点や分析方法など知識をしっかりおさえながら講義にのぞんでほしい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義をはじめるにあたって一講義のすすめかた、目標などについて-	講義の目標
2	今なぜアジアの社会福祉なのか！？	アジア型社会福祉、欧米型社会福祉
3	貧困・不平等の福祉	貧困・不平等の福祉
4	こどもの福	こどもの福祉、児童問題、児童憲章
5	ジェンダーと福祉	ジェンダーと福祉
6	障がいと福祉	障がいとは何か、ディスエイブル
7	高齢者と福祉	高齢化、高齢社会、高齢者問題、介護と生きがい
8	難民と福	難民問題
9	社会的排除と福祉	社会的排除
10	エコロジーと福祉	持続的発展
11	社会開発と福祉	社会開発
12	国際機関･国際NGO活動と国際協力	グローバル社会、国際協力、ODA、国連
13	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東アジア（①中国②韓国）	中国の社会福祉、韓国の社会福祉
14	アジア各国の社会福祉・社会保障の制度政策　東南アジア（①シンガポール②タイ③その他）	シンガポールの社会福祉、タイの社会福祉、
15	講義を終えるにあたって（A＋希望学生はプレゼンテーション）	アジアの社会福祉、ソーシャルワーク

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常試験を数回実施する。万一欠席した場合は、別に課題を与え、その成果によって評価を行う。

A＋を希望する学生は事前に申し出ること。ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝをしてもらいます

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アジアの社会福祉	萩原康生／日本出版放送協会／ISBN4-596-30606-7／

放送大学（ラジオ）にて、昨年から「アジアの社会福祉」という講座がはじまっている。桂はそのなかで、アジアの子どもと福祉（第3章）高齢者と福祉（第6章）担当している。

参考書 / Reference Books

参考書は講義のなかで紹介します

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義中に希望者に提示します。

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

12758

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてのカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経緯，心の病の捉え方ならびにカウンセリングに関する基本問題を解説し，カウンセリングの主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のため，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カウンセリングとは何か	心理療法・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
第2回	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
第3回	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
第4回	心の深層の理解1：精神分析	フロイト・無意識・自由連想
第5回	心の深層の理解2：ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
第6回	人間関係の心理学1：アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
第7回	人間関係の心理学2：交流分析	構造分析・エゴグラム・交流パターン分析
第8回	傾聴技法の習得：クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
第9回	反省してはいけない！：認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
第10回	心の奥底にある感情に触れてみる：ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・エンプティチェア・感情体験
第11回	家族システムへの介入：家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
第12回	心理アセスメントの方法	心理テスト・深層心理・フィードバック
第13回	臨床心理学的支援の実際	不登校・アセスメント・否定的感情の吐き出し
第14回	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
第15回	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
カウンセリングの理論	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40308-1 C3011／
カウンセリングと精神分析	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40312-X C3011／

カウンセリングの実際問題　　河合隼雄／誠信書房／ISBN4-414-40119-4 C3011／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

バリアフリー論（S）

12763

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち 天候や教材準備の関係で講義が変更される可能性もあります
第9～11講義	第四章　住環境・生活環境のバリアフリー	住環境　福祉用具　都市環境
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	10 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm　＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm　＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/　＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html　＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/　＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm　＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/　＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm　＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html　＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/　〈バリアフリー協会〉
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html　〈バリアフリー住宅〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html　〈交通バリアフリー〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html〈国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン〉

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15432

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義：ライフサイクルとは何か	【キーワード】 人生周期、発達段階
2	人生のはじまり（胎児・新生児の世界）	【キーワード】社会的存在、基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）の形成
3	母子臨床と育児支援の課題	【キーワード】親になること、家族関係の変化、仲間との交流
4	自我の芽生えと自制心の育ち	【キーワード】甘えと自立、自尊心、仲間との育ち合い
5	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折の問題	【キーワード】子どもの貧困、早期教育、教育家族
6	学童期の発達と心理的危機	【キーワード】怒りのコントロール、コミュニケーション能力、学級崩壊
7	児童虐待と子どもへの影響（その1）	【キーワード】自己の連続性、アイデンティティの危機、解離性同一性障害
8	児童虐待と子どもへの影響（その2）	【キーワード】児童相談所、一時保護所、心のケア
9	里親家庭で育つ子どもたち	【キーワード】私の子どもは60人、親支援の課題
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	【キーワード】父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	【キーワード】職業選択、恋愛、結婚、子育てと職業の両立
12	中年期の発達課題（その1）	【キーワード】心身の変化、空の巣症候群
13	中年期の発達課題（その2）	【キーワード】人生の転換期、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	【キーワード】老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義：ライフサイクル論のまとめ	【キーワード】自立、支え合い、安心

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問

		題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクルの臨床心理学』	馬場禮子・永井徹共編／培風館／ 4-563－05610－3／
『女性のためのライフサイクル心理学』	岡本祐子・松下美知子編／ 福村出版／ 4-571－20051－x／
『子育て支援の現在』	垣内国光・櫻谷眞理子共編 ／ミネルヴァ書房 ／4-623－03643－xc3336／
『ライフサイクルの心理学』	松尾恒子他 ／燃焼社 ／4-88978－992－8／
『ライフサイクル、その完結』	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／ 4-622－03967－2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15373

担当者名 / Instructor　安東 一郎、垣田 さち子、神田 豊子、冨田 素子、野々村 光生、長谷 斉、増田 和人、宮崎 博子、門 祐輔

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション、障害者の心理、障害受容	宮崎
10/7第2回	地域リハビリテーション	垣田
10/14第3回	障害論	門
10/21第4回	運動器疾患のリハビリテーション	増田
10/28第5回	義肢装具のリハビリテーション	増田
11/4第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	神田
11/11第7回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	宮崎
11/18第8回	内部障害のリハビリテーション	宮崎
11/25第9回	神経・筋疾患のリハビリテーション	冨田
12/2第10回	精神疾患のリハビリテーション	安東
12/9第11回	排尿障害のリハビリテーション	野々村
12/16第12回	介護保険のリハビリテーション	垣田
12/23第13回	脊髄疾患のリハビリテーション	長谷
1/6第14回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	冨田
1/13第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	宮崎

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかも含めて、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版 ／978-4-7803-0177-9 ／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会 ／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社 ／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社 ／／

障害児の包括的評価法マニュアル　全国肢体不自由児施設運営協議会編　メジカルビュー社
変わるリハビリ　上月正博　ヴァンメデイカル社

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

医療福祉論（S）

15326

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 他の専門職との連携の意義を明確化する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史1	年金制度
3	保健医療と法制度の歴史2	医療保健制度
4	医療保険の法制度と現状・課題	
5	診療報酬制度の概要と課題	
6	保保健医療福祉におけるコーディネート機能 健医療福祉政策の概要	
7	各専門職の役割と機能分担1	医療ソーシャルワーカー
8	各専門職の役割と機能分担2	保健師、看護師
9	各専門職の役割と機能分担3	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士
10	各専門職の機能と連携	
11	精神障害と精神保健福祉	
12	地域における保健医療福祉の現状と課題1	
13	地域における保健医療福祉の現状と課題2	
14	まとめ	
15	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認し評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

家族関係論（S）

12761

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	【キーワード】家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	【キーワード】少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	【キーワード】結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	【キーワード】子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	【キーワード】母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	【キーワード】育児参加、育児休業
7	児童虐待	【キーワード】貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	【キーワード】家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	【キーワード】「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	【キーワード】親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	【キーワード】機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	【キーワード】家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	【キーワード】アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	【キーワード】保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	【キーワード】これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメに載せた参考文献を読んで、理解を深めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

家族問題に関する新聞記事等を読んで、問題意識を高めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子育て支援の現在』	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房 ／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『母性愛神話の罠』	大日向雅美／ 日本評論社 ／4-535－56156－7／
『個人化する家族』	目黒依子 ／勁草書房 ／4-326－65074ー5／
『「家族」と「幸福」の戦後史』	三浦展／ 講談社現代新書／ 06－149482－1　C0236／
『 21世紀家族へ』	落合恵美子／ 有斐閣選書 ／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。
あるいは、研究室（修学館362号室）のドアに取り付けたボックスに用件を書いたメモを入れて置いてください。連絡先が書いてある場合はこちらから連絡します。

その他 / Others

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

15324

担当者名 / Instructor　井手 巧

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公的扶助、つまりわが国においては生活保護に代表される制度が、なぜ必要でどのような役割や意義を持っているのか、その歴史的変遷、内容やしくみ及び現状と課題などから学ぶ。また、格差や貧困など、今私たちの周りで問題となっている様々な事象をどのように捉え理解すればよいのかを学ぶ。さらに、生活保護における自立支援とともに低所得者に対する支援の実際及びそのあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
②生活保護の内容やしくみ及びその動向について理解する。
③福祉事務所や福祉専門職の役割及びあり方等について理解する。
④生活保護の現状や相談援助活動の実際について理解する。
⑤生活保護以外の低所得者対策について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「公的扶助とは何か」思い当ることを出し合う	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護
第2回	現代社会における貧困・低所得者問題	貧困、低所得、ワーキングプア
第3回	世界における公的扶助の歴史的変遷	エリザベス救貧法、改正救貧法、B.ウェッブ、ベヴァリッジ報告、国民扶助法
第4回	日本における公的扶助の歴史的変遷	恤救規則、救護法、旧生活保護法、新生活保護法
第5回	公的扶助の概念と役割・意義	社会保障、公的扶助、社会保険、ナショナル・ミニマム
第6回	生活保護制度の内容・しくみ　①理念・原理・原則	憲法25条、無差別平等、保護の補足性、申請保護、基準及び程度
第7回	生活保護制度の内容・しくみ　②保護の種類	生活扶助と加算、医療扶助、住宅扶助、教育扶助
第8回	保護施設、被保護者の権利・義務等	救護施設、更生施設、能力の活用、審査請求、行政事件訴訟
第9回	生活保護の基準と最低生活	最低生活水準、生活保護基準、生活扶助基準額と加算
第10回	生活保護事務と実施体制	社会福祉法、福祉事務所、社会福祉主事、福祉関係8法改正
第11回	福祉専門職の役割と連携	社会福祉主事、社会福祉士、民生委員、補助・協力機関
第12回	生活保護の動向及び財源・予算	保護の開始・廃止、被保護人員・世帯数、医療扶助
第13回	低所得者対策の概要	生活福祉資金貸付制度、社会手当、ホームレス自立支援
第14回	相談援助活動の実際と自立支援プログラム	被保護者と要保護者、ミーンズテスト、自立支援プログラム、現業員と査察指導員
第15回	「公的扶助とは何か」振返ってまとめる	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業予定の項目について、参考文献等に十分目を通し、予め内容の把握に努めておく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標が達成できているか確認するための問題により評価する。
平常点評価	30 %	・授業への出席、態度等を含む授業参加度により評価する。 ・必要によっては、授業内容の理解度を確認するため、事前に連絡した上で、小レポートの提出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生活保護等に関連する新聞記事などには普段から注意して目を通すように心掛ける。

教科書 / Textbooks

テキストは指示せず、配布するプリント・資料により授業を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
①「低所得者に対する支援と生活保護制度」	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版株式会社／／
②「公的扶助論」（MINERVA社会福祉士養成テキストブック14）	岩田正美・杉村宏（編著）／ミネルヴァ書房／978-4-623-05400-8／最新版
③「保護のてびき」	（編集）生活保護制度研究会／第一法規株式会社／978-4-474-02440-3／最新版

テキストを指定しないため、社会福祉士等の国家試験を受験する学生は、上の①、②などにより、またそれ以外の学生は③などにより事前事後の学習を進めてほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http:/www.mhlw.go.jp
国立社会保障・人口問題研究所　http:/www.ipss.go.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の際、連絡の方法を伝える。

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15468

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述および穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。講義内容に関して、コメントを求めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編／明石書店／／

への取り組み――(1998)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.janic.org/　国際協力NGOセンター
http://www.mofa.go.jp/mofaj/　外務省
http://unic.or.jp/index.php　国連広報センター

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

12788

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	社会的リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、就労、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制度
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	給付制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業の現状
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	福祉レジーム
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	工業社会、脱工業社会、
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ:リスクと社会制度	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン ／桜井書店／4-921190-00-3 ／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6 ／

講義中に適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

国際福祉政策論（S） § 国際福祉政策論（I）

15441

担当者名 / Instructor　福地 潮人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

世界経済のグローバル化、そして社会の深刻な少子高齢化が進む今日、既存の先進福祉国家は大きな転換期を迎えている。本講義ではそのような現代福祉国家の現状と変化を国際比較の観点から捉え、その今後について展望する。手順としては、まず70年代以降の先進資本主義国家の変容について把握した上で、この変容にあわせて福祉国家体制が、そして福祉国家論がどのように変化してきたのか検討する。次に福祉国家レジーム論について簡単に触れた上で、各レジームを代表する国々の社会福祉・社会保障政策の特徴と近年の変化について把握する。

到達目標 / Attainment Objectives

①福祉国家論の基本的な視座について理解し、説明できる。
②福祉国家の各類型のもつ特徴について述べることができる。
③各国の福祉政策の特徴と近年の変化について理解し、説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション～福祉国家と福祉政策～	福祉国家、夜警国家、福祉政策、所得分配
第2回	グローバル化の中の福祉国家	グローバル化、ケインズ主義的国民福祉国家、シュンペーター主義的ワークフェア体制
第3回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷①	「福祉国家の黄金時代」、収斂説、「収斂の終焉」、権力資源論
第4回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷②	新自由主義、サッチャリズムとレーガノミックス、ハイエク、水滴理論、アトミズム
第5回	福祉国家の変容と福祉国家論の変遷③	福祉国家類型論、福祉国家発展段階説
第6回	福祉国家レジーム論の概要①	エスピン・アンデルセン、レジーム、脱商品化、脱家族主義化、階層化
第7回	福祉国家レジーム論の概要②	社会民主主義レジーム、保守主義レジーム、自由主義レジーム
第8回	レジーム・シフト	「第三の道」、ポルダー・モデル、社会的投資戦略
第9回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン①概要	「国民の家」、所得格差、再分配効果、年金と医療、高齢者福祉の特徴
第10回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン②ノーマライゼーションの理念と実際	ノーマライゼーション、障害者福祉政策、LSS、障害者オムブヅマン
第11回	各国の事例～社会民主主義レジームの国～スウェーデン③自己選択と自己決定	障害者雇用、サムハル、社会的協同組合、地方自治体と障害者団体の役割
第12回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ①概要	列柱社会、ネオ・コーポラティズム、非営利組織の役割、男性稼得者モデル
第13回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ②ポルダー・モデル	オランダ病、ワッセナー合意、ワークシェアリング、コンビネーション・シナリオ
第14回	各国の事例～保守主義レジームの国～オランダ③ワーク・ライフ・バランスの実際	ワーク・ライフ・バランス、各企業の取り組み、労働組合における対応
第15回	各国の事例～自由主義レジームの国～アメリカ	デュアリズム、年金と医療制度の特徴

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義はパワーポイントと配布資料による解説を中心に進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	全講義回数の3分の1以上（5回以上）欠席した場合、受験を認めない。また、受講態度等に著しい問題が見られた場合、その後の受講および定期試験の受験を認めない場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は必ずノートをとること。定期試験もノートからの出題が大部分となる。覚えるべき用語も多いので、毎回の受講後の復習は必ず行い、わからない点があれば積極的に質問してほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

講義中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる連絡。なお、連絡先については講義中に指示する。

その他 / Others

講義中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁である。受講生としての最低限のマナーを守ってほしい。

国際保健医療政策研究（S） §　国際保健医療政策研究（I）

15362

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

健康と医療に関する動向と政策について国際比較の観点から検討する。社会格差や不平等の拡大は、健康や医療においても問題を突きつけており、その現状とそれに対応する先進諸国および新興国の政策について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）健康や医療、それに関わる制度についての基本的概念を説明できる。
（2）健康や医療にかかわる論点を理解し、政策対応の現状について説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	国際保健医療政策研究では何を学ぶのか	講義の概要、社会格差、貧困、健康状態、医療アクセス、医療費負担
2	世界の保健医療指標の歴史的推移と現状	健康水準、平均余命、死亡率、医療の質、医療費
3	政策課題としての健康格差	概念、量的把握
4	政策課題としての医療格差	医療サービスへのアクセス、ニーズ、医療の公平
5	健康格差と医療格差への政策的対応の可能性	政治の役割、目標設定、戦略と原則、政策実施、評価、政策領域
6-8	ヨーロッパにおける健康格差・医療格差対策	イギリス、EU、NHS
9-11	アメリカにおける健康格差・医療格差対策	人種間格差、公衆衛生、民間医療保険、無保険者問題
12-14	アジア諸国における保健医療制度と改革の動向	韓国、台湾、シンガポール、中国
15	日本の政策形成へのインプリケーションはなにか	総括

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義は教科書をベースに、随時参考書を用いながら進める。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	到達目標に照らして評価する。
平常点評価	20 %	8回目の講義（予定）で、理解度の確認のため小テストを行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
健康と医療の公平に挑む　国際的展開と英米の比較政策分析	松田亮三編著／勁草書房／／2009年。基本テキストとして使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
世界の医療制度改革	OECD編著／明石書店／／2005年
アジアの社会保障	広井良典・駒村康平編／東京大学出版会／／2003年
医療制度改革の国際比較（講座　医療経済・政策学第6巻）	田中滋・二木立編／勁草書房／／2007年
医療財源論：ヨーロッパの選択	エリアス・モシアロスほか編著／光生館／／2004年

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にメールで連絡をすることが望ましい。

その他 / Others

司法福祉論（S）

15394

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム(家事)	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦・親子）	
5	司法に関わる福祉課題（人事訴訟）	
6	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度1）	
7	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度2）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
更生保護制度	／中央法規出版／978-4-8058-3267-7／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／
司法統計年報	最高裁／／／

家庭裁判月報　　最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15353

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，児童期・青年期を中心とした発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	小学生の生活と発達	社会と学校，生活世界
第3回	小学校1年生－2年生	小学生の生活と発達
第4回	小学校3年生－4年生	知的好奇心，9,10歳の節，クラブ活動，動機づけの変化
第5回	小学校5年生－6年生	思春期への移行，自己意識，総合的な学習，科学的思考
第6回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第7回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第8回	子どもらしさを捉える①	文化的過程，発達段階，現実の子ども
第9回	子どもらしさを捉える②	生活リズム，実践性，子どもの権利
第10回	児童・青年における認識と感情①	思考の発達，ピアジェ，9,10歳の発達の節，社会認識，形式的操作
第11回	児童・青年における認識と感情②	共感性，視点取得，自尊感情，怒りと感情制御
第12回	家族の中の児童青年	家族関係，親と子，依存と自立
第13回	就職と労働	職業選択，キャリア発達，産業構造
第14回	現代における青年の生活と人格発達	依存，自立，個性，生活時間，生活空間，文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

講義形式です。教科書を用います。特に，児童期に関わるところの講義の際には，事前に該当章を読んでおいて下さい。青年期を主とした内容の際には，直接に授業では教科書を用いないことが多くなりますが，授業には持ってきて下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会 (編)／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために
児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15352

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度	芝野・高橋・松原／ミネルヴァ書房／9784623053995／必ず必要である。
福祉小六法	／／／必ず必要である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html
（厚労省子ども子育て支援）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Emailにて
masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15425

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人と関わり合い・人との関係を広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、考えたり、判断したりしながら、人として成長し続けていく。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまう。また、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状や課題、あり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:コミュニケーションの役割について理解することができる。
:聴覚障害について述べることができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害福祉、コミュニケーションの基礎的科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害者のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障やコミュニケーション保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割 ：コミュニケーション障害	コミュニケーションの2つの機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害の体験
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害認識と受容、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）聴覚障害者の暮らしと福祉制度、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由

第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	ろう教育の歴史、教育手段の変遷、現在のろう教育の現状と課題、ろう教師集団が目指すもの、高等教育機関における聴覚障害者学生支援
第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

視覚教材の使用、グルーぴ討議、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、バリアフリー調査等を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著 ／一橋出版／978－4－8348－0349－5 ／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深められる
聴覚障害児・者支援の基本と実践	奥野栄子 ／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深められる
手話通訳問題研究	共著 ／全国手話通訳問題研究会 ／／手話や手話通訳に係ること、聴覚障害者を取り巻く制度等についてタイムリーな情報や全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著 ／（財）全日本ろうあ連盟 ／4－915675－39－4 ／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深められる
日本聴力障害新聞	／（財）全日本ろうあ連盟 ／／毎月発行の新聞、聴覚障害者の全国・世界情報や聴覚障害者を取り巻くあらゆる分野の社会情報が得られる

聴覚・手話に関する研究図書は他のものに比較して多くはない上に、聴覚や手話に関わる団体等が行っている調査や研究に関する報告書は、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な状態にある。各授業のキーワードごとに関係資料を配布するとともに、授業の進行に合わせ参考図書や報告書、資料等を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。その他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

障害者とスポーツ（S）

15371

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」
障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人に対する言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	スポーツの身体的･精神的･社会的等の効果
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。
研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者スポーツ	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
障害者とスポーツ	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
身体障害者のスポーツ指導の手引き	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。
障害者スポーツ指導教本	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／初級・中級障害者スポーツ指導者養成にかかる教本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15355

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、大きく変わる制度改革のもとで、それらに貫かれるべき、障害者福祉の理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容の基本を学ぶこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。今、この転換への反省がされつつある。この授業では、障害者福祉に関する基本的な制度理念の発生の背景を理解し、今日の争点となる障害者福祉制度改革の問題点を見る視点を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Ⅰ. 現代の課題を考える	障害者自立支援法の廃止をめぐって。障害観・発達観をめぐって。
2	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	Ⅲ. 障害の定義・概念（1）	国際的な動向と日本における制度上の定義
5	Ⅲ. 障害の定義・概念（2）	日本における制限列挙主義の問題点
6	Ⅳ. 障害者問題の歴史（1）	原始社会、古代社会、封建社会
7	Ⅳ. 障害者問題の歴史（2）	市民社会、現代へ
8	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（1）	1960年代の「福祉国家をめざして」と1970年代の「福祉見直し」
9	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（2）	措置から利用契約制度への転換
10	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（3）	障害者自立支援法の基本的性格
11	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（1）	日中活動・暮らし・地域生活の三つの世界と現行制度体系
12	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（2）	日中活動系サービス、就労・雇用保障
13	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（3）	居住系サービス
14	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（4）	地域生活、所得保障、障害児の放課後
15	Ⅶ. まとめ	障害者自立支援法の廃止後について
	注）なお障害当事者をゲストスピーカーに招くものをできたらどこかに入れたい。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎知識、論述
平常点評価	20 %	1－2回の小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－274－6／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚、白沢仁、多田薫／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－354－

8／

転換期の障害者福祉	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／88134－011－5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

0620mine@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

心理検査法（S）

12787

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	心理検査の種類と歴史	
	第2～5回　心理検査におけるデータ 標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓	
	第6回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法① 知能検査の開発と発展	
	第7回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法② ウェクスラー式知能検査	
	第8回　心理検査の実際Ⅱ－発達検査法① 新版K式発達検査法	
	第9回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法② 発達診断	
	第10回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③ 発達相談	
	第11回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法① 作業検査法	
	第12回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法② 質問紙法	
	第13回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③ 投影法	
	第14回　心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④ テストバッテリー	
	第１５回　まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理	
	オリエンテーション・心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓を持参すること
第6回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法①	

第12回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法②
第13回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④
第15回	まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門一正確な診断と評価のために一	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用する

参考書 / Reference Books

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間内のコミュニケーションペーパーを活用してください

その他 / Others

心理臨床論（S）

15423

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理の理解を通して，青年期の心の病の支援のあり方を考える。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に習得する。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	思春期の心の病理	抑圧・浜崎あゆみ・「いい子の病」
第2回	不登校・ひきこもりの心理療法1	学校恐怖症・初期対応・長期的支援のあり方
第3回	不登校・ひきこもりの心理療法2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
第4回	非行臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
第5回	非行臨床2	少年犯罪の推移・薬物への対応・本音の吐き出し
第6回	いじめの心理臨床1	スティグマ・四層構造・いじめ自殺
第7回	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
第8回	思春期の心の病理1：摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
第9回	思春期の心の病理2：青年期境界例	2人の自分・見捨てられ不安・尾崎豊
第10回	思春期の心の病理3：自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
第11回	思春期の心の病理4：強迫神経症	心身症・クライエントに寄り添うこと・自己開示
第12回	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
第13回	青年期の心の葛藤の支援	内観療法・親子関係・反省と吐き出し
第14回	犯罪臨床	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
第15回	子どもの心の受け止め方	ひきこもり・宮本亜門・支援者としてのあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もういちど親子になりたい	芹沢俊介／主婦の友社／ISBN978-4-07-257271-9／
少年をいかに罰するか	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／ISBN978-4-06-281143-9／
現代のエスプリ　ロールレタリング	松岡洋一・小林剛編集／至文堂／ISBN978-4-7843-5482-5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15412

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果つい、「コミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション技術を振り返ってみる機会はありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。

その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションに関しては、自覚することが少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションには「スキル（技術）」と「コンテンツ（内容）」の二つの課題が存在します。当然のことですが人は、コンテンツ（伝える内容）とプロセス構築力（伝達手段技術）の両者がうまく備わってはじめて、関係の場に自信を持って立てるのです。

この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。したがって教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。

対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進ということになります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート（記述・提出）	
2	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
3	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
4	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
5	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
6	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
7	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
8	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
9	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
10	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
11	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
12	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
13	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
14	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
15	前回のレポート振り返り（レクチュア）・最後の課題実習・	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。毎週フィードバックシートの提出を課します。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。近年の欠席は四，五，六回生に著しく偏っています。出席が無理なら、登録しないでください。

ここ2、3年、男子学生の登録と出席が増えています。開講初期、圧倒的に女子が多かったことを思うと、男子学生の健全化も感じます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／／／
家族の練習問題2	団士郎／／／
家族の練習問題3　父よ母よ	団士郎／／／
不登校の解法	団士郎／／／
家族力×相談力	団士郎／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

地域福祉論（S） § 地域福祉論（SG）

12921

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail：tsudome@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

地域保健論（S）

15361

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。
さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を修了した学生は、次のことができるよう期待されている。
1．地域（市町村）レベルでの保健康課題、対策の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2．社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3．医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて多面的に議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命などからみる健康状況と保健課題
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れと保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策；近年、住民の関心が高まり、行政においても重点が置かれている健康増進政策制度・サービスとその背景 ②地域主体へ移行する保健領域；高齢者保健、母子保健、精神保健のサービスと社会的背景
9回	地域保健と医療	医療の制度・サービスおよび保健領域との関係 （地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21など医療行政との関係を理解）
10回	地域保健と福祉	福祉制度・サービス及びそれらとの連携 （児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画などとの関係を理解）
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義・内容・課題
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明および地域保健の視点からみたSCの意義の検討
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →SCの組みの状況と保健面での成果に関する海外の事例（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるさまざまなSCの取り組みと成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）
15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ、対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／地域保健の概要の把握について
健康づくりと社会環境	松田亮三他 ／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会 ／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

乳幼児心理学 (S)

15331

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、子どもを取り巻く社会の問題、保育や教育における課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	子ども観の変遷、「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、生涯発達心理学
第2回	第2回 胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	障害のある子どもの発達と保育(4)	
第14回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	定期試験により講義内容の理解度を問う
平常点評価	20 %	講義時間内に実施するミニレポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

発達障害論（S）

15338

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1－1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達、障害、発達障害、学習障害、言語障害、情緒障害、行動障害、自閉症、アスペルガー障害
第2回	1-2 発達障害とは（2）－歴史・現状－	障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義
第3回	1-3 発達障害とは（3）－系統発生と障害の成立－	人間進化、遺伝病、障害の成立、機能障害、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、障害と社会
第4回	2-1　発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	受精、卵体期、遺伝病、染色体異常、胎芽期、器官形成期、形成異常
第5回	2-2　発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天異常、流産と死産
第6回	2-3　発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期・新生児期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、重度重複障害
第7回	2-4　発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、脳性まひ
第8回	2-5　発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第9回	2-6　発達の「階層－段階」と発達障害（6）－脳性まひ－	ボイター法、乳幼児健診、大津方式、早期発見、早期対応
第10回	2-7　発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その1）：幼児期前半－	歩行、道具の操作、言語の獲得、遊びと模倣、自我の誕生
第11回	2-8　発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その2）：幼児期後半－	ケンケン、描画の発達、「心の理論」の獲得、自己と他者、自制心の形成
第12回	2-9　発達の「階層－段階」と発達障害（9）－自閉症（その1）－	自閉症スペクトラム、カナータイプ、アスペルガー症候群、フエノタイプ、3つ組みの障害、診断基準、二次障害
第13回	2-10　発達の「階層－段階」と発達障害（10）－自閉症（その2）－	早期発見、早期診断、共同注意、マインド・リーディング、障害の受容
第14回	2-11　発達の「階層－段階」と発達障害（11）－学童期－	具体的操作、保存、社会的自己、ギャング・エイジ、学力不振
第15回	3-10　発達の「階層－段階」と発達障害（12）－アスペルガー症候群－	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害をもつ当事者や家族の手記などを読んでみると理解がしやすい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／ISBN978-4250207259 ／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／ISBN978-4902244922 ／自閉症とその発達支援の基礎を学ぶ

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
障害医学への招待-特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識-	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド-自己権利擁護と「障害表明」のすすめ-	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／自閉症の発達障害支援の基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室は修学館340号です。
面談希望の場合には事前に連絡をください。
Tel＆Fax：　075-466-3069
E-mail:hozumi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

12886

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	人間のライフサイクルと発達保障の課題	
第4回	子どもと発達保障1　胎生期	
第5回	子どもと発達保障 2　乳幼児期	
第6回	子どもと発達保障3　児童期	
第7回	青年期(思春期を含む)と発達保障	
第8回	成人期･高齢期の発達保障	
第9回	現代社会と発達保障1	発達の危機をもたらしたもの(1)
第10回	現代社会と発達保障2	発達の危機をもたらしたもの(2)
第11回	現代社会と自立1	自立の時代と自立論の新展開
第12回	現代社会と自立2	自立＝自律
第13回	現代社会と自立	自己教育力
第14回	現代社会と自立	次代の担い手に求められるもの
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

適宜レポートの提出を求める

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は使用しない。
参考図書は授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

福祉経営論（S）

15374

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢社会の進捗、格差社会の広がりのもとで現在と未来に安定を託した社会福祉拡充への期待は極めて大きいが、制度としては公的責任が薄らぎ契約制度への移行が進められている。その中にあって真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのためには、社会福祉とは何か、社会福祉事業とは誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚点を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、公的な責任のもとで真に国民に開かれた福祉事業の運営と経営のあり方を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命及び実際を理解する
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営、及び役割、使命を理解する
・福祉現場を支える福祉従事者を取り巻く環境と福祉労働の役割を理解する
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実際を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業の運営と経営　のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉法、社会保障論他各種の福祉法
なお、できれば福祉施設・事業所への見学等をしておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
第2回	福祉経営を学ぶ視点	社会の現状と国民の生活実態。権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
第3回	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
第4回	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
第5回	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、運営、定款準則
第6回	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
第7回	公的福祉サービスの運営と経営	措置制度と措置費の仕組み・特別養護老人ホームを中心に
第8回	障害施設の運営と経営	障害者福祉を巡る情勢と共同作業所等の運営と経営の実際
第9回	保育所の運営と経営	保育を巡る情勢と保育所の運営と経営の実際
第10回	介護保険制度のもとでの事業経営	介護保険制度の概要と仕組み
第11回	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営、経営の実際と特徴
第12回	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営、経営の実際と特徴
第13回	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与等の実態。福祉労働における専門性。
第14回	良質な福祉サービス提供のために	サービスマネージメント、危機管理、外部評価等
第15回	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンテイテイとこれからの姿を求めて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

できれば福祉にかかる事業所（福祉施設等）を見学しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率70%以下は及第しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしやハンデイキャップを理解し、共感することのできる自らの人間性が重要である。そして福祉に関する知識と共に対人援助事業をとおして行われる人間性豊かな援助実践の役割を理解することが大切である。人を理解し、自らの人間性を高めること、そして、人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが望まれる。それは、単に福祉ではなく「社会」を冠する社会福祉の意味と役割をしっかりと理解することに通じるものと思われる。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ・資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉辞典	同／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉サービスの組織と経営	社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosyo.html/#kaigohoken

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスなど連絡方法は、初回講義日に知らせます。

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15386

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、福祉計画の史的展開とその背景について学ぶとともに、「地域福祉計画」の概要、策定方法、他の計画との関係、評価、財政などについて学ぶ。国による社会福祉に関わる改革の内容と意義を踏まえたうえで、21世紀の社会福祉を推進する上で焦点が当てられている地域（都道府県、市町村など）による福祉計画の可能性について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）福祉計画に関わる基本的な歴史、制度についての理解
（2）地域福祉計画の基本的な概念についての理解
（3）地域福祉計画の意義と重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉計画論ではなにを学ぶのか	講義の導入、福祉計画を考える視点
2-3	福祉計画の史的展開と社会背景（1）	福祉六法、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、エンゼルプラン、ノーマライゼーション、少子高齢化社会
4-5	福祉計画の史的展開と社会背景（2）	社会福祉基礎構造改革、措置から契約（利用制度）へ、地域福祉の推進
5	地域福祉計画の理念と内容	総合化、住民参加、市町村、都道府県
6-7	地域福祉計画と関連計画	地域総合計画、社会計画
8	地域福祉における必要（ニーズ）と資源	在宅福祉、ニーズの判定と問題
9	地域福祉計画の策定プロセス	課題、理念、目的、課題の解決、実践
10	課題の発見と目標の設定	地域診断、必要（ニーズ）把握の技法、参加型調査
11	住民参加の技法	住民参加による検討、必要の把握、福祉学習、コミュニティ・ミーティング
12	地域福祉計画における評価	評価方法、評価の実際
13-14	地域福祉計画と財政	計画行政、予算、財源、民間財源、自治体財政
15	地域による社会福祉計画の可能性	地方分権、住民参加、当事者参加、ガバナンス

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞・雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、福祉に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	到達目標に照らして評価する
平常点評価	30 %	授業中に適宜、理解度を確認するための小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域福祉計画	武川正吾編／有斐閣／／

テキストに沿って授業を進めるので、必ず購入の上授業に持参すること。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜、提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にアポイントをとることが望ましい。

その他 / Others

福祉行財政論（S）

12928

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、経済社会の変化が進むなかでの、社会保障･社会福祉に関する行政･財政政策の現状と問題について学ぶ。社会保障･社会福祉をめぐる問題を考えるためには、その理念、歴史、制度の仕組み、財政構造を理解することが大切である。その上で、これらの制度が抱える問題やその経済的･社会的背景や地域性にも目を向け、高まる福祉需要への対応について理解を深めたい。日本は、21世紀にどのような福祉システムに再編･調整しようとしているのか、諸外国にも目を向けながら展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)私たちの生活のなかでの社会保障･社会福祉に関わる問題の現状を知る
(2)社会保障･社会福祉に関わる政策･制度と行財政への理解を深める
(3)社会保障･社会福祉に関わる政策と経済的･社会的背景との関連性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉行財政論ではなにを学ぶのか	講義の導入、社会保障、社会福祉、公的扶助、福祉サービス、少子高齢化社会
2	社会保障･社会福祉の歴史的変遷～政策理念と福祉国家の変容	国民皆保険、福祉六法、福祉元年、新自由主義
3	社会保障･社会福祉財政の展開～国際比較の観点から	社会保障財源、社会保障給付費、ヨーロッパ、アメリカ
4	医療の福祉：医療制度をめぐる問題と医療保険財政	医療費増加、財政赤字
5	医療の福祉：医療保険制度改革と「皆保険」	国民健康保険と職域保険、給付と負担の見直し、医療費の適正化、無保険問題
6	年金の福祉：年金制度をめぐる問題と年金保険財政	国民年金、厚生年金、国と地方
7	年金の福祉：年金制度改革と老後の所得保障	給付と負担のバランス、国庫負担、積立金
8	高齢者の福祉：介護に関する行財政の歴史と介護保険制度	措置制度、社会保険、要介護認定
9	高齢者の福祉：介護保険の財政構造と地域間再分配	給付、保険料、公費、介護報酬
10	子どもの福祉：少子化の現状とその背景	合計特殊出生率、出産･育児の費用負担、核家族化、晩婚化
11	子どもの福祉：子育て支援政策とその財源	サービス給付、経済的支援、仕事との両立支援
12	子どもの福祉：保育所サービスと地域性	認可･無認可保育所、待機児童
13	最後のセーフティネット：生活保護の現状と財政	国と地方、地域格差、最低生活費
14	最後のセーフティネット：生活保護行政と「自立支援」	就労支援、「無保険者」
15	21世紀の日本の福祉行財政の展望	講義のまとめ、少子高齢化社会、格差社会、グローバル化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞･雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、社会保障･社会福祉政策に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	到達目標に照らして評価する。
平常点評価	20 %	8回目の授業中に、理解度の確認のため小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは必ず購入し、授業時に持参すること。
授業中に適宜配布する資料を見直し、整理･保存すること。
日ごろから新聞に目を通すこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家と地域と高齢化	渋谷博史･桜井潤･塚谷文武／学文社／／2009年12月刊行

基本的に、上記の本をテキストとして用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化と福祉国家と地域	渋谷博史・樋口均・櫻井潤編／学文社／／2010年4月刊行
社会保障と地域	渋谷博史・根岸毅宏・木下武徳／学文社／／2008年4月刊行

基本テキストと合わせて、参考書に挙げた文献の内容も一部講義で扱う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にメールで確認することが望ましい。

その他 / Others

福祉産業論（S）

12741

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向　生活関連産業
3-4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5-6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7-9	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康増進ビジネス フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10-11	福祉産業の市場 介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ 介護機器 高齢者住宅 有料老人ホーム
12-13	福祉産業の市場	介護保険関係サービス事業 （訪問介護、通所介護、施設介護など）
14	中国の高齢化と高齢者福祉と医療	社区福祉
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容の質問やコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	川村正匡／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15469

担当者名 / Instructor　小林 勇人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会学の一分野に位置し、労働との関連に着目しながら、福祉（社会保障）の制度・政策と実態について学ぶものです。近年、雇用や家族が不安定化し、失業・貧困問題が深刻化するなか、就労困難な層にとって福祉の持つ重要性が増しています。他方で、若年者やシングル・マザーなど就労可能な層が福祉を利用することは「依存」とみなされ、就労を通した「自立」が求められる傾向にあります。私たちの生活にとってどのような労働と福祉のあり方が望ましいのでしょうか？　前半の講義では、具体的な事例を交えながら、私たちの生活がどのように労働と福祉によって成り立っているのか基本的な仕組みについて理解し、後半の講義では、日本と他国を比較しながら、今後の福祉社会について展望します。

到達目標 / Attainment Objectives

① 労働（雇用）と福祉（社会保障）の関連性を理解する。
② 制度利用者の立場にたって政策を考える力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション	授業の概要紹介、成績評価方法の説明
第2回目	労働市場と雇用	失業問題、消費社会、非正規雇用、労働の分割
第3回目	雇用保障	日本型雇用システム、家族賃金
第4回目	労働と福祉（1）	身体障害者の自立生活、介助サービス
第5回目	労働と福祉（2）	高齢者の生活、介護労働
第6回目	労働と福祉（3）	ワーキング・プア、雇用保険、労災保険
第7回目	労働と福祉（4）	シングル・マザー、生活保護の母子加算、児童手当
第8回目	雇用と社会保障	能力主義、私的所有、分配、中間まとめ
第9回目	福祉国家について（1）	福祉国家論、リスク管理と福祉レジーム
第10回目	福祉国家について（2）	再編期の福祉国家、脱工業社会、女性雇用の変化
第11回目	ワークシェアリング	ワーク・ライフ・バランス
第12回目	アクティベーション	積極的労働市場政策
第13回目	ワークフェア	アメリカの福祉改革
第14回目	ベーシック・インカム	基本的な考え方と種類、福祉権運動
第15回目	福祉社会の展望（総まとめ）	雇用と社会保障の連携、生活保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・新聞記事やテレビ報道ならびにドキュメンタリー映画などから得られる社会的ニュースについて、講義で導入した概念をもとに考えてみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的な語句や概念を理解するとともに、それらを用いて論理的に考えることができるかどうかを試します。
平常点評価	20 %	コミュニケーション・カードを用いて授業への質問・意見・感想などを書いてもらうことで、講義への積極的な参加を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・私語ならびに携帯電話の使用を禁止し、厳しく注意します。また成績評価方法の詳細については、初回の講義で連絡するので必ず出席するようにしてください。

教科書 / Textbooks

・特に指定しません。資料を配布しながら授業を進めます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉社会――社会政策とその考え方』	武川正吾／有斐閣アルマ／4641121192／
『生活保障――排除しない社会へ』	宮本太郎／岩波書店／4004312167／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

・講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉住環境論（S）

12747

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩 ／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

福祉情報論（S）

12743

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第02回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第03回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第04回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第05回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第06回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第07回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第08回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第09回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

15325

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉の対象や福祉サービスに関する総論（理念）部分と福祉の対象毎のサービスに関する各論部分とに区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会福祉の対象の捉え方やサービス提供方法に関する総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法

(2) 社会福祉制度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉、③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は福祉サービスを利用する当事者にとって不可欠な福祉サービスの在り方はどのようなものか、それを実現するための制度構築、および、現在の日本の社会福祉制度における課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1)福祉サービスを必要とする人に対する固定的な見方から脱却し、多角的に福祉サービス対象を捉えることを可能とする視野・視点を養う。

(2)社会福祉サービスを必要とする当事者の視点から、当事者の必要に即した「人間らしい」福祉とは何かについて考える力を養う。

(3) 日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	社会福祉の成立過程―イギリスと日本の社会福祉制度の成立史―	救貧法、恤救規則、救護法、生活保護法、産業革命、少子高齢化
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	ろう文化、障害者スポーツ
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	グループホーム、在宅サービス、通所施設
8	社脱施設化と自律生活	パーソナルアシスタンス、自立生活運動
9	社会福祉の施設と脱施設化	里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
10	社会福祉サービスの制度枠組みと社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
11	脱施設化と障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
12	脱施設化と高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
13	経済的困窮者の排除と包摂	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
14	代の貧困と公的扶助（生活保護）制度とその課題	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護、生活保護適正化、老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	基礎的な生活保障とベーシック・インカム	ベーシック・インカムの根拠、ベーシック・インカムと所得保障、ベーシック・インカムの今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望まし

い。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。
ベーシック・インカム日本ネットワーク準備委員会・http://basicincome.gr.jp/。日本におけるベーシック・インカムに関する運動や研究について知ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉臨床論（S）

15375

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	精神障害と自立①	精神障害　症状　障害
第13回	精神障害と自立②	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉労働論（S）

12739

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

医療や教育とならんで社会福祉の仕事は人を対象として基本的な人権の保障の一貫としての性格を担っている遂行される労働です。この講義では社会福祉分野で職業として行われている社会福祉労働の基本的で共通の特徴や理念・必要とされる資質、そして福祉労働者の労働条件や労働環境の歴史と現状や将来について考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉労働に共通の基本的な性格と福祉労働者の労働条件や労働環境の現状と課題についての理解を深めることを目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉概論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉労働論へのオリエンテーション	蟻の目と鳥の目
2	共同社会の中での福祉的営みの普遍性	ボノボ、共同
3	共同社会の基本条件：モノの生産と生命の維持再生産	モノの生産、生命の維持再生産、協働、コミュニケーション
4	福祉労働の三つの合理性	科学的・技術的合理性、規範的合理性、コミュニケーション的合理性
5、6	生活問題と発達課題をとらえる科学的・技術的合理性	生活問題、発達課題
7、8	福祉労働の規範的合理性	身体拘束と安全、生存権、発達権、手続き的権利、アクセス権
9、10	福祉労働におけるコミュニケーション的合理性	理解、社会学における社会的行為論
11、12	ビデオ教材を使って社会的行為の類型分析を試みる	社会的行為の5類型
13	福祉労働者の労働条件と労働環境	措置制度、常勤換算、福祉職俸給表
14	社会福祉事業の経営体に働く四つの力と福祉労働（者）の位置	社会福祉法人、NPO法人、福祉運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回講義で小さな考えるテーマを出します。また、テーマに関連するビデオを多く見ることにします。それについて友人や家族と議論をしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義全体の理解を問う試験問題を出し、理解度により採点します。
平常点評価	30 %	毎回の講義での小テーマに対する取り組み姿勢から判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

頭を使い、事実に基づいて、理論的に考える訓練をします。できるだけ欠席はしないように心がけてください。そうすれば、講義の終わりに多面的に考える力がついている自分に気づくことになるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間の際か、メールで連絡してください。isikura@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15464

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。

本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学。社会学の基本的な科目を履修していると、講義内容に対する理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
2	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
3	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
4	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
5	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
6	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
7	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
8	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
9	ケアと回復（1）	問題の社会化、careとcure、相互作用性
10	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
11	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
12	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
13	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
14	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
15	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。

毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。次回講義開始時に回答をする。これは講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価に反映されるものではない。

随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいく予定をしている。講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15351

担当者名 / Instructor　西村 清忠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義においては、団塊の世代が2015年に65歳に到達するわが国の高齢者への政策課題や、高齢者自身が抱えている身心・経済・貧困・地域・家族・自らの生活問題などに対して、歴史的な視点の把握と、近未来の解決すべき課題に対して果たさなければならない課題、他の福祉分野の問題解決手法を含め、現場実態に即し、あわせて2000年導入された介護保険制度の問題点や、2005年に改正された新しい介護保険制度について基本的な現状問題について把握し、これからの学習課題を修得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史的に構築されてきたわが国の老人問題について把握し、戦後の社会経済の高度成長に始まった向都離村現象による地域間格差や、急速に高齢化したなかで家族構成の変化や、年金・医療・介護・地域などの福祉問題ついて高齢者の抱えている問題が、世代を超えた大きな政治的な課題であると同時に、みなさん自身の問題であることを把握し、政策的・実践的解決を急がなければならない問題であり、特に介護問題は喫緊の問題であることを認識することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論・障害者福祉論・公的扶助論・地域福祉論・介護概論・医学一般・心理学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション 高齢者福祉の考え方	高齢者福祉の考え方 社会的理解・身体的理解・精神的理解など高齢者の生活ニーズについて
2	少子高齢社会と高齢者	急速な高齢化がもたらした、わが国の高齢者を取巻く諸問題について
3	高齢者保健福祉の発展と法体系	歴史的な視点から、わが国の高齢者福祉の発展について
4	高齢者支援の関係法規	老人福祉法成立の経緯・高齢者の医療に関する法律・高齢者虐待防止法・ユニバーサルデザインや、居住・権利擁護・社会参加と生涯学習など
5	介護保険制度の基本的枠組	介護保険制度の全体像・目的と理念・保険財政・保険者と被保険者・最近の動向について
6	介護保険制度の仕組	要介護認定の仕組とプロセス・保険給付・介護報酬・地域支援事業・介護保険事業計画・サービスの質を確保する仕組
7	介護保険サービスの体系	介護支援専門員・居宅サービス・施設サービス・介護予防サービス・地域密着サービスなど
8	高齢者を支援する組織と役割	行政機関の役割・指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割・地域包括支援センターの組織体系と役割・社会福祉協議会・ボランティア団体・NPOまど
9	高齢者の支援の方法と実際	高齢者支援の方法・介護保険法における連携と実際
10	高齢者を支援する専門職の役割と実際	専門職の役割と実際・専門職による協働（多職種連携）・専門職の倫理
11	介護の概念や対象	介護の概念と範囲・介護の理念・利用者の理解
12	介護過程	介護過程の概要・介護過程の展開技法・介護予防
13	介護各論①	自立に向けた介護・家事における自立支援・QOL・食事、口腔衛生の介護・入浴、清潔、排泄
14	介護各論②	認知症ケア・終末ケア・住環境
15	近未来の高齢者福祉の課題	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉に関する問題を論述形式で2問だす。 高齢者問題に対する講義の中からの理解力と、答案の論理構成を文章表現力を含めて評価する。

平常点評価	30 %	中間でテスト・レポート提出を求める。予告をしないので注意して下さい。レポート用紙は、当日講義終了時に、コミュニケーション・ペーパーと引き換えに手交する。次週講義終了時に提出を求めるが事後提出は認めない。（公欠・病欠は事後に用紙交付のうえ認める） コミュニケーション・ペーパーによる出席確認を行うが、日常点として評価するので、無記載や感想などの記載の無いものは、出席として認めないことがあるので注意すること。

講義中の「私語」は他の受講者の「学習権侵害」として厳しく対応する。注意しても止めない場合は、学籍番号確認のうえ退出を命じることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉士国家試験受験のための必須科目であるので、適時、過去問題の出題箇所などについてふれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座　13	／中法法規出版／／社会福祉士受験受講者は必須

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉小六法	／ミネルヴァ／／
よくわかる高齢者福祉	／ミネルヴァ／／用語の詳しい解説やデーター
ケアその思想と実践①～⑥	／岩波書店／／専門職として講読をすすめる
社会福祉用語辞典	／ミネルヴァ／／専門用語が多いので1回生は手元に

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

12723

担当者名 / Instructor　北村 健太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは生まれ、病み、老いて、いずれは死んでゆく。〈いま・ここ〉で生きている私たちの〈生〉は〈老い衰えてゆく〉過程とも言える。本講義では、〈老い〉という視点から現代社会に立ち現われる様々な論点（雇用、ジェンダー、社会保障、ケアワーク、社会参加等）について、深く考えることを目指す。各講の内容は、連続ないし循環しているので、つながりを意識して受講すること。ときには、一般的に「問題」と言われている現象について、「どのように問題なのか」と根本的に問い返す姿勢で受講してもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〈老い〉を切り口として、社会学的視点から（日本を中心に）現代社会に対する認識を深め、受講者が各々の考察を論述できるようになること。また、様々な社会現象や各種論点に対して、根本的に問い返す姿勢が身につくとより望ましい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の視点と概要	
2	〈老い〉を想像する（1）	
3	〈老い〉を想像する（2）	
4	〈老い〉をめぐる歴史（1）	
5	〈老い〉をめぐる歴史（2）	
6	〈老い〉をめぐる歴史（3）	
7	〈老い〉と身体（1）	
8	〈老い〉と身体（2）	
9	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（1）	
10	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（2）	
11	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（3）	
12	〈老い〉と社会保障（1）	
13	〈老い〉と社会保障（2）	
14	〈老い〉と政治	
15	〈老い〉と残された問い	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、〈老い〉に関わることに関心を向けること。また新聞・雑誌等の〈老い〉に関する記事を読む際は、生活の場で何が起きているか、そこに影響している人間同士の力関係や社会制度の仕掛けを考えながら読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	〈老い〉に関わることの理解および授業参加を評価する。
平常点評価	40 %	出席、講義中に課すミニレポートなど。

定期試験は講義で取り上げた内容から出題するので、各回の講義をよく把握すること。不明な点があれば、放っておかずに、必ず担当者に質問すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〈老い〉を想像し、〈老い〉に関する様々なことを自らに引きつけて考えてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『老いと社会――制度・臨床への老年学的アプローチ』	冷水豊編／有斐閣／／入門書。社会学的視点は少なめ。
『アクティブ・エイジングの社会学――高齢者・仕事・ネットワーク』	前田信彦／ミネルヴァ書房／／雇用、ライフコース等。
『老いへのまなざし――日本近代は何を見失ったか』	天野正子／平凡社ライブラリー／／ジェンダー、マイノリティ等。
『〈老い衰えゆくこと〉の社会学〔普及版〕』	天田城介／多賀出版／／相互作用論、意味の生成等。

2000年代以降の出版で、総合的かつコンパクトな社会学的視点からの〈老い〉に関するテキストは少ないので、各自の関心に合わせて参考にすること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

livingroom
http://www.livingroom.ne.jp/
担当者のウェブサイト。講義用のファイルを作成する予定なので、適宜参考にすること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義内で伝える。

その他 / Others

社会福祉調査論（S）　§　福祉調査・統計論（S）

12933

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉調査は、潜在的な生活問題、生活実態を把握することから具体的な支援内容を検討し、さらに社会福祉課題、政策課題を明らかにする意味を持つ。

本講では社会福祉調査に関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①社会福祉（社会問題）にとっての社会調査の系譜および意義の整理・検討、②社会福祉の構造的把握から見た生活実態把握の重要性の検討、③社会調査実施に向けた手続きや具体的な方法の習得、である。これらを検討・習得する上で、様々な社会福祉調査の実際例をあげながら解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉（社会問題）にとっての社会調査の系譜および意義を理解すること
2. 社会福祉の構造的把握から見た生活実態把握の重要性を理解すること
3. 社会調査実施に向けた手続きや具体的な方法を習得すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会調査論など調査・統計関連科目、地域福祉論、コミュニティケア論、国際福祉社会論（それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい）。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　―講義を始めるにあたって― 1. 社会福祉調査とは　（1）生活実態把握の意味	三元構造論
第2回	2. 社会福祉調査とは　（2）概念と系譜の整理	イギリス、日本
第3回	3. 社会福祉調査とは　（3）調査の方法	量的調査、質的調査
第4回	4. 調査の実際と特徴　（1）量的調査の実際①	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第5回	5. 調査の実際と特徴　（2）量的調査の実際②	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第6回	6. 調査の実際と特徴　（3）量的調査の実際③	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第7回	7. 調査の実際と特徴　（4）質的調査の実際①	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第8回	8. 調査の実際と特徴　（5）質的調査の実際②	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第9回	9. 調査の実際と特徴　（6）質的調査の実際③	子ども・高齢者・障害者の生活実態
第10回	10. 調査の設計、手順と方法　（1）仮説と検証	調査票、サンプリング、調査の倫理
第11回	11. 調査の設計、手順と方法　（2）資料収集と分析	事前調査、文献検索、資料（図書）収集
第12回	12. 調査の設計、手順と方法　（3）量的調査	信頼性と妥当性、調査票作成、データの整理
第13回	13. 調査の設計、手順と技術　（4）質的調査	面接法、観察法、フィールドワーク
第14回	14. 地域福祉計画と調査　（1）自治体の事例的検討	社会福祉法、地域福祉計画、住民参加と住民自治
第15回	15. 地域福祉計画と調査　（2）あらためて調査の意味を考える、まとめにかえて	調査の意義と福祉の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・資料に触れ、自学自習にも努めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生が居住する地域社会の生活問題と福祉調査に対して、日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。

講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『障害のある子ども・家族とコミュニティケア』	黒田学、渡邉武編／クリエイツかもがわ／／
『ベトナムの障害者と発達保障』	黒田学／文理閣／／

その他、講義中に適宜指示する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体（地域福祉計画等の資料）および厚生労働省のホームページ（http://www.mhlw.go.jp/）。その他、講義中に適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる。

その他 / Others

外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

12791

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年、日本ではフリーターやニートなど正規雇用に就くことができない若者が大きな社会的関心を集めているが、実は、他の多くの先進国でも同じような問題が生じている。授業では、アメリカにおける若者の就業の実態とその問題点を分析しているOsterman,1980, "Getting Started: The Youth Labor Market," The MIT Press.を取り上げ、輪読形式で読み進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

アメリカにおける若者雇用のあり方を学ぶ。また課題の輪読を通じて、実用的な英語読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	"Getting Started" (1)	輪読
3	"Getting Started"(2)	輪読
4	"Getting Started" (3)	輪読
5	"Getting Started" (4)	輪読
6	"Getting Started" (5)	輪読
7	"Getting Started" (6)	輪読
8	"Getting Started" (7)	輪読
9	"Getting Started" (8)	輪読
10	"Getting Started" (9)	輪読
11	"Getting Started" (10)	輪読
12	"Getting Started" (11)	輪読
13	"Getting Started" (12)	輪読
14	"Getting Started" (13)	輪読
15	"Getting Started" (14)	輪読、まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習してきていることを前提に授業をおこなう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、予習の取り組み状況、発言の積極性を総合して評価する。 欠席不良の場合、単位が取得できない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は一行ずつ輪読形式で行う。
文献読解を目的とした授業であり、ヒアリング、スピーキング、ライティングは扱わない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Getting Started	Osterman, Paul／The MIT Press／0262150212／

教科書は購入しなくてもかまわない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

15340

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.（初級者向け）
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.（中・上級者向け）
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15382

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

19世紀末、E・デュルケムは当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して、『自殺論』の概要や現代的意義などについて理解を深めつつ、社会学的枠組みを通して社会現象を分析する視点を学んでいきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明　②受講者の語学力の確認　③予習範囲および担当箇所の分担　④デュルケム『自殺論』の概要
2	introduction／1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①出席・予習など、授業への参加の度合い ②最終日時点での、フランス語に対する理解度 の2点によって決定します。

ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　yft27193@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

12792

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げました。市場経済を導入したことによって社会の構造が変化し、人々の暮らしも大きく変わってきています。特に、この数年の変化は激しく、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つといいます。社会が大きく変化すれば、当然色々な問題が出てきます。テキストを読み進めることによって、日々の暮らしの中で中国の人々がどのような価値観を持ち、悩みや歓びを感じているのかをテキストから読み取って、中国に対する理解を一層深めてほしいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

辞書を有効に利用し、現代中国の基礎的理解を深める上で必要な、中国語で書かれた文章の概要を正確に把握できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は一通り中国語の基本文法を修得していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	受講者の語学力の確認、講義の進め方など
第2回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第3回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第4回	中国的独生子女	一人っ子
第5回	中国的独生子女	一人っ子
第6回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第7回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第8回	中国人的饮食	食生活
第9回	中国人的饮食	食生活
第10回	中国人的住宅	住宅
第11回	中国人的住宅	住宅
第12回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第13回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第14回	中国人生活中的IT	IT産業
第15回	中国人生活中的IT	IT産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱った幾つかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	50 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクティブ中国	胡　金定／朝日出版社／／
中国は今	孟　広学・本間　史／白水社／／

授業に必要な資料は配布しますので、必ずしもテキストを購入する必要はありません。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SE） §　外国語文献研究（SE）

15448

担当者名 / Instructor　梁 愛舜

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島文化の理解を深める。韓国の文化、家族制度に関する文献の講読、逐次刊行物をはじめ新聞報道、ホームページから日常生活に関連する問題、例えば、教育、福祉、宗教などの記事を取りあげ、読解する。また日本語文献を朝鮮語で読み返す「翻訳」を試みる。とくに本年は「韓日併合」100年にあたることから、この件に関する韓日メディア報道を比較するとともに、メディアの役割について考える。大韓民国の文献・資料を主に使用するが、朝鮮民主主義人民共和国やその他の地域における朝鮮語出版物も用いる。全授業を通して「韓流」ではつたわらない、奥深い韓国社会と生活者の実像に接近することができる。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会と文化に関する用語を理解し、読解力の向上を目指す。
②テキストに出てくる歴史的事件の概要を説明できる。
③関心のある韓国の社会問題を、自身の視点で明快に説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	導入、講読	自己紹介、授業の進め方とテキストについて説明、短い文章の講読
2回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国の経済事情、福祉、医療生協活動
3回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国社会と女性
4回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	教育、就職
5回	崔在錫著『韓国家族制度史研究』講読	伝統的家族、「韓流」の家族
6回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第2章「ソンビと朝鮮時代儒教文化の性格」講読	儒教、韓国文化
7回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第4章「新文化の形成と新知識人の性格」講読	社会変動、“新しい文化”
8回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他	韓国社会とキリスト教
9回	李光奎『在外韓人の人類学的研究』第一部「世界の韓国民族と文化」講読	韓国の海外「移民社会」理解、文化とアイデンティティ
10回	李光奎著『在外韓人の人類学的研究』第二部「在日韓人」講読	韓日関係と在日朝鮮人
11回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第一節「儒教的家族」翻訳	祖先祭祀、「孝」
12回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第二節「チェーサの世俗化の問題」翻訳	世代交代、文化変容
13回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合①
14回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合②
15回	到達度確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席日数、レポート提出、発表、最終日の到達度確認テストなど総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

国立国会図書館関西館（精華町）のアジア情報室には豊富な朝鮮語資料が所蔵されている。未体験の学生は一度利用または参観されることを勧める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
韓国家族制度史研究	崔在錫／一志社、996／／
韓国文化の性格	최봉영／四季節出版社、1997／89－7196－410－3／
在外韓人の人類学的研究	이광규／集文堂、1997／89－303－0525－3／
在日朝鮮人社会における祭祀儀礼	梁愛舜／晃洋書房、2004／4－7710－1535－X／

上記の一部内容をテキストとして使用する。基本的にテキスト用として毎回プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　eyr10111@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SA） § 企画研究（自主企画研究）（SA）

14154

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14155

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

カナダのキルバーガー兄弟が作成した『テイク・アクション』（アクティブ・シティズンシップの入門書）の日本版を製作する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動、NPO活動、社会的企業家活動などにおいて、輝いている若者たちに、インタビューを試み、それらデータにもとづき、日本版『テイク・アクション（仮題）』ドラフトを作成し、立命館宇治高校の生徒・先生などとのワークを通じて、さらに、改善して、2011年春の出版を目指

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～第5回	昨年の企画研究で翻訳を試みた『テイク・アクション』の読解およびチェックとキルバーガー兄弟『Me to We』の読解。	
第6回～第10回	輝いている若者たちに対するインタビューの実践、原稿の検討会の実施とリライト	
第11回～第15回	立命館宇治高校とのワークの実施とドラフトの推敲	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

以上の進め方については、履修者と相談する。授業時間についても、履修者が参加できるように可能な限り調整しながら進めていく。
もちろん、授業時間以外のインタビューやワークの時間が取られることは、事前に了解しておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会に通用する成果を追求するので、取り組みに向けたエネルギーはそれなりのものを要求される。しかし、きわめて、満足度の高い成果が期待できるので、アクティブな方には、ぜひ、参加してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14156

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりをはじめ、その他当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知るとともに、地域の経済的・社会的課題の発見と活性化に向けての可能性とについて、農商工連携の推進と食育をテーマに加え、調査研究と社会的実践を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPO法人フロンティア協会との協働による地域活動について、各人の関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表するとともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、フロンティ協会は学部インターンシップの受け入れ先でもあるので、NPOの活動に興味があれば申し込んで欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（6月6日ホームカミングデーの一企画として、第3回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備・運営、また、7月下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動やボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます（なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい）。
また、今年度は農商工連携をテーマに加えた活動を開始する予定なので、そうした分野への関心も持ってもらえるといいでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）』	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
『伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿』	農文協（編）／農山漁村文化協会／／
『納豆本―やっぱり納豆が好き―』	／フロム出版／9784894472037　／
『農商工連携による「新地域おこし」のススメ』	後久博／ぎょうせい、2009年／／

参考になるWWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

京北プロジェクトの2009年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。ブログやHPとともに、2010年度の活動の参考としてください。

企画研究（SD） § 企画研究（自主企画研究）（SD）

14157

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、高嶋 正晴、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SE） § 企画研究（自主企画研究）（SE）

14158

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ作成を通じて学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようにすること、さらに(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。学生がデジタルコンテンツ制作を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像コンテンツ制作に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（1）	映像の特性、音声の特性
第3回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（2）	映像表現の可能性、音声表現の可能性
第4回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（3）	ターゲットオーディエンス、プレシス
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（1）	プロダクションプランニング、ロケーションハンティング
第9回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（2）	カメラオペレーション、三脚
第10回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（3）	ズーム、ティルト、パン、
第11回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（4）	クローズアップショット、ミドルショット、ワイドショット
第12回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（5）	映像カメラによる音声収録
第13回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（6）	リニア編集、ノンリニア編集
第14回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（7）	ポストプロダクション
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本企画研究はニクラスで構成されており、ひとつは金山が担当するコンテンツ制作部門、もうひとつはマネージメント部門（担当：坂田謙司教授）となっている。興味に応じて登録クラスを選択してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①映像コンテンツ制作作品の完成度と②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

最初の講義時に提示する。

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14159

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

前期は、映画宣伝とは何か、学ぶ。現在映画配給会社で宣伝を担当しているゲスト講師も予定。前期に学んだ映画宣伝の基本を、後期は受講生たちで決めた上映作品を、学内でどのように宣伝していくかを実践し、宣伝方法とその効果について検証する。研究成果については、ゼミナール大会で発表を行う。前期は隔週の授業だが、後期はほぼ毎週の授業となる。

到達目標 / Attainment Objectives

映画宣伝のノウハウを学び、その後の実践を通して、自分たちが企画したイベントを、どのように広告宣伝していくのか。イベントに足を運んでもらうことの難しさを体験的に学び、そのうえで、今後の様々な他の取り組み等にも応用できる力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、映像プロデュース論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行とは①	映画興行収入ランキングの意味
2	映画興行とは②	映画製作会社、映画配給会社、映画興行会社
3	映画興行における宣伝とは①	宣伝計画の立て方
4	映画興行における宣伝②	宣伝計画と興行結果
5	ゲスト講師　ギャガ株式会社関西営業所長　一色真人氏（立命館大学、産業社会学部OB）を予定	宣伝のノウハウ
6	上映作品の選定	
7	上映会の企画と宣伝計画の策定	
8	宣伝活動の進行状況の確認など	
9	上映会準備	
10	上映会準備	
11	上映会の結果のまとめ	
12	ゼミナール大会発表準備	
13	論文作成準備	
14	論文の完成、	
15	1年間のまとめリーフレットの作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会での発表並びに論文提出で、評価を決定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生から4回生まで、専攻の違うメンバーで、一つのことを取り組むことで、通常の講義とは違う発見があると思います。上映会の準備は、宣伝物づくりから行いますので、作業は大変ですが、喜びもまた大きいと思える人の受講を期待します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割り等

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講生と、メーリングリストを作成し、日常的に連絡できるようにします。

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

14329

担当者名 / Instructor　遠藤 保子、斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市は、子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することを基本理念に、2002年度、京都市ユースアクションプランを策定した。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。2007年、上記プランの中間見直しが行なわれ、プランの改定版が策定された。そして2009年度、京都市は、第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）を策定中である。この授業では、これまでのユースアクションプランと新しいプランについて知り、京都市青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

ユースアクションプランと青少年活動センターに関するレポートをまとめ、聞き取り調査を行い、プレゼンテーションを行なう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業内容と到達目標に関する概要	
2回	京都市ユースアクションプラン（理念と基本方針1）の考察	
3回	上記プラン（基本方針2,3）の考察	
4回	上記プラン（基本方針4,5）の考察	
5回	上記プラン（改定版）の考察	
6回	第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）の考察	
7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	
8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	
9回	中京青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査：現状と課題	
10回	中京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（DVや恋愛講座等）に関する調査	
11回	北青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査:現状と課題	
12回	北青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（サンタや伝記プロジェクト等）に関する調査	
13回	下京青少年活動センターの実態調査1：センター全体に関する実態調査	
14回	下京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（ミニミュンヘン、リーダーバンク等）に関する調査	
15回	上記センターに共通する課題とその解決策、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ユースアクションプランと京都市青少年活動センターをさまざまな側面から検討する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14160

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究は企画研究SEと連携して実施し、マネージメントを中心とする。
本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ制作のマネージメント作業を通じて、学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようになること。(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。
コンテンツ制作という実技面でなく、クライアントとの折衝や制作チームへの指示などを通じて、マネージメントという重要なスキルの獲得をめざす。学生がデジタルコンテンツ制作に関するマネージメント面を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学部をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

デジタルコンテンツ制作に関するマネージメント業務及び制作作業に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（1）	他大学・類似学部の広報コンテンツ分析　何をどのように使っているのか？
第3回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（2）	産業社会学部の広報コンテンツ分析
第4回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（3）	新しい提案に向けてのディスカッション
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	企画案実現のためのマネージメント作業（1）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像1
第9回	企画案実現のためのマネージメント作業（2）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像2
第10回	企画案実現のためのマネージメント作業（3）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声1
第11回	企画案実現のためのマネージメント作業（4）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声2
第12回	企画案実現のためのマネージメント作業（5）	マネージメント作業の実際　スケジューリング
第13回	企画案実現のためのマネージメント作業（6）	マネージメント作業の実際　作業振り分け
第14回	企画案実現のためのマネージメント作業（7）	マネージメント作業の実際　マネージメントにとって何が一番重要か
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①企画提案とマネージメント計画書の完成度、②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SI）　§　企画研究（自主企画研究）（SI）

14330

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、テレビ放送の現状と将来についての考察を行う。学生を中心として、若者のテレビ離れは深刻である。テレビ視聴形式の多様化によって、リアルタイムでテレビを見る人たちが少なくなっている。しかし、テレビから完全に切り離されているのではなく、テレビへの関心自身は依然として存在している。そこで、学生のテレビに対する意識や視聴傾向を調査し分析することで、学生とテレビの関係を明らかにする。そこから「テレビとは何か？」という原点を考察することが本研究の目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

①インタビューや取材を通じて、学生とテレビの関係を考察する。
②考察結果は3分程度の映像作品として制作し、関西テレビ関係者に対してプレゼンテーションを行う。
上記2つの作業を通じて、現代社会及びそこで生きるわれわれにとってテレビという存在とは何か？という疑問に対する自分なりの「回答」を導き出すことが出来る。また、この作業を通じて、自らの学びへとつながるヒントを得ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	概要説明とテレビに関するディスカッション	ガイダンス
第2回	関西テレビ社員によるレクチャー（1）	テレビの現状
第3回	最終作品制作に関する準備（1）	作品イメージと作業内容
第4回	関西テレビ社員によるレクチャー（2）	企画作りとは
第5回	最終作品制作に関する準備（2）	企画案作成
第6回	関西テレビ社員によるレクチャー（3）	インタビュー取材とは
第7回	最終作品制作に関する準備（3）	インタビュー実践
第8回	関西テレビ社員によるレクチャー（4）	カメラワークとは
第9回	最終作品制作に関する準備（4）	ビデオカメラを使った撮影
第10回	関西テレビ社員によるレクチャー（5）	編集とは
第11回	最終作品制作に関する準備（5）	映像編集の実際
第12回	最終作品制作作業（1）	取材・撮影
第13回	最終作品制作作業（2）	取材・撮影・編集
第14回	最終作品制作作業（3）	編集
第15回	最終作品発表と講評	
エキストラ	関西テレビでの最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終作品の内容と参加度によって評価。グループ作業になるので、参加・貢献度が低いと評価の対象とならない。また、最終作品の完成も、評価条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14161

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリズムとともに「格差社会」が進行し、社会不安も高まっている。言論の自由もなく治安維持法などが猛威をふるった戦前を知る人たちの間から、「あの時代に似てきた」との声がきかれる。確かに、気がつけば、自衛隊が海外に「派遣」され、イラクとアフガニスタンで「テロ戦争」を闘っている米軍との一体化も進んでいる。戦後、60年がたっても沖縄では新たな基地建設の計画を止めることができない。「平和憲法」が形骸化していくなかで、どこに歯止めかければ、より自由で開かれた生きやすい社会に変えていくことができるのか。その手がかりを得るために、1945年8月15日の「敗戦」を境にして、日本の社会の何が変わり、何が変わらなかったのかを、法制度、言論機関、地域社会のありかたなど様々な側面から比較、検証する。

到達目標 / Attainment Objectives

「世直し」のための提言を「学生の意見10」と名付け、具体的な「政策」のレベルに近づくかたちでまとめる。その成果については、朝日新聞紙上での掲載を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1-5	（収集・取材）：70年前の日本社会の実態に迫る。当時の新聞、雑誌、映画などの　メディアをはじめ当時を知る人たちの証言、手記などを収集。受講者がそれぞれ　最も関心があるテーマを選び、それぞれが取材した調査結果などをミニレポートにまとめて発表する。	
6-10	（整理・議論）：「変わった点」「変わらない点」を腑分けして整理、議論する。相互批判を通じて足らない論点・資料などを補う	
11-15	（提言）：「提言」をまとめる。提言づくりでは、提案者（筆者）が受講生全員の前でプレゼンテーション。その後の論議をふまえてまとめる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

「提言」の参考にするのは、「日本を変えよう。市民の意見30」（1989年1月16日朝日新聞朝刊の意見広告」および、1999年から2000年にかけて朝日新聞（大阪本社）の家庭・文化・芸能面に長期連載された企画「日本は変わったのか」

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中を切り取り記録するジャーナリストに求められる資質とは、「瞬発力（時代の波頭を読み取る『斥候』としての役割）」「発掘力（隠された事実を掘り起こす）」「粘着力（記事・提言にまとめるまでの粘り）」だといわれる。受講者がジャーナリストを目指すかはともかく、そんな気概で取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SK） § 企画研究（自主企画研究）（SK）

14331

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「立命館大学のエコキャンパス化への取り組み」

本企画研究の目的は、立命館大学のエコキャンパス化に向けて、その現状と課題を整理した上で、衣笠キャンパスにおける環境改善活動の具体的提言および実践を学生主体で行なうことである。本学の環境関連科目は数多く存在するが、キャンパスの環境改善活動への取り組みは他大学と比較して大きく立ち遅れており、基礎的なデータすら把握されていないのが実情である。2020年までに温室効果ガスを1990年比25%削減するという社会的要請からも、次世代を担う学生への教育・啓発の意味からも、立命館大学の学生主体の環境改善活動への取り組みが強く求められている。

具体的には、学生のグループワーク・フィールドワークを主体に、立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集や環境負荷の実態調査、学生の環境意識調査、他大学のエコキャンパス化の実態調査、ゲストスピーカーの招聘等を通して、主に衣笠キャンパスにおける環境負荷の現状と課題について考察した上で、エコキャンパス化への具体的提言および実践に結びつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画研究の到達目標は、講義で学んだ環境問題に関する知識等をキャンパスという身近な環境改善において具体的に活用する能力や、主体的に学び、調査し、考え、解決策を提起する能力等を身につけることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに	
第2回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（1）	
第3回目	ゲストスピーカーの招聘（1）	
第4回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（2）	
第5回目	ゲストスピーカーの招聘（2）	
第6回目	立命館大学の環境負荷の実態調査	
第7回目	立命館大学の廃棄物リサイクルの実態調査	
第8回目	中間総括	
第9回目	他大学のエコキャンパス化の実態調査	
第10回目	立命館大学の学生の環境意識調査	
第11回目	フィールドワーク（1）	
第12回目	フィールドワーク（2）	
第13回目	エコキャンパス化に関する企画の立案	
第14回目	エコキャンパス化への具体的提言	
第15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査・研究・企画への参加と成果物の作成など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14238

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

経済成長が続く中国を中心に、アジアの消費市場は着実に拡大しています。その反面、芸術・文化の振興、創出の産業構造では、日本は先進国です。ところがデシタル技術とインターネットの地球規模の急速な普及で、新たな課題が続々と生じています。それには、まず速やかに時代に対応できる人材の育成です。ついては東アジア地域（日・中・韓）を主軸に、ASEAN加盟諸国における音楽文化・産業の実態を調査・研究し、推進役の一助になるような報告書の作成と発進を目指します。

到達目標 / Attainment Objectives

〇音楽文化を通じて西欧と非西欧を比較し特性を学ぶ。
〇最新の市場特性を調査研究する。
〇新たな情報ネットワークを構築する。
〇ビジネス・プロデューサーの資質を拡充する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

〇語学（中国語、韓国語）の積極的な履修を望む。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国勢と民度の基本調査	多言語と宗教の多様性
第2回	非西欧音楽の存在と特性	民族音楽と伝統音楽
第3回	市場規模と消費構造の基本調査	価格差
第4回	教育制度の実態と調査研究	人材育成
第5回	メディア事情の調査・研究①	マスメディア
第6回	メディア事情の調査・研究②	ネット社会と違法配信
第7回	エンタテインメント産業の実情	スーパー・スター
第8回	J-POPの浸透度と普及の可能性	ディク・リー（音楽プロデューサー）
第9回	コンテンツ産業振興策と戦略	韓流ブームとK-POP
第10回	違法ネット利用の実態と法整備	海賊版
第11回	許認可制度の存在と実態	表現の自由
第12回	著作権等の法整備	国際基準
第13回	海外交流の実態	英才教育
第14回	アジアのオジナリティ	情報ネットワーク
第15回	研究発表フーラム（仮）の開催	アジア版ベスト10曲

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

その都度指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定はしない。独自資料・テキストを活用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーターマニエル著、中村とうきょう訳／ミュージックマガジン社刊／／
「日中韓はひとつになれない」	小倉紀蔵著／角川書店刊／／
「音楽ビジネスの著作権」	前田哲男・谷口元著／社団法人著作隣接権センター刊／／

その都度指示するが、上記の3冊を受講前に一読を奨めます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ｅ－mail　DZC05045＠nifty.ne.jp

その他 / Others

企画研究（SM） §　企画研究（自主企画研究）（SM）

14239

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

歴史は、現在のあり方や今後の指針を考えるための宝庫である。しかし、過去の事実群を漫然と眺めるだけでは、見えるものも見えてこない。そこで導きの糸となるのは、社会学や政治学の理論である。
この授業では、社会学・政治学の理論書や現代思想の書物を読み込みながら、歴史を現代に役立てるための知的営みについて考えていく。なかでも、ナショナリズムの問題を主要なテーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなナショナリズム論を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像について	授業の概要説明など
2	戦時期日本を考える（1）	丸山眞男『現代政治の思想と行動
3	戦時期日本を考える（2）	竹内好『日本とアジア』
4	国家主義を考える（1）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』前半
5	国家主義を考える（2）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』後半
6	「戦争の記憶」と国家を考える（1）	G・L・モッセ『英霊』前半
7	「戦争の記憶」と国家を考える（2）	G・L・モッセ『英霊』後半
8	全体主義を考える（1）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』前半
9	全体主義を考える（2）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』後半
10	ポストコロニアリズムを考える（1）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』前半
11	ポストコロニアリズムを考える（2）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』後半
12	国民国家と政治を考える（1）	L・アルチュセール『国家と国家のイデオロギー装置』
13	国民国家と政治を考える（2）	カール・シュミット『政治的なものの概念』
14	性と権力を考える（1）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』前半
15	性と権力を考える（2）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』後半

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表や討議に対する姿勢を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論書を積極的に読もうという受講者の参加を望みます。
自分の発表回の文献だけではなく、各回で輪読する文献を入手し、授業までに読んでくることが、出席の前提となります。

教科書 / Textbooks

授業のなかで指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

取り上げる文献はあくまでも予定です。
初回ガイダンス時に受講者の関心も勘案しながら決定します。

政策科学特殊講義（PA）§　法政特殊講義（JI）§　人文科学総合講座特殊講義I（LQ）§　特殊講義（各部門共通）I（RD）§　専門特殊講義（SP）§　特殊講義（WA）§　専門特殊講義II（SP）

13871

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	鳥取県　平井伸治知事	
第3回	和歌山県　仁坂吉伸知事	
第4回	岩手県　達増拓也知事	
第5回	福井県　西川一誠知事	
第6回	総務省　自治大学校　門山泰明校長	
第7回	大分県　宇佐市　是永修治市長	
第8回	今仲　康之先生	
第9回	読売新聞　論説委員　上田恭規氏	
第10回	三重県　野呂昭彦知事	
第11回	兵庫県　井戸敏三知事	
第12回	秋田県　佐竹敬久知事	
第13回	佐賀県　古川康知事	
第14回	今仲　康之先生	
第15回	神奈川県　松沢成文知事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編)／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ） § 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

16549

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	前兵庫県知事　貝原俊民 氏	
第3回	岡山県　石井正弘 知事	
第4回	茨城県　橋本昌 知事	
第5回	山形県　吉村美栄子 知事	
第6回	広島県　湯崎英彦 知事	
第7回	徳島県　飯泉嘉門 知事	
第8回	滋賀県　嘉田由紀子 知事	
第9回	大阪府堺市　竹山修身 市長	
第10回	静岡県　川勝平太 知事	
第11回	前高知県知事　橋本大二郎 氏	
第12回	日本銀行 京都支店長　渋谷康一郎 氏	
第13回	名古屋市　河村たかし 市長	
第14回	奈良市　仲川げん 市長	
第15回	長野県飯田市　牧野光朗 市長	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社 ／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編) ／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

専門特殊講義I（SA） § 専門特殊講義（SA）

15341

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＜サッカーワールドカップ・スポーツイベントを通じて世界と日本を捉え返す＞

今年はカナダ・バンクーバーで冬季五輪、南アフリカでサッカーワールドカップといった具合に大規模なスポーツイベントが開催される。これらメガ・イベントは、さまざまなメディアを介して、またグローバル資本の後押しによって、地域はもとより国境を越えグローバルに展開している。それゆえ国家という枠組みでの活躍を期待する国民と、グローバル志向のプレーヤーや資本との間に軋轢すら生じている。また、カナダ、南アフリカともに、こうしたイベントを通じて国民国家内部の多様性あるいは権力関係も浮き彫りにされる。つまりスポーツは、ある種のグローバル政治・経済・社会・文化の課題を象徴的に映し出す鏡でもある。

本講義では、このような問題意識から、讀賣新聞、讀賣テレビの記者・アナウンサー、世界や日本の第一線で活躍されているトップ・プレーヤー、コーチ、役員そして大学教員らが共同して、スポーツイベントの内実を多面的にフォーカスする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツ、スポーツイベントに内在する多様な意味を理解することができる
②スポーツと政治、経済、社会、文化との関係を自覚的に捉えることができる
③スポーツメディアの実態について関心と理解を高めることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ、スポーツイベントを考える	サッカーワールドカップ、オリンピック、万国博覧会、新しい社会運動
2	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編①＞	讀賣新聞東京本社（川島健司運動部次長）
3	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編②＞	讀賣新聞東京本社（軍地哲雄運動部記者）
4	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編③＞	讀賣新聞大阪本社（山口康博運動部記者）
5	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編④＞	讀賣新聞大阪本社（平野和彦運動部記者）
6	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編⑤＞	讀賣新聞大阪本社運動部記者
7	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編①＞	讀賣テレビ（安藤充編成局スポーツ制作センタースポーツ部プロデューサー）
8	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編②＞	讀賣テレビ（小澤昭博編成局アナウンス部アナウンサー）
9	スポーツとメディア、新しい社会運動①	川口晋一（産業社会学部准教授）
10	スポーツとメディア、新しい社会運動②	日本視覚障害者サッカー協会（松崎英吾事務局長）
11	トップスポーツの世界 ― 現状と課題①:トップチームの高度化システム	漆原良（産業社会学部准教授）
12	トップスポーツの世界 ― 現状と課題②:トップチームの技術指導	韓国ナショナルチーム指導者
13	トップスポーツの世界 ― 現状と課題③:トッププレーヤーの視点	サッカー日本代表プレーヤー
14	世界と日本のスポーツ政策の現状と課題	権学俊（産業社会学部准教授）
15	再びスポーツ、スポーツイベントを考える	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。またプレーヤー、指導者の都合により講師自体の変更もありうる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	到達目標を踏まえた叙述内容 講義内容を踏まえた叙述内容 ＊原則として、出席回数＝授業内リポート提出数が規定以下の場合は採点対象外とする。
平常点評価	60 %	出席（2/3以上） 講義の中で書く授業内リポートの提出数（2/3以上）と内容 ＊科目担当者の判断で、受講生に授業内リポート用紙配布をしない場合がある。（例）私語

成績評価に関しては、初回の講義で科目担当者より説明し、受講生の了解を得ることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考書は、必要に応じて紹介するが、スポーツあるいは文化イベントに関する文献を読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

本講義は、学外のゲスト講師を多数招聘する。
講義中の「私語」は認めない。

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

12812

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

NHK講座　放送の営みと現代的変容：「龍馬伝」、政権交代報道、メジャーリーグ中継まで第一線の現場からの報告。本講座では、日本の公共放送が現在どのような状況におかれているのかについて、日本放送協会の経営、制作、技術の現場から、最新の動きを学びとることを目的にしている。15回のシリーズで行うこの講義には、海外のメジャースポーツ、国際報道、最新のデジタルテクノロジーの開発など、国内外の一線でニュースジャーナリズム、番組制作現場などで活躍する講師が講義を担当する。

※2010年度の本講座は、キャンパスプラザ京都ではなく立命館大学衣笠キャンパスで開講されますので、注意してください。また、授業は毎週金曜日16:20～17:50実施を基本としますが、4月30日と5月7日は休講とします。代わりに、6月26日と7月17日の土曜日、13:00～14:30に授業を行います。

※講師とテーマは都合により変更になることがあります。

※本講義受講希望者は、開講までに「めざせ会社の星」を必ず視聴したうえで、アンジャッシュおよび担当プロデューサーへの質問を考え、初回（4月9日）の講義時に提出してください（形式自由。所属大学・学部、学生証番号、氏名とあわせてA4用紙に記入のこと）。なお、この質問レポートは、成績評価時の参考とします。

到達目標 / Attainment Objectives

放送に興味を持っている学生から、将来、放送の現場を担いたいと希望する学生まで、幅広く興味関心を満たせる内容となっており、この講義を通じて、放送のあり方、放送の将来展望について考える力をつけてもらいたい。また講義では、毎年恒例で、受講生からも評価が高い、「受講生自身が放送番組の企画提案書を書く」という実践的な課題にも取り組んでもらうこととしており、提出された番組企画案には、制作のプロフェッショナルが丁寧にコメントを書いて、個別にフィードバックされることになっている。これを通じて、番組を制作する視点を、受講生自らが擬似的に体感してもらうことができる。受講生には制作者の立場をより身近なものとして理解・批評する力を身につけてもらうことが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月9日	大河ドラマ「龍馬伝」が放送されるまで ～企画開発から放送まで～ （講師：土屋勝裕／制作局ディレクター）	
4月16日	NHK番組編成の三本柱（その1）エンターテインメント 「めざせ会社の星」制作の現場から ～出演者とプロデューサーによるこの講義だから聞ける裏話～ （講師：山本隆之／名古屋局チーフプロデューサー、特別講師／アンジャッシュ）	
4月23日	NHK番組編成の三本柱（その2）スポーツ 海外スポーツ中継の魅力 ～MLB、MBAと多様なスポーツ中継の魅力～ （講師：奥野慶太／報道番組センターチーフプロデューサー）	
5月14日	NHK番組編成の三本柱（その3）ニュース 衆議院選挙はどのように報道されたか ～「政権交代」09年衆議院選挙報道の取組み～ （講師：松井裕子／京都局記者）	
5月21日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その1） 受信料と公共放送 ～なぜ受信料は必要なのか？そして世界の公共放送と何か違うのか～ （講師：長村中／営業局）	
5月28日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その2） 番組制作の基本・提案課題設定【双方向授業①】 ～番組制作者の視点－番組提案の書き方～ （講師：東條充敏／京都局ディレクター）	
6月4日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その3） NHKの文化事業 ～「長谷川等伯展」「大遣唐使展」を中心に～ （講師：鈴木薫／大阪局視聴者センター（事業）	
6月11日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その4） 図解主義～発想力、分析力を養え～ （講師：中谷日出／解説委員室）	

6月18日	放送最前線からの報告（その1） 国際放送による世界への情報発信、世界とつながるNHK ～24時間英語ニュース、海外にいる日本人向け情報提供について～ （講師：久保智司／国際放送局ニュース制作部）	
6月25日	放送最前線からの報告（その2） 現場のカメラマン経験から ～ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ、繊細さ、執念、ドキュメンタリーカメラマンは現場最前線で何を感じたのか～ （講師：杉江亮彦／放送技術局カメラマン）	
6月26日（土曜講義）	放送最前線からの報告（その3） 日本のテレビ業界について語る ～報道記者、「週間子供ニュース」キャスターの経験、そして民間放送へ～ （講師：池上彰／フリー（元NHK記者））	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。
7月2日	放送最前線からの報告（その4） 若手アナウンサーの体験から ～NHKのアナウンサーとして活躍するまでの苦悩の日々～ （講師：飯島徹郎／京都局アナウンサー）	
7月9日	放送最前線からの報告（その5） 最新デジタル技術について ～最新のﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰは放送をどのように変容させるのか～ （講師：久保田啓一／NHK技術研究所長）	
7月16日	放送最前線からの報告（その6） 提案の秘訣・提案課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 【双方向授業②】 ～番組提案会議を講義で実践。受講生の番組提案をプロデューサーが講評～ （講師：篠田恵一／京都局チーフプロデューサー）	
7月17日（土曜講義）	まとめ （講師：福地茂雄／NHK会長）	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の最後では、各受講生にフィードバックコメントを書いてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	学期中に課題として出される個人の番組提案を評価の対象とする。この課題は、番組企画に対する専門的な技量を評価するものではなく、講義を通じて受講生が獲得した視点や発想の面白さを、いかに番組提案にうまく反映させているかが評価の主ポイントとなる。このため各講義において受講生が放送番組について個人的に考えを書き留めるなどして、アイデアを積み上げる作業さえしていれば平均以上のポイントは獲得できる。
平常点評価	75 %	各回で、フィードバックコメントを書いてもらう。各講義で自分が受け止めた内容のサマリー、これに加えて個人的にどのような感想を持ったかを記述して、講義の最後に提出してもらう。各5ポイント満点で評価する。5ポイント×15回講義＝75ポイントとなる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の最初の全体シラバスで、連絡方法や質疑応答の時間についてアナウンスする。

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

12811

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体（予定）の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。

〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「デジタル/ネット文化・産業論Ⅱ」を連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
2	「日本の音楽配信ビジネスと違法音楽配信対策」	畑 陽一郎先生（社団法人日本レコード協会 事務局次長）
3	「コンテンツ産業進化論～世紀の転換・技術の発達～」	丸山 茂雄先生（株式会社247Music　取締役会長）
4	「ニコニコ動画進化論2010」（仮）	杉本 誠司先生（株式会社ニワンゴ　代表取締役社長）
5	「空間メディア文化とデジタル化」（仮）	來住 尚彦先生（株式会社TBSテレビ　赤坂サカス推進部長）
6	「J-POP進化論～加藤和彦、小田和正から平原綾香まで～」（仮）	新田 和長先生（株式会社ドリーミュージック 取締役エグゼクティブプロデューサー）
7	「『子ども映画祭in小豆島』開催構想」（仮）	益田 祐美子先生（映画&コンテンツ制作プロデューサー）
8	中間総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
9	「ソニーレーベル42史」（仮）	北川 直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレイト・エグゼクティブCEO、財団法人　音楽文化・産業振興財団理事長）
10	「鎮守の杜コンサート～心の環境問題を訴える～」（仮）	原田 真二先生（シンガー･ソングライター兼音楽プロデューサー）
11	「転換期のCM映像制作」（仮）	金 利明先生（映像監督　FREZ=MANAGEMENT OFFICE所属）
12	「続伸するライブエンタテインメント産業の課題」（仮）	中西 健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長　社団法人全国コンサートツアー事業者協会 副会長）
13	「日本文化とアート～東京・浅草に新名所 アミューズミュージアム誕生物語～」（仮）	大里 洋吉先生（株式会社アミューズ 最高顧問兼アミューズ総研"Skhole"代表）
14	「CGと3D～コンテンツ創作の近未来図～」（仮）	猪子 寿之先生（チームラボ株式会社 代表取締役社長）
15	前期総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越し

いただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする(コミュニケーションペーパーの提出を認めない)。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー(50%)と期中2回課すレポート(50%)により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義I（SF） § 専門特殊講義（SF） § 特殊講義（総合）（VC）

15462

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

具体的な講師陣、テーマについては3月下旬に立命館大学のオンラインシラバスに掲載予定

各回テーマ例（案）

「情報とモラル」（キーワード：リテラシー）
「実演家の権利」（キーワード：著作隣接権） 等
「ゲーム音楽創作」（作・編曲家）
「舞台制作」（ミュージカル）

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。
〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、前期の専門特殊講義ＩSE「デジタル/ネット文化・産業論Ｉ」から連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	オリエンテーション
2	広瀬 香美先生（シンガー・ソングライター）	「ネットとコミュニケーション」（仮）
3	稲垣 博司先生（エイベックス・マーケティング株式会社 代表取締役会長、エイベックス・エンタテインメント株式会社 取締役） 関 佳裕先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 執行役員）	「レコード産業100年史」（仮）
4	宮田 和樹先生（株式会社実業之日本社 マーケティング・コミュニケーション推進室長）	「ブックビジネス2.0」（仮）
5	亀田 誠治先生（音楽プロデューサー）	「音楽創作事変」（仮）
6	谷口 元先生（社団法人音楽出版社協会 会長）	「ネット時代の音楽出版ビジネス」（仮）
7	すぎやま こういち先生（作曲家）	「ゲーム音楽」（仮）
8	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	中間総括
9	椎名 和夫先生（実演家著作隣接権センター　運営委員、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest 代表幹事）	「改正著作隣接権」（仮）
10	下川 大介先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 第1音楽制作本部制作部第3制作ルーム部長）	「アジアの音楽産業の現状」（仮）
11	高橋 衛先生（株式会社三菱総合研究所 システムエンジニアリング本部流通・物流ソリューショングループ兼経営コンサルティング本部産業戦略グループ 研究主任）	「欧州における音楽産業等の消費動向調査」（仮）
12	堀 義貴先生（株式会社ホリプロ 代表取締役会長兼社長）	「web時代のアーティスト・マネジメント」（仮）
13	白井 勝也先生（株式会社小学館 副社長）	「出版産業の構造改革」（仮）

14	加藤 裕一先生（株式会社レコチョク 取締役代表執行役社長）	「音楽配信ビジネス」（仮）
15	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	後期総括
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越しいただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする（コミュニケーションペーパーの提出を認めない）。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー（50%）と期中2回課すレポート（50%）により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SB） § 専門特殊講義（SB）

12798

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展したのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内で上映される映画に関して、レポート課題に指定する。上映会の入場料は、500円程度である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDでの参考上映も行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形で常に変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。映画館は、シネコンだけではない。京都には、文化博物館映像ホールでは京都で作られた日本映画を定期上映している。また、アート系映画を上映している映画館もあり、上映環境は恵まれているので、その環境を積極的に生かして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきた∽日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　あるいは、maasa@ma1.seikyou.ne.jpへ、メールで気軽にコンタクトして下さい。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、神谷が経営する京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最後に上映する。

専門特殊講義II（SC） § 専門特殊講義（SC）

12799

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権（匿名・実名問題など）	個人情報
第3回	事件報道と人権（被害者報道、加熱取材など）	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権（歴史的重大事件など）	教訓
第5回	司法取材の現場から（死刑再審など）	冤罪
第6回	調査報道とは（リクルート事件など）	特ダネ
第7回	虚報と誤報（サンゴ事件）	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿（沖縄密約など）	スクープ
第9回	社説について（憲法改正論議など）	提言
第10回	教育現場から（日の丸・君が代）	良心
第11回	社風・社論（信頼される報道とは）	綱領
第12回	生活ニュースとは（街だね）	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは（市民ネットと投書）	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記（判決の中身を伝える記事）を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

12724

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を支えてきた巨大メディアの新聞とテレビをめぐる環境は、多メディア、デジタル化時代を迎えて大きく変化している。新聞では、紙媒体に加え、ネット記事が浸透し、一時無料化の流れが強まったが、欧米紙の間では有料化の動きも見られる。テレビでは、広告収入を基本とする経営が主流であったが、オンデマンド形式の放送では、番組単位で販売されるなど、新たなビジネスモデルも生まれている。これらの変化は、経営面はもちろんのこと、コンテンツにも多大な影響を与えている。

また、若者の新聞離れは以前から指摘されてきたが、最近の調査では、テレビは、若者が必要とするメディアにおいて、携帯電話、パソコンに次いで3位に甘んじるなど、テレビ離れもみられ、若者とメディアの向き合い方も変化している。

本講座は讀賣テレビ放送株式会社および読売新聞大阪本社から、ディレクター、プロデューサー、アナウンサー、編成マン、事業セクション等多様なプロフェッショナルを毎回ゲストスピーカーに迎え、リレー講義形式で授業を進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

変貌するメディア環境をめぐる問題意識を視野に入れながら、21世紀のメディアの課題と可能性を具体的に探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	21世紀の新聞とテレビを取り囲む環境	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
2	【新聞】多メディア化の中の新聞	読売新聞大阪本社 専務取締役 菊池 卓雄 氏
3	【新聞】政治報道の使命と課題～政権交代から考える～	読売新聞大阪本社 論説委員 上田 恭規 氏
4	【新聞】社会部の現場から	読売新聞大阪本社 社会部長 森 克二 氏
5	【新聞】橋下・大阪府政とメディア	読売新聞大阪本社 社会部次長 指尾 喜伸 氏
6	【新聞】国際報道のいま	読売新聞大阪本社 編集委員 中津 幸久 氏
7	【新聞】新聞事業の現状と未来	読売新聞大阪本社 事業局長 窪田 邦倫 氏
8	【新聞】デジタル化と新聞の課題	読売新聞大阪本社 メディア戦略室長　森栄 徹 氏
9	【テレビ】今テレビはどこにいるか	讀賣テレビ放送　報道局次長　新谷 弘 氏
10	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ビジネス編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　山下 雄司 氏
11	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ハード編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　松山 浩士 氏
12	【テレビ】テレビ報道の現場、新しい番組作りへの挑戦	讀賣テレビ放送　報道局プロデューサー　相島 良樹 氏
13	【テレビ】21世紀のテレビ報道の課題	讀賣テレビ放送　解説委員　春川 正明 氏
14	【テレビ】テレビ報道の現場、テレビと政治を中心に	讀賣テレビ放送　特別解説委員・元解説委員長　岩田 公雄 氏
15	全体まとめ	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
	※講師の業務の予定により、テーマの変更や講師の変更の可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回の講義でミニレポートを書いてもらう(配点50点)。なおこれは出席点も兼ねるので、QRコードを毎回持参すること。 ②最終授業日に60分程度、論述中心の「授業内レポート試験」を実施(配点50点)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

12816

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市しあわせ（ハピネス）政策論～学生からの市政提言～

京都の立命館大学で学ぶ学生として、京都を知るための第一歩として京都市内で何が起きているのか、京都とはどのような街か、京都にはどのような学びの場が潜在的にあるのかを紐解くことは大きな意義がある。本講義では、受講生が、広く社会との接点を求め、実践的な学びの中で社会と自分がどのように関わっているのかについて考えをめぐらせるための機会を得ることで、市行政に対するなんらかの行動を起こすきっかけとなることを目指している。

本科目では、受講生に対し、現在の京都市の中で注目されるトピックを取り上げ、京都市との連携のもとで実際的なテーマ講義を行う。その中で、実際に公共の福祉に資する活動として学生の立場で何ができるかについて考えるグループを組織する。自分たちが学ぶ京都市における財政や組織はどうなっているのか、京都市は広報活動などを通じ市民とどのようにしてつながろうとしているのか、京都市でマンガミュージアムが誕生したのはなぜか、京都市のスポーツ振興策は果たして市民のニーズと直結しているのかなど、京都の市行政について聞く中で、受講生一人一人が独自の視点で市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた行政アドバイスプラン構築をしてもらうことにより、実践的な学びを目指す。産業社会学部の現代社会、メディア、スポーツ、子ども、人間福祉の各専攻の学びとも結びつけてもらいながら、学生が主体的に京都市で学ぶ一員となることで、よりよい京都市政のために何ができるかについてのプランを作成してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、京都の市行政と社会を構成する市民としての私たちを結び付けて考える中で、学生の目線から市行政に向けた行政アドバイスプランを構築してもらう。京都市北区衣笠のキャンパスで学ぶ立命館大学生は京都市についてどれだけの知識を持ち、また現在の市行政の状況を知っているだろうか。本講義では、京都市の財政や組織などについて基礎的な理解をしてもらった上で、京都市にかかわるいくつかのトピックについて京都市の担当者からの講義を受け、これを通じて市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた京都市の行政・政策への新たな視点を培う。

講義では、①京都の産業、②文化・スポーツ、③福祉・健康、④都市計画・交通、⑤子供と教育、⑥まちづくり・市民活動、⑦環境の7つの分野にわたって話しを聞いてゆく。その中から、自分がもっとも興味関心を持てるトピックを抽出し、そのトピックに関連して学生の視点・目線での行政アドバイスプランを作成してもらう。このプランを企画ポスターセッションとして成果発表してもらうこととしており、最終的には何らかの形で市行政の関係担当者にフィードバックすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学関連の基礎的な科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要説明	
第2回	●京都のしくみを知る（その1） テーマ1　京都市の組織と事務のあらまし テーマ2　京都市財政のあらまし	市行政の仕組み
第3回	●京都のしくみを知る（その2） テーマ3　京都市の広報活動のいろいろ	広報　パブリックリレーション
第4回	●京都のしくみを知る（その3） テーマ4　市民参加で創る京都のまち～市民のち・か・らをキーワードに～	市民参加
第5回	●京都のまちづくりと市民活動（その1） テーマ5　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進	まちづくり
第6回	●京都のまちづくりと市民活動（その2） テーマ6　市民活動総合センターってどんなとこ？	市民活動
第7回	●京都の環境と緑化 テーマ7　京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策～ テーマ8　京都の環境をあなたがチェック！～環境レポートによる意見募集	環境行政　地球温暖化対策　パブリックコメント
第8回	●京都の文化とスポーツ（その1） テーマ9　京都市のスポーツ振興 テーマ10　高い成長性が期待できるコンテンツ産業の振興	スポーツ　マンガ　振興政策
第9回	●京都の文化とスポーツ（その2） テーマ11　動物園の役割と楽しみ方	動物園
第10回	●京都の産業 テーマ12　わたしたちの伝統産業 テーマ13　京都で創業しよう！	伝統産業　創業

第11回	●京都の福祉・健康（その1） テーマ14　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！	ユニバーサルデザイン
第12回	●京都の福祉・健康（その2） テーマ15　たばこ対策の推進 テーマ16　動物と共生できる社会を目指して	喫煙対策　動物　共生
第13回	●京都の都市計画と交通 テーマ17　京都の市バス テーマ18　京を走る地下鉄	都市計画　公共交通機関
第14回	●京都の子どもと教育 テーマ19　子どもを共に育む京都市民憲章の具体化に向けて（家庭・地域ぐるみの教育）	子ども　教育　市民憲章　家庭　地域社会
第15回	まとめ 京都市行政　学生アドバイスプラン・ポスターセッションの開催	
	※なお、現職の京都市の職員の方々にお越しいただく関係上、担当者の都合がどうしてもつかなくなった場合には、スケジュールや講師、テーマの変更等が発生する可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常点評価とし、試験は行わない。平常点評価の際には、以下のものが対象となる。①各テーマについての市行政担当者によるプレゼンテーションへのクラス内フィードバックコメント、および②受講者による「市行政へのアドバイスプラン」作成への取り組みとプレゼンテーション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は、自分たちに身近な京都市の行政関連事項を、市広報、市ホームページ、新聞、テレビ、ラジオなどを通じて、常にチェックしておいてもらいたい。これにより、現在、京都市内で起きているさまざまな事象、現象について自分のこだわりでみることができるようになるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若き友人たちへ－筑紫哲也ラスト・メッセージ	筑紫哲也／集英社／978-4-08-720515-2／

参考書 / Reference Books

必要に応じてアナウンスする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市情報館　http://www.city.kyoto.lg.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15470

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ポピュラー音楽」は、聴いて楽しむだけなら特に学ぶ必要はないかもしれません。しかしダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」という格言を紹介しています。また同著の中でシューマン博士の観察として、「何ページもの書物よりも、ただ1曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させるものがある」と「音楽の力」を指摘しています。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュニケーション手段です。世界にはいろいろな音楽があります。この講座では、デジタル技術の発達とインターネットの普及によって、環境が激しく変貌するなかで、私たちにとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、身近な「ポピュラー音楽」を通じて、ジャンルを問わず多角的に考察、研究し、新たな「音楽の系譜づくり」と21世紀の「音楽の聴き方」の追求で成果を残したいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①ウィーン古典派音楽からアフリカのバンバータまで、聴き方を知る。
②日本の「流行歌」の変遷と特性を知る。
③音楽文化・産業の拡張と拡散を考察する。
④21世紀の「ポピュラー音楽文化」の創出を担う。
⑤音楽著作権・著作隣接権を学び、知識を蓄える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	世紀の転換・技術の発達。音楽の存在と聴き方。	音楽力
第2回	私たちの内に流れるリズム・メロディー。日本人とリズム。日本人とメロディー。日本人好みの音階・好きな音色。	沖縄音楽
第3回	時代背景とヒット曲。蓄音機、レコード盤、SP、LP、ウオークマン、CD、DVD、iPod、配信。	歌は世につれ、世は歌につれ
第4回	日本の音楽産業の歩み。レコード産業の現状。課題と展望。	音楽配信
第5回	ポピュラー音楽と普遍性。作曲家・古関裕而の融合音楽。結婚行進曲と葬送行進曲。	長寿社会と死生観
第6回	ポピュラー音楽と独創性・大衆性。美空ひばり、ピンク・レディー、中島みゆき、YMO。	スタンダード曲
第7回	大衆音楽の発生。ドレミファの調整システムの崩壊。「12音技法」の誕生。ミュージカルの誕生。マイケル・ジャクソン。	ジャズ
第8回	新しい大衆音楽の誕生「ロック」。	エルヴィス・プレスリー、ボブ・ディラン、ザ・ビートルズ
第9回	「ロック」の進化系図。ハード、パンク、ヘヴィメタル。	ロックの意味・未来
第10回	ワールドミュージックと非西欧的音楽。	アフリカ・バンバータ
第11回	ポピュラー音楽の多様性。ポップス、クラシック、日本民謡、ジャズ、レゲエ、ボッサ・ノヴァ、ファド、シャオンソン、カンツォーネ。	音楽地球儀
第12回	広告の中の音と音楽。多メディア時代の広告音楽。	コカコーラ・資生堂
第13回	音楽の聴き方～聴く型と趣味を語る言葉～	芸術音楽（クラシック）VS実用音楽。
第14回	音楽と著作権。「音楽著作権とは」「著作隣接権とは」。	財産権・人格権
第15回	人口24億人。アジアの音楽市場～動向と新潮流。	オリジナルの創出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※12月1日追記
12月16日（木）の講義より、授業開始後30分を過ぎて入室した者については欠席扱いとし、コミュニケーションペーパーの提出を認めない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	
平常点評価	15 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

CD、DVD、ライブなどを積極的に聴いたり、観賞するよう心がけてください。

教科書 / Textbooks

オリジナルの「レジュメ」CD、DVD等を活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権の新世紀」	福井健策著／集英社刊／／
「あたらしい教科書8　音楽」	小沼純一監修／Petit Grand Publishing,Inc刊　／／
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーター・マニエル著 中村とうよう訳／ミュージックマガジン社刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（社）日本レコード協会（RIAJ）HP
（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）HP

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし。

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15457

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞はこのまま、IT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディアであるネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな変化をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で、メディアのあるべき今後の姿を探っていく。同時に、政権交代後のメディアの変容を重点的に検証、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

12895

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、08年に惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	ドキュメンタリー作品鑑賞	アラン・レネ「夜と霧」
第6回	作品分析　意見交換	フランス映画史におけるアラン・レネの仕事
第7回	作品鑑賞	スティーブン・オカザキ監督「ヒロシマ、ナガサキ」
第8回	作品分析発表　意見交換	
第9回	ドキュメンタリー作品鑑賞	土本典昭監督「水俣」
第10回	作品分析　意見交換	土本典昭の仕事
第11回	作品鑑賞	佐藤真監督「阿賀に生きる」
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲスト講師（予定）	
第14回	作品鑑賞	佐藤真監督「花子」
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールを。チェック頻度は、後者のアドレスの方が日常的です。

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15520

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。だが、昨年日本映画バブルがはじけ、いくつかの製作会社、プロダクションが業務縮小を余儀なくされる事態となっている。娯楽大作は見る機会が多いが、過去の日本映画の名作を見る機会は、少ない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的、政治的な力によって映画が作られてきた時代があったことを作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、映画が、権力の側にプロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、ドキュメンタリー研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」(1944年)女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	戦前のアニメーション「海の神兵」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールして下さい。

その他 / Others

専門特殊講義III（SO） § 専門特殊講義（SO）

15345

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1960～1970年代のテレビ番組（主にドキュメンタリー）を題材に、今、あらためてテレビというメディアが内包していた可能性と、今後の課題について考えてみたい。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2010.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回目授業で説明します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代とスポーツ（S）　§　人間と文化（S）

11257

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

スポーツをめぐる状況は、08年9月の世界的同時不況のもとで、急変し、予断をもてない深刻な事態を招いている。「イベント・プロ・ビジネス」が主導する、グローバルな市場経済に翻弄される一方で、スポーツは健康つくり・地域コミュニケーション・自己実現などの価値に向かって、生活文化として定着しつつある。「スポーツの価値観の多様化」といわれる現状を分析し、問題点を摘出しながら、「体育・スポーツ国際憲章」で示されたスポーツ権の実現の方途を探る。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツは社会と切り離されて存在はしない。社会構造のさまざまな要素から影響を受け、同時に「人間」の理想像の探求として、社会に影響を与えてきた。こうした関係の基礎知識を習得しながら、現代日本スポーツが持つ問題点を理解し、それを打開していく方向性を考察することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツの発展と歴史」「スポーツと現代社会」をあわせて履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	序章	【スポーツ社会専攻】での学び、小テスト(クイズ形式)
第2回	序章	「習わなかった体育理論」「スポーツ体験」の対象化（高校「保健体育」教科書を持参することが望ましい。）
第3回	第1章 「する」スポーツの思想	「ゲーム」内の世界　ゲームの「心構え」論　アマチュアリズムとナショナリズム
第4回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第1節　アマチュアリズムの崩壊 /冷戦体制の中の五輪 /　ロス・五輪と「ユベロス」神話
第5回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第2節　プロスポーツとボーダレス化 /グローバリゼーション/スポーツ市場/国籍条項/アメリカナイゼーション
第6回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第3節　イベントビジネスとメデイア資本（文化帝国）/放映権/プロバビリテイ/テレ・メデアの介入 （ヨーロッパサッカー市場の問題点：DVD放映）
第7回	第2章 ビッグイベントビジネスの登場―越境するイベント	第4節　スポーツ文化のナショナリテイ　/数量化と客観的判定/勝利至上主義とナショナリズム/非合理の美
第8回	第2章のまとめと小テスト	
第9回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その1　スポーツの価値と多様性
第10回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第1節　増大するスポーツ要求　/「スポーツ世論調査」の変遷その2　スポーツの価値と多様性、/ユネスコ「スポーツ国際憲章」から“スポーツと人権”
第11回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第2節　エリア・スクール・ビジネスの限界、「バブル」の後先、「宴」の後で
第12回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第3節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「総合型地域スポーツクラブ」の発足と展開
第13回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第4節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「スポーツNPO」とスポンサーシップの危うさ、/スポーツ事業と財務、プロのキャリア形成
第14回	第3章 現代日本のスポーツ事情	第5節　新「地域スポーツ振興策の展開と問題点」、「切り離される」スポーツ、マーケッテイングとマネッジメント:
第15回	終章:「する」「見る」時代から「考える」「創る」時代へ	横浜Fマリノス事件から学ぶ/「プロ野球ストライキ」から学ぶ/スポーツ文化の担い手

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは指定しない。講義は章または節毎にまとめたレジュメによって展開する。レジュメは教室でのみ配布。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎的な概念の理解、錯綜する構造の総合的分析力
平常点評価	20 %	基礎的な用語・概念についての理解

出欠は取ります。ただし、点数化はしません。小テストをシラバスの予告週に行い、日常点として組み入れます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

分からないことは率直に質問すること。用語･概念を正確に理解すること。日々のスポーツ報道に目を配ること。

教科書 / Textbooks

テキストは指定しません。講義は毎週、教室内でのみ配布されるﾚｼﾞｭﾒによって展開されます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ルールはなぜあるのだろう-スポーツから法を考える-	大村敦志 ／岩波ジュニア新書 ／／
「スポーツ･プロモーション論」	菊幸一･仲澤真 ／明和出版 ／／
「サッカーで燃える国･野球で儲ける国―スポーツ文化の経済史―」	シマンスキー･ジンバリスト　／ダイヤモンド社 ／／

参考文献･資料はﾚｼﾞｭﾒの章末に掲載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.sportsnetwork.co.jp/cgi-bin/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

【スポーツ】のゲームだけを考える時代は終わった。さまざまな教養科目･専門科目の知見と照らし合わせて、スポーツ問題を捉えるように期待する。

現代とメディア（SA）

12236

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代とメディア（SB）

12237

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は前半と後半の2つのパートに別れており、2人の講師（金山、浪田）がそれぞれのパートを担当する。「メディアの成り立ち」（第1回～7回：浪田担当）では私たちの社会環境の不可欠な部分となっているメディアの仕組みや歴史について、「メディアと社会」（第8回～14回：金山担当）では広い視点から社会全体におけるメディアの位置づけについて、学んでいく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアについて理解し、研究するための基礎知識を身につける。
・メディアが社会の様々な働き（政治、経済、社会的ネットワーク等）に作用する仕方について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

導入科目につき、特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアとは何か？：そもそもメディアとは何をさすのか。メディアの基本概念を説明する。	
2	メディアの歴史：活版印刷術は社会をどう変えたのか。活字メディアを中心にメディアの歴史を学ぶ。	
3	メディアの歴史（続き）：ラジオとテレビを中心に、放送メディアの歴史を学ぶ。	
4	メディア・リテラシーとは何か？：メディア・リテラシーの基本概念を説明するとともに、メディアを能動的に学習・活用する方法を探る。	
5	メディアとリプレゼンテーション：メディアのテクストはどのように構成されているのか、メディアの仕組みを説明する。	
6	メディアとオーディエンス：オーディエンスとは何か。またメディアとオーディエンスの関係を考える。	
7	メディア産業：メディア産業の制度と仕組みを学ぶ。	
8	情報とメディアが関わるメディア環境とは何か？：「情報化」に取り囲まれる今日の社会状況ついて説明する。	
9	情報と政治・経済の関わり：社会的領域にメディアがどう作用するのかを説明する。特に政治・経済とメディアのかかわりについて学ぶ。	
10	情報化と社会的ネットワーク：対人関係の領域にメディアが与える影響について説明する。	
11	情報化とその他の社会生活：仕事のスタイル、個人による情報発信など、その他の領域におけるメディアの影響を考える。	
12	電子ネットワークのインパクト：電子ネットワーク、特にインターネットについて、その成立から発展までの成り行きを説明する。	
13	電子ネットワークのインパクト（続き）：ネット社会が新聞・放送など、既存メディアの枠組みをどのように変えていく可能性があるのか？	
14	広告とは何か？：そもそも広告とは何なのか。また、その社会的な働きについて説明する。	
15	総括ならびに今後のメディア研究に向けて：これまでの授業のまとめと、次学期以降さらに専門的にメディアを学ぶにあたってのアドバイス。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	教科書と授業内容の理解度をはかる。試験形式は、選択式と記述式の併用。教科書やノート、辞書等の持ち込みは不可。

平常点評価　　45 %　毎回、授業中にコミュニケーション・ペーパーを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・コミュニケーション・ペーパーは、講義をしっかり聞きその内容に基づいて自分なりの考えが書かれているかをチェックし、その出来によって0～6点で評価する。単に出席しているだけでは点数がつかないので注意すること。
・コミュニケーション・ペーパー提出の際には、必ずQRコードシールを貼ること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫他／世界思想社／4790710572／

参考書 / Reference Books

授業中に適宜指示を行う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

本講義は、各パートを2人の担当者がリレー形式で行うため、実際の講義の順序はクラスによって異なる。学生は自分が登録されているクラスの教室で、全15回受講すること。

現代と社会（SA）§　社会学（SG）

12162

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SB）

12163

担当者名 / Instructor　永橋 爲介

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と社会（SC）

12164

担当者名 / Instructor　林 堅太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、身近な社会現象についての多角的な分析を通じて、現代とはどのような時代か、社会構造はどのように変わろうとしているのかを考える。この科目は、社会分析に必要な基礎的な理論、基礎的概念、および分析視点を提供する。本年度は、グローバルな視点および文化的な視点を取り込んで、各担当者は次のような内容を取り上げる。1）（小澤）世代と文化、ボランティアと文化、公共性問題、グローバリゼーションと文化など、2）（永橋）地球温暖化の現状と予測、持続可能性と消費生活、地域再生とまちづくり、3）（林）グローバル化時代の経済社会の実相と国際的な地域統合の進展、これら3つのテーマについて、それぞれの基礎的倫理、基礎的概念、主要な事例分析を見ていく。
なお、この科目では、第1回目と第14、15回目以外は、3名の担当者が輪番で各自4回ずつ講義を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

1）「世代と文化」、「ボランティアと文化」、「公共性問題」、「グローバリゼーションと文化」、などについて扱い、今日、かかわり合いや結びつきの大きな変化の中で生み出されている危機と可能性の両面を考察することによって、自分自身の「文化を見る視点」を獲得すること。
2）「地球温暖化による気候変動の現状・影響・予測と私たちにできること」、「持続可能性と消費生活との関係」、「地域再生とまちづくり」の基礎知識や発想法を理解し、自分自身の「環境や地域を見る視点」を獲得すること
3）グローバル化時代の経済社会における、新自由主義的な市場の発展と格差や貧困の現実を考察する。そして貧困削減の公共政策やリージョナルな地域統合の意義などについて検討すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入（小澤、永橋、林　輪番）	授業の到達目標、進め方、成績評価方法など
第2回	若者たち自身による「若者論」（小澤）	頭脳地図による若者論、世代論、文化相対主義
第3回	ボランティアに見る「かかわり」の文化の可能性と問題性（小澤）	ボランティア文化、国際比較、日本文化論
第4回	「新たな公共性」を求めて（小澤）	公共性論、アソシエーション論、市民社会
第5回	グローバルなものとナショナルなもの（小澤）	グローバリゼーション、ナショナリズム、NGO
第6回	地球環境問題と持続可能な社会（永橋）	地球温暖化、気候変動、持続可能な社会への取り組み
第7回	環境配慮型マーケティングとエコライフによる地域再生（永橋）	消費生活での環境負荷、グリーンコンシューマー、エコノミーとエコロジー
第8回	環境問題の原点から学ぶ苦悩と再生（永橋）	水俣病、社会的責任（SR: Social Responsibility）、地元学
第9回	まちづくりはひとづくり（永橋）	合意形成、参加のデザイン、プロセスのデザイン
第10回	経済社会のグローバル化と格差・貧困の削減（林）	新自由主義、市場、格差・貧困、ミレニアム・ゴール
第11回	グローバリズムとリージョナリズム（林）	欧州連合（EU）、グローカル・アプローチ
第12回	日本経済の国際化と東アジア（林）	東アジアの成長、東アジア共同体、北東アジア（環日本海）
第13回	経済社会の国際化と人間発達（林）	仕事と生活の高度化・多様化・広域化、エンパワーメント
第14回	講義のまとめ	論点確認と補足説明テーマ　（小澤、永橋、林　輪番）
第15回	自己評論的トーク―現代社会をとらえる多角的なまなざしの意味―	現代における社会学の意義とその面白さについて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

とくになし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	55 %	基本概念や語句や事例の理解など、授業内容にかかわって、その学修到達の程度を確認する。
平常点評価	45 %	学期期間中に各担当者から1回ずつ、合計3回のミニレポート課題などを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストについては、授業の資料あるいはホームワーク用資料として使用する。基礎的理論の解説のほか、参考文献、参考WEBなど有益な情報を紹介しているので、各自、有効に利用すること。なお、小澤担当セッションにおいては、『＜方法＞としての人間と文化』の入手が困難となっているため、第7～10章をプリントし配布する予定である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『21世紀の日本を見つめる：家族から地球まで』	立命館大学現代社会研究会 ／晃洋書房／ 4－7710－1592－0 ／2004年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『＜方法＞としての人間と文化』	佐藤嘉一 ／ミネルヴァ書房 ／4－623－03992－7／ 2004年

随時参考図書を紹介し、また必要な参考資料は配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SA）　§　現代と福祉（SA）

11099

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SB）　§　現代と福祉（SB）

11100

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代と福祉（SC）　§　現代と福祉（SC）

11101

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、人間福祉専攻の基幹的な導入科目に位置づけられる。より人間らしく生きる福祉をめざして、現状や福祉社会のあり方に関して問題提起したいくつかの素材をベースに学習する。最終的には、各人が4年間の学びに向けた課題意識を持てることを期待する。人間福祉専攻教員の執筆による『人間らしく生きる福祉学』（ミネルヴァ書房）を毎回テキストとして使用する。入門書であり、独習もできる。毎回該当する章を読んでおくことが授業の前提となる。（なお、授業では19章全てをとりあげることはできない。多様な角度から問題提起されている書であり、そこから学生が自分の課題を見つけられるようにしている。取り上げられなかった章については独習して欲しい。）

到達目標 / Attainment Objectives

授業では教員の問題提起に対して「感想や意見」をペーパーなどで求めるが、最終的には、現代的な福祉課題について、各自の関心から意見を文章で展開できるようになってもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

なし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業は5回を1サイクルとして小川・長谷川・丸山が各クラスを順にまわる。各サイクルでは、テキストの章をいくつかとりあげる。各章は人間福祉専攻教員が、福祉社会の現状をどうとらえるか、どう改善していくべきか、いろんな問題を多様な角度から取り上げ、提起している。その共通の理解の下に、論点を抽出し、それについて各人の考えを磨きあう学習をすすめる。学びの形態は、受講生数にもよるが、多様な考えや見方に触れつつというものを追及したい。 こうした3サイクルの学習をとおして、各自が関心をもてる分野や課題を設定し、その現状をどうみるのか、どう改善していくべきか、などの課題意識をまとめられるようにする。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	授業の際、コミュニケーションを課す

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

原則として1サイクル（5回）ごとの日常点評価と、定期試験の成績で評価する。日常点評価は、教員によって形態が若干異なるが、出席、発言、意見発表、レポート、小テスト、感想提出などで評価する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『人間らしく生きる福祉学――はじめて学ぶ人の社会福祉入門――』	加藤直樹ほか編／ミネルヴァ書房／／(2005)

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省HP
http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

コミュニケーション理論（S）

12735

担当者名 / Instructor　池田 知加

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

コミュニケーションとは多義的な意味がこめられる概念です。そのため、コミュニケーションのとらえ方は、社会学、哲学、心理学、社会心理学、情報科学といった多様な分野で様々なアプローチがなされています。この講義では、主に、社会心理学（第2～5回目）と記号論（第6～9回目）からみたコミュニケーションについて理解を深めた上で、現代のコミュニケーションの動向についてメディアの歴史的展開や、近代化という社会変動を軸にしながら、社会学的に考察（第10～15回目）します。現代的な事例を出しながら授業を進めますが、コミュニケーションについて、個別的な事象から捉えるのではなく、いくつかの理論的なアプローチを学ぶことで一般化して広く理解することをめざします。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会心理学、記号論それぞれからみたコミュニケーション理論についての理解し、説明できる。
・コミュニケーションへの理論的な理解を深めた上で、現代コミュニケーションの動向について、近代化を軸に社会学的に論じることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	コミュニケーション　コミュニケーション論
第2回	自己を知らせるコミュニケーション	対人コミュニケーション 自己開示
第3回	他者の心を動かすコミュニケーション	説得コミュニケーション　簡便法
第4回	マスメディアと説得コミュニケーション①	プロパガンダ　感情
第5回	マスメディアと説得コミュニケーション②	テレビ　効果研究
第6回	コミュニケーションの記号と意味-1	記号論 ソシュール
第7回	コミュニケーションの記号と意味-2	ロラン・バルト デノテーション・コノテーション
第8回	記号化した世界	消費社会　欲望　差異
第9回	身体の記号論	パノプティコン 規律訓練
第10回	メディアとコミュニケーション	コンピュータに媒介されたコミュニケーション（CMC） No Sense of Place
第11回	コミュニケーションと「場所」	No sense of place　グローバル化
第12回	コミュニケーションと文化	異文化コミュニケーション
第13回	コミュニケーションと近代化	ポスト慣習社会　規範　個人化
第14回	見知らぬ人とのコミュニケーション	都市　コーヒーハウス　セネット
第15回	コミュニケーションと公共空間	ハーバーマス　公共圏　コーヒーハウス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・レジメを見直して自分なりに理解する
・授業で提示された参考文献から興味あるものについて読む

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観テスト（基礎的事項の理解）60% 論述（テーマ設定・論理的構成力）40%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業内では十分に理解できなかったり、疑問に思った概念や語句などについては、社会学辞典などで自分で調べてみることで、より講義内容に対する理解が深まることと思います。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。レジメを使用します。参考書については適宜提示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
影響力の武器：なぜ、人は動かされるのか	ロバート・B・チャルディーニ　／誠信書房 ／4414302692 ／
プロパガンダ：広告・政治宣伝のからくりを見抜く	アンソニー・プラトカニス、エリオット・アランソン　／誠信書房 ／4414302854 ／

記号の知/メディアの知:日常生活批判のためのレッスン	石田英敬／東京大学出版会 ／4130100947 ／	
場所感の喪失〈上〉電子メディアが社会的行動に及ぼす影響』	ジョシュア・メイロウィッツ　／新曜社／4788508699／	
人生相談「ニッポン人の悩み」:幸せはどこにある?	池田知加　／光文社新書 ／4334032968 ／	

参考文献については授業で適宜紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コミュニケーション・ペーパー、メール

その他 / Others

私語は厳禁です。学生証を提示の上、即退出、以後の授業への参加は認めません。レジメは教室でのみ配布します。

外書講読 (SA) § 外国語文献研究 (SA)

12791

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年、日本ではフリーターやニートなど正規雇用に就くことができない若者が大きな社会的関心を集めているが、実は、他の多くの先進国でも同じような問題が生じている。授業では、アメリカにおける若者の就業の実態とその問題点を分析しているOsterman,1980, "Getting Started: The Youth Labor Market," The MIT Press.を取り上げ、輪読形式で読み進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

アメリカにおける若者雇用のあり方を学ぶ。また課題の輪読を通じて、実用的な英語読解力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明
2	"Getting Started" (1)	輪読
3	"Getting Started"(2)	輪読
4	"Getting Started" (3)	輪読
5	"Getting Started" (4)	輪読
6	"Getting Started" (5)	輪読
7	"Getting Started" (6)	輪読
8	"Getting Started" (7)	輪読
9	"Getting Started" (8)	輪読
10	"Getting Started" (9)	輪読
11	"Getting Started" (10)	輪読
12	"Getting Started" (11)	輪読
13	"Getting Started" (12)	輪読
14	"Getting Started" (13)	輪読
15	"Getting Started" (14)	輪読、まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習してきていることを前提に授業をおこなう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席、予習の取り組み状況、発言の積極性を総合して評価する。 欠席不良の場合、単位が取得できない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

訳出は一行ずつ輪読形式で行う。
文献読解を目的とした授業であり、ヒアリング、スピーキング、ライティングは扱わない。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Getting Started	Osterman, Paul／The MIT Press／0262150212／

教科書は購入しなくてもかまわない。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

外書講読（SB） §　外国語文献研究（SB）

15340

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

市民社会、資本主義、国家、家族、国民、これらの用語と概念は、社会学と現代社会分析にとって最も重要なものの一部である。それらについて、示唆的な内容を含む現代ドイツの文献を紹介し検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

現代ドイツ語文献の初歩的理解を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	授業中に指示する	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

Die ersten 180 Tage der neuen EU, 2004.（初級者向け）
J. Kocka, et. al., Europaeische Zivilgesellschaft in Ost und West, 2000.（中・上級者向け）
受講者の希望を基に、その他の文献の可能性を含め、それらの必要部分の資料を配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SC） §　外国語文献研究（SC）

15382

担当者名 / Instructor　藤井 友紀

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

19世紀末、E・デュルケムは当時の自殺統計をもとに『自殺論』を著しました。そこで示された彼の分析・理論は、現在でも社会分析に重要な役割を果たしています。

翻って現在、日本では、中高年男性の自殺率の増加やリストカット症候群など、自殺が重要な社会問題となっています。

この講義では、『Durkheim et le suicide』を通して、『自殺論』の概要や現代的意義などについて理解を深めつつ、社会学的枠組みを通して社会現象を分析する視点を学んでいきます。

到達目標 / Attainment Objectives

①辞書を有効に利用し、フランス語で書かれた文献の概要を正確に把握できるようになる。
②デュルケムと彼の自殺分析について基本的な理解を得る。
③社会理論についての知識を下敷きに、自分なりに社会現象を分析する視野を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	①講義の方針と計画に関する説明　②受講者の語学力の確認　③予習範囲および担当箇所の分担　④デュルケム『自殺論』の概要
2	introduction／1.Le suicide, un fait social①	
3	1.Le suicide, un fait social②	
4	1.Le suicide, un fait social③	
5	1.Le suicide, un fait social④	
6	2.Que valent les statistiques du suicide?①	
7	2.Que valent les statistiques du suicide?②	
8	2.Que valent les statistiques du suicide?③	
9	2.Que valent les statistiques du suicide?④	
10	3.Fait divers et fait socioal①	
11	3.Fait divers et fait socioal②	
12	4.Le suicide aujourd'hui①	
13	4.Le suicide aujourd'hui②	
14	Conclusion①	
15	Conclusion②	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①出席・予習など、授業への参加の度合い ②最終日時点での、フランス語に対する理解度 の2点によって決定します。

ただ黙々とテキストを読み進めるだけでなく、各自が疑問に思ったことなどを積極的に議論していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・受講者は一通りフランス語の基本文法を修得していることが望ましいですが、意欲があれば初心者でも受講可能です。
・一回の予習範囲は少なくはありませんが、読みやすく、図表のページも多いので、辞書を片手に頑張って読んでみて下さい。
・受講者の数や語学力によっては、予習範囲を分担制にし、負担を軽減する場合もあります。

・また進度に応じてレジュメを作成し、それまでの議論の要点を纏めるとともに、疑問点を整理する時間を設けます。
・あまり気負わず、率直な意見交換を通して講義を活性化していきましょう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Durkheim et le suicide	C. Baudelot, R. Establet／Paris : Pr. Univ. de France ／978-2-13-056018-0／

コピーを用意しますので、購入の必要はありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
Le suicide : étude de sociologie	Emile Durkheim／Paris : Pr. Univ. de France ／／
自殺論	デュルケム著、宮島喬訳／中央公論新社／／上記の邦訳版

事前に読んでおくことが望ましいですが、随時解説を加えていきますので、未読でも大丈夫です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　yft27193@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

外書講読（SD） §　外国語文献研究（SD）

12792

担当者名 / Instructor　甘 琳樺

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

改革開放政策に転じて以来、中国は大きな変貌を遂げました。市場経済を導入したことによって社会の構造が変化し、人々の暮らしも大きく変わってきています。特に、この数年の変化は激しく、中国人でさえも、しばらく中国から離れていて帰国すると、まるで異国へ来たかのような印象を持つといいます。社会が大きく変化すれば、当然色々な問題が出てきます。テキストを読み進めることによって、日々の暮らしの中で中国の人々がどのような価値観を持ち、悩みや歓びを感じているのかをテキストから読み取って、中国に対する理解を一層深めてほしいと思います。

到達目標 / Attainment Objectives

辞書を有効に利用し、現代中国の基礎的理解を深める上で必要な、中国語で書かれた文章の概要を正確に把握できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

受講者は一通り中国語の基本文法を修得していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス	受講者の語学力の確認、講義の進め方など
第2回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第3回	中国大学生的生活	大学生の受験、就職
第4回	中国的独生子女	一人っ子
第5回	中国的独生子女	一人っ子
第6回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第7回	中国的农民工	出稼ぎ労働者
第8回	中国人的饮食	食生活
第9回	中国人的饮食	食生活
第10回	中国人的住宅	住宅
第11回	中国人的住宅	住宅
第12回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第13回	中国人的休闲	レジャー、娯楽
第14回	中国人生活中的IT	IT産業
第15回	中国人生活中的IT	IT産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業で扱った幾つかのテーマから、受講者の関心に基づいて一つのテーマを選び、それについての考えを問うもの。
平常点評価	50 %	基本的に出席点と授業への取り組み状況を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクティブ中国	胡　金定／朝日出版社／／
中国は今	孟　広学・本間　史／白水社／／

授業に必要な資料は配布しますので、必ずしもテキストを購入する必要はありません。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

外書講読（SE） §　外国語文献研究（SE）

15448

担当者名 / Instructor　梁 愛舜

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

朝鮮半島文化の理解を深める。韓国の文化、家族制度に関する文献の講読、逐次刊行物をはじめ新聞報道、ホームページから日常生活に関連する問題、例えば、教育、福祉、宗教などの記事を取りあげ、読解する。また日本語文献を朝鮮語で読み返す「翻訳」を試みる。とくに本年は「韓日併合」100年にあたることから、この件に関する韓日メディア報道を比較するとともに、メディアの役割について考える。大韓民国の文献・資料を主に使用するが、朝鮮民主主義人民共和国やその他の地域における朝鮮語出版物も用いる。全授業を通して「韓流」ではつたわらない、奥深い韓国社会と生活者の実像に接近することができる。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会と文化に関する用語を理解し、読解力の向上を目指す。
②テキストに出てくる歴史的事件の概要を説明できる。
③関心のある韓国の社会問題を、自身の視点で明快に説明できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	導入、講読	自己紹介、授業の進め方とテキストについて説明、短い文章の講読
2回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国の経済事情、福祉、医療生協活動
3回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓国社会と女性
4回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	教育、就職
5回	崔在錫著『韓国家族制度史研究』講読	伝統的家族、「韓流」の家族
6回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第2章「ソンビと朝鮮時代儒教文化の性格」講読	儒教、韓国文化
7回	崔鳳永著『韓国文化の性格』第4章「新文化の形成と新知識人の性格」講読	社会変動、“新しい文化”
8回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他	韓国社会とキリスト教
9回	李光奎『在外韓人の人類学的研究』第一部「世界の韓国民族と文化」講読	韓国の海外「移民社会」理解、文化とアイデンティティ
10回	李光奎著『在外韓人の人類学的研究』第二部「在日韓人」講読	韓日関係と在日朝鮮人
11回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第一節「儒教的家族」翻訳	祖先祭祀、「孝」
12回	梁愛舜著『在日朝鮮人社会における祭祀儀礼』第二章第二節「チェーサの世俗化の問題」翻訳	世代交代、文化変容
13回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合①
14回	テキスト講読（新聞、逐次刊行物、その他）	韓日併合②
15回	到達度確認テスト（60分）と解説（30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席日数、レポート提出、発表、最終日の到達度確認テストなど総合的に評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

国立国会図書館関西館（精華町）のアジア情報室には豊富な朝鮮語資料が所蔵されている。未体験の学生は一度利用または参観されることを勧める。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
韓国家族制度史研究	崔在錫／一志社、996／／
韓国文化の性格	최봉영／四季節出版社、1997／89－7196－410－3／
在外韓人の人類学的研究	이광규／集文堂、1997／89－303－0525－3／
在日朝鮮人社会における祭祀儀礼	梁愛舜／晃洋書房、2004／4－7710－1535－X／

上記の一部内容をテキストとして使用する。基本的にテキスト用として毎回プリントを配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　eyr10111@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12217

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12218

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学 (SC)

12219

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12220

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12221

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

経済学理論（S）

12770

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在の福祉国家において、現実の経済は新古典派経済学が想定しているように市場でだけ決まっているわけではない。市場経済とならんで国家などがおこなう経済政策（財政・社会保障・金融などの諸政策）の影響も大きい。1980年代以降の日本の「小さな政府」（実は小さすぎる政府）路線は、経済成長を叫びながら実際には経済格差を増大させたにすぎない。今年度は福祉国家の経済学というテーマで講義してみる。対象国は日本だが、対比すべき参照国は北欧諸国（特にスウェーデン）とアメリカである。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済面・社会面に興味がもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／7	スウェーデン「生活の安全」というコンセプト	福祉国家の理念、スウェーデンモデル、生活保障
4／14	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係、「小さな政府」、「大きな政府」
4／21	3つの福祉レジーム	自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、保守主義レジーム エスピン・アンデルセン
4／28	国際競争力ランキング、国際競争力と「国民負担率」とは無関係	世界経済フォーラム、国際競争力ランキング、国民負担率、北欧諸国の強さ、教育と生涯学習
5／12	アメリカの社会保険と貧困	「小さな政府」論に基づく減税政策、企業福祉とその破綻、貧困大国の出現
5／19	「小さな政府」は本当に経済成長率を高くできるのか	日本の減税路線と財政赤字増大、小泉構造改革、「小さな政府は経済成長が高い」という言説、成長戦略と経済格差増大
5／26	「貯蓄から投資へ」は本当に正しいのか	アメリカ型金融資本主義、生活資金の投機化、生活金融のあり方
6／2	「日本的経営」の問題点と北欧型「福祉国家」	正規雇用と非正規雇用、年功型賃金、職能給、職務給、「福祉国家」と「生活の安全」
6／9	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン論」、所得再分配機能の放棄、相対的貧困率、ジニ係数
6／16	未婚率の異常な高さとワーキング・プア	非正規雇用の増大、「自己責任」論の呪縛、未婚率、出生率、サンボ
6／23	「フレキシキュリティ」	フレキシキュリティ、デンマーク、オランダ、EU雇用戦略
6／30	労働組合はもう化石なのか	労働組合、組織率、経済的役割、社会的役割
7／7	どんな社会を望むのか	北大のアンケート調査、日本型（日本的経営）より北欧型が多い、しかし行政不信も強烈
7／14	福祉政策と都市政策の結合	スウェーデンなどにみる「公有地」と社会住宅、日本の持ち家政策の破綻と劣悪な「公営住宅」、都市計画
7／21	福祉政策と環境政策の結合	環境政策は経済成長政策、生活の見直し

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	受講生が少ない場合は授業中の感想文で、受講生が多い場合は学習到達度確認小テスト。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障	宮本太郎／岩波書店／978-4-00-431216-1／岩波新書

コミュニティを問いなおす	広井良典／筑摩書房／978-4-480-06501-8／ちくま新書
ポスト工業経済の社会的基礎	エスピン・アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／4-921190-16-X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

12883

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武　／ミネルヴァ書房 ／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

12891

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 ／ミネルヴァ書房／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15395

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:20世紀の世界と日本

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の世界と日本の歴史を振り返り、現代日本社会の歴史的位置を確認し、②世界的な観点から、今日の産業・労働の問題、教育・福祉などをめぐる問題と今後について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで日本の「現代」を考える	現代はいつから始まるか、近代の再帰性(前近代社会との違い)、国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末期～20世記初頭の世界と日本	奴隷に支えられた資本主義世界体制の形成過程、19世紀末大不況期の世界再編、日本の明治憲法体制、日清・日露戦争、産業革命
第3回	第一次世界大戦(1)	第一次世界大戦の長期化と社会的動揺、ドイツ帝国、オーストリー帝国の崩壊、ロシア革命、終戦
第4回	第1次世界大戦(2)－1910年代の中国と日本－	辛亥革命と中華民国の成立、日本の大戦景気と米騒動、アジアをめぐる米国と日本
第5回	戦後の新しい世界秩序	パリ講和会議と国際連盟の成立、敗戦国は、講和条約をどのような状況で受けたか、 かつての世界の覇者・大英帝国の動揺、ソ連の成立
第6回	1920年代の国際関係	オスマン帝国の崩壊と中東地域、太平洋地域におけるアメリカの発言力の強化、 緊張が続くフランスとドイツ、中華民国の内戦、1920年代の日本
第7回	1929年世界恐慌	ドイツの復興、イタリアのファシスト国家化、世界恐慌、満州事変と高橋財政下の景気回復、満州建国と抗日民族統一戦線結成
第8回	第二次世界大戦への道	ヒットラー政権誕生とドイツの再挑戦、ベルリン・ローマ枢軸、スペイン内乱
第9回	第二次世界大戦の構図	第二次世界大戦の推移、日本の戦時体制、アジアの植民地解放闘争、東西冷戦体制への移行、
第10回	冷戦体制下の戦後復興と成長	国連とIMF・ガット体制、1950年代の冷戦構造と第三世界、EEC、朝鮮戦争と日本の復興
第11回	福祉国家の展開とソ連型福祉	西ヨーロッパ諸国の福祉国家への移行、ソ連の社会保障制度、日本の教育、福祉および医療
第12回	成長の限界と「新自由主義」的潮流	1970年代初頭の世界構造、福祉国家の変容、日本の低成長への移行
第13回	新自由主義時代への移行	1973年以降の世界経済推移、冷戦の終結、途上国とOECD、中国の改革開放以後
第14回	「アジアの時代」と日本	「新自由主義」の流れ、ラテンアメリカの民主化の波、開かれた日本とは
第15回	2008年世界同時不況後の新しいチャレンジ	世界的無秩序の脅威、新しいチャレンジ ― 環境、貧困、教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業は、20世紀を中心に約500年余にわたる近代社会の形成と展開過程を大掴みにする、1つの歴史論である。したがって、本来、受講生は、授業外で膨大な関連図書の読破を必要とする。少なくとも歴史の曲がり角となるような歴史的事件に関しては、指示する参考文献の中から自らの関心に沿って、2,3冊の関連図書は読み進めるように。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	学生はWebコースツールにて本授業の「ディスカッション」にアクセスすること。それが定期試験を受ける前提(必須条件)である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の聞きっぱなし、まったく予習・復習はしないという対応で済ましてきた流れは、今年度の定期試験では通用しないかもしれない。定期試験の出題形式を全面的に再検討し、穴埋め、正誤を指摘する問題など、多様な出題形式を併用する予定である。

講義内容についての質問は大いに歓迎する。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
概説　現代世界の歴史	ウイリアアム・ウッドラフ／ミネルヴァ書房／4-623-03524-7／
長い20世紀	G・アリギ／作品社／／
現代史の視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／
新自由主義	D・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／
21世紀の歴史	ジャック・アタリ／作品社／978-4-86182-195-0／

そのほか、授業の中で適宜、紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で適宜、紹介。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを、事前連絡、レジメの開示、質疑応答などに活用するように努めたい。

その他 / Others

現代政治論（S）

12769

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、現代日本政治を題材としながら、政治学の基本的な思考法や概念を体系的に学習する。日本政治の諸現象を政治学の文脈に位置づけることによって、本講義は、日本政治の特徴をよりよく理解すること、そして政治学の基本的な発想法を学ぶことを目的とする。講義では、映像資料や新聞などを利用して最近の日本政治のトピックを取り上げ、それを手がかりに政治学の基本的概念を学ぶという形式を採る。

到達目標 / Attainment Objectives

・現代政治学の基本的な思考法や概念を身につける
・政治学の理論枠組に位置づけることで、日本政治の特徴を把握する
・現代（日本）政治に対して、自分自身の意見を持てるようにする

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　現代社会が直面する諸課題と政治の関係	貧困・格差の拡大、社会的排除
第2回	1　政治学とは何か、政治学の研究対象	政治、政治学
第3回	2　現代国家の特質－政治経済システムとしての福祉国家－	福祉国家、労資妥協、戦後コンセンサス
第4回	3　政党	政党の役割、クリービッジ政党、包括政党、新しい政党
第5回	4　利益集団	利益集団の役割、多元主義、コーポラティズム
第6回	5　議会制度	一院制と二院制、選挙制度（小選挙区制と比例代表制）
第7回	6　執政制度	議院内閣制と大統領制、単独政権と連立政権
第8回	小テストとこれまでの復習	
第9回	7　官僚制度	行政国家、官僚主導、行政改革
第10回	8　中央・地方関係	集権制と連邦制、中央主導、地方分権
第11回	9　市民社会における政治	政治文化、社会資本、新しい政治、新しい社会運動
第12回	10　世界の政治体制	民主主義、権威主義、全体主義
第13回	11　先進諸国の多様性	さまざまな民主主義、福祉国家の多様性
第14回	12　現代国家の変容－グローバル化の中の福祉国家－	グローバル化、福祉国家の変容、ガバナンス
第15回	まとめ　現代社会における政治の役割	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階に小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現代政治を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代政治学（第三版）』	加茂利男・大西仁・石田徹・伊藤恭彦／有斐閣、2008年／4641123311／
『政治学』	久米郁夫・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真渕勝／有斐閣、2003年／4641053685／
『政治学』	大嶽秀夫・鴨武彦・曽根泰教／有斐閣、1996年／4641059683／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介してい

く。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、政治学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献から、各自の好みに合ったものを選んでほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論』	建林政彦・曽我謙悟・待鳥聡史／有斐閣、2008年／4641123649／
『日本の政治（第2版）』	村松岐夫・伊藤光利・辻中豊／有斐閣、2001年／4641059969／

個別のテーマに関する参考文献は適宜紹介していくが、講義全体に関する参考文献としては、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、政府機関や各新聞社などのホームページなどが有益である。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

産業技術論（S）

15424

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

一国の生産技術のありかたは、その経済状況のみならず、生活水準や諸文化のスタイルにも大きな影響を与える。またそれ以上に、技術は今後の地球環境の変化の方向に決定的な影響を与える因子でもある。本講義では、生産技術が社会の諸事象にいかに絡みついているのかを具体的に解きほぐし、またその発展過程を歴史的に解明していくことで、現代技術を批判的に捉える視点を示し、技術に関する問題の解決指針を与えていく。

それには、技術自身について理解すること以上に、それが社会の中でどのように機能しているか、役にたっているかについてのセンスを磨く必要があらわれる。技術を生活や社会の中に正確に位置づけ、その中から、スペックに惑わされない本来的な「技術と社会の発展」のありようについて考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

技術発展の指標について理解し、現今の技術を評価できるようになること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

資源エネルギー論を同時に履修していくことが望ましい（履修順序は問わない）

対象となる科学・技術についての説明に専門概念を使用することもありますが、そうした事項については、その都度丁寧に説明いたします。受講に理系的知識を前提としてません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション　技術発展と社会発展	技術発展　社会発展
2	発明と普及の時間差について	蒸気船と帆船　動力と制御
3	大型化の利得について	スケールメリット　表面効果と体積効果
4	産業革命論1　道具と機械	道具と機械　産業革命
5	産業革命論2　大量生産社会	大量生産
6	工作機械論	工作機械　汎用と専用　アメリカンシステム
7	フォーディズム　流れ作業	コンベア流れ生産　大量生産
8	フォーディズム2　テーラーシステム	テーラーシステム
9	ポストフォーディズム	リーン生産方式
10	日本的生産様式	FMS　JIT
11	ロボット論	ロボット　Rキューブ
12	半導体工業論	半導体　IC
13	エレクトロニクス製品の現状　1 楽器の問題	PCM　デジタル
14	エレクトロニクス製品の現状　2　PC　通信技術	PC　ケイタイ
15	全体まとめ　技術発展とは	技術発展

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

多数の本、視覚教材を随時紹介していきます

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理を正確に理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1冊のテキストで学習できるものでありませんので、講義を聞き逃さないようにしてください。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布していきます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
技術と労働	大沼正則／岩波書店 ／ISBN4-00-003662-9　c0336 ／
アメリカンシステムから大量生産へ	D.A.ハウンシェル　／名古屋大学出版会 ／ISBN4-8158-0350-1／

上記以外でも参考書は多数に渡りますので、随時紹介し、また抜粋なども配布します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

適宜、講義などで紹介していきます

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

社会学史 (S)

12884

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も持て理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想（史）や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。

社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないで授業時のプリントや講義ノートや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景；16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想；近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；1ホッブス、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想；近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；2アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味；資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻（19世紀問題）とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1；コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（1）	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（2）	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1；ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（1）	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（2）	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（1）	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（2）	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（3）	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学；シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立；パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション的合理性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、毎回の講義に出席するとともに、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。

評価は、試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

参考書 / Reference Books

特に指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」がもっとも重要です。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。講義ノートには参考文献があげてありますので、適宜参考してください。本シラバスのア「ドバイス」の欄にあげた参考書はぜひ活用して下さい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定しません。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-Mail;hst01932@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特になし

社会学理論（S）

15410

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会」の成り立ちを理解するのに役立つ代表的な社会学理論を紹介する。取り上げるのはデュルケーム、ヴェーバー、シカゴ学派、パーソンズの構造-機能主義、マートンの中範囲の理論である。これらの古典理論と現代の社会理論との関連も合わせて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基本的な考え方や概念を理解し、説明できる。
社会学的視点で社会現象を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学史、社会調査関係の授業

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方・社会学の主題	共同態・権威・ヒエラルキー・聖なるもの・疎外
第2回	デュルケームの社会理論（その1）:『社会分業論』	集合意識・社会連帯・分業・法の形式
第3回	デュルケームの社会理論（その2）:『自殺論』	アノミー・自己本位主義・集団本位主義・社会的潮流
第4回	デュルケームの社会理論（その3）:『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・シンボル
第5回	デユュルケームの方法論	実証主義からシンボルの社会学へ
第6回	ヴェーバーの社会理論（その1)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・エートス・親和性
第7回	ヴェーバーの社会理論（その2)『儒教と道教』	氏族・家産官僚制・読書人・儒教の教義
第8回	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・因果帰属
第9回	デュルケームとヴェーバーの方法論の比較	差異法・一致法・共変法　行為論・シンボル論
第10回	シカゴ学派の社会学（その1）パークとバージェス	人間生態学・都市病理・社会改良
第11回	シカゴ学派の社会学（その2）プラグマティズムとの関連	ミード、トマスの社会心理学
第12回	パーソンズとシステム論	構造―機能分析、AGILの相互交換、一般化されたメディア
第13回	マートンの中範囲の理論	機能分析・準拠集団の理論、因果メカニズム
第14回	相互作用論から社会的世界論へ	ナラティブ・システム・メカニズム、
第15回	理論的視点の総括と討議	社会学理論の活用法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で紹介する文献はできるだけ図書館等を利用して、各自で学習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や視点がどれだけ理解できているのかによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業ではテキストのほかにレジメを配布するのでそれらを熟読してほしい。またコミュニケーション・ペーパーを配布するので積極的に質問していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人・宝月誠ほか／有斐閣／4-641-08857-8／

参考書 / Reference Books

参考書は授業のなかでそのつど紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailを利用

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

12742

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。貧困という言葉が日常語となってきています。なぜこうなってしまったのでしょうか。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。 そのうえで、ありうべき経済のシステムを考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	経済知識の確認、など
2	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、市場とは何か、商品市場、金融市場、労働市場
3	資本（企業）と産業－株式会社とはなにか？	株式会社、産業分類
4	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
5	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
6	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
7	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
8	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
9	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営化
10	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15	人間中心の経済とは	スウェーデン、潜在能力、選択可能な社会システム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考文献は、講義の中で指摘する。テキストは使わない。レジュメに基づく講義。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書 ／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞社／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
市民のための社会経済学	篠田他編著／伊藤光晴／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

shinoda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会心理学（S）

12804

担当者名 / Instructor　門田 幸太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人々は社会からさまざまな影響を受けながら日々の生活を送っている。このような個々人の中に見られる社会的影響の産物として社会的態度をとらえることができる。社会的態度はどのように形成され、どのような条件下で変化しうるのか。本講では社会的態度を中心に、個々人の持つパーソナリティや社会的動機、個人と個人との対人認知や対人関係、個人と集団とのかかわりあい、集団と集団との相互作用、さらに比較文化といった複眼的な視点から社会の中の人間行動を考えてみる。

到達目標 / Attainment Objectives

人間が社会から受ける影響、人間と人間のと相互作用、個々人の態度の形成と変容などについて理解できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	1）社会心理学とは	社会心理学の位置づけ、他の領域との関連性
2	2）社会心理学の歴史・研究方法	社会心理学の研究の流れ、研究方法
3	3）個人の中の社会的影響	社会が個人に与える影響について欲求・動機づけ・本能概念
4	4）達成欲求	達成欲求の測定法、達成欲求と行動特性、達成欲求
5	5）親和欲求	親和欲求、不安と親和欲求
6	6）対人認知	情動の認知、パーソナリティの認知
7	7）印象形成	暗黙裡のパーソナリティ理論、相貌と印象、言語情報からの印象形成、行動観察による印象形成
8	8）社会的態度とは	態度と対象の関係、態度の定義・機能
9	9）態度の形成	態度形成の問題について認知的成分、感情的成分、行動傾向成分
10	10）態度の変化	コミュニケーターの信憑性、コミュニケーションの提示方法
11	11）対人魅力の規定因	空間的近接・身体的魅力・態度の類似度・他者評価
12	12）対人魅力の理論	理論相互依存性理論・バランス理論・錯誤帰属説
13	13）人格とは	パーソナリティの概念、パーソナリティの理論、活動システムとしてのパーソナリティ、心理＝社会的アイデンティティ
14	14）人格の形成	社会化の概念と過程、価値の社会的学習、社会的学習のメカニズム、モデリングとしての同一視、文化的価値の伝達と内在化
15	15）文化と「人格形成」	乳児期からの社会的学習、子育てと文化のパターン

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	重要語句と研究例、理論の理解を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考書 / Reference Books

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ritsumei.ac.jp/~monden/Reference/を参照。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

monden@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15404

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)と、欠席した回の参考書の該当ページ(上記「授業スケジュール」参照)を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容(および「キーワード」に挙げた概念・用語)を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来(成果点50%)と、授業への出席の頻度(努力点50%)とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法(の一つ)である。よって、どんなことでもよいので——「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので——、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」(パートナーの有無)についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前(あなたが生まれた頃or若かった頃)との時代比較や、他国(あなたが行ってみたい国)との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語(受講生同士の会話)は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「(単)回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞

「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］： http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］： https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→ （JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→ https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス： haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15413

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

12782

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

15343

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校レベルの基礎的数学の知識を前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またExcelの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	30 %	授業内容の理解を確実なものとするために、簡単な課題（宿題）を10回程度課す。課題の提出状況を平常点とする。

提出期限を過ぎた課題（宿題）は受け取らないので、提出期限までに必ず提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になる。授業への出席と課題提出は必須である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／書名は入門となっているが、高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで。

nagasawa@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持参すること。Excelが使えるものはノートパソコンを持ち込んでもよい。

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

12744

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習…(SLクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

12746

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、アドバタイジング、あるいはWBT（web-based-training）など、様々な目的に活用されています。つまりweb上で動くアニメーション作成のスキルを身につけることは、インターネットが日常に深く入り込んだ現代では、非常に強力な表現の手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、そのようなアニメーションを作成する方法を紹介します。

到達目標 / Attainment Objectives

Flashによるアニメーション作成スキルの修得、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、効果的にアニメーションを用いる能力を身に付けること、以上3点を到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	とにかく描いて動かす	Flashのお絵描きの特徴。とにかく動かしてみる
2	基本的なお絵描き	様々な描画ツールと、その特徴
3	基本的なアニメーション	モーショントゥイーン、シンボル、インスタンスなど
4	基本的なアニメーション2	シェイプトゥイーン、レイヤーなど
5	ちょっと凝ったアニメーション	アルファチャンネル、マスク、パスなど
6	シンボルを使いこなす	シンボル内アニメ、グラフィック、ムービークリップなど
7	インタラクティブに動かす	ボタンイベント、アニメボタン、リンクなど
8	外部ファイルの取り込み	効果音や写真、手書きのイラストを活用する
9	課題作成1	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
10	課題作成2	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
11	課題作成3	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
12	課題作成4	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
13	パブリッシング	パブリッシュと設定、アクセシビリティ、ftpによる転送
14	プレゼンテーションと採点1	作品の発表と説明を行なう
15	プレゼンテーションと採点2	作品の発表と説明を行なう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけではなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が充分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第14･15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb（教材配布フォルダ）にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
おしえて!!FLASH 8 : Flash 8スーパー・エンターテイメント・チュートリアル	まつむらまきお, たなかまり／東京 : 毎日コミュニケーションズ／978-4-8399-1961-0／絶版ですが、図書館にはあるようです

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール＆自習してみるのも良いでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必要に応じて授業中に指示します。それ以外の場合は事務室を通じて連絡してください。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC） § 情報処理（SC）

12784

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

12785

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopとGoLive』:フォトレタッチとWebページ入門
Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、Adobe GoLiveによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、Adobe GoLiveによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。
Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『HTML+CSS+JavaScript』(SHクラス)がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるWebページ作成の基本。
Webページ公開の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数 画像保存形式 画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定／自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正／赤目・パッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター／ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー／文字／切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎 (ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	GoLive操作法	(作成から保存)
11	実習(2)－1	Webページ作成
12	実習(2)－2	Webページ作成
13	リンク貼り	アップロード 更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介) まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE）　§　情報処理（SE）

12745

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、情報化社会の中で、個人のレベルにおいても対応することが不可欠となっている「情報セキュリティ」に関する「入門講義」として位置づけられている。講義は情報教室で受講者がPCを使用しながら、実習・実験を伴う形で行われる。「私は大丈夫」「私には関係がない」と思いがちな日常の情報コミュニケーション技術利用の落とし穴について、様々な具体事例を取り上げながら、受講者が授業時間内に実際にセキュリティー技術について確認する機会を設ける。情報セキュリティ意識を高め「自分の身を守る」ための知識習得の場としてほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1.情報化社会における「安全性」について考える端緒を得る。
2.インターネット利用に伴う「危険性」（脆弱性）をについて説明できるようになる。
3.被害者」「加害者」にならないための基本的な知識・スキルを身につける。
4.デジタルデータの著作権について理解し、情報発信を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI等の情報技術関係入門講義は履修済みであることが望ましい。
立命館大学の情報環境利用方法、コンピュータの基本操作、レポート作成レベルの文書作成技術（Word,Excel等）については一定習得済みのものとして講義はすすめられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション（情報リテラシーIII共通）	
2	情報社会における「セキュリティ」とは（概説）	「情報セキュリティ」とは何か。今、何が問題になっているのかを理解する。
3	インターネットおよびWebサービスの仕組み	インターネットとはどのような技術によって成立しているのか、歴史的経緯を踏まえ理解する。
4	被害者・加害者にならないために1（コンピュータ犯罪の今昔1）	コンピュータ犯罪の事例を紹介し、そこに見える問題と、自らできる対策についての知識を得る。脅威となるWebサイト、サービスへの模擬接続と情報流出の状況確認。（実習）
5	インターネット上での「匿名性」「非匿名性」	「匿名」「非匿名」の実態について、アクセスログを用いて考える。アクセスログ解析、IPアドレス・ドメイン名によるトレース（実習）
6	コンピュータウィルスの脅威から身を守るために	コンピュータウィルスやネット上での危険要因についてその性格を理解し、対処の知識を得る。コンピュータウィルスの模擬作動実験（実習）
7	不正アクセス監視の仕組み（IDS）とファイアーウォール	実際のIDSシステムを見ながら、その有効性について考える。簡易IDSの構築（実習）
8	データの暗号化技術（1）	情報の保護という観点から、暗号化の方式、諸技術について理解する。暗号化作業（実習）
9	データの暗号化技術（2）	暗号化とその解読の具体的事例を見ながら、その有効性について考える。暗号解読の作業(実習)
10	情報セキュリティのための法律・諸制度・体制について	セキュリティ対策に関係する、昨今の取組についての知識を得る。
11	情報化社会における「著作権」（1）	現行著作権法に基づいた、デジタルデータの取り扱いについて学習する。各自の所持している「コンテンツ」（授業成果物・レポート・Webサイト等）の検証（実習）
12	情報化社会における「著作権」（2）	現行著作権法に基づいた、データの取り扱いについて学習。ルールに則ったコンテンツ作成（実習）
13	情報セキュリティビジネス	情報セキュリティをビジネスとする事例を見ることを通して、セキュリティのあり方を考える。
14	管理者およびユーザに求められる「情報倫理」	技術者としての倫理・ユーザとしての情報倫理について考える。
15	総括「情報セキュリティ」	情報セキュリティについて、各回学んだ知識を総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外学習をすすめたい者は個人的に質問に来るとよい。テーマに沿った文献・資料等を紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内確認小テスト・小レポート、授業時間外課題、到達度確認テスト等を課す。(70%) また実習を伴う授業であるため、日々の参加姿勢をも含めた平常点評価とする。(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時間中に随時指示する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義時間中に必要な資料、文献等を随時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義時間中に随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

初回講義で指示する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF） § 情報処理（SF）

12786

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SKクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

15333

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『コンピュータ教育（入門）』
教員をはじめ、コンピュータを教える立場になることを想定し、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、コンピュータ教育の技術や方法を探っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータ教育法の基礎習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	コンピュータの基礎知識	ハード／ソフト／OS/アプリ／NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習（1）－1	Windwos基本教室づくり
5	実習（1）－2	Windows基本教室プレゼン ディスカッション
6	実習（2）－2	Word基本教室づくり
7	実習（2）－2	Word基本教室プレゼン ディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習（3）－1	Excel基本教室づくり
10	実習（3）－2	Excel基本教室プレゼン ディスカッション
11	実習（4）－1	NET／OLE基本教室づくり
12	実習（4）－2	NET／OLEI基本教室プレゼン ディスカッション
13	コメント	
14	実習（5）－1	最終課題
15	実習（5）－2	最終課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	そのほかの実習課題、実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。
また、グループ学習への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15393

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級』：HTML～JavaScript
Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。
もっとも基本となるHTMLから、CSS（スタイル）、JavaScriptまで。

到達目標 / Attainment Objectives

NETの基礎知識。
Webページの基礎知識。
HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。
Webページ公開。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Webページの基礎	（ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係）
3	HTML入門	（html,head,body,h,p,br,div／保存・閲覧・更新）
4	HTML追加	（table）
5	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
6	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	（script,onClick,onMouseOverなどイベント）
9	JavaScript入門	（for／if）
10	JavaScript入門	（その他）
11	実習(2)－１	Webページ作成
12	実習(2)－２	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)－３	リンク貼り アップロード 更新
14	プレゼンテーション	（ページ紹介）
15	プレゼンテーション・まとめ	（ページ紹介）

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI）　§　情報処理（SI）

15420

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』:Visual Basicによるプログラミングの基礎。
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎 クリックとその反応
3	アニメーション（1）	移動による表現
4	アニメーション（2）	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習（1）	クリックゲーム（VB風モグラたたき）の作成
8	プログラミングの思考（1）	素数を求める
9	プログラミングの思考（2）	計算の効率化
10	プログラミングの思考（3）	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習（4）－1	オリジナル・ゲーム作り（1）
13	実習（4）－2	オリジナル・ゲーム作り（1）
14	実習（4）－3	オリジナル・ゲーム作り（2）
15	実習（4）－4	オリジナル・ゲーム作り（3） 検証と課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	実習課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩　／ふくろう出版／4-434-04018-9 ／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介る。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15459

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Offce総合（中級）』：Officeソフト総合演習（Excel中心）
情報リテラシーI、IIに続く上級編。
Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実践な使用方法。
Excelの関数
Excelのデータベース機能。
Excelのマクロ機能の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展（1）	スタイルとアウトライン／脚注／目次／ページ区切り
4	実習（1）	アウトライン
5	Excel発展（1）	Database オートフィルタ／並び替え／集計／フォーム
6	Excel発展（2）	Database 項目作成／vlookup
7	実習（2）	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展（3）	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展（4）	Webデータの利用
10	実習（3）	検索実習
11	Excel発展（5）	マクロの基礎（1） 記録と保存
12	Excel発展（6）	マクロの基礎（2） 変数、繰り返し、if
13	実習（4）－1	課題
14	実習（4）－2	課題
15	実習（4）－3	課題提出

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終課題など。
平常点評価	40 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK） §　情報処理（SK）

15460

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SFクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15461

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習...(SAクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA）§　法政特殊講義（JI）§　人文科学総合講座特殊講義I（LQ）§　特殊講義（各部門共通）I（RD）§　専門特殊講義（SP）§　特殊講義（WA）§　専門特殊講義II（SP）

13871

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	鳥取県　平井伸治知事	
第3回	和歌山県　仁坂吉伸知事	
第4回	岩手県　達増拓也知事	
第5回	福井県　西川一誠知事	
第6回	総務省　自治大学校　門山泰明校長	
第7回	大分県　宇佐市　是永修治市長	
第8回	今仲　康之先生	
第9回	読売新聞　論説委員　上田恭規氏	
第10回	三重県　野呂昭彦知事	
第11回	兵庫県　井戸敏三知事	
第12回	秋田県　佐竹敬久知事	
第13回	佐賀県　古川康知事	
第14回	今仲　康之先生	
第15回	神奈川県　松沢成文知事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編)／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ） § 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

16549

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	前兵庫県知事　貝原俊民 氏	
第3回	岡山県　石井正弘 知事	
第4回	茨城県　橋本昌 知事	
第5回	山形県　吉村美栄子 知事	
第6回	広島県　湯崎英彦 知事	
第7回	徳島県　飯泉嘉門 知事	
第8回	滋賀県　嘉田由紀子 知事	
第9回	大阪府堺市　竹山修身 市長	
第10回	静岡県　川勝平太 知事	
第11回	前高知県知事　橋本大二郎 氏	
第12回	日本銀行 京都支店長　渋谷康一郎 氏	
第13回	名古屋市　河村たかし 市長	
第14回	奈良市　仲川げん 市長	
第15回	長野県飯田市　牧野光朗 市長	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社 ／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編) ／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

専門特殊講義I（SA） § 専門特殊講義（SA）

15341

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＜サッカーワールドカップ・スポーツイベントを通じて世界と日本を捉え返す＞

今年はカナダ・バンクーバーで冬季五輪、南アフリカでサッカーワールドカップといった具合に大規模なスポーツイベントが開催される。これらメガ・イベントは、さまざまなメディアを介して、またグローバル資本の後押しによって、地域はもとより国境を越えグローバルに展開している。それゆえ国家という枠組みでの活躍を期待する国民と、グローバル志向のプレーヤーや資本との間に軋轢すら生じている。また、カナダ、南アフリカともに、こうしたイベントを通じて国民国家内部の多様性あるいは権力関係も浮き彫りにされる。つまりスポーツは、ある種のグローバル政治・経済・社会・文化の課題を象徴的に映し出す鏡でもある。

本講義では、このような問題意識から、讀賣新聞、讀賣テレビの記者・アナウンサー、世界や日本の第一線で活躍されているトップ・プレーヤー、コーチ、役員そして大学教員らが共同して、スポーツイベントの内実を多面的にフォーカスする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツ、スポーツイベントに内在する多様な意味を理解することができる
②スポーツと政治、経済、社会、文化との関係を自覚的に捉えることができる
③スポーツメディアの実態について関心と理解を高めることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ、スポーツイベントを考える	サッカーワールドカップ、オリンピック、万国博覧会、新しい社会運動
2	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編①＞	讀賣新聞東京本社（川島健司運動部次長）
3	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編②＞	讀賣新聞東京本社（軍地哲雄運動部記者）
4	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編③＞	讀賣新聞大阪本社（山口康博運動部記者）
5	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編④＞	讀賣新聞大阪本社（平野和彦運動部記者）
6	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編⑤＞	讀賣新聞大阪本社運動部記者
7	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編①＞	讀賣テレビ（安藤充編成局スポーツ制作センタースポーツ部プロデューサー）
8	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編②＞	讀賣テレビ（小澤昭博編成局アナウンス部アナウンサー）
9	スポーツとメディア、新しい社会運動①	川口晋一（産業社会学部准教授）
10	スポーツとメディア、新しい社会運動②	日本視覚障害者サッカー協会（松崎英吾事務局長）
11	トップスポーツの世界 ― 現状と課題①:トップチームの高度化システム	漆原良（産業社会学部准教授）
12	トップスポーツの世界 ― 現状と課題②:トップチームの技術指導	韓国ナショナルチーム指導者
13	トップスポーツの世界 ― 現状と課題③:トッププレーヤーの視点	サッカー日本代表プレーヤー
14	世界と日本のスポーツ政策の現状と課題	権学俊（産業社会学部准教授）
15	再びスポーツ、スポーツイベントを考える	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。またプレーヤー、指導者の都合により講師自体の変更もありうる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	到達目標を踏まえた叙述内容 講義内容を踏まえた叙述内容 ＊原則として、出席回数＝授業内リポート提出数が規定以下の場合は採点対象外とする。
平常点評価	60 %	出席（2/3以上） 講義の中で書く授業内リポートの提出数（2/3以上）と内容 ＊科目担当者の判断で、受講生に授業内リポート用紙配布をしない場合がある。（例）私語

成績評価に関しては、初回の講義で科目担当者より説明し、受講生の了解を得ることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考書は、必要に応じて紹介するが、スポーツあるいは文化イベントに関する文献を読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

本講義は、学外のゲスト講師を多数招聘する。
講義中の「私語」は認めない。

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

12812

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

NHK講座　放送の営みと現代的変容：「龍馬伝」、政権交代報道、メジャーリーグ中継まで第一線の現場からの報告。本講座では、日本の公共放送が現在どのような状況におかれているのかについて、日本放送協会の経営、制作、技術の現場から、最新の動きを学びとることを目的にしている。15回のシリーズで行うこの講義には、海外のメジャースポーツ、国際報道、最新のデジタルテクノロジーの開発など、国内外の一線でニュースジャーナリズム、番組制作現場などで活躍する講師が講義を担当する。

※2010年度の本講座は、キャンパスプラザ京都ではなく立命館大学衣笠キャンパスで開講されますので、注意してください。また、授業は毎週金曜日16:20～17:50実施を基本としますが、4月30日と5月7日は休講とします。代わりに、6月26日と7月17日の土曜日、13:00～14:30に授業を行います。

※講師とテーマは都合により変更になることがあります。

※本講義受講希望者は、開講までに「めざせ会社の星」を必ず視聴したうえで、アンジャッシュおよび担当プロデューサーへの質問を考え、初回（4月9日）の講義時に提出してください（形式自由。所属大学・学部、学生証番号、氏名とあわせてA4用紙に記入のこと）。なお、この質問レポートは、成績評価時の参考とします。

到達目標 / Attainment Objectives

放送に興味を持っている学生から、将来、放送の現場を担いたいと希望する学生まで、幅広く興味関心を満たせる内容となっており、この講義を通じて、放送のあり方、放送の将来展望について考える力をつけてもらいたい。また講義では、毎年恒例で、受講生からも評価が高い、「受講生自身が放送番組の企画提案書を書く」という実践的な課題にも取り組んでもらうこととしており、提出された番組企画案には、制作のプロフェッショナルが丁寧にコメントを書いて、個別にフィードバックされることになっている。これを通じて、番組を制作する視点を、受講生自らが擬似的に体感してもらうことができる。受講生には制作者の立場をより身近なものとして理解・批評する力を身につけてもらうことが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月9日	大河ドラマ「龍馬伝」が放送されるまで ～企画開発から放送まで～ （講師：土屋勝裕／制作局ディレクター）	
4月16日	NHK番組編成の三本柱（その1）エンターテインメント 「めざせ会社の星」制作の現場から ～出演者とプロデューサーによるこの講義だから聞ける裏話～ （講師：山本隆之／名古屋局チーフプロデューサー、特別講師／アンジャッシュ）	
4月23日	NHK番組編成の三本柱（その2）スポーツ 海外スポーツ中継の魅力 ～MLB、MBAと多様なスポーツ中継の魅力～ （講師：奥野慶太／報道番組センターチーフプロデューサー）	
5月14日	NHK番組編成の三本柱（その3）ニュース 衆議院選挙はどのように報道されたか ～「政権交代」09年衆議院選挙報道の取組み～ （講師：松井裕子／京都局記者）	
5月21日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その1） 受信料と公共放送 ～なぜ受信料は必要なのか？そして世界の公共放送と何か違うのか～ （講師：長村中／営業局）	
5月28日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その2） 番組制作の基本・提案課題設定【双方向授業①】 ～番組制作者の視点－番組提案の書き方～ （講師：東條充敏／京都局ディレクター）	
6月4日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その3） NHKの文化事業 ～「長谷川等伯展」「大遣唐使展」を中心に～ （講師：鈴木薫／大阪局視聴者センター（事業）	
6月11日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その4） 図解主義～発想力、分析力を養え～ （講師：中谷日出／解説委員室）	

6月18日	放送最前線からの報告（その1） 国際放送による世界への情報発信、世界とつながるNHK ～24時間英語ニュース、海外にいる日本人向け情報提供について～ （講師：久保智司／国際放送局ニュース制作部）	
6月25日	放送最前線からの報告（その2） 現場のカメラマン経験から ～ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ、繊細さ、執念、ドキュメンタリーカメラマンは現場最前線で何を感じたのか～ （講師：杉江亮彦／放送技術局カメラマン）	
6月26日（土曜講義）	放送最前線からの報告（その3） 日本のテレビ業界について語る ～報道記者、「週間子供ニュース」キャスターの経験、そして民間放送へ～ （講師：池上彰／フリー（元NHK記者））	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。
7月2日	放送最前線からの報告（その4） 若手アナウンサーの体験から ～NHKのアナウンサーとして活躍するまでの苦悩の日々～ （講師：飯島徹郎／京都局アナウンサー）	
7月9日	放送最前線からの報告（その5） 最新デジタル技術について ～最新のﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰは放送をどのように変容させるのか～ （講師：久保田啓一／NHK技術研究所長）	
7月16日	放送最前線からの報告（その6） 提案の秘訣・提案課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 【双方向授業②】 ～番組提案会議を講義で実践。受講生の番組提案をプロデューサーが講評～ （講師：篠田恵一／京都局チーフプロデューサー）	
7月17日（土曜講義）	まとめ （講師：福地茂雄／NHK会長）	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の最後では、各受講生にフィードバックコメントを書いてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	学期中に課題として出される個人の番組提案を評価の対象とする。この課題は、番組企画に対する専門的な技量を評価するものではなく、講義を通じて受講生が獲得した視点や発想の面白さを、いかに番組提案にうまく反映させているかが評価の主ポイントとなる。このため各講義において受講生が放送番組について個人的に考えを書き留めるなどして、アイデアを積み上げる作業さえしていれば平均以上のポイントは獲得できる。
平常点評価	75 %	各回で、フィードバックコメントを書いてもらう。各講義で自分が受け止めた内容のサマリー、これに加えて個人的にどのような感想を持ったかを記述して、講義の最後に提出してもらう。各5ポイント満点で評価する。5ポイント×15回講義＝75ポイントとなる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の最初の全体シラバスで、連絡方法や質疑応答の時間についてアナウンスする。

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

12811

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体（予定）の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。

〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「デジタル/ネット文化・産業論Ⅱ」を連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
2	「日本の音楽配信ビジネスと違法音楽配信対策」	畑 陽一郎先生（社団法人日本レコード協会 事務局次長）
3	「コンテンツ産業進化論～世紀の転換・技術の発達～」	丸山 茂雄先生（株式会社247Music　取締役会長）
4	「ニコニコ動画進化論2010」（仮）	杉本 誠司先生（株式会社ニワンゴ　代表取締役社長）
5	「空間メディア文化とデジタル化」（仮）	來住 尚彦先生（株式会社TBSテレビ　赤坂サカス推進部長）
6	「J-POP進化論～加藤和彦、小田和正から平原綾香まで～」（仮）	新田 和長先生（株式会社ドリーミュージック 取締役エグゼクティブプロデューサー）
7	「『子ども映画祭in小豆島』開催構想」（仮）	益田 祐美子先生（映画&コンテンツ制作プロデューサー）
8	中間総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
9	「ソニーレーベル42史」（仮）	北川 直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレイト・エグゼクティブCEO、財団法人　音楽文化・産業振興財団理事長）
10	「鎮守の杜コンサート～心の環境問題を訴える～」（仮）	原田 真二先生（シンガー･ソングライター兼音楽プロデューサー）
11	「転換期のCM映像制作」（仮）	金 利明先生（映像監督　FREZ=MANAGEMENT OFFICE所属）
12	「続伸するライブエンタテインメント産業の課題」（仮）	中西 健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長　社団法人全国コンサートツアー事業者協会 副会長）
13	「日本文化とアート～東京・浅草に新名所 アミューズミュージアム誕生物語～」（仮）	大里 洋吉先生（株式会社アミューズ 最高顧問兼アミューズ総研"Skhole"代表）
14	「CGと3D～コンテンツ創作の近未来図～」（仮）	猪子 寿之先生（チームラボ株式会社 代表取締役社長）
15	前期総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越し

いただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする(コミュニケーションペーパーの提出を認めない)。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー(50%)と期中2回課すレポート(50%)により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義I（SF） § 専門特殊講義（SF） § 特殊講義（総合）（VC）

15462

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

具体的な講師陣、テーマについては3月下旬に立命館大学のオンラインシラバスに掲載予定

各回テーマ例（案）

「情報とモラル」（キーワード：リテラシー）
「実演家の権利」（キーワード：著作隣接権） 等
「ゲーム音楽創作」（作・編曲家）
「舞台制作」（ミュージカル）

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。
〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、前期の専門特殊講義ＩSE「デジタル/ネット文化・産業論Ｉ」から連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	オリエンテーション
2	広瀬 香美先生（シンガー・ソングライター）	「ネットとコミュニケーション」（仮）
3	稲垣 博司先生（エイベックス・マーケティング株式会社 代表取締役会長、エイベックス・エンタテインメント株式会社 取締役） 関 佳裕先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 執行役員）	「レコード産業100年史」（仮）
4	宮田 和樹先生（株式会社実業之日本社 マーケティング・コミュニケーション推進室長）	「ブックビジネス2.0」（仮）
5	亀田 誠治先生（音楽プロデューサー）	「音楽創作事変」（仮）
6	谷口 元先生（社団法人音楽出版社協会 会長）	「ネット時代の音楽出版ビジネス」（仮）
7	すぎやま こういち先生（作曲家）	「ゲーム音楽」（仮）
8	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	中間総括
9	椎名 和夫先生（実演家著作隣接権センター　運営委員、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest 代表幹事）	「改正著作隣接権」（仮）
10	下川 大介先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 第1音楽制作本部制作部第3制作ルーム部長）	「アジアの音楽産業の現状」（仮）
11	高橋 衛先生（株式会社三菱総合研究所 システムエンジニアリング本部流通・物流ソリューショングループ兼経営コンサルティング本部産業戦略グループ 研究主任）	「欧州における音楽産業等の消費動向調査」（仮）
12	堀 義貴先生（株式会社ホリプロ 代表取締役会長兼社長）	「web時代のアーティスト・マネジメント」（仮）
13	白井 勝也先生（株式会社小学館 副社長）	「出版産業の構造改革」（仮）

14	加藤 裕一先生（株式会社レコチョク 取締役代表執行役社長）	「音楽配信ビジネス」（仮）
15	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	後期総括
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越しいただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする（コミュニケーションペーパーの提出を認めない）。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー（50%）と期中2回課すレポート（50%）により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SB） § 専門特殊講義（SB）

12798

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展したのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内で上映される映画に関して、レポート課題に指定する。上映会の入場料は、500円程度である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDでの参考上映も行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形で常に変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。映画館は、シネコンだけではない。京都には、文化博物館映像ホールでは京都で作られた日本映画を定期上映している。また、アート系映画を上映している映画館もあり、上映環境は恵まれているので、その環境を積極的に生かして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきた∽日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　あるいは、maasa@ma1.seikyou.ne.jpへ、メールで気軽にコンタクトして下さい。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、神谷が経営する京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最後に上映する。

専門特殊講義II（SC） § 専門特殊講義（SC）

12799

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権（匿名・実名問題など）	個人情報
第3回	事件報道と人権（被害者報道、加熱取材など）	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権（歴史的重大事件など）	教訓
第5回	司法取材の現場から（死刑再審など）	冤罪
第6回	調査報道とは（リクルート事件など）	特ダネ
第7回	虚報と誤報（サンゴ事件）	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿（沖縄密約など）	スクープ
第9回	社説について（憲法改正論議など）	提言
第10回	教育現場から（日の丸・君が代）	良心
第11回	社風・社論（信頼される報道とは）	綱領
第12回	生活ニュースとは（街だね）	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは（市民ネットと投書）	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記（判決の中身を伝える記事）を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

12724

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を支えてきた巨大メディアの新聞とテレビをめぐる環境は、多メディア、デジタル化時代を迎えて大きく変化している。新聞では、紙媒体に加え、ネット記事が浸透し、一時無料化の流れが強まったが、欧米紙の間では有料化の動きも見られる。テレビでは、広告収入を基本とする経営が主流であったが、オンデマンド形式の放送では、番組単位で販売されるなど、新たなビジネスモデルも生まれている。これらの変化は、経営面はもちろんのこと、コンテンツにも多大な影響を与えている。

また、若者の新聞離れは以前から指摘されてきたが、最近の調査では、テレビは、若者が必要とするメディアにおいて、携帯電話、パソコンに次いで3位に甘んじるなど、テレビ離れもみられ、若者とメディアの向き合い方も変化している。

本講座は讀賣テレビ放送株式会社および読売新聞大阪本社から、ディレクター、プロデューサー、アナウンサー、編成マン、事業セクション等多様なプロフェッショナルを毎回ゲストスピーカーに迎え、リレー講義形式で授業を進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

変貌するメディア環境をめぐる問題意識を視野に入れながら、21世紀のメディアの課題と可能性を具体的に探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	21世紀の新聞とテレビを取り囲む環境	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
2	【新聞】多メディア化の中の新聞	読売新聞大阪本社 専務取締役 菊池 卓雄 氏
3	【新聞】政治報道の使命と課題～政権交代から考える～	読売新聞大阪本社 論説委員 上田 恭規 氏
4	【新聞】社会部の現場から	読売新聞大阪本社 社会部長 森 克二 氏
5	【新聞】橋下・大阪府政とメディア	読売新聞大阪本社 社会部次長 指尾 喜伸 氏
6	【新聞】国際報道のいま	読売新聞大阪本社 編集委員 中津 幸久 氏
7	【新聞】新聞事業の現状と未来	読売新聞大阪本社 事業局長 窪田 邦倫 氏
8	【新聞】デジタル化と新聞の課題	読売新聞大阪本社 メディア戦略室長　森栄 徹 氏
9	【テレビ】今テレビはどこにいるか	讀賣テレビ放送　報道局次長　新谷 弘 氏
10	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ビジネス編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　山下 雄司 氏
11	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ハード編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　松山 浩士 氏
12	【テレビ】テレビ報道の現場、新しい番組作りへの挑戦	讀賣テレビ放送　報道局プロデューサー　相島 良樹 氏
13	【テレビ】21世紀のテレビ報道の課題	讀賣テレビ放送　解説委員　春川 正明 氏
14	【テレビ】テレビ報道の現場、テレビと政治を中心に	讀賣テレビ放送　特別解説委員・元解説委員長　岩田 公雄 氏
15	全体まとめ	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
	※講師の業務の予定により、テーマの変更や講師の変更の可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回の講義でミニレポートを書いてもらう(配点50点)。なおこれは出席点も兼ねるので、QRコードを毎回持参すること。 ②最終授業日に60分程度、論述中心の「授業内レポート試験」を実施(配点50点)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

12816

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市しあわせ（ハピネス）政策論～学生からの市政提言～

京都の立命館大学で学ぶ学生として、京都を知るための第一歩として京都市内で何が起きているのか、京都とはどのような街か、京都にはどのような学びの場が潜在的にあるのかを紐解くことは大きな意義がある。本講義では、受講生が、広く社会との接点を求め、実践的な学びの中で社会と自分がどのように関わっているのかについて考えをめぐらせるための機会を得ることで、市行政に対するなんらかの行動を起こすきっかけとなることを目指している。

本科目では、受講生に対し、現在の京都市の中で注目されるトピックを取り上げ、京都市との連携のもとで実際的なテーマ講義を行う。その中で、実際に公共の福祉に資する活動として学生の立場で何ができるかについて考えるグループを組織する。自分たちが学ぶ京都市における財政や組織はどうなっているのか、京都市は広報活動などを通じ市民とどのようにしてつながろうとしているのか、京都市でマンガミュージアムが誕生したのはなぜか、京都市のスポーツ振興策は果たして市民のニーズと直結しているのかなど、京都の市行政について聞く中で、受講生一人一人が独自の視点で市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた行政アドバイスプラン構築をしてもらうことにより、実践的な学びを目指す。産業社会学部の現代社会、メディア、スポーツ、子ども、人間福祉の各専攻の学びとも結びつけてもらいながら、学生が主体的に京都市で学ぶ一員となることで、よりよい京都市政のために何ができるかについてのプランを作成してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、京都の市行政と社会を構成する市民としての私たちを結び付けて考える中で、学生の目線から市行政に向けた行政アドバイスプランを構築してもらう。京都市北区衣笠のキャンパスで学ぶ立命館大学生は京都市についてどれだけの知識を持ち、また現在の市行政の状況を知っているだろうか。本講義では、京都市の財政や組織などについて基礎的な理解をしてもらった上で、京都市にかかわるいくつかのトピックについて京都市の担当者からの講義を受け、これを通じて市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた京都市の行政・政策への新たな視点を培う。

講義では、①京都の産業、②文化・スポーツ、③福祉・健康、④都市計画・交通、⑤子供と教育、⑥まちづくり・市民活動、⑦環境の7つの分野にわたって話しを聞いてゆく。その中から、自分がもっとも興味関心を持てるトピックを抽出し、そのトピックに関連して学生の視点・目線での行政アドバイスプランを作成してもらう。このプランを企画ポスターセッションとして成果発表してもらうこととしており、最終的には何らかの形で市行政の関係担当者にフィードバックすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学関連の基礎的な科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要説明	
第2回	●京都のしくみを知る（その1） テーマ1　京都市の組織と事務のあらまし テーマ2　京都市財政のあらまし	市行政の仕組み
第3回	●京都のしくみを知る（その2） テーマ3　京都市の広報活動のいろいろ	広報　パブリックリレーション
第4回	●京都のしくみを知る（その3） テーマ4　市民参加で創る京都のまち～市民のち・か・らをキーワードに～	市民参加
第5回	●京都のまちづくりと市民活動（その1） テーマ5　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進	まちづくり
第6回	●京都のまちづくりと市民活動（その2） テーマ6　市民活動総合センターってどんなとこ？	市民活動
第7回	●京都の環境と緑化 テーマ7　京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策～ テーマ8　京都の環境をあなたがチェック！～環境レポートによる意見募集	環境行政　地球温暖化対策　パブリックコメント
第8回	●京都の文化とスポーツ（その1） テーマ9　京都市のスポーツ振興 テーマ10　高い成長性が期待できるコンテンツ産業の振興	スポーツ　マンガ　振興政策
第9回	●京都の文化とスポーツ（その2） テーマ11　動物園の役割と楽しみ方	動物園
第10回	●京都の産業 テーマ12　わたしたちの伝統産業 テーマ13　京都で創業しよう！	伝統産業　創業

第11回	●京都の福祉・健康（その1） テーマ14　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！	ユニバーサルデザイン
第12回	●京都の福祉・健康（その2） テーマ15　たばこ対策の推進 テーマ16　動物と共生できる社会を目指して	喫煙対策　動物　共生
第13回	●京都の都市計画と交通 テーマ17　京都の市バス テーマ18　京を走る地下鉄	都市計画　公共交通機関
第14回	●京都の子どもと教育 テーマ19　子どもを共に育む京都市民憲章の具体化に向けて（家庭・地域ぐるみの教育）	子ども　教育　市民憲章　家庭　地域社会
第15回	まとめ 京都市行政　学生アドバイスプラン・ポスターセッションの開催	
	※なお、現職の京都市の職員の方々にお越しいただく関係上、担当者の都合がどうしてもつかなくなった場合には、スケジュールや講師、テーマの変更等が発生する可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常点評価とし、試験は行わない。平常点評価の際には、以下のものが対象となる。①各テーマについての市行政担当者によるプレゼンテーションへのクラス内フィードバックコメント、および②受講者による「市行政へのアドバイスプラン」作成への取り組みとプレゼンテーション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は、自分たちに身近な京都市の行政関連事項を、市広報、市ホームページ、新聞、テレビ、ラジオなどを通じて、常にチェックしておいてもらいたい。これにより、現在、京都市内で起きているさまざまな事象、現象について自分のこだわりでみることができるようになるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若き友人たちへ－筑紫哲也ラスト・メッセージ	筑紫哲也／集英社／978-4-08-720515-2／

参考書 / Reference Books

必要に応じてアナウンスする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市情報館　http://www.city.kyoto.lg.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15470

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ポピュラー音楽」は、聴いて楽しむだけなら特に学ぶ必要はないかもしれません。しかしダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」という格言を紹介しています。また同著の中でシューマン博士の観察として、「何ページもの書物よりも、ただ1曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させるものがある」と「音楽の力」を指摘しています。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュニケーション手段です。世界にはいろいろな音楽があります。この講座では、デジタル技術の発達とインターネットの普及によって、環境が激しく変貌するなかで、私たちにとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、身近な「ポピュラー音楽」を通じて、ジャンルを問わず多角的に考察、研究し、新たな「音楽の系譜づくり」と21世紀の「音楽の聴き方」の追求で成果を残したいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①ウィーン古典派音楽からアフリカのバンバータまで、聴き方を知る。
②日本の「流行歌」の変遷と特性を知る。
③音楽文化・産業の拡張と拡散を考察する。
④21世紀の「ポピュラー音楽文化」の創出を担う。
⑤音楽著作権・著作隣接権を学び、知識を蓄える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	世紀の転換・技術の発達。音楽の存在と聴き方。	音楽力
第2回	私たちの内に流れるリズム・メロディー。日本人とリズム。日本人とメロディー。日本人好みの音階・好きな音色。	沖縄音楽
第3回	時代背景とヒット曲。蓄音機、レコード盤、SP、LP、ウオークマン、CD、DVD、iPod、配信。	歌は世につれ、世は歌につれ
第4回	日本の音楽産業の歩み。レコード産業の現状。課題と展望。	音楽配信
第5回	ポピュラー音楽と普遍性。作曲家・古関裕而の融合音楽。結婚行進曲と葬送行進曲。	長寿社会と死生観
第6回	ポピュラー音楽と独創性・大衆性。美空ひばり、ピンク・レディー、中島みゆき、YMO。	スタンダード曲
第7回	大衆音楽の発生。ドレミファの調整システムの崩壊。「12音技法」の誕生。ミュージカルの誕生。マイケル・ジャクソン。	ジャズ
第8回	新しい大衆音楽の誕生「ロック」。	エルヴィス・プレスリー、ボブ・ディラン、ザ・ビートルズ
第9回	「ロック」の進化系図。ハード、パンク、ヘヴィメタル。	ロックの意味・未来
第10回	ワールドミュージックと非西欧的音楽。	アフリカ・バンバータ
第11回	ポピュラー音楽の多様性。ポップス、クラシック、日本民謡、ジャズ、レゲエ、ボッサ・ノヴァ、ファド、シャオンソン、カンツォーネ。	音楽地球儀
第12回	広告の中の音と音楽。多メディア時代の広告音楽。	コカコーラ・資生堂
第13回	音楽の聴き方～聴く型と趣味を語る言葉～	芸術音楽（クラシック）VS実用音楽。
第14回	音楽と著作権。「音楽著作権とは」「著作隣接権とは」。	財産権・人格権
第15回	人口24億人。アジアの音楽市場～動向と新潮流。	オリジナルの創出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※12月1日追記
12月16日（木）の講義より、授業開始後30分を過ぎて入室した者については欠席扱いとし、コミュニケーションペーパーの提出を認めない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	
平常点評価	15 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

CD、DVD、ライブなどを積極的に聴いたり、観賞するよう心がけてください。

教科書 / Textbooks

オリジナルの「レジュメ」CD、DVD等を活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権の新世紀」	福井健策著／集英社刊／／
「あたらしい教科書8　音楽」	小沼純一監修／Petit Grand Publishing,Inc刊　／／
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーター・マニエル著 中村とうよう訳／ミュージックマガジン社刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（社）日本レコード協会（RIAJ）HP
（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）HP

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし。

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15457

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞はこのまま、IT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディアであるネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな変化をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で、メディアのあるべき今後の姿を探っていく。同時に、政権交代後のメディアの変容を重点的に検証、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

12895

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、08年に惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	ドキュメンタリー作品鑑賞	アラン・レネ「夜と霧」
第6回	作品分析　意見交換	フランス映画史におけるアラン・レネの仕事
第7回	作品鑑賞	スティーブン・オカザキ監督「ヒロシマ、ナガサキ」
第8回	作品分析発表　意見交換	
第9回	ドキュメンタリー作品鑑賞	土本典昭監督「水俣」
第10回	作品分析　意見交換	土本典昭の仕事
第11回	作品鑑賞	佐藤真監督「阿賀に生きる」
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲスト講師（予定）	
第14回	作品鑑賞	佐藤真監督「花子」
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールを。チェック頻度は、後者のアドレスの方が日常的です。

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15520

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。だが、昨年日本映画バブルがはじけ、いくつかの製作会社、プロダクションが業務縮小を余儀なくされる事態となっている。娯楽大作は見る機会が多いが、過去の日本映画の名作を見る機会は、少ない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的、政治的な力によって映画が作られてきた時代があったことを作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、映画が、権力の側にプロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、ドキュメンタリー研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」(1944年)女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	戦前のアニメーション「海の神兵」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールして下さい。

その他 / Others

専門特殊講義III（SO） § 専門特殊講義（SO）

15345

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1960～1970年代のテレビ番組（主にドキュメンタリー）を題材に、今、あらためてテレビというメディアが内包していた可能性と、今後の課題について考えてみたい。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2010.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回目授業で説明します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

60316

担当者名 / Instructor　小田切 康彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

60324

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

60332

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

60340

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参する。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）　60348

担当者名 / Instructor　山口 洋典　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域活性化ボランティアは、社会貢献活動と大学での学びを結びつけた「サービスラーニング」という教育（学習）手法を用いて実施されます。
受講生は、教室での事前・事後学習などに出席するほか、サービスラーニングセンターが協定を結んだ京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどに協力して地域でのボランティア活動に参加します。
この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指しています。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

60356

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

60364

担当者名 / Instructor　上田 洋平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

60372

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GI）§　専門特殊講義（S6）§　地域活性化ボランティア（JI）§　地域活性化ボランティア（PI）§　特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI）§　特殊講義（自由選択）1（V9）§　特殊講義（自由選択）（V9）§　特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

60380

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
	授業スケジュールについての留意事項	※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。 全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。
※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

文化理論 (S)

15429

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から代表的を思われる文化理論を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを社会学的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

文化的諸活動にせまる切り口を文学・文化人類学・文化社会学・精神分析から学び、それら複数の観点から、日常生活における人々の言動を理解する視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	授業の進め方 / 評価方法
第2回	文化の語り方　ー文化と文化理論の整理軸①ー	研究者の語り方 / 小説家の語り方 / 経験的世界と想像的世界
第3回	文化の採集の仕方　ー文化と文化理論の整理軸②ー	異文化の採集 / 自文化の採集 / 語られる文化と語り手の文化
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」と「採集の仕方」を基準にー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係 / 文化を文化する
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 有機的全一体 / 社会的紐帯
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾・村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー構造主義の源泉ー	言語体系と言語行為(構造言語学) / 本質存在と事実存在(実存主義)
第8回	解釈学的な文化理論　ー解釈とはー	意味措定・意味解釈 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ著)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 地位関係の代理闘争 / 闘鶏を解釈する主体
第10回	小テスト	
第11回	自文化の再帰的考察に向けて　ー構造言語学の諸概念ー	言語の内容面・表現面 / 言語の恣意性・必然性
第12回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」の考察法ー	体験・言語・経験 / 「甘え」の発見
第13回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」の語彙 / 「甘え」の社会関係 / 「甘え」と「自由」の関係
第14回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造 / 「いき」と「甘え」
第15回	文化理論の基礎づけ　ー他者理解としての文化理論に向けてー	語り方・採集法 / 機能主義 / 構造主義 / 解釈学 / 言語論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で学んだ文化研究の理論・方法・概念を、具体的事例の理解と説明にどのように応用し適切に表現できるか
平常点評価	20 %	文化研究の理論・方法・基礎概念などの学習到達度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で支持します

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／

社会的世界の意味構成	A.シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	M.ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	C.レヴィ=ストロース／中央公論社／／
文化の解釈学	C.ギアーツ／岩波書店／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／
「いき」の構造	九鬼周造／岩波書店／／
西太平洋の遠洋航海者	B.マリノフスキー／中央公論社／／

以下の文献を読むことを薦めます
佐藤嘉一著『物語のなかの社会とアイデンティティ』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

コミュニティケア論（S）§ 社会福祉援助技術論III（SG）§ 社会福祉援助技術論III（S）§ コミュニティケア論（SG）

12922

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講ではコミュニティケアに関する基礎的な理解を以下の3点から求める。①コミュニティケアの系譜および概念の整理・検討を、イギリスなどにおける国際動向および日本における実態と課題に照らして検討する。②社会福祉の構造的把握からコミュニティケアを考察する。特に、障害者福祉における地域福祉実践の構造的理解を基礎にして、コミュニティケアを福祉援助の技術論的アプローチとともに、地域社会での生活を支える福祉、構成員すべての人間的発達を保障する視点から考察する。③ノーマライゼーションの視点からコミュニティレベルのケアの体系化（計画化）を提起する。福祉・医療・教育の各領域及びその協同、さらにはすべての構成員の社会参加と自己実現を基礎にして、総合的かつ横断的な施策と計画の必要性をノーマライゼーションの視点から提起する。

到達目標 / Attainment Objectives

1. コミュニティケアに関する基礎知識の習得と系統的理解
2. コミュニティにおける福祉課題に対する問題意識の形成
3. コミュニティケアの関連領域を踏まえての総合的理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

地域福祉論、児童福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、国際福祉社会論（それぞれ、少なくとも同時履修が望ましい）。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに —講義を始めるにあたって—	1. コミュニティケアとは （1）概念の検討と整理
第2回	2. コミュニティケアとは （2）イギリスの政策動向と系譜①	シーボーム報告、グリフィス報告、コミュニティケア法、ケアマネジメント
第3回	3. コミュニティケアとは （3）イギリスの政策動向と系譜②	新自由主義政策、福祉ミックス論、シュアスタート
第4回	4. コミュニティケアとは （4）国際社会における展開	ノーマライゼーション、社会的排除、インクルージョン、CBR
第5回	5. 日本におけるコミュニティケア （1）政策展開と実際①	高度経済成長期、コミュニティ政策、住民主体の原則、地域社会の構造変動
第6回	6. 日本におけるコミュニティケア （2）政策展開と実際②	ゴールドプラン、地方分権、福祉のまちづくり、社会福祉基礎構造改革
第7回	7. 日本におけるコミュニティケア （3）政策展開と実際③	介護保険制度、ケアマネジメント、支援費制度、障害者自立支援法
第8回	8. コミュニティにおける福祉課題 （1）構造的把握の意味	三元構造論、生活の社会化論
第9回	9. コミュニティにおける福祉課題 （2）福祉問題の検討①	障害児家族と心中事件、利用抑制
第10回	10. コミュニティにおける福祉課題 （3）福祉問題の検討②	児童虐待、子どもの貧困、子育て支援
第11回	11. コミュニティにおける福祉課題 （4）福祉問題の検討③	高齢者の孤独死と自殺、老老介護、遠距離介護、介護難民
第12回	12. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（1）「高齢者保健福祉計画」「介護保険事業計画」	社会福祉法、地域福祉計画、社会福祉協議会、ケアプラン
第13回	13. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（2）「次世代育成支援行動計画」	少子化対策、子どもの権利、就学前保育、学童保育
第14回	14. 地域福祉計画の実際と課題（自治体の事例的検討）（3）「障害者計画」「障害福祉計画」	ノーマライゼーション、バリアフリー、コンフリクト
第15回	15. コミュニティケアの展望と課題 —あらためてコミュニティケアを考える、まとめにかえて—	住民参加、共同と連帯、発達保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・資料に触れ、自学自習にも努めて欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義内容に関する基礎知識の習得と論理的思考
平常点評価	40 %	講義内容に対する問題意識の形成と積極的受講

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生が居住する地域社会の福祉課題に対して日常的な関心を持って講義に望んでもらいたい。
講義への出席を通じて自分の頭で考え問題意識を高め、基礎的な事項への理解を深めてほしい。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『障害のある子ども・家族とコミュニティケア』	黒田学、渡邉武編／クリエイツかもがわ／／
『イギリスのコミュニティケアと介護者―介護者支援の国際的展開』	三富紀敬／ミネルヴァ書房／／

その他、講義中に適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

各自治体（福祉関係の情報・資料）および厚生労働省のホームページ（http://www.mhlw.go.jp/）。その他、講義中に適宜指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Eメールによる。

その他 / Others

ソーシャルワーク論（S） § 社会福祉援助技術論II（S） § 社会福祉援助技術論II（SG） § ソーシャルワーク論（SG）

12722

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の目的は、社会福祉実践（ソーシャルワーク）に必要な専門性の礎を築くことである。講義内容は、ソーシャルワークの基本的な考え方や視点、実践に必要な理論や専門技術などについてである。ソーシャルワークは、個人から地域、政策までさまざまなレベルで展開されているが、本講義ではソーシャルワークの全体像を視野に入れつつ、個人、家族、グループへの支援に焦点をあてて学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

・ソーシャルワークの専門性と役割について説明できる。
・ソーシャルワーク実践のプロセスと方法について述べることができる。
・ソーシャルワーカーが常に遵守しなければならないことを述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目を可能なかぎり履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ソーシャルワークとは	定義、目的、目標、方法
第2回	ソーシャルワークの分野・領域	事例、専門性
第3回	相談援助とは （テキスト第1章）	構成要素、専門職、実践領域、対象とする社会問題、介入の単位
第4回	相談援助の構造と機能（テキスト第2、3章）	視点、基本的な考え方、役割・機能
第5回	援助関係（テキスト第4章）	原則、機能・役割、自己覚知
第6回	援助の展開課程I（テキスト第5章）	インテーク、アセスメント、計画
第7回	援助の展開課程II（テキスト第6章）	計画の実施、モニタリング、評価、開発
第8回	アウトリーチ、契約（テキスト第7，8章）	アウトリーチ、契約
第9回	アセスメント （テキスト第9章）	援助関係、面接、情報
第10回	介入（テキスト第10章）	方法、理論、レパートリー
第11回	モニタリング、評価（テキスト第11章）	モニタリング、再アセスメント、効果測定、サービス開発
第12回	面接（テキスト第12章）	面接の形態、コミュニケーション・スキル
第13回	記録（テキスト第13章）	記録の目的、種類、方法
第14回	交渉、スーパービジョン（テキスト第14章）	交渉、エンパワメント、スーパービジョンの種類と方法
第15回	確認テスト（60分）と解説（30分）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業内容について理解し、自分の言葉で説明できるか、また、それらの知識を応用することができるか、小レポートおよびテストによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中には講義だけでなく演習を行うこともあるので主体的な参加が重要である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『新・社会福祉士養成講座7　相談援助の理論と方法I』	社会福祉士養成講座編集委員会編／中央法規／978-4-8058-3107-6／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本社会福祉士会　http://www.jacsw.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール：m-okada@ss.ritsumei.ac.jp
個人研究室：修学館307&356号室(直通電話466-3371)

その他 / Others

メディア社会論 (S)

15377

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「情報化」とはそもそも何なのでしょうか？　この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？	社会理論、相互行為
2	メディアと社会理論(1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ	社会理論、経済理論
3	メディアと社会理論(2)：産業化にはメディアが必要だった---社会の中のメディアの働き	取引コスト、情報管理
4	メディアと経済(1)：通信メディアが私たちを豊かにする	株式市場、システム構築
5	メディアと経済(2)：通信メディアが私たちの仕事を変える	システム構築、インターネット
6	メディアと政治(1)：そもそも政治の働きって？	意思決定、民主制
7	メディアと政治(2)：マスメディアの功罪	マスメディアの失敗、親密性の専制
8	メディアと政治(3)：インターネットは政治をどう変えるか？	報道メディアと論評メディア
9	メディアと政治経済：中間総括および質疑応答	社会学、経済学
10	メディアと人間関係(1)	CMC、SNS(Mixi,Facebook)
11	メディアと人間関係(2)	社会的ネットワーク、信頼
12	インターネット再入門	WWW、ハッカー倫理
13	旧メディアと新メディア(1)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	マスメディア、インターネット
14	旧メディアと新メディア(2)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	報道、一次ソース、専門性
15	メディアについて学ぶために何が必要か、および質疑応答	メディアの社会理論、メディアの経済理論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での補足学習（追加参照文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログを利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	主に論述に明確に答えているかどうか（授業内容の理解度）を評価します。
レポート試験	20 %	一度だけレポートを課します。テーマは講義中に指示します。
平常点評価	0 %	日常点評価は基本的に行いませんが、全体の授業運営の妨害になるような行動、私語等は、他の学生の学習を妨げますから、減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ふだんから社会問題、経済問題に関心を持つようにしましょう。新聞でもよいし、Wikipediaでもよいし、時事問題を解説したブログでもいいです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと社会	秋吉美都、小山友介他／ミネルヴァ書房／／未だ出版予定です。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用のブログを開設する。URLは授業で知らせる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで行う。

mail: tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

医学一般（S） § 医学一般（SG）

15356

担当者名 / Instructor　中川 克

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士の国家試験では、毎年150問中10問が医学一般から出題されている。本講義は社会福祉士を目指すものの必修講義として、医学・医療の基礎知識を習得し、国家試験に合格することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

① 社会福祉士の試験に合格する。
② 福祉に従事するものとしての医学的基礎知識を習得する。
③ 個人の健康管理に資する知識を習得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	インフルエンザ・麻疹など感染症の基本と対策
2	身体の構造と機能①	
3	身体の構造と機能②	
4	身体の構造と機能③	
5	身体の構造と機能④	
6	発生・成長と老化	
7	疾病①：感染症（1）感染症法の改正	
8	疾病②：感染症（2）結核	
9	疾病③：生活習慣病・メタボリックシンドローム・糖尿病	
10	疾病④：生活習慣病・がん	
11	疾病⑤：生活習慣病・高血圧・脂質異常症	
12	疾病⑥：神経疾患・脳卒中	
13	疾病⑦：高齢者の病態・認知症	
14	リハビリテーション	
15	公衆衛生	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	記述問題・択一問題
レポート試験	20 %	11月頃に一回のリポートを求める。 課題は授業にて提示する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

15回の講義のみで上記テーマを詳細に講義することは不可能である。
したがって、各自で予習・復習に努めることが必須である。【復習を中心に勉学に励むこと。】
授業で用いるパワーポイントの図表をWebCTに掲載しておくので、各自でプリントアウトして授業に持参すること。

※国家試験合格を目指すものは、社会福祉士国家試験の問題集に取り組むこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
人体の構造と機能及び疾病	社会福祉士養成講座編集委員会編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3101-4／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック	社会福祉士精神保健福祉士受験ワークブック編集員会／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3030-7／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省ホームページ　http://www.mhlw.go.jp/

国立感染症研究所ホームページ　http://idsc.nih.go.jp/index-j.html
厚生の指標　http://www.hws-kyokai.or.jp/16tokeipage-index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mailで連絡：　nkt07645@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

応用精神保健学（S） § 精神保健学II（S）

20257

担当者名 / Instructor　石橋 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健学で学んだ内容をふまえて、精神保健活動の場としての地域、学校、職場の特性をふまえてそれぞれの場面における精神保健活動のあり方を学習する。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健活動に関する諸理論をふまえて、具体的な精神保健活動のあり方を分析・討論・報告することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健学の履修を終えていることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1,2	人間にとっての精神とは	
3,4	精神保健とは	
5,6	精神を病むということ	
7,8	偏見のなかでつくられた病像	
9,10	精神障害者の充実した生活とは	
11,12	当事者と家族の社会参加	
13,14	障害と共に生きるということ	
15	まとめ 確認テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

精神保健福祉士養成セミナー編集会編「精神保健福祉士養成セミナー第2巻精神保健学」（東京；へるす出版）
石橋典子『呆けを「仕舞」として』中央法規

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

介護概論（S） §　介護概論（SG）

15406

担当者名 / Instructor　沖野 良枝　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本概論では、福祉専門職として必要な介護に関する諸概念および専門知識と援助の方法について学習する。具体的には、今日の介護問題の背景と現状、介護保険制度を主とする社会施策の学習を通して、主として高齢者と家族を中心にその立場や状況を明らかにし、専門職の果たす役割・責任を理解する。さらに、要介護者のニーズに沿ったサービスに必要な視点として健康、生活、自律の概念を学習し、対象の理解、生活援助の意味と認識を深める。問題解決技法としての介護過程、寝たきり、認知症、終末期の対象者・家族に対する根拠に基づいた援助の基本、対象者・家族の生命、身体、精神、生活上の安全と人権尊重の重要性を理解し、専門職者としての責務について自覚を深める。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 介護の概念や基本原則、介護の場や介護に関わる専門職の種類と連携など介護の概要を理解する。
2. 今日の介護問題の背景と現状を理解することにより、介護対象者および家族の立場や状況に対する理解と認識ができる。
3. 人にとっての健康、生活、自律の意味、在り方を学ぶことにより、介護対象者・家族の生活援助の意義を認識できる。
4. 介護問題解決の方法論、援助技術の原理を根拠に基づき理解できる。
5. 寝たきり、認知症、終末期など特定領域別の対象者・家族の状況理解、援助の特徴と基本的な関わりの方法がわかる。
6. 対象者・家族の人権尊重の重要性および安全確保のための倫理的、法的根拠が理解できる。
7. 専門職としての理念、態度、在り方について理解でき、その責務を自覚する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、専門知識や関連情報、援助技術の学習に留まることなく、人に関する幅広い視点、多様で相対的思考でマクロに学習する立場で受講される事を希望します。また、社会福祉概論、社会福祉援助技術、ソーシャルワークなど主要な専門基礎科目を履修している2年次以降の受講が望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	1. 介護の理解　1）介護の概念とその発展	介護の概念、介護の原則、介護の歴史
第2回目	2）介護の現状と問題、その背景	少子高齢社会、疾病構造の変化、介護問題、介護問題の背景
第3回目	2. 介護対象者の理解　1）人・対象者にとっての生活	人の生活、家族、地域、クオリティ・オブ・ライフ
第4回目	2）人・対象者にとっての健康	健康の概念、健康観の変遷、健康の意味
第5回目	3）人・対象者にとっての自律/自立	自律、自立、自立尊重
第6回目	3. 介護のしくみ　1）介護に関する政策、制度　2）介護の場（在宅、施設）	保健・医療・福祉政策、介護の場、施設、在宅
第7回目	3）介護を担う人と役割　4）保健・医療・福祉の連携	介護者、介護者の役割、保健・医療・福祉、専門職、連携
第8回目	5）介護保険制度の概要	介護保険法、要介護認定、要介護度、要支援、在宅サービス、施設サービス、介護予防
第9回目	4. 介護のスキル　1）介護（問題解決）過程　2）ケアマネジメントの方法	介護過程、問題解決技法、ケアマネジメント、ケアプラン、個別援助計画
第10回目	2）日常生活（ADL、IADL）援助	ADL、IADL、援助の原則
第11回目	3）介護技術の原則　①状態観察　②コミュニケーション	援助技術、観察、コミュニケーション
第12回目	4）主な領域と介護　①寝たきり高齢者と介護	寝たきり高齢者、寝たきりの要因、寝たきり予防、介護の方法、日常生活自立度
第13回目	②認知症高齢者と介護	アルツハイマー病、脳血管性認知症、記憶障害、中核症状、周辺症状
第14回目	③終末期と尊厳死の理解	人の死、尊厳死、安楽死、高齢者、終末期、延命治療
第15回目	5. 介護における倫理　1）対象者・家族の人権擁護　2）介護専門職の責務	倫理、人権擁護、守秘義務、プライバシー保護、インフォームド・コンセント、意思決定、専門職の責務、倫理綱領

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

教科書、講義のレジュメ、資料および紹介した著書、文献などによる予習・復習などの自己学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	筆記試験により介護問題の背景、関連する専門知識、対象の理解、援助の方法論などの基本的理解、知識の修得状況を評価・判定します。
レポート試験	0 %	定期試験の得点によっては、レポート評価を加味する場合もあります。
平常点評価	0 %	定期試験の得点によっては、出席状況を加味する場合もあります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

提示した授業計画に沿って授業は進める予定です。教科書による事前学習およびレ授業後のジュメを中心にした復習が、授業理解を円滑に深める前提と考えます。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座13　高齢者福祉論	社会福祉士養成講座編集委員会＝編集／中央法規出版株式会社／978-4-8058-3113-7　／授業は、独自のレジュメに沿って出来るだけ広範な内容で進める予定ですが、時間の関係で、授業では触れられないこともあります。そのため、国家試験に備えて、標準的な知識として教科書で補足していただきたいです。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ケアその思想と実践1，2，3	上野千鶴子他／岩波書店／／授業で学習する内容については、最新の考え方や研究結果、社会状況、政策などの知識や情報を取り入れ、根拠に基づいた理解を得て頂く事に努めます。そのために、適宜、適切な文献を資料として活用しますが、その出典となった文献には出来るだけ全体に目を通して頂きたいです。
介護の質に挑む人々	加藤仁／中央法規／／上記に同じ
死は誰のものか	斉藤義彦／ミネルヴァ書房／／上記に同じ
アルツハイマー病にならない	井原康夫　／ 朝日新聞社／／上記に同じ
痴呆性高齢者ケア	小宮英実／中央公論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

基礎社会学（SA）

12217

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SB）

12218

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学 (SC)

12219

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) (テキスト第12章)	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章(2:社会調査、11:教育と社会、13:政治と社会、14:宗教と社会、16:コミュニケーションと社会、17:人口・環境と社会など)も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2:留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学[第2版]	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SD）

12220

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

基礎社会学（SE）

12221

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学部では「メディア」や「福祉」を始め様々な専門領域をまなぶことができるが、それらの領域を深いレベルで基礎づけている土台の一つに「社会学」がある。産業社会学部の学生は、社会学の基礎的な知識を身につけた上で専門科目やゼミを受講することが望まれる。社会学は簡単に言えば「社会の背景にある仕組み」を説明するための学問である。対象領域は多様であるが、「基礎社会学」では、基礎理論、文化、家族、エスニシティ、社会階層、組織などの主要領域について基礎的な社会学的見方を講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基礎概念、主要領域について学ぶことを通じて、社会学的な社会の説明の仕方を身につけること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第2回	社会学とは何か （テキスト第1章）	社会学理論、マルクス、ウェーバー、デュルケム
第3回	行為と集団 （テキスト第3章）	行為類型、集団、大衆
第4回	地域社会とエスニシティ(1) （テキスト第4章、第7章）	地域と都市、人種と民族
第5回	地域社会とエスニシティ(2) （テキスト第4章、第7章）	同上
第6回	文化と社会規範(1) （テキスト第5章、第10章）	規範・逸脱、準拠集団、文化研究
第7回	文化と社会規範(2) （テキスト第5章、第10章）	同上
第8回	社会階層と社会福祉(1) （テキスト第6章、第15章）	階層の再生産、貧困・格差、福祉国家
第9回	社会階層と社会福祉(2) （テキスト第6章、第15章）	同上
第10回	ジェンダーと家族(1) （テキスト第8章、第9章）	フェミニズム、女性の就労、結婚
第11回	ジェンダーと家族(2) （テキスト第8章、第9章）	同上
第12回	産業・組織・労働(1) （テキスト第12章）	大量生産、人間関係学派、日本的経営
第13回	産業・組織・労働(2) （テキスト第12章）	同上
第14回	社会学と現代社会(1)	
第15回	社会学と現代社会(2)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

予習として、テキストの該当箇所を各講義の前に読むことが望ましい。また、講義で使用しなかったテキストの章（2：社会調査、11：教育と社会、13：政治と社会、14：宗教と社会、16：コミュニケーションと社会、17：人口・環境と社会など）も各自読んでおき、専門科目に備えるとよい。また、留学に興味がある人は「付録2：留学して社会学を学ぶ」の部分を読んでみるとよい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	85 %	社会学についての基礎的な理解が達成されていることを確認する。教科書の該当章の他、各講義で取り扱った内容が試験範囲となる。
平常点評価	15 %	期間中に1回レポートを課し、評価の参考とする。また受講態度が非常に悪い場合は、平常点から減点することもある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

出席はとらないが、その分真摯な態度を持って講義に望んで欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代社会学［第2版］	松田健／ミネルヴァ書房／978-4-623-04976-9／社会学の主要分野を網羅した、バランスのよい定番テキストである。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
基礎社会学講義	飯田哲也／学文社／978-4762011634／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

経済学理論（S）

12770

担当者名 / Instructor　伊藤 正純

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在の福祉国家において、現実の経済は新古典派経済学が想定しているように市場でだけ決まっているわけではない。市場経済とならんで国家などがおこなう経済政策（財政・社会保障・金融などの諸政策）の影響も大きい。1980年代以降の日本の「小さな政府」（実は小さすぎる政府）路線は、経済成長を叫びながら実際には経済格差を増大させたにすぎない。今年度は福祉国家の経済学というテーマで講義してみる。対象国は日本だが、対比すべき参照国は北欧諸国（特にスウェーデン）とアメリカである。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標は、新聞の経済面・社会面に興味がもてるようになること、そして実際に読んでみて、少しはわかったという実感がもてるようになることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4／7	スウェーデン「生活の安全」というコンセプト	福祉国家の理念、スウェーデンモデル、生活保障
4／14	経済は市場だけでは成り立たない	市場と財政は相互補完関係、「小さな政府」、「大きな政府」
4／21	3つの福祉レジーム	自由主義レジーム、社会民主主義レジーム、保守主義レジーム エスピン・アンデルセン
4／28	国際競争力ランキング、国際競争力と「国民負担率」とは無関係	世界経済フォーラム、国際競争力ランキング、国民負担率、北欧諸国の強さ、教育と生涯学習
5／12	アメリカの社会保険と貧困	「小さな政府」論に基づく減税政策、企業福祉とその破綻、貧困大国の出現
5／19	「小さな政府」は本当に経済成長率を高くできるのか	日本の減税路線と財政赤字増大、小泉構造改革、「小さな政府は経済成長が高い」という言説、成長戦略と経済格差増大
5／26	「貯蓄から投資へ」は本当に正しいのか	アメリカ型金融資本主義、生活資金の投機化、生活金融のあり方
6／2	「日本的経営」の問題点と北欧型「福祉国家」	正規雇用と非正規雇用、年功型賃金、職能給、職務給、「福祉国家」と「生活の安全」
6／9	「貧困大国」の双璧、アメリカと日本	「トリクル・ダウン論」、所得再分配機能の放棄、相対的貧困率、ジニ係数
6／16	未婚率の異常な高さとワーキング・プア	非正規雇用の増大、「自己責任」論の呪縛、未婚率、出生率、サンボ
6／23	「フレキシキュリティ」	フレキシキュリティ、デンマーク、オランダ、EU雇用戦略
6／30	労働組合はもう化石なのか	労働組合、組織率、経済的役割、社会的役割
7／7	どんな社会を望むのか	北大のアンケート調査、日本型（日本的経営）より北欧型が多い、しかし行政不信も強烈
7／14	福祉政策と都市政策の結合	スウェーデンなどにみる「公有地」と社会住宅、日本の持ち家政策の破綻と劣悪な「公営住宅」、都市計画
7／21	福祉政策と環境政策の結合	環境政策は経済成長政策、生活の見直し

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述式論文試験。持ち込み不可。
平常点評価	30 %	受講生が少ない場合は授業中の感想文で、受講生が多い場合は学習到達度確認小テスト。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生活保障	宮本太郎／岩波書店／978-4-00-431216-1／岩波新書

コミュニティを問いなおす	広井良典／筑摩書房／978-4-480-06501-8／ちくま新書
ポスト工業経済の社会的基礎	エスピン・アンデルセン／桜井書店／4-921190-00-3／
貧困にあえぐ国ニッポンと貧困をなくした国スウェーデン	竹崎孜／あけび書房／978-4-87154-078-0／
スウェーデンにみる個性重視社会	二文字理明・伊藤正純／桜井書店／4-921190-16-X／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

計量社会学（SA） § 計量社会学（SA）

12883

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる
[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。
[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武　／ミネルヴァ書房 ／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

計量社会学（SB） § 計量社会学（SB）

12891

担当者名 / Instructor　樋口 耕一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では主に、統計的な調査にもとづいて社会を記述・説明しようとする試みを扱う。私たちは日々、社会・世の中・世間といったものの一部分に触れてはいるはずだが、全体としての社会の姿・特徴を想像することは実は非常に難しい。そこで計量社会学では、アンケートの結果を用いて統計解析を行ったり、官庁統計を利用したり、文書・資料の内容分析を行ったりすることで、より正確かつより鮮明に社会の姿や世間のしくみをとらえることを目指す。この授業では、そうした量的社会調査の方法とともに、その方法を用いることで社会についての発見を得た、既存の優れた計量社会学の研究に学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

統計的な分析を通じて社会の仕組み・動きを浮かび上がらせるおもしろさを実感してもらうことが主要な目標である。そのために社会調査法の基礎的な事項として、データ収集法、記述統計の計算法とその読み方、因果関係と相関関係の区別などを習得する。また、文書・資料を計量的に分析する方法を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	科目内容についての概説	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査
2	社会調査の目的と調査方法	社会学理論、社会学的想像力、社会統計学
3	量的調査の仮説構成	理論、概念、測定、仮説検証、探索的分析、計量的モノグラフ
4	質問文・調査票の作り方	既存の調査の活用、データ・アーカイブ
5	標本抽出と実査	サンプリング・エラーとその他のエラー、統計学的仮説検定、調査法
6	調査データによる記述的分析	度数分布表、クロス集計表
7	分析実習1	度数分布表、代表値
8	分析実習2	クロス集計表、カイ二乗検定、CramerのV
9	量的調査と質的調査	相補的な関係、参与観察、フィールドワーク、インタビュー
10	質的データ（文書・資料）の計量的分析	内容分析、テキストマイニング
11	新聞記事・雑誌のテキストデータの収集と分析	データベース利用法、テキスト整理法、コーディング
12	自由回答データの収集と分析	コーディング、他の変数との関連
13	分析実習3	コンピュータを用いた質的データの分析
14	分析実習4	多変量解析
15	まとめ	計量社会学、理論社会学、実験、量的調査、質的調査

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に出題された課題を行うほかにも、新聞記事やテレビニュースに「社会調査」「世論調査」の結果が登場した時には、手続きや記述に問題がないかどうか、改善の余地が無いかどうかを考えてみよう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	学期末に最終レポート提出を課す。
平常点評価	20 %	学期中に何度か平常レポート提出を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

[1] 分析手法を学ぶに当たって、社会調査データを実際に分析する実習を一部予定している。実習には、自分なりに「こんなことを調べてみよう」という課題を持って積極的に参加する態度が望まれる

[2] 調査法や分析手法の解説を聞く際にも常に、「その方法をどんなふうに使えば、社会・世の中のことを明らかにできるだろうか」という意識を持つことが望ましい。

[3] 授業中に「後で復習しよう」とは考えないこと。授業中に一通り理解するつもりで出席することが望ましい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会調査へのアプローチ	大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武 ／ミネルヴァ書房／4623041042／

日本人の姿　　岩井紀子・佐藤博樹編　／有斐閣 ／4641280681 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会調査データ・アーカイブ「SRDQ」
http://srdq.hus.osaka-u.ac.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ko-ichi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代史 (S)

15395

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:20世紀の世界と日本

現代は,多面的な異文化交流が繰り広げられる一方、人種・民族・宗教問題、あるいは地域間経済格差の拡大などを背景とした戦争・内紛が絶えない。この講義では、①20世紀の世界と日本の歴史を振り返り、現代日本社会の歴史的位置を確認し、②世界的な観点から、今日の産業・労働の問題、教育・福祉などをめぐる問題と今後について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

今日の政治的・経済的・文化的な諸国際機関の役割と、日本の経済社会との重層的な構造的連関を理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に希望はない。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	グローバル化のなかで日本の「現代」を考える	現代はいつから始まるか、近代の再帰性(前近代社会との違い)、国民国家の誕生、国軍と司法、国民教育、産業振興
第2回	19世紀末期～20世記初頭の世界と日本	奴隷に支えられた資本主義世界体制の形成過程、19世紀末大不況期の世界再編、日本の明治憲法体制、日清・日露戦争、産業革命
第3回	第一次世界大戦(1)	第一次世界大戦の長期化と社会的動揺、ドイツ帝国、オーストリー帝国の崩壊、ロシア革命、終戦
第4回	第1次世界大戦(2)－1910年代の中国と日本－	辛亥革命と中華民国の成立、日本の大戦景気と米騒動、アジアをめぐる米国と日本
第5回	戦後の新しい世界秩序	パリ講和会議と国際連盟の成立、敗戦国は、講和条約をどのような状況で受けたか、 かつての世界の覇者・大英帝国の動揺、ソ連の成立
第6回	1920年代の国際関係	オスマン帝国の崩壊と中東地域、太平洋地域におけるアメリカの発言力の強化、 緊張が続くフランスとドイツ、中華民国の内戦、1920年代の日本
第7回	1929年世界恐慌	ドイツの復興、イタリアのファシスト国家化、世界恐慌、満州事変と高橋財政下の景気回復、満州建国と抗日民族統一戦線結成
第8回	第二次世界大戦への道	ヒットラー政権誕生とドイツの再挑戦、ベルリン・ローマ枢軸、スペイン内乱
第9回	第二次世界大戦の構図	第二次世界大戦の推移、日本の戦時体制、アジアの植民地解放闘争、東西冷戦体制への移行、
第10回	冷戦体制下の戦後復興と成長	国連とIMF・ガット体制、1950年代の冷戦構造と第三世界、EEC、朝鮮戦争と日本の復興
第11回	福祉国家の展開とソ連型福祉	西ヨーロッパ諸国の福祉国家への移行、ソ連の社会保障制度、日本の教育、福祉および医療
第12回	成長の限界と「新自由主義」的潮流	1970年代初頭の世界構造、福祉国家の変容、日本の低成長への移行
第13回	新自由主義時代への移行	1973年以降の世界経済推移、冷戦の終結、途上国とOECD、中国の改革開放以後
第14回	「アジアの時代」と日本	「新自由主義」の流れ、ラテンアメリカの民主化の波、開かれた日本とは
第15回	2008年世界同時不況後の新しいチャレンジ	世界的無秩序の脅威、新しいチャレンジ ― 環境、貧困、教育

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

この授業は、20世紀を中心に約500年余にわたる近代社会の形成と展開過程を大掴みにする、1つの歴史論である。したがって、本来、受講生は、授業外で膨大な関連図書の読破を必要とする。少なくとも歴史の曲がり角となるような歴史的事件に関しては、指示する参考文献の中から自らの関心に沿って、2,3冊の関連図書は読み進めるように。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	
平常点評価	10 %	学生はWebコースツールにて本授業の「ディスカッション」にアクセスすること。それが定期試験を受ける前提(必須条件)である。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の聞きっぱなし、まったく予習・復習はしないという対応で済ましてきた流れは、今年度の定期試験では通用しないかもしれない。定期試験の出題形式を全面的に再検討し、穴埋め、正誤を指摘する問題など、多様な出題形式を併用する予定である。

講義内容についての質問は大いに歓迎する。

教科書 / Textbooks

教科書は用いない。レジメで講義を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
概説　現代世界の歴史	ウイリアアム・ウッドラフ／ミネルヴァ書房／4-623-03524-7／
長い20世紀	G・アリギ／作品社／／
現代史の視座	竹内　啓／東洋経済新報社／978-4-492-06143-5／
新自由主義	D・ハーヴェイ／作品社／978-4-86182-106-6／
21世紀の歴史	ジャック・アタリ／作品社／978-4-86182-195-0／

そのほか、授業の中で適宜、紹介。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業の中で適宜、紹介。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを、事前連絡、レジメの開示、質疑応答などに活用するように努めたい。

その他 / Others

公的扶助論（S） §　公的扶助論（SG）

15324

担当者名 / Instructor　井手 巧

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

公的扶助、つまりわが国においては生活保護に代表される制度が、なぜ必要でどのような役割や意義を持っているのか、その歴史的変遷、内容やしくみ及び現状と課題などから学ぶ。また、格差や貧困など、今私たちの周りで問題となっている様々な事象をどのように捉え理解すればよいのかを学ぶ。さらに、生活保護における自立支援とともに低所得者に対する支援の実際及びそのあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

①現代社会における公的扶助の理念と意義について理解する。
②生活保護の内容やしくみ及びその動向について理解する。
③福祉事務所や福祉専門職の役割及びあり方等について理解する。
④生活保護の現状や相談援助活動の実際について理解する。
⑤生活保護以外の低所得者対策について理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「公的扶助とは何か」思い当ることを出し合う	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護
第2回	現代社会における貧困・低所得者問題	貧困、低所得、ワーキングプア
第3回	世界における公的扶助の歴史的変遷	エリザベス救貧法、改正救貧法、B.ウェッブ、ベヴァリッジ報告、国民扶助法
第4回	日本における公的扶助の歴史的変遷	恤救規則、救護法、旧生活保護法、新生活保護法
第5回	公的扶助の概念と役割・意義	社会保障、公的扶助、社会保険、ナショナル・ミニマム
第6回	生活保護制度の内容・しくみ　①理念・原理・原則	憲法25条、無差別平等、保護の補足性、申請保護、基準及び程度
第7回	生活保護制度の内容・しくみ　②保護の種類	生活扶助と加算、医療扶助、住宅扶助、教育扶助
第8回	保護施設、被保護者の権利・義務等	救護施設、更生施設、能力の活用、審査請求、行政事件訴訟
第9回	生活保護の基準と最低生活	最低生活水準、生活保護基準、生活扶助基準額と加算
第10回	生活保護事務と実施体制	社会福祉法、福祉事務所、社会福祉主事、福祉関係8法改正
第11回	福祉専門職の役割と連携	社会福祉主事、社会福祉士、民生委員、補助・協力機関
第12回	生活保護の動向及び財源・予算	保護の開始・廃止、被保護人員・世帯数、医療扶助
第13回	低所得者対策の概要	生活福祉資金貸付制度、社会手当、ホームレス自立支援
第14回	相談援助活動の実際と自立支援プログラム	被保護者と要保護者、ミーンズテスト、自立支援プログラム、現業員と査察指導員
第15回	「公的扶助とは何か」振返ってまとめる	社会保障、社会保険、社会扶助、公的扶助、生活保護

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業予定の項目について、参考文献等に十分目を通し、予め内容の把握に努めておく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標が達成できているか確認するための問題により評価する。
平常点評価	30 %	・授業への出席、態度等を含む授業参加度により評価する。 ・必要によっては、授業内容の理解度を確認するため、事前に連絡した上で、小レポートの提出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

生活保護等に関連する新聞記事などには普段から注意して目を通すように心掛ける。

教科書 / Textbooks

テキストは指示せず、配布するプリント・資料により授業を進める。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
①「低所得者に対する支援と生活保護制度」	（編集）社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版株式会社／／
②「公的扶助論」（MINERVA社会福祉士養成テキストブック14）	岩田正美・杉村宏（編著）／ミネルヴァ書房／978-4-623-05400-8／最新版
③「保護のてびき」	（編集）生活保護制度研究会／第一法規株式会社／978-4-474-02440-3／最新版

テキストを指定しないため、社会福祉士等の国家試験を受験する学生は、上の①、②などにより、またそれ以外の学生は③などにより事前事後の学習を進めてほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省　http:/www.mhlw.go.jp
国立社会保障・人口問題研究所　http:/www.ipss.go.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業の際、連絡の方法を伝える。

その他 / Others

社会学史 (S)

12884

担当者名 / Instructor　佐藤 春吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会学の生誕、確立の歴史を、重要な社会学者に則して概説する。その際には、社会学の形成発展を促した西欧近代社会の展開との関連を重視する。したがって、重要な社会学者の理論内容とともに、その歴史的社会的背景や思想的背景についてもできるだけわかりやすく解説し、社会学が立ててきた社会への問いの性格や意味について理解し考えていくことを重視して講義する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学を基礎づけてきた古典的な社会学者の社会学説を理解し、社会的歴史的な背景のなかで問われた時代や社会の問題を考え、それをうけて各社会学者が設定した問題、重要概念や研究方法、社会学研究に立ち向かう考え方について学び、社会学的思考のための基礎的な素養を身につけることを目標にする。

具体的到達目標は、①代表的社会学者の主要な学説内容、主張、キー概念を理解すること、②それらの諸概念を普段の生活や学習に応用して考えていく社会学的思考力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「基礎社会学」を受講していることはぜひ勧めたい。その他、社会学に関わる諸講義を受講しておれば、関心も持て理解しやすくなるだろう。また、西欧近代史、近代の哲学思想（史）や経済学、政治学にかかわる講義も理解を助けるであろう。

社会学を学ぶ学生にとっては社会学史に関する知識は必須の知識ともいえる事柄なので、軽視しないで授業時のプリントや講義ノートや参考書をもとに自主的に学習して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	社会学成立の背景；16世紀以来の西欧近代の誕生と19世紀ヨーロッパ市民社会の危機と変容と社会思想ならびに社会科学の課題	ヨーロッパ近代市民社会
第2回	社会学の前史としての社会思想；近代市民社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；1ホッブス、ロック、ルソー	近代社会の形成、自然法と経験科学、社会契約
第3回	社会学の前史としての社会思想；近代社会の成立と啓蒙主義的市民社会論；2アダム・スミス	自然法の経験科学、啓蒙の成果
第4回	社会学の生誕とその意味；資本主義の矛盾と啓蒙主義思想の破綻（19世紀問題）とそれに立ち向かう社会科学としての社会学	啓蒙の破綻と変容、19世紀的転換期の危機
第5回	社会学の生誕1；コントとスペンサー	社会有機体説、歴史発展の法則、実証主義
第6回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（1）	資本主義の矛盾、階級、疎外、物象化
第7回	社会学の生誕2；資本主義の矛盾とマルクス（2）	史的唯物論、生産力、生産関係、土台と上部構造
第8回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ1；ジンメル	社会化の形式と形式社会学、心的相互作用
第9回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（1）	実証主義、社会学主義、集合意識、社会的拘束力、方法論的集合主義
第10回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ2；デュルケーム（2）	社会的事実、聖なるもの、俗なるもの、象徴主義
第11回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（1）	価値自由、理念型、方法論的個人主義、行為の諸類型、理解社会学、合理化
第12回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（2）	支配、権力、支配の諸類型、集団類型、官僚制
第13回	社会学の確立、社会学の古典期の成果；19世紀末から生じた20世紀的な社会的構造転換と社会学の対象、方法の自覚的な仕上げ3；M.ヴェーバー（3）	カリスマ、プロテスタンティズムと資本主義の精神、エートス、世俗内禁欲、使命予言、模範予言、ゼクテ、脱魔術化
第14回	第一次大戦以後の社会学；シカゴ学派とアメリカ社会学の展開	都市社会学、トマス、ミード
第15回	現代社会学お出立；パーソンズ社会学とその批判	AGIL図式、機能要件、構造機能主義、ラジカル社会学、現象学的社会学、ハーバーマスとコミュニケーション的合理性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、毎回の講義に出席するとともに、講義時に配布する「講義レジメ」とWebCT上に掲示する「講義ノート」をもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	試験を行います。試験は、社会学史上重要な社会学者の学説、その基礎概念の知識を問います。

評価は、試験中心です。講義を聴くだけでなく、配布されるレジメやWebCT上の「講義ノート」その他の参考書を使用して、普段に学習することが大切です。勉強していなければ、答えられない試験問題が出ます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時に配布する講義レジメ、WebCT上で掲示する講義ノートをもとに、自宅学習をすることが重要になります。講義ノートとレジメを活用するとともに、以下の社会学史の参考書と辞典も活用することを勧めます。
新睦人他『社会学の歩み』有斐閣新書
同『社会学の歩み　パート2』有斐閣新書
那須壽編『クロニクル社会学』有斐閣選書
浜島朗編『社会学小辞典』有斐閣
　また、普段から古典と言われる重要な社会学者の著作を読むこと。自分の研究テーマをもって学習し、社会学を応用的に生かすように普段から心がけることが大切です。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」を使用して行います。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。上のアドバイスの欄に挙げたその他の参考書も、活用して下さい。

参考書 / Reference Books

特に指定しません。授業は授業時に配布する「講義レジメ」がもっとも重要です。別途WebCTに掲載する「講義ノート」も活用して下さい。講義ノートには参考文献があげてありますので、適宜参考してください。本シラバスのア「ドバイス」の欄にあげた参考書はぜひ活用して下さい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特に指定しません。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-Mail;hst01932@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

特になし

社会学理論（S）

15410

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会」の成り立ちを理解するのに役立つ代表的な社会学理論を紹介する。取り上げるのはデュルケーム、ヴェーバー、シカゴ学派、パーソンズの構造-機能主義、マートンの中範囲の理論である。これらの古典理論と現代の社会理論との関連も合わせて説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会学の基本的な考え方や概念を理解し、説明できる。
社会学的視点で社会現象を説明することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学史、社会調査関係の授業

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方・社会学の主題	共同態・権威・ヒエラルキー・聖なるもの・疎外
第2回	デュルケームの社会理論（その1）:『社会分業論』	集合意識・社会連帯・分業・法の形式
第3回	デュルケームの社会理論（その2）:『自殺論』	アノミー・自己本位主義・集団本位主義・社会的潮流
第4回	デュルケームの社会理論（その3）:『宗教生活の原初形態』	トーテミズム・儀礼・集合的沸騰・シンボル
第5回	デユュルケームの方法論	実証主義からシンボルの社会学へ
第6回	ヴェーバーの社会理論（その1)『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』	世俗内禁欲・エートス・親和性
第7回	ヴェーバーの社会理論（その2)『儒教と道教』	氏族・家産官僚制・読書人・儒教の教義
第8回	ヴェーバーの方法論	理念型・比較社会・因果帰属
第9回	デュルケームとヴェーバーの方法論の比較	差異法・一致法・共変法　行為論・シンボル論
第10回	シカゴ学派の社会学（その1）パークとバージェス	人間生態学・都市病理・社会改良
第11回	シカゴ学派の社会学（その2）プラグマティズムとの関連	ミード、トマスの社会心理学
第12回	パーソンズとシステム論	構造―機能分析、AGILの相互交換、一般化されたメディア
第13回	マートンの中範囲の理論	機能分析・準拠集団の理論、因果メカニズム
第14回	相互作用論から社会的世界論へ	ナラティブ・システム・メカニズム、
第15回	理論的視点の総括と討議	社会学理論の活用法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で紹介する文献はできるだけ図書館等を利用して、各自で学習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	社会学理論の基本的な概念や視点がどれだけ理解できているのかによって評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業ではテキストのほかにレジメを配布するのでそれらを熟読してほしい。またコミュニケーション・ペーパーを配布するので積極的に質問していただきたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会学のあゆみ	新睦人・宝月誠ほか／有斐閣／4-641-08857-8／

参考書 / Reference Books

参考書は授業のなかでそのつど紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

e-mailを利用

その他 / Others

社会経済学（S） § 社会経済学（W）

12742

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま日本では所得格差が広がっているといわれています。貧困という言葉が日常語となってきています。なぜこうなってしまったのでしょうか。その原因は多くあるでしょう。雇用の多様化の中で進む賃金格差や、また教育格差がその直接的な原因のひとつだといっていいかも知れません。しかし、では、なぜ雇用が多様化するのでしょうか。そこには、グローバル化という大きな世界の動きがあります。また知識基盤型経済へと経済の仕組みが変わってきていることがあります。しかし、やはり根本的には、現在経済の舵をとっている経済の考え方が新自由主義的なそれであることに大きな原因があります。経済は、人が動かしている以上どのような考え方でいま経済の舵が取られているのかを考えることはきわめて重要です。本講義では、まずこうした変化の特徴がなんであるのかを、経済の基本的な概念（言葉）、あるいは経済の基本的な仕組みから説明しつつ、歴史的に明らかにしていきます。その上で、どのような考え方で経済社会がこれまで動いてきたのか、また今動いているのかを考えてみたいと思います。 そのうえで、ありうべき経済のシステムを考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1）経済学の基本的な用語、経済システムに関する知識の獲得（GDP、金融のメカニズムなど）
2）戦後日本の経済社会の歴史の概括・比較による現在の経済社会の特徴の確認
3）現代経済社会に関する諸理論の確認

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と社会

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	経済知識の確認、など
2	経済空間の構造－資本と市場	資本の3形態、市場とは何か、商品市場、金融市場、労働市場
3	資本（企業）と産業－株式会社とはなにか？	株式会社、産業分類
4	貨幣と金融－お金の話	貨幣の種類、銀行の役割、金融政策
5	国民経済計算の基礎－成長と所得	国民所得、3面等価、成長率
6	ケインズの経済学（1）－市場と政府	自由放任主義、エリート主義、国家介入主義
7	ケインズの経済学（2）－完全雇用	完全雇用、有効需要政策、財政・金融政策
8	戦後日本の蓄積構造と危機－経済と社会の変化	フォード主義的大量生産、消費社会、都市化、核家族
9	新自由主義の経済学（1）－市場原理主義と小さな政府	フォーディズムの危機、レーガニズム、規制緩和、民営化
10	新自由主義の経済学（2）－自由と平等	機会の平等、成績主義、個人責任
11	所得格差の拡大－排除と貧困	ジニ係数、社会的排除、絶対的・相対的貧困
12	雇用の現状－雇用の多様化	正規・非正規労働、女性の労働力化、雇用格差
13	「第三の道」の経済学－包含の経済学	ギデンス、ステークホルダー資本主義、社会的包含
14	福祉と経済	効率と公正、ワークフェアー、トランポリンネット
15	人間中心の経済とは	スウェーデン、潜在能力、選択可能な社会システム

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

参考文献は、講義の中で指摘する。テキストは使わない。レジュメに基づく講義。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する

講義は通して受講することが望ましい。したがって、適時出席をとる。定期試験80点プラス出席点20点＝100点で評価をする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もうひとつの日本は可能だ	内橋克人／光文社／／
人間回復の経済学	神野直彦／岩波新書 ／／
第三の道	ギデンズ・佐和隆光訳／日本経済新聞社／／
ケインズ	伊藤光晴／岩波新書／／
市民のための社会経済学	篠田他編著／伊藤光晴／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

shinoda@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会史 (S)

15431

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:幕末・明治期の京都と社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主として京都を事例としつつ、適宜東京・大阪やその他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	幕末維新期の京都社会(1)　19世紀前半(化政・天保期)	町と町組と惣町、飢饉・災害と救済事業
2	幕末維新期の京都社会(2)　1850年代	開国、京都の政治都市化、災害と復興・救済事業
3	幕末維新期の京都社会(2)　160年代	京都の政治都市化、戦火のなかの京都
4	明治初年の京都社会(1)　1870年代	天皇東幸(車駕東幸)、遷都(奠都)
5	明治初年の京都社会(2)1870年代	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
6	明治初年の京都社会(3)1870年代	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
7	明治中期の京都社会(1)1880年代～90年代	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
8	明治中期の京都社会(2)1880年代～90年代	市制の施行と市制特例、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
9	明治中期の京都社会(3)1880年代～90年代	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
10	明治後期・大正初期の京都社会(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
11	明治後期・大正初期の京都社会(2)	日露戦争と地域社会
12	明治後期・大正初期の京都社会(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
13	明治期京都の社会問題	工業化、貧困、差別、衛生
14	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性の文化
15	大正期の日本の都市社会と京都―まとめにかえて―	工業化の進展、都市計画法、関東大震災

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、十分な準備しておくことが望ましい。
レポート試験	20 %	京都市内の施設(博物館など)をいくつか指定するので、そのうち一つ以上を見学してレポートを提出してもらう。
平常点評価	10 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。

上記の割合は、おおよその目安です。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『みやこの近代』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1378-8 ／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―』	伊藤之雄編著 ／ミネルヴァ書房 ／4-623-04517-X ／2006年4月刊、鈴木の論文も収録
『近代京都研究』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1413-6／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『京都市政史1　市政の形成（叙述編）』	京都市市政史編さん委員会編 ／京都市 ／／2009年3月刊　鈴木も執筆
『京都市政史4　市政の形成（資料編）』	京都市市政史編さん委員会編／京都市 ／／2003年3月刊　鈴木も執筆

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.me.com/hikonyan070424/shakaishi/
本講義関係のサイト（パスワード等は授業時に指示）
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都府立創業資料館　京都北山アーカイブズ

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業時に専用のメールアドレスを指示します。

社会調査情報処理（SA） § 情報処理（SX） § 社会調査情報処理（SA）

15404

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント(産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること)と、欠席した回の参考書の該当ページ(上記「授業スケジュール」参照)を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容(および「キーワード」に挙げた概念・用語)を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来(成果点50%)と、授業への出席の頻度(努力点50%)とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法(の一つ)である。よって、どんなことでもよいので——「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので——、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」(パートナーの有無)についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前(あなたが生まれた頃or若かった頃)との時代比較や、他国(あなたが行ってみたい国)との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語(受講生同士の会話)は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと(出席点の減点対象とする)。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「(単)回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順(第3版)、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順(第2版)、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞

「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］： http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］：
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］： https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→ （JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］：
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→ https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス： haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査情報処理（SB） § 情報処理（SY） § 社会調査情報処理（SB）

15413

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「ロジスティック回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

社会調査論（S） § 社会調査論（S）

12782

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会調査は、複雑で常に変化している社会や経済の諸現象をとらえるための重要な手段です。社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法の修得が不可欠です。この講義では、社会調査全般に対する理解を深めることを目標にして、社会調査の種類と特徴を整理し、社会調査の準備・計画と実査についての注意点を検討します。また、もっとも一般的な社会調査の方法となっている調査票調査を中心に、標本抽出法、測定方法、調査票の作成法などを修得していきます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会調査を行って実証研究をすすめるためには、基礎的な知識や技法および調査倫理が必要です。これらを理解することを目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会統計学、計量社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会学と社会調査： 社会調査とは・社会調査の歴史	社会調査
2	社会調査の種類と特徴(1)： 量的調査、質的調査	調査票法、観察法、自由面接法
3	社会調査の種類と特徴(2)： 量的調査、質的調査	調査票法
4	社会調査の手順： 社会調査の一般的手順・調査の倫理	調査倫理、仮説
5	社会調査と理論(1)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
6	社会調査と理論(2)： 記述と説明・仮説構築・先行研究と理論・命題と概念	記述、説明、理論、命題、概念、調査研究例
7	標本調査の考え方：サンプリングの方法(1) サンプリングの歴史とサンプリングの理論	サンプリング
8	標本調査の考え方：サンプリングの方法(2)　無作為抽出法・多段抽出法・層化抽出法	無作為抽出法、多段抽出法、層化抽出法
9	標本調査と標本誤差： 標本誤差と非標本誤差・推定の精度	標本誤差、非標本誤差、推定
10	調査票の作成： 項目の選択・用語と文章・回答の形式・調査項目の配列	調査票、ワーディング
11	コーディング： データの整理とチェック・エディティング・コーディング	エディティング、コーディング
12	調査票の集計： データの記述： データの基礎的集計・変数の種類・データの記述	基礎統計量
13	データの分析(1) データの分析とは・2変数の関連の分析(クロス表分析)・エラボレーション	クロス表、エラボレーション
14	データの分析(2) 結果の公表　2変量の関連の分析・相関係数・疑似相関・調査研究論文と調査報告書の作成	相関係数、疑似相関、調査研究例、調査倫理
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、雑誌などに掲載されている「アンケート」や「世論調査」を批判的に読む癖を付けてください。ここで「批判的に読む」とは、故意あるいは無知ゆえに誤った方法で行われる社会調査があとを絶ちませんが、こうした誤りに注意して、つまり「数字に騙されないように」読むということです。授業で解説する社会調査に関する知識が、そうした「批判的な読み」に役立つはずです。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	試験は「持ち込み不可」です。 簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本授業で扱うのは社会調査の基礎となる知識です。可能なら1年次に学習することを勧めます。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

授業中配布のプリントに記載します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会統計学（S） § 社会統計学（S）

15343

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目では、社会調査データを集計・分析する上で必要となる統計的分析方法の基礎を学ぶ。調査データを集計し要約的に記述する方法、母集団の特性値を推定する方法、母集団についての仮説を検定する方法について、理論的基礎を講義するとともに練習問題を通じて実際にデータ分析を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

統計学の基本的な概念と方法について、説明することができる。
記述統計と推測統計の基本的方法を用いて、調査データの要約、推定、統計的仮説検定を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、高校レベルの基礎的数学の知識を前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	統計データとは、統計的方法とは	統計データ、統計的方法、統計変量、記述統計、推測統計
第2回目	比率と指数	変化率、寄与度・寄与率、指数
第3回目	分布とその特性	度数分布表、ヒストグラム、代表値、散布度
第4回目	相関	相関関係、相関係数
第5回目	回帰	回帰分析、独立変数、従属変数、最小2乗法
第6回目	確率の基礎	順列、組み合わせ、確率、条件付確率、ベイズの定理
第7回目	確率変数と分布	確率変数、確率分布、期待値、分散、2項分布、正規分布
第8回目	母集団と標本、標本調査法	母集団、標本、サンプリング、ランダムサンプリング
第9回目	統計量の標本分布（1）	統計量、母数、標本分布、標本平均の分布
第10回目	統計量の標本分布（2）	大数の法則、中心極限定理
第11回目	統計的推定（1）	点推定、区間推定、良い推定量の基準、信頼区間、母平均の推定、t分布
第12回目	統計的推定（2）	母比率の推定、母平均の差の推定
第13回目	統計的検定（1）	仮説検定、有意水準、第Ⅰ種・第Ⅱ種の過誤、母平均・母比率の検定
第14回目	統計的検定（2）	平均値の差の検定
第15回目	クロス集計表とその検定	クロス集計表、カイ2乗分布、適合度検定、独立性の検定

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回の授業内容を必ず復習すること。課題を解きながら考えると理解が深まる。
またExcelの関数が使える者は、パソコンでも課題を解いて確認してみるとさらによい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	統計学の基本的概念の理解度、基本的方法を使ったデータの分析力をみる。
平常点評価	30 %	授業内容の理解を確実なものとするために、簡単な課題（宿題）を10回程度課す。課題の提出状況を平常点とする。

提出期限を過ぎた課題（宿題）は受け取らないので、提出期限までに必ず提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計学は積み立て型の科目なので、遅刻・欠席をすると授業についていくことが困難になる。授業への出席と課題提出は必須である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
よくわかる統計学 Ⅰ 基礎編	金子治平・上藤一郎編／ミネルヴァ書房／978-4-623-04926-4／教科書に沿って講義を行う

講義は教科書に沿って進める。教科書の説明を補うためにプリントを随時配布する。教科書の練習問題も授業・課題で利用・解説するので、開講までに必ず入手しておくこと。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・涙なしの統計学	D.ロウントリー／新世社／4-88384-035-2／数式をほとんど使っていないので、数学が苦手な人には読みやすい
統計学入門	東京大学教養学部統計学教室編／東京大学出版会／4-13-042065-8／書名は入門となっているが、高度な内容も含む

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで。

nagasawa@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

電卓を使って練習問題を解くので、毎回の授業に√の計算のできる電卓を必ず持参すること。Excelが使えるものはノートパソコンを持ち込んでもよい。

社会福祉援助技術現場実習（SA） §　社会福祉援助技術現場実習（SG）

20290

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SA） §　社会福祉援助技術現場実習（SG）

20290

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SC）

20291

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SD）

20292

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SE）

20293

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SF）

20287

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2. 福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3. 社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4. 自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術現場実習（SG）

20288

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目ある。「社会福祉援助技術実習指導I」を通して配属される施設・機関において、180時間以上の現場実習を行う。実習中は、「社会福祉援助技術実習指導II」で受講生が担当教員および実習施設職員と協議しながら作成する実習計画にそって、施設職員の指導の下で多様な課題に取り組む。本学の実習担当者による巡回指導も行われる。

到達目標 / Attainment Objectives

1．人や地域が直面している問題について、個別の状況を理解するとともに、それらの社会背景や関連要因について把握し、社会問題としての理解を深める。
2．福祉サービスを提供する機関や施設の役割、位置づけ、業務内容、サービス提供の方法、組織および分野の課題について具体的に理解する。
3．社会福祉士に必要とされる知識、技術、倫理について具体的かつ実際的に理解し、基礎的な実践力を身につける。
4．自己についての気づきが増え、社会福祉士となるために、今度、取り組むべき課題が明確になる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目履修のためには、前年度に「社会福祉援助技術実習指導I」を履修しておかなければならない。また、「社会福祉援助技術実習指導II」「社会福祉援助技術実習指導III」「社会福祉援助技術演習」は同年度に履修しなければならない。さらに、「社会福祉援助技術論」、「ソーシャルワーク論」、実習先の分野に関わる社会福祉士指定科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	社会福祉援助技術現場実習の実践経過と成果によって評価を行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I（SD）

15566

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者（潜在的利用者）の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習活動、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確にする。
2. 福士実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、実習先選定のプロセスと方法
第2講	社会福祉士と社会福祉実践	
第3講	行政機関とその福祉サービスについて1	
第4講	行政機関とその福祉サービスについて2	
第5講	高齢者福祉分野について1	
第6講	高齢者福祉分野について2	
第7講	児童福祉分野について1	
第8講	児童福祉分野について2	
第9講	障害者福祉分野について1	
第10講	障害者福祉分野について2	
第11講	地域福祉分野について1	
第12講	地域福祉分野について2	
第13講	分野別学習のまとめと補足	
第14講	実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
第15講	振り返りと今後の課題	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況（出席、参加度）、コミュニケーションペーパー、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、ガイダンスや授業への出席、レポート等必要書類の提出をもって厳しく行う。
欠席1回1点、遅刻0.5点、提出なし1点、提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ソーシャルワーク実習	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導I（SE）

15567

担当者名 / Instructor　西村 清忠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会福祉士課程の実習関連科目の一つで、福祉現場での実習を行うための導入科目である。本科目では、第一に、実習とはどのようなものかを理解し、実習に際して何が重要か認識できるようにする。第二に、社会福祉のさまざまな分野・領域について概観し、福祉現場とサービス利用者（潜在的利用者）の実態や課題について学ぶ。第三に、実習に向けて受講生各自が問題意識を整理し、自己理解を深めるとともに、実習を行う領域と実習種別を決める。福祉の現場と実践について現実的な認識を深めるために、授業には、演習活動、福祉専門職や実習経験者らゲストスピーカーの講義、施設訪問など多様な学習方法を取り入れる。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 社会福祉援助技術現場実習の目的と概要について理解したうえで、自分自身にとっての実習の意義を明確にする。
2. 福士実践の現場と利用者の状況についての現実的な基礎知識をもち、3年次の実習にむけて、さらに何を学ぶべきかがわかる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉士課程の指定科目をできるだけ履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要と導入	授業スケジュール、学習方法、レポート、実習先選定のプロセスと方法
第2講	社会福祉士と社会福祉実践	
第3講	行政機関とその福祉サービスについて1	
第4講	行政機関とその福祉サービスについて2	
第5講	高齢者福祉分野について1	
第6講	高齢者福祉分野について2	
第7講	児童福祉分野について1	
第8講	児童福祉分野について2	
第9講	障害者福祉分野について1	
第10講	障害者福祉分野について2	
第11講	地域福祉分野について1	
第12講	地域福祉分野について2	
第13講	分野別学習のまとめと補足	
第14講	実習に関連する心配・不安・気がかり等とそれらへの対処法	
第15講	振り返りと今後の課題	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回の授業への取り組み状況（出席、参加度）、コミュニケーションペーパー、分野別レポート等を総合的に評価する。

日常点評価は、ガイダンスや授業への出席、レポート等必要書類の提出をもって厳しく行う。
欠席1回1点、遅刻0.5点、提出なし1点、提出遅れ0.5点で減点を行い、5点以上減点となった場合に不合格となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ソーシャルワーク実習	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SA）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SA）

12710

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SB）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SB）

12711

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SC）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SC）

12712

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SD） § 社会福祉援助技術実習指導II（SD）

12713

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SE）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SE）

12714

担当者名 / Instructor　山田 尋志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SF）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SF）

12715

担当者名 / Instructor　池添 素

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導II（SG）　§　社会福祉援助技術実習指導II（SG）

12716

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、「社会福祉援助技術演習」と連動して、「社会福祉援助技術現場実習」が充実したものとなるように事前の準備を行う。実習の目的と意義を再確認し、実習計画をたてて実習に積極的に取り組めるようにする。また、実習中の学びをより深いものにするために、実習施設・機関、利用者、福祉実践の理念や方法についての事前学習を行う。講義のほか、演習活動、グループ学習と報告、ゲストスピーカーによる講義、施設訪問など多彩な内容である。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 現場実習の意義と目的、あり方について認識する。
2. 実習分野のサービス利用者（潜在的利用者を含む）とその社会環境、福祉施設・機関、関連する法制度、社会福祉士の役割と業務についての基本的な知識をもつ。
3. 自分の思考・行動パターンや性格傾向への気づきを得るとともに、人と関わる基本的な技法を身につける。
4. 上記3点を踏まえた実習計画を完成させる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修しておかなければならない。また、同年度に「社会福祉援助技術演習」と「社会福祉援助技術実習指導III」を履修することが必要である。さらに、「社会福祉援助技術論」「ソーシャルワーク論」および実習分野に関わる社会福祉士指定科目を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	事前学習①	
第3回	事前学習②	
第4回	事前学習③	
第5回	事前学習④	
第6回	事前学習⑤	
第7回	実習計画①	
第8回	実習計画②	
第9回	実習計画③	
第10回	実習懇談会	
第11回	実習計画④	
第12回	事前学習⑤	
第13回	実習直前準備①	
第14回	実習直前準備②	
第15回	実習直前準備③	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、毎授業で課される講義や討論等の内容をまとめるミニレポート、実習計画書を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ソーシャルワーク実習』	岡田まり他／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SA）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SA）

15317

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SB）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SB）

15318

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SC）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SC）

15319

担当者名 / Instructor　岡田 まり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SD） §　社会福祉援助技術実習指導III（SD）

15320

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SE）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SE）

15321

担当者名 / Instructor　山田 尋志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導Ⅲ（SF）　§　社会福祉援助技術実習指導Ⅲ（SF）

15322

担当者名 / Instructor　池添 素

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導Ⅰ」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術実習指導III（SG）　§　社会福祉援助技術実習指導III（SG）

15323

担当者名 / Instructor　黒田 学

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、「社会福祉援助技術演習」と連動しており、「社会福祉援助技術現場実習」の事後学習として位置づけられる。各自が実習の内容とそこで学んだことについてクラスで報告し、他の受講生と教員からのフィードバックを得て振り返りを行うなかで、問題についての理解を深め、自分自身への気づきを得る場とする。実習中に感じた疑問や新たに気づいた問題についての学習も行う。また、実習全体を評価して、達成できたことを確認するとともに、今後の課題についても検討する。さらに、実習報告書『轍』の作成と実習報告会を通して、実習の成果をまとめ、他の施設・機関や他分野で実習した人と学びを共有する。

到達目標 / Attainment Objectives

1．福祉のサービス利用者（潜在的利用者）と地域を生態学的な視点をもって理解し、問題の解決・予防、状況改善のための具体的な方法（福祉実践）を提案することができる。
2．福祉専門職に必要な基本的なスキルを身につけるとともに、今後、自分が取り組む課題を明確にする。
3．個別の問題の背景にある社会構造や経緯についての理解を踏まえ、わが国の社会福祉制度・政策について適格な判断ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目の履修にあたり、「社会福祉援助技術実習指導I」を前年度に履修することと、「社会福祉援助技術演習」「社会福祉援助技術実習指導Ⅱ」「社会福祉援助技術現場実習」を同年度に履修することが必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	
第2回	実習報告とグループスーパービジョン	
第3回	実習報告とグループスーパービジョン	
第4回	実習報告とグループスーパービジョン	
第5回	実習報告とグループスーパービジョン	
第6回	実習報告とグループスーパービジョン	
第7回	実習報告会準備、課題についての学習	
第8回	実習報告会準備、課題についての学習	
第9回	実習報告会準備、課題についての学習	
第10回	実習報告書『轍』作成	
第11回	実習報告会準備、課題についての事後学習	
第12回	実習報告会①	
第13回	実習報告会②	
第14回	実習報告会の振り返りと補足	
第15回	実習の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常的な授業における取組状況、実習報告の内容、実習報告会準備への参画、実習報告書『轍』の内容を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「ソーシャルワーク実習」	岡田まり他編／有斐閣／4-641-05541-6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉援助技術論（S） § 社会福祉援助技術論I（S） § 社会福祉援助技術論I（SG） § 社会福祉援助技術論（SG）

12719

担当者名 / Instructor　小川 栄二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉活動とその社会福祉領域での相談援助活動について以下の内容で学ぶ。国民の生活問題および社会福祉活動の対象である社会福祉課題の現実、公的社会福祉制度と社会福祉活動との必要性を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の現実の展開の基本を学ぶ。社会福祉活動・相談援助活動の原理（概念、理念、構造）を、歴史的形成過程、生活問題を解決・緩和する国民のイニシアティブ、国家による制度の関係の角度から学ぶ。社会福祉従事者の現状と倫理を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉活動の対象となる国民生活問題を理解する。社会福祉活動の原理と構造を理解する。社会福祉活動の基礎的知識と理論を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、社会福祉六法に関する各福祉論（公的扶助論、老人福祉論など）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	①授業の概要と導入　②社会福祉活動・相談援助を理解するための導入事例	社会福祉活動、相談援助、生活の困りごと、社会福祉資源
2	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(1)	生活と労働、社会問題、生活問題、ニーズ、社会福祉制度
3	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(2)	社会福祉の主体、社会福祉活動、相談援助
4	社会福祉制度、社会福祉活動の構造(3)	地域、社会資源(相談機関、社会福祉施設)、人材(社会福祉労働者・ボランティア)
5	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(1)	生活問題の発生、危機、生活の再設計、児童期の社会的養護
6	社会福祉活動を必要とする問題状況とその対応および資源(2)	生活障害、在宅ケア、施設ケア、ネットワーク、地域、ボランティア、ターミナル
7	社会福祉活動の考え方と構成要素(1)	基本的人権、契約と権利、ノーマライゼーション、社会的包摂、自立
8	社会福祉活動の考え方と構成要素(2)	社会福祉活動の類型、社会福祉活動・相談援助の諸機能
9	社会福祉活動の考え方と構成要素(3)	ゼネリック、共通基盤、価値と倫理、地域展開
10	社会福祉活動の歴史と理論(1)	本源的蓄積、救貧法、産業革命、貧困、慈善事業、ソーシャルワーク、COS、セツルメント、
11	社会福祉活動の歴史と理論(2)	ルフォード会議、統合化、世界恐慌、ニューディール、社会保障、診断主義、機能主義、折衷主義、ベヴァリッジ報告、福祉国家
12	日本の社会福祉活動(1)	第二次大戦、GHQ、日本国憲法、社会福祉事業法、社会福祉論争、社会福祉主事、5法ワーカー、専門職
13	日本の社会福祉活動(2) 1970年中旬～	福祉見直し、在宅福祉、多元化、福祉供給システム、ケアマネジメント、社会福祉基礎構造改革、反貧困運動
14	相談援助専門職と社会福祉労働(1)	専門職制度、社会福祉士、分業と協業
15	相談援助専門職と社会福祉労働(2)	専門職と価値・倫理、社会福祉労働過程、主体形成、制度形成

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記試験による。
平常点評価	20 %	随時の提出物、コミュニケーションペーパによる。

・ソーシャルワーク歴史と理論の概要を問う
・社会福祉課題の基本的性格と社会的対応としての社会福祉活動についての理解がなされているかを問う。
・随時のコミュニケーションペーパにより、社会福祉課題についての問題関心の涵養を問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

現実の社会福祉課題を知り、いかに対応すべきなのか、個人・家族、地域・自治体、国家の各レベルで主体的に考察してください。

教科書 / Textbooks

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会『新・社会福祉士養成講座⑥相談援助の基盤と専門職』中央法規 2009年

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉方法原論	植田章・岡村正幸・結城俊哉　／法律文化社／／
新・社会福祉士養成テキストブック2社会福祉援助技術論　上	北島英治／ミネルヴァ書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会福祉概論（S） § 社会福祉論（S） § 社会福祉原論（SG）

12721

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会福祉は今は私たちの生活にとって必要不可欠な社会資源となっています。福祉の仕事に就く人に取ってだけではなく、生活者にとっての社会福祉の意義と成り立ちについて歴史的かつ現実的に考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の中での社会福祉の位置と役割について過去・現在・未来の視点から捉える視点の獲得をめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入：本講義でのねらいや受講の心得について説明する	
2	共同社会のなかでの福祉的営みの必須性を考える	ボノボ、共同社会
3	資本主義による家族と地域社会における自生的な共同関係の衰退	合掌造り、複合家族、直系家族、核家族 、地域共同体
4	共同関係の衰退と貧困化から社会福祉形成の歴史的前提を考える	資本主義、労働力の商品化、国・地方自治体、民間非営利組織
5	義務教育で権利としての社会保障・社会福祉について何を学びましたか？	出産手当、育児手当、医療保障、老後保障、障害者福祉、スウェーデンの教科書
6	社会福祉問題の現代的広がり～児童・青少年問題の今～	児童相談所、家庭裁判所調査官
7	認知症の人と向き合う	痴呆、認知症、デイケア
8	当事者が語る若年認知症の世界	若年認知症、スティグマ、残存能力、ケアパートナー
9	社会福祉援助が必要となる場面での自己と他者関係	ミード、Iとme、社会統制、自我意識の獲得
10	地域福祉と権利擁護の課題	消費者被害、一人暮らし、悪質商法、地域福祉権利擁護事業、成年後見人、消費生活センター
11	保育所から見える児童の貧困と社会福祉	保育所の二つの役割
12	社会福祉の三元構造	対象、運動、政策主体
13	社会福祉従事者と社会福祉法人、社会福祉協議会、地方自治体、国の役割と責任	社会福祉従事者、資格制度、社会福祉法人
14	当事者組織と社会福祉運動と社会福祉研究運動	社会運動、当事者運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ビデオを多用しながら、社会福祉の多様な現場とその奥の深さを考えます。また講義では考えるテーマを出して受講者に思考訓練を行ってもらいます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義の理解度を問う試験によって評価します。
平常点評価	30 %	講義の出席と講義で出すテーマをどれくらい考えてくれたかで評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるだけ欠席がないことを要請します。続けて出席することで理解が深まるように、授業を組み立てています。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間中かメールで連絡を取ってください。isikura@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

社会保障論（S） § 社会保障論（SG）

15354

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会保障制度を考察するのに当たり、その内容を総論と各論とに分け、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会保障制度総論：①社会保障制度の理念・概念・対象、社会保障制度の体系(社会保険、公的扶助、公衆衛生・医療、社会保障関連制度)、③社会保障の機能(生存権·最低生活の制度的保障(ナショナル・ミニマムの保障)、所得再分配、生活と経済の安定化、社会的統合)、④社会保障財源

(2) 社会保障制度各論：①年金制度、②医療保険制度。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は現在の日本の社会保障制度を体系的に把握し、その現代的課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1) 必要に応じて、外国の社会保障制度を取り上げ、日本の社会保障制度との相対比較を行う素養を身につける。

(2)社会保障制度の課題として取り上げられている様々なトピックスー社会保障費の「国民負担率増大抑制」論、「高齢化社会危機」論、「公的年金加入の損得」論などーを概観し、制度の課題について理解を深め、課題に対する解決策を考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲	大きな政府、小さい政府、社会保障制度審議会「50年勧告」、選別主義と普遍主義
2	社会保障制度の機能	選別主義・普遍主義、 生存権、所得再分配、社会的統合、多様なライフスタイル、少子高齢化と社会的サポート
3	少子高齢化と社会的サポートの国際比較	日本とスウェーデン、育児休業・給付、児童手当、保育所
4	社会的不平等とその実態	社会階層、経済資本、文化資本、所得再分配制度、アファーマティブ・アクション
5	女性と貧困	高齢単身世帯、シングルマザー、生活保護、養育費、貧困の連鎖
6	社会保障財政の現状と問題	社会保障給付費、国民負担率、「高齢化社会＝危機」論、「純負担」、社会保障制度への投資効果
7	所得保障と年金制度	私的扶養の限界、近視眼性、市場の失敗、経済変動、2階建て方式、給付スライド、被保険者、保険料、国庫負担、保険料納付減免除制度
8	基礎年金制度の仕組み	老齢基礎年金、障害基礎年金、遺族基礎年金
9	基礎年金制度の問題と解決策	国民年金空洞化問題、社会保険方式の修正、税方式
10	厚生年金制度の仕組み	被保険者、標準報酬、 老齢厚生年金、障害厚生年金、遺族厚生年金
11	厚生年金制度の問題と解決策	世代間の給付/保険料の倍率、積立方式、賦課方式、保険料固定方式
12	医療保険制度の概要	民間医療保険の限界、アメリカの医療保険、国民医療費、地域保険と職域保険療養の給付、現物給付、現金給付、公費負担医療、医療保険の財源
13	医療保険制度給付の内容	療養の給付、訪問看護療養費、入院時食事療養費、入院時生活療養費、保険外併用療養費、療養費、高額療養費、移送費、出産育児一時金、出産手当金、傷病手当金、埋葬料、医療保険制度の財源
14	高齢者医療の概要、および、医療保険制度の問題と解決策	後期高齢者医療制度、国民健康保険の滞納の要因、国民健康保険制度の滞納対策(短期被保険証、資格証明書)、国民健康保険制度の抜本改革
15	社会保障制度の発展要因と今後の社会保障制度	収斂化理論、ネオ・マルクス理論、民主主義・利益団体論、国家中心理論、社会民主主義理論(権力資源論)・福祉レジーム論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会保障関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会保障制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望ましい。また、社会保障の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会保障―論点・解説・展望(増補改訂版)』	木村敦編著／学文社／9784762017889／
『現代社会保障論―皆保障体制をめざして』	里見賢治／高菅出版／9784901793322／
『福祉社会 : 社会政策とその考え方(補訂3版)』	武川正吾／有斐閣／4641121192／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

障害者とスポーツ（S）

15371

担当者名 / Instructor　水谷 裕

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「すべての障害のある人にスポーツを」
障害のある人とスポーツについて、今日まで講師の実践を通し体験してきたことを中心に、講義と「障害のある人々のスポーツ活動」等に関するビデオ画像を通して、障害のある人々のスポーツ活動の実際を知り、社会参加の現状を理解し、障害のある人のスポーツ活動における、より良きパートナーとして、「障害のある人に何が出来るかではなく、どうしたら出来るか」を考えられる力を育んで欲しいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

＊障害のある人々の概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツに関する概念や問題を幅広く理解できる。
＊障害のある人々のスポーツをとおして社会のあり方を考えられる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入、小レポート「障害のある人とスポーツ」について、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人とｽﾎﾟｰﾂに関する知識、体験等
第2回	小レポートについて、講義「わが国における障害のある人の実態と福祉の概要」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の人数･傾向,戦後の歴史等
第3回	講義「障害について」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の原因･症状等
第4回	講義「障害を考える」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害の意味･とらえ方等
第5回	講義「障害の受傷時期による相違」、小レポート「水谷を初めて見た時どう思ったか」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人の葛藤･受容･心理等
第6回	講義「障害のある人との関わるための留意点」、ﾋﾞﾃﾞｵ	障害のある人に対する言葉づかい･態度･考え方等
第7回	講義「障害のある人とスポーツ」、ﾋﾞﾃﾞｵ	ｽﾎﾟｰﾂ観･残存能力･訓練との相違等
第8回	講義「障害のある人に何故スポーツ？」、ﾋﾞﾃﾞｵ	運動は動物存在の基礎条件等
第9回	講義「障害者スポーツの歴史」、ﾋﾞﾃﾞｵ	時代的背景等
第10回	講義「障害者スポーツの組織」、ﾋﾞﾃﾞｵ	施設･団体等
第11回	講義「障害のある人のスポーツ権」、ﾋﾞﾃﾞｵ	背景にある<みんなのｽﾎﾟｰﾂ運動>等
第12回	講義「障害のある人がスポーツをする意義」、ﾋﾞﾃﾞｵ	スポーツの身体的･精神的･社会的等の効果
第13回	講義「障害のある人のスポーツを行うにあたって」、ﾋﾞﾃﾞｵ	阻害要因･視点等
第14回	講義「障害のある人や家族の願いと今後の課題」、ﾋﾞﾃﾞｵ	人間的平等･発達保障等,指導者･環境･現状把握等
第15回	確認ﾃｽﾄ(60分)とまとめ(30分)等	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞なのでの障害のある人のスポーツに関する番組や記事を見て、メディアひいては、社会の理解度を認識する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	特に言葉の言い回しなど、障害のある人を理解できているかを基本に、出題された課題について論点が押さえられているかどうかを問います。 授業回数15回中、最低3分の1以上の出席を必要とし、満たない場合は不可とします。

＊論述1問とします。
＊確認テストを重視します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講について
＊授業は前の席にて受講すること。
＊出席カード配布後の事由なき遅刻は認めない。
＊講師は言語障害があるので、注意して聞くこと。
＊話の中にある意図を理解すること。
研究について
＊障害のある人々の基礎的な知識を得た上で、スポーツ活動の現状やあり方を広い視野から見ること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者スポーツ	日本リハビリテーション医学会スポーツ委員会編／医学書院／／障害のある人々のスポーツに関する紹介本です。
障害者とスポーツ	芝田徳造／文理閣／／本学名誉教授の著書で、京都での実践を通して書かれた本です。
身体障害者のスポーツ指導の手引き	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／身体に障害のある人に対するスポーツ指導に関する本です。
障害者スポーツ指導教本	(財)日本障害者スポーツ協会編／株式会社ぎょうせい／／初級・中級障害者スポーツ指導者養成にかかる教本です。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。

その他 / Others

＊日本障害者スポーツ協会WWWページ
＊京都障害者スポーツ振興会WWWページ
＊京都市障害者スポーツセンターWWWページ
＊京都障害者スポーツ指導者協議会WWWページ
＊その他、障害者スポーツ関係団体WWWページ多数あり

情報リテラシーIII（SA） § 情報処理（SA）

12744

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習…(SLクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SB） § 情報処理（SB）

12746

担当者名 / Instructor　破田野 智己

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

web上で見かける様々なアニメーションは、単にページを装飾する手段にとどまらず、アート、アドバタイジング、あるいはWBT（web-based-training）など、様々な目的に活用されています。つまりweb上で動くアニメーション作成のスキルを身につけることは、インターネットが日常に深く入り込んだ現代では、非常に強力な表現の手段を身につけることと同義といえます。そこでこの授業では、Flashというソフトウェアを用いて、なるべく直感的かつ簡単に、そのようなアニメーションを作成する方法を紹介します。

到達目標 / Attainment Objectives

Flashによるアニメーション作成スキルの修得、アニメーションを用いた「作品」が作成できること、効果的にアニメーションを用いる能力を身に付けること、以上3点を到達目標とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII、もしくはこれらの科目終了と同等のスキル・レベルを必要とします。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	とにかく描いて動かす	Flashのお絵描きの特徴。とにかく動かしてみる
2	基本的なお絵描き	様々な描画ツールと、その特徴
3	基本的なアニメーション	モーショントゥイーン、シンボル、インスタンスなど
4	基本的なアニメーション2	シェイプトゥイーン、レイヤーなど
5	ちょっと凝ったアニメーション	アルファチャンネル、マスク、パスなど
6	シンボルを使いこなす	シンボル内アニメ、グラフィック、ムービークリップなど
7	インタラクティブに動かす	ボタンイベント、アニメボタン、リンクなど
8	外部ファイルの取り込み	効果音や写真、手書きのイラストを活用する
9	課題作成1	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
10	課題作成2	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
11	課題作成3	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
12	課題作成4	課題の説明、オリジナルアニメーションの作成
13	パブリッシング	パブリッシュと設定、アクセシビリティ、ftpによる転送
14	プレゼンテーションと採点1	作品の発表と説明を行なう
15	プレゼンテーションと採点2	作品の発表と説明を行なう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

Flashに関する書籍は、参考に挙げたもの以外にもたくさんあります。また、web上にはFlashに関するチュートリアルやTipsが多数存在しており、これらの多くは無料で利用できます。これらは授業内容を深く理解するために役立つだけではなく、課題の作成を行う際にも有用です。もちろん、これらを用いなければ授業が充分に消化できないわけではありませんが、積極的に自学自習すれば、それだけ良い結果が得られるでしょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	第14･15回で行うプレゼンテーションの内容と、出席や各回の授業で出す課題などを総合して成績を評価します。 なお、授業内の課題に関して学生同士が教え合うことは制限しませんが、最終課題で盗用が認められた場合、定期試験でカンニングした場合と同様の厳しい処分を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。その代わりに、毎回の授業では資料をweb（教材配布フォルダ）にupします。受講生は必要に応じてこれを保存、あるいは印刷して用いてください。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
おしえて!!FLASH 8 : Flash 8スーパー・エンターテイメント・チュートリアル	まつむらまきお, たなかまり／東京 : 毎日コミュニケーションズ／978-4-8399-1961-0／絶版ですが、図書館にはあるようです

入門書には、ソフトの体験版が同梱されていることが多くあります。ここで挙げた書籍にもFlashの30日間トライアル版が付いていますので、折を見てインストール＆自習してみるのも良いでしょう。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

必要に応じて授業中に指示します。それ以外の場合は事務室を通じて連絡してください。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SC） § 情報処理（SC）

12784

担当者名 / Instructor　柴田 悠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では、統計解析ソフトSPSSの操作を通じて、社会調査等で得たデータを解析する技術を身につけることをめざす。大量のデータを集計する技術だけでなく、データ同士の関連性や差異など、データに隠された社会的意味を見いだす技術も、広く教授する。具体的には、社会調査と統計学の基礎を確認し、基本的な統計解析モデルを概観する。さらに、実際の社会調査データを用いて、基本的な統計解析を実習する。

たとえば、近年の日本で、「あなたは現在、幸せですか？」との問いに「幸せです」と答える人の割合は、どんな職業の人々で、最も大きいのだろうか。その割合を、学生や主婦と比べたらどうだろうか。あるいは、婚姻状態（既婚／非婚）や居住地（都市／郊外／農村）で比べたらどうだろうか。また、そういった状況（職業・婚姻・居住地）と「幸せです」との間の連関は、直接的な連関だろうか、それとも、他の状況（たとえば所得）に起因する「見かけ上の連関」にすぎないのだろうか。さらに、10年前や20年前と比べたら、それらの連関に、時代変化は見られるだろうか。あるいは他国（たとえばアメリカ合衆国）と比べたら、それらの連関に、国際的差異は見られるだろうか。そして、それらの連関・時代変化・国際的差異は、偶然ではほとんど起こらないほどの、確かな傾向なのだろうか。それとも偶然でも容易に起こりうる程度のものにすぎないのだろうか。たとえばこういったことを、統計データにもとづいて検討できるようになるのが、本授業の目標である。

到達目標 / Attainment Objectives

SPSSを使った基本的な統計解析ができるようになる（目安としては「重回帰分析」まで）。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・学内パソコンの利用IDとパスワードを、あらかじめ各自で確認しておくこと。
・「Webコースツール」のオンライン登録申請と任意登録を済ませておくこと。
・自分用のUSBフラッシュメモリ（1GB以上）を持参すること。

また、最低限必要なパソコン操作技能として、以下の3点を求める。
1. ローマ字入力でのタイピングができること。
2. ファイル管理ができること（ファイルの新規保存、コピー、削除、移動、ファイル名の変更）。
3. 複数のウィンドウを切り替えて操作できること。

なお、本授業に先立って、「社会統計学」と「社会調査論」を、ともに受講済みであることが望ましい。
もし「社会統計学」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『マンガでわかる統計学』を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。
またもし「社会調査論」を受講済みでない場合には、下の「参考書」欄に挙げた『「社会調査」のウソ』の「第4章」と「第5章」を、事前に軽く一読しておくことが望ましい。

以上を前提に、第1回の授業を行う。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	・社会調査と統計学の基礎 ・統計解析モデルの分類 [『マンガでわかる統計学』pp. 2-29、『マンガでわかる統計学［因子分析編］』pp. 16-63, 220、『「社会調査」のウソ』pp. 119-215、[『入門はじめての統計解析』p. 2、『統計学入門』pp. 1-15, 178-180、『人文・社会科学の統計学』pp. 1-15, 233-253]	社会調査、記述統計学と推測統計学（統計的推測）、全数調査（悉皆調査）と標本調査、母集団と標本、非標本誤差と標本誤差、有意選出法と無作為抽出法、量的データと質的データ、1次元データと多次元データ、時系列データとクロスセクション・データとパネル・データ、母数（母集団分布に関する情報＝パラメータ）、パラメトリック法とノンパラメトリック法
2	・統計学の基礎概念	（要約）統計量[『入門はじめての統計解析』pp. 16-35、『統計学入門』pp. 182-185, 191, 96-97, 295]、検定統計量と自由度[『すぐわかる統計用語』pp. 82-83, 114]、確率密度関数と正規分布と中心極限定理[『マンガでわかる統計学』pp. 82-109、『統計学入門』pp. 120-123, 162-170, 188-189、『入門はじめての統計解析』p. 90]、区間推定と信頼区間[『入門はじめての統計解析』pp. 106-137、『統計学入門』pp. 222, 188-189]
3	・既存の社会調査データの入手方法 ・統計解析ソフトSPSSのデータ入力 ・度数分布表とヒストグラム ・要約統計量の算出	個票データ（マイクロデータ）、WVS、ISSP、東京大学SSJデータアーカイブ、JGSS、SSM調査、1次元データ、度数分布表、ヒストグラム、平均値、標準偏差、分散、歪度、尖度、標準誤差、中央値
4	・データの変換 ・グラフと図	ケースの選択、値の再割り当て、変数の計算、ケースの並び替え、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、箱ひげ図、エラーバー、散布図
5	・相関 [『マンガでわかる統計学』pp. 112-120、『入門はじめての統計解析』pp. 36-40, 236-243、『統計学入門』pp. 41-55、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 227-232、教科書pp. 114-123]	2次元データ、間隔尺度（数値データ）、散布図、（ピアソンの積率）相関係数、スピアマンの順位相関係数、順序尺度、ケンドールの順位相関係数、相関と因果関係の区別、見かけ上の相関、部分集合における相関、直線相関と曲線相関

6	・統計的検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 140-145、『統計学入門』pp. 233-239] ・無相関の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 190-193、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 223-226, 230-231]	(帰無)仮説と対立仮説、背理法、第1種の誤りと第2種の誤り、棄却域と有意水準(危険率)、両側検定と片側検定、検定統計量と有意確率、2次元(2変量)正規分布、無相関の検定
7	・2つの母比率の差の検定 [『入門はじめての統計解析』pp. 186-189、『統計学入門』pp. 250, 254] ・連関 [『マンガでわかる統計学』pp. 127-189、『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』pp. 232-250] ・独立性の検定(χ2〔カイ2乗〕検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 202-207、教科書pp. 194-205]	名義尺度、クロス集計表、クラメールの連関係数、χ2分布、独立性の検定
8	・2つの母平均の差の検定(t検定) [『入門はじめての統計解析』pp. 162-179、『統計学入門』pp. 240-244、教科書pp. 180-191]	t分布、対応のない2つの母平均の差の検定
9	・(単)回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 12-100、『入門はじめての統計解析』pp.248-259、『統計学入門』pp. 58-63, 257-70、教科書pp. 126-139]	反応変数(＝被説明変数＝目的変数＝従属変数)と説明変数(＝独立変数)、定数項、標本(偏)回帰係数(傾き)、残差(実測値－予測値)、最小2乗法、決定係数(相関係数の2乗)、標準化、標準化(偏)回帰係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、偏回帰係数の検定(t検定)、予測値
10	・重回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 102-148、『入門はじめての多変量解析』pp. 34-83、『統計学入門』pp. 63, 270-276、『人文・社会科学の統計学』pp. 50-58、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 2-23、『すぐわかる統計用語』pp. 2, 68, 217, 138]	多次元データ、多変量解析、ダミー変数、交互作用、多重共線性、VIF(分散拡大因子)、決定係数(重相関係数の2乗)、自由度調整済み決定係数、回帰式の妥当性の検定(F検定)、AIC(赤池情報量基準)、正準相関分析
11	【以下の回では、受講生の興味や習熟度に応じて、内容を調整する。】 ・ロジスティック回帰分析 [『マンガでわかる統計学[回帰分析編]』pp. 150-192、『自然科学の統計学』pp. 231-249、『統計学入門』pp. 132-137、『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 173-194, 131-134、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 24-39, 184-199、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 146-169]	2値データ、ロジット変換、最尤法、Wald統計量、尤度比統計量、尤度比検定、BIC(ベイズ情報量基準)、判別分析、カテゴリカル正準相関分析
12	・順序回帰分析と名義回帰分析 [『人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門』pp. 191-193、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 70-93、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 54-69]	順序尺度、多項ロジット・モデル、順序ロジット・モデル、名義尺度
13	・主成分分析と因子分析 [『マンガでわかる統計学[因子分析編]』pp. 66-210、『入門はじめての多変量解析』pp. 86-175、『人文・社会科学の統計学』pp. 349-360、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 140-181] ・パス解析と共分散構造分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 50-65、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 210-259]	主成分分析、因子分析、パス解析、パス図、パス係数、共分散構造分析
14	・クラスター分析と多次元尺度法 [『入門はじめての多変量解析』pp. 218-237、『SPSSによる多変量データ解析の手順』pp. 96-111, 200-209] ・数量化Ⅲ類とカテゴリカル主成分分析 [『すぐわかる統計用語』pp. 122-129、『入門はじめての多変量解析』pp. 276-293、『SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順』pp. 118-145]	クラスター分析、多次元尺度法、数量化理論、数量化Ⅲ類、カテゴリカル主成分分析、コレスポンデンス分析、多重コレスポンデンス分析
15	・これまでのまとめ ・より複雑な統計解析モデルの紹介(実習は無し) ・応用研究例の紹介	パネルデータ分析[『パネルデータ分析』、『社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理』pp. 158-215]、マルチレベル分析[『基礎から学ぶマルチレベルモデル』]

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回出席していることを前提として、授業を進める。
よって、万一欠席した場合には、次回までに、欠席した回のプリント（産社事務室前の棚に余り分を置いてあるので欠席者は必ず持ち帰ること）と、欠席した回の参考書の該当ページ（上記「授業スケジュール」参照）を読み、また必要に応じて他の参考書も利用して、その該当ページの内容（および「キーワード」に挙げた概念・用語）を十分に理解してくること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	基本的にほぼ毎回、統計解析の実習課題を課し、授業時間内にその成果を報告してもらう。それらの課題の出来（成果点50%）と、授業への出席の頻度（努力点50%）とから、総合的に成績を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

統計解析は、何よりもまず、「知りたいこと」を知るための方法（の一つ）である。よって、どんなことでもよいので――「幸せ」でも「生き方」でも「恋愛」「結婚」「友人関係」「職業」「お金」でも何でもよいので――、「知りたいこと」を心に秘めながら、本授業に臨んでほしい。漠然としたことでも全く構わない。

本授業で扱うことが可能な社会調査データには、たとえば「幸福度」や「生活満足度」「人生観」「友人関係」「結婚」「家族」「主観的健康度」「学歴」「職業」「収入」「社会階層」「居住地」「政治意識」「環境意識」「宗教意識」など、実にさまざまなデータが含まれている。調査対象を日本人に絞らなければ、「恋愛」（パートナーの有無）についてのデータも含めることができる。さらに、たとえば20年前（あなたが生まれた頃or若かった頃）との時代比較や、他国（あなたが行ってみたい国）との国際比較も可能である。およそ20か国以上のデータが揃っている。

本授業の実習課題では、最終的には、受講生一人一人が、自分の興味関心に沿って、好きなデータを選択し、「知りたいこと」を知るための統計解析を行うことを目標とする。ただしそこに至るまでは、統計解析の基本に慣れてもらう必要があるため、多少の共通課題をこなしてもらうことになる。手間のかかる課題もあるかもしれない。しかし、ひと通りの訓練をこなせば、それ相当のスキルが身につくはずである。また受講生全体の習熟度に応じて、授業の進度を、柔軟に調節する予定である。

なお、授業中の私語（受講生同士の会話）は、他の受講生の学習を妨げてしまうので、原則として謹むこと（出席点の減点対象とする）。質問や意見がある場合は、遠慮なくその場で挙手し、発言してほしい。質問や意見は、授業内容の理解を促してくれるため、いつでも歓迎している。

教科書 / Textbooks

授業時にプリントとして配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガでわかる統計学	高橋信／オーム社／4274065707／どんなに数学が苦手な人でも、統計学の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[回帰分析編]	高橋信／オーム社／4274066142／上の続編。「（単）回帰分析」「重回帰分析」「ロジスティック回帰分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。ただし、「自由度」の定義説明や「中心極限定理」への言及などが欠けているため、理論的な説明は不十分。
マンガでわかる統計学[因子分析編]	高橋信／オーム社／4274066622／上の続編。「標本調査法」「主成分分析」「因子分析」の基礎を直感的に理解できる、きわめて稀有な本。
「社会調査」のウソ	谷岡一郎／文藝春秋／4166601105／「標本調査法」のよくある誤用パターンを、事例によって具体的に理解できる。
入門はじめての統計解析	石村貞夫／東京図書／4489007469／2つ以下の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

＜中級レベル＞
「厳密な証明は知らなくてもいいから、まずは統計解析の仕組みをひと通り知りたい！」という人向け

・入門はじめての多変量解析、石村貞夫・石村光資郎、東京図書、4489020007
3つ以上の変数を用いた統計解析の仕組みを、ひと通り学べる。ただし、証明は欠けているため、理論的な説明は不十分。

・すぐわかる統計用語、石村貞夫／デズモンド・アレン、東京図書、4489005229
統計学の理解に必要な用語を、おおよそカバー。図解も豊富で説明が分かりやすい。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによる多変量データ解析の手順（第3版）、石村貞夫、東京図書、4489007175
本授業の教科書の中級的な続編。数量データを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・SPSSによるカテゴリカルデータ分析の手順（第2版）、石村貞夫、東京図書、4489007051
本授業の教科書の中級的な続編。カテゴリカルデータを用いたやや高度な統計解析を、ひと通り実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

＜上級レベル＞
「将来、統計解析ができる専門家になりたいので、証明も含めてすべてを知りたい！」という人向け

・統計学入門、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420658
「中心極限定理の証明」、中心極限定理を用いた「仮説検定の証明」などが網羅されている。

・人文・社会科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420666
上の続編。標本調査法や重回帰分析、対数線形モデル、因子分析などを詳説。

・自然科学の統計学、東京大学教養学部統計学教室、東京大学出版会、4130420674
上の続編。ロジスティック回帰分析などを詳説。

・心理学のためのデータ解析テクニカルブック、森敏昭・吉田寿夫、北大路書房、4762801313
心理学実験データの解析のために、標本サイズが小さい場合でも使える検定法を含めて、基本的な統計的検定法を詳説。

・人文・社会科学のためのカテゴリカル・データ解析入門、太郎丸博、ナカニシヤ出版、4888489645
社会調査データの解析のために、対数線形モデルやロジスティック回帰分析など、カテゴリカル・データの統計解析法を詳説。

＜発展レベル＞
「将来、統計解析を駆使する専門家になりたいので、最新の手法を知りたい！」という人向け

・パネルデータ分析、北村行伸、岩波書店、4000099116
同一主体（企業・世帯・個人など）に対して複数時点にわたって調査して得られるパネル・データを、回帰分析するための手法を詳説。

・社会調査・経済分析のためのSPSSによる統計処理、劉晨・盧志和・石村貞夫、東京図書、4489007027
本授業の教科書の上級的な続編。パネルデータ分析などの高度な統計解析を、おおよそ実行できる。ただし理論的理解は他書で補うこと。

・基礎から学ぶマルチレベルモデル、Ita Kreft and Jan de Leeuw、ナカニシヤ出版、4779501237
マクロレベル（社会集団など）とミクロレベル（個人など）を組み合わせた回帰分析法を詳説。SPSS（混合モデル）での操作法も詳しく説明してある。

（備考）本授業では、いずれも購入する必要はない。一部は、図書館で「教員推薦図書」として取り揃えられる予定である。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本授業では、以下のオンライン・データベースやオフライン・データアーカイブを使用することがある（使用法は授業で説明する）。

・WVS（世界価値観調査World Values Survey）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:　http://www.worldvaluessurvey.org/

・ISSP（国際社会調査プログラムInternational Social Survey Programme）［データは即時ダウンロード可能（無料登録が必要）］:
http://zacat.gesis.org/webview/index.jsp

・ICPSR（政治・社会調査のための大学協会Inter-university Consortium for Political and Social Research）［立命の学生ならデータは即時ダウンロード可能（無料登録とメール認証が必要）］:　https://www.icpsr.umich.edu/cgi-bin/newacct
→　（JGSSのデータ）
http://search.icpsr.umich.edu/ICPSR/query.html?col=abstract&op0=%2B&tx0=japanese+general+social+surveys+(jgss)+series&ty0=p&fl0=series%3A&op1=-&tx1=restricted&ty1=w&fl1=availability%3A&op2=%2B&tx2=ICPSR&ty2=w&fl2=archive%3A&nh=50&rf=3

・SSJDA（東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センターSSJデータアーカイブSocial Science Japan Data Archive）［データは無料申請後にCD-Rで送られてくる（CD-R代と郵送費は申請者が負担）］:
http://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/
→　https://ssjda.iss.u-tokyo.ac.jp/datalist_g.html

また、講義中にも適宜紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

質問や連絡は、基本的には、授業中に直接申し出てください。
やむをえない場合は、下記のアドレスにメールを送信してください。その場合、セキュリティーソフトによるスパム誤認を避けるために、必ず、メールの件名を「立命統計、送信者の氏名（回生・学籍番号）」とし、「メッセージの重要度」を「高」にしたうえで（メール作成時にウィンドウ上部の「メッセージ」→「重要度」→「高」をクリック）、メールを送信してください。

送信先アドレス：　haruka_shibata@yahoo.co.jp

なお、授業の当日にメールを送信した場合、その日の授業までに私がメールをチェックできるとは限らないので、その点はご注意ください。
また、万一、メール送信後に私から一切の連絡が無い場合には、私のセキュリティーソフトによるスパム誤認によってメールが削除された可能性があるので、できるだけ早いうちに、授業中に私に直接、メールの件を確認してください（なお一度メールをやりとりした人は、アドレス変更がないかぎり、スパム誤認の可能性はありません）。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SD） § 情報処理（SD）

12785

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『PhotoShopとGoLive』:フォトレタッチとWebページ入門
Adobe PhotoShopによる写真などの画像処理と、Adobe GoLiveによるWebページを作成、公開するまでを学ぶ。デジタルカメラなどによる写真の撮影、PhotoShopによる写真の調整・加工、Adobe GoLiveによるWebページ作成、完成したWebページの公開を行い、プレゼンテーションを行う。
Webページを作成する講義としては、「入門」クラス。発展としては、『HTML+CSS+JavaScript』(SHクラス)がある。

到達目標 / Attainment Objectives

ネットワークの基礎知識。
画像処理の基本。
ソフトによるWebページ作成の基本。
Webページ公開の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基礎習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	写真の撮り方	画素数 画像保存形式 画像の取り込み
3	PhotoShop入門	(解像度、全体での明るさ、カラーバランス)
4	PhotoShop入門	(範囲指定／自動・マグネット中心、縁取り)
5	PhotoShop入門	(画像修正／赤目・パッチ・コピー・ぼかし・スポンジ・指)
6	PhotoShop入門	(フィルター／ギャラリー・シャープネス・描画(逆光))
7	PhotoShop入門	(画像合成・レイヤー／文字／切り抜き)
8	実習(1)	ポスター作成
9	実習(1)内覧	Webページの基礎 (ネチケット・ブラウザ・HTML)
10	GoLive操作法	(作成から保存)
11	実習(2)－1	Webページ作成
12	実習(2)－2	Webページ作成
13	リンク貼り	アップロード 更新
14	プレゼンテーション	(ページ紹介)
15	プレゼンテーション	(ページ紹介) まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定である。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SE）　§　情報処理（SE）

12745

担当者名 / Instructor　宮浦 崇

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、情報化社会の中で、個人のレベルにおいても対応することが不可欠となっている「情報セキュリティ」に関する「入門講義」として位置づけられている。講義は情報教室で受講者がPCを使用しながら、実習・実験を伴う形で行われる。「私は大丈夫」「私には関係がない」と思いがちな日常の情報コミュニケーション技術利用の落とし穴について、様々な具体事例を取り上げながら、受講者が授業時間内に実際にセキュリティー技術について確認する機会を設ける。情報セキュリティ意識を高め「自分の身を守る」ための知識習得の場としてほしい。

到達目標 / Attainment Objectives

1.情報化社会における「安全性」について考える端緒を得る。
2.インターネット利用に伴う「危険性」（脆弱性）をについて説明できるようになる。
3.被害者」「加害者」にならないための基本的な知識・スキルを身につける。
4.デジタルデータの著作権について理解し、情報発信を行うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI等の情報技術関係入門講義は履修済みであることが望ましい。
立命館大学の情報環境利用方法、コンピュータの基本操作、レポート作成レベルの文書作成技術（Word,Excel等）については一定習得済みのものとして講義はすすめられる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション（情報リテラシーIII共通）	
2	情報社会における「セキュリティ」とは（概説）	「情報セキュリティ」とは何か。今、何が問題になっているのかを理解する。
3	インターネットおよびWebサービスの仕組み	インターネットとはどのような技術によって成立しているのか、歴史的経緯を踏まえ理解する。
4	被害者・加害者にならないために1（コンピュータ犯罪の今昔1）	コンピュータ犯罪の事例を紹介し、そこに見える問題と、自らできる対策についての知識を得る。脅威となるWebサイト、サービスへの模擬接続と情報流出の状況確認。（実習）
5	インターネット上での「匿名性」「非匿名性」	「匿名」「非匿名」の実態について、アクセスログを用いて考える。アクセスログ解析、IPアドレス・ドメイン名によるトレース（実習）
6	コンピュータウィルスの脅威から身を守るために	コンピュータウィルスやネット上での危険要因についてその性格を理解し、対処の知識を得る。コンピュータウィルスの模擬作動実験（実習）
7	不正アクセス監視の仕組み（IDS）とファイアーウォール	実際のIDSシステムを見ながら、その有効性について考える。簡易IDSの構築（実習）
8	データの暗号化技術（1）	情報の保護という観点から、暗号化の方式、諸技術について理解する。暗号化作業（実習）
9	データの暗号化技術（2）	暗号化とその解読の具体的事例を見ながら、その有効性について考える。暗号解読の作業(実習)
10	情報セキュリティのための法律・諸制度・体制について	セキュリティ対策に関係する、昨今の取組についての知識を得る。
11	情報化社会における「著作権」（1）	現行著作権法に基づいた、デジタルデータの取り扱いについて学習する。各自の所持している「コンテンツ」（授業成果物・レポート・Webサイト等）の検証（実習）
12	情報化社会における「著作権」（2）	現行著作権法に基づいた、データの取り扱いについて学習。ルールに則ったコンテンツ作成（実習）
13	情報セキュリティビジネス	情報セキュリティをビジネスとする事例を見ることを通して、セキュリティのあり方を考える。
14	管理者およびユーザに求められる「情報倫理」	技術者としての倫理・ユーザとしての情報倫理について考える。
15	総括「情報セキュリティ」	情報セキュリティについて、各回学んだ知識を総括する。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義外学習をすすめたい者は個人的に質問に来るとよい。テーマに沿った文献・資料等を紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業時間内確認小テスト・小レポート、授業時間外課題、到達度確認テスト等を課す。(70%) また実習を伴う授業であるため、日々の参加姿勢をも含めた平常点評価とする。(30%)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義時間中に随時指示する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

講義時間中に必要な資料、文献等を随時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義時間中に随時紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

初回講義で指示する。

その他 / Others

情報リテラシーIII（SF） § 情報処理（SF）

12786

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SKクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SG）　§　情報処理（SG）

15333

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『コンピュータ教育（入門）』
教員をはじめ、コンピュータを教える立場になることを想定し、グループ学習やプレゼンテーションなどの実践を通じて、コンピュータ教育の技術や方法を探っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

コンピュータ教育法の基礎習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	コンピュータの基礎知識	ハード／ソフト／OS/アプリ／NET
3	教材作成の基礎	マニュアルとプリント・スクリーン
4	実習（1）－1	Windwos基本教室づくり
5	実習（1）－2	Windows基本教室プレゼン ディスカッション
6	実習（2）－2	Word基本教室づくり
7	実習（2）－2	Word基本教室プレゼン ディスカッション
8	Word/Excel/OLE/NET復習	
9	実習（3）－1	Excel基本教室づくり
10	実習（3）－2	Excel基本教室プレゼン ディスカッション
11	実習（4）－1	NET／OLE基本教室づくり
12	実習（4）－2	NET／OLEI基本教室プレゼン ディスカッション
13	コメント	
14	実習（5）－1	最終課題
15	実習（5）－2	最終課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	そのほかの実習課題、実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。
また、グループ学習への不参加は、大きな減点となる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上）あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
グループ課題などを作成するために、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SH）　§　情報処理（SH）

15393

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Webページ中級』：HTML～JavaScript
Webページを作成するために必要な基本知識と技術を総合的に身につける。
もっとも基本となるHTMLから、CSS（スタイル）、JavaScriptまで。

到達目標 / Attainment Objectives

NETの基礎知識。
Webページの基礎知識。
HTML、CSS、JavaScriptの基礎知識。
Webページ公開。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Webページの基礎	（ネチケット・ブラウザ・HTMLとCSSとJavaScriptの関係）
3	HTML入門	（html,head,body,h,p,br,div／保存・閲覧・更新）
4	HTML追加	（table）
5	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
6	CSS入門	（box,座標／box系,font系,img系）
7	実習(1)	基本的なWebデザイン・サンプル作成
8	JavaScript入門	（script,onClick,onMouseOverなどイベント）
9	JavaScript入門	（for／if）
10	JavaScript入門	（その他）
11	実習(2)－１	Webページ作成
12	実習(2)－２	Webページ作成
13	リンク貼り・アップロード・実習(2)－３	リンク貼り アップロード 更新
14	プレゼンテーション	（ページ紹介）
15	プレゼンテーション・まとめ	（ページ紹介）

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	Webページ（作品）とプレゼンテーション、採点など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後のプレゼンテーション及び採点まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要である。
素材撮影のために、デジカメあるいはカメラ付き携帯など(200万画素程度以上)が必要である。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
Webページ作成に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SI）　§　情報処理（SI）

15420

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『プログラミング入門』:Visual Basicによるプログラミングの基礎。
パソコン上の全ての機能は、プログラムによって提供されている。そのプログラム作成の最初歩を、簡単なゲームなどを学んでいく。同時に、プログラミングに於いて大切な思考と発想も身につけていく。
なお、プログラミング言語としては比較的初心者にも親しみやすい、Microsoft Visual Basicを用いる予定。

到達目標 / Attainment Objectives

プログラムの役割の理解。
プログラミングの基礎の理解。
プログラミングの基礎的な思考と発想の習得。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	プログラミング初歩	Hello World!! 操作の基礎 クリックとその反応
3	アニメーション（1）	移動による表現
4	アニメーション（2）	切り替えによる表現
5	計算と落とし穴	四則演算とその落とし穴
6	タイマーの作成	
7	実習（1）	クリックゲーム（VB風モグラたたき）の作成
8	プログラミングの思考（1）	素数を求める
9	プログラミングの思考（2）	計算の効率化
10	プログラミングの思考（3）	何が大切か
11	ゲーム・プログラミングのヒント	
12	実習（4）－1	オリジナル・ゲーム作り（1）
13	実習（4）－2	オリジナル・ゲーム作り（1）
14	実習（4）－3	オリジナル・ゲーム作り（2）
15	実習（4）－4	オリジナル・ゲーム作り（3） 検証と課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	実習課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『まなぶ・おしえるプログラミング〔まなぶ編〕』　　上出　浩　／ふくろう出版／4-434-04018-9 ／

上記の他、必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介る。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SJ）　§　情報処理（SJ）

15459

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Offce総合（中級）』：Officeソフト総合演習（Excel中心）
情報リテラシーI、IIに続く上級編。
Officeソフトの総合的な利用を目指すとともに、もっともよく使われるExcelのスキル・アップを図っていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実践な使用方法。
Excelの関数
Excelのデータベース機能。
Excelのマクロ機能の基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

情報リテラシーI及び情報リテラシーII。
もしくは、これらの科目終了と同等のスキル・レベル。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word・Excel・OLE復習	
3	Word発展（1）	スタイルとアウトライン／脚注／目次／ページ区切り
4	実習（1）	アウトライン
5	Excel発展（1）	Database オートフィルタ／並び替え／集計／フォーム
6	Excel発展（2）	Database 項目作成／vlookup
7	実習（2）	Database 仮想店舗売り上げ
8	Excel発展（3）	文字列操作(len,mid,find)
9	Excel発展（4）	Webデータの利用
10	実習（3）	検索実習
11	Excel発展（5）	マクロの基礎（1） 記録と保存
12	Excel発展（6）	マクロの基礎（2） 変数、繰り返し、if
13	実習（4）－1	課題
14	実習（4）－2	課題
15	実習（4）－3	課題提出

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	最終課題など。
平常点評価	40 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最終課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。

また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SK） §　情報処理（SK）

15460

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Illustrator』：イラスト作成の基礎 ...(SFクラスと同内容)
ドキュメント、Webページなど様々な場面で使われるイラストを、Adobe Illustratorを用い作成する。

到達目標 / Attainment Objectives

イラスト作成の基礎。
Illustratorの基本操作。
画像ファイルの基礎。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

パソコン操作の基本が習得されていることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	ペイントとIllustrator	(ビットマップ系とベクトル系) 画像形式
3	Illustrator 入門	(cmykとrgb／ブラシツール／オプション・バー)
4	Illustrator 入門 ＋ 実習(1)ポスター	(カラー／Web用保存)
5	実習(1)内覧 ＋ Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線)
6	Illustrator 入門	(ペン・ツール／ベジエ曲線／塗りと線)
7	Illustrator 入門	(レイヤー／その他)
8	実習(2)－1	携帯デザイン
9	実習(2)－2	携帯デザイン
10	実習(2)－3	提出、印刷、組み立て＝＞展示
11	写真の利用。	デジカメなどによる写真の利用。
12	最終課題	(作品集)
13	最終課題	(作品集)
14	最終課題	(作品集)
15	最終課題内覧・まとめ	(作品集)

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

課題作成などには、オープン・パソコンルームが使える。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	最終課題など。
平常点評価	30 %	実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後の作品発表及び評価まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ(256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必要。
課題作成があり、みずから自主的に進めなければならない部分がある。
課題に標準よりも時間がかかる場合、講義外にて作業を行う必要がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

情報リテラシーIII（SL） § 情報処理（SL）

15461

担当者名 / Instructor　上出 浩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『Office総合（入門）』: Officeソフト総合演習...(SAクラスと同内容)
「情報リテラシーI」や「情報リテラシーII」に続く中級編。
上級クラスは、『Office総合（中級）』(SJクラス)。
Microsoft Word、Microsoft Excelや、NETを別々の道具として使うのではなく、これらを組み合わせ、パソコンを効率的に使っていくにはどうすればよいかを学んでく。講義は、復習から始め、より実践的な総合演習へと進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

Windowsパソコンの基礎。
Officeソフトの基礎と応用。
特にExcelの実用的な使用方法。
パソコンの総合的な利用方法。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

講義は、情報リテラシーI及び情報リテラシーIIの復習を含んでいる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	スキルチェック ファイル操作復習
2	Word復習	(文字とオブジェクト／書式／プリント・スクリーンの利用)
3	実習（1）	パソコン・マニュアル
4	Excel復習－1	(位置関係／表と計算／絶対参照)
5	Excel復習－2	(表示形式／関数(sum,average,count,if)／グラフ)
6	Excel復習－3	(復習と応用)
7	実習（2）	Excelによる分析
8	Excel発展－1	(検索(vlookup)、文字列操作(len,mid,find))
9	Excel発展－2	(エラー処理(isna)／検索応用)
10	Excel発展－3	(復習と応用)
11	実習（3）	検索実習
12	OLE発展－1	(Web上のデータ利用／ペイント)
13	OLE発展－2	(リンク貼り付け)
14	実習（4）－1	課題
15	実習（4）－2	課題提出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

復習、課題作成などには、オープン・パソコンルームが使用出来る。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	最終課題など。
平常点評価	50 %	課題など。 実習状況など。

進度等により調整を行う。
最後課題まで到達しないと、単位は認定されない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

USBフラッシュ・メモリ（256MB程度以上)あるいはこれに類するものが必。
スキル・レベルにより、課題作成のために自習が必要な場合がある。

教科書 / Textbooks

必要に応じプリントなどを配布する。
また、教材などはオンラインで提供する。

参考書 / Reference Books

必要に応じ、講義中に紹介する。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じ、講義中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

心理検査法（S）

12787

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、テキストを用いて心理検査の基礎を学ぶ。心理検査の歴史と発展、その意義、心理検査における数量データのとらえ方について具体的に学習する。また、心理検査の実際について、知能検査法、発達検査法、人格検査法の中から代表的なものを取り上げ、それぞれの検査の意味と具体的手法について学び、教育・福祉分野においてどのように活用されるべきかを考察する力を養う

到達目標 / Attainment Objectives

心理検査の歴史、基礎となる考え方について正しく理解できる
・心理検査の数量的データの表す内容を考察できる
・心理検査の意義・特性を踏まえ、社会における活用法について考察することができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

心理学、臨床心理学、発達心理学：できるかぎり、事前に履修しておいて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	心理検査の種類と歴史	
	第2～5回　心理検査におけるデータ 標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓	
	第6回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法① 知能検査の開発と発展	
	第7回　心理検査の実際Ⅰ一知能検査法② ウェクスラー式知能検査	
	第8回　心理検査の実際Ⅱ－発達検査法① 新版K式発達検査法	
	第9回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法② 発達診断	
	第10回　心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③ 発達相談	
	第11回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法① 作業検査法	
	第12回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法② 質問紙法	
	第13回　心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③ 投影法	
	第14回　心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④ テストバッテリー	
	第１５回　まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理	
	オリエンテーション・心理検査の種類と歴史	
第2～5回	心理検査におけるデータ	標準偏差　回帰分析　相関係数　ルート機能のついた電卓を持参すること
第6回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法①	知能検査の開発と発展
第7回	心理検査の実際Ⅰ一知能検査法②	ウェクスラー式知能検査
第8回	心理検査の実際Ⅱ－発達検査法①	新版K式発達検査法
第9回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法②	発達診断
第10回	心理検査の実際Ⅱ一発達検査法③	発達相談
第11回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法①	

第12回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法②
第13回	心理検査の実際Ⅲ一性格検査法③
第14回	心理検査の実際Ⅲ-性格検査法④
第15回	まとめ一心理検査の活用と心理検査者の倫理

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	55 %	
平常点評価	45 %	毎回のコメントカードの提出状況および記述内容に見られる理解度や積極性。講義時間内に中間的に実施する小レポート。最低3回以上の出席を有効評価の基礎条件とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レポート試験として実施する。日常点評価は小レポートにおいて講義の理解度を問うものと、毎回のコメントカードの提出状況および記述内容によって行う。出席を重視するので、出席が規定回数に満たない場合はレポートを受理しない。出席回数規定については第1回の講義で説明する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
心理検査法入門一正確な診断と評価のために一	渡部　洋／福村出版／／講義内で使用する

参考書 / Reference Books

心理学についての基礎的な知識を得ていることが望ましい。具体例を用いて参加型の講義を予定しているので、出席を重視します。主体的積極的に参加してほしい。データ処理の基礎について学習するので、平方根（ルート）機能のついた電卓を用意すること。いわゆる『心理ゲーム』のようなものは扱わないのでそのつもりで受講してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間内のコミュニケーションペーパーを活用してください

その他 / Others

政策科学特殊講義（PA）§　法政特殊講義（JI）§　人文科学総合講座特殊講義I（LQ）§　特殊講義（各部門共通）I（RD）§　専門特殊講義（SP）§　特殊講義（WA）§　専門特殊講義II（SP）

13871

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	鳥取県　平井伸治知事	
第3回	和歌山県　仁坂吉伸知事	
第4回	岩手県　達増拓也知事	
第5回	福井県　西川一誠知事	
第6回	総務省　自治大学校　門山泰明校長	
第7回	大分県　宇佐市　是永修治市長	
第8回	今仲　康之先生	
第9回	読売新聞　論説委員　上田恭規氏	
第10回	三重県　野呂昭彦知事	
第11回	兵庫県　井戸敏三知事	
第12回	秋田県　佐竹敬久知事	
第13回	佐賀県　古川康知事	
第14回	今仲　康之先生	
第15回	神奈川県　松沢成文知事	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編)／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

政策科学特殊講義（PB） § 法政特殊講義（JK） § 人文科学総合講座特殊講義I（LR） § 特殊講義（各部門共通）I（RJ） § 専門特殊講義（SQ） § 特殊講義（WB） § 専門特殊講義II（SQ）

16549

担当者名 / Instructor　今仲 康之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

・本講義は、読売新聞社の援助により、各府県の知事や政令指定都市の市長などを本学にお迎えし、それぞれ現在取り組んでいる政策について講演をしていただく、リレー講義である。このため、講義全体として、統一的、体系的にものの考え方が示されるというものではない。

しかし、今日、グローバル化が進み、地球環境の保全が必要となり、情報化が進展し、少子、高齢化となりながら人口が減少するといった中で、地方公共団体は、的確な政策を策定し、地域の課題を解決していかなければならない。また、現在は、補完性の原理や近接性の原理が重要視されて、地方分権の意義が大きくなっている時代であるので、府県や市が、具体的にどのような政策を取るかは、住民にとっても、社会にとっても、さらに国の政策との関係においても、重要である。

そのため、各地域でどのような政策が取られているのかを知ることは、それが適切な政策なのかどうかという検討を含めて、大切なことである。

また、地方分権に関連しては、国と地方のあり方がどのようであるべきか、知事や市長の講演を通して、具体的に考えることができる。

以上のように、本講義は、知事や市長から、それぞれの政策や考え方を講演していただき、最近の地域を取り巻く状況を踏まえた具体的な政策を知り、それらを検討し、同時に、地方分権のあり方を考えていくものである

到達目標 / Attainment Objectives

・現在における地方公共団体の重要政策は何か、その内容を知り、その課題と解決方策のあり方を理解し、また、地方分権の必要性、そのあり方を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・政治学、行政学、経済学、財政学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	担当教員により、本講義について、その趣旨、目的、期待する効果に関し、説明する。	今年度の地方公共団体の重要政策について
第2回	前兵庫県知事　貝原俊民 氏	
第3回	岡山県　石井正弘 知事	
第4回	茨城県　橋本昌 知事	
第5回	山形県　吉村美栄子 知事	
第6回	広島県　湯崎英彦 知事	
第7回	徳島県　飯泉嘉門 知事	
第8回	滋賀県　嘉田由紀子 知事	
第9回	大阪府堺市　竹山修身 市長	
第10回	静岡県　川勝平太 知事	
第11回	前高知県知事　橋本大二郎 氏	
第12回	日本銀行 京都支店長　渋谷康一郎 氏	
第13回	名古屋市　河村たかし 市長	
第14回	奈良市　仲川げん 市長	
第15回	長野県飯田市　牧野光朗 市長	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	講義全体をとおしての理解度を評価する。
平常点評価	40 %	出席状況と小レポート（2回）により、それぞれの講義における理解度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・講師は、講演のためにお招きした各府県の知事、政令指定都市の市長などであるので、遅刻・早退はしないこと。また、私語・飲食は厳禁である。

知事・市長の講演は、それぞれ独立したものであることから、受講生は、政策の内容についてよく考え、積極的に質疑応答の中で質問もし、地方公共団体の政策のあり方について、自分の意見を形成していってもらいたい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

・本講義の内容から、教科書は特にありません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
テキストブック地方自治	村松岐夫(編)／東洋経済新報社 ／／
(図説)地方財政データブック	出井信夫・参議院総務委員会調査室(編) ／学陽書房／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・講義にお招きする知事・市長の府県・政令指定都市のホームページ
その中では、特に、当初予算に関する知事・市長の説明

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

・教員のEメールへ連絡してもらえれば、必要な連絡を取ります。

その他 / Others

精神医学（S） § 精神医学I（S）

12753

担当者名 / Instructor　辻 正之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころ」の働きやｽﾄﾚｽ、精神疾患、精神医療など「精神医学」の基礎論を学習します。

到達目標 / Attainment Objectives

「精神医学の基礎となる知識を習得し、概念を理解して、それらを説明できる」水準への到達を目標に致しましょう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
①4/12	授業の概要と導入（科目のｶﾞｲﾀﾞﾝｽ）	ｼﾗﾊﾞｽ、「こころ」の働き、ｽﾄﾚｽ、精神疾患、診断分類、ﾁｰﾑ医療
②4/19	精神科診断(1) 最初の診察・面接	主訴、精神的現在症、問診、聴くこと
③4/26	精神科診断(2) 精神症状	知覚、思考、感情、意欲・行動、表情、自我
④5/10	統合失調症	妄想、幻覚、解体した会話/行動、感情の平板化、4A症状
⑤5/17	気分障害	躁うつ病、躁病、うつ病、内因性、心因性
⑥5/24	神経症 ICD-10の疾病分類	葛藤、不安、ICD-10
⑦5/31	ﾊﾟｰｿﾅﾘﾃｨ障害 思春期の精神障害	同一性、思春期心性、登校拒否、対人恐怖、摂食障害
⑧6/7	老年期の精神障害	老化、対象喪失、認知症、老年期うつ病
⑨6/14	特別講師「講義」：崔秀賢 岩倉病院長	精神医療・精神科病院の歴史、開放医療、「病院」と「地域」
⑩6/19（土）	精神保健ｽﾀｯﾌに求められる技能 ご意見の交換	精神症状、効果的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ、BPRS
⑪6/21	特別講師「講義」：大谷和世 岩倉病院副看護部長	精神科看護、「こころ」と「身体」、医療現場の実際
⑫6/28	精神療法	精神療法的態度、精神療法的技法、治療ﾒｶﾆｽﾞﾑ、治療的変化、治療構造
⑬7/5	精神科薬物療法 「腕試しﾃｽﾄ」(7/19)の事前説明	向精神薬、ﾌﾟﾗｾﾎﾞ、作用要因、「転移」と「逆転移」
⑭7/12	「ｽﾄﾚｽｹｱ病棟」と職場のﾒﾝﾀﾙﾍﾙｽ	ｽﾄﾚｽｹｱ病棟、うつ病、ﾁｰﾑ医療
⑮7/19（海の日）	45分間の腕試しﾃｽﾄ+45分間の講義（事後説明・解説、科目のまとめ）	ｼﾗﾊﾞｽのﾚﾋﾞｭｰ、「到達目標」と「自己評価」

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

①ﾃﾚﾋﾞや新聞の精神医療・精神保健など「精神医学」に関する報道などにも関心が持てれば更に良いと思います ②授業内では症例もご提示します。秘密の保持には十分、ご配慮ください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①授業時間内に書いて頂く簡単なﾚﾎﾟｰﾄに対する評価に加えて、受講状況による加点を行ないます→全評価中の65%に充当します ②第15回授業(7/19)で45分間の「腕試しﾃｽﾄ」を行ないます→全評価中の35%に充当します

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

白紙の状態で受講して頂いて構いません。授業内で集中的に学習を致しましょう。

教科書 / Textbooks

ﾃｷｽﾄは用いません。必要時に、ﾚｼﾞｭﾒなどを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ストレスとうつ	徳永雄一郎 ／ 西日本新聞社／／特に第5,8,14回の授業内容の理解を深めたいときの参考書的新書です。
事例で学ぶSST	高柴哲次郎／日総研出版／／特に第3,4,10回の授業内容の理解を深めたいときの参考書です。

禅的森田療法	宇佐晋一／三聖病院 ／／森田療法を原法に忠実に継承して来られている臨床医の貴重な「ｴｯｾｲ」と「日記指導実例」です。

上記の3冊は気軽に読める書籍です。
授業の理解にだけではなく、ご自分自身の健康維持にも役立つかもしれません。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

岩倉病院　http://www.toumonkai.net/
不知火病院　http://shiranui-byoin.or.jp
日本精神神経学会　http://www.jpsn.or.jp
日本うつ病学会　http://www.secretariat.ne.jp/jsmd/
日本統合失調症学会　http://square.umin.ac.jp/jssr05/index.html
日本不安障害学会　http://www.jpsad.jp/
日本精神分析的精神医学会　http://www.jaapp.jp
日本森田療法学会　http:www.jps-morita.jp/index.html
福岡BPRS評価ﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ協会　http://www.dia-net.ne.jp/~bprs/home.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

精神科リハビリテーション学（S）　§　精神リハビリテーション学II（S）

12887

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神障害という病気になった人が、自身の病気と向き合いながら社会生活において人間らしく生活していくことを援助するかが精神科リハビリテーションです。

精神科リハビリテーション学は精神保健医療福祉全般にかかわる領域であることから、病気の経過、機能回復の訓練、さらに、精神科リハビリテーションの経緯、多職種連携のなかで精神保健福祉士としてどう取り組むのかという視点を得ることを目的とします。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として障害者の視点に立って、精神科リハビリテーションにどう取り組むかの視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	障害者リハビリテーションの概念	リハビリテーションの概念、歴史、分野
3	障害者リハビリテーションの理念、意義と基本原則	ADLからQOLへ、ノーマライゼーション、国際機能分類
4	障害者リハビリテーションの理念と意義	WHOの理念、基本原則と技法
5	精神科リハビリテーションの構成①	精神科リハビリテーションの対象、専門職種との連携、
6	精神科リハビリテーションの構成②	精神保健福祉士の役割、精神科リハビリテーションの施設、関連領域
7	精神科リハビリテーションのプロセス	リハビリテーション計画、アプローチの方法
8	医療機関におけるリハビリテーション①	作業療法、レクルエーション療法、集団精神療法、行動療法、
9	医療機関におけるリハビリテーション②	認知行動療法と社会生活技能訓練、家族教育プログラム、
10	医療機関におけるリハビリテーション③	デイケア、ナイトケア、精神科退院時指導、退院前訪問、訪問看護・指導
11	医療機関におけるリハビリテーション④	地域移行支援
12	精神保健福祉士が行うリハビリテーション	医学的リハビリテーションと社会的リハビリテーション
13	精神科リハビリテーションの総合化	地域リハビリテーション、職業リハビリテーション
14	精神保健福祉施策の展開	わが国の現状と課題、諸外国の現状と課題
15	総括講義　点検試験	精神科リハビリテーションの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「精神科リハビリテーション学」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-3153-3／2,700円（税別）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyou.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神障害リハビリテーション論（S） §　精神リハビリテーション学I（S）

12752

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人生の途上で精神障害と出会った人が、その障害と向き合い価値ある人生を創造することを科学的に支援する取り組みが精神科リハビリテーションである。この授業では、統合失調症圏を中心に精神障害者の社会参加支援の実際についてふれ、精神障害の生活と支援をどう理解するのかを学び、精神科ソーシャルワーカーとして精神障害者のリハビリテーションに取り組む視座とスキルを明確にする。

到達目標 / Attainment Objectives

生活モデルに立脚しながら精神科リハビリテーションに取り組む専門職として精神科ソーシャルワーカーに求められる視座を育てる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神医学
精神保健福祉援助技術総論・各論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション：精神科リハビリテーションと精神保健福祉支援の歴史	地域居住プログラム、退院患者クラブ
第2回	精神障害者の生活実態	生活困難状態　援助必要性
第3回	精神科リハビリテーションの対象①ー統合失調症圏を中心にー	精神障害　特性　認知の障害　統合の障害
第4回	精神科リハビリテーションの対象②ー統合失調症圏を中心にー	生活の仕方の障害　対人関係の障害　働くことの障害
第5回	精神科リハビリテーションの対象③－神経症圏を中心にー	不安　自己尊厳　自己肯定
第6回	リハビリテーションの場とプロセス①―病院、診療所－	SST、デイケア
第7回	リハビリテーションの場とプロセス②－地域支援機関－	保健所、危機、アウトリーチ　コミュニティ
第8回	リハビリテーションの場とプロセス③－就労－	過渡的雇用、雇用管理、ジョブコーチ
第9回	専門職としてのスタンス	場の力動　エンパワメント
第10回	長い入院とリハビリテーションー当事者へのアプローチー	院内寛解、認知障害、施設症
第11回	親へのアンビバレントな感情や行動とリハビリテーションー家族のアプローチー	EE、危機介入
第12回	地域での生活と支援	ハードな資源　ソフトな資源　当事者の役割　市民の役割
第13回	リハビリテーションとピアスタッフ	セルフヘルプ　ピアスタッフ　ピアアドボケーション
第14回	共同作業所実践が築いてきたリハビリテーションモデル	なかま　当事者観　フレンドシップ
第15回	総括講義　点検試験	精神科リハの課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況ならびに講義への積極的参加を評価する。 なお、授業終了時の点検試験は、評価の50%を占める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーション学	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-2813-7／

教科書は、精神科リハビリテーション学と共通

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神科リハビリテーションケースブック	野田文隆　寺田久子／医学書院／4-260-11883-8　C3047／
精神障害リハビリテーション学	蜂谷英彦　岡上和夫　他／金剛出版／4-7724-0663-8／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神障害者の人権とくらし（S） § 精神保健福祉論II（S）

12777

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉士としての基礎的な知識といえる精神障害者の視点に立って人権とは何かとそれを権利擁護する精神保健福祉士の役割について、その現状と課題を取り上げる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉士として、精神障害者の人権をどう保障するか。そのためには客観的な視点がどう必要かを理解し、精神保健福祉士としての共通認識基盤の確立を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	自己紹介、授業の到達目標、進め方
2	障害者の人権保障	世界人権宣言、国際障害者年、障害者感の変遷
3	精神障害者の人権保障	精神疾患を有する者の保護及びメンタルヘルスケアの改善のための諸原則
4	わが国における障害者の人権保障の枠組み	障害者基本法、障害者プラン
5	精神医療における権利擁護①	インフォームド・コンセント、病院内の審査体制
6	精神医療における権利擁護②	精神医療審査会、実地指導・実地審査
7	権利擁護と市民運動	精神医療オンブズマン
8	人権侵害の現状	宇都宮病院事件、大和川病院事件
9	権利擁護の取り組み	欠格条項、青年後見制度、アドボカシー
10	偏見・差別・スティグマ	権利擁護の担い手としてのPSW
11	精神保健福祉援助活動①	精神科病院での相談援助
12	精神保健福祉援助活動②	地域（保健所等）での相談援助
13	精神保健福祉援助活動③	災害時の相談援助
14	精神保健福祉士の役割・課題	PSWのアイデンティテイ
15	「検証テスト（確認テスト）」と「解説」	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉士養成講座「第4巻　精神保健福祉論」	日本精神保健福祉士養成校協会／中央法規／978-4-8058-3154／定価2，835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyo.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神保健学（S） § 精神保健学I（S）

12737

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「こころの時代」といわれて久しいが、現代社会は複雑な社会背景から、いじめ・虐待・自殺などさまざまな問題が発生している。特に自殺者は1998年以後12年連続で3万人を越えている中、自殺者の多くがうつ病などの精神疾患が原因と言われている。

多くの現代人は常に様々なストレスを感じており、こころの健康を害しやすくなっている。

現代社会での生活とストレスは常に近くに接しており、ストレス社会と言われる所以でもある。

精神保健には、幼少期から老年期までの人生のライフサイクルにおいて、家庭、学校、地域、職場などの生活・環境の視点からの理解が必要不可欠であり、ただ単に病気の予防、再発防止、自立的生活の維持だけでなく、広く国民全体の精神保健の保持、増進の必要性について知識が必要となってくる。

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルにおける精神保健の問題や課題についての取り組みについて学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

本教科では精神保健の基礎知識を通じて、ライフサイクルを通じての精神保健の問題や課題についての取り組みを学び、精神保健福祉士としての概要を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	授業の到達目標・進め方
2	精神保健の概要・意義と課題	WHO憲章、わが国の現状と課題
3	ライフサイクルにおける精神保健①	胎児期・乳幼児期における精神保健
4	ライフサイクルにおける精神保健②	学童期・思春期における精神保健
5	ライフサイクルにおける精神保健③	青年期・成人期における精神保健
6	ライフサイクルにおける精神保健④	老年期における精神保健
7	精神障害者対策	歴史と障害者自立支援法・課題
8	アルコール関連問題対策	アルコール関連問題とは・健康日本21
9	薬物乱用防止対策	薬物乱用の現状・特徴・対策
10	地域精神保健対策	危機介入・アウトリーチ
11	家庭における精神保健	少子高齢化・児童虐待・DV
12	学校における精神保健	不登校・いじめ・学校精神保健の課題
13	職場のメンタルヘルス	職場のメンタルヘルス・4つのケア
14	諸外国における精神保健	イタリア・オーストラリア・カナダの精神保健施策
15	検証テストと解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	出席状況と受講態度（発言内容を含）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講終了後、教科書で確認を。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・精神保健福祉養成講座　第2巻「精神保健学」	日本精神保健福祉士養成校協会　／中央法規 ／3152／定価2,835円（税込み）

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mail: morii@hyoseikyo.jp で連絡してください。

その他 / Others

精神保健福祉コミュニティワーク（S） § 精神保健福祉援助技術各論II（S）

15440

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者の生活支援を行うにあたって基本となる個別援助技術、集団援助技術を踏まえたうえで、コミュニティワークの実践の質をより深めるために必要な間接援助技術やその他関連援助技術のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・間接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉、精神保健福祉科目を履修しているか、その知識があることを前提とする。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	コミュニティワークとは	時代に応じた概念の変化
2	精神障害者を対象とした地域援助技術	ソーシャルワーク・リサーチ
3	間接援助技術の内容と機能	ソーシャル・プランニング
4	関連専門援助技術について1	心理療法・面接技法
5	関連専門援助技術について2	家族療法・家族支援
6	地域福祉の枠組み	地域福祉をめぐる考え方の違い
7	これからの地域福祉	ボランティア活動、セルフヘルプグループへの支援
8	コミュニティワークの理論①コミュニティ・ディベロップメント	イネーブリング、セツルメントとパターナリズム、ラジカル・ワーカー
9	コミュニティワークの理論②ポリティカル・エンパワメント	多元的世界観、マイノリティの参加と社会の安定
10	コミュニティワークの理論③プランニング	新しいプランニング理論
11	コミュニティワークの理論④プログラム・ディベロップメント	インターグループワーク、多元主義と資源配分
12	コミュニティワークの理論⑤コミュニティ・リエゾン	ボランタリズム、当事者参加促進策
13	実習	京都市内の施設見学
14	まとめ	
	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉の現状と課題（S） § 精神保健福祉論III（S）

15367

担当者名 / Instructor　森井 俊次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業は、精神科ソーシャルワークに求められる障害者観や実践観につき講義するものである。精神障害当事者の人権を保障する働き手となる精神科ソーシャルワーカーに求められる障害者観や実践観、さらに実践上の現状と課題をとりあげる。

到達目標 / Attainment Objectives

精神保健福祉上の切実な要求を持つ人の人権を保障する為に必要な障害者観や実践観を理解し、政策や実践課題に関心を持つ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神障害者観と精神保健福祉の流れ	隔離収容政策　スティグマ　パターナリズム
第2回	PSWと精神障害者の地域生活	危機　連携　包括的地域生活支援
第3回	パートナーとしてのPSW　実践の価値	パートナー　フレンドシップライン
第4回	精神障害者と精神科医療	法34条　受療アクセス
第5回	精神障害者と精神科医療	社会的入院　施設症　当事者ニーズ
第6回	精神障害者と暮らしの場	家族　グループホーム　ケアホーム
第7回	精神障害者といこいの場	なかま　自治　自律
第8回	精神障害者と就労	就労支援　ジョブコーチ　適応から参加
第9回	青年期の課題を持つ当事者達と支援	ひきこもり　摂食障害　リストカット
第10回	災害・事故の被害と支援	トラウマ　PTSD　災害支援
第11回	触法精神障害者と回復支援	池田小学校事件　医療観察法
第12回	他の精神保健福祉ニーズを持つ人の生活と支援	薬害HIV　遺族
第13回	当事者からの発言	薬害HIV遺族
第14回	当事者からの発言	統合失調症　ひきこもり
第15回	総括講義　点検試験	精神保健福祉の政策的課題

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終講義日に試験に代わるレポート課題を提起し、即日作成。 講義は、議論を重視する。積極的に議論に参加すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

☆欠席等で入手できなかった配布資料は自己責任で入手すること。
☆精神障害者に関わる議論すべき事例が生じた時には講義計画を変更する。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めないが、講義内で紹介した書籍には必ず目を通すこと

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために―介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／4-87699-840-x／
障害者のくらしはまもれるか	中内福成、植田章、田中智子、井上泰司、峰島厚、山本耕平／かもがわ出版／4-7803-0047-9　／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉援助演習（S）

14152

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

精神科ソーシャルワーカーの養成において重要な役割を果たすのが精神保健福祉援助演習である。精神保健福祉に関する他の科目で学んだ理論を、教員と学生の共同作業により具象化し、精神科ソーシャルワーカーの専門性（価値・倫理、知識、技術）を培う。当事者の生活と権利を護り、当事者のパートナーとして実践を展開するために必要な倫理や価値、さらに技術をディベート、グループワーク、ロールプレイ等々を活用し獲得することを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

①揺れながら共に学び、共に育つ。
②討論できる精神科ソーシャルワーカーとして育つ。
③生きづらさを持つ個々の精神障害者と同様の課題を持つ仲間達が、社会に参加する力を獲得するプロセスを提示できる力を獲得する。
④専門性を獲得する為に自己に求められている課題と対峙する力を獲得する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉実習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	援助演習の約束　自己開示
第2回	精神障害者の生活と支援①	KJ法　当事者理解
第3回	精神障害者の生活と支援②	リフレーミング　ストレングス
第4回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル①	話す人としての役割　聞く人としての役割
第5回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル②	バイスティック7原則　循環的関係
第6回	支援関係形成とコミュニケーション・スキル③	非言語的コミュニケーション　ロールプレイ
第7回	課題の発見・分析と支援計画①　－統合失調症－	マッピング技法　ICF　資源
第8回	課題の発見・分析と支援計画②　－アディクション－	マッピング技法　家族支援
第9回	課題の発見・分析と支援計画③　－思春期・青年期－	マッピング技法　家族システム　多機関連携
第10回	保健所におけるソーシャルワーク事例	危機対応　受療支援　退院促進
第11回	精神科病院におけるソーシャルワーク事例	権利擁護　家族調整　住居設定
第12回	社会復帰施設におけるソーシャルワーク事例	柔らかな危機対応　自立支援　結婚　スティグマ
第13回	自己覚知	自身の長所・短所　ゲーム　他己紹介
第14回	自己覚知	強さに視点をあてた自己理解
第15回	前期のまとめ	実習前課題
第16回	グループワーク①	SST　日常生活場面　デイケア
第17回	グループワーク②	心理教育　統合失調症圏　思春期・青年期圏　アディクション圏
第18回～第23回	スーパービジョン	限界と課題　自己の可能性
第24回～第29回	各領域でのソーシャルワーク	実習報告
第30回	まとめ	精神保健福祉士としての価値

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習への参加回数と参加意欲で判断する

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として育っていく為に、常に当事者の暮らしに関心を持って欲しい。
②この演習は、精神障害者の生活支援スキルを学ぶことを目的としており、各自の悩みを解決する場ではない。

教科書 / Textbooks

なし

参考書 / Reference Books

授業のなかで指示する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉援助技術各論（S） § 精神保健福祉援助技術各論I（S）

12780

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、精神障害者を対象とした直接援助技術（ケースワーク、グループワーク）について学び、援助技術を習得することを目的とする。講義では、直接援助技術の実践に必要な理論を学び、演習によってこれを体験することで、社会福祉援助活動について総合的に理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

・直接援助技術の理論、技法、展開について説明できる
・習得した知識を実践に応用できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	ケースワークとグループワークについて
2	ソーシャルワークの周辺理論①	交流分析
3	ソーシャルワークの周辺理論②	防衛機制
4	精神障害者を対象としたケースワーク①	面接の意味と目的
5	精神障害者を対象としたケースワーク②	面接技法
6	精神障害者を対象としたケースワーク③	記録の内容
7	精神障害者を対象としたケースワークの展開①	インテーク、アセスメント
8	精神障害者を対象としたケースワークの展開②	プランニング、モニタリング、評価
9	事例検討	ケアマネジメント計画
10	精神障害者を対象としたグループワーク①	歴史、目的
11	精神障害者を対象としたグループワーク②	メンバーの選択、グループワークの準備
12	精神障害者を対象としたグループワーク③	グループワークの始め方、規範の形成
13	グループの発展段階と構造	発展の5段階
14	グループへの介入、評価、終結	個人・環境への介入、グループの葛藤
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉援助実習（S）

14153

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉援助実習は、通年の授業と180時間以上の現場実習で構成されている。現場実習は、精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）として、精神障害者の伴走者となる初めての体験である。180時間という限定された時間であるが精神障害を持つ当事者や家族と直接関わるなかで、講義で学んだ理論や演習で間接的に体験した知識を活用することが求められる。その直接的な関わりのなかで、専門職としてのスキルや価値、倫理を高め、支援者として自らの課せられている課題を知ることが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神障害者の生活課題を理解し、地域生活支援のありかたにつき考察する力を獲得する。
②医療・生活の現場における専門職の実践課題と現状につき分析する力を獲得するする。
③支援者として自らが求められている課題を明確にできる。
④最低限の倫理や義務につき理解し護ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

精神保健福祉援助演習は本科目と同時に履修しなければならない。
他の精神保健福祉士課程専門科目をできるだけ事前に、もしくは本科目と同時に履修する必要がある。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション	実習の意義　目的　一年間の課題
第2回	事前学習の内容と方法	現場が求めている実習生　現場が求めない実習生　実習に期待すること　KJ法
第3回	事前学習①－実習計画立案にあたって①－	実習先の情報収集　実習報告からの学び
第4回	事前学習②－精神障害者と家族に関する文献学習－	精神科医療　精神保健福祉　家族間力動　偏見
第5回	事前学習③－精神障害者の地域生活資源に関する文献学習	精神保健福祉法　自立支援法
第6回	実習計画の立て方	目的、意義、目標、課題、評価方法
第7回	実習計画の発表	目的　意義　目標　課題
第8回	実習計画の再発表	目的　意義　目標　課題
第9回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践①	パートナーシップ　バウンダリー
第10回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践②	抵抗　逆抵抗　共感　自己覚知
第11回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践③	マイクロカウンセリング技法
第12回	精神科ソーシャルワーカー（精神保健福祉士）の視点と実践④	バーンアウト要因
第13回	実践と記録	客観的描写　自己評価　気づき（課題発見）
第14回	実習生の心得	倫理、課題、スーパービジョン
第15回	実習直前ガイダンス	手続き、必要書類、様々な状況への対処
第16～17回	実習の振り返り	当事者　支援者　自己　地域
第18～23回	実習報告	実習概要　学び　成長　今後の課題
第24～26回	実習報告会	報告の準備、報告
第27～29回	共通課題についてのグループ演習	視点　対処法　倫理　自己覚知など
第30回	総括的演習　まとめ	今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

実習前に、実習施設を訪問し、オリエンテーションを受けるとともに、実習計画について相談する。
前期には、実習に関連する事前学習を行い、その内容の発表準備とレポート作成が必要。また、実習計画書の作成は必須。後期には、実習についてのクラス発表の準備、実習報告会の準備、実習報告書の作成を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	演習活動への参加、事前学習レポート、実習計画、実習報告、実習記録などを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①文献学習とは、各自が文献を検索し、自己学習結果を報告することを意図する。
②実習計画は、グループで発表し指摘を受けた項目を考慮し再発表する機会を与える。
③実習には、受講生が主体的に取り組むことがなによりも求められる。

教科書 / Textbooks

指定しない

参考書 / Reference Books

授業進行と共に紹介する

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神保健福祉論（S）　§　精神保健福祉論I（S）

12878

担当者名 / Instructor　塩満 卓

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神保健福祉論の原論としてとらえる。精神保健福祉論は、精神保健福祉士養成の指定科目の1つとして創設された科目である。しかし、本講義は、精神保健福祉士養成の基礎的な知識の教授を目的とせず、我が国の精神障害者をめぐる政策、実践、運動を捉える視座を獲得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神障害者福祉の政策背景を歴史的に探る力を獲得する
②精神科ソーシャルワークの原則を理解する力を獲得する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害者福祉論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	精神障害者福祉の歩み-1	宗教治療　ゲールと岩倉村　私宅監置　精神病者監護法
2	精神障害者福祉の歩み-2	呉秀三　精神病院法と侵略戦争
3	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策－1	精神障害者とハンセン病者政策　ロボトミー
4	精神障害者福祉を阻んだ棄民政策－2	精神病者建設拍車　民間精神科病院優位
5	ライシャワー事件と精神衛生法改正	ライシャワー　スティグマ　マスメディア　通報制度拡大
6	日本における精神病院スキャンダルへの国際的批判	宇都宮病院事件　ICJ,ICHPの合同調査
7	精神保健法の意義と役割	精神医療審査会　社会復帰施設
8	1991年国連原則とわが国の現状の乖離	日本国憲法　治療に参加する権利　地域で生きる権利
9	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援－1	権力の行使　福祉施設と排除　共同
10	「自由こそ治療だ」ジル・シュミットのレポートから学ぶ精神科支援－2	患者との向き合い　精神科病院解体　地域
11	なぜ、地域移行が困難かーわが国の精神保健福祉の課題ー	改革ビジョン　グランドデザイン　自立支援法
12	なぜ、病院施設内に住まいを建設するのかーわが国の精神保健福祉の課題ー	中間施設　排除と囲い込み　福祉ホームB　グループホーム　退院支援施設
13	なぜ、家族が保護義務を背負うのかーわが国の精神保健福祉の課題ー	家族　保護義務
14	地域で精神障害者が暮らす政策について	働く場　住む場　憩う場　医療　危機介入
15	まとめの授業　確認試験	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
精神障害をもつ人が地域でくらしていくために 介護保険統合論と、求められる社会的支援	山本耕平／かもがわ出版／978-4-87699-840-1（4-87699-840-X）／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
自由こそ治療だ	ジル シュミット、Sil Schmid、半田 文穂／社会評論社／4784501819／
精神病院を捨てたイタリア 捨てない日本	大熊一夫／岩波書店／4000236857／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義I（SA） § 専門特殊講義（SA）

15341

担当者名 / Instructor　有賀 郁敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

＜サッカーワールドカップ・スポーツイベントを通じて世界と日本を捉え返す＞

今年はカナダ・バンクーバーで冬季五輪、南アフリカでサッカーワールドカップといった具合に大規模なスポーツイベントが開催される。これらメガ・イベントは、さまざまなメディアを介して、またグローバル資本の後押しによって、地域はもとより国境を越えグローバルに展開している。それゆえ国家という枠組みでの活躍を期待する国民と、グローバル志向のプレーヤーや資本との間に軋轢すら生じている。また、カナダ、南アフリカともに、こうしたイベントを通じて国民国家内部の多様性あるいは権力関係も浮き彫りにされる。つまりスポーツは、ある種のグローバル政治・経済・社会・文化の課題を象徴的に映し出す鏡でもある。

本講義では、このような問題意識から、讀賣新聞、讀賣テレビの記者・アナウンサー、世界や日本の第一線で活躍されているトップ・プレーヤー、コーチ、役員そして大学教員らが共同して、スポーツイベントの内実を多面的にフォーカスする。

到達目標 / Attainment Objectives

①スポーツ、スポーツイベントに内在する多様な意味を理解することができる
②スポーツと政治、経済、社会、文化との関係を自覚的に捉えることができる
③スポーツメディアの実態について関心と理解を高めることができる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ、スポーツイベントを考える	サッカーワールドカップ、オリンピック、万国博覧会、新しい社会運動
2	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編①＞	讀賣新聞東京本社（川島健司運動部次長）
3	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編②＞	讀賣新聞東京本社（軍地哲雄運動部記者）
4	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編③＞	讀賣新聞大阪本社（山口康博運動部記者）
5	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編④＞	讀賣新聞大阪本社（平野和彦運動部記者）
6	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜新聞編⑤＞	讀賣新聞大阪本社運動部記者
7	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編①＞	讀賣テレビ（安藤充編成局スポーツ制作センタースポーツ部プロデューサー）
8	スポーツイベントとメディアの役割・機能＜テレビ編②＞	讀賣テレビ（小澤昭博編成局アナウンス部アナウンサー）
9	スポーツとメディア、新しい社会運動①	川口晋一（産業社会学部准教授）
10	スポーツとメディア、新しい社会運動②	日本視覚障害者サッカー協会（松崎英吾事務局長）
11	トップスポーツの世界 ― 現状と課題①:トップチームの高度化システム	漆原良（産業社会学部准教授）
12	トップスポーツの世界 ― 現状と課題②:トップチームの技術指導	韓国ナショナルチーム指導者
13	トップスポーツの世界 ― 現状と課題③:トッププレーヤーの視点	サッカー日本代表プレーヤー
14	世界と日本のスポーツ政策の現状と課題	権学俊（産業社会学部准教授）
15	再びスポーツ、スポーツイベントを考える	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。またプレーヤー、指導者の都合により講師自体の変更もありうる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	到達目標を踏まえた叙述内容 講義内容を踏まえた叙述内容 ＊原則として、出席回数＝授業内リポート提出数が規定以下の場合は採点対象外とする。
平常点評価	60 %	出席（2/3以上） 講義の中で書く授業内リポートの提出数（2/3以上）と内容 ＊科目担当者の判断で、受講生に授業内リポート用紙配布をしない場合がある。（例）私語

成績評価に関しては、初回の講義で科目担当者より説明し、受講生の了解を得ることとする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考書は、必要に応じて紹介するが、スポーツあるいは文化イベントに関する文献を読んでおくことが望ましい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

本講義は、学外のゲスト講師を多数招聘する。
講義中の「私語」は認めない。

専門特殊講義I（SD） § 専門特殊講義（SD） § 特殊講義（総合）（VA）

12812

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

NHK講座　放送の営みと現代的変容：「龍馬伝」、政権交代報道、メジャーリーグ中継まで第一線の現場からの報告。本講座では、日本の公共放送が現在どのような状況におかれているのかについて、日本放送協会の経営、制作、技術の現場から、最新の動きを学びとることを目的にしている。15回のシリーズで行うこの講義には、海外のメジャースポーツ、国際報道、最新のデジタルテクノロジーの開発など、国内外の一線でニュースジャーナリズム、番組制作現場などで活躍する講師が講義を担当する。

※2010年度の本講座は、キャンパスプラザ京都ではなく立命館大学衣笠キャンパスで開講されますので、注意してください。また、授業は毎週金曜日16:20～17:50実施を基本としますが、4月30日と5月7日は休講とします。代わりに、6月26日と7月17日の土曜日、13:00～14:30に授業を行います。

※講師とテーマは都合により変更になることがあります。

※本講義受講希望者は、開講までに「めざせ会社の星」を必ず視聴したうえで、アンジャッシュおよび担当プロデューサーへの質問を考え、初回（4月9日）の講義時に提出してください（形式自由。所属大学・学部、学生証番号、氏名とあわせてA4用紙に記入のこと）。なお、この質問レポートは、成績評価時の参考とします。

到達目標 / Attainment Objectives

放送に興味を持っている学生から、将来、放送の現場を担いたいと希望する学生まで、幅広く興味関心を満たせる内容となっており、この講義を通じて、放送のあり方、放送の将来展望について考える力をつけてもらいたい。また講義では、毎年恒例で、受講生からも評価が高い、「受講生自身が放送番組の企画提案書を書く」という実践的な課題にも取り組んでもらうこととしており、提出された番組企画案には、制作のプロフェッショナルが丁寧にコメントを書いて、個別にフィードバックされることになっている。これを通じて、番組を制作する視点を、受講生自らが擬似的に体感してもらうことができる。受講生には制作者の立場をより身近なものとして理解・批評する力を身につけてもらうことが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
4月9日	大河ドラマ「龍馬伝」が放送されるまで ～企画開発から放送まで～ （講師：土屋勝裕／制作局ディレクター）	
4月16日	NHK番組編成の三本柱（その1）エンターテインメント 「めざせ会社の星」制作の現場から ～出演者とプロデューサーによるこの講義だから聞ける裏話～ （講師：山本隆之／名古屋局チーフプロデューサー、特別講師／アンジャッシュ）	
4月23日	NHK番組編成の三本柱（その2）スポーツ 海外スポーツ中継の魅力 ～MLB、MBAと多様なスポーツ中継の魅力～ （講師：奥野慶太／報道番組センターチーフプロデューサー）	
5月14日	NHK番組編成の三本柱（その3）ニュース 衆議院選挙はどのように報道されたか ～「政権交代」09年衆議院選挙報道の取組み～ （講師：松井裕子／京都局記者）	
5月21日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その1） 受信料と公共放送 ～なぜ受信料は必要なのか？そして世界の公共放送と何か違うのか～ （講師：長村中／営業局）	
5月28日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その2） 番組制作の基本・提案課題設定【双方向授業①】 ～番組制作者の視点－番組提案の書き方～ （講師：東條充敏／京都局ディレクター）	
6月4日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その3） NHKの文化事業 ～「長谷川等伯展」「大遣唐使展」を中心に～ （講師：鈴木薫／大阪局視聴者センター（事業）	
6月11日	視聴者と向き合うNHKの取り組み（その4） 図解主義～発想力、分析力を養え～ （講師：中谷日出／解説委員室）	

6月18日	放送最前線からの報告（その1） 国際放送による世界への情報発信、世界とつながるNHK ～24時間英語ニュース、海外にいる日本人向け情報提供について～ （講師：久保智司／国際放送局ニュース制作部）	
6月25日	放送最前線からの報告（その2） 現場のカメラマン経験から ～ﾊﾞｲﾀﾘﾃｨ、繊細さ、執念、ドキュメンタリーカメラマンは現場最前線で何を感じたのか～ （講師：杉江亮彦／放送技術局カメラマン）	
6月26日（土曜講義）	放送最前線からの報告（その3） 日本のテレビ業界について語る ～報道記者、「週間子供ニュース」キャスターの経験、そして民間放送へ～ （講師：池上彰／フリー（元NHK記者））	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。
7月2日	放送最前線からの報告（その4） 若手アナウンサーの体験から ～NHKのアナウンサーとして活躍するまでの苦悩の日々～ （講師：飯島徹郎／京都局アナウンサー）	
7月9日	放送最前線からの報告（その5） 最新デジタル技術について ～最新のﾃﾞｼﾞﾀﾙﾃｸﾉﾛｼﾞｰは放送をどのように変容させるのか～ （講師：久保田啓一／NHK技術研究所長）	
7月16日	放送最前線からの報告（その6） 提案の秘訣・提案課題ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ 【双方向授業②】 ～番組提案会議を講義で実践。受講生の番組提案をプロデューサーが講評～ （講師：篠田恵一／京都局チーフプロデューサー）	
7月17日（土曜講義）	まとめ （講師：福地茂雄／NHK会長）	※土曜講義。教室変更の場合があるので掲示に注意。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義の最後では、各受講生にフィードバックコメントを書いてもらう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	25 %	学期中に課題として出される個人の番組提案を評価の対象とする。この課題は、番組企画に対する専門的な技量を評価するものではなく、講義を通じて受講生が獲得した視点や発想の面白さを、いかに番組提案にうまく反映させているかが評価の主ポイントとなる。このため各講義において受講生が放送番組について個人的に考えを書き留めるなどして、アイデアを積み上げる作業さえしていれば平均以上のポイントは獲得できる。
平常点評価	75 %	各回で、フィードバックコメントを書いてもらう。各講義で自分が受け止めた内容のサマリー、これに加えて個人的にどのような感想を持ったかを記述して、講義の最後に提出してもらう。各5ポイント満点で評価する。5ポイント×15回講義＝75ポイントとなる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の最初の全体シラバスで、連絡方法や質疑応答の時間についてアナウンスする。

その他 / Others

専門特殊講義I（SE） § 専門特殊講義（SE） § 特殊講義（総合）（VB）

12811

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体（予定）の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。

〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、後期の専門特殊講義ⅠSF「デジタル/ネット文化・産業論Ⅱ」を連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
2	「日本の音楽配信ビジネスと違法音楽配信対策」	畑 陽一郎先生（社団法人日本レコード協会 事務局次長）
3	「コンテンツ産業進化論～世紀の転換・技術の発達～」	丸山 茂雄先生（株式会社247Music　取締役会長）
4	「ニコニコ動画進化論2010」（仮）	杉本 誠司先生（株式会社ニワンゴ　代表取締役社長）
5	「空間メディア文化とデジタル化」（仮）	來住 尚彦先生（株式会社TBSテレビ　赤坂サカス推進部長）
6	「J-POP進化論～加藤和彦、小田和正から平原綾香まで～」（仮）	新田 和長先生（株式会社ドリーミュージック 取締役エグゼクティブプロデューサー）
7	「『子ども映画祭in小豆島』開催構想」（仮）	益田 祐美子先生（映画&コンテンツ制作プロデューサー）
8	中間総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
9	「ソニーレーベル42史」（仮）	北川 直樹先生（株式会社ソニー・ミュージックエンタテインメント代表取締役コーポレイト・エグゼクティブCEO、財団法人　音楽文化・産業振興財団理事長）
10	「鎮守の杜コンサート～心の環境問題を訴える～」（仮）	原田 真二先生（シンガー･ソングライター兼音楽プロデューサー）
11	「転換期のCM映像制作」（仮）	金 利明先生（映像監督　FREZ=MANAGEMENT OFFICE所属）
12	「続伸するライブエンタテインメント産業の課題」（仮）	中西 健夫先生（株式会社ディスクガレージ代表取締役社長　社団法人全国コンサートツアー事業者協会 副会長）
13	「日本文化とアート～東京・浅草に新名所 アミューズミュージアム誕生物語～」（仮）	大里 洋吉先生（株式会社アミューズ 最高顧問兼アミューズ総研"Skhole"代表）
14	「CGと3D～コンテンツ創作の近未来図～」（仮）	猪子 寿之先生（チームラボ株式会社 代表取締役社長）
15	前期総括	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越し

いただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする(コミュニケーションペーパーの提出を認めない)。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー(50%)と期中2回課すレポート(50%)により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義I（SF） § 専門特殊講義（SF） § 特殊講義（総合）（VC）

15462

担当者名 / Instructor　反畑 誠一、中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、音楽出版社協会、全国コンサートツアー事業者協会、実演家著作隣接権センターの3つの団体の寄附から成り立つ講座である。音楽評論家で日本レコード大賞常任実行委員でもある反畑誠一先生（産業社会学部客員教授）が担当。講義内容は、コンテンツ産業界の最前線で活躍されている方々をゲスト講師として招聘し、リレー形式で構成される。

デジタル技術の進化やインターネットの地球規模の普及は、エンタテインメント産業界に大きな構造的変革をもたらしており、深刻な問題を伴っている。この状況を受け、2010年1月1日には、著作権者の了解を得ずにインターネットで配信された音楽や映像をダウンロード（受信）することも違法とする改正著作権法が施行されるなど、インターネット全盛時代の知的所有権の保護は限りなく日常に近い問題として、これまでになく社会的関心が高まっている。

一方で、このデジタル化やインターネットの普及などによる情報テクノロジーの発展と国際化により、誰もが表現者となり得る時代をむかえ、市民一人ひとりが権利ビジネスに参画していくことも可能になった。つまりこれは、著作権などの知的所有権問題をビジネスの観点からも学ぶことが、芸術文化・エンタテインメント産業の新たなビジョンづくりの上で大切であるというメッセージであると言える。

このような現状を踏まえ、この科目では、デジタル化とインターネットがもたらした文化・産業の構造変化の多角的な現状把握を目指し、次なる方向性を研究することを課題とする。

音楽分野をはじめ、映像・放送などのコンテンツ・ビジネスやエンタテインメント・ビジネスに関心を持つ学生、将来これらの業界で働くことを志望している学生には、特に受講を勧めたい。

具体的な講師陣、テーマについては3月下旬に立命館大学のオンラインシラバスに掲載予定

各回テーマ例（案）

「情報とモラル」（キーワード：リテラシー）
「実演家の権利」（キーワード：著作隣接権） 等
「ゲーム音楽創作」（作・編曲家）
「舞台制作」（ミュージカル）

到達目標 / Attainment Objectives

〇国際的視野をもって、現実を直視し、一流を知る中で、現在のコンテンツ・ビジネス産業の実態を語ることができる。
〇過去を知り、蓄積した知識をもとに、叡智と感性と創造力をもって、コンテンツ・ビジネス産業の明日を考え、展望することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特には指定しないが、前期の専門特殊講義ＩSE「デジタル/ネット文化・産業論Ｉ」から連続して受講することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	オリエンテーション
2	広瀬 香美先生（シンガー・ソングライター）	「ネットとコミュニケーション」（仮）
3	稲垣 博司先生（エイベックス・マーケティング株式会社 代表取締役会長、エイベックス・エンタテインメント株式会社 取締役） 関 佳裕先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 執行役員）	「レコード産業100年史」（仮）
4	宮田 和樹先生（株式会社実業之日本社 マーケティング・コミュニケーション推進室長）	「ブックビジネス2.0」（仮）
5	亀田 誠治先生（音楽プロデューサー）	「音楽創作事変」（仮）
6	谷口 元先生（社団法人音楽出版社協会 会長）	「ネット時代の音楽出版ビジネス」（仮）
7	すぎやま こういち先生（作曲家）	「ゲーム音楽」（仮）
8	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	中間総括
9	椎名 和夫先生（実演家著作隣接権センター　運営委員、演奏家権利処理合同機構 Music People's Nest 代表幹事）	「改正著作隣接権」（仮）
10	下川 大介先生（エイベックス・エンタテインメント株式会社 第1音楽制作本部制作部第3制作ルーム部長）	「アジアの音楽産業の現状」（仮）
11	高橋 衛先生（株式会社三菱総合研究所 システムエンジニアリング本部流通・物流ソリューショングループ兼経営コンサルティング本部産業戦略グループ 研究主任）	「欧州における音楽産業等の消費動向調査」（仮）
12	堀 義貴先生（株式会社ホリプロ 代表取締役会長兼社長）	「web時代のアーティスト・マネジメント」（仮）
13	白井 勝也先生（株式会社小学館 副社長）	「出版産業の構造改革」（仮）

14	加藤 裕一先生（株式会社レコチョク 取締役代表執行役社長）	「音楽配信ビジネス」（仮）
15	反畑 誠一先生（音楽評論家・立命館大学客員教授）	後期総括
	※本講義は学外の講師を多数招聘する関係で、授業スケジュールが変更されることがある。また講師の都合により講師自体の変更もありうる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※本科目は毎回エンタテインメント業界の第一線で活躍をされている方々を講師としてお招きするリレー講義である。そのため、遠方よりお越しいただく講師の方々に失礼がないよう、遅刻はしないこと。授業開始後30分以降に来た者については欠席扱いとする（コミュニケーションペーパーの提出を認めない）。
また、当然ではあるが私語についても禁止をし、場合によっては退出を求めることもある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	毎回のコミュニケーション・ペーパー（50%）と期中2回課すレポート（50%）により総合的に評価する。 ただし、期中2回課すレポートの提出が1度でもない場合は成績評価の対象とはならない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇過去を知り、知識を蓄積する。
〇現実を直視し、一流を知る。
〇明日を考え、展望する。
〇叡智と感性と創造力を培う。
〇自己の研究課題と進路を見つけ、積極的に活用する。

教科書 / Textbooks

特には指定しない。

参考書 / Reference Books

その都度、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SB） § 専門特殊講義（SB）

12798

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都がなぜ「日本映画のふるさと」といわれているのか、京都の映画の歴史を中心に、映画誕生期、映画産業形成期、戦時下の映画を利用したプロパガンダ政策、戦後の映画産業の盛衰、現在の映画産業の構造、映画振興政策、今後の映画映像産業の方向、などを、映像資料や最近の統計調査などを使い、映画産業の歴史的縦軸と、日本の産業構造を中心としつつ世界の状況も見通した面的な状況を話す予定。

到達目標 / Attainment Objectives

1、京都でなぜ日本映画が発展したのかの基本的な理解。
2、第七の芸術といわれる「映画」とは何かの、基本的な理解
3、映画産業の構造の理解と今後の産業としての可能性の検証

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の進め方、ガイダンス	
第2回	映画誕生	リュミエール兄弟の初期作品などの鑑賞とあわせて、映画の誕生の歴史、エジソンの発明との違い等。
第3回	京都の映画史1	稲畑勝太郎
第4回	京都の映画史2	マキノ省三　尾上松之助
第5回	京都の映画史3	日本初の女性映画監督　坂根田鶴子
第6回	戦争と映画1	ナチスドイツの映画法、日本の映画法
第7回	戦争と映画2	満州国　満州映画協会
第8回	権力と映画	参考上映　当時戦意高揚のために作られた作品を上映する。作品は未定。
第9回	戦後の映画産業	大映映画を中心に〜世界に認められた日本映画「羅生門」「雨月物語」など。
第10回	映画産業の構造1	製作、配給などの流通システムについて
第11回	映画産業の構造2	興行〜映画館の歴史とシネコンの展開による変化など
第12回	日本の映画振興政策1	文化庁による映画産業のための振興政策について
第13回	日本の映画振興政策2	経済産業省による、知的財産の観点からのコンテンツビジネスとしての映像産業振興政策について
第14回	フランスの映画振興政策、韓国の映画振興政策	両国の振興政策の特徴と日本との違いなど。
第15回	映画産業の今後の展開、可能性	映画映像産業の未来、コンテンツビジネスとしての発展の方向性等を検証し、全体の講義のまとめを行う。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

映画館や大学内での上映会等で、たくさんの映画をみること。なお、学内で上映される映画に関して、レポート課題に指定する。上映会の入場料は、500円程度である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	試験の解答内容で、授業の理解度を判断する
レポート試験	10 %	映画館や学内上映会でで見た日本映画の感想レポートの提出
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーを活用する

毎授業終了時提出してもらうコミュニケーションペーパーの内容のほか、2,000字程度の「レポート」を出題する予定です。
講義はレジュメを配布、折々の新聞記事やテレビ番組や参考作品のビデオ、DVDでの参考上映も行っている。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

映画を出来る限りたくさん見て欲しい。学内での上映会（有料）での作品もレポート課題の作品とする場合がある。映画産業は現在進行形で常に変動している。今の時代の映画館、映画興行の現場の雰囲気を体感することで、今後の映画産業の方向性が見えてくるはずである。ハリウッド大作、日本のメジャー作品だけでなく、世界の様々な国の作品を積極的に見て欲しい。映画館は、シネコンだけではない。京都には、文化博物館映像ホールでは京都で作られた日本映画を定期上映している。また、アート系映画を上映している映画館もあり、上映環境は恵まれているので、その環境を積極的に生かして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
京都の映画80年のあゆみ	／京都新聞社／／
シネマがやってきた∽日本映画事始め	都築政昭／小学館／／日本映画の黎明期の様子が分かる
京都映画図絵	鴇明浩＋映画探偵団／フィルムアート社／／京都の映画史の新記述等もある
別冊太陽　日本映画と京都	／平凡社／／
女人賛歌　甲斐庄楠音の生涯	栗田勇／新潮社／／溝口健二監督のスタッフだった画家の生涯
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割などを詳述した。

上記など。また随時授業でも紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

goo映画 http://movie.goo.ne.jp/ all cinema online http://www.allcinema.net キネマ旬報データベース http://walkerplus.com/movie/kinejun/ ミニパラ（全国のミニシアターのportalサイト）
http://www.minipara.com/など。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　あるいは、maasa@ma1.seikyou.ne.jpへ、メールで気軽にコンタクトして下さい。

その他 / Others

1、遅刻は30分以上は認めない。30分以上遅れた学生は、必ず教室の後ろのドアから入ること。遅れた学生には、コミュニケーションペーパーの提出は求めない。
2、私語は厳禁（携帯でのメールのやりとりも禁止する、注意してもやめない場合退出を求める場合もある）
3、最終授業日に試験の内容についてのコメントする。
4、参考上映は、授業の進行と会わせて何回か行う。毎回、神谷が経営する京都シネマで上映予定の最新作の予告編を授業の最後に上映する。

専門特殊講義II（SC） § 専門特殊講義（SC）

12799

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日々届けられる新聞は、どんな取材と論議を経てつくられているのか。事件、事故、政治、経済、国際、芸能、スポーツ・・・。一面からラテ面まで各面にちりばめられた一つひとつの記事には、過去から現在に連なる歴史の「縦軸」と、グローバル化が進む地球的な広がりを示す「横軸」とが交差する中で、各メディアがそれぞれの価値観で、選び取った読者へのメッセージが込められている。「良い記事」「悪い記事」はどう見分けるのか。「特ダネ」はどのようにして生まれるのか。新聞を中心にしたメディアが日々発信しているその「意味」を、社内で交わされている「紙面論議」などを手がかりに同時進行的に紹介、解析、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

新聞を中心にメディアが日々発信しているメッセージについて、その狙いなどを客観的に理解し、バランスのとれた視点で、その記事などのすぐれた点や不十分な点を評価、指摘できるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに。新聞はどのようにしてつくられているのか。報道の役割とは。	発掘力
第2回	事件報道と人権（匿名・実名問題など）	個人情報
第3回	事件報道と人権（被害者報道、加熱取材など）	メディアスクラム
第4回	事件報道と人権（歴史的重大事件など）	教訓
第5回	司法取材の現場から（死刑再審など）	冤罪
第6回	調査報道とは（リクルート事件など）	特ダネ
第7回	虚報と誤報（サンゴ事件）	あせり
第8回	報道の自由と取材源の秘匿（沖縄密約など）	スクープ
第9回	社説について（憲法改正論議など）	提言
第10回	教育現場から（日の丸・君が代）	良心
第11回	社風・社論（信頼される報道とは）	綱領
第12回	生活ニュースとは（街だね）	目線
第13回	発表ジャーナリズムからの脱却	記者クラブ
第14回	開かれた新聞とは（市民ネットと投書）	ブログ
第15回	質疑応答	質問力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	「課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する
平常点評価	30 %	毎回のコミュニケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できるかぎり新聞を読むこと。とくに興味あるテーマについて継続的にウオッチし、各新聞の論調を比べてみる。大きな事件の判決報道で、自分ならどう本記（判決の中身を伝える記事）を書くか、判決要旨などを読んで試してみる。読解力と文章力がつく。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.pressnet.or.jp/ 日本新聞協会プレスネット、週一回更新の「紙面展望」。
加盟新聞社の社説の論調をテーマ別に紹介している。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II (SG) § 専門特殊講義 (SG)

12724

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

20世紀を支えてきた巨大メディアの新聞とテレビをめぐる環境は、多メディア、デジタル化時代を迎えて大きく変化している。新聞では、紙媒体に加え、ネット記事が浸透し、一時無料化の流れが強まったが、欧米紙の間では有料化の動きも見られる。テレビでは、広告収入を基本とする経営が主流であったが、オンデマンド形式の放送では、番組単位で販売されるなど、新たなビジネスモデルも生まれている。これらの変化は、経営面はもちろんのこと、コンテンツにも多大な影響を与えている。

また、若者の新聞離れは以前から指摘されてきたが、最近の調査では、テレビは、若者が必要とするメディアにおいて、携帯電話、パソコンに次いで3位に甘んじるなど、テレビ離れもみられ、若者とメディアの向き合い方も変化している。

本講座は讀賣テレビ放送株式会社および読売新聞大阪本社から、ディレクター、プロデューサー、アナウンサー、編成マン、事業セクション等多様なプロフェッショナルを毎回ゲストスピーカーに迎え、リレー講義形式で授業を進めていく。

到達目標 / Attainment Objectives

変貌するメディア環境をめぐる問題意識を視野に入れながら、21世紀のメディアの課題と可能性を具体的に探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	21世紀の新聞とテレビを取り囲む環境	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
2	【新聞】多メディア化の中の新聞	読売新聞大阪本社 専務取締役 菊池 卓雄 氏
3	【新聞】政治報道の使命と課題～政権交代から考える～	読売新聞大阪本社 論説委員 上田 恭規 氏
4	【新聞】社会部の現場から	読売新聞大阪本社 社会部長 森 克二 氏
5	【新聞】橋下・大阪府政とメディア	読売新聞大阪本社 社会部次長 指尾 喜伸 氏
6	【新聞】国際報道のいま	読売新聞大阪本社 編集委員 中津 幸久 氏
7	【新聞】新聞事業の現状と未来	読売新聞大阪本社 事業局長 窪田 邦倫 氏
8	【新聞】デジタル化と新聞の課題	読売新聞大阪本社 メディア戦略室長　森栄 徹 氏
9	【テレビ】今テレビはどこにいるか	讀賣テレビ放送　報道局次長　新谷 弘 氏
10	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ビジネス編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　山下 雄司 氏
11	【テレビ】ネット、デジタル、メディア環境激変　ハード編	讀賣テレビ放送　クロスメディア事業部　松山 浩士 氏
12	【テレビ】テレビ報道の現場、新しい番組作りへの挑戦	讀賣テレビ放送　報道局プロデューサー　相島 良樹 氏
13	【テレビ】21世紀のテレビ報道の課題	讀賣テレビ放送　解説委員　春川 正明 氏
14	【テレビ】テレビ報道の現場、テレビと政治を中心に	讀賣テレビ放送　特別解説委員・元解説委員長　岩田 公雄 氏
15	全体まとめ	立命館大学産業社会学部　日高 勝之 准教授
	※講師の業務の予定により、テーマの変更や講師の変更の可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回の講義でミニレポートを書いてもらう(配点50点)。なおこれは出席点も兼ねるので、QRコードを毎回持参すること。 ②最終授業日に60分程度、論述中心の「授業内レポート試験」を実施(配点50点)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SI） § 専門特殊講義（SI）

12816

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市しあわせ（ハピネス）政策論～学生からの市政提言～

京都の立命館大学で学ぶ学生として、京都を知るための第一歩として京都市内で何が起きているのか、京都とはどのような街か、京都にはどのような学びの場が潜在的にあるのかを紐解くことは大きな意義がある。本講義では、受講生が、広く社会との接点を求め、実践的な学びの中で社会と自分がどのように関わっているのかについて考えをめぐらせるための機会を得ることで、市行政に対するなんらかの行動を起こすきっかけとなることを目指している。

本科目では、受講生に対し、現在の京都市の中で注目されるトピックを取り上げ、京都市との連携のもとで実際的なテーマ講義を行う。その中で、実際に公共の福祉に資する活動として学生の立場で何ができるかについて考えるグループを組織する。自分たちが学ぶ京都市における財政や組織はどうなっているのか、京都市は広報活動などを通じ市民とどのようにしてつながろうとしているのか、京都市でマンガミュージアムが誕生したのはなぜか、京都市のスポーツ振興策は果たして市民のニーズと直結しているのかなど、京都の市行政について聞く中で、受講生一人一人が独自の視点で市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた行政アドバイスプラン構築をしてもらうことにより、実践的な学びを目指す。産業社会学部の現代社会、メディア、スポーツ、子ども、人間福祉の各専攻の学びとも結びつけてもらいながら、学生が主体的に京都市で学ぶ一員となることで、よりよい京都市政のために何ができるかについてのプランを作成してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、京都の市行政と社会を構成する市民としての私たちを結び付けて考える中で、学生の目線から市行政に向けた行政アドバイスプランを構築してもらう。京都市北区衣笠のキャンパスで学ぶ立命館大学生は京都市についてどれだけの知識を持ち、また現在の市行政の状況を知っているだろうか。本講義では、京都市の財政や組織などについて基礎的な理解をしてもらった上で、京都市にかかわるいくつかのトピックについて京都市の担当者からの講義を受け、これを通じて市民の「しあわせ（ハピネス）」実現に向けた京都市の行政・政策への新たな視点を培う。

講義では、①京都の産業、②文化・スポーツ、③福祉・健康、④都市計画・交通、⑤子供と教育、⑥まちづくり・市民活動、⑦環境の7つの分野にわたって話しを聞いてゆく。その中から、自分がもっとも興味関心を持てるトピックを抽出し、そのトピックに関連して学生の視点・目線での行政アドバイスプランを作成してもらう。このプランを企画ポスターセッションとして成果発表してもらうこととしており、最終的には何らかの形で市行政の関係担当者にフィードバックすることを目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学関連の基礎的な科目を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要説明	
第2回	●京都のしくみを知る（その1） テーマ1　京都市の組織と事務のあらまし テーマ2　京都市財政のあらまし	市行政の仕組み
第3回	●京都のしくみを知る（その2） テーマ3　京都市の広報活動のいろいろ	広報　パブリックリレーション
第4回	●京都のしくみを知る（その3） テーマ4　市民参加で創る京都のまち～市民のち・か・らをキーワードに～	市民参加
第5回	●京都のまちづくりと市民活動（その1） テーマ5　「大学のまち京都・学生のまち京都」の推進	まちづくり
第6回	●京都のまちづくりと市民活動（その2） テーマ6　市民活動総合センターってどんなとこ？	市民活動
第7回	●京都の環境と緑化 テーマ7　京都議定書誕生の地から世界へ～京都市の地球温暖化対策～ テーマ8　京都の環境をあなたがチェック！～環境レポートによる意見募集	環境行政　地球温暖化対策　パブリックコメント
第8回	●京都の文化とスポーツ（その1） テーマ9　京都市のスポーツ振興 テーマ10　高い成長性が期待できるコンテンツ産業の振興	スポーツ　マンガ　振興政策
第9回	●京都の文化とスポーツ（その2） テーマ11　動物園の役割と楽しみ方	動物園
第10回	●京都の産業 テーマ12　わたしたちの伝統産業 テーマ13　京都で創業しよう！	伝統産業　創業

第11回	●京都の福祉・健康（その1） テーマ14　みやこユニバーサルデザインをみんなで考え、進めよう！	ユニバーサルデザイン
第12回	●京都の福祉・健康（その2） テーマ15　たばこ対策の推進 テーマ16　動物と共生できる社会を目指して	喫煙対策　動物　共生
第13回	●京都の都市計画と交通 テーマ17　京都の市バス テーマ18　京を走る地下鉄	都市計画　公共交通機関
第14回	●京都の子どもと教育 テーマ19　子どもを共に育む京都市民憲章の具体化に向けて（家庭・地域ぐるみの教育）	子ども　教育　市民憲章　家庭　地域社会
第15回	まとめ 京都市行政　学生アドバイスプラン・ポスターセッションの開催	
	※なお、現職の京都市の職員の方々にお越しいただく関係上、担当者の都合がどうしてもつかなくなった場合には、スケジュールや講師、テーマの変更等が発生する可能性があります。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	平常点評価とし、試験は行わない。平常点評価の際には、以下のものが対象となる。①各テーマについての市行政担当者によるプレゼンテーションへのクラス内フィードバックコメント、および②受講者による「市行政へのアドバイスプラン」作成への取り組みとプレゼンテーション。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講生は、自分たちに身近な京都市の行政関連事項を、市広報、市ホームページ、新聞、テレビ、ラジオなどを通じて、常にチェックしておいてもらいたい。これにより、現在、京都市内で起きているさまざまな事象、現象について自分のこだわりでみることができるようになるだろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
若き友人たちへ－筑紫哲也ラスト・メッセージ	筑紫哲也／集英社／978-4-08-720515-2／

参考書 / Reference Books

必要に応じてアナウンスする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

京都市情報館　http://www.city.kyoto.lg.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（SK）　§　専門特殊講義（SK）

15470

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ポピュラー音楽」は、聴いて楽しむだけなら特に学ぶ必要はないかもしれません。しかしダーウィンは「人類の起源」の中で、中国の書物に「音楽は天地を覆す力を有す」という格言を紹介しています。また同著の中でシューマン博士の観察として、「何ページもの書物よりも、ただ1曲の音楽の中に、はるかに大きな感動の高まりを凝縮させるものがある」と「音楽の力」を指摘しています。音楽は人間の感性と理性によって創作された不可欠のコミュニケーション手段です。世界にはいろいろな音楽があります。この講座では、デジタル技術の発達とインターネットの普及によって、環境が激しく変貌するなかで、私たちにとって音楽の存在と音楽文化の本質と変遷について、身近な「ポピュラー音楽」を通じて、ジャンルを問わず多角的に考察、研究し、新たな「音楽の系譜づくり」と21世紀の「音楽の聴き方」の追求で成果を残したいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①ウィーン古典派音楽からアフリカのバンバータまで、聴き方を知る。
②日本の「流行歌」の変遷と特性を知る。
③音楽文化・産業の拡張と拡散を考察する。
④21世紀の「ポピュラー音楽文化」の創出を担う。
⑤音楽著作権・著作隣接権を学び、知識を蓄える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	世紀の転換・技術の発達。音楽の存在と聴き方。	音楽力
第2回	私たちの内に流れるリズム・メロディー。日本人とリズム。日本人とメロディー。日本人好みの音階・好きな音色。	沖縄音楽
第3回	時代背景とヒット曲。蓄音機、レコード盤、SP、LP、ウオークマン、CD、DVD、iPod、配信。	歌は世につれ、世は歌につれ
第4回	日本の音楽産業の歩み。レコード産業の現状。課題と展望。	音楽配信
第5回	ポピュラー音楽と普遍性。作曲家・古関裕而の融合音楽。結婚行進曲と葬送行進曲。	長寿社会と死生観
第6回	ポピュラー音楽と独創性・大衆性。美空ひばり、ピンク・レディー、中島みゆき、YMO。	スタンダード曲
第7回	大衆音楽の発生。ドレミファの調整システムの崩壊。「12音技法」の誕生。ミュージカルの誕生。マイケル・ジャクソン。	ジャズ
第8回	新しい大衆音楽の誕生「ロック」。	エルヴィス・プレスリー、ボブ・ディラン、ザ・ビートルズ
第9回	「ロック」の進化系図。ハード、パンク、ヘヴィメタル。	ロックの意味・未来
第10回	ワールドミュージックと非西欧的音楽。	アフリカ・バンバータ
第11回	ポピュラー音楽の多様性。ポップス、クラシック、日本民謡、ジャズ、レゲエ、ボッサ・ノヴァ、ファド、シャオンソン、カンツォーネ。	音楽地球儀
第12回	広告の中の音と音楽。多メディア時代の広告音楽。	コカコーラ・資生堂
第13回	音楽の聴き方～聴く型と趣味を語る言葉～	芸術音楽（クラシック）VS実用音楽。
第14回	音楽と著作権。「音楽著作権とは」「著作隣接権とは」。	財産権・人格権
第15回	人口24億人。アジアの音楽市場～動向と新潮流。	オリジナルの創出

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

※12月1日追記
12月16日（木）の講義より、授業開始後30分を過ぎて入室した者については欠席扱いとし、コミュニケーションペーパーの提出を認めない

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	
平常点評価	15 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

CD、DVD、ライブなどを積極的に聴いたり、観賞するよう心がけてください。

教科書 / Textbooks

オリジナルの「レジュメ」CD、DVD等を活用します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「著作権の新世紀」	福井健策著／集英社刊／／
「あたらしい教科書8　音楽」	小沼純一監修／Petit Grand Publishing,Inc刊　／／
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーター・マニエル著 中村とうよう訳／ミュージックマガジン社刊／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（社）日本レコード協会（RIAJ）HP
（社）日本音楽著作権協会（JASRAC）HP

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし。

専門特殊講義II（SM） § 専門特殊講義（SM）

15457

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢化社会が進行し、若者の活字離れも伴って伝統的なメディアの代表であった「新聞」に北風が吹き続けている。「新聞がなくなる日」「ネットが新聞を殺すのか」などの書物が出回っているが、新聞はこのまま、IT産業に飲み込まれてしまうのか。双方向メディアであるネットの拡大は、社会や民主主義のありかたにどんな変化をもたらすのか。人員削減、総合情報産業への脱皮、グループ企業間の新たな連携、紙面改革、デジタル化・・・。変容するメディア産業の現状を、過去のとのつながりのからみで立体的に読み解いていく中で、メディアのあるべき今後の姿を探っていく。同時に、政権交代後のメディアの変容を重点的に検証、テーマによってはゲストスピーカーを招く。

到達目標 / Attainment Objectives

メディアが多様化していく中で、新聞企業が直面している課題が理解できる。ネット社会の未来についてのおおまかな青写真が描ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～講義の進め方と評価について・総論	マスコミ四媒体
第2回	日本の新聞業界～この半年の主な動き	デジタル
第3回	世界のメディア事情～韓国・北朝鮮	ネット新聞
第4回	世界のメディア事情～アメリカ	削減
第5回	世界のメディア事情～ヨーロッパ	タブロイド
第6回	世界のメディア事業～中国	自由化
第7回	新聞の連携と地方紙	連合
第8回	フリーペーパーの挑戦	多様化
第9回	新聞経営の合理化	外部化
第10回	電子新聞の模索	動画
第11回	電子電波メディアの現状と行方～テレビと通信	融合
第12回	電子電波メディアの現状と行方～NHK問題	肥大化
第13回	スポーツ紙の世界	元気
第14回	2009年の新聞界展望	淘汰
第15回	質疑応答	質問力

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の内容についての理解度、論旨の構成や説得力を重視する。
平常点評価	30 %	毎回のコミニュケーションペーパー、数回おきのミニレポートで理解度をはかる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

専門特殊講義II（ST） § 専門特殊講義（ST）

12895

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「ドキュメンタリーはフィクションである」は、08年に惜しくも亡くなったドキュメンタリー映画の監督、佐藤真氏の言葉である。一般的にドキュメンタリーは、ノンフィクションと捉えられ、現実をありのままに映し出したもの、とされている。が、「ドキュメンタリーはフィクションである」という言葉は、重要な指摘だと考える。ドキュメンタリーとは何か。いくつかの作品を見ながら考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

いくつかのドキュメンタリー作品の考察により、映画、テレビを問わず、広く映像メディア全体を捉え直す。作品ごとの考察は、受講生の積極的な発表を促す形で進める。ドキュメンタリーは、ノンフィクションか、フィクションか。それを越えたものなのか。理解を深めていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ドキュメンタリーとは1	ドキュメンタリー、ノンフィクション
第2回	ドキュメンタリーとは2	演出とやらせ
第3回	ドキュメンタリー作品鑑賞	戦うふ兵隊　亀井文夫　1939年
第4回	作品分析発表　意見交換	ランダムに指名した受講生に、作品分析の発表を行ってもらう。
第5回	ドキュメンタリー作品鑑賞	アラン・レネ「夜と霧」
第6回	作品分析　意見交換	フランス映画史におけるアラン・レネの仕事
第7回	作品鑑賞	スティーブン・オカザキ監督「ヒロシマ、ナガサキ」
第8回	作品分析発表　意見交換	
第9回	ドキュメンタリー作品鑑賞	土本典昭監督「水俣」
第10回	作品分析　意見交換	土本典昭の仕事
第11回	作品鑑賞	佐藤真監督「阿賀に生きる」
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲスト講師（予定）	
第14回	作品鑑賞	佐藤真監督「花子」
第15回	ドキュメンタリーとは、ドキュメンタリーの可能性	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ドキュメンタリー映画やテレビのドキュメンタリー番組を積極的に見て欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	設問に対する解答の記述内容で、授業の理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館で公開中、および学内上映会での上映作品（有料）のドキュメンタリー作品の感想レポートの提出。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで、理解度を確認する。出席はとらない。

授業への30分以上の遅刻は認めない。私語、メール等も厳禁。注意しても聞かない場合は退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ドキュメンタリー映画は、様々な作品を見ることで、その面白さへの理解が深まる。国内外を問わず、たくさんの作品を見て欲しい。また、テレビのドキュメンタリー番組も、チェックして欲しい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ドキュメンタリーの修辞学	佐藤真／みすず書房／9784622072515／ドキュメンタリーとは、最近の傾向など、いまのドキュメンタリーの周辺および監督の思いが伝わる好著

参考図書に関しては適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールを。チェック頻度は、後者のアドレスの方が日常的です。

その他 / Others

学内上映会でのレポート課題作品は、有償（500円程度）だが、その点は了解していただきたい。

専門特殊講義II (SU) § 専門特殊講義 (SU)

15520

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本映画はここ数年、実際の製作本数は、公開本数の約2倍という状況で、公開されずに「お蔵入り」となってしまう映画が相変わらず多い。だが、昨年日本映画バブルがはじけ、いくつかの製作会社、プロダクションが業務縮小を余儀なくされる事態となっている。娯楽大作は見る機会が多いが、過去の日本映画の名作を見る機会は、少ない。1945年前後の日本映画を鑑賞し、映画と社会との関係を考察する。現代においても、映画と社会は不可分な関係があることの理解を促す。

到達目標 / Attainment Objectives

1、映画と社会の関係、社会的、政治的な力によって映画が作られてきた時代があったことを作品を通して学ぶ。
2、映画と戦争は、映画が、権力の側にプロパガンダとして活用された関係にある。監督や製作現場のスタッフたちは、そうした状況をどのように受け止め、作品に反映させてきたのかを、作品を通して認識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、ドキュメンタリー研究

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	映画と戦争1	映画法など。戦時中のニュース映画の参考上映
第2回	稲垣浩監督　無法松の一生　1943年　戦前は映画法、戦後はGHQによって2度の検閲を受けた作品　鑑賞	
第3回	1940年代の作品鑑賞　黒澤明監督　「一番美しく」(1944年)女子挺身隊の勤労動員の物語	
第4回	作品分析　意見交換	
第5回	黒澤明監督　「わが青春に悔いなし」1946年鑑賞　戦前戦後、大学の自由を守ることと、日本の自由を勝ち取ることをテーマとした京都も舞台になった作品　鑑賞	
第6回	作品分析　意見交換	
第7回	戦前のアニメーション「海の神兵」1944年　鑑賞	
第8回	作品分析　意見交換	
第9回	木下恵介監督　「大曽根家の朝」1946年　鑑賞	
第10回	作品分析　意見交換	
第11回	木下恵介監督　「女」1948年　鑑賞	
第12回	作品分析　意見交換	
第13回	ゲストスピーカー　京都府京都文化博物館映像資料室学芸員　森脇清隆氏　フィルムアーカイブの意義	
第14回	小津安二郎監督　「長屋紳士録」1947年　鑑賞	
第15回	作品分析　意見交換　　全講義を通じて感じたこと、映画と社会の関係等も意見交換する。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日本映画をたくさん見て欲しい。ゲスト並びに上映作品は、変更する場合もあるが、事前に説明を行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問に対する解答内容で理解度をはかる。
レポート試験	10 %	映画館および学内での上映会(有料)の作品の感想レポートの提出。ただし、作品分析発表者はのぞく。
平常点評価	10 %	授業後のコミュニケーションペーパーで理解度をはかる。出席はとらない。

30分上の遅刻は認めない。私語、携帯メール等厳禁。私語等注意してもやめない場合は、退出を求める場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本映画を読む	大島渚ほか／ダゲレオ出版／／
ある映画監督の生涯	新藤兼人／岩波新書／／
日本映画批判	双葉十三郎／トパーズプレス／／
日本映画	佐藤忠男／第三文明社／4-476-03175-7／
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／

参考図書は随時提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kamiya08@ss.ritsumei.ac.jp　maasa@ma1.seikyou.ne.jp　気軽にメールして下さい。

その他 / Others

専門特殊講義III（SO） § 専門特殊講義（SO）

15345

担当者名 / Instructor　是枝 裕和

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1960～1970年代のテレビ番組（主にドキュメンタリー）を題材に、今、あらためてテレビというメディアが内包していた可能性と、今後の課題について考えてみたい。

【事務室からの注意事項】
1）本講義は、予備登録の上、受講者を決定します（受講希望レポートにより選考します）。
予備登録の期間・方法は、2010.3.25以降に掲示（または産業社会学部のホームページ）にて確認し、指定された期日内に手続きを行うこと。
（予備登録期間は、通常の事前登録期間よりも早いので気をつけてください）

・配当回生：3回生以上
・定員　：30名
・他学部受講　可

2）講義と関連して作品上映などが必要となるため、本講義の次の時限と連続で講義が行われることがあります。
受講を希望する者は、次時限（後期金曜日5限）も受講登録せずにあけておくこと。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	講義の詳細は、第1回目授業で説明します。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

講義に関わる資料等は各授業で配布する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

地域活性化ボランティア（GA） § 専門特殊講義（SR） § 地域活性化ボランティア（JA） § 地域活性化ボランティア（PA） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TA） § 特殊講義（自由選択）1（V1） § 特殊講義（自由選択）（V1） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CA）

60316

担当者名 / Instructor　小田切 康彦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GB） § 専門特殊講義（SX） § 地域活性化ボランティア（JB） § 地域活性化ボランティア（PB） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TB） § 特殊講義（自由選択）1（V2） § 特殊講義（自由選択）（V2） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CB）

60324

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GC） § 専門特殊講義（SY） § 地域活性化ボランティア（JC） § 地域活性化ボランティア（PC） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TC） § 特殊講義（自由選択）1（V3） § 特殊講義（自由選択）（V3） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CC）

60332

担当者名 / Instructor　寺村 安道

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GD） § 専門特殊講義（S1） § 地域活性化ボランティア（JD） § 地域活性化ボランティア（PD） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TD） § 特殊講義（自由選択）1（V4） § 特殊講義（自由選択）（V4） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CD）

60340

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参する。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GE） § 専門特殊講義（S2） § 地域活性化ボランティア（JE） § 地域活性化ボランティア（PE） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TE） § 特殊講義（自由選択）1（V5） § 特殊講義（自由選択）（V5） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CE）　60348

担当者名 / Instructor　山口 洋典　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域活性化ボランティアは、社会貢献活動と大学での学びを結びつけた「サービスラーニング」という教育（学習）手法を用いて実施されます。
受講生は、教室での事前・事後学習などに出席するほか、サービスラーニングセンターが協定を結んだ京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどに協力して地域でのボランティア活動に参加します。
この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指しています。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江・草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GF） § 専門特殊講義（S3） § 地域活性化ボランティア（JF） § 地域活性化ボランティア（PF） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TF） § 特殊講義（自由選択）1（V6） § 特殊講義（自由選択）（V6） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CF）

60356

担当者名 / Instructor　大谷 洋士、角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GG） § 専門特殊講義（S4） § 地域活性化ボランティア（JG） § 地域活性化ボランティア（PG） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TG） § 特殊講義（自由選択）1（V7） § 特殊講義（自由選択）（V7） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CG）

60364

担当者名 / Instructor　上田 洋平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GH） § 専門特殊講義（S5） § 地域活性化ボランティア（JH） § 地域活性化ボランティア（PH） § 特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TH） § 特殊講義（自由選択）1（V8） § 特殊講義（自由選択）（V8） § 特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CH）

60372

担当者名 / Instructor　角谷 嘉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。
9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか ※日時が決定しています。衣笠　12月18日 BKC　12月19日

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。

地域活性化ボランティア（GI）§　専門特殊講義（S6）§　地域活性化ボランティア（JI）§　地域活性化ボランティア（PI）§　特殊講義（自由選択）I（地域活性化VT）（TI）§　特殊講義（自由選択）1（V9）§　特殊講義（自由選択）（V9）§　特殊講義（基礎）1（地域活性化ボランティア）（CI）

60380

担当者名 / Instructor　中根 智子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ボランティアセンターでは京都府・滋賀県内の地域組織やNPOなどと連携して「地域活性化ボランティアプログラム」を実施している。この授業は、受講生がボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目指している。受講生は地域社会の一員としてボランティア活動に参加し、地域のお祭りやまちづくりの支援活動、里山保全活動、障害のある子どもの余暇活動支援など、さまざまな地域のさまざまな課題に対して取り組む。この「地域活性化ボランティアプログラム」に所定の時間以上参加、事前学習・事後学習などの講義に出席し、なおかつレポートなどの評価対象物を提出した者について、単位を認定する。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育成し、自身の学問的専門領域への関心を高めること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

衣笠キャンパスの学部生「地域参加活動入門」（前期2単位）
BKCの学部生「近江草津論」（後期2単位）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～2	事前学習Ⅰ（授業2回分）	①ボランティア活動について理解を深める。 ②ボランティア教育について理解を深める。 ③ボランティア教育（地域活性化ボランティア）における「学び方」を理解する。 ④地域に入って活動するための心構えを整える。 ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。
3	オリエンテーション	①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてのチームワークを育む。 課題：オリエンテーション終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅱに持参してもらう。
4	事前学習Ⅱ（授業1回分）	①プロジェクト毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。 ②大学での学びと地域課題を結びつける視点を持つ。
5～7	ボランティア活動（前半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半をあわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
8	中間振り返り（授業1回分）	①目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標を持って活動に臨んでいることを再確認する。 ②受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会を持つことで、「学び」を深める。

9～11	ボランティア活動（後半）	①（地域への貢献）地域において課題解決の一助となり、地域（地域住民）に貢献する。 ②（学習効果）社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める。 ※ボランティア活動時間は、前半と後半あわせて42時間以上必要です。活動時間には、活動先での「オリエンテーション」や「反省会」なども含まれます。 ※毎回の活動時間ごとに「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。
12～13	事後学習（授業2回分）	①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する。 ②自らの活動を評価する（事前学習Ⅱで設定した2つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等） ③プログラムを通じて学んだことを今後にどうつなげていくのかを検討する。 ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う。
14～15	活動報告会（授業2回分）	プロジェクトごとに15～20分のプレゼンテーションを行う。発表内容は、おもに以下の4点です。 ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか（ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか） ②事前学習Ⅱで設定した「プログラムの目標（プロジェクト毎に受講生全員で共有）」と「自身の目標（受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定）」を活動によりどのように達成したか ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか ④受講の経験やそこから得た「学び」を今後どのように活かすのか
	授業スケジュールについての留意事項	※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。 全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価はP/F評価です。 評価は下記の要件を必要とします。 ①「事前学習Ⅰ」「事前学習Ⅱ」「中間振り返り」「事後学習」「活動報告会」すべてに出席していること。 ②「地域活性化ボランティア」プログラムのボランティア活動（オリエンテーション含む）を合計42時間以上行っていること。 ③定められた期限までに評価対象物（レポートなど）を提出すること。 ※事前学習Ⅰ、事前学習Ⅱ、中間振り返り、事後学習、活動報告会に正当な理由なく欠席した場合や提出物を定められた期間内に提出しない場合は、F評価となり、以後の受講継続ができません。（正当な理由は、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。 ※また。20分以上の遅刻は、欠席とみなします。 ※ボランティア活動日の出欠取り扱いについては、事前学習Ⅰで配布される資料に拠ります。

評価対象物は、目標設定＆達成度評価シート、ジャーナル（活動日ごとに作成）、活動時間管理シート、レポートを予定しています。またそれらの評価基準には、「何を学び、どのように成長したのか」を受講生自身が検証するプロセスが含まれます。「ボランティア活動に参加したら単位が認定される」のではなく、「活動の中から何をどのように学んだか」を評価し、単位を認定します。よって、問題意識をもって積極的に参加する姿勢を何よりも重視します。
とは言え、難しく考える必要はありません。「私は○○を学びたい」「僕は○○をやってみたい」といったシンプルだけれど情熱的な動機があれば十分です。
この授業は、教室の外（キャンパス近隣の地域）で行うボランティア活動と教室の中で行う講義とを組み合わせた「サービスラーニング」という教育・学習手法を用いて展開されるユニークな科目です。普段の講義だけでは味わえない、「リアル」で「生」な体験こそが醍醐味です。
また、「ボランティア」経験者も未経験者も歓迎します。「ボランティア」と言っても、あなたの「ボランティアイメージ」を覆すプロジェクトが多数用意されています。自分の興味・関心にあうプロジェクトをぜひ見つけて応募してください。

※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

①この科目の受講は本登録に先立って「予備登録」が必要です。予備登録には「志望理由」が求められます。
学部によって受講条件・単位認定が異なります。
予備登録方法、受講条件等は、各学部「履修要項」および「受講登録要項」で確認のこと。
また、サービスラーニングセンター（ボランティアセンター）HPを参照のこと。
http://www.ritsumei.jp/vc/index_j.html

②そのほか重要なお知らせ
何事においても積極的に取り組んでください。
ボランティア活動に責任を持ち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
ボランティア活動全体を通じて、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
キャンパスを離れ、地域で活動し学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

読んでおくべき参考文献は、プロジェクトごとに事前学習Ⅰで紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

立命館大学サービスラーニングセンター
http://www.ritsumei.jp/vc/vc01_01_01_j.html
〈携帯サイト〉
http://www.ritsumei.ac.jp/acd/ac/kyomu/vc/i_index.html#01

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

ボランティア保険（300円/実費）に加入していただきます。
※このクラスは、海外「ベトナム」でのボランティア活動を中心とします。
全体の授業スケジュールは他のクラスと別に設定されます。また別途経費がかかります。

乳幼児心理学 (S)

15331

担当者名 / Instructor　目黒 朋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、胎生期から児童期までの人間発達について概説するとともに、子どもを取り巻く社会の問題、保育や教育における課題についても論じる。また、障害のある子どもの発達的特徴および保育・療育の課題についても考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

① 子どもへの関心を高め、乳幼児期の発達を捉える視点を明確にする。
② 保育園や幼稚園における子どもたちの生活について学ぶ。
③ 障害のある子どもたちの生活や発達について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	子ども観の変遷、「発達」の捉え方、生涯発達における乳幼児期のもつ意味	発達段階、人権としての発達、生涯発達心理学
第2回	第2回 胎生期の発達	受精、卵体期、胎芽期、胎児期、胎児の知覚世界、胎生期の発達保障
第3回	乳児期前半の発達と保育	赤ちゃんの不思議、新生児微笑、生活リズム
第4回	乳児期後半の発達と保育	8か月不安、定位行動、はいはい、喃語
第5回	1歳児の発達と保育	自我の誕生、直立二足歩行、道具の操作、音声言語、しつけ
第6回	2歳児の発達と保育	対概念、象徴機能、みたて・つもり遊び
第7回	3歳児の発達と保育	イッチョマエの3歳、ごっこ遊び、3歳児の心の揺れ
第8回	4歳児の発達と保育	～シナガラ～スル、心の理論、4歳児のプライド
第9回	5歳児の発達と保育	自我から自己へ、中間世界の成立、自己信頼感、集団あそび
第10回	障害のある子どもの発達と保育(1)	自閉症、ダウン症、発達遅滞、乳幼児健診
第11回	障害のある子どもの発達と保育(2)	
第12回	障害のある子どもの発達と保育(3)	発達障害、学習障害(LD)、注意欠陥･多動性障害(ADHD)、アスペルガー症候群
第13回	障害のある子どもの発達と保育(4)	
第14回	児童期の発達と教育	小学校、ギャングエイジ、学童保育、接続問題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	定期試験により講義内容の理解度を問う
平常点評価	20 %	講義時間内に実施するミニレポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
育ちあう乳幼児心理学	心理科学研究会(編)／有斐閣 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉計画論（S） § 社会福祉援助技術論IV（SG） § 社会福祉援助技術論IV（S） § 福祉計画論（SG）

15386

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、福祉計画の史的展開とその背景について学ぶとともに、「地域福祉計画」の概要、策定方法、他の計画との関係、評価、財政などについて学ぶ。国による社会福祉に関わる改革の内容と意義を踏まえたうえで、21世紀の社会福祉を推進する上で焦点が当てられている地域（都道府県、市町村など）による福祉計画の可能性について考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）福祉計画に関わる基本的な歴史、制度についての理解
（2）地域福祉計画の基本的な概念についての理解
（3）地域福祉計画の意義と重要性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉計画論ではなにを学ぶのか	講義の導入、福祉計画を考える視点
2-3	福祉計画の史的展開と社会背景（1）	福祉六法、ゴールドプラン、新ゴールドプラン、エンゼルプラン、ノーマライゼーション、少子高齢化社会
4-5	福祉計画の史的展開と社会背景（2）	社会福祉基礎構造改革、措置から契約（利用制度）へ、地域福祉の推進
5	地域福祉計画の理念と内容	総合化、住民参加、市町村、都道府県
6-7	地域福祉計画と関連計画	地域総合計画、社会計画
8	地域福祉における必要（ニーズ）と資源	在宅福祉、ニーズの判定と問題
9	地域福祉計画の策定プロセス	課題、理念、目的、課題の解決、実践
10	課題の発見と目標の設定	地域診断、必要（ニーズ）把握の技法、参加型調査
11	住民参加の技法	住民参加による検討、必要の把握、福祉学習、コミュニティ・ミーティング
12	地域福祉計画における評価	評価方法、評価の実際
13-14	地域福祉計画と財政	計画行政、予算、財源、民間財源、自治体財政
15	地域による社会福祉計画の可能性	地方分権、住民参加、当事者参加、ガバナンス

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞・雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、福祉に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	到達目標に照らして評価する
平常点評価	30 %	授業中に適宜、理解度を確認するための小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域福祉計画	武川正吾編／有斐閣／／

テキストに沿って授業を進めるので、必ず購入の上授業に持参すること。

参考書 / Reference Books

授業中に適宜、提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にアポイントをとることが望ましい。

その他 / Others

福祉政策論（S） § 福祉政策論（SG）

15325

担当者名 / Instructor　鎮目 真人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、社会福祉の対象や福祉サービスに関する総論（理念）部分と福祉の対象毎のサービスに関する各論部分とに区分し、それぞれについて解説する。具体的な内容は以下の通りである。

(1) 社会福祉の対象の捉え方やサービス提供方法に関する総論：①社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴、②社会保障・福祉制度の成立史、③社会福祉の理念（障害概念の把握、障害文化、ノーマライゼーション、自己決定、脱施設化）、③社会福祉施設、④社会福祉法

(2) 社会福祉制度各論：①障害者福祉、②高齢者福祉、③公的扶助（生活保護）

到達目標 / Attainment Objectives

本講義は福祉サービスを利用する当事者にとって不可欠な福祉サービスの在り方はどのようなものか、それを実現するための制度構築、および、現在の日本の社会福祉制度における課題について考察することを基本目標とする。具体的な達成目標は以下の通りである。

(1)福祉サービスを必要とする人に対する固定的な見方から脱却し、多角的に福祉サービス対象を捉えることを可能とする視野・視点を養う。

(2)社会福祉サービスを必要とする当事者の視点から、当事者の必要に即した「人間らしい」福祉とは何かについて考える力を養う。

(3) 日本の社会福祉制度における今日的課題の解決策のあり方について、福祉先進国での取り組みを必要に応じて参照して考察する力を培う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代と福祉、社会保障論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会保障制度の理念と範囲、日本の社会保障・社会福祉の特徴	社会保険、社会福祉、選別主義と普遍主義、社会支出、貧困率
2	社会福祉の成立過程―イギリスと日本の社会福祉制度の成立史―	救貧法、恤救規則、救護法、生活保護法、産業革命、少子高齢化
3	社会福祉の理念(1)―社会福祉と対立する概念―	社会防衛思想、優生思想、出生前診断
4	社会福祉の理念(2)―障害概念の把握―	インペアメント、ディスアビリティ、医療モデル、社会モデル
5	社会福祉の理念(3)―障害文化―	ろう文化、障害者スポーツ
6	社会福祉の理念(4)―ノーマライゼーション―	自己決定、バリアフリー、脱施設
7	社会福祉の理念(5)―脱施設化―	グループホーム、在宅サービス、通所施設
8	社脱施設化と自律生活	パーソナルアシスタンス、自立生活運動
9	社会福祉の施設と脱施設化	里親、施設の社会化、小舎制、ユニットケア
10	社会福祉サービスの制度枠組みと社会福祉法	措置制度、契約制度、福祉事務所
11	脱施設化と障害者福祉	障害者自立支援、応益負担、サービス供給の地域格差
12	脱施設化と高齢者福祉	介護保険、保険料、利用者負担、介護報酬、支給限度額
13	経済的困窮者の排除と包摂	貧困率、野宿者(ホームレス)、ワーキングプア、母子世帯
14	代の貧困と公的扶助（生活保護）制度とその課題	生活保護制度の原理と原則、居宅保護、施設保護、生活保護適正化、老齢加算、ホームレス自立支援プログラム
15	基礎的な生活保障とベーシック・インカム	ベーシック・インカムの根拠、ベーシック・インカムと所得保障、ベーシック・インカムの今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

社会福祉関係情報の収集(新聞、テレビ、雑誌、インターネット)。社会福祉制度の各種の問題点・課題に関する文献学習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	到達目標に沿って適切な解答がなされているかを基準に評価する。
平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーを用いて平常点評価を行う。評価は、授業内容に関する適切なコメントや質問がなされているかということを基準にして行う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本講義は社会保障・福祉に関する制度・政策系科目の基礎となるものである。本講義を履修後、他の制度・政策系科目を履修することが望まし

い。また、社会福祉の問題について当事者意識を持ち、自分なりにその解決策が提示できるように積極的に学習することが求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『くらしに活かす福祉の視点』	宮本信義編著／ミネルヴァ書房／4-623-04546-3／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国立社会保障・人口問題研究所・http://www.ipss.go.jp/。社会保障・福祉に関する最新データなどを得ることができる。
社会政策研究ネットワーク関西(SPSN関西) ・http://www.eonet.ne.jp/~aksugino/spsn/。社会保障・福祉に関する最新のトピックスを知る上で好適。
ベーシック・インカム日本ネットワーク準備委員会・http://basicincome.gr.jp/。日本におけるベーシック・インカムに関する運動や研究について知ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

基本的にオフィスアワーで対応する。連絡希望者は授業終了直後に相談日程について問い合わせること。

その他 / Others

学生が授業に参加するにあたって守るべきルールとして、①積極的な質問、②携帯電話の禁止、③私語厳禁。

福祉発達史（S）

15328

担当者名 / Instructor　福住 節子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の世界的不況の中、社会福祉の課題はその重要性と緊急性を増している。日本においては、「派遣切りから路上生活」を余儀なくされる人々が増加し、「労働者派遣法」の改正の問題点が指摘されている。このように、過去の出来事がそれ以降の状況へとさまざまな影響を及ぼしていることは、「歴史とは、現在と過去との対話である」（E・H・カー『歴史とは何か』）という言葉の重さを再認識させる。

本講義では、貧困救済から始まったイギリスの社会福祉制度を出発点として、世界と日本の社会福祉の歴史的展開を概観しながら、その過程において、歴史を動かす原動力となったものは何か、また人々の状況はどのようであったか等を知る中で、なぜ、社会福祉がこれほど重大な課題となってきているのか・・・を考え、社会福祉の変遷が、現在に示していること、そして未来に伝えてゆくことは何なのかを考え合ってゆきたい。また、その学びの中で、人々が社会的に生きてゆく上での、社会福祉・社会保障の必要性・重要性を確認し、その発達における歴史的認識を通して、今日的課題をみなさんと共に考え合ってゆきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〇社会福祉の歴史的展開を学ぶ中で、それらを「歴史的事実」としてのみ捉えるのではなく、その変遷の意　味することや、今後の社会福祉の発展に何が必要かという課題についても考えることができる。
〇社会福祉発達の歴史に、多面的な興味関心を持ち、受講者間の意見交流にも積極的姿勢で臨む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション：社会福祉の歴史を学ぶ意義・社会福祉の概念	
2	ヨーロッパにおける前近代（古代～中世）の貧困の救済	
3	絶対王政下での救貧政策（イギリス救貧法の形成過程）	
4	市民革命期の貧困救済のあり方	
5	産業革命期の貧困救済のあり方（新救貧法の形成過程・目的・評価）	
6	社会事業の組織的展開①（慈善組織協会・セツルメント）	
7	社会事業の組織的展開②（社会保障の諸課題ー教育・福祉・医療）	
8	大恐慌期から1940年代の「福祉国家」と社会福祉	
9	第二次世界大戦後における社会福祉の展開過程	
10	スウェーデンにおける「福祉国家」の建設と発展	
11	日本における社会福祉の発展過程ー戦前①（明治期の福祉政策）	
12	日本における社会福祉の発展過程ー戦前②（民間慈善事業と感化救済事業）	
13	日本における社会福祉の発展過程ー戦後①（戦後改革期）	
14	日本における社会福祉の発展過程ー戦後②（「高度経済成長」と「社会福祉」）	
15	まとめ　と　テスト（またはレポート）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①毎回、提出を求めるミニ・レポート（質問や要望　など、担当者とのコミュニケーション、あるいは、受講者間の意見交流の役割ともなる）。 ②個人の「研究テーマ」レポート（A42枚程度） ③最終講義テスト（学習到達確認テスト）

上記①～③を中心として、総合的に評価する。

〇受講者数によっては、可能な限り個別のプレゼンテーションや、グループ討論等も取り入れ、それらへ　の積極的姿勢も併せて評価したい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〇文献やTVのドキュメンタリーなどでも、福祉発達史を学ぶ上で参考になるものなどを活用されたい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用せず、随時、レジュメ・資料等を配布する。

参考書 / Reference Books

授業にて、適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

〇初回授業で、連絡する。

その他 / Others

福祉労働論（S）

12739

担当者名 / Instructor　石倉 康次

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

医療や教育とならんで社会福祉の仕事は人を対象として基本的な人権の保障の一貫としての性格を担っている遂行される労働です。この講義では社会福祉分野で職業として行われている社会福祉労働の基本的で共通の特徴や理念・必要とされる資質、そして福祉労働者の労働条件や労働環境の歴史と現状や将来について考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉労働に共通の基本的な性格と福祉労働者の労働条件や労働環境の現状と課題についての理解を深めることを目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉概論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会福祉労働論へのオリエンテーション	蟻の目と鳥の目
2	共同社会の中での福祉的営みの普遍性	ボノボ、共同
3	共同社会の基本条件：モノの生産と生命の維持再生産	モノの生産、生命の維持再生産、協働、コミュニケーション
4	福祉労働の三つの合理性	科学的・技術的合理性、規範的合理性、コミュニケーション的合理性
5、6	生活問題と発達課題をとらえる科学的・技術的合理性	生活問題、発達課題
7、8	福祉労働の規範的合理性	身体拘束と安全、生存権、発達権、手続き的権利、アクセス権
9、10	福祉労働におけるコミュニケーション的合理性	理解、社会学における社会的行為論
11、12	ビデオ教材を使って社会的行為の類型分析を試みる	社会的行為の5類型
13	福祉労働者の労働条件と労働環境	措置制度、常勤換算、福祉職俸給表
14	社会福祉事業の経営体に働く四つの力と福祉労働（者）の位置	社会福祉法人、NPO法人、福祉運動
15	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

毎回講義で小さな考えるテーマを出します。また、テーマに関連するビデオを多く見ることにします。それについて友人や家族と議論をしてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義全体の理解を問う試験問題を出し、理解度により採点します。
平常点評価	30 %	毎回の講義での小テーマに対する取り組み姿勢から判断します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

頭を使い、事実に基づいて、理論的に考える訓練をします。できるだけ欠席はしないように心がけてください。そうすれば、講義の終わりに多面的に考える力がついている自分に気づくことになるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現場がつくる新しい社会福祉	総合社会福祉研究所／かもがわ出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義時間の際か、メールで連絡してください。isikura@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

文化理論 (S)

15429

担当者名 / Instructor　森重 拓三

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「文化を生きる」という観点から代表的を思われる文化理論を紹介・整理し、「生きること」と「文化」との関わりを社会学的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

文化的諸活動にせまる切り口を文学・文化人類学・文化社会学・精神分析から学び、それら複数の観点から、日常生活における人々の言動を理解する視点を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の導入　全体構想の提示	授業の進め方 / 評価方法
第2回	文化の語り方　ー文化と文化理論の整理軸①ー	研究者の語り方 / 小説家の語り方 / 経験的世界と想像的世界
第3回	文化の採集の仕方　ー文化と文化理論の整理軸②ー	異文化の採集 / 自文化の採集 / 語られる文化と語り手の文化
第4回	文化と文化理論の定義　ー文化の「語り方」と「採集の仕方」を基準にー	「文化」と「文化理論」と「文化理論の理解」の関係 / 文化を文化する
第5回	機能主義的な文化理論　ー『西太平洋の遠洋航海者』(B.マリノフスキー著)を読むー	クラの交換・呪術(トロブリアンド諸島のマッシム人) / 有機的全一体 / 社会的紐帯
第6回	構造主義的な文化理論(1)　ー『悲しき熱帯』(C.レヴィ=ストロース著)を読むー	身体塗飾・村落形態(ブラジルのインディオ) / 非対称と対称の紋様 / 階級と半族
第7回	構造主義的な文化理論(2)　ー構造主義の源泉ー	言語体系と言語行為(構造言語学) / 本質存在と事実存在(実存主義)
第8回	解釈学的な文化理論　ー解釈とはー	意味措定・意味解釈 / テキスト / ローカル・ノレッジ
第9回	解釈学的な文化理論　ー「バリの闘鶏に関するノート」(C.ギアーツ著)を読むー	闘鶏(バリ島のバリ人) / 地位関係の代理闘争 / 闘鶏を解釈する主体
第10回	小テスト	
第11回	自文化の再帰的考察に向けて　ー構造言語学の諸概念ー	言語の内容面・表現面 / 言語の恣意性・必然性
第12回	言語論的な文化理論(1)　ー「甘え」の考察法ー	体験・言語・経験 / 「甘え」の発見
第13回	言語論的な文化理論(2)　ー『「甘え」の構造』(土居健郎著)を読むー	「甘え」の語彙 / 「甘え」の社会関係 / 「甘え」と「自由」の関係
第14回	言語論的な文化理論(3)　ー『「いき」の構造』(九鬼周造著)を読むー	「いき」の内包的構造(媚態・意気地・諦め) / 「いき」の外延的構造 / 「いき」と「甘え」
第15回	文化理論の基礎づけ　ー他者理解としての文化理論に向けてー	語り方・採集法 / 機能主義 / 構造主義 / 解釈学 / 言語論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で学んだ文化研究の理論・方法・概念を、具体的事例の理解と説明にどのように応用し適切に表現できるか
平常点評価	20 %	文化研究の理論・方法・基礎概念などの学習到達度

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教室で支持します

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
物語のなかの社会とアイデンティティ	佐藤嘉一／晃洋書房／／

社会的世界の意味構成	A.シュッツ／木鐸社／／
社会学の根本概念	M.ヴェーバー／岩波書店／／
悲しき熱帯	C.レヴィ=ストロース／中央公論社／／
文化の解釈学	C.ギアーツ／岩波書店／／
「甘え」の構造	土居健郎／弘文堂／／
「いき」の構造	九鬼周造／岩波書店／／
西太平洋の遠洋航海者	B.マリノフスキー／中央公論社／／

以下の文献を読むことを薦めます
佐藤嘉一著『物語のなかの社会とアイデンティティ』

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

臨床精神医学（S）　§　精神医学II（S）

15427

担当者名 / Instructor　近藤 悟

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

精神医学の臨床は「援助を求める人」と「援助を提供する人」とそれらを取り巻く人・環境から成り立っている。このため援助を提供する人は、この三つの要素とそれらの関係に注意を向け、理解しようとする姿勢が求められる。実際には、援助を求める主体の状態を客体として把握しつつ主観的な体験を汲み、援助の受け手と提供者の関係がどのような状態にあるかモニターし、環境と主体との関係を把握した上で主体および環境に働きかける、といった作業を行うのである。講義では臨床の実際も提示しつつ、精神医学の基礎知識を概説し、臨床精神医学に必要な思考の枠組みが理解できるよう試みる。

到達目標 / Attainment Objectives

①精神状態のアセスメントに必要な知識と視点を理解する
②精神療法や薬物療法など精神医学的援助の概略を理解する
③主要な精神疾患の概略について理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	精神医学の特徴と精神医療の歴史	
第2回	精神機能と主要兆候のとらえ方	意識　認知　気分　思考　知覚　不安
第3回	精神医学における疾患分類と診断	記述精神医学　操作的診断基準　面接
第4回	脳および神経の解剖と生理	中枢神経系　自律神経　神経伝達物質　認知　情動　記憶
第5回	第一回小テスト　治療法（1）	薬物療法　精神療法　環境調整　リハビリテーション
第6回	治療法（2）	精神分析的精神療法
第7回	治療法（3）	認知行動療法　家族への援助
第8回	症状性を含む器質性精神障害	
第9回	統合失調症とその近縁疾患	
第10回	第二回小テスト　ストレスとその反応・職場における精神保健	
第11回	気分障害	
第12回	アルコール依存症・老年期の精神障害	
第13回	パーソナリティ障害・発達障害	
第14回	強迫性障害・摂食障害	
第15回	第三回小テスト　不安障害・解離性障害	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	小テスト60%：講義内容の理解度を確認するために、第5回、第10回、第15回の講義の中で小テストを実施します。 小レポート40%：いくつかのテーマを提示しますので、その中から一つテーマを選んで小レポートを作成してもらいます。字数や提出期限等、詳細については講義の中で説明します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
TEXT精神医学	加藤進昌　神庭重信　編／南山堂／978-4-525-38003-8／
精神症状の把握と理解	原田憲一／中山書店／978-4-521-73076-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Issues of Democracy (SA)

11396

担当者名 / Instructor　HOSACK IAN

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government　Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'?　Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	Should voting be compulsory?　Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuiness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity – Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls – a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl ／Yale University Press ／0300084552 ／A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1
International IDEA http://www.idea.int/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

Issues of Democracy (SB)

12310

担当者名 / Instructor　HOSACK IAN

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

Democracy is a key concept for understanding the modern world, but it is a concept that means different things to different people. What exactly is democracy and how can it be achieved? What relationship is there, if any, between the classical democracy of ancient Athens and modern day democracies like Japan and the UK? What is the relationship between democracy and individual rights? Can modern communications technology improve the quality of democracy, and what is the future for democracy in an era of globalisation? These are just some of the questions students will consider on this course.

到達目標 / Attainment Objectives

In addition to introducing students to some of the key issues concerning democracy, the course will also develop students' academic English skills in areas such as reading, listening to lectures, note-taking and discussion.

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

This course is only open to students enrolled on the Sansha English Fukunsenko Programme.
Preferably, students will already have completed Academic English I, II & III before taking this course.

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Defining democracy: key concepts and questions Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
2	Athenian democracy Reading from Robert Dahl, 'Democracy & Its Critics'	
3	How democratic was Athenian democracy? Reading from Ian Budge, 'The Challenge of Direct Democracy'	
4	The Second Transformation: Democracy as Representative Government　Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
5	Virtual Democracy? The democratizing potential of the Internet#1 Reading: 'Virtual Democracy?' tapescript	
6	Digital democracy: The democratizing potential of the Internet#2 Reading from David Beetham, 'Democracy: A Beginner's Guide'	
7	Electoral Systems: How can elections be 'free and fair'?　Written assignment: Should voting be compulsory?	
8	hould voting be compulsory?　Readings Chris Puplick, 'The case for compulsory voting'; Padraic McGuiness, 'The case against compulsory voting'	
9	Measuring democracy: Basic criteria Reading from Robert Dahl, 'On Democracy'	
10	Measuring democracy: The Freedom House index Reading from Freedom House, 'Freedom In The World'	
11	The Third Wave of Democracy Reading Renske Doorenspleet, 'Reassessing the Three Waves of Democratization'	
12	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#1 Reading & Research activity – Afghan democracy	
13	Challenges of Democratization: The Case of Afghanistan#2 Reading from James Fishkin, 'The Voice of the People'	
14	Deliberative Polls – a new initiative for democracy	
15	Final Examination and Course Summary	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

This is a demanding course. Of course, as with other B-gun courses on the sansha English Fukusenko Programme, all classes are conducted in English. Students will need to prepare for these by reading selected articles written in English, completing short-answer worksheets and by learning key vocabulary. Regular attendance and active participation in class are essential.

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

1. The above schedule of classes may change. More details will be given in class.
2. Students must complete all coursework in order to pass.

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1. The readings provided on this course are authentic English texts – that is, they are the kinds of texts used by students at English-speaking universities. It's important that you complete the readings each week, but don't worry if you don't understand every word. Focus on the main ideas. Use the worksheet provided by the instructor to help you (the questions / tasks on the worksheet will help you to identify the main points in the reading).
2. Make a list of key words that come up in the readings. Certain key words / phrases will come up again and again in the lectures / readings (e.g. legitimacy; accountability)
3. If you don't already do so, get into the habit of reading a newspaper regularly – either in print or online. In class discussions, we will often talk about current political events in the world.

教科書 / Textbooks

No textbook. Teacher will provide materials.

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『On Democracy』	Robert Dahl ／Yale University Press ／0300084552 ／A useful general introduction to the topic.

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Freedom House http://www.freedomhouse.org/template.cfm?page=1
International IDEA http://www.idea.int/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

メディア社会論 (S)

15377

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「情報化」とはそもそも何なのでしょうか？　この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？	社会理論、相互行為
2	メディアと社会理論(1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ	社会理論、経済理論
3	メディアと社会理論(2)：産業化にはメディアが必要だった---社会の中のメディアの働き	取引コスト、情報管理
4	メディアと経済(1)：通信メディアが私たちを豊かにする	株式市場、システム構築
5	メディアと経済(2)：通信メディアが私たちの仕事を変える	システム構築、インターネット
6	メディアと政治(1)：そもそも政治の働きって？	意思決定、民主制
7	メディアと政治(2)：マスメディアの功罪	マスメディアの失敗、親密性の専制
8	メディアと政治(3)：インターネットは政治をどう変えるか？	報道メディアと論評メディア
9	メディアと政治経済：中間総括および質疑応答	社会学、経済学
10	メディアと人間関係(1)	CMC、SNS(Mixi,Facebook)
11	メディアと人間関係(2)	社会的ネットワーク、信頼
12	インターネット再入門	WWW、ハッカー倫理
13	旧メディアと新メディア(1)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	マスメディア、インターネット
14	旧メディアと新メディア(2)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	報道、一次ソース、専門性
15	メディアについて学ぶために何が必要か、および質疑応答	メディアの社会理論、メディアの経済理論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での補足学習（追加参照文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログを利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	主に論述に明確に答えているかどうか（授業内容の理解度）を評価します。
レポート試験	20 %	一度だけレポートを課します。テーマは講義中に指示します。
平常点評価	0 %	日常点評価は基本的に行いませんが、全体の授業運営の妨害になるような行動、私語等は、他の学生の学習を妨げますから、減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ふだんから社会問題、経済問題に関心を持つようにしましょう。新聞でもよいし、Wikipediaでもよいし、時事問題を解説したブログでもいいです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと社会	秋吉美都、小山友介他／ミネルヴァ書房／／未だ出版予定です。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用のブログを開設する。URLは授業で知らせる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで行う。

mail: tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

家族社会学（S）

15337

担当者名 / Instructor　斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは、「学校」「企業」「市民社会」など、多様な集団および組織に属しているが、自分にとって最も身近な集団が「家族」である。家族をめぐる諸問題は、非常に身近な問題であるだけに、社会的・個人的関心の高い学問領域である。本講義では、「家族」というフィルターを通して、戦後日本社会の生活構造の歴史的形成過程および今日的課題について検討する。

到達目標 / Attainment Objectives

本講義では、家族社会学に関する理論的知識を習得すると同時に、こうした分析ツールを用いて、自分の家族関係を含む現代の家族変動の趨勢を客観化し、批判的に読み解くことを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	家族研究の課題	家族の定義
第2回	家族社会学史①	ライフサイクル　ライフコース　ライフスタイル
第3回	家族社会学史②	パーソンズ　近代家族　社会システム
第4回	「近代家族」以前の家族	伝統家族　直系家族　親族
第5回	「近代家族」の成立	アリエス、子ども、主婦、母性愛
第6回	日本における「近代家族」の成立	戸籍制度、専業主婦、企業戦士、性別役割分業、夫婦別姓
第7回	「近代家族」と結婚①	宮廷恋愛、恋愛結婚、ロマンティックラブ・イデオロギー
第8回	「近代家族」と結婚②	未婚化、晩婚化、新・専業主婦願望
第9回	「近代家族」の病理	デートDV、恋愛依存症、共依存
第10回	「近代家族」の病理②	閉鎖的育児、三歳児神話、児童虐待
第11回	「近代家族」のゆらぎ①　結婚をめぐる変化	離婚　再婚　同性婚、ドメスティック・パートナー法
第12回	「近代家族」のゆらぎ②　子育ての「社会化」	育児休業制度　パパ・クォータ制
第13回	「近代家族」のゆらぎ③　介護の「社会化」	介護保険制度、遠距離介護、男性介護者
第14回	「近代家族」のゆらぎ④　生殖技術	生殖技術、不妊
第15回	私たちがつくるこれからの家族	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

事件、映画、小説といった家族に関するトピックスを意識的にチェックすること。講義の理解を深めるために、講義で関連する参考文献を適宜提示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	50 %	
平常点評価	50 %	講義の際にミニレポートを提出してもらう場合がある。

平常点評価（出席）を重視するため、課外活動や就職活動等で恒常的に講義に参加できない学生には適さない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

レジュメについては、WebCTにおいて公開する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
迷走する家族	山田昌弘／有斐閣／4641173125 ／
ジェンダーとライスコースで読む家族	岩上真珠／有斐閣／9784641173378／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S） § （副）環境と人間IV（F）

12815

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 （climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース： An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中に適宜、質問用紙を配布する。また、授業後、直接、担当者に、質問してください。

その他 / Others

環境論（S） § 環境問題論（S） § （副）環境と人間III（F）

15390

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

環境問題の一層の深刻化を考えれば、21世紀の社会が今日のような経済体制、企業行動、ライフスタイルの単なる延長として存在できないことは明らかであり、人類史のうえで新しい行動規範を必要としている。こうしたなか複雑化する環境破壊現象の法則的解明を目指し、現代社会における公害・環境問題がいかなるメカニズムで発生しているのかを社会科学的に分析し、その解決策を提示することを課題とする「環境論」の発展が求められている。

本講義では、環境破壊の歴史と人間の社会的活動とのかかわりを概観したうえで、公害問題、廃棄物問題、エネルギー問題、自然破壊問題、地球環境問題などについて歴史的・多角的視点から考察する。また、公害・環境問題と人間社会との関係一般についての基礎理論を概説しつつ、持続可能な社会の実現の諸条件について検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・公害・環境問題に関する基礎理論や社会的要因について多角的視点から理解できる。
・公害・環境問題を歴史的脈絡のなかで捉えることができる。
・公害・環境問題の解決の方向性について自己の見解を論理的に述べることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代環境論」を履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに－環境論の射程	環境問題とはなにか、物質代謝、労働過程、生産力
第2回目	環境問題の歴史（1）農業と環境問題	狩猟・採集と移動生活、農業の開始と定住社会の成立、家畜と病原菌、農業の意義
第3回目	環境問題の歴史（2）産業革命と環境問題	機械制大工業、工業都市の形成と公害問題、ロンドンスモッグ事件、市場経済と資本主義
第4回目	日本の公害問題の歴史（1）四大鉱害	戦前の公害問題、製銅業の発展、足尾鉱毒事件、別子銅山煙害事件
第5回目	日本の公害問題の歴史（2）四大公害	熊本水俣病、新潟水俣病、イタイイタイ病、四日市喘息、石油化政策
第6回目	大気汚染公害	コンビナート公害と道路公害、都市型複合大気汚染、西淀川大気汚染公害、尼崎大気汚染公害
第7回目	公害・環境問題に関する諸理論	地球環境問題、外部負経済論、社会的費用論、生産関係論
第8回目	中間試験（60分）	試験範囲は第1回～第7回目まで
第9回目	地球温暖化問題とエネルギー（1）	気候変動問題、京都議定書、日本の温室効果ガス排出量、直接排出と間接排出
第10回目	地球温暖化問題とエネルギー（2）	再生可能エネルギー、原子力立国論、炭素税、電力買取補償制度
第11回目	地球温暖化問題とエネルギー（3）	排出量取引制度、キャップ＆トレード型、バイオ燃料、カーボンニュートラル
第12回目	廃棄物問題とリサイクル（1）容器包装リサイクル	廃棄物処理の優先順位、拡大生産者責任、容器包装リサイクル法、寝屋川病
第13回目	廃棄物問題とリサイクル（2）耐久消費財のリサイクル	リマニュファクチャリング、自動車リサイクル法、多品種大量生産、リサイクル設計
第14回目	自然（生態系）破壊問題	熱帯林破壊、構造調整プログラム、ODA、貧困と環境破壊
第15回目	まとめ	大量生産・大量消費・大量廃棄社会、資本主義と過剰生産、モノの流れと価値の流れ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

日頃から環境問題に関する本、新聞、雑誌、テレビ、ビデオ、インターネット、映画、文学、フィールドワークなどを通して、現実の環境問題についてのイメージをつかむように努力してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度、論旨の明瞭度などを評価。
平常点評価	20 %	第8回目に実施する中間試験を評価。いわゆる出席点はなし。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

「現代環境論」を受講していない人は『新・地球環境論』を読んでおくこと。

教科書 / Textbooks

テキストは特に指定しない。必要に応じて講義レジュメや資料などを配布する。また時にはビデオ教材も利用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
破壊されゆく地球	ジョン・ベラミー・フォスター／こぶし書房／4875591616／
緑の世界史（上・下）	クライブ・ポンティング／朝日新聞社／4022596031・402259604X／
新・地球環境論	和田　武／創元社／4422400177／
日本公害論	加藤邦興／青木書店／4250770257／
地球環境「危機」報告	石　弘之／有斐閣／9784641173422／

その他の参考文献については講義中に適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

居住環境デザイン論（S） § 都市構造論（G）

12768

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、一人ひとりにとって居心地のいい居住環境とはどのようなものなのかを明らかにするとともに、そのような環境を創出するための考え方や知恵や技を伝えたい。
多くの具体的事例を通して、「空間・場（都市・まち）」の質が「ひと」の在り方（社会関係や文化等）を規定し「できごと（生活のドラマ）」を誘発すると同時に、「ひと」の「思い」や「できごと」が「場」に意味を与えるという、「場」と「人」の「創り・創られる」相互浸透的で重層的な関係として「居住環境」を読み解く視点を学んでいく。
講義では、スライド映像等を活用しつつ、多くの事例をもとに「見える都市」から「見えない都市」を読み解いていく。知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義。

到達目標 / Attainment Objectives

人々が心地よく暮らしうる「場＝居住環境」とはなにかを知り、そのような環境を創出するための考え方や技を身に着けるための糸口を、事例とその解説を通じて自ら学び、発見する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、後期におこなう「参加のデザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「居住環境デザイン論」ってなに？「居住環境」ってなに？	本授業の視点の提供：「ひと」と「場所＝都市（まち・地域）」の関係論
2	だから都市はおもしろい　その1	京都歴史散歩…京都は千年の都、万古不易って本当？
3	だから都市はおもしろい　その2	続・京都歴史散歩…「都市」の魅力は多層性・多義性にある
4	だから都市はおもしろい　その3	都市はうつろいゆくもの。網目としての都市・自己創出系としての都市＝「まちづくり」の視座
5	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その1	都市計画とはなにか
6	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その2	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(1)
7	「都市をつくる企て」としての近代都市計画　その3	「理想の都市」は創りうるか＝近代都市計画の光と影(2)
8	中間まとめ	いったんこれまでの流れを整理して後半につなぐ
9	「都市」の構造を継承するこころみ　その1	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(1)
10	「都市」の構造を継承するこころみ　その2	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(2)
11	「都市」の構造を継承するこころみ　その3	ここちよい場所をつくる「まちづくり」事例(3)
12	「都市」（まち）に住み続けるために　その1	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(1)
13	「都市」（まち）に住み続けるために　その2	京都の現状…京都は住み続けられるまちか？(2)
14	「都市」（まち）に住み続けるために　その3	新しい京都の動き
15	まとめ	再度、居住環境をデザインする意味を考える

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

「場所性」を読み解きながらまちを探検してください

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	成績は基本的には試験レポートの点数で評価します。 評価基準はレポート課題発表時に示します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

知識提供型ではなく、事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、きちんと出席して継続して受講することを望みます

教科書 / Textbooks

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

現代家族論（S）

15330

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「家族のありかた」に様々な変化が起きている。この科目は、その変化とは何か、その変化の要因とは何か、これからどのような「家族」を私たちは展望出来るのか、について、考えるきっかけとなるものです。社会学を中心にしながら、経済学などその他の学問領域での調査研究をも踏まえて、多面的に現代の家族の変化の様相を見ていきます

到達目標 / Attainment Objectives

社会と家族の関係について理解を深める。
雇用システムの変化と家族の関係を理解する。
女性・男性のライフスタイルの変化と家族の関係理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

家族社会学、ジェンダー論、家族福祉、企業社会に関連する科目を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	家族の定義	先進国を中心とする家族の多様化・個人化
2	日本の家族の現状ー統計でみる家族の変容ー	単身世帯の増加、多世代家族の減少、 標準家族の解体、
3	ヨーロッパ近代と家族	近代家族、母性、性別分業、
4	資本主義経済と家族　その1	資本主義、生産と消費の分離、性別分業、無償労働
5	資本主義経済と家族　その2	家族機能の外部化−共同化・公務労働化・産業化 −
6	戦後日本社会と家族の変容	天皇制、日本国憲法24条、家族制度改革
7	日本型近代家族の形成	農民家族の減少、都市労働者家族の増大、核家族
8	企業社会と家族　その1	大企業労働者　性別分業型家族　主婦の誕生
9	企業社会と家族　その2	性別分業型家族の標準家族化
10	企業社会と家族	女性のライフコースの多様化・主婦の変容
11	「標準家族」の再生産	規範的家族政策・性別分業の再強化
12	日本型雇用システムの変化と家族　その1	新日本型経営、個人中心、労働力3類型 転職社会、
13	日本型雇用システムの変化と家族　その2	男性のライフコースの女性化、リスク分散型家族
14	生活領域の市場化と家族	家族機能の社会化、 福祉の産業化、 公的福祉の後退
15	おわりにー家族のつくりかたー	個人単位・ワークライフバランス

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	家族に関して、常識的理解から社会科学的な理解に踏み込めたか、を、評価。

数回の小レポートを行う。コミュニケーション・ペーパーとして活用。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は、講義の際レジュメに記載。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の際にレジュメに記載。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

下記のアドレスに連絡：

jkn-aka@r5/dion.ne.jp

その他 / Others

現代経済論（S）

12772

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、はじめに方法として「市民社会と
企業社会」について考えたうえで、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の
景気回復状況など、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「日本経済論」
と連結しておりその前半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－問題の所在	
2	日本経済の概況	
3	「高度成長」と企業社会の成立	
4	企業社会と市民社会	
5	市民社会の概念規定	
6	大企業体制の2類型	
7	貿易関係と資本の対外的展開	
8	同上（2）	
9	不良債権問題の経過と問題点	
10	同上（2）	
11	六大企業集団と法人資本主義	
12	同上（2）	
13	日本的経営について	
14	まとめ1－現代経済論の課題	
15	まとめ－2現代経済論の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代産業論（S）

12773

担当者名 / Instructor　伊藤 武夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会は、国際化・情報化・サービス化のまっただ中にある。その土台となり基軸となっているのが諸般の産業活動である。この講義は、現今の世界的な経済不況のもとでの、日本の主要な産業動向を解説して、現代産業の今後の発展方向を探る論議をしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

現代日本の主要な産業動向に関する認識を深め、各自それなりの知見に確信が持てるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代経済論　社会発展論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	現代産業論の課題をめぐって	世界的な経済不況、日本経済の構造転換について検討を要する問題、 この講義の流れの確認
第2回	日本の貿易と国内産業との連関	日本の貿易依存体質　日本産業の強みと弱み　（第3回目から主要産業の動向を検討）
第3回	自動車産業	自動車産業の国際再編　海外生産、新製品開発
第4回	鉄鋼産業	鉄鋼生産と内需の特徴、海外進出、大規模高炉企業の「合理化」
第5回	電機産業	生産構造　ICT産業との関連　国際競争の激化
第6回	工作機械工業	ロボット化、世界の工作機械産業との競争と住み分け
第7回	石油と化学	過剰設備の顕在化と再編、 LPG・石炭との関係 薬品工業
第8回	繊維産業の担い手たち	伝統産業と繊維産業、アパレル産業
第9回	銀行業界の再編	多国籍銀行、リージョナル・バンク、 証券会社・保険業・カード会社との連繋
第10回	保険業界の再編	生保と損保　保険業の世界的再編
第11回	ICT産業の進展	NGNが変えるITと通信の未来　ブロードバンド・ネットワーク、電子政府、 メディア・コングリマリット
第12回	流通業界の再編	商社、百貨店、スーパー・マーケット、コンビニ
第13回	日本農業の現状と課題	コメ自由化以後の農業、日本資本主義の再生産構造と農業
第14回	日本社会と雇用問題	正規雇用と非正規雇用、日本の派遣労働、失業者対策
第15回	不況からどう脱出するか	雇用・技術・企画力

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	85 %	4000字程度の課題レポートを課す
平常点評価	15 %	コミュニケーションペーパーを3回提出することを重視

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

個別の産業活動に関する分析を重ねるかたちで、日本の産業構造の特質を浮かび上がらせるようにしたい。それと同時に、企業の社会的責任、企業と環境問題への対応などについて、個別産業に即して言及するように努めたい。講義毎に、さらに読み進めると良い参考文献を、適宜紹介する。

教科書 / Textbooks

レジメを中心に講義。教科書は指定しない。
現代産業論のファイルを独自に用意することを希望する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代日本産業の構造と動態	産業構造研究会／新日本出版社／4-406-02729-7／2000年刊で古いが一読を
現代日本経済[新版]	橋本寿朗ほか／有斐閣アルマ／4-641-12297-0／2006年頃の概説書
日本の不平等	大竹文雄／日本経済新聞社／4-532-13295-9／成果主義について検討
グローバル製造業の未来	カジ・グリジニックほか／日本経済新聞出版社／978-4-532-31490-3／手軽な読み物

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義の中で適宜、紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCTを活用し、講義の事前連絡などを行うようにしたい。

その他 / Others

現代市民社会論 (S)

15342

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

いま社会の中で「人々の絆」が弱くなってきています。「あなたは、見知らぬ他人を信じることができるか」というアンケートに信じることができないと答えた人の割合が以前と比べて増えてきています。それとともに社会的犯罪や病理現象も増えてきているといいます。なぜでしょうか？いろいろな答えがあるかもしれません。しかし、人々が利己的になりつつあること、社会のことを考えなくなってきたことが大きな原因の一つであることは確かです。こうしたなかで市民社会についての議論が近年大きくクローズアップされています。人々はどのようにこれまで他人と絆を結びつつ社会を形成してきたのか。またなぜ絆が弱くなりつつあるのか、それを克服することができるのか。本講義は、近代社会が市民社会として形成されてきた歴史をたどりながら、人々が市民社会のなかで個人と社会（他人）との関係をどう捉えてきたのかを思想家の議論をたどりながら見ていくものであり、そのなかで上記の問いを考えていくものである。

到達目標 / Attainment Objectives

1）近代（市民）社会形成の原理が何であったのかを、ルソー、スミスをとおして理解すること
2）現代(市民）社会の構成原理をハーバマス、パットナム、ハーストをとおして理解すること
3）現代社会において自明とされている社会・人間観を懐疑し、再考すること

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学
社会倫理
社会ガバナンス論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	市民社会とは？
2	近代市民社会の成立－フランス革命	1789年、封建制度、産業化
3	市民社会の原理－フランス人権宣言を読む	自由、平等、博愛、所有
4	古典に見る社会像1－ルソーの描いた社会	自然状態、文明社会、不平等、自愛心と慈愛心
5	古典に見る社会像2－スミスの描いた社会	商業社会、利己心、同感の原理、正義, ホッブス
6	古典に見る社会像3－マルクスの描いた社会	個人と私人、資本の文明化作用、貨幣物神,
7	小括・まとめ	補足講義、また理解確認のためのアンケート、質問など
8	ハーバマスと市民社会1－ハーバマスの課題	東欧革命、システム世界、生活世界、植民地化
9	ハーバマスと市民社会2－市民的公共性	批判的公共性、熟議民主主義、公共圏
10	パットナムと市民社会1－ボーリング・アローン	市民社会の衰退、政治参加、市民参加、友人、家族
11	パットナムと市民社会2－社会関係資本と格差	社会関係資本、信頼、互酬性
12	小括・まとめ	補足講義、理解確認のためのアンケート、質問等
13	ハーストと市民社会	ガバナンス、市民諸組織、社会への参加、市民社会の公共化
14	ギデンズと市民社会	アクティブ市民社会、社会包含、政府と市民社会とのパートナーシップ
15	市民社会と日本	市民社会論のまとめ、日本で、それはどう論じられてきたのか？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。れじゅめに基づいて講義。参考文献は適時、知らせることとする

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する
平常点評価	20 %	出席を3～4回とり、点数化する。

評価は、定期試験80点。出席点（5～7点）20点＝100点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義はできるだけ続けて聴講してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『市民社会論』	山口定　／有斐閣 ／／
『市民の政治学』	篠原一 ／岩波新書 ／／
『相対化の時代』	坂本義和　／岩波新書 ／／
『公共性』	斎藤純一　／岩波書店 ／／
岩波書店	パットナム（鹿内訳）／柏書房 ／／

参考文献追加:『第三の道』ギデンス（佐和訳）日本経済新聞社。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

国際NPO・NGO論（S） § 国際ボランティア論（S）

15468

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国における多くの社会問題に取り組む、国際協力活動を行うNGOを中心に取り組んで取り上げる。その関連で、国際機関(国連、世界銀行等)、政府のODAについても一部で取り扱う。途上国における貧困や、民族紛争、テロ、環境破壊は、世界全体を不安定な状態に陥れている。そうしたなか市民によって結成されたNGO(非政府組織)の役割に注目が集まっている。本講義では「NGOの時代」といわれる21世紀のなかで組織の活動、課題を検証していく。講義は毎回ビデオを使用し、また1-2回ゲストスピーカーを招聘する。それによって、アップデイトな事象についてより具体的な理解を深めてもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

・国際協力において、なぜ政府だけでは役割を果たせないのかを理解する
・NGOが具体的にどのような役割を果たしているのかを理解する
・国際協力NGOにおいてなぜマネジメントが重要になり「ビジネス化」が言われるようになったかを理解する
・国際協力においてどのような人材が求められ、その特徴は何かについて理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

NPO・NGO論(担当：秋葉武)

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2～3	NGOの台頭とその社会的背景	NGOの機動性、国境なき医師団、地雷廃絶キャンペーン、アフリカ
4～5	日本のNGOの活動分野と協力形態	適正技術、児童支援NGO、シャンティ国際ボランティア会、東南アジア
6～7	NGOの活動分野と協力形態	持続可能な発展、環境NGO、アマゾン
8	NGOと国内の国際化	コミュニティにおける他組織との連携、多文化共生、多文化共生センター
9～10	NGOの新たな戦略　――マイクロクレジット――	ビジネスモデル、エンパワーメント、貧困と女性、グラミン銀行
11	NGOの新たな戦略　――フェアトレード――	世界貿易の不均衡、ピープルツリー、フェアトレードラベル
12	NGOを取り巻く環境①―政府とのパートナーシップをめぐって―	創造的緊張、協働、下請け化の危機
13	NGOを取り巻く環境②―国連とのパートナーシップをめぐって――	国連の危機、アメリカとの相克、協働の進展
14	NGOを取り巻く環境③――グローバリゼーションによる社会構造の変化――	グローバル化、社会的排除、絶対的貧困
15	国際協力NGOの今後	NGOの課題と今後の展望について

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	記述および穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主にコミュニケーションペーパーを通してです。講義内容に関して、コメントを求めます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ガイダンスに出た上で、納得した上で受講登録をして下さい。せっかく受講するのですから、受講するだけでなく、自主的に勉強してテーマを深めていくと面白いと思います。

なお、下記の行為をする受講生は「D」評価となる可能性があるので、留意してください。①他の受講生の受講権の侵害・・授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など　②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ハンドブックNGO――市民の地球的規模の問題	馬橋憲男、斎藤千宏編／明石書店／／

への取り組み――(1998)

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.janic.org/　国際協力NGOセンター
http://www.mofa.go.jp/mofaj/　外務省
http://unic.or.jp/index.php　国連広報センター

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

国際教育援助論(S) § 国際教育援助論(I)

12775

担当者名 / Instructor　小原 豊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発展途上国には不就学児や非識字者が未だに大勢おり，その支援が国際的に急がれている。本授業では，国際教育援助の現状と課題について概説し，国際社会の潮流や歴史的展開にも言及しながら，教育援助における基本的な原理と実践手法を概観し，その論点整理と展望の探究を行う。また，本授業は一方的な講義形式ではなく，受講者小集団によるプレゼンテーションや議論形式を取り入れた参加型学習を進める。

到達目標 / Attainment Objectives

1　国際教育援助の基本原理を理解し，発展途上国支援の諸課題を探究する力量を形成すること。
2　国際教育援助の歴史的展開を踏まえ，発展途上国支援の実践的手法について理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前履修が必要な科目は特にありません。日頃から，様々な報道機関，諸外国のメディア等にも目を通して情報を比べることで，物事を多角的に考える習慣をつけて下さい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	国際教育援助とは何か？:国境を越えて人が人の学びを支援する	国際社会の潮流，世界識字実験計画(EWLP)，援助理念と政策
第02回	国際教育援助の仕組み	ODA，円借款，無償／有償資金協力，技術協力
第03回	国際教育援助の概略史	ジョムティエン会議，ダカール行動枠組み，成長のための基礎教育イニシアチブ
第04回	世界の基礎教育の現状と課題	量的拡大と質的向上，識字率・就学率，世界銀行，女子教育，
第05回	日本による教育援助①その比較優位性:Jugyou-Kenkyuとは何か	授業研究，カスケード方式とクラスター方式，住民参加
第06回	日本による教育援助②JICAの活動と青年海外協力隊の展開	JICA，JOCV，選考・訓練・実情，自助努力，協力隊5か条
第07回	日本による教育援助③文部科学省による国際教育協力イニシアチブ	拠点システム，日本の教育経験集約，協力知見の体系化・共有化
第08回	途上国理解・支援の原理①文化的アイデンティティ	民族性，多言語・他文化社会，僻地複式モデル
第09回	途上国理解・支援の原理②持続可能性(Sustainability)	技術移転，プロジェクト評価，参加型ガバナンス
第10回	途上国理解・支援の手法①教育開発モデル	社会構造，モデル分析(ハービンソン&マイヤーズ，カミングス)
第11回	途上国理解・支援の手法②教育セクター分析	包括性と選択，優先課題，ファストトラックイニシエティブ(FTI)
第12回	国際教育協力フィールドワーク①NGOの活躍:アフガニスタンを事例に	実際に国際教育協力に勤しむNGOの方を招聘し，議論・懇談する
第13回	国際教育協力フィールドワーク②草の根交流:インドネシアを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ活動家を招聘し，議論・懇談する
第14回	国際教育協力フィールドワーク③専門家派遣:ラオスを事例に	実際に国際教育協力に勤しむ専門家を招聘し，議論・懇談する
第15回	国際教育援助の論点整理と展望:支援から共生へ	世界人権宣言の理念，Education for All (EFA)，ヨハネスブルグ宣言

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本授業は一方的な伝達形式ではなく，受講者の関心や問題意識に基づいた議論を中心に進めていきます。教員の指示をただ待つのではなく，教育援助に関する課題を様々な一次資料から探究していくことが大切です。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	小集団による課題発表に対する自己評価，受講者同士による相互評価，教員評価を参照する。
平常点評価	60 %	出席を重視する。また日常点(学習態度，質問内容，討論参加等)も加算する。

特別な事情がない限り，開講回数の2／3以上を出席することを単位認定の基本条件とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

我々は国際社会を生きる上で，自国の文化に根ざしながらも，多様な価値観をもって異なる文化の在り方を尊重し，受け入れねばなりません。

国際教育援助については，ドナー国と被援助国が対等な立場で相互理解を深め，国際社会での共生を目指す立場で学ぶ必要があります。とかく視野が狭窄しがちな教育分野ですが，国際的な視野で教育問題を捉える経験が，受講者各位にとって大きな財産になることを願います。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しません。必要に応じて授業時に参考資料を適宜配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
国際教育協力論	内海成治／世界思想社／ 4-7907-0910-8 ／教育協力分野の学際的な知識が得られる。
国際教育開発論	黒田一雄，横関祐見子 ／有斐閣 ／4-641-07697-9 ／多様な領域の教養が体系的に得られる。
国際教育協力を志す人のために	千葉杲弘，寺尾明人，永田佳之／学文社 ／4-7620-1359-5 ／専門的知識が包括的に得られる。

その他，参考図書の内容は随時紹介し，必要に応じて抜粋を配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

国際協力機構(JICA)や国際教育イニシアティブの活動関連のweb site 等を随時紹介していきます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

授業において不明な点，疑問に感じた点を大切にして，まずは自らその解消に努めて下さい。またPCを利用した授業を行う場合もあります。

国際社会政策論（S） § 国際社会政策論（I）

15376

担当者名 / Instructor　深澤 敦

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

21世紀に入って経済のグローバリゼーションがますます進行し、サブプライムローン問題やリーマン・ショックを契機とする世界的恐慌への対策においてもG20などの国際的政策協調が不可欠となっていますが、それとともに、これまで基本的には各国家を政策主体として遂行されてきた社会政策も大きな変容を余儀なくされ、その一層の国際化が求められています。とはいえ、第一次世界大戦の終結とともにILOが創設されて以来、20世紀においても社会政策は一国の枠を越えて明確に国際化の方向性を示してきました。

本講義は、こうした「国際社会政策」の歴史と現状の検討を通じて、とりわけ日本の社会政策の特異性、つまりグローバル・レイバー・スタンダードからのその大きな乖離の実態を歴史的に解明することを中心的な課題としています。そして、これによって、日本社会の特異性、とりわけ多方面に現れているジェンダー・バイアスや経済・社会のその他の格差構造などの問題性を浮き彫りにすることを意図しています。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会政策と国際社会政策の基本的概念をその歴史的発展の中で正確に理解できるようになること。
・日本の労働問題を初めとする多くの労働・福祉・ジェンダー・社会の諸問題に関して国際的な視点から分析できるようになること。
・「社会的公正」と「経済効率」との関係についての国際的経験（例えばCSRやSRIなど）から日本の将来に関する展望を持つことができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

事前に履修しておかなければならないような科目は特別にありませんが、日常的にテレビや新聞などを通じて、労働問題や社会政策の動向に注目することが求められます。そして、毎年6月にスイスのジュネーブで開催されるILO総会で何が議題になっているかについて関心を持つ必要があります。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	Ⅰ）社会政策の基礎理論　（1）社会政策とは何か	現実の社会政策、社会政策論、19世紀最大の不況
第2回	（2）社会政策の道義論	ドイツ歴史学派、分配の正義、「講壇社会主義」
第3回	（3）社会政策の政治論	ワイマール憲法、労働者参加の思想、生産政策
第4回	（4）社会政策の経済理論	生産要素としての「労働力」、労働力の創出・保全・掌握政策、譲歩・妥協としての社会政策
第5回	（5）大河内理論の問題性	相対的過剰人口、資本の有機的構成、労働生産性
第6回	Ⅱ）国際社会政策の登場　（1）国際社会政策の概念	国内社会政策、超国家的社会政策、競争条件の平等化
第7回	（2）国際社会政策の内容と性格	労働基準政策、雇用・失業政策、労使関係政策、社会保障政策
第8回	（3）国際社会政策成立への途	ダニエル・ル・グラン、スイスの国際会議提唱、ベルリン会議
第9回	（4）国際労働者保護立法協会の成立	ブリュッセル会議、1906年のベルン条約、1913年のベルン条約案
第10回	（5）第一次世界大戦とILO創設	AFLの1914年大会決議、国際労働法制委員会、ヴェルサーユ条約
第11回	Ⅲ）ILOの機能と日本　（1）ILOの機能と戦前の活動	国際労働総会、国際労働条約、フィラデルフィア宣言
第12回	（2）ILOと日本（そのー）	官選労働者代表問題、ILO第一号条約、日本のILO脱退
第13回	（3）ILOと日本（そのニ）	179号事件、結社の自由委員会、ドライヤー報告
第14回	Ⅳ）現代の国際社会政策　（1）EUの社会政策	ローマ条約、社会憲章、同一価値労働同一賃金
第15回	（2）ジェンダーと国際社会政策	女性差別撤廃条約、ILO156号条約、ポジティブ・アクション

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

既述のように日々のニュースを通じて労働・福祉・ジェンダーに関する世界の動向に注目すると同時に、就活の準備も兼ねて日本の企業や産業の状況について自ら積極的に情報を集めるよう努力して下さい。

また、各講義ごとに内容が段階的に積み重ねられていくために、やむをえない場合を除いて毎回出席しないと理解が困難になりますので、その点に注意して下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度、問題分析能力を評価
レポート試験	20 %	講義に関わる問題についてのレポートを自主的に提出してもらい、その内容（他の著者の文章を引用符も付けずに書き写すのではなく、自分の言葉で解明しているかどうか）の評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

歴史との関連で国際的な動向について正確に知ることなくして日本社会の科学的分析は困難だと考えられますので、常に国際的な視野からものごとを見るよう努力して下さい。

教科書 / Textbooks

教科書やテキストは使用せず、毎回講義レジュメや資料を配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家とジェンダー・ポリティックス	深澤和子　著　／東信堂(2003年)／／
国際ジェンダー関係論	サンドラ・ウィトワース　著・武者小路公秀(代表) 監訳　／藤原書店(2000年)／／
社会政策―国際化、高齢化、雇用の弾力化―	石畑良太郎・牧野富夫　編著／ミネルヴァ書房(1999年)／／
ILOとジェンダー	戸塚悦朗　著／日本評論社(2006年)／／
ILOの創設と日本の労働行政	吉岡吉典　著／大月書店(2009年)／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ilo.org
http://www.socialeurope.com

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

修学館3階の個人研究室361号室(深澤)のドアの箱にメモを入れて置いて下さい。

その他 / Others

国際社会論（S） § 国際社会論（I）

15344

担当者名 / Instructor　篠田 武司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文化や経済あるいは政治面でのグローバル化がいま大きく進んでいます。世界の各国はその中に不可避に巻き込まれています。このことによって、国家の役割が大きく変わったり、また市民権のあり方をも変えつつあります。こうしたグローバル化は、いますべてを市場の競争原理でもって解決していこうとする、いわゆる新自由主義のグローバル化として進み、このことが、また、様々な問題を引き起こしています。たとえば、先進諸国と開発途上国との間の経済格差はこれまで以上に開き、貧困が深刻な問題となってきています。本講義では、グローバル化がどのように進み、またそれがどのような課題をわれわれに与えているのかを、具体例をあげながら経済的、社会的に見ていきます

到達目標 / Attainment Objectives

1）世界はグローバル化しているのか、しているとすればどのような意味でそうなのかを経済を中心にして理解する。
2）グローバル化を進める多国籍企業について理解する
3）人の移動に伴う市民権概念の変化と多文化の共生のあり方を考える
4）開発途上国における貧困問題を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに	国際社会論とは何か、国際理解度について
2	経済のグローバル化－その実態は？	貿易、対外投資、労働力移動
3	グローバル化とリージョナル化	EU，NAFTA，東アジア
4	フォーディズムの危機とグローバル化	いつグローバル化が始まったのか？　なぜグローバル化が進んでいるのか
5	多国籍企業とグローバル化	多国籍企業の定義、企業内貿易、新国際分業
6	グローバル化と新自由主義	新自由主義、ワシントンコンセンサス、アメリカ化、対抗ヘゲモニー
7	小括・まとめ	補足講義、理解確認のため質問など
8	グローバル化と開発　－貧困と格差－	UNDP,国連ミレニアウ目標、貧困とはなにか、人間の安全保障
9	グローバル化と人間開発－1	開発の歴史、経済開発から人間開発へ
10	グローバル化と人間開発－2	アマティア・セン、潜在能力、社会的排除
11	グローバル化と国家（EUから見る）	国家とガバナンス、EUとガバナンス、エーレスンド地域にみるガバナンス
12	グローバル化と市民権（1）－EUにみる市民権問題	マーシャルの市民権概念、デニズンシップ、国籍とは？
13	グローバル化と市民権（2）－多文化共生と市民権	同化政策、文化多様性政策
14	日本における市民権問題	外国人参政権問題をどう考えるのか
15	どのようなグローバル化なのか？	先進諸国と発展途上国に共通な課題とは？

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テキストは使用しない。レジュメに基づいて行う。参考文献は適時、知らせることとする。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の理解度を考課する。
平常点評価	20 %	出席を3～4買取、それを点数化する

出席を上記のように取るので、出席することが望ましい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『グローバル化とは何か』	デヴィッド・ヘルド中谷監訳　／法律文化社 ／／
『人間開発報告』各年度版	UNDP／国際協力出版会 ／／
『安心社会を創る』	篠田・宇佐見編／新評論／／
『グローバル経済という怪物』	D.コーテン（西川訳）／シュプリンガー東京 ／／
『ヨーロッパの市民権』	宮島喬 ／岩波新書 ／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールにて

その他 / Others

参加のデザイン論 (S)

15428

担当者名 / Instructor　乾 亨

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「参加」という概念はわかるようでわからない。当たり前のことのようでもあり、そのくせ私たちの日常とは縁遠いもののように思われてもいる。
「参加」といえば、数十年前までは「政治参加」を指していたが、その後、時代の変化の中でその概念は変容拡大し、いまでは「私が(私たちが)まわりの人と協働しつつ公益的領域で、自分のまわりの環境生成に主体的に関わるような在り方」のすべて(当然、政治への関与も含む)を示すようになっている。…要するに、「自分たちに関わる身近な事柄を、話し合い、わかりあい、協働して、決める・変える・創る・運営する」考え方や仕組みのことだから、じつはとても身近なこと。たとえば、近所どうしで暮らしのルールをつくったり、コミュニティでわが町のことを考えたり、一緒に公園整備をしたりすることも「参加」。
本講義では、身の回りの環境創造活動(まちづくり)における住民参加・住民主体の優れた事例を通して、「参加」の意味や成立要件、行政や住民の役割、コミュニティの意義、公共とはなにか、などについて考えていく。考えるだけでなく、どうやったら「一人ひとりが機嫌よう暮らせる」ようになるのか、そのための取り組み方や方法(参加のデザイン)の習得を目指す。
理論的アプローチではなく、スライドを活用しつつ事例をもとに考える。「政治参加」の制度論・政策論ではない。

到達目標 / Attainment Objectives

具体的事例を通して「参加」を概念化するとともに、参加の状況を創りだす(デザインする・マネージメントする)態度と技を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義のみで完結する内容ですが、前期におこなう「居住環境デザイン論」をあわせて受講することを期待します。より理解の幅が深まるはずです。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「参加のデザイン」ってなに？	講義の目的と位置づけ
2	参加を考えるワークショップ	なんで「参加」なんやろぉ…みんなで考える「参加」の発見たいむ
3	ワークショップの振り返り	「参加」をめぐる課題の発見と整理
4	参加の事例をみて考えよう…幻灯会(パート1)	コーポラティブハウジング(住み手参加の住まいづくり)ユーコートの事例を見る
5	「参加」の事例を見て考えよう…幻灯会(パート2)	40年にわたり住民主体のまちづくりに取り組む真野地区の事例を見る
6	ユーコートを通して「参加」を考える　その1	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(1)
7	ユーコートを通して「参加」を考える　その2	ユーコートの計画プロセスを追いながら「参加」の特性と成立要件を考える(2)
8	中間まとめ	ユーコートを通して「参加」を考える
9	インターメッツォ…幻灯会	日本のコーポラティブハウジング
10	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その1	真野まちづくりを可能にした背景
11	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その2	まちづくりのプロセスを追いながら、多様な主体が関わる「参加」の特性と成立要件を考える
12	真野まちづくりを通して「参加」を考える　その3	アクティブ参加とパッシブ参加(コミュニティのなかに居場所がある状況)
13	市民と行政のパートナーシップ型まちづくり	近年の京都の事例を通して、参加における行政や専門家の役割を考える
14	参加の手法を学ぶ	イキイキとした参加の状況を創る手法である「ワークショップ」の事例をまなぶ
15	まとめ	参加の哲学をもとう

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義規模が許せば、応答型講義(質問をもとに講義を進める)を行いたい

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	基本的には、成績は、提出された「試験レポート」の質で評価。それなりに厳しく採点します。評価基準はレポート課題時に発表します。
平常点評価	20 %	適宜、出席確認を兼ねて感想や質問を提出してもらい、出席率がいい人は「試験にかわるレポート」の評価に加点します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

事例を物語りその意味を考えてもらう問題提起型の講義なので、継続的出席を望みます。とりわけ第2週のワークショップ、および第5週・第3週の幻灯会は問題提起編なので、必ず、絶対、万難を排して、出席のこと（本来講義は出席するものですからこの指示はヘンですが…笑）

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は用いず、適宜レジュメを配布します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail:inui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

産業社会学（S）

15403

担当者名 / Instructor　木田 融男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業社会学を「産業社会としてとらえられる現代社会の社会学」としつつ、主としてそこに生きる人々の生活スタイル（労働や生活をめぐる生き方）に焦点をしぼり、生活スタイルの今まで、今日、そしてこれから、を見ていく。主として日本社会をあつかうが、企業社会／新自由主義社会がいかなる変容をするのかを問題意識としつつ、働くこと、女性、若もの／子どもなどをめぐる環境変化のなかで、日本人の生活スタイルおよび日本社会の今後の像を考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1　生活スタイルにかかわる社会学理論を理解する。
2　日本人の生活スタイルの今までとこれからを理解し解明する。
3　生活スタイルを通して日本社会の今までとこれからを理解し解明する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基礎社会学、コア科目（現代と社会）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	本講義の産業社会学について	産業社会、産業社会論、産業社会学
第2回	1現代社会と生活スタイル　−1生活スタイルとは	生活スタイル、社会的生活諸過程、生活空間／生活史　生きること、価値
第3回	1現代社会と生活スタイル　−2生活スタイルの社会学理論（ウエーバー／マルクスの思考）	エートス、合理性、カリスマの日常化、疎外、私有財産
第4回	1現代社会と生活スタイル　−3生活スタイルの社会学理論（リースマン、ゴールドソープの思考）	他者志向、本来的志向、手段的志向
第5回	2日本社会と生活スタイル　ー1日本的なるもの	日本的集団主義、間人主義、日本人のルーツ
第6回	2日本社会と生活スタイル　ー2私生活志向と企業志向	私生活志向、本来的仕事志向、企業志向、閉ざされた／開かれた
第7回	2日本社会と生活スタイル　ー3両方志向	2つの両方志向
第8回	2日本社会と生活スタイル　−4自立性と共同性（競争社会の陥穽）	自立性、共同性（公共性）、閉ざされた／開かれた、競争原理
第9回	3日本社会と日本人の諸層　−1格差社会と階層化（「勝ち組」／「負け組」	格差（拡大）、階層、移動
第10回	3日本社会と日本人の諸層　−2格差社会と階層化（一億層中流と階級）	中流、階級、世界システム、正規ー非正規、ワーキングプア、失業
第11回	3日本社会と日本人の諸層　−3女性のすがた（社会的進出）	M字カーブ、逆U字カーブ、男性参加
第12回	3日本社会と日本人の諸層　−4女性のすがた（世界のすがた）	スエーデン型（男性参加）、オランダ型（ワークシェアリング）
第13回	3日本社会と日本人の諸層　−5若もの／子どものすがた（教育と雇用）	ゆとり教育／つめこみ教育、フリーター／ニート
第14回	3日本社会と日本人の諸層　−6若もの／子どものすがた	情報消費社会、若ものの労働／余暇観
第15回	生活スタイルの今後（日本社会のこれから）	第3の道、日本型第3の道？、日本型福祉国家

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメ・資料にもとづいて講義する。時々コメント（コミュニケーション・ペーパー）を出してもらい、講義へのあなたたちの思索を把握したり、講義の往復に使ったりする。このコメントは、評価に加味する場合もある。決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	講義の内容の理解に関して試験
平常点評価	20 %	講義へのコメントは、評価に加味する場合がある

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

時々、授業の理解についてコメントを書いてもらう。授業の最後に書いたり、ペーパーを持って返り授業外で書いてもらい、翌週の授業で提出することもある。

教科書 / Textbooks

決まったテキストはない。講義のなかでレジュメ・資料を配布する。参考文献は、講義のなかでで紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『変容する企業と社会―現代日本の再編―』	浪江巌・木田融男・守屋貴司編／八千代出版／／
『転換期の人間と社会』	佐々木嬉代三・中川勝雄編／法律文化社／／
『変貌する社会と文化』	木田融男・佐々木嬉代三編／法律文化社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業後に直接か、必要な場合はweb-ctで行う

その他 / Others

資源エネルギー論（S） § 環境技術論（S） § （副）資源エネルギー論（F）

12814

担当者名 / Instructor　山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義は、ライフスタイルと環境負荷の関係を問うものである。
よく知られているように、温暖化をくいとめるために必要な二酸化炭素の削減量は、現状の約60%と伝えられる。この量は、現状の省エネやリサイクル活動を積み重ねることで達成できるレベルをはるかに超え出ているように思われる。これを問題設定の出発点とする。
この問題を根本的に解決していくには、現今の生活スタイルを劇的に転換していく必要がある。基本的にはエネルギー消費を劇的に減らすことであるが、それが可能となるライフスタイルについては、さまざまな選択肢がある。この講義では、現今の技術システム、ライフスタイルがどのような環境負荷をもたらしているのかについて概説し、オルタナティブなライフスタイルを模索していく。

到達目標 / Attainment Objectives

1問題の概要（事実）をつかむこと
2問題を処理する論理の概要をつかむこと

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養の現代環境論をとっていると理解の助けになる

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入　資源エネルギーの考え方	資源エネルギー
2	地球環境問題概説　1	温暖化
3	地球環境問題概観　2	公害論と地球環境問題
4	自然史の中の人間	進化　自然
5	資源とエネルギー1	エネルギー政策　電力発達史
6	資源とエネルギー2	風力発電　電力コスト
7	再生可能エネルギー3	太陽光発電　電力支援政策
8	再生可能エネルギー4	ネットワークと電力自由化
9	原子力問題	原子力　放射能
10	資源とリサイクル　1　概論	3R　資源　リサイクル
11	資源とリサイクル　2　PETとプラスティック	容器包装法　PET
12	資源とリサイクル　3　耐久消費財	家電リサイクル法　PSE法
13	資源とリサイクル　4　希少金属	タンタル　携帯
14	資源とリサイクル　5　石油	石油　石油化学
15	全体まとめ　日本の資源エネルギー政策	エネルギー政策

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

なし

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義者の論理をよく理解すること

なし

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストがないので、欠席すると全体の流れがつかめなくなります。

教科書 / Textbooks

テキストはありません。随時レジュメ、参考資料を配布します

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
エネルギーと私たちの社会	J.S.ノルゴー、B.L.クリステンセン　／新評論 ／ISBN4-7948-0559-4 ／
新・地球環境論	和田武 ／創元社 ／ISBN4-422-40017-7／

随時追加で紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

随時追加で紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

なし

社会ガバナンス論 (S)

15422

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ガバナンス(governance)という言葉は、社会科学の様々な分野で、様々な意味で用いられています。この講義では政治・行政分野における「ガバナンス」を理論的、実証的に示します。

政治・行政の分野ではガバナンスは大きく分けて二つの意味で用いられています。一つは政策の形成過程・運営過程への関係者(住人、NPO、企業等)の参加、もう一つは行政組織の効率化の試みです。両者とも、従来の行政機構(government)が時代のニーズを捉えきれていないことや、行政活動において資源が有効に使われていないことに対する不満から生まれました。

講義では、ガバメントが機能しない理由、ガバメントからガバナンスへの動き、ガバナンスとガバメントの補完関係などについて考えてゆきたいと思います。なお、具体的事例を取り入れながら講義を進めます。

到達目標 / Attainment Objectives

・ガバナンスの必要性を理解していること。
・ガバナンスのための仕組みを理解していること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入:ガバナンスとは何か？	社会ガバナンス、コーポレート・ガバナンス
第2回目	ガバメントとガバナンス	官僚制
第3-4回目	なぜ行政改革が必要なのか？	地方自治改革
第5回目	行政活動をシステムという視点から考える	組織分析、組織連関分析
第6回目	ネットワークの変化という視点から見る行政改革	ネットワーク、資源の交換
第7回目	政策ネットワーク	コーディネート
第8回目	政策ネットワークから見る家族政策の変化	日本型福祉
第9回目	小テスト	
第10-11回目	福祉提供の「バランスのとれた」役割分担へ向けて	政府の失敗、市場の失敗、ボランタリーセクターの失敗、福祉多元主義
第12-13回目	NPOの役割	社会サービス、財源、供給、規制・監視
第14回目	政府の役割の変化	財政援助方式
第15回目	まとめ:福祉国家から福祉社会へ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、インターネット上、日常生活の中に見え隠れしている「ガバナンス」の情報に注意しておいて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本問題や概念について理解しているかどうか、また、それを自分の言葉で論じることができているかどうかを評価する。
平常点評価	10 %	出席状況と小テストで判断する。小テストでは、講義内容の理解度を確認する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料です。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とかかわらせながら、講義を聞いて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

講義中に適宜、指示します。なお、講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家のガヴァナンス	武智秀之　／ミネルヴァ書房／4-623-03772-X／
福祉社会:社会政策とその考え方	武川正吾／有斐閣／4-641-12119-2／

講義中に適宜、紹介します。

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

社会階層論 (S)

12807

担当者名 / Instructor　中井 美樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義の狙いは、受講生が「階層（社会階層）」という概念を理解し、その理解に基づいて日本社会を認識する力を習得することです。「階層」とは、収入などの社会的資源の格差を記述するための概念です。したがって、階層を論じることは「総中流」と言われてきた日本社会の中にある格差を認識することでもあります。講義では、教育、家族、仕事といった身近なトピックと絡めつつ、このテーマについて論じていく予定です。

到達目標 / Attainment Objectives

社会階層論および関連分野の概念・論理を習得すること。すなわち、そうした概念・論理を用いて（日本）社会を論じることができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。講義では「数字」や「数式」も登場します。しかし、議論の中心は、階層（格差）を維持したり、作りだしたりする仕組みであり、その仕組みを認識するための概念・論理です。「数字アレルギー」「数学アレルギー」の方も毛嫌いせず、受講してください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会階層とは何か	社会階層、社会移動
2	階層および階層論の現状(1)	階層、階級、社会移動
3	階層および階層論の現状(2)	社会階層、社会移動、社会的資源の配分
4	現代日本の社会階層(1)	社会階層、社会移動、社会的地位、職業
5	現代日本の社会階層(2)	社会階層、社会移動、開放性
6	現代日本の社会階層(3)	地位達成、階層再生産
7	教育と社会階層(1)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
8	教育と社会階層(2)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
9	教育と社会階層(3)	学歴社会、メリトクラシー、文化的再生産、インセンティブ・ディバイド
10	社会階層とジェンダー(1)	ジェンダー、セグリゲーション
11	社会階層とジェンダー(2)	ジェンダー、セグリゲーション
12	社会階層と家族(1)	家族、世帯
13	社会階層と家族(2)	家族、世帯
14	社会階層と文化	文化的再生産、ハビトゥス
15	確認テスト（70分）と解説（20分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	簡単な課題を数回提出してもらう予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

近年マスメディアには「格差」をめぐる議論があふれています。それらに親しんでおいてください。

教科書 / Textbooks

授業中にプリントを配布します。それが「教科書」になります。

参考書 / Reference Books

配布のプリントに記載します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会史 (S)

15431

担当者名 / Instructor　鈴木 栄樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:幕末・明治期の京都と社会の諸相

日本の近代国家の形成過程は、同時に新たな近代都市の建設過程でもあった。それまでに形成されてきた都市社会は、近代国家の建設と資本主義経済の移植過程でどのように変貌していったのであろうか。講義では、ほぼ明治期を広い意味での文明開化の時期としてとらえ、主として京都を事例としつつ、適宜東京・大阪やその他の都市にもふれながら、その都市化の過程にみられる特徴的な諸問題について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

様々な問題を抱える現代日本の都市の生成過程について、とくに京都を事例として、その直接の起原にさかのぼり、歴史的な視点から考察する。その際、歴史のなかの様々な都市一般に共通する点と、建設期の日本の近代都市、とくに京都に見られる特徴とを意識的に比較考察する知的姿勢を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	幕末維新期の京都社会(1)　19世紀前半(化政・天保期)	町と町組と惣町、飢饉・災害と救済事業
2	幕末維新期の京都社会(2)　1850年代	開国、京都の政治都市化、災害と復興・救済事業
3	幕末維新期の京都社会(2)　160年代	京都の政治都市化、戦火のなかの京都
4	明治初年の京都社会(1)　1870年代	天皇東幸(車駕東幸)、遷都(奠都)
5	明治初年の京都社会(2)1870年代	京都の文明開化、町組から番組へ、番組小学校の建営
6	明治初年の京都社会(3)1870年代	京都の殖産興業、専門教育と実業教育、勧業場と舎密局
7	明治中期の京都社会(1)1880年代～90年代	琵琶湖疏水の開削、伝染病と衛生問題、交通と運輸
8	明治中期の京都社会(2)1880年代～90年代	市制の施行と市制特例、平安遷都1100年記念祭、第4回内国勧業博覧会
9	明治中期の京都社会(3)1880年代～90年代	日清戦争、市制特例の撤廃、公同組合の設立
10	明治後期・大正初期の京都社会(1)	内地雑居と観光、都市と衛生
11	明治後期・大正初期の京都社会(2)	日露戦争と地域社会
12	明治後期・大正初期の京都社会(3)	三大事業の構想と実施、都市経営
13	明治期京都の社会問題	工業化、貧困、差別、衛生
14	明治期京都の娯楽と大衆文化	新京極、演劇と映画、百貨店、性の文化
15	大正期の日本の都市社会と京都―まとめにかえて―	工業化の進展、都市計画法、関東大震災

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

受講にあたっては、日本近代史全般についての概括的な知識をもっていることが望ましいが、テーマに対する興味や関心があれば、理解が可能なように配慮する。知識が不十分なばあいには、必要に応じて参考文献などを指示するので、自分でも独自に学習してほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	論述筆記試験。事前にある程度の示唆を与えるので、十分な準備しておくことが望ましい。
レポート試験	20 %	京都市内の施設(博物館など)をいくつか指定するので、そのうち一つ以上を見学してレポートを提出してもらう。
平常点評価	10 %	随時、講義に対する理解度・疑問点などを書いてもらうことにより講義に対する積極性を評価するが、これは出席点という意味ではない。

上記の割合は、おおよその目安です。定期試験の評価を主としつつ、講義に対する積極性如何を加味して評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ノートのとり方に工夫を心がけてほしい。板書を機械的に写すだけのノートでは意味がない。黒板のスペースは限られているが、ノートは十分なスペースがあるのだから、口頭で述べたこと、あるいは自分で調べたことなどを書き加えたりするなど、オリジナルノートを作成してもらいたい。また、歴史は現代的な関心から学びとられるものであるから、常に現代の国内外の動きと関わらせながら自分なりの問題関心を培ってほしい。

教科書 / Textbooks

特になし。随時プリントにて配布

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『みやこの近代』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1378-8 ／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『近代京都の改造―都市経営の起源1850～1918年―』	伊藤之雄編著 ／ミネルヴァ書房 ／4-623-04517-X ／2006年4月刊、鈴木の論文も収録
『近代京都研究』	丸山宏編・伊従勉編・高木博志編／思文閣出版 ／978-4-7842-1413-6／2008年3月刊　鈴木の論文も収録
『京都市政史1　市政の形成（叙述編）』	京都市市政史編さん委員会編 ／京都市 ／／2009年3月刊　鈴木も執筆
『京都市政史4　市政の形成（資料編）』	京都市市政史編さん委員会編／京都市 ／／2003年3月刊　鈴木も執筆

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://web.me.com/hikonyan070424/shakaishi/
本講義関係のサイト（パスワード等は授業時に指示）
http://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/index.html
京都市歴史資料館情報提供システム　フィールド・ミュージアム京都
http://www.pref.kyoto.jp/archives/
京都府立創業資料館　京都北山アーカイブズ

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

授業時に専用のメールアドレスを指示します。

人口論（S） §　生活構造論（S）

12934

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

マルサスが「人口の原理」で提起した「食糧と人口の関係に関する命題・仮説」の再考をこの講義の「縦糸」とし、人口再生産と生活構造の関係に関する知識・理論を「横糸」とします。そして日本の過去300年の人口規模と人口行動（経験）を、歴史人口学と生活構造論の視点からデータに基づいて概説していく。そうして、現代の先進諸国と開発途上国の人口問題・生活問題の本質を理解する一助とします。トピックは、人口維持と生活水準、人口の少子・高齢化、飢饉疾病と危機的死亡増、中絶と生活水準など。

到達目標 / Attainment Objectives

人口を長期的に観察するどういうメリットがあるのか。日本の歴史人口学と生活学の成果、オリジナル資・史料、省庁公開データなど具体的データ・事例検討を通じて理解・予測しうる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	序論（講義解題、基礎概念、人口の現在）	マルサスの命題、人口の定義、世界の人口問題、現代日本の人口問題、world population clock
2	VTR－1「寿命」（アフリカ・シエラレオネ）＋（小ペイパー）	シエラレオネの概要、乳児死亡、平均余命、GIS data map
3	人口再生産と生活構造－Ⅰ	生活構造概念の生成史、サラリーマンの誕生、家族論
4	人口再生産と生活構造－Ⅱ	家族論、家計論、支出曲線と家族周期
5	VTR－2「サラリーマンの誕生」（日本）＋（小ペイパー）	東京市、産業化・都市化、明治大・正期、腰弁、学歴と賃金（帝大卒と私大卒）
6	人口再生産と生活構造－Ⅲ	労働力の保全、生活時間・空間論
7	人口再生産と生活構造－Ⅳ world population clock	階級・階層論、現代日本の人口規模・構造（populaion bonus, population onus）・2050年予測
8	VTR－3「医療革命・集団検診」+（小ペイパー）	昭和農村の戦前・戦後（人口増加への助走）、佐久病院、病気と呪術、栄養水準、女性
9	近世人口論－Ⅰ（人口データの取得）	江戸システム、幕府・諸藩の文書体系、細川氏の人口調査
10	近世人口論－Ⅱ（人口データの取得）	村方・町方の文書体系、村絵図の世界、 幕府・諸藩の人口調査、 人口史料の取得法
11	近世人口論－Ⅲ（東北・太平洋諸藩の人口）	なぜ東北地方か？　仙台藩のアウトライン、推計結果の検証
12	VTR－4「20世紀の食糧生産」（インド、アメリカ、カザフスタン）＋（小ペイパー）	マルサスの命題、緑の革命、略奪農法/有機農法、遺伝子操作
13	近世人口論－Ⅳ（凶作・飢饉と栄養供給）	過去帳、天保飢饉、栄養（カロリー）供給－異常年と平常年〖GISデジタルマップ〗　庶民の暮らし、出産/出生比、人口調節（sex selective）
14	近世人口論Ⅴ（東北諸藩の人口対策）　world population clock	近世末期の人口減少対策：社会調査、移民・植民、育児支援
15	近代日本人口論Ⅰ（東北の藩・県）	東北日本の凶作経験と食糧生産・人口移動〖GISデジタルマップ〗結論（マルサス命題再考）－講義まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」の水準を評価。

授業進行その他の理由で、授業スケジュール・VTR・DVD視聴日などに変更が生じる場合があります。その時は、事前に教室でアナウンス。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
18・19世紀の人口変動と地域・村・家族―歴史人口学の課題と方法―	高木正朗／古今書院／978-4-7722-4114-4／授業に直接関連した参考書
人口で見る日本史	鬼頭　宏／PHP研究所／978-4-569-69204-3 ／日本人口の規模を通史的に概観した入門書
人口学への招待－少子・高齢化はどこまで解明されたか―	河野稠果 ／中公新書／978-4-12-101910-3 ／現代日本の人口問題の入門書
我が国の人口動態	厚生労働省大臣官房統計情報部（編）／厚生統計協会／最新版 ／日本の人口動態指標をコンパクトにグラフ化（安価に入手可能）

人口学の基本用語は「人口学大事典」（日本人口学会,2002）を、社会学は「新社会学辞典」（有斐閣,1993）を参照するとよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

www.mhlw.go.jp/ （厚生労働省HPの統計を参照）、www.cao.go.jp/（内閣府HP）
www.stat.go.jp/（総務省統計局HP）、www.ipss.go.jp/（国立社会保障・人口問題研究所HP）
google, yahooなどで省庁・機関名、key wordを入力してアクセス。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（1週間）以学館レジュメboxにおかれる。

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

都市政策論（G）

15335

担当者名 / Instructor　リム・ボン　　単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

都市政策とは、われわれが日常生活の場で直面する種々の都市問題を解決するための社会工学的取り組みに他ならない。本講義では、主として京都市を事例としつつ、都市のグランドデザインと局所的な地域デザインとの相互関係を分析する。このような作業を通じて、都市政策における基本コンセプトの構築方法とそれを具現化するための技術的アプローチの体系のあり方を考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

都市の地域特性の把握方法、地域特性に対応した政策立案の実例についての知識、政策技法のトレーニング。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「都市論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	教養としての「まちづくり」 －都市政策を学ぶ意義を考えるー	まちづくりコーディネーターの職能
第2回	まちづくりの達人	あるスーパー公務員の実践例
第3回	景観の扉を開けると、「まちづくり」が見えてくる	景観、景観保全地区、景観機構、ランドマーク、京町家、国家戦略
第4回	壊れゆく歴史街	京都の都心部における景観破壊と住民運動
第5回	京町家の再生　－市民社会と地域社会－	パリ、パッサージュ、京都の袋路、細街路、密集市街地、建築基準法
第6回	京町家の再生②	国際戦略とファンドレイジング
第7回	住民自治組織の持続性と多様化	京都の都心部のまちづくり活動と住民組織
第8回	コミュニティのパワーが地域を再生する	学区のまちづくり活動
第9回	企業とのパートナーシップで拓く「まちづくり」	住宅開発の新しいシステムの紹介
第10回	地域まちづくりに行政はどう関わるか	行政マンの苦悩を考える
第11回	リサーチデイ	京都の都心部の景観問題に関するフィールドワーク
第12回	都市の危機管理　⇒　犯罪都市の増加と対策	ロンドン、犯罪、監視カメラ、移民排斥運動、コミュニティ、ネットワーク
第13回	排斥の町	米国におけるゲーディッド・コミュニティの実態
第14回	人権コミュニティの創造	京都、被差別部落、人権、文化、近代化遺産、保存運動、まちづくり、京都再生
第15回	総括	まとめの講義と質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	マークシート方式で、50問出題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
まちづくりコーディネーター	リムボン他編著／学芸出版社／／

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

学生諸君に可能な限り最新の情報を提供したいので、授業の内容が変更されることがあります。

都市論 (S)

15327

担当者名 / Instructor　リム・ボン

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

古代から未来までの時間軸で都市の歴史的変遷過程を通時的に捉え、同時に、各時代断面ごとにみられる都市の地域間特性を共時的に概観する。誰もが同意できるような「都市の定義」というものは今もって確立してはいないが、本講義では、これまでの都市づくりの実践例とその背景にある諸学説とを学ぶ作業を通じて、われわれの身近にある都市の風俗や空間のコンテクストを解読する能力を養うことを目的としている。

都市工学的、社会学的、文化人類学的方法を用いた都市解析の方法も紹介する。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史都市の概念の把握、都市の基本構造の理解、京都を舞台としたフィールドワークの実践力の獲得

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	歴史都市の超再生:歴史都市の光と影の分析	歴史都市とは何か、京都、ニューヨーク、プラハ、フィレンツェ、北京、空間、建築
第2回	平安京の都市設計思想	風水思想、四神相応、右京と左京、権力と都市計画
第3回	京都の町衆と都市構造	応仁の乱、信長と秀吉、都市改造
第4回	京都の近代化と都市政策	明治維新、遷都、都市再生、町衆、番組小学校、先端技術、伝統と革新の融合
第5回	ニューヨーク①・マンハッタンの誕生から現在まで	氷河、先住民、移民、貿易港、都市計画、摩天楼
第6回	ニューヨーク②・マンハッタンの20世紀	ボヘミアン、経済の隆盛、都市文化の開花、ハーレム・ルネッサンス
第7回	ニューヨーク③・第二次ハーレムルネサンス	アフリカン・アメリカン、ハーレム、スラム、都市再生、NPO
第8回	ニューヨーク④・国連ビルの建築をめぐる建築家たちの攻防	ル・コルビュジエ、建築家、デザイン、権力闘争
第9回	ニューヨーク⑤・グラウンドゼロの復興計画	9・11同時多発テロ、国際コンペ、ダニエル・リベスキンド
第10回	リサーチデイ	平安京の都市構造を体感するためのフィールドワークを実施する。
第11回	建築家と都市計画	ル・コルビュジエの作品群
第12回	都市の地域性と建築文化	アントニオ・ガウディの建築と生涯
第13回	上海の都市と建築	外国人租界、経済成長、未来都市、再開発、住民の立ち退き
第14回	ヨーロッパの歴史都市	戦争と都市破壊、そして再生へ ⇒ ワルシャワ、ドレスデンなど
第15回	総括	総論としてのまとめ、質疑応答

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	マークシート方式で、50問主題する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

可能な限り最新の情報を提供したいので、授業内容が変更されることがあります。

日本経済論（S）

12801

担当者名 / Instructor　松葉 正文

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代日本経済分析をテーマとし、1990年以降のバブル崩壊不況と近年における若干の景気回復状況および国民生活の諸相について、文字通りの「現局面」分析を行なう。

本科目は、もちろん独立した科目であるが、私のもう1つの担当科目「現代経済論」と連結しておりその後半部分にあたる。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに－日本経済の概況	
2	市民社会と企業社会	
3	大企業体制の2類型	
4	国家財政の動向	
5	勤労者層の賃金構造	
6	同上．労働諸条件	
7	外国人労働者問題の現状	
8	農民層の経済生活条件	
9	中小企業経営の現状	
10	国民の所得構成	
11	同上．資産構成	
12	社会保障の現状と問題点	
13	住宅・土地問題	
14	まとめ	
15	定期試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

松葉正文『現代日本経済論：市民社会と企業社会の間』晃洋書房。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較政治論（S）

15416

担当者名 / Instructor　加藤 雅俊

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

1980年代以降、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行に伴い、戦後の安定的な経済成長を支えてきた政治経済システムとしての福祉国家は、高失業、貧困や格差の拡大、社会的排除などの新たな課題に直面し、さまざまな政策対応を試みてきた。本講義では、「現代福祉国家の変容」というキーワードのもと、先進諸国に共通する特徴および多様性を把握し、なぜ各国の多様性がもたらされるかを明らかにし、そして今後の改革の方向性を検討することを通じて、政治学の観点から、現代の政治経済システムの特質と動態を理解することを目的とす

到達目標 / Attainment Objectives

・戦後の経済成長を支えてきた段階の政治経済システムの特徴、および、経済のグローバル化の進展およびポスト工業社会への移行という変容圧力に直面した現在の政治経済システムの特徴を理解する
・各段階における先進諸国の多様性を把握し、その背景を理解する
・今後の改革の方向性に関する知見を得る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　比較政治学の課題	特徴の把握と動態の説明
第2回	1　政治経済システムとしての福祉国家－福祉国家の特徴と諸基盤－	福祉国家、埋め込まれたリベラリズム、フォーディズム、戦後コンセンサス
第3回	2　福祉国家の多様性①　北欧諸国	社会民主主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第4回	3　福祉国家の多様性②　アングロサクソン諸国	自由主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第5回	4　福祉国家の多様性③　大陸ヨーロッパ諸国	保守主義レジームの諸特徴と政治的基盤
第6回	5　福祉国家の多様性④　日本とオセアニア	雇用保障の重視、他の政策手段による社会的保護
第7回	小テストとこれまでの復習	
第8回	6　福祉国家の危機と再編－経済のグローバル化とポスト工業社会への移行－	経済のグローバル化、ポスト工業社会、新しい社会的リスク
第9回	7　福祉国家の危機への対応①　ネオリベラリズム	ネオリベラリズム、新自由主義、新保守主義
第10回	8　福祉国家の危機への対応②　新しい社会民主主義	新しい社会民主主義、第三の道
第11回	9　残された課題と改革の方向性－ベーシックインカムとアクティベーション－	ベーシックインカム、アクティベーション、ワークフェア
第12回	10　比較福祉国家分析の諸アプローチ①　利益中心アプローチ	権力資源動員論、階級交差連合論、資本主義の多様性論
第13回	11　比較福祉国家分析の諸アプローチ②　制度中心アプローチ	福祉国家の新しい政治論、政治制度への注目
第14回	12　比較福祉国家分析の諸アプローチ③　アイデア的要因への注目	新制度論、アイデア的制度論、言説的制度論
第15回	まとめ　現代政治経済システムの特質と動態	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

現代政治経済システムの特質と動態を理解するためには、学術的な視角だけでなく、現実に生じていることを把握する必要がある。そのため、新聞やテレビ、インターネット等を通じて、関心を高めていくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義内容の理解度および学習の到達度を確認する 試験問題は、講義で説明した用語や概念を数行で説明する短答式（20点）と論述形式（50点）とする
レポート試験	20 %	講義で学習した内容をふまえた、現代政治に関するもの（詳しくは講義の際に説明する）
平常点評価	10 %	前半を終えた段階で小テストを行い、講義の理解度を確認する 形式は、講義で説明した用語や概念を簡単に説明する短答式とする

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較政治学の教科書や適宜紹介する参考文献を通じて、講義の事前・事後に、自主的に学習していくことが望ましい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

『比較政治経済学』	新川敏光・井戸正伸・宮本太郎・眞柄秀子／有斐閣、2004年／4641122253／
『比較政治制度論（第3版）』	田口富久治・中谷義和（編）／法律文化社、2006年／4589029227／
『アクセス比較政治学』	河野勝・岩崎正洋（編）／日本経済評論社、2002年／4818814075／
『比較福祉国家論』	岡沢憲芙・宮本太郎（編）／法律文化社、1997年／4589019973／

本講義では、特定のテキストを採用せず、各回ごとにレジメを配布し、それに基づき授業を進めていく。参考文献については適宜紹介していく。講義内容を理解し、各自で学習を進めていくために、比較政治（経済）学の教科書を手元に置いておくことを推奨する。例えば、上記の文献を参考にしてほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉資本主義の三つの世界』	G・エスピン-アンデルセン（岡沢・宮本監訳）／ミネルヴァ書房、2001年／4623033236／
『曲がり角にきた福祉国家』	C・ピアソン（田中ほか訳）／未来社、1996年／4624300890／
『資本主義国家の未来』	B・ジェソップ（中谷監訳）／御茶の水書房、2005年／4275003926／

講義全体に関する参考文献としては、例えば、上記のものを参照してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義で適宜紹介していくが、OECD（www.oecd.org）や政府機関（例えば、総務省統計局www.stat.go.jp、財務省www.mof.go.jp）などのホームページでは、日本や先進諸国の統計情報を得ることができる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間については、メールなどで事前に連絡してください。

その他 / Others

講義中の私語は、他の受講生の迷惑になるため、厳禁とします。また、その他の注意点については、イントロダクションの際に説明します。講義内容や学習方法など分からないことがあったら、講義の前後の時間や質問用紙を用いて、積極的に質問してください。

労働社会学 (S)

12759

担当者名 / Instructor　大野 威

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

バブルが崩壊してからおよそ15年の間に、日本の雇用（仕事を得ること）や労働のあり方（働き方）は急激に変化し、それが私達の生活や意識にも大きな影響を与えている。授業では、他の国の状況と比較しながら、雇用や労働のあり方がどのように変化し、それが私達の生活にどのような影響を与えているか考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

雇用や賃金に関わる新聞記事やニュースを、その背景まで含めて十分に理解できるようになる。

また授業をきっかけにして、自分はどのような仕事をしたいのか、あるいはどのような働き方をしていきたいのか自分なりのイメージを持てるようになる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	労働社会学で何を学ぶか	
2	労働力の需要構造	
3	多様化する雇用：パート、派遣、請負という働き方	
4	非正規雇用の増大と格差問題	
5	女性雇用の現状：M字型雇用と少子化	
6	女性雇用政策の国際比較1：育児と仕事の両立	
7	女性雇用政策の国際比較2：男女雇用機会均等法	
8	働きすぎと過労死1：労働時間の国際比較	
9	働きすぎと過労死2：長時間労働の背景にあるもの1	
10	「新しい」働き方：変形労働時間制、裁量労働制	
11	失業率とは何か？	
12	各国の失業の状況1	
13	各国の失業の状況2	
14	若年と高齢者の雇用：フリーターは日本だけの問題か？	
15	フリーターについて考える	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	講義内容の理解度。
平常点評価	0 %	場合によっては出席を加点することがある。

授業への出席が少ない場合、試験で合格点を取れないことがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞やテレビ等で、雇用、働き方、賃金にかかわる記事や番組があったら、興味を持って見て欲しい。また、身近に働いている人がいたら、授業で興味を持ったことをいろいろ質問（インタビュー）してみることも有益である。

教科書 / Textbooks

必要な資料は、授業中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
現代の労働問題(第3版)	笹島芳雄／中央経済社／450236150X ／
雇用不安	野村正実／岩波書店／4004305675／
日本的雇用慣行	野村正實／ミネルヴァ書房／4623049248 ／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

労働政策研究・研修機構　http://www.jil.go.jp/

厚生労働省　http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義後に直接か、電子メールで行う。

その他 / Others

グローバルメディア論（S） § グローバルメディア論（I）

15419

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代のメディアをめぐる社会的環境の変化の中で、グローバリゼーションは最重要なものの1つである。しかし、グローバリゼーションは一般に知られているより遥かに多様な側面を持つと共に、実に複雑な影響をメディアに与え、また逆にメディアそのものがグローバリゼーションに影響を与えてもいる。

本講義では、最初にグローバリゼーションの基本的な概念を学び、その上で世界で起きている様々な事例を通して、グローバリゼーションのダイナミズムや、メディア・報道とグローバリゼーションの相互影響と、そこから生じる問題を考える。最後にメディア、ジャーナリズムを巡るグローバル化が様々な問題を抱える中で、グローバルな次元での共生、アイデンティティ構築が可能なのか考察する。各回を通して、国際報道、とりわけ現在起きているニュース報道の実例を重視します。

到達目標 / Attainment Objectives

1・グローバリゼーションを巡る様々な概念的枠組みを、具体的な実例と共に理解し、説明できるようになること。
2・グローバル化時代におけるメディア・ジャーナリズムの構造と様々な問題点の基礎的な理解をし、その上で批判的な視座に立ち、各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～グローバリゼーションとは何か～	グローバリゼーションの定義、時間と空間の圧縮、文化帝国主義、ハイブリディゼーション
第2回	グローバリゼーションの諸理論とメディア、情報の接点	国際コミュニケーション、グローバル・メディア・スタディーズ、マスコミュニケーション理論
第3回	メディアとナショナリズムを考える	日米関係、アンダーソン、ゲルナー、ビリッグほか
第4回	国際報道をめぐるグローバルな地政学	ニュース通信社、海外支局・特派員、中心／周縁、戦後の国際報道、総合商社
第5回	ニュース報道のグローバル化とローカル化	英米の国際報道、ニュースの商業主義、グローカリゼーション、ローカル・ニュース
第6回	テロリズムとメディア①	世界のテロ史、セカンドハンド・テロリズム、イスラム過激派サイト、テロの境界線
第7回	テロリズムとメディア②	日本のテロ史、テロを扱った映画
第8回	文化摩擦・交流とメディア	多文化主義、日韓文化交流、アジアのメディア、文化的近似性／近時性、モダニティ、ハンチントン
第9回	国際政治とメディア報道の議題設定	G8、先進国メディア、ウオーターゲート事件、ペンタゴン・ペーパーズ事件、ニュースの議題設定、日米関係
第10回	21世紀のメディアの議題設定者	ニュース価値、世界不況
第11回	グローバルなメディアの進展と情報格差	CNN、ルパート・マードック、ニューズ・コーポレーション、デジタルデバイド
第12回	オンライン・ジャーナリズムの役割と可能性	コソボ空爆、メディア統制、セカンド・ハンドニュース、NWICO論争、ブログ、ツイッター他
第13回	歴史、記憶とメディア	E.H.カー、コリングウッド、テッサ・モーリス＝スズキ他
第14回	モダニティ、消費化する世界とメディア	ヘリテージ産業、コミュニティ、ボードリヤール
第15回	グローバルな市民意識は可能か	脱西洋化理論、コスモポリタニズム、バフチン

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習・応用を念頭に置いて、授業内に参考資料、応用への取り組み等を適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。
平常点評価	10 %	授業内でレポートを書いてもらう。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・メディアは生き物です。大事件が起きてニュースになれば、授業では、それに関連付けて議論を展開することもありえます。従って、普段から新聞、ニュースにしっかりと触れるようにしてください。それによって講義の理解度に大きな差が出ます。
・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。

・受講人数にもよりますが、テーマに応じたディスカッションを随時実施し、問題意識と応用力を鍛えます。
・本科目の性質上、時事問題を重視するため、ニュースを騒がす大きな事件が発生した場合などには、授業内容の変更があったり、授業外学習の指示を中心に授業を行うことがありえます。
・私語は厳禁です。周囲の学生に迷惑な私語には厳しく対処します。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル社会とメディア	武市英雄・原寿雄（責任編集）／ミネルヴァ書房／4－623－03618－9／特に第1回から第10回の授業内容と密接に関係する。

テキストは、第10回までは、毎回持参すること。11回目以降はテーマが多岐に渡るため、別途指示します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化とは何か～文化・経済・政治～	デビッド・ヘルド編／法律文化社／／
グローバリズムという妄想	ジョン・グレイ／日本経済新聞社／／
増補　想像の共同体	ベネディクト・アンダーソン／NTT出版／／
オリエンタリズム	エドワード・サイード／平凡社／／
批判的想像力のために～グローバル化時代の日本	テッサ・モーリス＝スズキ／大月書店／／

参考書、資料については、必要に応じて授業で適宜、指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室の来室。ただし、来室の際は事前にアポイントを取ること。なおメールアドレスは、
khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニケーション政策論（S）

15380

担当者名 / Instructor　日高 勝之

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、「市民が望む政治実現のために、メディアはいかなる機能を果たしうるか、果たすべきか？」という問題意識を縦軸に探求します。従って、メディアをめぐる責任、モラル、約束事(convention)、制度、商業主義などのイデオロギー、メディア人の専門性、ジャーナリスト教育、権利と権力、市民と政治などのせめぎあいを見つめ、そこから生まれる問題、ジレンマを批判的に考察します。現在、起きているテレビニュース、新聞などのジャーナリズムの実例を大切にしながら学びます。

到達目標 / Attainment Objectives

政治実現のためのメディア、およびメディア、コミュニケーションの政策に関連する主要なテーマ、すなわちメディアをめぐる責任、モラル、専門性、約束事（convention）、制度と商業主義などのイデオロギーなどのせめぎあいが抱える問題点を批判的に理解し、その上で各自の意見が言えるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入～政治の危機とメディアの危機：戦後日本の歩みから～	歴代日本の首相、メディア・ポリティクス、政治実現、政策
第2回	主要な概念を学ぶ	モダニティ、資本主義、グローバル化、デモクラシー、公共圏ほか
第3回	公共放送制度と国家①NHKの課題と公共圏	NHK、受信料、公共圏、放送法、経営委員会
第4回	公共放送制度と国家②イギリスBBCの制度と模索	公共放送、BBC、ライセンス・フィー、ナショナリズム、ユーロビジョン・ソングコンテスト他
第5回	民放テレビと公共圏のジレンマ	1980年代、民放のニュース番組、ハバーマス、後期モダニティ、ディスコース
第6回	新聞メディアの現在と専門性の変容	専門性、ジャーナリスト教育、OJT、ネットジャーナリズム、論説機能
第7回	ニュース価値と議題設定の問題	ニュース価値、議題設定、フレームワーク
第8回	偏向要因から考える政治実現とメディア	偏向要因、メディア・ルーティン、イデオロギー、記者クラブ、逸脱理論、覇権理論、情報操作
第9回	メディアリテラシーの視点と政治実現	メディアリテラシー、ニュース価値、偏向要因、専門性、公共圏
第10回	ケース・スタディ～現在起きているニュース報道の事例から考える政治実現とメディア	
第11回	シンクタンクおよびその機能と政治実現	欧米のシンクタンク、日本のシンクタンク、アメリカ大統領選挙
第12回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（前）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造
第13回	ケーススタディ～フレームワークとしてのジャーナリズムを考える：映画『ニュースの天才』（後）～	メディア産業、メディア・ルーティン、OJT、専門性、捏造、メディアに描かれたメディア
第14回	情報インテリジェンスの可能性	ネットジャーナリズム、ブログ、ツイッター、外交、総合商社、大学、エコノミスト
第15回	全体総括＆ディスカッション	各回の復習、ディスカッション、リアクション・ペーパー

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業で学んだことの復習や応用が出来るように、授業内に参考資料や、応用への取り組みなどを適宜紹介する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	授業で学んだことの関連テーマについて、①その基礎的な理解が出来ているか、②その上で論理的かつ独自に批判的な思考がどの程度述べられているか。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・授業に関連したテーマについて、マスコミ産業などで働く外部講師に、1回程度講義を依頼する可能性あり。
・受講人数にもよるが、テーマに応じたディスカッションを適宜実施することを考えているので、議論を通じての問題意識と批判力を鍛えて欲しい。
・本科目の性質上、現在起きている時事的な問題を扱うことが多いので、シラバスの予定は開講以降に変更される場合や、授業外学習の指示のみに代替されることもありうる。

・私語は厳禁である。周囲の学生に迷惑になるような私語には厳しく対処する。

教科書 / Textbooks

テーマが多岐にわたるので、教科書は特に使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジャーナリズムの科学	門奈直樹／有斐閣選書／４－６４１－２８０４６－０／
メディアの法理と社会的責任	渡辺武達・松井茂記（責任編集）／ミネルヴァ書房／４－６２３－０４０７３－９／
メディア・リテラシー～媒体と情報の構造学	井上泰浩／日本評論社／４－５３５－５８３９０－０／

その他、必要に応じて授業内で適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業前後の教室での質問の他、研究室への来室。ただし来室の際は、事前にアポを取ること。
なおメールアドレスは、khidaka@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

コミュニティメディア論 (S)

12771

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義で言うところのコミュニティ・メディアは、地理的な範囲を中心とした地域コミュニティのメディアである。

大きな災害が起きるたびに、マス・メディアに登場する小規模なメディアがある。それが、地域メディアと言われる、ローカル新聞やコミュニティFMである。地域メディアは、その名の通りに地域に密着した情報を伝えるために存在している。われわれの生活はマス・メディアを中心に成立しているが、一定範囲の地域を意識し、その地域で生活する人びとを中心に成立しているメディアも確かに存在しているのだ。だが、先述のようにその存在が認識されるのは、大きな災害など特別な状況が起こったときに限られている。

また、われわれが学ぼうとしているメディアにはさまざまな存在理由があり、生まれてきた理由もある。メディアの歴史を学ぶとき、その存在理由はあまり問われることがない。1本の時間軸の上にトピックスとして並べられ、他の可能性や別の時間軸は無視される。特に、地域という一定の地理的範囲や人的なつながりのなかで生み出されたメディアの歴史は、その存在すら忘れられている。

それはなぜなのだろうか？この授業の基本的な関心は、常に疑問と共にある。なぜマスなメディアだけではだめなのだろうか？なぜ、地域コミュニティとメディアが強く結びつくのだろか？なぜ、自らメディアを生み出そうとするのだろうか？自明と思われていることに改めて目を向け、それを確認し、分析し、理解をする。授業は、その繰り返しである。

到達目標 / Attainment Objectives

1. マス・メディア以外のメディアの存在を理解する。
2. コミュニティとメディアの関係を考える。
3. メディアの存在を自明とせずに、さまざまな角度から観察できる。
4. コミュニティ・メディアにアクティブなアプローチができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

コア科目（情報メディア学系用）
基礎社会学
メディア社会論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	日常に偏在するコミュニティとメディア	地域メディアとコミュニティ・メディア
第2回	地域メディアとわれわれ	地域、住民、メディアの循環を創る
第3回	コミュニティ・メディア研究と調査	どんな研究視点や方法があるのか−
第4回	コミュニティ・メディアを事例から考える1	地域SNS
第5回	コミュニティ・メディアを事例から考える2	地方新聞
第6回	コミュニティ・メディアを事例から考える3	ラジオ（AM,FM,コミュニティFM）
第7回	コミュニティ・メディアを事例から考える4	有線放送・親子ラジオ
第8回	コミュニティ・メディアを事例から考える5	コミュニティ・メディアの営利／非営利問題
第9回	コミュニティガバナンスとコミュニティ・メディア	地域社会の問題解決とメディア
第10回	災害とメディア　その1	災害とメディアの関係性を考える
第11回	災害とメディア　その2	実際の災害とメディア
第12回	災害とメディア　その3	実際の災害とコミュニティ・メディア
第13回	災害とメディア　その4	今後の災害とコミュニティ・メディア
第14回	コミュニティ・メディアを巡る議論	コミュニティ・メディアをグローバルに見る
第15回	地域とメディアの新しい関係作り	今の時代にふさわしい地域とメディアの関係とは

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	客観問題と論述問題。
平常点評価	0 %	

レジュメは、コースツールに1週間前までにアップするので、各自プリントアウトして持参すること。
授業当日は、翌週に使用する関連資料及び当日の補足資料を配付する。きちんと予習しておくこと。
ただし、開始後30分経過した時点で配布を中止し、以後は一切配布を行わない。
コミュニケーションペーパーは毎回提出を求めるが、成績には無関係。
各回の授業予定は、最新のトピックスに合わせて変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

日常生活とメディアの関係を、常に意識することが大切。新聞を読み、社会の動きと問題を確認することも大切。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
地域メディアを学ぶ人のために	田村紀雄篇　／世界思想社／／
声」の有線メディア史	坂田謙司／世界思想社／／
地域SNS最前線	庄司昌彦／アスキー／／
コミュニティ・メディア	金山智子／慶応義塾大学出版部／／
現代地域メディア論	田村紀雄・白水繁彦／日本評論社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

ジャーナリズム論（S）

12880

担当者名 / Instructor　柳澤 伸司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、ジャーナリズムの機能・役割と責任、言論・表現の自由について、なぜそれらが私たちにとって重要な意味をなすのかといった観点を起点に、日本のジャーナリズム活動、ジャーナリストたちの言論活動や思想などを歴史的に踏まえながら考えていきます。現在のジャーナリズムの問題点をとらえ、見る眼を養うためにも、政治的社会的側面から見た現代社会におけるジャーナリズムの状況と課題を整理しつつ、時事的・実際的な問題などと関連させながら多面的に考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

ジャーナリズムの本質やその現在的問題を歴史的相対的に捉える視座を獲得し、関連する課題について説明し批評することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに～授業の進め方と評価について	ジャーナリズムの視点
第2回	ジャーナリズムとは何か	原寿雄『ジャーナリズムの思想』岩波新書（1997） マス・コミュニケーション、ジャーナリズム、ジャーナリスト
第3回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（1）明治期日本の新聞記者	鎌田慧『反骨のジャーナリスト』岩波新書（2002） ジョセフ・ヒコ、福地源一郎、福澤諭吉
第4回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（2）新聞に対する読者の視線	玉木明『ゴシップと醜聞－三面記事の研究』洋泉社・新書y（2001）、赤瀬川原平『外骨という人がいた！』ちくま文庫（1992） 黒岩涙香、宮武外骨
第5回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（3）言論の力と大正デモクラシー	米騒動、井上江花、白虹事件
第6回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（4）批判の限界と新聞人	菊竹六皷、桐生悠々
第7回	日本の報道メディアの特質～歴史的視点（5）ジャーナリズム批判と言論活動	吉野源三郎『職業としての編集者』岩波新書（1989） 石橋湛山、高見順
第8回	報道することの難しさ～皇室報道をめぐって	皇室担当記者OB編『皇室報道の舞台裏』角川oneテーマ21（2002） 皇室報道、表現の自由
第9回	権力を監視するということ～記者クラブというシステムと取材のあり方	田勢康弘『政治ジャーナリストの罪と罰』新潮文庫（1994）、大塚将司『スクープ－記者と企業の攻防戦』文春新書（2004） 記者クラブ、報道協定、情報公開
第10回	国家秘密と知る権利～外務省密約事件	西山太吉『沖縄密約－「情報犯罪」と日米同盟』岩波新書（2007） 知る権利、沖縄返還密約事件、記者の倫理
第11回	戦争とジャーナリズム～（1）戦争報道から何を考えればよいか	前坂俊之『太平洋戦争と新聞』講談社学術文庫（2007）、石川文洋『報道カメラマン』朝日文庫（1991） 宣伝、情報操作、報道管制
第12回	戦争とジャーナリズム～（2）メディアは何を伝えているか	武田徹『戦争報道』ちくま新書（2003）、柴山哲也『戦争報道とアメリカ』PHP新書（2003） 映像のリアリティ
第13回	取材と報道のバランス～（1）報道と人権の狭間	後藤文康『誤報－新聞報道の死角－』岩波新書（1996）、河野義行・浅野健一『松本サリン事件の罪と罰』講談社文庫（2001） 犯罪報道、報道被害、メディア・スクラム
第14回	取材と報道のバランス～（2）メディアが作り出す報道被害	高山文彦『少年犯罪実名報道』文春新書（2002） スクープ、報道被害、実名・匿名問題
第15回	ジャーナリズムをどうするか～報道規制の動き／まとめの議論	ジャーナリストという職能／ジャーナリズムの可能性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

新聞、テレビ、週刊誌など現代社会の出来事を伝える報道に意識的に接触することです。ジャーナリズム論を深めるための参考文献を授業時に多数紹介しますが、関連する文献を読んで、問題意識を深めて下さい。なお、ジャーナリズム論は近現代史と深く関わっていますので、近現代史の知識を増やすよう努力して下さい。授業は資料を中心にビデオ映像などを使いながら進めていきます。コースツールを活用して授業内容に関

する受講者の考察や意見を求める課題を課します。授業の進度によっては予定のテーマが前後・伸縮することもあります。なお、ジャーナリズム現場で仕事をしている方をゲストスピーカーとして行う授業も予定しています。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	授業に関連したテーマで作成した課題レポートを指定された期間までにコースツールに提出。論点や表現の的確性、オリジナリティなどの観点を中心に評価。課題についての理解度、論旨の構成や説得力を重視します。
平常点評価	60 %	講義内容に関連した課題レポートを課します。決められた期日までにコースツールに提出することが求められます。主題に関わる意見の的確性、独自性を中心に評価します。

レポートはコースツールでの提出となりますので、コースツールが使えるようにしておいて下さい。授業期間中に出される課題レポートを提出しなかった場合は出席していないものと判断します。第1回目に「授業の進め方と評価について」詳細な説明をしますので、受講予定者は必ず出席して下さい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は、ジャーナリズムを見る眼を養うための知識を獲得することも必要ですが、むしろ問題意識を啓発することに主眼を置きますので、そこから生じるさまざまなテーマに関する問題意識に対して自分なりに深めることが重要です。問題意識を啓発するための資料を読んだり、ビデオ映像などを視聴し、そこから得る新たな知見、意見などを求めながら授業を構成していきます。ジャーナリズムの歴史など日本の近現代史に関わることもあり、歴史上の人物や著作など事典や文献などでさらに調べることで知識を広げて下さい。なお、時事的な問題を扱うこともありますのでこのシラバスの予定は、開講以降に変更される場合があり、若干講義予定の順序が変動または授業外学習の指示に代替されることがあります。授業中の私語は他の受講者の迷惑になるので厳しく対処します。また、配布物等は事前事後にコースツールに入れておきますので、各自そこから入手するようにしてください。配布物がある場合は授業時教室以外では配布しません。

教科書 / Textbooks

使用しない。必要に応じて資料等を用意する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
キーワードで読み解く現代のジャーナリズム	JCJジャーナリズム研究会編／大月書店／4-272-33045-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業内容に関する質問等はいつでも対応します。できるだけその日の授業が終了した時点で声をかけてください。時間がなくその場で十分な対応ができない場合はメール（syt01970@ss.ritsumei.ac.jp）等で対応します。

その他 / Others

配布物や課題レポート等はコースツール（WebCT）を使いますので、予め「早期利用申請」を申請して使えるようにしておいてください。

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ産業論 (S)

15358

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを国民生活の観点から投げかける。具体的には，1980年代から1990年代にかけて，当時の通産省を中心にそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題でなぜ失敗したのかなどについて考える。さらに，市場を優先させたスポーツ・ビジネスを批判する立場から，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視してスポーツの発展を展望していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編　／(財)通商産業調査会 ／ISBN4-8065-2360-7 ／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房 ／ISBN4-313-81401-9 ／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ニュース論（S） § 電波メディア論（G） § 放送メディア論（G） § 放送文化論（W）

12817

担当者名 / Instructor　奥村 信幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

①社会にニュースがどうして必要なのか考えます。
②ニュースがどのように伝えられるのか構造を理解します。
③ニュースが信用されなくなっている原因を探り、解決策を考えましょう。
④テクノロジーの発達とインターネット、マルチメディア化でニュースと社会の関係はどのように変わるか考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入のはなし・ニュースとは何か	信用・公共性
第2回	ニュースが信頼されるためのルール	ジャーナリズム・真実・独立・討論
第3回	ニュースが作られるしくみ①新聞とテレビ	マスメディア集中排除原則・再販価格維持制度
第4回	ニュースが作られるしくみ②ビジネスとしての報道機関	購読数・視聴率・
第5回	取材・編集・制作の現場で起きていること	実名と匿名・推定無罪の法理・報道協定
第6回	映像の「約束事」と現実	フレーム・アングル・シーン・字幕
第7回	政治・戦争のニュース	オフレコ・記者クラブ・取材源の秘匿
第8回	メディアの「暴力性」	メディアスクラム・犯罪被害者・BPO（放送倫理・番組向上機構）
第9回	「公共放送」はなぜ必要か	NHK・BBC・PBS・受信料
第10回	ゲストスピーカーによる講演と討論	詳細は追ってアナウンスします（スケジュール変更の可能性あり）
第11回	コマーシャリズムとジャーナリズム	クロスオーナーシップ・ビデオジャーナリズム
第12回	デジタルでニュースはどう変わるか	地デジ・オンデマンド
第13回	放送と通信の融合がもたらすもの	総務省・電波オークション
第14回	ネットワークとコントロール	オープンソース・コード・プライバシー
第15回	記述問題とまとめの議論（未来のメディアと私たち）	※記述問題の詳細は追ってアナウンスします

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

毎回リーディング・アサインメントがありますので読んでおいて下さい。その内容を前提として授業をします。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	30 %	形式・詳細はクラスでアナウンスします。
平常点評価	70 %	①最終講義日に行う記述問題（オープンノート・詳細はクラス内でアナウンスします） ②（希望者のみ）リーディング・アサインメントの「ディスカッション・グループ」による発表（詳細はクラス内でアナウンスします） ③クラス内で書くコミュニケーション・ペーパー

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞を最低1紙は読んで下さい。テレビのニュースもみてください。最近の時事問題については「常識」と考え、最低限の説明しかしません。インターネットのSNS(TwitterやFacebookなど）も積極的に使ってみて下さい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

クラス内で指示します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メール　okumuran[at]ss.ritsumei.ac.jp（[at]を@になおして下さい）

その他 / Others

パブリックアクセス論（S）

12806

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

パブリックアクセスとは、市民がマス・メディアにアプローチし、それを利用する権利を求めたところから始まった。1970年代前半、アメリカでは地域のケーブルテレビチャンネルへの市民アクセスが可能となり、これは世界に先んじた制度となった。これをパブリックアクセス・チャンネルと呼ぶ。パブリックアクセス・チャンネルはヨーロッパや日本を含むアジアの国々にまで広がりをみせている。

既存のメディア・システムに一般市民がアクセスすることで、自分たちの問題意識や社会的な課題を広く社会に提示することは、民主的な社会の形成にとって必要である。講義ではパブリックアクセスを生んだ社会的な背景をメディア理論の歴史的な変遷と結びつけながら考察し、その上で実践としてのパブリックアクセスに関わる活動や諸課題を検討・考察する。

ブロードバンドネットワーク網がインターネットと結びつき、マスコミ中心の社会はネット社会へ移行している。音声・動画を活用したさまざまな情報・コンテンツを受信するだけでなく、市民自らが自由に情報・コンテンツを発信できるようになってきた。このような状況の中、これまでのマス・メディア中心のパブリックアクセスの見方をどのように変えてゆけばよいかについても踏み込んで考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアアクセスの起源について理解する
・メディアの発達の帰結としてパブリックアクセスが生まれたことを理解する
・北米、ヨーロッパ、アジアのパブリックアクセスの現状について理解する
・変容を続ける現代のメディア環境の中でパブリックアクセスをどのように捉えなおせばよいかを考える

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジャーナリズム関連科目、映像関連科目、現代史関連科目を履修していることが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	テーマ/Theme　イントロダクション　パブリックアクセスとは	キーワード/Key Word　メディアの国際化、メディアの細分化（Fragmentation）
第2回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（1）	キーワード/Key Word　情報化社会、近代プロパガンダ理論
第3回	テーマ/Theme　マス・メディアの機能と操作（2）	キーワード/Key Word　政治とメディア、議題設定、沈黙の螺旋理論
第4回	テーマ/Theme　アクセス権の誕生	キーワード/Key Word　ジェローム・バロン、思想の市場論
第5回	テーマ/Theme　アクセス権論の展開　米国と日本	キーワード/Key Word　レッドライオン判決（1969年）、堀部政男
第6回	テーマ/Theme　アクセス権運動　マス・メディアと市民の立場から	キーワード/Key Word　メディア資本の集中、労働運動、市民運動、ポリティカル・エコノミー論
第7回	テーマ/Theme　アクセス権の類型（1）　批判・抗議・要求・苦情　および　意見広告	キーワード/Key Word　自主規範　苦情処理委員会
第8回	テーマ/Theme　アクセス権の類型　（2）　反論　および紙面・番組参加	キーワード/Key Word　反論権　公平原則　投書欄　アクセス番組
第9回	テーマ/Theme　メディアアクセスとメディアリテラシー	キーワード/Key Word　フランシス・ペリガン　アクセス論
第10回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス　（1）　背景とテクノロジーの理解	キーワード/Key Word　ケーブルシステム、電磁スペクトル（Electro Magnetic Spectrum）
第11回	テーマ/Theme　北米のパブリックアクセス（2）　パブリックアクセス・チャンネルの理念と制度	キーワード/Key Word　フェアネス・ドクトリン、レッドライオン事件、フランチャイズ・アグリーメント
第12回	テーマ/Theme　ヨーロッパのパブリックアクセス　メディアアクセスの先駆者、オランダのラジオ	キーワード/Key Word　オランダ放送協会（NOS）
第13回	テーマ/Theme　アジアのパブリックアクセス　上からの改革が進む韓国	キーワード/Key Word　KBS、「開かれたチャンネル」、放送制度改革
第14回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセス	キーワード/Key Word　パブリックアクセス・チャンネル、市民メディア、日本版FCC
第15回	テーマ/Theme　日本のパブリックアクセスの諸課題と展望 メディア・システムの変容とパブリックアクセス概念の揺らぎ	キーワード/Key Word　情報通信法　ソーシャルメディア

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

受講者は、音声・映像コンテンツ制作の機会を活用し、自らが情報を発信する実践的な学習にも可能な限り取り組んで欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	講義を通じパブリックアクセスを理解する上で重要なキーワード、出来事、概念を的確に理解しているかどうか。
平常点評価	30 %	授業出席と授業後のリアクションペーパーの内容評価による

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版パブリックアクセスを学ぶ人のために	津田正夫／平塚千尋編／世界思想社／4-7907-1186-2／

教科書と講義内容のポイントを示すレジメを対照させながら、講義前後の学習をしておくこと。またこのほかにも、読んでおくべき著作、または視聴してほしい番組や作品などは適宜紹介する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
アクセス権とは何か	堀部政男／岩波新書／／
現代ジャーナリズムを学ぶ人たちのために	田村紀雄、林利隆、大井眞二編／世界思想社／4-7907-1056-4／
やさしいマスコミ入門:発信する市民への手引き	金山勉／金山智子／勁草書房／978-4-326-65303-4／

その他の参考文献については、講義の際に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎回提出してもらうコミュニケーションペーパー中にアポイントの希望を記入する、または初回講義で配布するシラバスに記載された教員電子メールあて連絡をすること。

その他 / Others

メディアリテラシー論（S） §　メディア・リテラシー論I（G）

12750

担当者名 / Instructor　浪田 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会において、メディアは政治・経済・社会・文化など我々の生活のあらゆる側面に影響を及ぼしている。このメディア社会を主体的に生きるには、メディアをクリティカルに読み解き、社会におけるメディアの役割や特性を理解し、また自らメディアを制作する力、すなわちメディア・リテラシーが不可欠である。本講義においては、メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状などを実践を通して学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・ メディア・リテラシーの定義、目標、基本概念、理論、国内外におけるメディア・リテラシー教育の現状など基本的な事柄を理解する。
・ メディア分析やメディア制作課題などのグループ活動、およびメディアログ等の課題によって、メディアをクリティカルに読み解き、メディアを制作する力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。他専攻や他学部生でメディアの基礎知識がなくても十分に受講可能。
ただしテストや最終レポートがないからといって決して楽な授業ではないので、以下シラバスに記載してある授業内容や課題等をよく確認してから登録すること。
自分で考える力を身につけたい学生の受講を歓迎する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	総括的導入講義 （授業の進め方）、メディアとは何か	メディア、メディア社会
第2回目	メディア・リテラシーとは何か	メディア・リテラシー
第3回目	メディア・リテラシーの基本概念	リプレゼンテーション（representation）、イデオロギー、価値観
第4回目	メディアとオーディエンス	アクティブ・オーディエンス、エンコーディング・デコーディング
第5回目	広告を考える（1） テレビ・コマーシャル	映像言語、メディア言語、映像技法、音声技法
第6回目	広告を考える（2） 消費社会	消費社会、ブランド化（Branding）
第7回目	広告を考える（3） 子どもへのマーケティング	ターゲット・オーディエンス
第8回目	カルチュラル・スタディーズとメディア・リテラシー	カルチュラル・スタディーズ、サブカルチャー
第9回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（1） ジェンダー	ジェンダー
第10回目	リプレゼンテーションとアイデンティティー（2） 民族と文化	民族、エスニシティー、文化
第11回目	メディアと暴力	バイオレンス、モラル・パニック
第12回目	産業としてのメディア	メディア・コングロマリット、民主主義とメディア
第13回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（1）/ グループ・プレゼンテーション（1）	メディア・エデュケーション
第14回目	世界におけるメディア・リテラシー教育の取り組み（2）/ グループ・プレゼンテーション（2）	カリキュラム、ネットワーキング
第15回目	グローバル時代のメディア / グループ・プレゼンテーション（3）	グローバル化、グローバルメディア、デジタルメディア

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・日常生活において自分が使うメディアに常に注意を払い、本講義の目的を体して意識的にメディアを観察すること。
・メディア制作はグループで活動する時間を授業内にも設けるが、授業時間外に資料を集めたり取材や撮影を行わなければならないこともある。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①メディアログ（10%） ②メディア分析レポート（15%） ③コミュニケーション・ペーパー（45%） ④グループ・メディア制作（30%） 詳細は以下の「備考欄」を参照のこと。

・ メディアログ（個人でつけるメディア日記）は第3回目の授業で、メディア分析レポートは第8回目の授業で提出する。分析方法等は授業で紹介・実践する。
・ コミュニケーション・ペーパーは、授業の内容をよく理解した上で、メディア分析やその他の授業内課題を記述するものである。単なる出欠確認ではなく、記述内容の出来によって0～5点で評価する。
・ グループ・メディア制作は、4、5人のグループでメディア（5分程度のビデオクリップや新聞記事など）を制作し、後半3回の授業で発表・ディ

スカッションを行う。評価は製作技術の高さではなく、この講義で学んだメディア・リテラシーの基本概念を理解し、自分たちのメッセージや制作の意図が伝わるものになっているかどうかを基準とする。成績はグループ・ワークへの貢献度や課題の出来を加味して、個人ごとにつける。グループは、他回生・他学部生がバランスよく混ざるようこちらで指定する。

・ 受講者の人数等により、メディア制作課題の内容などに変更が出ることもあるかもしれないが、その際はすみやかに授業中に知らせる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・ メディア分析やメディア制作など、受講者の積極的な参加が必要とされる授業である。全員でアイディアを出しあい、また互いの意見を尊重しながら協力してグループワークを行うことが要求されることを理解した上で受講登録すること。

・ ほぼ毎回行われるメディア・テクスト分析は日常点であるとともに、この講義の集大成であるメディア制作課題の練習・準備でもあるので、毎回の出席と能動的な参加が必須である。初回に授業の進め方や課題、評価方法について詳細な説明をするとともにアンケートも行うので、第1回目から必ず出席すること。

・ QRコードシールを毎回持参すること。シールのないものは減点とする。

・ 遅刻は他の受講者の迷惑になるだけではなくグループ活動などに支障をきたすので、厳しく対処する。レジュメや資料等は、授業開始から30分以降は一切配布しないので注意してほしい（病欠ややむを得ない事情を除く）。

教科書 / Textbooks

教科書は特に指定しない。必要に応じて授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版　Study Guide　メディア・リテラシー[入門編]	鈴木みどり編／リベルタ出版／4947637595／
メディア・リテラシーへの招待	国立教育政策研究所編／東洋館出版社／4491019487／
メディア・リテラシーの現在と未来	鈴木みどり編／世界思想社／4790708969／
メディア・リテラシー教育：学びと現代文化	D. バッキンガム著、鈴木みどり監訳／世界思想社／4790712265／

その他、適宜授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Media Awareness Network http://www.media-awareness.ca/english/index.cfm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア技術史（S）

15418

担当者名 / Instructor　宮下 晋吉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

ケータイ―携帯電話やデジタルハイビジョン放送などメディアの技術進歩は日進月歩である。本講は、マクルーハンなどのメディア論をふまえ、中世のグーテンベルクの活版印刷術の発明から、今日のインターネット、ケータイ、ユビキタスまで、メディア技術がどのように発展してきたのかを具体的に明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

次の3点をめざす。

第一に、メディア論をふまえたメディア技術史全体の流れの理解

第二に、活版印刷、写真、映画、ラジオ、テレビ、インターネット等歴史的に最も重要なメディア技術の基礎的理解

第三に、それらメディア技術の歴史的、社会的意味の理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「現代とメディア」は履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディア・技術・社会	ケータイをめぐって、メディアとは、メディア技術史とは
2	グーテンベルクの銀河系（その1）	「42行聖書」、M. マクルーハン、マクルーハンのメディア論、「人間の拡張」
3	グーテンベルクの銀河系（その2）	紙とインク、ブックの誕生、J.グーテンベルク、活版印刷術の発明
4	電子メディアの誕生	腕木式通信から電信へ、近代テレコミュニケーション技術としての電信と電話、モールスとベル
5	電子とは、電波とは？	マックスウェルの電磁気学、ヘルツと電磁波の発見、マルコーニと無線電信の発明
6	写真と映画の発明	ニエプス、ダゲール、タルボットと近代写真術、エジソンとリュミエール兄弟
7	エジソンと音の複製	フォノグラフからグラモフォンへ
8	ラジオの発明	クルックスの「予言」？、真空管、ドゥ・フォレスト、「第三帝国の同調装置」か？
9	テレビの発明	ブラウン管とニプコー円盤、ツォリキンとアイコノスコープ（撮像管）
10	コンピュータの誕生	コンピュータの起源、ENIACとフォン・ノイマン、ノイマン型コンピュータ
11	シリコンバレーの一粒の麦	電子部品の発達、トランジスターからICへ、R.ノイス
12	シリコンバレーの夢	マイクロプロセッサーの発明からグーグルまで
13	インターネットヒストリー	S.ジョブズ、ビル・ゲイツとパソコンの発明、アーパネットからインターネットへ、M.アンドリーセン
14	ユビキタスとユビキタス社会	M.ワイザーと坂村健、トロンと組み込みコンピュータ、ICタグ
15	マクルーハン再論	L.マンフォードとマクルーハン、メディア史の時代区分、「テトラッド」―メディアの栄枯盛衰

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に指示する参考文献を学習することが望まれる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	
平常点評価	20 %	授業中に実施するミニレポートやコミュニケーションペーパーなどから評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論的ベースに関わるテクストのエッセンス、必要最小限の部分は、講義資料として配付するのでそれをよく読むこと、また各メディア技術の原理の基礎に関しては、授業中にできるだけていねいに解説することを心がけるが、不明の点があればその次の回の授業のときに質問すること。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア論　人間の拡張の諸相	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN4-622-01897-7／
グーテンベルクの銀河系　活字人間の形成	M. マクルーハン／みすず書房／ISBN-4-622-01896-9／
複製技術時代の芸術	W. ベンヤミン／晶文社／ISBN4-7949-1266-8／
20世紀のメディア①エレクトリックメディアの近代	水越伸篇／ジャストシステム／ISBN4-88309-081-7／

毎回それに添って授業を進めるという意味でのテキストではないが、授業の理論的ベースに関わるテキストとして

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新版電気の技術史	山崎俊雄、木本忠昭／オーム社／ISBN4-274-12914-4／
目で見るデジタル計算の道具史	キトウェル、セルージ／ジャストシステム／ISBN4-88309-096-5／
グーテンベルク聖書の行方	富田修二／図書出版社／ISBN4-8099-0504-7-C0090／
起業家エジソン　知的財産・システム・市場開発	名和小太郎／朝日新聞社／ISBN4-02-259771-2／
電子立国日本の自叙伝	相田洋／NHK出版／ISBN4-14-084007-2他／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

映画（キネマトグラフ）や蓄音機（フォノグラフ）の発明者エジソンについて：
http://edison.rutgers.edu/papers.htm

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

メディア社会論 (S)

15377

担当者名 / Instructor　筒井 淳也

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「情報化」とはそもそも何なのでしょうか？　この言葉が盛んに使われるようになったのは、電子ネットワークが登場する時期になってからです。しかし、インターネットが登場するはるか以前から、情報化は徐々に進展し、人々の生活と社会の全体的な構造を大きく変えてきたのです。印刷技術、マスメディア、インターネットは、それぞれ根底的に社会の構造を変える働きを持ってきました。

このような時代時代のメディアのかたちを、一貫した視点からしっかりとみつめるために、まずはメディアの社会理論を学びます。社会学と社会心理学、そして経済学は、メディアについての洞察力を身につけるための様々な道具を用意してくれています。その枠組みを利用して、様々なメディアと社会との関係を「読み解いて」いくのが授業の目標です。

また、授業は、毎回一つの「疑問」を最初にテーマとして提示し、それに答えるかたちで進めていきます。こうすることで、みなさんがどこに問題意識を持ってほしいのかをはっきりさせることができると考えます。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアと情報化に関する様々な現象を考える際に使える、一貫した視点を身につけることができます。
・マス・メディア（新聞や放送）について考える際の基本的な思考枠組みを身につけることができます。
・インターネットの特性についての基本的な知識を身につけることができます。
・インターネットが社会をどのように変えていくのか、についての見方を学ぶことができます。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	メディアの社会理論：「コミュニケーションが成立する」ために何が必要か？	社会理論、相互行為
2	メディアと社会理論(1)：メディアについて学ぶ前に、「社会の仕組み」について短く学ぶ	社会理論、経済理論
3	メディアと社会理論(2)：産業化にはメディアが必要だった---社会の中のメディアの働き	取引コスト、情報管理
4	メディアと経済(1)：通信メディアが私たちを豊かにする	株式市場、システム構築
5	メディアと経済(2)：通信メディアが私たちの仕事を変える	システム構築、インターネット
6	メディアと政治(1)：そもそも政治の働きって？	意思決定、民主制
7	メディアと政治(2)：マスメディアの功罪	マスメディアの失敗、親密性の専制
8	メディアと政治(3)：インターネットは政治をどう変えるか？	報道メディアと論評メディア
9	メディアと政治経済：中間総括および質疑応答	社会学、経済学
10	メディアと人間関係(1)	CMC、SNS(Mixi,Facebook)
11	メディアと人間関係(2)	社会的ネットワーク、信頼
12	インターネット再入門	WWW、ハッカー倫理
13	旧メディアと新メディア(1)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	マスメディア、インターネット
14	旧メディアと新メディア(2)：インターネットはマスメディアを滅ぼすのか？	報道、一次ソース、専門性
15	メディアについて学ぶために何が必要か、および質疑応答	メディアの社会理論、メディアの経済理論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業外での補足学習（追加参照文献の紹介）、フィードバック、質問、連絡などを、ブログを利用して行います。受講生は定期的にブログにアクセスすることを勧めます。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	主に論述に明確に答えているかどうか（授業内容の理解度）を評価します。
レポート試験	20 %	一度だけレポートを課します。テーマは講義中に指示します。
平常点評価	0 %	日常点評価は基本的に行いませんが、全体の授業運営の妨害になるような行動、私語等は、他の学生の学習を妨げますから、減点の対象とします。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

ふだんから社会問題、経済問題に関心を持つようにしましょう。新聞でもよいし、Wikipediaでもよいし、時事問題を解説したブログでもいいです。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディアと社会	秋吉美都、小山友介他／ミネルヴァ書房／／未だ出版予定です。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業用のブログを開設する。URLは授業で知らせる。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電子メールで行う。

mail: tsutsui@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

メディア文化論（S）

12930

担当者名 / Instructor　瓜生 吉則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:テレビ視聴者と／のバラエティ
現在の日本のテレビは「バラエティ」にあふれている。言い換えれば、「ニュース」も「情報番組」も「お笑い」も、すべてが「バラエティ」という括りでひとまとめにできてしまえる、つまり「総バラエティ化」と呼べるような状況になっている。こうした状況は、どのような歴史的経緯を経て出現したのか。そして、われわれ視聴者は、そうした「バラエティ」あふれる（あるいは、「バラエティ」ばかりの）現在のテレビと、どのように関わり合っているのか。本講義では、テレビ番組やテレビを題材にした映画などを資料としながら、戦後日本社会において「テレビ視聴者」の位置がどのように変化してきたのかを考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

テレビが視聴者をどのように構成し、また視聴者がテレビというメディアからどのような「本当らしさ（リアリティ）」を感受しているのか、自身のテレビ体験を相対化しながら、テレビが編制する＜メディア文化＞について言語化できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

現代とメディア

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　テレビ視聴者とバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ
2	「観客」から「視聴者」へ	観客、視聴者、舞台
3	舞台の「裏」とはどこか？	視聴者、裏読み、内輪空間
4	「素」を見ることの快楽	素、ヤラセ、モニター
5	画面に映っているのは誰か？	笑い声、パレオTV／ネオTV
6	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・1	リアリティ・ショー、監視社会
7	テレビにとって「リアリティ」とは何か？・2	M・フーコー、M・ポスター、パノプティコン
8	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・1	監視社会、マス・メディア
9	「見る」ことと「見られる」ことのあいだ・2	つながりの社会性、N・ルーマン、コミュニケーション
10	「リアリティ」の作り方・1	捏造、やらせ、情報操作
11	「リアリティ」の作り方・2	洞窟の比喩、、疑似環境、疑似イベント
12	「リアリティ」の作り方・3	フィクション／ノンフィクション、再現、インタビュー
13	「ただの現在」としてのテレビ・1	実況、時間、想像力
14	「ただの現在」としてのテレビ・2	実況、空間、想像力
15	まとめ　テレビ視聴者のバラエティ	テレビ、視聴者、バラエティ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

小レポート、最終レポートともに、現在放送中のテレビ番組についての課題なので、テレビを視聴・録画する環境を確保しておくこと（「テレビが見られない」という理由で課題が提出されない場合も未提出とみなす）。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	授業で触れた論点をふまえたレポートを課す（4000字以上のレポートを予定）。
平常点評価	40 %	第5回と第11回頃に小レポート（2000字程度）を課す（詳細は授業プリントで提示する）。最終レポートを含め、計3回のレポートをすべて期限までに提出した者のみ成績評価対象者とする。ちなみに、2009年度の「メディア文化論」単位取得率（単位取得者÷履修登録者）は67.7%であった。なお、いわゆる「出席点」は存在しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『社会は笑う―ボケとツッコミの人間関係』	太田省一／青弓社／／
『嗤う日本の「ナショナリズム」』	北田暁大／NHKブックス／／
『広告都市・東京』	北田暁大／廣済堂／／
『窓あるいは鏡　ネオTV的日常生活批判』	水島久光×西兼志／慶應義塾大学出版会／／

その他、講義の進行に合わせて適宜指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映画と社会（S） §　エンタテインメント論（S）

15463

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、戦後の世界の映画史に足跡を残してきた各国の映画について学ぶ。主に、日本を含むアジア各国の近代史と映画とのかかわりを踏まえながら、アジア映画の現状と課題を整理していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・映画と社会や時代との関係について学ぶ。
・アジア各国の映画について学ぶ。
・国境を越える映画について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像や映画、そして、アジアの歴史や社会に関わる他の科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	ガイダンス、イントロダクション：戦後の世界と映画の状況	第二次世界大戦 ネオリアリスモ
第2回	日本映画の50年代	第二次黄金期、5社協定、小津・黒沢・溝口
第3回	1950年代の日本における外国映画と日本映画	GHQ, ランナウェイ・プロダクション
第4回	フランスのヌーヴェルバーグとその周辺	作家主義、シネマ・ベリテ派、カイエ派
第5回	1950年代までのアメリカ社会とアメリカ映画	スタジオ・システム、パラマウント判決
第6回	アメリカン・ニューシネマからニューハリウッドへ	プロダクション・コード、レイティング・システム
第7回	1960年代と韓国黄金期	メロドラマ、家父長制
第8回	1960年代の東アジアを越境する映画	香港映画、韓国映画、インド映画
第9回	香港映画のニューウェイヴと中国返還前後	ニューウェイヴ（新浪潮）、香港返還、香港ノワール
第10回	1980年代以降の中国映画	文化大革命、第五世代
第11回	台湾ニューシネマの誕生とその後	植民地主義、戒厳令解除
第12回	1990年代以降の韓国映画	映画振興法、スクリーンクォーター
第13回	ナショナルシネマとしてのイラン映画	イスラム革命、児童映画、宗教と映画
第14回	インド映画：日本のおけるブームとその現在	ボリウッド、マサラムービー
第15回	まとめ：越境する映画	映画の越境性と土着性、社会性

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・講義で触れた映画作品などは可能な限り、各自が見ておいてほしい。
・映画産業の現状などについては、ニュースでも取り上げられることがあるので、新聞など日々意識して目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	30 %	授業中あるいは授業外に数回のエッセイを課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・映画を見るだけの講義ではないので、登録の際、よく検討してほしい。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室を考慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
天皇と接吻　～アメリカ占領下の日本映画検閲	平野共余子／草思社／／
偽りの民主主義　～GHQ・映画・歌舞伎の戦後秘史	浜野保樹／角川書店／／
男たちの絆、アジア映画	斉藤綾子編　／平凡社 ／／

中国映画　－百年を描く、百年を読む－	藤井省三／岩波書店／／
台湾映画のすべて	戸張東夫／廖金鳳／陳儒修／丸善／／
インド映画への招待状	杉本良男／青弓社／／
イタリア映画史入門1905-2003	ジャン・ピエロ・ブルネッタ(川本英明訳)／鳥影社／／
アジアのなかの日本映画	四方田犬彦／岩波書店／／

他は授業中に随時紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アメリカ映画協会　http://www.mpaa.org/
(社)日本映画製作者連盟　http://www.eiren.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映画芸術論（S） § 映像文化論（S）

12813

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義は映画鑑賞のためのものではありません。理論的講義です。どんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。キーワードは人間・虚構化・文化です。私たちが問題にするのは、私たちの外部に客観的に存在する現象としてのフィルムではなく、私たちの内部に立ち現れてくる虚構化された内的空間です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、観客の外部に客観的に存在するものではなく、観客が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。言い換えると、観客の内部に絶え間なしに立ち現れてくる映像とは、観客によって分節化される時間の密度、すなわちその時間性が観客の内部に絶え間なしに作り上げる、構造化され、時間化されていく生成の世界なのです。つまり重要なこととは、映画作家がフィルムに刻印した時間を、観客がそのフィルムを観ながら分節化する時間のあり方、すなわちその時間性こそが観客の内部に、シネマという内的虚構化空間を現前化させ、現在化させる原動力だ、という点です。一言で言えば、観客によって絶え間なく分節化され、構造化され、時間化されていく、いわゆる生成の世界としてのシネマというものを考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と虚構化と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

別にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～3	映画芸術論への導入	
4	モンタージュ論	
5	作家主義論	
6～7	タルコフスキーのショット論	
8	映画と言語論	
9～10	映画と構造論	
11～12	映画と時間論	
13	映画と解釈学	
14～15	映画と言語ゲーム論	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

映像メディア分析（S）§　メディア・リテラシー論II（G）

15426

担当者名 / Instructor　篠木 涼

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映画、テレビ、DVD、TVゲーム、メディアアート、インターネット動画など20世紀後半から映像メディアとその経験の有り様は、大きく変容してきている。19世紀末に登場した映画から、現代のコンピュータを使用したニューメディアまでの映像メディアを理解するうえで必要となるコンセプトを解説していく。

到達目標 / Attainment Objectives

現代までの変化する多様な映像メディアの状況、そしてそれが我々の経験と文化をどのようにして作りあげていくのかを理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第一回	イントロダクション	コース全体の流れと成績評価についての説明 映像メディアとその文化について
第二回	映画の世紀	アトラクション、スペクタクル、物語
第三回	テレビの登場	メディア・イベントと全体性の経験
第四回	ミュージックビデオとポストモダニズム①	ポストモダニズムとミュージックビデオ
第五回	ミュージックビデオとポストモダニズム②	MTVの登場とミュージックビデオ文化
第六回	DVDと映画経験の変容	インタラクティヴィティとコントロールの欲望
第七回	ニューメディアとデータベース①	レフ・マノヴィッチとデータベースの文化
第八回	ニューメディアとデータベース②	データベースによる物語性の変化
第九回	収束するメディア①	ヘンリー・ジェンキンスと収束する文化
第十回	収束するメディア②	デジタル革命から収束するメディアへ
第十一回	YOUTUBEと参加型文化①	YOUTUBEの登場と参加型文化
第十二回	YOUTUBEと参加型文化②	YOUTUBEと「ポピュラー」文化の二重性
第十三回	YOUTUBEと参加型文化③	YOUTUBEの参加型文化と文化の政治
第十四回	YOUTUBEと参加型文化④	YOUTUBEのグローバリゼーションとローカリゼーション
第十五回	到達度テストとコースのまとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終的な到達度テスト（70%） 小レポート（30%）

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映像論序説＜デジタル／アナログ＞を越えて	北野圭介／人文書院／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

コースツールによる。

その他 / Others

映像表現論（S）

12778

担当者名 / Instructor　増田 幸子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、映像メディアと時代とのかかわりを考えつつ、その一つである映画をとりあげる。
映画については、第七芸術と呼ばれた時代の芸術的な側面、そして商業的価値で語られるエンターテイメント性ばかりが重視されてきた。本講義では映画の110年に及ぶ歴史をさぐりながら、第二次世界大戦までの時代を中心に、そのなかで映像の表現の変化がどのように行なわれてきたのかを考えつつ、映像の社会的意味について考えるきっかけとしてもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・115年に及ぶ世界の映画の発展の歴史の外観が把握できる。
・映画を中心とする映像表現の基礎が理解できる。
・映画を時代や社会との関係から考察することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・映像をはじめとしたメディア分析に関わる科目を受講していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション：映画の歴史とは？　動く映像のはじまりから映画の誕生までの経緯と時代	リュミエール兄弟、シネマトグラフ、サイレント映画
第2回目	映像の文法1：記号としての映像	シニフィアンとシニフィエ、デノテーションとコノテーション
第3回目	映像の文法2：映画の空間と時間の統辞法	演出（ミザンセヌ）、モンタージュ
第4回目	1920年代のフランス映画：実験映画を中心とした総合芸術としての映画製作	シュルレアリスム、アバンギャルド、第七芸術論
第5回目	ドイツ表現主義と映画	ウーファ、第一次世界大戦、「カリガリからヒトラーへ」
第6回目	プロパガンダと映画1：ドイツの映画利用	第3帝国、映画法、レニ・リーフェンシュタール
第7回目	日本映画の黄金期：1930年代日本の無声映画と社会	内田土夢、傾向映画、無声映画
第8回目	プロパガンダと映画2：第二次世界大戦とハリウッド	combat film、教育映画
第9回目	プロパガンダと映画3：日本における戦時の映画利用	ニュース映画、文化映画、映画法
第10回目	プロパガンダと映画4：「満州」と映画	満州映画協会、大陸映画、李香蘭
第11回目	プロパガンダと映画5：アニメーションと笑い	アニメキャラクター、桃太郎、ミッキーマウス
第12回目	プロパガンダと映画6：植民地支配と映画　①台湾と日本	植民地主義、映画政策、現地製作映画
第13回目	プロパガンダと映画7：②朝鮮と日本	植民地主義、映画政策、国民映画
第14回目	戦時中の合作映画：日本とドイツ、日本と朝鮮	原節子、女優たちと戦争、ナショナル・シネマ
第15回目	まとめ：映像表現とは何か。禁止された映画を中心に考える。	映像表現、実験映像、フィクションとノンフィクション

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・時間の関係上、講義に関連した作品をすべて見ることは難しいので、できる限り講義で取り上げた作品を各自で見ておくこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったテーマの中から出題し、それについての知識と考えを問う。
平常点評価	50 %	授業中に受講エッセイを、授業外に小レポートを数回課す。

・定期試験と平常点を合計すると110点満点となるが、これは、課題エッセイを最大限行った場合として考え、10点はボーナス点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・随時具体的な作品を示しつつ授業を進めるが、映画が見られるという安易な考えで受講しても楽しいばかりの作品ではないので、十分に検討した後で登録することを勧める。
・遅刻には厳しく対処する。特に、他の受講生への迷惑もあり、30分を超えた遅刻の場合、入室は遠慮してほしい。
・授業開始から30分後、レジュメ等の配布を一切しないので注意すること。

教科書 / Textbooks

教科書は、特に指定しない。授業中にレジュメや資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

映画の教科書	ジェイムズ・モナコ／フィルムアート社／4845983486／映像の文法や映画の記号的性質について、参考になる。
映画映像史	出口丈人／小学館／4093874859／映像映画の歴史を概観するのに役立つ。
ワールド・シネマ・ヒストリー	アンドレア・グローネマイヤー／昇洋書房／4771015244／『映画映像史』とともに参考にすることを推奨する。
映画技法のリテラシー〈1〉〈2〉	ルイス・ジアネッティ／フィルムアート社／4845903547,4845903547／〈1〉と〈2〉合わせて読むと、より参考になる。
アメリカ映画に現れた「日本」イメージの変遷	増田幸子／大阪大学出版会／4872591771／第2次大戦とハリウッドについての部分を参考にしてほしい。
映画と「大東亜共栄圏」	岩本憲児編／森話社／4916087453／アジア諸国における植民地主義と映画の状況糊化に役立つ。

その他のものについては、随時授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Internet Movie Database(IMDb)　http://www.imdb.com/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

活字メディア論（G）

12874

担当者名 / Instructor　三谷 茂

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

活字メディアがこれまで果たしてきた社会的役割と今後の進むべき方向を探る。活字メディア（新聞・出版）の歴史と現在の状況を紹介するとともに、過去・現在の重大ニュースを通じて活字メディアの社会的役割と課題を考えていく。講師の政治・行政・司法分野を中心とした新聞記者経験を交えながら分かりやすく講義していく。

到達目標 / Attainment Objectives

民主主義社会で活字メディアが果たすべき役割をきちんと理解する。そのうえでニュースの価値や背景を自分なりに読み解く力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	活字メディア（新聞・出版）の現状	読者離れ、経営危機、出版不況、電子新聞
2	活字メディアの歴史	活版印刷、表現の自由、言論弾圧、不偏不党、民主主義、
3	他メディアとの比較	速報性、詳報性、テレビ、ネット、連携と融合
4	ジャーナリズム性	権力監視、ジャーナリスト、組織と個人、パブリック・ジャーナリズム
5	ニュースとはなんだ	価値観、伝えるべき事柄、スクープ、調査報道
6	政治報道	番記者、政治記事の作られ方、政治家の思惑、政党、民主党政権
7	選挙報道	公平・正確、公職選挙法、政局より政策、政党のメディア操作
8	官僚と政策	官僚主導、政治主導、財務省の力、予算編成、民主党政権
9	自治と地域主権	地方分権、民主主義、市町村合併、国から地域へ、地方議会、住民自治
10	事件報道	犯罪報道の意義、警察・検察・裁判所、人権尊重、匿名社会、裁判員制度
11	大災害報道	阪神・淡路大震災、報道の視点、被災者に寄り添う、減災報道
12	戦争報道	イラク戦争、ベトナム戦争、情報捜査、エンベッド方式、現地主義
13	活字メディアの怠慢	ハンセン病、らい予防法、強制隔離、憲法違反、小笠原登医師
14	メディア規制	メディアスクラム、個人情報保護法、人権擁護法案、自主規制と限界
15	活字メディアの将来	メディアリテラシー、市民主権、読者との距離、新聞・出版の大変革

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容に関連して提示するテーマについて自身の考えを記述する。考えの中身と、その内容が説得力をもってきちんと展開できているかを評価する。
平常点評価	50 %	6回目と11回目前後に、授業中に提示したテーマで小レポートを簡潔に書いてもらう。400字程度。テーマの理解度と、言いたいことが論旨明快に書いてあるか評価する。授業態度も評価対象。

小レポートがいつあってもよいように、鉛筆かシャープペン、消しゴムを持参しておくこと。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最低限、日々のニュース（国際問題、政治の動き、地元京都のタイムリーな話題まで）を新聞を読んで理解しておくこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
メディア社会の歩き方	伊藤武夫ほか／世界思想社／／
ジャーナリズムの可能性	原寿雄／岩波新書／／
新聞再生	畑仲哲雄／平凡社新書／／
実践ジャーナリスト養成講座	花田達朗ほか／平凡社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレス　leeron333jingjie@nifty.com

その他 / Others

マスコミ界に進みたい人は、いろいろ相談に乗ります。メールでも授業後でも声をかけてください。

環境ライフスタイル論（S） § 消費者環境論（S） § （副）環境と人間IV（F）

12815

担当者名 / Instructor　竹濱 朝美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ： 気候変動・環境保全と消費者

この講義では、気候変動・環境保全と消費生活とのかかわりについて、考察する。次の諸点を取り上げる。気候変動 （climate change、温暖化）が消費者の生活に及ぼす影響、温室効果ガス削減に対して消費者が果たすべき責任について考える。現代の大量消費スタイルから発生する環境負荷、食生活から発生する温暖化負荷の実態を学ぶ。危険な気候変動を緩和するためのemission pathway、温室効果ガスの削減量と削減期限、削減ペース、消費者部門における温室効果ガス削減対策を学ぶ。気候変動に関する消費者向け情報コミュニケーションについて考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・「温室効果ガス削減は、なぜ、緊急かつ大量に必要なのか」、「気候変動の影響・被害に対する対策は、なぜ、緊急に必要なのか」、「climate changeは、なぜ、消費者政策として、重要な課題なのか」を理解することが、第一の目標である。

・学生一人一人が、気候変動は自らの生活に直接かつ深刻な影響を及ぼす問題として、自分のライフスタイルを振り返る契機にする。

・climate science, 気候変動政策に関する英文の資料、英文の科学ニュースを読むことを通じて、EUで報じられる気候変動ニュースと日本のマスコミ報道の違いに気づく。

・climate change の現状、温室効果ガスの長期的影響、climate inertia に関する基礎的知識を得る。climate changeの影響、被害最小化の対応策について、基礎知識を獲得する。

・消費者部門から発生する環境負荷のついて、基礎的知識を獲得する。

・家庭部門における温室効果ガスの削減対策について、理解を深める。日本とEUにおける温室効果ガス削減策を比較し、日本の最策は、どこに問題があるのか、考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

この科目では、IPCCの第四次報告書や、EUの政策文書など、直接に、英文資料を読む。

気候変動について、より専門的に掘り下げた講義となる。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	はじめに。なぜ、気候変動が消費者政策にとって重要か。海外の気候変動ニュース.とビデオ。	気候変動と温室効果ガス削減対策、環境教育、環境社会学、消費者教育
2	気候変動の現状に関する海外DVDおよびニュース： An Inconvenient Truth、または、Global Dimming	温室効果ガス、放射強制力、climate inertia
3	IPCC第四次報告書の概略、温度上昇、海面上昇の予測	放射強制力、温室効果ガスの大気中寿命、climate inertia。海洋における熱エネルギーの蓄積。 重要なthresholds。「危険な気候変動」。2℃上昇のリスク
4	温室効果ガス排出削減パス、必要な排出削減量	温度2℃上昇、3℃上昇のリスク。温室効果ガス安定化濃度。550ppm安定化と気温上昇リスク。排出削減パス。必要な削減量とpeakingの期限。先進国と途上国の責任分担
5	京都議定書および主要国の温室効果ガス排出状況	主要国の温室効果ガス排出状況、UNFCCCの温室効果ガス排出量のデータを読む。主要国の温室効果ガス削減目標値、ポスト京都議定書をめぐる議論の要点
6	気候変動の消費者生活への影響	熱波、洪水、台風、高潮の影響。熱波マニュアルについて（イギリスの熱波警報システム（Heat-Health-Watch）、EU、オーストラリアの熱波マニュアル。どのような人がハイリスクか。洪水被害の実態ととEUにおける洪水対策。
7	消費者向け温室効果ガス削減対策、その1：	住宅における断熱性能の改善。省エネ性能住宅。
8	消費者向け温室効果ガス削減対策、その2：製品の環境ラベル	家電製品に関する省エネラベルの役割、各種の環境配慮製品の環境ラベルの制度、EUエコラベル。エコマーク、エコリーフの読み方。
9	温室効果ガス削減策としての自然エネルギーの導入の意味	風力、太陽光発電に関するEUの政策。ドイツの再生可能エネルギー政策。欧州における再生可能エネルギー産業の成長。住民による再生可能エネルギーの導入例。
10	EUにおける気候保全対策と家庭向けプログラム	EUの再生可能エネルギー目標、EUの温室効果ガス削減目標、家庭向けの削減対策、住宅の省エネ断熱性能改善の取り組み。EUの環境教育における温室効果ガス削減の教育
11	交通部門における温室効果ガス削減策。	EUにおける乗用車に対する二酸化炭素排出規制、飛行機旅行に対する規制。日本との比較。

12	食料自給率と気候変動	気候変動による農産物生産への影響。日本の食糧自給率、フードマイレージ。オーストラリアの穀物生産と旱魃の影響。
13	温暖化対策における消費者教育の重要性	消費者政策、消費者教育、温暖化に関するEUの消費者教育プログラムの検討
14	気候変動と食料政策への影響について、ニュースを読む	海外のメディアが伝える気候変動と温室効果ガス削減対策に関するニュースをよむ。授業中に、各自、最低一つは読んで、分析を行う。
15	講義を振り返り、質疑応答を行う。小レポートについて、コメントする。 家庭からの温室効果ガス削減対策について、事例を紹介する。	講義中に最終の小レポートを行う。温室効果ガス削減策と、気候変動の影響に対する適応策について講義のまとめ。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義では、主に、気候変動に関する最近の英文ニュース、資料を使用する。気候変動に関する最新の情報は、多くは、英文である。このため、授業中に配布する英文資料について、毎回、復習すること。十分な復習がなければ、授業内容を理解することは困難である。
最終講義試験では、授業中に配布した英文資料から出題する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業中の小レポート、および、最終講義における小レポートで判断する。 単位取得を希望するものは、必ず、最終の講義における小レポートを提出すること。 就職などで、提出できないものは、指定した期限内に、代わりの小レポートを提出すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業中に使用する資料の大半は、英文資料を予定している。単位修得のためには、授業中に配布する英文資料を「毎回十分に復習する」ことが不可欠である。
気候変動（climate change、または温暖化）は既にかなり進行しており、温度上昇は今世紀中、進行する。気候変動がいかに深刻化しているかについて、消費者が正確に理解すること無しには、なぜ、緊急かつ大量に、温室効果ガス削減が必要か理解することができない。温室効果ガスの削減を実行するためには、消費者が気候変動の現状について正確な知識を持つことが必要であり、climate science（気候変動科学）の基礎知識は不可欠である。講義では、climate scienceに関するサイエンス情報、およびEUの政策文書、政策ニュースを取り上げる。これらの情報はほとんど英語である。英文資料を読むことが単位取得量上、不可欠である。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
呉世煌・西村多嘉子編、『消費経済学体系・3・消費者問題』、第9章、2005年。	／慶応義塾大学出版会／ISBN 4-7664-1211-7。／第9章。竹濱朝美、「地球温暖化の影響と家庭部門における二酸化炭素削減策」、
竹濱朝美、「気候変動をめぐる消費者向け環境情報――温暖化影響および家庭部門における二酸化炭素削減策――」『立命館産業社会論集』第41巻第2号、2005年12月。	／／／
IPCC, Climate Change 2007: The Physical Science Basis, Summary for Policy Makers, contribution of working Group I to the Forth Assessment Report of the Intergovernmental panel on Climate Change.	／／／インターネットより入手可能
「環境展望」、Vol. 2、3、4、5	日本科学者会議公害問題研究会、環境展望編集会編／実教出版／／
「温室効果ガス排出削減の道すじ」「日本の科学者」2007年12月、42巻。	竹濱朝美／本の泉社／／雑誌論文

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

環境省、温暖化ホームページ（http://www.env.go.jp/earth/index.html#ondanka）
The Intergovernmental Panel on Climate Change (IPCC) （http://www.ipcc.ch）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業中に適宜、質問用紙を配布する。また、授業後、直接、担当者に、質問してください。

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15411

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。言い換えれば、本講義は、現代日本社会の再生産構造を「レジャーの政治学」として考察することでもある。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャー思想の探究①	古代ギリシアと古代ローマのレジャー思想
3	レジャー思想の探究②	中世、ルネサンス、近世のレジャー思想
4	レジャー思想の探究③	産業革命、ピューリタニズム、合理的レクリエーション
5	レジャー思想の探究④	ヴェーバー、ヴェブレン、ゾンバルト
6	レジャー思想の探究⑤	ファシズム、厚生運動、ヘゲモニー
7	レジャー思想の探究⑥	デュマズディエ、他人志向型人間（リースマン）、マクドナルド化（リッツア）
8	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
9	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
10	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現在まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
11	レジャーからワークライフバランスを考える①	ラファルグの『怠ける権利』とマルクス
12	レジャーからワークライフバランスを考える②	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
13	レジャーからワークライフバランスを考える③	オランダのワークシェアリングの検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える④	「ベーシックインカム」の検討
15	まとめ：人間の安全保障としてのレジャーとは？	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」:レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして:「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会（2001-2002)→社会経済生産性本部(2003-)／／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン［編著］／藤原書店／／
働かない:「怠けもの」と呼ばれた人たち	トム・ルッツ／青土社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

言語文化論（S） § 言語コミュニケーション論（S）

15467

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

広告論 (S)

12766

担当者名 / Instructor　小泉 秀昭

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「現代広告論」
本講義では、企業の行う広告活動を中心におき、広告および広告産業を包括的に理解することを目指す。広告の定義、機能、また広告キャンペーン立案プロセスなど幅広い内容を実際の企業のケースを通し解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

受講する学生には、市民としての広告に対するリテラシーの向上を目指す一方、実社会において広告活動に関連する場面に直面した際に十分対応のできる知識、考え方を身につけることを望む。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の進め方・広告の歴史および定義	マーケティング、宣伝
2	広告の種類と機能(社会的役割と企業のマーケティング活動としての役割)	マス4媒体、SP広告、経済・経営・社会・文化的機能、
3	広告産業とは:特に広告代理店の役割と今後の方向性	広告費、総合広告代理店、世界の代理店、クリエイティブエージェンシー
4	広告のブランド構築への役割	ブランドエクイティ、ブランド認知、知覚品質、ブランド連想、ブランドロイヤルティ
5	広告戦略立案プロセス(1)	Plan・Do・See、状況分析、SWOT分析
6	広告戦略立案プロセス(2)(ケーススタディ)	ポジショニング、ターゲティング
7	表現戦略 TVCMの制作プロセス	クリエイティブブリーフ、ストーリーボード、TVCM
8	広告効果(1)	広告調査、AIDMA、AISAS、関与
9	広告効果(2)	精緻化見込みモデル、ロシター&パーシー・ベルマン・グリッド、認知的不協和低減の理論
10	メディア戦略	メディアプランニング、ブランドコンタクトポイント「牛乳に相談だ」のケース
11	ゲストスピーカー	広告主あるいは広告会社の方
12	IMC戦略	統合型マーケティングコミュニケーション、日立マクセルのケース
13	スポーツと広告	adidasのワールドカップのケース
14	Web広告	ネット広告会社、バナー広告、行動ターゲティング広告
15	新しい広告・講義の総括	ステルスマーケティング、バイラル広告 、シームレス広告

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

配布のレジュメでの復習。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	教科書およびノートなどの持込は不可
平常点評価	40 %	不定期に授業内で課題を課す

課題はほぼ毎回行う予定のため出席が難しい学生には不向き。課題は講義の始めに行う場合、あるいは講義外で行う場合もある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

比較的な高度な広告理論の解説もあるため、しっかりとした受講態度を希望する
空欄のあるレジュメを毎回配布するため、遅刻をせず出席し空欄を埋めること。
授業外での学習を促すために、次週に提出の課題を行う場合もあるため、十分な予習・復習の時間をとれることが望ましい。

教科書 / Textbooks

特に市販のテキスト等は使用しない。オリジナルに作成した資料を使用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title　　出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

現代広告論(新版)	岸志津江、田中洋、嶋村和恵／有斐閣／4-641-12356-X／
新しい広告	嶋村和恵監修／電通／4-88553-183-7／

特になし

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

アドミュージアム東京：http://www.admt.jp/parent_J.html
全日本シーエム放送連盟：http://www.acc-cm.or.jp/
公共広告機構：http://www.ad-c.or.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPage.dowebct
質問がある場合には、基本的に直接教員にメールで行うこと(教員のアドレス：koizumi@ss.ritsumei.ac.jp)。一般的な広告理論、広告業界等に関する質問については、他学生と共有すべきと考えるため、教員のブログにて回答を行う。
http://hidekoizumi.cocolog-nifty.com/blog/

その他 / Others

特になし

産業デザイン論 (S)

12751

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業デザインを考察するうえで商業的な映像表現としてもっともポピュラーな映画を取り上げます。そして、この映画というメディアをフォーマリズムという視点から読み解いていきます。フォーマリズムは、一般的には、視覚造形作品に限定されたものの見方であるとされていますが、これを映画にも適用できることをみていきながら、広く芸術一般を「ヴィジョン」と「デザイン」の観点から考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

フォーマリズムというものの見方を取得し、このフォーマリズムの観点から現代の視覚芸術に向けられる「ヴィジョン」とそこで実現されている「デザイン」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像表現、映画を扱う科目を合わせて履修すると理解に役立つでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	産業革命、芸術、デザイン、メディアの変容
第2回	モダンデザインの展開	アカデミズム、モダニズム、デザイン工芸運動
第3回	様式論とフォーマリズム	作品、内容と形式、デザイン
第4回	リアリズムとフォーマリズム	映画理論、作品鑑賞
第5回	物語と語り口	作品、産業、物語構造、しかけ
第6回	作者とは何か	作者論、作家主義、監督
第7回	作家主義の映画批評	テーマの統一性、スタイルの統一性
第8回	作家主義の映画作品	現実と虚構、作者と創造性
第9回	映画ジャンルの成立	ジャンルの機能
第10回	メロドラマの記述と機能	メロドラマ、サブジャンル
第11回	ジャンル批評の問題点	芸術作品を社会、現代芸術とジャンル
第12回	批評の歴史	美術批評、美術ジャーナリズム
第13回	批評の役割	作り手、受けて、メディアとしての作品
第14回	評論の分析	4つの機能、4つの構成要素、評価
第15回	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の方法：毎回テキストを使用します。随時、パワーポイント、DVDを使用します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・不定期に授業内にコメントの記載を求めます。その内容や質疑などから授業に対する意欲を参照します。 ・第15回講義日に学習到達度を最終的に確認するテストを行います。

積極的な受講態度を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フィルム・スタディーズ入門―映画を学ぶ楽しみ―』	ウォーレン・バックランド／晃洋書房／4771018588／毎回使用します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎授業後、質問等を受け付けます。

その他 / Others

社会思想 (S)

15415

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題圏、はますます複雑かつ矛盾を内包する分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「環境思想」や「働く事（労働）の人間的意味」などの課題を、自由論・平等論・社会契約論など社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題に基づき、現代社会を把握する「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい思考能力・論述能力を身につけるための努力を期待する。マイナスをプラスに、ピンチをチャンスに変換するための柔軟かつ強靭な思考力の獲得を目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会（科）学の基礎理論。社会（科）学の歴史。社会理論系の科目。とくに環境論、労働論、自由論などの基礎知識。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	シラバス解説、評価方法、参考文献紹介
2	環境思想総論と基本的課題	ディープ・エコロジー・COP15
3	「自然の権利」と環境思想	「自然の権利」
4	「環境的正義」の思想	社会契約論、平等論、正義論
5	「持続可能な成長」と環境思想	持続的成長社会、「不公平・不利益をこうむるリスク」
6	「人間の安全保障」と環境思想	Human Security（HS）、自然権、生存権
7	中間まとめ　小論文　質疑・討論	小論文課題「前半の講義で最も関心を持ったテーマについて小論文にまとめなさい」、字数1200程度。文献資料等の持込可。
8	社会思想と「労働」の意味	「労働思想」「ホモ・ファーベル（工作人・制作人）」論、人間労働論の形成
9	「労働思想」の展開、「宗教と労働」	宗教における労働・職業意識
10	近代社会と「労働思想」の発展	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の形成
11	現代社会と「労働思想」の諸問題	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の再検討
12	社会思想と「自由」の諸問題	「自由」の思想史的背景
13	近代社会と「自由」	理念としての「自由」VS　現実としての「自由」（B.クローチェ）
14	近代社会と「自由」	思考としての「自由」VS　行動(実践)としての「自由」
15	現代社会と「自由」・講義まとめ	期末レポート注意事項（詳細は掲示事項を参照）「感想文・エッセイとレポート・論文との違い」を自覚して作成すること。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ（たとえばステレオタイプの実例など）についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	40 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。CPなどでの質問やコメントを歓迎します。すぐれた質問やコメントは平常点に加算します。CPは出席カードではないので、氏名以外の文章記述が無いものや、きわめて不十分なものはCPとしての平常点評価は行いません。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レ

ポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。このシラバスを熟読して欲しい。シラバスは受講生の学習･研究を支援するためのものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど文章力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境思想とはなにか	松野弘／ちくま新書／／環境思想論の基本的文献
環境思想を学ぶ人のために	加茂直樹／世界思想社／／環境思想論の解説書
緑の政治思想	ドブソン／ミネルヴァ書房／／現代的環境思想論の基本文献
ホモ・ファーベル	ティルゲル／社会評論社／／人間労働に関する文明論的な解説書
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／前書の意義についての論文を収録
近代の労働観	今村仁司／岩波新書／／近代的労働観の概説
働くことの意味	橘木俊詔／ミネルヴァ書房／／現代的労働･職業意識の考察
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	ヴェーバー／岩波文庫／／労働観・職業観についての古典的名著
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／未来社／／近代史における自由の意義を考察
19世紀ヨーロッパ史	クローチェ／創元社／／19世紀ヨーロッパにおける「自由」論の考察
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法大出版／／「思想としての自由」論の意義を考察

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。環境思想、労働観･職業観・自由論に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。CPでの質問も歓迎します。次の講義においてレプライの時間を設けます。大規模講義なので、講義内での質疑だけでは時間的な制約のため不十分なので、CPを活用して、レプライの時間を講義に組み込みます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本講義でとりあげるテーマは日本語だけでなく海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。小論文や期末レポートでの不正行為（コピペや盗作など）は、厳禁します。発覚した場合は失格とします。不十分でも自己の努力で作成してください。自力作成にはかならず達成感という喜びを実感する事ができます。

社会倫理学（S）

15366

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業を試みたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己自身の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験 ・記憶・村上春樹の文学
2	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化 、空虚化と暴力による補償的存在充実、村上春樹の文学、三島由紀夫の文学
3	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認 村上春樹の文学、三島由紀夫の文学, ジョン・レノンの歌Strowberryfield for ever
4	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊 、可能性意識の縮減と孤立感、仲間性の人間学
5	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌 Oh my love , Love	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
6	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟、ジョン・レノンの歌Mother　Help
7	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
8	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
9	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
10	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
11	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
12	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換、黒澤明作品「生きる」
13	実存と意味欲求	実存、意味、ニーチェ
14	文学と倫理　三島由紀夫と村上春樹のあいだによこたわるものとしてのニーチェ	三島由紀夫、村上春樹、ニーチェ
15	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	

平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出数 授業中に出すミニレポート課題への取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど、別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

立命館大学生協書籍部で販売

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kiyoshi@kindai.ac.jp

その他 / Others

情報経済論（S）

15332

担当者名 / Instructor　長澤 克重

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

情報ネットワークインフラの発達は、社会的コミュニケーションのあり方、経済活動、社会活動に大きな変革をもたらした。電子商取引の普及とユビキタスネットワークの形成、デジタル・コンテンツの普及により、ビジネスの方法、企業組織、流通構造、産業構造は変革を余儀なくされている。このような変革にともなって引き起こされるさまざまな問題に対する諸制度の整備、消費者の側でのリテラシー涵養も求められている。この講義では電子商取引を中心とするネットワーク経済の実態、電子商取引を支える技術的基盤の仕組み、社会制度面で必要となる環境整備の課題等について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・経済活動の情報化・ネットワーク化の実態について理解できる
・情報経済を支える技術的基盤の基本的しくみについて理解できる
・経済の情報化・ネットワーク化がもたらす社会的影響について理解できる
・情報経済化に関わる法的問題、消費者保護の基本的課題について理解できる

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション　情報ネットワーク化と経済活動	情報経済、情報化社会、ICT、ユビキタスネットワーク社会
第2回	電子商取引（EC、Electronic Commerce）とは何か	電子商取引、定義、取引主体、市場規模
第3回	企業・消費者間（BtoC）のEC(1)	ユーザー像、市場の実態、ビジネスモデル
第4回	企業・消費者間（BtoC）のEC(2)	デジタルコンテンツ市場、情報財
第5回	企業・消費者間（BtoC）のEC(3)	コンテンツ産業、ビジネスモデル
第6回	インターネット広告	ネット広告市場、ネット広告の基本類型、効果測定指標
第7回	企業間（BtoB）のEC	EDI, サプライチェーンマネジメント、e－マーケットプレース
第8回	デジタル・エコノミーと経済法則の変化	経済性、取引費用、収穫逓増
第9回	ECの技術的基盤(1)　情報処理形態と通信ネットワーク	コンピュータの発達、分散処理、通信ネットワーク、インターネット
第10回	ECの技術的基盤(2)　セキュリティ、暗号化と認証	暗号技術、デジタル署名、電子認証、電子公証、PKI
第11回	電子決済システム	電子マネー、企業ポイント
第12回	ユビキタスネットワーク（1）	ユビキタス、u-Japan政策、RFID、トレーサビリティ、トラッキング
第13回	ユビキタスネットワーク（2）	ビジネスモデル、プライバシー保護
第14回	ECに関わる犯罪・トラブルと法的規制	特定商取引法、電子契約法、消費者保護、プライバシーマーク
第15回	情報ネットワーク社会における個人情報保護	個人情報、プライバシー、OECD8原則、個人情報保護法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・理解を深めるために、参考文献（あるいは同分野の書籍）を講義の前後に読んでおくこと。
・講義の中で取り上げられた事例をインターネット上で確認してみること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	講義で取り上げた基本的な用語、概念、基本問題が正確に理解されているかを評価する。
平常点評価	30 %	講義内容に関する具体的事例を実際に自分で調査・確認してもらう。3回の提出課題を課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・新聞やWebサイトから講義に関わる内容はかなり勉強することができるので、意識的に目を通すように。
・ネットショッピングの際に、サイトの取引規約・プライバシーポリシーなど、普段あまり目を通さない所を隅々までしっかりと読んでみよう。また提供されているサービスをすみずみまで調べてみよう。これだけでもかなり勉強になる。

教科書 / Textbooks

特定の教科書は使用せず、教室で提示するスライド、授業中に配布するプリントを使用する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
eビジネスの教科書	幡鎌 博 ／創成社／4794422849／電子商取引の全体像をざっと理解するのに便利である
IT経済入門	篠崎彰彦／日本経済新聞社／4532109426／第8回目の講義内容の理解が深まる
IT革命を読み解く	岩村充／技術評論社／4774113204／内容的には古くなったがIT革命がもたらした意義についてわかりやすくまとめている
デジタルID革命	國領二郎、日経デジタルコアトレーサビリティ研究会／日本経済新聞社／4532311179／第12回・13回の講義内容の理解が深まる
インターネットと法　第4版	高橋和之，松井茂記、鈴木秀美／有斐閣／4641130639／第14、15回の講義内容の理解が深まる
モバイルバリュー・ビジネス	NTTドコモモバイル社会研究所（編）／中央経済社／4502662402／第11回の講義内容の理解が深まる

上記以外の最近出版されている参考書については授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

次世代電子商取引推進協議会　http://www.ecom.or.jp/
日本通信販売協会　http://www.jadma.org/
総務省　http://www.soumu.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

WebCT　http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

情報法（G） § 情報法（Q）

15109

担当者名 / Instructor　福島 力洋

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

高度情報通信社会において情報流通に伴って生じる様々な法的諸問題について、基本的人権としての表現の自由に関する基本的理解を踏まえつつ、現行の枠組みの意義と限界等も視野に入れながら講ずることとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

情報流通をめぐる法的問題について、説得力ある理由付けを伴って（＝単なる独りよがりではない）、自分なりの結論を下すことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

憲法（基本的人権）

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講	授業の概要説明、講義の進め方、アンケート実施	
第2講	表現の自由総論（1）	
第3講	表現の自由総論（2）	
第4講	名誉毀損	
第5講	プライバシー侵害	
第6講	個人情報保護	
第7講	人格権侵害と救済	
第8講	性表現	
第9講	放送	
第10講	インターネット	
第11講	情報媒介者の責任	
第12講	ﾒﾃﾞｨｱの融合と規制	
第13講	取材の自由（1）	
第14講	取材の自由（2）	
第15講	情報公開	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・随時提示される小括的な問いに関し、参考書指定文献等を参照しつつ、自分の言葉で説明できるようなアウトプットを行うこと
・授業中に触れる諸判例について、概要と判旨の確認、授業担当者とは違った視線からの解説に触れること

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	問題点を法的に分析し、それに対し説得力ある理由付けを伴った結論を下せているかどうか

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

新聞や雑誌、放送、インターネットなど、身の回りにあるメディアのあり方について、単なる一利用者から脱却し、一歩はなれたところから眺めてみて、「何かおかしい」と思うところを見つけてください。それが学習のスタート地点です。

教科書 / Textbooks

教科書は特定のものは指定しないが、下記参考書が準教科書としての位置づけとなる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ﾒﾃﾞｨｱ判例百選	服部政男・長谷部恭男編／有斐閣 ／464111479X ／
情報法（改正版）	宇賀克也・長谷部恭男編　／放送大学教育振興会 ／9784595126154 ／
マスメディア法入門	松井茂記　／日本評論者 ／4535513643 ／

教科書として位置づける。また「事業外学習の指示」参照

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15466

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察の眼が反映しているのか。本講義は観察者の存在を重視した17世紀オランダ絵画を出発点として、近代の自然描写を中心に社会史・思想史のコンテクストにおいて考察する。ヘダ、レンブラント、フリードリヒ、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、カンディンスキー、モンドリアン、ポロック、ボイス、リヒター、キーファー、杉本博司など17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、近代以降の観察者の立場の変容を考察し、今日の視覚文化の諸前提を問う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品の主題を読み取り、時代の思想・世界観を知る。
主観的な感情移入や解釈を排し、客観的に作品を観察する力、ひいてはイメージに対する批判的思考力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	芸術作品における観察の眼と自然観における歴史的経緯
第2回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　静物画
第3回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　肖像画
第4回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　風景画
第5回	近代の自然観	近代の風景像の概観（1） 美術史、美学における自然観―カント、アドルノ、リオタール他
第6回	近代の自然観	近代の風景像の概観（2） 美術史、美学における自然観―ベルティング、ベーメ他
第7回	近代の自然観	19世紀初期　ドイツ・ロマン主義
第8回	近代の自然観	19世紀後期　印象主義
第9回	近代の自然観	19世紀後期　ポスト印象主義
第10回	近代の自然観	19世紀末　象徴主義
第11回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第12回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第13回	近代の自然観	20世紀後期　抽象表現主義
第14回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート
第15回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

美術館、博物館などで、オリジナル作品を観察することを習慣づけ、
芸術作品を趣味ではなく、研究、調査の対象として捉えたレポートを評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
C.D.フリードリヒ：「画家のアトリエからの眺め」――視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
ドイツ・ロマン派風景画論：新しい風景画への模索	神林恒道・仲間裕子／三元社／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／
描写の芸術：一七世紀のオランダ絵画	スヴェトラーナ・アルパース著；幸福輝訳／ありな書房／／
「思想」 2009年10月号	仲間裕子他／岩波書店／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

アジア文化論 (S)

12888

担当者名 / Instructor　文 楚雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

アジアには多くの国や地域があり、様々な文化や伝統がある。また豊かな人的資源があり、潜在的な大きな経済市場もある。日本はアジアの一員である。地理的にも歴史的にも文化的にもアジアと強い絆を持っている。故に日本は大いにアジアに目を向けるべきであると思う。

本授業は、東アジアの日本、中国、韓国を中心に、アジアの文化、伝統、価値観、生活スタイルなどを比較しながら、その同質性や異質性を考えることにしたい。この授業を通じて、アジアの国々の文化に対する関心や理解を深めると同時に、日本文化に対する再認識をも深めたい。

到達目標 / Attainment Objectives

◎ 中国、韓国を中心としたアジアの国々の文化に対する理解を深めることができる。
◎ 日本文化に対する再認識を深めることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	文化とは何か。視点や方法。文化・文明の衝突	
第2回	日本人・中国人・韓国人の国民性	
第3回	儒教文化とその伝承	
第4回	言語と文化 ――日本語、中国語、英語の比較から――	
第5回	婚姻法から見た儒教文化	
第6回	文学から見た文化――平家物語を中心に――	
第7回	道教・神道・禅の文化	
第8回	日・中・韓の食文化とマナー	
第9回	日・中・韓の住まい文化	
第10回	アジアの仏教文化	
第11回	本学の留学生との討論と交流	
第12回	金閣寺と銀閣寺	
第13回	お祭りの文化	
第14回	スポーツの文化	
第15回	日・中・韓文化の特徴	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末試験に代わる最終レポートは60%なので、提出しなければならない。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)
平常点評価	40 %	日常的な取り組みや出席40%。 (期末試験に変わる最終レポートや出席などの平常点を総合して判断する。)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

プリント教材。授業時随時配布。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『現代中国の生活変動』	飯田哲也編 ／時潮社／／
『韓国人の心』	李御／ 学生社／／
『日本人・中国人・韓国人』	金文学／白帝社／／

現代中国、韓国を知るには大変役に立つ。教科書並みの参考書となる。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室：　尚学館3F　3850号室
電　話：　直通075－466－3132　内線3850
メール：　wen-chux@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

スポーツメディア論（S）

12931

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、スポーツイベントとメディアがどのような関係にあるのか，スポーツ番組がどのように構成されているのか，視聴者や読者がどの様な状況に置かれているのかといった問題を，スポーツ文化それ自体の特性（メディア性）をふまえて考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・メディアスポーツの構造と機能について理解し，説明できるようにする。
・メディアスポーツ視聴者の楽しみがいかなるものか理解し，説明できるようにする。
・スポーツの意味や価値が自明のものではなく，様々な力関係もとで，一定の仕掛けを経て創り出されていることを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/研究の領域と課題(1)	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/講義の枠組み，スポーツとメディア
2	研究の領域と課題(2)	メディアスポーツとは何か
3	メディアスポーツの構造と機能(1)	映像の構成原理を考える
4	メディアスポーツの構造と機能(2)	スポーツ番組のプロデュース
5	メディアスポーツの構造と機能(3)	その生産・流通・消費の過程
6	メディアスポーツの構造と機能(4)	プレビュー番組とは何か
7	メディアスポーツの構造と機能(5)	プレビュー番組の構造と役割
8	メディアがつくる物語（1）	問題の提示と修正について
9	メディアがつくる物語(2)	補強と脚色について
10	メディアスポーツとその消費者	「利用と満足」研究とスポーツ視聴の「多様性」
11	メディアイベント論とスポーツ(1)	メディアイベントとは何か
12	メディアイベント論とスポーツ(2)	新聞の企業化と学生野球の言説，劇場化
13	メディアイベント論とスポーツ(3)	武道の近代化・合理化，社会的意味の創造におけるメディアの役割
14	文化装置としてのスポーツ	メディアによる分節・接合
15	文化装置としてのスポーツ	作り手の意図と読み手の多様性，エンコーディング―ディコーディング・モデル

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で行う。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	現象や構造の理解および問題の把握，そしてそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
近代日本のメディア・イベント	津金澤聰廣 ／同文舘 ／ISBN4-495-86281-2 ／メディアイベント論に関わって参考にされたい。

越境するスポーツ	高津勝・尾崎正峰／創文企画 ／ISBN4-921164-41-X C3075／「第２章　メディアスポーツ」を参照されたい。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業の中で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

受講を検討する際に，本講義が，実学的なメディア制作現場のハウ・トゥものでないことに十分注意してもらいたい。内容は現状に対して批判的なものである。また，他学部受講を考えている学生は，本講義が産業社会学部の専門科目であることを十分考慮に入れる必要があり，単にスポーツに関心があるという理由で受講すべき科目ではない。

スポーツ規範論 (S)

15407

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

【スポーツの構造と規範】スポーツ文化論で解明した問題の所在をふまえて、文化様式としての内容・構成要素を分析する。スポーツが単なる日常の身体活動と異なる最大の理由は、それ が“ルール”によって設定された虚構空間としての特殊な意味活動であるからである。では、スポーツ・ルールはどのような意味を持つのか、それはどんな原則から 成り立つのか、変化は何故、起こるのかについて、解明する。第二に、スポーツはーつのシンボルであり、メッセージである。それはどんな意味と理念をもつもの なのか、を解明することを通じて、“ルール”に隠された規範のあり方を解明する。そして、そのことを通じてプロとアマ、エリートとマスに分裂した多元的スポーツ観を問い直し、スポーツ競技の意味と評価のあり方を展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

スポーツにルールがあることは、だれもが知っている。しかし、ルールの原則と意味を理解しているものは少ない。スポーツのビジネス化の中で、変貌を遂げて いる現代スポーツをルールに焦点をあて、スポーツ精神のありようを吟味する。したがって、ルールの原則にかかわる基礎的知識を理解し、スポーツ精神に込められた規範を捉え直す論理力を身につけるとともに、現代スポーツの深部を洞察する力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「スポーツ文化論」を基本に、「余暇の社会史」「スポーツ史」「スポーツ社会学」「比較スポーツ論」を履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	(序)スポーツ・ルールの意味	(1)時事問題からルールを探る (2)ルールの意味空間と技の構成:Wrestring/角力/相撲
第2週	第1章 2つのルール	(1)慣習からの明文化 (2)ルールの性質: 明示性と暗示性
第3週	第2章 明示的ルール	(1)明示的ルールの5つの原則
第4週	第2章 明示的ルール	同上
第5週	第2章 明示的ルール	(2)明示的ルールの性格と役割:不変性と可変性 (3)明示的ルールの構成
第6週	第2章 明示的ルール	(4)ルールの変化と要件: 変化の8要因
第7週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(1)明示的ルールを支えるモラル
第8週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(2)「禁止されていない」プレイと「許されない」プレイの逆進性
第9週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(3)スポーツマンの行動綱領:スポーツマンシップとフェアプレイ:「 競うことの正義」
第10週	第3章 ルールの暗示性とスポーツ規範	(4)日本的スポーツ精神と武士道的倫理 (5)欧州会議「フェアプレイ宣言」
第11週	第4章 現代スポーツモラルの動揺とドーピング問題	(1)ドーピング問題の社会的基盤
第12週	第4章現代スポーツ規範の動揺とドーピング問題	(2)ドーピングの禁止根拠とスポーツモラル:生命の自己決定権と普遍的人間性
第13週	第5章 スポーツの競争と交流	(1)競争的序列と結果主義:優勝劣敗主義は必然化？
第14週	第5章 スポーツの競争と交流	第5章 『競い合い』方の美学
第15週	第5章 スポーツの競争と交流	(3)スポーツの価値と観賞 (4)虚構の中の真実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミから流れるスポーツ情報に鋭く反応し、その言説の深部を探り当てるように感性を研ぎ澄ますこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	スポーツの「ルール」とモラルの基本を理解し、現実を洞察する論理力。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ知識は『常識』のようであるが、その『常識』を疑うことから始めること。『ルール』を覚え、守るのではなく、考え、変えていく立場で現実を見据えること。

教科書 / Textbooks

「スポーツ規範論」(文理閣)を出版予定。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代　下巻	草深直臣他編著／青木書店／／
スポーツ・ルールの社会学	中村敏雄 ／有斐閣 ／／
スポーツのモラル	J.フィレーリー ／不昧堂／／
スポーツ倫理学講義	川谷茂樹／ナカニシヤ出版／／
スポーツ･ルールの論理	守能信次／大修館／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1）解らないことはその場で質問すること。“解った気”にならないこと。

スポーツ産業論 (S)

15358

担当者名 / Instructor　川口 晋一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

全体を通して「スポーツ産業」とは何か，それはどうあるべきかという問いを国民生活の観点から投げかける。具体的には，1980年代から1990年代にかけて，当時の通産省を中心にそれが奨励されたのはなぜか，そこで提示されたプランの何がどう問題でなぜ失敗したのかなどについて考える。さらに，市場を優先させたスポーツ・ビジネスを批判する立場から，日本の労働生活と余暇生活，地域経済と国土開発といったスポーツ産業が成り立つ基盤を重視してスポーツの発展を展望していく。

到達目標 / Attainment Objectives

・通商産業省のスポーツ産業政策の意味や位置づけを理解し，その問題を説明できるようにする。
・戦後日本の余暇と労働の関係について理解し，スポーツ・レジャーの状況について説明できるようにする。
・日本の国土開発計画と国民の生活の関係について理解し，レジャー・スポーツ生活の問題点について説明できるようにする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入/スポーツ産業を考える視点	授業の到達目標，進め方，成績評価方法等/日本のスポーツ政策:文部省と通産省
2	通産省のスポーツ産業政策(1)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の理念と役割
3	通産省のスポーツ産業政策(2)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業の現状と課題
4	通産省のスポーツ産業政策(3)	『スポーツビジョン21』スポーツ産業振興の基本指針
5	戦後日本のレジャー・スポーツ(1)	高度成長経済，「消費革命」「自由時間」，娯楽・スポーツの組織化
6	戦後日本のレジャー・スポーツ(2)	産業立地政策と国民の余暇・スポーツ
7	戦後日本のレジャー・スポーツ(3)	内需拡大政策とスポーツ産業の展開
8	戦後日本のレジャー・スポーツ(4)	「企業社会」における自由時間の分断と消費的レジャー・スポーツ
9	戦後日本のレジャー・スポーツ(5)	長時間・過密労働，過労死問題と余暇・スポーツ産業
10	国土開発・地域経済とスポーツイベント(1)	長野オリンピック
11	国土開発・地域経済とスポーツイベント(2)	大阪五輪招致
12	国土開発・地域経済とスポーツイベント(3)	大阪市のスポーツ
13	経済とスポーツ政策(1)	外国の事例，戦後ドイツのスポーツ政策
14	経済とスポーツ政策(2)	外国の事例，ドイツにおける消費経済の進行とスポーツ・クラブの変容
15	経済とスポーツ政策(3)	グローバル化時代と公共スポーツの破壊・スポーツ産業

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業内で指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	講義で提示した内容の理解とそれを説明する力の検証。
平常点評価	20 %	毎回，簡単な授業内小レポート課題/コメントシートの提出で出席をカウントする。そして，10回以上の出席をもって成績評価の対象とする。ただし，40分以上の遅刻は出席と見なさない。特別な事情による欠席は課題レポートの提出によって穴埋めをすることができる。穴埋めを含めても出席の回数が10回に充たない者は期末試験を受験しても評価がなされない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

文献などによって課題を整理することが難しい講義といえる。授業に出席して話を聞き，自らのノートを作成することが最も重要である。さらに「到達目標」を軸に自分のイメージを鮮明にしていくことが求められる。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツビジョン21―スポーツ産業研究会報告書―	通商産業省産業政策局編　／(財)通商産業調査会 ／ISBN4-8065-2360-7 ／内容を批判的に分析する。
企業社会と余暇	桝潟俊子／学陽書房 ／ISBN4-313-81401-9 ／戦後日本の余暇と労働の状況を紹介するために使う。

参考書は，私が講義をする上で参考にするものであり，受講者にとっては講義の内容を確認したり，より深く，また広く学習する上で役立てることができるものである。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

必要に応じて授業内で紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ社会学 (S)

12809

担当者名 / Instructor　山下 高行

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「スポーツを社会学する」とはどのようなことだろうか。そうすることで何が見えてくるのだろうか。このような問いに答えるため、本講義では、これまで研究されてきたスポーツ社会学の代表的な研究や理論の紹介を行い、社会学の視角を入れることで、何が、どのように見えてくるのかを示すことにしたい。
またこの講義では、同時に、今日のスポーツをスポーツ社会学ではどのように捉え、何を問題として見ようとしているのかについても示していくこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

・スポーツを社会学的に見るとはどのようなことか、そのことによって得られる新しいスポーツに対する見　方とはどのようなものなのかを理解することを目的とします。

・現代のスポーツの問題を、各自が「社会的文脈」と関連づけてとらえることができるようになることをこ　の講義の最終的な目的とします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

・スポーツ社会学は文字通り「社会学」の一つです。従って、社会学の基礎理論的科目をあらかじめ、また　は並行して受講することで理解が深まります。受講している他の科目すべてを相互に関連づけて、有機的　に学んでください。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	スポーツ社会学とは;歴史と研究状況	ISSA、日本スポーツ社会学会,スポーツの社会評論との違い
2	スポーツ・バーナウトの構造	バーナウト、ドロップアウト、トランスファー
3	役割期待のアンヴィバレンス	組織、地位、役割
4	組織構造とパフォーマンス	P機能、M機能、権限構造
5	小集団の凝集性	ソシオメトリー、FIRO-B
6	「日本的」スポーツ組織の構造	属性原理、業績原理、擬制家制度
7	スポーツ社会学の代表的理論(1)ブルデユーとフランススポーツ社会学	スポーツの選択原理、階級、ハビトゥス
8	スポーツ社会学の代表的理論(2)スポーツの場の理論と日本のスポーツの変容	スポーツの場、状況の「反転」
9	スポーツ社会学の代表的理論(3)カルチュラル･スタディズと英国スポーツ社会学	権力、ジェンダー、階級、表象分析
10	スポーツ社会学の代表的理論(4)ナショナリズムとスポーツ	スペクタクル、モニュメント、象徴
11	スポーツ社会学の代表的理論(5)エリアス「文明化の過程」とスポーツ	近代文化、近代スポーツ、情動の制御
12	スポーツ社会学の代表的理論(6)グローバルスポーツの展開	スポーツ=メディアコンプレックス、スポーツ移民、スポーツ商品
13	日本社会の変容とスポーツ(1)スポーツの産業化と社会的基盤の変化	企業スポーツ、第二臨調・行革、プラザ合意、スポーツビジネス
14	日本社会の変容とスポーツ(2)スポーツの場の反転	Jリーグ、サポーター、地域
15	まとめ:スポーツの新しい可能性と主体	新しい社会運動、スポーツNPO

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

可能な限り身近な問題から説明し、徐々にマクロなな構造的問題に敷衍していくこととしたい。社会評論ではなく、あくまで社会学であるので、個々の授業では前半は理論的枠組みの説明になる。従って理解を円滑にすすめるため、可能な限り当該領域の理論の予習をされることを望

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	1. 授業内容の理解度(概念の正しい理解が主となる)。2. 自身の問題設定の仕方。

ゲストスピーカーを招き授業時にレポートを課す場合がある。その場合は原則としてレポートを加点として取り扱う。その旨事前に授業時にアナウンスする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会学理論を多用し、その応用的展開という性格を持つので、3回生以上の受講が望ましい。2回生が受講する場合は基礎的な社会学の概念や理論についての理解を独自にすすめておくこと。
日本スポーツ社会学会の学会誌『スポーツ社会学研究』が図書館に入っているので、各号の興味のある論文を読むことをお勧めします。スポー

ツの柔らかい評論ものではなくて、スポーツをアカデミックに社会学するとはどのようなものか理解できると思います。

教科書 / Textbooks

特に使わない。授業時のみレジュメを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツ・レジャー社会学	D. ジェリー、清野正義他編／道和書院／4-8105-4008-1／理論部分の予習用
変容する現代社会とスポーツ	日本スポーツ社会学会編／世界思想社／4-7907-0723-7／現代スポーツの変化について
近代ヨーロッパの探求8、スポーツ	有賀郁敏他著／ミネルヴァ書房／4-623-03509-3／近代スポーツ史、グローバリゼーションの理解に
新しい体育・スポーツ社会学をめざして	体育・スポーツ社会学研究会／道和書院／4-8105-2020-X／体育・スポーツ社会学の到達点を理解するために
スポーツ・権力・文化	ジョン・ハーグリーヴズ／不昧堂／4-8293-0267-4／カルチュラススタディズのスポーツ論
スポーツと文明化	エリアス、ダニング／法政大学出版／4-588-00492-1／エリアス学派のスポーツ論
現代に生きる遊牧民	アルベルト・メルッチ／岩波書店／4-00-000644-4／スポーツボランティアの可能性を考える
スポーツ社会学研究（各巻）	日本スポーツ社会学会／創文企画／4-921164-90-4／1巻から13巻までは法政大学出版

その他適宜授業中に指示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jsss.jp/ （日本スポーツ社会学会HP）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

スポーツ文化論 (S)

12740

担当者名 / Instructor　草深 直臣

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

2005年は、国連の「体育・スポーツ国際年」であった。スポーツは単なる身体運動として存在するのではなく、人間の創り上げた文化様式として、また国境を越える世界文化として益々注目されている。そのために、学生諸君が持っているスポーツの固定観念をうち破り、スポーツ概念を歴史的に辿どりながら、その社会的背景を捉えることを重視する。更に、その概念から構想されるスポーツ機構（Institution）の意味と問題点に焦点を当て、スポーツ文化を社会的・構造的に把握し、その構成要素と基本的枠組みを提示し、スポーツ諸科学との関係を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

多くの人が経験的に持つスポーツ観念を打ち破り、スポーツを文化として成り立たせている要素を摘出し、人間－スポーツ－社会の枠組みでスポーツの総体を把握する方法論の基礎を身につける。概念史、理論史を踏まえることによって、現代スポーツの諸問題にアポローチする方法を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

教養科目「スポーツと現代社会」「スポーツの歴史と発展」、および入門科目「現代とスポーツ」を事前に履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1週	序章：1節 「体験としてのスポーツ」からの脱却	意識・感覚言語とスポーツ用語　体験の対象化
第2週	序章：2節　グローバリゼーションとスポーツ	世界文化としてのスポーツ　スポーツのローカリズム 世界同時不況の中でなにが起こったか？
第3週	Ⅰ章　スポーツ概念の変遷	（1）スポーツの語源 (2)英語圏
第4週	（3）ドイツ語圏・フランス語圏、中国語圏と日本語圏	（4）スポーツ概念の特徴：行為本性説と目的価値的規定。(5)スポーツの外延と内包
第5週	Ⅱ章　スポーツ機構説の土台	(1)競技志向とプレイへの注目(2)ホイジンガ”ホモ・ルーデンス”、(3)カイヨワ”2極4領域”説
第6週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(1)ロイのカイヨワ批判　(2)スポーツの多層的把握
第7週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(3)機構化の指標：a)組織　b)技術　c）シンボル　d）教育
第8週	Ⅲ章　スポーツ機構説の確立	(4)社会機構としてのスポーツ　：a)プレイヤーノットコントロール（Edward）b)管轄機構の支配力　c）機構の問題点
第9週	(5)社会状況としてのスポーツ	(6)ロイ「スポーツ機構」説の特徴と問題点
第10週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開	(1)佐伯「スポーツ体系説」
第11週	Ⅳ章　スポーツ機構説の展開と問題点	(2)多々納「スポーツ・シンボル」説　(3)構造－機能主義の問題点
第12週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(1)プレイ論の主観主義　（2）客観的実在としてのスポーツ
第13週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(3)草深「2層3領域」説の提示　(4)スポーツを『動かしている』力：機構の主導性
第14週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(5)ガッツマンの【近代化の指標】の再検討 (6)競技と交流：結果と過程
第15週	Ⅴ章　スポーツの構造的把握にむけて	(7)応援と観賞 (8)批評　(9)マネッジメント

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

マスコミにおけるスポーツ言説に惑わされずに、人間にとってスポーツとは何か、スポーツ現象を支える社会機構を見抜くように、リテラシー感覚を磨くこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基礎的知識の理解、理論的展開の総合的把握、現実の論理的分析力

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

スポーツ･ゲームを体験的、固定的に理解せず、社会的影響によって変化･変質する文化構造を多角的に捉える観点に注視して欲しい。出欠は取らないが、出席しないと理解できないし、高回生配当科目の位置づけも明確にならない。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
スポーツの自由と現代、上下	伊藤高弘・草深直臣他編／青木書店／／
スポーツの概念	体育原理分科会編／不昧堂／／
スポーツ文化を学ぶために	スポーツ社会学会編／世界思想社 ／／
スポーツと文化帝国	A.ガッツマン／平凡社／／
近代スポーツ論	西山孝夫／世界思想社／／

その他、参考文献は各章毎にレジュメに明記する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

1） 解らないことは、できる限りその場で質問すること。
2） ﾚｼﾞｭﾒは区切りの良い章、または節ごとに、教室でのみ配布する。ﾚｼﾞｭﾒ配布は予告する。

演劇論 (S)

15379

担当者名 / Instructor　池内 靖子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

演劇というメディアは、劇場、舞台空間のデザイン、衣装、メイク、照明、演出、演技、台本といった多様な要素を含む、ライブの総合芸術である。講義では、演劇の魅力について、学際的な知の枠組み、演劇的なパラダイムから、近代演劇の誕生とともに,60年代～70年代のアングラ小劇場運動に焦点を当て、同時に広く現代のパフォーマンス・アートを含めて考察する。とりわけ、パフォーマンスとジェンダーの交差について重点的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

演劇的な知、パラダイム、理論的な枠組みについて学ぶと同時に、地域や都市の演劇空間、個別の演劇・パフォーマンスの表現について調べ、考察する。とりわけ、ジェンダーとパフォーマンスの交差に焦点を当て、考察を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス、都市・地域と劇場	シアター・オリンピックス
2	国民国家と演劇	近代演劇と女優の誕生
3	帝国のロマンスI	オリエンタリズムー『マダム・バタフライ』『M.バタフライ』
4	帝国のロマンスII	オリエンタリズムと植民地言説、『ミス・サイゴン』
5	宝塚歌劇 I	男役と娘役、ジェンダー／セクシュアリティの構築
6	宝塚歌劇 II	ファンは何を求めているのか
7	60～70年代のアングラ小劇場運動 I	鈴木忠志、唐十郎、佐藤信、寺山修司
8	60～70年代のアングラ小劇場運動 II	寺山修司と岸田理生の「身毒丸」
9	舞踏の身体	土方巽、肉体の反乱
10	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 I	金満里の劇団「態変」
11	オルタナティヴな演劇空間と身体表現 II	ニューヨークのコミュニティ・シアター
12	アート・アクテイヴィズム／言説と身体	ダム・タイプ、異性装／越境について
13	ダンスとシアターの間	ピナ・バウシュのコリオグラフィー
14	90年代の日本の現代演劇から	萩尾望都の漫画「半神」と野田秀樹の舞台化
15	パフォーマンス・アート／言語・映像・身体	テレサ・ハッキョン・チャのテクスト『ディクテ』の舞台化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	劇場フィールドワークの(グループ)レポートと試験に代わる最終(個人)レポートを課す。
平常点評価	40 %	ビデオの感想を書き、グループでの議論に参加すること。

レポート課題は2つ実施する。1つは、個人あるいはグループで、地域と劇場についてフィールドワークした調査結果についてまとめる。2つ目は、試験に代わる最終レポート(個人課題)として、受講して興味を持ったテーマを自由に設定し、考察したことをまとめる。
※日常点評価40%
ビデオを資料として使うので、それを見た後、感想を書いたり、適宜グループ・デイスカッションに積極的に参加する(日常点を加味する)。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

演劇に関する広い興味、関心をもち、それが私たちが生きる社会にとってどういう意味をもっているかについて考えること。劇場と地域の関係についてフィールドワークを行う。講義では、グループ・ディスカッションに積極的に参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、主として、参考書に上げた『女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー』に基づいて講義をするので、重要文献として参照してほしい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
女優の誕生と終焉ーパフォーマンスとジェンダー	池内靖子／平凡社／978-4-582-47231-8 ／

踊る帝国主義　宝塚をめぐるセクシュアルポリティクスと大衆文化	ジェニファー・ロバートソン ／現代書館／4768467733／
宝塚というユートピア	川崎賢子／岩波書店 ／978-4-00-430940-6 ／
迷路と死海	寺山修司 ／白水社／978-4-560-03254-1 ／
異郷の身体ーテレサ・ハッキョン・チャをめぐって	池内靖子/西成彦・編 ／人文書院 ／4-409-04078-2 ／

その他、参考文献については、授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

現代余暇論（S） § 余暇論（S）

15411

担当者名 / Instructor　市井 吉興

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

最近の国内経済、世界経済の現状は、私たちに「レジャー・余暇どころではない」といった風潮をもたらしているのではないだろうか。しかし、本講義の目的は、そのような風潮に逆らって「レジャー・余暇」から私たちの生活構造を再構成する糸口を探る試みにある。そのためにも、本講義は、レジャーを介して展開されてきた社会統合様式に焦点を当て、その政治的・思想的コンテクストを理論的に掘り下げることに力点を置くこととする。言い換えれば、本講義は、現代日本社会の再生産構造を「レジャーの政治学」として考察することでもある。

到達目標 / Attainment Objectives

レジャーを政策的、思想的、政治的な視点から考察し、受講生がレジャーを「社会的文脈」と関連づけて理解することを目指す。また、レジャーを「人間的自由の獲得」という視点から考察を試み、レジャーを介した豊かな社会構想の糸口を探る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス	今後の講義のアウトラインの提示と成績評価方法の確認。
2	レジャー思想の探究①	古代ギリシアと古代ローマのレジャー思想
3	レジャー思想の探究②	中世、ルネサンス、近世のレジャー思想
4	レジャー思想の探究③	産業革命、ピューリタニズム、合理的レクリエーション
5	レジャー思想の探究④	ヴェーバー、ヴェブレン、ゾンバルト
6	レジャー思想の探究⑤	ファシズム、厚生運動、ヘゲモニー
7	レジャー思想の探究⑥	デュマズディエ、他人志向型人間（リースマン）、マクドナルド化（リッツア）
8	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策①：戦後から1970年年代初頭まで	福祉国家体制、高度経済成長、日本型雇用慣行、レジャーブーム
9	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策②：1970年代中頃から1990年代初頭（バブル崩壊）まで	低成長、日本型福祉社会論、前川リポート、4全総、リゾート法
10	現代日本社会の再生産構造とレジャー政策③：1990年代中頃（バブル崩壊後）から現在まで	平成不況、社会福祉基礎構造改革、新自由主義、日本型雇用の再編、グローバリゼーション
11	レジャーからワークライフバランスを考える①	ラファルグの『怠ける権利』とマルクス
12	レジャーからワークライフバランスを考える②	各国のワークライフバランスに向けた取組を検討
13	レジャーからワークライフバランスを考える③	オランダのワークシェアリングの検討
14	レジャーからワークライフバランスを考える④	「ベーシックインカム」の検討
15	まとめ：人間の安全保障としてのレジャーとは？	これまでの議論を整理し、レジャーを介した豊かな社会構想に向けた試論を提示したい。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。
平常点評価	40 %	感想文やミニ・レポートの提出（予定として6～7回の提出）を求める。4回以上提出していない場合には、評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。

受講者数によって変更の可能性はあるが、平常点（40%）と定期試験（60%）にする予定である。本講義は、講師からの一方通行型の講義ではなく、双方向型を機軸に、講義テーマをともに考えてゆけるようにしたいので、受講生から感想文やミニ・レポートの提出を求めるたい（予定として6～7回の提出）。4回以上提出していない場合には、自動的に評価の対象から外す＝自動的にF評価となる。受講者の意見については講義内でフィードバックする。なお、ミニ・レポートには小テスト的な要素も含まれているので、遅刻・雑談をすると不利な状況になることを心されたい（講義終了時に回収。後日受理不可）。提出したミニ・レポートは返却されないので、各自が責任をもってミニ・レポートの提出回数を把握しておくこと。定期試験については選択式論述問題を予定している。定期試験評価の基準は、講義で学んだ内容から自分の問題意識を発展させた答案を高く評価したい。つまり、単なる専門知識の修得度よりも各自の問題意識の向上度を総合評価の基準としたい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特定のテキストを用いず、講義ごとにレジュメと資料を配付し、それを用いて講義を行う。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
論文 戦後日本の社会統合と「レジャー」:レジャー政策から自由時間政策への転換とその意	市井吉興／立命館大学産業社会学会『立命館産業社会論集』第42巻 第3号（2006年）／／
論文 人間の安全保障としての「レジャー」をめざして:「新自由主義型自由時間政策批判」序説	市井吉興／唯物論研究協会編『唯物論研究年誌』第12号（2007年）／／
レジャー白書	余暇開発センター→自由時間デザイン協会（2001-2002)→社会経済生産性本部(2003-)／／／
レジャーの誕生	アラン・コルバン［編著］／藤原書店／／
働かない:「怠けもの」と呼ばれた人たち	トム・ルッツ／青土社／／

他の文献については適宜紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

①ミニ・レポートの提出回数および配布資料の入手については各自で管理をすること。問い合わせには応じない。
②毎回配布済みのレジメを持参すること。
③QRコードシールを必ず持参すること。シールがないミニレポートは減点。
④やむをえない用事で欠席する場合には、証明書（来社証明書など）付の文書を提出すること。A4用紙に、提出日、学部、学籍番号、回生、氏名、科目名、欠席日、欠席理由を記入のうえ、証明書添付。

言語表現論（S）

12757

担当者名 / Instructor　橋本 正志

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

文学（作品）は、人間の内面の葛藤が時代や社会のさまざまな断面・現象を踏まえて描かれている。本科目は、作品鑑賞を中心に、とりわけ個々の作品の〈表現〉に注目し、そのあり方を解明することを目標とする。すでに読んだことのある作品でも、それぞれの作品の〈表現〉の方法、特質などを意識して読み解いていくと、新たな一面が発見できるはずである。できるだけ主要な作品を取り上げることで、日本近現代文学の基本的な流れも理解できるように留意したい。

到達目標 / Attainment Objectives

1.作品を読解し、作品の主題を考察することができる。
2.作品の〈表現〉に着目し、その方法や特質を把握することができる。
3.日本近現代文学史の基本的事項を理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	導入　文学と〈表現〉について	授業の概要、進め方、評価方法などの説明
第2回	明治の文学（1）	福沢諭吉『学問ノスヽメ』（明5～9）
第3回	明治の文学（2）	坪内逍遙『小説神髄』（明18～19）
第4回	明治の文学（3）	二葉亭四迷『浮雲』（明20～22）、国木田独歩『武蔵野』（明34）
第5回	明治の文学（4）	国木田独歩「画の悲み」（明35）、石川啄木「性急な思想」（明43）
第6回	大正の文学（1）	志賀直哉「清兵衛と瓢箪」（大2）
第7回	大正の文学（2）	夏目漱石『こゝろ』（大3）①
第8回	大正の文学（3）	夏目漱石『こゝろ』（大3）②
第9回	大正の文学（4）	横光利一「頭ならびに腹」（大13）、川端康成「伊豆の踊子」（大15）
第10回	昭和の文学（1）	芥川龍之介「蜃気楼」（昭2）、小林多喜二「蟹工船」（昭4）
第11回	昭和の文学（2）	中島敦「山月記」（昭17）
第12回	昭和の文学（3）	中島敦「名人伝」（昭17）
第13回	昭和の文学（4）	大江健三郎『死者の奢り』（昭32）、開高健『ベトナム戦記』（昭40）
第14回	昭和の文学（5）	村上春樹「中国行きのスロウ・ボート」（昭55）
第15回	総括　作品の〈表現〉と時代社会	目標到達度の確認と今後の課題

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	論述形式で行う。持ち込み可。授業で取り上げた各作品に関するキーワードを提示するので、それらを適切に用いて自らの意見を独創的かつ論理的に展開できたかどうかを評価する。
平常点評価	20 %	随時、その授業の内容に関する小レポートを課す。時間内に取り組み、提出を求める。独創性や理解度に応じて3段階で評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

この授業は取り上げる作品の〈表現〉のあり方を受講者が主体的に浮かび上がらせていく作業の時間でもある。受け身にならず、自ら考えて取り組む姿勢が重要である。

教科書 / Textbooks

教科書は指定しない。毎回資料を配付する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『明治文学史』	上田博・瀧本和成編／晃洋書房／4-7710-1060-9 C3091／1998年11月刊
『大正文学史』	上田博・瀧本和成ほか編／晃洋書房／4-7710-1303-9 C3091／2001年11月刊

『ひたむきな人々――近代小説の情熱家たち』　木田隆文・田村修一・外村彰・橋本正志編／龜鳴屋／978-4-9902714-04-0／2009年4月刊

その他は授業中に紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

近代デジタルライブラリー（国立国会図書館）
http://kindai.ndl.go.jp/index.html

NDL-OPAC 雑誌記事索引検索（国立国会図書館）
http://opac.ndl.go.jp/index.html

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールを利用してください。
mht26148@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

言語文化論（S） § 言語コミュニケーション論（S）

15467

担当者名 / Instructor　久津内 一雄

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義でどんなことを勉強するかと言うと、次のようにまとめることができます。ことばとは、人間のコミュニケーションの単なるツールではなく、誕生から死に至るまで人間は、ことばによる分節化を繰り返しながら、フランスの思想家のラカンが言う「想像界」と「象徴界」という虚構化された世界を絶えず生成しているという点です。つまり、現代科学で「環境世界」とか「生活世界」とか言われているこうした世界は、人間の外部に客観的に存在するものではなく、人間が存在して初めて姿を見せる後験的な世界なのです。そしてこうした世界は、人間の身体＝欲望との相関性によって絶え間なく構造化されていく、いわゆる生成の世界だという点です。従って、ハイデガーとともに現代思想の双璧をなすヴィトゲンシュタインが言う「言語ゲーム」とは、人間の欲望の展開であり、その意味では、円環的な人間の生そのものです。こうした人間の生の根幹に関わることばの世界を考えていきたいのです。

到達目標 / Attainment Objectives

到達目標を一言で言えば、人間と言語と文化の相関性の仮説にたつ現代思想の神髄に迫ることです。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1～6	近代言語学の成立とその背景 ソシュール	
7～9	言語相対主義の潮流 フンボルトに始まる言語相対論、サピア・ウォーフ仮説、ドイツ意味論学派	
10	言語理論の記号学的展開 レヴィ＝ストロース	
11～12	言語理論の記号学的展開 ラカンの欲望論	
13～14	言語理論の言語使用論的展開 ヴィトゲンシュタイン言語ゲーム論	
15	言語と現代思想の問題〈まとめ〉	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

テキストを配布します。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

産業デザイン論 (S)

12751

担当者名 / Instructor　要 真理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

産業デザインを考察するうえで商業的な映像表現としてもっともポピュラーな映画を取り上げます。そして、この映画というメディアをフォーマリズムという視点から読み解いていきます。フォーマリズムは、一般的には、視覚造形作品に限定されたものの見方であるとされていますが、これを映画にも適用できることをみていきながら、広く芸術一般を「ヴィジョン」と「デザイン」の観点から考察します。

到達目標 / Attainment Objectives

フォーマリズムというものの見方を取得し、このフォーマリズムの観点から現代の視覚芸術に向けられる「ヴィジョン」とそこで実現されている「デザイン」を考察できるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像表現、映画を扱う科目を合わせて履修すると理解に役立つでしょう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入	産業革命、芸術、デザイン、メディアの変容
第2回	モダンデザインの展開	アカデミズム、モダニズム、デザイン工芸運動
第3回	様式論とフォーマリズム	作品、内容と形式、デザイン
第4回	リアリズムとフォーマリズム	映画理論、作品鑑賞
第5回	物語と語り口	作品、産業、物語構造、しかけ
第6回	作者とは何か	作者論、作家主義、監督
第7回	作家主義の映画批評	テーマの統一性、スタイルの統一性
第8回	作家主義の映画作品	現実と虚構、作者と創造性
第9回	映画ジャンルの成立	ジャンルの機能
第10回	メロドラマの記述と機能	メロドラマ、サブジャンル
第11回	ジャンル批評の問題点	芸術作品を社会、現代芸術とジャンル
第12回	批評の歴史	美術批評、美術ジャーナリズム
第13回	批評の役割	作り手、受けて、メディアとしての作品
第14回	評論の分析	4つの機能、4つの構成要素、評価
第15回	検証テスト(60分)と解説(30分)	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業の方法：毎回テキストを使用します。随時、パワーポイント、DVDを使用します。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	・不定期に授業内にコメントの記載を求めます。その内容や質疑などから授業に対する意欲を参照します。 ・第15回講義日に学習到達度を最終的に確認するテストを行います。

積極的な受講態度を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『フィルム・スタディーズ入門―映画を学ぶ楽しみ―』	ウォーレン・バックランド／晃洋書房／4771018588／毎回使用します

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

毎授業後、質問等を受け付けます。

その他 / Others

自我論 (S)

12925

担当者名 / Instructor　景井 充

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

例年通り、コミュニケーション・ペーパーを用いた双方向型講義を行う。本年度の講義は「日本的集団主義」を取り上げる。その際、考察の中心点は、日本社会の構造原理であり続けてきた一種の集団主義とはいかなるものであり、その中に生きている我々の意識と経験の構造はどうなっているのか、である。そして、日本的集団の特性が、その中での我々の意識や経験が、それ自体我々の人間的可能性に対する阻害要因となってはいないかという関心を持ちつつ、日本的集団主義に対する批判的検討を試みたい。

近年「個人化」をめぐる議論が盛んであるが、日本社会が持つ独特の近代的特質の中で再構築された一種の集団主義は、依然として根強いものがある。日本において今後どのように「個人化」が進行するのかについての洞察を得るためにも、「日本的集団主義」に対する批判的検討を踏まえておくことが必要である。

到達目標 / Attainment Objectives

講義名からは心理学的内容を連想するかもしれないが、基本的には社会学的視点からの考察である。そして目指すは、社会学的視点から我々自身と日本社会を捉え返す批判的視点を獲得することである。そしてまた、そのような視点に立ちつつ、そこから見える社会的・個人的パースペクティブを言語化できるようになるための基礎的訓練の機会ともしたい。究極的には、社会学が目指す社会的・人間的オルタナティブの提起というものが具体的にいかなるものかを知ることを、到達目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学理論」・「社会学史」・「社会倫理学」・「社会文化論」などの講義を履修していることが望ましい。自分の個人的な体験に寄りかからない次元の想像力や思考力を獲得するために、抽象的な思考の地平を経験してきて欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の目的・方向性・手法についての説明	
2	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)①	「集団主義」と「個人主義」
3	日本的集団主義とは何か(テキスト第1章)② 日本社会の組織化原理(テキスト第4章)①	「集団主義」と「個人主義」 間柄主義
4	日本社会の組織化原理(テキスト第4章)② コミュニケーションペーパー(1)	間柄主義
5	コミュニケーションペーパー(1)へのレスポンス	
6	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)①	日本社会の「原組織」
7	旧日本軍の組織原理(テキスト第6章)② 日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定①	日本社会の「原組織」 コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
8	日本型組織におけるコミュニケーションと意思決定② コミュニケーション・ペーパー(2)	コミュニケーションと意思決定プロセスの原型
9	コミュニケーション・ペーパー(2)へのレスポンス	
10	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)①	社会規範、甘え
11	集団主義の心理的要因(テキスト第3章)②	社会規範、甘え コミュニケーション・ペーパー(3)
12	コミュニケーション・ペーパー(3)へのレスポンス	
13	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)①	日本的集団主義の国際性
14	日本的集団主義の国際化は可能か(テキスト第9章)② コミュニケーション・ペーパー(4)	日本的集団主義の国際性
15	コミュニケーション・ペーパー(4)へのレスポンス 講義の総括	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	

コミュニケーション・ペーパーは成績評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生には少し難しい講義ではないかと思うので、3・4回生での履修を勧めるが、意欲的な2回生の履修はもちろん大歓迎。単位が欲しいだけの学生には無理。みずからの個人的・社会的・文化的経験を意識的に捉え返す、ある意味で厳しい時間になるはずである。そのような心と頭の準備をしてきてもらえればよろしかろう。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
日本的集団主義	濱口恵俊　他／有斐閣／4-641-02297-6／すでに絶版

テキストは既に絶版となっているので、テキストとして使用する章についてはこちらでプリントして配布する。

参考書 / Reference Books

講義の中で随時紹介する。各自の関心に沿って取捨選択してもらえばよい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会思想 (S)

15415

担当者名 / Instructor　松田 博

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会とその主体である人間との諸関係をめぐる問題圏、はますます複雑かつ矛盾を内包する分野となっている。かつて近代化論が想定した「成長の神話」は国際的に瓦解しつつある。経済発展による生活の物質的な条件整備つまり「豊かな社会」は必要条件ではあっても、自動的に「人間の安全保障」や「精神的文化的生活の充実」をもたらすものではなく、むしろ手段と目的の転倒によるさまざまな社会問題の要因になることも少なくない。「持つ文化」は「在る文化」を代替することは出来ない。「近代という未完のプロジェクト」において根源的な「環境思想」や「働く事（労働）の人間的意味」などの課題を、自由論・平等論・社会契約論など社会思想の基本的命題と関連付けて検討し、現代的社会思想の意義を掘り下げたい。社会科学的想像力養成のために、断片的知識の習得ではなく、文章表現能力の向上も重視したい。

到達目標 / Attainment Objectives

社会思想とは、習得した知識、情報、経験を基礎に、現代社会を総合的に把握するための方法論＝思考方法を豊かにするための、総合的かつ学際的な研究分野である。したがって具体的な諸論題に基づき、現代社会を把握する「総合の知」の習得が不可欠である。さらにそれを自己の見解として論理的に表現しうる文章表現能力の向上が目標となることを受講生は自覚して欲しい。たんなる感想文やエッセイと論文・レポートは質的に異なっている。専門科目にふさわしい思考能力・論述能力を身につけるための努力を期待する。マイナスをプラスに、ピンチをチャンスに変換するための柔軟かつ強靭な思考力の獲得を目標としたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会（科）学の基礎理論。社会（科）学の歴史。社会理論系の科目。とくに環境論、労働論、自由論などの基礎知識。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス　講義計画	シラバス解説、評価方法、参考文献紹介
2	環境思想総論と基本的課題	ディープ・エコロジー・COP15
3	「自然の権利」と環境思想	「自然の権利」
4	「環境的正義」の思想	社会契約論、平等論、正義論
5	「持続可能な成長」と環境思想	持続的成長社会、「不公平・不利益をこうむるリスク」
6	「人間の安全保障」と環境思想	Human Security（HS）、自然権、生存権
7	中間まとめ　小論文　質疑・討論	小論文課題「前半の講義で最も関心を持ったテーマについて小論文にまとめなさい」、字数1200程度。文献資料等の持込可。
8	社会思想と「労働」の意味	「労働思想」「ホモ・ファーベル（工作人・制作人）」論、人間労働論の形成
9	「労働思想」の展開、「宗教と労働」	宗教における労働・職業意識
10	近代社会と「労働思想」の発展	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の形成
11	現代社会と「労働思想」の諸問題	労働・職業意識の展開・「ホモ・ファーベル」論の再検討
12	社会思想と「自由」の諸問題	「自由」の思想史的背景
13	近代社会と「自由」	理念としての「自由」VS　現実としての「自由」（B.クローチェ）
14	近代社会と「自由」	思考としての「自由」VS　行動(実践)としての「自由」
15	現代社会と「自由」・講義まとめ	期末レポート注意事項（詳細は掲示事項を参照）「感想文・エッセイとレポート・論文との違い」を自覚して作成すること。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

各講義の終わりに文献、資料など伝えるので、自主的な学習を期待したい。さらに基本的なテーマ（たとえばステレオタイプの実例など）についてはインターネットにて最新の情報をサーベイしてほしい。外国語の使用能力アップのためにも海外の動向に関心を持って欲しい。意識の「国際化」にも有益であろう。資料レジュメ末尾には、最新の文献情報を紹介する予定である。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	60 %	期末レポートはとくに文章表現能力を重視する。またフリーディクショナリーの記述のみを参考にした小論文やレポートは禁止します。講義で紹介した文献資料の学習を重視します。
平常点評価	40 %	小論文、コミュニケーション・カードなどを評価する。CPなどでの質問やコメントを歓迎します。すぐれた質問やコメントは平常点に加算します。CPは出席カードではないので、氏名以外の文章記述が無いものや、きわめて不十分なものはCPとしての平常点評価は行いません。

「論文・レポート作成方法」にかんする解説書を読んでおくこと。論文の構成、文献注などの必要事項を学んで、スキルアップを自覚的に心がけて欲しい。このようなスキルは社会人となっても、仕事や生活において必ず役に立ちます。本学の卒業生には、感想文やエッセイと論文・レ

ポートとの相違を理解し、必要に応じて様々な文章を自在に書き分けられる能力を身につけて欲しい。このシラバスを熟読して欲しい。シラバスは受講生の学習･研究を支援するためのものです。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

備考を参照のこと。期末のレポートは、たんなる感想文やエッセイの類は失格ないし減点とします。この科目を永年担当しているが、本学部学生の知的好奇心や問題意識が旺盛な学生が多いことは、学部のよき伝統といえる。しかしレポートや小論文という文章になると、その長所が十分発揮されているとはいえない。残念なことである。「豊かな問題意識、貧しい文章力」ではもったいないと思う。文章表現力は、意識的に文章を書く努力によって確実に向上する。昨年の受講生にも見違えるほど文章力がアップした者が少なくなかった。ぜひチャレンジしてください。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。テーマに応じて資料レジュメ配布や参考文献紹介をおこなう。また「人間の安全保障」に関する最近の文献資料を逐次紹介するので自主的に学習することを期待します。重要な文献の箇所は資料レジュメとして講読します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
環境思想とはなにか	松野弘／ちくま新書／／環境思想論の基本的文献
環境思想を学ぶ人のために	加茂直樹／世界思想社／／環境思想論の解説書
緑の政治思想	ドブソン／ミネルヴァ書房／／現代的環境思想論の基本文献
ホモ・ファーベル	ティルゲル／社会評論社／／人間労働に関する文明論的な解説書
グラムシ思想の探究	松田博／新泉社／／前書の意義についての論文を収録
近代の労働観	今村仁司／岩波新書／／近代的労働観の概説
働くことの意味	橘木俊詔／ミネルヴァ書房／／現代的労働･職業意識の考察
プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神	ヴェーバー／岩波文庫／／労働観・職業観についての古典的名著
思考としての歴史と行動としての歴史	クローチェ／未来社／／近代史における自由の意義を考察
19世紀ヨーロッパ史	クローチェ／創元社／／19世紀ヨーロッパにおける「自由」論の考察
クローチェ政治哲学論集	クローチェ／法大出版／／「思想としての自由」論の意義を考察

シラバスに記入した文献以外は、講義において紹介する。講義についての質問、意見を歓迎します。環境思想、労働観･職業観・自由論に関する文献は多数あるので少なくとも一冊は読むことを期待したい。CPでの質問も歓迎します。次の講義においてレプライの時間を設けます。大規模講義なので、講義内での質疑だけでは時間的な制約のため不十分なので、CPを活用して、レプライの時間を講義に組み込みます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

本講義でとりあげるテーマは日本語だけでなく海外のサイトが充実しているので、ぜひ参照して欲しい。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

初歩的なことですが他の学生の迷惑になる私語などは厳禁します。常習者は退室を命じます。特別の理由のない大幅な遅刻者は入室を禁止します。「他人の迷惑になることはしない」という初歩的常識を忘れないで欲しい。「喜・哀・楽　仮面の上に描くたび　己の顔をうしなう仮面」（現代学生百人一首）。小論文や期末レポートでの不正行為（コピペや盗作など）は、厳禁します。発覚した場合は失格とします。不十分でも自己の努力で作成してください。自力作成にはかならず達成感という喜びを実感する事ができます。

社会病理学 (S)

15359

担当者名 / Instructor　崎山 治男

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義では、学説史的な展開を踏まえつつ、学生諸氏にとって身近なテーマを取り上げる中で、「社会」病理学の基本的な視点の獲得を目指す。パート1では、なぜ・どのように近代・現代社会に特有の社会病理が登場してきたのかを、社会構造の変化という観点から捉える。主に、「自由」、「平等」、「博愛」といった近代社会で「正しい」とされている考え方が、逆に社会病理を生み出すといった視座を提示する。パート2では、青少年の意識といった側面を社会病理学の視点から掘り下げる。特に、「社会には病理が元々ある」という見方と、「社会病理が社会的に作り出される」という視点との交錯を講義する。パート3では、近年登場してきた「新しい」社会病理への見方を、主に家族臨床から捉え、社会病理学への理解の深化を図る。同時に、「心」を病理とする見方の進展が進んでいる現状に対して、「社会」病理学の視点からそれを懐疑的に見ていく重要性を示す。

到達目標 / Attainment Objectives

・「社会病理」とされる事柄について、社会学的な見方を身につける。
・近代の「善」なる理念が、病理現象を産み出すパラドックスを理解する。
・とりわけ青少年の病理行動の背景を理解する。
・「新しい」病理現象とされる事柄への知識を深める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「社会学史」、「基礎社会学」等の基礎的な知識を習得していることが望ましい。近年、マスメディアなどで頻繁に取り上げられる社会問題への関心を持った学生の受講を希望する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション	近代社会の功罪
2	Part1:「社会」病理学とは何か:社会構造と社会病理・「自由」であることは良いことなのか?:アノミーという社会心理	アノミー、自由
3	「博愛」をどの範囲まで持てるのか?:都市化と社会的連帯の崩壊	アーバニズム、インナーシティ
4	「平等」であることはどこまで正しいのか?:「成功神話」の落とし穴	教育、階層
5	「勤勉」であるだけで良いのだろうか?:下位文化の光と影	文化的再生産
6	Part2:現代の青年意識を「社会」病理学してみる・なぜ「気の合う仲間」が出来るのか?文化的学習理論による「仲間」作り	学習理論
7	最近の少年は「キレやすい」のか?:少年犯罪を巡る統計とレイベリング論	統計の陥穽
8	少年犯罪は「凶悪化」しているのか?:社会問題の構成主義	マスメディアと少年非行
9	地域や家族による支援はどこまで有効なのか:他者との繋がりと紐帯理論	地域、NPO
10	「引きこもり」は何故起きるのか?:私事化する社会での青年意識	コミュニケーションの高度化
11	Part3:現代社会の病理の諸相:社会病理の現在・目立つことと目立たぬこと:劇場化する社会	劇場型犯罪
12	なぜ「家族」に問題を求めるのか?:トラウマとアディクション	アダルト・チルドレン
13	「語ること」でラクになる?:ナラティブ・アプローチという相互行為	セルフヘルプ・グループ
14	病理の過剰／病理の過剰:医療化の進展と社会病理	医療化・医療に回収される病理
15	まとめ:「心」の病理と「社会」の病理	「心」の病は本当か?

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	100 %	授業内容を踏まえ、自らの視点で社会病理を分析出来ているかで判断する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・社会病理は社会そのものを映し出す鏡である。日頃から新聞やニュース等に注目すること（但し、うのみにしないこと）。

教科書 / Textbooks

特に指定しない。レジュメ、資料等を必要に応じて配布する。

参考書 / Reference Books

必要に応じて紹介するが、社会病理学の学説史を押さえたものとして徳岡秀雄『社会病理を考える』世界思想社、宝月誠『逸脱とコントロールの社会学』有斐閣、佐々木嬉代三『社会病理学と社会的現実』学文社を挙げておく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

社会文化論（S） §　文化社会学（W）

15400

担当者名 / Instructor　日暮 雅夫

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会文化論とは、社会と文化とを一体のものとして捉える方法・領域のことです。つまり社会文化論は、社会を解明するのに文化や習慣・ライフスタイル等を知ることが必要であるとすると同時に、文化もまた社会の中に位置づけられて初めて理解されるとします。この授業では、現代社会における様々な社会文化の現象を、特に諸個人が他者からどのように承認されているか、という視点から取り上げます。というのは、諸個人が「成功した生」を営み自己実現に至りうるためには、他者から様々な形で十分に承認されていなければならないと考えるからです。その視点から、現代社会における様々な社会文化現象（例えばオタク系文化、ポピュラー音楽、スポーツ文化等）を解明していきたいと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

①社会文化論の基本的方法、基本概念、基本学説を、隣接する諸領域と関連させながら理解する。
②現代社会における社会文化の基本的特徴を理解し、具体例に即して分析する力を身につける。
③批判理論におけるコミュニケーション・承認についての考察の内容を理解し、現代社会の病理を批判する意義を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	社会文化をとらえる視点1――フランクフルト学派の文化批判1	アドルノ　文化産業　ベンヤミン　複製芸術
2	社会文化をとらえる視点2――フランクフルト学派の文化批判2	ハーバーマス　生活世界の植民地化　新しい社会運動
3	社会文化をとらえる視点3――フランクフルト学派の文化批判3	ホネット　承認論　病理批判　承認をめぐる闘争
4	社会文化をとらえる視点4――大衆文化論・消費社会論	カルチュラル・スタディーズ　ホガート　ウィルス　スチュアート・ホール
5	社会文化をとらえる視点4――ポピュラー音楽論	ヘブディッジ　フリス　ロックの政治学　パンク
6	音楽の社会文化――ジャズ論1	ジャズ　大衆文化　エスニシティ
7	音楽の社会文化――ジャズ論2	ジャズ　文化的承認　疎外
8	音楽の社会文化――ジャズ論3	アドルノ批判　ブリコラージュ
9	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化1	オタク系文化　マンガ小史　「萌え」
10	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化2	オタク系文化　ポストモダン　シミュラークル　動物化
11	「オタク系文化」と公共圏――ポストモダン、モダンの社会文化3	オタク系文化　モダン　公共圏　インターネット
12	コミュニケーションの現在――ケータイ論	ケータイ　ネット縁　極私的対話　モラルとマナー
13	コミュニケーションの病理――いじめの理論化	ハーバーマスの植民地化論　ホネットの承認論　侵害　心的外傷
14	身体の社会文化――スポーツと勝利至上主義	勝利至上主義　スポーツマンシップ　競争　精神性
15	社会文化論のまとめ――新しい倫理へ	社会文化　「成功した生」　自己実現　自己決定　承認とコミュニケーション　病理　新しい倫理

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

授業中に取り上げる参考書の何か一冊を、セメスター中にノートを取りながら通読してください。定期試験ではそれを問う出題をします。
試験に役立ちうるように、ふだんから身近な社会文化現象の具体例に注目し、資料等を集めておいてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終回に学習到達度を最終的に確認するテストを行う。評価基準：講義内容を理解し、自分で具体例に応用して考察し、それを表現できているかを問う。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会文化論の学習にあたっては、自分に身近な社会文化現象を関心と問題意識とを持って取り上げること、先行する研究者や思想家の概念や思考方法を正確に学ぶこと、それらを具体的な現象に応用して考察して表現することが大事です。講義にきちんと出席して正確に学ぶとともに、自分で思考し表現する能力を身につけるように心がけてください。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する。視聴覚教材は適宜用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
討議と承認の社会理論	日暮雅夫著／勁草書房／ISBN978-4-326-10182-5／ハーバーマスやホネットのフランクフルト学派の理論研究の参考となります。
批判的社会理論の現在	永井彰・日暮雅夫編著／晃洋書房／ISBN4-7710-1462-0／同上。
文化論のアリーナ	文化論研究会編／晃洋書房／ISBN4-7710-1170-2／幅広く社会文化論の理論研究の参考となります。
社会文化理論ガイドブック	大村英昭他編／ナカニシヤ出版／ISBN4-88848-939-4／同上。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

社会文化学会ホームページ（社会文化研究の具体例を見ることができます）。
http://japansocio-culture.com/
批判的社会理論研究会ホームページ（批判的社会理論研究が実際にどのように行なわれているかを、見ることができます）。
http://affkt.jpn.org/about/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

授業終了後、話しかけてください。その時、相談時間を指定します。
後日、私のメールアドレスを研究室のドアに張り出します。（件名には「社会文化論」とつけてください。件名のないメールは読むことができません）。
後日、オフィス・アワーの時間を研究室のドアに張り出します。（オフィス・アワーは学生の皆さんが、大学での勉強に関して何でも相談に来ることができる時間です。気軽に活用してください。できれば事前にアポイントメントを取ってください）。
その他、研究室で空いている時間にはご相談ください。

その他 / Others

授業中の私語は禁止します。従わない場合は、退出させます。
授業中のケータイ・メールは禁止します。従わない場合は、退出させます。
遅刻・途中退出は禁止します。

社会倫理学（S）

15366

担当者名 / Instructor　清 眞人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

今日の日本の青少年にとってイジメ経験は最も深く共有された、しかも、生の意味感受性の危機に深くかかわる深刻な経験として成立している。この経験を社会倫理（応答の倫理学）の視点から振り返って、そこに孕まれている実存的諸問題を分析し、あらためて、そこからわれわれの生が直面している問題を自覚しなおすという思考の作業を試みたい。授業の素材としては、受講生自身のイジメ経験、文学、歌、など、経験を意識化するうえで刺激となるさまざまな生きた材料を多用したい。

到達目標 / Attainment Objectives

自己自身の経験を哲学的に分析する思考経験をしてみる。「応答の倫理学」と呼びうる代表的思想家の基本観点を知る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

とくになし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	基礎経験と思想（パースペクティヴ）――イジメ経験を問い返す意義	基礎経験・パースペクティヴ・イジメ経験 ・記憶・村上春樹の文学
2	イジメ経験が生みだす実存的諸問題1	内面的自殺、実存のタマネギ化 、空虚化と暴力による補償的存在充実、村上春樹の文学、三島由紀夫の文学
3	イジメ経験が生みだす実存的諸問題2	存在の透明化、世界の夢化と他者の消滅、自傷行為をとおしての存在確認 村上春樹の文学、三島由紀夫の文学, ジョン・レノンの歌Strowberryfield for ever
4	イジメ経験が生みだす実存的諸問題3	傍観者化、友情という基礎経験の崩壊 、可能性意識の縮減と孤立感、仲間性の人間学
5	存在承認による生の解放とジョン・レノンの歌 Oh my love , Love	愛と実存、フランクル、ジョン・レノン
6	心的外傷とジュディス・ハーマンからの問題提起	ケアされた経験、ジュディス・ハーマン、治療同盟、ジョン・レノンの歌Mother　Help
7	応答の倫理学1――レヴィナス	レヴィナス、傷つきやすさ（vulnerability）
8	応答の倫理学2――フロム	応答責任性、フロム
9	応答の倫理学3――ブーバー	「私-きみ」関係性
10	応答の倫理学3――レイン	自己と他者
11	応答の倫理学4――ニーチェとサルトル	暴力のマニ教主義
12	応答の倫理学5――フランクル	生の意味への問いのコペルニクス的転換、黒澤明作品「生きる」
13	実存と意味欲求	実存、意味、ニーチェ
14	文学と倫理　三島由紀夫と村上春樹のあいだによこたわるものとしてのニーチェ	三島由紀夫、村上春樹、ニーチェ
15	まとめ	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	

平常点評価	30 %	コミュニケーションペーパーの提出数 授業中に出すミニレポート課題への取り組み

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書をよく読み、問題の全体的な相互関連への関心を高めること

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
創造の生へ――小さいけれど、別な空間を創る	清眞人／はるか書房／978-4-434-1148-8／

立命館大学生協書籍部で販売

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

kiyoshi@kindai.ac.jp

その他 / Others

身体表現論（S）

12682

担当者名 / Instructor　遠藤 保子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

我々の身体は、姿勢、しぐさ、動作などによって言語以上に雄弁にものを伝えることが可能である。こうした身体表現は、ことばならざることばであるところの非言語コミュニケーションと考えられ、コミュニケーションの重要な要素と考えられる。またその身体表現は、自然・社会・文化などと深くかかわり様式化された身体表現つまり舞踊として踊られている。こうしたことをふまえて、この講義では、1. 身体表現の概念と諸相　2. 日本と世界各国におけるさまざまな舞踊と自然・社会・文化とのかかわりを考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

身体表現とは何か、さらに身体表現は自然・社会・文化と深くかかわっていることを学ぶことによって、受講者の「身体表現と社会・文化を見る視点」を獲得することが期待される。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

芸術と社会にかかわる科目
文化人類学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業の概要と導入	自己紹介、授業の到達目標、成績評価方法等
2回	非言語コミュニケーションの概念	肉体、姿勢、しぐさ、空間、色彩、時間等
3回	非言語コミュニケーションと社会・文化	高コンテキスト～低コンテキスト国・文化と非言語コミュニケション
4回	非言語コミュニケーションの分類・役割及び30分間の確認テスト	確認、修飾、代用、コミュニケーション管理、矛盾等
5回	舞踊（様式化された身体表現）の概念・現代における舞踊の意味	舞、踊り、舞踊、ダンスという言葉の意味、舞踊における聖と俗等
6回	日本の伝統舞踊（1）	古典舞踊（雅楽、能楽、歌舞伎、日本舞踊等）と民俗舞踊（神楽、田楽、風流等）のとらえかた
7回	日本の伝統舞踊（2）	表現の様式と技法、表現要素の複合化、序破急の形式、道行の形式、舞踊動作の特性
8回	中間のまとめとグループワーク・レポート提出	非言語コミュニケーションに関する多面的な討論とプレゼンテーション
9回	世界の舞踊（1）	アフリカ（特にナイジェリア）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
10回	世界の舞踊（2）	アジア（特にインド）の舞踊と社会、舞踊特性と自然・社会・文化
11回	世界の舞踊（3）	欧米の舞踊（特にフォークダンス、バレエ）と自然・社会・文化
12回	現代の舞踊（4）と30分間の確認テスト実施	欧米の舞踊（特にモダンダンス、ポストモダンダンス、コンテンポラリーダンス）と自然・社会・文化
13回	クロスオーバーする現代の舞踊	現代美術、パフォーマンス等における身体表現、オルターナティブスペース
14回	舞踊教育の思潮と動向、生涯学習時代における舞踊教育	アメリカ、イギリス、日本における舞踊教育の流れ、生涯学習時代における舞踊学習内容
15回	各ジャンルごとの舞踊の特性、聖と俗に関する舞踊、まとめ	身体表現と形式、舞踊の構造と機能、現代社会における舞踊の意味

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する参考文献を読み、自ら関係する文献を検索し、さらには実際の舞踊公演を鑑賞し、身体表現に関する知見を広め深化させる。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	試験答案における論理的な記述や授業の理解度などを評価する。
平常点評価	40 %	2回の確認テスト実施と1回のレポート提出：どの程度主体的に学習し、自ら考察しようとしたのかを判定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

無意識に行っている身体表現を意識化させ、その表現は、自然・社会・文化と深く結びついていることを考える。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
舞踊学講義	舞踊教育研究会／大修館書店／4-469-26197-1／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
非言語コミュニケーション	マジェリー/F/ヴァ-ガス／新潮社／4-10-600334-1／
しぐさの世界	野村雅一／日本放送出版協会／4-14-001429-6／
異界へのメッセンジャー	姫野　翠／出帆新社／4－86103－016－1／
おどりの美学	郡司正勝／演劇出版社／4-900256-40-4／
渡来の祭り　渡来の芸能	前田憲二／岩波書店／4－00－024123－0／
舞踊と社会	遠藤保子／文理閣／4-89259-375-3／
手の日本人　足の西欧人	大築立志／徳間書店／4-19-554087-9／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールによる連絡

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15412

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果つい、「コミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション技術を振り返ってみる機会はありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。

その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションに関しては、自覚することが少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションには「スキル（技術）」と「コンテンツ（内容）」の二つの課題が存在します。当然のことですが人は、コンテンツ（伝える内容）とプロセス構築力（伝達手段技術）の両者がうまく備わってはじめて、関係の場に自信を持って立てるのです。

この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。したがって教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。

対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進ということになります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート（記述・提出）	
2	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
3	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
4	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
5	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
6	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
7	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
8	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
9	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
10	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
11	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
12	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
13	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
14	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
15	前回のレポート振り返り（レクチュア）・最後の課題実習・	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。毎週フィードバックシートの提出を課します。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。近年の欠席は四，五，六回生に著しく偏っています。出席が無理なら、登録しないでください。

ここ2、3年、男子学生の登録と出席が増えています。開講初期、圧倒的に女子が多かったことを思うと、男子学生の健全化も感じます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／／／
家族の練習問題2	団士郎／／／
家族の練習問題3　父よ母よ	団士郎／／／
不登校の解法	団士郎／／／
家族力×相談力	団士郎／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

人間発達論 (S)

12927

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性，個体発生と系統発生
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，愛着
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
朝倉心理学講座3発達心理学	南徹弘(編)／朝倉書店／9784254526639／講義の一部で言及する

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

精神分析論（S）

20228

担当者名 / Instructor　村本 詔司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

わが身に関わるこの上なく重要なことでありながら、自分でも気づいていないこと、そのありかを昔の人はあの世や霊界に想定し、現代人は無意識に求める。

私は何に突き動かされて生きてきたのか？私は何に向かって生きているのか？わたしは誰か？私の心の中で何が起こっているのか？

こういった誰にとっても気になる問題に取り組む精神分析は、20世紀の最も代表的な心理療法の流れであるだけでなく、それなしには現代社会を理解できないとさえ言える思想、精神運動、社会文化現象でもある。

本講義では、種々の関連文献や関連サイトを紹介しながら、広い意味での精神分析（意識以外に無意識も認める深層心理学、力動心理学と称される）を代表するフロイトとアードラーとユングの三人三様の生涯と思想と後継者たちにおける展開を紹介する。最初の3日間の最後の時間は、深層心理学に関連する映画等（タイトルは未定だが、いずれにせよ、比較的見る機会の少ないもの）を鑑賞し、心理学的な映画の見方あるいは映画に示唆される人間理解を学ぶとともに、現代文化における心理学の役割や功罪を冷静に見つめるきっかけを提供したいと思う。できるだけ、DVD,CD、OHC、PCなどの視聴覚教材を駆使して授業内容の理解を促進したい。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）教養としての精神分析を学ぶことを通じて、人間や社会文化、歴史についてのリテラシーを広め、深めること。
（2）基本的用語に英語で馴染む。
（3）心理臨床関係の仕事を志望するものにとってのある程度の準備。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特に指定しないが、広く人文科学的教養を身につけられるような科目を意識して履修しておくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーションとフロイトの精神分析（1）	ユダヤ、ウィーン、唯物論、ヒステリー、性の欲動と自我
第2回	フロイトの精神分析（2）	意識と無意識、快楽原則と現実原則、エディプス・コンプレックス、死の本能
第3回	フロイトの精神分析（3）	文化の解釈、フロイト以降の精神分析の展開
第4回	深層心理学と文化（1）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第3回の後半から始まる可能性がある。
第5回	アードラーの個性心理学（1）	劣等感と優越感、自分だけの理屈、思い込み、ライフスタイル、人生目標
第6回	アードラーの個性心理学（2）	共同体感情、ホーリズム
第7回	アードラーの個性心理学（3）	アードラー以降の展開： フランクルのロゴテラピー、人間性心理学、現存在分析
第8回	深層心理学と文化（2）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第7回の後半から始まる可能性がある。
第9回	ユングの分析心理学（1）	運命としてのキリスト教、内向性と外向性、コンプレックス
第10回	ユングの分析心理学（2）	元型（自我、ペルソナ、影、アニマとアニムス、自己）
第11回	ユングの分析心理学（3）	錬金術、シンクロニシティ、宗教
第12回	深層心理学と文化（3）	映画（タイトル未定）に見る深層心理学。映写時間の関係で第１１回の後半から始まる可能性がある。
第13回	精神史における無意識と心理療法	近代以前と近代における世界観・人間観、科学技術と啓蒙思想、ロマン主義、ゲーテとワーグナー
第14回	現代社会における心理学	心理学人間、心理主義、ケアの管理
第15回	まとめと検証テスト	授業内容を振り返り、授業の理解度を問う

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

オンライン百科事典Wikipedia（日本語版、できれば英語版も）の関連項目の説明に目を通しておくこと。ただし、記述の真実性に関しては慎重であること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	20 %	基準：授業内容の理解、授業への積極的姿勢、授業内容の創造的活用、独創性 予想されるテーマ： ①授業で取り扱った事柄について ②授業で鑑賞した映画の心理学的解釈あるいは映画が示唆する心理学的人間理解 ③授業の感想

①②③すべてを提出し、いずれも1201-1600字。

平常点評価	80 %	検証テストを最後の時間（第15回）に実施する。授業全体の内容の理解を問う。 出席。コミュニケーションカードの提出。授業内容の理解、授業への積極的な取り組みなどを主な基準とする。積極的な姿勢と取り組み。毎回の終わりに授業内容理解のチェックを行い、正答をもって出席とみなす

まず非常に重要なことを述べておく。すなわち、レポート試験と平常点評価の両方を受けていることが単位認定の前提である。たとえ検証テストの得点が非常に高いものであっても、レポートを提出していなければ、反対に、すぐれた内容のレポートを提出していても検証テストを受験してなければ、単位は認定されない。

毎回終了時に、その回の内容を理解しているかどうかをチェックする設問を行い、その答えを出席カードの裏に書いて提出してもらうことにする。正答をもって出席とする。

レポートのテーマとして現在の時点で以下のことを考えている。

①授業で取り扱った事柄から一つ選んで、考えるところ。

②授業で提示し、リストに挙げた映画、文学作品、劇、音楽などをひとつ選んで、考えるところ（心理学的解釈、心理学への示唆など）。

③授業の感想。

①②③いずれも、サイズは1201-1600字。

受講生の数などが明らかになった時点で、授業の内容や予定、方法を若干変更する必要が生じた場合は、授業開始前までに前もって連絡する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

できれば、授業に先立って、WebCTに教材や資料などをアップしておくつもりである。これらやWikipediaなどでの授業に関連する項目を読んでおくと、より有利な条件で授業に臨むことができて、授業がよりわかりやすくなる。

集中講義で夏の暑い毎日、朝から夕方まで連続授業を行うので、注意の集中力をいかに持続させるかが課題となろう。休憩時間にしっかりと気分をリフレッシュして、新たな気持ちで授業に臨むこと。

授業内容に関する質問は、講師の個人ホームページ（http://www5d.biglobe.ne.jp/~shojimur/）のトップページからメールで行うことができる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
マンガ　フロイト入門	／ブルーバックス／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する
知的常識シリーズ　ユング	マギー・ハイド／心交社／／絶版状態だが、古書で入手可能。絶版状態。OHCで提示する
Adler for Beginners	Anne Hooper & Jeremy Holford／Writers and Readers Publishing, Inc.／／絶版状態だが、古書で入手可能。OHCでも提示する

特になし。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
援助者のためのフロイト入門	村本邦子／三学出版／／
フロイト著作集	フロイト／人文書院／／
ユング・コレクション	ユング／人文書院／／品切れ状態になっているものが何巻かある。
ファウスト　第一部・第二部	ゲーテ／岩波文庫、新潮文庫、中公文庫、集英社文庫など／／
アドラーの生涯	エドワード・ホフマン／金子書房／4-7608-2139-2／
ユダヤ教の歴史	市川裕／山川出版／978-4-634-43137-9／

フロイト、アードラー、ユング関係で比較的廉価な書物がたくさん出回っており、ここにはあえて列挙しない。各自amazon.comなどで検索して、それぞれの著者の立場に注意しながら、目を通すことをお勧めする。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

Wikipedia（日本語版、英語版）の関連項目
日本精神分析協会http://www.jpas.jp/
日本精神分析学会http://www.seishinbunseki.jp/greeting.html
日本アドラー心理学会http://adler.cside.ne.jp/
アドラー心理学ネットワークhttp://homepage3.nifty.com/adlerian/
ユングネットhttp://www.asahi-net.or.jp/~we7n-hkt/jung.html
ゲーテ自然科学の集いhttp://www.cc.okayama-u.ac.jp/~ohtaro/goethe-natur/index.htm
日本ワーグナー協会http://www.wagner-jp.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

教員の個人HP（検索エンジンに「村本詔司」でヒットする）、http://www5d.biglobe.ne.jp/のトップページ下からメールを送ることができる

その他 / Others

多文化コミュニケーション（S） § 多文化コミュニケーション論（S）

20229

担当者名 / Instructor　森田 ゆり

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

多様性ダイバーシティの理論と人権の理解をベースにした参加型研修を体験し、その実施のファシリテーション力を養う。コミュニケーションの様々なツールを人権尊重の環境に活かす方法を学ぶ。グループワークへの積極的な参加が求められる。

到達目標 / Attainment Objectives

1、ダイバーシテイの概念を理解する
2、参加型研修のファシリテーターとして必要な理論と方法とスキルを学ぶ
3、ダイバーシティ参加型研修の具体的方法を学ぶ
4、トレーナー・ファシリテーターに必要な実践上のスキルを学ぶ
5、コミュニケーション力、リーダーシップ力をつける方法を学ぶ

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の目的と目標、 約束事の確認　アイスブレーカー	ダイバーシティー　参加　尊重　守秘　時間
第2回	多様性（ダイバーシティ）人権参加型学習の理論	フレームワーク：多様性受容力の三つの輪
第3回	参加型研修の4要素	目的　構成　行動　配慮
第4回	アイスブレーカー　グループで「エンパワメント」「人権」についての話し合い	受講者によるテキストの報告も含む
第5回	気づきの研修：アクティビティ「有名人クイズ」その他	
第6回	気づきの研修	アクティビティ「さかさま文字」「マットの物語」その他
第7回	アイスブレーカー　トレーナー・ファシリテーターに求められる7条件と7つ道具	
第8回	グループアクティビティ「差別と区別のちがい」「日本が多文化・多人種社会になったら」	ダイバーシティの理解を深める
第9回	アイスブレーカー　知識の研修	アクティビティ　セクシュアルハラスメント・プレテストを使って意見を交わす
第10回	マインドマップの作成	自分を知るツール、 情報整理のツール、 速読のツール
第11回	スキルの研修　コミュニケーション	コミュニケーションとノイズ　傾聴スキル
第12回	アイスブレーカー　コミュニケーションスキル	アサーティブ・コミュニケーション　対立の仲介者
第13回	多様性社会に求められるリーダーシップ	プレゼンテーション力
第14回	人数が少なければ、3分間スピーチとフィードバックまたはコーチングの基礎	
第15回	授業内テスト	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義、 グループワーク、学生の発表

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	評価は以下の4つで行います。 出席 授業内での発言 グループワークへの参加度 最後の授業時間にテスト

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

積極的に発言すること
テキストを事前に読んでおく

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「多様性トレーニング・ガイド：人権啓発参加型学	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／

習の理論と実践」

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「エンパワメントと人権」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-2327-4／
「ダイバーティティ・トレーニング・ブック」	森田ゆり／解放出版社／4-7592-6040-4／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www. geocities.jp/empowerment9center/
エンパワメント・センター　森田ゆり公式サイト

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

電話またはファックス　0798－31－5331 （エンパワメント・センター・オフイス）

その他 / Others

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

伝統芸能論（S）

15430

担当者名 / Instructor　相原 進

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日本には、さまざまな伝統芸能があります。この講義では、いくつかの伝統芸能を取り上げ、その歴史や特徴、個々の作品について学びます。そして、伝統芸能が時代や社会とどのように関わってきたのかということや、伝統芸能の現状、今日の日本文化への影響についても学びます。

講義においては、映像、絵画、写真などの資料を用います。また、教養や趣味のひとつとして伝統芸能を楽しめるきっかけになるように、鑑賞方法の案内も行います。

到達目標 / Attainment Objectives

①伝統芸能の歴史や特色について知る。
②伝統芸能を鑑賞するための基礎的知識を修得する。
③各伝統芸能における代表的な作者、作品、演者などの知識を修得する。
④芸能と、時代、社会、人間とのかかわりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

身体表現論：伝統芸能論の講義について、芸能と社会、文化、身体表現とを関連させて、より深く理解するための知見を得られます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入	【キーワード】成績評価方法／各回の講義の概要 【その他】伝統芸能についての基礎知識や経験、講義についての希望を問うアンケートを行います。
2	「伝統芸能」の概念と今日の状況	【キーワード】伝統芸能の概念／伝統芸能の分類／産業としての伝統芸能／伝統芸能をめぐる諸制度
3	「伝統芸能」以前	【キーワード】講義で取り上げる各伝統芸能の歴史的背景について／神事や仏教と芸能との関わり 【映像資料】高千穂の夜神楽／鹿島神宮祭頭祭　他
4	落語の歴史と特色	【キーワード】落語の鑑賞案内／落語の歴史／落語の特色 【資料映像】桂枝雀『代書』 他
5	落語の演目	【キーワード】古典落語と新作落語／上方落語と江戸落語の違い／緊張と緩和の理論 【資料映像】桂三枝『ゴルフ夜明け前』／古今亭志ん生『三枚起請』 他
6	能の特色	【キーワード】能の鑑賞案内／能における役割／能の表現様式の特徴（幽玄能など） 【資料映像】『土蜘蛛』 他
7	能の歴史と作品	【キーワード】能の歴史／作品の分類／作品についての解説 【資料映像】『井筒』／『道成寺』
8	狂言の歴史と特色	【キーワード】狂言の鑑賞案内／狂言の歴史／狂言の特徴 【資料映像】『附子』／『唐相撲』
9	狂言の作品	【キーワード】作品の分類／作品の解説／狂言と他の芸能との共演 【資料映像】『濯ぎ川』／『素襖落』
10	文楽の歴史と特色	【キーワード】文楽の鑑賞案内／文楽の歴史／文楽の特徴 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「天拝山の段」 他
11	文楽の作品	【キーワード】作品の分類（時代物・世話物・景事）／作品の解説／文楽作品に対する統制と対策 【資料映像】『菅原伝授手習鑑』より「寺子屋の段」／『義経千本桜』より「大物浦の段」 他
12	歌舞伎の歴史と特色	【キーワード】歌舞伎の鑑賞案内／歌舞伎の歴史／歌舞伎の特徴 【資料映像】『歌へす歌へす余波大津絵』より「藤娘」／『仮名手本忠臣蔵』 他
13	歌舞伎の作品	【キーワード】作品の分類（荒事・和事）／作品の解説／東西の歌舞伎の違い 【資料映像】『恋飛脚大和往来』より「封印切」 他

14	伝統芸能とメディア	【キーワード】メディア体験としての伝統芸能／芸能と観客／伝統芸能と権威性
15	伝統芸能のこれから／質疑応答	【キーワード】講義のまとめ／講義・試験に関する質問の受付

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

伝統芸能について、より詳しく学びたい人に向けて、参考書や映像資料などの紹介も行います。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	講義の理解度と、講義から各自が修得した知見を問う。
平常点評価	30 %	第6回講義の終了時点で中間レポート課題について説明する。講義で取り上げた伝統芸能のうちから1つを鑑賞し、各自が学んだことや感じたことについて、講義で得た知見を踏まえた上で記述すること。 コミュニケーションペーパーの提出を促す場合もあるが、それによって点数の増減は発生しない。また、出席点も加味しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テレビや動画サイトなど、どんな形でも良いので、講義で扱う芸能を一度鑑賞してみて下さい。また、機会があれば生で上演を鑑賞してみてください。講義を通じて映像や知識として伝統芸能に触れるのと、実際に現物を見るのとでは、印象が全く異なることも多々あります。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しません。毎回、レジュメを配付します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
上方芸能の魅惑	森西真弓／NHK出版／414080808X／歌舞伎、文楽、狂言、落語について、歴史と見どころをわかりやすく解説しています。
日本芸能史	藝能史研究会編／法政大学出版会／4588230018／全7巻あります。古代から現代に至るまでの芸能の歴史を、時系列に沿って把握できます。
日本の古典芸能	藝能史研究会編／平凡社／4582216013／全10巻あります。芸能の歴史について、歌舞伎、能、狂言など、ジャンルごとに把握できます。

『上方芸能の魅惑』は初心者にもお勧めできますが、『日本芸能史』(全7巻)と『日本の古典芸能』(全10巻)は専門性の高い内容です。講義の中で、まったく未経験の初心者にでも理解できるような入門書や入門用映像資料も紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.genpoo.org/dentou/

ネット上から過去のレジュメをダウンロードできるようにしています。伝統芸能の場合、個人が趣味で作った解説ページが多くありますが、内容にムラがあるのでお勧めできません。ネットでの情報については、興行予定の確認程度にとどめておくのが賢明です。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

上記参考ページに、メッセージの送信フォームも設置しています。全体に告知すべきと判断した質問・意見に関しては、講義中で説明します。公平を期すため、個人的に回答することは原則としてありません。

その他 / Others

毎回レジュメを配布します。そこで参考書なども紹介します。
※2010.3.22　シラバス入稿時のレイアウトが反映されていないことが判明したので、レイアウトを修正しました(内容は一切変わっていません)。

日常性の社会学 (S)

12783

担当者名 / Instructor　宝月 誠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

日常生活がどのように秩序づけられているのかを理解するために、「逸脱」と「コントロール」の行為に注目する。「逸脱」と「コントロール」を手がかりに秩序を生み出す社会的メカニズムを考える。こうした主題に関係した主要な学説・研究成果を体系的に紹介し、具体的な事例を用いながら説明する。

到達目標 / Attainment Objectives

社会の秩序はどのように成り立っているのかを理解できる。
社会病理学や社会問題論についての理解を深めることができる。
社会の在り方を考える上での判断力を養うことができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会学の基本的な知識を学んでおくことが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の目的:逸脱とコントロールを主題とする理由	日常世界・社会の秩序・逸脱の概念
第2回	研究の原点:デュルケーム理論	集合意識・犯罪・刑罰・自殺の原因論
第3回	逸脱についての3つの基本的視点とその系譜	構造論・相互作用論・行為者論の学史
第4回	構造論:シカ学派の研究	人間生態学・社会解体論・都市の「病理現象」
第5回	構造論:アノミー論	マートン・構造的緊張・機会構造論・非行研究
第6回	相互作用論:差異的接触論	サザーランド・プロの窃盗犯・ホワイトカラー犯罪
第7回	相互作用論:ラベリング論	ベッカー、逸脱の増幅過程、逸脱の定義、社会的反作用
第8回	構築主義の視点	社会問題・クレイム・キッセ
第9回	行為者論:身体論から合理的選択論へ	合理的選択・殺人の事例・ドラッグの合法化
第10回	社会的コントロール論と自己コントロール論	ハーシ・社会的絆・自己コントロールをめぐる論争
第11回	ライフコース論の視点	サンプソン・キャリア・転機
第12回	総合理論の視点	コントロール・バランス理論
第13回	社会統治の技術	フーコーの統治理論・ゴフマンのアサイラムの研究
第14回	現代社会のコントロールの動向	厳罰化・脱施設化・ガーランドの理論
第15回	まとめ:社会秩序の在り方	逸脱に対する制度設計・討論

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業中に紹介する文献・資料はできるだけ図書館を利用して自習することが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	100 %	授業の最後に出す課題に対して、学んだ知識を活用して、レポートがどれだけ的確に作成されているのかによって評価。

ひとつのテーマが終わるたびに質問紙を配布するので、積極的に質問をしてほしい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
逸脱とコントロールの社会学	宝月　誠／有斐閣／4-641-12227-x／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会的コントロールの世界	宝月誠・進藤雄三／世界思想社／4-7907-1108／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

E-mailで

その他 / Others

比較ジェンダー論（S）

12926

担当者名 / Instructor　中川 順子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「社会的文化的につくられた性差」－ジェンダーによって、個々人の生き方が制約され、その能力の開花を妨げられる状況が依然として存在する。この状況は、日本国内でも、世界的にも、一様ではない。歴史や文化・宗教、国際関係などによって、それぞれの地域では、ジェンダー状況のあり方、すなわちジェンダー秩序の差異があり、それは女性の生きやすさの差異として現れる。この講義では、主に、先進国を対象として、比較福祉国家類型論を手がかりとしてジェンダー秩序の差異をとらえる。

到達目標 / Attainment Objectives

社会を組織する軸のひとつがジェンダーであり、私たちの周りを取り巻く様々な場面はジェンダー秩序として理解する。さらに比較福祉国家論の枠組みと、フェミニストによるその批判的展開を参照しながら、欧米先進諸国について比較する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

ジェンダー、家族、福祉国家などに関連する科目。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入・国連にデータにみる各国の女性の地位	ジェンダー・エンパワーメント
2	日本のジェンダー状況	家族・職場・地域における性別分業の固定化状況 家族・職場・地域における性別分業の固定化状況
3	比較ジェンダー論の考え方	ジェンダー状況・ジェンダー秩序
4	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（1）
5	比較ジェンダー論の方法　その1　福祉国家類型論の活用一続き	G. エスピン-アンデルセン、福祉供給の類型とジェンダー（2）
6	比較ジェンダー論の方法　その2　ジェンダー視角からのG. エスピン-アンデルセンの批判的検討	フェミニスト・脱商品化批判・脱家族化
7	比較ジェンダー論の方法　その3　ジェンダー視角からの福祉国家モデル	フェミニスト、男性稼得者モデル・個人モデル
8	欧米諸国のジェンダー秩序　その1	北欧・社会民主主義レジーム・ノルウェー
9	ノルウェーの最近の到達点　ビデオて	男女平等法の修正　企業の役員会　ジェンダーによる割り当
10	欧米諸国のジェンダー秩序　その2	自由主義レジーム・アメリカ
11	アメリカの男女平等　ビデオ	アメリカ　公民権法　セクハラ　同一労働同一賃金
12	欧米諸国のジェンダー秩序　その3	大陸ヨーロッパ　ドイツ
13	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その1	生活の共同　サードセクター　典型としての日本
14	新たな福祉国家類型の提案をめぐって　その2	リベラル・ライン　ニーズの多様性　ユニバーサル・サービス
15	まとめ一日本社会のジェンダー状況一なぜ前進しないのかー	少子化・働きかたの見直し・男女共同参画社会

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義で紹介する文献・サイトを積極的に活用して理解を深めて欲しい。時事的要素もあるので新聞に目を通して欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	論述試験を主とする。講義内容の理解度を総合的にみる。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義は、テーマを研究するための、興味への引き金、あるいは足がかりに過ぎない。興味を抱いた諸君は、参考文献に積極的により組んでほしい。

教科書 / Textbooks

テキストは使用しない。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ジェンダー秩序	江原由美子／勁草書房／4-326-65251-0／
ジェンダーと権力	ロバート W. コンネル／三交社／4-87919-117-5／
福祉資本主義の三つの世界	エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6／
比較福祉国家論	岡沢・宮本編／法律文化社／4-589-01997-3／
福祉国家とジェンダー	大沢真理編／明石書店／4-7503-1850-7／

上記は、テキストにかわる基本文献である。
レジュメに記載するその他の文献をも、できるだけ目を通してほしい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

レジュメに記載する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

次のアドレスに連絡：jkn-aka@r5.dion.ne.jp

その他 / Others

比較スポーツ論（S）

15405

担当者名 / Instructor　金井 淳二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

『スポーツに込められた社会の思い = いかにしてスポーツは生み出され展開されてきたか』

様々な国で様々に展開されるスポーツは、それぞれかってに生み出されてきたのではない。自国から生みだしたにせよ、また他国から受け入れてきたにせよ、それぞれの時代的背景がある。そのことが、スポーツに独特な思想と制度を付与させていくことになる。英・米・日のスポーツについて、その競技形態・ルールや規範・組織機構などを、そのスポーツを生み出した社会・経済的背景とあわせて比較し、今後のスポーツ受け入れ・交流のあり方を考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

この授業の中で、まず自分なりの問題意識を発見することが必要です。そして、比較を通じてどう違うかだけでなくなぜ違うのかが考えられるようになることが必要です。最終的には「スポーツとはこういうものだ」といった自分なりのスポーツ観を明確にもてるようになることをめざします。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

産業社会学部に開講されているスポーツ関連専門科目をできるだけ多く受講し、それらと関連づけて学習してほしい。少なくとも教養科目のスポーツ方法論やスポーツと現代社会、およびスポーツの歴史と発展を履修していることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	比較スポーツの視角	脱工業化社会／文化の比較法／比較の枠組み
第2回	近代オリンピックスポーツ比較の課題	巨大化／商業化／アマチュアリズム／プロ化
第3回	スポーツの母国イギリス（その1）	市民革命とブルジョアジー／資本主義と民衆スポーツ
第4回	スポーツの母国イギリス（その2）	アマチュアリズム／近代スポーツの階級性／スポーツの私事性と公共性
第5回	スポーツの母国イギリス（その3）	大衆化と高度化の矛盾／近代オリンピック
第6回	スポーツの母国イギリス（まとめ）	
第7回	スポーツの王国アメリカ（その1）	植民地時代／プロテスタンティズム
第8回	スポーツの王国アメリカ（その2）	南北戦争／過剰労働力／能力主義
第9回	スポーツの王国アメリカ（その3）	スペクテイターとコマーシャリズム／ローカリズムとナショナリズム／アメリカ主義
第10回	スポーツの王国アメリカ（まとめ）	
第11回	日本的スポーツ（その1）	英米スポーツの日本的受容／スポーツの普及と学校教育
第12回	日本的スポーツ（その2）	農耕祭祀／封建権力／武術と武道
第13回	日本的スポーツ（その3）	スポーツにおける日本的なもの／日本的スポーツの国際化
第14回	日本的スポーツ（まとめ）	
第15回	スポーツのグローバリゼーション（全体のまとめ）	スポーツの歴史性・社会性／スポーツ発展の法則性と蓋然性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

スポーツ学は学際的であるので、授業の中で関係があるなと思ったらスポーツ関係の書籍だけでなく、歴史・経済・文化その他の書籍を幅広く読み、理解を深めてほしい。また、新聞のスポーツ欄ばかりでなく政治や経済・文化欄にも常日頃から目を向けておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	100 %	基本的な述語の理解を軸にして授業内容全体の理解度および独自な考察視点の有無を重視する。

定期試験を必要十分条件とするが、クラス規模によっては毎回授業内容についてのコメントを提出してもらうことがある。その場合は記述内容を必要十分条件プラスアルファとして評価に反映させる。このことは授業の初期に説明する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

教室でレジメ・資料を配布する。とくにテキストとするものは使用しない。

参考書 / Reference Books

参考文献は授業の中で紹介して行く。とりあえず、創文企画から出版されている“スポーツ文化シリーズ”のいくつかを読んで欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

比較宗教論（S）

12805

担当者名 / Instructor　高木 正朗

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間の普遍的行為（生き、他者を愛し、死を迎える）への対処法を、比較宗教の視点で通文化的に考察し、個々の価値を信じる他者を理解する。

到達目標 / Attainment Objectives

人間はだれでも、有為転変するこの世間で、軽蔑をうけ不安のなかで生きるよりも、誇りと自信をもって生きるほうが、よほど快適である。そのための「知恵」は、人類が長期にかけて蓄積してきているので、われわれはそれを古典から容易に入手できる。世界の宗教・思想が定式化した知恵を素材とし、自分の生き方を形成していけば、個として「現在を生きる力」を構築することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	文化圏とエートス、セクト、支配の諸類型、3つの徳性（合理・論理・倫理性）
2	中国・東アジア文化圏の宗教（1）：氏族と「個」の葛藤（1）	「論語」の世界：孔子「仁＝博愛」の発見、魯迅「阿Q正伝」、師弟関係、葬儀
3	中国・東アジア文化圏の宗教（2）：氏族と「個」の葛藤（2）	「孟子」の世界：4端説、孝道にみる「古代的心性」、宗法と国法
4	中国・東アジア文化圏の宗教（3）:血の連帯、「社会」と「個人」の欠如	◎VTR－1『客家：土楼の生活』＋ 小ペイパー（communication paper）
5	中国・東アジア文化圏の宗教（4）：アジア的知識人と隠遁	「老子」「荘子」の世界：玄牝、無為自然、混沌・幽玄、「胡蝶の夢」、逃げるが勝ち
6	インド・ヒンドゥー文化圏（1）：民族移動と哲学創成	ウパニシャッドの世界：アーリア人（「リグ・ヴェーダ賛歌」）、アートマンとブラフマン、バラモン
7	インド・ヒンドゥー文化圏（2）：民族移動と言葉の誕生（印欧語族とノストラ祖語）	◎VTR－2『言語の起源』（印欧語族を中心に）＋ 小ペイパー
8	インド・ヒンドゥー文化圏（3）：ダルマ・アルタ・カーマ	「マヌの法典」の世界：人生の5周期、euthanasia、疎林と錬行、マヌ法典の女性
9	インド・ヒンドゥー文化圏（4）：出家とニルバーナ（1）	ブディズムの世界：釈迦「苦の発見」、諸学習合、密林と輪廻転生、日本仏教
10	インド・ヒンドゥー文化圏（5）：出家とニルバーナ（2）	◎VTR－3『ブッダの生涯』（バラモン、ヒンドゥー教との相違）＋ 小ペイパー
11	ユダヤ・キリスト教文化圏（1）：部族宗教の論理	「旧約聖書」（映画「十戒」））の世界：モーセ、十戒、「罪の発見」（Ⅰ）
12	ユダヤ・キリスト教文化圏（2）：「世界宗教」の論理（1）	「新約聖書」（映画「パッション」）の世界：ユダヤ教の隘路とキリスト教、「罪の発見」（Ⅱ）
13	ユダヤ・キリスト教文化圏（3）：「世界宗教」の論理（2）	「新約聖書」（映画「ヴェニスの商人」）の世界：キリスト教の隘路、ユダヤ問題（ディアスポラ）
14	ユダヤ・キリスト教文化圏（4）：「世界宗教」の論理（3）	◎VTR－4『ヴェニスの商人』（キリスト教徒とユダヤ人）＋ 小ペイパー
15	ギリシア・ローマ文化圏：ヨーロッパ文明の基礎　講義の結論／宗教とは何か？　それは役にたつのか？	「イーリアス」「オデュセイア」の世界：古代人の生と死、来世・葬儀・墓参 ◎ギリシアJPG画像

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	筆記による回答を以下の3点で評価。1）設問に対する回答の妥当性＝講義の理解度、2）「自分のことば」で記述、3）丁寧な文字で記述。
平常点評価	20 %	「小ペイパー」による理解度評価。

授業進行上の理由・その他の事情で、講義スケジュールやVTR・DVD視聴日に変更が生じるときは、事前に教室でアナウンスします。必要に応じて出席をとり、受講実数を把握していきます。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

上記「授業スケジュール」に挙げた映画・小説・エセー・古典を、下記「参考書」に挙げた本を、できるかぎりみておくことを勧めます。国際社会で活躍するとき、共通の話題にできるでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
思想をどうとらえるか―比較思想の道標―	中村元／東京書籍 ／4-487-72157-1／世界思想の核心をわかりやすく解読
孔子・老子・釈迦「三聖対談」	諸橋轍次 ／講談社学術文庫 ／4-06-158574-6／東アジアの比較宗教を論じた名著
ヨーガ禅道話	佐保田鶴治／人文書院／4-409-41008-3／仏教・ヒンドゥー思想の血肉化の一典型を示す著書
福音書	塚本虎治訳／岩波文庫 ／4-00-338031-2／イエス・キリストの行動記録（生涯がわかる
古代ローマ人と死	K. ホプキンス／晃洋書房／4-7710-0896-5 ／ローマ人の生活・死・葬儀・墓地墓石
古代ギリシア人と死	R. ガーランド ／晃洋書房／978-4-7710-1998-0 ／アテナイ人の生活・死・葬儀・墓地墓石

その他は「授業スケジュール」に挙げた映画、小説、エセー、古典。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

用語、その概念などは「世界宗教大事典」で確認するとよい（yahoo, googleによるキーワード検索は、あくまで第１次情報とし、「辞書・辞典類」に依拠すること）。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

◎VTR・DVDは、上記より適切なものがあれば、可能なかぎり予告の上で、変更することがあります。
◎配布レジュメは、①当日分は教室で配布。②残りは、次週まで（１週間）以学館レジュメboxにおかれる。

比較文化論（S）

15365

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「恥の民族論−日本文化論とネパール先住民文化の比較−」

近年、日常の様々な場面で「恥じ知らず」な行為が目につく、日本人は「恥の感覚」を失った、といった論調が様々なメディアで目立つようになった。そして、日本人は文化人類学者によって「恥の文化」を持つとされたが一体どうしてしまったのか、とか、「恥の文化」の再生は今日の日本の課題である、といった議論がしばしばそれらに続く。確かに人間関係に関わる「恥」は社会にとって重要な問題である。だが、日本文化は「恥の文化」と言えるのか、そもそも「恥」とは何か、という検討は、十分になされているとは言い難い。

一方「恥の文化」を持つのは日本人だけではない。ネパールやインドにも「恥の民族」とされる人びとがおり、それらの文化も今日大きく変容を遂げつつある、とされる。

本講義では、「恥の文化」を中心に日本文化論を再検討する。さらに、ネパールの民族文化論を取り上げ、その比較検討から「恥の民族」の根底を問い直していく。また、その他の「恥」に関わる議論も取り上げ、「恥」の現代的意味や「恥の民族」の可能性について考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化を比較することの問題と可能性を理解する。
・国民性論の問題点と可能性を理解する。
・日本文化論やネパール社会論の基本的知識を身につける。
・個別文化の理解や記述といった民族誌的な課題を理解する。
・文化人類学の理論と政治、倫理との関わりを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、「恥」の文化について論じながら、文化人類学における国民性研究、文化相対主義、権力・イデオロギー論、近代論といった理論的立場に焦点を当てる。文化人類学や文化研究に馴染みのない学生には、あらかじめ「文化人類学入門」、「文化人類学S」、「エスニシティ論」を履修しておくことを勧めたい。また、本講義の履修後でも、それらの受講により、文化人類学の広範な議論を俯瞰し、そのなかに本講義を位置づけることが可能になる。履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「恥」をめぐる今日の課題	恥と現代社会、日本とネパール
2	「日本文化論」の祖型を考える	マルコ・ポーロのジパング、ジャポニスム的言説
3	文化の表象とオリエンタリズム	サイードのオリエンタリズム批判、フーコーの言説、グラムシのヘゲモニー
4	100年前の日本	ナショナル・ジオグラフィック、表象の時代性
5	国民性研究とその問題	ベイトソンによる国民性論、対称型、相補型関係
6	「文化の型」とその問題	文化とパターン、アポロンとディオニソス
7	文化相対主義とその問題	成人儀礼の多様性、サバルタンとは何か
8	日本文化論を読む1	ベネディクト、菊と刀、恥の文化と罪の文化
9	日本文化論を読む2	中根千枝、タテ社会の人間関係、資格と場
10	日本文化論を読む3	土居健郎、甘えの構造 、父性と母性
11	日本文化論とイデオロギー	ベフハルミ、イデオロギーとしての日本文化論
12	文化のイデオロギーとその解釈	アルチュセール 、ギアツによるイデオロギーの把握
13	ネパール先住民の「恥の文化」	先住民チェパン、親族関係、互酬性と再分配
14	「恥の民族」の可能性	アウシュヴィッツにおける恥、絶対的受動性、証人
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

授業時間外にも講義に関連した文献を

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では文化論を要約して紹介するのではなく、文化論のテキストを出来るだけ丹念に読み込んでいく。要領よく決まったことを理解するのではなく、批判力な読解力が求められる。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
菊と刀	ベネディクト R. ／講談社／／日本文化を恥の文化とした古典
タテ社会の人間関係	中根千枝 ／講談社／／日本社会をタテ社会とした論攷
甘えの構造	土居健郎／弘文堂／／日本文化の根本に甘えがあるとした論攷
イデオロギーとしての日本文化論	ハルミ・ベフ ／思想の科学社／／日本文化論全般についての批判的検討
アウシュヴィッツの残りもの	アガンベン G. ／月曜社／／恥についての論攷を含む

教科書は用いないが、下記の図書のうち前三者は入手しやすいので、できれば購入して参考にして欲しい。講義では、前三者を通常とは異なる今日的な「読み替え」をおこなっていく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

表象文化論（S） § 芸術表現論（S）

15466

担当者名 / Instructor　仲間 裕子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

美術作品にどのように時代の観察の眼が反映しているのか。本講義は観察者の存在を重視した17世紀オランダ絵画を出発点として、近代の自然描写を中心に社会史・思想史のコンテクストにおいて考察する。ヘダ、レンブラント、フリードリヒ、マネ、モネ、セザンヌ、ゴーギャン、ピカソ、カンディンスキー、モンドリアン、ポロック、ボイス、リヒター、キーファー、杉本博司など17世紀から現在までの絵画、写真作品、および展覧会を対象として、近代以降の観察者の立場の変容を考察し、今日の視覚文化の諸前提を問う。

到達目標 / Attainment Objectives

美術、芸術作品の主題を読み取り、時代の思想・世界観を知る。
主観的な感情移入や解釈を排し、客観的に作品を観察する力、ひいてはイメージに対する批判的思考力を養う。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の全体像	芸術作品における観察の眼と自然観における歴史的経緯
第2回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　静物画
第3回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　肖像画
第4回	観察の眼	17世紀オランダ絵画　風景画
第5回	近代の自然観	近代の風景像の概観（1） 美術史、美学における自然観―カント、アドルノ、リオタール他
第6回	近代の自然観	近代の風景像の概観（2） 美術史、美学における自然観―ベルティング、ベーメ他
第7回	近代の自然観	19世紀初期　ドイツ・ロマン主義
第8回	近代の自然観	19世紀後期　印象主義
第9回	近代の自然観	19世紀後期　ポスト印象主義
第10回	近代の自然観	19世紀末　象徴主義
第11回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第12回	近代の自然観	20世紀前期　抽象絵画
第13回	近代の自然観	20世紀後期　抽象表現主義
第14回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート
第15回	近代の自然観	20世紀後期～21世紀　コンテンポラリーアート

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	数回の小レポートを総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

美術館、博物館などで、オリジナル作品を観察することを習慣づけ、
芸術作品を趣味ではなく、研究、調査の対象として捉えたレポートを評価する。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
C.D.フリードリヒ：「画家のアトリエからの眺め」――視覚と思考の近代	仲間裕子／三元社／／
ドイツ・ロマン派風景画論：新しい風景画への模索	神林恒道・仲間裕子／三元社／／
世界美術大全集（西洋編）	／小学館／／
描写の芸術：一七世紀のオランダ絵画	スヴェトラーナ・アルパース著；幸福輝訳／ありな書房／／
「思想」 2009年10月号	仲間裕子他／岩波書店／／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

文化人類学（S）

12808

担当者名 / Instructor　橘 健一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「資本主義と伝統文化」

資本主義が世界中を覆い尽くす今日の社会では、「世界が狭くなる」ことで逆に、「民族」文化の個性が求められる。それにしたがい日常の様々な場面で「民族らしさ」や「伝統文化」の重要性が論じられるようになる。そうした状況で、資本主義やグローバル化と「民族」の「伝統文化」は対立したものとして捉えられがちで、時には、対立を強調した民族主義的な主張が突出し、資本主義によるグローバル化（あるいはアメリカ企業による「アメリカ化」）を敵とするテロさえ起きる。9.11同時多発テロもそうした一例と考えられる。だが、そのようなステレオタイプ化した語りの中で、資本主義とは何か、「民族」とは「伝統文化」とは何か、問うことはほとんどない。

本講義では、「民族」やその「伝統文化」、資本主義の成り立ちについて、文化人類学、特に構造主義の立場から検討する。そのなかで、「伝統文化」と資本主義が対立せずに、接続される地点を示し、今後の文化のあり方を考察したい。

到達目標 / Attainment Objectives

・文化人類学の理論（構造主義以前）の概要を理解する。
・「構造主義（関係論）」がどのような理論か、「構造分析」がどのような方法か理解する。
・「伝統文化」と資本主義の構造とその問題を理解する。
・「文化」、「民族」という枠組みの多様性や歴史性を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義では、文化人類学の理論的な議論が多くなるので、本講義の履修前に（不可能なら履修後でも）「文化人類学入門」を履修し、文化人類学理論の基本を学んでおくことを推奨する。さらに「エスニシティ論」、「比較文化論」を受講すれば、文化人類学的な素養を幅広く身につけることができるので、履修を勧めたい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	資本主義の広がりと伝統への回帰	グローバル化と自由、伝統秩序の崩壊、テロリズム
2	文化とは何か	自然と文化、文化進化論とは何か、機能主義とは何か
3	構造主義と関係論	「構造」概念について、記号の構造、生物の形態、意味の構造
4	神話の構造	二項対立、文化と両義性、トリックスターとは何か
5	儀礼の構造	通過儀礼、コムニタス、試練と暴力がもたらすもの
6	身体加工の構造	身体変工を考える、人間はなぜ服を着るのか
7	贈与と貨幣の構造	贈与の霊とは何か、ゼロ記号、原始貨幣と通貨
8	市と資本主義の構造	沈黙交易、交易港、大航海時代とグローバル化
9	産業社会の構造	フォーディズム、フルライン政策、規格化
10	ファッションの構造	ファッションという表現、美しい身体の誕生、個の過剰
11	民族＝国民の構造	国民国家とは何か、ナショナリズム、人種差別の問題
12	複製文化の構造	アウラの喪失、モンタージュと意味
13	文化相対主義の構造	マリノリティ、先住民の権利獲得、異文化交流の可能性
14	全体のまとめと討論（伝統文化と資本主義の接続可能性）	現代社会と文化
15	確認テスト（約60分）と解説（約30分）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義理解の補助となる文献を適宜、紹介するので、参考にすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	授業期間中に講義の内容に関する確認テストをおこなう（第15回目に行う予定）。 毎回コミュニケーション・ペーパーを配布。講義への質問を受け付け、課題を出すこともある。授業への参加度を評価する（毎回3点まで）。その他に授業時間外の課題を出すこともある。 以上の確認テスト、授業への参加度、課題を併せて評価を行う。

課題や確認テストの内容や期日については、授業中に指示するので注意して欲しい。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義では映像資料を提示し、抽象的な概念や考え方を解説する。抽象度の高い議論を理解するために、参考文献をしっかり読み込むこと。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
はじめての構造主義	橋爪大三郎 ／講談社現代新書／／構造主義全般の理解に役立つ
文化人類学15の理論	綾部恒雄編 ／中公新書／／文化人類学の理論全般を見通す
精神と自然	ベイトソン G.／新思索社 ／／関係論の理解に参考
神話と意味	レヴィ＝ストロース ／みすず書房 ／／神話の構造分析の入門書
レヴィ＝ストロース入門	小田亮／ちくま新書 ／／レヴィ＝ストロースの構造主義の解説書

その他の参考書については、必要に応じて指示する。
なお、本講義では用いないが、「文化人類学入門」の教科書（『フィールドワーク教育入門』原尻英樹、玉川大学出版部、『文化人類学の方法と歴史』原尻英樹、新幹社）を受講者の判断で各自参考にして欲しい。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ktt21323@pl.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

コーオプ演習（GA） § コーオプ演習（IA） § インターンシップ演習（LA） § 政策科学特殊講義（コーオプ演習）（P1） § 特殊講義（コーオプ演習）（WA）

51806

担当者名 / Instructor　加藤 敏明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。具体的には、後期セメスター期間を通じて企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム（5名程度）が取り組む実践的で自律的な学習プログラムです。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は3月下旬～4月頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料（1万円）の納入が必要となります。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオプ教育（Cooperative Education）に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）が夏期集中講義として開講されます。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）、「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
（開講前）	【学内公募】	①参加企業からの課題が2009年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2010年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考（リポート、面接）が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
	【リスクマネジメント研修等】	7月3日（土）衣笠、4日（日）BKC共12:50～16:10に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修等」を受講します。 。
（開講）	【学内研究会】	6月下旬～7月上旬（6月下旬※大学院生のみ対象、7月3日（土）衣笠10:40-12:10、7月4日（日）10:40-12:10）に第1回（チームの顔合わせ、課題・会社研究）が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【企業研修】	8月上旬-9月下旬（予定）に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修（インターンシップ）を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	9月5日（日）に、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	10月上旬（予定）に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【中間発表】	11月上旬（予定）に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	【成果発表】	2010年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】	2011年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはグループワーク形式で別途総括授業を行います。
【報告書作成】	2010年度内に、チーム単位で報告書を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出（随時）、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員（加藤）が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント（ミレニアム版）	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤（katoshi@fc.ritsumei.ac.jp）まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

コーオプ演習（GB）§　インターンシップ演習（LB）§　政策科学特殊講義（コーオプ演習）（P2）§　コーオプ演習（IB）§　特殊講義（コーオプ演習）（WB）

51807

担当者名 / Instructor　廣瀬 幸弘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本演習は、学生の自主的学習活動であるインターンシップを基本としています。事実上、半年間に及ぶ長期で高度な産学連携による学習プログラムです。

後期セメスター期間を通じて、企業等の抱える現実の課題に大学院生と学部生で編成されたチーム（5名程度）が取り組む実践的で自律的な学習プログラムであること。課題の解決にはチームメンバー各々の専攻学問をもとにあたりますので、所属する学部の学びの再検証につながります。また、大学院生がリーダーシップを発揮しチーム運営にあたるほか、チームメンバーも多様な学部構成となりますので、レベルの高い学習活動が展開されます。

本演習は4月中旬～5月頃に募集と選考を行います。詳細は3月下旬～4月頃にガイダンスを行いますので、学部事務室の掲示板またはインターンシップオフィスで日程を確認してください。なお、選考合格後には履修料（1万円）の納入が必要となります。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

演習名の「コーオプ」とは、産業界と大学が連携して次代を担う人材を育成する高度な学習プログラム、コーオプ教育（Cooperative Education）に由来しています。

名称にふさわしく、演習全体を通じて、①学習成果を専攻学問にフィードバックし発展的な学びにつなげる、②知識基盤社会に向けて求められる高い問題発見・企画立案能力の涵養、③教室では容易に学び得ない自律的な学習意志・姿勢の確立、などを目指します。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本演習をサポートする講義として、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）が夏期集中講義として開講されます。

また、本演習は全学型キャリア教育科目にも位置づけられていて、同じ科目群の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目、衣笠・BKC開講）、「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目、衣笠・BKC開講）の受講も望まれます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
（開講前）	【学内公募】	①参加企業からの課題が2009年度末に出揃います。②ただちに学内公募が2010年4～5月頃にかけて行われます。③学内選考（リポート、面接）が行われ受講生が6月中旬頃に決定します。定員は各チーム、大学院生1名、学部生4名を基本とします。
	【リスクマネジメント研修等】	7月3日（土）衣笠、4日（日）BKC共12:50～16:10に実施される、全学インターンシップ・プログラムの「リスクマネジメント研修等」を受講します。
（開講）	【学内研究会】	6月下旬～7月上旬（6月下旬※大学院生のみ対象、7月3日（土）衣笠10:40-12:10、7月4日（日）10:40-12:10）に第1回（チームの顔合わせ、課題・会社研究）が、9月下旬から年末まで原則として毎週、授業形式で学内研究会が両キャンパスで行われます。内容は、チームによる自主的学習活動です。
	【企業研修】	8月上旬-9月下旬（予定）に会社研究を目的に、原則2日間で参加企業に出向き研修（インターンシップ）を行います。初日、夏期休暇期間中にチームで取り組んできた会社研究発表を行います。
	【企画立案研修】	9月5日（日）に、企画立案に関する基本的なノウハウを習得します。
	【プレゼンテーション研修】	10月上旬（予定）に、専門家を学外から招き、企業研修における会社研究発表、中間発表および成果発表に備えたプレゼンテーションスキルの学習を行います。
	【中間発表】	11月上旬に、専攻学問を生かした問題発見・課題解決の企画立案発表を、原則として大学で行います。発表をもとに課題提示企業関係者との間で活発な意見交換がなされ、成果発表に向けて最終的な方向性の確認を行います。
	【成果発表】	2010年末、中間発表で得られた意見や評価をもとに、何回かの学内研究会を経て、より発展的かつ実現可能なものへ内容を高めた成果発表を行います。発表は原則として、課題提示企業に出向き行います。企業側からは幹部社員などが多数参加し、忌憚のない意見や評価がなされます。

【総括評価】	2011年1月初旬の学内研究会で、自己評価と他者評価を通じた総括評価を評価シートをもとに行うほか、リーダーに関してはヒアリング形式で別途総括評価を行います。
【報告書作成】	2010年度内に、チーム単位で報告書を作成します。報告書は受講生にも配布されますので、就職活動などに大いに活用できます。

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本演習を通じてビジネス社会と長期間にわたり接触し、多くの社会人と交流することになるわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、参加企業に関わる記事は見落とさず、しっかり目を通すようにしましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①学内研究会や各種研修への出席状況と学習姿勢、②各種レポートの提出（随時）、③中間発表、成果発表における取組み姿勢、④成果発表における受入者評価、⑤報告書、の5要素をもとに総合的に評価します。学内研究会や各種研修に出席するだけではなく、自律的に学ぶ姿勢を身につけてほしい。

評価のうち日常点は、毎週実施される学内研究会および演習に組み込まれた各種研修への出席状況、参加企業で行われる企業研修での学習姿勢、発表内容、さらに各種提出物をもとに総合的に判定されます。中でも出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。日常点評価に加え、報告書の内容を検証し、コーディネーター教員（廣瀬）が最終的な成績評価を行います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

本演習は「授業の概要」でも記したように、基本はインターンシップです。ですから、受講生自らがチーム力を結集して最大限学び取ろうという強い意志の上に成り立つ学習プログラムです。過去の事例でも、「誠実な取組み姿勢が若手社員の強い刺激になった」、「大学生のレベルとは思えない優れた立案力」など、能動的な学習姿勢と成果に対して高い評価が数多くなされました。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「キャリア教育の現場から～日本型コーオプ教育の実践と指導法、評価～」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／日米のキャリア教育、インターンシップ比較考察の上で、日本型コーオプ教育の概念整理と実践を論述。
「立命館大学型コーオプ教育の確立に向けて」、『立命館高等教育研究』	加藤敏明／立命館大学／／コーオプ教育をめぐる動向とともに、コーオプ演習が誕生するまでの経緯を紹介。
インターンシップ産学連携教育白書	／産学連携教育日本フォーラム／／国内外のコーオプ教育に関する取り組み、動向に触れた貴重な一冊。
アメリカの産学連携	宮田由紀夫／東洋経済新報社／／産学連携の先進地、アメリカにおける理論的考察と歴史的解析の書。
コトラーのマーケティング・マネジメント（ミレニアム版）	フィリップ・コトラー／ピアソン・エデュケーション／／問題発見、企画立案の基本書として世界に認められる書。

コーオプ演習の事前学習として役立ちそうな5冊を挙げました。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

課題提示企業の公式ホームページは、受講前に必ずチェックしてください。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

本演習に関わる質問は、コーディネーター教員の加藤（katoshi@fc.ritsumei.ac.jp）、または廣瀬（hirop-se@fc.ritsumei.ac.jp） まで問い合わせてください。

その他 / Others

衣笠、BKCともに開設されている「インターンシップオフィス」は、情報の宝庫です。情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

企画研究（SA） § 企画研究（自主企画研究）（SA）

14154

担当者名 / Instructor　文 楚雄、野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この企画研究の授業は、教員の指導の下に中国の文化や社会について、学生がそれぞれの関心領域やテーマを設定して、前期の学習、夏休みにおける蘇州大学での特別講義の受講や現地調査及び後期のレポート作成向けての学習の三セクションの勉強を通じて、激変している中国の社会や文化に対する認識を深めると同時に、実用の中国語会話も身につけていくことを目標とする。

前期では、自主的学習や研究を行うと同時に、8回ほどの授業を予定している。夏休みの9月17—23日（予定）は中国の蘇州市へ出かけ、現地調査を行う。と同時に、蘇州大学の教授による特別講義3回を受ける。また、蘇州大学の学生との交流も大いに進めていく。蘇州は二千数百の歴史持つ古い街であると同時に、最先端な工業都市でもある。日本企業が300社あまり進出している。日系企業の調査・見学も視野に入れていく。蘇州大学での特別の講義、蘇州の現地調査などは授業3回分に換算する。後期では、前期の学習、夏休みの現地調査を踏まえて、研究課題を整理学習し、レポート作成の作業を進めていく。レポート集を作る予定。後期では4回程度の授業を予定している。

到達目標 / Attainment Objectives

中国の社会や文化に対する認識を深めることができる。
実用の中国語会話も身につけていく。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	この授業の性格、内容、達目標などの説明。各自の関心領域やテーマの設定	
第2回	各自の関心領域やテーマの設定、紹介	
第3回	関心領域の先行研究の調査	
第4回	研究討論、言葉の学習	
第5回	研究討論、言葉の学習	
第6回	研究討論、言葉の学習	
第7回	蘇州についての学習	
第8回	上海についての学習	
第9回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（1）を受ける	
第10回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（2）を受ける	
第11回	蘇州市の現地調査、蘇州大学の特別講義（3）を受ける	
第12回	現地調査を踏まえた研究討論（1）	
第13回	現地調査を踏まえた研究討論（2）	
第14回	レポート作成の討論学習	
第15回	レポート集の完成・編集	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	現地調査、普段学習50%、最終レポート50%

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

中国語の能力を問わないが、現地へ行って学んでみたい、現地の大学生と交流してみたいという意欲のある者を優先する。中国を訪問して見たい、現地の人々と中国語を使ってみたいという動機の強い者はこのパートに応募してください。

中国現地調査のための渡航費用は10万円程度が必要である。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SB） §　企画研究（自主企画研究）（SB）

14155

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

カナダのキルバーガー兄弟が作成した『テイク・アクション』（アクティブ・シティズンシップの入門書）の日本版を製作する。

到達目標 / Attainment Objectives

ボランティア活動、NPO活動、社会的企業家活動などにおいて、輝いている若者たちに、インタビューを試み、それらデータにもとづき、日本版『テイク・アクション（仮題）』ドラフトを作成し、立命館宇治高校の生徒・先生などとのワークを通じて、さらに、改善して、2011年春の出版を目指

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回～第5回	昨年の企画研究で翻訳を試みた『テイク・アクション』の読解およびチェックとキルバーガー兄弟『Me to We』の読解。	
第6回～第10回	輝いている若者たちに対するインタビューの実践、原稿の検討会の実施とリライト	
第11回～第15回	立命館宇治高校とのワークの実施とドラフトの推敲	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

以上の進め方については、履修者と相談する。授業時間についても、履修者が参加できるように可能な限り調整しながら進めていく。
もちろん、授業時間以外のインタビューやワークの時間が取られることは、事前に了解しておいてほしい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会に通用する成果を追求するので、取り組みに向けたエネルギーはそれなりのものを要求される。しかし、きわめて、満足度の高い成果が期待できるので、アクティブな方には、ぜひ、参加してほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SC） § 企画研究（自主企画研究）（SC）

14156

担当者名 / Instructor　景井 充、高嶋 正晴、中西 仁

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市京北町をフィールドワークの対象地として、納豆づくりをはじめ、その他当該地域での農林業活動を体験し、それらを通じて地域の生活・産業を具体的に知るとともに、地域の経済的・社会的課題の発見と活性化に向けての可能性とについて、農商工連携の推進と食育をテーマに加え、調査研究と社会的実践を行う。

到達目標 / Attainment Objectives

本プロジェクトの活動を通じて、大学とNPO法人フロンティア協会との協働による地域活動について、各人の関心・テーマからフィールドワークや調査研究を行い、その成果を学内・学外で発表するとともに、年度末に成果報告書としてまとめる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが、フロンティ協会は学部インターンシップの受け入れ先でもあるので、NPOの活動に興味があれば申し込んで欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	はじめに　～京北プロジェクトの活動の概要および予定の確定～	
第2回	京北の概要　～現地視察から地域的特性を知る～	
第3回	京北の農業と納豆づくり①　～圃場の整備と大豆種まき体験～	
第4回	京北の林業と栃の木植林活動①　～植林現場の視察～	
第5～7回	京北の地域活性化活動の実施　～地域・NPO・大学の協働で～	（6月6日ホームカミングデーの一企画として、第3回「京北納豆フェスタ」開催とその企画策定・準備・運営、また、7月下旬には、京北での「カブトムシドーム」イベントのサポートも）
第8回	京北の農業と納豆づくり②　～大豆収穫体験～	
第9回	京北の歴史文化資源　～古城調査の実践から～	
第10回	京北の農業と納豆づくり③　～納豆作りと藁つと作りを体験～	
第11回	京北の林業と栃の木植林活動②　～栃の木植林を体験～	
第12、13回	大学の地域貢献事例の視察　～本学他学部の取組を中心に～	
第14、15回	学内外での活動成果報告（11、12月を予定：納豆フォーラムなど）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	講義への出席、活動への参加、および学内外のフォーラムでの成果報告など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

京北プロジェクトを中心として、フロンティア協会がアレンジする各種現地活動やボランティア活動への積極的参加、とりわけ、毎年の納豆フォーラムや栃の木フォーラムなど学内外での成果・活動事例の発表への参加を望みます（なお、フィールドワークや地域行事などは、土曜日、日曜日に実施することが多いので、なるべく多くの活動への参加ができるよう、留意して下さい）。
また、今年度は農商工連携をテーマに加えた活動を開始する予定なので、そうした分野への関心も持ってもらえるといいでしょう。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『聞き書京都の食事（日本の食生活全集　第26巻）』	「日本の食生活全集 京都」編集委員会（編）／農山漁村文化協会／／
『伝承写真館　日本の食文化　第8巻　近畿』	農文協（編）／農山漁村文化協会／／
『納豆本―やっぱり納豆が好き―』	／フロム出版／9784894472037　／
『農商工連携による「新地域おこし」のススメ』	後久博／ぎょうせい、2009年／／

参考になるWWW ページ / Web Pages Useful for Reference

・京北プロジェクトのブログHP「京北プロジェクト」 http://ritskeihoku.kyo2.jp/
・特定非営利法人フロンティア協会ホームページ http://www.nethousing.co.jp/frontier/
・京北商工会ホームページ http://keihoku.kyoto-fsci.or.jp/
など

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

京北プロジェクトの2009年度活動を報告する掲示板が以学館1Fにあります。納豆フェスタや納豆フォーラムを報じる新聞記事なども掲示されています。ブログやHPとともに、2010年度の活動の参考としてください。

企画研究（SD） § 企画研究（自主企画研究）（SD）

14157

担当者名 / Instructor　景井 充、坂田 謙司、高嶋 正晴、山口 歩

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SE） § 企画研究（自主企画研究）（SE）

14158

担当者名 / Instructor　金山 勉

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ作成を通じて学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようにすること、さらに(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。学生がデジタルコンテンツ制作を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映像コンテンツ制作に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（1）	映像の特性、音声の特性
第3回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（2）	映像表現の可能性、音声表現の可能性
第4回	映像・音声コンテンツ制作企画の立案（3）	ターゲットオーディエンス、プレシス
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（1）	プロダクションプランニング、ロケーションハンティング
第9回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（2）	カメラオペレーション、三脚
第10回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（3）	ズーム、ティルト、パン、
第11回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（4）	クローズアップショット、ミドルショット、ワイドショット
第12回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（5）	映像カメラによる音声収録
第13回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（6）	リニア編集、ノンリニア編集
第14回	映像・音声コンテンツ制作のためのロケーション、収録、編集作業（7）	ポストプロダクション
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

本企画研究はニクラスで構成されており、ひとつは金山が担当するコンテンツ制作部門、もうひとつはマネージメント部門（担当：坂田謙司教授）となっている。興味に応じて登録クラスを選択してください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①映像コンテンツ制作作品の完成度と②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定しない。

参考書 / Reference Books

特に指定しない。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

最初の講義時に提示する。

その他 / Others

企画研究（SF） §　企画研究（自主企画研究）（SF）

14159

担当者名 / Instructor　神谷 雅子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

前期は、映画宣伝とは何か、学ぶ。現在映画配給会社で宣伝を担当しているゲスト講師も予定。前期に学んだ映画宣伝の基本を、後期は受講生たちで決めた上映作品を、学内でどのように宣伝していくかを実践し、宣伝方法とその効果について検証する。研究成果については、ゼミナール大会で発表を行う。前期は隔週の授業だが、後期はほぼ毎週の授業となる。

到達目標 / Attainment Objectives

映画宣伝のノウハウを学び、その後の実践を通して、自分たちが企画したイベントを、どのように広告宣伝していくのか。イベントに足を運んでもらうことの難しさを体験的に学び、そのうえで、今後の様々な他の取り組み等にも応用できる力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

映画産業論、映像プロデュース論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	映画興行とは①	映画興行収入ランキングの意味
2	映画興行とは②	映画製作会社、映画配給会社、映画興行会社
3	映画興行における宣伝とは①	宣伝計画の立て方
4	映画興行における宣伝②	宣伝計画と興行結果
5	ゲスト講師　ギャガ株式会社関西営業所長　一色真人氏（立命館大学、産業社会学部OB）を予定	宣伝のノウハウ
6	上映作品の選定	
7	上映会の企画と宣伝計画の策定	
8	宣伝活動の進行状況の確認など	
9	上映会準備	
10	上映会準備	
11	上映会の結果のまとめ	
12	ゼミナール大会発表準備	
13	論文作成準備	
14	論文の完成、	
15	1年間のまとめリーフレットの作成	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	ゼミナール大会での発表並びに論文提出で、評価を決定する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

2回生から4回生まで、専攻の違うメンバーで、一つのことを取り組むことで、通常の講義とは違う発見があると思います。上映会の準備は、宣伝物づくりから行いますので、作業は大変ですが、喜びもまた大きいと思える人の受講を期待します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
映画館ほど素敵な商売はない	神谷雅子／かもがわ出版／9784780301342／映画館の役割り等

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講生と、メーリングリストを作成し、日常的に連絡できるようにします。

その他 / Others

企画研究（SG） § 企画研究（自主企画研究）（SG）

14329

担当者名 / Instructor　遠藤 保子、斎藤 真緒

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

京都市は、子どもから責任ある大人へ成長する青少年を支援することを基本理念に、2002年度、京都市ユースアクションプランを策定した。その支援とは、青少年が家庭、学校、地域社会等においてあらゆる場面への参加をとおして、社会と交わり、青少年の興味・関心を豊にし、青少年が必要として場合に助言、情報の提供や人的・物的資質が得られるような機会を提供するものである。このプランの実現にむけて京都市青少年活動センターでは、様々な事業が展開されている。2007年、上記プランの中間見直しが行なわれ、プランの改定版が策定された。そして2009年度、京都市は、第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）を策定中である。この授業では、これまでのユースアクションプランと新しいプランについて知り、京都市青少年活動センターの現状を様々な観点から検討したい。

到達目標 / Attainment Objectives

ユースアクションプランと青少年活動センターに関するレポートをまとめ、聞き取り調査を行い、プレゼンテーションを行なう。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	授業内容と到達目標に関する概要	
2回	京都市ユースアクションプラン（理念と基本方針1）の考察	
3回	上記プラン（基本方針2,3）の考察	
4回	上記プラン（基本方針4,5）の考察	
5回	上記プラン（改定版）の考察	
6回	第3次京都市ユースアクションプラン（仮称）の考察	
7回	出前講義：京都市役所青少年課関係者による上記プランの説明、質疑	
8回	出前講義：京都市ユースサービス協会事業部長による青少年活動センターの説明、質疑	
9回	中京青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査：現状と課題	
10回	中京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（DVや恋愛講座等）に関する調査	
11回	北青少年活動センターの調査1：センター全体に関する実態調査:現状と課題	
12回	北青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（サンタや伝記プロジェクト等）に関する調査	
13回	下京青少年活動センターの実態調査1：センター全体に関する実態調査	
14回	下京青少年活動センターの調査2：特徴的な事業（ミニミュンヘン、リーダーバンク等）に関する調査	
15回	上記センターに共通する課題とその解決策、まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ユースアクションプランと京都市青少年活動センターをさまざまな側面から検討する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SH） §　企画研究（自主企画研究）（SH）

14160

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本企画研究は企画研究SEと連携して実施し、マネージメントを中心とする。
本企画研究では、映像・音声コンテンツ制作に取り組む学生たちの自発的な創造意欲を尊重する中で、デジタルコンテンツを制作・加工する能力がどのようにしたら向上するかについて研究する。映像・音声コンテンツ制作に関わる中で、学部学生としての①アイデンティティ確立、②組織マネージメントに係る知識・技術の習得、さらに③コンテンツ制作に係る知識・技術の修得などを目指してもらう。

到達目標 / Attainment Objectives

企画研究が到達目標とするのは(1)学部の教学・広報に関わるデジタルコンテンツ制作のマネージメント作業を通じて、学生が主体的な学びのメッセージを発信できるようになること。(2)学部と学生の連携にもとづくデジタルコンテンツ作成の可能性についても研究する。
コンテンツ制作という実技面でなく、クライアントとの折衝や制作チームへの指示などを通じて、マネージメントという重要なスキルの獲得をめざす。学生がデジタルコンテンツ制作に関するマネージメント面を能動的な姿勢で学び、成長してゆく過程の中で、産業社会学部をはじめ、地域社会向けた情報発信の積極的な担い手となるためにはどのような環境が整備されるべきか、またどのようなコンテンツに対するニーズがあるのかについても、自発的に知覚でき、またコンテンツプロデュースができるような力をつけてもらいたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

デジタルコンテンツ制作に関するマネージメント業務及び制作作業に興味をもっている学生であれば、専攻を問わず積極的に参加して欲しい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義の概要説明（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第2回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（1）	他大学・類似学部の広報コンテンツ分析　何をどのように使っているのか？
第3回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（2）	産業社会学部の広報コンテンツ分析
第4回	学部広報用コンテンツ提案事前作業（3）	新しい提案に向けてのディスカッション
第5回	第一回合同会議（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	
第6回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（1）	
第7回	映像・音声コンテンツの制作企画案発表（2）	
第8回	企画案実現のためのマネージメント作業（1）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像1
第9回	企画案実現のためのマネージメント作業（2）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　映像2
第10回	企画案実現のためのマネージメント作業（3）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声1
第11回	企画案実現のためのマネージメント作業（4）	映像・音声コンテンツ制作のための技術を知る　音声2
第12回	企画案実現のためのマネージメント作業（5）	マネージメント作業の実際　スケジューリング
第13回	企画案実現のためのマネージメント作業（6）	マネージメント作業の実際　作業振り分け
第14回	企画案実現のためのマネージメント作業（7）	マネージメント作業の実際　マネージメントにとって何が一番重要か
第15回	まとめ・総括（コンテンツ制作オペレーション部門とコンテンツマネージメント部門の合同）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	①企画提案とマネージメント計画書の完成度、②学期末の報告書の二つを総合的に判断して評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SI）　§　企画研究（自主企画研究）（SI）

14330

担当者名 / Instructor　坂田 謙司

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

関西テレビ放送（関テレ）を対象に、テレビ放送の現状と将来についての考察を行う。学生を中心として、若者のテレビ離れは深刻である。テレビ視聴形式の多様化によって、リアルタイムでテレビを見る人たちが少なくなっている。しかし、テレビから完全に切り離されているのではなく、テレビへの関心自身は依然として存在している。そこで、学生のテレビに対する意識や視聴傾向を調査し分析することで、学生とテレビの関係を明らかにする。そこから「テレビとは何か？」という原点を考察することが本研究の目的である。

到達目標 / Attainment Objectives

①インタビューや取材を通じて、学生とテレビの関係を考察する。
②考察結果は3分程度の映像作品として制作し、関西テレビ関係者に対してプレゼンテーションを行う。
上記2つの作業を通じて、現代社会及びそこで生きるわれわれにとってテレビという存在とは何か？という疑問に対する自分なりの「回答」を導き出すことが出来る。また、この作業を通じて、自らの学びへとつながるヒントを得ることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	概要説明とテレビに関するディスカッション	ガイダンス
第2回	関西テレビ社員によるレクチャー（1）	テレビの現状
第3回	最終作品制作に関する準備（1）	作品イメージと作業内容
第4回	関西テレビ社員によるレクチャー（2）	企画作りとは
第5回	最終作品制作に関する準備（2）	企画案作成
第6回	関西テレビ社員によるレクチャー（3）	インタビュー取材とは
第7回	最終作品制作に関する準備（3）	インタビュー実践
第8回	関西テレビ社員によるレクチャー（4）	カメラワークとは
第9回	最終作品制作に関する準備（4）	ビデオカメラを使った撮影
第10回	関西テレビ社員によるレクチャー（5）	編集とは
第11回	最終作品制作に関する準備（5）	映像編集の実際
第12回	最終作品制作作業（1）	取材・撮影
第13回	最終作品制作作業（2）	取材・撮影・編集
第14回	最終作品制作作業（3）	編集
第15回	最終作品発表と講評	
エキストラ	関西テレビでの最終プレゼンテーション	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	最終作品の内容と参加度によって評価。グループ作業になるので、参加・貢献度が低いと評価の対象とならない。また、最終作品の完成も、評価条件。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sakatak@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SJ） §　企画研究（自主企画研究）（SJ）

14161

担当者名 / Instructor　白石 憲二

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバリズムとともに「格差社会」が進行し、社会不安も高まっている。言論の自由もなく治安維持法などが猛威をふるった戦前を知る人たちの間から、「あの時代に似てきた」との声がきかれる。確かに、気がつけば、自衛隊が海外に「派遣」され、イラクとアフガニスタンで「テロ戦争」を闘っている米軍との一体化も進んでいる。戦後、60年がたっても沖縄では新たな基地建設の計画を止めることができない。「平和憲法」が形骸化していくなかで、どこに歯止めかければ、より自由で開かれた生きやすい社会に変えていくことができるのか。その手がかりを得るために、1945年8月15日の「敗戦」を境にして、日本の社会の何が変わり、何が変わらなかったのかを、法制度、言論機関、地域社会のありかたなど様々な側面から比較、検証する。

到達目標 / Attainment Objectives

「世直し」のための提言を「学生の意見10」と名付け、具体的な「政策」のレベルに近づくかたちでまとめる。その成果については、朝日新聞紙上での掲載を目指す。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1-5	（収集・取材）：70年前の日本社会の実態に迫る。当時の新聞、雑誌、映画などの　メディアをはじめ当時を知る人たちの証言、手記などを収集。受講者がそれぞれ　最も関心があるテーマを選び、それぞれが取材した調査結果などをミニレポートにまとめて発表する。	
6-10	（整理・議論）：「変わった点」「変わらない点」を腑分けして整理、議論する。相互批判を通じて足らない論点・資料などを補う	
11-15	（提言）：「提言」をまとめる。提言づくりでは、提案者（筆者）が受講生全員の前でプレゼンテーション。その後の論議をふまえてまとめる。	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	

「提言」の参考にするのは、「日本を変えよう。市民の意見30」（1989年1月16日朝日新聞朝刊の意見広告」および、1999年から2000年にかけて朝日新聞（大阪本社）の家庭・文化・芸能面に長期連載された企画「日本は変わったのか」

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

世の中を切り取り記録するジャーナリストに求められる資質とは、「瞬発力（時代の波頭を読み取る『斥候』としての役割）」「発掘力（隠された事実を掘り起こす）」「粘着力（記事・提言にまとめるまでの粘り）」だといわれる。受講者がジャーナリストを目指すかはともかく、そんな気概で取り組んでほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

企画研究（SK） § 企画研究（自主企画研究）（SK）

14331

担当者名 / Instructor　杉本 通百則

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ:「立命館大学のエコキャンパス化への取り組み」

本企画研究の目的は、立命館大学のエコキャンパス化に向けて、その現状と課題を整理した上で、衣笠キャンパスにおける環境改善活動の具体的提言および実践を学生主体で行なうことである。本学の環境関連科目は数多く存在するが、キャンパスの環境改善活動への取り組みは他大学と比較して大きく立ち遅れており、基礎的なデータすら把握されていないのが実情である。2020年までに温室効果ガスを1990年比25%削減するという社会的要請からも、次世代を担う学生への教育・啓発の意味からも、立命館大学の学生主体の環境改善活動への取り組みが強く求められている。

具体的には、学生のグループワーク・フィールドワークを主体に、立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集や環境負荷の実態調査、学生の環境意識調査、他大学のエコキャンパス化の実態調査、ゲストスピーカーの招聘等を通して、主に衣笠キャンパスにおける環境負荷の現状と課題について考察した上で、エコキャンパス化への具体的提言および実践に結びつけたい。

到達目標 / Attainment Objectives

本企画研究の到達目標は、講義で学んだ環境問題に関する知識等をキャンパスという身近な環境改善において具体的に活用する能力や、主体的に学び、調査し、考え、解決策を提起する能力等を身につけることである。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	はじめに	
第2回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（1）	
第3回目	ゲストスピーカーの招聘（1）	
第4回目	立命館大学の環境改善活動に関わる基礎的なデータの収集（2）	
第5回目	ゲストスピーカーの招聘（2）	
第6回目	立命館大学の環境負荷の実態調査	
第7回目	立命館大学の廃棄物リサイクルの実態調査	
第8回目	中間総括	
第9回目	他大学のエコキャンパス化の実態調査	
第10回目	立命館大学の学生の環境意識調査	
第11回目	フィールドワーク（1）	
第12回目	フィールドワーク（2）	
第13回目	エコキャンパス化に関する企画の立案	
第14回目	エコキャンパス化への具体的提言	
第15回目	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	調査・研究・企画への参加と成果物の作成など。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sugimot@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

企画研究（SL） §　企画研究（自主企画研究）（SL）

14238

担当者名 / Instructor　反畑 誠一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

経済成長が続く中国を中心に、アジアの消費市場は着実に拡大しています。その反面、芸術・文化の振興、創出の産業構造では、日本は先進国です。ところがデシタル技術とインターネットの地球規模の急速な普及で、新たな課題が続々と生じています。それには、まず速やかに時代に対応できる人材の育成です。ついては東アジア地域（日・中・韓）を主軸に、ASEAN加盟諸国における音楽文化・産業の実態を調査・研究し、推進役の一助になるような報告書の作成と発進を目指します。

到達目標 / Attainment Objectives

〇音楽文化を通じて西欧と非西欧を比較し特性を学ぶ。
〇最新の市場特性を調査研究する。
〇新たな情報ネットワークを構築する。
〇ビジネス・プロデューサーの資質を拡充する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

〇語学（中国語、韓国語）の積極的な履修を望む。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	国勢と民度の基本調査	多言語と宗教の多様性
第2回	非西欧音楽の存在と特性	民族音楽と伝統音楽
第3回	市場規模と消費構造の基本調査	価格差
第4回	教育制度の実態と調査研究	人材育成
第5回	メディア事情の調査・研究①	マスメディア
第6回	メディア事情の調査・研究②	ネット社会と違法配信
第7回	エンタテインメント産業の実情	スーパー・スター
第8回	J-POPの浸透度と普及の可能性	ディク・リー（音楽プロデューサー）
第9回	コンテンツ産業振興策と戦略	韓流ブームとK-POP
第10回	違法ネット利用の実態と法整備	海賊版
第11回	許認可制度の存在と実態	表現の自由
第12回	著作権等の法整備	国際基準
第13回	海外交流の実態	英才教育
第14回	アジアのオジナリティ	情報ネットワーク
第15回	研究発表フーラム（仮）の開催	アジア版ベスト10曲

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

その都度指示する。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	90 %	
平常点評価	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

特に指定はしない。独自資料・テキストを活用。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「非西欧世界のポピュラー音楽」	ピーターマニエル著、中村とうきょう訳／ミュージックマガジン社刊／／
「日中韓はひとつになれない」	小倉紀蔵著／角川書店刊／／
「音楽ビジネスの著作権」	前田哲男・谷口元著／社団法人著作隣接権センター刊／／

その都度指示するが、上記の3冊を受講前に一読を奨めます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

その都度指示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

ｅ－mail　DZC05045＠nifty.ne.jp

その他 / Others

企画研究（SM） §　企画研究（自主企画研究）（SM）

14239

担当者名 / Instructor　福間 良明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

歴史は、現在のあり方や今後の指針を考えるための宝庫である。しかし、過去の事実群を漫然と眺めるだけでは、見えるものも見えてこない。そこで導きの糸となるのは、社会学や政治学の理論である。
この授業では、社会学・政治学の理論書や現代思想の書物を読み込みながら、歴史を現代に役立てるための知的営みについて考えていく。なかでも、ナショナリズムの問題を主要なテーマとしたい。

到達目標 / Attainment Objectives

さまざまなナショナリズム論を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	ガイダンス～授業の全体像について	授業の概要説明など
2	戦時期日本を考える（1）	丸山眞男『現代政治の思想と行動
3	戦時期日本を考える（2）	竹内好『日本とアジア』
4	国家主義を考える（1）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』前半
5	国家主義を考える（2）	橋川文三『昭和ナショナリズムの諸相』後半
6	「戦争の記憶」と国家を考える（1）	G・L・モッセ『英霊』前半
7	「戦争の記憶」と国家を考える（2）	G・L・モッセ『英霊』後半
8	全体主義を考える（1）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』前半
9	全体主義を考える（2）	ハンナ・アレント『全体主義の起原3』後半
10	ポストコロニアリズムを考える（1）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』前半
11	ポストコロニアリズムを考える（2）	P・ギルロイ『ブラック・アトランティック』後半
12	国民国家と政治を考える（1）	L・アルチュセール『国家と国家のイデオロギー装置』
13	国民国家と政治を考える（2）	カール・シュミット『政治的なものの概念』
14	性と権力を考える（1）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』前半
15	性と権力を考える（2）	M・フーコー『性の歴史Ⅰ 知への意志』後半

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	発表や討議に対する姿勢を総合的に評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

理論書を積極的に読もうという受講者の参加を望みます。
自分の発表回の文献だけではなく、各回で輪読する文献を入手し、授業までに読んでくることが、出席の前提となります。

教科書 / Textbooks

授業のなかで指示する。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

取り上げる文献はあくまでも予定です。
初回ガイダンス時に受講者の関心も勘案しながら決定します。

国内インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（IA） § 海外インターンシップ（IA） § 学校インターンシップ（GA）

54961

担当者名 / Instructor　加藤 敏明

単位数 / Credit　4

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生（2回生以上）を対象に単位認定を行いますが、そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティチュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問（あるいは興味関心をもっている学問領域）の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）および「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講が望まれます。
また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」（3回生以上後期配当科目）の受講にもぜひチャレンジしてください。
なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	オリエンテーション、企業研究（検証）	
第2回目	テーマ／リスクマネジメント研修	概要／研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法学的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ／ビジネスマインド講座1（社会常識編）	概要／1. 一組織人としての基本的な心得、2. インターンシップの心構え、3. 仕事の進め方、4. ケーススタディ
第4回目	テーマ／ビジネスマインド講座2（マナー編）	概要／1. マナーの果たす役割、2. コミュニケーションは第一印象から、3. 話し方と聞き方、4. ケーススタディ
第5回目	テーマ／ビジネスマナー講座1（文書編）	概要／1. 宿題発表、2. ビジネス文書の基本、3. 文書の書き方、4. 総まとめ
第6回目	テーマ／ビジネスマナー講座2（実技編）	概要／1. FAXとEメールの活用、2. 電話対応の基本、3. ケーススタディ＜電話対応編＞、4. 総まとめ
第7回目	企業研究に関するレポートを活用した個人発表・グループワーク、総括	
第8回目	同上	
第9回目	同上	
	【インターンシップ研修】	
第10回目	テーマ／インターンシップ研修1	概要／原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とする
第11回目	テーマ／インターンシップ研修2	概要／同上
第12回目	テーマ／インターンシップ研修3	概要／同上
	【事後研修】	
第13回目	テーマ／総括講義	概要／インターンシップにおける学びの検証と幅広い学びを、発表（個人単位）を通じて内省化する
第14回目	テーマ／基礎講義（個人発表、グループワーク）	概要／問題発見、課題解決型グループワーク（教材配布）
第15回目	テーマ／基礎講義（グループ発表、総括）	概要／グループワークを受けてグループ別発表、指導教員による総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業（団体）に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点（事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習の内容をもとに評価します）：70%、最終レポートなど：20%、その他（研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります）：10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物（最終レポートなど）を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修に遅刻や欠席をしたり、各種提出物の締め切り後の提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上　龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される学内の様々なインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

全学インターンシップ・プログラムに関わる質問は、コーディネーター教員である加藤（katoshi@fc.ritsumei.ac.jp）まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

国内インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（GA） § 海外インターンシップ（専門）（GA） § 国内インターンシップ（IA） § 海外インターンシップ（IA） § 学校インターンシップ（GA）

54962

担当者名 / Instructor　加藤 敏明

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本科目は、立命館大学が全学的に展開するインターンシップ・プログラムです。全ての学部生（2回生以上）を対象に単位認定を行いますが、そのためにはインターンシップ受入先機関の決定後、①受講登録を行い、②「事前、事後研修」をすべて受講し、③最終レポートなど必要書類をすべて提出する、ことが前提条件となります。具体的なプログラム内容や受講登録手続き等の詳細は、3月末から5月にかけて開催されるインターンシップ・ガイダンスで発表される予定です。本科目は大学院生及び学部生が共に受講します。

到達目標 / Attainment Objectives

所属する学部やインスティチュートの専門的な学びを、体験学習を通じて検証するのがインターンシップ本来の目的です。そのために、立命館大学は「基本理念」並びに「基本方針」を策定しています。日ごろ学んでいる専攻学問（あるいは興味関心をもっている学問領域）の社会的な役割や意義、そして何よりも学ぶ楽しさを職場体験を通じて検証し、一段と高い意識をもってキャンパスに戻り学びに向かい合う。これが、全学インターンシップ・プログラムの到達目標です。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

全学インターンシップ・プログラムの内容を一段と深めるために、関連科目の「キャリア形成論Ⅰ」（1回生前期配当科目）、「キャリア形成論Ⅱ」（2回生前期配当科目）、「インターンシップ入門」（2回生後期配当科目）および「キャリア形成論Ⅲ」（3回生前期配当科目）の受講が望まれます。
また、企業が抱える現実的な課題の解決に大学院生との混成チームで約半年かけてあたる「コーオプ演習」（3回生以上後期配当科目）の受講にもぜひチャレンジしてください。
なお、コーオプ演習をサポートする科目として、高度なインターンシップ、コーオプ教育を柱とした「コーオプ教育概論」（研究科および3回生以上配当科目、衣笠開講）が夏期集中講義として開講されます。コーオプ演習の受講生ばかりでなく、産学連携教育についてさらに発展的に学習したい方、問題発見・課題解決能力を高めたい方の受講を勧めます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
	【事前研修】	
第1回目	オリエンテーション、企業研究（検証）	
第2回目	テーマ／リスクマネジメント研修	概要／研修先で起こりうる可能性のあるあらゆるリスクについて、法学的理解を深め、基本的な心構えと対処法を習得
第3回目	テーマ／ビジネスマインド講座1（社会常識編）	概要／1．一組織人としての基本的な心得、2．インターンシップの心構え、3．仕事の進め方、4．ケーススタディ
第4回目	テーマ／ビジネスマインド講座2（マナー編）	概要／1．マナーの果たす役割、2．コミュニケーションは第一印象から、3．話し方と聞き方、4．ケーススタディ
第5回目	テーマ／ビジネスマナー講座1（文書編）	概要／1．宿題発表、2．ビジネス文書の基本、3．文書の書き方、4．総まとめ
第6回目	テーマ／ビジネスマナー講座2（実技編）	概要／1．FAXとEメールの活用、2．電話対応の基本、3．ケーススタディ＜電話対応編＞、4．総まとめ
第7回目	企業研究に関するレポートを活用した個人発表・グループワーク、総括	
第8回目	同上	
第9回目	同上	
	【インターンシップ研修】	
第10回目	テーマ／インターンシップ研修1	概要／原則として、大学の夏期休暇中もしくは春期休暇中の、授業がない時期に実施されるものを基本とする
第11回目	テーマ／インターンシップ研修2	概要／同上
第12回目	テーマ／インターンシップ研修3	概要／同上
	【事後研修】	
第13回目	テーマ／総括講義	概要／インターンシップにおける学びの検証と幅広い学びを、発表（個人単位）を通じて内省化する
第14回目	テーマ／基礎講義3 （個別発表、グループワーク）	概要／問題発見、課題解決型グループワーク（教材配布）
第15回目	テーマ／基礎講義4 （グループ発表、総括）	概要／グループワークを受けてグループ別発表、指導教員による総括

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

ビジネス社会に、短期間とはいえ出向き社会人と交流するわけですから、最低限、毎日、新聞をしっかり読む習慣を身につけてください。特に、インターンシップ先の業界、企業（団体）に関わる記事にはしっかり目を通しましょう。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	日常点（事前・事後研修への出席状況、インターンシップ研修での体験学習活動の内容をもとに評価します）：70%、最終レポートなど：20%、その他（研修先の担当者が記述する業務日誌が評価に加えられることもあります）：10%

評価は、学内で行われる事前・事後研修への出席状況、企業等で行われるインターンシップ研修での体験学習、さらに提出物（最終レポートなど）を総合的に判定し、行います。中でも産学連携のインターンシップの主旨に照らし出席要件は厳密に運用しますので、無断欠席はもちろん遅刻も厳禁です。正当な理由なく事前・事後研修を遅刻や欠席したり、各種提出物の締め切り後提出は、その時点でF評価になります。十分注意してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

当たり前のことですが、インターンシップ研修が行われる企業、団体は教育機関ではありませんので、必ずしも学習プログラムが用意されているわけではありません。ですから、研修生自らが職場体験を通じて「学び取ろう」という姿勢がなければインターンシップは成立しません。過去の事例でも、「立命館大学の学生は主体的な姿勢で受け入れて楽しい」、「いろいろと提案してくれるのでやりがいがあった」などの声が寄せられています。受け身でなく、常に能動的に臨んで欲しいものです。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
仕事！	スタッズ・ターケル／晶文社／ISBN4-7949-5661-4／1972年に発刊された労働解説の古典的名著
働くということ	日本経済新聞社・編／日本経済新聞社／ISBN4-532-35114-6／日経本紙の人気連載を再構成
13歳のハローワーク	村上　龍／幻冬舎／ISBN4-344-00429-9／人気作家が独自の視点から職業を見つめた一冊

インターンシップ研修に役立ちそうな3冊を挙げました。仕事そのものを考察する上でも、十分に役立つと思われます。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

3月末から5月にかけて開催される様々な学内のインターンシップ・ガイダンスに参加すると「立命館大学Internship Guide Book」が配布されます。その中で、情報が紹介されます。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

全学インターンシップ・プログラムに関わる質問は、コーディネーター教員である加藤（katoshi@fc.ritsumei.ac.jp）まで問い合わせてください。

その他 / Others

インターンシップオフィスは、情報の宝庫です。キャリアセンターとともに、情報収集に立ち寄ることを強く勧めます。

NPO・NGO論（S）

12748

担当者名 / Instructor　秋葉 武

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

社会的に重要な役割を持ち始めたNPO・NGOについて、学んでいきたい。福祉、環境、人権、まちづくり等様々な分野の組織を中心に取りあげる。また、企業および行政組織と比較して、NPOのサービスの特徴を考察していく(例えば、NPOのリーダーの多くが①いわゆる「専門家ではない」地域の市民 ②既存の制度から「はみ出した」専門家、である)。上記のテーマを学んでいくため、講義においてはビデオ等の視覚教材を毎回使用し、ゲスト・スピーカーを2回程度招くなどして最新の話題を取り上げていく。また受講者の意見を求める等、なるべく双方向のコミュニケーションに努める。

なお国際協力分野のNPO・NGOについては、本講義では取り扱わず、(秋葉が担当する)「国際NPO・NGO論」で取り扱うこととなるので、留意されたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・サードセクターとしてのNPO――政府および企業だけでは、なぜ社会がうまく機能しなくなっているのか、を理解する。
・NPOは閉塞感を深める日本社会のなかで、具体的にどのような役割を果たせるのか、を具体的に理解する。
・NPOという組織における働き方は、新しい働き方を社会に提起しているといわれる。職員、ボランティアを含めたNPOの人材をみることで社会について考える題材とする。
・NPOは呼称、活動分野が多様であることから、一見理解し辛いイメージがあるが、その点についても整理して理解する。
・世界景気の悪化がNPOセクターにいかなる影響を及ぼしているかを理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

秋葉担当の「国際NPO・NGO論」

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	授業の概要と導入	授業の趣旨、達成目標、成績評価方法、担当教員の自己紹介
2	NPO・NGOの概論①――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、行政の限界
3	NPO・NGOの概論②――NGOでの職員の働き方を事例として――	用語・概念の整理、NPO・NGOの社会的存在理由、サービスの特質
4	無給ボランティアから有給スタッフへ――阪神大震災時のボランティア活動を事例として――	NPO・NGOの学術的概念、呼称の固有性、有償化のプロセス
5	政府とNPOの関係――「NPO大国」アメリカのボランティア活動を事例として――	アメリカのNPOの歴史、寄付行為、公共への市民参加
6	政府とNPOの関係――アメリカのNPOの企業、政府とのパートナーシップを事例として――	「大きな政府」の世界的な退潮、市民の公共への参加を促す社会制度
7～8	地球環境問題とNGO――地球温暖化防止に取り組むNGOの役割から――	国益追求の限界、市民組織の役割
9	市民の公共への参加を促す社会制度――1998年のNPO法成立の背景から――	「認証」と「認可」の違い、法人格の意味
10	NPOの制度化――NPOの介護保険制度への参入を事例として――	在宅福祉NPOと介護保険、経営管理の重要性
11	企業とNPOの比較――Linuxの成功から――	情報化、IT化とNPO
12～13	事業型NPOおよび社会指向型企業の誕生	ソーシャル・ベンチャー、社会企業家
14	NPOの資源開発――パブリックリソースセンターの取り組みから――	寄付マーケットの開拓、SRI(社会的責任投資)
15	NPOの将来と展望	日本のNPOの果たす役割と今後

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	70 %	記述と穴埋めの設問です。
平常点評価	30 %	主に、コミュニケーションペーパーの提出となります。授業内容に関して記入してください。

ガイダンスに必ず出席して、受講するか否かを決めてください。ガイダンスに出てみて「面白そうだな」と思ったら受講登録するのがよいと思います。

下記の行為をする受講生は「D」評価としています。
①他の受講生の受講権の侵害‥授業中の私語、大幅な遅刻、頻繁な途中入退室など

②マナーの欠如(携帯電話の時計以外の目的での使用など)

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

せっかく受講されるので、ぜひ授業以外で勉強すると、新しい視野が開かれると思います。

教科書 / Textbooks

新聞でNPOの記事をチェックしてみましょう

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
NPO基礎講座〔新版〕(2005)	山岡義典／ぎょうせい／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

NPOを取り巻く外部環境は急速に変化していますので、下記のHPなどをぜひチェックしてみて下さい。

日本NPOセンターHP　http://www.jnpoc.ne.jp/
パブリックリソースセンターHP　http://www.public.or.jp/
内閣府NPOHP　http://www.npo-homepage.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

カウンセリング論 (S)

12758

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

急激な社会の変化にともない，多くの人びとに心身の病やストレスが蔓延している。こうした問題に対して，今こそ心のケアとしてのカウンセリングが注目されている。本講義では，カウンセリングが生まれるまでの歴史的経緯，心の病の捉え方ならびにカウンセリングに関する基本問題を解説し，カウンセリングの主要理論である精神分析，交流分析，認知行動療法などを具体的な事例を交えて紹介する。また，傾聴技法の習得のため，紙上応答訓練や逐語録の検討などの方法を活用する。

到達目標 / Attainment Objectives

①カウンセリングが必要とされた歴史的経緯と心の病に関する理解を深める。
②初回面接から終結に至るまでのカウンセリングにおける基本的な問題を理解する。
③カウンセリングに用いられる代表的な理論を学ぶ。
④カウンセリングに用いられる傾聴技法を習得する。
⑤以上を通じて，自己理解を深めるとともに，対人関係におけるコミュニケーション能力を高める。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	カウンセリングとは何か	心理療法・歴史的ルーツ・カウンセラーの適正
第2回	心の病とは何か	心身症・臨床心理学の歴史・トラウマ
第3回	カウンセリングの基本問題1	クライエントとの出会い・面接の構造化・落ち着きのない子ども
第4回	心の深層の理解1：精神分析	フロイト・無意識・自由連想
第5回	心の深層の理解2：ユング心理学	コンプレックス・言語連想検査・箱庭療法
第6回	人間関係の心理学1：アドラー心理学	ライフスタイル・対人関係論・勇気づけ
第7回	人間関係の心理学2：交流分析	構造分析・エゴグラム・交流パターン分析
第8回	傾聴技法の習得：クライエント中心療法	ロジャーズ・自己一致・現象学
第9回	反省してはいけない！：認知行動療法	学習理論・認知の歪み・論理療法
第10回	心の奥底にある感情に触れてみる：ゲシュタルト療法	「今，ここ」での気づき・エンプティチェア・感情体験
第11回	家族システムへの介入：家族療法	アダルトチルドレン・円環的因果論・水を飲み続ける少女
第12回	心理アセスメントの方法	心理テスト・深層心理・フィードバック
第13回	臨床心理学的支援の実際	不登校・アセスメント・否定的感情の吐き出し
第14回	日本のカウンセリング技法	森田療法・内観療法・ロールレタリング
第15回	カウンセリングの基本問題2	面接中期の諸問題・終結・対話分析

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	カウンセリングにおける基本問題や主要理論に関する理解を問う。また，具体的なカウンセリング場面を想定した問題も出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通じて，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
カウンセリングの理論	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40308-1 C3011／
カウンセリングと精神分析	國分康孝／誠信書房／ISBN4-414-40312-X C3011／

カウンセリングの実際問題　　河合隼雄／誠信書房／ISBN4-414-40119-4 C3011／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

バリアフリー論（S）

12763

担当者名 / Instructor　斎藤 正一

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この数年間、バリアフリーというテーマで講義をしてきました。バリアフリーという言葉は、最近いろいろなところで耳にします。バリアフリー住宅にバリアフリー施設。乗り物などにもバリアフリーが考えられています。今や障害者だけではなく、一般の健常者でも当たり前のようにバリアフリー環境に慣れ親しんでいます。しかし本当のバリアーとは一体何でしょう。またどうすれば本当の意味でのバリアフリーになるのでしょうか。私は、日々職業柄考えさせられることが多くあります。

バリアフリーには、物の障害だけではなく身体・精神・環境・施設・人・経済といったように様々なバリアーが存在します。講師は、現在も病院で実際に体の不自由な方と共に機能回復の援助を行う理学療法士です。また講師自身視覚障害(先天性弱視)を持っています。仕事では京都市南区の病院で勤務しています。これまでになかった貧困というバリアーを現場から経験しました。日々現場で感じてきた各種の問題、自分自身が体験してきたことを学生諸子にも知っていただき今後社会に出て何らかの役に立てていただければと考えています。

到達目標 / Attainment Objectives

1：各種のバリアフリーの要素をいろいろな角度から知る。学ぶ。
2：バリアーが影響するその実態を自分の身体で心で感じ取る
3：出来る限り実際のものを見て(ビデオなど)その見聞を広げる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に何も知らなくても良いと思いますがもし知っているなら
医学・建築・社会福祉制度

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1講義	導入　バリアフリー論について　講義の概要	バリアフリー　リハビリテーション　障害受容　PT　OT　ST
第2～5講義	第一章　身体のバリアフリー　基礎医学　各疾患	筋　骨格系　神経　　脳血管障害　脊髄損傷　リウマチ　パーキンソン病　高齢者に多い骨折　廃用症候群
第6～7講義	第二章　精神のバリアフリー	認知症　高次脳機能　人の心理
第8講義	第三章　体験	本当の車椅子体験　障害者の気持ち 天候や教材準備の関係で講義が変更される可能性もあります
第9～11講義	第四章　住環境・生活環境のバリアフリー	住環境　福祉用具　都市環境
第12～14講義	第五章　人・制度・環境のバリアフリー	地域社会　ボランティア　社会福祉制度　行政機関　民間活力　都市環境　経済環境
第15講義	最終章　障害者の限界　バリアフリーって何だろう	パラリンピック　障害者スポーツ　人間の限界

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で学んだことを正しく理解できているか評価します。
レポート試験	10 %	課題レポートを指示します
平常点評価	30 %	毎回の授業終了時に授業の感想や自分の考えを記載してもらいます。感想がなく名前だけの者は出席と認めません。

＊定期試験として実施
講義に一度も出席しない方の単位を出す事は不可能です。
基本的に講義をまじめに聞いて頂ければ合格点は取れると思います。
ただ全講義出席していても定期試験で間違った答に点数を出すなどのことは致しません。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは配布いたしますが基本事項のテキストです。講義の中で講師がお話しする事を学生自身で
テキストの余白に記入して完全なテキストにして下さい。
質問の時など、教室の遠くで黙って挙手をしていただいてもおそらく見えないと思います。講師は先天性弱視の視覚障害を持っているためです。したがって授業中に何か質問や疑問が出たときは、大きな声を出して挙手をしながら起立などして意思表示してください。また授業最後の出席とともに出していただく感想に質問していただいてもかまいません。必ず返答希望の方は、授業終了後直接質問しに来て頂くかメールアドレスに質問していただければお答えできると思います。
毎回講義終了後QRシートで出席を確認します。一回目から持参してください。

教科書 / Textbooks

基本テキストは、毎回講義のときに配布いたします。

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.jaeic.or.jp/hyk/index.htm　＜ひとにやさしい建築・住宅推進協議会＞
http://www.normanet.ne.jp/~JSCF/SIRYOU/s-seido/s-mokuji.htm　＜福祉制度：障害者制度集＞
http://www.hcr.or.jp/　＜国際福祉機器展＞
http://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/intl/icf/icf.html　＜国際生活機能分類＞
http://www.soc.nii.ac.jp/jpta/　＜日本理学療法士協会＞
http://www.jaot.or.jp/ ＜日本作業療法士協会＞
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shisetu/009/toushin/04031903.htm　＜学校施設バリアフリー化推進指針＞
http://www.jsad.or.jp/　＜日本障害者スポーツ協会＞
http://www.asahi-net.or.jp/~ve9k-nkk/toukyuuhyou.htm　＜身体障害者障害程度等級表＞
http://akatan.cool.ne.jp/index.html　＜赤の他人のホントのわたし＞
http://www.npojba.org/　〈バリアフリー協会〉
http://members.jcom.home.ne.jp/1653895301/top.html　〈バリアフリー住宅〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html　〈交通バリアフリー〉
http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrierfree/index.html〈国土交通省のバリアフリー・ユニバーサルデザイン〉

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

ライフサイクル論 (S)

15432

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

人間が社会の中で生まれ、育ち、老いていく過程を概説し、自己形成および人格発達について考察する。なお、各ライフステージにおける心理的危機について注目し、その背景や要因を探り、心理的援助、福祉の課題を明らかにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・ライフサイクル（人生周期）についての理解を深める。
・人格形成の過程で生じる心理的危機とその社会的背景・要因について理解する。
・様々な困難や危機に直面した人々を支えるための心のケアや福祉的援助について考える。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義：ライフサイクルとは何か	【キーワード】 人生周期、発達段階
2	人生のはじまり（胎児・新生児の世界）	【キーワード】社会的存在、基本的信頼感 、愛着（アタッチメント）の形成
3	母子臨床と育児支援の課題	【キーワード】親になること、家族関係の変化、仲間との交流
4	自我の芽生えと自制心の育ち	【キーワード】甘えと自立、自尊心、仲間との育ち合い
5	「良い子」の生きにくさ、親の過剰な期待と挫折の問題	【キーワード】子どもの貧困、早期教育、教育家族
6	学童期の発達と心理的危機	【キーワード】怒りのコントロール、コミュニケーション能力、学級崩壊
7	児童虐待と子どもへの影響（その1）	【キーワード】自己の連続性、アイデンティティの危機、解離性同一性障害
8	児童虐待と子どもへの影響（その2）	【キーワード】児童相談所、一時保護所、心のケア
9	里親家庭で育つ子どもたち	【キーワード】私の子どもは60人、親支援の課題
10	思春期・青年期の子どもと親との関係	【キーワード】父と子の葛藤、ひきこもり
11	成人期の発達課題	【キーワード】職業選択、恋愛、結婚、子育てと職業の両立
12	中年期の発達課題（その1）	【キーワード】心身の変化、空の巣症候群
13	中年期の発達課題（その2）	【キーワード】人生の転換期、個性化
14	ライフサイクルの中の老い	【キーワード】老いの受容、対象喪失、人格の統合対絶望
15	総括講義：ライフサイクル論のまとめ	【キーワード】自立、支え合い、安心

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	発達の特徴、発達課題に対する基本的理解がなされたのか、また、それぞれの段階で生じる問

		題を克服するために必要な社会的支援についての理解が深まったのか把握するための試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

人間の一生について概説し、様々な問題を扱うために幅広い知識が必要です。そこで、授業中に紹介する文献を読み、理解を深めるように努めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『ライフサイクルの臨床心理学』	馬場禮子・永井徹共編／培風館／ 4-563－05610－3／
『女性のためのライフサイクル心理学』	岡本祐子・松下美知子編／ 福村出版／ 4-571－20051－x／
『子育て支援の現在』	垣内国光・櫻谷眞理子共編 ／ミネルヴァ書房 ／4-623－03643－xc3336／
『ライフサイクルの心理学』	松尾恒子他 ／燃焼社 ／4-88978－992－8／
『ライフサイクル、その完結』	E. H. エリクソン著村瀬孝雄他訳／みすず書房／ 4-622－03967－2／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。

その他 / Others

リハビリテーション論（S）

15373

担当者名 / Instructor　安東 一郎、垣田 さち子、神田 豊子、冨田 素子、野々村 光生、長谷 斉、増田 和人、宮崎 博子、門 祐輔

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

リハビリテーションは、理念的には「全人間的復権」を目的とし、従来の「疾患を対象とし、治癒を目的とした」医学とは異なり、障害を対象とするという特徴を持つ。医療の現場ではこの従来の医学とリハビリテーション医学の両方が求められている。また高齢化がすすみ、介護保険が施行された時代にあって、リハビリテーションは医療と福祉をつなぐ重要な役割を持っている。本講義は、医療を中心としたリハビリテーションの現場の諸問題をとりあげ、リハビリテーションの理念とともに、現場で役立つ知識をえることを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

障害者の置かれている状況や心情などが理解出来る。
リハビリテーションの概念と手法が理解できる。
個々の分野におけるリハビリテーションがイメージ出来、対応が分る。
今、医療・福祉の現場で、何が求められているかが理解出来る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本講義の詳細なスケジュール(確定版)は最初の講義時に提示する。以下に記載するのは(暫定版)講義の基本的内容で、これを押さえた内容で行うが、講義順序などや詳細は変更することがある。社会福祉士などの取得をめざし、将来医療・福祉の現場で働くことを希望する学生が、現場をイメージできるように、ビデオ、スライドなどを利用して施行する。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
9/30第1回	リハビリテーション概論、廃用症候群のリハビリテーション、障害者の心理、障害受容	宮崎
10/7第2回	地域リハビリテーション	垣田
10/14第3回	障害論	門
10/21第4回	運動器疾患のリハビリテーション	増田
10/28第5回	義肢装具のリハビリテーション	増田
11/4第6回	小児のリハビリテーション、教育的リハビリテーション	神田
11/11第7回	摂食嚥下障害のリハビリテーション	宮崎
11/18第8回	内部障害のリハビリテーション	宮崎
11/25第9回	神経・筋疾患のリハビリテーション	冨田
12/2第10回	精神疾患のリハビリテーション	安東
12/9第11回	排尿障害のリハビリテーション	野々村
12/16第12回	介護保険のリハビリテーション	垣田
12/23第13回	脊髄疾患のリハビリテーション	長谷
1/6第14回	脳卒中、脳外傷のリハビリテーション	冨田
1/13第15回	悪性疾患、加齢性疾患のリハビリテーション	宮崎

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的概念を理解し、自分の言葉で表現出来ているかも含めて、評価する。
平常点評価	20 %	学習意欲や態度を評価する

試験は、講義プリント、参考書、他、持ち込み自由。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業に必要なプリントを作成配布する。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーションの森-ツアーガイド-寝たきりが9割いなくなる！	京都府保険医協会・地域リハビリテーションシステム研究会／かもがわ出版 ／978-4-7803-0177-9 ／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
リハビリテーション医療入門	／医学書院／／

目で見るリハビリテーション医学　第2版	上田　敏／東京大学出版会 ／／
脳卒中のリハビリテーション	／医歯薬出版株式会社 ／／
狭心症、心筋梗塞のリハビリテーション	／南江堂／／
嚥下障害ポケットマニュアル	藤島一郎／医歯薬出版株式会社 ／／

障害児の包括的評価法マニュアル　全国肢体不自由児施設運営協議会編　メジカルビュー社
変わるリハビリ　上月正博　ヴァンメデイカル社

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.copd-info.net/　　COPD情報ネット

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

医療福祉論（S）

15326

担当者名 / Instructor　知名 純子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

映像や新聞記事などを活用しながら、保健医療福祉諸制度の改革のなかで患者・利用者の主体化を支援する専門職としての関わりを理解するための知識を養う。

到達目標 / Attainment Objectives

1. 保健医療福祉を臨床的視点から問い直す
2. 他の専門職との連携の意義を明確化する
3. 保健医療福祉をシステムとしてみる
4. 保健医療福祉の制度の変遷と改革動向を探る

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション	
2	保健医療と法制度の歴史1	年金制度
3	保健医療と法制度の歴史2	医療保健制度
4	医療保険の法制度と現状・課題	
5	診療報酬制度の概要と課題	
6	保保健医療福祉におけるコーディネート機能 健医療福祉政策の概要	
7	各専門職の役割と機能分担1	医療ソーシャルワーカー
8	各専門職の役割と機能分担2	保健師、看護師
9	各専門職の役割と機能分担3	作業療法士、理学療法士、言語聴覚士
10	各専門職の機能と連携	
11	精神障害と精神保健福祉	
12	地域における保健医療福祉の現状と課題1	
13	地域における保健医療福祉の現状と課題2	
14	まとめ	
15	予備日	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
平常点評価	100 %	各回の内容を的確に理解し自分の言葉で説明できるか、及び課題の事例に対して実際に活用できるか、についてコミュニケーション・ペーパー及び、授業中のミニ課題によって理解度を確認し評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

家族関係論（S）

12761

担当者名 / Instructor　櫻谷 眞理子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

家庭が安心の場であり、家族の愛情に支えられていると感じる人もいるが、家族により苦痛を味わい、葛藤を抱えている人もいる。家庭内に居場所が無かったり、孤独に苦しむ人も増えている。こうした家族危機の諸相について、育児不安、児童虐待、家庭内暴力、家庭内殺人等の問題を取りあげながら分析を加えてみたい。また、家族福祉の課題や家族援助及び子育て支援についても考えてみたい。

到達目標 / Attainment Objectives

・家族の定義、概念、家族の動向に関する基本的な理解を得る。
・家族問題について幅広く理解できる。
・親子関係、夫婦関係について理解を深める。
・家族援助・子育て支援についての知識を得る。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	導入講義	【キーワード】家族とは何か
2	現代家族の諸相（1）	【キーワード】少子化、核家族化 、子どもの価値の変化
3	現代家族の諸相（2）	【キーワード】結婚観の変化、晩婚化、性別役割分業、専業主婦
4	母親一人の子育てと育児不安	【キーワード】子育て家族の孤立化
5	3歳児神話の影響	【キーワード】母性愛剥奪理論 、愛着障害
6	父親の役割、父性と母性のちがい？	【キーワード】育児参加、育児休業
7	児童虐待	【キーワード】貧困問題、親の養育体験、子育ての技術
8	子どもを虐待する家族への援助	【キーワード】家族応援ミーティング、親業訓練
9	思春期、青年期危機と親子関係（1）	【キーワード】「良い子」の苦しみ
10	思春期、青年期危機と親子関係（2）	【キーワード】親からの自立の葛藤
11	機能不全家族の中の子ども	【キーワード】機能不全家族とは何か、アダルトチルドレンと癒し
12	ドメスティック・バイオレンス	【キーワード】家庭内暴力、シェルター
13	カナダにおける家庭福祉と家族支援	【キーワード】アドボカシー、子どもの権利擁護
14	世界に学ぶ子育て支援の方向	【キーワード】保育保障、経済的支援、父親の育児参加
15	総括講義	【キーワード】これからの家族のあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レジュメに載せた参考文献を読んで、理解を深めてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験を実施する。
平常点評価	30 %	レポートを中間で提出してもらい評価に加える。また、コミュニケーションカードによる授業の感想や意見も求めるが評価には加えない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

家族問題に関する新聞記事等を読んで、問題意識を高めてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『子育て支援の現在』	垣内国光，桜谷真理子／ミネルヴァ書房 ／4-623-03643-XC3336／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『母性愛神話の罠』	大日向雅美／ 日本評論社 ／4-535－56156－7／
『個人化する家族』	目黒依子 ／勁草書房 ／4-326－65074ー5／
『「家族」と「幸福」の戦後史』	三浦展／ 講談社現代新書／ 06－149482－1　C0236／
『 21世紀家族へ』	落合恵美子／ 有斐閣選書 ／4-641－28091－6／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールで連絡ください。
あるいは、研究室（修学館362号室）のドアに取り付けたボックスに用件を書いたメモを入れて置いてください。連絡先が書いてある場合はこちらから連絡します。

その他 / Others

国際福祉社会論(S) § 国際福祉社会論(I)

12788

担当者名 / Instructor　太田 美帆

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

各国の子育ての状況を比較することをとおして、先進諸国の福祉制度の特徴を明らかにします。

公的機関が中心となって問題解決するのが福祉国家であるとするならば、家族、企業、公的機関、NPO 等が互いに協力し合いながら問題解決するのが福祉社会であると考えられます。とはいえ、国によってこの協力関係のあり方は様々です。

講義の中で、各国の福祉のあり方は様々であるということを知り、なぜそれらの方法が採用されたのか考えましょう。そしてそれぞれの方法ごとに、何が解決され、何が新たな問題として生じているのかを考えましょう。

到達目標 / Attainment Objectives

各国でさまざまな方法で行われている福祉追求のあり方を学び、それらを体系的に理解すること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	導入	社会的リスク管理
第2回目	日本の子育て	家族、就労、性別役割分業
第3回目	スウェーデンの子育て(1)	家族、税制度
第4回目	スウェーデンの子育て(2)	保育制度
第5回目	スウェーデンの子育て(3)	給付制度、短時間勤務
第6回目	スウェーデンの子育て(4)	家庭内分業の現状
第7回目	スウェーデンの家族政策を支えるもの	働き方、労働市場政策
第8-9回目	フランスとドイツの子育て	家族、働き方、家族政策
第10回目	アメリカの子育て	家族、働き方、家族政策
第11回	社会的リスクの管理方法	福祉レジーム
第12回目	福祉国家の基本モデルとサービス産業のジレンマ	工業社会、脱工業社会、
第13-14回目	福祉国家の三類型	自由主義レジーム、保守主義レジーム、社会民主主義レジーム
第15回	まとめ:リスクと社会制度	経済と福祉と家族のつながり

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

テレビや新聞、雑誌、映画など様々な機会をとおして、各国の福祉のあり方はさまざまであるということを知り、その社会的背景に注意を向けてみて下さい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	90 %	講義で取り上げた基本的な問題や概念について理解し、自分の言葉で論じることができているかを評価する。
平常点評価	10 %	小テストおよび出席状況によって評価する。

原則として、期末試験に基づいて成績評価を行います。
日常点を加味することもありますが、日常点はあくまでも補足資料として使います。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義の内容と日常生活を関連づけて考えてみて下さい。
また、講義中に理解できなかったことは、早めに解決するようにして下さい。

教科書 / Textbooks

特に指定しません。講義ではレジュメを配布します。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
ポスト工業経済の社会的基礎:市場・福祉国家・家族の政治経済学	G.エスピン-アンデルセン ／桜井書店／4-921190-00-3 ／
福祉資本主義の三つの世界:比較福祉国家の理論と動態	G.エスピン-アンデルセン／ミネルヴァ書房／4-623-03323-6 ／

講義中に適宜、紹介します。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義の前後に質問に来てください。

その他 / Others

司法福祉論（S）

15394

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

司法福祉は、司法を通じて福祉課題を解決しようという営みであり、政策から臨床技術を含む。
従来は少年非行問題を中心に研究が進んできたが、今日では福祉全般における法的手続きの課題が大きくなり、家族への介入や権利擁護などの分野でも必要とされるようになっている。
本講ではその流れを受けて、非行にとどまらない分野での取り組みに言及する。
留意点として、司法福祉は法学的知識や心理学的知識が求められるものの、あくまで福祉分野の科目であることを認識して受講されたい

到達目標 / Attainment Objectives

司法福祉の分野を理解することと同時に、福祉課題解決のために司法が関与する余地の意義について学習する。非行・虐待・財産保全などに関して、司法活用の余地がある福祉課題であるという側面と、各事例がもつ福祉的側面を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	司法福祉の概念と定義	
2	司法福祉の発見と発展	
3	司法手続の概要とシステム(家事)	
4	司法に関わる福祉課題（夫婦・親子）	
5	司法に関わる福祉課題（人事訴訟）	
6	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度1）	
7	司法に関わる福祉課題（刑事裁判制度2）	
8	少年保護制度と少年法	
9	少年法と児童福祉法	
10	非行へのまなざし	
11	非行を見分けること	
12	非行を施設で克服すること	
13	非行を在宅で克服すること	
14	被害者を支えること	
15	司法福祉の今後の課題	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

レポート課題としても取り上げる予定であるので、07年中の司法福祉に関する社会的事象（事件や制度制定など・特に少年法や児童虐待に関連するものなど）に関心を向けてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	
平常点評価	30 %	講義中に要求する課題と小レポート

原則毎回コミュニケーションカードの記入を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

受講期間中は、社会で生じる司法福祉上の課題に関心を持って、収集につとめてください

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
更生保護制度	／中央法規出版／978-4-8058-3267-7／

少年法・児童福祉法・児童虐待防止法・民法などいくつかの法令を参照するので、できれば小六法などを準備すること。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
犯罪白書	法務省／／／
司法統計年報	最高裁／／／

家庭裁判月報　　最高裁家庭局／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

児童・青年心理学（S） § 児童青年の心理（S） § 児童青年の心理（SG） § 児童・青年心理学（S）

15353

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本授業では，児童期および青年期における発達的特徴について講述するとともに，そうした発達的特徴を生み出す諸要因について論じる。大まかには，認知発達的側面と対人関係的・感情的側面の両面から，発達的特徴について考察するとともに，統合的な観点としての人格発達についても触れる。児童期における発達にかかわっては，特に学校教育との関係ならびに社会的関係に焦点を当てる。また，青年期における発達にかかわっては，自立と依存という二つのモメントに揺れる心性に焦点を当てるとともに，特に現代的な青年心理の特徴についても考察を行いたい。あわせて，発達障害に触れるとともに，児童期・青年期における発達上の諸困難に関しても論じることとする。

到達目標 / Attainment Objectives

①児童期・青年期の生活や発達的特徴に関心を深めるとともに，それらを捉える視点を獲得すること。
②児童期ならびに青年期を中心とする心理発達上の諸特徴についての資料の読み取りや分析に習熟すること。
③児童期・青年期の発達に影響する諸条件についても基本的な知識を得るとともに，発達を捉えるための理論について知ること。
④これら3点を基礎に，児童期・青年期を中心とした発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学 S

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の概要と進め方について」及び「児童期・青年期とは何か：発達の時期区分と生涯発達上の位置づけ」	生涯発達，発達段階，歴史の中の児童・青年
第2回	小学生の生活と発達	社会と学校，生活世界
第3回	小学校1年生－2年生	小学生の生活と発達
第4回	小学校3年生－4年生	知的好奇心，9,10歳の節，クラブ活動，動機づけの変化
第5回	小学校5年生－6年生	思春期への移行，自己意識，総合的な学習，科学的思考
第6回	思春期とは何か	性的成熟，アドレッセント・スパート，思春期危機，ジェンダー
第7回	青年期の発達的特徴	自己理解，アイデンティティ
第8回	子どもらしさを捉える①	文化的過程，発達段階，現実の子ども
第9回	子どもらしさを捉える②	生活リズム，実践性，子どもの権利
第10回	児童・青年における認識と感情①	思考の発達，ピアジェ，9,10歳の発達の節，社会認識，形式的操作
第11回	児童・青年における認識と感情②	共感性，視点取得，自尊感情，怒りと感情制御
第12回	家族の中の児童青年	家族関係，親と子，依存と自立
第13回	就職と労働	職業選択，キャリア発達，産業構造
第14回	現代における青年の生活と人格発達	依存，自立，個性，生活時間，生活空間，文化
第15回	児童・青年を理解する方法	行動観察，質問紙，面接，状況の理解，関係の中での理解，権利主体

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業において学んだ知識の獲得状況を評価するとともに、そうした知識を踏まえて児童期・青年期の問題について考察する能力を評価する。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

WebCTに、授業用レジュメや資料を掲載するので、参考にして欲しい。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
小学生の生活とこころの発達	心理科学研究会／福村出版／978-4-571-23045-5／

講義形式です。教科書を用います。特に，児童期に関わるところの講義の際には，事前に該当章を読んでおいて下さい。青年期を主とした内容の際には，直接に授業では教科書を用いないことが多くなりますが，授業には持ってきて下さい。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新 かたりあう青年心理学	心理科学研究会 (編)／青木書店／978-4250990090／問題意識を広げるために
児童心理学試論	心理科学研究会「児童心理学試論」編集委員会／三和書房／978-4783300298 ／問題意識を広げるために

上記以外にも，各授業時に参考となる書籍等については紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

児童福祉論（S） § 児童福祉論（SG）

15352

担当者名 / Instructor　野田 正人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

児童福祉は、最近では「子ども家庭福祉」とも呼ばれ、社会福祉分野の重要な一領域である。特に子どもの権利を視野に入れ、子どもの福祉に関するさまざまな制度や施策を理解すると同時に、その実現のためのソーシャルワークをも理解することが必要である。そこで、子どもの権利について学んだ上で、児童福祉の展開に関して学び、中でも特に児童虐待や非行など、援助が困難な領域の基本を学ぶ場とする。

到達目標 / Attainment Objectives

社会福祉士の基本分野のひとつであり、児童に関する専門職としての基本を学ぶものである。児童虐待防止法の第1条にあるように、子どもの命とその人生、そして次世代までを視野にいれた援助を学ぶ科目である。本来通年でも不足するボリュームを半期で学ぶため、相当厳しい内容となり、例年相当数がFとなる。教養レベルではないのでこころして受講されたい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	子ども家庭福祉の原理と子どもの権利の系譜	
2	子どもの権利の系譜	
3	子どもの権利条約	
4	日本の子どもの課題	
5	子ども家庭福祉の施策	
6	子ども家庭福祉の実施体制	
7	分野別の課題（子育て支援・保育）	
8	分野別の課題（健全育成）	
9	分野別の課題（自立支援）	
10	分野別の課題（児童虐待）	
11	分野別の課題（非行）	
12	子ども家庭福祉の専門職	
13	子ども家庭ソーシャルワーク	
14	子ども家庭福祉の課題	
15	子ども家庭福祉の今後	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	通常の試験として実施する。
レポート試験	0 %	講義中に指示し、回収日を指定するので、特に気をつけておくこと。
平常点評価	30 %	コミュニケーションカードを求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉発達史から、具体の援助技術方法論まで言及するので、そのような領域の基本書を一度目を通しておくことをすすめる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度	芝野・高橋・松原／ミネルヴァ書房／9784623053995／必ず必要である。
福祉小六法	／／／必ず必要である。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの権利と社会的子育て	許斐・望月・野田・桐野／信山社／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/index.html
（厚労省子ども子育て支援）

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

Emailにて
masato.noda@Gmail.com

その他 / Others

社会福祉法制（S）

12767

担当者名 / Instructor　密田 逸郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現在、私たちにとって「社会保障・社会福祉制度」は、必要不可欠な生活の条件となっている。この講義では、社会保障・社会福祉制度の生成・発展の歴史を辿ることで、社会保障・社会福祉の理念、本質、機能について学ぶとともに、21世紀における福祉国家再生のための社会保障・社会福祉のあり方について学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

今日、社会保障・社会福祉は、テレビ・新聞等に取り上げられない日がないほどポピュラーになっているものの、一方では、学問としてとらえると、難しいと敬遠されているのが現状である。そこで講義では、社会保障・社会福祉の体系や理念を学び、少しでも身近なものと感じ興味を持っていただこうと思っている。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義①」	所得保障、対人社会サービス、社会保障法（アメリカ、ニュージーランド）
2	「社会保障・社会福祉の理念の変遷とその意義②」	ILO、ベヴァリッジ・リポート、憲法第25条、社会保障制度審議会
3	「社会保障のあゆみとダイナミックス―イギリス及びドイツにおける歴史」	救貧法、本源的蓄積、ブース、ラウントリー、飴と鞭の政策、ビスマルク
4	「社会保障・社会福祉の基本原理と限界」	生活障害、生活危険、生活不能、生活の社会化、労働の価値、社会保険方式、消費税
5	「生活保護①」	貧困問題、セーフティネット、社会的排除
6	「生活保護②」	格差社会、ベーシックインカム
7	第1回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
8	「公的年金①」	国民年金、厚生年金保険、共済年金、国民年金制度の成立、国民皆年金
9	「公的年金②」	年金記録管理問題、社会保険方式、消費税
10	「社会福祉法の成立、社会福祉基礎構造改革」	措置制度の解体、利用料概念、営利企業参入、新自由主義
11	「介護保険法と障害者自立支援法」	福祉の市場化、福祉サービスの「商品化」、介護保険と障害者自立支援法の将来的統合
12	「保健・医療制度」	国民皆保険、医療の質と水準、医療の市場化、混合診療、後期高齢者医療制度
13	「消費税の本質と福祉目的税化」	売上税、輸出戻し税
14	第2回検証テスト	検証テストの時期は、あくまで予定なので変更の可能性がある。
15	「新しい社会保障・社会福祉の姿」	社会保障基金、社会保障事務所、社会保障税

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	70 %	レポート試験は70点とする。
平常点評価	30 %	前半、後半に1回ずつ計2回の検証テストを行う。配点は1回を15点とする。

検証テストは、授業の進度によって実施時期を変更する場合がある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新しい社会保障の設計	芝田英昭編著／文理閣／4－89259－521－7／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

社会保障の基本原理と将来像　　芝田英昭編著／法律文化社／4－589－02724－0／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

厚生労働省：http:/www.mhlw.go.jp

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

imr09070@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

障害者とコミュニケーション（S） § 障害者とコミュニケーション（SG）

15425

担当者名 / Instructor　坂井田 美代子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私達はコミュニケーションを通して、人と関わり合い・人との関係を広げ・豊かに創りだしている。また、コミュニケーションをとることで、考えたり、判断したりしながら、人として成長し続けていく。音声によるコミュニケーションが中心の社会において聴覚障害者は情報の伝達から阻害され、情報の共有を阻まれてしまう。また、聴覚障害に対する理解の不十分さやコミュニ ケーション手段等の相違からコミュニケーションの壁をつくられやすく、人と人との係わり合いや社会参加に大きな制約を受けている。コミュニケーション保障や情報保障の課題は聴覚障害者の社会生活全般の根源的な課題として表出している。

本講義では聴覚障害やコミュニケーションの基礎的な理解を基に、社会生活全般における聴覚障害者のコミュニケーション環境の実態・課題を明らかにしつつ、情報保障、コミュニケーション保障の現状や課題、あり方を中心に授業を展開する。

到達目標 / Attainment Objectives

:コミュニケーションの役割について理解することができる。
:聴覚障害について述べることができる。
:コミュニケーション手段や使用方法を理解し、聴覚障害者とコミュニケーションをとる姿勢がもてる。
:聴覚障害者を取り巻く社会環境やコミュニケーション環境について述べることができる。
:バリアーフリー調査を通して共生の視点で地域社会のコミュニケーション課題を整理することができる。
:聴覚障害者のコミュニケーション保障や情報保障について提言ができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

障害福祉、コミュニケーションの基礎的科目

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入／聴覚障害者のコミュニケーション環境の概要	授業の目標／進め方／成績評価方法等／新聞記事に見る聴覚障害者の情報保障やコミュニケーション保障の実態
第2回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（1）：コミュニケーションの役割 ：コミュニケーション障害	コミュニケーションの2つの機能、コミュニケーションサイクル、コミュニケーション障害の体験
第3回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（2）：聴覚障害の基礎的理解	耳の役割、聞こえの仕組み、障害の部位、障害の原因、障害の特徴、聴力レベル
第4回	聴覚障害とコミュニケーションの基礎的理解（3）：聴覚障害者のコミュニケーション手段	コミュニケーション成立の要件、コミュニケーション手段の決定要因、ことばの役割と発達、ろう者・中途失聴難聴者・盲ろう者のコミュニケーション手段と方法、手話、補聴器、触手話等
第5回	聴覚障害者の情報保障（1）聴覚障害者の体験から学ぶ	障害認識と受容、大学でのコミュニケーション保障と情報保障、職場でのコミュニケーション保障と情報保障
第6回	聴覚障害者の情報保障（2）手話の成立と発展そして創造	手話発展の歴史、聴覚障害者の暮らしと手話、音声言語と手話、手話の特徴、新しい手話の創造
第7回	聴覚障害者の情報保障（3）手話通訳制度	手話通訳保障の歴史、手話通訳の役割、手話通訳の養成、手話通訳制度
第8回	聴覚障害者の情報保障（3）情報から阻害された聴覚障害者の実態について「ドン（原爆）が聞こえなかった」・「阪神大震災」ビデオから学ぶ	家族・近隣・友人など私的なコミュニケーションの状況、行政等の公的な情報保障の在り方、コミュニケーションから閉ざされた実態、人生に及ぼす影響、災害時における情報保障
第9回	聴覚障害者とバリアフリー（1）聴覚障害者にとってのバリアフリー	バリア・バリアフリーの概念、物理的な障壁、文化・情報面での障壁、意識上の障壁、制度的な障壁、経済的な障壁、聴覚障害者の情報保障
第10回	聴覚障害者とバリアフリー（2）「私の生活圏における聴覚障害者のバリアフリーの実態」の調査と発表	視覚情報、ユニバーサルデザイン、社会の聴覚障害者に対する意識、共生の視点、個人や地域での取組、必要な制度
第11回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう運動の歴史ー求め続けた情報保障ー	ろう集団の形成の時代、組織の誕生仲間作りの時代、権利運動が生まれた1960年代、手話の市民権確立の時代、社会連帯の運動、更なる運動へと広がる1990年代、ろう運動の展望
第12回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）聴覚障害者の暮らしと福祉制度、参政権、運転免許	コミュニケーション支援事業、日常生活用具、子育ての工夫、手話サークル、公職選挙法、政見放送、運転免許裁判、道路交通法88条と相対的欠格事由

第13回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（1）ろう教育	ろう教育の歴史、教育手段の変遷、現在のろう教育の現状と課題、ろう教師集団が目指すもの、高等教育機関における聴覚障害者学生支援
第14回	聴覚障害者のコミュニケーション環境（2）聴覚障害者と労働	障害者雇用に関する労働施策、就労支援、聴覚障害者の雇用及び就労状況、職場でのコミュニケーション課題、障害者が求める労働継続のための要望
第15回	聴覚障害者のコミュニケーション保障の課題（4）：聴覚障害者のコミュニケーション環境の整備	聴覚障害者福祉施策、聴覚障害関連制度の課題、障害者の権利条約、社会資源の充実

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

講義終了時に下記のような復習課題、予習課題を提示する。
:自分はどのようなコミュニケーションをしているのか、自分にとってコミュニケーションはどんな役割を果　たしているのかを考察する。
:聴覚障害者の体験記録などを読む。
:テレビ等の公的情報保障の現状について意識し視聴する。
:公表されている資料に目を通す（障害者の権利条約）等

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	授業で扱ったキーワードから出題し、到達目標を達成できているかどうかを検証する、記述試験を実施する。
平常点評価	40 %	毎回の授業終了時に、その授業内容に関してのコメント（コミュニケーションレポート）をもとめる。 受講態度のすぐれた者への加点はありうる。 またこのコメントは出席の確認にも使用する。 中間レポート（バリアーフリー調査レポート）の提出を求める。

定期試験はノートの持ち込み可能とする、毎回の講義記録を整理しておくことを望む。
中間レポートの提出は12月頃の予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

視覚教材の使用、グルーぴ討議、ゲスト講師による聴覚障害者当事者の体験、バリアフリー調査等を通して、コミュニケーションの意味や役割、社会の現状等具体的な課題として実感的に学ぶことを望む。下記にふれているが手に入らない参考書が多いこともあるので、興味関心のあるキーワードについては遠慮なく積極的な質問を望む。

教科書 / Textbooks

毎回の授業で詳細レジメ、資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
聴覚・言語障害者とコミュニケーション	共著 ／一橋出版／978－4－8348－0349－5 ／聴覚障害・コミュニケーションの基礎的理解を深められる
聴覚障害児・者支援の基本と実践	奥野栄子 ／中央法規／978－4－8058－4794－7／コミュニケーション環境の制度的の理解を深められる
手話通訳問題研究	共著 ／全国手話通訳問題研究会 ／／手話や手話通訳に係ること、聴覚障害者を取り巻く制度等についてタイムリーな情報や全国情報の提供
新しい聴覚障害者像を求めて	共著 ／（財）全日本ろうあ連盟 ／4－915675－39－4 ／ろう運動や聴覚障害者のコミュニケーション環境の理解を深められる
日本聴力障害新聞	／（財）全日本ろうあ連盟 ／／毎月発行の新聞、聴覚障害者の全国・世界情報や聴覚障害者を取り巻くあらゆる分野の社会情報が得られる

聴覚・手話に関する研究図書は他のものに比較して多くはない上に、聴覚や手話に関わる団体等が行っている調査や研究に関する報告書は、一般書店や図書館などに置かれておらず、なかなか目に触れることや手にすることが困難な状態にある。各授業のキーワードごとに関係資料を配布するとともに、授業の進行に合わせ参考図書や報告書、資料等を紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

jdf.or.jp 当事者団体（全日本ろうあ連盟）の考え方、現在の聴覚障害者を取り巻く課題についての運動状況、研究状況などの参考。その他キーワードに関する理解を深めるために授業時に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

障害者福祉論（S） § 障害者福祉論（SG）

15355

担当者名 / Instructor　峰島 厚

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業は、大きく変わる制度改革のもとで、それらに貫かれるべき、障害者福祉の理念をはじめ、障害者福祉の歴史、障害者の実態、障害者福祉法制の体系と内容の基本を学ぶこととする。

到達目標 / Attainment Objectives

21世紀の初頭に、日本の障害者福祉制度は措置から契約へと抜本的な転換を成し遂げた。この転換は、「同一年齢の他の国民と同等な生活を障害者に権利として保障する」というノーマライゼーションの原理を尊重したものであろうか。今、この転換への反省がされつつある。この授業では、障害者福祉に関する基本的な制度理念の発生の背景を理解し、今日の争点となる障害者福祉制度改革の問題点を見る視点を学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	Ⅰ. 現代の課題を考える	障害者自立支援法の廃止をめぐって。障害観・発達観をめぐって。
2	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（1）	人権、リハビリテーション、完全参加と平等、ノーマライゼーション
3	Ⅱ. 障害者福祉の基本理念（2）	発達保障
4	Ⅲ. 障害の定義・概念（1）	国際的な動向と日本における制度上の定義
5	Ⅲ. 障害の定義・概念（2）	日本における制限列挙主義の問題点
6	Ⅳ. 障害者問題の歴史（1）	原始社会、古代社会、封建社会
7	Ⅳ. 障害者問題の歴史（2）	市民社会、現代へ
8	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（1）	1960年代の「福祉国家をめざして」と1970年代の「福祉見直し」
9	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（2）	措置から利用契約制度への転換
10	Ⅴ. 日本における社会福祉基礎構造改革と障害福祉制度改革（3）	障害者自立支援法の基本的性格
11	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（1）	日中活動・暮らし・地域生活の三つの世界と現行制度体系
12	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（2）	日中活動系サービス、就労・雇用保障
13	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（3）	居住系サービス
14	Ⅵ. 障害者への施設事業等のサービス（4）	地域生活、所得保障、障害児の放課後
15	Ⅶ. まとめ	障害者自立支援法の廃止後について
	注）なお障害当事者をゲストスピーカーに招くものをできたらどこかに入れたい。	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基礎知識、論述
平常点評価	20 %	1－2回の小レポート

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

障害者福祉に関する日々の現実を複眼的に見る力を養う。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法と実践の創造	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－274－6／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
障害者自立支援法の基本と活用	峰島厚、白沢仁、多田薫／全国障害者問題研究会出版部出版部／88134－354－

8／

転換期の障害者福祉	峰島厚／全国障害者問題研究会出版部／88134－011－5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

0620mine@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

心理臨床論（S）

15423

担当者名 / Instructor　岡本 茂樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

複雑多様化する現代社会を背景に，学校では不登校，いじめ，非行や神経症などの問題への対応に教師は苦慮し，青年期においてはひきこもり，リストカット，フリーターやネットカフェ難民といった問題が深刻化している。本講義では，児童期から青年期に至る過程で起きるさまざまな問題を具体的事実から捉え，その背景や要因を分析・検討する。講義では，事例研究やビデオ視聴をはじめ，実際にクライエントが書いた文章も取り上げ，問題をかかえる人の内面理解を深めつつ，支援のあり方を解説する。

到達目標 / Attainment Objectives

①不登校，ひきこもり，非行などの問題を学ぶなかで，自己の価値観を問い直す。
②思春期の心の病理の理解を通して，青年期の心の病の支援のあり方を考える。
③「人の心を受けとめる」とはどういうことかを体験的に習得する。
④以上を通じて，今の自分の生き方とこれからの人間関係を考える契機とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし。自己理解を深め，人とのコミュニケーションのあり方を考えたい人の受講を望みます。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	思春期の心の病理	抑圧・浜崎あゆみ・「いい子の病」
第2回	不登校・ひきこもりの心理療法1	学校恐怖症・初期対応・長期的支援のあり方
第3回	不登校・ひきこもりの心理療法2	「引き」こもり・家族支援・家庭内暴力
第4回	非行臨床1	「強い子」・非行少年の理解・ロールレタリング
第5回	非行臨床2	少年犯罪の推移・薬物への対応・本音の吐き出し
第6回	いじめの心理臨床1	スティグマ・四層構造・いじめ自殺
第7回	いじめの心理臨床2	いじめる子の心理・いじめ指導・不満感情の表出
第8回	思春期の心の病理1：摂食障害	青年期女子の心理・母子関係・寂しさとストレス
第9回	思春期の心の病理2：青年期境界例	2人の自分・見捨てられ不安・尾崎豊
第10回	思春期の心の病理3：自傷行為	リストカット・行動化・限界設定
第11回	思春期の心の病理4：強迫神経症	心身症・クライエントに寄り添うこと・自己開示
第12回	児童虐待とトラウマ	グリム童話・虐待の5つの形態・心のケア
第13回	青年期の心の葛藤の支援	内観療法・親子関係・反省と吐き出し
第14回	犯罪臨床	加害者意識・裁判員制度・矯正教育
第15回	子どもの心の受け止め方	ひきこもり・宮本亜門・支援者としてのあり方

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

特になし。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	心の問題や社会病理についての理解を試す問題を出題する。
平常点評価	20 %	出席点ならびに小レポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義を通して，興味がわいた内容に関連する図書を積極的に読んでください。

教科書 / Textbooks

特に使用しない。講義中にプリントを配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
もういちど親子になりたい	芹沢俊介／主婦の友社／ISBN978-4-07-257271-9／
少年をいかに罰するか	宮崎哲弥・藤井誠二／講談社／ISBN978-4-06-281143-9／
現代のエスプリ　ロールレタリング	松岡洋一・小林剛編集／至文堂／ISBN978-4-7843-5482-5／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

特になし。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

sokamoto@fc.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

人間コミュニケーション論 (S)

15412

担当者名 / Instructor　団 士郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

対人コミュニケーションには言語的なものと、非言語的なものがあります。そして人は圧倒的に多く言語的コミュニケーションを使います。そこではしばしば上手、下手の意識が生まれます。その結果つい、「コミュニケーションは苦手・・・」などという説明を自分に貼り付けてしまいます。

一方、得意だと思っている人は、自分のコミュニケーション技術を振り返ってみる機会はありません。上手くやれていると思っているものを、見つめ直す必要を感じないからです。

その結果、若くして身についた技術のまま、二十代、三十代を過ごしてしまいます。これが要注意点であることに議論は不要でしょう。

また、得意な人も苦手な人も、非言語的コミュニケーションに関しては、自覚することが少ないものです。自分の態度が他者の目にどのように映っているのか。気にはなるけれども、明らかにされる機会はそうありません。ここにも焦点を当てます。

対人コミュニケーションには「スキル（技術）」と「コンテンツ（内容）」の二つの課題が存在します。当然のことですが人は、コンテンツ（伝える内容）とプロセス構築力（伝達手段技術）の両者がうまく備わってはじめて、関係の場に自信を持って立てるのです。

この授業では、大学の講義としては馴染みの少ない、毎回の実習形式でこれらの課題に各自挑戦してもらいます。したがって教室はコミュニケーションの「ジム」だととらえてください。練習しない人や言い訳にすがりつきたい人には意味を持ちません。

対人関係が苦手な人は少しの勇気と共に、得意だと思っている人は、持ち味だけで一生過ごせるわけがないことを内省しながら受講を決めて下さい。

到達目標 / Attainment Objectives

まず、対人コミュニケーションにおける自身の特徴を自覚する事から始まります。そしてそこで発見される課題に各自が取り組みます。エクササイズは毎回提示されますが、どう取り組むかは受講生に委ねられます。教室は知的情報取得の場ではなく、コミュニケーションスキルの練習場です。到達目標はそれぞれのコミュニケーション能力の一歩前進ということになります。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション　授業の進め方　第一回の実習　ミニレポート（記述・提出）	
2	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
3	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
4	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
5	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
6	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
7	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
8	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
9	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
10	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
11	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
12	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
13	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
14	前回のレポート振り返り（レクチュア）・今日の課題実習・今日のフィードバック（記述・提出）	
15	前回のレポート振り返り（レクチュア）・最後の課題実習・	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	
平常点評価	50 %	毎週、ミニレポートの提出があります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

三分の二以上（10回）出席できそうにない者は登録しないでください。毎週フィードバックシートの提出を課します。ミニレポートだけ出しに来るような対応も承認しません。その場合、評価除外します。やむを得ない欠席、遅刻に関しては、フィードバックシートに事情を明記してください。近年の欠席は四，五，六回生に著しく偏っています。出席が無理なら、登録しないでください。

ここ2、3年、男子学生の登録と出席が増えています。開講初期、圧倒的に女子が多かったことを思うと、男子学生の健全化も感じます。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
家族の練習問題	団士郎／／／
家族の練習問題2	団士郎／／／
家族の練習問題3　父よ母よ	団士郎／／／
不登校の解法	団士郎／／／
家族力×相談力	団士郎／／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

人間発達論 (S)

12927

担当者名 / Instructor　竹内 謙彰

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

「人間らしい発達とは何か」という問いをメインテーマとしながら，人間の生涯にわたる発達のプロセスを発達の時期ごとに概観する。その際、人格の発達に焦点を当てるが，それと同時に，認識や感情といった発達の諸相についても、可能な範囲で触れることとしたい。
それに加えて，人間発達に関わる近年の理論的発展についても触れる予定である。

到達目標 / Attainment Objectives

①人間の発達に関して，基本的な知識を得ること。
②人間発達に関わる知識を，福祉や教育の観点と結びつけて理解を深めること
③これらを基礎に，発達上の諸問題について一定の考察ができるようになること。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特になし

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	「授業の進め方についての説明」および「発達とは何か」	機能連関，発達権
第2回	人間発達と進化	進化，遺伝と環境，人間性，個体発生と系統発生
第3回	胎生期の発達的特徴	受精，着床，胎芽期，胎児期
第4回	乳児期前半の発達的特徴	周産期，新生児期，原始反射，顔の知覚，姿勢
第5回	乳児期後半の発達的特徴	共同注意，三項関係，歩行
第6回	幼児期前半の発達的特徴	言葉の始まり，表象，自我，愛着
第7回	幼児期後半の発達的特徴	認知世界の広がり，素朴理論，自己主張と自己抑制
第8回	児童期前半の発達的特徴	学校への移行，勤勉性，具体的操作
第9回	児童期後半の発達的特徴	ギャング・エイジ，9，10歳の発達の節，仲間関係と自己意識
第10回	青年期の発達的特徴	性的成熟，第二反抗期，アイデンティティ，自立と依存
第11回	成人期の発達的特徴	労働，結婚，親になること
第12回	老年期の発達的特徴	子どもの巣立ち，関係性の変容，衰退，英知
第13回	人間発達理解の新しい展開①：発達の可塑性	経験の意味，進化生物学，遅れからの回復，
第14回	人間発達理解の新しい展開②：知的発達を捉え直す	IQ，経験知，分析的知能，実践的知能
第15回	人間発達理解の新しい展開③：英知に向かう発達を捉える	英知，人生回顧，知識，知能，越境，意志

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	学習内容に関する基本的な理解があること，ならびに，そうした理解に基づく妥当な考察ができること。
平常点評価	40 %	コミュニケーションペーパーや小レポートにより、講義に対する理解度や関与度を評価する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
生涯発達のダイナミズム：知の多様性 生き方の可塑性	鈴木忠／東京大学出版会／9784130133012／講義の一部で言及する
朝倉心理学講座3発達心理学	南徹弘(編)／朝倉書店／9784254526639／講義の一部で言及する

上記以外にも，参考となる文献は，随時授業で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

多文化共生論(S) § 多文化共生論(I)

15381

担当者名 / Instructor　小澤 亘

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

新たな社会モデルとして、「多文化共生社会」が模索されている。本講義では、異なる文化の間に生じる激しい軋轢や摩擦の現状を見極めながら、いかにして、そうした困難を乗り越え、ひとびとが、文化の違いを、むしろ、「生き方の多様性＝豊かさ」として捉え返していけるのか、参加者とともに考えていきたい。

到達目標 / Attainment Objectives

1)文化の多様性について理解する。
2)自分とはいったい何者かという問いを出発点として、異なる文化に接近する方法を理解する。
3)多文化共生問題の本質を理解する。
4)問題を乗り越えていく視点を獲得する。
5)具体的に提案し活動していく発想力・構想力を身に付ける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

本科目は、現代社会専攻社会文化領域の入門専門科目として位置づけられている。そうした位置づけを意識しながら授業展開をこころがけるので、社会文化領域の関連科目を継続的に履修することが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	授業の概要と導入:映画『12人の怒れる男』鑑賞	映画分析　レポート提出(以下、レポートスケジュールについては、初回に説明する)
第2回	多文化共生問題へのアプローチ	「共生」という概念　エスニシティとは何か？
第3回	ネイションとは何か？	TST分析について　「想像の共同体」「民族という名の宗教」
第4回	文化摩擦の事例研究	「イスラムのヴェール事件」
第5回	国民国家とは何か？Ⅰ	リヴァイアサンの登場　フランス共和制の構造
第6回	国民国家とは何か？Ⅱ	普遍主義のジレンマ　「相互性」の変質
第7回	新たな国民国家像への挑戦	多文化主義のジレンマ　文化的ネットワーカーの必要性
第8回	差別問題へのアプローチ	ビデオ『青い目、茶色い目』 差別の普遍性
第9回	文化的再生産の理論	文化にもとづく差別の構造化
第10回	日本におけるエスニシティ問題Ⅰ	在日問題、新屋英子『身世打鈴』、中国帰国者問題
第11回	日本におけるエスニシティ問題Ⅱ	東九条マダン　多文化共生に向けた文化装置
第12回	外国籍住民の政治参加	外国人市民会議の可能性　外国人選挙権付与問題
第13回	多文化共生に向けた社会形成	多文化社会とNPOの役割
第14回	日本において多文化共生社会は可能か？	レポートフィードバック　ディスカッション
第15回	検証テスト	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

期中に4回ほどレポートを課す。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	60 %	
平常点評価	40 %	授業理解および授業参加度を評価する。 期中に、4回ほどレポートを課す。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

最初に、『12人の怒れる男』を視聴する。単調な映画で、しんどいと思いの方は、この授業の受講自体を再検討されたい。なぜなら、こうした映画を最後まで見ることができるか、いなか、それが、「多文化共生」という困難なテーマに立ち向かう皆さんの潜在能力を計る試金石となるからである。分析レポートを課す予定。履修を希望する者は、初日から必ず参加すること。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しない。

参考書 / Reference Books

授業中に適時紹介していく。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

授業中に適時紹介していく。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

その他 / Others

期中に4回ほどレポートを課す。授業への参加姿勢をできるだけ評価したい。問題領域は、社会学・福祉問題・文化に関する学・NPO論など広範囲にわたる。紹介する図書を、少なくとも2，3冊は授業を受講しながら読んでいって欲しい。

地域社会論（S）

15433

担当者名 / Instructor　中西 典子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

グローバル化のもとでの経済変動や人口の流動、少子高齢化のなかでの不透明な未来社会への不安や危機意識の拡大など、ゆらぐ現代社会のなかで、いまあらためて地域社会の機能が問い直されつつある。戦後の高度経済成長期における急激な都市化を経て、身近な地域社会の人間関係が希薄化してきた事態に鑑み、とくに近年では、福祉や教育、食、環境など人々の暮らしに関わる問題領域への関心の高まりとともに、日々の暮らしの場である地域社会での対応力が期待されてきている。

本講義では、こうした地域社会を分析対象としてきた地域社会学を中心に据えながら、地域社会の成り立ちや構造的特質をふまえ、戦後日本の地域社会変動を都市と農村の双方を視野に入れつつ読み解いていく。また、現代において、地域社会で生起している具体的な社会問題に対して、その背景にある政治・経済・社会・文化など複数の視点から分析し、問題解決の可能性について地域社会を構成する様々なアクターの主体的営為に着目しながら多角的に考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

（1）地域および地域社会を対象としてきた地域社会学の基本的概念や分析方法を習得するとともに、地域社会の変動過程とその要因について、都市・農村の連関構造から解明することができる。

（2）戦後日本資本主義の展開と地域政策の動向を把握するとともに、近年の地方分権改革や規制緩和、民営化という流れのなかで、地域社会に生活する人々の具体的な諸相を社会科学的に把握することができる。

（3）現在の地域社会が抱えている様々なコンフリクトや生活課題に気づくとともに、それを解決していくために実際に様々な取り組みがなされている現状を学びながら、一アクターとして積極的に地域社会に関わっていくことの重要性を認識することができる。

（4）地域社会を理論的・経験的に理解し、「持続可能な地域社会」像を描くことのできる職業人・地域人としての素養を身につけることができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	イントロダクション―いまなぜ「地域社会」なのか	地域、地域社会、生活の社会化、共同消費、地域の福祉力
第2回	「地域社会」への社会学的アプローチ（1）―農村社会学と都市社会学―	農村社会学、都市社会学、イエ・ムラ理論、人間生態学、アーバニズム論
第3回	「地域社会」への社会学的アプローチ（2）―農村／都市の社会学から地域社会学へ―	都市と農村、地域社会学、地域社会の重層化、地方自治体
第4回	「地域社会」への社会学的アプローチ（3）―地域社会学の研究対象と分析方法―	地域社会の構造分析、階級構造、集団構成、社会構造、生活過程
第5回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（1）―伝統的地域社会としての「村落」の解体と再編―	村落、村落共同体、自然村、聚落的家連合、農民層分解、市場関係の凝集点
第6回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（2）―戦後日本資本主義の展開と地域開発政策―	戦後日本資本主義、地域開発、企業誘致、産業構造、地域構造
第7回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（3）―地域産業の変貌と地域社会の階級階層構造の変化―	地域の産業構造、農工間の不均等発展、労働市場、地域格差、都市化論争
第8回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（4）―地域の生活問題と住民運動―	生活問題、都市問題、四大公害裁判、住民運動、革新自治体、地方自治
第9回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（5）―地域政策の転換とコミュニティ―	コミュニティ形成施策、定住圏構想、住民参加
第10回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（6）―グローカリゼーションと越境する地域―	グローカリゼーション、世界都市、都市空間、空間構造の再編
第11回	「地域社会」の変容と地域社会学研究史（7）―新たな公共政策と地域社会形成の課題―	地方分権改革、自治体行政、市民活動、公共性、ローカル・ガバナンス
第12回	「地域社会」の再生と創造に向けて（1）―都市社会運動と「公共性」の再構築―	ジェンダー、エスニシティ、マイノリティ、社会的排除、新しい社会運動
第13回	「地域社会」の再生と創造に向けて（2）―地域住民組織と非営利・協同組織―	市民セクター、ボランタリー・アソシエーション、コミュニティ
第14回	「地域社会」の再生と創造に向けて（3）―行政と住民のパートナーシップによる地域再生戦略―	地域再生法、地域再生協議会、官民パートナーシップ、グラスルーツ
第15回	「地域社会」の再生と創造に向けて（4）―地域社会の新しい主体像―	全戸包括型住民組織、目的意識型市民組織、NPO、社会的企業

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

講義で配布するプリントや資料は限られた時間内では消化しきれないため、講義後にも隅々まで目を通しておくこと。また、講義は本テーマをより深く考えていくための素材を提供する契機であるため、上記の参考書以外にも、関連する文献・資料を自ら熟読して、知見を豊かにしていくこと。さらに、講義内容は、福祉社会学や理論社会学などの社会学隣接領域、政治学（地方自治論、行財政論、福祉国家論など）や経済学（社会政

策、社会経済論など)、地理学などの隣接諸科学にも触れることになるので、それらの分野の基礎知識も視野に入れておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	設問と小論形式で、授業全体を通しての受講者の理解度を把握する。小論では、論理的思考力と独創性を評価する。
平常点評価	20 %	授業の節目において数回の小レポートを課すが、コメントシートとして、質問や感想を求めるものである。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会科学的な見地から地域社会をめぐる諸事象・問題に関心を持ち、日頃からそれに関する新聞やテレビのニュース・話題に接し、社会的想像力を働かせて自分自身の考えや行動の指針を表明できるようにしておくこと。また、地域社会の学習にあたっては、当該の現地を観察するとともに人々の生の声を聴くこと(ヒアリング)が重要な分析材料ともなるので、可能な限り、実際のフィールドに出向くことを心がけてもらいたい。そして、複数の文献や資料、事例にあたり、それらの裏づけをもとに真理を追究していくという姿勢を忘れないこと。

教科書 / Textbooks

教科書は使用しないが、毎回、プリントおよび資料を配布する。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『地域社会へのまなざし』	大久保武・中西典子編著／文化書房博文社、2008／9784830110757／
『地域社会学講座3 地域社会の政策とガバナンス』	岩崎信彦・矢澤澄子監修／東信堂、2006／4887136803／
『越境する都市とガバナンス』	似田貝家門・矢澤澄子・吉原直樹編著／法政大学出版会、2006／4588675117／
『キーワード地域社会学』	地域社会学会編／ハーベスト社、2000／4938551462／
『現代都市と地域形成』	蓮見音彦・似田貝家門・矢澤澄子編／東京大学出版会、1997／4130501372／

上記以外の参考文献は講義の中で適宜提示する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

〇地域社会学会ホームページ　http://wwwsoc.nii.ac.jp/jarcs/
〇内閣府ホームページ　http://www.cao.go.jp/
上記以外のホームページは講義の中で適宜提示する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワーに研究室に来室するか、メールで連絡のこと。

その他 / Others

地域福祉論（S） § 地域福祉論（SG）

12921

担当者名 / Instructor　津止 正敏

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

地域福祉とは何か。この一見単純な問いかけに一言で答える事はそれほど容易ではない。老人福祉法や児童福祉法などといった根拠法をもつ分野別福祉とは違ってその領域・対象確定が難しいこと、分野・領域というよりむしろ関連領域とのネットワークやシステム化、組織化といった方法論に特徴をもつこと、ボランティアなど制度を補完し、あるいは先導する市民の自主的活動により深くコミットすること、さらにはその活動を通して市民の福祉に対する価値観や態度、ひいては法制度など社会システムの変容すら課題とすること、などという地域福祉の特質がその理解をことさらに難しくしている要因かもしれない。そして、「地域福祉の推進」を柱にして社会福祉法が新たな地域福祉理解を提起していることもその理解をより複雑にしている。この講義で現実の地域福祉プログラムの臨床研究を通して「地域福祉とは何か」に迫ってみようと思う。

到達目標 / Attainment Objectives

1.高齢・児童・障害等各分野別福祉との比較検討による地域福祉理解を図ると共に、地域福祉の固有の構造と領域、方法,歴史について理解を深める。
2.福祉を通して地域社会への興味・関心を深める。
※原則として、変更されることはありません。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

児童、老人、障害の各分野別福祉論並びに社会福祉概論、社会福祉援助技術論等は事前に履修しておくことが望ましい。この講義は、具体的な地域福祉と地域福祉活動の臨床研究を中心に展開するが、全体を通して「地域福祉とは何か」を問う講義となる予定である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	イントロダクション－地域福祉論スケッチ－	歴史　社会問題　地域社会　社会福祉
2	地域福祉とコミュニティ －論文「地域福祉とネットワーク」－	コミュニティ　少子高齢化　ネットワーク
3	新しい地域福祉プログラム－論文「福祉とコミュニティ」－	コミュニティ　少子高齢化　ご近所
4	新しい地域福祉活動プログラム 2－ネオ町内会－	町内会･自治会　ソーシャルキャピタル
5	地域福祉と当事者支援①－子育て支援①－	子育て支援　子育てサークル　当事者
6	地域福祉と当事者支援②－子育て支援②－	子育て支援　子育てサークル　当事者
7	地域福祉と当事者支援③－障害児と地域福祉①－	障害児　放課後保障　ボランティア
8	地域福祉と当事者支援④－障害児と地域福祉②－	障害児　放課後保障　ボランティア
9	地域福祉と当事者支援⑤－男性介護者支援①－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
10	地域福祉と当事者支援⑥－男性介護者支援②－	男女共同参画　ジェンダー　介護　社会資源
11	地域福祉の方法①－コミュニティワーク－	ソーシャルワーク　コミュニティワーク　間接援助技術
12	地域福祉の方法②－地域福祉(活動)計画－	地域福祉(活動)計画　市民参画　ワークショップ
13	地域福祉の方法③－地域福祉の機関と担い手－	社会福祉協議会　民生委員　社会福祉施設　NPO
14	地域福祉の方法④－ボランティアリズムと地域福祉－	ボランティアセンター　ボランティアコーディネーター　NPO
15	地域福祉とは何か－地域福祉の歴史的発展を踏まえて－	地域福祉　分野別福祉　住民主体　関係性　当事者性　社会運動

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

地域福祉活動やボランティア活動についての体験があれば、講義内容の理解が容易であると思われる。実際に活動に参加・体験してみたり、友人知人の体験談や活動実施機関・団体等のレポートなどにも目を通しておくこととを薦める。ゲストスピーカーも予定し、毎回簡単な感想／意見(コミュニケーションペーパー)を求め、可能な限り教員学生の双方向の授業実現に努めたい。毎回の出席が学びの達成に直結するよう進めていく。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	40 %	講義内容に即した地域福祉理解について評価する
レポート試験	30 %	2～3回の中間試験又はレポートを課す
平常点評価	30 %	講義時のコミュニケーションペーパーなどを活用する

本講義は、2回生以上の配当科目ではあるが、各分野別福祉論(児童、障害、老人、など)や援助技術論を受講後の方が望ましいし、その方が講義理解を容易にすると思われる。各分野別福祉との比較検討の中で地域福祉固有の構造や領域、方法について具体的に講義していく

予定。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書としては特に指定はないが、講義中にその都度適宜紹介する。また、社会福祉士の国家試験の受験を予定しているものは、本講義では特にその受験対策は行なわないために、該当テキストによって自学自習すること。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
男性介護者白書	津止正敏／かもがわ出版／978-4-0117-5／
ボランティアの臨床社会学	津止正敏他／クリエイツかもがわ／／3月発行予定

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

全国社会福祉協議会　http://www.shakyo.or.jp/
厚生労働省　http://www-bm.mhlw.go.jp/index.html
内閣府　http://www.cao.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

mail：tsudome@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

地域保健論（S）

15361

担当者名 / Instructor　白石 陽子

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

近年の地域保健活動は、国から地域及びその構成員個人へと主体がシフトしている。その流れを踏まえつつ、地域保健に関する基本概念や行政の仕組み、行政や諸関連組織の活動などについてみていく。
さらに、疾病構造、生活習慣などを踏まえたうえで、地域や個人を対象とした健康課題やその対策について、保健や医療分野にとどまらず福祉をはじめ多様な視点から多面的・多層的に考察する。

到達目標 / Attainment Objectives

この科目を修了した学生は、次のことができるよう期待されている。
1．地域（市町村）レベルでの保健康課題、対策の理念や仕組みなどに関する基礎知識を身につける。
2．社会保障における地域保健政策の役割や課題について、身近な事例などを用いて説明できる。
3．医療をはじめ福祉や環境など他の分野との相互関係を踏まえて多面的に議論できる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にないが，地域社会論，地域福祉論，現代人とヘルスケア，衛生学などとあわせて受講することで理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1回	ガイダンス	講座の目標（到達点）、全体の流れ、評価方法などの概要説明
2回	地域保健と健康；各種関連用語及び概念について	地域保健、健康、ヘルスプロモーション、疾病予防、健康増進、介護予防など
3回	健康の指標及び日本の健康の状況	疾病構造、死亡要因、平均寿命などからみる健康状況と保健課題
4－5回	保健政策の流れ（歴史）	現在のプライマリケア、健康増進（ヘルスプロモーション）までの政策の流れと保健サービスが国から市町村に移行する背景
6回	地域保健（1）全体論	地域保健に関する行政制度・サービス、人的資源の概要
7－8回	地域保健（2）各論	①健康増進対策；近年、住民の関心が高まり、行政においても重点が置かれている健康増進政策制度・サービスとその背景 ②地域主体へ移行する保健領域；高齢者保健、母子保健、精神保健のサービスと社会的背景
9回	地域保健と医療	医療の制度・サービスおよび保健領域との関係 （地域医療計画、生活習慣病対策、健康日本21など医療行政との関係を理解）
10回	地域保健と福祉	福祉制度・サービス及びそれらとの連携 （児童育成計画、障害者福祉計画、高齢者福祉計画、介護保険事業計画などとの関係を理解）
11回	地域保健推進の手法（1）	地域保健計画、地域保健医療計画、健康日本21地方計画、食育推進地域計画など地域保健にかかわる計画の意義・内容・課題
12回	地域保健推進の手法（2）セーフコミュニティ①	WHOセーフコミュニティ（SC）の概要説明および地域保健の視点からみたSCの意義の検討
13回	地域保健推進の手法（3）セーフコミュニティ②	WHOセーフコミュニティ活動の事例（海外） →SCの組みの状況と保健面での成果に関する海外の事例（主に、保健が地域レベルで取り組まれているスウェーデンや北欧諸国や近年取り組みが活発なアジアの事例を中心に説明）
14回	地域保健推進の手法（4）セーフコミュニティ③	WHOセーフコミュニティ活動の事例（日本） →日本におけるさまざまなSCの取り組みと成果（高齢者保健、精神保健、職域保健・・・）への展開を国内の事例（亀岡市、十和田市、厚木市など）
15回	まとめ	これまでの講義内容のまとめ

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして実施する。 授業の理解度を確認するとともに、学んだ内容をもとに自分の身近な地域における健康課題を取り上げ、対策について考察する。
平常点評価	50 %	出席を重視する。 また、小レポートやコメントシートにより関心事や理解の深さを確認する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

1)地域保健は、私たちだれもが日常生活で大きく関っている分野です。日々の生活のなかからも興味深く学ぶために、自分で具体的な健康課題とその取り組みを考えながら学んでいくことを勧めます。最終的にレポート作成にも関わってきますので、自分がとりくむ課題を考えつつ受講してください。

2)前半は地域保健の全体像の理解を目的としています。後半は各論として、実際に他の分野との関係や具体的な取組事例を取り上げます。後半の各論を理解するためには、前半の基礎をしっかり把握しておくことが重要です。前半後半を通して授業に出て内容を把握したうえで自ら取り組む人口と健康問題について考えて、最終的に提出するレポートを作成していくことが求められます。

3)課題については早い時期に授業でお知らせするので、学期終了時に何が求められているかを理解したうえで受講してください。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
シンプル衛生・公衆衛生学	鈴木庄亮・久道茂／／／地域保健の概要の把握について
健康づくりと社会環境	松田亮三他 ／法律文化社／／主に健康づくりについて
国民衛生の動向	／財団法人　厚生統計協会 ／／公衆衛生の動向など全体的な理解について

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

（行政）
厚生労働省(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
健康日本21　http://www.kenkounippon21.gr.jp/
（研究機関）
国立健康・栄養研究所(http://www.nih.go.jp/eiken/index.html)
国立保健医療科学院(http://www.niph.go.jp/)
電子図書館からは、『保健医療科学』（かつての『公衆衛生研究』）が読める
http://www.niph.go.jp/toshokan/denshi-toshokan.htm
厚生労働科学研究のデータベースもある
http://www.niph.go.jp/wadai/mhlw/index.htm

（ポータルサイト）
健康ネット　http://www.health-net.or.jp/　（健康に関連したNGO）
その他、多数あり。授業中に紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

発達障害論（S）

15338

担当者名 / Instructor　荒木 穂積

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

発達障害の概念、発生・成立のメカニズム、診断、予後および療育・指導方法などについて、人間の発達段階と関わらせて論じる。乳児期、幼児期においては早期発見・早期対応・早期療育などの課題と関わらせて、学童期・青年期においては学校教育・集団活動などの視点から発達支援の課題と関わらせて考えていきたい。

本講義では、人間発達の過程において発達の質的転換期（例えば、「階層-段階」理論など）との関わりで発達障害をとらえていく。発達障害児・者への支援の実際についても学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

・発達障害の基礎的概念や用語を学ぶ。
・発達障害の発生・成立のメカニズムを学ぶ。
・人間発達における質的転換期と発達障害の関係について理解を深める。
・発達障害児・者への支援の実際について学ぶ。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

乳幼児心理学、児童青年の心理、人間コミュニケーション論、障害者福祉論、心理検査法

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	1－1. 発達障害とは（1）－基礎的用語と定義の説明－	発達、障害、発達障害、学習障害、言語障害、情緒障害、行動障害、自閉症、アスペルガー障害
第2回	1-2 発達障害とは（2）－歴史・現状－	障害者数、発達障害者数、発達障害者支援法、障害の定義
第3回	1-3 発達障害とは（3）－系統発生と障害の成立－	人間進化、遺伝病、障害の成立、機能障害、共同社会、社会の進歩と障害者、知的障害と能力主義、障害と社会
第4回	2-1　発達の「階層－段階」と発達障害（1）－胎生期（その1）－	受精、卵体期、遺伝病、染色体異常、胎芽期、器官形成期、形成異常
第5回	2-2　発達の「階層－段階」と発達障害（2）－胎生期（その2）－	胎児期、脳の発達、神経の成長、先天異常、流産と死産
第6回	2-3　発達の「階層－段階」と発達障害（3）－周生期・新生児期－	未熟児、低体重児、仮死、アプガー指数、重度重複障害
第7回	2-4　発達の「階層－段階」と発達障害（4）－乳児期前半－	原始反射、親と子の絆、運動発達、笑顔の獲得、情緒の発達、親子関係、脳性まひ
第8回	2-5　発達の「階層－段階」と発達障害（5）－乳児期後半－	移動、コミュニケーション、注意共有機構（SAM）喃語の獲得、模倣と学習、愛着の発達、対人関係障害、情緒障害
第9回	2-6　発達の「階層－段階」と発達障害（6）－脳性まひ－	ボイター法、乳幼児健診、大津方式、早期発見、早期対応
第10回	2-7　発達の「階層－段階」と発達障害（7）－幼児期（その1）：幼児期前半－	歩行、道具の操作、言語の獲得、遊びと模倣、自我の誕生
第11回	2-8　発達の「階層－段階」と発達障害（8）－幼児期（その2）：幼児期後半－	ケンケン、描画の発達、「心の理論」の獲得、自己と他者、自制心の形成
第12回	2-9　発達の「階層－段階」と発達障害（9）－自閉症（その1）－	自閉症スペクトラム、カナータイプ、アスペルガー症候群、フエノタイプ、3つ組みの障害、診断基準、二次障害
第13回	2-10　発達の「階層－段階」と発達障害（10）－自閉症（その2）－	早期発見、早期診断、共同注意、マインド・リーディング、障害の受容
第14回	2-11　発達の「階層－段階」と発達障害（11）－学童期－	具体的操作、保存、社会的自己、ギャング・エイジ、学力不振
第15回	3-10　発達の「階層－段階」と発達障害（12）－アスペルガー症候群－	二次障害、いじめ、不登校、ひきこもり、社会参加、障害の自己認識、こだわりと個性

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

・実習やフィールドでの経験があると理解しやすい。
・日頃、耳にする用語や概念を授業で正確に理解してほしい。
・自閉症やアスペルガー症候群などの発達障害をもつ当事者や家族の手記などを読んでみると理解がしやすい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	50 %	配点にそって採点する。 日本語としの文章や表記が正確でない場合は減点となる。
レポート試験	40 %	事実と自分の意見・感想が区別して述べられているか。 資料や文献の読み込みがしっかりできているか。 資料や文献の紹介が中心のレポートは減点となる。
平常点評価	10 %	授業への参加度と積極性の自己評価を重視する。

コースツールを活用して提出物をもとめることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業の途中でレポートの提出をもとめます。必ず提出してください。
授業テーマと関連する教材や文献を活用して知識をひろげる努力をしてください。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
発達診断と障害児教育	荒木穂積・白石正久／青木書店／ISBN978-4250207259 ／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
自閉症と遊び	ヤニック・ベイヤー＆ローネ・ガメルトフ／クリエイツかもがわ／ISBN978-4902244922 ／自閉症とその発達支援の基礎を学ぶ

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
子どもの発達と診断①～⑤	田中昌人・田中杉恵／大月書店／／乳幼児期の発達の基礎を学ぶ
障害医学への招待-特別支援教育・自立支援法時代の基礎知識-	杉本健郎・二木康之・福本良之／クリエイツかもがわ／／障害の医学的基礎を学ぶ
自閉症スペクトラム生き方ガイド-自己権利擁護と「障害表明」のすすめ-	スティーブン・ショア／クリエイツかもがわ／／自閉症の発達障害支援の基礎を学ぶ

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

日本自閉症協会：http://www.autism.or.jp/
日本ダウン症ネットワーク：http://jdsn.gr.jp/
日本知的障害者福祉連盟：http://www13.ocn.ne.jp/~jlid/
日本発達障害者ネットワーク：http://jddnet.jp/
全国障害者問題研究会：http://www.nginet.or.jp/
文部科学省: http://www.mext.go.jp/
厚生労働省：http://www.mhlw.go.jp/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

研究室は修学館340号です。
面談希望の場合には事前に連絡をください。
Tel＆Fax：　075-466-3069
E-mail:hozumi@ss.ritsumei.ac.jp

その他 / Others

レジュメは当日配布します。授業後はコースツールにアップロードしておきますので各自ダウンロードしてください。授業の連絡事項も授業場面及びコースツールの連絡事項で指示をします。

発達保障論（S）

12886

担当者名 / Instructor　加藤 直樹

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

授業の概要：発達保障とは、社会福祉や保育・教育、医療などの実践や理論と関わる、人権や社会保障を根底から成り立しめるためにうまれてきた権利保障の思想と科学である。人間が一生をかけて自己実現を成し遂げるためには、生まれてから死をむかえるまでのライフサイクルをとおして、人生のそれぞれの時期にどのような人間的自由を獲得し、人間発達が保障される中で、人格の拡大・充実・発展を成し遂げるかを考える学問である。

本年度は、人間発達の阻害状況とともに、子どもや障害をもつ人たちの発達の可能性とそれを保障するための理論と実際について考察していく。

到達目標 / Attainment Objectives

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論、人格発達論、障害者福祉論、現代人権論、ライフサイクル論、発達障害論

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	発達保障とは何か（1）	性格と構成要素
第2回	発達保障とは何か（2）	発達保障の系譜
第3回	人間のライフサイクルと発達保障の課題	
第4回	子どもと発達保障1　胎生期	
第5回	子どもと発達保障 2　乳幼児期	
第6回	子どもと発達保障3　児童期	
第7回	青年期(思春期を含む)と発達保障	
第8回	成人期･高齢期の発達保障	
第9回	現代社会と発達保障1	発達の危機をもたらしたもの(1)
第10回	現代社会と発達保障2	発達の危機をもたらしたもの(2)
第11回	現代社会と自立1	自立の時代と自立論の新展開
第12回	現代社会と自立2	自立＝自律
第13回	現代社会と自立	自己教育力
第14回	現代社会と自立	次代の担い手に求められるもの
第15回	まとめ	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

適宜レポートの提出を求める

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	90 %	
レポート試験	10 %	

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

教科書は使用しない。
参考図書は授業の中で紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉経営論（S）

15374

担当者名 / Instructor　廣末 利弥

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

少子高齢社会の進捗、格差社会の広がりのもとで現在と未来に安定を託した社会福祉拡充への期待は極めて大きいが、制度としては公的責任が薄らぎ契約制度への移行が進められている。その中にあって真に憲法に保障される生活権、生存権に値する福祉事業の運営と経営のあり方を考える。そのためには、社会福祉とは何か、社会福祉事業とは誰のため何のために存在するか、学ぶべき立脚点を明確にする。その上で、福祉事業の運営と経営の実際を学ぶとともに、公的な責任のもとで真に国民に開かれた福祉事業の運営と経営のあり方を見出すことを中心とする。

到達目標 / Attainment Objectives

・社会福祉と社会福祉事業の役割と使命及び実際を理解する
・公的責任のもとでの福祉事業を営む社会福祉法人の設立と運営、及び役割、使命を理解する
・福祉現場を支える福祉従事者を取り巻く環境と福祉労働の役割を理解する
・市場化されている福祉現場の運営と経営の実際を学びながら、国民の権利保障としての福祉事業の運営と経営　のあり方を理解する

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会福祉法、社会保障論他各種の福祉法
なお、できれば福祉施設・事業所への見学等をしておくことが望ましい

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	総括的導入講義	自己紹介、授業計画
第2回	福祉経営を学ぶ視点	社会の現状と国民の生活実態。権利としての社会福祉。ノーマライゼーション。
第3回	社会福祉の理念	社会福祉の歴史、福祉実践の到達と課題
第4回	社会福祉法	社会福祉法の概要と社会福祉事業
第5回	公的福祉を推進する社会福祉法人	社会福祉法人の概要と設立、運営、定款準則
第6回	社会福祉法人の運営	資産、役員、運営原則、事前規制、監査など
第7回	公的福祉サービスの運営と経営	措置制度と措置費の仕組み・特別養護老人ホームを中心に
第8回	障害施設の運営と経営	障害者福祉を巡る情勢と共同作業所等の運営と経営の実際
第9回	保育所の運営と経営	保育を巡る情勢と保育所の運営と経営の実際
第10回	介護保険制度のもとでの事業経営	介護保険制度の概要と仕組み
第11回	市場化のもとでの福祉経営	特別養護老人ホームの運営、経営の実際と特徴
第12回	市場化のもとでの福祉経営	在宅福祉サービスの運営、経営の実際と特徴
第13回	福祉労働と専門性	福祉従事者をとりまく法的整備と給与等の実態。福祉労働における専門性。
第14回	良質な福祉サービス提供のために	サービスマネージメント、危機管理、外部評価等
第15回	社会福祉法人の役割、使命	社会福祉法人のアイデンテイテイとこれからの姿を求めて

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

できれば福祉にかかる事業所（福祉施設等）を見学しておくことが望ましい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	40 %	社会福祉にかかる運営と経営に関する知識と考え方の明確化
平常点評価	60 %	出席　40% 日常のコミュニケーションペーパー等による問題意識の明確化　20% なお、出席率70%以下は及第しない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

福祉を必要とする人の暮らしやハンデイキャップを理解し、共感することのできる自らの人間性が重要である。そして福祉に関する知識と共に対人援助事業をとおして行われる人間性豊かな援助実践の役割を理解することが大切である。人を理解し、自らの人間性を高めること、そして、人と社会を見つめる確かな目を養うよう努力することが望まれる。それは、単に福祉ではなく「社会」を冠する社会福祉の意味と役割をしっかりと理解することに通じるものと思われる。

教科書 / Textbooks

毎回、レジュメ・資料を配布する

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉辞典	同／大月書店／4-272-36040-x／
民間社会福祉事業と公的責任	福祉労働福祉経営共同研究所／かもがわ出版／4-87699-731-4／
転換期の社会福祉事業経営	石倉康次／かもがわ出版／4-87699-651-2／
福祉サービスの組織と経営	社会福祉士養成講座編集委員会／中央法規出版／／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.mhlw.go.jp/shingi/hosyo.html/#kaigohoken

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

メールアドレスなど連絡方法は、初回講義日に知らせます。

その他 / Others

福祉行財政論（S）

12928

担当者名 / Instructor　長谷川 千春

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この講義では、経済社会の変化が進むなかでの、社会保障･社会福祉に関する行政･財政政策の現状と問題について学ぶ。社会保障･社会福祉をめぐる問題を考えるためには、その理念、歴史、制度の仕組み、財政構造を理解することが大切である。その上で、これらの制度が抱える問題やその経済的･社会的背景や地域性にも目を向け、高まる福祉需要への対応について理解を深めたい。日本は、21世紀にどのような福祉システムに再編･調整しようとしているのか、諸外国にも目を向けながら展望する。

到達目標 / Attainment Objectives

(1)私たちの生活のなかでの社会保障･社会福祉に関わる問題の現状を知る
(2)社会保障･社会福祉に関わる政策･制度と行財政への理解を深める
(3)社会保障･社会福祉に関わる政策と経済的･社会的背景との関連性についての理解

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	福祉行財政論ではなにを学ぶのか	講義の導入、社会保障、社会福祉、公的扶助、福祉サービス、少子高齢化社会
2	社会保障･社会福祉の歴史的変遷～政策理念と福祉国家の変容	国民皆保険、福祉六法、福祉元年、新自由主義
3	社会保障･社会福祉財政の展開～国際比較の観点から	社会保障財源、社会保障給付費、ヨーロッパ、アメリカ
4	医療の福祉：医療制度をめぐる問題と医療保険財政	医療費増加、財政赤字
5	医療の福祉：医療保険制度改革と「皆保険」	国民健康保険と職域保険、給付と負担の見直し、医療費の適正化、無保険問題
6	年金の福祉：年金制度をめぐる問題と年金保険財政	国民年金、厚生年金、国と地方
7	年金の福祉：年金制度改革と老後の所得保障	給付と負担のバランス、国庫負担、積立金
8	高齢者の福祉：介護に関する行財政の歴史と介護保険制度	措置制度、社会保険、要介護認定
9	高齢者の福祉：介護保険の財政構造と地域間再分配	給付、保険料、公費、介護報酬
10	子どもの福祉：少子化の現状とその背景	合計特殊出生率、出産･育児の費用負担、核家族化、晩婚化
11	子どもの福祉：子育て支援政策とその財源	サービス給付、経済的支援、仕事との両立支援
12	子どもの福祉：保育所サービスと地域性	認可･無認可保育所、待機児童
13	最後のセーフティネット：生活保護の現状と財政	国と地方、地域格差、最低生活費
14	最後のセーフティネット：生活保護行政と「自立支援」	就労支援、「無保険者」
15	21世紀の日本の福祉行財政の展望	講義のまとめ、少子高齢化社会、格差社会、グローバル化

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日ごろから新聞･雑誌などに目を通し、私たちの生活に関わる問題や、社会保障･社会福祉政策に関わる動向に関心を持つようにすること。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験(筆記)	80 %	到達目標に照らして評価する。
平常点評価	20 %	8回目の授業中に、理解度の確認のため小テストを実施する。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

テキストは必ず購入し、授業時に持参すること。
授業中に適宜配布する資料を見直し、整理･保存すること。
日ごろから新聞に目を通すこと。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社･ISBNコード･コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
福祉国家と地域と高齢化	渋谷博史･桜井潤･塚谷文武／学文社／／2009年12月刊行

基本的に、上記の本をテキストとして用いる。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
グローバル化と福祉国家と地域	渋谷博史・樋口均・櫻井潤編／学文社／／2010年4月刊行
社会保障と地域	渋谷博史・根岸毅宏・木下武徳／学文社／／2008年4月刊行

基本テキストと合わせて、参考書に挙げた文献の内容も一部講義で扱う。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー
事前にメールで確認することが望ましい。

その他 / Others

福祉産業論（S）

12741

担当者名 / Instructor　今井 久人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

福祉産業論と一口に言っても、現状を見る限り自動車産業や鉄鋼産業などの天下国家を支えるほど巨大なものではない。また、明確な共通イメージがあるわけでもない。一般的なイメージでは保健・医療・福祉など日常の生活部面で提供されているサービスが多く見られるところである。少子高齢社会の到来とともに保健・医療・福祉など、それぞれの分野で市場が形成また拡大されつつあり、今後のこれらの分野の成長が見込まれることから既存産業からの参入が図られているところである。本講義では、その現状を見ながらこの分野の将来性とその成長が市民生活の支援等にどう寄与するかを見る。

到達目標 / Attainment Objectives

保健・医療・福祉といった生活関連産業のそれぞれの分野の特徴や具体的な事業展開例から、福祉産業を俯瞰的に広く理解するレベルに達すること。さらにその理解の上にたって、今後、社会人として生活の様々な場面で利用するであろう保健・医療・福祉などのサービスを、供給側・受給側など視点を変えながら、その抱える諸課題や産業としての発展性や可能性を探るレベルまでに高めること。
（若い学生諸君にはまだそれぞれのサービスの利用は身近なものではないが、関心を持つことによりその公的・私的なサービスを消費者として理解するような学習態度を期待する）

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

基本的に社会福祉論、老人福祉論、障害者福祉論、児童福祉論などを履修していることが望ましいが、これらの分野に対して日頃から新聞や雑誌から時事的な話題に関心を持つことが大事である。特に近年は、介護保険制度の改正をはじめ障害者自立支援法の制定、後期高齢者医療制度の改正など大きな変化があった。そのような背景のなか、既存の事業から新規に参入する企業やその商品などを生活実践から学び取る姿勢が大事である。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	総括的導入講義	
2	福祉産業とは何か（講義の概要）	一般産業の動向　生活関連産業
3-4	医療産業の市場　日本の医療（医療機関）の現状と課題	厚生動向　医療保険制度　高齢者医療制度　診療報酬
5-6	医療産業の市場　日本の医療（医療周辺産業）の現状と課題	医療機器　医薬品　医療廃棄物
7-9	健康産業市場　日本の健康産業の現状と課題	健康増進ビジネス フィットネスクラブ　サプリメント市場　健康グッズ
10-11	福祉産業の市場 介護保険制度　障害者自立支援法	介護報酬 介護ビジネス 紙おむつ 介護機器 高齢者住宅 有料老人ホーム
12-13	福祉産業の市場	介護保険関係サービス事業 （訪問介護、通所介護、施設介護など）
14	中国の高齢化と高齢者福祉と医療	社区福祉
15	総括（まとめ）	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	定期試験に代わるものとして全体の講義を通して、理解度と全体的な視点、気づきを問う。
平常点評価	50 %	出席を重視する。中間に小レポートの提出を求め関心事や理解の深さを確認する。出席時のコメントシートを利用しながら、授業内容の質問やコメントの提出を求める。

定期試験は実施しないが、日頃の受講態度から福祉産業に関する関心事や興味など、視野の広がりや知識の習得度合いを見るため、期間中に1から2回程度、課題を与えて小レポートを提出してもらう。そのため、毎回の出席に占める比重は高い。また、全体のまとめとしての到達度合を測るため期末レポートの提出を求める。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
	／／／
	／／／

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment

日本を元気にする健康サービス産業	島田晴雄／東洋経済新報社／／
シルバーサービス論	川村正匡／ミネルヴァ書房／／
日経ヘルスケア21	／日経BP社／／

参考文献は多くないが、日常から新聞・業界誌等の関連記事に注意を払うこと。
厚生労働省のHP・経済産業省等のHP

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉社会学（S） §　生活福祉論（S）

15469

担当者名 / Instructor　小林 勇人

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この科目は、社会学の一分野に位置し、労働との関連に着目しながら、福祉（社会保障）の制度・政策と実態について学ぶものです。近年、雇用や家族が不安定化し、失業・貧困問題が深刻化するなか、就労困難な層にとって福祉の持つ重要性が増しています。他方で、若年者やシングル・マザーなど就労可能な層が福祉を利用することは「依存」とみなされ、就労を通した「自立」が求められる傾向にあります。私たちの生活にとってどのような労働と福祉のあり方が望ましいのでしょうか？　前半の講義では、具体的な事例を交えながら、私たちの生活がどのように労働と福祉によって成り立っているのか基本的な仕組みについて理解し、後半の講義では、日本と他国を比較しながら、今後の福祉社会について展望します。

到達目標 / Attainment Objectives

① 労働（雇用）と福祉（社会保障）の関連性を理解する。
② 制度利用者の立場にたって政策を考える力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

特にありません。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回目	イントロダクション	授業の概要紹介、成績評価方法の説明
第2回目	労働市場と雇用	失業問題、消費社会、非正規雇用、労働の分割
第3回目	雇用保障	日本型雇用システム、家族賃金
第4回目	労働と福祉（1）	身体障害者の自立生活、介助サービス
第5回目	労働と福祉（2）	高齢者の生活、介護労働
第6回目	労働と福祉（3）	ワーキング・プア、雇用保険、労災保険
第7回目	労働と福祉（4）	シングル・マザー、生活保護の母子加算、児童手当
第8回目	雇用と社会保障	能力主義、私的所有、分配、中間まとめ
第9回目	福祉国家について（1）	福祉国家論、リスク管理と福祉レジーム
第10回目	福祉国家について（2）	再編期の福祉国家、脱工業社会、女性雇用の変化
第11回目	ワークシェアリング	ワーク・ライフ・バランス
第12回目	アクティベーション	積極的労働市場政策
第13回目	ワークフェア	アメリカの福祉改革
第14回目	ベーシック・インカム	基本的な考え方と種類、福祉権運動
第15回目	福祉社会の展望（総まとめ）	雇用と社会保障の連携、生活保障

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

・新聞記事やテレビ報道ならびにドキュメンタリー映画などから得られる社会的ニュースについて、講義で導入した概念をもとに考えてみてください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	80 %	基本的な語句や概念を理解するとともに、それらを用いて論理的に考えることができるかどうかを試します。
平常点評価	20 %	コミュニケーション・カードを用いて授業への質問・意見・感想などを書いてもらうことで、講義への積極的な参加を評価します。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

・私語ならびに携帯電話の使用を禁止し、厳しく注意します。また成績評価方法の詳細については、初回の講義で連絡するので必ず出席するようにしてください。

教科書 / Textbooks

・特に指定しません。資料を配布しながら授業を進めます。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『福祉社会――社会政策とその考え方』	武川正吾／有斐閣アルマ／4641121192／
『生活保障――排除しない社会へ』	宮本太郎／岩波書店／4004312167／

参考になるWWWページ / Web Pages Useful for Reference

・講義中に適宜、紹介します。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉住環境論（S）

12747

担当者名 / Instructor　蔵田 力

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

テーマ「高齢者・障害者が住まいで地域で安心して住み続けられるために」我国の急速に進む高齢社会において、障害を持つ高齢者も増え続けている。高齢者・障害者が住まいで、地域で人間らしく安心して住み続けられる環境はどうあるべきか。日本の住宅政策、福祉政策を先進の北欧等の国々と歴史的に比較しながら考察していく。また、国連においての「居住の権利」宣言等の最近の動きも学びながら、「住まうことは基本的人権」であることを確認する。なお現在、世界および日本の各地で取り組まれている住民と各分野の専門家及び行政の連携による「住まいの環境改善」や「福祉のまちづくり」の実践例を学ぶ。

到達目標 / Attainment Objectives

世界的な流れである「住まいは福祉の基盤」「住まいは人権」を理解する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

高齢者・障害者の福祉および「住まい」「まちづくり」に対して興味を持っていること。又、将来それらに関わることを目指している。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	講義概要、流れ、到達目標等説明	
第2回	住宅総論Ⅰ 「住まい」とは	
第3回	住宅総論Ⅱ 「居住の権利宣言」を学ぶ	
第4回	住宅総論Ⅲ 日本、世界の住宅政策と福祉政策	
第5回	住宅各論Ⅰ バリアフリーの考え方	
第6回	住宅各論Ⅱ-1 「住まいの環境改善」のあり方	
第7回	住宅各論Ⅱ-2 「住まいの環境改善」における専門家の連携	
第8回	住宅各論Ⅱ-3 事例研究	
第9回	住宅各論Ⅲ 「住まい」と家族	
第10回	住宅各論Ⅳ 「住まい」と健康	
第11回	住宅各論Ⅴ ホームレス問題	
第12回	地域論Ⅰ 日本と世界の都市政策	
第13回	地域論Ⅱ-1 高齢者・障害者が住み続けられる“まちづくり”	
第14回	地域論Ⅱ-2 生活圏構想	
第15回	まとめ・超高齢社会を展望する“まちづくり”の課題（討論）	

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

配布資料および参考書のポイントを復習、また事前に配布された資料の予習

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	80 %	講義の理解度および与えられたテーマに対して、主体的にどう深めたのかを評価
平常点評価	20 %	コミュニケーションカードの講義に対する感想等で評価

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

（1）配布資料は必ず整理し、毎回の講義に持参する。
（2）コミュニケーションカードには、積極的に感想、意見を述べる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「居住福祉」	早川和男／岩波新書／／大学生協等で各自購入

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
「住宅の権利・誓約集」	監修・中林 浩 ／日本住宅会議／／日本住宅会議が注文販売

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

受講登録をしている学生のみ、Web-コースツールに掲載されているシラバスを通じて、閲覧することが出来ます。
http://webct.ritsumei.ac.jp/webct/entryPageIns.dowebct

その他 / Others

福祉情報論（S）

12743

担当者名 / Instructor　生田 正幸

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

介護保険制度の導入は、介護・福祉分野におけるコンピュータ活用のあり方を大きく変えた。社会福祉施設や在宅サービス機関においても、パソコンや情報システム、情報ネットワークがごく当たり前の存在となり、サービスの利用と提供を支える重要な役割を担っている。さらに、社会福祉法の施行によって、情報の開示・提供、苦情解決、サービス評価など情報に関わる事柄が、利用者のサービス選択を保障しサービスの質を高めていく重要なファクターとして位置づけられるようになった。

また、情報の入手や利用、発信の障壁（バリア）に直面する「情報弱者」の問題が顕在化し、先端的なICT（情報通信技術）を駆使した情報バリアフリー、情報のユニバーサルデザインへの取り組みが展開されている。福祉情報機器を用いた様々な自立支援システムなど支援技術（Assistive Technology）の発達と普及も著しい。社会全体が、ICTと情報への依存を強めようとしている中で、介護・福祉分野も例外ではなく、今や、介護・福祉の立場からの主体的な取り組みが強く求められている。

この講義では、福祉情報化とは何か、何をすることなのかについて、福祉の立場からあきらかにするとともに、福祉における情報化とコンピュータ利用のあり方について、コンピュータ実習をはさみながら考えていくことにする。

到達目標 / Attainment Objectives

・福祉・介護分野におけるICT化・情報化の実態と考え方を知る。
・福祉・介護に関する情報を利用するための基礎的な知識と方法を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

「情報リテラシー」を履修し、メール、Web閲覧、ワープロ操作など、基礎的なパソコン操作を的確に行えることが望ましい。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第01回	イントロダクション	福祉情報論がめざすもの
第02回	インターネットと福祉情報(1)	福祉の情報資源を使いこなす part1
第03回	インターネットと福祉情報(2)	福祉の情報資源を使いこなす part2
第04回	福祉と情報(1)	なぜ、情報を提供するのか
第05回	福祉と情報(2)	福祉が変わる、情報が変える
第06回	福祉情報をどう使うのか(1)	探す・評価する・選択する
第07回	福祉情報をどう使うのか(2)	福祉のための情報システムと情報機器
第08回	福祉情報をどう使うのか(3)	共有する・発信する・結びつける
第09回	福祉情報とは何か(1)	情報は便利なのか？
第10回	福祉情報とは何か(2)	福祉情報の体系と構造
第11回	福祉情報化とは(1)	誰のための情報化なのか
第12回	福祉情報化とは(2)	情報化とは何をすることなのか
第13回	福祉情報化の課題と展望(1)	様々な課題
第14回	福祉情報化の課題と展望(2)	新しい福祉への戦略
第15回	試験	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

福祉・介護とICT・情報というと、福祉分野の学生諸君にはあまり関係がないように思われるかもしれません。しかし、私たちの生活が、今やICTや情報の活用なしには成り立たないように、福祉・介護分野におけるサービスの利用や提供もICTや情報の活用と深く関わっています。そして、福祉や介護に関する情報を入手・活用し、あるいは発信することが、当事者や地域住民にとって非常に重要な課題となりつつあります。私たちの生活と福祉・介護を前進させていくためにICTや情報をいかに活用していくのかという観点から、社会の動き、制度や政策の動きに対する関心を深めて授業に臨んでください。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
平常点評価	30 %	毎回出席をとります。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

福祉臨床論（S）

15375

担当者名 / Instructor　山本 耕平

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

この授業では、生活者が、生活上の諸課題に対峙し、主体的な生活を創造することが可能となるために求められる福祉実践を“子ども”“思春期・青年期”“成人期”“円熟期”の各期に分け取り上げる。そのなかで、人生の各期に共通するソーシャルワークの視座と各期に固有なソーシャルワークの視座及び実践（方法ならびに運動）、政策につき考える。

到達目標 / Attainment Objectives

☆社会福祉を学ぶ学生として、社会の諸要因により国民の生活が阻害されている状況を科学的に捉える力を獲得する。
☆今各分野の実践で共通して求められているソーシャルワーカーの役割りを認識する。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
第1回	オリエンテーション　ソーシャルワークの魅力と科学としての介入、アセスメントの視座とファクター	ソーシャルワークの局面　人と生活、発達
第2回	支援原則と支援理念　―パターナリズムからフレンドシップへ，侵襲的介入から自尊を獲得する介入へ―	自尊心、所属感、依存、自己決定、フレンドシップとパターナリズム
第3回	子どもの発達・生活と福祉課題①　―障害の受容に関わる課題―	早期発見、障害受容
第4回	子どもの発達・生活と福祉課題②　―子どもの虐待と再養育―	通告、緊急保護、措置、再養育、
第5回	子どもの発達・生活と福祉課題③　―　―人親家庭の生活課題	母子と父子
第6回	思春期・青年期の課題①―不登校・ひきこもりと当事者支援―	居場所、スクールソーシャルワーク
第7回	思春期・青年期の課題②―軽度発達障害と思春期危機―	就労支援、家族
第8回	成人期の課題①―中途障害や難病と家族崩壊、スティグマ―	慢性疾患、所得中断、生活崩壊、危機
第9回	成人期の課題②―過労自死と家族―	過労自死
第10回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族1	DV、虐待サイクル、緊急保護、体と心
第11回	成人期の課題③―ドメスティック・バイオレンスと家族2	自尊心、家族内トラウマ
第12回	精神障害と自立①	精神障害　症状　障害
第13回	精神障害と自立②	精神障害　社会的孤立　自立
第14回	福祉実践と協同　―地域福祉要求の組織化と地域づくり―	要求の組織化、乳幼児期から円熟期、麦の郷
第15回	総括講義	アセスメント技法

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	
レポート試験	30 %	若者のひきこもりアセスメントに関するレポートを、「ひきこもりつつ育つ―若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク」（参考書参照）を参照し第7回終了後に指示する提出日に提出する。評価基準は、文書作法10点、内容20点とする。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

いかなる媒体でも結構ですから国民の生活に関するニュースに常に触れて下さい。
コミュニケーションペーパーでの質問や講義への参加を期待します。

教科書 / Textbooks

教科書は特に定めません。

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
児童虐待とソーシャルワーク実践	柏女霊峰／ミネルヴァ書房／4-623-03508-5／
対人援助の臨床福祉学	佐藤俊一／中央法規／4-8058-2452-2／
ひきこもりつつ育つ一若者の発達危機と解き放ちのソーシャルワーク	山本耕平／かもがわ出版／978-4-7803-0240-0／

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

http://www.ccap.or.jp/
http://www.jstss.org/

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

臨床社会学 (S)

15334

担当者名 / Instructor　丸山 里美

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

現代社会には、貧困、暴力、などさまざまな社会問題がある。こうした社会問題を、個人の逸脱や不適応から生まれたものとしてのみ理解するのではなく、それを生じさせる環境や社会関係のなかで位置づける社会学的観点をもって、実際に現場にかかわり支援を模索する実践的な知として、臨床社会学を位置づける。

この授業では、貧困をはじめとする社会問題の具体的な事例をとりあげて、ビデオを見たり、ゲストスピーカーの話を聞いて、それらにアプローチする社会学的な洞察力を深め、支援の現場にかかわりながら「社会学する」ことの有効性と問題について考えていく。そのため、受講者の意見を求めたりディスカッションを行うなど、できるだけ双方向のコミュニケーションにつとめる。これらを通して、個々人が関心を持つ社会的課題について、実践的な関わりをするのに必要となる力を身につけることを目指す。

到達目標 / Attainment Objectives

現実社会の諸問題に対する社会学的な洞察力を深め、常識的な見方のもとで見逃されている課題を発掘し、その解決に向けて主体的に取り組んでいく力を身につける。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日(第N回)	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	臨床社会学とは何か――社会問題へのアプローチ	臨床社会学と社会病理学・社会福祉学・心理学、フィールドワーカーとケースワーカー・カウンセラー
2	臨床社会学の視点①	逸脱論、ラベリング論、構築主義
3	臨床社会学の視点②――「羅生門」的現実をとらえる	ドメスティック・バイオレンス、触法障害者
4	売春①――売春をどうとらえるか	
5	売春②	女性福祉、セックスワーク、シェルター
6	売春③	自立と保護、構造と主体
7	ホームレス①	寄せ場、野宿者、ネットカフェ難民、貧困
8	ホームレス②	ボランティアと調査
9	ホームレス③――法をめぐる政治	スクウォット
10	若者と貧困①	非正規雇用
11	若者と貧困②	最低生活水準
12	若者と貧困③	労働組合
13～14	臨床社会学に何ができるか	ボランティア、社会運動
15	授業のまとめとレポート課題の解説	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	授業内容について、理解度を見る。
平常点評価	50 %	学期期間中に何度か小レポートを課す。 また毎回授業についてのリアクションペーパーを求める。内容は特にすぐれたものを除き評価には入れないが、それが半分以上が提出されている場合にのみ、期末レポートを受けつける。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

授業外での学習を促すため、主題に合わせてレポートをまとめる、インタビューを行うなどの課題があります。ボランティアや社会活動をやってみようと思う人を歓迎します。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

オフィスアワー以外の時間の訪問は、事前にメールで連絡してください。

その他 / Others

臨床人間学（S） § ライフデザイン論（S）

15464

担当者名 / Instructor　松島 京

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちはいろいろなものを抱えながら生活をしている。さまざまな葛藤、苦しみや困難は、私たちの人生の中に訪れないことはない。抱え込んでいるそれらを、私たちはどのように理解しどのように対応することができるだろうか。「心の世紀」「心のケア」という言葉が表すように、「心」や「心理」への関心は高い。しかし、今後いっそう複雑化する社会状況の中で、人間を理解しサポートする際には、総合的・多面的に捉える視点が必要となるだろう。

本講義では、苦しみや困難を抱えながら生きることや、それらを生み出す社会的な装置に注目しながら、「人間」が「生きる」こと、それに対する援助について考えていく。

到達目標 / Attainment Objectives

臨床的な援助課題を社会問題という視点から捉えなおすことができる。
臨床的な援助課題に対するアプローチの仕方について理解することができる。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

臨床社会学。社会学の基本的な科目を履修していると、講義内容に対する理解が深まるだろう。

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	講義の概要と導入／臨床とはなにか	講義の到達目標、講義の進め方、成績評価方法／ベッドサイド、援助課題と社会問題
2	臨床人間学の視点（1）	ライフコース、ライフデザイン
3	臨床人間学の視点（2）	近代家族、親密性
4	臨床人間学の視点（3）	ジェンダー、セクシュアリティ
5	臨床人間学的課題（1）	DV（ドメスティック・バイオレンス）、虐待
6	臨床人間学的課題（2）	戦災、災害、事故
7	臨床人間学的課題（3）	生、死、病
8	臨床人間学的課題（4）	性、アイデンティティ
9	ケアと回復（1）	問題の社会化、careとcure、相互作用性
10	ケアと回復（2）	語ること、物語の再構築、聴くこと、共感、受容
11	ケアと回復（3）	配慮と責任、他者性、エンパワメント、アドボカシー
12	当事者・家族と援助者（1）	ケアの非対称性、依存する／される、支配／被支配
13	当事者・家族と援助者（2）	二次受傷、共感疲労、バーンアウト
14	臨床人間学の可能性	共生、連帯、再生
15	講義総括／あらためて臨床人間学とは	あなたにとって臨床人間学とは／成績評価方法についての最終確認

（学部科目 / Undergraduate Courses）授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
（大学院科目 / Graduate Courses）授業の方法 / Study Metho

ふだんから、新聞・小説・映画などに触れ、社会的なテーマや人間関係のあり方に興味関心を持つこと。また、講義中に浮上した疑問点や問題点については、講義担当者への質問もよいが、併せて自ら調べることも進めていって欲しい。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
レポート試験	50 %	講義内容について総合的に理解し自分なりの考えを持つことができているか、論理的に記述しているか、を評価する。
平常点評価	50 %	講義中に数回の小レポートを課す。講義内容の理解度に応じて評価する。講義に対する主体的な取り組みを評価する。いわゆる「出席点」による加点は行わない。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

講義スケジュールは目安である。現代的なテーマを持つ講義なので、時事問題を組み込んでいくこともある。その際はスケジュールが若干変動する場合もある（大きく変動することはない。また事前に連絡をする）。

毎講義時にコミュニケーションペーパーを配布し、講義内容に対する意見や質問を受け付ける。次回講義開始時に回答をする。これは講義をインタラクティブに進行するためのものであり、評価に反映されるものではない。

随時、受講生によるディスカッションやグループワークなども組み込んでいく予定をしている。講義への積極的な参加が望まれる。

教科書 / Textbooks

指定しない。必要な資料は講義中に適宜配布する。

参考書 / Reference Books

講義中に必要に応じて紹介する。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

講義中に必要に応じて紹介する。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老人福祉論（S） § 老人福祉論（SG）

15351

担当者名 / Instructor　西村 清忠

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

本講義においては、団塊の世代が2015年に65歳に到達するわが国の高齢者への政策課題や、高齢者自身が抱えている身心・経済・貧困・地域・家族・自らの生活問題などに対して、歴史的な視点の把握と、近未来の解決すべき課題に対して果たさなければならない課題、他の福祉分野の問題解決手法を含め、現場実態に即し、あわせて2000年導入された介護保険制度の問題点や、2005年に改正された新しい介護保険制度について基本的な現状問題について把握し、これからの学習課題を修得することを目的とする。

到達目標 / Attainment Objectives

歴史的に構築されてきたわが国の老人問題について把握し、戦後の社会経済の高度成長に始まった向都離村現象による地域間格差や、急速に高齢化したなかで家族構成の変化や、年金・医療・介護・地域などの福祉問題ついて高齢者の抱えている問題が、世代を超えた大きな政治的な課題であると同時に、みなさん自身の問題であることを把握し、政策的・実践的解決を急がなければならない問題であり、特に介護問題は喫緊の問題であることを認識することを目標とする。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

社会保障論・障害者福祉論・公的扶助論・地域福祉論・介護概論・医学一般・心理学

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	オリエンテーション 高齢者福祉の考え方	高齢者福祉の考え方 社会的理解・身体的理解・精神的理解など高齢者の生活ニーズについて
2	少子高齢社会と高齢者	急速な高齢化がもたらした、わが国の高齢者を取巻く諸問題について
3	高齢者保健福祉の発展と法体系	歴史的な視点から、わが国の高齢者福祉の発展について
4	高齢者支援の関係法規	老人福祉法成立の経緯・高齢者の医療に関する法律・高齢者虐待防止法・ユニバーサルデザインや、居住・権利擁護・社会参加と生涯学習など
5	介護保険制度の基本的枠組	介護保険制度の全体像・目的と理念・保険財政・保険者と被保険者・最近の動向について
6	介護保険制度の仕組	要介護認定の仕組とプロセス・保険給付・介護報酬・地域支援事業・介護保険事業計画・サービスの質を確保する仕組
7	介護保険サービスの体系	介護支援専門員・居宅サービス・施設サービス・介護予防サービス・地域密着サービスなど
8	高齢者を支援する組織と役割	行政機関の役割・指定サービス事業者・国民健康保険団体連合会の役割・地域包括支援センターの組織体系と役割・社会福祉協議会・ボランティア団体・NPOまど
9	高齢者の支援の方法と実際	高齢者支援の方法・介護保険法における連携と実際
10	高齢者を支援する専門職の役割と実際	専門職の役割と実際・専門職による協働（多職種連携）・専門職の倫理
11	介護の概念や対象	介護の概念と範囲・介護の理念・利用者の理解
12	介護過程	介護過程の概要・介護過程の展開技法・介護予防
13	介護各論①	自立に向けた介護・家事における自立支援・QOL・食事、口腔衛生の介護・入浴、清潔、排泄
14	介護各論②	認知症ケア・終末ケア・住環境
15	近未来の高齢者福祉の課題	まとめ

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	70 %	高齢者福祉に関する問題を論述形式で2問だす。 高齢者問題に対する講義の中からの理解力と、答案の論理構成を文章表現力を含めて評価する。

平常点評価	30 %	中間でテスト・レポート提出を求める。予告をしないので注意して下さい。レポート用紙は、当日講義終了時に、コミュニケーション・ペーパーと引き換えに手交する。次週講義終了時に提出を求めるが事後提出は認めない。（公欠・病欠は事後に用紙交付のうえ認める） コミュニケーション・ペーパーによる出席確認を行うが、日常点として評価するので、無記載や感想などの記載の無いものは、出席として認めないことがあるので注意すること。

講義中の「私語」は他の受講者の「学習権侵害」として厳しく対応する。注意しても止めない場合は、学籍番号確認のうえ退出を命じることがある。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

社会福祉士国家試験受験のための必須科目であるので、適時、過去問題の出題箇所などについてふれる。

教科書 / Textbooks

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
新・社会福祉士養成講座　13	／中法法規出版／／社会福祉士受験受講者は必須

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
社会福祉小六法	／ミネルヴァ／／
よくわかる高齢者福祉	／ミネルヴァ／／用語の詳しい解説やデーター
ケアその思想と実践①～⑥	／岩波書店／／専門職として講読をすすめる
社会福祉用語辞典	／ミネルヴァ／／専門用語が多いので1回生は手元に

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

その他 / Others

老年社会学（S） §　老年社会学（SG）

12723

担当者名 / Instructor　北村 健太郎

単位数 / Credit　2

授業の概要 / Course Outline

私たちは生まれ、病み、老いて、いずれは死んでゆく。〈いま・ここ〉で生きている私たちの〈生〉は〈老い衰えてゆく〉過程とも言える。本講義では、〈老い〉という視点から現代社会に立ち現われる様々な論点（雇用、ジェンダー、社会保障、ケアワーク、社会参加等）について、深く考えることを目指す。各講の内容は、連続ないし循環しているので、つながりを意識して受講すること。ときには、一般的に「問題」と言われている現象について、「どのように問題なのか」と根本的に問い返す姿勢で受講してもらいたい。

到達目標 / Attainment Objectives

〈老い〉を切り口として、社会学的視点から（日本を中心に）現代社会に対する認識を深め、受講者が各々の考察を論述できるようになること。また、様々な社会現象や各種論点に対して、根本的に問い返す姿勢が身につくとより望ましい。

履修しておくことが望まれる科目 / Required Preparatory Study

授業スケジュール / Course Schedule

授業日（第N回）	テーマ / Theme	キーワード / Key Word
1	本講義の視点と概要	
2	〈老い〉を想像する（1）	
3	〈老い〉を想像する（2）	
4	〈老い〉をめぐる歴史（1）	
5	〈老い〉をめぐる歴史（2）	
6	〈老い〉をめぐる歴史（3）	
7	〈老い〉と身体（1）	
8	〈老い〉と身体（2）	
9	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（1）	
10	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（2）	
11	〈老い〉とジェンダー／ライフコース（3）	
12	〈老い〉と社会保障（1）	
13	〈老い〉と社会保障（2）	
14	〈老い〉と政治	
15	〈老い〉と残された問い	

(学部科目 / Undergraduate Courses) 授業外学習の指示 / Recommendations for Private Study
(大学院科目 / Graduate Courses) 授業の方法 / Study Metho

日常生活の中で、〈老い〉に関わることに関心を向けること。また新聞・雑誌等の〈老い〉に関する記事を読む際は、生活の場で何が起きているか、そこに影響している人間同士の力関係や社会制度の仕掛けを考えながら読むこと。

成績評価方法 / Grading Criteria and Method of Evaluation

種別 / Kind	割合 / Percentage	評価基準等 / Grading Criteria etc.
定期試験（筆記）	60 %	〈老い〉に関わることの理解および授業参加を評価する。
平常点評価	40 %	出席、講義中に課すミニレポートなど。

定期試験は講義で取り上げた内容から出題するので、各回の講義をよく把握すること。不明な点があれば、放っておかずに、必ず担当者に質問すること。

受講および研究に関するアドバイス / Advice to Students on Study and Research Methods

〈老い〉を想像し、〈老い〉に関する様々なことを自らに引きつけて考えてほしい。

教科書 / Textbooks

参考書 / Reference Books

書名 / Title	出版社・ISBNコード・コメント / Author, Publisher, ISBN Code, Comment
『老いと社会――制度・臨床への老年学的アプローチ』	冷水豊編／有斐閣／／入門書。社会学的視点は少なめ。
『アクティブ・エイジングの社会学――高齢者・仕事・ネットワーク』	前田信彦／ミネルヴァ書房／／雇用、ライフコース等。
『老いへのまなざし――日本近代は何を見失ったか』	天野正子／平凡社ライブラリー／／ジェンダー、マイノリティ等。
『〈老い衰えゆくこと〉の社会学〔普及版〕』	天田城介／多賀出版／／相互作用論、意味の生成等。

2000年代以降の出版で、総合的かつコンパクトな社会学的視点からの〈老い〉に関するテキストは少ないので、各自の関心に合わせて参考にすること。

参考になる WWW ページ / Web Pages Useful for Reference

livingroom
http://www.livingroom.ne.jp/
担当者のウェブサイト。講義用のファイルを作成する予定なので、適宜参考にすること。

教員との連絡方法 / How to Contact Teaching Staff

講義内で伝える。

その他 / Others